



講義内容 2012

経済学部

法学部

経営学部

講 義 内 容

目次案内

専門教育科目

1. 経済学部 … (2)
経済学科・経済学科フレックス A・商学科・
現代応用経済学科・経済学科フレックス B
2. 法学部
(1) 法律学科フレックス A・法律学科フレックス B … (13)
(2) 政治学科 … (17)
3. 経営学部 … (20)
経営学科・経営学科フレックス A・市場戦略学科・
経営学科フレックス B

※科目の並び順は、科目名の 50 音順、担当教員氏名の 50 音順でソートされています。

※全学共通科目、「日本語」・「日本事情」科目、随意科目、教職課程・資格講座科目は、別冊になっています。

(この冊子は平成 24 年 3 月 1 日現在の情報を元に作成しています。)

1. 経済学部

経済学科

経済学科フレックスA

商学科

現代応用経済学科

経済学科フレックスB

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
ITプロフェッショナルクラスⅠ	中濟 光昭	101151	3
ITプロフェッショナルクラスⅡ	中濟 光昭	101171	4
ITプロフェッショナルクラスⅢ 卒業研究	村上 泰	101191・101192	5
アジア経済論	鄭 章淵	094601	6
アジア経済論	鄭 章淵	310001	7
アメリカ経済論	瀬戸岡 紘	094801	8
アメリカ経済論	瀬戸岡 紘	310201	9
EU統合論	清水 卓	095001	9
EU統合論	清水 卓	310111	10
医療経済論	河野 敏鑑	093841	10
演習Ⅰ	浅田 進史	104101	11
演習Ⅰ	姉齒 暁	103901	12
演習Ⅰ	荒木 勝啓	103501	13
演習Ⅰ	有井 行夫	102401	13
演習Ⅰ	飯田 泰之	104401	14
演習Ⅰ	石川 純治	104601	14
演習Ⅰ	石川 祐二	101801	15
演習Ⅰ	岩波 文孝	102101	15
演習Ⅰ	大石 雄爾	102201	16
演習Ⅰ	大島 久幸	105201	16
演習Ⅰ	大吹 勝男	101601	17
演習Ⅰ	小栗 崇資	103801	17
演習Ⅰ	北口 りえ	104301	18
演習Ⅰ	小杉 修二	104001	19
演習Ⅰ	小西 宏美	101411	20
演習Ⅰ	小林 正人	102701	20
演習Ⅰ	清水 卓	102601	21
演習Ⅰ	代田 純	101701	21
演習Ⅰ	鈴木 伸枝	101501	21
演習Ⅰ	瀬戸岡 紘	102801	22
演習Ⅰ	曾我 信孝	103601	22
演習Ⅰ	館 健太郎	101421	23
演習Ⅰ	鄭 章淵	104801	23
演習Ⅰ	徳永 俊明	103101	24
演習Ⅰ	友松 憲彦	104701	24

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
演習 I	中済 光昭	102501	25
演習 I	長山 宗広	101431	26
演習 I	番場 博之	101481	27
演習 I	百田 義治	103701	28
演習 I	松井 柳平	104201	28
演習 I	松田 健	101441	29
演習 I	松本 典子	101451	30
演習 I	溝手 芳計	101301	31
演習 I	光岡 博美	103001	31
演習 I	村松 幹二	101461	32
演習 I	森田 佳宏	101401	32
演習 I	谷敷 正光	102301	33
演習 I	矢野 浩一	103201	34
演習 I	山縣 弘志	102901	34
演習 I	吉田 敬一	103401	35
演習 I	吉田 真広	105001	35
演習 II	浅田 進史	108401	36
演習 II	姉齒 暁	108101	37
演習 II	荒木 勝啓	107801	38
演習 II	有井 行夫	106401	38
演習 II	飯田 泰之	108301	38
演習 II	石川 純治	109211	39
演習 II	石川 祐二	105901	39
演習 II	岩波 文孝	105801	40
演習 II	大石 雄爾	106201	40
演習 II	大島 久幸	108601	41
演習 II	大吹 勝男	106501	41
演習 II	小栗 崇資	109001	42
演習 II	北口 りえ	106701	42
演習 II	小杉 修二	108201	43
演習 II	小西 宏美	108501	43
演習 II	小林 正人	106801	44
演習 II	清水 卓	106601	44
演習 II	代田 純	105701	45
演習 II	鈴木 伸枝	105501	45
演習 II	瀬戸岡 紘	107001	46
演習 II	曾我 信孝	107901	46
演習 II	館 健太郎	105311	47
演習 II	田中 和雄	109101	47
演習 II	鄭 章淵	108801	48
演習 II	徳永 俊明	107401	48
演習 II	友松 憲彦	108701	49
演習 II	中済 光昭	105601	49
演習 II	長山 宗広	109201	50
演習 II	番場 博之	105361	50
演習 II	百田 義治	108001	51
演習 II	松井 柳平	109221	51
演習 II	松田 健	105321	52
演習 II	松本 典子	105331	52
演習 II	溝手 芳計	105301	53

経済学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
演習Ⅱ	光岡 博美	107201	53
演習Ⅱ	村松 幹二	105341	54
演習Ⅱ	森田 佳宏	105401	54
演習Ⅱ	谷敷 正光	106301	55
演習Ⅱ	矢野 浩一	107501	55
演習Ⅱ	山縣 弘志	107101	56
演習Ⅱ	吉田 敬一	107701	56
演習Ⅱ	吉田 真広	107301	57
演習Ⅲ 卒業研究	浅野 克巳	109901・109902	57
演習Ⅲ 卒業研究	姉齒 暁	109411・109412	58
演習Ⅲ 卒業研究	阿部 弘	113201・113202	58
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	阿部 弘	319001・319002・319003	59
演習Ⅲ 卒業研究	荒木 勝啓	111701・111702	59
演習Ⅲ 卒業研究	有井 行夫	109291・109292	59
演習Ⅲ 卒業研究	飯田 泰之	109801・109802	60
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	飯田 泰之	317701・317702・317703	60
演習Ⅲ 卒業研究	石川 純治	111601・111602	60
演習Ⅲ 卒業研究	石川 祐二	109701・109702	61
演習Ⅲ 卒業研究	岩波 文孝	110001・110002	61
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	岩波 文孝	320911・320912・320913	62
演習Ⅲ 卒業研究	大石 雄爾	110101・110102	62
演習Ⅲ 卒業研究	大吹 勝男	110401・110402	62
演習Ⅲ 卒業研究	小栗 崇資	112701・112702	63
演習Ⅲ 卒業研究	河村 徳士	112401・112402	63
演習Ⅲ 卒業研究	北口 りえ	109421・109422	63
演習Ⅲ 卒業研究	小杉 修二	112001・112002	64
演習Ⅲ 卒業研究	小西 宏美	109431・109432	64
演習Ⅲ 卒業研究	小林 正人	112901・112902	65
演習Ⅲ 卒業研究	清水 卓	110501・110502	65
演習Ⅲ 卒業研究	代田 純	109501・109502	65
演習Ⅲ 卒業研究	鈴木 伸枝	110601・110602	66
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	鈴木 伸枝	317101・317102・317103	66
演習Ⅲ 卒業研究	瀬戸岡 紘	110901・110902	66
演習Ⅲ 卒業研究	曾我 信孝	111101・111102	67
演習Ⅲ 卒業研究	館 健太郎	109441・109442	67
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	館 健太郎	317901・317902・317903	68
演習Ⅲ 卒業研究	田中 和雄	113001・113002	68
演習Ⅲ 卒業研究	鄭 章淵	112801・112802	69
演習Ⅲ 卒業研究	徳永 俊明	111301・111302	69
演習Ⅲ 卒業研究	友松 憲彦	112601・112602	70
演習Ⅲ 卒業研究	中濟 光昭	112501・112502	70
演習Ⅲ 卒業研究	長山 宗広	109451・109452	70
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	長山 宗広	318101・318102・318103	71
演習Ⅲ 卒業研究	番場 博之	112101・112102	71

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
演習Ⅲ 卒業研究	百田 義治	111901・111902	72
演習Ⅲ 卒業研究	松井 柳平	113101・113102	72
演習Ⅲ 卒業研究	松田 健	109461・109462	73
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	松田 健	321261・321262・ 321263	74
演習Ⅲ 卒業研究	松本 典子	109471・109472	74
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	松本 典子	317601・317602・ 317603	75
演習Ⅲ 卒業研究	溝手 芳計	109301・109302	75
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	溝手 芳計	316901・316902・ 316903	75
演習Ⅲ 卒業研究	光岡 博美	111401・111402	76
演習Ⅲ 卒業研究	村松 幹二	109481・109482	76
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	村松 幹二	317001・317002・ 317003	76
演習Ⅲ 卒業研究	森田 佳宏	109401・109402	77
演習Ⅲ 卒業研究	谷敷 正光	110201・110202	77
演習Ⅲ 卒業研究	矢野 浩一	110701・110702	78
演習Ⅲ 卒業研究	山縣 弘志	111001・111002	78
演習Ⅲ 卒業研究	吉田 敬一	109601・109602	78
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	吉田 敬一	317201・317202・ 317203	79
演習Ⅲ 卒業研究	吉田 真広	109491・109492	79
応用情報処理Ⅰ	瀬尾 明志	096101	80
応用情報処理Ⅱ	瀬尾 明志	096201	80
応用マクロ経済学	江口 允崇	092711	81
応用ミクロ経済学	荒木 勝啓	092611	82
応用ミクロ経済学	荒木 勝啓	311411	84
会計学基礎 会計学総論	石川 祐二	091511・091512	85
会計学総論	福島 隆	091601	86
会計監査論	森田 佳宏	097001	87
会計監査論	森田 佳宏	310501	87
会計資格特別演習	鈴木 勝浩	100511	88
会計情報論	石川 純治	097301	89
会計情報論	石川 純治	309411	89
会計プロフェッショナルクラスⅠ(会計士) 会計プロフェッショナルクラスⅠ(税理士)	内山 峰男 小栗 崇資 森田 佳宏 石川 祐二 石川 純治 北口 りえ	100251・100252	90
会計プロフェッショナルクラスⅡ(会計士) 会計プロフェッショナルクラスⅡ(税理士)	内山 峰男 小栗 崇資 森田 佳宏 石川 祐二 石川 純治 北口 りえ	100261・100262	91
会計プロフェッショナルクラスⅢ(会計士) 会計プロフェッショナルクラスⅢ(税理士)	内山 峰男 北口 りえ	100271・100272	92
環境経済論	林 公則	093901	92

経済学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
管理会計論 a	石川 祐二	097111	93
管理会計論 a	石川 祐二	308111	93
管理会計論 b	石川 祐二	097121	93
管理会計論 b	石川 祐二	308121	94
企業管理論 a 経営管理論 a	岩波 文孝	091911・091912	94
企業管理論 b 経営管理論 b	岩波 文孝	091921・091922	95
企業経営学 a	名取 修一	099991	96
企業経営学 b	名取 修一	099981	97
企業経済学 a	飯田 泰之	097231	98
企業経済学 b	飯田 泰之	097241	98
企業社会責任論	桑山 三恵子	098171	99
企業戦略論 a 経営戦略論 a	田淵 泰男	096711・096712	100
企業戦略論 b 経営戦略論 b	田淵 泰男	096721・096722	100
企業統治論 a	水村 典弘	099181	101
企業統治論 b	水村 典弘	099191	101
企業倫理	桑山 三恵子	098161	102
起業論	長山 宗広	097041	103
企業論基礎	劉 永鶴	092411	103
基礎情報処理 I	谷口 裕子	095911	104
基礎情報処理 I	谷口 裕子	095921	105
基礎情報処理 I	羽田 美香	095901	106
基礎情報処理 II	谷口 裕子	096011	107
基礎情報処理 II	谷口 裕子	096021	108
基礎情報処理 II	羽田 美香	096001	109
基礎ゼミ	浅田 進史	095891	110
基礎ゼミ	浅野 克巳	095751	111
基礎ゼミ	姉齒 暁	101251	112
基礎ゼミ	姉齒 暁	101261	113
基礎ゼミ	有井 行夫	095761	114
基礎ゼミ	岩波 文孝	101291	115
基礎ゼミ	岩波 文孝	101311	116
基礎ゼミ	大石 雄爾	095771	117
基礎ゼミ	勝田 佳裕	101211	118
基礎ゼミ	勝田 佳裕	101221	119
基礎ゼミ	小杉 修二	095781	120
基礎ゼミ	小林 正人	095791	121
基礎ゼミ	清水 卓	095851	122
基礎ゼミ	瀬戸岡 紘	095861	123
基礎ゼミ	曾我 信孝	101321	124
基礎ゼミ	曾我 信孝	101331	125
基礎ゼミ	鄭 章淵	095871	126
基礎ゼミ	徳永 俊明	095881	127
基礎ゼミ	村松 幹二	101271	128
基礎ゼミ	村松 幹二	101281	129
基礎ゼミ	山下 裕介	101231	130
基礎ゼミ	山下 裕介	101241	131
キャリア・デザイン	川村 稔	099291	132
教育経済論	谷敷 正光	094401	133
教員試験特別演習	谷敷 正光	100551	134
行政法	鷓徳 啓登	058501	135

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
行政法	塩入 みほも	323601	135
協同組合論	山口 浩平	097061	136
銀行システム論	近廣 昌志	097801	137
金融論	代田 純	090901	138
金融論	代田 純	308601	138
グローバル・ビジネス論 a	日高 克平	095831	139
グローバル・ビジネス論 b	日高 克平	095841	139
グローバル・ファイナンス	小西 宏美	098011	140
経営学基礎 経営学総論	松田 健	091411・091412	141
経営学史	小阪 隆秀	096901	142
経営管理論 a	岩波 文孝	330111	143
経営管理論 b	岩波 文孝	330121	143
経営情報システム論Ⅰ	中濟 光昭	095701	144
経営情報システム論Ⅱ	中濟 光昭	095801	145
経営分析	渡邊 智	097501	146
景気循環論	野村 信廣	093001	147
経済外国書講読Ⅰ a 外国書講読Ⅰ a 経済外国書講読Ⅱ a 外国書講読Ⅱ a (ドイツ語)	浅田 進史	099931・099932・ 099933・099934	147
経済外国書講読Ⅰ a 外国書講読Ⅰ a 経済外国書講読Ⅱ a 外国書講読Ⅱ a (中国語)	小杉 修二	100131・100132・ 100133・100134	147
経済外国書講読Ⅰ a 外国書講読Ⅰ a 経済外国書講読Ⅱ a 外国書講読Ⅱ a (フランス語)	清水 卓	100011・100012・ 100013・100014	148
経済外国書講読Ⅰ a 外国書講読Ⅰ a 経済外国書講読Ⅱ a 外国書講読Ⅱ a (英語)	鈴木 伸枝	099811・099812・ 099813・099814	148
経済外国書講読Ⅰ a 外国書講読Ⅰ a 経済外国書講読Ⅱ a 外国書講読Ⅱ a (朝鮮語)	鄭 章淵	100151・100152・ 100153・100154	148
経済外国書講読Ⅰ a 外国書講読Ⅰ a 経済外国書講読Ⅱ a 外国書講読Ⅱ a (英語)	松本 典子	099831・099832・ 099833・099834	149
経済外国書講読Ⅰ b 外国書講読Ⅰ b 経済外国書講読Ⅱ b 外国書講読Ⅱ b (ドイツ語)	浅田 進史	099941・099942・ 099943・099944	149
経済外国書講読Ⅰ b 外国書講読Ⅰ b 経済外国書講読Ⅱ b 外国書講読Ⅱ b (中国語)	小杉 修二	100161・100162・ 100163・100164	150
経済外国書講読Ⅰ b 外国書講読Ⅰ b 経済外国書講読Ⅱ b 外国書講読Ⅱ b (フランス語)	清水 卓	100021・100022・ 100023・100024	150
経済外国書講読Ⅰ b 外国書講読Ⅰ b 経済外国書講読Ⅱ b 外国書講読Ⅱ b (英語)	鈴木 伸枝	099821・099822・ 099823・099824	150
経済外国書講読Ⅰ b 外国書講読Ⅰ b 経済外国書講読Ⅱ b 外国書講読Ⅱ b (朝鮮語)	鄭 章淵	100181・100182・ 100183・100184	151
経済外国書講読Ⅰ b 外国書講読Ⅰ b 経済外国書講読Ⅱ b 外国書講読Ⅱ b (英語)	松本 典子	099841・099842・ 099843・099844	151
経済学概説	山縣 弘志	089201	152
経済学基礎 経済学概説	森田 成也	089511・089512	152
経済学史	西沢 保	090501	153
経済史	浅田 進史	090601	154
経済史	浅田 進史	307301	154
経済数学	池田 宏	092501	155
経済政策	飯田 泰之	090701	156
経済地理	矢延 洋泰	093701	157
経済法	東出 浩一	325201	157
経済法	若林 亜理砂	098701	158

経済学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
経済理論ⅠA・資本の原理	有井 行夫	306701	159
経済理論ⅠB・経済システムの原理	大石 雄爾	306801	159
経済理論Ⅱ・マクロ経済学	浅野 克巳	307001	160
経済理論Ⅱ・ミクロ経済学	松井 柳平	306901	161
経済理論A・資本の原理 経済理論ⅠA・資本の原理	阿部 弘	089801・089802	162
経済理論A・資本の原理 経済理論ⅠA・資本の原理	有井 行夫	089701・089702	163
経済理論B・経済システムの原理 経済理論ⅠB・経済システムの原理	大石 雄爾	090001・090002	164
契約理論	村松 幹二	095311	164
計量経済学	松田 慎一	092801	165
ゲーム理論 a	館 健太郎	097271	165
ゲーム理論 b	鈴木 伸枝	097281	166
原価計算論	鈴木 勝浩	097201	167
現代企業論 a	松田 健	099331	168
現代企業論 a	松田 健	314391	169
現代企業論 b	松田 健	099341	170
現代企業論 b	松田 健	314411	171
現代銀行事情	近廣 昌志	097901	172
現代経済事情Ⅰ〔職業・仕事について考える〕	石川 祐二 百田 義治 友松 憲彦 小栗 崇資 鄭 章淵 代田 純 溝手 芳計 吉田 敬一 岩波 文孝 松田 健 館 健太郎 番場 博之 北口 りえ 松本 典子	100601	173
現代経済事情Ⅱ〔現代社会におけるメンタルケアの実際〕	竹原 清子	100701	174
現代産業事情Ⅱ	百田 義治	101101	175
現代産業事情Ⅲ 現代企業論 特殊講義Ⅱ	百田 義治	101201・101202・ 101203	176
現代産業論 a	北嶋 守	100611	176
現代産業論 b	北嶋 守	100621	177
現代資本主義論	森田 成也	093101	177
現代西欧経済論	清水 卓	095101	178
現代西欧経済論	清水 卓	310121	178
憲法	金子 勝	098201	179
公共経済学 a	鈴木 伸枝	099111	180
公共経済学 a	鈴木 伸枝	313511	181
公共経済学 b	鈴木 伸枝	099121	182
公共経済学 b	鈴木 伸枝	313521	183
工業政策	奥山 雅之	093601	184
国際金融論	吉田 真広	094201	185
国際金融論	吉田 真広	311001	185
国際経済論	徳永 俊明	308901	186
国際経済論 国際経済学	徳永 俊明	091201・091202	186

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
国際法	王 志安	323401	187
国際法	橋本 靖明	099001	188
コミュニティ・ビジネス論	山口 浩平	097051	188
コンピュータ会計Ⅰ	鈴木 勝浩	095501	189
コンピュータ会計Ⅱ	鈴木 勝浩	095601	190
財政学	野村 容康	090801	191
財務会計論	小栗 崇資	092401	191
産業組織論 a	館 健太郎	100631	192
産業組織論 b	館 健太郎	100641	192
市民と経済学 a 社会思想史 a	阿部 弘	093211・093212	193
市民と経済学 b 社会思想史 b	阿部 弘	093221・093222	194
社会経済学 a	阿部 弘	097211	195
社会経済学 b	阿部 弘	097221	196
社会思想史 a	阿部 弘	312611	197
社会思想史 b	阿部 弘	312621	198
社会政策	光岡 博美	091001	199
社会政策	光岡 博美	311801	199
社会保障法	原田 啓一郎	325301	200
就業力基礎Ⅲ	中済 光昭 絹川 真哉 長山 宗広 矢野 浩一	450101・450102	201
就業力基礎Ⅳ	中済 光昭 絹川 真哉 長山 宗広 矢野 浩一	450151・450152	202
商学総論	大吹 勝男	307501	203
上級簿記	福島 隆	092311	203
商業史	幸野 保典	096501	204
流通政策 商業政策	番場 博之	091701・091702	205
商業政策	番場 博之	309301	206
消費経済論	姉齒 暁	096601	207
消費経済論	姉齒 暁	313101	209
商品学	見目 洋子	096301	210
商法一部	三浦 康平	098501	211
商法総則・商行為法	三浦 康平	325501	212
商法二部	中濱 義章	098601	213
有価証券法 商法二部	中濱 義章	324901・324902	213
情報入門Ⅰ	井川 俊実	095411	214
情報入門Ⅰ	井川 俊実	095421	215
情報入門Ⅰ	山邊 茂之	095451	216
情報入門Ⅱ	井川 俊実	095431	217
情報入門Ⅱ	井川 俊実	095441	218
情報入門Ⅱ	山邊 茂之	095461	218
情報の経済学	館 健太郎	095321	219
人口論	増田 幹人	094301	220
人的資源管理論 a	田中 和雄	092011	221
人的資源管理論 b	田中 和雄	092021	222
制度の経済学	村松 幹二	098191	223
税務会計論	北口 りえ	097401	223

経済学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
税務会計論	北口 りえ	330151	224
税務会計論	高木 克己	332301	224
西洋経済史	友松 憲彦	093401	225
西洋経済史	友松 憲彦	307401	226
地域経済論 a	長山 宗広	097251	227
地域経済論 b	長山 宗広	097261	227
地方財政論	江夏 あかね	094101	228
中国経済論	小杉 修二	094701	229
中国経済論	小杉 修二	309901	230
中小企業政策論	吉田 敬一	093821	231
中小企業政策論	吉田 敬一	311401	231
中小企業論	吉田 敬一	093811	232
中小企業論	吉田 敬一	311311	233
通関実務	荒畑 治雄	100321	234
統計原論	矢野 浩一	092901	235
日本経済史	河村 徳士	093301	236
日本経済論	小林 正人	309801	236
日本経済論	小林 正人	091101	237
ネットワーク組織論 a	梅木 眞	095811	237
ネットワーク組織論 b	梅木 眞	095821	238
農業政策	溝手 芳計	093501	239
農業政策	溝手 芳計	309101	240
非営利組織論 a	松本 典子	097071	241
非営利組織論 a	松本 典子	314371	242
非営利組織論 b	松本 典子	097081	243
非営利組織論 b	松本 典子	314381	244
ビジネス・インターンシップ a	小栗 崇資 松田 健	099311	245
ビジネス・インターンシップ a	谷敷 正光 友松 憲彦	100951	246
ビジネス・インターンシップ b	石川 純治	113011	246
ビジネス・インターンシップ b	石川 祐二	113021	247
ビジネス・インターンシップ b	岩波 文孝	113031	247
ビジネス・インターンシップ b	大石 雄爾	113151	247
ビジネス・インターンシップ b	大島 久幸	112951	248
ビジネス・インターンシップ b	小栗 崇資 松田 健	099321	248
ビジネス・インターンシップ b	小栗 崇資	112961	249
ビジネス・インターンシップ b	北口 りえ	113181	249
ビジネス・インターンシップ b	小西 宏美	112941	249
ビジネス・インターンシップ b	清水 卓	113061	250
ビジネス・インターンシップ b	代田 純	113071	250
ビジネス・インターンシップ b	瀬戸岡 紘	113081	250
ビジネス・インターンシップ b	友松 憲彦	113051	251
ビジネス・インターンシップ b	中濟 光昭	113161	251
ビジネス・インターンシップ b	番場 博之	113111	252
ビジネス・インターンシップ b	百田 義治	113091	252
ビジネス・インターンシップ b	松井 柳平	113121	252

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
ビジネス・インターンシップb	松本 典子	113041	253
ビジネス・インターンシップb	溝手 芳計	113191	253
ビジネス・インターンシップb	光岡 博美	113141	254
ビジネス・インターンシップb	村松 幹二	112931	254
ビジネス・インターンシップb	谷敷 正光	113131	255
ビジネス・インターンシップb	矢野 浩一	112991	256
ビジネス・インターンシップb	山縣 弘志	112971	256
ビジネス・インターンシップb	吉田 真広	112981	256
ビジネス英会話 a	井上 愛子	097141	257
ビジネス英会話 b	井上 愛子	097151	257
ビジネスの歴史 (欧米)	宇田 理	096921	258
ビジネスの歴史 (日本)	宇田 理	096911	258
ファイナンス基礎	代田 純	092421	259
ファイナンス論 a 財務管理 a	坂本 恒夫	096811・096812	259
ファイナンス論 b 財務管理 b	坂本 恒夫	096821・096822	260
福祉経済論	河野 敏鑑	093831	260
プログラミング論	濱本 和彦	095401	261
ベンチャー論	長山 宗広	097031	262
貿易史	吉田 真広	097611	263
貿易実務	荒畑 治雄	100311	264
法と経済学	村松 幹二	098181	265
簿記論	北口 りえ	092301	265
簿記論	千葉 修身	092101	266
簿記論	渡邊 智	092201	267
保険・海商法	井上 健一	326501	267
保険論	深見 泰孝	098101	268
マーケティング	曾我 信孝	091801	268
マーケティング	曾我 信孝	311101	269
マクロ経済学 経済理論Ⅱ・マクロ経済学	浅野 克巳	090401・090402	270
マクロ経済学 経済理論Ⅱ・マクロ経済学	荒木 勝啓	090301・090302	271
ミクロ経済学 経済理論Ⅱ・ミクロ経済学	畠中 貴	090101・090102	273
ミクロ経済学 経済理論Ⅱ・ミクロ経済学	松井 柳平	090201・090202	274
民法一部 民法Ⅰ	和知 恵一	098301・098302	275
民法二部	飯塚 真	098401	276
債権総論 民法二部	中田 英幸	325001・325002	277
流通経済論	大吹 勝男	099211	278
流通論基礎 商学総論	大吹 勝男	091311・091312	278
労働法	藤本 茂	098801	279
労働法	藤本 茂	325101	280
ロシア・東欧経済論	山縣 弘志	095201	281
ロシア・東欧経済論	山縣 弘志	310301	282
現代経済事情Ⅲ	休講		
現代経済事情Ⅳ	休講		
現代産業事情Ⅰ	休講		
交通政策	休講		
交通論	休講		
就業力応用Ⅰ	休講		
就業力応用Ⅱ	休講		
就業力応用Ⅲ	休講		
就業力応用Ⅳ	休講		

経済学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
就業力基礎 I	休講		
就業力基礎 II	休講		
証券市場論	休講		
情報・経済ネットワーク論	休講		
情報処理論	休講		
税法 I	休講		
税法 II	休講		
トップ・マネジメント講座	休講		
ビジネス事例研究	休講		
貿易論	休講		
ボランティア経済 a	休講		
ボランティア経済 b	休講		
労働経済論	休講		
ロジスティックス	休講		

2. 法 学 部

(1) 法律学科フレックス A・法律学科フレックス B

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
英米法	北野 かほる	118401	285
演習Ⅰ 演習Ⅱ	柳瀬 昇	131901・131902	286
演習Ⅰ	田丸 大	132001	287
演習Ⅱ 演習Ⅰ	小堀 訓男	132101・132102	287
演習Ⅰ 演習Ⅱ	三竹 直哉	132401・132402	288
演習Ⅰ	早川 純貴	132701	288
演習Ⅰ 演習Ⅱ	大山 礼子	132801・132802	289
演習Ⅰ 演習Ⅱ	塩入 みほも	133101・133102	289
演習Ⅰ 演習Ⅱ	三船 恵美	133401・133402	290
演習Ⅰ 演習Ⅱ	大塚 桂	133501・133502	290
演習Ⅰ 演習Ⅱ	中田 英幸	122701・122702	291
演習Ⅰ 演習Ⅱ	井上 健一	123401・123402	291
演習Ⅰ 演習Ⅱ	原田 啓一郎	123501・123502	292
演習Ⅰ 演習Ⅱ	藤本 茂	123601・123602	293
演習Ⅰ 演習Ⅱ	鶴井 俊吉	123801・123802	294
演習Ⅰ 演習Ⅱ	金子 昇平	123901・123902	294
演習Ⅰ 演習Ⅱ	間瀬 清史	124301・124302	295
演習Ⅰ	中濱 義章	124401	295
演習Ⅰ 演習Ⅱ	高橋 洋城	124501・124502	296
演習Ⅰ 演習Ⅱ	北野 かほる	124601・124602	296
演習Ⅰ 演習Ⅱ	荒木 正孝	124701・124702	297
演習Ⅰ 演習Ⅱ	王 志安	124801・124802	297
演習Ⅰ 演習Ⅱ	大宮 隆	124901・124902	298
演習Ⅰ 演習Ⅱ	佐藤 多美夫	125001・125002	298
演習Ⅰ 演習Ⅱ	松村 格	125031・125032	299
演習Ⅰ 演習Ⅱ	田中 優企	125711・125712	300
演習Ⅰ 演習Ⅱ	奥村 公輔	125721・125722	300
演習Ⅰ 演習Ⅱ	赤松 晃	125741・125742	301
演習Ⅰ 演習Ⅱ	熊谷 芝青	125751・125752	302
演習Ⅰ 演習Ⅱ	富樫 景子	125761・125762	303
演習Ⅰ 演習Ⅱ	三浦 康平	125771・125772	303
演習Ⅰ 演習Ⅱ	藤本 茂	327101・327102	304
演習Ⅰ 演習Ⅱ	金子 昇平	327201・327202	305
演習Ⅰ 演習Ⅱ	赤松 晃	327301・327302	306
演習Ⅰ 演習Ⅱ	富樫 景子	327501・327502	306
演習Ⅰ 演習Ⅱ	荒木 正孝	327601・327602	307
演習Ⅰ 演習Ⅱ	田中 優企	327701・327702	308
演習Ⅰ 演習Ⅱ	原田 啓一郎	327801・327802	309
演習Ⅰ 演習Ⅱ	大宮 隆	327901・327902	309
演習Ⅰ 演習Ⅱ	奥村 公輔	327921・327922	309
演習Ⅰ 演習Ⅱ	北野 かほる	327931・327932	310
演習Ⅱ	田丸 大	132011	310
演習Ⅱ	早川 純貴	133001	310
演習Ⅱ	中濱 義章	124451	311
演習Ⅰ 演習Ⅱ	深澤 弘樹	132201・132202	311

法学部 法律学科フレックス A・法律学科フレックス B

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
演習Ⅱ 演習Ⅰ	中田 英幸	326901・326902	312
会社法	荒木 正孝	115301	312
会社法	井上 健一	134411	313
会社法	荒木 正孝	323501	313
外書講読Ⅰ(英書) 外書講読Ⅱ(英書)	北野 かほる	120401・120402	314
外書講読Ⅰ(中国書) 外書講読Ⅱ(中国書)	王 志安	120901・120902	314
外書講読Ⅰ(独書) 外書講読Ⅱ(独書)	松村 格	120701・120702	314
外書講読Ⅰ(仏書) 外書講読Ⅱ(仏書)	中野 裕二	120801・120802	315
家族法 相続法	須賀 昭徳	117001・117002	316
家族法	須賀 昭徳	326411	317
基礎演習	富井 幸雄	121701	318
基礎演習	池田 実	121801	318
基礎演習	富樫 景子	121901	319
基礎演習	藤田 有紀	122001	319
基礎演習	和知 恵一	122101	320
基礎演習	今尾 真	122201	320
基礎演習	今尾 真	122301	321
基礎演習	村木 保久	122401	322
基礎演習	村木 保久	122501	323
基礎演習	覚正 豊和	122601	323
行政学	田丸 大	127001	324
行政学	田丸 大	324501	324
行政救済法 行政法各論	金子 昇平	116501・116502	325
行政救済法	赤松 晃	326911	326
行政法 行政法総論	金子 昇平	115401・115402	327
行政法	塩入 みほも	323601	328
経済原論	福田 慎	117501	329
経済原論	藤原 碩宣	324401・324402	330
経済政策	増田 幹人	119101	331
経済法	若林 亜理砂	119701	332
経済法	東出 浩一	325201	332
刑事政策	覚正 豊和	118001	333
刑事政策	覚正 豊和	323901	334
刑事訴訟法	田中 優企	116201	335
刑事訴訟法	田中 優企	327001	336
刑法各論	佐藤 多美夫	115801	337
刑法各論	松村 格	324701	338
刑法総論	富樫 景子	115001	339
刑法総論	松村 格	115101	340
刑法総論	佐藤 多美夫	323301	341
現代産業事情Ⅲ 現代企業論 特殊講義Ⅱ	百田 義治	101201・101202・ 101203	342
憲法	山中 倫太郎	114601	343
憲法	奥村 公輔	114701	344
憲法	奥村 公輔	323101	345
公法入門 法学概論B	赤松 晃 富樫 景子	114511・114512	346
国際関係論	三船 恵美	128101	347
国際関係論	三船 恵美	325401	348
国際私法	笠原 俊宏	116401	349

法学部 法律学科フレックス A・法律学科フレックス B

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
国際私法	笠原 俊宏	325901	350
国際紛争解決法	王 志安	116601	351
国際法	王 志安	115501	352
国際法	王 志安	323401	353
債権各論	熊谷 芝青	118701	354
債権各論	熊谷 芝青	324801	355
債権総論	中田 英幸	115701	356
債権総論 民法二部	中田 英幸	325001・325002	357
財政学	速水 昇	333301	358
財政学	山田 直夫	119001	359
裁判法	間瀬 清史	116001	360
裁判法	岡田 好弘	323701	361
実務演習Ⅰ	中野 辰久	121411	362
実務演習Ⅱ	鶴井 俊吉 上野 雅祥 小林 覚 杉山 真一	121511	363
実務演習Ⅲ	木村 美隆	121521	363
私法入門 法学概論B	井上 健一	114531・114532	364
社会政策	原田 啓一郎	119201	364
社会保障法	原田 啓一郎	116301	365
社会保障法	原田 啓一郎	325301	365
消費者法	藤田 有紀	120101	366
商法総則・商行為法	三浦 康平	117101	367
商法総則・商行為法	三浦 康平	325501	368
新入生演習	藤本 茂 金子 昇平	121611	369
新入生演習	田中 優企 間瀬 清史	121621	370
新入生演習	奥村 公輔 荒木 正孝	121631	371
新入生演習	富樫 景子 松村 格	121641	372
新入生演習	中濱 義章 高橋 洋城	121651	373
新入生演習	大宮 隆 熊谷 芝青	121661	374
新入生演習	赤松 晃 原田 啓一郎	121671	375
新入生演習	王 志安 三浦 康平	327011	376
新入生演習	中田 英幸 鶴井 俊吉	327021	377
新入生演習	北野 かほる 佐藤 多美夫 井上 健一	327031	378
政治学原論	大塚 桂	117301	379
政治学原論	大塚 桂	324301・324302	380
政治史	村井 良太	117401	381
税法	赤松 晃	118901	382

法学部 法律学科フレックス A・法律学科フレックス B

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
税法	赤松 晃	325801	383
西洋法制史	北野 かほる	117901	384
担保物権法	鶴井 俊吉	116701	385
担保物権法	山田 創一	326301	386
知的財産権法	角田 政芳	119601	387
知的財産権法	角田 政芳	325701	388
地方自治法	富井 幸雄	127501	389
地方自治法	富井 幸雄	326001	389
登記法	田沼 浩	118801	390
倒産処理法	鈴木 貴博	119501	391
倒産処理法	鈴木 貴博	326801	392
独法	中田 英幸	118501	393
日本法制史	末澤 国彦	117801	394
日本法制史	末澤 国彦	324001	395
比較憲法	柳瀬 昇	117701	396
物権法	鶴井 俊吉	115601	397
物権法	今尾 真	324601	397
仏法	上井 長十	118601	398
法学概論 法学概論 A	高橋 洋城	114411・114412	399
法学概論 法学概論 A	北野 かほる	114421・114422	400
法学概論	北野 かほる	323031	401
法思想史	高橋 洋城	117601	402
法思想史	高橋 洋城	324201	403
法社会学	佐藤 憲一	118201	404
法哲学	高橋 洋城	119401	405
法律学特殊講義 [金融商品取引法]	萬澤 陽子	120211	406
法律時事英語	井上 健一	118101	406
保険・海商法	井上 健一	326501	407
民事執行・保全法	岡田 好弘	119301	408
民事執行・保全法	岡田 好弘	326701	409
民事訴訟法	間瀬 清史	116101	410
民事訴訟法	間瀬 清史	326601	410
民法総則	山田 創一	114801	411
民法総則	熊谷 芝青	114901	412
民法総則	大宮 隆	323201	412
有価証券法	中濱 義章	115901	413
有価証券法 商法二部	中濱 義章	324901・324902	413
労働法	藤本 茂	116801	414
労働法	藤本 茂	325101	415
会計学総論	休講		
環境法	休講		
経営学総論	休講		
簿記論	休講		

(2) 政治学科

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
アラブ・イスラム政治論	中島 勇	129501	419
演習Ⅰ 演習Ⅱ	内海 麻利	132601・132602	419
演習Ⅰ	浦田 早苗	131701	419
演習Ⅰ 演習Ⅱ	大塚 桂	133501・133502	420
演習Ⅰ 演習Ⅱ	大山 礼子	132801・132802	420
演習Ⅱ 演習Ⅰ	小堀 訓男	132101・132102	420
演習Ⅰ 演習Ⅱ	塩入 みほも	133101・133102	421
演習Ⅰ	田丸 大	132001	421
演習Ⅰ	富崎 隆	132501	422
演習Ⅰ 演習Ⅱ	中野 裕二	132301・132302	422
演習Ⅰ	早川 純貴	132701	423
演習Ⅰ 演習Ⅱ	三竹 直哉	132401・132402	423
演習Ⅰ 演習Ⅱ	三船 恵美	133401・133402	424
演習Ⅰ 演習Ⅱ	村井 良太	131801・131802	424
演習Ⅰ 演習Ⅱ	柳瀬 昇	131901・131902	425
演習Ⅰ 演習Ⅱ	山崎 望	132211・132212	426
演習Ⅱ	浦田 早苗	132511	426
演習Ⅱ	田丸 大	132011	427
演習Ⅱ	富崎 隆	133051	427
演習Ⅱ	早川 純貴	133001	428
演習Ⅰ 演習Ⅱ	深澤 弘樹	132201・132202	429
外交史	村井 良太	133601	430
外書講読Ⅰ(英書) 外書講読Ⅱ(英書)	大山 礼子	130601・130602	431
外書講読Ⅰ(英書) 外書講読Ⅱ(英書)	三竹 直哉	130501・130502	431
環境政策	横田 匡紀	127301	432
基礎演習	内海 麻利	131201	433
基礎演習	浦田 早苗	131611	433
基礎演習	大山 礼子	131621	433
基礎演習	塩入 みほも	131001	434
基礎演習	田丸 大	131631	434
基礎演習	富崎 隆	131501	435
基礎演習	中野 裕二	131301	435
基礎演習	早川 純貴	130801	436
基礎演習	三竹 直哉	130901	436
基礎演習	三船 恵美	131651	437
基礎演習	村井 良太	131641	437
基礎演習	柳瀬 昇	131401	438
基礎演習	山崎 望	131601	439
行政学	田丸 大	127001	440
行政法各論 行政救済法	塩入 みほも	127401・127402	441
行政法総論	塩入 みほも	127201	442
刑法総論	佐藤 多美夫	127901	443
現代産業事情Ⅲ 現代企業論 特殊講義Ⅱ	百田 義治	101201・101202・ 101203	444
現代国家論	大塚 桂	133801	444
現代政治理論	山崎 望	126401	445
憲法	柳瀬 昇	126101	446
工業政策	奥山 雅之	093601	447

法学部 政治学科

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
国際関係とメディア	芝崎 厚士	416801	448
国際関係論	三船 恵美	128101	449
国際経済論 国際経済学	徳永 俊明	091201・091202	450
国際政治学	山村 恒雄	126601	451
国際法	橋本 靖明	128001	452
国家安全保障論	山下 愛仁	133701	452
時事英語講座	三竹 直哉	133651	453
実務者講座	田丸 大	133681	453
社会学原理 社会学原論	呉 炳三	133901・133902	454
数量政治学	富崎 隆	130101	455
政策決定論	井上 拓也	127701	456
政治学概論	浦田 早苗 早川 純貴	125901	457
政治学概論	中野 裕二 三竹 直哉	126011	458
政治学概論	早川 純貴 浦田 早苗	126001	459
政治学原論	大塚 桂	126201	460
政治学特殊講義(1)	浦田 早苗	134101	460
政治学特殊講義(2)	山崎 望	134201	461
政治学特殊講義(3)	早川 純貴	134301	461
政治学特殊講義(4)	内海 麻利	134401	462
政治過程論	早川 純貴	126801	462
政治経済学	白鳥 浩	130301	463
政治思想史	大塚 桂	127101	464
政治社会学	中野 裕二	129701	465
政治心理学	富崎 隆	129901	466
政治制度論	大山 礼子	126501	467
世界政治とメディア	五野井 郁夫	416701	468
地域計画論	佐藤 哲夫	038701	469
地方行政	内海 麻利	127601	470
地方財政論	江夏 あかね	094101	471
地方自治法	富井 幸雄	127501	472
中国政治論(1)	三船 恵美	128901	472
中国政治論(2)	三船 恵美	129001	473
中南米政治論	箕輪 茂	129601	474
東南アジア政治論(1)	深尾 康夫	128701	474
東南アジア政治論(2)	深尾 康夫	128801	475
日本政治史	村井 良太	126901	476
日本政治論	大山 礼子	126301	477
農業政策	溝手 芳計	093501	478
非営利組織論 a	松本 典子	097071	479
非営利組織論 b	松本 典子	097081	480
比較憲法	柳瀬 昇	134001	481
比較政治学	三竹 直哉	128201	482
比較都市論	内海 麻利	128401	483
比較メディア論	岩崎 宇雄 柴田 厚	130201	483
マス・コミュニケーション論	川端 美樹	129801	484
民法Ⅱ(債権法) 民法(債権)	飯塚 真	143801・143802	485

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
民法（総則・物権法） 民法Ⅰ（総則・物権法） 民法Ⅰ	熊谷 芝青	127801・127802・ 127803	486
メディア社会論	川端 美樹	130001	487
ヨーロッパ政治史	浦田 早苗	126701	487
ヨーロッパ政治論（1）	中野 裕二	129101	488
ヨーロッパ政治論（2）	中野 裕二	129201	489
ヨーロッパ政治論（3）	浅見 政江	129301	490
ヨーロッパ政治論（4）	浅見 政江	129401	491
流通政策 商業政策	番場 博之	091701・091702	492
NPO/NGOとメディア	休講		
交通論	休講		
北米政治論（1）	休講		
北米政治論（2）	休講		

3. 経営学部

経営学科

経営学科フレックスA

市場戦略学科

経営学科フレックスB

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
アメリカ経営学	宮城 徹	141201	495
アメリカ経営学	宮城 徹	332701	496
e-ビジネス	安岡 寛道	140851	497
イノベーション論	安田 英士	143601	498
演習Ⅰ	青木 茂樹	146811	498
演習Ⅰ	明石 博行	147181	499
演習Ⅰ	阿部 一人	146901	499
演習Ⅰ	飯田 哲夫	146201	500
演習Ⅰ	石名坂 邦昭	146821	500
演習Ⅰ	鹿嶋 秀晃	147001	501
演習Ⅰ	片桐 伸夫	146301	501
演習Ⅰ	兼村 栄哲	146701	502
演習Ⅰ	河合 由佳理	147161	503
演習Ⅰ	菅野 佐織	146831	504
演習Ⅰ	岸田 隆行	145801	504
演習Ⅰ	桑原 正行	147171	505
演習Ⅰ	猿山 義広	334901	505
演習Ⅰ	高井 徹雄	146501	506
演習Ⅰ	高木 克己	145101	506
演習Ⅰ	滝田 公一	145401	507
演習Ⅰ	長 國強	146871	507
演習Ⅰ	中野 香織	146851	508
演習Ⅰ	中村 公一	147101	509
演習Ⅰ	西村 和夫	146801	509
演習Ⅰ	日野 健太	147121	510
演習Ⅰ	藤原 篤志	146601	511
演習Ⅰ	若山 大樹	146861	511
演習Ⅰ	渡辺 伊津子	147141	512
演習Ⅱ	青木 茂樹	149911	512
演習Ⅱ	明石 博行	149201	513
演習Ⅱ	阿部 一人	147201	513
演習Ⅱ	飯田 哲夫	148901	514
演習Ⅱ	石名坂 邦昭	147901	514
演習Ⅱ	小沢 利久	147301	515
演習Ⅱ	鹿嶋 秀晃	147401	515
演習Ⅱ	片桐 伸夫	148601	516
演習Ⅱ	兼村 栄哲	149901	517

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
演習Ⅱ	河合 由佳理	150041	518
演習Ⅱ	菅野 佐織	149931	518
演習Ⅱ	岸田 隆行	150011	519
演習Ⅱ	桑原 正行	150051	519
演習Ⅱ	猿山 義広	149601	520
演習Ⅱ	高井 徹雄	149921	520
演習Ⅱ	高木 克己	148801	521
演習Ⅱ	高田 光明	148301	521
演習Ⅱ	滝田 公一	148501	522
演習Ⅱ	長 國強	149401	522
演習Ⅱ	中川 功一	149941	523
演習Ⅱ	中川 淳平	149501	523
演習Ⅱ	中野 香織	149951	524
演習Ⅱ	中村 公一	150001	525
演習Ⅱ	西村 和夫	149101	525
演習Ⅱ	羽鳥 茂	148701	526
演習Ⅱ	日野 健太	147701	526
演習Ⅱ	藤原 篤志	149801	527
演習Ⅱ	若山 大樹	149961	528
演習Ⅱ	渡辺 伊津子	148351	528
演習Ⅲ	青木 茂樹	152411	529
演習Ⅲ	明石 博行	150801	529
演習Ⅲ	阿部 一人	152501	530
演習Ⅲ	飯田 哲夫	151201	530
演習Ⅲ	石名坂 邦昭	151801	530
演習Ⅲ	江頭 隆治	150501	531
演習Ⅲ	小沢 利久	150901	531
演習Ⅲ	鹿嶋 秀晃	152301	532
演習Ⅲ	片桐 伸夫	151001	532
演習Ⅲ	兼村 栄哲	150301	533
演習Ⅲ	河合 由佳理	152561	533
演習Ⅲ	菅野 佐織	152421	534
演習Ⅲ	岸田 隆行	150601	534
演習Ⅲ	猿山 義広	152601	534
演習Ⅲ	高井 徹雄	152611	535
演習Ⅲ	高木 克己	152101	535
演習Ⅲ	高田 光明	150101	536
演習Ⅲ	滝田 公一	152001	536
演習Ⅲ	長 國強	152401	537
演習Ⅲ	中川 功一	152431	537
演習Ⅲ	中川 淳平	150201	537
演習Ⅲ	中野 香織	152441	538
演習Ⅲ	中村 公一	151401	539
演習Ⅲ	西村 和夫	152201	539
演習Ⅲ	羽鳥 茂	151901	540
演習Ⅲ	日野 健太	151601	540
演習Ⅲ	藤原 篤志	150401	541
演習Ⅲ	宮城 徹	151701	541
演習Ⅲ	山田 純平	151101	542
演習Ⅲ	山田 勝	151501	542

経営学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
演習Ⅲ	若山 大樹	152451	542
演習Ⅲ	渡辺 伊津子	152551	543
会計学	岩渕 昭子	136201	543
会計学	片桐 伸夫	136101	544
会計学	片桐 伸夫	136211	544
会計監査論	阿部 一人	141801	545
会計監査論	阿部 一人	331801	546
外書講読 (英書Ⅰ)	枝松 正行	144201	547
外書講読 (英書Ⅰ)	桑原 正行	144101	547
外書講読 (英書Ⅰ)	辰馬 信男	144121	548
外書講読 (英書Ⅰ)	中野 香織	144111	549
外書講読 (英書Ⅱ)	高田 光明	144211	550
外書講読 (スペイン書)	上野 勝広	144601	551
外書講読 (中国書)	佐藤 善美子	144501	552
外書講読 (独書)	武田 利勝	144301	552
外書講読 (仏書)	東 辰之介	144401	553
外書講読 (ロシア書)	廣田 英靖	144701	554
確率・統計入門A	小沢 利久	136631	554
確率・統計入門B	小沢 利久	136641	555
環境経営論	川村 雅彦	143501	556
管理会計論	猿山 義広	140101	556
管理会計論	猿山 義広	331201	557
銀行経営論	服部 昌久	141501	558
産業組織論 近代経済学	滝田 公一	136401・136402	558
近代経済学	滝田 公一	330901	559
金融論	玉木 伸介	140601	560
グローバル・マーケティング論	深澤 琢也	143271	561
経営科学概論	飯田 哲夫	136511	562
経営科学概論	西村 和夫	136501	563
経営学	中川 功一	136011	564
経営学	日野 健太	135901	565
経営学	日野 健太	136001	566
経営学史	中川 淳平	139501	567
経営学史	中川 淳平	330301	568
経営管理論	渡辺 伊津子	139701	569
経営管理論	渡辺 伊津子	330101	570
経営財務論	高田 光明	139901	571
経営財務論	高田 光明	331101	571
経営情報システムA	高井 徹雄	141011	572
経営情報システムA	高井 徹雄	332511	572
経営情報システムB	高井 徹雄	140121	573
経営情報システムB	高井 徹雄	332521	573
経営数学A	飯田 哲夫	136611	574
経営数学B	飯田 哲夫	136621	575
経営戦略論	中村 公一	143301	576
経営戦略論	中村 公一	330001	576
経営組織論	日野 健太	140201	577
経営統計B	長 國強	140721	578
経営分析論	片桐 伸夫	141301	578
経営労務論	鹿嶋 秀晃	140001	579

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
経営労務論	鹿嶋 秀晃	331001	580
経営統計A	長 國強	140711	581
経済学概説	高畑 純一郎	135001	581
経済学概説	羽鳥 茂	134901	582
経済学概説	羽鳥 茂	135011	583
経済原論	明石 博行	136301	584
経済原論	明石 博行	330501	585
経済法	若林 亜理砂	119701	586
計量経済学	呉 逸良	143701	587
ゲーム理論A	上條 良夫	143721	587
ゲーム理論B	上條 良夫	143731	588
原価計算論	岸田 隆行	139801	588
原価計算論	岸田 隆行	330701	589
現代企業論	糸久 正人	139411	589
現代企業論	糸久 正人	139421	590
公益企業論	枝松 正行	140801	591
国際会計論	河合 由佳理	142801	592
国際経営論	深澤 琢也	142401	593
国際経済論	田中 鮎夢	141701	594
サービス経営論	高畑 泰	140351	594
財政学	速水 昇	141601	595
財政学	速水 昇	333301	596
財務会計論	桑原 正行	142201	597
財務会計論	桑原 正行	332201	598
サプライチェーン・マネジメントA	飯田 哲夫	141181	599
サプライチェーン・マネジメントB	飯田 哲夫	141191	600
市場戦略概説	兼村 栄哲	136251	601
上級簿記	矢島 正	140901	602
商業経営論	石川 和男	140301	603
商業史	山田 勝	142301	604
商業史	山田 勝	331501	604
証券市場論	勝田 佳裕	142001	605
消費者行動論	菅野 佐織	143231	605
商法Ⅰ（総則・会社法）	三浦 康平	138701	606
商法Ⅱ（商行為、手形・小切手法）	中濱 義章	145001	607
情報処理応用A	宇谷 明秀	138901	607
情報処理応用A	若山 大樹	138801	608
情報処理応用B	宇谷 明秀	139101	608
情報処理応用B	若山 大樹	139001	609
情報処理基礎A	小沢 利久	137601	609
情報処理基礎A	加藤 武信	137001	610
情報処理基礎A	河内谷 幸子	136701	610
情報処理基礎A	河内谷 幸子	137101	611
情報処理基礎A	佐藤 正知	137401	612
情報処理基礎A	地引 昌弘	136801	613
情報処理基礎A	地引 昌弘	136901	614
情報処理基礎A	長 國強	137611	614
情報処理基礎A	中野 秀洋	137631	615
情報処理基礎A	村上 友佳子	137201	616
情報処理基礎A	依田 聖	137301	617

経営学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
情報処理基礎 A	若山 大樹	137621	617
情報処理基礎 B	小沢 利久	138601	618
情報処理基礎 B	加藤 武信	138301	619
情報処理基礎 B	河内谷 幸子	137901	620
情報処理基礎 B	河内谷 幸子	138001	621
情報処理基礎 B	佐藤 正知	138501	622
情報処理基礎 B	地引 昌弘	138101	623
情報処理基礎 B	地引 昌弘	138201	624
情報処理基礎 B	長 國強	138611	624
情報処理基礎 B	中野 秀洋	138631	625
情報処理基礎 B	村上 友佳子	138401	625
情報処理基礎 B	依田 聖	137701	626
情報処理基礎 B	若山 大樹	138621	626
情報セキュリティ A	西村 和夫	142511	627
情報セキュリティ B	西村 和夫	142521	628
生産管理論	藤原 篤志	142601	629
生産管理論	藤原 篤志	333801	629
製品開発論	宮下 雄治	143221	630
税法	奥村 正郎	143101	630
税務会計論	高木 克己	141901	631
税務会計論	高木 克己	332301	631
ドイツ経営学	高橋 成夫	142701	632
特殊講義Ⅰ [現代のビジネスモデル]	中野 香織	144801	633
現代産業事情Ⅲ 現代企業論 特殊講義Ⅱ	百田 義治	101201・101202・ 101203	634
日本経営史	大島 久幸	142101	634
日本経済史	渡辺 新	139301	635
日本経済論	羽鳥 茂	141401	636
ビジネス英語	秋葉 滋	144901	637
ファイナンス理論	江頭 隆治	143711	637
ベンチャー企業論	崔 銀順	143401	638
簿記学	岩渕 昭子	135601	638
簿記学	大野 満奈	135101	639
簿記学	大野 満奈	135301	639
簿記学	河合 由佳理	135201	640
簿記学	猿山 義広	135811	641
簿記学	竹腰 友美	135701	642
簿記学	水野 恵子	135401	643
簿記学	水野 恵子	135801	643
簿記学	矢島 正	135501	644
保険経営論	岡田 太	140401	645
マーケティング・コミュニケーション論	中野 香織	143241	646
マーケティング・サイエンス A	若山 大樹	141151	647
マーケティング・サイエンス B	若山 大樹	141161	647
マーケティング・チャネル論	青木 茂樹	143251	648
マーケティング・リサーチ A	菅野 佐織	141131	648
マーケティング・リサーチ B	菅野 佐織	141141	649
マーケティング史	石川 和男	143281	650
マーケティング論	兼村 榮哲	143201	651
マーケティング論	兼村 榮哲	334401	652

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
マネジメント・サイエンスA	小沢 利久	141111	653
マネジメント・サイエンスB	小沢 利久	141121	654
民法（総則・物権法） 民法Ⅰ（総則・物権法） 民法Ⅰ	熊谷 芝青	127801・127802・ 127803	655
民法Ⅱ（債権法） 民法（債権）	飯塚 真	143801・143802	656
リスクマネジメント論	石名坂 邦昭	142351	656
リスクマネジメント論	石名坂 邦昭	331551	657
流通システム論	青木 茂樹	143211	657
労働法	藤本 茂	098801	658
労働法	藤本 茂	325101	659
外書講読（英書）	休講		
経営史	休講		
経営心理学	休講		
経済政策	休講		
システム論	休講		
商法	休講		
統計原論	休講		
民法	休講		

専 門 教 育 科 目

1. 経 済 学 部

経済学科

経済学科フレックスA

商学科

現代応用経済学科

経済学科フレックスB

履修コード	101151
科目名	ITプロフェッショナルクラスI
担当者名	中済 光昭
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	当科目は基本的なITの知識を持ち、海外のプログラマやリーダーと英語や中国語で打ち合わせを行い、業務知識やプロジェクト管理能力、コミュニケーション力にたけたITプロフェッショナルを養成することを目的としている。具体的にはTOEICにおいて短期海外出張が可能なレベル、ITパスポートやSAP認定コンサルタントなどの資格取得が出来るレベルに到達することが目標となる。
授業スケジュール	(1) ガイダンス (2) ~ (5) 基礎的な英語文献を調査しまとめる練習とレポーティング、プレゼンの練習、コンサルタントとして必要な心構えやマナー、会話技法、ユニークな発想を発案するための演習 (KJ法、ブレインストーミング法など) (6) ~ (30) ドイツSAP社のERP認定資格取得のための研修
準備学習	情報系の資格や簿記の資格を持っていることが望ましい。 発表資料を作成する必要があります。
履修上の留意点	・ 当科目は演習と同等の科目であるので、演習Iを同時に履修することはできない。 ・ このクラスでは教員と相談の上、専門学校に半年間通学し資格試験を受けることを推奨している。 ・ このクラスではインターンシップに参加することが必須であり、交通費等インターンシップにかかる費用は自己負担となる。 ・ 合宿、課外イベントなどには原則として出席すること。 ・ メールの読み書きやワープロを打つということが必須である。無線でインターネットに接続できるノートパソコンを持っていることが望ましい。
成績評価の方法	課題提出 (50%)、学年末に行う発表 (15%) とレポート提出 (15%)、イベントへの参加 (20%) を総合評価する。
教科書/テキスト	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
その他	・ 編入学および転部・科の学生を主な対象とする追加募集を行うので、履修許可を受けていないが、履修したい者は4月初回の授業に必ず出席すること。 ・ 当科目に併設されるIT研究I~VIは専門学校での資格取得と学習状況および当クラスを指導する副担当が課外レポートに基づき成績評価する。 ・ 当科目に併設されるITインターンシップI、IIでは、担当者と派遣先のIT企業が職務内容を決め、それに従ってインターンシップを行い、最終発表および派遣先からの勤務状況報告に基づいて成績評価する。 ・ ITプロフェッショナルクラスIIIでは卒業制作を併設する。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~nakasumi/itpc/

履修コード	101171
科目名	ITプロフェッショナルクラスII
担当者名	中済 光昭
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	当科目は基本的なITの知識を持ち、海外のプログラマやリーダーと英語や中国語で打ち合わせを行い、業務知識やプロジェクト管理能力、コミュニケーション力にたけたITプロフェッショナルを養成することを目的としている。具体的には短期海外出張に必要なTOEICのスコアを取ること、ITや簿記の資格を取得することが目標となる。
授業スケジュール	(1) ガイダンス (2) - (30) 事例を設定して、ヒアリングを行い提案を作成するシステム提案・開発演習
準備学習	原則としてITプロフェッショナルクラスIを受講していること。 発表資料を作成する必要があります。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・当科目は演習と同等の科目であるので、演習IIを同時に履修することはできない。 ・このクラスでは教員と相談の上専門学校に半年間通学し資格試験を受けることなどが推奨される。 ・このクラスではインターンシップに参加することが必須であり、交通費等インターンシップにかかる費用は自己負担となる。 ・合宿、課外イベントなどには原則として出席すること。 ・メールの読み書きやワープロを打つといったことが必須である。インターネットに接続できるノートパソコンを持参することがある。
成績評価の方法	課題提出(50%)、学年末に行う発表(15%)とレポート提出(15%)、イベントへの参加(20%)を総合評価する。
教科書/テキスト	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・編入学および転部・科の学生を主な対象とする追加募集を行うので、履修許可を受けていないが履修したい者は4月初回の授業に必ず出席すること。 ・当科目に併設されるIT研究I-Vは専門学校での資格取得と学習状況および当クラスを指導する副担当が課すレポートに基づき成績評価する。 ・当科目に併設されるITインターンシップI、IIでは、担当者と派遣先のIT企業が職務内容を決め、それに従ってインターンシップを行い、最終発表および派遣先からの勤務状況報告に基づいて成績評価する。 ・ITプロフェッショナルクラスIIIでは、卒業研究(システム開発)を併設する。 ・ITプロフェッショナルクラスIIIはITプロフェッショナルクラスIIの単位を修得していることが受講条件である。新規募集は行わない。

履修コード	101191 101192
科目名	ITプロフェッショナルクラスIII 卒業研究
担当者名	村上 泰

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	当科目は基本的なITの知識を持ち、海外プログラマやリーダーと英語や中国語で打ち合わせを行い、業務知識やプロジェクト管理能力、コミュニケーション力にたけたITプロフェッショナルを養成することを目的としています。そのため、ビジネスに役立つITとは何かを考察し、自分のアイデアをシステム開発を通じて成果物にまとめ上げます。 基本的な開発プロセスに沿い、要件定義から開発、運用フェーズまで実践することを目標とします。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) ガイダンス (2)-(30) システム提案演習 <ul style="list-style-type: none"> ・事例を設定 ・研究計画書作成 ・論題の提出 ・ヒアリング ・研究テーマに関する調査・分析 ・提案書、設計書、操作仕様書の作成、発表 ・卒業制作と最終成果発表(デモ有り)を実施
----------	--

準備学習	ITプロフェッショナルクラスIIの単位を修得していること。 Windows環境でのJava開発、VBA(マクロ)開発を想定していますが、習得済みの方はRubyなど他のオブジェクト指向言語、Linux環境での開発にも挑戦して下さい。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・実業務で役立つツールの作成を目的とし、JavaやExcelマクロによる演習を実施。 ・当科目は演習と同等の科目であるので、演習IIIを同時に履修することはできない。 ・このクラスでは教員と相談の上専門学校に半年間通学し資格試験を受けることなどが推奨される。 ・合宿、課外イベントなどには原則として出席すること。 ・メールの読み書きやワープロを打つといったことが必須である。インターネットに接続できるノートパソコンを持参することがある。 ・学外のIT関連各種勉強会への参加やグループ学習を推奨。 ・ビジネスの現場を想定し、各自タスク管理しながら卒業制作を行う。 ・ITスキルの研鑽だけでなく、チームワーク、ビジネスツールの使用方法、業務知識やプロジェクト管理能力の自発的な獲得を求める。
---------	--

成績評価の方法	出席と課題提出、学年末に行う発表とレポート提出、イベントへの参加を総合評価する
---------	---

教科書/テキスト	適宜指示する。
----------	---------

参考書	適宜指示する。
-----	---------

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ITプロフェッショナルクラスIIの単位を修得していることが受講条件である。 ・新規募集は行わない。 ・当科目に併設されるIT研究I-Vは専門学校での資格取得と学習状況および当クラスを指導する副担当が課すレポートに基づき成績評価する。 ・当科目に併設されるITインターンシップI、IIでは、担当者と派遣先のIT企業が職務内容を決め、それに従ってインターンシップを行い、最終発表および派遣先からの勤務状況報告に基づいて成績評価する。 ・卒業研究(システム開発)を併設する。 ・機会があれば現役のエンジニアやコンサルタントを招いて、ディスカッションの場を設定。
-----	---

履修コード	094601
科目名	アジア経済論
担当者名	鄭 章淵

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 第二次世界大戦後の東アジア（東北アジア+東南アジア）における経済発展について、歴史・理論・現状分析の三つの側面から、下記の講義内容に記載された個別のテーマについてそれぞれ解説する。特に経済開発における政府の役割と民間資本の働きに注目して東アジア資本主義の特徴を説明することにする。</p> <p>(到達目標) この講義では、受講生諸君に東アジア経済に関してその歴史・理論・現状分析の側面から基本的な知識を身につけてもらうことが第一の目標である。</p> <p>歴史の面では、工業化が本格化する1960年代以降の時期ばかりでなく、その前史（植民地期や終戦から1950年代までの時期）を射程に入れた通史的な理解をする。理論の面では、東アジアの工業化を最も高く評価する新古典派開発経済学を中心に、その理論的内容と問題点について学習する。そして、現状分析の面では、東アジア各国経済の現状や国境を越えた経済協力=東アジア経済圏の形成に関する動向について、日本との関係を視野に入れながら理解を深める。</p> <p>以上の学習を通じて、アジア経済研究の重要性を受講生諸君に認識してもらうことが本講義の最終的な到達目標である。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. アジア経済論を学ぶ意義について 2. 東アジア経済の全体像：アジアの多様性、東アジアの範疇 3. 東アジア経済と経済理論1：新古典派開発経済学 4. 東アジア経済と経済理論2：その他の理論 5. 東アジアの経済1：工業化の前史 6. 東アジアの経済2：戦後経済発展過程① 7. 東アジアの経済3：戦後経済発展過程② 8. 東アジアの経済4：経済発展の特徴① 9. 東アジアの経済5：経済発展の特徴② 10. アジアNIEsの経済1：経済発展の過程とその意義 11. アジアNIEsの経済2：用語説明 12. アジアNIEsの経済3：経済発展の特徴① 13. アジアNIEsの経済4：経済発展の特徴② 14. アジアNIEs各国経済の現況 15. 前期授業のまとめ 16. 東南アジア諸国の経済1：主要各国の経済発展過程① 17. 東南アジア諸国の経済2：主要各国の経済発展過程② 18. ASEANの歴史1 19. ASEANの歴史2 20. ASEANの現状 21. アジア社会主義国の経済1：中国の改革・開放政策 22. アジア社会主義国の経済2：その他の社会主義国経済 23. アジア通貨危機1：危機の過程・特徴・性格・原因 24. アジア通貨危機2：危機への対応策 25. 東アジアの地域経済協力1：地域経済協力の歴史 26. 東アジアの地域経済協力2：地域経済協力の現状と展望 27. 東アジア経済の現状と展望1：現状把握 28. 東アジア経済の現状と展望2：直面する諸問題 29. 東アジア経済と日本 30. 後期授業のまとめ
----------	---

準備学習	<p>授業の各テーマに関連する参考書の該当箇所や授業で紹介する参考文献の該当箇所について目を通しておくこと。</p> <p>また、新聞やWEBサイトのアジア経済に関する記事をよく読んでおくこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>試験およびレポートの際に自筆のノートを参照するので、授業を欠席せずにノートをよくとってもらいたい。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>前期のレポートと定期試験（学年末）で総合的に評価する。なお、定期試験とレポートの成績比重は、前者80%、後者20%とする。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>特に定めない。</p>
----------	----------------

参考書	<p>大野健一・桜井宏二郎著『東アジアの開発経済学』有斐閣アルマ、2,000円（税別）、ISBN 4-641-12044-7</p>
-----	--

履修コード	310001
科目名	アジア経済論
担当者名	鄭 章淵

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 第二次世界大戦後の東アジア (東北アジア+東南アジア) における経済発展について、歴史・理論・現状分析の三つの側面から、下記の講義内容に記載された個別のテーマについてそれぞれ解説する。特に経済開発における政府の役割と民間資本の働きに注目して東アジア資本主義の特徴を説明することにする。</p> <p>(到達目標) この講義では、受講生諸君に東アジア経済に関してその歴史・理論・現状分析の側面から基本的な知識を身につけてもらうことが第一の目標である。</p> <p>歴史の面では、工業化が本格化する1960年代以降の時期ばかりでなく、その前史 (植民地期や終戦から1950年代までの時期) を射程に入れた通史的な理解をする。理論の面では、東アジアの工業化を最も高く評価する新古典派開発経済学を中心に、その理論的内容と問題点について学習する。そして、現状分析の面では、東アジア各国経済の現状や国境を越えた経済協力=東アジア経済圏の形成に関する動向について、日本との関係を視野に入れながら理解を深める。</p> <p>以上の学習を通じて、アジア経済研究の重要性を受講生諸君に認識してもらうことが本講義の最終的な到達目標である。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. アジア経済論を学ぶ意義について 2. 東アジア経済の全体像：アジアの多様性、東アジアの範疇 3. 東アジア経済と経済理論 1：新古典派開発経済学 4. 東アジア経済と経済理論 2：その他の理論 5. 東アジアの経済 1：工業化の前史 6. 東アジアの経済 2：戦後経済発展過程① 7. 東アジアの経済 3：戦後経済発展過程② 8. 東アジアの経済 4：経済発展の特徴① 9. 東アジアの経済 5：経済発展の特徴② 10. アジアNIEsの経済 1：経済発展の過程とその意義 11. アジアNIEsの経済 2：用語説明 12. アジアNIEsの経済 3：経済発展の特徴① 13. アジアNIEsの経済 4：経済発展の特徴② 14. アジアNIEs各国経済の現況 15. 前期授業のまとめ 16. 東南アジア諸国の経済 1：主要各国の経済発展過程① 17. 東南アジア諸国の経済 2：主要各国の経済発展過程② 18. ASEANの歴史 1 19. ASEANの歴史 2 20. ASEANの現状 21. アジア社会主義国の経済 1：中国の改革・開放政策 22. アジア社会主義国の経済 2：その他の社会主義国経済 23. アジア通貨危機 1：危機の過程・特徴・性格・原因 24. アジア通貨危機 2：危機への対応策 25. 東アジアの地域経済協力 1：地域経済協力の歴史 26. 東アジアの地域経済協力 2：地域経済協力の現状と展望 27. 東アジア経済の現状と展望 1：現状把握 28. 東アジア経済の現状と展望 2：直面する諸問題 29. 東アジア経済と日本 30. 後期授業のまとめ
----------	--

準備学習	<p>授業の各テーマに関連する参考書の該当箇所や授業で紹介する参考文献の該当箇所について目を通しておくこと。</p> <p>また、新聞やWEBサイトのアジア経済に関する記事をよく読んでおくこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>試験およびレポートの際に自筆のノートを参照するので、授業を欠席せずにノートをよくとってもらいたい。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>前期のレポートと定期試験 (学年末) で総合的に評価する。なお、定期試験とレポートの成績比重は、前者80%、後者20%とする。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>特に定めない。</p>
----------	----------------

参考書	<p>大野健一・桜井宏二郎著『東アジアの開発経済学』有斐閣アルマ、2,000円 (税別)、ISBN 4-641-12044-7</p>
-----	---

履修コード	094801
科目名	アメリカ経済論
担当者名	瀬戸岡 紘

授業概要/到達目標 (ねらい) 知っているようで知らない現代のアメリカ経済事情を幅広くわかりやすく解説します。特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です。アメリカ経済を自力で理解していく力をつけることが目標です。

授業スケジュール 1回の講義でひとつのテーマをとりあげます。あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します。アメリカの諸大学の授業にみられる長所を可能なかぎりとり入れた授業です。
以下の項目をさしあたり準備しています。受講者の要望の強いものから講義していきます。
◇大統領の今年の経済政策、◇建国の理念と現実、◇アメリカの農業、◇アメリカの工業、◇ウェンチャービジネス、◇雇用と労働者、◇商業とサービス、◇金融、◇教育と経済、◇科学技術、◇先端産業、◇経済と環境問題、◇アメリカ社会とヴォランティア、◇女性・マイノリティ、◇ドルの地位、◇アメリカの貿易、◇軍の世界的ネットワークと経済的意義、◇海外援助、◇多国籍企業とアメリカ経済、◇アメリカとヨーロッパ連合、◇アメリカと日本、◇アメリカとアジア・太平洋、◇アメリカとカナダ・中南米、◇アメリカの経済学、など

準備学習 瀬戸岡著『アメリカ 理念と現実』（時潮社、2005年刊）の各章を予習しておくこと、そして日々のニュースに注目しておくことをお勧めします。この科目が4単位であるという意味は、週あたり4時間の学習が求められるという意味です。毎週の講義1時間半のほかに、毎週2時間半の独習が必要となります。講義には、そのような予習をしたうえで臨んでください。

履修上の留意点 この講義は、アメリカ経済の個々の現象を羅列的に述べるようなことはしません。むしろ、日々報道されているアメリカ経済の事象を、みなさんが自力で読み解く力をつけるための話に徹します。アメリカものの本には書かれていない事柄をたくさんお話することによって、みなさんが講義に出席してよかったと実感してもらえたらありがたい、と考えています。
アメリカ経済を理解することは、この国が好きであれ嫌いであれ、現代世界経済全体を理解するためのカナメです。現代の国際事情を幅広く解明したい諸君は、この科目を早めに履修して、いっそう広範かつ深い国際理解へとすすむことをお勧めします。

成績評価の方法 随時、受講者には小論を書いてもらい、それで成績評価をします。平常点重視のためえから、一発勝負の年度末試験は、受講者の強い要望がないかぎり実施しません。
平常点を重視するとは、この授業が知的関心の強い者だけを対象としておこないたいという考え方にもつづいています。したがって、随時書いてもらう小論は、知的関心の高まった学生だけが書けるように工夫されています。こうして、ただ単位がほしいだけという学生にとっては、はなはだ単位がとりにくい科目になっているのです。それゆえ、単位にガツガツしている諸君は、この科目は履修しないようお勧めします。

教科書/テキスト 最新の情報をもとに講義をすすめます。だから講義のなかでは特定の教科書は使用しません。毎回の講義では、随時よい文献などを紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体がこの講義の教科書です。ただし、瀬戸岡著『アメリカ理念と現実』（時潮社、2005年）のほかに、グリーンバーグ著・瀬戸岡訳『資本主義とアメリカの政治理念』（青木書店、1994年）瀬戸岡ほか編著『グローバル時代の貿易と投資』（桜井書店、2003年）をテキストに準ずる図書として活用するようにお勧めします。

参考書

履修コード	310201
科目名	アメリカ経済論
担当者名	瀬戸岡 紘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代のアメリカ経済事情を幅ひろくわかりやすく解説します。特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です。アメリカ経済を自力で理解していく力をつけることが目標です。
---------------------	---

授業スケジュール	1回の講義でひとつのテーマをとりあげます。あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します。アメリカの諸大学の授業にみられる長所を可能なかぎりとり入れた授業です。
----------	--

準備学習	以下の項目をさしあたり準備しています。受講者の要望の強いものから講義していきます。 ◇大統領の今年の経済政策、◇建国の理念と現実、◇アメリカの農業、◇アメリカの工業、◇ヴェンチャービジネス、◇雇用と労働者、◇商業とサービス、◇金融、◇教育と経済、◇科学技術、◇先端産業、◇経済と環境問題、◇アメリカ社会とヴォランティア、◇女性・マイノリティ、◇ドルの地位、◇アメリカの貿易、◇軍の世界的ネットワークと経済的意義、◇海外援助、◇多国籍企業とアメリカ経済、◇アメリカとヨーロッパ連合、◇アメリカと日本、◇アメリカとアジア・太平洋、◇アメリカとカナダ・中南米、◇アメリカの経済学、など
------	--

履修上の留意点	関連する事項の掲載されたテキスト、参考書などを、随時一読して授業にのぞんでください。
---------	--

成績評価の方法	随時、受講者には小論を書いてもらい、それで成績評価をします。平常点重視のためえから、一発勝負の年度末試験は、受講者の強い要望がないかぎり実施しません。
---------	---

教科書/テキスト	最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定の教科書は使用しません。講義では、随時よい文献などを紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体がこの講義の教科書ですが、どうしてもといわれれば、 瀬戸岡著『アメリカ理念と現実』(時潮社、2005年) グリーンバーグ著・瀬戸岡訳『資本主義とアメリカの政治理念』(青木書店、1994年) 瀬戸岡ほか編著『グローバル時代の貿易と投資』(桜井書店、2003年) をおすすめします。
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	095001
科目名	EU統合論
担当者名	清水 卓

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	第二次大戦後の欧州統合の歩みを追い、現在、27の加盟国、約5億の人口、アメリカを凌駕するGDP、高度の福祉社会、各国・各地域の多様な歴史と風土、経済・社会構造を有するEUの、歴史、制度、政策、現状について解説し、EUとは何か、EUはどのようにして発展してきたか、EUのような地域的共同体を東アジアで構築できるか、といった課題について、自ら調べ、客観的、体系的に理解し、それを表現できる力を身につけることを目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回～第3回 欧州統合の深化と拡大 第4回～第6回 欧州連合EUの目的・機構 第7回～第9回 共同市場・共通政策 第10回～第12回 通貨統合 第13回～第15回 ソーシャル・ヨーロッパ
----------	--

準備学習	授業で紹介する資料を読むことが重要であることはいうまでもありませんが、過去一週間の新聞からEU関連の記事を整理することも効果的事前学習となります。さらに前向きの準備は、予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席することです。そうすれば、授業内容をより深く理解できるようになります。
------	--

履修上の留意点	1年次、2年次の専門科目の学習で経済学の基礎知識および国際経済・国際金融に関する基礎的知識を有していることが望まれます。講義内容を理解するためにも、新聞・雑誌、インターネット、TV特集番組などの欧州諸国のニュース報道に関心を持ちましょう。
---------	---

成績評価の方法	学期末試験を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も勘案します。
---------	-----------------------------------

教科書/テキスト	教科書は指定しません。
----------	-------------

参考書	(1) 庄治克宏 「欧州連合—統合の論理とゆくえ」 岩波新書 (2) 藤井良広 「EUの知識」 日経文庫 (3) 田中素香 「ユーロ」 岩波新書
-----	--

その他	なし
-----	----

関連リンク	http://europa.eu/
-------	---

履修コード	310111
科目名	EU統合論
担当者名	清水 卓

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	第二次大戦後の欧州統合の歩みを追ひ、現在、27の加盟国、約5億の人口、アメリカを凌駕するGDP、高度の福祉社会、各国・各地域の多様な歴史と風土、経済・社会構造を有するEUの、歴史、制度、政策、現状について解説し、EUとは何か、EUはどのようにして発展してきたか、EUのような地域的共同体を東アジアで構築できるか、といった課題について、自ら調べ、客観的、体系的に理解し、それを表現できる力を身につけることを目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回～第3回 欧州統合の深化と拡大 第4回～第6回 欧州連合EUの目的・機構 第7回～第9回 共同市場・共通政策 第10回～第12回 通貨統合 第13回～第15回 ソーシャル・ヨーロッパ
----------	--

準備学習	授業で紹介する資料を読むことが重要であることはいまでもありませんが、過去一週間の新聞からEU関連の記事を整理することも効果的事前学習となります。さらに前向きの準備は、予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席することです。そうすれば、授業内容をより深く理解できるようになります。
------	---

履修上の留意点	1年次、2年次の専門科目の学習で経済学の基礎知識および国際経済・国際金融に関する基礎的知識を有していることが望まれます。講義内容を理解するためにも、新聞・雑誌、インターネット、TV特集番組などの欧州諸国のニュース報道に関心を持ちましょう。
---------	---

成績評価の方法	学期末試験(8割)と授業内で提出を求める課題(2割)を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も勘案します。
---------	--

教科書/テキスト	教科書は指定しません。
----------	-------------

参考書	(1) 庄治克宏 「欧州連合一統合の論理とゆくえ」 岩波新書 (2) 藤井良広 「EUの知識」 日経文庫 (3) 田中素香 「ユーロ」 岩波新書
-----	--

その他	なし
-----	----

関連リンク	http://europa.eu/
-------	---

履修コード	093841
科目名	医療経済論
担当者名	河野 敏鑑

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	医療制度に関連する問題をミクロ経済理論によって分析する。医療経済学の理論的成果を紹介するとともに、日本を中心に医療制度とその問題点について解説する。
---------------------	--

医療について経済学の視点から自分なりの考え方が持てるようになるのが本講義の到達目標である。

授業スケジュール	1 イントロダクション、健康と経済 2-7 医療・健康とミクロ経済学 8-9 日本の医療保険制度 10-11 日本の高齢者医療と介護 12 医療費の決定要因と医療サービスの経済的評価 13 医療システムの国際比較 14 健康と格差、企業と健康 15 期末試験
----------	---

準備学習	講義ではミクロ経済理論を利用する。特に必要な部分については講義の前半で復習をしながら進めるが、ミクロ経済学について基礎的な理解があることが望ましい。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	中間レポート(30%程度)と定期試験(70%程度)により評価します。出席状況は問いません。
---------	---

教科書/テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	田中滋・川淵孝一・河野敏鑑編『会社と社会を幸せにする健康経営』勁草書房 を準教科書とします。
-----	---

これ以外の参考文献については
第一回目の講義で紹介しますが、
初心者向けの書籍としては、
鈴木亘 『だまされないための年金・医療・介護入門』 東洋経済新報社 1900円+税
4-492-70123-2
より深く学びたい人向けの書籍としては、
漆博雄 『医療経済学』 東京大学出版会 4000円+税 4-13-042105-0
を推薦します。

関連リンク	http://home.e01.itscom.net/tkouno
-------	---

履修コード	104101
科目名	演習I
担当者名	浅田 進史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本演習では、ヨーロッパおよびアジア近現代経済史、ヨーロッパ・アジア経済関係史を研究します。経済のグローバル化が歴史的にどのように展開し、それがヨーロッパおよびアジアの経済・社会にどのような影響を与えてきたのでしょうか。経済史のアプローチを身につけることで、長期的な視点から、現在の経済・社会を理解することを目指します。ただし、ゼミの中心はあくまでゼミ生にあります。自らの問題関心・発想を大切にしながら、ゼミでの発表・討論に積極的に関わるようにしてください。</p> <p>演習Iでは、比較的平易な通史レベルの関連文献を取り上げながら、専門的な文章の読解・発表・討論・レポート作成といった基礎的な力を身につけることができるように指導します。</p>
授業スケジュール	<p>前期では、ゼミ受講生共通の文献を読むと同時に、それぞれの関心に応じて、ゼミ研究の準備作業を進めることが求められます。前期末に、その準備作業の成果の一端を発表してもらいます。</p> <p>後期でもひきつづき、共通の文献を選定し討論すると同時に、前期の準備作業をさらに発展させ、その成果をレポートとしてまとめて提出してもらいます。</p> <p>前期・後期とも、スケジュールの詳細についてはガイダンス時に提示します。</p>
準備学習	<p>毎回のゼミで対象となる文献をあらかじめ読んでおくことや、自分の研究テーマを計画的に進めておくこと。</p>
履修上の留意点	<p>経済史、西洋経済史、日本経済史、アジア経済論などに関する講義を合わせて履修することが望ましい。</p>
成績評価の方法	<p>平常点（ゼミ発表、討論への参加）と年度末レポートを総合的に評価します。</p>
教科書／テキスト	<p>前期・後期の初回時に指定します。</p>
参考書	<p>演習時に指示します。</p>

履修コード	103901
科目名	演習I
担当者名	姉齒 暁

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>紙面を賑わせるさまざまな社会・経済問題は、わたしたちの生活に多大な影響を与えるものでありながら、難解な言葉で語られることが多いので、実際には、それがどのように生活と関っているのかが見えにくいものでもあります。</p> <p>そこで、演習Iでは、生活実感を通して社会・経済の問題を考えていくことを体験してもらおうと同時に、「真理の探究」のために必要不可欠な「問題意識」を持てるような課題に取り組む作業を行いたいと考えています。</p> <p>皆で一緒に考えていくこと、意見を交わしていくことで、複雑な問題でも理解しやすくなるという実感は、ゼミならではの最も大切な体験になることでしょう。</p> <p>具体的には、「グローバル経済下の日本の社会生活」という大きなテーマの下、報告ならびに討論を行うつもりです。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>①通常のゼミ活動 ゼミの活動に必要なさまざまなスキルを身につける作業を行います。タイムリーな問題を扱った新書やブックレットといった安価で簡潔にまとめられた題材を利用して、レジュメの作り方から報告・討論の手法を身につけます。</p> <p>②合宿について これまで春と夏に合宿を行ってきました。今年度は、春合宿の代わりに4月以降に長時間にわたる集中的なゼミ勉強を通じて、レジュメ作成能力、討論能力を徹底して体得することにしたと思います。夏合宿についての詳細は、みなさんと相談して決めたいと思います。</p> <p>③インナー大会、ゼミ討論会等への参加 学内・学外のゼミ討論会には積極的に参加します。特に11月に行われる学内・学外ゼミとの討論会に合わせて論文作成、討論スキルの向上などに力をいれていくこととなります。そのほかに、ふれあい広場への参加などを通して、プランニング能力および実行力の向上をめざします。</p>
----------	--

準備学習	<p>経済学の基礎理論を1年の時にしっかり学んでください。とはいえ、ゼミでも基礎理論を復習しながら、現実問題を読み解く基礎を作っていくので「基礎知識が充分ではないからゼミについていけないのではないか？」などとは考えなくて大丈夫です。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>とにかく、やる気と継続性、ゼミを最優先する覚悟があればゼミに入る資格としては十分です。遅刻・欠席は厳禁です。</p> <p>ゼミは、意見交換の場であり、一人ひとりの自主的なかわりと同時に、お互いに助け合い、課題の解決に達するための努力が不可欠となります。</p> <p>また、ゼミ活動に関する作業をはじめとする集団的な行動への参加も必須です。時には、土日もゼミ活動に割かれます。アルバイトよりゼミが優先となります。</p> <p>ただ、その場に座っているだけでは、ゼミへの参加とはみなしえません。必ず毎回発言することが求められます。</p> <p>また本ゼミでは、受動喫煙から徹底して非喫煙者の健康を守ります。したがって、基本的にはゼミ生は非喫煙者を希望します。現在喫煙者であっても、ゼミ開始10分前以降からゼミ開始まで、ゼミやサブゼミの間の休憩時間中およびゼミ合宿中の喫煙は禁止いたします。</p>
---------	---

成績評価の方法	報告・討論への参加を含め、平常点で評価します。
---------	-------------------------

教科書／テキスト	最初の時間に何冊かを提示し、相談の上で決定します。ゼミの長期的な目標としては、経済学の古典を読めるような思考回路を各人が自分の脳中に立ち上げることです。
----------	--

参考書	随時紹介します。
-----	----------

履修コード	103501
科目名	演習Ⅰ
担当者名	荒木 勝啓
授業概要/ 到達目標（ねらい）	経済変動や数理ファイナンスなどのモデルをコンピュータ上でシミュレートするというテーマに向けて様々なコンピュータ技法をマスターしていく。
授業スケジュール	モデルをマルチメディア・プレゼンテーション可能にするため、全員に最低DTP（デスクトップアプリケーション）の方法を習得させる。すなわち（1）編集方法（Page Makerなど）（2）グラフィックス（Illustrator）（3）レタッチ・修正（Photoshop）を習得させる。ゼミ生は課題として、DTP検定2種試験にチャレンジする。
準備学習	必要な時に事前に指示する。
履修上の留意点	
成績評価の方法	検定試験への挑戦50と平常点50。ただし検定試験に不合格だからといってゼミが不合格ということにはならない。
教科書／テキスト	指定なし。ただし必要な場合指示する。
参考書	

履修コード	102401
科目名	演習Ⅰ
担当者名	有井 行夫
授業概要/ 到達目標（ねらい）	現代社会は、企業中心社会です。受験競争や消費競争、夫or妻の争奪競争からマイホーム獲得競争にいたるまで、競争社会の中心に実は企業への就職競争が位置しています。企業の内部もサラリーマンの出世競争・生き残り競争です。そして、最後に生き残って経営者に成り上がったサラリーマンにしても、企業自身の業績責任に不断に脅迫されて過労死寸前です。企業自身が、好況のときも不況のときも生き残り競争のただ中にあるのです。企業は、利潤のための利潤、生産のための生産をどこまでも続けていかなければなりません。日本型企业社会に構造変革を迫っている今日のグローバリゼーションも、この傾向をさらに強めるものにほかなりません。サラリーマンからも、経営者からも、株主からも独立して、自己拡大の衝動に駆りたてられて走り続ける企業。国民の豊かさには無縁の「利潤のための利潤」。地球環境や資源の制約にも無関心の「生産のための生産」。これが現代社会の最大の謎であり、21世紀前半に解決しなければならない現代社会最大の課題のありかです。
授業スケジュール	前期 有井のプリント、新聞の読み方、佐和隆光『市場主義の終焉』 夏合宿 競争主義対平等主義 後期 有井のプリント、新聞の読み方（ファイルの作成）、ドーア『誰のための会社にするか』
準備学習	原則として、まいにち、日経新聞（日経新聞）を読み続けて下さい。
履修上の留意点	最大のテキストは現代社会そのものです。新聞を読みこなす力を養います。併せて日本語を読む力、書く力、話す力を鍛えます。
成績評価の方法	ゼミへの積極的参加50%、各種レポートの評価50%
教科書／テキスト	佐和隆光『市場主義の終焉』（岩波新書）。ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』（岩波新書）。
参考書	日経新聞

履修コード	104401
科目名	演習I
担当者名	飯田 泰之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習のテーマは「日本経済への実証的アプローチ」である。近年、経済問題にとどまらずビジネス・社会・政治分野においても経済学的な思考は必須の教養になっている。そして、自身の意見を発表し、説得する（つまりは「自分がわかっている」ことを人に伝え、他の人を「納得させる」）際には十分な実証的根拠を示し、聞き手を考慮した発表を行うことが必要とされる。本演習は「経済理論の理解」「統計を用いた証拠づけ」「プレゼンテーション能力」の3つを柱に、「使える経済学」を身につけることを目標とした。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済学以外の本を使ってのレジュメ作成・発表演習 ・Word、Excelの基本操作に関する講義 ・経済の基本書を使ってそれまでのゼミの内容を生かした発表 <p>夏期合宿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディベート大会 <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットを利用した情報収集の講習と統計の基礎知識 ・金融政策・産業政策・産業組織・金融工学のいずれかの本を輪読 ・卒論報告会
----------	--

準備学習	「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「経済政策」「統計原論」「企業経済学のa、b」等関連科目をあわせて履修することが望ましい。
------	---

履修上の留意点	連絡のため駒澤大学総合情報センターのアカウントを取得しておくこと。
---------	-----------------------------------

成績評価の方法	出席を中心に、発表内容・発言・ゼミへの貢献から判断する。
---------	------------------------------

教科書／テキスト	教科書は開講時に協議する。
----------	---------------

参考書	テキストのみにこだわらずゼミ生の興味に沿った論文を取り上げていく。
-----	-----------------------------------

その他	経済学やパソコンの利用など基本知識のレベルには受講生ごとにばらつきがあると思うが、皆の希望を聞いた上で補充したいと思う。
-----	--

履修コード	104601
科目名	演習I
担当者名	石川 純治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ゼミのモットー＝「常識や通念、風潮にとらわれない」力をつちかう。社会経済における「生きた会計」を学習する。少人数教育を最大限いかすゼミ教育を行う（10名以内）。
---------------------	--

授業スケジュール	会計を真に理解するには、まずもってその基礎にある社会経済に関する学習が大切。したがって、会計学の勉強とともに、社会経済に関する時事の勉強を行なう。
----------	---

準備学習	新書版などの必読書を指示。
------	---------------

履修上の留意点	特にないが、ゼミでは単に「本のなかの会計」を学ぶのではなく、「生きた会計」を学ぶことに力点がある。それを通して世の中の社会経済問題を読み解く力をつちかう。
---------	---

成績評価の方法	出席・合宿・レポートなどゼミ活動の総合評価。
---------	------------------------

教科書／テキスト	新聞・雑誌の記事・コラム、会計学の初級・標準レベルの教材。
----------	-------------------------------

参考書	コンパクトな新書版など、必要に応じて指示。
-----	-----------------------

その他	私のプロフィールなどは、私のホームページ参照（下記のリンクをクリック）。なお、放送大学（テレビ）「社会のなかの会計」でも担当講義（第1回～第12回）しています。
-----	--

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~ishikawa/profile.htm
-------	---

履修コード	101801
科目名	演習I
担当者名	石川 祐二
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	企業においては、会計情報が様々な目的を持って利用されている。その情報を生み出すための仕組みは、どのような構造をもっているのだろうか。その構造を探り、それが社会の多様な関係の中で果たす役割を研究する。そのことによって、社会現象を分析する視点の獲得を目指す。特に、演習Iでは、そのような分析視点を確立するために、基本的なスキルと知識を身につけることが目標となる。
授業スケジュール	演習Iでは、会計に関する基礎知識を身につけることを目的としている。特に、会計に関わる現象を捉える上で不可欠な、基礎的な用語・概念を中心に取り扱う。基本的には、プリントを中心にディスカッションを行いたい。
準備学習	事前に配布したプリントを必ず読んでから演習に臨むこと。
履修上の留意点	積極的に参加すること。また、ゼミ生が相互に協力しあい、楽しいゼミ運営を行ってもらいたい。また、4年次には「卒業研究」を開設する予定である。
成績評価の方法	特に演習時の報告・発言を重視するが、その他ゼミ活動への貢献も含め、総合的に評価する。
教科書／テキスト	特になし。
参考書	必要に応じて紹介する。
その他	合宿その他のイベント等については、話し合いで決定する。

履修コード	102101
科目名	演習I
担当者名	岩波 文孝
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	2008年リーマンショック以降、企業をめぐるビジネス環境は複雑・多様化するとともに、企業不祥事の続出、経営不振・経営破綻、敵対的買収、機関投資家・投資ファンドの不祥事など経営システムの改革が企業経営に求められています。また、2011年3月の震災以降、日本企業は、我々市民が安心して生活できるような企業経営を求められるようになっています。演習では、現代企業におけるトップ・マネジメントの構造と機能の理解を中核として、企業経営の仕組みや社会とコーポレート・パワーとの連関を理解していくとともに、企業経営に関する興味・関心を深め、企業と社会との関係、企業の社会的責任 (CSR) を踏まえた経営システムの構築にむけた課題について考えていきます。
授業スケジュール	企業経営に関わる基礎的な文献を用いて輪読形式によりグループによるレジュメ報告を中心に討論を行います。夏期・春期に行うゼミ合宿では、現代の企業経営が直面する諸問題について、討論していきます。 1. ゼミナールの概要とガイダンス (1) 2. 株式会社の仕組み (2~5) 3. 株式所有と会社支配 (6~7) 4. トップ・マネジメントの組織と機能 (8~12) 5. 企業の社会的責任 (CSR) の現状 (13~18) 6. 企業とステークホルダー (19~25) 7. 企業と社会のあり方 (26~30)
準備学習	企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集をしてください。
履修上の留意点	ゼミナールは受講生の主体的な学びの姿勢にもとづいて運営されます。専門の学習に向けて自らの課題を発見することや積極的な学習スタイルが求められます。受講の際には企業経営に関する興味・関心を持ちゼミナールに参加してもらいたい。
成績評価の方法	ゼミ課題の発表内容、積極的な討論への参加などの平常点による総合評価を行います。
教科書／テキスト	開講時に指定します。
参考書	開講時に指定します。
その他	演習III履修時には「卒業研究」(4単位)を併設します。

履修コード	102201
科目名	演習I
担当者名	大石 雄爾

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>現在、日本の経済構造は大きく変化しつつあります。この変化は、1970年代の国際通貨制度の崩壊、石油危機などとともに始まり、バブル経済とその崩壊および近年の金融恐慌を経て今日に至っています。この演習では、資本主義の経済理論を学びながら、現代資本主義の諸問題について考えます。とくに、バブル経済がなぜ起こり崩壊したか、その原因を考えながら今日の日本経済の特質について学んでいきます。</p> <p>演習Iでは、現代資本主義の経済構造を理解する上で必要な基礎知識の習得に努めます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>今年度は、そのために、角田修一著『概説 社会経済学』をテキストとして用い、資本主義経済の理論と現実の理解に努めます。主な内容は次のようになっています。</p> <p>序 経済学とは何か？</p> <p>1 労働を基礎とする経済と社会</p> <p>2 必要と剰余</p> <p>3 資本制経済</p> <p>4 商品生産と労働</p> <p>5 商品交換と貨幣</p> <p>6 賃金労働</p> <p>7 剰余価値の生産</p> <p>8 資本蓄積と雇用</p> <p>9 資本の循環と回転する資本</p> <p>10 再生産表式</p> <p>11 利潤率</p> <p>12 商業資本</p> <p>13 利子生み資本と信用制度</p> <p>14 地代と近代的土地所有</p> <p>15 資本制経済の総括</p>
----------	--

準備学習	授業が始まるまでに、テキストの「序章 経済学とは何か？」を読んでおくことが望ましい。
履修上の留意点	欠席・遅刻をしないこと。演習Iの履修者は、原則として演習II・演習IIIを履修し、4年次に「卒業論文」を作成します。
成績評価の方法	平常点により評価します。
教科書／テキスト	角田修一著『概説 社会経済学』（文理閣）2,700円＋税
参考書	大石雄爾著『商品の価値と価格』（創風社）3,600円＋税
その他	<p>①「卒業研究」を併設します。</p> <p>②演習IIでは、選択科目「ビジネス・インターンシップ」を履修することができます。</p> <p>③コース制との関連：コースの履修は自由です。</p>

履修コード	105201
科目名	演習I
担当者名	大島 久幸

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本演習では、近現代日本の経済史・経営史に関する研究を行う。演習Iでは、その入門編として比較的初学者にも取り組みやすい通史や概説書を読み、基本的な事実関係や先行研究について理解することから始める。文献輪読と並行して、ゼミの共同研究にも着手する。テーマは受講生の話し合いで決め、学生主体で調査、発表、論文化する力を養っていきたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(1)前期ガイダンス、(2)～(14)文献輪読およびゼミ研究の基礎的作業、(15)ゼミ研究中間報告、(16)後期ガイダンス、(17)～(29)文献輪読およびゼミ研究の応用的作業、(30)ゼミ研究最終報告</p> <p>*詳細については、前期および後期のガイダンス時に知らせる。</p>
----------	---

準備学習	前期・後期とも、所定のスケジュールにしたがって各自で進めておくこと。
履修上の留意点	<p>授業時間だけでなく、合宿、コンパ、他大学とのインターゼミなどを含めたゼミ活動全般への積極的な参加が求められる。アルバイトやサークル活動との調整がつけられない人は受講を遠慮されたい。ゼミ活動の詳細については、1年次の秋に説明会を開催するので、受講希望者は必ず出席すること。</p>
成績評価の方法	演習へ取り組む姿勢を総合的に評価した平常点。
教科書／テキスト	開講時に受講生と相談のうえ指定する。
参考書	授業の中で、その都度紹介する。
その他	<p>演習IIでは、「インターンシップb」を併設する。</p> <p>演習IIIでは、「卒業研究」を併設する。</p>

履修コード	101601
科目名	演習Ⅰ
担当者名	大吹 勝男
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代の格差社会と貧困、及び社会保障について学習します。ゼミの仲間と一緒に勉強し、考えていきましょう。そして卒業時には、単なる知識の習得だけでなく、それを生かすことのできる科学的な思考能力を身につけた人間になっていることを期待します。
授業スケジュール	社会保障及び社会福祉等々に関する論争は、我々人間が生きてゆく上での重い課題を背負っている。故にテキストに拠る学習だけではなく、上記に関連する毎日のニュースを知らなければならぬ。本ゼミでは毎回、新聞・雑誌記事によってそれを補う。
準備学習	テキストを読んでおくこと。
履修上の留意点	ゼミでは、当然のことながら欠席や遅刻はゆるされません。
成績評価の方法	平常点によるが、年に2回～3回のテキスト以外の読書感想文の提出を求めます。あとは諸君の勉強次第です。
教科書/テキスト	未定
参考書	
その他	〈卒業研究の有無〉 ゼミ論は4年次に必ず提出しなければなりません。「卒業研究」は、義務ではないが、4年次の演習で開講します。自分自身の力をつけるために、提出することを要望します。

履修コード	103801
科目名	演習Ⅰ
担当者名	小栗 崇資
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本の企業会計制度は、現在、大きな転換期にさしかかっており、会計ビッグバンを経て国際会計基準への統合へと突き進んでいます。計算構造の面でもディスクロージャーの面でもこれまでの財務会計の枠組みや原理・方法は大きく変容しつつあるといえます。会計の学習者にとっては、従来のような勉強だけでは変化についていくことができないので大変ですが、発想を変えれば、現代社会のなかでの会計の役割や仕組みを研究するチャンスと考えられます。演習では、「グローバル化する日本の企業会計制度」をテーマに学習を進めたいと思います。
授業スケジュール	演習Ⅰでは、まず企業会計の基礎原理を理解することに重点を置き、企業会計の従来の考え方と新しい考え方を比較しながら、現代の財務会計の理論や方法を学習する予定です。そうした中で、国際会計基準のいくつかを取り上げ、その内容を深く検討してみたいと思います。演習は皆さんに報告をしてもらい、ディスカッションする方式で行います。資格勉強のように暗記するのではなく、「なぜそうなのか」「どうしてこうなるのか」という問題意識をぶつけあって研究することをこの演習ではめざします。
準備学習	指示に従い、事前の準備をしておくこと。
履修上の留意点	ゼミでは皆さんに積極的に発言したり質問したりすることを求めます。毎回、司会者や報告者、質問者などの役割を分担して進める予定ですので、必ず出席してください。ゼミの運営や行事にも意欲的に取り組む学生を希望します。なお「卒業研究」も開講する予定です。
成績評価の方法	総合的に判断します。①出席状況、②報告内容、③レポート、④ゼミ運営への貢献度。
教科書/テキスト	演習の中で指示します。
参考書	演習の中で指示します。

履修コード	104301
科目名	演習I
担当者名	北口 りえ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>税務会計は、法人税法における課税所得計算に関する学問です。法人の所得に対して課される法人税は、企業にとって避けられないものであり、企業行動を左右する重要な要素のひとつとなっています。本演習は、法人税における課税所得が企業利益をベースとしてどのように算出されるのか、その課税所得の計算構造に関する理解を深めることを目的とします。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>演習I・IIでは、企業会計を基礎として課税所得および税額を計算し、申告・納税するという企業会計と税務の一連の手続きについて、なぜそのような処理を行うのかという理論的部分を重視しながら学んでいきます。</p> <p>課税所得は企業利益に調整を加えて算出されるものであるため、演習Iでは、税務会計についての理解を深める前段階として、まず企業会計についての基礎知識—企業会計の基本原則や会計制度の構造について習得します。</p> <p>基本的には、テキストの1つのテーマに対してレジュメを作成し報告してもらい、ディスカッションするという方法で進めていきます。レジュメは単にテキストをまとめるだけでなく、疑問を持った点や深く掘り下げてみたい点などを追求したものを作成するよう心がけてください。また、報告者はプレゼンテーションにおいても棒読みではなく、的確に相手に理解してもらえよう工夫してもらいたいと思います。</p>
----------	--

準備学習	会計学の基礎知識 (簿記3級程度)
------	-------------------

履修上の留意点	ゼミ内で意欲的に発言し、ゼミの運営や行事(合宿、ゼミナール連合会での研究発表会、証券取引所見学や裁判所見学など)にも積極的に参加してください。
---------	---

成績評価の方法	出席率、報告内容、ゼミやゼミの運営への参加度、レポート等の総合評価により行います。理由のない遅刻や無断欠席は大きな減点としますので、注意してください。
---------	---

教科書/テキスト	未定(最初の演習の際に指示します)。 その他、適宜プリントを配布します。
----------	---

参考書	伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門』(日本経済新聞出版社) 柳裕治『税務会計論』(創成社)
-----	---

履修コード	104001
科目名	演習I
担当者名	小杉 修二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>大学の授業には演習と講義があります。講義はいわば先生が中心にしゃべり、結論を出していきます。これに対して、ゼミ(演習)は学生が自分たちで問題を確かめ、事実と論理を確認し、結論へとたどり着くようにします。その意味では、皆さんが中心になって進めていきます。変化の激しい近頃の社会では学んだことが古くなるスピードも速くなりつつあります。覚えたことは古くなったら使えなくなるものもあるでしょう。でも、大丈夫です。新しい状況について、また勉強すればよいのです。でも勉強をしたことがない人は勉強ができません。大学では特定の事柄について勉強しますが、同時にそれを通じて勉強の仕方を勉強しましょう。その勉強の仕方の中で、自分で調べたり、討論したり、人の意見を聞いたりしながら、知識を深め、根拠を確かめ、結論を出すといったトレーニングをし、また、相手に理解してもらおう発表に熟達するトレーニングをするのがゼミです。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>このゼミでは地球環境問題の中の「地球温暖化問題」を考えます。近年の猛暑が騒がれていますが、これも年間平均にすると、平年に対して1度程度の昇温に過ぎません。国連の機関であるIPCCによれば、今世紀末には地球全体が1.8-4.0度の気温上昇を見るだろうとされています。文明(農業)が生まれたのが1万年前とされていますが、この1万年というのは、地球の平均気温は15度近辺で安定していました。時々起きる変動の幅もプラスマイナス1度程度でした。つまり、今予想されている気候の変動は「文明の未体験ゾーン」なのです。温暖化の害悪はさまざまありますが、海面上昇や雨の降り方の変化、農地の乾燥化、熱帯の病気・害虫の北上などが言われています。映画にも取り上げられた「温暖化が地球の寒冷化をもたらす」という逆転現象も決して「冗談」ではない現実性をもったものです。原因の主たるものは石炭・石油・天然ガスの燃焼に伴う炭酸ガスが太陽からの熱を閉じ込めて宇宙空間に逃げにくくするからです。しかも厄介なことに、暑くなるとますます暑くなるというメカニズムが地球にはあります。例えばシベリヤの永久凍土層にはメタンが閉じ込められていますが、暑くなればこれらが溶け出していきます。メタンガスは炭酸ガスの20倍の温暖化効果があります。こうした加速要因は23ほど見つかっていますが、そのほとんどがプラスの加速要因です。「サプライズ」とも言われる急激で過激な気候変動の可能性も排除はできません。温暖化問題は近代文明・経済活動を支える化石燃料が主たる原因となっており、その対策は経済活動にも大きな影響をもたらすし、経済活動のあり方や文明のあり方にも変更を迫ることになる可能性もあります。その対策をする時に必ず「利害」が絡みます。この利害関係を合理的に制御するのが経済学の課題です。こういった問題を勉強するのがこのゼミです。通常の授業とならんで年2回の「ゼミ合宿」では集中的に1冊の本を勉強します。ゼミ生同士の親睦を図るため、いくつかのイベントも用意しています。また、ゼミでは新聞記事の読み方も練習しますので、普段から新聞その他に目を通すようにしましょう。</p>
----------	--

- 第1-5週： テキスト第1章第1-3節
- 第6-10週： テキスト第1章第4-5節
- 第11-15週： テキスト第2章第1-6節
- 第16-24週： テキスト第2章第7-9節、第3章第1-3節
- 第25-30週： テキスト第3章第4-12節

ゼミでは新聞の切抜きを配布して、皆さんの自主的な情報収集の一助としています。

準備学習	日ごろより温暖化関係のテレビ番組、新聞記事等に目を通すこと。
履修上の留意点	出席の悪い人は単位を認定できません。
成績評価の方法	出席状況とゼミへの参加の積極性・発言を総合して判定する。
教科書/テキスト	『よくわかる地球温暖化問題』(中央法規社)
参考書	小宮山宏『地球温暖化問題に答える』(東大出版会)、『IPCC地球温暖化第4次レポート』(中央法規社)
その他	<卒業研究の有無> あり。4年次に履修(別に4単位が与えられる)。

履修コード	101411
科目名	演習I
担当者名	小西 宏美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「多国籍企業、多国籍金融機関とカジノ資本主義」をテーマとしています。「カジノ資本主義」とは何か、多国籍企業、多国籍金融機関の活動がいかに経済を「カジノ化」してきたのか、「カジノ資本主義」は我々の生活をどのように変えてきたのか、について研究します。
授業スケジュール	国際経済、国際金融関係のテキストを使ってレジュメの作成や報告、討論を行います。また学内/学外のゼミ連に参加します。
準備学習	毎回、テキストの該当箇所を読んでおくこと。 報告にあたっている場合はレジュメを用意すること。
履修上の留意点	演習は、皆さんが主体的に参加してはじめて成立する学習の場です。責任感と自覚をもって臨みましょう。
成績評価の方法	出席、報告、討論、係の仕事で評価します。
教科書/テキスト	最初の授業時に指定します。
参考書	

履修コード	102701
科目名	演習I
担当者名	小林 正人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	テーマは「景気循環と雇用・貧困」。 2008年リーマン・ショックは世界経済を深い不況にまきこみ、世界中に非自発的失業者や低賃金労働者を増やしました。日本経済は、米国流の金融投機へのかわりは浅かったにもかかわらず、その後の円高によって低迷し、それまでの非正規労働者の増加や財政赤字による内需不振、中国経済の成長などの影響もあり、産業空洞化と雇用劣化に向かいつつあります。それはまた米 国や日本の格差や貧困の問題を浮かび上がらせました。 そこで、このゼミでは、景気循環の理論や歴史、リーマン・ショックの背景、失業者が大量に生み出される理由、派遣労働やワーキング・プアの実情、「景気対策」の限界などについて考えていくことにします。
授業スケジュール	雇用、失業や、貧困、格差について考えることと平行して、景気循環の理論や歴史について学んでいきます。 前期は入門的な文献(複数冊)や新聞記事などについて議論をしながら、同時に文献資料の読み方、議論の進め方、論点の出し方、発表資料(レジュメ)の構成、発表の仕方などを学びます。後期はより専門的な文献(複数冊)を選んで議論しながら、グループに分かれて共同研究やプレゼンテーションに取り組み、自主的な調査や討論の方法について学びます。
準備学習	ゼミで議論する文献については全員があらかじめ熟読し、必要な事項を調査し、論点や疑問点、自分の感想や意見をまとめておくこと。
履修上の留意点	ゼミの中心は、ゼミ生が作成する発表資料と、ゼミ生どうしの討論や学び合いです。ゼミ生は、発表資料を作成するために、パソコンのワープロソフトを使えることが必要です。 ゼミで議論する文献はゼミ生と相談して決めますが、決まったら各自が購入する必要があります。
成績評価の方法	作成した発表資料、ふだんの調査や発表、出席状況を総合して評価。無断欠席は厳禁。
教科書/テキスト	前期中の入門書、後期の専門書などをゼミ生と相談して決めます。
参考書	下記の本は入門書の候補です。 1. 浜 矩子『グローバル恐慌—金融暴走時代の果てに』岩波書店、2009年。 2. NHKスペシャル「ワーキングプア」取材班編 『ワーキングプア—日本を蝕む病』ポプラ社、2007年。 3. NHK取材班『マネー資本主義—暴走から崩壊への真相』NHK出版、2009年。 4. 堤 未果『ルポ貧困大国アメリカ!!』岩波書店、2010年。 5. 山家紀夫(やんべ ゆきお)『景気とは何だろうか』岩波書店、2005年。
その他	2011年度の前期には『誘拐』という経済小説を輪読したり、NHK番組「マネー資本主義」を視聴したりしてリアルな理解を追求しました。
関連リンク	演習IIIに併設される「卒業研究」は「卒業論文」だけです。 http://www.komazawa-u.ac.jp/~kobamasa/

履修コード	102601
科目名	演習Ⅰ
担当者名	清水 卓

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	このゼミは、現在のヨーロッパ経済や社会の研究を中心としたゼミです。とはいっても、ヨーロッパは多数の国や地域からなる大きくて懐の深い社会ですから、ゼミ参加者の問題関心も毎年実に様々で、中東欧諸国の加盟、欧州連合（EU）の統一通貨ユーロ、北欧諸国の福祉社会、その他、教育、環境、食料、文化など各国国民の日常生活に及んでいます。3年間をかけて、現代の経済社会を見る目を、基礎から徐々にレベルアップしていけるように運営しています。卒業時点で自分の得意分野でしっかりと自分の考えを表現できるようになることを目指します。担当教員は、様々な最新情報や、資料の所在、文献の紹介などを行います。ゼミの中心は参加者学生との自由な議論です。参加者の色々な個性が触れ合って、学びの楽しさを実感できる場としたいと思います。演習Ⅰでは、専門分野の本をしっかりと読みこなすことができるよう重点的に指導します。
授業スケジュール	演習Ⅰでは、ディベートとEUに関する基礎知識修得を課題とします。見学（裁判所、TBS、製鉄所、東京の街散歩）などの行事、春と夏には、合宿をやります。
準備学習	EUに関する新聞等の記事のスクラップ・ブックの作成を課します。
履修上の留意点	色々なことに挑戦しようというものがゼミの基本姿勢です。このように書く遊びの方を期待するかもしれませんが、けじめをつけて、何事につけ前向き真剣に取り組もうとする姿勢が大切です。さらに、基礎的学力を充実させるため、ゼミ生には漢字検定の資格、英検、TOEFL、TOEICに挑戦するように勧めています。
成績評価の方法	平常授業や合宿への参加や、研究発表への取組を評価して成績を決めます。
教科書／テキスト	参加者の意向を聞き取った上で決定します。
参考書	授業で紹介します。
その他	「卒業研究」は3年次に併設されています。

履修コード	101701
科目名	演習Ⅰ
担当者名	代田 純

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	金融や証券市場に関する基礎を習得すること。
授業スケジュール	2年生の前半は、金融に関する基本を理解することを目指す。後半には、証券市場の現状理解へと進む。また毎年、2年生の後半には、日経ストックリーグへ参加している。
準備学習	テキストで予習すること。
履修上の留意点	欠席しないこと。
成績評価の方法	発表など平常点で評価する。レポートやテストはない。
教科書／テキスト	代田 純、『新版 図説 やさしい金融財政』、丸善、定価1800円＋税、ISBN978-4-621-08214-0 二上・代田編、『証券市場論』、有斐閣 ISBN978-4-641-18393-3
参考書	代田 純編、『金融危機と証券市場の再生』、同文館
その他	日本経済新聞、朝日新聞、その他を使用する。

履修コード	101501
科目名	演習Ⅰ
担当者名	鈴木 伸枝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	公共経済学のゼミです。講義よりも専門的なことを学ぶとともに、自ら問題を発見する能力を身につけることを目標とします。年金・医療・介護保険・環境・失業の諸トピックについて、「どう いう問題があって、何を為すべきか」を自分なりの意見をもてるようにしましょう。
授業スケジュール	2年生のうち、公共経済学の理論の基礎となるミクロ経済学・ゲーム理論のテキストを輪読 します。毎回、輪読の報告担当者にはレジュメを用意してもらいます。 必要に応じてコンピュータを使った文書作成やインターネットでの情報検索についても指導し ます。
準備学習	報告者は最低でも2週間かけて準備してください。
履修上の留意点	ゼミは勉強の場だけでなく、人前で自分の意見を言えるよう訓練したり、同じゼミの仲間と協力 して何かを達成することを通じて人間的に成長する場でもあります。引っ込み思案にならず、常に 積極的な態度で参加してください。
成績評価の方法	出席状況・予習状況・討論への参加度により評価します。
教科書／テキスト	梶井厚志・松井彰彦（2000年）『ミクロ経済学戦略的アプローチ』日本評論社
参考書	

履修コード	102801
科目名	演習I
担当者名	瀬戸岡 紘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「グローバル化」と「デジタル化」の時代に即応した社会、経済、経営などにかんする学習と研究の基礎的能力をやしなうこと。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>アメリカの大学（なかでも名門シカゴ大学）の演習の方式を採用して、「基礎はしっかり、研究は自由に」のスローガンのもと、活気あるゼミ活動をしています。何を研究・学習の対象とするかは、受講生の希望によりかなり幅広くみとめているのが当ゼミの特徴。</p> <p>最初の2ヶ月は、スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートのしかた、レジュメ、小論、論文の書きかた、本のさがしかた、読みかた、資料のあつかいかたの習得が主になります。その後は、グローバル時代の世界経済の特質と諸問題、および日本経済の特質とその歴史的背景など、自主的研究としてどんなテーマをとりあげるはあいでも最小限知っておくべきことについて、共同で学習し、討論します。しばしば英語の文献も使用します。</p> <p>その他、上級生によるパソコン教室、英語圏から当ゼミにきた留学生による英会話教室、上級生と少人数グループで一緒に学習・研究をするサブゼミの活動、他大学の学生と交流できる日本学生経済ゼミナールへの参加、アメリカの学生とのインターネットによる交流とテレビ会議システムをつかった遠隔討論会、工場見学・企業訪問など多彩なイベントが用意されています。</p>
----------	---

準備学習	随時、説明します。
------	-----------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	ゼミ活動にたいする各自のあらゆる態度を総合して評価します。最大の眼目は、本人のやる気です。
---------	---

教科書/テキスト	随時、有益な文献を紹介します。
----------	-----------------

参考書	随時、有益な文献を紹介します。
-----	-----------------

その他	<p>当ゼミは、2008年には『代ゼミジャーナル』で、2003年には『世界週報』で、それぞれ全国に、1994年にはCNNテレビで世界120カ国に紹介されました。</p> <p>当ゼミにかんする一層くわしい情報は、ゼミに直接きて見学したり問い合わせたりするほか、下記のホームページ（ゼミ生制作）にアクセスしてください。</p> <p>http://setookazemi.xxxxxxxx.jp/</p>
-----	---

履修コード	103601
科目名	演習I
担当者名	曾我 信孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	2年生のゼミでは、マーケティングの基礎理論を理解しながら学習姿勢と発表力を身に付けることを目標にする。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>1～2回 学習方法、調査方法、発表方法などを指導。</p> <p>3～7回 製品政策に関する問題を課題としてプレゼンテーションをする。</p> <p>8～12回 価格政策に関する問題を課題としてプレゼンテーションをする。</p> <p>13～15回 製品、価格政策に関するディベートをする。</p> <p>夏合宿 マーケティングに関する時事問題を取り上げ、ディベートをする。</p> <p>16～20回 チャネル政策に関する問題を課題としてプレゼンテーションをする。</p> <p>21～25回 販売促進政策に関する問題を課題としてプレゼンテーションをする。</p> <p>26～29回 ディベート大会に向けての学習指導。</p> <p>ゼミ合同ディベート大会</p> <p>30回 ディベート大会反省会</p>
----------	---

準備学習	研究課題が出されたときは、決められたグループで十分下調べをし、全員が発表できる準備をしておくこと。
------	---

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の最初に班分けをし、平常の授業は班単位で学習・研究発表をしてもらいます。予備学習などで班の構成員に迷惑をかけないよう積極的に取り組んでください。 ・出席を重視するが、特に夏合宿、12月のディベート大会は必ず出席をもらいたい。
---------	--

成績評価の方法	平常点（・日常の学習態度60%、・合宿の出席と学習態度20%、・ディベート大会の出席と学習態度20%）で評価する。
---------	---

教科書/テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

関連リンク	http://geocities.yahoo.co.jp/gl/nobusoga
-------	---

履修コード	101421
科目名	演習I
担当者名	館 健太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>人々のかけひきを分析するための道具である「ゲーム理論」について学習し、これを使ってさまざまな社会現象を自分の言葉で説明できるようになることをめざす。ゲーム理論は、スポーツやカードゲームの必勝法の研究というよりも、私たちの日常生活や社会のなかで起きるさまざまなかけひきをゲームとみなし、それらをいくつかのパターンに整理して結果を予想するための学問で、その応用分野はとても広い。情報通信や交通手段の発達などによってネットワーク化されている今日の経済では、人々のつながりに関する理解を深めることの重要性はますます高まっている。</p> <p>本演習では主に産業組織論、すなわち企業の投資、生産、販売などを通じた競争戦略や他の企業との戦略的提携など、それぞれの産業における企業間の競争と協力について扱う。また、補助金や規制などを通じて市場への介入を行う政府の産業政策・競争政策についても考える。例えば、家電産業や情報通信産業ではしばしば製品間の互換性が重要になるが、そのときに企業はどんな戦略をとるべきだろうか。政府は何か政策を打ち出すべきだろうか。ゲーム理論という共通の土台の上で議論できるようになることを目指す。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	最初のうちは講義形式の説明と輪読形式の発表の両方を使ってゲーム理論そのものの学習を中心に勧める。その後、ゲーム理論の学習と並行してグループや個人で実際の産業や行政について調べ、そこからゲームを作って分析するなどより実践的な研究へと展開する。
----------	--

準備学習	(1) 産業界のニュースに関心を持っておくこと、(2) 教科書の該当部分を授業前に読んでおくこと。
------	---

履修上の留意点	自分自身で社会の中にあるかけひきを表現するためにオリジナル・ゲーム(といってもプログラムではない)を創作し、発表してもらうなど、発想やアイデア、表現力を養うことを重視する。
---------	--

成績評価の方法	出欠状況、演習活動への貢献や発表などの平常点、授業内試験で評価する。
---------	------------------------------------

教科書/テキスト	天谷研一『図解で学ぶゲーム理論入門』、日本能率協会マネジメントセンター、1575円、ISBN978-4820747185
----------	--

参考書	友野典男、『行動経済学—経済は「感情」で動いている』、光文社(光文社新書)、998円、ISBN:978-4334033545 その他については、授業中に関連する文献を紹介する。
-----	---

履修コード	104801
科目名	演習I
担当者名	鄭 章淵

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>この授業では、アジア経済(東アジア経済)に関する基礎的文献をゼミ生諸君(演習I履修者)による輪読方式で講読する。「東アジアの奇跡」(世界銀行)と称された経済発展のダイナミズム(経済発展の要因や特徴)を解明するとともに、経済発展が生み出した諸矛盾を視野に入れた東アジア経済(東アジア資本主義)の発展像について学習する。</p> <p>(到達目標)</p> <p>この授業の主たる目的は、ゼミ生諸君に第二次世界大戦後の東アジア経済の発展過程について基礎的な知識を身につけてもらうことである。その際、「東アジア」(東北アジアと東南アジアを合わせた地域)という地理的範疇の重要性に注目し、そこに所属する各国経済の発展過程と相互連関性について理解を深める。最終的な到達目標は、ゼミ生諸君に東アジア諸国が日本の経済的パートナーとして不可欠な存在となっている事実を認識してもらい、今後両者の関係がどうあるべきかを考えるきっかけをつくることである。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	東アジア経済に関する基礎知識を身につけるため、下記の文献(教科書)を輪読する。具体的には、あらかじめ報告分担(2名)を決め、報告者には各自が作成したレジュメ(文献内容をまとめたもの)に基づいて報告してもらう。そして、残りの時間は全員で質疑応答を行う。また、適宜、アジア経済に関する新聞記事やWEBサイト資料について学習する機会を設ける。夏季休暇中には、ゼミ合宿(演習IIとの合同合宿)を実施する。そこでは別の文献を取り上げて講読し、ビデオ鑑賞なども行う。後期には、演習の特別企画として課外活動(日本の中のアジア探訪)を実施する予定である。
----------	---

準備学習	報告者はもちろんのこと、報告者以外の諸君もあらかじめ該当箇所を精読し、質問や意見を準備しておくこと。また、アジア経済に関する新聞記事やWEBサイト資料を常日頃から読むようにすること。
------	---

履修上の留意点	演習(ゼミ)という少数科目は、何よりもゼミ生諸君一人ひとりが主人公となるべき科目である。授業には休まず出席し、積極的に発言することを心掛けてもらいたい。
---------	--

成績評価の方法	レポート回数、授業での積極性、合宿への参加状況などを加味して総合的に判定する。
---------	---

教科書/テキスト	大野健一・桜井宏二郎著『東アジアの開発経済学』(有斐閣アルマ)2,000円+税、ISBN4-641-12044-7
----------	---

参考書	参考書については、授業の中でそのつど紹介する。
-----	-------------------------

その他	4年次に「卒業研究」を併設する。
-----	------------------

履修コード	103101
科目名	演習I
担当者名	徳永 俊明

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) いわゆる「南北問題」は今人類が直面している最大の問題の一つです。このゼミでは、発展途上諸国＝アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国の国際関係と、その中での人びとの生活の現状を勉強します。 (到達目標) 発展途上諸国やそこで暮らす人びとの状態をただ知って終わるのではなく、そのような状態を「鏡」にして、日本、日本人そして私たち一人ひとりの状態を見直し、考えてみる事が大切です。
---------------------	--

授業スケジュール	上記の趣旨に沿って、学生諸君と相談しながら進めます。
準備学習	普段から人類・私たちの状態について関心を持ち、自分の頭で考える習慣を作ることが求められます。
履修上の留意点	何よりも「考える」努力を求めます。
成績評価の方法	まずは出席、そして考える努力、発言する努力の3点から評価します。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	104701
科目名	演習I
担当者名	友松 憲彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経済史の基礎を学びます。現在、日本や世界にはさまざまな「経済問題」がありますが、これらはすべて過去の遺産を背負っており、歴史をもっています。経済史は「経済問題」の歴史を研究する学問ですが、それは必ずしも過去だけに興味を向けるということではありません。過去の経済を学ぶことで現在の経済の理解を深め、その問題点を明らかにすることは、今後の社会や経済のあり方を考えることにつながります。経済学の基礎知識を習得しながら、経済史という学問の課題と方法を理解します。
---------------------	---

授業スケジュール	2年次から3年間の継続履修を原則とします。 2年次はテキストを輪読しながら、経済学や経済史の初歩的な概念や理論を説明し、近代社会の経済システムがどのように誕生し発展してきたのか、経済史の基礎を学びます。 3年次は、特定のテーマを決めて全員で本を講読し報告と討論を行います。 4年次は、自分でテーマを決めて卒業研究をまとめます。 また、ゼミでは大学や社会で必ず必要とされる資料や文献の探し方、本や資料の読み方、レジュメやレポートの書き方、発表や討論の仕方などを習得します。
準備学習	レポーターはレジュメを作成し、他の者はテキストの該当箇所を予習し疑問点を明らかにしておく。
履修上の留意点	「経済史」「西洋経済史」「日本経済史」「商業史」等をあわせて履修することが望ましい。
成績評価の方法	平常点（ゼミに取り組む姿勢、報告、発表、討論）と年度末レポートを総合して評価します。
教科書／テキスト	最初の授業で指示します。
参考書	演習を通じて紹介します。
その他	卒業研究を併設します。合宿や博物館訪問、展覧会見学を予定しています。

履修コード	102501
科目名	演習I
担当者名	中 濟 光 昭
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	人に理解してもらえるレポーティングやプレゼンテーションが出来ること、自分でテーマをみつけ、それに関する文献やデータを探せることが目標です。
授業スケジュール	(1)～(14) 課題を使った発表練習 (15) 中間報告・改善点の指摘 (16)～(29) 課題に関する調査・分析と進捗報告 (30) 最終発表・口頭試問 毎回各自がレジюме作成、レポーティング、プレゼンテーションなどの実習を行います。サブゼミでの輪講、各自で研究テーマを決めて研究した経過をゼミで発表するなどにより、研究の仕方を習得します。 インターネット上での電子商取引、ネットワークを駆使した流通システム、サプライチェーンマネジメント、電子決済システム、デジタル情報の著作権問題など経営・経済に関するテーマに加え、コンピュータシステムに興味のある学生は、システム設計実習やホームページデザイン実習といった情報系のテーマを扱います。合宿、学外の研究発表、展示会見学、インターンシップ参加など様々な活動を通じて、社会人として必要なことを学びます。この演習の成果は情報産業を始めとする様々な業種への就職に結びつきます。
準備学習	履修許可後に指示するプレゼミ課題を全て提出すること。 毎回発表資料を作成する必要がある。
履修上の留意点	・合宿、課外イベント、サブゼミは原則として出席していただきます。 ・メールの読み書きやワープロを打つといったことがゼミ活動上必須です。インターネットに接続できるノートパソコンが必要です。
成績評価の方法	課題提出 (50%)、夏季合宿 (10%; 後期履修継続の前提)、学年末に行う発表 (10%) とレポート提出 (10%)、ゼミ運営上の雑務 (10%)、イベントへの参加や資格取得 (10%) を総合評価します。
教科書/テキスト	別途指示
参考書	別途指示
その他	・積極性のある学生の参加を希望します。 ・ゼミではパソコン教場を使用しますので、本ゼミを受講したい人は総合情報センターで利用登録を行う必要があります。 ・演習IIIでは、卒業研究 (論文及び作品) を併設します。 ・編入学および転部・転科の学生を主な対象として4月に追加募集を行います。希望者は初回の演習に必ず出席すること。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~nakasumi/

履修コード	101431
科目名	演習I
担当者名	長山 宗広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>演習Iでは、講義「地域経済論a・b」の予習・復習をかねて、地域経済・地域産業に関する基礎的な理論と分析手法を学ぶ。また、レポート・論文作成にとって必要なスキルを高めてもらう。</p> <p>地域という窓から、現実の経済・産業を捉えていくと、様々な問題意識や疑問が生まれてくる。研究対象についても、地域の農業や漁業、産地・地場産業など工業集積、商店街・中心市街地やまちづくり、温泉郷など地域観光、地域の金融や財政・政策、など多岐にわたる。地域という総合的存在を学ぶことを通じて、経済・産業の全体像を理解していくことを目指す。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>地域経済論の基礎的な文献や統計データ等を使って、輪読や担当を決めての要旨報告を中心に討論を行なう。具体的には、地域の人口・世帯、就業・労働、事業所・企業、産業（農業・工業・商業・サービス業）、各種インフラ、財政等、に関する地域経済の統計データについて、その分析方法を学ぶ。</p> <p>仮想（実在しないが地方都市の典型例）のA地域の活性化プランをグループ単位で取りまとめもらう。既に用意してあるA地域の統計データや、A地域の主要企業やキーマンのヒアリング情報等を分析し、A地域の課題抽出とその解決に向けた活性化策を提示してもらう。</p> <p>ゼミ生各人（またはグループ）が愛着のある実在の地域を選定し、そこをケーススタディにして地域活性化プランを取りまとめてもらい、発表まで行う。</p>
----------	--

準備学習	課外学習、サブゼミを主体的に実施し、ゼミの授業時間を充実したものとする。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	<p>「地域経済論a・b」の講義、「ベンチャー論・起業論」の講義を履修することががのぞましい。ゼミには主体的に参加してもらいたい。最終的には、ゼミ生各人が自ら問題を設定し、その問題を解決するために自分自身で調べ、新たな発見を見出し、その成果をプレゼンテーションできるようにしてもらいたい。</p>
---------	--

成績評価の方法	出席状況、授業中のレジュメ・報告内容、討論への参加などを総合的に評価する。
---------	---------------------------------------

教科書／テキスト	日経新聞および日経グローバルを活用する。
----------	----------------------

参考書	長山宗広『日本のスピノフ・ベンチャー創出論 ー新しい産業集積と実践コミュニティを事例とする実証研究』同友館、2012年。
-----	--

その他	とりあえずは、講義の「地域経済論a・b」「ベンチャー論・起業論」を参照のこと。
-----	---

その他	<p>演習IIIでは、「卒業研究」を併設する。</p> <p>メーリング・リストを活用する。</p>
-----	--

履修コード	101481
科目名	演習I
担当者名	番場 博之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	このゼミでは3年間を通して、流通論・流通政策論とその周辺領域について研究していきます。 問題があるから政策は必要とされます。流通政策の場合それを必要とする問題の多くは企業のマーケティング戦略とりわけチャネル戦略、プロモーション戦略によって引き起こされます。このゼミでは、そのような企業の戦略とそれが引き起こす問題（流通矛盾）、それに対する政策について研究していくことを目的としています。
---------------------	--

演習I（2年次）では、流通問題を引き起こす企業のマーケティング戦略の可能性と問題性についてまず検討していきます。そのうえで、それによって引き起こされる様々な問題にはどのようなものがあるのかを検討していきます。2年次の学習は、3年次および4年次での学習の基礎となる問題発見型学習です。

授業スケジュール	(1～5) ビジネス教育としてのグループエンカウンター (6～10) ディベート (11～15) グループ研究、工場や文化施設の見学、巡検など (16～30) グループ研究（ビジネスモデルの検討、プレゼンテーションなど）
----------	---

ディベートのテーマは「日経MJ」や「週刊ダイヤモンド」「商業界」などのなかから自分たちで選定します。準備教育として各種見学や巡検を行います。巡検等の場所は「江戸東京博物館」「塩とたばこの博物館」「エビスビール記念館」「東京証券取引所」「日本銀行」「貨幣博物館」「世田谷区立郷土資料館」などの文化施設のほか、卸売市場や定期市などを予定しています。

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	詳細なシラバスは開講時に配布します。様々な活動を自主的かつ積極的に経験してみたい人のみ履修してください。
---------	--

成績評価の方法	日常の活動やゼミへの貢献度等を総合的に評価します。レポートや試験は行いません。
---------	---

教科書／テキスト	教科書は使用しません。
----------	-------------

参考書	共通で使えるように、基本的な文献あるいは重要かつ最新の資料などは研究室に揃えておきます。
-----	--

その他	ゼミの運営モデルは2年生から卒業までの3年間でつくられています。3年間のプログラムの内容やゼミの運営・活動の内容を十分に理解したうえで履修してください。番場が担当する演習II、演習IIIの詳細な内容を知りたい方は、問い合わせてください。
-----	--

また、ディベートのテーマやグループ研究のテーマは「日経MJ」「週刊ダイヤモンド」「商業界」などを参考にして、できるだけ最新のテーマを探してもらいますので、自分自身でもできるだけ社会の様々な出来事に関心を持つように努めて下さい。

履修コード	103701
科目名	演習I
担当者名	百田 義治
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代の日本企業の経営管理に関わる主要なテーマを中心に、グローバル化・情報化 (IT革命) の進展など経営環境が激変するなかで大きく変貌する日本企業とその経営の実態をリアルに学び、将来を展望します。同時に、「社会から信頼される企業」に求められるものは何か、という視点から企業倫理や企業の社会的責任 (CSR) について学びます。
授業スケジュール	(1) 第1~2回 イントロダクション:ゼミとは何か、ゼミで何を、どのように学ぶのか? (2) 第3~7回 経済危機のなかで、日本企業の経営行動はどのように変化しているのか? (3) 第8~13回 企業不祥事がなぜ多発するのか? その防止 (コーポレート・ガバナンス) には何が必要なのか?株価至上主義経営の破綻は何を意味するのか?企業の社会的責任 (CSR) とは何か? (4) 第14~15回 前期まとめ:学生によるプレゼンテーション (5) 第16~20回 いま、なぜ、能力主義・成果主義なのか? 終身雇用・年功制はなぜ修正されなければならないのか?日本の経営の何を残し、何を改革すべきか? (6) 第21~25回 企業は環境問題にどのように取り組んでいるのか? (7) 第26~30回 個別企業に関するCSR調査と成果のプレゼンテーション
準備学習	授業はグループ別の発表と質疑、コメントで進められます。 発表担当のグループはテキストや参考文献をまとめて、プロジェクター用の発表資料と補足説明のレジュメを準備します。その他の学生は各回の発表テーマに沿った質疑ができるように準備学習しておくことがゼミに参加する前提条件です。 ゼミでの議論の活性化には、グループごとにサブゼミを組織して、ゼミでの議論に向けた準備をすることも大切な準備学習です。 また、日常的に新聞や雑誌、ネット検索などによって、現代の企業の動向について調べ、高い関心と問題意識をもって授業に参加することが必要です。 ゼミに参加するための準備学習は、一人ひとりの日々の努力と、グループごとのサブゼミでの議論の積み上げが原則です。
履修上の留意点	経済雑誌や新聞やネット情報などを日常的に熟読・検索し、現代企業とその経営に関心を払い、各自の問題意識をもってゼミに参加してください。
成績評価の方法	出席、ゼミにおけるリーダーシップ、発表内容、レポートなどを総合して平常点評価を行います。
教科書/テキスト	百田義治編著『経営学を学ぼう』中央経済社、2012年。
参考書	新書を中心に随時紹介します。
その他	「卒業研究」(4単位)を併設します。

履修コード	104201
科目名	演習I
担当者名	松井 柳平
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	統計学の知識が経済、経営の分野でも必要不可欠なものとなっている。世界を舞台に経済は毎日めまぐるしく変動し、激動している。こうした不確実な変動を分析するための統計的手法を、パソコンを用いることで実践的に習得する。
授業スケジュール	ガイダンス データの要約と視覚化 基本統計量 確率分布 相関分析 推定 仮説・検定 集計表と適合度検定 回帰分析 等分散の検定 時系列分析。 数学モデル、確率モデルを視覚的に理解できることに重点を置く。
準備学習	発表者(発表グループ)は、入念に文献・資料等を調査し読解しレジュメや付随するファイルを作成の上、プレゼンの練習等もおこなうこと。発表者(発表グループ)以外のゼミ生も、入念に文献・資料を調査し読解し疑問点や論点を明確にしておくこと。
履修上の留意点	このゼミの履修にあたっては、数学の知識は事前にはまったく必要としない。
成績評価の方法	成績は授業中のゼミへの貢献によって評価する。具体的には、報告内容、質疑応答、討論への参加、課題達成度、ゼミ行事への積極的参加等を総合して評価する。出席は必須条件である。
教科書/テキスト	開講時に、ゼミ生と相談の上、決定する。
参考書	鳥居『はじめての統計学』(日本経済新聞社) ISBN4-532-13074-3 織田『Excelによる統計入門』(朝倉書店) ISBN4-254-12142-3 得津『はじめての統計』(有斐閣) ISBN4-641-08667-2
その他	パソコン教場でおこなう。レポーターによる報告に基づいて進める。

履修コード	101441
科目名	演習I
担当者名	松田 健
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	今日の企業は単に経済的な機関として位置づけられるのみならず、私たちの生活に大きな影響力を及ぼす社会的存在に成長しました。企業とは一体どのような存在なのでしょう？私たちはどの程度企業について知っているのでしょうか？ 本演習はこうした基底的問題意識を踏まえつつ、現代における企業の基本的活動について体系的に理解することを目的としています。
授業スケジュール	利潤の追求を基本的原理としながら、製品・サービスの生産・流通・販売という経済活動を担う企業の行動を主たる対象として、私たちの生活に密接不可分な存在になってきている企業を、再度「企業とは何か」という視点から見つめ直します。一年を通じて、企業の意義、役割およびその特質について企業理論研究を中心として進めます。 第1回 前期オリエンテーション 第2回～第10回 研究課題に関する資料輪読とレジュメに基づいた各自からの研究報告 第11回 小括：資料輪読による知見のまとめ（1） 第12回～第14回 夏合宿で扱う研究課題に関する資料輪読と討論 第15回 小括：夏合宿で扱う資料輪読と討論による知見のまとめ（2） 第16回 後期オリエンテーション 第17回～第26回 研究課題に関する資料輪読とレジュメに基づいた各自からの研究報告 第27回 小括：他大学ゼミとの研究交流会に向けた研究報告練習会 第28回 他大学ゼミとの研究交流会 第29回 次年度サブゼミ資料作成会 第30回 まとめ
準備学習	予習復習の他、サブゼミ等への参加を通じて自ら進んで研究に向かう姿勢を涵養して下さい。
履修上の留意点	専門演習とは、一つの学問領域に絞りながら、この領域における課題事項を集中的に考察、検討するものです。したがって、参加する学生は、自らの課題を自らが設定し、その課題に自らがチャレンジするという気概を持って演習に参加してください。
成績評価の方法	ゼミへの出席は最低要件です。各自の発表を主たる評価の対象としながら総合的に評価します。
教科書／テキスト	教科書は適宜指示します。その他に日経ビジネスや日本経済新聞を教材としても利用します。
参考書	経営学辞典あるいは経営学用語集 ⇒これではなければならないという指定はありませんが、用語がわからないと聴講しても理解不足に陥りますので、自分で使い易いものを選んで使用して下さい。 その他の指定図書については、適時指示します。
その他	卒業研究有り

履修コード	101451
科目名	演習I
担当者名	松本 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 非営利組織をベースに、企業と非営利組織を比較することによって両者の特徴を学び、社会的企業のような営利/非営利を超えたハイブリッドな組織も対象として、経営学的・経済学的な研究を行う。</p> <p>(到達目標) 到達目標は、実際に非営利組織や社会的企業に訪問ヒアリング調査を実施したり、ゼミ内でプレゼンテーションを行ったり、懇親会等を通じてゼミ生同士の交流を深めることで、卒業研究や就職にむけた様々な能力を培うことである。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>講義では、非営利組織や社会的企業に関する文献を読み、基礎知識を身につける。また、第一線で活躍している人に話を聞いたり現場を見学することで、文献では学べないことを積極的に学ぶ。同時に、非営利組織の学習を通して、パワーポイントによるプレゼンテーション能力、訪問ヒアリング調査やゼミ生同士の交流によるコミュニケーション能力を獲得することを目指す。</p> <p>1年間の詳細なスケジュールは、話し合いによって決定するが、おおよその流れは以下の通りである。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2～4回 非営利組織に関する文献講読 第5～10回 訪問ヒアリング調査準備・実施 (非営利組織に関する文献講読も同時に進める) 第11～14回 中間報告会に向けた準備、プレゼンテーション資料の作成 第15回 中間報告会 第16～25回 訪問ヒアリング調査準備・実施 (非営利組織に関する文献講読も同時に進める) 第26～29回 最終報告会に向けた準備、プレゼンテーション資料の作成 第30回 最終報告会</p>
----------	--

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を読み、非営利組織の理解を深めておくこと。 ・日ごろから新聞に目を通し、非営利組織に関連する記事を読んでおくこと。 ・訪問ヒアリング調査の準備を入念に行うこと。 ・中間報告会、最終報告会に向けた準備を積極的に行うこと。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な姿勢で授業にのぞむこと。無断欠席・無断遅刻厳禁。 ・物事を積極的に調べる。 ・合宿等を積極的に企画し、参加すること。
---------	---

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点および活動内容にもとづいて総合的に評価する。
---------	--

教科書/テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・雨森孝悦『テキストブックNPO』東洋経済新報社、2007年。
----------	---

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・参考文献や報告書、新聞・雑誌記事、関連HPなどを随時紹介する。 ・非営利組織の用語に関する基本文献として以下を薦める。 (1) 川口清史・田尾雅夫・新川達郎編『よくわかるNPO・ボランティア』ミネルヴァ書房、2005年。 (2) 田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣、2009年。 (3) 山岡義典編著『NPO基礎講座・新版』ぎょうせい、2005年。
-----	--

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・4年次(演習III)に卒業研究を併設する。 ・非営利組織論a・bを履修することがのぞましい。
-----	--

履修コード	101301
科目名	演習I
担当者名	溝手 芳計

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	食品の安全、南北問題、環境問題、過疎地域問題といったさまざまな問題が、近年、注目を集めています。これらは、農業のあり方、特に多国籍アグリビジネス（農業・食料関連産業）の影響力の増大、WTO体制への移行やTPPへの対応などと大きく関わっています。ゼミでは、上に掲げたような諸問題の理解と対策の手がかりを求めて、一緒に考えていきたいと思えます。あわせて、様々な情報が氾濫する社会で、何が事実か、どのように考えるべきか、分からないことがあるときどのように対処するか、これらの判断力の獲得を目指します。
授業スケジュール	テキストの輪読とディスカッションを中心に進めます。レジュメの作成、発表のやり方、議論の進め方など、集団学習のスキル取得も重視します。ふだんは2年次生だけで学習しますが、このほか上級生と合同の合宿で学習と交流を進めます。
準備学習	演習の学習は、授業に「出る」、意見を「出す」、テキストや参考書を「読む」が基本です。
履修上の留意点	ゼミは集団学習、相互修練の場です。世の中、答えが一つとは決っていません。異なる意見を出し合って一緒に考えていくうちに理解が深まり、当初は考えられなかった結論に達することもあります。学生の皆さんが相互に疑問を出し合い、教えあい、意見交換していくことを大切にしてください。 ひとりひとりを大切にすることは当然ですが、同時に集団としての規律を守ることも求めます。
成績評価の方法	レポートと発表の内容・態度、議論への参加状況などを総合的に評価します。
教科書／テキスト	1冊目：別途指示します。 2冊目以降は、ゼミ生と相談の上、決定しますが、2年次は食料問題を中心にします。
参考書	食料、農業、農村、環境、そして経済が今直面している具体的な課題に取り組んでいる本や新聞・雑誌記事を読むことを勧めます。必要に応じて紹介します。
その他	演習IIIで「卒業研究」を併設します。

履修コード	103001
科目名	演習I
担当者名	光岡 博美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本の福祉・社会保障、またそれを支える日本経済や労働問題について入門的な学習を行う。
授業スケジュール	テキストにしたがって各自の分担を決め、レポーターの報告に従って討議を行う。また、夏と春は2泊3日の合宿を行う予定。但し、合宿への参加は強制しない。
準備学習	特になし
履修上の留意点	自分からテキストに関連する、また興味あるテーマを決めて勉強して欲しいが、毎回の論読の箇所は事前に精読しておくこと。
成績評価の方法	出席状況やレポートの内容などで総合的に判断する。
教科書／テキスト	参加者の意見や希望も考慮して決める。テキストは岩波新書程度のものを使用する。
参考書	テキストに従って、または必要に応じて紹介する。

履修コード	101461
科目名	演習I
担当者名	村松 幹二
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代の経済社会、特に経済活動と法・制度の関係を学ぶことで経済社会の仕組みについての理解を深めることを目的とする。そのために2年次には、ビジネス・エコノミクス基礎を学び、それらを用いて、企業組織における経済活動と法・制度が日常生活や企業の経済活動に与える影響を考察する。 経済学を用いて経済社会の仕組みを分析する方法を身につけ、論理的に議論できるようになることを重視する。参加者は日常生活における経済活動や政策に関する議論に関心を持ち、その意味を経済学の視点から分析し、意見を形成できるよう心がけてほしい。
授業スケジュール	前期には、ビジネス・エコノミクスのテキストを輪読し、現代の日本経済や日本企業の諸問題について経済学の視点から議論する。夏休みに合宿討論会を行い、そこでの議論を踏まえて、後期には企業組織論や「法と経済学」のテキストの輪読とワーキング・グループによる研究発表を行う。 3年次前期には、企業組織論や「法と経済学」のテキストを輪読し、各自の研究テーマを決定する。3年次後期には、各自の研究発表をもとに討論を行う。4年次は卒論指導を行う。
準備学習	参加者は、新聞等のニュース、なかでも日常生活における経済活動や経済政策に関する議論に関心を持つよう心がけてください。
履修上の留意点	ゼミへの出席、発表・報告を担当することを前提とし、毎回の討論に積極的に参加すること。ゼミの自主的な運営に積極的に参加すること。
成績評価の方法	ゼミへの出席、報告内容、討論への積極的な参加などにより総合的評価を行う。
教科書／テキスト	開講時にゼミ生と相談の上、決定する。
参考書	
その他	演習III履修時には、「卒業研究」（卒業論文）を併設する。

履修コード	101401
科目名	演習I
担当者名	森田 佳宏
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 会計とは、企業の経営活動の状況を数字によって表現しようとするもので、その具体的な技術が簿記であり、その背後にある理論が会計学といわれるものである。会計学の領域は大きく財務会計と管理会計とに分けられる。財務会計とは、投資者、債権者、税務当局、消費者など、企業外部の利害関係者に対し、会計情報という形で企業の実態を明らかにする外部報告会計である。さらに、このような外部報告会計に信頼性を付与するため、資本金5億円以上または負債総額200億円以上の会社、および有価証券の募集・売出しをしようとする会社または有価証券を上場している会社などに対して、公認会計士または監査法人による会計監査が義務づけられている。本演習では、財務会計および監査の基礎を学ぶ。 (到達目標) 本演習の到達目標は、財務会計および監査の制度的なしくみおよび基本的考え方についての知識を習得することである。
授業スケジュール	テキストをベースとして、財務会計および監査の領域に属する基礎的な諸問題を取り上げ、解説および学生諸君による報告・討論を行う。必要に応じて簿記の学習を取り入れることもある。演習Iの終了時にはレポートの提出を課すので必ず提出すること。
準備学習	少なくとも日商簿記検定試験3級程度（「簿記論」の授業内容程度）の基礎知識があることが望ましい。
履修上の留意点	演習であるから、すでにどれだけの知識を持っているかということよりも、みんなと一緒に会計を勉強したいという気持ちを重視したい。したがって、特別な事情がない限り、毎回必ず出席すること。
成績評価の方法	出席を重視するが、そのほかに報告内容（レジュメを含む）、レポートなどを考慮に入れて総合的に評価する。
教科書／テキスト	新井清光著、川村義則補訂『現代会計学（第12版）』中央経済社、2,730円、ISBN：978-4-502-43430-3（なお、改訂版が出る可能性があるため、初回の演習時まで購入しないこと。）
参考書	演習の中で適宜紹介する。
その他	演習IIIに「卒業研究」を併設する。

履修コード	102301
科目名	演習I
担当者名	谷敷 正光

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>テーマ【日本の工業化と経済産業発展史】</p> <p>日本の経済、産業、企業の驚異的な成長はいかにして可能だったかを考察します。2年生の演習は、途上国日本の経済や産業の形成・発展過程と戦前における経済システムの形成を中心に学びます。3年生の演習では、戦後の疲弊した経済や産業から「経済大国」への道を学びます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回～第4回 演習オリエンテーション（プレゼンテーションの仕方、参考文献・資料の検索方法、レジュメの作成法など）。</p> <p>第5回～第10回 近代産業の形成期に外貨を獲得するのに最も貢献した製糸業（繭を原料に絹糸をつくる工業）の理解の手がかりとして和田英『富岡日記』、島岡幸一『野麦峠に立つ経済学』、山本茂実『あゝ野麦峠—ある製糸工女哀史』などの「経済小説」。</p> <p>第11回～第15回 綿織物の工程を手織りから機械織機に変え、織物業を飛躍的に発展させた「豊田佐吉」の国産「力織機」の発明、豊田織機製作所から分離し、国産初の乗用車「トヨベツクラウン」を製作した「豊田喜一郎」の理解の手がかりとして邦光史郎『トヨタ王国』などの「経済小説」。</p> <p>第16回～第20回 両替商から証券業・銀行業の基礎を築いた「野村徳七」の理解の手がかりとして邦光史郎『野村証券王国』などの「経済小説」を、読み進めます。また、第20回まで参考資料として「あゝ野麦峠」「若き日の豊田佐吉」「生きている昭和史」などの映画、「乗用車ゼロからの出発」「ビジュアル近代産業の形成」「日本の企業家群像豊田喜一郎」などのDVDやVTRを副教材として使用します。第20回まではこれらの教材を使用してプレゼンテーションの練習を行います。</p> <p>第21回～第30回 これまでに学んだ日本の製糸業、紡績業、織物業や日本の自動車産業について論じた「学術論文」（学会雑誌）や基礎的文献を教材に途上国日本の経済発展の準備期、形成期、確立期を中心に、経済や産業の発展過程や経済システムの形成についてプレゼンテーションを行い追求します。</p>
----------	--

準備学習	日頃からテレビや新聞・雑誌などを通じて、過去の日本の経済や今日の日本経済の現状について注意すること。
------	--

履修上の留意点	4年ゼミまで継続して研究できる人を望んでいます。
---------	--------------------------

成績評価の方法	授業中の態度、プレゼンテーションへの取り組み、提出レポートを基本に評価します。
---------	---

教科書／テキスト	教材は演習の時間に適宜紹介します。学術論文や参考資料はプリントして配布します。
----------	---

参考書	島岡光一『野麦峠に立つ経済学』春風社。玉川寛治『製糸工女と富国強兵の時代・生糸がさえた日本資本主義』新日本出版。その他演習の時間に適宜紹介します。
-----	---

その他	<p>2年ゼミ(演習I)は、できれば「教育経済論」の講義（4単位）も履修して下さい。</p> <p>3年ゼミ(演習II)では、「インターンシップb」（2単位）を併設しており、演習IIと併せて履修することができます。「インターンシップb」は「インターンシップa」（2単位）の履修が必要です。「a」と「b」で合計4単位を修得できます。</p> <p>4年ゼミ(演習III)では、「卒業研究」（4単位）を併設しています。演習IIIと「卒業研究」の合計8単位を修得できます。</p>
-----	---

履修コード	103201
科目名	演習Ⅰ
担当者名	矢野 浩一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習のテーマは「ビジネス・経済・社会についての実証的アプローチ」である。ビジネス・経済・社会などの様々な問題について自分の力で考え行動できるように実証分析のやり方を学ぶ。それには統計学や経済学・データ分析などの知識が必要である。さらに自分の意見をしっかりと人に伝える文章表現やプレゼンテーション能力、自分の意見を裏付ける統計手法を身につけることを目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計学・経済学・マーケティング等の本を使ってのレジュメ作成・発表演習 ・Word、Excel、Powerpointの基本操作に関する講義等 ・統計学・経済学・マーケティング等の基本書を使ってそれまでのゼミの内容を生かした発表 ・ディベート大会 <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットを利用した情報収集の講習と統計の基礎知識 ・統計学・経済学・マーケティング等の本を輪読 ・ゼミ成果報告会等 <p>(ただし、学生ごとに理解度にばらつきがあると思われるために、演習内容はそれに応じて柔軟に対応する)</p>
----------	--

準備学習	教科書・参考書・資料等を予習しておくこと。
履修上の留意点	「統計原論」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「応用マクロ経済学」等の関連科目をあわせて履修することが望ましい。また、連絡のために駒澤大学総合情報センターのアカウントを取得しておくこと。
成績評価の方法	出席を中心に、発表内容・発言・ゼミへの貢献から判断する。
教科書/テキスト	教科書は開講時に協議する。
参考書	教科書だけにこだわらず、統計学・経済学・マーケティング等関連分野の書籍・雑誌・論文等から適宜選択する。
その他	演習Ⅲ履修時には卒業研究(卒業論文)を併設する。

履修コード	102901
科目名	演習Ⅰ
担当者名	山縣 弘志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	比較経済論研究の入門
---------------------	------------

授業スケジュール	<p>専門的学習、研究に向けての入門的トレーニングを行う。国際的な視野から物事を見、卒業年次に各自のテーマで論文作成することを目標とする。2年次においては、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会科学の文献に慣れる。 2 論理的思考を育てる。 3 プレゼンテーションを経験する。 4 問題意識を明確に持つ。 5 世界経済の全体像をイメージできるようにする。 6 国際的な比較の観点を常に持つ。 <p>を主な柱として授業を組み立てる。前期は教科書、参考書を読み、後期は各自の発表に移行する。</p>
----------	--

準備学習	経済学概説の単位を取得しておくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席、発表、討論への参加を総合評価する。
教科書/テキスト	西川潤「世界経済入門」、石弘之「地球環境報告」 一 岩波新書
参考書	
その他	「卒業研究」あり。

履修コード	103401
科目名	演習I
担当者名	吉田 敬一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習は日本経済入門を基本課題とし、経済学を学ぶことは苦しいことではなく(経済が苦)、それは面白く楽しいこと(経済楽)だと認識してもらうことをねらいとしています。とくに2年次では、21世紀の日本経済を考える前提として、高度経済成長を経てジャパン・アズ・ナンバーワンと称された80年代までの経済発展と日本的経営の特徴を、考えていきます。3年生からは日本経済のグローバル化の今日的課題の研究に入ります。また、以上の内容の共同研究を通して、演習生各自が自分自身の世界観・社会観(もの見方・考え方)を確立することを目標として、演習を運営していきます。
授業スケジュール	講義とは異なり、演習は学生諸君の自主性・主体性が不可欠です。そこで演習生をグループ化し、班単位でレジュメを作成し、テキストの報告・議論を進めていきます。他人に自分の考えや意見を表明するのは簡単ではありません。社会に出てから必要になるレジュメの作り方、報告の仕方、議論のルールなどを身に付けてもらいます。
準備学習	①新聞を読む習慣を身につけること。 ②官公庁や調査機関のホームページで最新の調査・統計を参考にして報告・議論できるように準備すること。
履修上の留意点	①無断欠席・遅刻は厳禁です。 ②演習での議論に受身にならずアクティブに関与すること(ゼミは講義の延長ではなく、ゼミ生が中心となり運営するものです)。サークル活動優先の学生は、ゼミ運営に支障が生じますので、ご遠慮ください。
成績評価の方法	報告に際しての準備するレジュメ、報告内容、表現能力、また聞き手にまわった場合の討論への参加度など、および適宜のレポート課題を中心にして総合的に評価します。
教科書/テキスト	橋本寿朗『戦後の日本経済』岩波新書を手がかりに共同研究を行なう予定ですが、最初のゼミの時間に確定します。
参考書	演習を進める中で適宜に紹介します。

履修コード	105001
科目名	演習I
担当者名	吉田 真広
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本経済との関連から金融、国際金融、国際経済の基礎と現実、とりわけ今日の国際金融不安について理解していくことを演習テーマとします。そのためには、国際金融現象の基礎にある基本的原理や制度を学ぶと共に、日本経済に与える今日の国際金融の実体について理解を深めていきます。
授業スケジュール	国内及び国際的信用制度、日本と海外の証券市場、円ドル相場などに関する基礎的な理解を深めていきます。同時に、日本経済を巡る金融及び国際金融環境の変化、ヨーロッパ共通通貨ユーロ、人民元や円の国際化、銀行業及び金融業の国内及び対外的展開、日本とアジアの金融システム、通貨危機、金融危機などを含む様々な金融・国際金融現象を学んでいきます。最近の国際的金融不安についても、アメリカの金融システム、国際通貨論の視点から、その原因と構造を検討していきます。 前期はテキストを利用しつつ、毎回報告者によるレポートと討論を行います。後期はゼミ論文の報告を前提に各人がテーマをもって報告を行っていく予定です。 また、授業の一環として、社会見学、学年を超えた討論会なども計画しています。
準備学習	演習では基本的なことから勉強していきますので、特段、事前の国際経済や金融に関する専門的知識は必要ありません。
履修上の留意点	
成績評価の方法	授業での報告内容と発言の積極性・内容、提出物など、総合的に判断します。
教科書/テキスト	現在、山田博文『これならわかるグローバル時代の日本経済入門 金融経済 第2版』大月書店、2005年12月、を予定していますが、良いテキストが出版されたならば、変更もあり得ます。また、第1回目のゼミで、ゼミ生の希望を聞いてから、テキストを変更することもあります。
参考書	必要に応じて、その都度示していきます。
その他	ゼミ合宿を予定しています。また、東京証券取引所や日本銀行の見学・セミナーを予定しています。学年を超えた討論会も計画しています。

履修コード	108401
科目名	演習II
担当者名	浅田 進史
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本演習では、ヨーロッパおよびアジア近現代経済史、ヨーロッパ・アジア経済関係史を研究します。経済のグローバル化が歴史的にどのように展開し、それがヨーロッパおよびアジアの経済・社会にどのような影響を与えてきたのでしょうか。経済史のアプローチを身につけることで、長期的な視点から、現在の経済・社会を理解することを目指します。ただし、ゼミの中心はあくまでゼミ生にあります。自らの問題関心・発想を大切にしながら、ゼミでの発表・討論に積極的に関わるようにしてください。</p> <p>演習IIでは、専門書レベルの関連文献を取り上げながら、演習Iで身に付けた力を生かして、自分の問題関心に沿った研究を進められるように指導します。</p>
授業スケジュール	<p>前期では、ゼミ受講生共通の文献を読むと同時に、個別の関心に沿った研究テーマに応じた準備作業を進めることが求められます。前期末に、その準備作業の成果の一端を発表してもらいます。</p> <p>後期でも、共通の文献を選定し討論すると同時に、前期の準備作業をさらに発展させ、その成果をレポートとしてまとめて提出してもらいます。</p> <p>前期・後期とも、スケジュールの詳細についてはガイダンス時に提示します。</p>
準備学習	<p>毎回のゼミで対象となる文献をあらかじめ読んでおくことや、自分の研究テーマを計画的に進めておくこと。</p>
履修上の留意点	<p>経済史、西洋経済史、日本経済史、アジア経済論などに関する講義を合わせて履修することが望ましい。</p>
成績評価の方法	<p>平常点（ゼミ発表、討論への参加）と年度末レポートを総合的に評価します。</p>
教科書／テキスト	<p>前期・後期の初回時に指定します。</p>
参考書	<p>演習時に指示します。</p>

履修コード	108101
科目名	演習II
担当者名	姉齒 暁

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習IIに引き続き、「グローバル経済と生活」を大まかなテーマに据え、「生活」を取り巻くさまざまな問題について学ぶと同時に、卒業研究への取り組みを開始します。
---------------------	--

授業スケジュール	①通常のゼミ活動 前半はテキストを決め、卒業研究に必要なさまざまなスキルを身につける作業を行います。レジュメの作り方から報告・討論の手法を身につけます。
----------	---

②合宿について
春と夏に合宿を行います。今年度は4月以降に、春合宿の代わりに長時間にわたる集中的なゼミ勉強を通して、レジュメ作成能力、討論能力を徹底して習得します。夏合宿の詳細については、みなさんと相談して決めたいと思います。

③インナー大会、ゼミ討論会等への参加
学内・学外のゼミ討論会には積極的に参加します。特に11月に行われる学内・学外ゼミとの討論会に合わせて論文作成、討論スキルの向上などに力をいれていくこととなります。特に、ゼミの上級生として、2年生をリードする役割を果たすことが期待されます。そのほかに、学外で行われるセミナーへの参加などを通して、問題意識を醸成させる機会を得たいと思います。

④原書講読も含めて、より高度な文献を読みこなし、資料を解析し、卒業研究に取り組むこととなります。論文作成のために不可欠な問題意識をもつことを目標とします。

⑤「経済学部奨学論文」に応募することが義務付けられます。興味を持てる課題を探ること、理論をきちんと勉強すること、論文に「のめりこめる楽しさ」を発見すること、これが本ゼミの目指すところです。

準備学習	経済理論の基礎を身につけられるよう、原論の科目を履修しておくこと。 このゼミに興味があれば、以下のサイトでゼミの内容を確認してください。
------	---

<https://twitter.com/#!/AnehaSeminar>
<http://anehazemi.blogspot.com/>

また、姉齒に質問があれば、2012年3月末までは、以下のアドレスにメールを送ってください。

aneha@berkeley.edu
日本語でメールを送れます。

履修上の留意点	遅刻・欠席は厳禁です。 ゼミは意見交換の場であり、一人ひとりの自主的なかわりと同時に、お互いに助け合い、問題への理解に達するための努力が不可欠となります。
---------	--

また、ゼミ活動に関する作業をはじめとする集団的な行動への参加も必要です。アルバイトやサークル活動などでゼミ活動を欠席することはできません。履修予定表に載っている時間配分では終わらないのがゼミ活動です。忙しいことを承知の上で、やる気のある方の参加を希望します。

また、ゼミ活動に関する作業をはじめとする集団的な行動への参加も必須です。時には、土日でもゼミ活動に割かれます。アルバイトよりゼミが優先となります。

ただ、その場に座っているだけでは、ゼミへの参加とはみなしえません。必ず毎回発言することが求められます。

ゼミでは、受動喫煙から徹底して非喫煙者の健康を守ることをモットーといたします。したがって、ゼミ開始10分前以降からゼミ中、ゼミの休憩中の喫煙、ゼミ合宿中の喫煙を禁止いたします。

成績評価の方法	報告・討論への参加を含め、平常点で評価します。
---------	-------------------------

教科書／テキスト	時間のはじめに指示します。
----------	---------------

参考書	時間のはじめに指示します。
-----	---------------

履修コード	107801
科目名	演習II
担当者名	荒木 勝啓
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経済変動や数理ファイナンスなどのモデルをコンピュータ上でシミュレートするというテーマに向けて様々なコンピュータ技法をマスターしていく。
授業スケジュール	演習IIからはエクセル上でVBAプログラミングを行う。同時にEXtendによりC言語の基礎を習得する。
準備学習	必要な時に事前に指示する。
履修上の留意点	
成績評価の方法	平常点100。
教科書/テキスト	指定なし。ただし必要な場合指示する。
参考書	

履修コード	106401
科目名	演習II
担当者名	有井 行夫
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代社会は、企業中心社会です。受験競争や消費競争、夫or妻の争奪競争からマイホーム獲得競争にいたるまで、競争社会の中心に実は企業への就職競争が位置しています。企業の内部もサラリーマンの出世競争・生き残り競争です。そして、最後に生き残って経営者に成り上がったサラリーマンにしても、企業自身の業績責任に不断に脅迫されて過労死寸前です。企業自身が、好況のときも不況のときも生き残り競争のただ中にあるのです。企業は、利潤のための利潤、生産のための生産をどこまでも続けていかなければなりません。日本型企业社会に構造変革を迫っている今日のグローバリゼーションも、この傾向をさらに強めるものにほかなりません。サラリーマンからも、経営者からも、株主からも独立して、自己拡大の衝動に駆りたてられて走り続ける企業。国民の豊かさに無縁の「利潤のための利潤」。地球環境や資源の制約にも無関心の「生産のための生産」。—これが現代社会の最大の謎であり、21世紀前半に解決しなければならない現代社会の最大の課題のありかです。
授業スケジュール	前期 有井のプリント、新聞の読み方、川人博『過労死社会と日本』 夏合宿 競争主義対平等主義 後期 有井のプリント、新聞の読み方（ファイルの作成）、奥村宏『法人資本主義』
準備学習	まいにち、日経新聞を読みつづけること。
履修上の留意点	最大のテキストは現代社会そのものです。新聞を読みこなす力を養います。併せて日本語を読む力、書く力、話す力を鍛えます。
成績評価の方法	ゼミへの積極的参加50%、各種レポートの評価50%。
教科書/テキスト	川人博『過労死社会と日本』（岩波新書）、野村正実『雇用不安』（岩波新書）
参考書	有井行夫『マルクスはいかに考えたか』（桜井書店）2700円
その他	コンパ、合宿への参加は必須です。

履修コード	108301
科目名	演習II
担当者名	飯田 泰之
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習のテーマは「日本経済への実証的アプローチ」である。近年、経済問題にとどまらずビジネス・社会・政治分野においても経済学的な思考は必須の教養になっている。そして、自身の意見を発表し、説得する（つまりは「自分がわかっている」ことを人に伝え、他の人を「納得させる」）際には十分な実証的根拠を示し、聞き手を考慮した発表を行うことが必要とされる。本演習は「経済理論の理解」「統計を用いた証拠づけ」「プレゼンテーション能力」の3つを柱に、「使える経済学」を身につけることを目標としたい。
授業スケジュール	演習Iでの学習内容をふまえ、学生の興味に応じてより発展的な内容に取り組んでいく。
準備学習	「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「経済政策」「統計原論」「企業経済学のa、b」等関連科目をあわせて履修することが望ましい。
履修上の留意点	連絡のため駒澤大学総合情報センターのアカウントを取得しておくこと。
成績評価の方法	出席を中心に、発表内容・発言・ゼミへの貢献から判断する。
教科書/テキスト	教科書は開講時に協議する。
参考書	テキストのみにこだわらずゼミ生の興味に沿った論文を取り上げていく。
その他	経済学やパソコンの利用など基本知識のレベルには受講生ごとにばらつきがあると思うが、皆の希望を聞いた上で補充したいと思う。

履修コード	109211
科目名	演習II
担当者名	石川 純治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>企業会計の制度と理論を学習します。「制度」の基礎にある土台としての「理論」、この両者の関係において学習することが基礎にある視点です。</p> <p>また、社会経済における「生きた会計」を学習するために、「時事会計」を重視します。会計の基礎にある社会経済問題への関心が大切で、それとの関連で会計を学習します。会計をとおして世の中の問題に発言できる洞察力が得られればと思っています。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>財務会計の基本テキストを学習し、その後、中級・上級のテキストへとレベルアップします。中級・上級では米国会計基準・国際会計基準も取り上げます。さらに、それらをより高い次元から見通す力を養うため、新聞・雑誌・小論文を素材にした学習も行います。</p>
----------	--

準備学習	別途指示します。
------	----------

履修上の留意点	<p>会計学だけでなく、会計を通して世の中の社会経済問題を学習するというより広い視点にたてる学生を歓迎します。</p>
---------	---

成績評価の方法	出席・合宿・レポートなどゼミ活動の総合評価。
---------	------------------------

教科書／テキスト	財務会計の標準的テキスト（その都度指示します）。
----------	--------------------------

参考書	その都度、指示します。
-----	-------------

その他	<p>私のプロフィールについては、駒澤大学のHPのトップページ「教員の紹介」から見るができますので参考にしてください。</p>
-----	---

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~ishikawa/profile.htm
-------	---

履修コード	105901
科目名	演習II
担当者名	石川 祐二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>企業においては、会計情報が様々な目的をもって利用されている。その情報を生み出すための仕組みは、どのような構造をもっているのだろうか。その構造を探り、それが社会の多様な関係の中で果たす役割を研究する。そのことによって、社会現象を分析する視点の獲得を目指す。また、様々な書籍・データを用いてレジユメを作成し、発表するスキルを養うことも目標である。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>演習IIでは、特に管理会計に関わる種々の技法を取り上げることとする。とりわけ、近年の管理会計研究上の議論の中心となっている技法に焦点を当てて、その意味を考えたい。さらに、その学習をつうじて、ゼミ生が各自のテーマを見つけだし、深く掘り下げていくための基礎固めをしたい。それにより、卒業研究に向けた足がかりを築くことを目指すものである。</p>
----------	---

準備学習	<p>各自の発表テーマに則った文献・資料等を収集し、それらをよく読んだ上で、自分なりの問題点を見つけること。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>積極的に参加すること。また、ゼミ生が相互に協力しあい、楽しいゼミ運営を行ってもらいたい。また、4年次には「卒業研究」を開設する予定である。</p>
---------	--

成績評価の方法	特に報告内容を重視するが、その他ゼミ活動への貢献等も含め、総合的に評価する。
---------	--

教科書／テキスト	特になし。
----------	-------

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

その他	合宿その他のイベント等については、話し合いで決定する。
-----	-----------------------------

履修コード	105801
科目名	演習II
担当者名	岩波 文孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	21世紀を迎えて以降も経営破綻や機関投資家・投資ファンドの不祥事など企業経営をめぐる問題が続出しています。本演習では、トップ・マネジメントの構造と機能の理解を中核として、コーポレート・ガバナンスとコーポレート・パワーとの連関の検討を通じて、現代の企業経営の課題を多面的に考察していきます。現代の企業経営に関する問題意識を深めていき、企業と社会との関わり、CSRを踏まえた企業経営システムの構築に向けた課題を追究していきます。
---------------------	--

授業スケジュール	現代企業におけるコーポレート・パワーに関する文献の輪読形式により報告者・グループによる報告を中心に討論を行います。夏期・春期合宿では、現代の企業経営が抱える諸問題について、討議していきます。 1. ゼミナールの概要とガイダンス (1) 2. 企業と社会をめぐる論点 (2~7) 3. 企業と市場 (8~12) 4. 企業と社会 (13~17) 5. 企業の社会的責任 (CSR) の現状 (18~23) 6. 企業の社会的責任 (CSR) の課題 (24~30)
----------	---

準備学習	企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集を行うとともに、関連する文献を読んでください。
------	---

履修上の留意点	ゼミナールは受講生の主体的な学びの姿勢に基づいて運営されます。ここでは専門の学習とともに、自らの課題を発見し、問題意識を深めていくという積極的な学習が求められます。受講の際には企業経営をめぐる諸問題について問題意識を持ちゼミナールに参加してもらいたい。
---------	--

成績評価の方法	ゼミ課題の発表内容、討議への積極的な参加などの平常点による総合評価を行います。
---------	---

教科書/テキスト	開講時に指定します。
----------	------------

参考書	開講時に指定します。
-----	------------

その他	演習III履修時には「卒業研究」(4単位)を併設します。
-----	------------------------------

履修コード	106201
科目名	演習II
担当者名	大石 雄爾

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現在、日本の経済構造は大きく変化しつつあります。この変化は、1970年代の国際通貨制度の崩壊、石油危機などとともに始まり、バブル経済とその崩壊および近年の金融恐慌を経て今日に至っています。演習IIでは、とくに、バブル経済がなぜ起こり崩壊したか、その原因を考えながら今日の日本経済の特質について学習していきます。 また、グローバル化の過程で生じている国際的な経済問題を見る目を養えるような、そんな学習にも取り組みます。
---------------------	---

授業スケジュール	この演習IIでは、日本経済の歴史と現代の構造について学び、現代資本主義の本質に迫ります。テキストには北村洋基著『岐路に立つ日本経済』(改訂版)を用います。主な内容は以下のとおりです。 1 1970年代の危機と日本の対応 2 1980年代前半の日本経済 3 1980年代後半の日本経済 4 「平成大不況」第1局面 5 「平成大不況」第2局面 6 「平成大不況」第3局面 7 日本経済の新段階と第2次「平成大不況」
----------	--

準備学習	授業が始まるまでに、テキストの「第1章 日本を取り巻く内外の環境変化」を読んでおくことが望ましい。
------	---

履修上の留意点	少人数形式の演習では、欠席をしないこと、遅刻をしないことが各人に求められます。参加者には、その点を自覚した上で、積極的にゼミの活動に取り組むことを期待します。
---------	---

成績評価の方法	平常点により評価します。
---------	--------------

教科書/テキスト	北村洋基著『岐路に立つ日本経済〔改訂版〕』(大月書店)2,600円+税
----------	-------------------------------------

参考書	西川潤著『世界経済入門(第3版)』(岩波新書)780円+税
-----	-------------------------------

その他	①4年次の演習IIIに「卒業研究」を併設します。 ②選択科目「ビジネス・インターンシップ」を履修することができます。 ③コース制との関連: コースの履修は自由です。
-----	--

履修コード	108601
科目名	演習II
担当者名	大島 久幸

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、近現代日本の経済史・経営史に関する研究を行なう。演習IIで輪読する文献は、もう少し読みごたえのある専門書へとステップアップしたい。文献輪読と並行して、ゼミの共同研究にも着手する。テーマは受講生の話し合いで決め、学生主体で調査、発表、論文化する力を養っていききたい。
---------------------	--

授業スケジュール	(1)前期ガイダンス、(2)～(14)文献輪読およびゼミ研究の基礎的作業、(15)ゼミ研究中間報告、(16)後期ガイダンス、(17)～(29)文献輪読およびゼミ研究の応用的作業、(30)ゼミ研究最終報告 *詳細については、前期ガイダンス、後期ガイダンス時に知らせる。
----------	--

準備学習	前期・後期とも、所定のスケジュールにしたがって各自で進めておくこと。
------	------------------------------------

履修上の留意点	授業時間だけでなく、合宿、コンパ、他大学とのインターゼミなどを含めたゼミ活動全般への積極的な参加が求められる。アルバイトやサークル活動との調整がつけられない人は受講を遠慮されたい。
---------	--

成績評価の方法	演習に取り組む姿勢を総合的に評価した平常点。
---------	------------------------

教科書/テキスト	開講時に受講生と相談のうえ指定する。
----------	--------------------

参考書	授業の中で、その都度紹介する。
-----	-----------------

その他	演習IIでは、「インターンシップb」を併設する。 演習IIIでは、「卒業研究」を併設する。
-----	--

履修コード	106501
科目名	演習II
担当者名	大吹 勝男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代の格差社会と貧困及び、社会保障について学習します。
---------------------	-----------------------------

授業スケジュール	社会保障及び社会福祉等々に関する論争は、我々人間が生きてゆく上での重い課題を背負っている。故にテキストに拠る学習だけではなく、上記に関連する毎日のニュースを知らなければならない。本ゼミでは毎回、新聞・雑誌記事によってそれを補う。また、三年生は就活の情報収集の為に利用する。
----------	--

準備学習	テキストを読んでおくこと。
------	---------------

履修上の留意点	平常点によりませんが、昨年同様に読書感想文の提出を求めます。あとは諸君の勉強次第です。
---------	---

成績評価の方法	
---------	--

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

その他	〈卒業研究の有無〉 義務ではありませんが、4年次には併せて開講します。
-----	--

履修コード	109001
科目名	演習Ⅱ
担当者名	小栗 崇資

授業概要/
到達目標 (ねらい)

日本の企業会計制度は、現在、大きな転換期にさしかかっており、会計ビッグバンを経て国際会計基準への統合へと突き進んでいます。計算構造の面でもディスクロージャーの面でもこれまでの財務会計の枠組みや原理・方法は大きく変容しつつあるといえます。会計の学習者にとっては、従来のような勉強だけでは変化についていくことができないので大変ですが、発想を変えれば、現代社会のなかでの会計の役割や仕組みを研究するチャンスと考えられます。演習では、「グローバル化する日本の企業会計制度」をテーマに学習を進めたいと思います。

授業スケジュール

演習Ⅱでは、演習Ⅰと同じく、企業会計の従来の考え方と新しい考え方を比較しながら、現代の財務会計の理論や方法を学習する予定です。そうした中で、国際会計基準のいくつかを取り上げ、その内容を深く検討してみたいと思います。演習は皆さんに報告をしてもらい、ディスカッションする方式で行います。資格勉強のように暗記するのではなく、「なぜそうなのか」「どうしてこうなるのか」という問題意識をぶつけあって研究することをこの演習ではめざします。後期には自分の研究テーマをもってゼミ生自身で研究を進め、論文を書いてもらうつもりです。

準備学習

指示に従い事前の準備をしておくこと。

履修上の留意点

ゼミでは皆さんに積極的に発言したり質問したりすることを求めます。毎回、司会者や報告者、質問者などの役割を分担して進める予定です。必ず出席してください。ゼミの運営や行事にも意欲的に取り組む学生を希望します。なお「卒業研究」も開講する予定です。

成績評価の方法

総合的に判断します。①出席状況、②報告内容、③レポート、④ゼミ運営への貢献度。

教科書／テキスト

演習の中で指示します。

参考書

演習の中で指示します。

履修コード	106701
科目名	演習Ⅱ
担当者名	北口 りえ

授業概要/
到達目標 (ねらい)

税務会計は、法人税法における課税所得計算に関する学問です。法人の所得に対して課される法人税は、企業にとって避けられないものであり、企業行動を左右する重要な要素のひとつとなっています。本演習は、法人税における課税所得が企業利益をベースとしてどのように算出されるのか、その課税所得の計算構造に関する理解を深めることを目的とします。

授業スケジュール

演習Ⅰ・Ⅱでは、企業会計を基礎として課税所得および税額を計算し、申告・納税するという企業会計と税務の一連の手続きについて、なぜそのような処理を行うのかという理論的部分を重視しながら学んでいきます。

演習Ⅱでは、演習Ⅰで得た企業会計についての基礎的知識を前提として、法人税の特質、課税所得の計算構造などについて学び、税務会計への理解を深めていきます。

法人税法における課税所得は、公平な課税を実現させるために、企業利益に「別段の定め」による調整を加えて算出されます。したがって、企業利益と課税所得を比較しながら、益金の額・損金の額についての学習を進めます。

基本的には、テキストの1つのテーマに対してレジュメを作成し報告してもらい、ディスカッションするという方法で進めていきます。レジュメは単にテキストをまとめるだけでなく、疑問を持った点や深く掘り下げてみたい点などを追求したものを作成するよう心がけてください。また、報告者はプレゼンテーションにおいても棒読みではなく、的確に相手に理解してもらえよう工夫をしてもらいたいと思います。

準備学習

特になし

履修上の留意点

ゼミ内で意欲的に発言し、ゼミの運営や行事（合宿、ゼミナール連合会での研究発表会、証券取引所見学や裁判所見学など）にも積極的に参加してください。

成績評価の方法

出席率、報告内容、ゼミやゼミの運営への参加度、レポート等の総合評価により行います。理由のない遅刻や無断欠席は大きな減点としますので、注意してください。

教科書／テキスト

柳裕治『税務会計論』（創成社）
その他、適宜プリントを配布します。

参考書

井上久彌・平野嘉秋『法人税の計算と理論』
伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門』（日本経済新聞出版社）

履修コード	108201
科目名	演習II
担当者名	小杉 修二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習Iと同じですので、そちらを見てください。
---------------------	------------------------

授業スケジュール	<p>基本的には演習Iに同じです。演習Iでは温暖化のメカニズム、その害悪について学びますが、演習IIではそれらの知識を踏まえて、その対策についてどんなものがあるか〈①地球に日傘 ②炭酸ガスの大気からの除去 ③炭酸ガスの発生削減〉について考えます。</p> <p>温暖化対策は所詮は人類の意思決定の問題ですが、地球はひとつでも人類はひとつではありません。それぞれに個別利害を持つ存在である国、集団、個人に分かれています。ここから利害の合理的制御の学としての経済学の知見・方法が役に立つこととなります。3年次以降は温暖化対策の技術的側面と並んでその社会的側面を学習することになります。</p> <p>授業のやり方としては学生と相談しながら、「ディベート」形式で問題を表と裏から考えます。ディベートは為にする議論、という印象もありますが、ある問題に徹底的に賛成あるいは反対の立場に立ってみた時、それが簡単に崩れるようなら、それは役に立たない議論ということになります。こうした議論を通じて、確実な根拠ある結論を探しましょう。やってみると意外に楽しいものようです。</p>
----------	---

なお、3年次も新聞資料の活用を行います。

- 第1-5週：温暖化対策として省エネルギーの可能性
- 第6-10週：代替エネルギーの可能性
- 第11-15週：炭酸ガスの吸収源の可能性
- 第16-20週：巨大技術の可能性
- 第21-25週：身近な方法の可能性
- 第26-30週：炭酸ガス削減の国際的取り決めの方法

準備学習	日ごろより温暖化関係のテレビ番組、新聞記事等に目を通すこと。
履修上の留意点	演習Iと同じ。
成績評価の方法	出席状況とゼミへの参加の積極性、発言を総合して判定。
教科書/テキスト	演習Iの継続+新しいテキストをゼミの進み具合に応じて考える。
参考書	演習Iと同じ。
その他	〈卒業研究〉あり。通常のゼミの4単位とは別に卒業研究の4単位が当てられる。

履修コード	108501
科目名	演習II
担当者名	小西 宏美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「多国籍企業、多国籍金融機関とカジノ資本主義」をテーマとしています。「カジノ資本主義」とは何か、多国籍企業・多国籍金融機関の活動がいかに経済を「カジノ化」してきたのか、「カジノ資本主義」は我々の生活をどのように変えてきたのか、について研究します。
---------------------	---

授業スケジュール	国際経済、国際金融関係のテーマで報告、討論を行います。後期は他大学のゼミと合同ゼミ連を開催します。
----------	---

準備学習	毎回、テキストの該当箇所を読んでおくこと。 報告にあたっている場合はレジュメを用意すること。
------	---

履修上の留意点	演習は、皆さんが主体的に参加してはじめて成立する学習の場です。責任感と自覚をもって臨みましょう。
---------	--

成績評価の方法	出席、報告、討論、係の仕事で評価します。
---------	----------------------

教科書/テキスト	最初の授業時に指定します。
----------	---------------

参考書	
-----	--

履修コード	106801
科目名	演習II
担当者名	小林 正人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>テーマは「景気循環と雇用・貧困」。</p> <p>2008年リーマン・ショックは世界経済を深い不況にまきこみ、世界中に非自発的失業者や低賃金労働者を増やしました。日本経済は、米国流の金融投機へのかかわりは浅かったにもかかわらず、その後の円高によって低迷し、それまでの非正規労働者の増加や財政赤字による内需不振、中国経済の成長などの影響もあり、産業空洞化と雇用劣化に向かいつつあります。それはまた米国や日本の格差や貧困の問題を浮かび上がらせました。</p> <p>そこで、このゼミでは、景気循環の理論や歴史、リーマン・ショックの背景、失業者が大量に生み出される理由、派遣労働やワーキング・プアの実情、「景気対策」の限界などについて考えていくことにします。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>雇用、失業や、貧困、格差について考えることと平行して、景気循環の理論や歴史について学んでいきます。</p> <p>演習Iをふまえて、さらに専門的な文献(複数冊)を選んで議論しながら、グループに分かれて共同研究やプレゼンテーションに取り組み、自主的な調査や討論の方法について学びます。</p> <p>また、以上の発表や調査をふまえて、次年度の演習IIIで卒業論文を完成させます。</p>
----------	---

準備学習	ゼミで議論する文献については全員があらかじめ熟読し、必要な事項を調査し、論点や疑問点、自分の感想や意見をまとめておくこと。
------	---

履修上の留意点	<p>ゼミの中心は、ゼミ生が作成する発表資料と、ゼミ生どうしの討論や学び合いです。ゼミ生は、発表資料を作成するために、パソコンのワープロソフトを使用する必要があります。</p> <p>ゼミで議論する文献はゼミ生と相談して決めますが、決まったら各自が購入する必要があります。</p>
---------	--

成績評価の方法	作成した発表資料、ふだんの調査や発表、出席状況を総合して評価。無断欠席は厳禁。
---------	---

教科書/テキスト	ゼミ生と相談して決めます。
----------	---------------

参考書	演習Iと同じ。
-----	---------

その他	演習IIIに併設される「卒業研究」は「卒業論文」だけです。
-----	-------------------------------

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~kobamasa/
-------	---

履修コード	106601
科目名	演習II
担当者名	清水 卓

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>現代ヨーロッパが直面する諸問題を、より体系的にとらえるため、EU諸国の第二次大戦後の経済発展とEU統合の歴史と現状の二つの課題を柱に、グローバル化という名のアメリカナイゼーションに対抗し、アメリカや日本とは異なる、欧州社会の固有の伝統を基礎に「ヨーロッパ・モデル」を追求しているEUの動向と、我が国の「改革」路線との比較を念頭におきながら検討します。</p> <p>また3年次後半からは就職活動が日程に上ってきますが、教員やゼミの先輩、ゼミ仲間の間で有益な情報交換やアドバイスが得られるように運営します。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	専門文献を精読と、各自のテーマ設定準備を行います。
----------	---------------------------

準備学習	ヨーロッパの経済社会政治の動向に関する新聞雑誌記事のスクラップ作成を行ってもらいます。
------	---

履修上の留意点	演習Iを参照のこと。
---------	------------

成績評価の方法	演習Iを参照のこと。
---------	------------

教科書/テキスト	演習Iを参照のこと。
----------	------------

参考書	
-----	--

その他	演習Iを参照のこと。
-----	------------

履修コード	105701
科目名	演習II
担当者名	代田 純
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	代田ゼミでは金融について学習し、研究します。日本の金融が中心ですが、海外の金融の動向や日本との比較についても学習します。証券アナリスト、証券外務員の受験指導も実施します。
授業スケジュール	4～7月においては、日本の証券市場について、テキストを使用し、学習する。夏合宿を経て、9～12月には証券外務員資格の学習指導も行う。3回生12月には卒業論文のテーマ設定をしてもらう。
準備学習	テキストで予習、復習すること。
履修上の留意点	金融の基礎知識がない人も歓迎します。ただし毎回出席することが前提です。
成績評価の方法	ゼミでの発表、質問など日常点で評価します。
教科書／テキスト	代田 純編、『金融危機と証券市場の再生』（同文館）定価2300円＋税 ISBN978-4-495-46411-0 代田 純著、『ユーロと国債デフォルト危機』（税務経理協会）2012年3月予定
参考書	適宜紹介します。
その他	夏にインターンシップを予定する。希望者はインターン関係の科目を履修すること。また日本経済新聞、朝日新聞その他を使用する。

履修コード	105501
科目名	演習II
担当者名	鈴木 伸枝
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	公共経済学のゼミです。講義よりも専門的なことを学ぶとともに、自ら問題を発見する能力を身につけることを目標とします。年金・医療・介護保険・環境・失業の諸トピックスについて「どういう問題があって、何を為すべきか」を自分なりの意見をもてるようにしましょう。
授業スケジュール	三年生のゼミでは、公共経済学のテキストを輪読します。毎回、報告担当者にはレジュメを用意してもらいます。 また、後期には1回キャリアコンサルタントを講師として招き、ゼミで学んだことを最大限に就職活動に役立てるためのアドバイスをしてもらいます。
準備学習	報告者は最低でも2週間かけて準備してください。
履修上の留意点	ゼミは勉強の場だけでなく、人前で自分の意見を言えるよう訓練したり、同じゼミの仲間と協力して何かを達成することを通じて人間的に成長する場でもあります。引込み思案にならず、常に積極的な態度で参加してください。
成績評価の方法	出席状況・予習状況・討論への参加度により評価します。
教科書／テキスト	受講者と相談して決定します。
参考書	

履修コード	107001
科目名	演習II
担当者名	瀬戸岡 紘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「グローバル化」と「デジタル化」の時代に即応して経済、社会、経営、文化などを分析し、自分の意見をもてる人間を養成すること。また、そういう時代を生きぬくうえでもとめられる社会的正義感をもった人間を養成すること。
---------------------	--

授業スケジュール	アメリカの大学の演習方式を大胆に採用しながらも、独自の方式で演習をすすめています。思考に強くなるための方法(弁証法の学習)、デジタル時代の学習と研究の方法(以外にも古典的文献の読破と一体化した学習方法)、学ぶ者の社会的責任の体得などがそれです。とくに最近数年間は、金融グローバル化について非常に緻密に学習しています。そのことをとおして、アメリカをはじめ、世界中で起こっている経済事象を読み解く実力がやしなわれるからです。それまでは単語として聞いたことがあった程度だった経済用語をふんだんに駆使しながら日々の出来ごとを語れるようなゼミ生が確実にそだっています。 あわせて、後輩のゼミ生の世話をする事、日本学生経済ゼミナールの東京大会・全国大会への参加、インターネットや遠隔授業をつうじたアメリカの学生との交流、工場見学や企業訪問など多彩な企画を実施しています。
----------	--

準備学習	随時、説明します。
------	-----------

履修上の留意点	4年次生で卒業論文を作成します。
---------	------------------

成績評価の方法	ゼミ活動にたいする各自のあらゆる態度を総合して評価します。最大の眼目は、当人のやる気です。
---------	---

教科書/テキスト	随時、有益な文献を紹介しします。 アメリカには、成功例も失敗例も世界一豊富にあります。企業活動から文化運動にいたるまで、アメリカの事例を知っておくことが、ゼミ生がどんなテーマを選んで研究するうえでも役に立ちます。だから、アメリカの事例研究になる文献を多くとりあげます。
----------	---

参考書	
-----	--

その他	ゼミでは、社会の第一線で活躍している人を招いて「出前ゼミ」をときどき実施しています。当ゼミのOB・OGも、しばしば3年生や4年生のゼミに顔をだし、社会や会社の現場の話をしてくれます。 このほか、ゼミにかんする一層くわしい情報は、ゼミに直接きて見学したり問い合わせたりすることのほか、下記のホームページ(ゼミ生制作)にアクセスしてください。 http://setookazemi.xxxxxxx.jp/
-----	---

履修コード	107901
科目名	演習II
担当者名	曾我 信孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	マーケティングの問題点を把握し、それを解決する方法を身に付けさせることをねらいにしている。
---------------------	---

授業スケジュール	1～5回 問題発見の方法と論文の書き方についての指導 6～15回 ゼミ生各自の研究テーマ発表とそれに対する指導 夏合宿 ゼミ生各自の研究に関する弁別構成の指導 16～25回 論文執筆に対する指導 26～28回 ディベート大会に関する指導 ディベート大会 12月の第2日曜に開催 29～30回 論文集の校正に関する指導
----------	--

準備学習	個人の研究を中心にした指導をしていくので、自ら資料収集の工夫をしておいて欲しい。また、論文の弁別の検討の際に支持した資料は、必ず収集しておくようにして下さい。
------	---

履修上の留意点	・平常の出席はもちろんであるが、論文の執筆と夏合宿及びディベート大会への参加は必ず必要です。
---------	--

成績評価の方法	平常点(・日常の授業態度20%、・夏合宿への取り組み姿勢20%、・ディベート大会出席30%・論文30%)
---------	--

教科書/テキスト	指定しない
----------	-------

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

関連リンク	http://geocities.yahoo.co.jp/gl/nobusoga
-------	---

履修コード	105311
科目名	演習II
担当者名	館 健太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>人々のかけひきを分析するための道具である「ゲーム理論」について学習し、これを使ってさまざまな社会現象を自分の言葉で説明できるようになることをめざす。ゲーム理論は、スポーツやカードゲームの必勝法の研究というよりも、私たちの日常生活や社会のなかで起きるさまざまなかけひきをゲームとみなし、それらをよくつかのパターンに整理して結果を予想するための学問で、その応用分野はとて広い。情報通信や交通手段の発達などによってネットワーク化されている今日の経済では、人々のつながりに関する理解を深めることの重要性はますます高まっている。</p> <p>本演習では主に産業組織論、すなわち企業の投資、生産、販売などを通じた競争戦略や他の企業との戦略的提携など、それぞれの産業における企業間の競争と協力について扱う。また、補助金や規制などを通じて市場への介入を行う政府の産業政策・競争政策についても考える。例えば、家電産業や情報通信産業ではしばしば製品間の互換性が重要になるが、そのときに企業はどんな戦略をとるべきだろうか。政府は何か政策を打ち出すべきだろうか。ゲーム理論という共通の土台の上で議論できるようになることを目指す。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	最初のうちは講義形式の説明と論議形式の発表の両方を使ってゲーム理論そのものの学習を中心にすすめる。その後、ゲーム理論の学習と並行してグループや個人で実際の産業や行政について調べ、そこからゲームを作って分析するなどより実践的な研究へと展開する。
----------	---

準備学習	(1) 産業界のニュースに関心を持っておくこと、(2) 教科書の該当部分を授業前に読んでおくこと。
------	---

履修上の留意点	自分自身で社会の中にあるかけひきを表現するためにオリジナル・ゲーム（といってもプログラムではない）を創作し、発表してもらうなど、発想やアイデア、表現力を養うことを重視する。
---------	--

成績評価の方法	出欠状況、演習活動への貢献や発表などの平常点、授業内試験で評価する。
---------	------------------------------------

教科書／テキスト	友野典男、『行動経済学—経済は「感情」で動いている』、2006年、光文社（光文社新書）、998円、ISBN:978-4334033545
----------	--

参考書	とくになし。
-----	--------

その他	12月の演習発表会でグループ研究を行う。
-----	----------------------

履修コード	109101
科目名	演習II
担当者名	田中 和雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>わが国企業の人事・労務管理（人的資源管理）はいま大きく変化しつつあります。雇用、賃金、労働時間、昇進・昇格などの人事制度、能力開発、福利厚生、企業内労使関係といった労務管理のほとんどの領域で、かつて日本的労務管理（あるいは日本の経営）と特徴づけられた制度や慣行が改廃されつつあります。グローバル化、メガコンベクション、情報技術革新、それらに伴う企業・職場組織の再編などがその背景にあります。新しい方向を示すキーワードは、多様化、弾力化（フレキシビリティ）、成果主義、個別化などです。こうした変化をどのように把握し、どのように評価するか、自らの働き方（社会への貢献の仕方）として何を望むのか、メンバー同士の語り合いのなかで模索することがねらいです。その際に、諸外国の制度や慣行も比較対照として学習していきたい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	現代人事労務管理の変容を、①雇用、②賃金、③労働時間、④能力開発、⑤福利厚生（企業年金を含む）、⑥労使関係、などの領域ごとに大別し、各人はその領域の中で具体的なテーマを決めた上で、下調べや報告をし、全員で議論するという形式で進める予定です。
----------	--

	最新の情報を共有するために、新聞記事をこまめにチェックして、情報を蓄積していく作業も毎回のゼミで行います。なお、テーマごとのディベートも予定しています。
--	--

準備学習	毎回のゼミでの議論をメモして、情報カードに残しておくこと。溜まった情報カードを組み合わせて体系的な理解を獲得することが目的です。
------	--

履修上の留意点	1つのテーマのもとに調べたり、報告をすること、ほかの人の報告を聞き、議論することを楽しい学習と思ってほしい。全員が自由に発言できる雰囲気大切にしたいと思っています。
---------	--

成績評価の方法	日頃のゼミへの参加、丹念な下調べ、レジュメ・レポートの提出、積極的な発言と参加を中心に評価します。
---------	---

教科書／テキスト	共通テキストについては、ゼミ生と相談して決めます。
----------	---------------------------

参考書	ゼミのなかで適宜指示します。
-----	----------------

その他	<p><卒業研究の有無> 引き続き演習IIIを履修する場合には、履修時に卒業研究を併設します。</p>
-----	---

履修コード	108801
科目名	演習II
担当者名	鄭 章淵

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 演習Iで得たアジア経済に関する基礎知識を土台に、内容的により高度な文献を講読する。各国経済論や個別のテーマを掘り下げるなど、アジア経済論の各論について学習する。授業の進め方は、演習Iと同様にゼミ生諸君による輪読方式で進めていく。 (到達目標) この授業の目的は、ゼミ生諸君に演習Iの学習を前提にして第二次世界大戦後の東アジア経済の発展過程をより深く理解してもらうことである。その際、「東アジア」(東北アジアと東南アジアを合わせた地域)という地理的範疇の重要性に注目し、そこに所属する各国経済の発展過程と相互連関性について理解を深める。最終的な到達目標は、ゼミ生諸君に東アジア諸国が日本の経済的パートナーとして不可欠な存在となっている事実を認識してもらい、今後両者の関係がどうあるべきかを考えるきっかけをつくることである。
授業スケジュール	演習Iで身につけた基礎知識を土台にして、さらに東アジア経済に関する理解を深めるために下記(教科書)の文献を輪読してもらう。 また、適宜、アジア経済に関する新聞記事やWEBサイト資料について学習する機会を設ける。夏季休暇中には、ゼミ合宿(演習Iとの合同合宿)を実施する。そこでは別の文献を取り上げて講読し、ビデオ鑑賞なども行う。 後期には、演習の特別企画として課外活動(日本中のアジア探訪)を実施する予定である。
準備学習	報告者はもちろんのこと、報告者以外の諸君もあらかじめ該当箇所を精読し、質問や意見を準備しておくこと。 また、アジア経済に関する新聞記事やWEBサイト資料を常日頃から読むようにすること。
履修上の留意点	演習(ゼミ)という少人数科目は、何よりもゼミ生諸君一人ひとりが主人公となるべき科目である。授業には休まず出席し、積極的に発言することを心掛けてもらいたい。
成績評価の方法	レポート回数、授業での積極性、合宿への参加状況などを加味して総合的に判定する。
教科書/テキスト	北原淳・西澤信善編著『アジア経済論』現代世界経済叢書4、ミネルヴァ書房、2004年、3,200円＋税、ISBN 4-623-04158-1
参考書	参考書については、授業の中でそのつど紹介する。
その他	4年次に「卒業研究」を併設する。

履修コード	107401
科目名	演習II
担当者名	徳永 俊明

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) いわゆる<南北問題>は今人類が直面している最大の問題の一つです。このゼミでは、発展途上諸国＝アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国の国際関係と、その中での人びとの生活の現状を勉強します。 (到達目標) 発展途上諸国やそこで暮らす人びとの状態をただ知って終わるのではなく、そのような状態を‘鏡’にして、日本、日本人そして私たち一人ひとりの状態を見直し、考えてみるのが大切です。
授業スケジュール	上記の趣旨に沿って、学生諸君と相談しながら進めます。
準備学習	普段から人類・私たちの状態について関心を持ち、自分の頭で考える習慣を作ることが求められます。
履修上の留意点	
成績評価の方法	まずは出席、そして考える努力、発言する努力の3点から評価します。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	108701
科目名	演習II
担当者名	友松 憲彦
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	西洋社会経済史の研究を課題にしています。ヨーロッパやアメリカ経済史の基本文献を講読し、経済史の基礎理論や概念について学びます。
授業スケジュール	西洋経済史の文献講読をおこなうと同時に、各自が設定したテーマについて研究をすすめ、卒業研究のための基礎づくりをします。
準備学習	レポーターはレジメを作成し、他の者はテキストの該当箇所を予習し疑問点を明らかにしておく。
履修上の留意点	「経済史」「西洋経済史」「日本経済史」「商業史」等をあわせて履修することが望ましい。
成績評価の方法	平常点(ゼミに取り組む姿勢、報告、発表、討論)と年度末レポートを総合して評価します。
教科書/テキスト	最初の授業で指示します。
参考書	演習を通じて紹介します。
その他	卒業研究を併設します。合宿や博物館訪問、展覧会見学を予定しています。

履修コード	105601
科目名	演習II
担当者名	中濟 光昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習Iの内容を前提に、具体的なテーマを設定して研究します。自分でテーマを決め、その研究の意義が説明できること、必要なデータや文献を探せること、論理的なレポートが書けること、説得力のある発表が出来ることが目標です。インターネット上での電子商取引、ネットワークを駆使した流通システム、サプライチェーンマネジメント、電子決済システム、デジタル情報の著作権問題など経営・経済に関するテーマに加え、コンピュータシステムに興味のある学生は、システム設計実習やホームページデザイン実習といった情報系のテーマを扱います。合宿、学外の研究発表、展示会見学、インターンシップ参加など様々な活動を通じて、社会人として必要なことを学びます。この演習の成果は情報産業を始めとする様々な業種への就職に結びつきます。
授業スケジュール	(1)～(4) テーマの決定 (5)～(14) 研究テーマに関する調査・分析 (15) 中間報告・改善点の指摘 (16)～(29) 進捗報告 (30) 最終発表・口頭試問 毎回各自がレジメ作成、レポーティング、プレゼンテーションなどの実習を行います。サブゼミでの輪講、各自で研究テーマを決めて研究した経過をゼミで発表するなどにより、研究の仕方を習得します。
準備学習	原則として演習I(中濟担当)を履修していること。 毎回発表資料を作成する必要がある。
履修上の留意点	・演習IIでは、就職のための準備など、様々な活動が要求されます。もちろん、合宿、課外イベント、サブゼミは原則として出席していただきます。 ・メールの読み書きやワープロを打つといったことがゼミ活動上必須です。インターネットに接続できるノートパソコンが必要です。
成績評価の方法	課題提出(50%)、夏季合宿(10%;後期履修の前提)、学年末に行う発表(10%)とレポート提出(10%)、ゼミ運営上の雑務(10%)、イベントへの参加や資格取得(10%)を総合評価します。
教科書/テキスト	別途指示
参考書	別途指示
その他	・積極性のある学生の参加を希望します。 ・ゼミではパソコン教場を使用しますので、本ゼミを受講したい人は総合情報センターで利用登録を行う必要があります。 ・編入学および転部・転科の学生を主な対象として4月に追加募集を行います。希望者は初回の演習に必ず出席すること。 ・演習IIIでは、卒業研究(論文及び作品)を併設します。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~nakasumi/

履修コード	109201
科目名	演習II
担当者名	長山 宗広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習IIでは、地域経済・地域産業の理論を踏まえて、地域の実態を把握する実践的手法を学んでいく。
---------------------	---

地域という窓から、現実の経済・産業を見ていくと、様々な問題意識や疑問が生まれてくる。研究対象についても、地域の農業や漁業、産地・地場産業など工業集積、商店街・中心市街地やまちづくり、温泉郷など地域観光、地域の金融や財政・政策、など多岐にわたる。地域という総合的存在を学ぶことを通じて、経済・産業の全体像を理解していくことを目指す。

授業スケジュール	世田谷区や夕張市など実在の地域を選定し、当該地域の実態把握と活性化プランを取りまとめていく。まずは、ゼミ生全員で、選定地域における既存資料や統計データを入手・分析する。その後は、グループ単位で、選定地域において興味のある研究テーマ（例：地場産業・中小企業の再生、新産業・ベンチャービジネスの創出、商店街・中心市街地の活性化、観光振興による交流人口アップなど）を設定し、各種調査を実施・取りまとめていく。それぞれの研究テーマにおける調査結果をもとに、当該地域の関係者（中小企業経営者や政策担当者など）と議論を行ない、最終的に当該地域の活性化プランとして取りまとめていく。この活性化プランは、当該地域の関係者に対して発表会が行なえる水準を目指す。 夏休み等を利用して、合宿やフィールドワークも行なう予定。
----------	---

準備学習	課外学習、サブゼミを主体的に実施し、ゼミの授業時間を充実したものとする。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	「地域経済論a・b」の講義、「ベンチャー論」「起業論」の講義を既に履修済みであることがのぞまれる。 ゼミには主体的に参加してもらいたい。最終的には、ゼミ生各人が自ら問題を設定し、その問題を解決するために自分自身で調べ、新たな発見を見出し、その成果をプレゼンテーションできるように努めてもらいたい。
---------	---

成績評価の方法	出席状況、授業中のレジュメ・報告内容、討論への参加などを総合的に評価する。
---------	---------------------------------------

教科書／テキスト	テキストは、開講時にゼミ生と相談して決定する。 日経新聞および日経グローバルを活用する。
----------	---

参考書	長山宗広『日本のスピノフ・ベンチャー創出論 ー新しい産業集積と実践コミュニティを事例とする実証研究』同友館、2012年。
-----	--

その他	とりあえずは、講義の「地域経済論a・b」「ベンチャー論・起業論」を参照のこと。 演習IIでは、「卒業研究」を併設する。
-----	--

履修コード	105361
科目名	演習II
担当者名	番場 博之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	番場ゼミ（演習II）の目的は、専門分野の研究を通して問題の発見からその解決へと向かう問題解決能力を育成することにあります。専門分野の研究は、流通論を中心に行います。
---------------------	--

授業スケジュール	(1～15) 「課題研究」とその報告書作成 (16～22) テキストを利用した学習（グループ単位） (23～30) テキストを利用した学習（個人単位）
----------	---

夏休みあるいは合宿時等に巡検を行います。巡検先は、「江戸東京博物館」「塩とたばこの博物館」「エビスビール記念館」「東京証券取引所」「日本銀行」「貨幣博物館」「世田谷区立郷土資料館」などの文化施設のほか、東京中央卸売市場・せたがやポロ市などの卸売市場や定期市を予定しています。

まちづくりの検討やその他具体的な事例検討等に際しては写真や映像をたくさん使います。基本的に使用する写真は自分たちで収集します。使用するカメラや関連ソフトはゼミで複数揃えてあります。

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	詳細なシラバスは開講時に配布します。様々な活動を自主的かつ積極的に経験してみたい人のみ履修してください。
---------	--

成績評価の方法	日常の活動やゼミへの貢献度等を総合的に評価する。レポートや試験は行わない。
---------	---------------------------------------

教科書／テキスト	必要に応じて相談して決めます。テキストは全員共通のものを使う場合もありますが、複数のグループに分けてそれぞれ別のものを使うこともあります。また、「日経MJ」「週刊ダイヤモンド」などの新聞や雑誌も用います。
----------	--

参考書	基本的な文献あるいは重要かつ最新の資料（特に白書・統計資料・時刻表・地図など）は可能な限り研究室に揃えておきます。
-----	---

その他	このゼミの運営モデルは2年生から卒業までの3年間でつくられています。3年次からの入ゼミは基本的には想定していませんが、欠員が生じた等の場合には追加募集をすることもあり得ます。詳しくは、問い合わせてください。
-----	---

履修コード	108001
科目名	演習Ⅱ
担当者名	百田 義治

授業概要/ 到達目標（ねらい）	グローバル化・情報化（IT革命）の進展など経営環境が激変するなかで、大きく変貌する日本企業とその経営の実態をリアルに学び、それぞれがビジネス・パーソンとして求められる企業経営の分析力と洞察力が獲得できることを目指します。
--------------------	--

授業スケジュール	演習Ⅱの継続です。5グループがそれぞれに決定したテーマについて取り組み、プレゼンテーションを行います。 前期 第1回 インTRODクシヨン 第2回 テーマ決定とグループ編成 第3回 現代企業と経営環境の変化 第4回～第8回 グループ別・テーマ別プレゼンテーション 第9回 第1回発表の総括と今後の課題について 第10回 新たなテーマ決定 第11回～第15回 グループ別・テーマ別プレゼンテーション 後期（第16回～第30回） 前期と同じスケジュールで、それぞれのグループが2回づつプレゼンテーションを行う。
----------	---

準備学習	授業はグループ別の発表と質疑、コメントで進められます。 発表担当のグループはテキストや参考文献をまとめて、プロジェクター用の発表資料と補足説明のレジュメを準備します。その他の学生は各回の発表テーマに沿った質疑ができるように準備学習しておくことがゼミに参加する前提条件です。 ゼミでの議論の活性化には、グループごとにサブゼミを組織して、ゼミでの議論に向けた準備をすることも大切な準備学習です。 また、日常的に新聞や雑誌、ネット検索などによって、現代の企業の動向について調べ、高い関心と問題意識をもって授業に参加することが必要です。 ゼミに参加するための準備学習は、一人ひとりの日々の努力と、グループごとのサブゼミでの議論の積み上げが原則です。
------	--

履修上の留意点	経済雑誌や新聞やネット情報などを日常的に熟読・検索し、現代企業とその経営に関心を払い、各自の問題意識をもってゼミに参加してください。
---------	--

成績評価の方法	ゼミにおけるリーダーシップ、発表内容、レポートなどを総合して平常点評価を行います。
---------	---

教科書／テキスト	小阪隆秀・百田義治編著『CSRと経営学』ミネルヴァ書房、2012年。
----------	------------------------------------

参考書	CSRや企業倫理に関する文献を随時紹介します。
-----	-------------------------

その他	「卒業研究」（4単位）を併設します。
-----	--------------------

履修コード	109221
科目名	演習Ⅱ
担当者名	松井 柳平

授業概要/ 到達目標（ねらい）	統計学の知識が経済の分野で必要不可欠なものとなっている。世界を舞台に経済は毎日めまぐるしく変動し、激動している。こうした不確実な変動を分析するための統計的手法を、パソコンを用いることで実践的に習得する。
--------------------	---

授業スケジュール	統計的な分析をおこない、評価・討論する。 必要な場合、輪読をおこなう。テキストは、ゼミ生と相談の上、決定する。
----------	--

準備学習	発表者（発表グループ）は、入念に文献・資料等を調査し読解しレジュメや付随するファイルを作成の上、プレゼンの練習等もおこなうこと。発表者（発表グループ）以外のゼミ生も、入念に文献・資料を調査し読解し疑問点や論点を明確にしておくこと。
------	---

履修上の留意点	このゼミの履修にあたっては、数学の知識は事前にはまったく必要としない。
---------	-------------------------------------

成績評価の方法	成績は授業中のゼミへの貢献によって評価する。具体的には、報告内容、質疑応答、討論への参加、課題達成度、ゼミ行事への積極的参加等を総合して評価する。出席は必須条件である。
---------	--

教科書／テキスト	開講時に、ゼミ生と相談の上、決定する。
----------	---------------------

参考書	授業のなかで必要に応じて、指示する。
-----	--------------------

その他	パソコン教場でおこなう。レポーターによる報告に基づいて進める。
-----	---------------------------------

履修コード	105321
科目名	演習II
担当者名	松田 健

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代は極めて変化のスピードが早い時代です。こうした傾向は企業経営の世界にも当てはまりません。企業は経営環境の著しい変化の中で日々の業務に携わりながらも、自らが拠って立つ基盤を模索しています。これは企業自身も自らと社会との関係をどのように構築していけばよいかという課題に直面しているといえるでしょう。こうした理解に立ち、本演習では企業経営の現代的課題について取り上げながら、企業活動の体系的理解を目指します。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>本演習では、企業形態、株式会社制度、企業統治ならびに企業の社会的責任などに代表される、現代の企業に関わる重要な課題を考察の対象とします。一年を通じて、企業に関する基礎的な知識、概念ならびに理論に対する考察を踏まえ、各自で設定した研究テーマにしたがって卒業論文作成の準備に取り掛かれるように、企業の意義、役割ならびにその特質に関わる体系的な理解を目指します。</p> <p>第1回 前期オリエンテーション 第2回～第11回 研究課題に関する資料に基づいた各自からの報告と質疑応答 第12回～第15回 夏合宿で扱う研究課題に関する資料輪読と討論 第16回 後期オリエンテーション 第17回～第26回 研究課題に関する資料に基づいた各自からの報告と質疑応答 第27回 小括：資料輪読による知見をまとめた学内研究報告練習会 第27回 小括：他大学ゼミとの研究交流会に向けた研究報告練習会 第28回 他大学ゼミとの研究交流会 第29回 卒業論文作成に向けたオリエンテーション 第30回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	予習復習の他、サブゼミへの参加やゼミ外での研究発表等を通じて自ら進んで研究に向かう姿勢を涵養して下さい。
履修上の留意点	専門演習とは、一つの学問領域に絞りながら、この領域における課題事項を集中的に考察、検討するものです。したがって、参加する学生は、自らの課題を自らが設定し、その課題に自らがチャレンジするという気概を持って演習に参加してください。
成績評価の方法	ゼミへの出席は最低要件です。各自の発表を主たる評価の対象としながら総合的に評価します。
教科書/テキスト	適宜指示します。その他に日本経済新聞と日経ビジネスを教材として利用します。
参考書	経営学辞典あるいは経営学用語集。
その他	卒業研究有り

履修コード	105331
科目名	演習III
担当者名	松本 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 非営利組織をベースに、企業と非営利組織を比較することによって両者の特徴を学び、社会的企業のような営利/非営利を超えたハイブリッドな組織も対象として、経営学的・経済学的な研究を行う。</p> <p>(到達目標) 演習Iで研究したことを基礎に、更に発展した調査および研究を行う。 非営利組織(NPO)・社会的企業の役割や社会問題に関する討論を行うことで、最後まで考え抜く力を養うことが到達目標である。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>文献の輪読および討論を基礎に、演習Iと同様に、適宜非営利組織・行政・企業への訪問ヒアリング調査を実施する。年度末には、卒業研究の基礎となる報告書をまとめる。</p> <p>1年間の詳細なスケジュールは、話し合いによって決定するが、おおよその流れは以下の通りである。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2～15回 文献の輪読および討論(適宜、訪問ヒアリング調査を実施) 第16～30回 報告書の作成</p>
----------	--

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・演習Iで学習した内容を、復習すること。 ・日ごろから新聞に目を通し、非営利組織に関連する記事を読んでおくこと。 ・討論に向けた準備を行うこと。 ・報告書の作成を積極的に行うこと。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な姿勢で授業にのぞむこと。無断欠席・無断遅刻厳禁。 ・物事を積極的に調べること。 ・合宿等を積極的に企画し、参加すること。
成績評価の方法	・平常点および活動内容にもとづいて総合的に評価する。
教科書/テキスト	・受講生と相談の上、決定する。
参考書	・参考文献や報告書、新聞・雑誌記事、関連HPなどを随時紹介する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・4年次(演習III)に卒業研究を併設する。 ・非営利組織論a・bを履修することがのぞましい。

履修コード	105301
科目名	演習II
担当者名	溝手 芳計

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	食品の安全、南北問題、環境問題、過疎地域問題といったさまざまな問題が、近年、注目を集めています。これらは、農業のあり方、特に多国籍アグリビジネス（農業・食料関連産業）の影響力の増大、WTO体制への移行やTPPへの対応などと大きく関わっています。ゼミでは、上に掲げたような諸問題の理解と対策の手がかりを求めて、一緒に考えていきたいと思えます。あわせて、様々な情報が氾濫する社会で、何が事実か、どのように考えるべきか、分からないことがあるときどのように対処するか、これらの判断力の獲得を目指します。
---------------------	---

授業スケジュール	テキストの輪読とディスカッションを中心に進めます。今年はディベートにチャレンジしましょう。レジュメの作成、発表のやり方、議論の進め方など、集団学習のスキル取得も重視します。ふだんは3年次生だけで学習しますが、このほか演習I（2年次生）等と合同の合宿で学習と交流を進めます。
----------	--

準備学習	演習の学習は、授業に「出る」、意見を「出す」、テキストや参考書を「読む」が基本です。
------	--

履修上の留意点	ゼミは集団学習、相互修練の場です。世の中、答えが一つとは決っていません。異なる意見を出し合っ一緒に考えていくうちに理解が深まり、当初は考えられなかった結論に達することもあります。学生の皆さんが相互に疑問を出し合い、教えあい、意見交換していくことを大切にしてください。 ひとりひとりを大切にすることは当然ですが、同時に集団としての規律を守ることも求めます。
---------	--

成績評価の方法	レポートと発表の内容・態度、議論への参加状況などを総合的に評価します。
---------	-------------------------------------

教科書/テキスト	ゼミ生と相談の上、1年間のテーマを決め、これに沿ってテキストを選定します。
----------	---------------------------------------

参考書	
-----	--

その他	演習IIIで「卒業研究」を併設します。
-----	---------------------

履修コード	107201
科目名	演習II
担当者名	光岡 博美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本の福祉・社会保障、その制度や現状、日本経済との関連について、やや専門的な学習をする。この演習IIでの勉強をもとに、演習IIIではゼミ論文の作成に取り組んでもらいたい。
---------------------	---

授業スケジュール	テキストに従って、各自の分担を決め、レポーターの報告に従って討議を行う。また、後半は各自の研究を発表してもらう。 夏と春は2泊3日の合宿を行う。但し、合宿への参加は強制しない。
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	前期はテキストを論読していくが、後期は各自の研究を発表してもらうので、前期のうちから準備しておくこと。
---------	---

成績評価の方法	出席状況、レポート報告、研究発表等、総合的に判断する。
---------	-----------------------------

教科書/テキスト	参加者の意見や希望も考慮して決める。
----------	--------------------

参考書	テキストに従って、また必要に応じて紹介する。
-----	------------------------

履修コード	105341
科目名	演習II
担当者名	村松 幹二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>現代の経済社会、特に経済活動と法・制度の関係を学ぶことで経済社会の仕組みについての理解を深めることを目的とする。そのために3年次には、企業組織論と「法と経済学」の基礎を学び、それらを用いて、企業組織における経済活動と法・制度が日常生活や企業の経済活動に与える影響を考察する。</p> <p>経済学を用いて経済社会の仕組みを分析する方法を身につけ、論理的に議論できるようになることを重視する。参加者は日常生活における経済活動や政策に関する議論に関心を持ち、その意味を経済学の視点から分析し、意見を形成できるよう心がけてほしい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期には、企業組織論や「法と経済学」のいずれかのテキストを輪読し、現代の日本経済や日本企業の諸問題について経済学の視点から議論する。夏休みに討論会を行い、そこでの議論を踏まえて、後期にはワーキング・グループによる研究発表を行うとともに個人の研究テーマを決定し、個人研究のための指導を行う。4年次は卒論指導を行う。</p>
----------	---

準備学習	<p>ミクロ経済学の基礎的知識を前提とする。</p>
------	----------------------------

履修上の留意点	<p>ゼミへの出席、発表・報告を担当することを前提とし、毎回の討論に積極的に参加すること。ゼミの自主的な運営に積極的に参加すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>ゼミへの出席、報告内容、討論への積極的な参加などにより総合的評価を行う。</p>
---------	---

教科書／テキスト	<p>開講時にゼミ生と相談の上、決定する。</p>
----------	---------------------------

参考書	
-----	--

その他	<p>演習III履修時には、「卒業研究」(卒業論文)を併設する。</p>
-----	--------------------------------------

履修コード	105401
科目名	演習II
担当者名	森田 佳宏

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 財務会計は、企業をとりまく利害関係者の利害調整およびその意思決定に貢献することを目的として発展してきている。さらに、財務会計によってもたらされる情報に信頼性を付与するために会計監査が行われている。したがって、財務会計と会計監査には密接なつながりがあり、財務会計の知識なくして会計監査を深く理解することはできない。本演習においては、演習Iに引き続き、財務会計および監査の領域に属する諸問題を、学生相互間の討論を中心として研究していく。</p>
---------------------	--

(到達目標)	<p>本演習の到達目標は、財務会計および監査の制度的なしくみと基本的な考え方についての知識の習得である。</p>
--------	--

授業スケジュール	<p>演習Iに引き続き、テキストを用いて財務会計の理論を習得し、その後に監査論の学習に進む。これらの学習は、演習IIIにおける卒業研究の基礎となるものである。なお、夏合宿では日商簿記検定試験2級程度(商業簿記)の学習を行う。</p>
----------	--

準備学習	<p>夏合宿までに、少なくとも日商簿記検定試験3級に合格しておくこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>特別な事情がない限り、毎回出席すること。明るく楽しいゼミにしたいと思うので、自主的にゼミを運営できるような、積極的かつ協調の精神に富んだ諸君の参加を期待している。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>いわゆるゼミであるから出席を重視するが、そのほかにゼミにおける報告(レジュメを含む)・発言内容やゼミ活動に対する取り組みなどを考慮に入れて総合的に評価する。</p>
---------	---

教科書／テキスト	<p>最初の演習時に指示する。</p>
----------	---------------------

参考書	<p>演習の中で適宜紹介する。</p>
-----	---------------------

その他	<p>演習IIIに「卒業研究」を併設する。</p>
-----	---------------------------

履修コード	106301
科目名	演習II
担当者名	谷敷 正光

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>テーマ【戦後日本経済の発展と日本型経済システム】</p> <p>3年演習は、戦後の日本経済の発展過程を中心に学びます。戦後の日本経済は、1950年代半ばから驚異的な経済成長を遂げ、国民総生産で資本主義第2位にまで成長し、「経済大国」「貿易大国」と称された。前期は欧米経済へのキャッチアップ完成までのダイナミックな経済成長と「日本型経済システム」について学びます。後期は1990年をピークに「バブル経済」が崩壊し、長いデフレ時代に突入し、キャッチアップ後時代遅れとなった「日本型経済システム」と「新型経済システム」を構築できずにジャパンバッシングからジャパンバッシングと化した日本経済を中心に学びます。また、4年演習では経済の発展過程を経済・人材・教育の側面から追求します。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回演習オリエンテーション（プレゼンテーションの仕方、資料検索の方法、レジュメの作成法、就活準備法と就活支援について）。</p> <p>第2回～第10回 戦後の日本経済を中心に、1950年代前半経済復興期を中心に、1955年以降の高度成長第一期、第二期、第三期、第四期のキャッチアップ完成期を中心に。</p> <p>第11回～第20回 安定成長期、経済成熟期を中心に、各段階の発展要因とその構造的特質、「日本型経済システム」の構築過程を追及します。前期、サブゼミにおいて「就職適性検査」と「インターンシップのガイダンス」を行います。</p> <p>第21回～第28回 「制度的疲労」によって日本型経済システムが破綻し、「バックスジャポニカ」も露と消え、「失われた十年」とも「失われた二十年」とも称される長期不況を中心に、基本文献や「学術論文」(学会雑誌)等を教材に、プレゼンテーションを行います。後期、サブゼミにおいて「就職模擬面接」の練習と「就職の心構えと準備法」を企業人からレクチャーを受けます。</p> <p>第29回 「ゼミ論文」仮提出（「執筆要領」が守られているか確認。未完成部分の個別指導）。</p> <p>第30回 「ゼミ論文」の提出。</p>
----------	---

準備学習	日頃より新聞や経済の雑誌を読み、日本経済に関心を持つこと。
履修上の留意点	後期は就職を控えて「就職セミナー」に参加する機会も多くなるが、できるだけ授業には出席して下さい。
成績評価の方法	授業への参加、プレゼンテーションへの取り組み、レポートを基本に評価します。
教科書/テキスト	演習の時間に適宜紹介します。学術論文や参考資料を使用しますが、プリントして配布します。
参考書	経済雑誌「東洋経済」「エコノミスト」などは貸し出します。その他、参考書は演習の時間に適宜紹介します。
その他	3年ゼミ(演習II)では、「インターンシップb」を併設していますので、併せて履修して下さい。「インターンシップb」は「インターンシップa」(2単位)の履修が必要です。「a」「b」を併せて4単位の履修が可能です。 4年ゼミ(演習III)では、「卒業研究」(4単位)を併設しています。併せて8単位の履修が可能です。2年次で「教育経済論」の講義(4単位)を履修していない人は、3年次での履修をのぞみます。

履修コード	107501
科目名	演習II
担当者名	矢野 浩一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>演習のテーマは「ビジネス・経済・社会についての実証的アプローチ」である。ビジネス・経済・社会などの様々な問題について自分の力で考え行動できるように実証分析のやり方を学ぶ。それには統計学や経済学・データ分析などの知識が必要である。さらに自分の意見をしっかりと人に伝える文章表現やプレゼンテーション能力、自分の意見を裏付ける統計手法を身につけることを目指す。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	演習Iの内容を踏まえて、学生の興味に応じてより発展的な内容に取り組んでいく(ただし、学生ごとに理解度にばらつきがあると思われるために、演習内容はそれに応じて柔軟に対応する)。
準備学習	教科書・参考書・資料等を予習しておくこと。
履修上の留意点	「統計原論」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「応用マクロ経済学」等の関連科目をあわせて履修することが望ましい。また、連絡のために駒澤大学総合情報センターのアカウントを取得しておくこと。
成績評価の方法	出席を中心に、発表内容・発言・ゼミへの貢献から判断する。
教科書/テキスト	教科書は開講時に協議する。
参考書	教科書だけにこだわらず、統計学・経済学・マーケティング等関連分野の書籍・雑誌・論文等から適宜選択する。
その他	演習III履修時には卒業研究(卒業論文)を併設する。

履修コード	107101
科目名	演習II
担当者名	山縣 弘志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	比較経済論の専門的学習、研究。
授業スケジュール	現代世界のリアリティーをどうとらえるかは、経済学の重要な課題となっている。テクノロジーの発展が生み出すヴァーチャリティーと現実とのギャップをいかに埋めるか、私たちの知恵が問われている。20世紀に顕在化した課題 ― 環境、戦争、福祉、民族、競争と平等、これらにどう取り組むべきか。市場主義の限界は明らかであり、他方で「20世紀社会主義」は対案となりえなかった。ヨーロッパ、ロシアの経験に学び、比較経済論の視点から、これらの問題を考えていきたい。 前期は参考書を読み、後期は各自の発表の形で進める。
準備学習	日頃から、新聞、インターネット、学術文献に目を通して、ヨーロッパやロシアの歴史・現状・政策…等に関心をもつように心がける。
履修上の留意点	毎回、発表担当者だけではなく、出席者全員の積極的発言を求める。
成績評価の方法	出席、発表、討論への参加を総合評価する。
教科書/テキスト	
参考書	相談のうえ決める。
その他	「卒業研究」あり。

履修コード	107701
科目名	演習II
担当者名	吉田 敬一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習は日本経済の構造転換問題をグローバル化との関わりで共同研究し、併せて企業システムの変容の実態を理解することを目的としています。また共同研究を通じて、4年次の卒業研究にチャレンジするテーマをつかむことも3年次の重要な課題となります。
授業スケジュール	講義とは異なり、演習は学生諸君の自主性・主体性が不可欠です。そこで演習生をグループ化し、班単位でレジュメを作成し、報告・議論を進めていきます。また共同研究を通して、演習生各自が自分自身の世界観・社会観（ものの見方・考え方）を確立することを目標として、また各自が個性的なプレゼンテーション能力とリーダーシップを高めることを目指して、演習を運営していきます。
準備学習	①新聞を読む習慣を身につけること。 ②官公庁や調査機関のホームページで最新の調査・統計を参考にして報告・議論できるように準備すること。
履修上の留意点	受身でゼミに参加するのではなく、積極的に発言し、楽しく有意義なゼミを共に創り上げるという姿勢でチャレンジしてください。
成績評価の方法	成績評価は、出席状況、平常点（レジュメ、報告内容、討論への参加度など）およびレポートなどを中心にして総合的に評価します。
教科書/テキスト	共同研究のテキストは、最初のゼミの時間に指定します。
参考書	適宜、指示します。

履修コード	107301
科目名	演習II
担当者名	吉田 真広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	国際金融現象の基礎にある原理や制度を学ぶと共に、日本経済に与える国際金融の実体について学ぶことが目的です。基本的には演習Iで学んだことを基礎にして、金融、国際経済、国際金融について、さらに理解を深めることを目的としています。 また、単に国際金融を専門として勉強するのではなく、それを通じて、社会を見る目、物事の考え方について学ぶことを目的としています。
---------------------	---

授業スケジュール	国内及び国際的信用制度、日本と海外の証券市場、円ドル相場などに関する基礎的な理解を深めていきます。同時に、日本経済を巡る金融及び国際金融環境の変化、ヨーロッパ共通通貨ユーロ、人民元や円の国際化、銀行業及び金融業の国内及び対外的展開、日本とアジアの金融システム、通貨危機、金融危機などを含む様々な金融・国際金融現象を学んでいきます。最近の国際的金融不安についても、アメリカの金融システム、国際通貨論の視点から、その原因と構造を検討していきます。 前期はテキストを利用しつつ、毎回報告者によるレポートと討論を行います。後期は卒業論文の報告を前提に、各人がテーマをもって報告を行っていく予定です。
----------	--

準備学習	国際経済や金融にかかわるニュースを含め、広く経済ニュースを読むようにして下さい。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	授業での報告内容と発言の積極性・内容、提出物など、総合的に判断します。
---------	-------------------------------------

教科書/テキスト	現在、山田博文『これならわかるグローバル時代の日本経済入門 金融経済 第2版』大月書店、2005年12月、を予定していますが、良いテキストが出版されたならば、変更もあり得ます。また、第1回目のゼミで、ゼミ生の希望を聞いてから、テキストを変更することもあります。
----------	--

参考書	必要に応じて、その都度示していきます。
-----	---------------------

その他	ゼミ合宿または研修旅行を予定しています。また、学年を超えた討論会も計画しています。
-----	---

履修コード	109901 109902
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	浅野 克巳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習IIの継続として以下の内容を検討する。
---------------------	-----------------------

授業スケジュール	1. 現代日本経済システムの特徴 2. 日本の企業と産業組織 3. 日本の企業システム 4. 市場と取引コスト 5. 情報の経済分析 6. ネットワーク外部性 7. 巨大企業の誕生と「収権増」の波 8. 技術進歩と研究開発 9. 知的財産権と企業 10. 構造改革と日本経済 11. メインバンクシステムと資本市場 12. 日本企業とコーポレートガバナンス
----------	---

準備学習	3年生までにマクロ経済学およびミクロ経済学の基礎理論をしっかり勉強しておくことが重要である。 伊藤元重『入門経済学』日本評論社、あるいはマンキュー『入門経済学』東洋経済を参考にして復習をしておくことが望ましい。
------	--

履修上の留意点	演習は講義と違い学生諸君の参加によってはじめて成り立つ。授業には必ず出席することはもとより、授業はディスカッション形式で行うので、必ず予習しておくことが大事。また、エクセルを使った経済分析やシミュレーションも行うので「情報センター」を利用して活用できるようにしておくこと。
---------	--

成績評価の方法	出席率、授業態度、レポートの内容等を総合して評価する。
---------	-----------------------------

教科書/テキスト	長岡・平尾『産業組織の経済学』（日本評論社）1998年 ポール・ミルグロム＝ジョン・ロバーツ『組織の経済学』（NTT出版）1997年 小田切宏之『企業経済学』（東洋経済新報社）2000年
----------	---

参考書	内閣府『経済財政白書』その他の資料については授業の中で指示する。
-----	----------------------------------

その他	卒業研究 有
-----	--------

履修コード	109411 109412
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	姉齒 暁

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業研究を行うためのゼミ活動を行います。
---------------------	----------------------

社会人になってから即戦力となる「資料収集能力」「レジュメ等の書類作成能力」「討論・プレゼンテーション能力」、さらにみんなで協力してプロジェクトを成功させるためのプランニング能力を身につけることが目標のひとつです。

また、大学生活の集大成としての年度にふさわしく、卒業研究の成果を論文としてまとめる作業とリンクさせるゼミ活動を行います。

授業スケジュール	演習IIに引き続き、グローバル化の下での国民生活の問題を扱います。食料問題、農業問題、地域経済に大きな影響をもたらすグローバル経済システムの実態を読み解く理論的枠組みを合わせて学んでいくので、経済理論の基礎も同時に身につきます。卒業研究を行うためのゼミ活動となります。
----------	--

準備学習	演習IIを履修していることが条件となります。
------	------------------------

履修上の留意点	就職活動中であっても、ゼミは通常通り毎週開かれます。やむを得ない理由でゼミを休む時もかならず連絡を毎度入れることが必須となります。
---------	---

自分が休む場合には、事前に提出物の提出、報告内容（レジュメ）等の送付などの作業が必要です。

就職活動を孤独ななかで行わない、就職活動だけの学生生活にならない、それが就職活動を成功に導くものです。

語れることをたくさん身につけて社会に出ていけるよう、ゼミで卒業まで頑張りましょう。

成績評価の方法	報告・討論への参加、提出物を含め、平常点で評価します。
---------	-----------------------------

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

その他	卒論を書き上げるというのは、苦しい作業ですが、あとで振り返ってみると人生の出発点を確定する貴重な体験です。これからの人生のすべてが詰まっている宝物となるものです。就職活動とうまく両立させて、悔いのない卒論を書き上げてください。
-----	---

履修コード	113201 113202
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	阿部 弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	テーマ：日本経済論
---------------------	-----------

授業スケジュール	「卒業研究」を併設し、演習IIIおよび「卒業研究」の指導を行います。
----------	------------------------------------

準備学習	「演習（ゼミ）」ですから各自の「研究テーマ」を日常普段に追求することが求められます。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	総合的に評価します。「定期試験」はありません。「卒業研究」の論文発表ができない場合は、単位にはなりません。
---------	---

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	319001 319002 319003
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	阿部 弘
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	テーマ：日本経済論
授業スケジュール	日本経済の歴史的展開 通常のゼミの他に年間2回の合宿予定。11月末から12月初めにゼミ論発表会予定。ゼミナールの成果を「ゼミ論集」に掲載する。
準備学習	ゼミ生は各自の研究テーマを常に開発してください。
履修上の留意点	「演習」ですから出席することは基本です。 年間2回の合宿への参加は不可欠です。 4年次に「課題研究」を履修することが前提です。
成績評価の方法	総合的に評価します。「定期試験」はありません。
教科書／テキスト	池上惇『文化経済学のすすめ』丸善ライブラリー
参考書	

履修コード	111701 111702
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	荒木 勝啓
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経済変動や数理ファイナンスなどのモデルをコンピュータ上でシミュレートするというテーマに向けて様々なコンピュータ技法をマスターしていく。
授業スケジュール	4年生は経済変動モデルや数理ファイナンスモデルを構築していく。昨年度は回帰分析モデル、移動平均モデルを使い株式の売買シミュレーションを行なった。今年度は重回帰プログラミングの成果をもとにさまざまな社会現象の重回帰分析とその統計的検定を行う。
準備学習	必要な時に事前に指示する。
履修上の留意点	
成績評価の方法	オリジナルモデルの作成と検定（ゼミ論）80、平常点20。
教科書／テキスト	
参考書	
その他	プログラミングやコンピュータシミュレーションの実際をマスターした学生は、就職の際に圧倒的に希望の会社、職種につくことができるというのが実情である。DIPの技能についても同様である。本ゼミとは、そうしたプロフェッショナルな技能を身に付けた上で、その技術をもとにはじめてオリジナルな自己表現をすることができるという現実を知る場であると心得て欲しい。

履修コード	109291 109292
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	有井 行夫
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代社会は、企業中心社会です。受験競争や消費競争、夫or妻の争奪競争からマイホーム獲得競争にいたるまで、競争社会の中心に実は企業への就職競争が位置しています。企業の内部もサラリーマンの出世競争・生き残り競争です。そして、最後に生き残って経営者に成り上がったサラリーマンにしても、企業自身の業績責任に不断に脅迫されて過労死寸前です。企業自身が、好況のときも不況のときも生き残り競争のただ中にあるのです。企業は、利潤のための利潤、生産のための生産をどこまでも続けていかなければなりません。日本型企業社会に構造変革を迫っている今日のグローバリゼーションも、この傾向をさらに強めるものにほかなりません。サラリーマンからも、経営者からも、株主からも独立して、自己拡大の衝動に駆りたてられて走り続ける企業。国民の豊かさに無縁の「利潤のための利潤」。地球環境や資源の制約にも無関心の「生産のための生産」。一これが現代社会の最大の謎であり、21世紀前半に解決しなければならない現代社会の最大の課題のありかです。 4年次ゼミは、2年次、3年次と学んできた「企業中心社会」論を中心軸にして、自由にテーマを選んでゼミ論を書きます。
授業スケジュール	前期 有井のプリント、新聞の読み方、川人博『過労死社会と日本』 夏合宿 競争主義対平等主義 後期 有井のプリント、新聞の読み方（ファイルの作成）、奥村宏『法人資本主義』
準備学習	まいにち、日経新聞を読みつづけること。
履修上の留意点	最大のテキストは現代社会そのものです。新聞を読みこなす力を養います。併せて日本語を読む力、書く力、話す力を鍛えます。
成績評価の方法	ゼミへの積極的参加50%、各種レポートの評価50%。
教科書／テキスト	川人博『過労死社会と日本』（岩波新書）、野村正実『雇用不安』（岩波新書）
参考書	有井行夫『マルクスはいかに考えたか』（桜井書店）2700円
その他	コンパ、合宿への参加は必須です。

履修コード	109801 109802
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	飯田 泰之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習のテーマは「日本経済への実証的アプローチ」である。近年、経済問題にとどまらずビジネス・社会・政治分野においても経済学的な思考は必須の教養になっている。そして、自身の意見を発表し、説得する（つまりは「自分がわかっている」ことを人に伝え、他の人を「納得させる」）際には十分な実証的根拠を示し、聞き手を考慮した発表を行うことが必要とされる。本演習は「経済理論の理解」「統計を用いた証拠づけ」「プレゼンテーション能力」の3つを柱に、「使える経済学」を身につけることを目標とした。
授業スケジュール	演習I・IIでの学習内容を継続的に発展させ、卒業研究の形で4年間の学習成果をまとめることを最終目標とする。
準備学習	「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「経済政策」「統計原論」「企業経済学のa、b」等関連科目をあわせて履修することが望ましい。
履修上の留意点	連絡のため駒澤大学総合情報センターのアカウントを取得しておくこと。
成績評価の方法	出席を中心に、発表内容・発言・ゼミへの貢献から判断する。
教科書／テキスト	教科書は開講時に協議する。
参考書	テキストのみにこだわらずゼミ生の興味に沿った論文を取り上げていく。
その他	「卒業研究」を併設する。演習IIIは卒業論文の指導が中心のため、履修登録時の登録を忘れないこと。

履修コード	317701 317702 317703
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	飯田 泰之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文の作成を行う
授業スケジュール	前期は卒業論文作成の準備として、必要な文献を指示し、レポートする。後期はその執筆の進行を確認しながら適宜指示する。
準備学習	「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「経済政策」「統計原論」「企業経済学のa、b」等関連科目を履修済みであること。
履修上の留意点	演習IIからの継続履修か、特に事情がある場合の未履修を許可する。
成績評価の方法	ゼミへの積極的参加とレポート内容による。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	111601 111602
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	石川 純治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	上級会計学の学習、新聞・雑誌・小論文を素材にした学習、および卒業論文の指導を行います。
授業スケジュール	卒業論文については、夏休み中に論文のテーマおよび章別構成を仕上げる。後期になってそれを発表しながら完成させていくという作業をします。
準備学習	別途指示します。
履修上の留意点	
成績評価の方法	ゼミ報告・レポートなどの平常点、及び卒業論文の内容評価。
教科書／テキスト	その都度指示します。
参考書	その都度指示します。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~ishikawa/profile.htm

履修コード	109701 109702
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	石川 祐二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	企業においては、会計情報が利用される場合、それによって様々な目的が果たされる。その目的と会計上の手法との関係を探ることで、会計が社会的な諸関係の中でいかなる意味を持つものであるのかを明らかにしたい。そのことによって、社会現象のもつ意味を考えるための視点を養うことに努めたい。 具体的には、「卒業研究」の論文作成に取り組むことで、社会現象を分析するための視点を身につけてほしい。
---------------------	---

授業スケジュール	ゼミ生各自が研究テーマに関する調査・分析を進め、それを基に4年間の学生生活の集大成としての「研究」に取り組む。演習の時間は、その内容について報告してもらう。
----------	--

準備学習	各自の研究内容に関わる文献・資料を収集・分析し、そこから問題点を抽出し、議論の土台をつくるようにつとめること。
------	---

履修上の留意点	初回の演習時に伝達するスケジュールに則り、「研究」を進めること。
---------	----------------------------------

成績評価の方法	各自の研究内容に関わる報告を中心として評価する。
---------	--------------------------

教科書／テキスト	特に指定しない。ただし、各自の研究に必要な書籍を利用すること。
----------	---------------------------------

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

その他	合宿その他のイベント等については、話し合いで決定する。
-----	-----------------------------

履修コード	110001 110002
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	岩波 文孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経営破綻や機関投資家・投資ファンドの不祥事など企業経営をめぐる問題が続出しています。本演習では、トップ・マネジメントの構造と機能の理解を中核として、コーポレート・ガバナンスとコーポレート・パワーとの連関の検討を通じて、現代の企業経営の課題を多面的に考察していきます。現代の企業経営に関する問題意識を深めていき、卒業研究またはゼミ論文の執筆を通じて、企業と社会との関わり、CSRを踏まえた企業経営システムの構築に向けた課題を追究していきます。
---------------------	--

授業スケジュール	各ゼミ生の「ゼミ論文」あるいは「卒業研究」報告を中心に討論し、「ゼミ論文」・「卒業研究」の作成に取り組めます。 合宿では、各ゼミ生のゼミ論文・卒業研究テーマの報告とともに、現代の企業経営が抱える諸問題について討議していきます。 1. ゼミ論文・卒業研究作成に向けたガイダンス (1) 2. 企業と社会の論点整理 (2~4) 3. 企業の社会的責任 (CSR) の現状と課題 (5~6) 4. ゼミ論文・卒業研究の個別報告 (7~15) 5. ゼミ論文・卒業研究の個別報告と執筆指導 (16~30)
----------	--

準備学習	企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集を行うとともに、関連する経営学の文献を読んでください。
------	---

履修上の留意点	ゼミナールは、受講生の主体的な学びの姿勢にもとづいて運営されます。ここでは専門の学習とともに、自らの課題を発見し、問題意識を深めていくという積極的な学習スタイルが求められます。受講の際には企業経営をめぐる諸問題について問題意識を持ちゼミナールに参加してほしい。
---------	--

成績評価の方法	個人研究の発表内容、積極的な討議への参加、論文の執筆など平常点による総合評価を行います。
---------	--

教科書／テキスト	開講時に指定します。
----------	------------

参考書	必要に応じて指定します。
-----	--------------

その他	「卒業研究」を併設します。
-----	---------------

履修コード	320911 320912 320913
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	岩波 文孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	企業をめぐるビジネス環境は複雑・多様化するとともに、不祥事の続出や経営不振などを解決するために経営システムの改革が企業に求められています。授業では、企業経営の仕組みを理解していくとともに、企業経営に関する興味・関心を深め、企業と社会との関わり、企業の社会的責任 (CSR) を踏まえた経営システムの構築にむけた課題について考えていきます。 課題研究は演習IIIに併設開講されているため、演習で学習した成果や受講生の問題意識に基づき、課題研究を執筆することになります。
---------------------	--

授業スケジュール	演習時に通常の演習の授業とともに課題研究の指導を行います。 1. 授業のガイダンス (1~2) 2. 企業と社会をめぐる論点 (2~7) 3. CSRの現状 (8~15) 4. 現代CSRの課題 (16~23) 5. 現代の企業管理の課題と展望 (24~30)
----------	---

準備学習	企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集をしてください。
------	--

履修上の留意点	課題研究は演習IIまたは演習IIIに併設されています。
---------	-----------------------------

成績評価の方法	日常の課題研究報告および指定された期日に提出された課題研究に基づき評価する。
---------	--

教科書/テキスト	開講時に指定。
----------	---------

参考書	随時指定。
-----	-------

その他	「課題研究」を併設します。
-----	---------------

履修コード	110101 110102
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	大石 雄爾

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	2年次・3年次の活動成果を「卒業論文」としてまとめること、そのための準備と執筆が主な活動となります。
---------------------	--

授業スケジュール	前期は、各自が就職活動に専念し、自分の性格や能力に適した、やりがいのある仕事や就職先を見つけるための活動をします。 後期には、卒業論文作成のために詳細なレジュメを作成し、執筆にとりかかります。提出された論文は、ゼミ活動の思い出として残るよう『経済学ゼミ論集』(大石ゼミナール発行)にまとめられます。
----------	--

準備学習	新聞にできるだけ目を通し、時事問題については自分でよく考えてみることを勧めます。
------	--

履修上の留意点	原則として平常点で評価しますが、「卒業論文」が提出されない場合には演習IIIの単位を取り消すことがあります。
---------	--

成績評価の方法	平常点で評価します。
---------	------------

教科書/テキスト	新聞記事等、授業に使用する教材はそのつど支給します。
----------	----------------------------

参考書	特に指定しない。
-----	----------

その他	①「卒業研究」を併設します。 ②コース制との関連：コースの履修は自由です。
-----	--

履修コード	110401 110402
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	大吹 勝男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	2年次・3年次の学習成果を基礎にして卒業論文の作成をめざします。
---------------------	----------------------------------

授業スケジュール	社会保障及び社会福祉等々に関する論争は、我々人間が生きてゆく上での重い課題を背負っている。故にテキストに拠る学習だけではなく、上記に関連する毎日のニュースを知らなければならぬ。本ゼミでは毎回、新聞・雑誌記事によってそれを補う。また、四年生は就活の情報収集の為に利用する。
----------	---

準備学習	テキストを読んでおくこと。
------	---------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	ゼミ論文の提出によって成績を評価する。「卒業研究」も併せて開講する。
---------	------------------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	112701 112702
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	小栗 崇資

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本の企業会計制度は、現在、大きな転換期にさしかかっており、会計ビッグバンを経て国際会計基準への統合へと突き進んでいます。計算構造の面でもディスクロージャーの面でもこれまでの財務会計の枠組みや原理・方法は大きく変容しつつあるといえます。会計の学習者にとっては、従来のような勉強だけでは変化についていくことができないので大変ですが、発想を変えれば、現代社会のなかでの会計の役割や仕組みを研究するチャンスと考えられます。演習では、「グローバル化する日本の企業会計制度」をテーマに学習を進めたいと思います。
---------------------	--

授業スケジュール	演習IIIでは、演習IIに続き、現代の財務会計の理論や方法を学習する予定です。そうした中で、国際会計基準のいくつかを取り上げ、その内容を深く検討してみたいと思います。演習は皆さんに報告をしてもらい、ディスカッションする方式で行います。資格勉強のように暗記するのではなく、「なぜそうなのか」「どうしてこうなるのか」という問題意識をぶつけあって研究することをこの演習ではめざします。後期には自分の研究テーマを設定し、卒業論文を書いてもらうつもりです。
----------	---

準備学習	指示に従い、事前の準備をしておくこと。
------	---------------------

履修上の留意点	ゼミでは皆さんに積極的に発言したり質問したりすることを求めます。毎回、司会者や報告者、質問者などの役割を分担して進める予定ですので、必ず出席してください。なお「卒業研究」も開講します。
---------	--

成績評価の方法	総合的に判断します。①出席状況、②報告内容、③レポート、④ゼミ運営への貢献度。
---------	---

教科書/テキスト	演習の中で指示します。
----------	-------------

参考書	演習の中で指示します。
-----	-------------

履修コード	112401 112402
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	河村 徳士

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	近現代日本の経済史・経営史に関連したテーマにもとづく卒業研究(卒論)を、教員の指導を受けつつ執筆する。受講生は、執筆に必要となる資料や統計データをできるかぎり渉猟し、実証密度の高い分析作業に挑んでもらう。
---------------------	--

授業スケジュール	(1)前期ガイダンス、(2)～(13)目次案の作成、論文執筆や図表作成の技法、先行研究のサーベイ、参照資料・統計データの収集などに関する指導および適宜中間報告、(14)～(15)卒業研究中間報告会、(16)後期ガイダンス、(17～28)卒業研究の草稿作成と個別添削指導および適宜中間報告、(29)～(30)卒業研究最終報告会 *詳細については、前期ガイダンス、後期ガイダンス時に知らせる。
----------	---

準備学習	前期・後期とも、所定のスケジュールにしたがって各自で進めておくこと。
------	------------------------------------

履修上の留意点	受講生の新規募集は行わない(演習IIの継続者のみ受講可)。
---------	-------------------------------

成績評価の方法	卒業研究の作成に取り組む姿勢と論文の完成度で評価する。
---------	-----------------------------

教科書/テキスト	開講時に受講生と相談のうえ指定する。
----------	--------------------

参考書	個別指導の中で、適宜紹介していく。
-----	-------------------

その他	「卒業研究」を併設する。
-----	--------------

履修コード	109421 109422
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	北口 りえ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	税務会計は、法人税法における課税所得計算に関する学問です。法人の所得に対して課される法人税は、企業にとって避けられないものであり、企業行動を左右する重要な要素のひとつとなっています。本演習は、法人税における課税所得が企業利益をベースとしてどのように算出されるのか、その課税所得の計算構造に関する理解を深めることを目的とします。
---------------------	---

授業スケジュール	各自が選んだ研究テーマについての発表を中心に進め、ゼミ内でのディスカッションや論文指導により、その研究について深く掘り下げてもらいます。
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	ゼミ内で意欲的に発言し、ゼミの運営や行事(合宿、ゼミナール連合会での研究発表会、証券取引所見学や裁判所見学など)にも積極的に参加してください。卒業研究も開講します。
---------	--

成績評価の方法	出席率、報告内容、ゼミやゼミの運営への参加度、レポート等の総合評価により行います。理由のない遅刻や無断欠席は大きな減点としますので、注意してください。
---------	---

教科書/テキスト	特になし
----------	------

参考書	特になし
-----	------

履修コード	112001 112002
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	小杉 修二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)

演習Iに同じですので、そちらを見てください。

授業スケジュール

基本的には演習I、IIに同じです。演習Iでは温暖化のメカニズム、その害悪について学び、演習IIではそれらの知識を踏まえて、その対策についてどんなものがあるか①地球に日傘 ②炭酸ガスの大気からの除去 ③炭酸ガスの発生削減)について考えます。
 IIIはその総仕上げとして、2050年の世界の人口、経済規模を予測し、そこからどれほどの温室効果ガスが出てくるかを考えます。そして、海と森林が吸収してくれる分を差し引けば、放置しておいたときに大気中の炭酸ガス濃度を増やす分です。これらを「自然エネルギー」でどれだけ代替できるのか、また、省エネルギーの可能性はどれだけあるのかを考えます。
 温暖化対策は所詮は人類の意思決定の問題ですが、地球はひとつでも人類はひとつではありません。それぞれに個別利害を持つ存在である国、集団、個人に分かれています。先進国と途上国では所得に大きな格差があります。貧しい国は豊かな国の生活レベルに追いつくこと、特に古典的貧困を解消することを優先しています。豊かな生活を謳歌している先進国の人間がその現実を知りながら、中国人やインド人はこれまで車に乗っていなかったのだから、これからもそれで頼むという通じるのでしょうか。それどころか、先進国の中にも「格差」があって、これらを解決するためには経済成長が必要だとの議論がされています。これまでは経済成長の中で格差問題は解決されてきたと考えられていました。一説によれば、21世紀末の世界の経済規模は今の10倍程度とされています。その時には炭酸ガスの排出規模も10倍程度になるでしょう。これを省エネルギーで乗り切るとしたら、効率を10倍にすることが最低限の条件です。トヨタのプリウスで言えばガソリン1リッターで140キロメートル走ることになります。たぶん不可能ですね。私たちが挑戦する課題はこうしたものです。

この課題を解決するのがいかに難しいかはすぐ想像できます。発想を変えて炭酸ガスを出さないエネルギーへの転換が必要です。つまり、今はエネルギー革命の時代です。これに対応して経済も全面的に変わる時代です。それにはどんな技術、社会の仕組みが必要かを考えます。

4年次も新聞資料を活用しますが、温暖化回避に現実の経済活動とどんな関係があるかに留意して自ら記事を探す姿勢が望ましい。

- 第1-5週：2050年の世界の人口と経済規模
- 第6-10週：代替エネルギーの可能性
- 第11-15週：温暖化対策として省エネルギーの可能性
- 第16-20週：炭酸ガスの吸収源の可能性
- 第21-25週：巨大技術の可能性とライフスタイル変更の可能性
- 第26-30週：炭酸ガス削減の国際的取り決めの方法

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書
その他

日ごろより温暖化関係のテレビ番組、新聞記事等に目を通すこと。

演習Iと同じ。

出席状況とゼミへの参加の積極性、発言を総合して判定。

演習Iの継続+新しいテキストをゼミの進み具合に応じて考える。

演習Iと同じ。

〈卒業研究〉あり。通常のゼミの4単位とは別に卒業研究の4単位が当てられる。

履修コード	109431 109432
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	小西 宏美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)

「多国籍企業、多国籍金融機関とカジノ資本主義」をテーマとしています。「カジノ資本主義」とは何か、多国籍企業・多国籍金融機関の活動がいかに経済を「カジノ化」してきたのか、「カジノ資本主義」は我々の生活をどのように変えてきたのか、について研究します。

授業スケジュール

前期はテキストを読み進めながら卒業研究のテーマを考えます。後期は各自の研究テーマにそって卒業研究を作成します。

準備学習

毎回、テキストの該当箇所を読んでおくこと。報告にあたっている場合はレジメを用意すること。

履修上の留意点

卒業研究とセットで単位登録してください。

成績評価の方法

演習IIIは出席、報告、討論で評価します。卒業研究は提出した卒業論文で評価します。

教科書/テキスト

第1回目の講義で指示します。

参考書

履修コード	112901 112902
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	小林 正人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>テーマは「戦後日本の産業発展と景気循環」。 このゼミでは「卒業研究」(卒業論文のみ)の作成を指導します。これにより各ゼミ生は、4年間の経済学部での学習と研究を集大成します。 3年生までのゼミでの調査や研究をふまえて、各ゼミ生が研究したい産業ないし業種について、あるいは特定の経済問題や労働生活問題について、テーマを自発的に決め、歴史と現状、問題点や課題などを卒業論文にまとめます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>「卒業論文の提出までに必要な事前審査」として、(1~2)各ゼミ生による「卒論プラン」の発表、(3~4)参考文献一覧の提出、(5~10)文献研究発表、(11~15)卒論の予定目次と題名の発表、(16~20)卒論の本論の中間発表、(21~25)結論の発表と審査、(26~30)最終稿の総合審査という各段階があります。最終稿の締め切りは11月末のゼミの日です。 (注意)夏季休業の前後に、「卒業研究論題届」を教務部に出しておくこと。 上記の事前審査を通った論文は、教務部に提出できます(12月)。さらに卒業論文集(仮称『日本経済学生論集』)として編集し、印刷、製本します。したがって、卒論の最終稿はワープロを使い一定の書式に従って提出します。 なお適時、最新の新聞の経済関連記事を使うので、購入してくること。</p>
----------	--

準備学習	各自の「卒論プラン」に沿って文献研究をすすめ、発表の準備をすること。
履修上の留意点	ゼミの円滑な運営のためのルールと役割分担に従うこと。
成績評価の方法	上記の「卒業論文の提出までに必要な事前審査」を通ってきたかどうかを評価します。
教科書/テキスト	
参考書	高価な文献で、卒論に必要なものがあれば、早めに申し出ること(研究費で購入する)。
その他	「卒業研究」(4単位、卒業論文のみ)を併設。

履修コード	110501 110502
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	清水 卓

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>EU諸国の経済社会問題について、学生各自が決めたテーマでゼミ論文あるいは「卒業研究」を作成するのが課題です。参加者の意見がまとまれば、統一したテーマを集团的に研究することもあります。一生の思い出になるよう、大学時代の学習の総まとめとして真剣に取り組んでもらいたいと思います。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	EUの時事問題の検討とEUに関する研究書の講読を行います。
----------	-------------------------------

準備学習	毎週、卒業研究制作の作業の経過報告を求めます。
履修上の留意点	演習Iを参照のこと。
成績評価の方法	演習Iを参照のこと。
教科書/テキスト	演習Iを参照のこと。
参考書	
その他	演習Iを参照のこと。

履修コード	109501 109502
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	代田 純

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	金融についての研究
---------------------	-----------

授業スケジュール	就職活動と両立させて、卒論完成をめざす。
----------	----------------------

準備学習	テキストで予習、復習すること。
------	-----------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	卒業論文の提出、内容で評価する。9月以降の卒業研究中間発表をしない場合、単位は認定しない。
---------	---

教科書/テキスト	代田純編『日本の国債・地方債と公的金融』(税務経理協会) 代田純『日本の株式市場と外国人投資家』(東洋経済)
----------	---

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

その他	日本経済新聞、朝日新聞その他を使用する。
-----	----------------------

履修コード	110601 110602
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	鈴木 伸枝
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	公共経済学のゼミで学んだ知識を生かし、自らの興味をもった事柄について卒論 (卒業研究) を書いてもらいます。
授業スケジュール	卒業研究
準備学習	特になし。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席状況・予習状況・討論への参加度・レポートにより評価します。
教科書/テキスト	受講者と相談して決定します。
参考書	
その他	「卒業研究」を併設します。

履修コード	317101 317102 317103
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	鈴木 伸枝
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	公共経済学の分野における課題研究 (卒論)
授業スケジュール	課題研究 (卒論)
準備学習	特になし。
履修上の留意点	履修を決定する前に、どのようなことを勉強したいのか、相談に来てください。(テーマによっては指導できないこともあります)
成績評価の方法	論文にどれだけ力を注いだからで判定します。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	110901 110902
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	瀬戸岡 紘
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「グローバル化」と「デジタル化」の時代に即応して、経済、社会、経営、文化など各自の学習と研究の成果を卒業論文にまとめます。何をテーマにとりあげるかは、各自の希望で決定します。現代経済過程の成功例、失敗例どちらも最も豊富にもっているアメリカの経験を参照するところから、意外な結論をひきだせるなら卒論は成功といえましょう。
授業スケジュール	卒業論文の検討と完成が年間の最大の課題です。各自の論文の構想は、ゼミ生全体からのコメントを受けることでねりあげられます(みんなが一人のために)。他方、各ゼミ生は他人のテーマに関与することで耳学問としての幅広い知識と教養を得ることができます(一人がみんなのために)。また数百人におよぶ当ゼミ卒業生との交流をつうじて、就職・進学・留学の準備をします。そのほか、日本学生経済ゼミナールへの後輩の参加を後援したり、インターネットや遠隔授業をつうじた海外の学生との交流をリードしたり、工場見学などゼミの各種イベントにスーパーバイザーとして後輩を支援します。
準備学習	随時、説明します。
履修上の留意点	
成績評価の方法	ゼミ活動にたいする各自のあらゆる態度を総合して評価します。最大の眼目は当人のやる気です。
教科書/テキスト	卒業論文の作成に必要なあらゆる文献が教科書になりますが、それは個々人で異なります。
参考書	卒業論文の作成に必要なあらゆる文献が参考書になりますが、それは個々人で異なります。
その他	このゼミは、卒業生のほか、外部の人も参加・協力してくれることの多いゼミです。このゼミにかんする一層くわしい情報は、ゼミに直接きて見学したり問い合わせたりすることのほか、ゼミ生作成による下記のホームページにアクセスしてください。 http://setookazemi.xxxxxxxx.jp/

履修コード	111101 111102
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	曾我 信孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業研究の指導と実社会に向けてのマーケティングの問題点の検討をねらいとする。
授業スケジュール	1～15回 ゼミ生の就職希望企業のマーケティング分析。 16～25回 卒業研究の指導およびマーケティングの社会問題の検討。 26～29回 合同ディベート大会の準備、合同ディベート大会 (12月の第2日曜に開催予定) 30回 合同ディベート大会の反省会

準備学習	3年次に執筆した論文の問題点を加筆・修正して卒業論文にします。論文再検討のための資料収集などの準備は十分しておいてください。 また、12月に開催します合同ディベート大会では幹事をしてもらいます。試合とその運営で忙しいと思いますので、ディベートの準備はしっかりしておくようにお願いします。
------	--

履修上の留意点	就職活動のため出席が困難な場合があるでしょうが、極力出席することを義務付けます。なお、併設している卒業研究受講者は、最低1回の発表を義務付けます。
---------	---

成績評価の方法	平常点 (授業への取り組み態度40%、ゼミでの発表20%、ディベート大会参加40%)
---------	--

教科書/テキスト	特に指定しない
----------	---------

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

関連リンク	http://geocities.yahoo.co.jp/g/nobusoga
-------	---

履修コード	109441 109442
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	舘 健太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	人々のかけひきを分析するための道具である「ゲーム理論」について学習し、これを使ってさまざまな社会現象を自分の言葉で説明できるようになることをめざす。ゲーム理論は、スポーツやカードゲームの必勝法の研究というよりも、私たちの日常生活や社会のなかで起きるさまざまなかけひきをゲームとみなし、それらをいくつかのパターンに整理して結果を予想するための学問で、その応用分野はとて広い。情報通信や交通手段の発達などによってネットワーク化されている今日の経済では、人々のつながりに関する理解を深めることの重要性はますます高まっている。 本演習では主に産業組織論、すなわち企業の投資、生産、販売などを通じた競争戦略や他の企業との戦略的提携など、それぞれの産業における企業間の競争と協力について扱う。また、補助金や規制などを通じて市場への介入を行う政府の産業政策・競争政策についても考える。例えば、家電産業や情報通信産業ではしばしば製品間の互換性が重要になるが、そのときに企業はどんな戦略をとるべきだろうか。政府は何か政策を打ち出すべきだろうか。ゲーム理論という共通の土台の上立って議論できるようになることを目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	現実の経済現象をゲーム理論を応用して説明する論文を作成するために、発表とコメント、文章作成と添削と繰り返しながら完成を目指す。
----------	---

準備学習	さまざまな文献を読みながら早めにテーマ探しをしてほしい。
------	------------------------------

履修上の留意点	卒業研究を提出することを前提とする。
---------	--------------------

成績評価の方法	平常点、卒業研究の仮提出 (10月第4週まで)、本提出 (12月) と内容で評価する。
---------	---

教科書/テキスト	とくになし。
----------	--------

参考書	駒澤大学経済学部「卒業研究の手引き」
-----	--------------------

履修コード	317901 317902 317903
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	館 健太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>人々のかけひきを分析するための道具である「ゲーム理論」について学習し、これを使ってさまざまな社会現象を自分の言葉で説明できるようになることをめざす。ゲーム理論は、スポーツやカードゲームの必勝法の研究というよりも、私たちの日常生活や社会のなかで起きるさまざまなかけひきをゲームとみなし、それらをいくつかのパターンに整理して結果を予想するための学問で、その応用分野はとてつもない。情報通信や交通手段の発達などによってネットワーク化されている今日の経済では、人々のつながりに関する理解を深めることの重要性はますます高まっている。</p> <p>本演習では主に産業組織論、すなわち企業の投資、生産、販売などを通じた競争戦略や他の企業との戦略的提携など、それぞれの産業における企業間の競争と協力について扱う。また、補助金や規制などを通じて市場への介入を行う政府の産業政策・競争政策についても考える。例えば、家電産業や情報通信産業ではしばしば製品間の互換性が重要になるが、そのときに企業はどんな戦略をとるべきだろうか。政府は何か政策を打ち出すべきだろうか。ゲーム理論という共通の土台の上に立って議論できるようになることを目指す。</p>
授業スケジュール	現実の経済現象をゲーム理論を応用して説明する論文を作成するために、発表とコメント、文章作成と添削と繰り返しながら完成を目指す。
準備学習	さまざまな文献を読みながら早めにテーマ探しをしてほしい。
履修上の留意点	卒業研究を提出することを前提とする。
成績評価の方法	平常点、卒業研究の仮提出（10月第4週まで）、本提出（12月）と内容で評価する。
教科書／テキスト	とくになし。
参考書	駒澤大学経済学部「卒業研究の手引き」

履修コード	113001 113002
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	田中 和雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>演習IとIIの履修を前提にし、その集大成として各自が興味あるテーマに関して論文ないし本格的レポートを作成することを目指す。テーマは広く労働に関連する問題が望ましい。</p>
授業スケジュール	<p>各自のテーマに沿って、調べたことや纏めたことを、逐次報告してもらい、全員で討論・アドバイスをする形式で進める。また毎回のゼミでは、最初の20分で、1週間の新聞記事の内容整理を行い、最新の動向をおさえる作業を行う。新聞記事の整理は、現代的な問題意識を養うのに適しているからである。こうしたプロセスにおいて、問題意識の深め方、情報収集の仕方・整理、論理的な記述の方法、レポートや論文の作法なども身に付けていくことにする。</p>
準備学習	<p>毎回の下調べやゼミでの議論をメモして、情報カードに残しておくこと。溜まった情報カードを組み合わせて体系的な理解を獲得するとともに、論文作成の基礎情報を整理することが目的です。</p>
履修上の留意点	<p>興味をもった問題の検討をまとめるという作業は考えることそのものである。そうした作業は必ずや役に立つ。</p>
成績評価の方法	ゼミでの積極的な姿勢、レポート・論文への取り組みと成果で評価します。
教科書／テキスト	ゼミ生と話し合って決定します。
参考書	適宜指示します。
その他	「卒業研究」を併設します。

履修コード	112801 112802
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	鄭 章淵

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) この授業では、1年間をかけて卒業研究(卒業論文)作成のための指導を行う。あらかじめ決定した年間スケジュールに合わせて授業は進められていく。卒論テーマの決定、文献や資料の収集など作成作業の進捗状況を定期的にチェックして卒論を完成させる予定である。</p> <p>(到達目標) この授業では、卒業論文の作成を3年間のゼミ活動の集大成と位置付ける。それまでの学習を通じて決定したテーマを掘り下げ、アジア経済に対するゼミ生諸君の理解度を論文という形あるものに具体化する。このような作業を通じて、アジア経済論を学ぶ重要性について再認識してもらうことがこの授業の最終的な到達目標である。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>演習Ⅰ・Ⅱでの学習を基礎に、初回授業時に発表する年間スケジュールに沿って「卒業研究」(卒業論文)を作成する。ゼミ生諸君各自のテーマに従い、グループおよび個別指導を行う。</p> <p>前期は、テーマ決定、参考文献や資料の収集と精読が主な作業内容となるが、定期的に各自の作業の進捗状況についてゼミの場で報告してもらう。</p> <p>夏季休暇中に論文構成を決定し、各章の内容についてその要旨をまとめる作業を終える。そして、後期初回授業時にそれについて発表する機会を設ける。</p> <p>後期は、個別指導を中心にゼミ活動が進められ、11月末までに論文を完成させる。その後、内容をチェックして完成度の高い論文に整え、12月中旬の指定日に提出してもらう予定である。</p>
----------	--

準備学習	卒業研究の年間スケジュールに記載された諸課題を十分に把握し、チェック時までに確実に消化しておくこと。 アジア経済に関する新聞記事やWEBサイト資料を常日頃から読むようにすること。
------	--

履修上の留意点	この演習では3年間のゼミ活動の集大成として卒業論文の作成を目標としているので、ゼミ生諸君には論文の完成に向けて大いに努力してもらいたい。
---------	--

成績評価の方法	授業での積極性および卒業研究の内容を参考に評価する。
---------	----------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

その他	「卒業研究」を併設する。
-----	--------------

履修コード	111301 111302
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	徳永 俊明

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) いわゆる<南北問題>は今人類が直面している最大の問題の一つです。このゼミでは、発展途上諸国=アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国の国際関係と、その中での人びとの生活の現状を勉強します。</p> <p>(到達目標) 発展途上諸国やそこで暮らす人びとの状態をただ知って終わるのではなく、そのような状態を鏡にして、日本、日本人そして私たち一人ひとりの状態を見直し、考えてみるのが大切です。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	上記の趣旨に沿って、学生諸君と相談しながら進めます。
----------	----------------------------

準備学習	普段から人類・私たちの状態について関心を持ち、自分の頭で考える習慣を作ることが求められます。
------	--

履修上の留意点	まずは出席、そして考える努力、発言する努力の3点から評価します。
---------	----------------------------------

成績評価の方法	
---------	--

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

その他	卒業研究を併設します。
-----	-------------

履修コード	112601 112602
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	友松 憲彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習II (3年) で開始した研究を継続発展させ、卒業研究をまとめます。
授業スケジュール	文献講読と卒業研究の中間報告を並行しておこないます。
準備学習	レポーターはレジメを作成し、他の者はテキストの該当箇所を予習し疑問点を明らかにしておく。
履修上の留意点	「経済史」、「西洋経済史」「日本経済史」「商業史」等をあわせて履修することが望ましい。
成績評価の方法	平常点 (ゼミに取り組む姿勢、報告、発表、討論) と年度末レポートを総合して評価します。
教科書/テキスト	最初の授業で指示します。
参考書	
その他	卒業研究を併設します。合宿や博物館訪問、展覧会見学を予定しています。

履修コード	112501 112502
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	中濟 光昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文作成を中心にゼミを進めます。 毎回、各自の研究内容における問題点を明確にし、それについて全員で討論・アドバイスをすることで、お互いの卒業論文の内容を高めていくことで、比較的長い文章を誤字や論理的矛盾なく完成することを目的とします。
授業スケジュール	(1) ~ (4) 研究計画書作成・論題の提出 (5) ~ (14) 研究テーマに関する調査・分析 (15) 中間報告・改善点の指摘 (16) ~ (29) 進捗報告 (30) 最終発表・口頭試問 毎回、レジメ作成、レポーティング、発表を行い、最終的に卒業論文を完成させます。
準備学習	演習II (中濟担当) の単位を修得していることが必須です。 毎回発表資料を作成する必要がある。
履修上の留意点	・ゼミへの積極的な参加を期待しています。 ・追加募集は致しません。 ・メールを読む、ワープロを打つといったことがゼミ活動上必須です。
成績評価の方法	研究進捗報告 (50%)、中間報告 (20%)、口頭試問 (30%) による総合評価を行います。
教科書/テキスト	別途指示
参考書	別途指示
その他	ゼミではパソコンを使用しますので、本ゼミを受講したい人は、総合情報センターへ利用登録を行う必要があります。卒業研究 (論文及び作品) を併設します。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~nakasumi/

履修コード	109451 109452
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	長山 宗広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	テーマ: 「地域の活性化」 演習IおよびIIでの学びを活かし、4年間の経済学部での学習と研究の集大成として、「卒業研究」の作成に取り組む。
授業スケジュール	各ゼミ生の「卒業研究」報告を中心に討論する。 卒業論文の提出にあたっては、「研究企画書の作成」「中間報告会での予備審査」「最終原稿の審査」といったプロセスを経る必要がある。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	演習I、IIと同じ。
成績評価の方法	演習I、IIと同じ。 その他、上記の卒業論文提出までのプロセスに関して評価する。
教科書/テキスト	演習I、IIと同じ。
参考書	演習I、IIと同じ。
その他	「卒業研究」を併設する。

履修コード	318101 318102 318103
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	長山 宗広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	テーマ：「地域の活性化」 4年間の経済学部での学習と研究の集大成として、「卒業研究」の作成に取り組む。
---------------------	--

授業スケジュール	ゼミ生の「卒業研究」報告を中心に討論する。 卒業論文の提出にあたっては、「研究企画書の作成」「中間報告会での予備審査」「最終原稿の審査」といったプロセスを経る必要がある。
----------	--

準備学習	学部授業の「地域経済論」と「ベンチャー論/起業論」の内容を理解しておくこと。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	平常点（卒業論文の作成プロセス）にて評価する。
---------	-------------------------

教科書/テキスト	長山宗広『日本的スピノフ・ベンチャー創出論』同友館、2012年
----------	---------------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	112101 112102
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	番場 博之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	番場ゼミ（演習III）の目的は、現代日本の流通・産業および世界の文化・暮らしと経済・産業の関係の研究と卒業論文の執筆である
---------------------	---

授業スケジュール	(1~20) トピック演習・企画授業・プレゼンテーション (21~30) 卒論報告
----------	--

「日経MJ」「日経産業新聞」「朝日新聞」等といった新聞あるいは「週刊ダイヤモンド」「企業診断」「商業界」などのビジネス誌を用いて、現在日本の経済事情・産業事情のなかからトピックを取り上げ、それについて全員で議論をする。また、各種地図・統計資料や旅行ガイドブック・時刻表なども用いて、各国の文化・経済の事情（特にまちづくりや地域商業関係）を検討しながら現在の世界経済・産業事情（特に流通・サービス産業）の状況についての議論を行う。

これらの学習ならびに2年次からの学習の成果を確認すべく、年末にディベートを行う。そこでのテーマは、4年次に議論してきた世界経済、日本の産業事情などの項目のなかから、共通して関心をもった事柄を選定する。ディベートのテーマは「日経MJ」や「週刊ダイヤモンド」「商業界」などのなかから自分たちで選定する。

また、巡検を行う。巡検等の場所は「江戸東京博物館」「塩とたばこの博物館」「エビスビール記念館」「東京証券取引所」「日本銀行」「長谷川町子美術館」「貨幣博物館」「世田谷区立郷土資料館」などの文化施設および東京中央卸売市場等の卸売市場や各地の斎市を予定している。

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	詳細なシラバスは開講時に配布
---------	----------------

成績評価の方法	日常の活動やゼミへの貢献度等を総合的に評価
---------	-----------------------

教科書/テキスト	教科書は使用しない。 新聞・雑誌・統計資料・白書などを使用していく。
----------	---------------------------------------

参考書	基本的な書籍、新聞、雑誌、地図、統計資料、ガイドブック・白書などは研究室で揃えます。
-----	--

履修コード	111901 111902
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	百田 義治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習は演習I・IIの継続として位置づけています。現代企業の経営管理に関わるテーマを中心に、演習IIの夏休み後に決定した卒業論文の作成に取り組みます。
授業スケジュール	演習I・IIの継続です。各人のテーマについて「卒業研究」に取り組み、毎回2人づつ卒業研究の進捗度を発表します。 前期 第1回 インTRODクダクシヨウ 第2回～第5回 毎回2名、計8名が発表 第6回 第1回の中間総括 第7回～第10回 毎回2名、計8名が発表 第11回 第2回の中間総括 第12回～第13回 毎回2名、計4名が発表 第14回～第15回 前期総括と課題の確認 後期 前期と同じスケジュールで、第16回～第30回に「卒業研究」の発表を行います。
準備学習	授業は卒業研究の発表を中心に質疑、コメントで進められます。発表担当者はプロジェクター用の発表資料と補足説明のレジメを準備します。その他の学生は各回の発表テーマに沿った質疑ができるように準備学習しておくことがゼミに参加する前提条件です。ゼミでの議論の活性化には、個人の準備やサブゼミでの準備をして、ゼミに参加することが必要です。ゼミに参加するための準備学習は、一人ひとりの日々の努力と、グループごとのサブゼミでの議論の積み上げが原則です。
履修上の留意点	経済雑誌や新聞やネット情報などを日常的に熟読・検索し、現代企業とその経営に関心を払い、各自の問題意識をもってゼミに参加してください。
成績評価の方法	ゼミにおけるリーダーシップ、発表内容、レポートなどを総合して平常点評価を行います。
教科書/テキスト	未定
参考書	未定
その他	「卒業研究」(4単位)を併設します。

履修コード	113101 113102
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	松井 柳平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒論を完成させる。
授業スケジュール	卒論指導。
準備学習	発表者(発表グループ)は、入念に文献・資料等を調査し読解しレジメや付随するファイルを作成の上、プレゼンの練習等もおこなうこと。発表者(発表グループ)以外のゼミ生も、入念に文献・資料を調査し読解し疑問点や論点を明確にしておくこと。
履修上の留意点	受講生は、3年次からの継続に限る。
成績評価の方法	成績は授業中のゼミへの貢献によって評価する。具体的には、報告内容、質疑応答、討論への参加、課題達成度、ゼミ行事への積極的参加等を総合して評価する。出席は必須条件である。
教科書/テキスト	必要な場合、輪読をおこなう。テキストは、ゼミ生と相談の上、決定する。
参考書	授業のなかで必要に応じて、指示する。
その他	「卒業研究」を開設する。

履修コード	109461 109462
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	松田 健

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本演習では、「現代における企業と社会との関係を、どのように捉えればよいのか」という命題に基づきながら、企業経営の現代的課題や企業活動の体系的理解を通じて企業を広く理解する視点を身につけることを目標としています。</p> <p>とりわけ1990年代以降、企業の経済活動が急速にグローバル化したことを受け、それ以前の社会・政治・文化・国際関係といった多様な領域における諸問題と企業との関係性は大きく変容しつつあります。企業が持つ経済的性格のみならずその社会的性格にも焦点を当て、企業を社会経済システムの中に位置づけながら、企業と社会との相互関係から生じている現代的諸問題を考察し、それを卒業研究につなげていきたいと考えています。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>本演習では、企業形態、株式会社制度、企業統治ならびに企業の社会的責任などに代表される、現代の企業に関わる重要な課題を考察の対象とします。一年を通じて、企業に関する基礎的な知識、概念ならびに理論に対する考察を踏まえ、各自で設定した研究テーマにしたがって卒業研究論文の作成を試みます。</p> <p>第1回 オリエンテーション：論文作成の手順 第2回～第5回 演習参加者各自の研究課題テーマについての討論 第6回～第10回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読(1) 第11回 小括：資料輪読(1)による知見をまとめた研究報告(1) 第12回～第14回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読(2) 第15回 小括：資料輪読(2)による知見をまとめた研究報告(2) 第16回～第20回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読(3) 第21回 小括：資料輪読(3)による知見をまとめた研究報告(3) 第22回～第26回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読(4) 第27回 小括：資料輪読(4)による知見をまとめた研究報告(4) 第28回 論文作成の技術的指導：製本に向けて 第29回 卒業論文口頭試問(1) 第30回 卒業論文口頭試問(2)</p>
----------	---

準備学習	卒論作成に向け、関連書籍、新聞、あるいはビジネス雑誌等は各自で必ず読んでおくこと。
------	---

履修上の留意点	卒業研究に向け、自らが設定した研究課題を体系的な論文にまとめ上げていく作業には、強い自律心が求められます。したがって演習参加者は、自らの課題を自らが設定し、その課題に自らがチャレンジするという気概を持って演習に参加してください。卒業研究が提出されない場合は単位認定が取り消される場合があります。
---------	---

成績評価の方法	授業への出席は最低要件です。卒業研究にかかわる各自の報告を主たる評価の対象としながら総合的に評価します。
---------	--

教科書/テキスト	開講時に指示します。
----------	------------

参考書	経営学辞典あるいは経営学用語集。
-----	------------------

その他	卒業研究を併設します。
-----	-------------

履修コード	321261 321262 321263
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	松田 健

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、「現代における企業と社会との関係を、どのように捉えればよいのか」という命題に基づきながら、企業経営の現代的課題や企業活動の体系的理解を通じて企業を広く理解する視点を身につけることを目標としています。 とりわけ1990年代以降、企業の経済活動が急速にグローバル化したことを受け、それ以前の社会・政治・文化・国際関係といった多様な領域における諸問題と企業との関係性は大きく変容しつつあります。企業が持つ経済的性格のみならずその社会的性格にも焦点を当て、企業を社会経済システムの中に位置づけながら、企業と社会の相互関係性から生じている現代的諸問題を考察し、それを卒業研究につなげていきたいと考えています。
---------------------	--

授業スケジュール	本演習では、企業形態、株式会社制度、企業統治ならびに企業の社会的責任などに代表される、現代の企業に関わる重要な課題を考察の対象とします。一年を通じて、企業に関する基礎的な知識、概念ならびに理論に対する考察を踏まえ、各自で設定した研究テーマにしたがって卒業研究論文の作成を試みます。 第1回 オリエンテーション：論文作成の手順 第2回～第5回 演習参加者各自の研究課題テーマについての討論 第6回～第10回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読（1） 第11回 小括：資料輪読（1）による知見をまとめた研究報告（1） 第12回～第14回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読（2） 第15回 小括：資料輪読（2）による知見をまとめた研究報告（2） 第16回～第20回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読（3） 第21回 小括：資料輪読（3）による知見をまとめた研究報告（3） 第22回～第26回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読（4） 第27回 小括：資料輪読（4）による知見をまとめた研究報告（4） 第28回 論文作成の技術的指導（1） 第29回 論文作成の技術的指導（2） 第30回 課題研究論文口頭報告
----------	---

準備学習	卒論作成に向け、関連書籍、新聞、あるいはビジネス雑誌等は各自で必ず読んでおくこと。
履修上の留意点	課題研究に向け、自らが設定した研究課題を体系的な論文にまとめ上げていく作業には、強い自律心が求められます。したがって演習参加者は、自らの課題を自らが設定し、その課題に自らがチャレンジするという気概を持って演習に参加してください。
成績評価の方法	講義への出席は最低要件です。したがって卒業研究にかかわる各自の報告を主たる評価の対象としながら総合的に評価します。
教科書／テキスト	基本となる教科書は開講時に指示しますが、その他に日本経済新聞あるいは日経ビジネスを使用します。
参考書	経営学辞典あるいは経営学用語集。
その他	課題研究を併設します。

履修コード	109471 109472
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	松本 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 非営利組織をベースに、企業と非営利組織を比較することによって両者の特徴を学び、社会的企業のような営利／非営利を超えたハイブリッドな組織も対象として、経営学的・経済学的な研究を行う。 (到達目標) 到達目標は、演習IIで研究したことを基礎に、卒業論文をまとめることである。各自の研究テーマにあわせて、文献講読、調査・分析を行い、卒業論文の執筆に取り組む。講義内での発表、中間報告・最終報告を行うことで、卒業論文の質を高めることも目標である。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 ガイダンス 第2～5回 卒業論文のテーマ設定、卒業論文執筆のための技術と手順を確認 第6～13回 卒業論文の執筆、随時内容を発表 第14～15回 中間報告会 第16～27回 卒業論文の執筆、随時内容を発表 第28～30回 最終報告会
----------	---

準備学習	・演習IIで学習した内容を復習し、卒業研究のテーマを考えておくこと。 ・卒業論文の執筆に向けて、図書・論文を積極的に読み込むこと。
履修上の留意点	・積極的な姿勢で授業にのぞむこと。 ・物事を積極的に調べること。
成績評価の方法	・平常点および卒業論文の執筆過程・内容にもとづき、総合的に判断する。
教科書／テキスト	
参考書	
その他	・卒業研究を併設する。 ・希望する履修生には、「経済学部学生奨学論文」の執筆指導も行う。

履修コード	317601 317602 317603
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	松本 典子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 非営利組織をベースに、企業と非営利組織を比較することによって両者の特徴を学び、社会的企業のような営利/非営利を超えたハイブリッドな組織も対象として、経営学的・経済学的な研究を行う。 (到達目標) 到達目標は、課題研究をまとめることである。各自の研究テーマにあわせて、文献講読、調査・分析を行い、課題研究に取り組む。講義内での発表、中間報告・最終報告を行うことで、課題研究の質を高めることも目標である。
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 第2～5回 課題研究のテーマ設定、課題研究作成のための技術と手順を確認 第6～14回 課題研究の作成、随時内容を発表 第15回 中間報告会 第16～29回 課題研究の作成、随時内容を発表 第30回 最終報告会
準備学習	・課題研究のテーマを考えておくこと。 ・課題研究の作成に向けて、図書・論文を積極的に読み込むこと。
履修上の留意点	・積極的な姿勢で授業にのぞむこと。 ・物事を積極的に調べること。
成績評価の方法	・平常点および卒業論文の執筆過程・内容にもとづき、総合的に判断する。
教科書/テキスト	
参考書	
その他	・課題研究を併設する。

履修コード	109301 109302
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	溝手 芳計
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	食品の安全、南北問題、環境問題、過疎地域問題といったさまざまな問題が、近年、注目を集めています。これらは、農業のあり方、特に多国籍アグリビジネス（農業・食料関連産業）の影響力の増大、WTO体制への移行などと大きく関わっています。ゼミでは、上に掲げたような諸問題の理解と対策の手がかりを求めて、一緒に考えていきたいと思ひます。演習IIIでは、ゼミ生自身の考えを整理し、表現する力の取得を目指します。
授業スケジュール	演習IIIでは、卒業研究に向けて、個別指導と集団討論を中心に進めます。
準備学習	演習の学習は、授業に「出る」、意見を「出す」、テキストや参考書を「読む」が基本です。
履修上の留意点	ゼミは集団学習、相互修練の場です。世の中、答えが一つと決っていません。学生相互の疑問の出し合い、教えあい、意見交換を大切にしてください。“みんな違ってみんないい”でいきましょう。
成績評価の方法	平常の議論への参加状況や卒業研究に向けた取り組み姿勢を基本として評価します。
教科書/テキスト	木下是雄『レポートの組み立て方』、ちくま学芸文庫、780円＋税、ISBN4-480-08121-6 他は、別途指示します。
参考書	必要に応じて紹介します。
その他	「卒業研究」を併設します。

履修コード	316901 316902 316903
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	溝手 芳計
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	食品の安全、南北問題、環境問題、過疎地域問題といったさまざまな問題が、近年、注目を集めています。これらは、農業のあり方、特に多国籍アグリビジネス（農業・食料関連産業）の影響力の増大、WTO体制への移行などと大きく関わっています。ゼミでは、上に掲げたような諸問題の理解と対策の手がかりを求めて、一緒に考えていきたいと思ひます。
授業スケジュール	テキストの輪読とディスカッションを中心に進めます。レジュメの作成、発表のやり方、議論の進め方など、集団学習のスキル取得も重視します。
準備学習	テキストの予習が必要です。
履修上の留意点	
成績評価の方法	レポートと発表の内容・態度、議論への参加状況などを総合的に評価します。
教科書/テキスト	ゼミ生と相談の上、決定します。ただし、領域は、食料、農業、農村、環境に関わるものとしします。
参考書	随時、紹介します。

履修コード	111401 111402
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	光岡 博美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習Ⅰ、Ⅱの勉強をもとに、総仕上げとしてのゼミ論文を完成させることが演習Ⅲの最大の目的です。ゼミ論文については、その内容はもとより、論文としての形式や体裁についても指導します。なお、「卒業研究」を併設します。
授業スケジュール	ゼミ論文の完成の直前の時期には合宿（2泊3日程度）を行い、また、ゼミ論文の発表会の場とします。ゼミでの勉強の総仕上げとしての意味をもつ合宿です。全員参加を原則とします。
準備学習	特になし
履修上の留意点	
成績評価の方法	ゼミ論文の完成度によって評価します。ゼミ論文未提出者は単位を認定しません。なお、演習Ⅲには課題研究を併設します。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	109481 109482
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	村松 幹二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習ではこれまでの演習や共同研究において習得した知識にもとづき、各自の問題意識を踏まえて、卒業研究の作成を行なう。 卒業研究では、自身の意見を論理的に構成し、それに関する十分な実証の根拠を示し、相手に伝わる発表を行うことが必要とされる。そのために必要な論理的思考能力、資料収集・整理能力、プレゼンテーション能力を養い、自らの問題意識を卒業研究の形でまとめることを目的とする。
授業スケジュール	卒業研究の作成は、テーマの選定、論理の組み立て、資料収集・整理、本文の執筆、内容の報告の順に進める。 ゼミ形式での発表と個別指導の形で演習を行なう。
準備学習	ミクロ経済学及び法と経済学の知識を前提とする。
履修上の留意点	特別な事情がない限り、毎回出席すること。原則として4年生の新規募集は行わない。
成績評価の方法	卒業研究の内容を中心に、ゼミへの出席状況、卒業研究作成プロセス、研究のプレゼンテーションなどから総合的に評価する。
教科書／テキスト	
参考書	卒業研究の課題に応じて個別に紹介する。

履修コード	317001 317002 317003
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	村松 幹二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習ではこれまでの演習や共同研究において習得した知識にもとづき、各自の問題意識を踏まえて、課題研究の作成を行なう。 課題研究では、自身の意見を論理的に構成し、それに関する十分な実証の根拠を示し、相手に伝わる発表を行うことが必要とされる。そのために必要な論理的思考能力、資料収集・整理能力、プレゼンテーション能力を養い、自らの問題意識を課題研究の形でまとめることを目的とする。
授業スケジュール	課題研究の作成は、テーマの選定、論理の組み立て、資料収集・整理、本文の執筆、内容の報告の順に進める。 ゼミ形式での発表と個別指導の形で演習を行なう。
準備学習	ミクロ経済学の基礎的知識を前提とする。
履修上の留意点	特別な事情がない限り、毎回出席すること。
成績評価の方法	課題研究の内容を中心に、ゼミへの出席状況、課題研究作成プロセス、研究のプレゼンテーションなどから総合的に評価する。
教科書／テキスト	
参考書	課題研究の内容に応じて個別に紹介する。

履修コード	109401 109402
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	森田 佳宏

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本演習は「卒業研究」(卒業論文)の研究報告を中心に行う。卒業論文のテーマは、演習Iおよび演習IIにおいて習得した財務会計および監査の知識にもとづき、これらの領域から各人が自由に決定することを原則とする。 (到達目標) 本演習の到達目標は、「卒業研究」作成過程における学生相互間および教員との討論を経て「卒業研究」を完成させることである。
授業スケジュール	卒業論文の報告は、テーマの選定、章立ての決定、内容の報告の順に進める。
準備学習	4月の第1回目の演習時に、卒業研究の「テーマおよび問題の所在」をA4用紙1枚にまとめて配布し、報告すること。
履修上の留意点	特別な事情がない限り、毎回出席すること。なお、原則として4年生の新規募集は行わない。
成績評価の方法	最終的な卒業論文の内容はもとより、その作成過程における報告内容(レジュメを含む)、さらにはゼミ活動に対する取り組みなどを考慮に入れて総合的に評価する。卒業論文未提出者には演習IIIの単位を認定しない。
教科書/テキスト	原則として使用しない。
参考書	演習の中で適宜紹介する。

履修コード	110201 110202
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	谷敷 正光

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	テーマ【経済発展と人材・技術】 4年ゼミは、戦前日本経済の発展(工業化の準備期から産業資本確立期まで)と戦後の経済成長(復興期から失われた十年まで)を中心に、経済・産業を支えた人材や技術開発、工場内教育、教育制度など幅広く各自の問題意識に応じて自由に論題を設定して研究します。12月にはゼミ論文を完成し、論文集に発表します。
授業スケジュール	【4年ゼミ】は、就職活動で会社訪問する機会が多くなるので、プレゼンテーション、ディスカッションが難しくなります。したがって基礎文献、参考資料を使って、日本経済の発展と技術、人材、教育の検証を行うとともに【卒業研究】の作成が中心になります。 【卒業研究】は、2年生からゼミで学んできた集大成として各自の問題意識として自由に論題を設定し、論文の作成をすすめます。12月には完成し、教務部に提出します。 第1回～第5回 →「卒業研究」論文の書き方、論題の設定、問題提起の仕方。 第6回～第20回→論文の構成の仕方、基礎資料の収集の仕方(駒澤大学図書館、他大学図書館、国会図書館、政府関係機関など)、論文の構成・基礎資料の収集等に関して個別指導。 第21回～第22回→「卒業研究」作成に向けて「執筆要領」(「卒業研究手引き」「ゼミ論文の書き方」を配布)の説明。 第23回～第28回→「卒業研究」作成に向けて個別指導。 第29回～「卒業研究」の仮提出(「執筆要領」が守られているか確認。未完成部分の個別指導)。 第30回～「卒業研究」本提出。
準備学習	日頃より新聞や雑誌「エコノミスト」「東洋経済」などを読み、世界経済や日本経済に関心を持つこと。
履修上の留意点	就職活動が多忙になるが、できるだけ授業に出席して下さい。
成績評価の方法	平常でのゼミ活動状況、「卒業論文」(卒業研究)の制作作業、討論で評価します。
教科書/テキスト	演習の時間に適宜紹介します。
参考書	各自の問題意識や論題によって、その都度、適宜紹介します。
その他	4年ゼミでは「卒業研究」を併設しています。希望する人は併せて履修することができます。「卒業研究」の進め方は4年ゼミの中で適宜説明します。

履修コード	110701 110702
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	矢野 浩一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習のテーマは「ビジネス・経済・社会についての実証的アプローチ」である。ビジネス・経済・社会などの様々な問題について自分の力で考え行動できるように実証分析のやり方を学ぶ。それには統計学や経済学・データ分析などの知識が必要である。さらに自分の意見をしっかりと人に伝える文章表現やプレゼンテーション能力、自分の意見を裏付ける統計手法を身につけることを目指す。
授業スケジュール	演習I・IIでの学習内容を継続的に発展させ、卒業研究の形で4年間の学習成果をまとめることを最終目標とする(ただし、学生ごとに理解度にばらつきがあると思われるために、演習内容はそれに応じて柔軟に対応する)。
準備学習	教科書・参考書・資料等を予習しておくこと。
履修上の留意点	「統計原論」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「応用マクロ経済学」等の関連科目をあわせて履修することが望ましい。また、連絡のために駒澤大学総合情報センターのアカウントを取得しておくこと。
成績評価の方法	出席を中心に、発表内容・発言・ゼミへの貢献から判断する。
教科書/テキスト	教科書は開講時に協議する。
参考書	テキストのみにこだわらずゼミ生の興味に沿った論文を取り上げていく。
その他	「卒業研究」を併設する。演習IIIは卒業論文の指導が中心のため、履修登録時の登録を忘れないこと。

履修コード	111001 111002
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	山縣 弘志
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	比較経済論の専門的学習、研究を進め、論文作成をめざす。
授業スケジュール	3年次からの継続。就職活動に取り組みながら、各自の自主研究の発表を行ない、論文の形にまとめていく。
準備学習	3年次からの継続。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席、発表、討論参加を総合評価する。
教科書/テキスト	
参考書	
その他	「卒業研究」あり。

履修コード	109601 109602
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	吉田 敬一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習では大学生生活の総決算として各自の問題意識を踏まえて、卒業研究の作成を行ないます。
授業スケジュール	演習IIIでは、これまでの共同研究を踏まえて、卒業研究の作成に向かって、個別指導の形で演習を行ないます。 第一回目の演習の時間に今年度の予定を伝えますので、必ず出席してください。
準備学習	①新聞を読む習慣を身につけること。 ②官公庁や調査機関のホームページで最新の調査・統計を参考にして報告・議論できるように準備すること。
履修上の留意点	演習IIIは卒業研究の作成を中心課題としているため、少なくとも演習IIをすでに履修していることが前提となります。
成績評価の方法	出席状況、平常点(卒業研究作成指導への対応姿勢など)、卒業研究の内容を中心にして総合的に評価します。
教科書/テキスト	使用しません。
参考書	卒業研究の課題に応じて個別に紹介します。
その他	演習IIIでは原則として「卒業研究」を作成することが求められます。

履修コード	317201 317202 317203
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	吉田 敬一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習では大学生生活の総決算として各自の問題意識を踏まえて、卒業研究の作成を行いません。
---------------------	---

授業スケジュール	演習IIIでは、これまでの共同研究を踏まえて、卒業研究の作成に向かって、個別指導の形で演習を行いません。 第一回目の演習の時間に今年度の予定を伝えますので、必ず出席してください。
----------	--

準備学習	①新聞を読む習慣を身につけること。 ②官公庁や調査機関のホームページで最新の調査・統計を参考にして報告・議論できるように準備すること。
------	--

履修上の留意点	演習IIIは卒業研究の作成を中心課題としているため、少なくとも演習IIをすでに履修していることが前提となります。
---------	--

成績評価の方法	出席状況、平常点（卒業研究作成指導への対応姿勢など）、卒業研究の内容を中心にして総合的に評価します。
---------	--

教科書／テキスト	使用しません。
----------	---------

参考書	卒業研究の課題に応じて個別に紹介します。
-----	----------------------

その他	演習IIIでは原則として「卒業研究」を作成することが求められます。
-----	-----------------------------------

履修コード	109491 109492
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	吉田 真広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	1 国際金融現象の基礎にある原理や制度を学ぶと共に、日本経済に与える今日の国際金融の様々な問題について理解を深め、自らがより深く学ぶべき課題を見つけること。 2 自らの研究対象へのアプローチの仕方を身につけ、それを実践していくこと。
---------------------	---

授業スケジュール	基本的には、自らの研究課題の経過報告とアドバイスを中心としたものになります。
----------	--

準備学習	常に自らの研究課題と向き合うこと。
------	-------------------

履修上の留意点	特にありません。
---------	----------

成績評価の方法	出席は当たり前のことなので評価対象にはしていません。 研究課題にどれだけ真剣に取り組んだのかによって判断します。
---------	---

教科書／テキスト	随時示します。
----------	---------

参考書	随時示します。
-----	---------

その他	就活相談については遠慮せず来て下さい。
-----	---------------------

履修コード	096101
科目名	応用情報処理I
担当者名	瀬尾 明志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	表計算ソフト (Excel) を使用したデータの分析やグラフ化は経済学を学ぶものにとっても必要不可欠なものになっています。この講義では、Excelの基本操作を習得しているものが経済分析などへの応用に活かせるように更に高度な技法を習得することを目的とします。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) Excelの基本操作 (セル参照、合計関数など) (2) ピボットテーブル (3) VLOOKUP関数 (4) ~ (5) Excel VBAの基礎 (6) ~ (8) 相関と単回帰分析 (9) ~ (10) バレート図の作成とABC分析 (11) ~ (12) ゴールシークとソルバー、線形計画法への適用 (13) ~ (14) 重回帰分析 (3変数間の相関) (15) Excel VBA応用 (ユーザーフォームの作成)
----------	--

準備学習	Excelの基本操作が出来ること。実習では予・復習が必要です。
------	---------------------------------

履修上の留意点	1) 本講座は応募人数によっては履修制限を行う場合があります。 2) Excelの応用面に重点を置くので、「情報入門」講座、「基礎情報処理」講座を履修するなど、Excelの基本操作は知っていることを前提にしています。
---------	---

成績評価の方法	講義の中で課す課題及び出席状況により評価します。
---------	--------------------------

教科書/テキスト	配布資料 (講義時に随時配布します)。
----------	---------------------

参考書	日花弘子『仕事に役立つExcelビジネスデータ分析 改訂版』ソフトバンククリエイティブ2,680円 ISBN978-4-7973-4636-7 『よくわかるMicrosoft Office Excel2007 (応用)』FOM出版2,100円 ISBN978-4-89311-668-0 木村幸子『速効! 図形Excel2007 データベース編』毎日コミュニケーションズ1,580円 ISBN978-4-8399-2336-5
-----	---

その他	本講座はYeStudyを利用した講義になります。
-----	--------------------------

履修コード	096201
科目名	応用情報処理II
担当者名	瀬尾 明志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	プレゼンテーション技術は、企業の営業活動や社内会議などでのプレゼンテーションで非常に重要なものになっていますが、大学においても研究成果の発表などで今後ますます重要になってきます。本講義では、プレゼンテーションツールの代表とも言えるPowerPointを使用して、効果的な発表資料の作成とその資料に基づく発表を繰り返し行うことで実際に活用できるレベルのプレゼンテーション技術を習得します。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) 図解のポイント (2) ~ (3) PowerPointの基本操作 (クリップアート・写真の取込み、表・棒グラフ、円グラフ・Excel表・組織図) (4) ~ (5) 報告書、提案書、企画書の作成 (6) ~ (7) アニメーションの設定 (8) 良い図解悪い図解 (9) ~ (11) プレゼンテーション技法 (12) ~ (14) プレゼン資料作成とプレゼンの実施 (15) PowerPointの実践技
----------	--

準備学習	PowerPointの基本操作が出来ること。実習では予・復習が必要です。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	・本講座は応募人数によっては履修制限を行う場合があります。 ・PowerPointの活用面に重点を置くので、「情報入門」講座、「基礎情報処理」講座を履修するなど、PowerPointの基本操作は知っていることを前提にしています。 ・PowerPointで作成した資料の発表に多くの時間を割くので、欠席や遅刻をしないこと。
---------	--

成績評価の方法	作成したPowerPoint資料とその発表及び出席状況により評価します。
---------	--------------------------------------

教科書/テキスト	配布資料 (講義時に随時配布します)。
----------	---------------------

参考書	『Microsoft Office Power Point 2007 ビジネス活用編』FOM出版2,300円 ISBN-978-4-89311-716-8 大槻有一郎『はじめてのPowerPoint2007基本編』秀和システム1,200円 ISBN978-4-7980-1542-2 アスキー書籍編集部『Z式マスター パワーポイント2007』アスキー1,480円 ISBN978-4-7561-4910-7
-----	---

その他	本講座はYeStudyを利用した講義になります。
-----	--------------------------

履修コード	092711
科目名	応用マクロ経済学
担当者名	江口 允崇

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	マクロ経済学とは、一国全体 (または世界全体) の経済の動きを分析する学問です。新聞やニュースでよく聞くデフレ不況や失業率増加、円高・円安、財政赤字、年金問題など、これらは全てマクロ経済学の研究対象です。これらの現象がなぜ起こり、こうした現象に対して我々や政府はどのように対応すべきかを考えるのがマクロ経済学の基本目的と言えます。本講義では、マクロ経済学の標準的な理論を身につけることを主眼に置き、履修者が自分なりにマクロ経済学の理論に基づいて経済問題を考えられるようになることを目的とします。まず、前期ではGDPや物価指数といったマクロ経済学の基本的な概念を抑え、最も基本的なマクロ経済モデルであるIS-LMモデルを学びます。後期では、AD-ASモデルや、マンデル=フレミングモデル、ソローモデルといったより高度な理論を解説し、財政政策や金融政策の問題に関してより深く考察していきます。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 マクロ経済学とは何か？</p> <p>第2回 国民経済計算 (1) 国民所得の諸概念</p> <p>第3回 国民経済計算 (2) 三面等価の原則</p> <p>第4回 物価指数と失業率</p> <p>第5回 短期と長期</p> <p>第6回 数学の準備 (1) 連立方程式の解き方</p> <p>第7回 数学の準備 (2) グラフの読み方</p> <p>第8回 45度線モデル (1) 財市場の基本構造</p> <p>第9回 45度線モデル (2) 有効需要の原理と乗数効果</p> <p>第10回 金融市場 (1) 流動性選好と貨幣需要</p> <p>第11回 金融市場 (2) 利子率の決定</p> <p>第12回 金融市場 (3) 金融政策の役割</p> <p>第13回 IS-LMモデル (1) 財市場と金融市場の同時均衡</p> <p>第14回 IS-LMモデル (2) IS-LMモデルにおける財政政策の効果</p> <p>第15回 IS-LMモデル (3) IS-LMモデルにおける金融政策の効果</p> <p>第16回 フィリップス曲線～インフレ率と失業率のトレードオフ～</p> <p>第17回 労働市場と総供給曲線</p> <p>第18回 AD-ASモデル (1) 財市場・金融市場・労働市場の同時均衡</p> <p>第19回 AD-ASモデル (2) AD-ASモデルにおける財政・金融政策の効果</p> <p>第20回 開放経済 (1) 国際貿易と国際金融取引</p> <p>第21回 開放経済 (2) 為替レート</p> <p>第22回 マンデル=フレミングモデル (1) 変動相場制における財政・金融政策の効果</p> <p>第23回 マンデル=フレミングモデル (2) 固定相場制における財政・金融政策の効果</p> <p>第24回 新古典派によるケインズ経済学批判</p> <p>第25回 生産関数と成長会計</p> <p>第26回 ソローモデル (1) 資本蓄積と技術進歩</p> <p>第27回 ソローモデル (2) 資本の黄金水準</p> <p>第28回 財政・金融政策の諸問題</p> <p>第29回 政府債務と財政赤字</p> <p>第30回 マクロ経済学の近年の展開</p>
----------	--

準備学習	教科書を事前によく読んでおくこと。
履修上の留意点	特に予備知識は必要としませんし、用いる数学も中学レベルまでですが、あくまで内容はアカデミックな経済理論を重視したものであり、新聞や雑誌の経済ニュースの解説ではないことを留意しておいて下さい。
成績評価の方法	前期・後期ともに、期末試験によって評価します。
教科書/テキスト	N.G. マンキュー『マンキューマクロ経済学I・入門篇 (第2版)』東洋経済新報社 (2004年) N.G. マンキュー『マンキューマクロ経済学II・応用篇 (第2版)』東洋経済新報社 (2004年)
参考書	

履修コード	092611
科目名	応用ミクロ経済学
担当者名	荒木 勝啓

授業概要/
到達目標 (ねらい)

全体テーマを「ミクロ経済学はどのように実践的に役に立つのか」とする。ミクロ経済学に馴染みのない学生でも理解可能なように、数学基礎から解説するが、飽くまで最終テーマは「役に立つ」であるので、最後までテーマを見失わないように。役に立つとは、経済学的には最適性と言い換えることができる。したがって、以下の小テーマは、各局面に応じた最適手法のバリエーションである。そのような観点から俯瞰すると、我々は経済の各局面で結局は最適な行動を追い求めているのだということに気づき、テーマが自ずと見えてくるであろう。授業では、世界中で日々実行されている計算を、株価などのデータをもとに、関数電卓を使って実習する。

全体テーマを具体的に小テーマに分けると次のようになる。
まず経済学における制約付き最適化を身につけるために

(1) 制約付き最適化問題—ラグランジュ乗数法の習熟

次に要素間の最適代替関係の具体化として

(2) 長・短期費用関数の導出—撤退か拡張か

を学習する。さらにその応用としての

(3) 最適在庫管理問題

を学習する。これは経営学・経営工学では必修項目である。

以上は基礎的なミクロ経済学の復習ともなっている。

経済学における割引(discount)の概念を身につけるために、生活に身近な

(4) ローン計算の方法—毎月いくら返済すればよいか

を実習する。金融・証券・貿易・不動産・流通などの分野を将来目指す学生ならばこの知識は必要不可欠である。速算法(近似法)も学習する。

最後に現代社会における最大テーマの1つであるリスク最小化問題の

(5) 最適ヘッジの方法—現物と先物のポートフォリオを例に

を統計手法とともに計算する。(5)のために特にベータの求め方とt-検定という統計的手法も合わせて学習する。(5)によって金融工学のメイン・テーマとしての「ヘッジ」の実際が理解されるであろう。証券アナリストやファイナンシャル・プランナーを目指す学生にとってはいうまでもなく必須の知識である。

なおここにたどり着く前に煩雑な統計分析の知識を講義するが(下記19-23)、その過程で基本テーマを見失う学生が多いことが、アンケート調査からもわかる。しかし、抽象理論を現実化するにはデータ解析が不可欠であり、それには統計分析以外あり得ない。理論が力となるためにこの回り道は必要である。

以上を時期的に大きく2つに分けると(1)から(3)が前期で(4)から(5)が後期である。授業には計算のために関数電卓(1000円程度から各種売られている)が必要である。

実社会では計算はコンピュータによりなされているが、それだからこそ、良い悪いは別にして世の中ははるかに回っているのだということを電卓による手計算で実感することが必要で、その感覚はおそらく、将来諸君のビジネスに生かされることであろう。

授業スケジュール

- 1-3. 基礎となる数学の復習—基礎から図解入りで説明するので高校のときに数学をやっていた人でもよく理解できると思う。
内容: 微分・全微分・偏微分係数・ベクトル・一次方程式(クラメールの公式)
- 4-6. 制約付き最適化問題(ラグランジュ乗数法)
- 7-9. 長・短期費用関数の導出
- 10-11. 最適在庫管理問題
- 12-13. 離散分析と連続分析、 e と対数関数
14. 対数微分と成長
15. テイラー展開・マクローリン展開
- 16-17. 割引の各種公式
18. ローン計算の実習
19. 記述統計—平均・分散・標準偏差の計算
- 20-21. 確率、確率分布、密度分布、正規分布、 t -分布、小標本データの t -検定
- 22-23. 回帰分析の計算法—ベータの産出
- 23-30. 最適ヘッジの方法

準備学習

必要な時に事前に指示する。

履修上の留意点

ノートをとることを欠かさないと。金融工学などの手法のエッセンスが凝縮された内容なので、あとから文献等で調べようとすると膨大な量になる。しかし、ノートをあとから見直すと、内容は専門書(洋書を含む)何冊分かの要約となり、また将来社会に出たときに使うことのできる真に有用な公式や図などで埋め尽くされていることが分かる。全体としてこの分野の公式集となるであろう。

学習内容は、金融、証券、貿易、流通、不動産、製造現場などでは実際にごく普通に使われている(むしろその入門でしかない)知識であり、諸君がもし将来ビジネスでまともに仕事をこなそうとするならば、必ず壁となって立ちふさがらるであろう必須知識である。たとえば住宅販売に従事したならば、パソコンもなにもない現場で顧客に速算で月々のローン返済額を提示しなければ

ならないかもしれない。そうした役に立つ経済学的知識をこの授業では体育会系的に身につかせようとしている。

成績評価の方法

定期試験100、ただしノート持込可。ノートのコピー不可。授業に出ていればほぼ確実に解けるような問題を出すので安心して授業をとっていただきたい。授業は難解である。しかし授業にまともに出ていたら試験問題は解ける(なぜなら授業時間中に繰り返し経験済みだから)という不思議なデジャブ試験。解き方が理にかなっていれば、多少の計算ミスは大幅減点にはしない。もしきちんと計算したはずなのに点が悪い人は、解き方に合理性がなかったということ。

教科書／テキスト

特になし。

参考書

高森寛 『現代ファイナンスの基礎理論』
池田昌幸 『金融経済学の基礎』 (朝倉書店) 2000年
Guthbertson, K. and Nitzsche, D., Financial Engineering-Derivatives and Risk Management, John Wiley and Sons, Ltd., 2001.

その他

関数電卓(最低でも平方根とべき乗、 \log , e が計算できるもの。市価1000円位からある)またはその機能がついたスマートフォンなどが必要。授業中または定期試験にノート・パソコンを持込んでもよい。

履修コード	311411
科目名	応用ミクロ経済学
担当者名	荒木 勝啓

授業概要/
到達目標 (ねらい)

全体テーマを「ミクロ経済学はどのように実践的に役に立つのか」とする。ミクロ経済学に馴染みのない学生でも理解可能なように、数学基礎から解説するが、飽くまで最終テーマは「役に立つ」であるので、最後までテーマを見失わないように。役に立つとは、経済学的には最適性と言い換えることができる。したがって、以下の小テーマは、各局面に応じた最適手法のバリエーションである。そのような観点から俯瞰すると、我々は経済の各局面で結局は最適な行動を追い求めているのだということに気づき、テーマが自ずと見えてくるであろう。授業では、世界中で日々実行されている計算を、株価などのデータをもとに、関数電卓を使って実習する。

全体テーマを具体的に小テーマに分けると次のようになる。
まず経済学における制約付き最適化を身につけるために

(1) 制約付き最適化問題—ラグランジュ乗数法の習熟

次に要素間の最適代替関係の具体化として

(2) 長・短期費用関数の導出—撤退か拡張か

を学習する。さらにその応用としての

(3) 最適在庫管理問題

を学習する。これは経営学・経営工学では必修項目である。

以上は基礎的なミクロ経済学の復習ともなっている。

経済学における割引 (discount) の概念を身につけるために、生活に身近な

(4) ローン計算の方法—毎月いくら返済すればよいか

を実習する。金融・証券・貿易・不動産・流通などの分野を将来目指す学生ならばこの知識は必要不可欠である。速算法 (近似法) も学習する。

最後に現代社会における最大テーマの1つであるリスク最小化問題の

(5) 最適ヘッジの方法—現物と先物のポートフォリオを例に

を統計手法とともに計算する。(5)のために特にベータの求め方とt-検定という統計的手法も合わせて学習する。(5)によって金融工学のメイン・テーマとしての「ヘッジ」の実際が理解されるであろう。証券アナリストやファイナンシャル・プランナーを目指す学生にとってはいうまでもなく必須の知識である。

なおここにたどり着く前に煩雑な統計分析の知識を講義するが (下記19-23)、その過程で基本テーマを見失う学生が多いことが、アンケート調査からもわかる。しかし、抽象理論を現実化するにはデータ解析が不可欠であり、それには統計分析以外あり得ない。理論が力となるためにこの回り道は必要である。

以上を時期的に大きく2つに分けると(1)から(3)が前期で(4)から(5)が後期である。授業には計算のために関数電卓 (1000円程度から各種売られている) が必要である。

実社会では計算はコンピュータによりなされているが、それだからこそ、良い悪いは別にして世の中はそのように回っているのだということを手計算で実感することが必要で、その感覚はおそらく、将来諸君のビジネスに生かされることであろう。

授業スケジュール

1-3. 基礎となる数学の復習—基礎から図解入りで説明するので高校のときに数学をやっていない人でもよく理解できると思う。

内容: 微分・全微分・偏微分係数・ベクトル・一次方程式 (クラメールの公式)

4-6. 制約付き最適化問題 (ラグランジュ乗数法)

7-9. 長・短期費用関数の導出

10-11. 最適在庫管理問題

12-13. 離散分析と連続分析、eと対数関数

14. 対数微分と成長

15. テイラー展開・マクローリン展開

16-17. 割引の各種公式

18. ローン計算の実習

19. 記述統計—平均・分散・標準偏差の計算

20-21. 確率、確率分布、密度分布、正規分布、t-分布、小標本データのt-検定

22-23. 回帰分析の計算法—ベータの産出

23-30. 最適ヘッジの方法

準備学習

必要な時に事前に指示する。

履修上の留意点

ノートをとることを欠かさないこと。金融工学などの手法のエッセンスが凝縮された内容なので、あとから文献等で調べようとする膨大な量になる。

しかし、ノートをとってから見直すと、内容は専門書 (洋書を含む) 何冊分かの要約となり、また将来社会に出たときに使うことのできる真に有用な公式や図などで埋め尽くされていることが分かる。全体としてこの分野の公式集となるであろう。

学習内容は、金融、証券、貿易、流通、不動産、製造現場などでは実際にごく普通に使われている (むしろその入門でしかない) 知識であり、諸君がもし将来ビジネスでもともに仕事をこなそうとするならば、必ず壁となって立ちふさがるのである必須知識である。たとえば住宅販売に従事したならば、パソコンもなにもない現場で顧客に速算で月々のローン返済額を提示しなければ

ならないかもしれない。そうした役に立つ経済学的知識をこの授業では体育会系的に身につかせようとしている。

成績評価の方法	定期試験100、ただしノート持込可。ノートのコピー不可。授業に出ていればほぼ確実に解けるような問題を出すので安心して授業をとっていただきたい。授業は難解である。しかし授業にまともに出ていたら試験問題は解ける(なぜなら授業時間中に繰り返し経験済みだから)という不思議なデジャブ試験。解き方が理にかなってれば、多少の計算ミスは大幅減点にはしない。もしきちんと計算したはずなのに点が悪い人は、解き方に合理性がなかったということ。
教科書/テキスト	特になし。
参考書	高森寛 『現代ファイナンスの基礎理論』 池田昌幸『金融経済学の基礎』(朝倉書店)2000年 Guthbertson, K. and Nitzsche, D., Financial Engineering-Derivatives and Risk Management, John Wiley and Sons, Ltd., 2001.
その他	関数電卓またはその機能を持つスマートフォンなどが必要。授業中または定期試験にノート・パソコンを持込んでよい。

履修コード	091511 091512
科目名	会計学基礎 会計学総論
担当者名	石川 祐二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「会計とは何か？」—その疑問をどのように究明するのか。このことについて考えるための「土台作り」が、本講義の目指すところである。 会計は、特定の経済主体が営む経済活動を「用語」と「数」によって記録し、伝達することで一定の社会的役割を果たす仕組みであると考えられる。その仕組みがどのような構造をして、どのように機能するのかということは、その仕組みに結びつく社会的諸関係の中で決まる。とはいえ、それは目に見えて触れることの出来る道具や機械ではない。そのために、会計という社会的な仕組みを分析し、役割を解明するための「方法」が必要になる。この方法について考えるための力を養うことが、第一の目標である。 そのうえで、具体的な会計上の諸事項のうち基礎的な部分を取り上げて分析を行うことにより、会計の基本的知識を身につけることが、第二の目標である。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回：ガイダンス 第2～3回：会計学とは何か 第4～5回：会計学と経済学・社会諸科学との関係 第6～8回：会計学の進展 第9～10回：会計における価値（交換価値） 第11～13回：言語としての会計 第14～15回：会計の構造と分析方法—制度としての会計— 第16回：会計の機能 第17回：利益概念 第18～20回：資産をめぐる問題 第21～22回：負債をめぐる問題 第23回：資本・純資産をめぐる問題 第24～25回：費用と収益をめぐる問題 第26～27回：財務会計と管理会計 第28～29回：会計監査 第30回：現代会計のとらえ方—総まとめ—
----------	--

準備学習	前回までに進んだ内容を確認するために、配布したプリントについて復習しておくこと。その回までに講義した内容を前提として、話を進めます。
履修上の留意点	簿記論を並行して受講することが望ましい（すでに履修済である場合、および、簿記の資格を有している場合はその限りではない）。
成績評価の方法	中間レポート(30%)、定期試験(年度末：70%)により評価する。
教科書/テキスト	特に指定しない。講義時に配布するプリントが、テキストの代わりとなる。
参考書	講義の中で適宜紹介する。

履修コード	091601
科目名	会計学総論
担当者名	福島 隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 会計とは、ある経済主体(企業など)が行う経済活動を主として貨幣額で測定し、その結果を報告書(財務諸表)により各種の利害関係者に伝達するためのシステムです。この授業では、会計に関する基礎知識を学習します。</p> <p>(到達目標) 「会計はビジネスの共通言語」とも言われ、ビジネスをする際には必要不可欠な知識であり、会計の存在を抜きにして企業の経営状態を表すことはできません。また、会計の国際化に伴い、その重要性は以前にも増して高まっています。本講義は、会計学の基本的な知識を習得することを目的としており、「総論」という名称通り、どちらかといえば「広く浅く」講義を行います。最終的な到達目標は、①会計に関する基本的な理論を習得する、②会計の国際的な最新動向を知る、③会計に関する新聞記事・雑誌記事が読めるようになるの3つです。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>授業内で2回小テストを行います。日程は、授業中に指示します。また、夏休み中にレポートを課します。</p> <p>(1)オリエンテーション、(2~4)財務諸表総論、会計を取り巻く法律、(5~8)資産、(9~10)負債、(11)小テスト、(12~13)純資産、(14)損益計算書、(15)キャッシュフロー・計算書、(16~18)連結会計、(19~20)財務諸表分析の基礎、(21)小テスト、(22~24)意思決定会計、(25~27)原価計算、(28~30)その他の論点・国際会計の動向・まとめ</p>
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の巻末問題を利用して復習をしておくこと。 ・授業内容に関連した新聞記事等に目を通しておくこと。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「簿記論」をまだ履修していない学生は、できるだけ「簿記論」を同時履修するようにしてください。 ・1回目のガイダンスで授業の進行方法・成績評価などを説明しますので、履修予定者は必ず出席して下さい。 ・遅刻は10分まで認めます。授業中の私語で注意された学生は、大幅減点されます。
---------	--

成績評価の方法	平常点(毎回授業の最後で行う問題演習)20%、レポート10%、小テスト(2回)30%、定期試験40%
---------	--

教科書/テキスト	大塚宗春・福島隆・金子良太・菅野浩勢著『テキスト入門会计学』、中央経済社、2,730円、978-4-502-43350-4
----------	---

参考書	必要に応じて指示します。
-----	--------------

その他	電卓を持参すること。
-----	------------

履修コード	097001
科目名	会計監査論
担当者名	森田 佳宏

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 会計監査とは、企業における会計記録および会計行為につき、それに関与しない独立第三者が分析的に検討を加え、その適否または正否に関する批判的意見を表明することである。会計監査のうち、現在もっとも広く行われ、かつ、もっとも重要な監査方式は、職業監査人すなわち公認会計士による財務諸表監査である。本講義においては、職業監査人による財務諸表監査を中心として、会計監査の意義・目的、種類および歴史、ならびに会計・監査制度、監査基準等について解説する。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、現在行われている会計監査の制度的なしくみとそこで採用されている基本的考え方についての知識を習得することである。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(1) 会計監査の意義と概要 (2~5) 企業会計法と監査、会計の国際化と監査、監査の主体① (6~10) 監査の主体②、外部監査制度の生成①、監査の種類、監査役監査、委員会設置会社 (11~15) ディスクロージャー制度 (金融商品取引法・会社法)、外部監査制度の生成②、監査基準の生成①、監査基準の生成② (16~20) 監査基準の体系、公正不偏性と外観的独立性、監査のプロセス、内部統制、監査調書 (21~25) 重要な虚偽表示、監査の品質管理、守秘義務、リスク・アプローチ、監査要点 (26~30) 監査証拠、継続企業の前提、監査意見、監査報告書</p>
----------	--

準備学習	<p>監査論は簿記論や会計学とは別の理論体系を有するものであるから、会計学等の知識がなければ全く理解できないというものではないが、監査の中でも会計監査が対象とするものは企業の会計行為およびその結果としての会計情報であるから、この授業の履修に当たっては特に財務会計に関する基礎知識を習得しておくことが望ましい。</p>
------	--

履修上の留意点	
成績評価の方法	<p>定期試験 (年度末) により評価する。なお、出席調査を数回行い、これも評価に反映させる。</p>
教科書/テキスト	<p>使用しない。授業の中でプリントおよび資料を配付する。なお、後半の授業で使用する「監査基準」をYeStudyにアップしてあるので、あらかじめプリントアウトして授業に持参すること。持参の時期については授業中に指示する。</p>

参考書	<p>山浦久司『監査論テキスト (第3版)』中央経済社、2,310円、ISBN: 978-4-502-43600-0 盛田良久、蟹江章、友杉芳正、長吉眞一、山浦久司編著『スタンダードテキスト監査論 (第2版)』中央経済社、4,620円、ISBN: 978-4-502-22140-8 中央経済社編『監査法規集』中央経済社、1,890円、ISBN: 978-4-502-29970-4</p>
-----	---

履修コード	310501
科目名	会計監査論
担当者名	森田 佳宏

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 会計監査とは、企業における会計記録および会計行為につき、それに関与しない独立第三者が分析的に検討を加え、その適否または正否に関する批判的意見を表明することである。会計監査のうち、現在もっとも広く行われ、かつ、もっとも重要な監査方式は、職業監査人すなわち公認会計士による財務諸表監査である。本講義においては、職業監査人による財務諸表監査を中心として、会計監査の意義・目的、種類および歴史、ならびに会計・監査制度、監査基準等について解説する。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、現在行われている会計監査の制度的なしくみとそこで採用されている基本的考え方についての知識を習得することである。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(1) 会計監査の意義と概要 (2~5) 企業会計法と監査、会計の国際化と監査、監査の主体① (6~10) 監査の主体②、外部監査制度の生成①、監査の種類、監査役監査、委員会設置会社 (11~15) ディスクロージャー制度 (金融商品取引法・会社法)、外部監査制度の生成②、監査基準の生成①、監査基準の生成② (16~20) 監査基準の体系、公正不偏性と外観的独立性、監査のプロセス、内部統制、監査調書 (21~25) 重要な虚偽表示、監査の品質管理、守秘義務、リスク・アプローチ、監査要点 (26~30) 監査証拠、継続企業の前提、監査意見、監査報告書</p>
----------	--

準備学習	<p>監査論は簿記論や会計学とは別の理論体系を有するものであるから、会計学等の知識がなければ全く理解できないというものではないが、監査の中でも会計監査が対象とするものは企業の会計行為およびその結果としての会計情報であるから、この授業の履修に当たっては特に財務会計に関する基礎知識を習得しておくことが望ましい。</p>
------	--

履修上の留意点	
成績評価の方法	<p>定期試験 (年度末) により評価する。なお、出席調査を数回行い、これも評価に反映させる。</p>
教科書/テキスト	<p>使用しない。授業の中でプリントおよび資料を配付する。なお、後半の授業で使用する「監査基準」をYeStudyにアップしてあるので、あらかじめプリントアウトして授業に持参すること。持参の時期については授業中に指示する。</p>

参考書	<p>山浦久司『監査論テキスト (第3版)』中央経済社、2,310円、ISBN: 978-4-502-43600-0 盛田良久、蟹江章、友杉芳正、長吉眞一、山浦久司編著『スタンダードテキスト監査論 (第2版)』中央経済社、4,620円、ISBN: 978-4-502-22140-8 中央経済社編『監査法規集』中央経済社、1,890円、ISBN: 978-4-502-29970-4</p>
-----	---

履修コード	100511
科目名	会計資格特別演習
担当者名	鈴木 勝浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) この授業は、税理士試験の法人税法（公認会計士試験の租税法の一部も含む）について、基礎的な理論及び計算方法を理解した上で、できる限り受験可能なレベルの知識の習得を目指すものである。法人税は、企業会計において算出された決算利益を基礎に、税務上の調整を行って求められた課税所得に対して課せられる。したがって法人税法は企業会計と有機的に結びついており、その理解には企業会計の理論や会計処理に習熟していることが必要とされる。このため授業では、企業会計の理論に関連付けながら、法人税法について理解を深めていきたい。法人税法は計算問題のウエートが高いため、計算演習を多く取り入れながらより確実な知識の向上を求めていきたい。なお授業スケジュールについては、受講生の理解を考慮しながら柔軟に対処していく予定である。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、税理士試験の法人税法の受験レベルにできる限り近づけていく。また公認会計士試験においては租税法の大半を占める法人税法の範囲をカバーできるよう進めていく。また本講義履修後は、税務会計（法人税法）を受験できるレベルに到達するのでぜひ挑戦してほしい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法人税のあらまし 2. 総則 3. 同族会社 4. 企業利益と課税所得 5. 損益の帰属時期 6. 受取配当等の益金不算入 7. 棚卸資産 8. 有価証券 9. 減価償却（普通償却） 10. 減価償却（特別償却） 11. 繰延資産 12. 評価損益 13. 給与 14. 寄付金 15. 交際費 16. 租税公課 17. 貸倒損失 18. その他の損金 19. 圧縮記帳① 20. 圧縮記帳② 21. 引当金 22. 準備金 23. 欠損金 24. 海外取引 25. 特別控除 26. 所得税額控除 27. 外国税額控除 28. 税効果会計 29. リース取引 30. 企業組織再編税制
----------	---

準備学習	財務会計の基礎理論の知識があれば効果的に学習を進めることができます。できる限り財務会計の基礎理論を理解するようにしてください。
履修上の留意点	本講義を履修するに当たっては、特に株式会社に関する会計理論を理解していることが必要であり、日商簿記2級の商業簿記（工業簿記の知識は不要）程度の知識を有していることが望ましい。積み上げ方式により講義を進めていくので、できるだけ欠席しないこと。
成績評価の方法	出席率と講義中の演習で評価する。
教科書／テキスト	TAC税理士法人税法研究会編『税理士試験対策 平成24年度版 ポケットテキスト 法人税法』（TAC）
参考書	渡辺淑夫著『法人税法の要点整理〔平成24年受験用〕』（中央経済社） 渡辺淑夫著『法人税法（平成24年度版）』（中央経済社） 『法人税法 個別問題集〔平成24年度版〕』（TAC出版） 『法人税法 理論マスター〔平成24年度版〕』（TAC出版） 染谷英雄著『法人税法を初歩から学ぶ（第11版）』（中央経済社） 金子宏著『租税法（第12版）』（弘文堂）
その他	法人税法はボリュームの多い科目であり、難しいといわれています。しかし法理念と体系さえ把握できれば必ず理解できます。また実務上必ず必要となりますから、資格取得に対して高い目的意識をもって講義に参加してほしいと思います。疑問点については遠慮せずに積極的に質問をして早期に解決してください。

履修コード	097301
科目名	会計情報論
担当者名	石川 純治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	変容する現代の会計のトータルな理解と将来の予見の洞察
授業スケジュール	教科書と放送大学「社会のなかの会計」(DVD)の講義とをあわせて、企業会計の変容のあり方を理論と制度の両面から講義する。 第1回:義全体の紹介。第2回~4回:「企業会計原則」と今日、第5回~第7回:時価会計の浸透(1)金融商品会計と「企業会計原則」、第8回~第10回:時価会計の浸透(2)退職給付会計と「企業会計原則」、第11回~第13回:変容の全体的捉え方、第14回~第16回:会計配分の基本モデル、第17回~第19回:会計枠組みの今日の変容、第20回~第22回:変容の構図、第23回~第24回:新たな会計秩序を求めて(1)、第25回~第26回:新たな会計秩序を求めて(2)、第27回~第28回:トライアングル体制の変容(1)、第29回~第30回:トライアングル体制の変容(2)
準備学習	講義で使用するスライドは、すべてYestudyからプリントできます。テキストはQ&A方式でわかりやすく書いていますので、(予習もできますが)特に復習してください。
履修上の留意点	細かな会計基準の知識は必要ないが、一応の会計学の基礎知識ないし関心をもっていることが望ましい。
成績評価の方法	小テストと定期試験。小テストは総合評価に加味されます。
教科書/テキスト	石川純治『変容する現代会計』日本評論社1,600円。
参考書	別途指示する。
その他	YeStudyをよくご覧になってください。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~ishikawa/profile.htm

履修コード	309411
科目名	会計情報論
担当者名	石川 純治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	大きく変容する今日の企業会計はどこに行こうとしているのか、その変容の形と方向について学習する。
授業スケジュール	教科書と放送大学「現代の会計」(DVD)の講義とをあわせて、企業会計の変容のあり方を理論と制度の両面から講義する。
準備学習	テキストの各章を(DVDもふくめて)2回行う予定です。1回目の講義(パワーポイントのスライド使用)を聞いた後、テキストでよく復習して2回目の講義に臨んで下さい。
履修上の留意点	会計学の基礎知識をもっていることが望ましい。
成績評価の方法	小テスト(2回)と定期試験。小テストは総合評価に加味されます。
教科書/テキスト	石川純治『変容する現代会計』(日本評論社)1600円。
参考書	別途指示する。
その他	YeStudyをご覧ください。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~ishikawa/profile.htm

履修コード	100251 100252
科目名	会計プロフェッショナルクラスⅠ(会計士) 会計プロフェッショナルクラスⅠ(税理士)
担当者名	内山 峰男 小栗 崇資 森田 佳宏 石川 祐二 石川 純治 北口 りえ
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	将来、公認会計士・税理士となることを目指している学生を対象として、資格試験の合格目標達成を側面から支援するとともに、学生生活が試験対策・受験勉強のみに偏ることのないよう指導して行きます。そのため、履修学生の日常生活等に関する相談にも対応し、かつ、職業会計人となった場合において役立つと思われる事柄で会計関連教科において触れる機会が少ないテーマについて、幅広く取り上げていきます。
授業スケジュール	おおむね、以下に掲げる「経営・会計・税務・監査」に関するテーマ(順番は目安であり、適宜、入れ替えや変更がある)について、講義とクラス討議を、演習(ゼミ)形式で進めます。その他、資格取得のための学習相談・指導や「会計研究」のレポート課題の出題および解説も、適宜、講義時間内に行います。 (1) イントロダクション、(2~4) インベスター・リレーションズ(IR)・アニュアルレポート、(5~8) 企業倫理コンプライアンス・リスクマネジメント(内部統制を含む)・職業倫理(公認会計士・税理士)、(9~12) 公会計監査(国・地方自治体・非営利法人)・中小企業の会計指針、(13~16) 企業利益と課税所得・企業分析と診断・経営問題解決方法論(コンサルティング手法)、(17~20) 時事問題、(21~24) 「会計研究」レポート課題の出題および解説、(25~30) 学習相談および指導(クラス全体および履修生別)。
準備学習	事前に次回の講義内容を伝えた場合には、インターネット・新聞雑誌・書籍等で、情報収集や予習をすること。また、日頃、プラス思考で幅広く知識獲得を心がける(常にアンテナを張ること)。
履修上の留意点	職業会計人には「創造性・自主性・先見力・調査力」等が求められます。国家試験対策(受験勉強)に十分な時間をかけることは当然ですが、上記「講義のねらい」にもあるように、幅広い知識(ひいては哲学等の教養)も養う必要があります。クラスへの積極的参加をととして、それらの能力の開発・養成を心がけてください。
成績評価の方法	出席率・討議参加度を勘案して、総合的に評価します。テーマについての発表や、別途(「会計研究」とは別に)、クラスレポートの提出を求めることもあります。
教科書/テキスト	特に指定しません。必要な資料は配布します。
参考書	そのつど紹介します。
その他	1. 「会計プロフェッショナルクラスⅠ(会計士)」には、「会計研究A」の(1)~(5)が併設されます。 併設される「会計研究A」については、(1)が財務会計論、(2)が管理会計論、(3)が監査論、(4)が租税法、(5)が「企業法」となります。いずれも、専任教員が副担当として受け持ちます。「会計プロフェッショナルクラスⅠ(会計士)」の前期と後期に、それぞれ「会計研究A」のレポート課題の説明および解説を行います。 なお、「会計研究A」の評価は、前期および後期に「会計研究A」の(1)~(5)のそれぞれで課されるレポートの内容および資格取得のための学習状況から総合的に判断します。 2. 「会計プロフェッショナルクラスⅠ(税理士)」には、「会計研究B」の(1)および(2)が併設されます。 併設される「会計研究B」については、(1)が簿記論、(2)が財務諸表論となります。いずれも、専任教員が副担当として受け持ちます。「会計プロフェッショナルクラスⅠ(税理士)」の前期と後期に、それぞれ「会計研究B」のレポート課題の説明および解説を行います。 なお、「会計研究B」の評価は、前期および後期に「会計研究B」の(1)および(2)のそれぞれで課されるレポートの内容および資格取得のための学習状況から総合的に判断します。

履修コード	100261 100262
科目名	会計プロフェッショナルクラスII(会計士) 会計プロフェッショナルクラスII(税理士)
担当者名	内山 峰男 小栗 崇資 森田 佳宏 石川 祐二 石川 純治 北口 りえ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本クラスは、「会計プロフェッショナルクラスI」を履修済みの学生で公認会計士試験・税理士試験を受けることとなる者を対象として、引き続き資格試験の合格目標達成を側面から支援するとともに、学生生活が試験対策・受験勉強のみに偏ることのないよう指導して行きます。そのため、履修学生の日常生活等に関する相談にも対応し、かつ、職業会計人となった場合において役立つと思われる事柄で会計関連教科において触れる機会が少ないテーマについて、幅広く取り上げていきます。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>おおむね、以下に掲げる「経営・会計・税務・監査」に関するテーマ(順番は目安であり、適宜、入れ替えや変更がある)について、講義とクラス討議を、演習(ゼミ)形式で進めます。その他、資格取得のための学習相談・指導や「会計研究」のレポート課題の出題および解説も、適宜、講義時間内に行います。</p> <p>(1) イントロダクション、(2~4) 会計基準の統合(IFRS等)、(5~7) 内部統制(システム監査を含む)、(8~9) 職業倫理(公認会計士・税理士)、(10~12) 公会計(東京都の会計基準・システム等)、(13~15) 経営コンサルティングの動向、(16~17) 国際税務、(18~20) 時事問題、(21~24) 「会計研究」レポート課題の出題および解説、(25~30) 学習相談および指導(クラス全体および履修生別)。</p>
----------	--

準備学習	事前に今回の講義内容を伝えた場合には、インターネット・新聞雑誌・書籍等で、情報収集や予習をすること。また、日頃、プラス思考で幅広く知識獲得を心がける(常にアンテナを張ること)。
------	--

履修上の留意点	職業会計人には「創造性・自主性・先見力・調査力」等が求められます。国家試験対策(受験勉強)に十分な時間をかけることは当然ですが、上記「講義のねらい」にもあるように、幅広い知識(ひいては哲学等の教養)も養う必要があります。クラスへの積極的参加をとおして、それらの能力の開発・養成を心がけてください。
---------	--

成績評価の方法	出席率・討議参加度を勘案して、総合的に評価します。テーマについての発表や、別途(「会計研究」とは別に)、クラスレポートの提出を求めることもあります。
---------	--

教科書/テキスト	特に指定しません。必要な資料は配布します。
----------	-----------------------

参考書	そのつど紹介します。
-----	------------

その他	1. 「会計プロフェッショナルクラスII(会計士)」には、「会計研究A」の(6)~(8)が併設
-----	---

されます。
併設される「会計研究A」については、(6)が上級財務会計論、(7)が上級管理会計論、(8)が上級税法となります。いずれも、専任教員が副担当として受け持ちます。「会計プロフェッショナルクラスII(会計士)」の前期と後期に、それぞれ「会計研究A」のレポート課題の説明および解説を行います。
なお、「会計研究A」の評価は、前期および後期に「会計研究A」の(6)~(8)のそれぞれで課されるレポートの内容および資格取得のための学習状況から総合的に判断します。
2. 「会計プロフェッショナルクラスII(税理士)」には、「会計研究B」の(3)~(5)が併設されます。
併設される「会計研究B」については、(3)が上級簿記論、(4)が上級財務諸表論、(5)が税法となります。いずれも、専任教員が副担当として受け持ちますが、(5)の税法については履修時に登録が必要となります。「会計プロフェッショナルクラスII(税理士)」の前期と後期に、それぞれ「会計研究B」のレポート課題の説明および解説を行います。
なお、「会計研究B」の評価は、前期および後期に「会計研究B」の(3)~(5)のそれぞれで課されるレポートの内容および資格取得のための学習状況から総合的に判断します。

履修コード	100271 100272
科目名	会計プロフェッショナルクラスIII(会計士) 会計プロフェッショナルクラスIII(税理士)
担当者名	内山 峰男 北口 りえ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本クラスは、「会計プロフェッショナルクラスII」を履修済みで既に公認会計士試験・税理士試験を受けた学生を対象として、当初の目的を達成した学生には今後の進路を、また、引き続き受験を行う学生にはその合格目標達成を、側面から支援するとともに、学生生活が試験対策・受験勉強のみに偏ることのないよう指導して行きます。そのため、履修学生の日常生活等に関する相談にも対応し、かつ、職業会計人となった場合において役立つと思われる事柄で会計関連教科において触れる機会が少ないテーマについて、幅広く取り上げていきます。
---------------------	---

授業スケジュール	おおむね、以下に掲げる「経営・会計・税務・監査」に関するテーマ(順番は目安であり、適宜、入れ替えがある)について、講義とクラス討議を、演習(ゼミ)形式で進めます。その他、資格取得のための学習相談・指導および進路に関する相談・指導を行います。 (1) イントロダクション、(2~5) 職業会計人の動向、(6~9) 国際財務報告基準(IFRS)および国際監査基準(ISA)の動向、(10~13) 職業会計人と企業経営者の関わり、(14~17) 外部講師(実務家等)による講義、(18~23) 時事問題、(24~30) 受験および進路に関する相談および指導。
----------	---

準備学習	事前に今回の講義内容を伝えた場合には、インターネット・新聞雑誌・書籍等で、情報収集や予習をすること。また、日頃、プラス思考で幅広く知識獲得を心がける(常にアンテナを張る)こと。
------	--

履修上の留意点	職業会計人には「創造性・自主性・先見力・調査力」等が求められます。国家試験対策(受験勉強)に十分な時間をかけることは当然ですが、上記「講義のねらい」にもあるように、幅広い知識(ひいては哲学等の教養)も養う必要があります。クラスへの積極的参加をとおして、それらの能力の開発・養成を心がけてください。
---------	--

成績評価の方法	出席率・討議参加度を勘案して、総合的に評価します。テーマについての発表やクラスレポートの提出を求めることもあります。
---------	--

教科書/テキスト	特に指定しません。必要な資料は配布します。
----------	-----------------------

参考書	そのつど紹介します。
-----	------------

その他	1. 「会計プロフェッショナルクラスIII(会計士)」には、「会計研究A」の併設はありません。 2. 「会計プロフェッショナルクラスIII(税理士)」には、「会計研究B」の(6)が併設されます。 併設される「会計研究B」の(6)は、上級税法となり、専任教員が副担当として受け持ちますが、クラスの履修時に登録が必要となります。この場合、前期に、レポート課題の説明および解説を行います。なお、その評価は、当該レポートの内容および資格取得のための学習状況から総合的に判断します。
-----	--

履修コード	093901
科目名	環境経済論
担当者名	林 公則

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義の目標は、現実が生じている公害・環境問題と環境経済理論との関係を明らかにすることである。以上の目標を達成するために、できる限り実際に生じた公害・環境問題を取り上げながら、それと関連している環境経済理論を紹介する。環境経済理論が机上の空論ではなく、現実の問題と密接に関連して誕生・発展していることを理解して欲しい。 講義では、市場経済について理論的に説明した上で、市場経済の分析では抜け落ちてしまっている国家、技術、環境といった側面に焦点を当てていく。経済学において外部的な要素とされてきた環境に対して現実の経済活動がどのような影響を与えてきたのかという視点から「環境と経済」との関係を検討していく。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回: ガイダンス、第2~4回: 水俣病、第5~7回: 経済学の基礎知識、基本的な環境経済理論の紹介(外部不経済論、社会的費用論、物質代謝論)、第8~12回: 食と環境(食品添加物、遺伝子組換え食品、スローフードなど)、第13~15回: エネルギー問題(原子力問題、再生可能エネルギー普及促進政策)、第16~17回: 四日市公害、第18~22回: 公共事業による環境破壊(大阪国際空港事件、川辺川ダム問題、環境アセスメント)、第23~25回: 自然保護・アメニティ保全(ナショナル・トラスト、水源税)、第26~28回: 地域環境政策(外來型開発、内発的発展)、第29~30回: 軍事環境問題
----------	--

準備学習	前回とのつながりをもった講義を展開するつもりなので、前回のレジュメを読み直して翌週の講義に望むこと。
------	--

履修上の留意点	
成績評価の方法	前期と後期の学期末にそれぞれ課レポートと講義への参加状況とで判断する。

教科書/テキスト	特定の教科書は用いず、毎回レジュメを配布する。それぞれの講義ごとに参考にした図書を示すので、興味のある者はそれらを参照してもらいたい。
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	097111
科目名	管理会計論 a
担当者名	石川 祐二
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、伝統的に管理会計研究の領域において取り扱われてきた諸問題について検討を加える。とりわけ、企業業績の測定・管理に関わる範囲を中心として、そのために用いられる会計情報について学ぶことになる。それを通じて、会計情報の経営管理的意味を明らかにする。
授業スケジュール	1. ガイダンス 2~3. 管理会計論の捉え方 4. 管理会計論の成立と発展 5. 管理会計における情報の性質 6. コスト概念 7. 利益概念 8. CVP分析 9. 予算編成と利益計画 10~11. 予算実績差異分析 12. セグメント別業績評価 13. 活動基準原価計算 14. 活動基準管理 15. まとめ
準備学習	簿記を中心として、会計の基本的な「用語」について学んでおくことを推奨する。
履修上の留意点	会計学基礎(総論)および簿記論を履修済みであることが好ましい。 また、電卓を用いることがあるので、その際は持参すること。
成績評価の方法	定期試験(前期末)により評価する。
教科書/テキスト	毎回配布するプリントが教科書代わりである。
参考書	石川祐二著 『現代ドイツ管理会計制度論』 森山書店 3675円(税込) ISBN: 4-8394-2031-9

履修コード	308111
科目名	管理会計論 a
担当者名	石川 祐二
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、伝統的に管理会計研究の領域において取り扱われてきた諸問題について検討を加える。とりわけ、企業業績の測定・管理に関わる範囲を中心として、そのために用いられる会計情報について学ぶことになる。それを通じて、会計情報の経営管理的意味を明らかにする。
授業スケジュール	1. ガイダンス 2~3. 管理会計論の捉え方 4. 管理会計論の成立と発展 5. 管理会計における情報の性質 6. コスト概念 7. 利益概念 8. CVP分析 9. 予算編成と利益計画 10~11. 予算実績差異分析 12. セグメント別業績評価 13. 活動基準原価計算 14. 活動基準管理 15. まとめ
準備学習	簿記を中心として、会計の基本的な「用語」について学んでおくことを推奨する。
履修上の留意点	会計学基礎(総論)および簿記論を履修済みであることが好ましい。 また、電卓を用いることがあるので、その際は持参すること。
成績評価の方法	定期試験(前期末)により評価する。
教科書/テキスト	毎回配布するプリントが教科書代わりである。
参考書	石川祐二著 『現代ドイツ管理会計制度論』 森山書店 3675円(税込) ISBN: 4-8394-2031-9

履修コード	097121
科目名	管理会計論 b
担当者名	石川 祐二
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義においては、現代において特に注目されている、新たな管理会計研究の領域について取り上げることとする。具体的には、業績評価に関わる新たな手法に検討を加えることや、企業の「経営管理」と「会計」との関係をとらえ直すことが中心的な課題となる。このことを通じて、伝統的な管理会計研究では捕捉しきれなかった会計現象の意味を明らかにしたい。それにより、現代的な意味で、管理会計の社会的機能を理解することが、本講義の目指すところである。
授業スケジュール	1. ガイダンス 2. 企業管理と法律規定 3. 企業管理と会計制度の関係性 4~5. 企業管理と会計基準との関係性 6~7. 企業内部の管理システムと会計報告との関係性 8. 企業管理情報の会計的意味 9. 財務管理と引当金との関係 10~11. バランスト・スコアカードの会計的意味 12~13. 管理システムに関する監査制度の新展開 14. 管理会計の社会制度的意味 15. まとめ
準備学習	毎回、テキストを一読した上で講義に臨むこと。
履修上の留意点	会計学基礎(総論)および簿記論、管理会計論aを履修済みであることが好ましい。
成績評価の方法	中間レポート(30%)および定期試験(後期末:70%)により評価する。
教科書/テキスト	石川祐二著 『現代ドイツ管理会計制度論』 森山書店 3675円(税込) ISBN: 4-8394-2031-9
参考書	必要に応じて紹介する。

履修コード	308121
科目名	管理会計論 b
担当者名	石川 祐二

授業概要/
到達目標 (ねらい)

本講義においては、現代において特に注目されている、新たな管理会計研究の領域について取り上げることにする。具体的には、業績評価に関わる新たな手法に検討を加えることや、企業の「経営管理」と「会計」との関係をとらえ直すことが中心的な課題となる。このことを通じて、伝統的な管理会計研究では捕捉しきれなかった会計現象の意味を明らかにしたい。それにより、現代的な意味で、管理会計の社会的機能を理解することが、本講義の目指すところである。

授業スケジュール

1. ガイダンス 2. 企業管理と法律規定 3. 企業管理と会計制度の関係性 4~5. 企業管理と会計基準との関係性 6~7. 企業内部の管理システムと会計報告との関係性 8. 企業管理情報の会計的意味 9. 財務管理と引当金との関係 10~11. バランス・スコアカードの会計的意味 12~13. 管理システムに関わる監査制度の新展開 14. 管理会計の社会制度的意味 15. まとめ

準備学習

毎回、テキストを一読した上で講義に臨むこと。

履修上の留意点

会計学基礎(総論)および簿記論、管理会計論aを履修済みであることが好ましい。

成績評価の方法

中間レポート(30%)および定期試験(後期末:70%)により評価する。

教科書/テキスト

石川祐二著『現代ドイツ管理会計制度論』森山書店 3675円(税込) ISBN: 4-8394-2031-9

参考書

必要に応じて紹介する。

履修コード	091911 091912
科目名	企業管理論 a 経営管理論 a
担当者名	岩波 文孝

授業概要/
到達目標 (ねらい)

企業経営をめぐる経済的・社会的環境が急激に変化している状況において、企業管理・経営管理の構造変化および経営管理のあり方が問われています。本講義では、「企業と社会」のアプローチにより、持続可能な社会発展を目指す経営管理の諸課題を経済、環境、社会の側面から考察していきたい。
本講義を通じて、企業の社会性を踏まえた企業管理論・経営管理論の諸課題に関する理解を深めてもらいたい。

授業スケジュール

1. 授業の概要: 企業と社会をめぐる諸課題 (1)
2. 競争力と経営管理 (1~2)
3. 日本企業の競争力と国家政策 (3~5)
4. コーポレート・ガバナンスとトップ・マネジメント (6~7)
5. 日本企業のイノベーション戦略 (8)
6. 日本企業の環境経営戦略 (9)
7. 日本企業の事業・職能管理組織 (10)
8. 日本企業の組織と個人の関係 (11)
9. 日本企業の生産・労働システム (12)
10. 米国における日系企業 (13)
11. 日本企業の競争力をめぐる現実的課題と展望 (14~15)

授業の進め方について、付言しておきます。授業の進行はテキストの順序とは異なります。

準備学習

企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集をしてください。

履修上の留意点

現代社会の諸事情や企業経営について興味関心を持って受講してもらいたい。

成績評価の方法

定期試験(前期末)により評価します。

教科書/テキスト

林正樹編著(2011)『現代日本企業の競争力』ミネルヴァ書房。

参考書

日本比較経営学会編(2006)『会社と社会』文理閣。

履修コード	091921 091922
科目名	企業管理論 b 経営管理論 b
担当者名	岩波 文孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経済的・社会的環境が急激に変化している状況において、企業管理の構造変化および企業管理のあり方が社会から問われている。巨大企業のトップ・マネジメントをめぐって、所有と経営の分離にともなう会社支配の問題、グローバル化の進展・企業間競争の激化・資本調達にともなう企業の透明性と効率性が求められている。本講義では、コーポレート・ガバナンスに関連付けながら現代の巨大企業におけるトップ・マネジメント機能の特質を考察していきたい。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要：ガイダンス (1) 2. 企業と社会 (2~3) 3. 会社支配論とトップ・マネジメント (3~4) 4. 取締役会改革とコーポレート・ガバナンス (5) 5. CSRとトップ・マネジメント機能 (6~7) 6. 日本企業のトップ・マネジメント改革 (8~9) 7. アメリカ企業のトップ・マネジメント改革 (10) 8. イギリス企業のトップ・マネジメント改革 (11) 9. ドイツ企業のトップ・マネジメント改革 (12) 10. グローバル企業のコーポレート・ガバナンス (13) 11. 企業管理改革の課題と展望 (14~15)
----------	---

授業の進め方について、付言しておきます。授業の進行はテキストの順序とは異なります。

準備学習	企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集をしてください。
履修上の留意点	現代社会の諸事情や企業経営について興味関心を持って受講してもらいたい。
成績評価の方法	定期試験 (後期末) により評価します。
教科書/テキスト	風間信隆・海道ノブチカ編著 (2009) 『コーポレート・ガバナンスと経営学』 ミネルヴァ書房。
参考書	代田純編著 (2010) 『金融危機と証券市場』 同文館。

履修コード	09991
科目名	企業経営学 a
担当者名	名取 修一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	企業経営活動は、利潤生産・商品生産過程において、生活の糧を提供し、人々の「豊かさの創造」機会をも生み出している。そして企業が存続し続けるためには利潤達成を実現すると同時に、社会的責任の遂行がなされなければならない。本講義では、こうした観点に立って経営者・管理者行動に視点を当てる。
授業スケジュール	<p>企業経営学aでは、企業経営活動を全般に渡って概観する中で、「企業とは何か」を中心に講義する。ここでは、単に企業そのものの定義や概念を理解するだけでなく、「活動体」であり「存続体」であるという視点から企業と環境の構造的、体系的連関の構図の把握を目指す。</p> <p>まず、資本と労働の構造的・機能的な関係からの二重性、また国内・国際市場との複層性を理解する。その上で、国際社会化、情報社会化の展開とともに、たとえば労働生産性の追求と超高齢社会、人々の生活と機械的合理主義、国内ならびに国際的格差の構造化、自然環境や生活圏の保全と物質的豊かさの追求問題等を考察し、広い視野から企業の実像を探る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 経営学とは何か 3. 企業の特質① 4. 企業の特質② 5. 企業形態 6. 株式会社制度の特質① 7. 株式会社制度の特質② 8. 企業集団 9. コーポレート・ガバナンス① 10. コーポレート・ガバナンス② 11. 企業経営とステークホルダーの今 12. 中小企業論① 13. 中小企業論② 14. 非営利組織論 15. 前期のまとめ
準備学習	授業の中では、日々の経済・政治・社会等に関するニュースを事例として取り上げる。受講生は新聞等で事前に情報の把握に努めておくこと。
履修上の留意点	受講生は、新聞等のメディア情報を積極的に見ておくことと自分自身の独自ノートを創ること。
成績評価の方法	受講態度（出席状況）・定期試験により評価する。
教科書／テキスト	百田義治編著『経営学 基礎』（中央経済社）
参考書	鈴木幸毅著『環境経営学・環境経営学の確立に向けて』（税務経理協会）、名取修一・市川彰編著『現代経営学要論』（同友館）
その他	講義形式で進めるが、適宜学生との相互授業に心がける。授業内容に応じて資料を配布する。

履修コード	099981
科目名	企業経営学 b
担当者名	名取 修一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	企業経営活動は、利潤生産・商品生産過程において、生活の糧を提供し、人々の「豊かさの創造」機会をも生み出している。そして企業が存続し続けるためには利潤達成を実現すると同時に、社会的責任の遂行がなされなければならない。本講義では、こうした観点に立って経営者・管理者行動に視点を当てる。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>企業経営学aで理解した企業活動の構造的理解の上で、経営学の体系的理解を目指す。経営学の各論を整理し、それぞれの理論的・実践的理解と統合化を主たる命題として講義するなかで、受講生各自が自らの視点と問題意識を持つことができるように努めたい。</p> <p>企業による生産主体としての活動は、その構造的視点と行動的視点の統合において理解されなければならない。今日、企業経営活動は構造改革が展開され、またそれに伴ってさまざまな制度改革が勧められている。「日本的経営」の優位性が変異し、従来とは大きく様変わりしてきている。後期の授業は、学生自身が積極的に問題視角を形成していくよう、講義の進行に努めたい。</p>
----------	--

1. ガイダンス
2. 経営学史を学ぶ
3. 「科学的管理法」確立の意味
4. 「科学的管理法」の深化と今
5. 管理過程論・管理原則論と今
6. 人間関係論の展開とその意義
7. 現代組織論の源流
8. コンティンジェンシー理論の特質
9. 経営戦略論
10. 人的資源管理論の展開と問題点
11. 日本の経営の今を考える
12. グローバル化とナショナリズム
13. 環境経営学
14. CSRと企業倫理
15. 後期のまとめ

準備学習	授業の中では、日々の経済・政治・社会等に関するニュースを事例として取り上げる。受講生は新聞等で事前に情報の把握に努めておくこと。
------	--

履修上の留意点	受講生は、新聞等のメディア情報を積極的に見ておくことと自分自身の独自ノートを創ること。
---------	---

成績評価の方法	受講態度（出席状況）・定期試験により評価する。
---------	-------------------------

教科書／テキスト	百田義治編著『経営学 基礎』（中央経済社）
----------	-----------------------

参考書	鈴木幸毅著『環境経営学・環境経営学の確立に向けて』（税務経理協会）、名取修一・市川彰編著『現代経営学要論』（同友館）
-----	--

その他	講義形式で進めるが、適宜学生との相互授業に心がける。授業内容に応じて資料を配布する。
-----	--

履修コード	097231
科目名	企業経済学 a
担当者名	飯田 泰之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	企業活動のミクロ経済学的な分析を行う。経済学的な思考法は、現代のあらゆる社会科学の基礎であるといっても過言ではない。そして、経済学的な思考法を最も素朴に適用して組み立てられているのがミクロ経済学である。本講では狭義の企業経済学にこだわらず、経済学的な思考法自体に積極的に言及することで、今後の学習の基礎(ベース)を提供したいと考えている。 なお、企業経済学aで主に取り扱うのは市場に対する企業の活動である。様々な市場環境に対して、企業はどのように活動するかを主なターゲットとする。
---------------------	---

授業スケジュール	以下のテーマを各二講義ずつ講義する。
----------	--------------------

1. 企業とはなにか?
2. 経済学と経営学
3. 経済学思考について
4. 競争市場での企業活動
5. 価格支配力と企業活動
6. ライバル企業との競争と協調
7. 利潤最大化の3つの方向性

準備学習	ミクロ経済学を未履修の場合は 飯田泰之、『ミクロ経済学講義』光文社、2012年4月刊行予定 の該当部分を読みながら講義に参加して欲しい。
------	--

履修上の留意点	出席は問わないかわりに講義中の私語には厳しく対応する。なお、企業経済学bとの同時履修を強く推奨する。
---------	--

成績評価の方法	中間レポートと学期末試験によって評価する。
---------	-----------------------

教科書/テキスト	飯田泰之、『経済は損得で理解しろ』、エンターブレイン、2010年
----------	----------------------------------

参考書	飯田泰之、『ミクロ経済学講義』、光文社、2012年4月刊行予定 その他必要となる参考書については講義中に適宜指示する。
-----	--

履修コード	097241
科目名	企業経済学 b
担当者名	飯田 泰之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	企業活動のミクロ経済学的な分析を行う。経済学的な思考法は、現代のあらゆる社会科学の基礎であるといっても過言ではない。そして、経済学的な思考法を最も素朴に適用して組み立てられているのがミクロ経済学である。本講では狭義の企業経済学にこだわらず、経済学的な思考法自体にも積極的に言及することで、今後の学習の基礎(ベース)を提供したいと考えている。 なお、企業経済学bでは企業戦略の立案、企業内部でのマネジメント・ガバナンスの問題を主に取り扱う。
---------------------	--

授業スケジュール	以下のテーマについて、各二講義ずつで学習していく。
----------	---------------------------

1. レッドオーシャンとブルーオーシャン
2. コスト優位戦略
3. 差別化優位戦略
4. 価格戦略
5. ファイブ・フォース分析
6. コーポレート・ファイナンス
7. 企業経済学から考える

準備学習	ミクロ経済学を未履修の場合は 飯田泰之、『ミクロ経済学講義』、光文社、2012年4月刊行予定 の該当部分を読みながら講義に参加して欲しい
------	--

履修上の留意点	出席は問わないかわりに講義中の私語には厳しく対応する。なお、企業経済学aとの同時履修を強く推奨する。また、企業経済学aを履修していることを前提に講義を進めるため注意すること。
---------	---

成績評価の方法	中間レポートと学期末試験によって評価する。
---------	-----------------------

教科書/テキスト	飯田泰之、『経済は損得で理解しろ』、エンターブレイン、2010年
----------	----------------------------------

参考書	飯田泰之、『ミクロ経済学講義』、光文社、2012年4月刊行予定 その他必要となる参考書については講義中に適宜指示する。
-----	--

履修コード	098171
科目名	企業社会責任論
担当者名	桑山 三恵子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	近年、企業社会責任論は、グローバルな企業活動に伴い企業の影響力がますます大きくなる中で、経営学の分野で避けて通ることのできない問題領域となっている。2010年秋には約10年間にわたる国際的な議論を踏まえ、ISO (国際標準化機構) により、「あらゆる組織の社会的責任」の国際標準規格が制定された。また、日本国内では、東日本大震災の発生により、企業と社会の関係性に新たなそして大きな変化が生まれたと言われている。本講義では、企業と社会が共に持続的に発展するための理論と実践を戦略的、かつ多様な視点から学び、新たな企業経営の探求を目標としている。 初めに、ストックホルム理論とステークホルダー理論を比較検討し、ステークホルダーの概念とステークホルダーマネジメント理論の理解を深める。次いで、日・米・欧のコーポレートガバナンスの比較をベースに「企業の社会責任」に対するとらえ方を比較検討する。また、多様なステークホルダー (消費者、投資家・株主、地球環境の等) へのCSR実践事例を学ぶとともに、日本企業の「CSRレポート」を題材に、戦略的視点から日本企業のCSR活動を分析評価し、課題の抽出と改善策をグループワークにより検討する。また、企業の新しい形としてのソーシャルビジネスやBOPの事例も紹介したい。
---------------------	---

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス 企業とは何か、企業社会責任とは (2) 日米欧のコーポレートガバナンスと企業社会責任の認識① (3) 日米欧のコーポレートガバナンスと企業社会責任の認識② (4) CSRと代表的な国際標準 ISO 26000の制定の背景と意味 (5) ストックホルム理論とステークホルダー理論① (6) ストックホルム理論とステークホルダー理論② (7) ステークホルダーマネジメント、サプライチェーンマネジメント (8) 多様なステークホルダーとCSR (消費者) (9) 多様なステークホルダーとCSR (投資家・出資者、地球環境) (10) CSRレポートの分析 (グループワーク) ① (11) CSRレポートの分析 (グループワーク) ② (12) CSRレポートの分析 (グループワーク) ③ (13) CSRレポートの分析 (グループワーク) ④ (14) BOPビジネスと社会企業家 (15) まとめ 社会と企業を共に持続的に発展させる企業像の検討
----------	--

準備学習	今回の授業のテーマに関連する情報を参考書やインターネットで収集すると理解が深まる。また、授業中に配布する資料については講義終了後に熟読すること。 グループワークには、積極的に関わること。
------	--

履修上の留意点	企業と社会の相互関係という視点から、新聞、雑誌、テレビの特集番組、企業の社会責任報告書、インターネット上の情報に積極的にアクセスすること。
---------	---

成績評価の方法	学期末の定期試験 (50%)、グループワーク (30%)、出席状況の態度 (20%) を加味して総合的に評価。
---------	---

教科書/テキスト	授業開始時に指定
----------	----------

参考書	<p>谷本寛治 『CSR－企業と社会を考える』 2006年刊 (NTT出版) 1600円 ISBN4-7571-2179-2</p> <p>田中宏司 CSR入門講座 第1巻 『CSRの基礎知識』 2005年刊 (日本規格協会) 1300円 ISBN4-542-70150-6</p> <p>高蔵+日経CSRプロジェクト編 『CSR-企業価値をどう高めるか』 2004年刊 1600円 ISBN4-532-31181-0</p> <p>他に、授業中に紹介</p>
-----	--

履修コード	096711 096712
科目名	企業戦略論 a 経営戦略論 a
担当者名	田淵 泰男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	企業をとりまく経営環境が、めまぐるしく、ダイナミックに変化している現代、経営戦略の優劣いかんが、企業の栄枯盛衰に重大な影響をもつようになっています。企業がそうした環境に、いかにうまく適応すべきかを考える経営戦略は、現代企業にとって最も重要なものであるとともに、現代経営学における中心的な研究分野の1つになっています。この授業は、これまでの経営戦略論の展開をふまえ、経済学部で経営戦略論を学ぶ皆さんにとって是非必要な重要論点にかなう知識を提供し、それらの考え方の理解をはかることをねらいとします。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>「企業戦略論 a・経営戦略論 a」（合併授業）は、経営戦略論の体系の中で「企業戦略論」を主たる内容とします。企業戦略は、企業全体の将来のあり方に関する戦略です。その内容は、企業の諸事業を全体としてどのようにバランスないし統合するか、新しくどのような事業に進出するか、将来にわたってどのような企業を形成していくか、等にかかわる戦略です。この授業は以下の主要分野について、それぞれの理論を事例もまじえて解説します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営戦略論への招待 ・戦略および経営戦略の概念、経営戦略論の発展過程、経営戦略の体系などの概説。 ・企業のアイデンティティと事業活動領域を選択・決定する「ドメインの定義」 ・企業が成長戦略のなかで新しい製品・市場をめざして複数の事業分野に経営資源を展開していく「多角化戦略」 ・多角化した企業が経営資源をどのような製品事業へ選択的に重点配分すべきかを考える「事業ポートフォリオ戦略」
----------	---

準備学習	経営学に関する基礎的な科目を履修していることが望ましい
履修上の留意点	企業行動の論理を探求しようとする意欲をもって、その機会を常日頃意識的にさまざまな視点からとらえようとする姿勢が大切です。
成績評価の方法	授業の進捗内容にあわせて実施する3回程度の中間試験（事前に予告）によって評価します。
教科書／テキスト	開講時に説明します。毎回、プロジェクター（パワーポイント）を利用します。図表を多用するときや、詳細な説明を要するときはプリントを配布します。
参考書	適宜紹介します。

履修コード	096721 096722
科目名	企業戦略論 b 経営戦略論 b
担当者名	田淵 泰男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	企業をとりまく経営環境が、めまぐるしく、ダイナミックに変化している現代、経営戦略の優劣いかんが、企業の栄枯盛衰に重大な影響をもつようになっています。企業がそうした環境に、いかにうまく適応すべきかを考える経営戦略は、現代企業にとって最も重要なものであるとともに、現代経営学における中心的な研究分野の1つになっています。この授業では、これまでの経営戦略論の展開をふまえ、経済学部で経営戦略論を学ぶ皆さんにとって是非必要な重要論点にかなう知識を提供し、それらの考え方の理解をはかることをねらいとします。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>「企業戦略論 b・経営戦略論 b」（合併授業）は、経営戦略論の体系の中で「競争戦略論」を主たる内容とします。競争戦略は、競合企業に対して持続的な競争優位を確立するための戦略であり、現在注目されている戦略論のテーマです。この授業は以下の主要分野について、それぞれの理論を事例もまじえて解説します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界の競争構造分析フレームワーク（競争の程度から収益性の高い魅力的な業界を探し出す考え方と手法）である「5つの競争要因」分析。 ・競争優位状態の分析と戦略的ポジションの選択にかかわる「競争の基本戦略」、および「戦略グループ」「価値連鎖」等。 ・競争優位の源泉に関する2つの考え方として、「ポジショニング・アプローチ」と「資源ベース・アプローチ」（リソース・ベースト・ビュー）。 ・競争地位の類型化とそれに対応して要求される「競争対抗戦略」。 ・先発企業の競争優位性、後発企業の競争逆転の戦略。 ・デファクト・スタンダード（業界標準規格）をめぐる競争戦略。 ・「ブルーオーシャン戦略」、など。
----------	---

準備学習	経営学に関する基礎的な科目を履修していることが望ましい。 前期に企業戦略論 a または経営戦略論 b を履修し、後期に引き続き当科目を履修することが望ましい。
履修上の留意点	企業行動の論理を探求しようとする意欲をもって、その機会を常日頃意識的にさまざまな視点からとらえようとする姿勢が大切です。
成績評価の方法	授業の進捗内容にあわせて実施する3回程度の中間試験（事前に予告）によって評価します。
教科書／テキスト	開講時に説明します。毎回、プロジェクター（パワーポイント）を利用します。図表を多用するときや、詳細な説明を要するときはプリントを配布します。
参考書	適宜紹介します。

履修コード	099181
科目名	企業統治論 a
担当者名	水村 典弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	企業統治論 a は、企業経営の論理と株式会社制度を説明したうえで、株式会社の統治（コーポレート・ガバナンス）について様々な角度から説明します。大学卒業後に、公開企業の経営企画部や総務部で働く際に必要な基本的な知識や最新の情報を積極的に提供していきます。
---------------------	--

授業スケジュール	(第1回) 企業統治と企業統治論、(第2回) 経営の論理と責任、(第3回～第6回) 株式会社制度と証券市場、(第7回～第9回) 会社機関の設計上の意図と運営上の課題、(第10回～第12回) 企業統治問題と公開会社の現在、(第13回～第15回) SOP (標準作業手順書) と内部監査の実務指針 (※初回の講義には必ず出席して下さい。) (※※受講生の興味関心の方向性及び社会経済情勢の変化に対応して、講義内容の一部を変更する場合があります。予め御了解願います。)
----------	---

準備学習	企業報道 (新聞・雑誌、インターネット、TVの特集番組) などに日頃から接するように心掛けて下さい。日本国外の変化や日本国外の変化をフォローしていれば、講義の内容を深く理解できると思います。また受講生に予備的な知識が乏しくとも、株式会社制度の基本については講義全体の前半で詳細に説明します。
------	---

履修上の留意点	講義の内容について理解できないことがあれば、講義終了後に必ず質問して下さい。
---------	--

成績評価の方法	学期末試験 (70%) と中間テスト (30%) の得点を基準として評価します。(※受講生の人数に応じて、成績評価の方法を変えることもあります。その際には、講義時間内に複数回アナウンスします。)
---------	---

教科書/テキスト	特に指定しません。
----------	-----------

参考書	海道ノブチカ・風間信隆編著『コーポレート・ガバナンスと経営学—グローバル化下の変化と多様性—』ミネルヴァ書房、2009年。 http://www.minervashobo.co.jp/book/b49888.html
-----	--

履修コード	099191
科目名	企業統治論 b
担当者名	水村 典弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	企業統治論 b は、企業統治の具体的な課題についてグループワーク形式で学びます。具体的には、経営のプロフェッショナルリズム、価値共有型の経営管理モデルと法令順守型の経営管理モデル、リスクマネジメントなどの論点を含むケースワークを通じて、経営の情理と企業統治の在り方について学びます。
---------------------	---

授業スケジュール	(第1回) ケーススタディーとケースメソッド、(第2回～第4回) 企業統治と企業倫理、(第5回～14回) 規範倫理学とケースワーク (実施予定のケース: ①ポートフォリオマネジメントとリスクマネジメント [三菱商事、住友商事]、②成果主義と「良い仕事」 [三井物産]、③不測の事態と企業倫理 [参天製薬、明治HD] など) (またはCSR のケース: ①ネスレ [CSV: 共有価値の創造]、②ボルヴィック [1L for 10L]、③住友化学 [オリセットネット] など) (第15回) 経営の情理と論理 (※履修予定者は初回の講義に必ず出席して下さい。※※受講生の興味関心の方向性及び社会経済情勢の変化に対応して、講義内容の一部を変更する場合があります。予め御了解願います。)
----------	--

準備学習	企業報道 (新聞・雑誌、インターネット、TVの特集番組) などに日頃から接するように心掛けて下さい。日本国外の変化や日本国外の変化をフォローしていれば、講義の内容を深く理解できると思います。
------	---

履修上の留意点	企業統治論 b は、グループワークで講義を進めていきます。グループワークは、インターンシップや就職活動の選考でも広く導入されています。少人数のグループで自分の意見を述べて、人前で発表する経験を積んでいけば、あなたの可能性も拓けるはずですよ。
---------	--

成績評価の方法	平常点 (平常点の構成要素: ①出席、②発言、③協調性、④追加点 [アドバンテージ: グループ単位の発表の内容が優れていると他の受講生が判断した場合にはメンバー全員に加点します]) と期末試験。但し、受講生の人数に応じて、成績評価の方法を変えることもあります。その際には、講義時間内に複数回アナウンスします。)
---------	---

教科書/テキスト	特に指定しません。
----------	-----------

参考書	講義の際に口頭で紹介します
-----	---------------

履修コード	098161
科目名	企業倫理
担当者名	桑山 三恵子

授業概要/
到達目標 (ねらい)

近年、オリンパス事件や大王製紙事件、東電の原子力発電事故など、企業倫理分野に深くかかわる事件が多発している。その要因は何か。この講義の到達目標は、営利組織である企業が企業倫理の徹底に取り組む意味と歴史的背景を理解し、具体的な不祥事事例の分析や先進企業の事例分析を通して、組織に企業倫理を浸透させるための仕組みや実践的方策を学び、目指すべき企業像を探求することである。はじめに企業経営に関連が深いと考えられる倫理規範論の基礎を学習する。次に、グループワーク(ケースメソッド法)により、具体的な不祥事事例を分析し、倫理的思考にもとづく意思決定を身につける。また、日米の企業風土の特徴と法制度の制定の経緯を学び、不祥事の再発防止策を学ぶ。さらに、先進事例の分析を通して企業倫理を組織に浸透させるための実践的手法を検討し、目指すべき企業像を描出する。

授業スケジュール

- (1) ガイダンス 企業倫理論の位置づけ
- (2) 法と倫理 企業経営に関連の深い倫理規範論の基礎を学ぶ ①倫理的利己主義
- (3) 企業経営に関連の深い倫理規範論の基礎を学ぶ ②功利主義
- (4) 企業経営に関連の深い倫理規範論の基礎を学ぶ ③義務論
- (5) 企業経営に関連の深い倫理規範論の基礎を学ぶ ④正義論
- (6) 企業不祥事事例分析(グループワーク:ケースメソッド法) ①
- (7) 企業不祥事事例分析(グループワーク:ケースメソッド法) ②
- (8) 企業不祥事事例分析(グループワーク:ケースメソッド法) ③
- (9) 企業不祥事事例分析(グループワーク:ケースメソッド法) ④
- (10) アメリカの産業社会と企業倫理
- (11) 日本の産業社会と企業倫理
- (12) 企業倫理の組織内制度化Ⅰ(倫理綱領、組織体制)
- (13) 企業倫理の組織内制度化Ⅱ(教育コミュニケーション、内部通報制度、監査)
- (14) 企業倫理と内部統制
- (15) まとめ 目指すべき企業像とは

準備学習

今回の授業のテーマに関連する情報を参考書やインターネットで収集すると効果が高まる。また、授業中に紹介する資料や配布する資料を講義終了後に熟読しておくこと。事例分析は、グループワークで実施するが、各自事例の資料を熟読し、理解を深めること。

履修上の留意点

企業経営と倫理に関するテーマをとりあげた新聞、雑誌、テレビの特集番組等の情報に積極的にアクセスすることを心がけること。

成績評価の方法

学期末の定期試験(50%)、グループワーク(30%)と出席状況・態度(20%)も加味して総合的に評価する。

教科書/テキスト

授業開始時に指定

参考書

日本経営倫理学会監修 水谷雅一編著『経営倫理』2003年刊(同文館出版)2400円
ISBN4-495-37131-2
小林俊治 百田義治 編『社会から信頼される企業-企業倫理の確立に向けて』2004年刊(中央経済社)2400円 ISBN4-502-37550-0
他に、授業中に紹介

履修コード	097041
科目名	起業論
担当者名	長山 宗広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	1990年代以降、日本では廃業率が開業率を上回り、経済のダイナミズムが失われてきている。特に、地方圏においては、企業誘致による外来型開発に限界が見える中、地域における新規開業企業の増大・創業支援が重要な課題となっている。本講義では、こうした課題解決に向けて主体的に挑戦できる人材(起業家)を養成する。そのため、学術的研究を概説するにとどまらず、ビジネスプラン(事業計画書)作成の演習などを交えた実践的学習をすすめていく。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) 前期(ベンチャー論)のサマリー、起業論のガイダンス (2) 起業、起業家とは (3) 近年の起業活動の実態 (4) 起業家の実像(ゲスト・スピーカーによる講義) (5) 起業活動の出発点(事業機会の発見) (6) ビジネス・アイデアの創出 (7) 起業とイノベーション (8) ビジネスプランと起業家 (9) 起業活動と経営戦略(ビジネスモデル、ドメイン) (10) 創業期のマーケティング活動 (11) アクションプラン (12) 計数計画、資金調達 (13) 組織・人材戦略 (14) ビジネスプランの作成 (15) まとめ
----------	--

準備学習	起業論、ベンチャー論を一括履修すること。
------	----------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	期末試験による評価：50% 講義中のレポート(ビジネスプラン)および出席状況など平常点：50%
---------	--

教科書/テキスト	長山宗広『日本的スピノフ・ベンチャー創出論 ー新しい産業集積と実践コミュニティを事例とする実証研究』同友館、2012年。
----------	--

	「イエスタデイ」にて講義内容の一部を公開する。
--	-------------------------

参考書	高橋徳行『起業学の基礎』勁草書房、2005年 高橋徳行『起業学入門』通商産業調査会、2000年 ジェフリー・A・ティモンズ『ベンチャー創出の理論と戦略』ダイヤモンド社、1997年
-----	---

その他	少なくとも、1回は、ゲスト・スピーカー(起業経験者)による講義を行う。
-----	-------------------------------------

履修コード	092411
科目名	企業論基礎
担当者名	劉 永鶴

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、企業の法律形態、企業の支配・統治構造ならびに企業成長に対する理論的究明を中心内容とする。なかには、株式会社の特質、支配形態および統治構造を重点的に講義し、その国際比較も行う。これを通して、現代社会における企業とくに巨大な株式会社の全体構図ならびに最新動向をより広い角度からアプローチし、受講者の現代企業に対する理解を深める。
---------------------	---

授業スケジュール	前期には、企業論の研究対象、主な企業形態とそれぞれの特徴について講義する。 I 企業論の研究対象 II 企業の種類と企業形態 III 企業形態の発展過程 IV 単独出資者の企業：個人企業 V 会社企業：①合名会社 ②合資会社 ③合同会社 ④有限会社 後期には、株式会社の特質と会社機関、企業支配、企業統治、企業成長と社会などを講義する。 VI 株式会社の特質と会社機関 VII 株式会社の資金調達 VIII 株式会社の支配 IX 株式会社のガバナンス X 企業成長と社会
----------	--

準備学習	前回の授業内容を復習し、当日の授業内容について予習しておくこと。
------	----------------------------------

履修上の留意点	予習はもちろんのこと、各章ごとに「演習問題」を出す。演習問題を中心に復習すること。
---------	---

成績評価の方法	前期と後期に分けて2回の筆記テストを行い、その成績に、普段の講義への出席状況を加味して評価する。
---------	--

教科書/テキスト	とくに指定しない。
----------	-----------

参考書	・百田義治編著『経営学基礎』中央経済社、2010年。 ・作新学院大学経営学研究グループ(代表：中村瑞穂)著『経営学-企業と経営の理論』白桃書房、2003年。 その他、授業の初回目に指示する。
-----	---

その他	授業中に適宜プリントと資料を配付する。
-----	---------------------

履修コード	095911
科目名	基礎情報処理I
担当者名	谷口 裕子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	コンピュータを活用して情報収集やレポート作成、プレゼンテーションを行うことは、大学で学ぶ上で欠かせない要素となってきた。さらにこうした能力は社会においても必須である。本講義では、経済学を学ぶ上で必要な「ツールとしてのパソコンの扱い方・ソフトウェアの使い方」の習得を目指す。コンピュータの扱いに慣れることとインターネット(電子メールやWWW)を利用できるようにすること、さらにはMicrosoft Wordによる文書の作成技法および表計算ソフト(Microsoft Excel)の基本操作を習得することを目的とする。
授業スケジュール	(1)教場の使い方、コンピュータの起動・終了方法、受講上の注意など (2-6)パソコンの仕組み、Microsoft Windowsの基本的な使い方、タイピング練習、インターネットとネチケット、インターネット用語の説明、ブラウザの使い方、電子メールの使い方 (7-13)Wordの基本操作、文書の作成・印刷、表の作成、文書レイアウト、図の作成、図の挿入 (14-15)表計算Excelの基本操作
準備学習	パソコンの基本操作を習得するため、実習の予習・復習が必要である。
履修上の留意点	1)この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。 2)コンピュータ使用経験の少ない初心者を対象とした講義を行う。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。 3)実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。 4)評価に関わる各試験の追試験は行わない。合理的な事由を文書によって申告した時のみ考慮する。 5)抽選登録の際、3つある基礎情報処理I・II全てについて第1順位から第3順位まで優先順位を決めて、3つとも抽選登録すること。 6)基礎情報処理I・IIは、同じ曜日・時限のものをセットで選択しなければならない。 7)抽選で当選した前期「基礎情報処理I」の4月初回の授業に必ず出席して、担当教員から許可を得なければ履修できない。 8)経済学科1年次は必ずこの講義を履修登録すること。来年度以降2年次以降の履修は原則としてできないので注意すること。 9)2年次以降の学生で当科目を履修したい場合は初回講義に必ず出席し、担当教員の指示を受けること。 10)後期の基礎情報処理IIの履修登録ミスが目立っている。後期の基礎情報処理IIも忘れずに履修登録すること。
成績評価の方法	各カテゴリ終了時に行う授業時間中の小テスト及び最終講義に実施する総合テストの結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。
教科書/テキスト	開講時に指定する。
参考書	必要に応じて紹介する。
その他	1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は【原則として】履修できません。

履修コード	095921
科目名	基礎情報処理I
担当者名	谷口 裕子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	コンピュータを活用して情報収集やレポート作成、プレゼンテーションを行うことは、大学で学ぶ上で欠かせない要素となってきた。さらにこうした能力は社会においても必須である。本講義では、経済学を学ぶ上で必要な「ツールとしてのパソコンの扱い方・ソフトウェアの使い方」の習得を目指す。コンピュータの扱いに慣れることとインターネット(電子メールやWWW)を利用できるようにすること、さらにはMicrosoft Wordによる文書の作成技法および表計算ソフト(Microsoft Excel)の基本操作を習得することを目的とする。
授業スケジュール	(1) 教場の使い方、コンピュータの起動・終了方法、受講上の注意など (2-6) パソコンの仕組み、Microsoft Windowsの基本的な使い方、タイピング練習、インターネットとネチケット、インターネット用語の説明、ブラウザの使い方、電子メールの使い方 (7-13) Wordの基本操作、文書の作成・印刷、表の作成、文書レイアウト、図の作成、図の挿入 (14-15) 表計算Excelの基本操作
準備学習	パソコンの基本操作を習得するため、実習の予習・復習が必要である。
履修上の留意点	1) この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。 2) コンピュータ使用経験の少ない初心者を対象とした講義を行う。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。 3) 実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。 4) 評価に関わる各試験の追試験は行わない。合理的な事由を文書によって申告した時のみ考慮する。 5) 抽選登録の際、3つある基礎情報処理I・II全てについて第1順位から第3順位まで優先順位を決めて、3つとも抽選登録すること。 6) 基礎情報処理I・IIは、同じ曜日・時限のものをセットで選択しなければならない。 7) 抽選で当選した前期「基礎情報処理I」の4月初回の授業に必ず出席して、担当教員から許可を得なければ履修できない。 8) 経済学科1年次は必ずこの講義を履修登録すること。来年度以降2年次以降の履修は原則としてできないので注意すること。 9) 2年次以降の学生で当科目を履修したい場合は初回講義に必ず出席し、担当教員の指示を受けること。 10) 後期の基礎情報処理IIの履修登録ミスが目立っている。後期の基礎情報処理IIも忘れずに履修登録すること。
成績評価の方法	各カテゴリー終了時に行う授業時間中の小テスト及び最終講義に実施する総合テストの結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。
教科書/テキスト	開講時に指定する。
参考書	必要に応じて紹介する。
その他	1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は【原則として】履修できません。

履修コード	095901
科目名	基礎情報処理I
担当者名	羽田 美香
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	コンピュータを活用して情報収集やレポート作成、プレゼンテーションを行うことは、大学で学ぶ上で欠かせない要素となってきた。さらにこうした能力は社会においても必須である。本講義では、経済学を学ぶ上で必要な「ツールとしてのパソコンの扱い方・ソフトウェアの使い方」の習得を目指す。コンピュータの扱いに慣れることとインターネット(電子メールやWWW)を利用できるようにすること、さらにはMicrosoft Wordによる文書の作成技法および表計算ソフト(Microsoft Excel)の基本操作を習得することを目的とする。
授業スケジュール	(1)教場の使い方、コンピュータの起動・終了方法、受講上の注意など (2-6)パソコンの仕組み、Microsoft Windowsの基本的な使い方、タイピング練習、インターネットとネチケット、インターネット用語の説明、ブラウザの使い方、電子メールの使い方 (7-13) Wordの基本操作、文書の作成・印刷、表の作成、文書レイアウト、図の作成、図の挿入 (14-15)表計算Excelの基本操作
準備学習	パソコンの基本操作を習得するため、実習の予習・復習が必要である。
履修上の留意点	1) この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。 2) コンピュータ使用経験の少ない初心者を対象とした講義を行う。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。 3) 実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。 4) 評価に関わる各試験の追試験は行わない。合理的な事由を文書によって申告した時のみ考慮する。 5) 抽選登録の際、3つある基礎情報処理I・II全てについて第1順位から第3順位まで優先順位を決めて、3つとも抽選登録すること。 6) 基礎情報処理I・IIは、同じ曜日・時限のものをセットで選択しなければならない。 7) 抽選で当選した前期「基礎情報処理I」の4月初回の授業に必ず出席して、担当教員から許可を得なければ履修できない。 8) 経済学科1年次は必ずこの講義を履修登録すること。来年度以降2年次以降の履修は原則としてできないので注意すること。 9) 2年次以降の学生で当科目を履修したい場合は初回講義に必ず出席し、担当教員の指示を受けること。 10) 後期の基礎情報処理IIの履修登録ミスが目立っている。後期の基礎情報処理IIも忘れずに履修登録すること。
成績評価の方法	各カテゴリ終了時に行う授業時間中の小テスト及び最終講義に実施する総合テストの結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。
教科書/テキスト	講時に指定する。
参考書	必要に応じて紹介する。
その他	1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は原則として履修できません。

履修コード	096011
科目名	基礎情報処理II
担当者名	谷口 裕子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は「基礎情報処理I」の単位取得者を対象とした講義に位置づけられる。コンピュータの基本的操作を習得していることを前提として、前期に続き表計算ソフト(Microsoft Excel)によるデータ処理法、Microsoft PowerPointによるプレゼンテーション技法を習得することを目的とする。
授業スケジュール	(1-3) WordとExcelの要点の復習 (4-10) データ集計、関数の利用、表の書式(罫線・列幅の変更など)・印刷、グラフの作成、Wordとの連携 (11-15) プレゼンテーションPowerPointの基本操作、スライドの作成、スライドショー、文字修飾、図の挿入、アニメーション機能、個人発表
準備学習	基礎情報処理Iの内容を修得していること。パソコンの基本操作を習得するため、実習の予習・復習が必要である。
履修上の留意点	1) この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。 2) 「基礎情報処理I」の単位取得者を前提に講義を進める。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。 3) 実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。 4) 評価に関わる各試験の追試験は行わない。合理的な事由を文書によって申告した時のみ考慮する。 5) 抽選登録の際、3つある基礎情報処理I・II全てについて第1順位から第3順位まで優先順位を決めて、3つとも抽選登録すること。 6) 基礎情報処理I・IIは、同じ曜日・時限のものをセットで選択しなければならない。 7) 抽選で当選した前期「基礎情報処理I」の4月初回の授業に必ず出席して、担当教員から許可を得なければ履修できない。 8) 経済学科1年次は必ずこの講義を履修登録すること。来年度以降2年次以降の履修は原則としてできないので注意すること。 9) 2年次以降の学生で当科目を履修したい場合は初回講義に必ず出席し、担当教員の指示を受けること。 10) 4月の履修登録時、当科目の履修登録ミスが目立っている。必ず後期の基礎情報処理IIも忘れずに履修届に記入して登録すること。
成績評価の方法	各カテゴリー終了時に行う授業時間中の小テスト、プレゼンテーション資料及び個人発表、最終講義に行う総合テストの結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。
教科書／テキスト	開講時に指定する。
参考書	必要に応じて紹介する。
その他	1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は【原則として】履修できません。

履修コード	096021
科目名	基礎情報処理II
担当者名	谷口 裕子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は「基礎情報処理I」の単位取得者を対象とした講義に位置づけられる。コンピュータの基本的操作を習得していることを前提として、前期に続き表計算ソフト(Microsoft Excel)によるデータ処理法、Microsoft PowerPointによるプレゼンテーション技法を習得することを目的とする。
授業スケジュール	(1-3) WordとExcelの要点の復習 (4-10) データ集計、関数の利用、表の書式(罫線・列幅の変更など)・印刷、グラフの作成、Wordとの連携 (11-15) プレゼンテーションPowerPointの基本操作、スライドの作成、スライドショー、文字修飾、図の挿入、アニメーション機能、個人発表
準備学習	基礎情報処理Iの内容を修得していること。パソコンの基本操作を習得するため、実習の予習・復習が必要である。
履修上の留意点	1) この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。 2) 「基礎情報処理I」の単位取得者を前提に講義を進める。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。 3) 実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。 4) 評価に関わる各試験の追試験は行わない。合理的な事由を文書によって申告した時のみ考慮する。 5) 抽選登録の際、3つある基礎情報処理I・II全てについて第1順位から第3順位まで優先順位を決めて、3つとも抽選登録すること。 6) 基礎情報処理I・IIは、同じ曜日・時限のものをセットで選択しなければならない。 7) 抽選で当選した前期「基礎情報処理I」の4月初回の授業に必ず出席して、担当教員から許可を得なければ履修できない。 8) 経済学科1年次は必ずこの講義を履修登録すること。来年度以降2年次以降の履修は原則としてできないので注意すること。 9) 2年次以降の学生で当科目を履修したい場合は初回講義に必ず出席し、担当教員の指示を受けること。 10) 4月の履修登録時、当科目の履修登録ミスが目立っている。必ず後期の基礎情報処理IIも忘れずに履修届に記入して登録すること。
成績評価の方法	各カテゴリー終了時に行う授業時間中の小テスト、プレゼンテーション資料及び個人発表、最終講義に行う総合テストの結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。
教科書／テキスト	開講時に指定する。
参考書	必要に応じて紹介する。
その他	1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は【原則として】履修できません。

履修コード	096001
科目名	基礎情報処理Ⅱ
担当者名	羽田 美香
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は「基礎情報処理Ⅱ」の単位取得者を対象とした講義に位置づけられる。コンピュータの基本的操作を習得していることを前提として、前期に続き表計算ソフト(Microsoft Excel)によるデータ処理法、Microsoft PowerPointによるプレゼンテーション技法を習得することを目的とする。
授業スケジュール	(1-3) WordとExcelの要点の復習 (4-10) データ集計、関数の利用、表の書式(罫線・列幅の変更など)・印刷、グラフの作成、Wordとの連携 (11-15) プレゼンテーションPowerPointの基本操作、スライドの作成、スライドショー、文字修飾、図の挿入、アニメーション機能、個人発表
準備学習	基礎情報処理Ⅱの内容を修得していること。パソコンの基本操作を習得するため、実習の予習・復習が必要である。
履修上の留意点	1) この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、実習を行う。背積極的に知識を吸収することを期待している。 2) 「基礎情報処理Ⅱ」の単位取得者を前提に講義を進める。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。 3) 実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。 4) 評価に関わる各試験の追試験は行わない。合理的な事由を文書によって申告した時のみ考慮する。 5) 抽選登録の際、3つある基礎情報処理Ⅱ・Ⅲ全てについて第1順位から第3順位まで優先順位を決めて、3つとも抽選登録すること。 6) 基礎情報処理Ⅱ・Ⅲは、同じ曜日・時限のものをセットで選択しなければならない。 7) 抽選で当選した前期「基礎情報処理Ⅱ」の4月初回の授業に必ず出席して、担当教員から許可を得なければ履修できない。 8) 経済学科1年次は必ずこの講義を履修登録すること。来年度以降2年次以降の履修は原則としてできないので注意すること。 9) 2年次以降の学生で当科目を履修したい場合は初回講義に必ず出席し、担当教員の指示を受けること。 10) 4月の履修登録時、当科目の履修登録ミスが目立っている。必ず後期の基礎情報処理Ⅱも忘れずに履修届に記入して登録すること。
成績評価の方法	各カテゴリー終了時に行う授業時間中の小テスト、プレゼンテーション資料及び個人発表、最終講義に行う総合テストの結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。
教科書/テキスト	開講時に指定する。
参考書	必要に応じて紹介する。
その他	1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は原則として履修できません。

履修コード	095891
科目名	基礎ゼミ
担当者名	浅田 進史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>基礎ゼミは経済学科の1年次生を対象として、</p> <p>①中学・高校とは違う大学での学び方を理解する ②大学生としての学習に欠かせない基本的な学習の技法(スキル)を身につける ③経済学科の学生にふさわしい経済・社会への問題関心を養う</p> <p>の3つをねらいとした全員履修科目です。</p> <p>この授業を通じ、大学における主体的な勉強の進め方を学ぶとともに、自分の関心によって2年次から開講される演習(ゼミ)やコースを選択し、より専門的・発展的な学習につなげていくようにします。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 大学での学び</p> <p>第3回 スキル編①: 話の聞き方、ノートのとり方</p> <p>第4回 スキル編②: 図書館、インターネットによる情報収集—自分で調べる—</p> <p>第5回 スキル編③: 図書、論文の読み方—文章を読む—</p> <p>第6回 スキル編④: グループ・ワーク—ひとと議論して考える—</p> <p>第7回 スキル編⑤: レポートの書き方</p> <p>第8回 スキル編⑥: プレゼンテーションの方法</p> <p>第9回~第11回 プラクティス編①~③: グループ・レポートの作成</p> <p>第12回~第14回 プラクティス編④~⑥: グループ・プレゼンテーション (質疑応答付)</p> <p>第15回 まとめ</p>
----------	--

準備学習	授業内容にそって毎回指示します(クラスによって講義の順序が前後することがあります)。
------	--

履修上の留意点	大学における学びには、パーソナル・コンピュータ(PC)の利用が不可欠となっています。1年次生の全員履修科目となっている経済学科指定の「基礎情報処理Ⅰ」、「基礎情報処理Ⅱ」を必ず受講してください。
---------	---

成績評価の方法	授業への取組み姿勢(40%)、レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)で評価します。
---------	--

教科書/テキスト	専修大学出版企画委員会編『改訂版 知のツールボックス』専修大学出版局、2009年、ISBN978-88125-226-0、定価700円。 授業では、必要に応じて資料を配布します。
----------	--

参考書	担当者が適宜紹介します。
-----	--------------

その他	1年次生のみ対象の全員履修科目です。2年次生以降は履修できません。指定された曜日・時間のクラスで受講してください。
-----	---

履修コード	095751
科目名	基礎ゼミ
担当者名	浅野 克巳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>基礎ゼミは経済学科の1年次生を対象として、</p> <p>① 中学・高校とは違う大学での学び方を理解する ② 大学生としての学習に欠かせない基本的な学習の技法(スキル)を身につける ③ 経済学科の学生にふさわしい経済・社会への問題関心を養う</p> <p>の3つをねらいとした全員履修科目です。 この授業を通じ、大学における主体的な勉強の進め方を学ぶとともに、自分の関心にそって2年次から開講される演習(ゼミ)やコースを選択し、より専門的・発展的な学習につなげていけるようにします。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 第2回 大学での学び 第3回 スキル編①: 話の聞き方、ノートのととり方 第4回 スキル編②: 図書館、インターネットによる情報収集-自分で調べる- 第5回 スキル編③: 図書、論文の読み方-文章を読む- 第6回 スキル編④: グループ・ワーク-ひとと議論して考える- 第7回 スキル編⑤: レポートの書き方 第8回 スキル編⑥: プレゼンテーションの方法 第9回~第11回 プラクティス編①~③: グループ・レポートの作成 第12回~第14回 プラクティス編④~⑥: グループ・プレゼンテーション(質疑応答付) 第15回 まとめ</p>
----------	--

準備学習	授業内容にそって毎回指示します(クラスによって講義の順序が前後することがあります)。
------	--

履修上の留意点	大学における学びには、パーソナル・コンピュータ(PC)の利用が不可欠となっています。1年次生の全員履修科目となっている経済学科指定の「基礎情報処理Ⅰ」、「基礎情報処理Ⅱ」を必ず受講してください。
---------	---

成績評価の方法	授業への取組み姿勢(40%)、レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)で評価します。
---------	--

教科書/テキスト	専修大学出版企画委員会編『改訂版 知のツールボックス』専修大学出版局、2009年、ISBN978-88125-226-0、定価700円。 授業では、必要に応じて資料を配布します。
----------	--

参考書	担当者が適宜紹介します。
-----	--------------

その他	1年次生のみ対象の全員履修科目です。2年次生以降は履修できません。指定された曜日・時間のクラスで受講してください。
-----	---

履修コード	101251
科目名	基礎ゼミ
担当者名	姉齒 暁

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>基礎ゼミは、勉学意欲に燃えて入学してきた新入生の皆さんに、入学後の学習の道案内をするとともに、学習のためのスキル（学習技術）を身につけてもらおうという目的で設けられた科目です。</p> <p>新聞を広げてみると、私たちの暮らす社会は実に様々な問題があることがわかります。社会科学、とくに経済学や商学・会計学・経営学を学ぶということは、新聞に載っているさまざまな問題がなぜ生まれてくるのか、その問題をどのように解決すれば良いのかということについて、事実を正確に認識した上で、考えることです。その過程で、どのような問題であろうと興味・関心が湧いてくればしめたものです。</p> <p>興味・関心が芽生えた問題をさらに追求しようとするとき、基本として「聴く、読む、調べる、整理する、書く」といった学習技術が大いに役立ちます。たとえば、講義で聴いたことをノートにとるだけでもそれなりのコツが必要です。ノートはとったけれども、後で見直してみたらサッパリ、というのでは役に立ちません。基礎ゼミでは、具体的な問題を皆さんに紹介して興味・関心を喚起しながら、同時にそれを題材にして学習のための知識と技術を演習形式で身につけてもらいます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>内容は、大別して（１）大学生生活の過ごし方（３回程度）、（２）学習技術の習得（６回程度）、（３）レポート作成とプレゼンテーション（５回程度）の３つを柱とします。</p> <p>基礎ゼミは、商学科の新入生を対象としていますので、最初に大学生生活の過ごし方について考えます。大学４年間でどう過ごすのか、卒業後の進路も含めた人生計画を立ててみましょう。</p> <p>学習技術の習得は、ノートのとり方、本の読み方と要約の仕方、資料・情報収集の仕方と整理の方法、レポートの書き方、などです。これらを、具体的問題を題材にしながら実習します。</p> <p>最後に、それぞれ興味・関心のあるテーマについてレポートを作成し、プレゼンテーションします。</p>
----------	---

準備学習	<p>基礎ゼミでは、新聞の切り抜きやレポートなどの課題が出されることがあります。担当者の指示に従って課題をこなしましょう。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>基礎ゼミが１年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、学習スキルを身につけたり、プレゼンテーションを行うためにはPCの活用が不可欠です。「情報入門Ⅰ」、「情報入門Ⅱ」は必ず履修して下さい。</p>
---------	--

成績評価の方法	出席、レポート、プレゼンテーションで評価します。
---------	--------------------------

教科書／テキスト	第１講時に担当者がそれぞれ指示します。
----------	---------------------

参考書	担当者が適宜紹介します。
-----	--------------

その他	<p>基礎ゼミで基礎知識と学習技術を習得し、社会・経済問題への興味・関心を養い、４年間の勉学に大いに役立てられることを期待します。</p> <p>１年次生のみ対象の科目です。２年次以降は履修できません。</p>
-----	---

履修コード	101261
科目名	基礎ゼミ
担当者名	姉齒 暁

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>基礎ゼミは、勉強意欲に燃えて入学してきた新入生の皆さんに、入学後の学習の道案内をするとともに、学習のためのスキル（学習技術）を身につけてもらおうという目的で設けられた科目です。</p> <p>新聞を広げてみると、私たちの暮らす社会は実に様々な問題があることがわかります。社会科学、とくに経済学や商学・会計学・経営学を学ぶということは、新聞に載っているさまざまな問題がなぜ生まれてくるのか、その問題をどのように解決すれば良いのかということについて、事実を正確に認識した上で、考えることです。その過程で、どのような問題であろうと興味・関心が湧いてくればしめたものです。</p> <p>興味・関心が芽生えた問題をさらに追求しようとするとき、基本として「聴く、読む、調べる、整理する、書く」といった学習技術が大いに役立ちます。たとえば、講義で聞いたことをノートにとるだけでもそれなりのコツが必要です。ノートはとったけれども、後で見直してみたらサッパリ、というのでは役に立ちません。基礎ゼミでは、具体的な問題を皆さんに紹介して興味・関心を喚起しながら、同時にそれを題材にして学習のための知識と技術を演習形式で身に付けてもらいます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>内容は、大別して（１）大学生生活の過ごし方（３回程度）、（２）学習技術の習得（６回程度）、（３）レポート作成とプレゼンテーション（５回程度）の３つを柱とします。</p> <p>基礎ゼミは、商学科の新入生を対象としていますので、最初に大学生生活の過ごし方について考えます。大学４年間をどう過ごすのか、卒業後の進路も含めた人生計画を立ててみましょう。</p> <p>学習技術の習得は、ノートのとり方、本の読み方と要約の仕方、資料・情報収集の仕方と整理の方法、レポートの書き方、などです。これらを、具体的問題を題材にしながら実習します。</p> <p>最後に、それぞれ興味・関心のあるテーマについてレポートを作成し、プレゼンテーションします。</p>
----------	---

準備学習	<p>基礎ゼミでは、新聞の切り抜きやレポートなどの課題が出されることがあります。担当者の指示に従って課題をこなしましょう。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>基礎ゼミが１年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、学習スキルを身に付けたり、プレゼンテーションを行うためにはPCの活用が不可欠です。「情報入門I」、「情報入門II」は必ず履修して下さい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>出席、レポート、プレゼンテーションで評価します。</p>
---------	---------------------------------

教科書／テキスト	<p>第１講時に担当者がそれぞれ指示します。</p>
----------	----------------------------

参考書	<p>担当者が適宜紹介します。</p>
-----	---------------------

その他	<p>基礎ゼミで基礎知識と学習技術を習得し、社会・経済問題への興味・関心を養い、４年間の勉学に大いに役立てられることを期待します。</p> <p>１年次生のみ対象の科目です。２年次以降は履修できません。</p>
-----	---

履修コード	095761
科目名	基礎ゼミ
担当者名	有井 行夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>基礎ゼミは経済学科の1年次生を対象として、</p> <p>①中学・高校とは違う大学での学び方を理解する ②大学生としての学習に欠かせない基本的な学習の技法(スキル)を身につける ③経済学科の学生にふさわしい経済・社会への問題関心を養う</p> <p>の3つをねらいとした全員履修科目です。</p> <p>この授業を通じ、大学における主体的な勉強の進め方を学ぶとともに、自分の関心にそって2年次から開講される演習(ゼミ)やコースを選択し、より専門的・発展的な学習につなげていけるようにします。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 大学での学び</p> <p>第3回 スキル編①: 話の聞き方、ノートのとり方</p> <p>第4回 スキル編②: 図書館、インターネットによる情報収集—自分で調べる—</p> <p>第5回 スキル編③: 図書、論文の読み方—文章を読む—</p> <p>第6回 スキル編④: グループ・ワーク—ひとと議論して考える—</p> <p>第7回 スキル編⑤: レポートの書き方</p> <p>第8回 スキル編⑥: プレゼンテーションの方法</p> <p>第9回～第11回 プラクティス編①～③: グループ・レポートの作成</p> <p>第12回～第14回 プラクティス編④～⑥: グループ・プレゼンテーション (質疑応答付)</p> <p>第15回 まとめ</p>
----------	--

準備学習	授業内容にそって毎回指示します(クラスによって講義の順序が前後することがあります)。
------	--

履修上の留意点	大学における学びには、パーソナル・コンピュータ(PC)の利用が不可欠となっています。1年次生の全員履修科目となっている経済学科指定の「基礎情報処理Ⅰ」、「基礎情報処理Ⅱ」を必ず受講してください。
---------	---

成績評価の方法	授業への取組み姿勢(40%)、レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)で評価します。
---------	--

教科書/テキスト	<p>専修大学出版企画委員会編『改訂版 知のツールボックス』専修大学出版局、2009年、ISBN978-88125-226-0、定価700円。</p> <p>授業では、必要に応じて資料を配布します。</p>
----------	---

参考書	担当者が適宜紹介します。
-----	--------------

その他	1年次生のみ対象の全員履修科目です。2年次生以降は履修できません。指定された曜日・時間のクラスで受講してください。
-----	---

履修コード	101291
科目名	基礎ゼミ
担当者名	岩波 文孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>基礎ゼミは、1年次生を対象として、 ①中学・高校とは違う大学での学びを理解する ②大学生としての学習に欠かせない基本的な学習の技法（スキル）を身につける ③現代応用経済学科の学生にふさわしい経済・社会への問題関心を養う の3つをねらいとした全員履修科目です。 この授業を通じ、大学における主体的な勉強の進め方を学ぶとともに、自分の関心にそって2年次から開講される演習（ゼミ）やコースを選択し、より専門的・発展的な学習につなげていけるようにします。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 第2回 大学での学び 第3回 スキル編①：話の聞き方、ノートのとり方 第4回 スキル編②：図書館、インターネットによる情報収集－自分で調べる－ 第5回 スキル編③：図書、論文の読み方－文章を読む－ 第6回 スキル編④：グループ・ワーク－ひとと議論して考える－ 第7回 スキル編⑤：レポートの書き方：情報収集・利用と情報倫理 第8回 スキル編⑥：レポートの書き方：論点整理・資料整理 第9回 ブラクティス編①：レポートの作成 第10回 ブラクティス編②：レポートに基づくグループ・ワーク 第11回 スキル編⑦：プレゼンテーションの方法 第12回 ブラクティス編③：プレゼンテーションと討論 第13回 ブラクティス編④：プレゼンテーションと討論 第14回 ブラクティス編⑤：プレゼンテーションと討論 第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	授業内容にそって毎回指示します。
------	------------------

履修上の留意点	<p>基礎ゼミが1年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、PCの活用が不可欠になりますから、「情報入門I」、「情報入門II」は必ず履修して下さい。さらに、企業とそれを取り巻く経済社会との相互関連への理解を深めるためにも、新聞、雑誌の経済・経営欄に目を向け、自らにアンテナを張るように心がけて下さい。</p>
---------	---

成績評価の方法	授業への取組み姿勢（40%）、レポート（40%）、プレゼンテーション（20%）で評価します。
---------	--

教科書／テキスト	専修大学出版企画委員会編『改訂版 知のツールボックス』専修大学出版局、2009年、ISBN978-88125-226-0、定価700円。
----------	--

参考書	授業内で適宜指示します。
-----	--------------

その他	1年次生のみ対象の全員履修科目です。2年次生以降は履修できません。指定された曜日・時限のクラスで受講してください。
-----	---

履修コード	101311
科目名	基礎ゼミ
担当者名	岩波 文孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>基礎ゼミは、1年次生を対象として、</p> <p>①中学・高校とは違う大学での学びを理解する ②大学生としての学習に欠かせない基本的な学習の技法（スキル）を身につける ③現代応用経済学科の学生にふさわしい経済・社会への問題関心を養う</p> <p>の3つをねらいとした全員履修科目です。 この授業を通じ、大学における主体的な勉強の進め方を学ぶとともに、自分の関心にそって2年次から開講される演習（ゼミ）やコースを選択し、より専門的・発展的な学習につなげていけるようにします。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 第2回 大学での学び 第3回 スキル編①：話の聞き方、ノートのとり方 第4回 スキル編②：図書館、インターネットによる情報収集—自分で調べる— 第5回 スキル編③：図書、論文の読み方—文章を読む— 第6回 スキル編④：グループ・ワーク—ひとと議論して考える— 第7回 スキル編⑤：レポートの書き方：情報収集・利用と情報倫理 第8回 スキル編⑥：レポートの書き方：論点整理・資料整理 第9回 ブラクティス編①：レポートの作成 第10回 ブラクティス編②：レポートに基づくグループ・ワーク 第11回 スキル編⑦：プレゼンテーションの方法 第12回 ブラクティス編③：プレゼンテーションと討論 第13回 ブラクティス編④：プレゼンテーションと討論 第14回 ブラクティス編⑤：プレゼンテーションと討論 第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	授業内容にそって毎回指示します。
------	------------------

履修上の留意点	<p>基礎ゼミが1年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、PCの活用が不可欠になりますから、「情報入門」、「情報入門II」は必ず履修して下さい。さらに、企業とそれを取り巻く経済社会との相互関連への理解を深めるためにも、新聞、雑誌の経済・経営欄に目を向け、自らにアンテナを張るように心がけて下さい。</p>
---------	--

成績評価の方法	授業への取組み姿勢（40%）、レポート（40%）、プレゼンテーション（20%）で評価します。
---------	--

教科書／テキスト	専修大学出版企画委員会編『改訂版 知のツールボックス』専修大学出版局、2009年、ISBN978-88125-226-0、定価700円。
----------	--

参考書	授業内で適宜指示します。
-----	--------------

その他	1年次生のみ対象の全員履修科目です。2年次生以降は履修できません。指定された曜日・時間のクラスで受講してください。
-----	---

履修コード	095771
科目名	基礎ゼミ
担当者名	大石 雄爾

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>基礎ゼミは経済学科の1年次生を対象として、</p> <p>① 中学・高校とは違う大学での学び方を理解する ② 大学生としての学習に欠かせない基本的な学習の技法（スキル）を身につける ③ 経済学科の学生にふさわしい経済・社会への問題関心を養う</p> <p>の3つをねらいとした全員履修科目です。 この授業を通じ、大学における主体的な勉強の進め方を学ぶとともに、自分の関心にそって2年次から開講される演習（ゼミ）やコースを選択し、より専門的・発展的な学習につなげていけるようにします。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 大学での学び</p> <p>第3回 スキル編①：話の聞き方、ノートのとり方</p> <p>第4回 スキル編②：図書館、インターネットによる情報収集－自分で調べる－</p> <p>第5回 スキル編③：図書、論文の読み方－文章を読む－</p> <p>第6回 スキル編④：グループ・ワーク－ひとと議論して考える－</p> <p>第7回 スキル編⑤：レポートの書き方</p> <p>第8回 スキル編⑥：プレゼンテーションの方法</p> <p>第9回～第11回 プラクティス編①～③：グループ・レポートの作成</p> <p>第12回～第14回 プラクティス編④～⑥：グループ・プレゼンテーション（質疑応答付）</p> <p>第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	授業内容にそって毎回指示します（クラスによって講義の順序が前後することがあります）。
------	--

履修上の留意点	大学における学びには、パーソナル・コンピュータ（PC）の利用が不可欠となっています。1年次生の全員履修科目となっている経済学科指定の「基礎情報処理Ⅰ」、「基礎情報処理Ⅱ」を必ず受講してください。
---------	---

成績評価の方法	授業への取組み姿勢（40%）、レポート（30%）、プレゼンテーション（30%）で評価します。
---------	--

教科書／テキスト	専修大学出版企画委員会編『改訂版 知のツールボックス』専修大学出版局、2009年、ISBN978-88125-226-0、定価700円。 授業では、必要に応じて資料を配布します。
----------	--

参考書	担当者が適宜紹介します。
-----	--------------

その他	1年次生のみ対象の全員履修科目です。2年次生以降は履修できません。指定された曜日・時間のクラスで受講してください。
-----	---

履修コード	101211
科目名	基礎ゼミ
担当者名	勝田 佳裕

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>基礎ゼミは、勉学意欲に燃えて入学してきた新入生の皆さんに、入学後の学習の道案内をするとともに、学習のためのスキル(学習技術)を身につけてもらおうという目的で設けられた科目です。</p> <p>新聞を広げてみると、私たちの暮らす社会は実に様々な問題があることがわかります。社会科学、とくに経済学や商学・会計学・経営学を学ぶということは、新聞に載っているさまざまな問題がなぜ生まれてくるのか、その問題をどのように解決すれば良いのかということについて、事実を正確に認識した上で、考えることです。その過程で、どのような問題であろうと興味・関心が湧いてくればしめたものです。</p> <p>興味・関心が芽生えた問題をさらに追求しようとするとき、基本として「聴く、読む、調べる、整理する、書く」といった学習技術が大いに役立ちます。たとえば、講義で聴いたことをノートにとるだけでもそれなりのコツが必要です。ノートはとったけれども、後で見直してみたらサッパリ、というのでは役に立ちません。基礎ゼミでは、具体的な問題を皆さんに紹介して興味・関心を喚起しながら、同時にそれを題材にして学習のための知識と技術を演習形式で身に付けてもらいます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>内容は、大別して(1)大学生生活の過ごし方(3回程度)、(2)学習技術の習得(6回程度)、(3)レポート作成とプレゼンテーション(5回程度)の3つを柱とします。</p> <p>基礎ゼミは、商学科の新入生を対象としていますので、最初に大学生生活の過ごし方について考えます。大学4年間をどう過ごすのか、卒業後の進路も含めた人生計画を立ててみましょう。</p> <p>学習技術の習得は、ノートのとり方、本の読み方と要約の仕方、資料・情報収集の仕方と整理の方法、レポートの書き方、などです。これらを、具体的問題を題材にしながらかみ習します。</p> <p>最後に、それぞれ興味・関心のあるテーマについてレポートを作成し、プレゼンテーションします。</p>
----------	--

準備学習	<p>基礎ゼミでは、新聞の切り抜きやレポートなどの課題が出されることがあります。担当者の指示に従って課題をこなしましょう。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>基礎ゼミが1年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、学習スキルを身に付けたり、プレゼンテーションを行うためにはPCの活用が不可欠です。「情報入門I」、「情報入門II」は必ず履修して下さい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>出席、レポート、プレゼンテーションで評価します。</p>
---------	---------------------------------

教科書/テキスト	<p>第1講時に担当者がそれぞれ指示します。</p>
----------	----------------------------

参考書	<p>担当者が適宜紹介します。</p>
-----	---------------------

その他	<p>基礎ゼミで基礎知識と学習技術を習得し、社会・経済問題への興味・関心を養い、4年間の勉学に大いに役立てられることを期待します。</p> <p>1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は履修できません。</p>
-----	---

履修コード	101221
科目名	基礎ゼミ
担当者名	勝田 佳裕

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>基礎ゼミは、勉学意欲に燃えて入学してきた新入生の皆さんに、入学後の学習の道案内をするとともに、学習のためのスキル（学習技術）を身につけてもらおうという目的で設けられた科目です。</p> <p>新聞を広げてみると、私たちの暮らす社会は実に様々な問題があることがわかります。社会科学、とくに経済学や商学・会計学・経営学を学ぶということは、新聞に載っているさまざまな問題がなぜ生まれてくるのか、その問題をどのように解決すれば良いのかということについて、事実を正確に認識した上で、考えることです。その過程で、どのような問題であろうと興味・関心が湧いてくればしめたものです。</p> <p>興味・関心が芽生えた問題をさらに追求しようとするとき、基本として「聴く、読む、調べる、整理する、書く」といった学習技術が大いに役立ちます。たとえば、講義で聴いたことをノートにとるだけでもそれなりのコツが必要です。ノートはとったけれども、後で見直してみたらサッパリ、というのでは役に立ちません。基礎ゼミでは、具体的な問題を皆さんに紹介して興味・関心を喚起しながら、同時にそれを題材にして学習のための知識と技術を演習形式で身に付けてもらいます。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>内容は、大別して（１）大学生活の過ごし方（３回程度）、（２）学習技術の習得（６回程度）、（３）レポート作成とプレゼンテーション（５回程度）の３つを柱とします。</p> <p>基礎ゼミは、商学科の新入生を対象としていますので、最初に大学生活の過ごし方について考えます。大学４年間でどう過ごすのか、卒業後の進路も含めた人生計画を立ててみましょう。</p> <p>学習技術の習得は、ノートのとり方、本の読み方と要約の仕方、資料・情報収集の仕方と整理の方法、レポートの書き方、などです。これらを、具体的問題を題材にしながら実習します。</p> <p>最後に、それぞれ興味・関心のあるテーマについてレポートを作成し、プレゼンテーションします。</p>
----------	---

準備学習	<p>基礎ゼミでは、新聞の切り抜きやレポートなどの課題が出されることがあります。担当者の指示に従って課題をこなしましょう。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>基礎ゼミが１年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、学習スキルを身に付けたり、プレゼンテーションを行うためにはPCの活用が不可欠です。「情報入門I」、「情報入門II」は必ず履修して下さい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>出席、レポート、プレゼンテーションで評価します。</p>
---------	---------------------------------

教科書／テキスト	<p>第１講時に担当者がそれぞれ指示します。</p>
----------	----------------------------

参考書	<p>担当者が適宜紹介します。</p>
-----	---------------------

その他	<p>基礎ゼミで基礎知識と学習技術を習得し、社会・経済問題への興味・関心を養い、４年間の勉学に大いに役立てられることを期待します。</p> <p>１年次生のみ対象の科目です。２年次以降は履修できません。</p>
-----	---

履修コード	095781
科目名	基礎ゼミ
担当者名	小杉 修二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>基礎ゼミは経済学科の1年次生を対象として、</p> <p>①中学・高校とは違う大学での学び方を理解する ②大学生としての学習に欠かせない基本的な学習の技法(スキル)を身につける ③経済学科の学生にふさわしい経済・社会への問題関心を養う</p> <p>の3つをねらいとした全員履修科目です。 この授業を通じ、大学における主体的な勉強の進め方を学ぶとともに、自分の関心によって2年次から開講される演習(ゼミ)やコースを選択し、より専門的・発展的な学習につなげていくようにします。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 第2回 大学での学び 第3回 スキル編①: 話の聞き方、ノートのとり方 第4回 スキル編②: 図書館、インターネットによる情報収集-自分で調べる- 第5回 スキル編③: 図書、論文の読み方-文章を読む- 第6回 スキル編④: グループ・ワーkerひとと議論して考える- 第7回 スキル編⑤: レポートの書き方 第8回 スキル編⑥: プレゼンテーションの方法 第9回~第11回 プラクティス編①~③: グループ・レポートの作成 第12回~第14回 プラクティス編④~⑥: グループ・プレゼンテーション(質疑応答付) 第15回 まとめ</p>
----------	--

準備学習	授業内容にそって毎回指示します(クラスによって講義の順序が前後することがあります)。
履修上の留意点	大学における学びには、パーソナル・コンピュータ(PC)の利用が不可欠となっています。1年次生の全員履修科目となっている経済学科指定の「基礎情報処理Ⅰ」、「基礎情報処理Ⅱ」を必ず受講してください。
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(40%)、レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)で評価します。
教科書/テキスト	専修大学出版企画委員会編『改訂版 知のツールボックス』専修大学出版局、2009年、ISBN978-88125-226-0、定価700円。 授業では、必要に応じて資料を配布します。
参考書	担当者が適宜紹介します。
その他	1年次生のみ対象の全員履修科目です。2年次生以降は履修できません。指定された曜日・時間のクラスで受講してください。

履修コード	095791
科目名	基礎ゼミ
担当者名	小林 正人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>基礎ゼミは経済学科の1年次生を対象として、</p> <p>① 中学・高校とは違う大学での学び方を理解する ② 大学生としての学習に欠かせない基本的な学習の技法(スキル)を身につける ③ 経済学科の学生にふさわしい経済・社会への問題関心を養う</p> <p>の3つをねらいとした全員履修科目です。 この授業を通じ、大学における主体的な勉強の進め方を学ぶとともに、自分の関心にそって2年次から開講される演習(ゼミ)やコースを選択し、より専門的・発展的な学習につなげていけるようにします。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 大学での学び</p> <p>第3回 スキル編①: 話の聞き方、ノートのとり方</p> <p>第4回 スキル編②: 図書館、インターネットによる情報収集ー自分で調べるー</p> <p>第5回 スキル編③: 図書、論文の読み方ー文章を読むー</p> <p>第6回 スキル編④: グループ・ワークーひとと議論して考えるー</p> <p>第7回 スキル編⑤: レポートの書き方</p> <p>第8回 スキル編⑥: プレゼンテーションの方法</p> <p>第9回~第11回 プラクティス編①~③: グループ・レポートの作成</p> <p>第12回~第14回 プラクティス編④~⑥: グループ・プレゼンテーション (質疑応答付)</p> <p>第15回 まとめ</p>
----------	--

準備学習	授業内容にそって毎回指示します(クラスによって講義の順序が前後することがあります)。
------	--

履修上の留意点	大学における学びには、パーソナル・コンピュータ(PC)の利用が不可欠となっています。1年次生の全員履修科目となっている経済学科指定の「基礎情報処理Ⅰ」、「基礎情報処理Ⅱ」を必ず受講してください。
---------	---

成績評価の方法	授業への取組み姿勢(40%)、レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)で評価します。
---------	--

教科書/テキスト	専修大学出版企画委員会編『改訂版 知のツールボックス』専修大学出版局、2009年、ISBN978-88125-226-0、定価700円。 授業では、必要に応じて資料を配布します。
----------	--

参考書	担当者が適宜紹介します。
-----	--------------

その他	1年次生のみ対象の全員履修科目です。2年次生以降は履修できません。指定された曜日・時間のクラスで受講してください。
-----	---

履修コード	095851
科目名	基礎ゼミ
担当者名	清水 卓

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>基礎ゼミは経済学科の1年次生を対象として、</p> <p>①中学・高校とは違う大学での学び方を理解する ②大学生としての学習に欠かせない基本的な学習の技法(スキル)を身につける ③経済学科の学生にふさわしい経済・社会への問題関心を養う</p> <p>の3つをねらいとした全員履修科目です。</p> <p>この授業を通じ、大学における主体的な勉強の進め方を学ぶとともに、自分の関心にそって2年次から開講される演習(ゼミ)やコースを選択し、より専門的・発展的な学習につなげていけるようにします。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 大学での学び</p> <p>第3回 スキル編①: 話の聞き方、ノートのとり方</p> <p>第4回 スキル編②: 図書館、インターネットによる情報収集—自分で調べる—</p> <p>第5回 スキル編③: 図書、論文の読み方—文章を読む—</p> <p>第6回 スキル編④: グループ・ワーク—ひとと議論して考える—</p> <p>第7回 スキル編⑤: レポートの書き方</p> <p>第8回 スキル編⑥: プレゼンテーションの方法</p> <p>第9回～第11回 プラクティス編①～③: グループ・レポートの作成</p> <p>第12回～第14回 プラクティス編④～⑥: グループ・プレゼンテーション(質疑応答付)</p> <p>第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	授業内容にそって毎回指示します(クラスによって講義の順序が前後することがあります)。
------	--

履修上の留意点	大学における学びには、パーソナル・コンピュータ(PC)の利用が不可欠となっています。1年次生の全員履修科目となっている経済学科指定の「基礎情報処理Ⅰ」、「基礎情報処理Ⅱ」を必ず受講してください。
---------	---

成績評価の方法	授業への取組み姿勢(40%)、レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)で評価します。
---------	--

教科書/テキスト	専修大学出版企画委員会編『改訂版 知のツールボックス』専修大学出版局、2009年、ISBN978-88125-226-0、定価700円。 授業では、必要に応じて資料を配布します。
----------	--

参考書	担当者が適宜紹介します。
-----	--------------

その他	1年次生のみ対象の全員履修科目です。2年次生以降は履修できません。指定された曜日・時間のクラスで受講してください。
-----	---

履修コード	095861
科目名	基礎ゼミ
担当者名	瀬戸岡 紘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>基礎ゼミは経済学科の1年次生を対象として、</p> <p>① 中学・高校とは違う大学での学び方を理解する ② 大学生としての学習に欠かせない基本的な学習の技法（スキル）を身につける ③ 経済学科の学生にふさわしい経済・社会への問題関心を養う</p> <p>の3つをねらいとした全員履修科目です。</p> <p>この授業を通じ、大学における主体的な勉強の進め方を学ぶとともに、自分の関心にそって2年次から開講される演習（ゼミ）やコースを選択し、より専門的・発展的な学習につなげていけるようにします。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 大学での学び</p> <p>第3回 スキル編①：話の聞き方、ノートのとり方</p> <p>第4回 スキル編②：図書館、インターネットによる情報収集－自分で調べる－</p> <p>第5回 スキル編③：図書、論文の読み方－文章を読む－</p> <p>第6回 スキル編④：グループ・ワーク－ひとと議論して考える－</p> <p>第7回 スキル編⑤：レポートの書き方</p> <p>第8回 スキル編⑥：プレゼンテーションの方法</p> <p>第9回～第11回 プラクティス編①～③：グループ・レポートの作成</p> <p>第12回～第14回 プラクティス編④～⑥：グループ・プレゼンテーション（質疑応答付）</p> <p>第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	授業内容にそって毎回指示します（クラスによって講義の順序が前後することがあります）。
------	--

履修上の留意点	大学における学びには、パーソナル・コンピュータ（PC）の利用が不可欠となっています。1年次生の全員履修科目となっている経済学科指定の「基礎情報処理Ⅰ」、「基礎情報処理Ⅱ」を必ず受講してください。
---------	---

成績評価の方法	授業への取組み姿勢（40%）、レポート（30%）、プレゼンテーション（30%）で評価します。
---------	--

教科書／テキスト	専修大学出版企画委員会編『改訂版 知のツールボックス』専修大学出版局、2009年、ISBN978-88125-226-0、定価700円。 授業では、必要に応じて資料を配布します。
----------	--

参考書	担当者が適宜紹介します。
-----	--------------

その他	1年次生のみ対象の全員履修科目です。2年次生以降は履修できません。指定された曜日・時間のクラスで受講してください。
-----	---

履修コード	101321
科目名	基礎ゼミ
担当者名	曾我 信孝
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>基礎ゼミは、勉学意欲に燃えて入学してきた新入生の皆さんに、入学後の学習の道案内をするとともに、学習のためのスキル(学習技術)を身につけてもらおうという目的で設けられた科目です。</p> <p>新聞を広げてみると、私たちの暮らす社会は実に様々な問題があることがわかります。社会科学、とくに経済学や商学・会計学・経営学を学ぶということは、新聞に載っているさまざまな問題がなぜ生まれてくるのか、その問題をどのように解決すれば良いのかということについて、事実を正確に認識した上で、考えることです。その過程で、どのような問題であろうと興味・関心が湧いてくればしめたものです。</p> <p>興味・関心が芽生えた問題をさらに追求しようとするとき、基本として「聴く、読む、調べる、整理する、書く」といった学習技術が大いに役立ちます。たとえば、講義で聴いたことをノートにとるだけでもそれなりのコツが必要です。ノートはとったけれども、後で見直してみたらサッパリ、というのでは役に立ちません。基礎ゼミでは、具体的な問題を皆さんに紹介して興味・関心を喚起しながら、同時にそれを題材にして学習のための知識と技術を演習形式で身につけてもらいます。</p>
授業スケジュール	<p>内容は、大別して(1)大学生生活の過ごし方(3回程度)、(2)学習技術の習得(6回程度)、(3)レポート作成とプレゼンテーション(5回程度)の3つを柱とします。</p> <p>基礎ゼミは、商学科の新入生を対象としていますので、最初に大学生生活の過ごし方について考えます。大学4年間をどう過ごすのか、卒業後の進路も含めた人生計画を立ててみましょう。学習技術の習得は、ノートのとり方、本の読み方と要約の仕方、資料・情報収集の仕方と整理の方法、レポートの書き方、などです。これらを、具体的問題を題材にしながら実習します。最後に、それぞれ興味・関心のあるテーマについてレポートを作成し、プレゼンテーションします。</p>
準備学習	<p>基礎ゼミでは、新聞の切り抜きやレポートなどの課題が出されることがあります。担当者の指示に従って課題をこなしましょう。</p>
履修上の留意点	<p>基礎ゼミが1年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、学習スキルを身に付けたり、プレゼンテーションを行うためにはPCの活用が不可欠です。「情報入門I」、「情報入門II」は必ず履修して下さい。</p>
成績評価の方法	出席、レポート、プレゼンテーションで評価します。
教科書/テキスト	第1講時に担当者がそれぞれ指示します。
参考書	担当者が適宜紹介します。
その他	<p>基礎ゼミで基礎知識と学習技術を習得し、社会・経済問題への興味・関心を養い、4年間の勉学に大いに役立てられることを期待します。</p> <p>1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は履修できません。</p>

履修コード	101331
科目名	基礎ゼミ
担当者名	曾我 信孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>基礎ゼミは、勉学意欲に燃えて入学してきた新入生の皆さんに、入学後の学習の道案内をするとともに、学習のためのスキル（学習技術）を身につけてもらおうという目的で設けられた科目です。</p> <p>新聞を広げてみると、私たちの暮らす社会は実に様々な問題があることがわかります。社会科学、とくに経済学や商学・会計学・経営学を学ぶということは、新聞に載っているさまざまな問題がなぜ生まれてくるのか、その問題をどのように解決すれば良いのかということについて、事実を正確に認識した上で、考えることです。その過程で、どのような問題であろうと興味・関心が湧いてくれればしめたものです。</p> <p>興味・関心が芽生えた問題をさらに追求しようとするとき、基本として「聴く、読む、調べる、整理する、書く」といった学習技術が大いに役立ちます。たとえば、講義で聞いたことをノートにとるだけでもそれなりのコツが必要です。ノートはとったけれども、後で見直してみたらサッパリ、というのでは役に立ちません。基礎ゼミでは、具体的な問題を皆さんに紹介して興味・関心を喚起しながら、同時にそれを題材にして学習のための知識と技術を演習形式で身につけてもらいます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>内容は、大別して（１）大学生生活の過ごし方（３回程度）、（２）学習技術の習得（６回程度）、（３）レポート作成とプレゼンテーション（５回程度）の３つを柱とします。</p> <p>基礎ゼミは、商学科の新入生を対象としていますので、最初に大学生生活の過ごし方について考えます。大学４年間をどう過ごすのか、卒業後の進路も含めた人生計画を立ててみましょう。</p> <p>学習技術の習得は、ノートのとり方、本の読み方と要約の仕方、資料・情報収集の仕方と整理の方法、レポートの書き方、などです。これらを、具体的問題を題材にしながら実習します。</p> <p>最後に、それぞれ興味・関心のあるテーマについてレポートを作成し、プレゼンテーションします。</p>
----------	---

準備学習	<p>基礎ゼミでは、新聞の切り抜きやレポートなどの課題が出されることがあります。担当者の指示に従って課題をこなしましょう。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>基礎ゼミが１年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、学習スキルを身に付けたり、プレゼンテーションを行うためにはPCの活用が不可欠です。「情報入門Ⅰ」、「情報入門Ⅱ」は必ず履修して下さい。</p>
---------	--

成績評価の方法	出席、レポート、プレゼンテーションで評価します。
---------	--------------------------

教科書／テキスト	第１講時に担当者がそれぞれ指示します。
----------	---------------------

参考書	担当者が適宜紹介します。
-----	--------------

その他	<p>基礎ゼミで基礎知識と学習技術を習得し、社会・経済問題への興味・関心を養い、４年間の勉学に大いに役立てられることを期待します。</p> <p>１年次生のみ対象の科目です。２年次以降は履修できません。</p>
-----	---

履修コード	095871
科目名	基礎ゼミ
担当者名	鄭 章淵

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>基礎ゼミは経済学科の1年次生を対象として、</p> <p>①中学・高校とは違う大学での学び方を理解する ②大学生としての学習に欠かせない基本的な学習の技法(スキル)を身につける ③経済学科の学生にふさわしい経済・社会への問題関心を養う</p> <p>の3つをねらいとした全員履修科目です。 この授業を通じ、大学における主体的な勉強の進め方を学ぶとともに、自分の関心にそって2年次から開講される演習(ゼミ)やコースを選択し、より専門的・発展的な学習につなげていけるようにします。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 第2回 大学での学び 第3回 スキル編①: 話の聞き方、ノートのとり方 第4回 スキル編②: 図書館、インターネットによる情報収集-自分で調べる- 第5回 スキル編③: 図書、論文の読み方-文章を読む- 第6回 スキル編④: グループ・ワーク-ひとと議論して考える- 第7回 スキル編⑤: レポートの書き方 第8回 スキル編⑥: プレゼンテーションの方法 第9回~第11回 プラクティス編①~③: グループ・レポートの作成 第12回~第14回 プラクティス編④~⑥: グループ・プレゼンテーション(質疑応答付) 第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	授業内容にそって毎回指示します(クラスによって講義の順序が前後することがあります)。
------	--

履修上の留意点	大学における学びには、パーソナル・コンピュータ(PC)の利用が不可欠となっています。1年次生の全員履修科目となっている経済学科指定の「基礎情報処理Ⅰ」、「基礎情報処理Ⅱ」を必ず受講してください。
---------	---

成績評価の方法	授業への取組み姿勢(40%)、レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)で評価します。
---------	--

教科書/テキスト	<p>専修大学出版企画委員会編『改訂版 知のツールボックス』専修大学出版局、2009年、ISBN978-88125-226-0、定価700円。 授業では、必要に応じて資料を配布します。</p>
----------	---

参考書	担当者が適宜紹介します。
-----	--------------

その他	1年次生のみ対象の全員履修科目です。2年次生以降は履修できません。指定された曜日・時間のクラスで受講してください。
-----	---

履修コード	095881
科目名	基礎ゼミ
担当者名	徳永 俊明

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>基礎ゼミは経済学科の1年次生を対象として、</p> <p>①中学・高校とは違う大学での学び方を理解する ②大学生としての学習に欠かせない基本的な学習の技法(スキル)を身につける ③経済学科の学生にふさわしい経済・社会への問題関心を養う</p> <p>の3つをねらいとした全員履修科目です。 この授業を通じ、大学における主体的な勉強の進め方を学ぶとともに、自分の関心にそって2年次から開講される演習(ゼミ)やコースを選択し、より専門的・発展的な学習につなげていけるようになります。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 大学での学び</p> <p>第3回 スキル編①: 話の聞き方、ノートのとり方</p> <p>第4回 スキル編②: 図書館、インターネットによる情報収集-自分で調べる-</p> <p>第5回 スキル編③: 図書、論文の読み方-文章を読む-</p> <p>第6回 スキル編④: グループ・ワーク-ひとと議論して考える-</p> <p>第7回 スキル編⑤: レポートの書き方</p> <p>第8回 スキル編⑥: プレゼンテーションの方法</p> <p>第9回~第11回 プラクティス編①~③: グループ・レポートの作成</p> <p>第12回~第14回 プラクティス編④~⑥: グループ・プレゼンテーション(質疑応答付)</p> <p>第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	授業内容にそって毎回指示します(クラスによって講義の順序が前後することがあります)。
------	--

履修上の留意点	大学における学びには、パーソナル・コンピュータ(PC)の利用が不可欠となっています。1年次生の全員履修科目となっている経済学科指定の「基礎情報処理Ⅰ」、「基礎情報処理Ⅱ」を必ず受講してください。
---------	---

成績評価の方法	授業への取組み姿勢(40%)、レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)で評価します。
---------	--

教科書/テキスト	専修大学出版企画委員会編『改訂版 知のツールボックス』専修大学出版局、2009年、ISBN978-88125-226-0、定価700円。 授業では、必要に応じて資料を配布します。
----------	--

参考書	担当者が適宜紹介します。
-----	--------------

その他	1年次生のみ対象の全員履修科目です。2年次生以降は履修できません。指定された曜日・時間のクラスで受講してください。
-----	---

履修コード	101271
科目名	基礎ゼミ
担当者名	村松 幹二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>基礎ゼミは、1年次生を対象として、</p> <p>①中学・高校とは違う大学での学びを理解する ②大学生としての学習に欠かせない基本的な学習の技法（スキル）を身につける ③現代応用経済学科の学生にふさわしい経済・社会への問題関心を養う の3つをねらいとした全員履修科目です。</p> <p>この授業を通じ、大学における主体的な勉強の進め方を学ぶとともに、自分の関心にそって2年次から開講される演習（ゼミ）やコースを選択し、より専門的・発展的な学習につなげていくようにします。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 ガイダンス 第2回 大学での学び 第3回 スキル編①：話の聞き方、ノートのとり方 第4回 スキル編②：図書館、インターネットによる情報収集－自分で調べる－ 第5回 スキル編③：図書、論文の読み方－文章を読む－ 第6回 スキル編④：グループ・ワーク－ひとと議論して考える－ 第7回 スキル編⑤：レポートの書き方：情報収集・利用と情報倫理 第8回 スキル編⑥：レポートの書き方：論点整理・資料整理 第9回 プラクティス編①：レポートの作成 第10回 プラクティス編②：レポートに基づくグループ・ワーク 第11回 スキル編⑦：プレゼンテーションの方法 第12回 プラクティス編③：プレゼンテーションと討論 第13回 プラクティス編④：プレゼンテーションと討論 第14回 プラクティス編⑤：プレゼンテーションと討論 第15回 まとめ
----------	--

準備学習	授業内容にそって毎回指示します。
履修上の留意点	大学における学びには、パーソナル・コンピュータ（PC）の利用が不可欠となっています。「情報入門I」、「情報入門II」を必ず履修して下さい。
成績評価の方法	授業への取組み姿勢（40%）、レポート（40%）、プレゼンテーション（20%）で評価します。
教科書／テキスト	専修大学出版企画委員会編『改訂版 知のツールボックス』専修大学出版局、2009年、ISBN978-88125-226-0、定価700円。
参考書	授業内で適宜紹介します。
その他	1年次生のみ対象の全員履修科目です。2年次生以降は履修できません。指定された曜日・時間のクラスで受講してください。

履修コード	101281
科目名	基礎ゼミ
担当者名	村松 幹二

授業概要/
到達目標 (ねらい)

基礎ゼミは、1年次生を対象として、
 ①中学・高校とは違う大学での学びを理解する
 ②大学生としての学習に欠かせない基本的な学習の技法（スキル）を身につける
 ③現代応用経済学科の学生にふさわしい経済・社会への問題関心を養う
 の3つをねらいとした全員履修科目です。
 この授業を通じ、大学における主体的な勉強の進め方を学ぶとともに、自分の関心にそって2年次から開講される演習（ゼミ）やコースを選択し、より専門的・発展的な学習につなげていけるようにします。

授業スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 大学での学び
- 第3回 スキル編①：話の聞き方、ノートのとり方
- 第4回 スキル編②：図書館、インターネットによる情報収集－自分で調べる－
- 第5回 スキル編③：図書、論文の読み方－文章を読む－
- 第6回 スキル編④：グループ・ワーク－ひとと議論して考える－
- 第7回 スキル編⑤：レポートの書き方：情報収集・利用と情報倫理
- 第8回 スキル編⑥：レポートの書き方：論点整理・資料整理
- 第9回 プラクティス編①：レポートの作成
- 第10回 プラクティス編②：レポートに基づくグループ・ワーク
- 第11回 スキル編⑦：プレゼンテーションの方法
- 第12回 プラクティス編③：プレゼンテーションと討論
- 第13回 プラクティス編④：プレゼンテーションと討論
- 第14回 プラクティス編⑤：プレゼンテーションと討論
- 第15回 まとめ

準備学習

授業内容にそって毎回指示します。

履修上の留意点

大学における学びには、パーソナル・コンピュータ（PC）の利用が不可欠となっています。「情報入門I」、「情報入門II」を必ず履修して下さい。

成績評価の方法

授業への取組み姿勢（40%）、レポート（40%）、プレゼンテーション（20%）で評価します。

教科書／テキスト

専修大学出版企画委員会編『改訂版 知のツールボックス』専修大学出版局、2009年、ISBN978-88125-226-0、定価700円。

参考書

授業内で適宜紹介します。

その他

1年次生のみ対象の全員履修科目です。2年次生以降は履修できません。指定された曜日・時間のクラスで受講してください。

履修コード	101231
科目名	基礎ゼミ
担当者名	山下 裕介

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>基礎ゼミは、勉学意欲に燃えて入学してきた新入生の皆さんに、入学後の学習の道案内をするとともに、学習のためのスキル (学習技術) を身につけてもらおうという目的で設けられた科目です。</p> <p>新聞を広げてみると、私たちの暮らす社会は実に様々な問題があることがわかります。社会科学、とくに経済学や商学・会計学・経営学を学ぶということは、新聞に載っているさまざまな問題がなぜ生まれてくるのか、その問題をどのように解決すれば良いのかということについて、事実を正確に認識した上で、考えることです。その過程で、どのような問題であろうと興味・関心が湧いてくればしめたものです。</p> <p>興味・関心が芽生えた問題をさらに追求しようとするとき、基本として「聴く、読む、調べる、整理する、書く」といった学習技術が大いに役立ちます。たとえば、講義で聴いたことをノートにとるだけでもそれなりのコツが必要です。ノートはとったけれども、後で見直してみたらサッパリ、というのでは役に立ちません。基礎ゼミでは、具体的な問題を皆さんに紹介して興味・関心を喚起しながら、同時にそれを題材にして学習のための知識と技術を演習形式で身に付けてもらいます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>内容は、大別して (1) 大学生生活の過ごし方 (3 回程度)、(2) 学習技術の習得 (6 回程度)、(3) レポート作成とプレゼンテーション (5 回程度) の 3 つを柱とします。</p> <p>基礎ゼミは、商学科の新入生を対象としていますので、最初に大学生生活の過ごし方について考えます。大学 4 年間でどう過ごすのか、卒業後の進路も含めた人生計画を立ててみましょう。</p> <p>学習技術の習得は、ノートのとり方、本の読み方と要約の仕方、資料・情報収集の仕方と整理の方法、レポートの書き方、などです。これらを、具体的な問題を題材にしながら実習します。</p> <p>最後に、それぞれ興味・関心のあるテーマについてレポートを作成し、プレゼンテーションします。</p>
----------	---

準備学習	<p>基礎ゼミでは、新聞の切り抜きやレポートなどの課題が出されることがあります。担当者の指示に従って課題をこなしましょう。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>基礎ゼミが 1 年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、学習スキルを身に付けたり、プレゼンテーションを行うためには PC の活用が不可欠です。「情報入門 I」、「情報入門 II」は必ず履修して下さい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>出席、レポート、プレゼンテーションで評価します。</p>
---------	---------------------------------

教科書 / テキスト	<p>第 1 講時に担当者がそれぞれ指示します。</p>
------------	------------------------------

参考書	<p>担当者が適宜紹介します。</p>
-----	---------------------

その他	<p>基礎ゼミで基礎知識と学習技術を習得し、社会・経済問題への興味・関心を養い、4 年間の勉学に大いに役立てられることを期待します。</p> <p>1 年次生のみ対象の科目です。2 年次以降は履修できません。</p>
-----	--

履修コード	101241
科目名	基礎ゼミ
担当者名	山下 裕介

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>基礎ゼミは、勉学意欲に燃えて入学してきた新入生の皆さんに、入学後の学習の道案内をするとともに、学習のためのスキル（学習技術）を身につけてもらおうという目的で設けられた科目です。</p> <p>新聞を広げてみると、私たちの暮らす社会は実に様々な問題があることがわかります。社会科学、とくに経済学や商学・会計学・経営学を学ぶということは、新聞に載っているさまざまな問題がなぜ生まれてくるのか、その問題をどのように解決すれば良いのかということについて、事実を正確に認識した上で、考えることです。その過程で、どのような問題であろうと興味・関心が湧いてくればしめたものです。</p> <p>興味・関心が芽生えた問題をさらに追求しようとするとき、基本として「聴く、読む、調べる、整理する、書く」といった学習技術が大いに役立ちます。たとえば、講義で聞いたことをノートにとるだけでもそれなりのコツが必要です。ノートはとったけれども、後で見直してみたらサッパリ、というのでは役に立ちません。基礎ゼミでは、具体的な問題を皆さんに紹介して興味・関心を喚起しながら、同時にそれを題材にして学習のための知識と技術を演習形式で身に付けてもらいます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>内容は、大別して（１）大学生生活の過ごし方（３回程度）、（２）学習技術の習得（６回程度）、（３）レポート作成とプレゼンテーション（５回程度）の３つを柱とします。</p> <p>基礎ゼミは、商学科の新入生を対象としていますので、最初に大学生生活の過ごし方について考えます。大学４年間でどう過ごすのか、卒業後の進路も含めた人生計画を立ててみましょう。</p> <p>学習技術の習得は、ノートのとり方、本の読み方と要約の仕方、資料・情報収集の仕方と整理の方法、レポートの書き方、などです。これらを、具体的問題を題材にしながら実習します。</p> <p>最後に、それぞれ興味・関心のあるテーマについてレポートを作成し、プレゼンテーションします。</p>
----------	---

準備学習	<p>基礎ゼミでは、新聞の切り抜きやレポートなどの課題が出されることがあります。担当者の指示に従って課題をこなしましょう。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>基礎ゼミが１年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、学習スキルを身に付けたり、プレゼンテーションを行うためにはPCの活用が不可欠です。「情報入門Ⅰ」、「情報入門Ⅱ」は必ず履修して下さい。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>出席、レポート、プレゼンテーションで評価します。</p>
---------	---------------------------------

教科書／テキスト	<p>第１講時に担当者がそれぞれ指示します。</p>
----------	----------------------------

参考書	<p>担当者が適宜紹介します。</p>
-----	---------------------

その他	<p>基礎ゼミで基礎知識と学習技術を習得し、社会・経済問題への興味・関心を養い、４年間の勉学に大いに役立てられることを期待します。</p> <p>１年次生のみ対象の科目です。２年次以降は履修できません。</p>
-----	---

履修コード	099291
科目名	キャリア・デザイン
担当者名	川村 稔

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	自分の就きたい職業がまだ見えてこない、どのような職種があるのかをよく知らない人のために、様々な業界と職種について活躍する人々をメインテーマにとりあげ授業を進めます。この授業を通して広く社会に視野を広げ、自分の将来の可能性を探ることを目標とします。様々な業界と職種について、活躍する人材をメインテーマに授業を進めます。社会に出てから、1人1人が活躍する場があり、それを見つけるために視野を広く持つことと、足元をしっかり固めることが大切です。自分の未来を拓くための授業をゴールとします。
---------------------	---

授業スケジュール	地方公務員、警察官、消防士、流通業界、ホテル、IT、マスコミ、金融、商社など特徴的な業界に求められている能力を知ること、業界と職種の向き、不向きを理解し、将来をより明確なものにしたいと思います。また、隔週で就職活動や、社会に出てから役立つコラム（講師の執筆）をお渡しします。また、仕事やキャリア、就職に関するテーマについて検討をしながら解説をします。また、双方の交流をしたいと思いますので、学生からの質問を回答する時間を設けます。
----------	---

テーマ例：

- ・人材像を知る意味と必要性について
- ・新卒採用への期待と中途採用の違い
- ・営業職、開発職、管理職など職域や階層により必要な人材要件とは
- ・企業が人材像を決める方法
- ・全ての業界で共通する人材像や人材要件とは
- ・社会、経済状況による人材像の変化 など

コラム例：

- ・挨拶の必要性と意味とは
- ・最後まで頑張る力はなぜ必要か
- ・自己管理の必要性とは など

自分を客観的に理解することが、未来につながります。そのために、いくつかの工夫を授業で取り入れますので楽しみにして下さい。

準備学習	毎回、簡潔な課題レポート（A4版 1枚）を出します。そのレポートを元に授業の出席者と意見交換をしながら考えをまとめ、伝える、理解する力も合わせて養成します。
------	--

履修上の留意点	課題レポートの提出と意見交換をしてもらいますので、積極的な参加を希望します。
---------	--

成績評価の方法	出席（50％）と、課題レポート、前期、後期の期末レポート（50％）の提出で評価します。
---------	---

教科書／テキスト	YeStudyを活用して、レジメを使用します。
----------	-------------------------

参考書	適宜紹介します。
-----	----------

その他	毎回、社会全般に常に関心を持ってもらうために、ニュースや日常の出来事から気になったテーマを取り上げ、意見などを課題レポートに記入してもらいます。積極的に学生と交流し、有意義な時間を作りたいと思います。駒大OBとしてできるだけ多くのメッセージを伝えたいと思いますので、意欲のある方の出席を希望します。
-----	---

関連リンク	http://www014.upp.so-net.ne.jp/minoru-4/index.html
-------	---

履修コード	094401
科目名	教育経済論
担当者名	谷敷 正光

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この講義は経済発展に教育・訓練（人材養成教育）が果たした意義とその役割について明らかにする。</p> <p>19世紀の欧米列強との圧力に始まった途上国日本の「先進国へのキャッチアップ」（戦前期）、第二次大戦後の疲弊経済から「欧米経済へのキャッチアップ」の完成（戦後期）について、それを可能にした初期条件に日本の高い教育水準と教育があり、それが急速なキャッチアップを可能としたといわれている。</p> <p>本年度は外国から高く評価された日本の教育・訓練（人材養成）について、前者は産業革命育成期から産業資本確立期を中心に、後者は「特需」を契機に復興した経済復興期から高度経済成長をへて成熟期までを中心に、それぞれの経済発展段階の特徴とその時に教育・訓練（人材養成）が果たした意義と役割について明らかにする。また、一時、欧米各国は経済面で国際競争力の低下が顕著となり、「国際競争力の低下」が「教育水準の低下」と密接に関連しているとの観点から教育改革がなされたが、欧米各国の経済発展と教育・訓練（人材養成）の役割についても考察する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 工業化の条件と基礎教育 <ol style="list-style-type: none"> ガイダンス・発展途上国とリテラシー 途上国日本の産業化とリテラシー～教育水準と識字率、非識字教育と児童労働 途上国日本の工業化と教育～徳川時代の遺産 江戸時代工業化条件の準備・途上国と非識字運動 途上国日本の経済発展と実業教育政策（戦前期） <ol style="list-style-type: none"> 学制時代の経済と教育～産業革命育成期「富国強兵・殖産興業」 学制時代の経済と教育～「学制」公布と行政管理学校 教育令時代の経済と教育～産業革命準備期（明治10年代） 教育令時代の経済と教育～「教育令」公布と職工学校・機業地学校 学校令時代の経済と教育～第1次産業革命と紡績業の発展 学校令時代の経済と教育～「学校令」公布と実業補習学校・徒弟学校 実業学校令時代の経済と教育～第2次産業革命と鉄鋼業の発展・生産財部門の確立 実業学校令時代の経済と教育～「実業学校令」「専門学校」公布と「上からの教育」 実業学校令時代の経済と教育～委託教育・工場内学校と「下からの教育」 日本の高度経済成長と産業教育政策（戦後期） <ol style="list-style-type: none"> 戦後経済の民主化と教育 経済復興期の経済発展と教育～「産業教育振興法」 高度成長第I期の経済発展と教育 高度成長第II期の経済発展と教育 高度成長第III期の経済発展と教育 高度成長第IV期の経済発展と教育 低成長期の経済発展と教育 成熟期の経済発展と教育。 欧米の経済成長と教育 <ol style="list-style-type: none"> サッチャー政権の経済成長と教育～「サッチャーリズム」と「プリティッシュ・ディジーズ改革」 サッチャー政権の経済成長と教育～「教育改革法」と「教育のプリティッシュ・ディジーズ改革」 ブレア政権の経済成長と教育～「第三の道」と「福祉のニューディール」 ブレア政権の経済成長と教育～「教育委員会の民営化」と「教育アクションゾーン改革」 レーガン政権の経済成長と教育～「レーガノミックス」と「危機に立つ国家」 ブッシュ政権の経済成長と教育～「ブッシュノミックス」と「2000年のアメリカ教育戦略」 クリントン政権の経済成長と教育～「クリントノミックス」 クリントン政権の経済成長と教育～「アメリカ教育法」と「教育大国」 講義の総括、提示した「課題」の確認
----------	--

準備学習	<p>毎時間提示した「課題」は復習を兼ねてまとめてください。</p> <p>毎時間、参考文献を挙げるので、講義の予習や復習の参考にして下さい。</p>
------	---

履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 年間数回小テストを実施し、平常点とします。 毎時間、講義の「参考資料」として、ビデオ（VTR）・DVDを使用します。 毎時間、講義用の「プリント」を配布します。一度配布したプリントは、後の時間では配布しません。
---------	---

成績評価の方法	<p>授業中の小テストと夏休レポート(2割)、定期試験(8割)によって評価します。</p> <p>定期試験は「持ち込み」ではありません。</p>
---------	--

教科書/テキスト	教科書の代わりに毎時間、講義用「プリント」を配布し、教科書とします。
----------	------------------------------------

参考書	<p>参考文献は講義の中で単元ごとに毎時間、詳細に紹介します。</p> <p>以下は講義当初の参考文献です。OECD編『世界の児童労働』明石書店。H・R・ウオッチ著『インドの債務児童労働』明石書店。中岡哲郎著『日本近代技術の形成 伝統と近代のダイナミックス』朝日新聞社。佐々木謙著『幕臣たちと技術立国』集英社。大野健一著『途上国日本の歩み』有斐閣。以下は講義の中で、単元ごとに紹介します。</p>
-----	--

履修コード	100551
科目名	教員試験特別演習
担当者名	谷敷 正光

授業概要/
到達目標 (ねらい)

本講は、教員採用試験を目指している人に、教師としての資質・力量の形成と教員試験に必要な基礎学力を育成することを主眼としています。近年、教員採用試験はより優れた、魅力ある教師を求めて選考試験も多様化・高度化し、筆記試験のみならず、面接試験、論文試験、模擬授業試験・場面指導試験・ロールプレイング試験、その他全般にわたって、さまざまな工夫がなされています。

本講は第1に「なぜ教師を目指すのか」「どんな教師になりたいのか」「どんな教育をしたいのか」といった教師をめざすのに不可欠な教育理念・教師像の形成を行います。第2には学校において学習指導・生徒指導上起こるさまざまな問題場面・問題行動を想定してその対処法を徹底的に討論し、学習指導・生徒指導上の心構えや対応策を修得します。第3には各自が描いている教育観教師像・指導理念・指導方法が、実際の教育現場で通用するかどうかを確認するため、できるだけ小中高校の教師と対話する機会をもち、学校では実際にどのような対処法・指導法を取っているかを学びます。第4には公立学校教員試験の対策として「教職教養」「一般教養」「専門教養」の対策と学習法、「集団面接」「個人面接」「集団討論」の練習、「論文文演習」(添削指導)を行います。最後に、教師としての資質・力量の形成のため、「サブゼミ」において各自「模擬授業の実践」「小・中学校ティーチングアシスタント」「小・中学校学習支援ボランティア」の実践活動を行います。教員志望の夢を叶えたいと思う。

授業スケジュール

- 第1回～第2回 教員採用試験の実施状況、教員試験の心構えと学習計画、参考書と問題集について、教師として必要な資質と能力について、小・中学校でのティーチング・アシスタントの実践について。
- 第3回～第4回 一般教養の取り組み方について。
専門教養の取り組み方について。
- 第5回～第7回 西洋教育史の要点整理と問題演習。
第8回～第10回 日本教育史の要点整理と問題演習。
第11回～第15回 教育原理の要点整理と問題演習。
第16回～第17回 教育法規の要点整理と問題演習。
第18回～第22回 教育心理の要点整理と問題演習。
第23回～第26回 同和・人権教育、道徳教育、学習指導要領の要点整理と問題演習は可能な限り実施。
第27回～第29回 模擬授業実践、模擬面接の練習。
第30回 1年間の総括と課題の提出。

準備学習

日頃よりTVニュースを見たり、新聞・雑誌に目を通し、学校教育や児童生徒の動向を把握し、現場理解・生徒理解に努めること。
文部科学省通達・文部科学省調査報告書・協力者会議報告書、中央教育審議会・教育職員養成審議会等の答申、受験県教育委員会の調査報告書などのニュースは切抜きファイルを作成すること。
受験県の採用動向をTVの県別ニュース、地方新聞、県の広報誌、情報誌『教員養成セミナー』(時事通信社)・『教職課程』(協同出版)などで把握すること。

履修上の留意点

1. 集団討論の練習(今日的教育課題を中心に討論)、個人面接・集団面接の練習、教育論文演習は先輩教師(小学校、中学校、高等学校、教育委員会の先生)の指導の下に実施します。
2. 学校教育への認識を深め、児童生徒理解のために、小学校、中学校で「ティーチング・アシスタント」を実践し、教師としての実際的能力の修得につとめ、教師としての資質・力量の形成を行います。
3. 教員としての資質向上のため、特別支援学校でのボランティア活動を行います。
4. 「模擬授業の実践」「小・中学校ティーチングアシスタント」「特別支援学校でのボランティア」などの実践活動は、「特別演習」の時間内での実施は不可能ですので「サブゼミ」において徹底的に行います。

成績評価の方法

各種課題提出、小テスト、討論、小論文演習、受講態度など総合的に評価します。追試験は実施しません。

教科書/テキスト

必要に応じて「教科書」の代わりに「プリント」を配布するので、教科書は使用しません。

参考書

履修コード	058501
科目名	行政法
担当者名	鷄徳 啓登

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代国家は、一般に福祉国家と言われるようになったが、我国も憲法制定後60年経過して、国内的・国内的に、社会情勢の変化に伴う新しい問題が生じてきている。国内的には戦後の経済政策の下になされた約1万件に上る規制の緩和がなされる一方で、国民の高齢化問題に対処すべく消費税率の引き上げ、宗教法人法の改正による宗教団体の規制問題など枚挙に暇がない。本講義は、種々の行政作用を中心に行政法の輪郭を理解することをねらいとする。
---------------------	--

授業スケジュール	1回～3回 : 行政法の意義について(法令の種別と法の解釈を含む)。 4回～6回 : 行政作用と行政行為について。 7回～15回 : 行政行為(特許や許可等)の意義、内容、効力について。 16回～20回 : 行政上の強制手段と行政上の処罰について。 21回～25回 : 国家による賠償と補償について。 26回～30回 : 行政上の不服申し立てと行政事件訴訟について。
----------	--

準備学習	本講義は、実定法を中心に行うので、常時六法には目を通すこと。
------	--------------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	成績評価は出席状況と試験またはレポートによる。
---------	-------------------------

教科書/テキスト	原田尚彦著 『行政法要論』(学陽書房)3,000円:ISBN4-313-31222-6 『小六法』 出版社・定価各種
----------	---

参考書	塩野宏著『行政法I・II』(有斐閣)4,000円 その他、教場にて説明。
-----	--------------------------------------

履修コード	323601
科目名	行政法
担当者名	塩入 みほも

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	行政法とは、国家(国・地方)と国民又は住民との法律関係を規律している個別法規の総称です。したがって、実は存在する法令の約8割前後が行政法なのです。この講義では、その行政法の基本的な仕組みと理論一般について学びます。民法や刑法、憲法等の他の法分野とは異なって、学生レベルではあまり直接的な関連がないと思われがちですが、学生諸君も実は日常生活の様々な場面で行政法の規律に接しているのです。国家との関係における権利義務はもとより、交通取締・治安等に関わる警察権行使の適法・違法や国家賠償請求の可否など、国民・住民として行政法の知識は必要不可欠といえ、その知識は将来必ず役に立ちます。その知識の習得が当講義の到達目標です。
---------------------	---

授業スケジュール	(1)～(2) 行政法とは何か: 行政法の成立、行政の定義、行政法の領域 (3)～(5) 行政法の基本構造: 現代日本行政法の特徴、法治行政の原理 (6)～(8) 行政法の法源: 成文法源、不文法源 (9)～(11) 行政作用の様々な分類論 (12) 行政立法 (13) 行政計画 (14) 行政指導 (15) 行政契約 (16)～(20) 行政行為論: 特徴、成立と消滅、効力、行為類型論 (21)～(22) 行政裁量論 (23)～(24) 行政行為の瑕疵 (25)～(26) 職権取消しと撤回 (27)～(29) 行政上の強制制度 (30) まとめ
----------	---

準備学習	毎回、授業内容の予習・復習に努めること。 予習については、教科書の指定は特にしないので、各自所有の専門書・参考書等で予定の範囲を通読し、論点等がある程度把握しておくこと。
------	--

履修上の留意点	行政法を初めて学習する者でもその基礎知識を一年間で習得できるよう、判例・通説を引用しながら、出来るだけ解り易く且つ簡潔に説明していくつもりです。特に国家・地方公務員や警察官・消防士、行政書士等の国家試験を目指している学生のため、出題頻度の高い問題はその都度指摘します。なお、六法は必携です。
---------	---

成績評価の方法	定期試験は学年末試験のみだが、前期も授業内テストを実施する。また、授業の進行状況や履修態度の如何によっては、レポート課題を出す。 成績評価は、定期試験50%、授業内テスト・レポート35%、平常点(不定期に確認する出欠等)15%とする。
---------	--

教科書/テキスト	特定の教科書は使用しません。但し、オリジナルノートが作れるように毎回丁寧に板書します。
----------	---

参考書	最初の講義の際に紹介します。
-----	----------------

履修コード	097061
科目名	協同組合論
担当者名	山口 浩平
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	生協、農協などの協同組合は、民主的に管理され、構成員の共通の目的を達成するための事業体です。この講義では協同組合の実態と役割、その意義を理解し、その各国における現状と課題を把握し、そしてその現代的な姿を探ることを目的としています。 なお、本年度(2012年)は国連における国際協同組合年であり、本講義もこれにともない、国際協同組合年実行委員会の協力の下、開講します。
授業スケジュール	第1部 協同組合の原理・歴史・運営 (第1回～第3回) 協同組合原則やその歴史、運営における株式会社や非営利組織との比較の中で、協同組合の存在を明確にします。 第2部 日本と世界の協同組合の実践 (第4回～第11回) 本パートでは、主に協同組合の現場からのゲストをお招きし、当該協同組合の歴史・事業・組織、組合員との接点や関係性からみた特性、今後の協同組合としての可能性について報告頂きます。生協・農協・漁協・協同組織金融機関を中心に、海外の協同組合についても取り上げる予定です。 第3部 今後の協同組合を考える (第12回～第14回) 特にNPOや非営利組織との関係性を検討することによって、協同組合の存在意義を読み解きつつ、今後の可能性や課題、展望について理解を深めます。
準備学習	非営利組織についての学習をしておくことが望ましいです。また、可能であれば企業経営の基礎を学んでおくとなお理解が深まります。
履修上の留意点	実際の協同組合が提供しているサービス(生協の店舗、宅配など)を利用していただくことをお勧めします。
成績評価の方法	講義のブロックごとに実施するレポート(3回実施×30%=90%)および出席(10%)にて評価します。
教科書/テキスト	特に指定しません。毎回資料を配布します。
参考書	河野直踐(2006)『協同組合入門』創森社 栗本昭編著(2006)『21世紀の新協同組合原則』コープ出版社 川口清史・富沢賢治編(1999)『福祉社会と非営利・協同セクター』日本経済評論社
関連リンク	http://www.iyc2012japan.coop/

履修コード	097801
科目名	銀行システム論
担当者名	近廣 昌志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>個別の銀行について考えれば、預金者から預金を受け入れて貸出を行い、その他資産から収益をあげているように見えます。しかし、銀行システム全体をひとつのセクターとして考えてみると、預金の存在は貸出の結果であると考えられます。つまり、銀行は現金で預金を獲得しなくても貸出できるのですが、この謎を解くことができれば、銀行システム論の核心を理解することになるでしょう。</p> <p>本講義は、銀行業務に対する知識習得と、銀行システムに対する理論面からの考察とを組み合わせることで展開します。</p> <p>預金取扱金融機関としての銀行は、貨幣経済社会において他の経済主体や金融機関にはみられない特殊性を有しています。本講義のねらいは、貨幣経済および金融システムの中心にある銀行システムに対する理解を深めるために、まず、事実としての銀行業務を把握することから始め、銀行の固有業務、民間経済主体との関わりにおける機能および役割について解説します。次に、個別銀行の総体である銀行システムに関して、ネットワークとしての意義と社会的役割について検討し、銀行セクターに関する理論面の解説と考察に移ります。</p> <p>銀行システムに関する理論的考察の重要性が認識できれば、金融部門のみならず経済社会に対する視点を身に付けることができると期待されます。銀行の基礎理論を身に付け、銀行あるいは銀行システムが経済社会にとって特別な存在であることの意味を考えましょう。</p> <p>銀行システムの理論面での「意外な」側面と一緒に研究してみよう。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第2～9講で銀行業務の解説など現実的側面を、第10～14講で理論的側面を取扱います。</p> <p>[第1講] ガイダンスおよびイントロダクション：問題の捉え方 [第2講] 銀行の歴史と現代の銀行①：銀行の歴史と銀行の分類を中心に [第3講] 銀行の歴史と現代の銀行②：銀行業の国際比較を中心に [第4講] 決済システムと銀行業①：商業信用と手形交換システム [第5講] 決済システムと銀行業②：システムとしての決済・為替制度 [第6講] 銀行の固有業務①：預金業務・信託業務を中心に [第7講] 銀行の固有業務②：銀行貸出・融資業務を中心に [第8講] 銀行の固有業務③：銀行の国際業務を中心に国際通貨の供給を考える [第9講] 銀行の収益構造：銀行のバランスシートから考える [第10講] 銀行券と預金貨幣①：現金は銀行にとって必要か？ [第11講] 銀行券と預金貨幣②：信用創造の理論的解釈 [第12講] 銀行券と預金貨幣③：マネーストックの増減要因の解釈 [第13講] 銀行システムとしての金融政策①：中央銀行の役割と市中銀行との同質性 [第14講] 銀行システムとしての金融政策②：金利コントロールが量的コントロールか [第15講] 講義のまとめ</p>
----------	---

準備学習	銀行のディスクロージャー誌に掲載されているバランスシート（貸借対照表）の内容、特に勘定科目にどんなものがあるのか、目を通しておくことをお勧めします。
------	--

履修上の留意点	本講義と併せて、後期科目の「現代銀行事情」の履修を推奨します。美しくノートを取り、配布する資料や板書の内容をよく整理してください。疑問点や質問があれば後回しにせず、その日のうちに講師に声をかけてください。
---------	--

成績評価の方法	定期試験（70%）およびレポート（30%）により評価します。なお、評価のランクについては、基本的に定期試験およびレポートの合計点により算出しますが、記述内容が論理性に優れている場合および受講時の取組みに優れている場合には、合計点から算出されるランクよりも高いランクで評価する場合があります。
---------	---

教科書／テキスト	開講時に指示しますが、参考図書の中から指定する場合があります。
----------	---------------------------------

参考書	<p>建部正義著『はじめて学ぶ金融論（第2版）』大月書店、2005年。 鹿野嘉昭著『日本の金融制度（第2版）』東洋経済新報社、2006年。 東短リサーチ株式会社編『東京マネー・マーケット（第7版）』有斐閣、2009年。 日本経済新聞社編『ドキュメント感うマネー』日本経済新聞社、2003年。</p>
-----	--

履修コード	090901
科目名	金融論
担当者名	代田 純
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	通貨など金融の基本から説明する。小切手・手形を踏まえ、銀行貸出へと進む。最終的に公的金融、証券市場を含む、金融の全体像の理解を目指す。 テキストはイラストを多用した、ビジュアル系なので、わかりやすい。
授業スケジュール	年間を通じた授業の流れとしては、以下のような予定である。(各項目でおおむね2回の講義を予定する) 1 金融とは、2 通貨とは、3 小切手・手形とは、4 ペイオフ解禁とは、5 銀行貸出とは、6 金利とは、7 金融市場とは、8 証券市場とは、9 国債とは、10 金融機関とは、11 公的金融とは、12 財政投融资とは、13 郵便貯金とは、14 簡易保険とは、15 公的年金とは、16 政府系金融機関の再編とは
準備学習	テキストで予習すること。
履修上の留意点	OHPにより、授業を進める。原則として板書はしない(チョークによる環境問題もあるため)。毎年、多人数の学生が履修登録しており、大規模講義になっています。しかし経済学科では選択必修科目であり、履修制限はしない。
成績評価の方法	定期試験(60点)とレポート(40点)により評価する。追試験は実施する。レポートについては、7月ころ、YeStudyにアップし、9月に提出してもらう予定。
教科書/テキスト	代田 純著、『新版 図説 やさしい金融財政』(丸善)、2009年12月、定価1800円+税、ISBN-978-4-621-08214-0 代田 純著、『ユーロと国債デフォルト危機』(税務経理協会)、2012年3月 ISBN-978-4-419-05769-5
参考書	二上・代田編著、『証券市場論』(有斐閣)2011年 代田純編、『金融危機と証券市場の再生』(同文館)2010年
その他	私語は厳禁する。私語をする学生には退出を命じる。レポート等はイエスタディで発表するので、日常的に使用するアドレスで登録すること。

履修コード	308601
科目名	金融論
担当者名	代田 純
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	通貨など金融の基本から説明する。小切手・手形を踏まえ、銀行貸出へと進む。最終的に公的金融、証券市場を含む、金融の全体像の理解を目指す。
授業スケジュール	年間を通じた授業の流れとしては、以下のような予定である。(おおむね各項目2回の講義を予定する。) 1 金融とは、2 通貨とは、3 小切手・手形とは、4 ペイオフ解禁とは、5 銀行貸出とは、6 金利とは、7 金融市場とは、8 証券市場とは、9 国債とは、10 金融機関とは、11 公的金融とは、12 財政投融资とは、13 郵便貯金とは、14 簡易保険とは、15 公的年金とは、16 政府系金融機関の再編とは
準備学習	テキストで予習・復習すること。
履修上の留意点	OHPにより授業を進める。原則として板書はしない(チョークによる環境問題もあるため)。
成績評価の方法	定期試験(80点)とレポート(20点)により評価する。追試験は実施する。
教科書/テキスト	代田 純著、『図説 やさしい金融財政』、(丸善)、定価1800円+税、ISBN978-4-621-08214-0 を使用する。
参考書	レポートの際に、 二上・代田編著、『証券市場論』、(有斐閣)2011年 代田 純編、『金融危機と証券市場の再生』(同文館)2010年 のいずれか(本人の選択による)を使用する。
その他	出席はとらないが、私語は厳禁する。

履修コード	095831
科目名	グローバル・ビジネス論 a
担当者名	日高 克平
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	1980年代末から本格化した地球規模での経済活動（グローバル化）によって、現代企業のビジネスは劇的に変化しています。グローバル化の現代的特徴は、ICT（情報通信技術）の飛躍的発展をともなっていることにあるため、現代企業のビジネス・モデルを分析する際にも、企業経営のグローバル化とICT化を関連付けることが肝要です。本講義では、そのような視座に立って、グローバル・ビジネスを展開する企業の具体的な事例を取り上げつつ、企業経営の新たな手法や技法を探るとともに、その革新的特性や問題点を解明することを目的としています。
授業スケジュール	グローバル・ビジネスの概念と歴史（第1～3回）、今日のグローバル化と企業経営（第4～5回）、グローバル・ビジネス論-グローバル戦略とローカル戦略-（第6～7回）、グローバル・マーケティング戦略（第8～9回）、生産活動のグローバル化-海外生産拠点の配置と調整-（第10～12回）、革新的ビジネス・モデルの事例研究（第13～15回）
準備学習	経営学の基本的な用語や概念（例：事業部制組織、事業戦略、PPMなど）を理解しておくこと、学習の能率が上がります。また、新聞やジャーナルなどから日々の経済情報を理解するよう心掛けてください。
履修上の留意点	グローバル・ビジネスに関する情報は、日頃の新聞、経済誌、テレビやインターネット等によって豊富に得られます。受講者は、授業を理解するのみに留まらず、そのような情報源に積極的にアクセスし、自ら知識を蓄えながら理解を深めるよう努力してください。
成績評価の方法	学期末試験に、出席状況および受講態度、講義中に課した提出物の評価を加味して総合判定します。
教科書/テキスト	講義時に配布するオリジナルのレジュメと資料を使用します。本講義の指定教科書はありません。参考文献については、各回のレジュメの中で紹介します。
参考書	赤羽新太郎・夏目啓二・日高克平編著『グローバル化と経営学 21世紀におけるBRICsの台頭』ミネルヴァ書房、2009年。

履修コード	095841
科目名	グローバル・ビジネス論 b
担当者名	日高 克平
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	国境を越えて事業を拡大する企業行動は、市民生活にもさまざまな影響を及ぼしています。後期の課題を一言で表現すれば、グローバル・ビジネスと市民社会との共生関係をどのように築くべきか、という問題を検討すること、と言えましょう。グローバル・ビジネスは、優れた商品やサービスの提供という部分ではわれわれの生活に欠かせないものではありませんが、他方で、環境問題、雇用や労働条件をめぐる問題、人権問題等を引き起こす場合もあります。したがって、個々のビジネス・モデルを検討する場合、グローバル・ビジネスの恩恵の部分だけでなく、負の部分も認識した上で総合的に評価をすることが重要です。また21世紀のビジネス・モデルがどうあるべきか、どのようなビジネスを育成していくべきか、という問題について、「共生」というキーワードを用いて考察します。
授業スケジュール	グローバル・ビジネスの現代的特徴および戦略的課題（第1～3回）、グローバル・リストラクチャリング-グローバル M&A とアライアンス戦略-（第4～6回）、グローバル・ビジネスと国家・地域・都市（第7～9回）、グローバル・ビジネスと CSR-環境・人権・労働問題-（第10～12回）、共生型ビジネス・モデルとその事例研究（第13～15回）
準備学習	経営学の基本的な用語や概念（例：事業部制組織、事業戦略、PPMなど）を理解しておくこと、学習の能率が上がります。また、新聞やジャーナルなどから日々の経済情報を理解するよう心掛けてください。
履修上の留意点	グローバル・ビジネスに関する情報は、日頃の新聞、経済誌、テレビやインターネット等によって豊富に得られます。受講者は、授業を理解するのみに留まらず、そのような情報源に積極的にアクセスし、自ら知識を蓄えながら理解を深めるよう努力してください。
成績評価の方法	学期末試験に、出席状況および受講態度、講義中に課した提出物の評価を加味して総合判定します。
教科書/テキスト	講義時に配布するオリジナルのレジュメと資料を使用します。本講義の指定教科書はありません。参考文献については、各回のレジュメの中で紹介します。
参考書	赤羽新太郎・夏目啓二・日高克平編著『グローバル化と経営学 21世紀におけるBRICsの台頭』ミネルヴァ書房、2009年。

履修コード	098011
科目名	グローバル・ファイナンス
担当者名	小西 宏美
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本講義では、企業の海外生産、投資活動を金融の側面から支えてきたグローバル・ファイナンスの役割とその弊害について学習する。今日のグローバル化は企業の国際的生産活動に因るところが大きい。たとえばDELLがPCを生産するとき、マイクロプロセッサはフィリピン、メモリは韓国、キーボードは台湾からそれぞれ調達し、それらを中国の工場で組み立て日本に出荷するといった具合である。グローバル・ファイナンスは、こうした企業の国際的生産、投資活動を金融の側面から支える。</p> <p>しかし逆にグローバル・ファイナンスがもたらす問題もある。それは経済の「カジノ化」(カジノ資本主義)である。今、ギリシャ発の金融危機によって世界経済が混乱しているが、これも「カジノ資本主義」がもたらした問題と言える。本講義ではグローバル・ファイナンスの役割とその問題点を検討しながら、将来的に望ましい企業金融のあり方や金融システムの枠組みについて考える。</p>
授業スケジュール	<p>I 多国籍企業の国際的生産体制とグローバル・ファイナンス (1~15) マイクロソフトの配当政策と企業の資金調達コスト、グーグルの株式公開と創業者利得</p> <p>II デリバティブ取引 ~リスク回避と投機的取引~ (16~24) 先物、オプション、スワップ、クレジット・デリバティブ</p> <p>III カジノ化する国際金融市場 (25~30) ヘッジ・ファンド、カジノ資本主義</p>
準備学習	毎日、新聞を読みグローバル・ファイナンス関連の用語に慣れておくこと。
履修上の留意点	Yestudyでレジュメを印刷し、授業に持参すること。またレジュメ以外にノートも持参すること。
成績評価の方法	前期終了時点での授業内試験、後期終了後の定期試験で評価します。
教科書/テキスト	指定しません。
参考書	<p>奥田宏司、神沢正典編 (2010) 『現代国際金融論 (第2版)』 法律文化社、2700円、978-4-589-03240-9</p> <p>スーザン・ストレンジ (2007) 『カジノ資本主義』 岩波現代文庫 ("Casino Capitalism" 1986) 1260円、978-4006001728</p>

履修コード	091411 091412
科目名	経営学基礎 経営学総論
担当者名	松田 健

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義では、企業経営についての基本的な考え方を理解するために、経営学の基礎的な概念や理論を学びます。経営学の諸理論を概説する中で、具体的な事例についても出来るかぎり数多く紹介する予定ですが、この講義の主眼は、あくまでも経営学の「基礎理論」の修得にあります。それゆえ、経営学の領域にあるさまざまな専門科目への入門としての位置づけられます。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：経営学の学び方 2. 企業の成立と展開 (1)：産業革命と資本主義的生産システムの確立 3. 企業の成立と展開 (2)：重工業化と株式会社の成立 4. 経済学と経営学 5. 経営組織論：企業の土台をつくるもの 6. 経営管理論の展開 7. 株式会社論 (1) 株式会社の組織と運営 8. 株式会社論 (2) その現代的課題 9. 企業統治論 (1) 企業統治の今日的課題 10. 企業統治論 (2) 国際比較の視点から 11. 経営戦略論 (1) 経営戦略の考え方 12. 経営戦略論 (2) 企業の成長と競争のための指針 13. 多国籍企業論：グローバル化と国際生産ネットワーク 14. 国際経営：ビジネスはグローバルに 15. 前期のまとめ 16. 後期オリエンテーション：企業と市場 17. 中小企業論：その歴史、現状、発展方向 18. ベンチャー論・起業論 19. 非営利組織 (NPO) 論 20. 財務管理と企業会計 21. マーケティング論 (1)：「売れる仕組み」を作るには 22. マーケティング論 (2)：マーケットとロジスティックス 23. 生産管理論 (1) 生産システム論の展開 24. 生産管理論 (2) SCMとは 25. 人的資源管理論：雇用・処遇管理の複雑化 26. 日本的経営論 27. 経営情報論：情報技術革新と企業経営の変化 28. 環境経営論：環境サステナビリティに志向する企業経営 29. 企業と社会：CSRから企業倫理へ 30. 後期のまとめ
----------	--

準備学習	企業経営とそれを取り巻く「経営環境」としての経済社会との相互関連への理解を深めるためには「新聞を毎日読むこと」がとてよもよい刺激になります。新聞、雑誌の政治・経済・経営欄に目を通し、現代の経済・経営にとって何が問題となっているのかという点にアンテナを張るよう心がけて下さい。
------	---

履修上の留意点	講義の予習復習を心がけてください。用語がわからないと講義を聞いても理解不足に陥ります。自分で使い易い経営学辞典あるいは経営学用語集を入手しておいて下さい。また、聴講する皆さんは大学生ですから細かいことは言いませんが、少なくとも講義を聴きたいと思って参加している同僚学生にとって邪魔になる行為は慎んでください。夏休み中の課題として「課題レポート」を予定しています。これらは成績評価に直結していますので、登録の際にはこの点を十分考慮して、受講するかどうかを判断してください。
---------	---

成績評価の方法	授業への出席は、単位認定のための最低要件です。定期試験 (70%) を行い、この評価に夏季休暇中の「課題レポート」の評価 (20%) と授業中の小レポートによる評価 (10%) とを加味して総合的に評価し、60点以上の者に単位を認めます。
---------	---

教科書／テキスト	百田義治編著『経営学を学ぼう』中央経済社、2012年。
----------	-----------------------------

参考書	経営学辞典あるいは経営学用語集(⇒これでなければならないという指定はありませんが、自分で使い易いものを選んで使用して下さい)。
-----	---

その他	なし
-----	----

履修コード	096901
科目名	経営学史
担当者名	小阪 隆秀

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>アメリカ経営管理論の歴史的な展開を中心にして、経営学発展史を跡付けていくことが、この講義の目的である。</p> <p>経営管理の歴史は、企業の成長とともに変化し、発展してきた。すなわち、企業はその管理に必要な理論に支えられて成長することができた。そして、企業の成長にともない、それまでの理論は古いものとなっていき、やがて新しい管理の理論を必要とするようになる。その新しい理論が、さらに企業の成長と発展を可能にしていくことになる。</p> <p>本講義では、このようにして経営学発展史が形成されていくことを、明らかにしていきたい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> ①アメリカ資本主義の生成と組織の「見える手」 ②資本主義と官僚制組織 ③官僚制組織とM. ウェーバー ④科学的管理とF. W. テイラー ⑤時間・動作研究とギルブレス夫妻 ⑥アメリカの大量生産システムとH. フォード ⑦事業部製組織とA. P. スローン ⑧リーン生産システムと大野耐一 ⑨人間関係論とE. メイヨー ⑩人間関係論 vs. 科学的管理法 ⑪自己実現欲求とA. H. マズロー ⑫未成熟・成熟理論とC. アージリス ⑬Y理論とD. マクレガー ⑭動機づけ・衛生理論とF. ハーツバーグ ⑮システム4とR. リッカート ⑯選好期待理論とV. H. ブルーム ⑰業績・満足理論とL. W. ポーター&E. E. ローラー ⑱前期の全体総括 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> ①状況の法則とM. P. フォレット ②経営者の役割とC. I. バーナード ③組織の意思決定とH. A. サイモン ④条件適応理論とローレンス＝ローシュ ⑤セオリーZとW. G. オオウチ ⑥リーダーシップとF. E. フィールドラー ⑦リーダーシップとE. H. シャイン ⑧株式会社革命とバーリ＝ミーンズ ⑨ビジネスリーダーシップとR. A. ゴードン ⑩テクノストラクチャーとJ. K. ガルブレイス ⑪労働過程とH. プレイヴァマン ⑫管理の理論とP. F. ドラッカー ⑬企業戦略とI. アンゾフ ⑭競争戦略とM. ポーター ⑮クラフティング戦略とH. ミンツバーグ ⑯後期の全体総括
----------	---

準備学習	<p>これまでに習った経営学基礎や経営管理の理論を復習するとともに、これから習うさまざまな管理の理論をしっかり身につけることが重要である。それによって、経営学の体系が理解できるようになる。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>ノートを1冊用意し、毎回授業に持参することが重要である。授業中おこなう小テストは、このノートがなければ十分な解答ができない可能性がある。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>前期末に中テストを行い、後期末に最終テストを行う。この他に、授業中に5回程度の小テストを行う。</p> <p>点数の配分は、前期末の中テストが30%、後期の最終テストが50%、小テストが20%である。</p>
---------	---

教科書/テキスト	教科書は特に指定しない。
----------	--------------

参考書	<p>D. S. ピュー、D. J. ヒクソン著、北野利信訳『現代組織学説の偉人たち』（有斐閣）、 J. シェルドレイク著、齋藤毅憲、他訳『経営管理論の時代』（文真堂）、D. A. レン、R. G. グ リーンウッド著、井上昭一・伊藤健市・廣瀬幹好監訳『現代ビジネスの革新者たち』（ミネル ヴァ書房）、渡辺峻・角野信夫・伊藤健市編著『やさしく学ぶマネジメントの学説と思想』（ミ ネルヴァ書房）。</p>
-----	---

履修コード	330111
科目名	経営管理論 a
担当者名	岩波 文孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>企業経営をめぐる経済的・社会的環境が急激に変化している状況において、企業管理・経営管理の構造変化および経営管理のあり方が問われています。本講義では、「企業と社会」のアプローチにより、持続可能な社会発展を目指す経営管理の諸課題を経済、環境、社会の側面から考察していきたい。</p> <p>本講義を通じて、企業の社会性を踏まえた企業管理論・経営管理論の諸課題に関する理解を深めてもらいたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要：企業と社会をめぐる諸課題 (1) 2. 競争力と経営管理 (1~2) 3. 日本企業の競争力と国家政策 (3~5) 4. コーポレート・ガバナンスとトップ・マネジメント (6~7) 5. 日本企業のイノベーション戦略 (8) 6. 日本企業の環境経営戦略 (9) 7. 日本企業の事業・職能管理組織 (10) 8. 日本企業の組織と個人の関係 (11) 9. 日本企業の生産・労働システム (12) 10. 米国における日系企業 (13) 11. 日本企業の競争力をめぐる現実的課題と展望 (14~15)
----------	---

授業の進め方について、付言しておきます。授業の進行はテキストの順序とは異なります。

準備学習	企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集をしてください。
履修上の留意点	現代社会の諸事情や企業経営について興味関心を持って受講してもらいたい。
成績評価の方法	日常評価により評価します。
教科書/テキスト	林正樹編著 (2011) 『現代日本企業の競争力』 ミネルヴァ書房。
参考書	日本比較経営学会編 (2006) 『会社と社会』 文理閣。

履修コード	330121
科目名	経営管理論 b
担当者名	岩波 文孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>経済的・社会的環境が急激に変化している状況において、企業管理の構造変化および企業管理のあり方が社会から問われている。巨大企業のトップ・マネジメントをめぐる、所有と経営の分離ともなう会社支配の問題、グローバル化の進展・企業間競争の激化・資本調達にともない企業の透明性と効率性が求められている。本講義では、コーポレート・ガバナンスに関連付けながら現代の巨大企業におけるトップ・マネジメント機能の特質を考察していきたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要：ガイダンス (1) 2. 企業と社会 (2~3) 3. 会社支配論とトップ・マネジメント (3~4) 4. 取締役会改革とコーポレート・ガバナンス (5) 5. CSRとトップ・マネジメント機能 (6~7) 6. 日本企業のトップ・マネジメント改革 (8~9) 7. アメリカ企業のトップ・マネジメント改革 (10) 8. イギリス企業のトップ・マネジメント改革 (11) 9. ドイツ企業のトップ・マネジメント改革 (12) 10. グローバル企業のコーポレート・ガバナンス (13) 11. 企業管理改革の課題と展望 (14~15)
----------	---

授業の進め方について、付言しておきます。授業の進行はテキストの順序とは異なります。

準備学習	企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集をしてください。
履修上の留意点	現代社会の諸事情や企業経営について興味関心を持って受講してもらいたい。
成績評価の方法	日常評価により評価します。
教科書/テキスト	風間信隆・海道ノブチカ編著 (2009) 『コーポレート・ガバナンスと経営学』 ミネルヴァ書房。
参考書	

履修コード	095701
科目名	経営情報システム論I
担当者名	中 濟 光 昭
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、企業情報システム発展の経緯とERP (Enterprise Resource Planning) の役割、今後の課題についてERP に関する基本的知識を解説しながら網羅的に学習することにより、ERP に関する知識を習得することを目標とする。 世界最大のエンタープライズ・ソフトウェア企業であり、日本を含む120もの国々において、105,000の導入実績を持つ独SAP社のSAP ERP を用いた実習により、受注管理、品目/生産計画、調達、在庫管理の使用方法について理解する。
授業スケジュール	第 1 回：ERP の基本事項 1 経営情報システムを概観 第 2 回：ERP の基本事項 2 ERPの概要 第 3 回：ERP の基本事項 3 SAP ERPの特徴 第 4 回：SAP NetWeaver 第 5 回：調達周期 1 部品の調達についての説明 第 6～10回：調達周期 2 部品の調達についての実習 第 11回：製造実行 1 ERPによる製造過程についての説明 第 12回：製造実行 2 ERPによる製造過程についての実習 第 13回：在庫/倉庫管理 受注管理 1 在庫管理・受注管理の説明 第 14回：在庫/倉庫管理 受注管理 2 在庫管理・受注管理の実習 第 15回：まとめ
準備学習	パソコンを使うため、コンピュータ基礎、基礎情報処理I・IIや情報入門I・IIを履修済か同等のスキルがあることが必要である。 受注管理、品目/生産計画、調達、在庫管理に関する基礎知識があることが望ましい。 実習を伴うため、授業外でのソフトウェア実習を行う必要がある。
履修上の留意点	ワープロ、表計算、メール、ホームページ検索などの基本的操作ができる前提で講義を行います。課題提出や講義中の議論には、パソコンやインターネットを活用します。パソコン初心者には、まずコンピュータ基礎、基礎情報処理I・IIや情報入門I・IIを履修することをお勧めします。
成績評価の方法	講義時の課題実習と各回の最後に行う課題と授業内の小テストによる。
教科書/テキスト	初回講義で指示
参考書	マネジメント入門 改訂第2版—ERPで学ぶビジネスプロセス エレン モンク (著)、プレットワグナー (著)、堀内 正博 (翻訳)、田中 正郎 (翻訳) ビー・エヌ・エヌ新社
その他	・本講義はパソコンのある教場で行うため、履修制限を行うことがあります。初回の講義で履修許可票を配布することがあるので「必ず」出席すること。卒業年次生についても例外は認めません。 ・KOMAnetに登録している前提で講義を行なうので、KOMAnet未登録者は4月初旬に4号館2F事務室に行き、登録手続きを行なうこと（登録なしに受講することは講義内容上困難です）。 ・講義に関する質問などは、nakasumi@komazawa-u.ac.jpにメールすること。
関連リンク	http://www.sap.com/japan/index.epx

履修コード	095801
科目名	経営情報システム論II
担当者名	中 濟 光 昭
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本講義は、経営情報システム論Iの受講を前提に、経営情報システム論Iで触れていない企業情報システム発展の経緯とERP (Enterprise Resource Planning) の役割、今後の課題についてERPに関する基本的知識を解説しながら網羅的に学習することにより、ERPに関する知識を習得することを目標とする。</p> <p>世界最大のエンタープライズ・ソフトウェア企業であり、日本を含む120もの国々において、105,000の導入実績を持つ独SAP社のSAP ERPを用い、プロジェクト管理、プラント保全、得意先サービス、Human Capital Management、財務会計、および管理会計のプロセスを実習し、SAP ERPの統合されたロジスティクスおよび財務プロセスの概要と、ビジネスインテリジェンスや戦略的企業経営などの分析機能の使用方法について理解する。</p>
授業スケジュール	<p>第 1回：企業資産管理と得意先サービス 第 2回：計画／プロジェクト管理 第 3回：Human Capital Management 第 4回：財務会計 1 財務会計の概要 第 5～8回：財務会計 2 財務会計の実習 (受注伝票処理) 第 9回：管理会計 1 管理会計の概要 第10～14回：管理会計 2 管理会計の実習 第15回：まとめ</p>
準備学習	<p>パソコンを使うため、コンピュータ基礎、基礎情報処理I・IIや情報入門I・IIを履修済か同等のスキルがあることが必要である。</p> <p>受注管理、品目／生産計画、調達、在庫管理に関する基礎知識があることが望ましい。</p> <p>実習を伴うため、授業外でのソフトウェア実習を行う必要がある。</p> <p>経営情報システム論Iの単位を取得していること。</p>
履修上の留意点	<p>ワープロ、表計算、メール、ホームページ検索などの基本的操作ができる前提で講義を行います。課題提出や講義中の議論には、パソコンやインターネットを活用します。パソコン初心者には、まずコンピュータ基礎、基礎情報処理I・IIや情報入門I・IIを履修することをお勧めします。</p>
成績評価の方法	講義時の課題実習と各回の最後に行う課題と授業内の小テストによる。
教科書／テキスト	初回講義で指示
参考書	マネジメント入門 改訂第2版—ERPで学ぶビジネスプロセス エレン モンク (著)、ブレット ワグナー (著)、堀内 正博 (翻訳)、田中 正郎 (翻訳) ビー・エヌ・エヌ新社
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義はパソコンのある教場で行うため、履修制限を行うことがあります。初回の講義で履修許可票を配布することがあるので「必ず」出席すること。卒業年次生についても例外は認めません。 ・KOMAnetに登録している前提で講義を行なうので、KOMAnet未登録者は4月初旬に4号館2F事務室に行き、登録手続きを行なうこと (登録なしに受講することは講義内容上困難です)。 ・講義に関する質問などは、nakasumi@komazawa-u.ac.jpにメールすること。
関連リンク	http://www.sap.com/japan/index.epx

履修コード	097501
科目名	経営分析
担当者名	渡邊 智
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 企業は財務諸表を開示することによって、財政状態や経営成績などの会計情報を広く一般に伝えているが、財務諸表の見方を知らなければ情報を正確に把握することはできない。経営分析とは、分析対象となる企業の財務諸表や必要な資料を収集し、それらを正確に分析し、当該企業がどの様な状態にあるのか判断するものである。この講義では、経営分析に関する基本的な知識を身に付け、自ら簡単な経営分析ができるようにすることを目指している。</p> <p>(到達目標) この講義では、経営分析に関する基礎知識を習得しながら、基礎レベルのテーマについて検討し、初歩的な経営分析を行なう能力を身に付けることを目標としている。</p>
授業スケジュール	<p>(1) 財務諸表分析とは何か (2) 財務諸表分析の限界 (3) 貸借対照表とは何か・貸借対照表の仕組み (4) 資産・負債・純資産(資本) (5) 流動資産・固定資産・棚卸資産 (6) 設備資産・投資資産・オフバランスの意味 (7) 安全性分析とは何か (8) 正味運転資本・流動比率・当座比率 (9) 負債比率・自己資本比率 (10) 固定比率・固定長期適合率 (11) 一株当たり純資産 (12) 安全性分析の例 (13) 貸借対照表における成長性分析 (14~15) 前期のまとめ (16) 損益計算書とは何か・損益計算書の仕組み・損益計算書の区分 (17) 当期純利益と包括利益・収益性分析とは何か (18) 売上高利益率 (19) 実効税率と実績負担率、一株当たりの純利益 (20) CVP分析 (21) 生産性分析・インタレストカバレッジレシオ・損益計算書における成長性分析 (22) 回転率 (23) 交差比率・資本利益率・ROA・ROE (24) EVA (SVA) (25) 株主資本等変動計算書・投資判断に役立つ各種指標 (26) キャッシュフロー計算書の仕組み (27) キャッシュフローの読み方 (28) 各種キャッシュフロー指標 (29) キャッシュフロー経営 (30) 後期のまとめ</p>
準備学習	<p>受講者は以下の事項を厳守すること。 簿記と会計に関する知識が必要となるので、簿記と会計に関連する科目を履修し、単位を取得しておくこと。 予習・復習は毎回必ず行なうこと。 欠席、遅刻、早退および途中退出は厳禁とする。万一欠席した場合には、欠席した回の学習事項を十分に理解しておくこと。 ただ履修しているだけ、出席しているだけでは講義内容を理解することはできず、単位の取得も困難となる点には十分留意すること。日頃から企業の動向に関心を持ち、財務諸表や資料を自ら収集して分析を行なうなど、積極的な姿勢で課題に取り組むことが求められる。 電卓を使用しても構わないが、ある程度の計算力は必要となる。 分析指標の算出方法など基本的な事項については常に練習を重ね学力の維持を図ること。 理解が不十分な点は、そのまま放置せず、質問などにより必ず各自で解決しておくこと。</p>
履修上の留意点	<p>私語など講義中の迷惑行為は厳禁とする。 与えられた課題には真剣且つ積極的な姿勢で取り組むこと。 電卓(できれば12桁)を用意すること。</p>
成績評価の方法	<p>前期末レポートの結果 (30点満点)、後期末レポートの結果 (50点満点) および平常点 (小テストの結果) (20点満点) によって総合的に成績評価を行なう。</p>
教科書/テキスト	<p>平林亮子編『財務諸表分析入門』アスキーメディアワークス 定価1,700円+税 ISBN978-4-04-867324-2</p>
参考書	<p>桜井久勝著『財務諸表分析』第4版 中央経済社 定価3,400円+税 ISBN978-4-502-22520-8 村形聡著『財務諸表と経営分析』アスキーメディアワークス 定価1,700円+税 ISBN978-4-04-867325-9 講義の進行状況に応じてプリントを配布する。</p>
その他	<p>ただ説明をするだけでなく、受講者とのディスカッションも随時行ない、お互いに理解を深めながら講義を進めてゆきたい。</p>

履修コード	093001
科目名	景気循環論
担当者名	野村 信廣

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	景気循環への関心は極めて高い。それは(1)景気循環が多くの人の生活に影響すること(2)景気循環の姿がその都度変化すること(3)景気循環が経済・政治の諸問題に影響することのためである。講義では(1)景気循環を把握する方法(2)景気循環を引き起こす原因とメカニズム(3)景気循環を応用した景気の過去分析や現状把握、将来予測などを学ぶ。受講生が景気判断に対する理解・評価能力を習得し、自分自身で景気判断や予測が出来るようにす
---------------------	---

授業スケジュール	[前期] (1) 景気とサイクル (第1回～第6回) (2) 景気循環の主な内容 (第7回～第15回) [後期] (3) 景気循環の歴史 (第16回～第24回) (4) 景気循環の理論 (第25回～第30回)
----------	---

準備学習	過去1週間の内外の景気循環の記事を整理し、予定されている授業のテキストを読んでおくこと
------	---

履修上の留意点	日々の内外景気循環に興味を持つこと
---------	-------------------

成績評価の方法	レポート(前期)、定期試験(筆記・後期)、出席状況を加味して総合的に評価
---------	--------------------------------------

教科書/テキスト	景気循環学会・金森久雄「ゼミナール・景気循環入門」(東洋経済新報社)
----------	------------------------------------

参考書	適宜参考資料を作成・配布
-----	--------------

その他	講義中心だが、質問や討議を歓迎
-----	-----------------

履修コード	099931 099932 099933 099934
科目名	経済外国書講読Ⅰa 外国書講読Ⅰa 経済外国書講読Ⅱa 外国書講読Ⅱa [ドイツ語]
担当者名	浅田 進史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ドイツ語を学びながら、長期的な視点から経済社会を理解する。世界経済・ドイツ現代経済・経済史に関わる新書もしくは一定水準の雑誌記事を素材に、ドイツ語読解力を高めることを目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	テキストを輪読しながら、経済に関わるドイツ語文献を長期的な視点から読み解いていく。受講生の語学能力に合わせてスケジュールを調整する。受講生には、あらかじめ初歩的なドイツ語能力が要求されるが、受講生のレベルに応じて適切に対応する。
----------	--

準備学習	テキストを事前に十分に予習すること。
------	--------------------

履修上の留意点	毎週かならず出席すること。
---------	---------------

成績評価の方法	出席率、輪読時の発表、期末に提出する日本語訳文章から総合的に判定する。
---------	-------------------------------------

教科書/テキスト	初回時にテキストを指定する。前半は雑誌記事を取り上げ、後半は新書レベルの本を講読の対象とする予定である。
----------	--

参考書	初回時に参考にすべき辞書・文法書の類を紹介する。
-----	--------------------------

履修コード	100131 100132 100133 100134
科目名	経済外国書講読Ⅰa 外国書講読Ⅰa 経済外国書講読Ⅱa 外国書講読Ⅱa [中国語]
担当者名	小杉 修二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中国経済の担い手は主として中国人であり、主たる経済活動は中国大陸で行われている。そこで主として使われているのは中国語である。「また聞き」でない、生の声は中国語で行われている。この「また聞き」でない生の声を書物を通じてくみ取る訓練が「外国書講読」である。ここでは現在の中国の在り方を大枠で規程している胡錦濤中共主席(2012年現在)中共第17回大会報告(2007年)を読む。
---------------------	--

授業スケジュール	第1-5週: 第1章 第6-10週: 第2章 第11-15週: 第3章 第16-20週: 第4章 第21-25週: 第5章 第26-30週: 第6章
----------	--

準備学習	すでに中国語を履修していることが前提になる。中国語を母語とするものは完全な日本語への翻訳が前提になる。
------	---

履修上の留意点	語学の初心者が一から始める科目ではない。中国語を学んでいることが前提になる。中国語を母語とするものは「厳密な日本語」への翻訳を志す者に限る。
---------	--

成績評価の方法	出席とテストで行う。
---------	------------

教科書/テキスト	授業時に配布する。
----------	-----------

参考書	
-----	--

履修コード	100011 100012 100013 100014
科目名	経済外国書講読Ⅰa 外国書講読Ⅰa 経済外国書講読Ⅱa 外国書講読Ⅱa〔フランス語〕
担当者名	清水 卓

授業概要/ 到達目標(ねらい)	EU諸国の経済と社会に関する新聞、雑誌記事を読むことができるよう、指導します。フランス語について初中級レベルの学生でないといふ履修は困難でしょう。
授業スケジュール	履修者の関心や語学力をふまえて、講読するテキストを選択します。通例では、一回分の授業の予習には3時間程度の準備を要するでしょう。
準備学習	まずは、自分で辞書を引き、日本語にして授業に参加してください。
履修上の留意点	毎日の地道な積み重ね以外に語学習得の道はないでしょう。
成績評価の方法	授業での報告と議論のレベルで成績評価します。
教科書/テキスト	新聞、雑誌の記事や公的機関の報告書などをテキストとします。
参考書	授業で指示します。
その他	特になし。

履修コード	099811 099812 099813 099814
科目名	経済外国書講読Ⅰa 外国書講読Ⅰa 経済外国書講読Ⅱa 外国書講読Ⅱa〔英語〕
担当者名	鈴木 伸枝

授業概要/ 到達目標(ねらい)	ノーベル経済学賞の受賞講演録を輪読します。経済学用語を習い、経済学の専門書や学術論文を英語で読む力を養うとともに、これまで経済学者たちがどのような問題に着目し研究してきたかを垣間見て刺激を受ける機会にもなるでしょう。
授業スケジュール	第1回：ガイダンス&教材選び。候補の講演録を5〜10本紹介し、その中のどれから読んでいくかを決めます(多数決)。 第2-15回：1人あたり1段落程度を音読して訳してもらいます。
準備学習	毎回予習してきてください。
履修上の留意点	
成績評価の方法	予習・発表(音読・訳)の平常点により評価します。
教科書/テキスト	ノーベル経済学賞の受賞講演録から何点か選びます。
参考書	

履修コード	100151 100152 100153 100154
科目名	経済外国書講読Ⅰa 外国書講読Ⅰa 経済外国書講読Ⅱa 外国書講読Ⅱa〔朝鮮語〕
担当者名	鄭 章淵

授業概要/ 到達目標(ねらい)	(授業概要) この授業は、韓国経済に関する文献・雑誌論文・新聞記事をテキストとして、その翻訳と内容について解説する。授業の進め方は、受講生諸君による輪読方式で進行することにする。ただし、受講生の習熟度や関心に合わせて授業内容および授業方式を変更することもある。 (到達目標) この授業の目的は、受講生が韓国経済に関する朝鮮語(韓国語)文献を講読して韓国経済への理解を深めることである。また、受講生諸君の朝鮮語に対する理解度については、基本的な文法や辞書の引き方を習得して、テキストの内容があらかた理解できる水準にまで到達してもらう予定である。
授業スケジュール	初回授業時に配布するテキストについて担当者を決めて輪読していく。毎回の授業では、該当箇所の翻訳と専門用語等に関して詳しく説明する。また、その時々トピックスについても随時紹介する予定である。 受講生諸君にはあらかじめ朝鮮語に対する基礎的な理解力が求められるが、授業では、皆さんの習熟度に合わせてできるだけ平易な解説に努めるつもりである。朝鮮語に自信のない諸君も奮って参加してもらいたい。
準備学習	授業で紹介する参考文献のほかに、日頃、新聞やWEBサイトに掲載される韓国経済に関する記事をよく読んでおくこと。
履修上の留意点	授業での課題の遂行状況(担当箇所の翻訳)を基に成績を評価するので授業を休まないようにしてもらいたい。
成績評価の方法	レポート回数や授業での積極性などを加味して総合的に評価する。
教科書/テキスト	初回授業時にプリントを配布する。 テキストは、韓国経済の文献・雑誌・新聞記事を使用する。
参考書	辞書や文法書など参考書については初回授業時に紹介する。

履修コード	099831 099832 099833 099834
科目名	経済外国語講読Ⅰa 外国語講読Ⅰa 経済外国語講読Ⅱa 外国語講読Ⅱa〔英語〕
担当者名	松本 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 非営利組織 (non-profit organization) や社会的企業 (social enterprise) に関する英語文献を素材に、非営利組織および社会的企業の経営学に関わるさまざまな知識・思想を学ぶ。 (到達目標) 本講義の到達目標は、外国語の専門書に慣れ親しむこと、楽しみながら読解力を向上させることである。また、海外の非営利組織に関する歴史、法制度、最新情報を知ることによって、日本の非営利組織を比較・相対化する力を身につけることも到達目標である。
---------------------	---

授業スケジュール	教科書の中から1～2つの論文を取り上げ、毎回少なくとも1ページを読み進める。授業の冒頭では、その回で取り上げるページについて、事前に予習をし理解しているかの確認テストを行う。その後、解釈の難しい箇所、文脈上重要な箇所を、受講者全員で輪読していく。 第1回 ガイダンス (講義の進め方、成績評価の確認、課題の設定等) 第2～14回 確認テスト、輪読 第15回 まとめ
----------	---

準備学習	(受講前) ・非営利組織論aとbの講義内容を復習しておくこと。 ・英文法に自信のない人は、最低限、英検2級・TOEIC500点レベルの文法を復習しておくこと。 (受講中) ・毎回、授業終了後に、次回の予習範囲を指示するので、必ず予習をすること。 ・確認テストで行った内容の復習をすること。 ・授業内容に関連した新聞記事やHPを授業内で取り扱うことがあるので、関連したメディアに目を通しておくこと。
------	--

履修上の留意点	・毎回実施する確認テストの結果が成績評価に大きく反映されるので、講義に出席するだけという学生の履修は進めない。 ・非営利組織論aとbをすでに履修していることを前提として講義をすすめる。
---------	---

成績評価の方法	・成績は、確認テスト70%、レポート30%で、総合的に評価する。
---------	----------------------------------

教科書/テキスト	・J. Steven Ott and Lisa A. Dicke eds, [2011] "The Nature of the Nonprofit Sector - Second Edition", Westview Press. ISBN 0813344911
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	099941 099942 099943 099944
科目名	経済外国語講読Ⅰb 外国語講読Ⅰb 経済外国語講読Ⅱb 外国語講読Ⅱb〔ドイツ語〕
担当者名	浅田 進史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ドイツ語を学びながら、長期的な視点から経済社会を理解する。世界経済・ドイツ現代経済・経済史に関わる新書もしくは一定水準の雑誌記事を素材に、ドイツ語読解力を高めることを目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	テキストを輪読しながら、経済に関わるドイツ語文献を長期的な視点から読み解いていく。受講生の語学能力に合わせてスケジュールを調整する。受講生には、あらかじめ初歩的なドイツ語能力が要求されるが、受講生のレベルに応じて適切に対応する。
----------	--

準備学習	テキストを事前に十分に予習すること。
------	--------------------

履修上の留意点	毎週かならず出席すること。
---------	---------------

成績評価の方法	出席率、輪読時の発表、期末に提出する日本語訳文章から総合的に判定する。
---------	-------------------------------------

教科書/テキスト	初回時にテキストを指定する。前半は雑誌記事を取り上げ、後半は新書レベルの本を講読の対象とする予定である。
----------	--

参考書	初回時に参考にすべき辞書・文法書の類を紹介する。
-----	--------------------------

履修コード	100161 100162 100163 100164
科目名	経済外国書講読Ⅰb 外国書講読Ⅰb 経済外国書講読Ⅱb 外国書講読Ⅱb [中国語]
担当者名	小杉 修二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中国経済の担い手は主として中国人であり、主たる経済活動は中国大陸で行われている。そこで主として使われているのは中国語である。「また聞き」でない、生の声は中国語で行われている。この「また聞き」でない生の声を書物を通じてくみ取る訓練が「外国書講読」である。ここでは現在の中国の在り方を大枠で規程している中共第17回大会報告(2007年)を読む。
授業スケジュール	第1-5週:第1章 第6-10週:第2章 第11-15週:第3章 第16-20週:第4章 第21-25週:第5章 第26-30週:第6章
準備学習	予習ができない場合は単位が認定できません。
履修上の留意点	語学の初心者が一から始める科目ではない。中国語を学んでいることが前提になる。中国語を母語とするものは「厳密な日本語」への翻訳を志す者に限る。
成績評価の方法	出席とテストで行う。
教科書/テキスト	授業時に配布。
参考書	

履修コード	100021 100022 100023 100024
科目名	経済外国書講読Ⅰb 外国書講読Ⅰb 経済外国書講読Ⅱb 外国書講読Ⅱb [フランス語]
担当者名	清水 卓

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	EU諸国の経済と社会に関する新聞、雑誌記事を読むことができるよう、指導します。フランス語について初中級レベルの学生でないとは履修は困難でしょう。
授業スケジュール	履修者の関心や語学力をふまえて、講読するテキストを選択します。通例では、一回分の授業の予習には3時間程度の準備を要するでしょう。
準備学習	まずは、自分で辞書を引き、日本語にして授業に参加してください。
履修上の留意点	毎日の地道な積み重ね以外に語学習得の道はないでしょう。
成績評価の方法	成績評価の方法 授業での報告と議論のレベルで成績評価します。
教科書/テキスト	授業で指示します。
参考書	授業で指示します。
その他	特になし。

履修コード	099821 099822 099823 099824
科目名	経済外国書講読Ⅰb 外国書講読Ⅰb 経済外国書講読Ⅱb 外国書講読Ⅱb [英語]
担当者名	鈴木 伸枝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ノーベル経済学賞の受賞講演録を輪読します。経済学用語を習い、経済学の専門書や学術論文を英語で読む力を養うとともに、これまで経済学者たちがどのような問題に着目し研究してきたかを垣間見て刺激を受ける機会にもなるでしょう。
授業スケジュール	第1回:ガイダンス&教材選び。候補の講演録を5~10本紹介し、その中のどれから読んでいくかを決めます(多数決)。 第2-15回:1人あたり1段落程度を音読して訳してもらいます。
準備学習	毎回予習してきてください。
履修上の留意点	
成績評価の方法	予習・発表(音読・訳)の平常点により評価します。
教科書/テキスト	ノーベル経済学賞の受賞講演録から何点か選びます。
参考書	

履修コード	100181	100182	100183	100184
科目名	経済外国書講読Ⅰb 外国書講読Ⅰb 経済外国書講読Ⅱb 外国書講読Ⅱb〔朝鮮語〕			
担当者名	鄭 章淵			
授業概要/ 到達目標(ねらい)	<p>(授業概要) この授業は、韓国経済に関する文献・雑誌論文・新聞記事をテキストとして、その翻訳と内容について解説する。授業の進め方は、受講生諸君による輪読方式で進行することにする。ただし、受講生の習熟度や関心に合わせて授業内容および授業方式を変更することもある。</p> <p>(到達目標) この授業の目的は、受講生が韓国経済に関する朝鮮語(韓国語)文献を講読して韓国経済への理解を深めることである。また、受講生諸君の朝鮮語に対する理解度については、基本的な文法や辞書の引き方を習得して、テキストの内容があらかた理解できる水準にまで到達してもらう予定である。</p>			
授業スケジュール	<p>初回授業時に配布するテキストについて担当者を決めて輪読していく。毎回の授業では、該当箇所の翻訳と専門用語等に関して詳しく説明する。また、その時々トピックスについても随時紹介する予定である。</p> <p>受講生諸君にはあらかじめ朝鮮語に対する基礎的な理解力が求められるが、授業では、皆さんの習熟度に合わせてできるだけ平易な解説に努めるつもりである。朝鮮語に自信のない諸君も奮って参加してもらいたい。</p>			
準備学習	授業で紹介する参考文献のほか、日頃、新聞やWEBサイトに掲載される韓国経済に関する記事をよく読んでおくこと。			
履修上の留意点	授業での課題の遂行状況(担当箇所の翻訳)を基に成績を評価するので授業を休まないようにしてもらいたい。			
成績評価の方法	レポート回数や授業での積極性などを加味して総合的に評価する。			
教科書/テキスト	初回授業時にプリントを配布する。 テキストは、韓国経済の文献・雑誌・新聞記事を使用する。			
参考書	辞書や文法書など参考書については初回授業時に紹介する。			

履修コード	099841	099842	099843	099844
科目名	経済外国書講読Ⅰb 外国書講読Ⅰb 経済外国書講読Ⅱb 外国書講読Ⅱb〔英語〕			
担当者名	松本 典子			
授業概要/ 到達目標(ねらい)	<p>(授業概要) 非営利組織(non-profit organization)や社会的企業(social enterprise)に関する英語文献を素材に、非営利組織および社会的企業の経営学に関わるさまざまな知識・思想を学ぶ。</p> <p>(到達目標) 本講義の到達目標は、外国語の専門書に慣れ親しむこと、楽しみながら読解力を向上させることである。また、海外の非営利組織に関する歴史、法制度、最新情報を知ることによって、日本の非営利組織と比較・相対化する力を身につけることも到達目標である。</p>			
授業スケジュール	<p>教科書の中から1~2つの論文を取り上げ、毎回少なくとも1ページを読み進める。授業の冒頭では、その回で取り上げるページについて、事前に予習をし理解しているかの確認テストを行う。その後、解釈の難しい箇所、文脈上重要な箇所を、受講者全員で輪読していく。</p> <p>第1回 ガイダンス(講義の進め方、成績評価の確認、課題の設定等) 第2~14回 確認テスト、輪読 第15回 まとめ</p>			
準備学習	<p>(受講前) ・経済外国書講読Ⅰa(松本)あるいはⅡa(松本)の講義内容を復習しておくこと。 ・英文法に自信のない人は、最低限、英検2級・TOEIC500点レベルの文法を復習しておくこと。</p> <p>(受講中) ・毎回、授業終了後に、次回の予習範囲を指示するので、必ず予習をすること。 ・確認テストで行った内容の復習をすること。 ・授業内容に関連した新聞記事やHPを授業内で取り扱うことがあるので、関連したメディアに目を通しておくこと。</p>			
履修上の留意点	<p>・毎回実施する確認テストの結果が成績評価に大きく反映されるので、講義に出席するだけという学生の履修は進めない。 ・非営利組織論aとb、経済外国書講読Ⅰa(松本)あるいはⅡa(松本)をすでに履修していることを前提として講義をすすめる。</p>			
成績評価の方法	・成績は、確認テスト70%、レポート30%で、総合的に評価する。			
教科書/テキスト	・J. Steven Ott and Lisa A. Dicke eds. [2011] "The Nature of the Nonprofit Sector - Second Edition", Westview Press. ISBN 0813344911			
参考書				

履修コード	089201
科目名	経済学概説
担当者名	山縣 弘志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義では、専門科目を履修する上で最低限必要と思われる経済学の基礎知識について解説する。受講生のみなさんに経済学的思考と解析能力を身に付けてもらうことがこの講義の目的である。
---------------------	--

授業スケジュール	経済学とは何か (第1回)、経済体制について (第2回)、資本主義経済の歴史 (第3~5回)、経済学の潮流 (第6~7回)、国民経済について (第8回)、企業 (第9回)、市場と価格 (第10~12回)、金融と財政 (第13~15回)、国民所得 (第16~17回)、経済成長と景気循環 (第18~19回)、世界経済の枠組み (IMF-WTO体制) (第20~21回)、国際貿易・国際投資・国際金融 (第22~24回)、地域経済統合 (第25回)、日本経済の歩み (第26~28回)、その他の分野 (労働問題、社会福祉、環境問題) (第29~30回)
----------	--

準備学習	参考書の該当箇所や新聞・WEBサイトの経済欄をよく読むこと。
------	--------------------------------

履修上の留意点	講義内容をレポート課題とするので授業を欠席することなくノートをよくとってもらいたい。
---------	--

成績評価の方法	前・後期2回のレポートで判定する。成績は各レポート点数の平均点とする。
---------	-------------------------------------

教科書/テキスト	特に定めない。
----------	---------

参考書	①井原哲夫ほか著『経済学入門』第2版、日本評論社、ISBN 978-4-535-55553-2 ②伊藤元重著『はじめての経済学(上)・(下)』日経文庫、ISBN 978-4-532-11014-7 ISBN 978-4-532-11015-4 ③杉本昭七ほか編『現代世界経済をとらえる』東洋経済新報社、ISBN 4-492-44196-4
-----	---

履修コード	089511 089512
科目名	経済学基礎 経済学概説
担当者名	森田 成也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	はじめて経済学を学ぶ人のために、経済学の基礎理論の初歩的知識を体系的に教えます。商品・貨幣から始まって、国家・世界市場まで展開します。
---------------------	---

授業スケジュール	授業の前半は経済学の基礎理論のうち、資本主義の真の土台であり、その秘密である、資本の生産過程をやります。後半は、それ以降、世界市場までです。
----------	--

(前半)

1、経済学とは何か、2~3、商品とは何か-商品生産社会と価値法則、4、貨幣とは何か、5、貨幣の資本への転化、利潤の源泉としての剰余価値とその発生メカニズム、6、不変資本と可変資本、剰余価値率、7~9、剰余価値生産の3つの形態、10、生産様式と労働者統合、11~12、労賃、雇用、生産利潤、13~14、資本の蓄積メカニズムと相対的過剰人口、15、本源的蓄積と「略奪による蓄積」

(後半)

16~18、資本の流通過程、19、平均利潤率と生産価格、20、利潤率の傾向的低下の法則、21、商業資本、22、利子生み資本と銀行資本、23、株式会社と法人資本、24、土地資本と地代、25、独占資本と独占利潤、26、国家と経済、27、世界市場と帝国主義

準備学習	前回の授業のノートを読みなおしてください。
------	-----------------------

履修上の留意点	板書中心の授業になるので、必ずノートはとってください。出席はとくにとりません。
---------	---

成績評価の方法	夏休みのレポートと学期末試験の2つで成績評価します。とくに学期末試験が重要です。夏休みのレポートは成績全体の1~2割、試験が8~9割の割合になります。
---------	---

(1) 夏休みのレポート・・・夏休みのレポートとして、課題の本を1冊指定しますので、それを読んで、内容の要約と感想を書いてください。提出は夏休み後の授業。

(2) 学期末試験・・・1年間の授業すべてが範囲になります。穴埋め問題、筆記問題、計算問題が適度なバランスで出題されます。

教科書/テキスト	森田成也『価値と剰余価値の理論』(作品社)、2009年刊、2300円
----------	------------------------------------

参考書	デヴィッド・ハーヴェイ『資本論入門』(作品社)、2011年刊、2800円
-----	--------------------------------------

履修コード	090501
科目名	経済学史
担当者名	西沢 保

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 市場と政府、経済と倫理、成長と福祉の問題を中心に、アダム・スミスと重商主義以降の経済思想史・経済政策思想史を検討する。古典派経済学(スミス、リカード、マルサス)、ミルとロマン主義、歴史学派、ジェヴォンズ革命、オクスフォード、LSE、ケンブリッジの経済思想と福祉国家などを中心に検討する。
---------------------	---

到達目標	(到達目標) 重商主義、アダム・スミス以降のイギリスを中心とする代表的な経済学者(例えば、マルサス、リカード、J.S.ミル、マルクス、歴史学派、ジェヴォンズ、マーシャル、ピグー、ケインズ)の理論・思想・政策とその歴史的展開について、基礎的な知識を習得する。 そうした代表的な経済学者の人間観、社会観、市場観、福祉観などについて、理解を深めることによって、現代社会が当面する問題について示唆を得、歴史的な考え方を学ぶ。また、経済学・経済思想の古典を学ぶことの意味を考える。
------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学史・経済思想史を学ぶ意味 2. 経済学・経済思想における古典の重要性 3. イギリス古典派経済学における人間と経済、市場と国家 (1) 4. イギリス古典派経済学における人間と経済、市場と国家 (2) 5. 重商主義とアダム・スミス (自然的自由の体系) 6. スミスにおける経済(市場)と倫理(道徳) (1) 7. スミスにおける経済(市場)と倫理(道徳) (2) 8. 二つの経済学体系: スミスとスチュアート 9. マルサスの人口論と救貧法 (1) 10. マルサスの人口論と救貧法 (2) 11. リカードの利潤論と穀物法論争 12. リカードの比較生産費説と自由貿易論 13. 功利主義と古典派経済学 14. J.S.ミルにおける人間研究と経済学 (1) 15. J.S.ミルにおける人間研究と経済学 (2) 16. 歴史学派とマルクスの経済思想 (1) 17. 歴史学派とマルクスの経済思想 (2) 18. ジェヴォンズ革命と経済政策の転機 (1) 19. ジェヴォンズ革命と経済政策の転機 (2) 20. ラスキーンとオクスフォード理想主義の経済思想 (1) 21. ラスキーンとオクスフォード理想主義の経済思想 (2) 22. 貧困問題とマーシャル経済学の形成 (1) 23. 貧困問題とマーシャル経済学の形成 (2) 24. マーシャルにおける人間と経済 (1) 25. マーシャルにおける人間と経済 (2) 26. ピグーの厚生経済学と福祉国家 (1) 27. ピグーの厚生経済学と福祉国家 (2) 28. ケインズとイギリスの経済政策 (1) 29. ケインズとイギリスの経済政策 (2) 30. イギリス資本主義と自由主義の変遷
----------	---

準備学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 参考文献にあげた本の該当箇所を読むこと。 2. その他の関連文献で該当するものを読むこと。 3. より具体的には授業時に指示します。
------	---

履修上の留意点	とくにテキストは用いず、授業で参考文献、準備学習、復習等について指示しますので、授業に必ず出席してください。 参加型の授業にしたいので、積極的に臨んでいただきたい。
---------	---

成績評価の方法	定期試験の成績60%、小テスト20%、平常点20%とする。
---------	-------------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	フィリス・ディーン著、中矢俊博他訳『経済認識の歩み』(名古屋大学出版会、1995年) 中村達也・八木紀一郎・新村聡・井上義朗『経済学の歴史』(有斐閣、2001年) 西沢保・服部正治・栗田啓子編『経済政策思想史』(有斐閣、1999年) 西沢保『マーシャルと歴史学派の経済思想』(岩波書店、2007年) 西沢保・小峯敦編『創設期の厚生経済学と福祉国家』(ミネルヴァ書房、近刊)
-----	--

履修コード	090601
科目名	経済史
担当者名	浅田 進史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本講義はおもに近現代経済の歴史を、ヨーロッパ・アメリカ・アジアの事例を織り交ぜながら概観します。現在、アジアが世界経済を牽引する役割を担うようになっていますが、そのアジア経済も世界経済の枠組みのなかにあります。その世界経済が歴史的にいかにかに成立したかを理解することは重要でしょう。</p> <p>前期では、まず工業化以前のヨーロッパ・東アジア経済を概観し、その後、欧米諸国の工業化の事例について取り上げます。そして、アジア経済史での工業化論を紹介したうえで、第一次世界大戦以前の世界経済の構造を解説します。</p> <p>後期では、まず第一次世界大戦後の欧米における戦後処理と「相対的安定期」の経済構造について説明します。次に、世界恐慌の発生と欧米およびアジアにおける対応を見ていきます。そして、第二次世界大戦における戦時経済体制について触れたあとで、大戦後から現在までの世界経済の変遷を概観します。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期：1) 経済史の読みかた、2) ヨーロッパ中世経済史の視点、3) 経済史からみた東アジア近世論、4) ヨーロッパ重商主義の時代、5) プロト工業化論、6) イギリスの工業化、7~9) ヨーロッパ大陸の工業化、10) アメリカ大陸の工業化、11・12) 大不況と世界経済の再編、13) アジアの工業化とアジア間貿易、14) 第一次世界大戦以前の世界経済、15) まとめ</p> <p>後期：16) 導入——第一次大戦以後の世界経済、17) 戦債・賠償問題と金本位制の再建、18) 相対的安定期のアメリカ、19) 相対的安定期のヨーロッパ、20) 世界恐慌、21) 世界恐慌とアジア、22) ニューディール、23) ファシズムの経済政策、24) 第二次世界大戦、25) パクス・アメリカーナ、26) 高度成長の時代、27) スタグフレーション・低成長の時代、28) 東アジア経済の興隆、29) 経済史からみた現代世界、30) まとめ</p>
----------	---

準備学習	各回のトピックに関わる参考書の該当箇所を読んでおくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	平常点（出席・課題の提出など）、学期末試験により総合的に評価します。
教科書／テキスト	特に指定しません。毎回プリントを配布します。
参考書	石見徹『世界経済史——覇権国と経済体制』東洋経済、1999年 岡田泰男編『西洋経済史』八千代出版、1995年 岸本美緒『東アジアの「近世」』山川出版社、1998年 そのほか、講義中に随時、指示します。

履修コード	307301
科目名	経済史
担当者名	浅田 進史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本講義はおもに近現代経済の歴史を、ヨーロッパ・アメリカ・アジアの事例を織り交ぜながら概観します。現在、アジアが世界経済を牽引する役割を担うようになっていますが、そのアジア経済も世界経済の枠組みのなかにあります。その世界経済が歴史的にいかにかに成立したかを理解することは重要でしょう。</p> <p>前期では、まず工業化以前のヨーロッパ・東アジア経済を概観し、その後、欧米諸国の工業化の事例について取り上げます。そして、アジア経済史での工業化論を紹介したうえで、第一次世界大戦以前の世界経済の構造を解説します。</p> <p>後期では、まず第一次世界大戦後の欧米における戦後処理と「相対的安定期」の経済構造について説明します。次に、世界恐慌の発生と欧米およびアジアにおける対応を見ていきます。そして、第二次世界大戦における戦時経済体制について触れたあとで、大戦後から現在までの世界経済の変遷を概観します。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期：1) 経済史の読みかた、2) ヨーロッパ中世経済史の視点、3) 経済史からみた東アジア近世論、4) ヨーロッパ重商主義の時代、5) プロト工業化論、6) イギリスの工業化、7~9) ヨーロッパ大陸の工業化、10) アメリカ大陸の工業化、11・12) 大不況と世界経済の再編、13) アジアの工業化とアジア間貿易、14) 第一次世界大戦以前の世界経済、15) まとめ</p> <p>後期：16) 導入——第一次大戦以後の世界経済、17) 戦債・賠償問題と金本位制の再建、18) 相対的安定期のアメリカ、19) 相対的安定期のヨーロッパ、20) 世界恐慌、21) 世界恐慌とアジア、22) ニューディール、23) ファシズムの経済政策、24) 第二次世界大戦、25) パクス・アメリカーナ、26) 高度成長の時代、27) スタグフレーション・低成長の時代、28) 東アジア経済の興隆、29) 経済史からみた現代世界、30) まとめ</p>
----------	---

準備学習	各回のトピックに関わる参考書の該当箇所を読んでおくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	平常点（出席・課題の提出など）、学期末試験により総合的に評価します。
教科書／テキスト	特に指定しません。毎回プリントを配布します。
参考書	石見徹『世界経済史——覇権国と経済体制』東洋経済、1999年 岡田泰男編『西洋経済史』八千代出版、1995年 岸本美緒『東アジアの「近世」』山川出版社、1998年 そのほか、講義中に随時、指示します。

履修コード	092501
科目名	経済数学
担当者名	池田 宏

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経済学に必要な道具としての数学、およびその道具として使う数学を修得するために必要な数学的基礎の理解を目的とする。経済学で使う道具としての数学で基礎となるのは線形代数と微分積分である。本講義ではこの2分野のなかで経済学で使う事柄のうちの基本的な方法の修得を目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期：線形代数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・行列の定義と表記 2. 行列の演算 3. ベクトルの代数的定義と表記および演算 4. ベクトル空間と線形写像 5. ベクトルの幾何学的定義と幾何学的ベクトルの演算 6. 一次変換の定義と表現行列 7. 一次変換の固有値と固有ベクトル 8. 行列式の定義と計算 9. 行列式の性質 10. 行列式の計算演習・クラメールの公式 11. 連立一次方程式の行列表示と行の基本変形 12. 掃き出し方 13. 掃き出し方の演習 14. 線形計画法 15. テスト
----------	--

- 後期：微分積分
1. ガイダンス・区間と関数の定義
 2. 関数の極限と連続
 3. 微分係数と導関数
 4. 導関数の性質
 5. 接線の傾き・関数の増減と極値
 6. ロルの定理・平均値の定理
 7. 関数の増減と最大最小
 8. 三角関数の導関数
 9. 対数関数と指数関数の定義と性質
 10. 対数関数の導関数・合成関数の定義
 11. 合成関数の微分・指数関数の導関数
 12. 合成関数の微分の演習
 13. 高次導関数とマクローリンの定理
 14. 多変数関数と偏微分
 15. テスト

準備学習	高校普通科の2年までに学習する行列、ベクトル、微分の復習
履修上の留意点	高校2年までに学習した程度の微分の基礎知識が必要である。
成績評価の方法	前後期に各一回行うテストと、授業内で提出する課題と出席状況からなる平常点から総合評価します。評価の割合はテスト点(80%)と平常点(20%)です。
教科書/テキスト	教科書は指定しない。必要な時に適宜、教材プリントを配布する。
参考書	田代嘉宏著 『数学概論 線形代数/微分積分』 裳華房 本体2,400円 ISBN4-7853-1078-2 C3041

履修コード	090701
科目名	経済政策
担当者名	飯田 泰之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>現代経済に関する諸問題についてその政策的な対応のあり方を論じる。複雑な現状を理解し、対応策を探るためにも問題を整理し、論理的に把握することが必要である。経済問題に関してその導きの糸となるものが経済理論に他ならない。本講では基本的なミクロ経済学・マクロ経済学の知識を援用し「経済学的に妥当な政策」を論じることを中心的な課題とする。講義全体に必要な基本ツールの学習後、個々の経済問題について、</p> <p>(1) 理論的な枠組みを解説し (2) 基本理論を用いて政策的課題を論じ (3) 現実の事例・データで確認する</p> <p>というプロセスを繰り返すことで講義を進めていく。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>【前期】</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：経済学と経済政策の基礎理論1 経済学の思考法 第3回：経済学と経済政策の基礎理論2 ミクロ経済学の基礎 第4回：需要曲線と供給曲線 第5回：競争均衡の効率性 第6回：政府介入の非効率性 第7回：不完全競争市場の性質と競争政策 第8回：自然独占と公益企業 第9回：公益企業への望ましい規制方法 第10回：外部経済と外部不経済 第11回：公共財の公的供給とその課題 第12回：情報の経済学1 不完全情報 第13回：情報の経済学2 非対称情報 第14回：これからのミクロ経済政策 第15回：まとめと復習</p> <p>【後期】</p> <p>第1回：経済学と経済政策の基礎理論3 経済統計 第2回：経済学と経済政策の基礎理論4 マクロ経済学の基礎 第3回：セイ法則と有効需要の原理 第4回：短期安定化政策1 IS-LMモデルの導出 第5回：短期安定化政策2 総需要管理政策の効果 第6回：財政政策の問題点 第7回：貨幣市場と物価 第8回：価格硬直性を巡る問題 第9回：中期安定化政策1 フィリップス曲線 第10回：中期安定化政策2 期待とマクロ経済学 第11回：現代日本における安定化政策 第12回：再分配政策の根拠 第13回：再分配政策の手法と限界 第14回：これからの経済政策 第15回：まとめと復習</p>
----------	--

準備学習	<p>ミクロ経済学・マクロ経済学を未履修の場合は講義と閉講して、飯田泰之、『ミクロ経済学講義』、光文社、2012年4月刊行予定 飯田泰之、『マクロ経済学講義』、光文社、2012年6月刊行予定を参照しながら講義に参加する事</p>
------	---

履修上の留意点	<p>出席は問わないかわりに講義中の私語等には厳しく対応する。</p>
---------	-------------------------------------

成績評価の方法	<p>夏・冬2回のレポート提出と後期試験による。</p>
---------	------------------------------

教科書／テキスト	<p>岩田規久男・飯田泰之『ゼミナール経済政策入門』、日本経済新聞社、2006年</p>
----------	--

参考書	<p>適宜指示する</p>
-----	---------------

履修コード	093701
科目名	経済地理
担当者名	矢延 洋泰

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	授業概要：経済的諸活動の空間構造を地理学的に捉えてみたい。なかでも世界でも成長著しい東アジア地域を中心に考察します。なかで欧米から出てきた「アジア成長の基層文化」を分析。さらに地域協力機構としてのASEAN結成の経緯等、できるだけ根源的な問いかけをしていきたい。到達目標：1東・東南アジアの地域特性を明らかにする。2経済発展の系譜を考える。3日本および世界とのグローバルな関係を考察。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) 地理学の中における経済地理学とは。(2) 経済を中心にみた世界史の潮流。(3) 経済社会の変化を探る-1。(4) 同-2。(5) 東南アジアの基礎知識。(6) OECD レポートの衝撃とその分析-1。(7) 同-2。(8) アジアNIES誕生の意味。(9) 成長の基層文化。(10) 戦後日本の経済発展と周辺アジアとの関係-1。(11) 同-2。(12) 東南アジアにみる地域協力機構ASEANの成立過程-1。(13) 同-2。(14) シンガポールの経済開発-1。(15) シンガポール経済成長の限界。(16) 成長の三角地帯構想の背景。(17) 成長の三角地帯。(18) ハブの考え方誕生。(19) 冷戦崩壊後の世界と日本。(20) 冷戦とバブル崩壊後の日本の対応-1。(21) 同-2。(22) 幻のEAEC構。(23) EAEC構想から生まれたAFTA。(24) 太平洋を跨ぐAPEC構想。(25) APEC実現の運び。(26) 日米中が描くASEANを核にした地域協力-1。(27) 同-2。(28) 「ハブ」と「スポークス」の実現。(29) 大航空時代の周辺アジアと日本の動向。(30) 全体総括。
----------	---

準備学習	常日頃から経済動向、政治動向、東南アジア情勢に関心を注いでください。また、事前より事後学習をしっかりとやるようにしてください。
------	---

履修上の留意点	学ぶことに意欲を持ち、アジアに興味と関心のある学生を期待します。当然のことながら履修した以上、欠席をしないよう心がけてください。文献紹介は適宜するつもりですが、それは必ず読むようにしてください。
---------	---

成績評価の方法	学期末の筆記試験 (80%) と、前期末に提出を求める課題、アトランダムに取る出席 (20%) で評価します。
---------	---

教科書/テキスト	教科書は使いませんが、適宜プリントを配布します。配布は基本的に2週としますので、忘れずに取得するようにしてください。
----------	--

参考書	矢延洋泰『インサイト東南アジア』勁草書房 3255円 ISBN4-326-65182-2
-----	--

その他	質問は授業の後に受け付けます。積極的にしてください。特別の事由で授業内容を変更する場合があります。
-----	---

履修コード	325201
科目名	経済法
担当者名	東出 浩一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経済法を中心に独占禁止法について、基本的な事項を理解することを目標とします。条文の解説にとどまらず、できるだけ具体的な事件の審判決や相談事例を紹介し、実際の事例でどのような事項が論点となったか等を説明することにより、実務的な理解が進むように講義を進める予定です。
---------------------	---

授業スケジュール	おおむね、次の事項について説明する予定です。
----------	------------------------

1 独占禁止法の概要	2 行為主体	3~6 私的独占・不当な取引制限	7~
12 不公正な取引方法等	13~16 企業結合規制	17~22 事件処理手続・排除措置・課徴金	23~24 争訟手続
25~26 適用除外	27 民事訴訟	28 刑事罰・犯則調査手続	29~30 ケーススタディ

準備学習	教科書「経済法」(第6版)の該当部分を一読しておいてください。
------	---------------------------------

履修上の留意点	レジュメを用いて講義を進めますが、講義の際にレジュメを配布することはありません。レジュメは、YeStudy にUPしておきますので、あらかじめ各自用意してきてください。
---------	--

成績評価の方法	期末試験によって成績評価をします。
---------	-------------------

教科書/テキスト	「経済法」(第6版・岸井大太郎・向田直範ほか)・有斐閣アルマ
----------	--------------------------------

参考書	「逐条解説 平成21年改正独占禁止法」(藤井宣明・稲熊克己)・商事法務
-----	-------------------------------------

その他	YeStudy のコース登録キーは、32520 です。
-----	-----------------------------

関連リンク	http://www.jftc.go.jp/
-------	---

履修コード	098701
科目名	経済法
担当者名	若林 亜理砂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>経済法を中心をなす独占禁止法を理解することを目標とする。独占禁止法は、市場における競争秩序の維持をになうものであるが、これは事業者の活動にかかわるのみならず、私たち消費者の生活にも密着している。この点を念頭に置き、講義では、なるべく多くの事例を紹介することにより、独占禁止法の解釈や運用について具体的なイメージをもって理解ができるように進める予定である。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>以下のスケジュールで講義を行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義全体の説明、独占禁止法の基礎概念 2 経済法の成立 3 独占禁止法の目的・基礎概念 4 不当な取引制限 (1) 5 不当な取引制限 (2) 6 不当な取引制限 (3) 7 不当な取引制限 (4) 8 事業者団体 9 私的独占 (1) 10 私的独占 (2) 11 私的独占 (3) 12 一般集中規制 (1) 13 一般集中規制 (2) 14 市場集中規制 (1) 15 市場集中規制 (2) 16 不公正な取引方法概論 17 不当な取引拒絶 (1) 18 不当な取引拒絶 (2) 19 不当な差別対価 20 不当な差別的取扱 21 不当廉売 22 ぎまんの顧客誘引 23 不当な利益による顧客誘引 24 抱き合わせ 25 排他条件付き取引 26 再販売価格維持 27 拘束条件付き取引 28 優越的地位の濫用・不当な取引妨害 29 公正取引委員会 30 私的エンフォースメント・刑事罰
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	初回の説明を必ず聞いてから履修するようにしてください。
成績評価の方法	期末試験により評価を行う。
教科書/テキスト	泉水文雄他 リーガルクエスト『経済法』(有斐閣 2010)
参考書	別冊ジュリスト (No. 199) 『経済法判例・審決百選』(有斐閣)

履修コード	306701
科目名	経済理論ⅠA・資本の原理
担当者名	有井 行夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>経済のエネルギーとは、水力や火力、電力、原子力など自然力一般ではなく、人間自身のエネルギー、すなわち労働力です。地中における諸資源の地質学的生成、原生林や大気の生成など、人間エネルギーの関与しない自然的生成は経済関係を構成しません。経済システムとは、人間自身のエネルギーを組織しバランスよく発揮させている仕組みなのです。そして今日の経済システムは、かぎりない利潤追求を活動動機とする企業の商品生産にもとづいて実現されています。さて、企業のかぎりない利潤追求を意味づけているのは、利潤の再投資運動、すなわちお金を産むお金の運動です。この運動のことを資本といいます。資本こそは、現代の経済システムの編成原理です。経済理論Aは、資本の存在と意味について、経済活動の原点から掘り下げます。なお、経済理論Bは、資本の意義の理解を前提して資本による社会的諸制度の意味づけをとらえる経済理論Aの発展コースです。また、ミクロ経済学、マクロ経済学は、おなじく現代経済システムの構造を原理的に考察しますが、経済理論A、Bとはアプローチの方法がちがいます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>【前期】(第1週-第4週) 第1章=経済学の対象と方法。(第5週-第13週) 第2章=商品と貨幣。 【後期】(第13週-第22週) 第3章=資本と剰余価値。(第23週-第26週) 第4章=資本の蓄積。(第27週) 第5章=結論。</p>
----------	---

準備学習	<p>なによりも私のおこなう講義の内容を理解することが重要です。そのために教科書・参考書を使います。授業のまえに、先週の授業の流れを思い出して教科書と対照してることが望ましいと言えます。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>骨格の内容の理解に時間を集中します。</p>
---------	---------------------------

成績評価の方法	<p>授業中にアンダーラインを指示した箇所から出題した実力試験で7割、秋のレポートで3割の評価をします。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>大谷禎之介『図解社会経済学』(桜井書店) 3,000円 有井行夫『マルクスはいかに考えたか』(桜井書店) 2,700円</p>
----------	--

参考書	<p>授業中に適宜紹介する。</p>
-----	--------------------

履修コード	306801
科目名	経済理論ⅠB・経済システムの原理
担当者名	大石 雄爾

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>今日の経済システムは、限りない利潤追求を活動動機とする企業による商品の生産、すなわち資本の運動に基づいて実現されています。経済理論Aでは、資本のシステムの基礎的条件を明らかにしました。現実の資本のシステムは、それを構成するさまざまな部分が関連しあって動いています。経済理論Bでは、より複雑な、現実の資本主義の構造について理解を進めていきます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>1 経済理論Bを始めるにあたって 2~3 経済学の基本的性格 4~5 商品と貨幣 6~7 剰余価値の生産 8~10 資本の蓄積過程 11~13 資本の流通過程 14~16 利潤と利潤率 17~18 商業資本と利子生み資本 19~20 土地所有と地代 21~22 資本主義と諸階級 23~24 資本主義の歴史的傾向 25~27 独占資本主義 28~30 現代資本主義の特徴</p>
----------	--

準備学習	<p>新聞には日常的に目を通し、経済や社会問題について考える習慣をつけること。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>この科目は「経済理論A」の発展科目ですが、その未修者にも配慮して講義を進めますので、「経済理論A」の未修者に不利になることはありません。 この科目はノートを取りながら学ぶことで全体の理解が可能となる、体系的な性格を持っています。履修者には、1年を通して欠かさず出席することが求められます。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>授業時間中に小レポートを書き、提出を求めることがあります。成績評価は、後期末に実施される定期試験の点数を基礎に小レポートの点数を勘案して行います。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>常磐政治他著『経済原論』(有斐閣ブックス) 2,500円+税</p>
----------	---------------------------------------

参考書	<p>大石雄爾著『商品の価値と価格』(創風社) 3,600円</p>
-----	------------------------------------

履修コード	307001
科目名	経済理論II・マクロ経済学
担当者名	浅野 克巳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代経済学は「マクロ理論」と「ミクロ理論」からなる。「マクロ」とは大きいという意味を持ち、「ミクロ」は小さいという意味を持つ。このコースでは経済全体の動きを分析する「マクロ理論」の基礎を勉強する。具体的に言うと、景気の良し悪しは何によって決まるか？物価の変動はどのような要因によるものか。デフレ経済の要因は何か？さらに政府の経済活動についてどのように考えるべきか。また輸出・輸入、経常収支といった外国との経済関係をどのように捉えたらよいか。マクロ理論はこれらの疑問に答えるきわめて日常的で身近な分野であるといえる。新聞その他のメディアで日常的に使われる経済用語や基本的な考え方をしっかりマスターすることがこの授業の第1の目標だ。さらに、公務員試験その他の国家試験で必須の経済学の受験対策としても通用するようなレベルを目指したい。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>年間のスケジュールは以下のとおりであるが、理解しにくいトピックスには十分時間をかけ説明するが、テキストなどで「読めばわかる」箇所は簡単に済ませ時間の節約を心がけたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済活動とマクロ経済学の考え方 2. 経済循環と国民所得 3. GDPとは何か、それはどのようにして決まるのか 4~5. 消費・貯蓄そして投資 6~7. 独立支出の変化とGDPの関係 8~9. 有効需要と乗数メカニズム 10. 政府の経済的役割 11. 輸出と輸入 (グローバル経済と国際貿易) 12. 貨幣の機能と信用創造 13. 貨幣需要と利率 14. 財政政策の基本構造 15. 財政・金融政策とマクロ経済 16. 財市場とIS曲線の導出 17. 貨幣市場とLM曲線の導出 18. IS-LMモデルと財政金融政策 19. クラウディング・アウト、流動性のワナ 20~21. マンデル=フレミング・モデル 22. インフレとデフレについて 23. 総需要と総供給 24. 労働市場の働き 25. 貨幣とマクロ経済 26~27. 金融政策と金融システム 28. 為替市場と金融政策 29~30. 経済成長と景気循環
----------	--

準備学習	現実のマクロ経済の動向を常に念頭に置きながら授業を進めますので、新聞、雑誌等の経済に関する記事を注意深く読み、問題の所在、関連する数字、例えばGDP、失業率、物価上昇率等はノートにメモをとる習慣をつけてもらいたい。
------	---

履修上の留意点	<p>現代経済学を勉強する上で不可欠なことは、実際の経済問題に強い関心を持つことだ。これらはさまざまなメディアをとおしてあふれるほど提供されている。とくに『日本経済新聞』やその他の新聞には毎日必ず目をおすこと。授業でも関連する記事やデータは参考にするので、できるだけスクラップブック等に整理しておくこと。これは授業だけでなく、将来の就職活動に際しても役立つおすすぬ。</p> <p>また、経済学を理解するために数学の知識が必要だといわれるが、入門的コースで使う数学は高校の基礎解析あるいは代数程度で十分。必要に応じて授業の中でも説明するが、要は「習うより慣れる！」のつもりで反復練習に限る。</p> <p>ついでに、初心者でも使いやすいコンピュータを使ってシミュレーションしてみることも、面白く経済学を学ぶ方法だろう。ともあれ授業には必ず出席し、予習復習を実行すれば100点取るのも夢じゃない。</p>
---------	---

成績評価の方法	定期試験 (年度末) と授業内試験 (5~7回実施予定)、およびレポート (1~2回) の成績を総合評価する。
---------	---

教科書/テキスト	テキストおよび参考書については最初の授業で詳しく説明します。
----------	--------------------------------

参考書	<p>参考書：伊藤元重『入門経済学第3版』日本評論社 N.G. マンキュー『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社 N.G. マンキュー『マンキュー経済学IIマクロ編』東洋経済新報社</p> <p>問題集：公務員試験の過去問などの国家試験の受験対策にも十分通用するようできる限り問題練習をすることも理解を確実にする近道だ。自分で復習をかねて解いてみることをとくにお勧めする。</p>
-----	--

その他	授業中わからないこと、その他問題点などあったら、オフィスアワーを設けていますので利用してください。
-----	---

履修コード	306901
科目名	経済理論II・ミクロ経済学
担当者名	松井 柳平
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	理論的な経済分析の基礎となるミクロ経済学の理論を、ゲーム理論をベースとして解説する。消費者や企業などの個別経済主体が自発的かつ合理的に行動しているとき、どのような社会・経済状態が実現するか考察する。その際、その帰結の理解よりもむしろ、その帰結に至る論理展開、つまり分析方法の理解に重点を置く。
授業スケジュール	(1～2) ガイダンス 講義の概要等説明 (2～4) あるパン屋の話 (5～7) ナッシュ均衡 (8～10) バックワード・インダクション (11～15) 交渉ゲーム (16～19) オークション (20～22) 消費者理論 (23～25) 金融とリスク管理 (26～30) 契約と誘因
準備学習	事前に、中学時代の数学の計算問題等について、理解と計算能力を完全にしておくこと。講義プリントを、YeStudyから事前にプリントアウトして必ず予習してきた上で、講義に臨むこと。
履修上の留意点	この講義の履修においては、小学校・中学校・高校での算数・数学について、その基本的な部分の理解がきちんとできていることが前提となる。こうした算数、初等的な数学について自信のない受講生は、算数や中学時代の数学の教科書を事前に十分よく復習した上で授業に臨んでもらう必要がある。 具体的には、 ◎小学校の算数における「数と計算」（個数を数える・比べる、加法・減法・乗法・除法、小数・分数の計算、約数・倍数、約分・通分）、「数量関係」（表やグラフ、交換法則、結合法則や分配法則、比、比例） ◎中学校の数学における「数と式」（正の数と負の数・その四則計算、一元一次方程式、文字を用いた式の四則計算、連立二元一次方程式、式の展開や因数分解、等）、「数量関係」（比例・反比例の関係、変数・変域、一次関数、等） ◎高校の「数学I」における「方程式と不等式」、「二次関数」 以上について理解ができていない人は、この講義を理解するのに困難を感じる場合が多々あるだろう。こうした基礎学力について自信がない受講生は、必ず、算数や中学時代の数学の勉強を自学自習すること。 また、受講生の予習と復習を前提とし、授業中に学生に答えを尋ねる場合が多々ある。したがって、受講生はYeStudyに登録し、講義プリントを、YeStudyから事前にプリントアウトして必ず予習してきた上で、講義に臨むこと。 公務員試験、経済学検定試験、その他各種資格試験を将来、受験しようという学生は、この科目やマクロ経済学を履修した後、さらに、応用ミクロ経済学、応用マクロ経済学、公共経済学、経済政策などの科目を履修することが望まれる。
成績評価の方法	成績評価は基本的に、定期試験（年度末）に基づくが、授業中に自ら手を上げて練習問題を自発的に発表して内容がよかった人には成績評価に加味する。 また、夏期休暇中にレポート課題を課す場合がある（レポート課題の有無は7月の授業中にアナウンスする）。
教科書／テキスト	梶井・松井『ミクロ経済学-戦略的アプローチ』（日本評論社）ISBN4-535-55202-9
参考書	岩田 規久男『経済学を学ぶ』（筑摩書房）（ちくま新書）ISBN4-480-05602-5 武藤 滋夫『ゲーム理論入門（日経文庫：経済学入門シリーズ）』（日本経済新聞社）ISBN：4532108292 渡辺 隆裕『図解雑学 ゲーム理論』（ナツメ社）ISBN：4816337458 渡辺 隆裕『ゼミナール ゲーム理論入門』（日本経済新聞出版社）ISBN：4532133467
その他	受講生の予習を前提とし、授業中の学生による発表によって授業を進めていく。

履修コード	089801 089802
科目名	経済理論 A・資本の原理 経済理論 I A・資本の原理
担当者名	阿部 弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「経済理論」という科目は経済学の基本的内容をなすものである。この講義は主としてマルクスの『資本論』を軸にして講義・演習をおこなう。一般に知られているように、『資本論』はその副題を「経済学批判」として、階級社会における「体制的な経済学」に対する批判を展開している。この講義では「資本主義の経済」が抱えている問題は何か、その基本的な枠組みについて、『資本論』が19世紀半ば(1867年)に批判をしたその内容を検証する。と同時に、現在「アメリカ発の世界的金融危機」に端を発した「慢性的不況」そして「失業」が日常不断の現象になっているなかで、この問題を直視するに当たってマルクスへの回帰が言われるようになってきていることの本質を明らかにすることを通じて、「経済学」は今何を課題として提起すべきかを把握する。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>経済学はその誕生から「富」とは何かの問題提起をしてきた。現在もそうである。最初に人間と労働との関係を考察し、この労働と富との関係を考察する。そして人間から乖離していく富、この富に支配されている人間を分析する。次にはこの人間を支配する富が資本関係の中で形成されてくる過程の分析を、資本の運動とその体系を分析することによって明らかにする。最後にこの資本的富の生産・運動が人間を階級に編成しそのなかでの階級間における種々の闘争について概観する。</p> <p>講義は前期15回、後期15回の合計で30回である。</p> <p>I 「富」とは何か(前期15回)</p> <p>1: 「富」とは何か(01-03回)</p> <p>(1) 「富」は人間にとって外部に存在する No. 01</p> <p>(2) 「富」の人間からの乖離 02</p> <p>(3) 「富」に支配された人間 03</p> <p>2: 「経済学の方法」(04-09回)</p> <p>(1) 「国富」 04</p> <p>(2) 私的所有 05</p> <p>(3) 価値 06</p> <p>* R1(第1回レポート)に向けた「総括」 07</p> <p>* R1に向けての課題とその特徴点の整理 08</p> <p># 自宅学習</p> <p>* R1でのレポートの特徴と問題点およびレポート返却 09</p> <p>3: 人間社会と交換価値(10-15回)</p> <p>(1) 商品 10</p> <p>(2) 貨幣 11</p> <p>(3) 商品カテゴリーと人間社会 12</p> <p>* R2 に向けた「総括」 13</p> <p>* R2に向けての課題とその特徴点の整理 14</p> <p># 自宅学習</p> <p>* R2でのレポートの特徴と問題点およびレポート返却 15</p> <p>II 資本(11/III)で後期15回)</p> <p>1: 資本の生産(01-03回)</p> <p>(1) 資本と商品 16</p> <p>(2) 資本の本質 17</p> <p>(3) 階級の生産 18</p> <p>2: 資本の運動法則(04-09回)</p> <p>(1) 資本の運動範式 19</p> <p>(2) 資本の生産と再生産 20</p> <p>(3) 階級社会の拡大再生産 21</p> <p>* R3 に向けた「総括」 22</p> <p>R3に向けての課題とその特徴点の整理 23</p> <p># 自宅学習</p> <p>R3でのレポートの特徴と問題点およびレポート返却 24</p> <p>3: 資本の蓄積と階級の生産(10-12回)</p> <p>(1) 資本の蓄積 25</p> <p>(2) 資本関係と人間労働 26</p> <p>(3) 資本蓄積の本質 27</p> <p>III 資本主義生産様式と人間社会一まとめ(13回) 28</p> <p>* R4 に向けた「総括」(14回) 29</p> <p>* R4に向けての課題とその特徴点の整理(15回) 30</p> <p># 「自宅学習」による講義回数の欠如については極力「補講」をする形で補うが、それでも足りない場合には、「教務部」の手を煩わすことなしに(日曜日など)講師が教場を確保してこれを行うことにする。</p>
----------	--

準備学習	<p>1 大学の「授業」は、受講生の皆さんが自ら考え・研究していく、ということをもットーとしている。そこでこの「講義」は、皆さん一人一人が全員毎回授業に 出席ノートをとって考えるというのが基本なのでもし止むを得なくて「欠席」するようなことがあれば、そのときにはどのような内容の講義がなされたのかなどを調べて自分の考えを身につけていることが必要である。</p> <p>2 この講義では、講師の著作であるテキストを2冊用いる。他人の思想というのは受講生にとっては、それを吸収するにしても、自分自身の思想ではあり得ない。ましてや、テキストという形で提供されているものは、すでに過去に形成されたものであるため、受講生は、このテキストを批判的に考察し、現社会的なものと比較していかなければならない。</p>
------	--

履修上の留意点	この科目は経済学科の「必修」科目である。皆さん全員にこの科目を履修してもらうために「レポート」を4回おこなうので、出席が重要になる。不定期であるが、「出席」の確認を簡単なレポートで行う。
---------	---

成績評価の方法	1 レポートによる評価 (1) 年間4回のレポート(R1など)作成を通じて「成績評価」を行う。 (2) レポートは、R1: 5月/ R2: 6月末~7月初旬/ R3: 10月~11月/ R4: 12月~1月 * R1のテーマは講義開始日(4月)に発表する。なおこのテーマを4月中に知ろうとしないものは失格とする。またレポート返却日から次のレポートの1週間前の授業までにレポートを取りにこない場合は失格とする。 2 その他: 「定期試験」は行わない。
教科書/テキスト	教科書: 阿部弘: 『労働と所有』、八千代出版、1983。 阿部弘: 『経世済民論と経済学』(新版)、創成社、2011。
参考書	参考書: マルクス: 『資本論』、大月書店、国民文庫 1~9分冊
その他	講師との連絡: 講師との連絡が必要になると思われるので、次に記しておく: 阿部弘: 研究室: 第2研究棟 5F No.2538室 TEL:03-3418-9360 メール・アドレス:xupabe@nifty.com

履修コード	089701 089702
科目名	経済理論A・資本の原理 経済理論I A・資本の原理
担当者名	有井 行夫

授業概要/ 到達目標(ねらい)	経済のエネルギーとは、水力や火力、電力、原子力など自然力一般ではなく、人間自身のエネルギー、すなわち労働力です。地中における諸資源の地質学的生成、原生林や大気の生成など、人間エネルギーの関与しない自然的生成は経済関係を構成しません。経済システムとは、人間自身のエネルギーを組織しバランスよく発揮させている仕組みなのです。そして今日の経済システムは、かぎりない利潤追求を活動動機とする企業の商品生産にもとづいて実現されています。さて、企業のかぎりない利潤追求を意味づけているのは、利潤の再投資運動、すなわちお金を産むお金の運動です。この運動のことを資本といいます。資本こそは、現代の経済システムの編成原理です。経済理論Aは、資本の存在と意味について、経済活動の原点から掘り下げます。なお、経済理論Bは、資本の意義の理解を前提して資本による社会的諸制度の意味づけをとらえる経済理論Aの発展コースです。また、ミクロ経済学、マクロ経済学は、おなじく現代経済システムの構造を原理的に考察しますが、経済理論A、Bとはアプローチの方法がちがいます。
--------------------	---

授業スケジュール	【前期】(第1週-第4週)第1章=経済学の対象と方法。(第5週-第13週)第2章=商品と貨幣。 【後期】(第13週-第22週)第3章=資本と剰余価値。(第23週-第26週)第4章=資本の蓄積。 (第27週)第5章=結論。
----------	--

準備学習	なによりも私のおこなう講義の内容を理解することが重要です。そのために教科書・参考書を使います。授業のまえに、先週の授業の流れを思い出して教科書と対照していただくことが望ましいと言えます。
------	---

履修上の留意点	骨格的内容の理解に時間を集中します。
成績評価の方法	授業中にアンダーラインを指示した箇所から出題した実力試験で7割、秋のレポートで3割の評価をします。

教科書/テキスト	大谷積之介『図解社会経済学』(桜井書店)3,000円 有井行夫『マルクスはいかに考えたか』(桜井書店)2,700円
参考書	授業中に適宜紹介する。

履修コード	090001 090002
科目名	経済理論B・経済システムの原理 経済理論I B・経済システムの原理
担当者名	大石 雄爾

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	今日の経済システムは、限らない利潤追求を活動動機とする企業による商品の生産、すなわち資本の運動に基づいて実現されています。経済理論Aでは、資本のシステムの基礎的条件を明らかにしました。現実の資本のシステムは、それを構成するさまざまな部分が関連しあって動いています。経済理論Bでは、より複雑な、現実の資本主義の構造について理解を進めていきます。
---------------------	---

授業スケジュール	1 経済理論Bを始めるにあたって 2~3 経済学の基本的性格 4~5 商品と貨幣 6~7 剰余価値の生産 8~10 資本の蓄積過程 11~13 資本の流過程 14~16 利潤と利潤率 17~18 商業資本と利子生み資本 19~20 土地所有と地代 21~22 資本主義と階級 23~24 資本主義の歴史的傾向 25~27 独占資本主義 28~30 現代資本主義の特徴
----------	---

準備学習	新聞には日常的に目を通し、経済や社会問題について考える習慣をつけること。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	この科目は「経済理論A」の発展科目ですが、その未修者にも配慮して講義を進めますので、「経済理論A」の未修者に不利になることはありません。 この科目はノートを取りながら学ぶことで全体の理解が可能となる、体系的な性格を持っています。履修者には、1年を通して欠かさず出席することが求められます。
---------	---

成績評価の方法	授業時間中に小レポートを書き、提出を求めることがあります。成績評価は、後期末に実施される定期試験の点数を基礎に小レポートの点数を勘案して行います。
---------	---

教科書/テキスト	常盤政治他著『経済原論』（有斐閣ブックス）2,500円+税
----------	-------------------------------

参考書	大石雄爾著『商品の価値と価格』（創風社）3,600円
-----	----------------------------

履修コード	095311
科目名	契約理論
担当者名	村松 幹二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	生産や消費といった経済活動を相互に結び付けている取引関係には、大きく分けると、交換と契約の2つがある。交換（市場取引）は通常、匿名の相手との一時点で終わる関係であるのに対し、契約関係は事前の調査・交渉や契約内容の実行に時間がかかり、多くの場合、長期にわたって続く関係である。経済主体は相互に様々な契約関係を結ぶことで、企業をはじめ様々な組織・システムを構築している。 本講義では、ミクロ経済学、なかでもゲーム理論や情報の経済学の手法を用いて、雇用契約や金融契約などの契約関係から見た経済主体の相互の関連と経済システムについて論じる。受講する学生には、この授業を通じて、システムとしての経済・企業組織、その中における経済主体の相互関連を考えることで経済社会全体についての視点を身につけてもらいたい。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回：イントロダクション：交換と契約 第2回：情報の経済学：期待効用とリスク 第3回：エージェンシー関係と情報の非対称性 第4回：雇用契約(1)成果と賃金 第5回：雇用契約(2)インセンティブとリスク 第6回：雇用契約(3)複数の仕事、複数人による仕事 第7回：長期雇用関係(1)長期雇用の下での賃金体系 第8回：長期雇用関係(2)昇進と技能形成 第9回：長期雇用関係(3)採用、転職、解雇 第10回：直接金融と間接金融 第11回：金融契約と情報の非対称性(1)逆選択 第12回：金融契約と情報の非対称性(2)モラル・ハザード 第13回：コーポレート・ガバナンス(1)株主-経営者関係 第14回：コーポレート・ガバナンス(2)経営者の規律付け 第15回：まとめ：契約と組織 定期試験
----------	---

準備学習	講義ではミクロ経済学と情報の経済学の基礎的知識を前提とする。
------	--------------------------------

履修上の留意点	「ミクロ経済学」、「企業経済学」、「ゲーム理論」、「情報の経済学」、「制度の経済学」のいずれかをすでに履修した学生を対象とする。
---------	--

成績評価の方法	成績評価は、主に定期試験による。ただし必要に応じて課題を出し、成績評価に加算する場合もある。
---------	--

教科書/テキスト	テーマが多岐にわたるため特定のテキストは指定せず、配布するレジュメをもとに講義を行う。
----------	---

参考書	テーマに応じて講義内で参考文献を示す。
-----	---------------------

履修コード	092801
科目名	計量経済学
担当者名	松田 慎一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義では、はじめて計量経済学を学ぶ学生を対象にして講義を行う。計量経済学とは、経済学で使われるモデルを、現実のデータを用いて統計的に評価を行ったり、経済予測をする学問です。エクセルなどの計算ソフトを使い例題を解くことで、各自が実際のデータを用いて経済分析ができることを目標とします。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>1回 ガイダンス 2回～5回 統計学の基礎 (平均、分散、標準偏差、相関係数、正規分布など) 6、7回 単純回帰モデル 8回 決定係数 9、10回 仮説検定 (t検定) 11、12回 重回帰モデル 13、14回 モデルの選択 15回 まとめ</p> <p>16回 ガイダンス 17回～19回 構造変化とダミー変数 20、21回 多重共線性 22回～24回 不均一分散とその対処法 25回～27回 系列相関とその対処法 28、29回 質的変量モデル 30回 まとめ</p>
----------	--

準備学習	初回の授業において、講義予定および教科書などの詳細を説明します。受講者は必ず出席すること。
------	---

履修上の留意点	計量経済学では、段階的かつ継続的な学習が必要です。主にパソコンを使い演習をするため、各自授業後の復習が必須となります。また数式を使った説明を行うこともあるが、可能な限りわかりやすく授業内で説明する。
---------	---

成績評価の方法	課題、定期試験に基づいて評価する。評価方法は、課題を50%、定期試験を50%とする予定です。
---------	--

教科書/テキスト	白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの計量経済学(第2版)』日本評論社
----------	-----------------------------------

参考書	授業内において、適宜指示する。
-----	-----------------

履修コード	097271
科目名	ゲーム理論 a
担当者名	舘 健太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	複数の意思決定主体が関わる状況を分析するためのツールであるゲーム理論について、できるだけ多くの応用例を交えながら基本的な考え方を解説する。講義で解説される例に対する理解を深める中で、ゲーム理論が幅広い分野で利用されていることを実感してほしい。ゲーム理論aでは基礎的な概念について学習する。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>1. イントロダクション 2. 標準型ゲームの解法 (1) : 支配戦略 3. 標準型ゲームの解法 (2) : 戦略の予想 4. 標準型ゲームの解法 (3) : ナッシュ均衡 5. ネットワーク外部性 6. 状況に応じた均衡戦略の変化 7. 展開型ゲームの解法 : 部分ゲーム完全均衡 8. コミットメント 9. タイミングと優位性 10. リスクと期待値 11. 期待効用 12. 混合戦略のナッシュ均衡 13. オークション (1) 14. オークション (2) 15. 総復習</p> <p>※講義の進度などにより内容を変更することがある。</p>
----------	--

準備学習	授業後に配布プリントを十分に復習して欲しい。
------	------------------------

履修上の留意点	ゲーム理論bと合わせて履修することが望ましい。
---------	-------------------------

成績評価の方法	定期試験(100点)。ただし、授業中に加点方式で課題を出すことがある。
---------	-------------------------------------

教科書/テキスト	配布資料と板書をもとに講義を行う。
----------	-------------------

参考書	天谷研一『図解で学ぶゲーム理論入門』, 日本能率協会マネジメントセンター, 1575円, ISBN978-4820747185
-----	---

履修コード	097281
科目名	ゲーム理論 b
担当者名	鈴木 伸枝
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	複数の意思決定主体が関わる状況を分析するためのツールであるゲーム理論について、できるだけ多くの応用例を交えながら基本的な考え方を解説する。講義で解説される例に対する理解を深める中で、ゲーム理論が幅広い分野で利用されていることを実感してほしい。ゲーム理論bではゲーム理論aの内容を踏まえて、連続ゲーム・繰り返しゲーム・情報の非対称性を扱う。
授業スケジュール	ゲーム理論a復習(第1回) 連続ゲーム・準備編：企業の利潤最大化行動(第2回) 連続ゲーム：複占(第3-5回) ここまでの復習(第6回) 繰り返しゲーム・準備編：割引現在価値(第7回) 繰り返しゲーム：繰り返しによる協力(第8-10回) 情報の非対称性(第11-13回) 進化ゲーム(第14回) 復習(第15回) ※講義の進度に応じて内容を変更することがある。
準備学習	予習は不要です。ゲーム理論aおよび前回分までの復習をしっかりとしてください。
履修上の留意点	ゲーム理論aを履修していることを前提として講義を行う。履修していない場合にはナッシュ均衡、混合戦略、部分ゲーム完全均衡、期待効用などについて学習しておくこと。
成績評価の方法	授業中の小テスト・ゲームによって評価する。得点に十分な差がつかなかった場合には定期試験を実施する。
教科書/テキスト	なし。プリント・板書を中心に授業を行う。
参考書	ジョン・マクミラン 『経営戦略のゲーム理論』 有斐閣 3600円 4-641-06754-6 岡田章 『ゲーム理論・入門—人間社会の理解のために』 有斐閣アルマ

履修コード	097201
科目名	原価計算論
担当者名	鈴木 勝浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 原価計算は、企業の経営管理者が企業活動を計画し、統制するために不可欠なツールであると考えられる。これは、原価計算が単に製品原価に関する資料を提供するのみならず、企業の経営管理をも対象にしていることを意味する。そこでこの授業では、伝統的な原価計算の手法を取り上げた後、新しい原価計算の流れについて考えていく。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、原価計算の基礎的な理論を学習した後、具体的な計算事例を参考にしながら理解を深めていく。またこれまで会计学関連科目を学んだことのない受講生にも理解できるように、原価計算の発展経緯をその時代の経済社会的背景に触れながら講義をすすめていく。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原価計算の概要 2. 原価計算の歴史 3. 原価概念 4. 原価計算の目的 5. 材料費の計算 6. 労務費の計算 7. 経費の計算 8. 製造間接費の配賦 9. 製品別計算 10. 個別原価計算 11. 部門別計算 (直接配賦法) 12. 部門別計算 (相互配賦法・階梯式配賦法) 13. 単一工程単純総合原価計算 (平均法) 14. 単一工程単純総合原価計算 (先入先出法) 15. 前期のまとめ 16. 工程別総合原価計算 17. 組別総合原価計算 18. 等級別原価計算 19. 仕損・減損 20. 副産物・連産品 21. 標準原価計算の概要 22. 標準原価計算の記帳 23. 標準原価計算 (差異分析①) 24. 標準原価計算 (差異分析②) 25. 原価の固定分解 26. CVP分析と損益分岐点分析 27. 直接原価計算 28. 意思決定 29. 設備投資の経済性計算① 30. 設備投資の経済性計算②
----------	---

準備学習	毎回の授業で計算演習を行うので電卓を持参すること。 各計算は関連性が強いので前回のテーマを必ず復習すること。
------	---

履修上の留意点

成績評価の方法	定期試験の成績60%、レポート20%、平常点20%とする。
---------	-------------------------------

教科書/テキスト	清水孝・長谷川恵一・奥村雅史著『入門原価計算』中央経済社、2,800円、ISBN4-502-22030-2
----------	---

参考書	使用しない。適宜プリントと資料を配布する。
-----	-----------------------

履修コード	099331
科目名	現代企業論 a
担当者名	松田 健

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、企業に関する基礎的な知識、概念ならびに理論等を広く体系的に習得します。企業の基本的構造、主として制度上の観点からの基本的課題事項の整理を通じて、現代企業の特質とその役割を理解することを目的としています。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：企業論の射程 第2回 現代企業と経済学 (1) 持続可能な社会と企業：現代企業論の基礎 第3回 現代企業と経済学 (2) 企業と市場 第4回 現代企業と経済学 (3) 取引コスト論 第5回 現代企業と経済学 (4) 所有権理論 第6回 企業活動と法体系 第7回 企業形態 (1) 企業形態の分類とその意図 第8回 企業形態 (2) 個人企業・合名・合資・株式会社・LLC/LLP 第9回 企業形態 (3) 会社制度の歴史的発展とその意義 第10回 株式会社の設立・再編・清算 第11回 株式会社の組織と運営 第12回 株式会社の情報開示制度：財務と資金調達 第13回 株式会社の特質 (1) 株式会社制度と所有者支配論 第14回 株式会社の特質 (2) 株式会社制度と専門経営者 第15回 まとめ
----------	--

準備学習	企業経営とそれを取り巻く「経営環境」としての経済社会との相互関連への理解を深めるためには「新聞を毎日読むこと」がとてもよい刺激になります。新聞、雑誌の政治・経済・経営欄に目を通し、現代の経済・経営にとって何が問題となっているのかという点にアンテナを張るように心がけて下さい。
------	---

履修上の留意点	講義の予習復習を心がけてください。用語がわからないと講義を聞いても理解不足に陥ります。自分で使い易い経営学辞典あるいは経営学用語集を入手しておいて下さい。また、聴講する皆さんは大学生ですから細かいことは言いませんが、少なくとも講義を聴きたいと思って参加している同僚学生にとって邪魔になる行為は慎んでください。
---------	--

成績評価の方法	授業への出席は、単位認定のための最低要件です。定期試験 (80%) を行い、この評価に、授業中の小レポートによる評価 (20%) を加味して総合的に評価し、60点以上の者に単位を認めます。
---------	--

教科書/テキスト	開講時に指示します。
----------	------------

参考書	経営学辞典あるいは経営学用語集 (⇒これでなければならぬという指定はありませんが、自分で使い易いものを選んで使用して下さい)。
-----	---

その他	なし
-----	----

履修コード	314391
科目名	現代企業論 a
担当者名	松田 健

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、企業に関する基礎的な知識、概念ならびに理論等を広く体系的に習得します。企業の基本的構造、主として制度上の観点からの基本的課題事項の整理を通じて、現代企業の特質とその役割を理解することを目的としています。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：企業論の射程 第2回 現代企業と経済学 (1) 持続可能な社会と企業：現代企業論の基礎 第3回 現代企業と経済学 (2) 企業と市場 第4回 現代企業と経済学 (3) 取引コスト論 第5回 現代企業と経済学 (4) 所有権理論 第6回 企業活動と法体系 第7回 企業形態 (1) 企業形態の分類とその意図 第8回 企業形態 (2) 個人企業・合名・合資・株式会社・LLC/LLP 第9回 企業形態 (3) 会社制度の歴史的発展とその意義 第10回 株式会社の設立・再編・清算 第11回 株式会社の組織と運営 第12回 株式会社の情報開示制度：財務と資金調達 第13回 株式会社の特質 (1) 株式会社制度と所有者支配論 第14回 株式会社の特質 (2) 株式会社制度と専門経営者 第15回 まとめ
----------	--

準備学習	企業経営とそれを取り巻く「経営環境」としての経済社会との相互関連への理解を深めるためには「新聞を毎日読むこと」がとてよもよい刺激になります。新聞、雑誌の政治・経済・経営欄に目を通し、現代の経済・経営にとって何が問題となっているのかという点にアンテナを張るように心がけて下さい。
------	--

履修上の留意点	講義の予習復習を心がけてください。用語がわからないと講義を聞いても理解不足に陥ります。自分で使い易い経営学辞典あるいは経営学用語集を入手しておいて下さい。また、聴講する皆さんは大学生ですから細かいことは言いませんが、少なくとも講義を聴きたいと思って参加している同僚学生にとって邪魔になる行為は慎んでください。
---------	--

成績評価の方法	授業への出席は、単位認定のための最低要件です。定期試験 (80%) を行い、この評価に、授業中の小レポートによる評価 (20%) を加味して総合的に評価し、60点以上の者に単位を認めます。
---------	--

教科書/テキスト	開講時に指示します。
----------	------------

参考書	経営学辞典あるいは経営学用語集 (⇒これでなければならないという指定はありませんが、自分で使い易いものを選んで使用して下さい)。
-----	--

その他	なし
-----	----

履修コード	099341
科目名	現代企業論b
担当者名	松田 健
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では「現代企業論a」の履修を踏まえ、「企業とは何か」という視点から、企業の果たす役割、企業統治ならびに企業の社会的責任など、現代の企業経営にとって重要なTOPICSを中心に学習します。
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：現代株式会社と機関化現象（1）株主の機関化・法人化を巡る問題</p> <p>第2回 現代株式会社と機関化現象（2）機関的大株主と企業支配様式</p> <p>第3回 企業集中形態（1）企業集団</p> <p>第4回 企業集中形態（2）連結経営と企業グループ</p> <p>第5回 企業の目的と経営者の役割（1）経営理念と企業の目的</p> <p>第6回 企業の目的と経営者の役割（2）企業価値と株主の富の最大化</p> <p>第7回 企業統治（1）企業統治とは何か：利害関係者と会社権力の正当性</p> <p>第8回 企業統治（2）株主と企業（経営者）：プリンシパル=エージェント問題</p> <p>第9回 企業統治（3）株式所有構造と企業間関係</p> <p>第10回 企業統治（4）アングロ・サクソン型企業統治</p> <p>第11回 企業統治（5）日本型企業統治</p> <p>第12回 企業の社会的責任と株式会社</p> <p>第13回 社会的責任投資と資金調達</p> <p>第14回 企業倫理</p> <p>第15回 まとめ</p>
準備学習	<p>この本講義では、ケースを取り上げながら「現代企業論a」で学習した理論を踏まえて進められます。したがってこの講義は、「現代企業論a」を受講していることが望ましい科目です。</p> <p>また、「新聞を毎日読むこと」や、「経済ニュース」を見聞きすることは不可欠です。日々の新聞、雑誌の政治・経済・経営欄に目を通し、現代の経済・経営にとって何が問題となっているのかという点にアンテナを張るように心がけて下さい。</p>
履修上の留意点	<p>講義の予習復習を心がけてください。用語がわからないと講義を聞いても理解不足に陥ります。自分で使い易い経営学辞典あるいは経営学用語集を入手しておいて下さい。また、聴講する皆さんは大学生ですから細かいことは言いませんが、少なくとも講義を聴きたいと思って参加している同僚学生にとって邪魔になる行為は慎んでください。</p>
成績評価の方法	<p>授業への出席は、単位認定のための最低要件です。定期試験（80%）を行い、この評価に、授業中の小レポートによる評価（20%）を加味して総合的に評価し、60点以上の者に単位を認めます。</p>
教科書／テキスト	適宜指示します。
参考書	<p>経営学辞典あるいは経営学用語集（⇒これでなければならないという指定はありませんが、自分で使い易いものを選んで使用して下さい）。</p>
その他	なし

履修コード	314411
科目名	現代企業論b
担当者名	松田 健

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では「現代企業論a」の履修を踏まえ、「企業とは何か」という視点から、企業の果たす役割、企業統治ならびに企業の社会的責任など、現代の企業経営にとって重要なTOPICSを中心に学習します。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：現代株式会社と機関化現象（1）株主の機関化・法人化を巡る問題</p> <p>第2回 現代株式会社と機関化現象（2）機関的大株主と企業支配様式</p> <p>第3回 企業集中形態（1）企業集団</p> <p>第4回 企業集中形態（2）連結経営と企業グループ</p> <p>第5回 企業の目的と経営者の役割（1）経営理念と企業の目的</p> <p>第6回 企業の目的と経営者の役割（2）企業価値と株主の富の最大化</p> <p>第7回 企業統治（1）企業統治とは何か：利害関係者と会社権力の正当性</p> <p>第8回 企業統治（2）株主と企業（経営者）：プリンシパル＝エージェント問題</p> <p>第9回 企業統治（3）株式所有構造と企業間関係</p> <p>第10回 企業統治（4）アングロ・サクソン型企業統治</p> <p>第11回 企業統治（5）日本型企業統治</p> <p>第12回 企業の社会的責任と株式会社</p> <p>第13回 社会的責任投資と資金調達</p> <p>第14回 企業倫理</p> <p>第15回 まとめ</p>
----------	--

準備学習	<p>この本講義では、ケースを取り上げながら「現代企業論a」で学習した理論を踏まえて進められます。したがってこの講義は、「現代企業論a」を受講していることが望ましい科目です。</p> <p>また、「新聞を毎日読むこと」や、「経済ニュース」を見聞きすることは不可欠です。日々の新聞、雑誌の政治・経済・経営欄に目を通し、現代の経済・経営にとって何が問題となっているのかという点にアンテナを張るように心がけて下さい。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>講義の予習復習を心がけてください。用語がわからないと講義を聞いても理解不足に陥ります。自分で使い易い経営学辞典あるいは経営学用語集を入手しておいて下さい。また、聴講する皆さんは大学生ですから細かいことは言いませんが、少なくとも講義を聴きたいと思って参加している同僚学生にとって邪魔になる行為は慎んでください。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>授業への出席は、単位認定のための最低要件です。定期試験（80%）を行い、この評価に、授業中の小レポートによる評価（20%）を加味して総合的に評価し、60点以上の者に単位を認めます。</p>
---------	---

教科書／テキスト	適宜指示します。
----------	----------

参考書	<p>経営学辞典あるいは経営学用語集 ⇒これでなければならぬという指定はありませんが、用語がわからないと聴講しても理解不足に陥りますので、自分で使い易いものを選んで使用して下さい。 その他の指定図書については、適時指示します。</p>
-----	---

その他	なし
-----	----

履修コード	097901
科目名	現代銀行事情
担当者名	近廣 昌志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本講義のねらいは、現代の経済現象を銀行事情の制度面および理論面から理解することと、逆に経済問題から現代の銀行事情を認識することにあります。</p> <p>今日、超低金利時代にあっても、不況は銀行システムの機能不全が原因と考える論者もいますが、銀行には銀行の抱える問題や論理があり、より大局的に考えることが重要です。確かに、北海道拓殖銀行の破綻は、銀行が経済社会に与える影響がいかに大きいかを必要以上に実証することになりました。だからこそ、他の銀行には巨額の公的資金を入れて銀行を救済したのですが、未だに完済出来ていない銀行もあります。</p> <p>戦後、重要な役割を担ってきた長期信用銀行が姿を消したのも、大枠においては傾斜生産方式の終焉と無関係ではありません。また、バブル経済と中央銀行・市中銀行との関わりや、90年代の終わりにかけて行われた日本版金融ビッグバンおよびアジア金融危機、今世紀に入り目立つようになった中小企業金融の貸し渋りや貸し剥がし問題、そして世界不況を招いたサブプライム・ローン問題、そして2012年に改定されるBIS規制など、金融の中心である銀行システムあるいは個別銀行が抱える問題点や事情は、銀行に対する知識とともに、経済動向との関連において捉えてみましょう。</p> <p>私たちにあっては資産である預金は、銀行にとってみれば負債であり、また銀行からの借入金も私たちにあっては負債ですが、銀行にとってみれば貸出という資産です。経済の動きは、銀行のバランスシートの状態あるいは問題とリンクが深く、経済問題を考える上で、貨幣を創造し、金融の核をなす銀行あるいは銀行セクターが抱える事情や銀行行動を理解する必要があると言えます。</p> <p>本講義では、日本の高度成長時代から今日までの経済と照らし合わせながら、現代の銀行が抱える現実問題に対して検討し考察し、現代の銀行ビジネスモデルについて勉強してみましょう。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>[第1講] ガイダンスおよびイントロダクション：問題の捉え方</p> <p>[第2講] 高度経済成長を支え後押しした銀行①：銀行制度と銀行間の垣根問題</p> <p>[第3講] 高度経済成長を支え後押しした銀行②：銀行中心の金融システムと公的金融</p> <p>[第4講] 高度経済成長を支え後押しした銀行③：国債保有増大と金融行政および規制</p> <p>[第5講] バブル経済の銀行事情①：プラザ合意の意義と影響</p> <p>[第6講] バブル経済の銀行事情②：銀行融資の実態</p> <p>[第7講] 預貸率の低下と手形割引の激減に関する検討</p> <p>[第8講] 銀行理論から考える不良債権問題</p> <p>[第9講] 日本版金融ビッグバンの意図</p> <p>[第10講] 新しい銀行ビジネスモデルとナローバンク論</p> <p>[第11講] 銀行中心の金融再編・コングロマリット化</p> <p>[第12講] BIS規制の影響：バーゼルI・II・IIIの銀行経営に与える影響</p> <p>[第13講] サブプライム・ローン問題と銀行信用収縮</p> <p>[第14講] グローバル化と銀行の将来像</p> <p>[第15講] 講義のまとめ</p>
----------	---

準備学習	<p>次のキーワードについて事前に文献を読むなどして知識を得ておきましょう。</p> <p>「預貸率」／「長期信用銀行」／「国債引受シンジケート団」／「不良債権処理」／「ナローバンク」／「BIS規制」</p> <p>以上です。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>本講義と併せて、前期科目の「銀行システム論」を履修されることを推奨します。美しくノートを作り、配布する資料や板書の内容をよく整理してください。疑問点や質問があれば後回しにせず、その日のうちに講師に声をかけてください。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>定期試験 (70%) およびレポート (30%) により評価します。なお、評価のランクについては、基本的に定期試験およびレポートの合計点により算出しますが、記述内容が論理性に優れている場合および受講時の取組みに優れている場合には、合計点から算出されるランクよりも高いランクで評価する場合があります。</p>
---------	--

教科書／テキスト	<p>開講時に指示しますが、参考図書の中から指定する場合があります。</p>
----------	--

参考書	<p>齊藤 正著『戦後日本の中小企業金融』ミネルヴァ書房、2003年。 建部正義著『金融危機下の日銀の金融政策』中央大学出版部、2010年。 内藤純一著『戦略的金融システムの創造』中央公論新社、2004年。 山口義行編著『バブル・リレー』岩波書店、2009年。</p>
-----	---

履修コード	100601
科目名	現代経済事情I〔職業・仕事について考える〕
担当者名	石川 祐二 百田 義治 友松 憲彦 小栗 崇資 鄭 章淵 代田 純 溝手 芳計 吉田 敬一 岩波 文孝 松田 健 館 健太郎 番場 博之 北口 りえ 松本 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仕事をすることは、どういうことなのか。その意義を皆さんが考えるきっかけを作ると同時に、将来、実際に職に就いた際に活躍するための礎を築くことがこの講義の目標です。この目標にむけて、各回、経済学部専任教員が各自の専門分野と関わる仕事・職業について語ります。毎回異なる教員が話をしますので、さまざまな仕事・職業について幅広く学び、考えることができます。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 教員1：仕事に取り組むモチベーション 第2回 教員2：インターンシップ体験について 第3回 教員3：働く場としての株式会社 第4回 教員4：国際的な経済活動の中で働くこと 第5回 教員5：企業の社会貢献と仕事 第6回 教員6：経済の発展と働くことの意味 第7回 教員7：非営利組織の発展と働き方の多様化 第8回 教員8：農業という職業について 第9回 教員9：雇用のミスマッチはなぜ生まれるのか 第10回 教員10：消費者行動とビジネス 第11回 教員11：税理士の社会的役割 第12回 教員12：銀行業と証券業 第13回 教員13：働くことの重要性—金融危機からの脱却のために— 第14回 教員14：経済社会と公認会計士 第15回 まとめ
----------	--

準備学習	将来的に自分が働くことを見据え、特に興味のある仕事・職業について考えておいてください。そのことが、各回のテーマに取り組むうえでの土台になります。
履修上の留意点	毎回、各テーマにかかわるレポートが課されます。積極的・意欲的に取り組むようにしてください。
成績評価の方法	毎回、各教員が講義内容にかかわる課題レポートを出します。そのレポートの点数を集計し、成績評価を行います。
教科書／テキスト	特に指定しません。
参考書	適宜紹介します。
その他	「就業力基礎」と連携した科目ですので、就業力基礎を学んでいる皆さんは是非とも受講してください。また、それ以外の方も、就職に先立って受講されることをお勧めします。

履修コード	100701
科目名	現代経済事情II [現代社会におけるメンタルケアの実際]
担当者名	竹原 清子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 社会の変化によって職場や家庭をとりまく環境が大きく変わった結果、現代人のストレスがますます多様化している。そうしたストレスに対してのメンタルヘルスカケアが職場、学校、地域などの他職種の間で行われている。この授業ではメンタルヘルスの実際について学ぶ。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、現代社会に起因するストレスが社会レベルから家庭にいたるまでさまざまな問題を引き起こし、最悪な場合、精神疾患や自殺にまで追い込まれることを理解する。事例検討を通じて、実際に行われているメンタルヘルスカケアの方法と課題について考える。さらに、セルフケアの具体的方法を学ぶことによって、履修学生が精神的な困難に直面しても自ら適切に分析し、対処することができるようにする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンタルヘルスカケアとその必要性について 2. 現代社会が引き起こす心理的ストレスを学ぶ 3. 職場、学校、専門機関で行われているメンタルヘルス対策とは 4. ストレスが引き起こすさまざまな心理状態や病状について 5. 事例検討：ギャンブル依存症 6. 事例検討：アルコール依存症 7. 事例検討：薬物依存症 8. 事例検討：DV (ドメスティックバイオレンス) 9. 事例検討：パニック障害、PTSD、現代型うつ病 10. 事例検討：大学生が陥りやすい心理的ストレスと病気 11. 事例検討：震災と原発事故、重大犯罪をもたらしたストレスと精神疾患 12. 各事例検討から学ぶ職場のメンタルヘルス対策 13. 各事例検討から学ぶ家庭のメンタルヘルス対策 14. セルフケアの方法を学ぶ 15. まとめ：社会人としてストレスを乗り越えて生きていくための指針
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	ノートをこまめにとること。
成績評価の方法	レポート (期末出題) 80%、平常点20%とする。
教科書/テキスト	必要に応じ、プリントを配布します。
参考書	必要に応じ、講義に合わせて紹介します。

履修コード	101101
科目名	現代産業事情II
担当者名	百田 義治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>今年度は本科目「現代産業事情II」は学生アンケートに基づいて「東日本大震災と日本の社会・経済」をテーマに、外部講師のリレー授業として開講されます。</p> <p>予定している外部講師は、企業経営者、ジャーナリスト、被災地復興に携わる研究者や協同組合などの組織の関係者です。</p> <p>講師の方々にそれぞれの立場から、今回の震災の現状、教訓、とりわけ今後の日本社会と日本経済の復興に求められていることについて語っていただきます。</p> <p>学生諸君には、今回の震災の現状を学ぶとともに、地震や津波の現実と常に対峙しながら生き、生活しなければならない日本社会の今後に求められていることを共に学びとって欲しいと期待しています。とくに、経済学部の学生として、さまざまな授業に学んでいる経済学の知識を日本経済の再建という現実的課題に実践的に応用するという視点・問題意識をもって参加することを期待しています。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>以下のように予定していますが、講師の都合によって変更される場合があります。以下の講師の講演テーマはすべて仮題です。</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 講師① 研究者：被災地の現状と産業復興の課題</p> <p>第3回 講師② ジャーナリスト：東日本大震災とUD社会</p> <p>第4回 まとめ (レポート提出)</p> <p>第5回 講師③ 経営者：東日本大震災に想うこと</p> <p>第6回 講師④ 福祉事業、市民活動家：今回の震災が地域振興に提起すること</p> <p>第7回 まとめ (レポート提出)</p> <p>第8回 講師⑤ 経営者：東日本大震災と中小企業再建の課題</p> <p>第9回 講師⑥ 経営者：東日本大震災と企業振興のあり方</p> <p>第10回 まとめ (レポート提出)</p> <p>第11回 講師⑦ 協同組合関係者：被災地における協同組合の取り組み</p> <p>第12回 講師⑧ 協同組合関係者：被災地再建と協同組合の役割</p> <p>第13回 まとめ (レポート提出)</p> <p>第14回 講師⑨ ジャーナリスト：対談 東日本大震災から日本の社会・経済が学ぶこと</p> <p>第15回 まとめ (レポート講評)</p>
----------	---

準備学習	<p>毎回、次回の講師のテーマ(講演内容)をお知らせします。講演テーマについて、学生それぞれが自分の立場と問題意識に基づいて講師と質疑ができるように準備をして参加することが求められます。講師に関係する文献(講師の著書など)や関連するサイトを事前に紹介しますので、十分な知識を獲得して授業に参加する必要があります。そのことによって講演の内容に関する理解が大いに促進されますし、また参加するモチベーションが高められます。</p>
------	--

履修上の留意点	
成績評価の方法	定期試験(レポート試験)とまとめの小レポートで総合的に評価します。
教科書/テキスト	随時、資料を配布します。
参考書	必要に応じて紹介します。
その他	外部講師を中心にした授業です。遅刻や私語は厳禁です。受講態度に問題がある場合には、退室を求めます。

履修コード	101201 101202 101203
科目名	現代産業事情III 現代企業論 特殊講義II
担当者名	百田 義治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本科目は東京税理士会の寄附講座として開講されます。東京税理士会所属の14人の現役の税理士の方々（そのほとんどは駒澤大学または駒澤大学大学院の卒業生）が、それぞれの実務経験を踏まえながら、税理士の役割や社会的使命、さまざまな税法の内容や意義、また税理士の実際の姿などについて、わかりやすく講義します。受講生が、本授業を通して、財政や租税に関する実的な知識を獲得し、できれば税理士や公認会計士などの職業会計人を目指す機会となることを期待しています。
---------------------	--

授業スケジュール	以下のテーマでの授業を予定しています。 第1回 わが国の租税制度と税理士制度 第2回 グローバル経営と法人税制（組織再編税制） 第3回 法人と個人の税金のしくみ 第4回 相続人と遺産分割 第5回 相続税と相続財産の評価 贈与税の概要 第6回 所得税の概要 第7回 法人税の概要 第8回 租税教育と税理士の社会貢献 第9回 リスク・マネジメントと税務会計 第10回 税理士と地方自治体監査制度 第11回 税務調査と税理士 第12回 サラリーマンと税金のはなし—住宅取得から売却まで— 第13回 消費税のしくみについて 第14回 税制改正の概要 第15回 まとめ
----------	--

準備学習	この授業では、14人の東京税理士会の現役の税理士さんが、それぞれの専門分野について日頃の実務経験に基づいて講義を行います。すべての講義のテーマが決定されていますので、毎回それぞれのテーマについて、今、何が問題なのかを事前に学習して参加することが求められます。新聞やネットを駆使して、準備学習して授業に参加すればするほど、学習成果は大きくなります。また、準備学習して質疑のコーナーで質問をすれば、授業も楽しくなります。
------	--

履修上の留意点	租税制度や税務、税理士など職業会計人に関心がある人の受講を期待します。
成績評価の方法	定期試験（レポート試験）と14回の毎回の授業に関する小レポートで総合的に評価する。
教科書／テキスト	毎回資料を配布する。
参考書	特になし。
その他	この科目は、履修制限（150名～200名）をします。最初の授業で履修制限の説明をします。本授業はすべて外部講師（税理士）の方々によって進められます。授業における私語および携帯電話の使用は禁止します。また講師講演中の遅刻入場や途中退席も原則として禁止します。

履修コード	100611
科目名	現代産業論 a
担当者名	北嶋 守

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、日々変化する日本の産業の動向について、特に戦後からバブル経済崩壊までの高度経済成長期とその後のインターネットの登場、経済のグローバル化、環境問題及び人口減少社会の到来等々に伴う日本の産業の変化に焦点を当て、具体的な事例を紹介することによって、学生諸君の現代産業を見る眼を豊かにすることを目的に開講するものである。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回は、講義全体の進め方を説明した上で、日本の産業の分類及び歴史的概観について講義する。第2回から第3回は、戦後日本の産業の黎明期について講義する。第4回から第5回は、戦後日本の産業の革新期・成長期について講義する。第6回から第7回は、バブル経済崩壊に至る経緯及びバブル経済崩壊後の日本の産業構造の変化について講義する。第8回から第9回は、失われた20年、リーマンショック、東日本大震災、超円高が日本の産業に与えた影響について講義する。第10回から第11回は、アジア地域を中心とした日本企業のグローバル展開に伴う日本の産業の変化について講義する。第12回から第13回は環境・エネルギー問題・高齢化社会の進行が日本の産業に与える影響について講義する。第14回から第15回は、地域産業イノベーションの視点から今後の日本の産業政策の方向性について講義する。
----------	--

準備学習	産業を理解する上で、日経新聞、日刊工業新聞などは非常に重要な情報源であることから、日々、新聞情報に触れておくこと。
履修上の留意点	定期的にレポート課題を用意するので、常に産業情報、特に新聞情報について目を通しておくこと。欠席は大きなマイナスになるのでその点も十分留意すること。
成績評価の方法	中間レポート課題の提出状況、期末試験（レポートまたは執筆試験）及び出席状況に基づいて評価する。
教科書／テキスト	小川正博・西岡正・北嶋守編『日本企業のものづくり革新』（同友館）、『ネットワークの再編とイノベーション』（同友館）を参考テキストとする。また、必要に応じてプリント類を配布する。
参考書	経済産業省等編『ものづくり白書』、中小企業庁編『中小企業白書』、（財）機械振興協会経済研究所編『日本の機械産業2012』他。
その他	意欲的な学生の出席を期待する。

履修コード	100621
科目名	現代産業論 b
担当者名	北嶋 守

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、日々変化する日本の産業の動向について、リーディング産業及び地域産業等に焦点を当てながら、個々の産業セクター別に具体的な事例を紹介することによって、学生諸君の現代産業を見る眼を豊かにすることを目的に開講するものである。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回は、講義全体の進め方を説明した上で、日本の産業を牽引する産業（リーディング産業）の概要及びこれまでのリーディング産業の変遷過程について講義する。第2回から第3回は、日本の自動車産業の動向とその競争力について講義する。第4回から第5回は、電気電子産業（家電・半導体・液晶・太陽光パネル等）の動向について講義する。第6回から第7回は、精密機械産業について講義する。第8回から第9回は、医療福祉機器及び環境機器産業の動向について講義する。第10回から第11回は、サービス産業及びコンテンツ産業の動向について講義する。第12回から第13回は、地域産業（観光及び地場産業）の動向について講義する。第14回から第15回は、航空機産業、医療福祉機器産業、再生可能エネルギー産業など今後成長が期待される新産業分野とそれに関連する産業政策及び世界規模で見た場合の日本の産業の競争力向上における課題について講義する。
----------	---

準備学習	日経新聞、日刊工業新聞など新聞情報について日々目を通しておくこと。
------	-----------------------------------

履修上の留意点	定期的にレポート課題を用意するので、常に産業情報、特に新聞情報について目を通しておくこと。欠席は大きなマイナスになるのでその点も十分留意すること。
---------	---

成績評価の方法	中間レポート課題の提出状況、期末試験（レポートまたは執筆試験）及び出席状況に基づいて評価する。
---------	---

教科書/テキスト	小川正博・西岡正・北嶋守編『日本企業のものづくり革新』（同友館）、『ネットワークの再編とイノベーション』（同友館）を参考テキストとする。また、必要に応じてプリント類を配布する。
----------	--

参考書	経済産業省等編『ものづくり白書』、中小企業庁編『中小企業白書』、（財）機械振興協会経済研究所編『日本の機械産業2011』他。
-----	--

その他	意欲的な学生の出席を期待する。
-----	-----------------

履修コード	093101
科目名	現代資本主義論
担当者名	森田 成也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	私たちが生きている資本主義社会がまさに現代資本主義であり、そこではグローバル化、貧困と格差の拡大、地球温暖化と環境破壊、原発事故、戦争、繰り返される金融バブルと金融恐慌、等々の深刻な現実が起きています。この講義では、まず現代資本主義以前に存在していた古典的資本主義の特徴を明らかにし、次に、19世紀後半から20世紀に成立した現代資本主義の成立史を明らかにします。それにもとづいて、第2次世界大戦後に世界的に確立された現代資本主義の特徴を説明します。次に、20世紀末にそれが新自由主義へと大きく変貌していく状況を解明します。最後に、この日本における現代資本主義の特殊性について講義します。
---------------------	---

授業スケジュール	<前半> 1、講義を始めるにあたっての簡単な説明、2~3、古典的資本主義Ⅰ~Ⅱ、4~9、古典的資本主義から現代資本主義への過渡期Ⅰ~Ⅵ、10~14、現代資本主義の諸特徴Ⅰ~Ⅶ <後半> 15~18、現代資本主義の前期から後期への過渡Ⅰ~Ⅳ、19~21、新自由主義的現代資本主義Ⅰ~Ⅲ、22~28、日本資本主義の歩みとその特殊性Ⅰ~Ⅶ
----------	---

準備学習	前回の授業のノートを読み直してください。
------	----------------------

履修上の留意点	板書中心の授業になるので、必ずノートをとること。とくに出席はとりません。
---------	--------------------------------------

成績評価の方法	夏休みのレポートと学期末試験の2つで成績評価します。とくに学期末試験が重要です。学期末試験と夏休みのレポートとは、8:2ないし9:1程度の割合で成績に反映させます。 (1) 夏休みのレポート……夏休みのレポートとして、課題の本を1冊指定しますので、それを読んで、内容の要約と感想を書いてください。提出は夏休み後の授業。 (2) 学期末試験……1年間の授業すべてが範囲になります。穴埋め問題と筆記問題の両方が適度なバランスで出題されます。
---------	--

教科書/テキスト	『新自由主義批判の再構築』、2010年、法律文化社
----------	---------------------------

参考書	デヴィッド・ハーヴェイ『資本の謎(仮題)』、2012年、作品社
-----	---------------------------------

その他	経済原論や経済学概説など基礎的科目の履修者が望ましい。
-----	-----------------------------

履修コード	095101
科目名	現代西欧経済論
担当者名	清水 卓
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、第2次大戦から今日に至る間の、西欧諸国の経済の構造変化と経済政策の展開を段階的に把握し、経済グローバル化に対応してEU各国の経済社会がどのように変化しつつあるのかわかることを目的とします。なお、この講義ではリアルタイムでEU諸国の動向を追いますので、授業の内容については、随時変更する可能性があります。
授業スケジュール	第1回 ~ 第3回 戦後西欧の経済成長 第4回 ~ 第6回 経済危機の時代 第7回 ~ 第9回 独・仏・英の経済 第10回 ~ 第12回 北欧・地中海諸国、ベネルクスの経済 第13回 ~ 第15回 グローバリゼーションと欧州諸国経済
準備学習	授業で紹介する資料を読むことが重要であることはいまでもありませんが、過去一週間の新聞からEU関連の記事を整理することも効果的の事前学習となります。さらに、予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席すれば、授業内容をより深く理解できるようになります。
履修上の留意点	1年次、2年次の学習で経済学の基礎知識および国際経済・国際金融に関する基礎的知識を有していることが望まれます。講義内容を理解するためにも、新聞・雑誌、インターネット、TV特集番組などの欧州諸国のニュース報道に関心を持ちましょう。この講義を理解するには前期のEU統合論を履修することが望まれます。
成績評価の方法	学期末試験を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も勘案します。
教科書/テキスト	特に指定しません。
参考書	(1) W・ラカー(著)、加藤他(訳)、「ヨーロッパ現代史—西欧・東欧・ロシア」芦書房 (2) 原・工藤 「現代ヨーロッパ経済史」有斐閣 (3) 広田功編 「現代ヨーロッパの社会経済政策 その形成と展開」日本経済評論社
その他	なし
関連リンク	http://europa.eu/

履修コード	310121
科目名	現代西欧経済論
担当者名	清水 卓
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、第2次大戦から今日に至る間の、西欧諸国の経済の構造変化と経済政策の展開を段階的に把握し、経済グローバル化に対応してEU各国の経済社会がどのように変化しつつあるのかわかることを目的とします。なお、この講義ではリアルタイムでEU諸国の動向を追いますので、授業の内容については、随時変更する可能性があります。
授業スケジュール	第1回 ~ 第3回 戦後西欧の経済成長 第4回 ~ 第6回 経済危機の時代 第7回 ~ 第9回 独・仏・英の経済 第10回 ~ 第12回 北欧・地中海諸国、ベネルクスの経済 第13回 ~ 第15回 グローバリゼーションと欧州諸国経済
準備学習	授業で紹介する資料を読むことが重要であることはいまでもありませんが、過去一週間の新聞からEU関連の記事を整理することも効果的の事前学習となります。さらに、予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席すれば、授業内容をより深く理解できるようになります。
履修上の留意点	1年次、2年次の学習で経済学の基礎知識および国際経済・国際金融に関する基礎的知識を有していることが望まれます。講義内容を理解するためにも、新聞・雑誌、インターネット、TV特集番組などの欧州諸国のニュース報道に関心を持ちましょう。この講義を理解するには前期のEU統合論を履修することが望まれます。
成績評価の方法	学期末試験を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も勘案します。
教科書/テキスト	特に指定しません。
参考書	(1) W・ラカー(著)、加藤他(訳)、「ヨーロッパ現代史—西欧・東欧・ロシア」芦書房 (2) 原・工藤 「現代ヨーロッパ経済史」有斐閣 (3) 広田功編 「現代ヨーロッパの社会経済政策 その形成と展開」日本経済評論社
その他	特になし。
関連リンク	http://europa.eu/

履修コード	098201
科目名	憲法
担当者名	金子 勝
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本国憲法は、国民を「幸福」にする憲法であり、世界に存在する憲法の中で、最も優れた憲法の1つであることを確認していただくこと。
授業スケジュール	<p>第1回 講義事始。</p> <p>第2回・第3回 憲法学という科学の性質。</p> <p>第4回・第5回 憲法とは何か。</p> <p>第6回～第8回 憲法を制定・運用する国家権力。</p> <p>第9回～第11回 日本国憲法の制定。</p> <p>第12回～第14回 日本国憲法の内容－(1) 国民主権と国家主権。</p> <p>第15回～第20回 日本国憲法の内容－(2) 基本的人権。 ①自由権②法の下の平等権③社会権④政治的権利 ⑤平和的生存権</p> <p>第21回～第23回 日本国憲法の内容－(3) 非武装・非戦平和主義。</p> <p>第24回～第26回 日本国憲法の内容－(4) 統治機構。 ①国会②内閣③裁判所④財政</p> <p>第27回 日本国憲法の内容－(5) 地方自治。</p> <p>第28回 日本国憲法の内容－(6) 天皇</p> <p>第29回・第30回 日本国憲法と日米安保条約</p>
準備学習	新聞やテレビ・ラジオや雑誌などのマス・メディアによって、現実の憲法問題を把握していただきたい。
履修上の留意点	憲法問題が起きたら、その問題が日本国憲法のどの条項と関係しているのかを把握できるようになっていただきたい。
成績評価の方法	学年末試験で判定する。
教科書／テキスト	金子勝『社会科学の世界』・勁草書房・2600円。
参考書	講義において指示します。
その他	「六法」を必ず持参して下さい。

履修コード	099111
科目名	公共経済学 a
担当者名	鈴木 伸枝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>社会福祉や環境政策といった政府介入はなぜ必要か、どのような政策が望ましいのか、理想をすべて満たすような政策はあるのか、ないとすれば、どのような政策なら実現可能なのか、そして実施された政策はどんな効果をもたらすのか、公共経済学では、こうした問題をミクロ経済学の手法を用いて効率性・公平性の観点から考えます。</p>
---------------------	---

市場への政府介入の経済学的根拠は、効率性面での市場の失敗を引き起こす「不完全競争」「外部性」「不完全情報」の3要因と、「公平性」にあります。一方、市場の失敗は必ずしも政府介入により解決されるとは限りません。不完全情報のため最適な政策が実施できなかったり、規制が新たな不完全競争の原因となったりするからです。

【公共経済学a】では、上で挙げた効率性3要因のうち「不完全競争」を中心に扱いながら、完全競争市場の効率性・公平性と政府介入の影響について学びます。【公共経済学b】では「外部性」「不完全情報」を学ぶとともに、「外部性」と「公平性」を組み合わせることで所得再分配を説明したり、「外部性」と「不完全情報」の両側面から教育を捉えたりと、より高度な理論を紹介していきます。この講義をしっかりと理解すれば、講義時間内で扱いきれない多くの政策についても習得した理論を応用して自分で考えたり、専門書を読んでさらに知識を深めることができます。

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> 「1. ガイダンス」(第1回) 「2. 政府の役割」(第1-2回) 「3. 完全競争」(第2-4回) 「4. 独占」(第4-6回) 「5. 寡占」(第6-8回) 「6. 課税」(第8-10回) 「7. 価格統制」(第10-12回) 「8. 競争均衡の効率性・公平性」(第12-15回)
----------	---

準備学習	予習は不要です。前回分までの復習をしっかりとしてください。
------	-------------------------------

履修上の留意点	<p>【ミクロ経済学】もしくは【企業経済論a・b】を履修済みであることを前提として講義を進めます。また、公共経済学は数学を多用する分野です。高校数学の予備知識は要求しませんが、講義でわからなかった部分を理解するまで根気よく復習できない人には履修をお勧めしかねます。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>期末試験1回(100点満点)で評価します。60点未満の場合は不可とし、60点以上は本学のGPA評価ルールに従って成績をつけます。</p>
---------	---

教科書/テキスト	穴埋め式の講義ノートを配布します。市販の教科書は特に指定しません。
----------	-----------------------------------

参考書	
-----	--

その他	<p>YeStudy(現代応用経済学科)にてレポート課題や練習問題を配布します。配布済みの講義ノート(空欄は未記入)もYeStudyで公開するので、欠席・紛失の際は各自ダウンロードしてください。</p>
-----	---

履修コード	313511
科目名	公共経済学 a
担当者名	鈴木 伸枝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>社会福祉や環境政策といった政府介入はなぜ必要か、どのような政策が望ましいのか、理想をすべて満たすような政策はあるのか、ないとすれば、どのような政策なら実現可能なのか、そして実施された政策はどんな効果をもたらすのか、公共経済学では、こうした問題をミクロ経済学的手法を用いて効率性・公平性の観点から考えます。</p>
---------------------	---

市場への政府介入の経済学的根拠は、効率性面での市場の失敗を引き起こす「不完全競争」「外部性」「不完全情報」の3要因と、「公平性」にあります。一方、市場の失敗は必ずしも政府介入により解決されるとは限りません。不完全情報のため最適な政策が実施できなかったり、規制が新たな不完全競争の原因となったりするからです。

【公共経済学a】では、上で挙げた効率性3要因のうち「不完全競争」を中心に扱いつつ、完全競争市場の効率性・公平性と政府介入の影響について学びます。【公共経済学b】では「外部性」「不完全情報」を学ぶとともに、「外部性」と「公平性」を組み合わせる所得再分配を説明したり、「外部性」と「不完全情報」の両側面から教育を捉えたりと、より高度な理論を紹介していきます。この講義をしっかりと理解すれば、講義時間内で扱いきれない多くの政策についても習得した理論を応用して自分で考えたり、専門書を読んでさらに知識を深めることができます。

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> 「1. ガイダンス」(第1回) 「2. 政府の役割」(第1-2回) 「3. 完全競争」(第2-4回) 「4. 独占」(第4-6回) 「5. 寡占」(第6-8回) 「6. 課税」(第8-10回) 「7. 価格統制」(第10-12回) 「8. 競争均衡の効率性・公平性」(第12-15回)
----------	---

準備学習	毎回範囲を指定して予習してきてもらいます。
------	-----------------------

履修上の留意点	<p>【ミクロ経済学】もしくは【企業経済論a・b】を履修済みであることを前提として講義を進めます。また、公共経済学は数学を多用する分野です。高校数学の予備知識は要求しませんが、講義でわからなかった部分を理解するまで根気よく復習できない人には履修をお勧めしかねます。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>受講者数20名以上の場合には、期末試験1回(100点満点)で評価します。60点未満は不可とし、60点以上は本学のGPA評価ルールに従って成績をつけます。受講者数20名未満の場合には、試験のかわりに宿題を5回程度出し、平常点と合わせて評価します。</p>
---------	---

教科書/テキスト	穴埋め式の講義ノートを配布します。市販の教科書は特に指定しません。
----------	-----------------------------------

参考書	
-----	--

その他	<p>YeStudy(現代応用経済学科)にてレポート課題や練習問題を配布します。配布済みの講義ノート(空欄は未記入)もYeStudyで公開するので、欠席・紛失の際は各自ダウンロードしてください。</p>
-----	---

履修コード	099121
科目名	公共経済学b
担当者名	鈴木 伸枝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>社会福祉や環境政策といった政府介入はなぜ必要か、どのような政策が望ましいのか、理想をすべて満たすような政策はあるのか、ないとすれば、どのような政策なら実現可能なのか、そして実施された政策はどんな効果をもたらすのか、公共経済学では、こうした問題をミクロ経済学的手法を用いて効率性・公平性の観点から考えます。</p>
---------------------	---

市場への政府介入の経済学的根拠は、効率性面での市場の失敗を引き起こす「不完全競争」「外部性」「不完全情報」の3要因と、「公平性」にあります。一方、市場の失敗は必ずしも政府介入により解決されるとは限りません。不完全情報のため最適な政策が実施できなかつたり、規制が新たな不完全競争の原因となったりするからです。

【公共経済学a】では、上で挙げた効率性3要因のうち「不完全競争」を中心に扱いながら、完全競争市場の効率性・公平性と政府介入の影響について学びます。【公共経済学b】では「外部性」「不完全情報」を学ぶとともに、「外部性」と「公平性」を組み合わせて所得再分配を説明したり、「外部性」と「不完全情報」の両側面から教育を捉えたりと、より高度な理論を紹介していきます。この講義をしっかり理解すれば、講義時間内で扱いきれない多くの政策についても習得した理論を応用して自分で考えたり、専門書を読んでさらに知識を深めることができます。

授業スケジュール	<p>E. 【公共経済学a】復習(第1回) 「9. 消費者行動」(第2-4回) 「10. 外部性」(第4-6回) 「11. 公共財」(第6-9回) 「12. 応用1：環境問題・所得再分配」(第9-11回) 「13. 情報の非対称性」(第12-13回) 「14. 応用2：教育」(第13-15回)</p>
----------	---

準備学習	<p>予習は不要です。公共経済学aおよび前回分までの復習をしっかりとってください。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>【公共経済学a】に加えて【ミクロ経済学】もしくは【企業経済論a・b】を履修済みであることを前提として講義を進めます。また、公共経済学は数学を多用する分野です。高校数学の予備知識は要求しませんが、講義でわからなかった部分を理解するまで根気よく復習できない人には履修をお勧めしかねます。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>定期試験は「レポート試験」(12月にレポート課題を公開し、1月の期末試験会場にて回収するシステム)とします。60点未満は不可とし、60点以上の場合は本学のGPA評価ルールに従って成績を評価します。</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>穴埋め式の講義ノートを配布します。市販の教科書は特に指定しません。</p>
----------	--

参考書	
-----	--

その他	<p>YeStudy(現代応用経済学科)にてレポート課題や練習問題を配布します。配布済みの講義ノート(空欄は未記入)もYeStudyで公開するので、欠席・紛失の際は各自ダウンロードしてください。</p>
-----	---

履修コード	313521
科目名	公共経済学 b
担当者名	鈴木 伸枝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>社会福祉や環境政策といった政府介入はなぜ必要か、どのような政策が望ましいのか、理想をすべて満たすような政策はあるのか、ないとすれば、どのような政策なら実現可能なのか、そして実施された政策はどんな効果をもたらすのか、公共経済学では、こうした問題をミクロ経済学的手法を用いて効率性・公平性の観点から考えます。</p>
---------------------	---

市場への政府介入の経済学的根拠は、効率性面での市場の失敗を引き起こす「不完全競争」「外部性」「不完全情報」の3要因と、「公平性」にあります。一方、市場の失敗は必ずしも政府介入により解決されるとは限りません。不完全情報のため最適な政策が実施できなかったり、規制が新たな不完全競争の原因となったりするからです。

【公共経済学a】では、上で挙げた効率性3要因のうち「不完全競争」を中心に扱いながら、完全競争市場の効率性・公平性と政府介入の影響について学びます。【公共経済学b】では「外部性」「不完全情報」を学ぶとともに、「外部性」と「公平性」を組み合わせることで所得再分配を説明したり、「外部性」と「不完全情報」の両側面から教育を捉えたりと、より高度な理論を紹介していきます。この講義をしっかりと理解すれば、講義時間内で扱いきれない多くの政策についても習得した理論を応用して自分で考えたり、専門書を読んでさらに知識を深めることができるはずです。

授業スケジュール	<p>「E. 【公共経済学a】復習」(第1回) 「9. 消費者行動」(第2-4回) 「10. 外部性」(第4-6回) 「11. 公共財」(第6-9回) 「12. 応用1：環境問題・所得再分配」(第9-11回) 「13. 情報の非対称性」(第12-13回) 「14. 応用2：教育」(第13-15回)</p>
----------	---

準備学習	毎回範囲を指定して予習してきてもらいます。
------	-----------------------

履修上の留意点	<p>【公共経済学a】に加えて【ミクロ経済学】もしくは【企業経済論a・b】を履修済みであることを前提として講義を進めます。また、公共経済学は数学を多用する分野です。高校数学の予備知識は要求しませんが、講義でわからなかった部分を理解するまで根気よく復習できない人には履修をお勧めしかねます。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>受講者数20名以上の場合には、定期試験は「レポート試験」(12月にレポート課題を公開し、1月の期末試験会場にて回収するシステム)とします。60点未満は不可とし、60点以上は本学のGPA評価ルールに従って成績を評価します。受講者数20名未満の場合には、定期試験のかわりに宿題を5回程度出し、平常点と合わせて評価します。</p>
---------	---

教科書/テキスト	穴埋め式の講義ノートを配布します。市販の教科書は特に指定しません。
----------	-----------------------------------

参考書	
-----	--

その他	<p>YeStudy (現代応用経済学科) にてレポート課題や練習問題を配布します。配布済みの講義ノート (空欄は未記入) もYeStudyで公開するので、欠席・紛失の際は各自ダウンロードしてください。</p>
-----	---

履修コード	093601
科目名	工業政策
担当者名	奥山 雅之
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) わが国の工業（「ものづくり」産業）は、その技術力を背景に高い国際競争力を有しており、産業全体を支える重要な存在です。 この講義では、数多くの企業事例を取り上げ、ものづくり産業の特徴を確認しながら、産業の「過去」「現在」そして「将来」を考察します。また、ものづくり産業に対する国や地方公共団体の政策の課題と方向性についても検討を加えていきます。 前期では、ものづくり産業の現状をさまざまな角度から分析し、その課題と今後の方向性を明らかにします。後期では、産学連携、知的財産、環境問題、CSR（企業の社会的責任）など、ものづくり産業をめぐる今日的な題材に検討を加えます。 (到達目標) 1年間を通して、ものづくり産業に関する政策的な課題設定力、自分なりの解決策を提案する力、さらには就職にも役立つ企業を見る目を持つことを到達目標としています。</p>
授業スケジュール	<p>前期 (1～3) 工業の意義と役割 (4～6) 工業の発展と工業政策の歩み (7～9) 産業構造とものづくり産業 (10～13) 工業の立地問題 (14～15) 中小企業と政策 後期 (16～19) ものづくり産業の業種別動向（自動車産業、繊維産業ほか） (20～21) 「ソフトなものづくり」産業（映画産業、アニメーション産業ほか） (22～23) ものづくりを支える人材の確保・育成 (24～25) イノベーションと産学連携 (26) 知的財産の創造・保護・活用 (27) 創業・ベンチャー支援策 (28～29) 工業振興と環境問題 (30) 工業振興とCSR（企業の社会的責任）</p>
準備学習	事前学習としては、日ごろから新聞の経済・産業関連記事に接しておく必要があります。事後学習としては、配布した資料とノートを再確認し、各週のテーマに対する自分なりの考え方をまとめておくことが重要です。レポートの課題はYeStudy経由で出しますので、YeStudyにも登録をお願いします。
履修上の留意点	日ごろからものづくり産業や企業に関心を持つことを望みます。
成績評価の方法	成績は学年末試験とレポートで評価します。試験が8割、レポートが2割のウェイトで評価します。試験およびレポートの内容については、講義に積極的に参加していた人が有利になるように配慮します。追試は行いません。
教科書/テキスト	特に指定しません。配布する資料によって講義を実施します。
参考書	加藤秀雄『地域中小企業と産業集積』（新評論）
その他	なし

履修コード	094201
科目名	国際金融論
担当者名	吉田 真広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	近年、米国で発生したサブプライムローン問題、欧州金融危機は、日本を始め各国の経済・金融・為替などに深刻な影響を与えています。国際金融とは国際的なお金の流れであり、まさに国際金融上の出来事が各国経済に直結していることを示したものと いえます。グローバル化が進展した今日の経済の動きを理解するためには、国際金融についての知識が不可欠です。本講義では、今日のドル体制下の世界経済とグローバル化している各国経済を理解するため、国際金融市場と国際金融制度に関する基礎的な理解を身につけることを目的としています。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国際収支 (第1回～第5回) <ul style="list-style-type: none"> ・国際取引 ・各項目 ・記載原理 ・国民経済との関係 2 為替の基礎 (第6回～第10回) <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な仕組み ・逆為替と並為替 ・為替相場 ・直物相場と先物相場 3 為替市場 (第11回～第15回) <ul style="list-style-type: none"> ・外国為替市場の構造 ・銀行の為替取引 ・金融派生商品 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 国際通貨体制1 (第16回～第20回) <ul style="list-style-type: none"> ・金本位制 ・戦後の固定相場制 ・変動相場制 5 国際通貨体制2 (第21回～第25回) <ul style="list-style-type: none"> ・国際通貨条件 ・ドル体制 ・ユーロと人民元 6 為替相場諸学説 (第26回～第30回) <ul style="list-style-type: none"> ・購買力平価説 ・為替心理説 ・諸為替相場アプローチ <p>*なお、トピックスを取り上げることもあり得ます。</p>
----------	---

準備学習	普段から国際経済や金融に関するニュースなどを読むように心掛けて下さい。
履修上の留意点	何らかの形で出席をとることもありえます。
成績評価の方法	基本的には、年二回の試験で評価します。
教科書/テキスト	テキストは使用しません。
参考書	授業中、必要に応じて適宜指示します。
その他	国際金融に関係のあるニュースや新聞記事に日頃から関心を持つておくこと。

履修コード	311001
科目名	国際金融論
担当者名	吉田 真広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	近年、米国で発生したサブプライムローン問題は、日本を始め各国の経済と金融に深刻な影響を与えました。国際金融とは国際的なお金の流れであり、まさに国際金融上の出来事が各国経済に直結していることを示したものと いえます。グローバル化が進展した今日の経済の動きを理解するためには、国際金融についての知識が不可欠です。本講義では、今日のドル体制下の世界経済とグローバル化している各国経済を理解するため、国際金融市場と国際金融制度に関する基礎的な理解を身につけることを目的としています。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国際収支 (第1回～第5回) <ul style="list-style-type: none"> ・国際取引 ・各項目 ・記載原理 ・国民経済との関係 2 為替の基礎 (第6回～第10回) <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な仕組み ・逆為替と並為替 ・外国為替相場の見方 ・直物相場と先物相場 3 為替市場 (第11回～第15回) <ul style="list-style-type: none"> ・外国為替市場の構造 ・銀行の為替取引 ・金融派生商品 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 国際通貨体制1 (第16回～第20回) <ul style="list-style-type: none"> ・金本位制 ・戦後の固定相場制 ・変動相場制 5 国際通貨体制2 (第21回～第25回) <ul style="list-style-type: none"> ・国際通貨条件 ・ドル体制 ・ユーロと人民元 6 為替相場諸学説 (第26回～第30回) <ul style="list-style-type: none"> ・購買力平価説 ・為替心理説 ・諸為替相場アプローチ <p>*なお、トピックスを取り上げることもあり得ます。</p>
----------	--

準備学習	普段から国際経済や金融に関するニュースに関心を持つよう心掛けて下さい。
履修上の留意点	出席をとることもある。
成績評価の方法	年二回の試験。
教科書/テキスト	テキストは使用しない。
参考書	授業中、必要に応じて適宜示す。
その他	国際金融に関係のあるニュースや新聞記事に日頃から関心を持つておくこと

履修コード	308901
科目名	国際経済論
担当者名	徳永 俊明

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 世界経済は、今日、世界社会・日本社会のあり方の<土台>をなしているものです。世界の姿・日本の姿を理解する第一のカギは世界経済を理解することにあります。この講義では、前期に、世界経済の生成から第2次世界大戦までのおおよその推移を確認し、後期には第2次世界大戦後、今日までの世界経済について分野ごとに概観します。 (到達目標 (ねらい)) 前期は、ただ歴史を眺めるというのではなく、今日の世界経済のあり方の歴史的背景を正確につかむことを、後期は、今日の世界経済がはらむ基本的な問題 (課題) を理解することを目標にします。
---------------------	---

授業スケジュール	(前期) (1・2) 講義のテーマ・趣旨の説明、(3・4) 資本の本源的蓄積と重商主義植民地体制、(5・6) 産業革命と自由貿易植民地体制、(7) 小括、(8・9) 独占資本主義と帝国主義植民地体制、(10・11) 第1次世界大戦と世界経済、(12・13) 戦間期の世界経済、(14) 小括、(15) 予備日 (後期) (1・2) 第2次世界大戦と世界経済、(3・4) 「アメリカ中心体制」と新植民地主義、(5) 貿易 (GATT・WTO)、(6) 国際通貨制度 (IMF)、(7・8) 「援助」、(9・10) 多国籍企業、(11) 小括、(12・13) 「南北問題」、(14) 「新国際経済秩序」、(15) 予備日 * 毎回参考資料を配布します。
----------	--

準備学習	前回の講義のノート・資料に目を通しておいて下さい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	ミニ・レポート (前期・後期各1回予定、それぞれ20点) と学年末ミニ・レポート (60点)。とくに学年末ミニ・レポートで世界経済の「枝葉」ではなく、「幹」の理解度を重視します。(追試験は行いません。)
教科書/テキスト	とくにありません。
参考書	

履修コード	091201 091202
科目名	国際経済論 国際経済学
担当者名	徳永 俊明

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 世界経済は、今日、世界社会・日本社会のあり方の<土台>をなしているものです。世界の姿・日本の姿を理解する第一のカギは世界経済を理解することにあります。この講義では、前期に、世界経済の生成から第2次世界大戦までのおおよその推移を確認し、後期には第2次世界大戦後、今日までの世界経済について分野ごとに概観します。 (到達目標 (ねらい)) 前期は、ただ歴史を眺めるというのではなく、今日の世界経済のあり方の歴史的背景を正確につかむことを、後期は、今日の世界経済がはらむ基本的な問題 (課題) を理解することを目標にします。
---------------------	---

授業スケジュール	(前期) (1・2) 講義のテーマ・趣旨の説明、(3・4) 資本の本源的蓄積と重商主義植民地体制、(5・6) 産業革命と自由貿易植民地体制、(7) 小括、(8・9) 独占資本主義と帝国主義植民地体制、(10・11) 第1次世界大戦と世界経済、(12・13) 戦間期の世界経済、(14) 小括、(15) 予備日 (後期) (1・2) 第2次世界大戦と世界経済、(3・4) 「アメリカ中心体制」と新植民地主義、(5) 貿易 (GATT・WTO)、(6) 国際通貨制度 (IMF)、(7・8) 「援助」、(9・10) 多国籍企業、(11) 小括、(12・13) 「南北問題」、(14) 「新国際経済秩序」、(15) 予備日 * 毎回参考資料を配布します。
----------	--

準備学習	前回の講義のノート・資料に目を通しておいて下さい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	ミニ・レポート (前期・後期各1回予定、それぞれ20点) と学年末ミニ・レポート (60点)。とくに学年末ミニ・レポートで世界経済の「枝葉」ではなく、「幹」の理解度を重視します。(追試験は行いません。)
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	323401
科目名	国際法
担当者名	王 志安

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	国際法学の基礎知識を修得し、国際関係の現状を法的側面から理解する能力を養う。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>国際法学の全体を様々な基礎的課題に細分し、毎回の講義においてできるだけ一つの課題を絞り、それぞれ基礎概念、理論体系、そして事例分析の形で解明する。</p> <p>前期においては、国際法の史的展開、国際法と国内法との関係、国際法の法的性質といった基礎知識から着手し、国家および国際機構にかかわる様々な法的問題を取り上げていきたい。たとえば、国家の分裂や統合に生じた国家の承認や承継の問題、違憲的な政府変更やクーデターに関する国際的対応の法的性格、国内裁判における未承認政府や国家の地位、そして国連を中心とした国際機構の法的地位や機能の形態などを分析する。</p> <p>後期では、前期の基礎知識の修得を踏まえて、領域に関する管轄権、国際的人権保障、条約関係の理論および外交関係の法的仕組みを検証する。具体的には、国家領域の法的地位や取得に関する理論および実行、国際地域、国際海域および宇宙空間といった国際区域の法的地位、外国人の法的地位、人権保障に関する国際制度の展開、条約の締結、形式および効力に関する法規制、外交関係および領事関係における特権および免除などを取り上げる。</p> <p>具体的に以下のような講義要綱を実施する。</p>
----------	---

- 前期
- 1 講義ガイダンス
 - 2 国際法の意義
 - 3 国際法と国内法との関係
 - 4 国際法の法源とその性質構造
 - 5 国際法主体としての国家の要件と類型
 - 6 承認行為の法的機能
 - 7 国家承継
 - 8 国家の基本的権利
 - 9 国家責任
 - 10 国家の管轄権
 - 11 国際連合
 - 12 国際経済機構
 - 13 国家の領域の意義及びその取得
 - 14 まとめ・復習

- 後期
- 1 国際海域
 - 2 国際化地域
 - 3 宇宙空間・天体
 - 4 国際法上の個人
 - 5 領域的主権と個人の権利の対峙
 - 6 人権の国際的保障
 - 7 国際人権保障の実施措置
 - 8 国際関係の処理と外交機関
 - 9 国際法と環境保護
 - 10 国際紛争と平和的解決
 - 11 戦争と国際法
 - 12 集団的安全保障
 - 13 国際裁判
 - 14 まとめ・復習

準備学習	授業前教科書の関連箇所を読むこと。関心のあるテーマについて読書すること。聞きたい問題を用意すること
------	---

履修上の留意点	国際関係を法的側面からとらえる視点の養成を常に心構えとする。個々の概念、理論、事例を解明する戦術的な能力がまず重要視されるべきであるが、政治、外交、経済、文化といった様々な形態で展開される国際関係を法という枠内でとらえる戦略的な資質をのばすことも見失われてはならない。そのためには、教科書に取り上げられた学説を理解するだけでなく、講義に取り上げられた課題の視点、問題意思をしっかりと修得する必要もある。配布される参考資料や聴講ノートを参照しながら、教科書の理解を深めてもらいたい。
---------	--

成績評価の方法	成績は年末の定期試験で決定する。ただし、前期小テストや講義出席の状況も成績を評価する際に考慮される。
---------	--

教科書/テキスト	王志安・飯田順三『国際法への誘い』（八千代出版 2006年）
----------	--------------------------------

参考書	浅田正彦編著『国際法』（東信堂）2011年 2,900円 小寺彰など編『国際法判例百選【第2版】』（有斐閣）2011年 2,476円＋税 市販されている国際条約集
-----	---

その他	授業はすべて講義方式で行い、適宜に参考資料を配付し、Power Pointを利用した講義を行います。簡潔な聴講ノートは、YeStudyから入手できる。
-----	---

履修コード	099001
科目名	国際法
担当者名	橋本 靖明

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	私達は今、国際社会の中で生きています。国際社会の動きとその行動を規律する法体系である国際法を無視しては、世界のさまざまな構成員間の関係を良好に保ち、維持することができません。 本講義では、国際社会の現状と展望を概観しつつ、その社会を規律している国際法とは何なのか、皆さんと共に学んでゆきます。
---------------------	---

授業スケジュール	大きく、以下の三つのパートに分けて進めてゆく予定です。 ①国際法の全体像をを概観する。(2～5) ②領域(陸域、海洋、空域、宇宙空間、サイバー空間)に関する国際法を考える。(6～25) ③領域を越えるさまざまな今日の問題(人権、環境、テロ、安全保障等)に関する国際法を考える。(26～30)
----------	--

準備学習	新聞、テレビ、雑誌、インターネット等で日々報道される国際情勢に留意し、その法的背景を探ってください。
------	--

履修上の留意点	特別な予習を必要としませんが、その分、授業への出席を求めます。出席して受講した内容を試験では問うこととなります。
---------	--

成績評価の方法	最終講義において実施する筆記試験の回答内容を元に成績評価を行います。なお、回答は万年筆またはボールペンにて筆記のこと。
---------	---

教科書/テキスト	編 者：松井 芳郎(編集代表) 書 名：『ベーシック条約集』2012年版 出版社：東信堂 価 格：2730円(税込み：2011年版参考) ISBN：978-4-7989-0050-6(2011年版参考)
----------	---

参考書	特に指定しません。
-----	-----------

履修コード	097051
科目名	コミュニティ・ビジネス論
担当者名	山口 浩平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	従来の社会システムが有効に解決し得ない多様で個別的な地域の課題に対して、ビジネスの手法を用いてそれらを解決し、得られた利益を構成員に分配するだけでなく、コミュニティへの還元へと使用する組織が近年注目を集めています。この講義ではこのコミュニティ・ビジネス(CB)の概念を整理し、その存在を理解することを目的とします。
---------------------	---

授業スケジュール	1. CB登場の背景：歴史と理論的背景、事例紹介(1～6回)、2. CBをどのように立ち上げるか：社会性を持った起業の形態(7～10回)、3. CBを支える仕組みと展望：支援組織、金融システム(11～14回)
----------	--

準備学習	日常的に各種メディアで社会的企業、社会起業家、ソーシャル・ビジネスなど、関連するキーワードに注目しておいて下さい。
------	---

履修上の留意点	非営利組織についての一定の知識を要します。非営利組織論、協同組合論等の受講をお勧めします。
---------	---

成績評価の方法	学期末試験(及びそれに替わるもの7割)と授業内に提出を求める課題(3割)を中心に、講義への参加も考慮して、総合的に評価します。
---------	---

教科書/テキスト	風見正三・山口浩平編著(2009)『コミュニティ・ビジネス入門』学芸出版社 ほか、資料も配布します。
----------	---

参考書	細内信孝(1999)『コミュニティ・ビジネス』中央大学出版部 齋藤棋(2004)『社会起業家』岩波新書 福原幸幸(2007)『社会的排除/包摂と社会政策』法律文化社
-----	--

履修コード	095501
科目名	コンピュータ会計I
担当者名	鈴木 勝浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 今日、コンピュータをはじめとする情報技術の進展及び高度化はめざましく、あらゆる社会活動がその影響をうけている。このような高度情報化の到来に伴って、近年、コンピュータ会計は、企業の規模や業種にかかわらず広く普及している。この授業では、コンピュータを前提とした会計情報システムについて、その現状と問題点を検討したうえで、表計算ソフトを利用して簡単な会計データ処理システムを設計し、そのシステムへのデータ入力の実習を行う。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、コンピュータ会計システムの基本構造とコンピュータを会計処理に適用することの意義を理解し、コンピュータ利用が当然となった今日の会計プロセスの全体像を把握することである。コンピュータ会計システムの基礎的な理論や概念を理解するにあたり、コンピュータ実習を多用することで会計と情報処理の知識の向上を目指す。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータ会計概論 2. 会計処理の基本 3. 勘定科目コード及びその他の会計情報コードの設計 4. 仕訳データの作成 5. 試算表の作成 6. 決算処理と財務諸表の作成 7. 取引の入力演習① 8. 取引の入力演習② 9. 売上管理① 10. 売上管理② 11. 仕入管理① 12. 仕入管理② 13. 在庫管理① 14. 在庫管理② 15. 基本財務諸表の作成
----------	--

準備学習	簿記会計の知識があればより学習効果が向上します。簿記会計の基本原理や帳簿体系を理解するように心がけてください。
------	---

履修上の留意点	パソコン中級者以上を想定して講義をすすめるため、「基礎情報処理I・II」、「情報・経済ネットワーク論」、「コンピュータ基礎」等を履修済みか、同等の能力を有することが求められる。また特に会計に関する知識を問わないが、簿記会計に関する基礎的な知識を有していればより理解が深まると思われる。
---------	--

成績評価の方法	出席率及び課題の提出状況・内容等を総合的に評価する。
---------	----------------------------

教科書／テキスト	志村正著『エクセルで学ぶ会計情報の作成と分析』（創成社）
----------	------------------------------

参考書	講義中に適時指示する。
-----	-------------

その他	<p>本講義はパソコンのある教場で行うため、履修制限を行うことがありますので、初回講義時には必ず出席してください。初回講義に出席できない人や質問は、以下のアドレス宛にメール連絡してください。</p> <p>k2szk@komazawa-u.ac.jp</p> <p>また本講義は、総合情報センターに登録しないと受講できません。受講者は4月に4号館2F事務室に行き、登録してください。</p>
-----	---

履修コード	095601
科目名	コンピュータ会計II
担当者名	鈴木 勝浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 今日、高度情報化の到来に伴い、コンピュータ会計は企業の規模及び業種にかかわらず広く普及している。この授業は、従来の手書き会計とコンピュータ会計の相違点を明確にし、リアルタイムで会計情報の入手とその利用が可能である点を解説したうえで、パソコン演習を通じて上記の点を検証していく。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、コンピュータを利用しながら財務会計及び管理会計のなかでも比較的高度な内容と思われる範囲まで理解することである。さらに、コンピュータ化された会計の利便性を理解するために、まず表計算ソフトを利用して簡単な会計データ処理システムを設計し、その後会計パッケージを利用してその有用性を体感していく。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータ会計概論 2. 製造原価報告書・損益計算書 3. 貸借対照表・キャッシュフロー計算書 4. 財務指標 5. 売上データの分析 6. 原価分解法 7. 損益分岐点分析① 8. 損益分岐点分析② 9. 各種シミュレーション技法① 10. 各種シミュレーション技法② 11. プロダクトミックス① 12. プロダクトミックス② 13. 予算シミュレーション 14. 予算コントロール 15. 投資プロジェクトの評価法
----------	--

準備学習	簿記会計の知識があればより学習効果が向上します。簿記会計の基本原理や帳簿体系を理解するよう心がけてください。
------	--

履修上の留意点	パソコン中級者以上を想定して講義をすすめるため、「基礎情報処理I・II」、「情報・経済ネットワーク論」、「コンピュータ基礎」履修済が、同等の能力を有することが求められる。
---------	---

成績評価の方法	出席率及び課題の提出状況・内容等を総合的に評価する。
---------	----------------------------

教科書／テキスト	志村正著『エクセルで学ぶ会計情報の作成と分析』（創成社）
----------	------------------------------

参考書	
-----	--

その他	<p>本講義はパソコンのある教場で行うため、履修制限を行うことがありますので、初回講義には必ず出席してください。初回講義に出席できない人や質問は、以下のアドレス宛にメールしてください。 k2szk@komazawa-u.ac.jp</p> <p>また本講義は、総合情報センターに登録しないと受講できません。受講者は4月に4号館2F事務室に行き、登録してください。</p>
-----	---

履修コード	090801
科目名	財政学
担当者名	野村 容康

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本講義では、財政赤字、税制改革、年金改革、公共事業といったわが国の財政問題を考えていく際の手掛かりとなるように財政学の基礎的事項について概説する。財政の基礎的な制度とその機能について理解を深め、現実の財政問題について自分なりに考える力を身につけることを目標とする。</p> <p>前期は、どちらかと言えば政府の支出活動面に重点を置きながら、財政の機能とわが国財政の現状、公共支出に関する理論、政府債務の問題、公的年金問題等について解説する。後期は、政府収入の中で最も重要な租税に関する議論（租税理論、制度、税制改革論等）に焦点を絞って授業を進める。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期 1. 財政とは何か 2. 財政学とその変遷 3. 資源配分の調整機能 4. 財政と所得再分配 5. 価格政策と補助金 6. 財政政策の理論① 7. 財政政策の理論② 8. 公共財の理論① 9. 公共財の理論② 10. わが国財政の現状 11. 公債の制度と理論① 12. 公債の制度と理論② 13. 公的高齢年金① 14. 公的高齢年金② 15. まとめ</p> <p>後期 1. 租税の意義と根拠 2. 租税の基礎的概念 3. 課税の公平性 4. 課税の中立性 5. 租税の転嫁と帰着 6. 包括的所得税論 7. 支出税と最適課税 8. 二元的所得税 9. わが国の租税体系 10. 個人所得課税 11. 法人所得課税 12. 間接消費課税 13. 資産課税 14. グローバル化と税制 15. まとめ</p>
----------	--

準備学習	新聞等を通じて現在の日本財政に関する問題意識を高めたうえで講義に臨むこと。
履修上の留意点	受講生には、新聞などを通じてできるだけ財政制度改革、税制改正の動向についてフォローし、わが国の財政に関する問題意識を高めることを期待している。また、受講に際しては、微分とミクロ経済学に関する基礎的知識を習得していることが望ましい。
成績評価の方法	原則として定期試験の成績で評価する。出席は考慮しない。
教科書/テキスト	未定
参考書	

履修コード	092401
科目名	財務会計論
担当者名	小栗 崇資

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>企業活動の実態を外部の利害関係者や投資家に報告・開示することを目的とするのが財務会計です。財務会計は会社法や金融商品取引法のような制度（法律や規則）によって社会的に規制されています。そのような日本の企業会計制度はこの間、会計ビッグバンと呼ばれる大きな変化の過程をたどり、現在はさらにグローバルスタンダードである国際会計基準との統合の最中にあります。制度変化による経済やビジネスへの影響は大きく、日本の財務会計がどのような変化をとげていくかが、今問われているところです。授業では、企業会計制度の全体像と財務諸表の仕組み、企業会計の新たな変化を理解することを到達目標に、授業の内容とスケジュールに沿って進めます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>講義の内容としては、前半で、会計制度の変化を理解するのに必要な、経済社会と会計との関係や会計に関する規制の仕組みについて理解を深めた上で、財務諸表の（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）の構成や内容について学習を進めます。後半では、新たに導入された様々な会計基準を取り上げ、その習得をめざします。特に国際会計基準の内容をできるかぎり紹介して検討する予定です。</p> <p>授業スケジュールとしては、次のような構成で30回の講義を行う予定です。</p> <p>(1) 会計とは何か、(2) 複式簿記と会計、(3) 経済社会と企業会計、(4) 会計制度の仕組み、(5) 日本の企業会計制度の歴史、(6) 日本とアメリカの会計制度、(7) 現代日本の会計制度、(8) 会計ビッグバンとグローバル化、(9) 貸借対照表の仕組み（資産）、(10) 貸借対照表の仕組み（負債・資本）、(11) 損益計算書の仕組み、(12) キャッシュフロー計算書の仕組み、(13) 株主資本等変動計算書の仕組み、(14) 連結財務諸表の仕組み、(15) 新しい会計基準の特徴、(16) 金融商品会計、(17) 退職給付会計、(18) リース会計、(19) 減損会計、(20) 自己株式会計、(21) 外貨換算会計、(22) 税効果会計、(23) 企業結合会計、(24) 包括利益計算書、(25) 国際会計基準の歴史、(26) 国際会計基準の概要①、(27) 国際会計基準の概要②、(28) 有価証券報告書の見方、(29) 経営分析の基礎、(30) 財務諸表の活用</p>
----------	---

準備学習	指定するテキストの部分を事前に読んできてください。
履修上の留意点	会計学は専門知識を積み重ねていく学習スタイルが重要です。プリントを適時、配布しますので休まずに受講してください。私語は厳禁とします。
成績評価の方法	中間試験および学年末試験の結果により評価します。出席確認を含む小レポートも適時行い成績評価の参考とします。
教科書/テキスト	小栗崇資・谷江武士編著『内部留保の経営分析—過剰蓄積の実態と活用』学習の友社、2100円
参考書	遠藤・小栗・新谷・徳前『新世紀の企業会計論』白桃書房 小栗・熊谷・陣内・村井編著『国際会計基準を考える—変わる会計と経済』大月書店

履修コード	100631
科目名	産業組織論 a
担当者名	舘 健太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、消費者の行動や企業の戦略を調べるなどを通じて、個別の産業について調査するための方法を身につけることを目指す。そこで、前期の講義では、分析のための概念やモデルを提供するミクロ経済学の基礎を固めたい。また、企業や産業の調査を行う際に使われる指標についても適宜紹介していく予定である。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済と経済学 2. 市場の均衡とその変化 3. 価格と所得の価格弾力性 4. エンゲル曲線と需要の所得弾力性 5. 企業の技術 6. 企業の費用 7. 競争的企業の利潤最大化 8. 課税の影響 9. 長期市場均衡 10. 競争の経済的意義 11. 独占 12. 自然独占と価格規制 13. 価格差別 14. 独占的競争 15. 総復習 <p>※講義の進度などにより内容を変更することがある。</p>
----------	--

準備学習	授業後に配布プリントを十分に復習して欲しい。
履修上の留意点	「ミクロ経済学」と「ゲーム理論 a」, 「ゲーム理論 b」の学習を並行して行うことが望ましい。
成績評価の方法	定期試験 (100点)。ただし、授業中に加点方式で課題を出すことがある。
教科書/テキスト	配布資料と板書をもとに講義を行う。
参考書	芦谷政浩『ミクロ経済学』有斐閣, 3255円, ISBN978-4-641-16350-8

履修コード	100641
科目名	産業組織論 b
担当者名	舘 健太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、現実の経済で最もよく見られる独占、寡占などの不完全競争市場を中心として、個別の産業における企業の戦略や市場の結果を分析するために必要となる概念やモデルについて説明する。また、企業や産業の調査を行う際に使われる指標についても簡単にふれたい。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然独占 2. 規制緩和と参入 3. 寡占市場の数量競争: クールノー競争 (1) 4. 寡占市場の数量競争: クールノー競争 (2) 5. 寡占市場の数量競争: シュタッセルベルグ競争 6. 寡占市場の価格競争: ベルトラン競争 7. 数量競争と価格競争の比較 8. 寡占市場の立地競争: ホテリング競争 9. カルテル 10. 合併と買収 11. 垂直的取引関係 12. オークション 13. 企業の研究開発投資 14. ネットワーク産業 15. 総復習 <p>※講義の進度により内容を変更することがある。</p>
----------	--

準備学習	授業後に配布プリントを十分に復習して欲しい。
履修上の留意点	「ミクロ経済学」と「ゲーム理論 a」, 「ゲーム理論 b」の学習を並行して行うことが望ましい。
成績評価の方法	定期試験 (100点)。ただし、授業中に加点方式で課題を出すことがある。
教科書/テキスト	配布資料と板書をもとに講義を行う。
参考書	芦谷政浩『ミクロ経済学』有斐閣, 2009年, 3255円, ISBN978-4-641-16350-8

履修コード	093211 093212
科目名	市民と経済学 a 社会思想史 a
担当者名	阿部 弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>私たちが何気なしに用いている「市民」という概念は、私たち自身の現在の「社会」との関わりの中で用いられている概念である。「市民」・「市民社会」という概念は、実は歴史的に形成されてきたものである。これらの概念の成り立ちと共に、「経済学」もまた形成されてくる。この場合、「経済学」は「国家」的なシステムの構築と共に存在してきた。この講義では「市民」・「市民社会」・「国家」と「経済学」形成の因果関係を明らかにする。まず最初に、この「前期科目a」では、「国家」が最初にあるような「総体的隷属社会」のもとで「国民的」市民が形成されてくることを、古代中国や、日本の江戸時代から明治時代にかけての思想を歴史的に考察するなかで明らかにする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>「経済学」という科学は人間社会の歴史とともに歩んできた内容を持つ。しかし、その学問としての成立過程は、19世紀に入ってヨーロッパ社会で「近代市民社会」が成立してくる時期と軌道を一つにしている。</p> <p>さて「経済学」の原型は、古代の社会で形成されてきた「帝王学」的な政治・経済の倫理・政策論に求められる。この場合に重要なのは古代中国で培われてきた「経世済民」という考え方であった。</p> <p>近代的な「経済学」の成立は、ヨーロッパ的な「市民社会」の発達との関係なしにはあり得ない。そこで近代ヨーロッパ社会での、フランス革命に象徴される「ブルジョアジー」およびその後登場してくる「プロレタリアート」が「経済学」のこの論の本質・その発展を追っていくことによって現代の「経済学」にもつながるこの論は、資本家的な生産システムが人間それ自体をコスト原則で規定していった「格差社会」なるもの作り上げて、それをさも「高度な社会」であるかのように吹聴する資本家的な国家体制のなかで、まさにこの非人間的な体制を根本から見直すべきものをもっている。</p> <p>そこでこの講義体系では「経世済民」論の成立過程そしてその本質と現代へつながっていく要素を明らかにして、現代にあってこの論の持つ意義を観ていく。</p> <p>講義のスケジュール： 講義は15回であるから、つぎのようなかたちになる： 第1章：「経世済民」思想(01-05回) 第2章：「経世済民論」と経済学(06-12回) 第3章：「経世済民論」と現代(13-15回)</p>
----------	---

準備学習	<p>1 大学の「授業」は、受講生の皆さんが自ら考え・研究していく、ということをもットとしていて。そこでこの「講義」は、皆さん一人一人が全員毎回授業に出席しノートをとって考えるというのが基本なので、もし止むを得なくて「欠席」するようなことがあれば、そのときにはどのような内容の講義がなされたのかなどを調べて自分の考えを身につけていることが必要である。</p> <p>2 この講義では、講師の著作であるテキストを2冊用いる。他人の思想というのは受講生にとって、それを吸収するにしても、自分自身の思想ではあり得ない。ましてや、テキストという形で提供されているものは、すでに過去に形成されたものである。受講生は、このテキストを批判的に考察し、現社会的なものと比較していかなければならない。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>講義開始の日にレポートの課題を提示するのでノートをとっておくこと。 出席の確認(授業中に適宜実施される)</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>この科目は講師からの一方通行の講義によるものではなくて、受講生の社会思想を通じた参加型のカリキュラムを目指している。受講生の積極的参加が重要視される。したがって次のようになる：</p>
---------	---

	<p>3回のレポートの作成 「成績評価」は以上の形で行い、「定期試験」は実施しない。したがってこの「定期試験」に伴う、「追試試験」等は行わないので注意して欲しい。</p>
--	---

教科書/テキスト	<p>教科書： 阿部弘『労働と所有』、八千代出版、2010 同『経世済民論と経済学』[新版]、創成社、2011</p>
----------	---

参考書	
-----	--

その他	<p>受講生との連絡に必要な「研究室」などを次に記しておく。 阿部弘 研究室 第2研究棟、5F 2538研究室 電話：03-3418-9360 メールアドレス:xupabe@nifty.com メールでは、基本的に 名前・講義名・用件を記すこと</p>
-----	--

履修コード	093221 093222
科目名	市民と経済学 b 社会思想史 b
担当者名	阿部 弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「経済学」は私たちが日常生活している「市民社会」と密接な関連をもって形成されてきた。そこでこの過程を概観することをこの講義の目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>「市民社会」の発達と「経済学」の形成過程</p> <p>「経済学」という科学は人間社会の歴史とともに歩んできた内容を持つ。しかし、その学問としての成立過程は、19世紀に入ってヨーロッパ社会で「近代市民社会」が成立してくる時期と軌道を一つにしている。</p> <p>さて「経済学」の原型は、古代の社会で形成されてきた「帝王学」的な政治・経済の倫理・政策論に求められる。この場合に重要なのは古代中国で培われてきた「経世済民」という考え方であった。この論に関しては、この講義の“a”の部分でおこなってきた。</p> <p>近代的な「経済学」の成立は、ヨーロッパ的な「市民社会」の発達との関係なしにはあり得ない。そこで近代ヨーロッパ社会での、フランス革命に象徴される「ブルジョアジー」およびその後登場してくる「プロレタリアート」が、「経済学」の成立過程にどのような影響を及ぼしたのかを考察する。そのうえで、現代社会で「経済学」は何を問題提起しているのかを受講生諸君と共に考えていく。</p> <p>講義スケジュール</p> <p>講義は15回であるので、次のスケジュールになる。</p> <p>第1章：「個人主義」思想の形成と「道徳哲学」の新たな展開(01-05回)</p> <p>第2章：フランス革命と「経済学」の形成過程(05-12回)</p> <p>第3章：現代の経済的諸問題(13-15回)</p>
----------	--

準備学習	<p>1 大学の「授業」は、受講生の皆さんが自ら考え・研究していく、ということをもットーとしている。そこでこの「講義」は、皆さん一人一人が全員毎回授業に出席しノートをとって考えるというのが基本なのでもし止むを得なくて「欠席」するようなことがあれば、そのときにはどのような内容の講義がなされたのかなどを調べて自分の考えを身につけていることが必要である。</p> <p>2 この講義では、講師の著作であるテキストを2冊用いる。他人の思想というのは受講生にとっては、それを吸収するにしても、自分自身の思想ではあり得ない。ましてや、テキストという形で提供されているものは、すでに過去に形成されたものである。受講生は、このテキストを批判的に考察し、現社会的なものと比較していかなければならない。</p>
------	--

履修上の留意点	講義開始の日にレポートの課題を提示するのでノートをとっておくこと。 出席の確認(授業中に適宜実施される)
---------	---

成績評価の方法	<p>この科目は講師からの一方通行的講義によるものではなくて、受講生の社会思想を通じた参加型のカリキュラムを目指している。受講生の積極的参加が重要視される。したがって次のようになる：</p> <p>3回のレポートの作成</p> <p>「成績評価」は以上の形で行い、「定期試験」は実施しない。したがってこの「定期試験」に伴う、「追試験」等は行わないので注意して欲しい。</p>
---------	---

教科書/テキスト	阿部弘：『労働と所有』、八千代出版、2010 同：『経世済民論と経済学』[新版]、創成社、2011
----------	--

参考書	
-----	--

その他	<p>受講生との連絡に必要な「研究室」などを次に記しておく。</p> <p>阿部弘 研究室 第2研究棟、5F 2538研究室 電話：03-3418-9360 メールアドレス:xupabe@nifty.com</p> <p>メールでは、基本的に 名前・講義名・用件を記すこと。</p>
-----	---

履修コード	097211
科目名	社会経済学 a
担当者名	阿部 弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この科目は「現代応用経済学科」の基本的科目の一つである。経済学がその形成期より現在に至るまで問題にしてきた「富」を論理的に考察する。人間の生活を反映する「富」(国富)は人間から乖離していった、資本関係の展開の中で、人間生活を否定することもまた「富」であるというような論理がマーケット(市場経済)を中心とする「競争」の中で形成されてくる。社会の中では貧富の格差は広がっていき、ついには「国」レベルから全地球レベルに広がる(グローバルゼーション)。また地球全体では現在でも続いている「帝国主義」の地球全体の破壊行為の結果、「地球の半分は飢えている」という状況が拡大されていっている。このような状況にあって、私たちは何をすべきか、わたしたちが支払っている税金(租税)は一体何に使われているのか、国や公共団体の役割は何かを把握することが課題となってくる。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>資本主義社会の「富」は貨幣や資本的な形で形成され運動していく。この「資本」という非人間的な、コスト原理で決定される価値＝「富」は人間を格差分断してしまうので、もはや「個人」のレベルでの生活を保障する富の形成は不可能になってしまう。人間、といってもその大半は、常に資本・企業のための労働者およびその「予備軍」として編成されていて、時間や機械(コンピュータやその他の機械)に隷属し、その挙げ句の果てには「過労死」というものが待ち受けている状態にある。更に退職して公認の失業体制に入っても、資本家的な国家の本質・仕組みのために、老人医療や看護、そして年金システムなどは瓦解し、収入のない個人々の負担の増大(税金の二重取り)の中で、人々は強制的に死に追いやられるというのが現状である。このようななかにおいて、このシステムに反映している「公共的なもの」とは何かを追究していくことが、国家・政府(地方自治体を含む)の意義・活動を社会に位置づけていく上で重要になってくる。また私的・個別的な次元では統御不可能な「共通の利益」の観点の形成がどのようにすれば可能なかを考察していく。</p> <p>講義のプラン：講義回数は15回なので、次のような形ですすめる：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「富」とは何か(01-05回) <ol style="list-style-type: none"> (1) 「富」の商品的規定 01 (2) 「商品」 02 (3) 人間の外部に形成される富 03 * R1(第1回レポート)に向けての課題とその特徴点の整理 04 # 自宅学習 * R1でのレポートの特徴と問題点およびレポート返却 05 2. 資本家的な生産様式の基本(06-08回) <ol style="list-style-type: none"> (1) 資本と資本的富 06 (2) 人間の労働力商品の変資本化 07 (3) 資本蓄積 08 3. 取得の体系とその社会化の問題点(09-15回) <ol style="list-style-type: none"> (1) 私的所有とその体系の理論的・歴史的概観 09 (2) 資本関係と私的所有 10 (3) 労働者と労働力商品—その所有としての問題点 11 * R2 に向けた「総括」 12 * R2に向けての課題とその特徴点の整理 13 # 自宅学習 * R2でのレポートの特徴と問題点およびレポート返却 14 * R3に向けての課題とその特徴点の整理 15 # 「自宅学習」による講義回数欠如については極力「補講」をする形で補うが、それでも足りない場合には、「教務部」の手を煩わすことなしに(日曜日など)講師が教場を確保してこれを行うことにする。
----------	---

準備学習	<p>1 大学の「授業」は、受講生の皆さんが自ら考え・研究していく、ということをもットーとしている。そこでこの「講義」は、皆さん一人一人が全員毎回授業に出席しノートをとって考えるというのが基本なのでもし止むを得なくて「欠席」するようなことがあれば、そのときにはどのような内容の講義がなされたのかなどを調べて自分の考えを身につけることが必要である。</p> <p>2 この講義では、講師の著作であるテキストを2冊用いる。他人の思想というのは受講生にとつては、それを吸収するにしても、自分自身の思想ではあり得ない。ましてや、テキストという形で提供されているものは、すでに過去に形成されたものであるから、受講生は、このテキストを批判的に考察し、現社会的なものと比較していかなければならない。</p>
------	--

履修上の留意点	この科目は初年次「選択必修」である。皆さん全員にこの科目を履修してもらうために「レポート」を3回おこなうので、出席が重要になる。不定期ではあるが、出席の確認を簡単なレポートで行う。
---------	--

成績評価の方法	<p>1 レポートによる評価</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 3回の「レポート」(R1など)で評価する。 (2) レポートは、R1: 5月/ R2: 6月/ R3: 7月である。 <p>* R1のテーマは講義開始日(4月)に発表する。なおこのテーマを4月中に知ろうとしないものは失格とする。またレポート返却日から次のレポートの1週間前の授業までにレポートを取りにこない場合は失格とする。</p> <p>2 その他: 「定期試験」は行なわない。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>教科書：阿部弘：『労働と所有』八千代出版、1983</p> <p>阿部弘：『経世済民論と経済学』(新版)、創成社、2011</p>
----------	--

参考書	
-----	--

その他	<p>その他講師との連絡：講師との連絡が必要になると思われるので、次に記しておく：</p> <p>阿部弘：研究室：第2研究棟 5F No.2538室 TEL:03-3418-9360 メール・アドレス:xupabe@nifty.com</p>
-----	---

履修コード	097221
科目名	社会経済学 b
担当者名	阿部 弘
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この科目は「社会経済学 a」の発展したものである。講義「a」では、私たちの社会の「富」とは何かをその原理から明らかにしてきて、この「富」を私たち自身がどのようにして管理・享受していったらよいのか、問題提起してきた。この後期の講義では、主として人間の「価値観」と「富」の関係について、「生活」という人間的なものから接近・分析していく。この場合に、人間の「価値観」が、その生活の歴史的また「イエ」的な環境によって形成されてくることを把握する。この場合の「イエ」的なイデオロギー化したものは、多分に封建的であり、人間の間に、人種(民族)・性・能力・年齢などで差別・支配を持ち込む。そのような状況を打開するにはどうしたらよいのか、わたしたちを取り巻く企業そしてわたしたちが税金(租税)を支払って構築してきた国家・公共団体はこれにどのように対処してきたのかを分析し、わたしたち自身がこれらの権力機構とどのように向きあっていくのか、またわたしたち自身の問題解決方法を模索することにある。
授業スケジュール	講義の内容：最初に人間と労働との関係を考察し、労働の社会的性格を観ていくが、その共同体的な「イエ」的な性格から脱却して、社会的関係である「市民」価値観がマーケットを中心とする人間のコミュニケーションの構築によって形成され、そしてこの価値観がさらに企業的なものや、国家的なものへと展開していく貌を明らかにすると同時に、その過程で生じてくるさまざまな矛盾の実態を明らかにする。特に日本社会の場合には、「市民」とか「マーケット」というヨーロッパ的な概念が存在していなかったため、いまだに朝の朝礼で宮参りを済ませて仕事に入っていくような「慣習」が存在し、上下関係も支配関係として君臨している。このような中で、「ノルマ」・「コスト」的な人間いじめが展開され、人間の労働力は疲弊する。このような人間に対する非人間的な要素を取り払っていくには個々人のバラバラの対応では展望もあり得なく、これら矛盾を解決していくのに「労働」を軸にした組織的対策が必要なのでその方向性を探ると共に、このような社会の矛盾を国家や公共体がいかに措置してきたのかを分析していく。 講義のプラン：講義回数は15回なので、次のような形ですめる： 1. 社会的価値体系 (01-05回) (1) 人間と労働 No. 01 (2) 労働と生産 02 (3) 生産の有つ社会的性格 03 * R1(第1回レポート)に向けての課題とその特徴点の整理 04 # 自宅学習 * R1でのレポートの特徴と問題点およびレポート返却 05 2. 「市民」価値としての社会的価値 (06-08回) (1) 「個人」と「市民」の分裂 06 (2) 社会の中での「イエ」の位置 07 (3) 「イエ」的価値とマーケット価値 08 3. 矛盾と再生 (09-15) (1) マーケットと新たな「個人」の現身としての「企業体(法人)」 09 (2) 「企業体」とその連合体 10 (3) 国民・民族と国家・地球 11 * R2 に向けた「総括」 12 * R2に向けての課題とその特徴点の整理 13 # 自宅学習 * R2でのレポートの特徴と問題点およびレポート返却 14 * R3に向けての課題とその特徴点の整理 15 # 「自宅学習」による講義回数欠如については極力「補講」をする形で補うが、それでも足りない場合には、「教務部」の手を煩わすことなしに(日曜日など)講師が教場を確保してこれを行うことにする。
準備学習	1 大学の「授業」は、受講生の皆さんが自ら考え・研究していく、ということをもットーとしている。そこでこの「講義」は、皆さん一人一人が全員毎回授業に出席しノートをとって考えというのが基本なので、止むを得なくて「欠席」するようなことがあれば、そのときにはどのような内容の講義がなされたのかなどを調べて自分の考えを身につけていることが必要である。 2 この講義では、講師の著作であるテキストを2冊用いる。他人の思想というのは受講生にとっでは、それを吸収するにしても、自分自身の思想ではあり得ない。ましてや、テキストという形で提供されているものは、すでに過去に形成されたものであるため、受講生は、このテキストを批判的に考察し、現社会的なものと比較していかなければならない。
履修上の留意点	この科目は初年次「選択必修」である。皆さん全員がこの科目を履修してもらうために「レポート」を3回行うので、出席が重要になる。不定期ではあるが、出席の確認を簡単なペーパーで行う。
成績評価の方法	1 レポートによる評価 (1) 3回の「レポート」(R1など)で評価する。 (2) レポートは、R1: 10月/ R2: 11-12月/ R3: 12-1月である。 * R1のテーマは講義開始日(9月)に発表する。なおこのテーマを9月-10月中旬に知ろうとしないものは失格とする。またレポート返却日から次のレポートの1週間前の授業までにレポートを取りこない場合は失格とする。 2 その他: 「定期試験」は行なわない。
教科書/テキスト	阿部弘: 『労働と所有』八千代出版、1983 阿部弘: 『経世済民論と経済学』(新版)、創成社、2011
参考書	
その他	その他講師との連絡: 講師との連絡が必要になると思われるので、次に記しておく: 阿部弘: 研究室: 第2研究棟 5F No. 2538室 TEL: 03-3418-9360 メール・アドレス: xupabe@nifty.com

履修コード	312611
科目名	社会思想史 a
担当者名	阿部 弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	私たちが何気なしに用いている「市民」という概念は、私たち自身の現在の「社会」との関わり のなかで用いられている概念である。「市民」・「市民社会」という概念は、実は歴史的に形成 されてきたものである。これらの概念の成り立ちと共に、「経済学」もまた形成されてくる。こ の場合、「経済学」は「国家」的なシステムの構築と共に存在してきた。この講義では「市 民」・「市民社会」・「国家」と「経済学」形成の因果関係を明らかにする。まず最初に、この 「前期科目a」では、「国家」が最初にあるような「総体的隷属社会」のもとで「国民」的「市 民」が形成されてくることを、古代中国や、日本の江戸時代から明治時代にかけての思想を歴史 的に考察するなかで明らかにする。
---------------------	---

授業スケジュール	「経済学」という科学は人間社会の歴史とともに歩んできた内容を持つ。しかし、その学問とし ての成立過程は、19世紀に入ってヨーロッパ社会で「近代市民社会」が成立してくる時期と軌 道を一つにしている。 さて「経済学」の原型は、古代の社会で形成されてきた「帝王学」的な政治・経済の倫理・政策 論に求められる。この場合に重要なのは古代中国で培われてきた「経世済民」という考え方 であった。 近代的な「経済学」の成立は、ヨーロッパ的な「市民社会」の発達との関係なしにはあり得な い。そこで近代ヨーロッパ社会での、フランス革命に象徴される「ブルジョアジー」およびその 後に登場してくる「プロレタリアート」が「経済学」のこの論の本質・その発展を追っていく ことによって現代の「経済学」にもつながるこの論は、資本家的な生産システムが人間それ自体 をコスト原則で規定していった、「格差社会」なるもの作り上げて、それをさも「高度な社会」 であるかのように吹聴する資本家的な国家体制のなかで、まさにこの非人間的な体制を根本から 見直すべきものをもってしている。 そこでこの講義体系では「経世済民」論の成立過程そしてその本質と現代へつながっていく要素 を明らかにして、現代にあつてこの論の持つ意義を観ていく。 講義のスケジュール: 講義は15回であるから、つぎのようなかたちになる: 第1章:「経世済民」思想(01-05回) 第2章:「経世済民論」と経済学(06-12回) 第3章:「経世済民論」と現代(13-15回)
----------	--

準備学習	1 大学の「授業」は、受講生の皆さんが自ら考え・研究していく、ということをもットーとして いる。そこでこの「講義」は、皆さん一人一人が全員毎回授業に出席しノートをとって考える というのが基本なのでもし止むを得なくて「欠席」するようなことがあれば、そのときにはどの ような内容の講義がなされたのかなどを調べて自分の考えを身につけていることが必要である。 2 この講義では、講師の著作であるテキストを2冊用いる。他人の思想というのは受講生にとつ ては、それを吸収するにしても、自分自身の思想ではあり得ない。ましてや、テキストという形 で提供されているものは、すでに過去に形成されたものであるもので、受講生は、このテキストを 批判的に考察し、現社会的なものと比較していかなければならない。
------	--

履修上の留意点	講義開始の日にレポートの課題を提示するのでノートをとっておくこと。 出席の確認(授業中に適宜実施される)
---------	---

成績評価の方法	この科目は講師からの一方通行的講義によるものではなくて、受講生の社会思想を通じた参加型 のカリキュラムを目指しているため、受講生の積極的参加が重要視される。したがって次のよう になる: 3回のレポートの作成 「成績評価」は以上の形で行い、「定期試験」は実施しない。したがってこの「定期試験」に伴 う、「追試験」等は行わないので注意して欲しい。
---------	--

教科書/テキスト	教科書: 阿部弘『労働と所有』、八千代出版、2010 同『経世済民論と経済学』[新版]、創成社、2011
----------	---

参考書	
-----	--

その他	受講生との連絡に必要な「研究室」などを次に記しておく。 阿部弘 研究室 第2研究棟、5F 2538研究室 電話: 03-3418-9360 メールアドレス: xupabe@nifty.com メールでは、基本的に 名前・講義名・用件を記すこと
-----	---

履修コード	312621
科目名	社会思想史 b
担当者名	阿部 弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「経済学」は私たちが日常生活している「市民社会」と密接な関連をもって形成されてきた。そこでこの過程を概観することをこの講義の目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>「市民社会」の発達と「経済学」の形成過程 「経済学」という科学は人間社会の歴史とともに歩んできた内容を持つ。しかし、その学問としての成立過程は、19世紀に入ってヨーロッパ社会で「近代市民社会」が成立してくる時期と軌道を一つにしている。</p> <p>さて「経済学」の原型は、古代の社会で形成されてきた「帝王学」的な政治・経済の倫理・政策論に求められる。この場合に重要なのは古代中国で培われてきた「経世済民」という考え方があった。この論に関しては、この講義の“a”の部分でおこなってきた。</p> <p>近代的な「経済学」の成立は、ヨーロッパ的な「市民社会」の発達との関係なしにはあり得ない。そこで近代ヨーロッパ社会での、フランス革命に象徴される「ブルジョアジー」およびその後登場してくる「プロレタリアート」が、「経済学」の成立過程にどのような影響を及ぼしたのかを考察する。そのうえで、現代社会で「経済学」は何を問題提起しているのかを受講生諸君と共に考えていく。</p> <p>講義スケジュール 講義は15回であるので、次のスケジュールになる。 第1章：「個人主義」思想の形成と「道徳哲学」の新たな展開(01-05回) 第2章：フランス革命と「経済学」の形成過程(05-12回) 第3章：現代の経済的諸問題(13-15回)</p>
----------	--

準備学習	<p>1 大学の「授業」は、受講生の皆さんが自ら考え・研究していく、ということをもットーとしている。そこでこの「講義」は、皆さん一人一人が全員毎回授業に出席しノートをとって考えるというのが基本なのでもし止むを得なくて「欠席」するようなことがあれば、そのときにはどのような内容の講義がなされたのかなどを調べて自分の考えを身につけていることが必要である。</p> <p>2 この講義では、講師の著作であるテキストを2冊用いる。他人の思想というのは受講生にとっては、それを吸収するにしても、自分自身の思想ではあり得ない。ましてや、テキストという形で提供されているものは、すでに過去に形成されたものである。受講生は、このテキストを批判的に考察し、現社会的なものと比較していかなければならない。</p>
------	--

履修上の留意点	講義開始の日にレポートの課題を提示するのでノートをとっておくこと。 出席の確認(授業中に適宜実施される)
---------	---

成績評価の方法	<p>この科目は講師からの一方通行的講義によるものではなくて、受講生の社会思想を通じた参加型のカリキュラムを目指している。受講生の積極的参加が重要視される。したがって次のようになる：</p> <p>3回のレポートの作成 「成績評価」は以上の形で行い、「定期試験」は実施しない。したがってこの「定期試験」に伴う、「追試験」等は行わないので注意して欲しい。</p>
---------	---

教科書/テキスト	阿部弘：『労働と所有』、八千代出版、2010 同：『経世済民論と経済学』[新版]、創成社、2011
----------	--

参考書	
-----	--

その他	<p>受講生との連絡に必要な「研究室」などを次に記しておく。 阿部弘 研究室 第2研究棟、5F 2538研究室 電話：03-3418-9360 メールアドレス:xupabe@nifty.com メールでは、基本的に名前・講義名・用件を記すこと。</p>
-----	--

履修コード	091001
科目名	社会政策
担当者名	光岡 博美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>社会政策という科目は、経済学の中でも古い歴史をもっている。その詳細については最初の講義で解説する。この講義計画では、社会政策とは、資本主義社会の各々の時代において発生する社会問題の原因を学問的に究明し、その問題を解決するための政策を多面的に研究することを目的とする学問である、と定義しておきたい。そして、この場合、社会政策という学問のなかで特に重視されてきたのは、労働問題や社会保障・福祉etcといった社会問題である。経済学という研究の分野は、財・サービスの生産・分配・消費に関する研究としてイメージされるが、これにたいして社会政策は労働力と生命の再生産が、どのような社会・経済のシステムとの関連で展開されているのかを研究する学問であるといつてよい。</p> <p>このような大きな領域を全般的に講義することは不可能であるから、この講義では現代の日本社会を念頭に置き、そこで重要と思われるテーマを設定し、各々のテーマについて講義、解説する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>年間の具体的な講義スケジュールは、(1)現代日本の労働・雇用問題(5回)、(2)社会政策、労働関係、労働組合の理論(5回)、(3)戦後日本の労使関係史(6回)、(4)福祉国家の歴史と理論(3回)、(5)日本型福祉の現実(3回)、(6)現代日本の女性労働、フェミニズム論、(3回)を予定している。</p>
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	<p>受講者数が多いせいもあり、私語によって、授業が円滑に進行しないことがある。授業に支障が生ずる場合、厳しい措置を取る。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>期末試験で評価する。具体的な内容は授業時に詳しく説明する。</p>
---------	--------------------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	<p>講義の内容と関連して参考書を適時指示する。また、毎講義ごとにレジュメを配布する。</p>
-----	---

履修コード	311801
科目名	社会政策
担当者名	光岡 博美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>社会政策という科目は、経済学の中でも古い歴史をもっている。その詳細については最初の講義で解説する。この講義計画では、社会政策とは、資本主義社会の各々の時代において発生する社会問題の原因を学問的に究明し、その問題を解決するための政策を多面的に研究することを目的とする学問である、と定義しておきたい。そして、この場合、社会政策という学問のなかで特に重視されてきたのは、労働問題や社会保障・福祉etcといった社会問題である。経済学という研究の分野は、財・サービスの生産・分配・消費に関する研究としてイメージされるが、これにたいして社会政策は労働力と生命の再生産が、どのような社会・経済のシステムとの関連で展開されているのかを研究する学問であるといつてよい。</p> <p>このような大きな領域を全般的に講義することは不可能であるから、この講義では現代の日本社会を念頭に置き、そこで重要と思われるテーマを設定し、各々のテーマについて講義、解説する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>年間の具体的な講義スケジュールは、(1)現代日本の労働・雇用問題(5回)、(2)社会政策、労働関係、労働組合の理論(5回)、(3)戦後日本の労使関係史(6回)、(4)福祉国家の歴史と理論(3回)、(5)日本型福祉の現実(3回)、(6)現代日本の女性労働、フェミニズム論、(3回)を予定している。</p>
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	<p>受講者数が多いせいもあり、私語によって、授業が円滑に進行しないことがある。授業に支障が生ずる場合、厳しい措置を取る。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>期末試験で評価する。具体的な内容は授業時に詳しく説明する。</p>
---------	--------------------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	<p>講義の内容と関連して参考書を適時指示する。また、毎講義ごとにレジュメを配布する。</p>
-----	---

履修コード	325301
科目名	社会保障法
担当者名	原田 啓一郎
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 社会保障法の各分野の基本的な体系、法主体間の権利義務関係及び法解釈上の論点を学習する。 (到達目標) 社会保障に関する法制度を正確に理解し、どこに課題があり、どのような解決が望ましいかを考察する力を養うことを目標とする。
授業スケジュール	第1～3回社会保障の法体系・保障方法、第4～20回社会保険法（医療・年金・介護・労災・雇用）、第21～25回社会福祉法、第26～30回公的扶助法
準備学習	・次週の講義範囲は講義内で連絡をするので、教科書の該当箇所及び判例を予め読んでおくこと。
履修上の留意点	・社会保障に関する法政策上の課題については、同担当教員の科目「社会政策」で取り扱うので、同時に履修することが望ましい。「社会保障法」と「社会政策」の両科目を履修することにより、社会保障に関する法制度と政策的課題を立体的に理解することが可能となる。
成績評価の方法	学期末試験による。
教科書／テキスト	・教科書は開講時に指定する。 ・指定教科書のほかに下記の法令集を毎回持参すること。 労働調査会出版局（編）『社会保障法令便覧 2012』（労働調査会、2012年）
参考書	・西村健一郎・岩村正彦〔編〕『社会保障判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2008年） その他の文献は適宜指示する。

履修コード	450101 450102
科目名	就業力基礎III
担当者名	中 濟 光昭 絹川 真哉 長山 宗広 矢野 浩一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本科目は、産業界等との連携による実学的専門教育を含む、学生の卒業後の社会的・職業的自立を目的とし、1年次から4年次まで行われる就業力育成科目群の2年次科目です。2年次では進路に合わせて受講科目を選択する等の履修選択を行える、学外での実習と振り返りにより、多様な職業・生き方を理解し、ワークライフバランスを考えることができる、キャリアガイダンスなどを自主的に活用し働くことの意義の理解を深められることを目標とします。</p> <p>この科目で、皆さんに考えてほしいことは、仕事の面から見た「人生そのもの」といえます。ですからこの科目が目指すものは、単に優れた就職先にみなさんが採用されればいいというものではありません。「人生をどう生きていくのか」「そもそも自分はなぜ生まれてきたのか」「何をすべきなのか」を考え、それに基づいて職業を考えるということなのです。</p>
授業スケジュール	<p>① 4/12 オリエンテーション・システム説明・ディスカッションの進め方・他人紹介</p> <p>② 4/19 ライフプランをつくろう</p> <p>③ 4/26 働くことの意味</p> <p>④ 5/10 社会人から仕事の話聞くことの意義</p> <p>⑤ 5/17 産学連携プロジェクト(中小企業庁の取り組み)</p> <p>⑥ 5/24 キャリア講座に参加</p> <p>⑦ 5/31 中間報告</p> <p>⑧ 6/7 ケーススタディ</p> <p>⑨ 6/14 自己分析(前編:過去を振り返ろう)</p> <p>⑩ 6/21 自己分析(後編:未来を考えよう)</p> <p>⑪ 6/28 産学協同プロジェクトの準備</p> <p>⑫ 7/5 産学協同プロジェクト(7月4日)</p> <p>⑬ 7/12 産学協同プロジェクトを受けてのディスカッション</p> <p>⑭ 7/19 第1回~第13回のまとめ</p> <p>⑮ 後期に向けてのガイダンス</p>
準備学習	<p>経済学部は、基礎ゼミ(商・現代応用)や基礎情報処理、情報入門の単位を取得していることが望ましい。</p> <p>GMS学部は、グローバルメディアスタディーズ概論、情報リテラシー、情報リテラシー実習の単位を取得していることが望ましい。</p> <p>ポートフォリオ(行動計画)は前週の反省を踏まえ毎週行う。</p>
履修上の留意点	<p>1) この科目では、社会人として必要な力を理解し、大学生生活からいかにそれを身につけるかを、人材開発会社と共同で開発したテキストを使って学ぶ。積極的に知識を吸収することを期待している。</p> <p>2) この科目はグループ単位で、自習形式で課題に取り組む。その際先輩(学生サポーター)がアドバイスをする。学生サポーターの指示に従い、きちんと課題に取り組むこと。</p> <p>3) 課題に取り組むための教室を使って木曜6時限に課題を行う。したがって木曜6時限には他の講義などを入れないこと。</p> <p>4) 平成23年度入学生のみ対象の科目です。</p> <p>5) 定期試験および追試験は行わない。</p> <p>6) 定期試験期間に就業力を測定するためのテストを行う予定である。</p> <p>7) 産学連携プロジェクトの日程は変更される場合がある。</p>
成績評価の方法	授業時間中の課題、グループで取り組む課題、就職ガイダンス等の課外活動の結果から総合的に評価する。
教科書/テキスト	開講時に配布
参考書	必要に応じて紹介する。
その他	平成23年度入学生のみ対象の科目です。昨年度の実業力基礎Iのコラムのテーマを元に木曜5限に「現代経済事情I」を開講します。ぜひ受講して下さい。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/gp/

履修コード	450151 450152
科目名	就業力基礎Ⅳ
担当者名	中濟 光昭 絹川 真哉 長山 宗広 矢野 浩一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本科目は、産業界等との連携による実学的専門教育を含む、学生の卒業後の社会的・職業的自立を目的とし、1年次から4年次まで行われる就業力育成科目群の2年次科目です。2年次では、進路に合わせて受講科目を選択する等の履修選択を行える、学外での実習と振り返りにより、多様な職業・生き方を理解し、ワークライフバランスを考えることができる、キャリアガイダンスなどを自立的に活用し働くことの意義の理解を深められることを目標とします。</p> <p>この科目では、企業研究、職種についての理解、ケーススタディを通じて仕事に対する心構えや希望する進路に就くために何をすべきかなどについて考え、自ら準備を進められるようにサポートをしていきます。</p>
授業スケジュール	<p>① 9/20 夏休みの課題発表 (ビジネス漫画・小説を読んだ感想)</p> <p>② 9/27 わが国の企業について、業種・業界について</p> <p>③ 10/4 働く場について知ろう! ~企業について~, 組織</p> <p>④ 10/11 中小企業で働くということ</p> <p>⑤ 10/18 四季報・会社情報の読み方</p> <p>⑥ 10/25 産学協同プロジェクト</p> <p>⑦ 11/1 産学協同プロジェクトを受けて</p> <p>⑧ 11/8 キャリア講座</p> <p>⑨ 11/15 キャリア講座を受けて</p> <p>⑩ 11/22 ケーススタディ1</p> <p>⑪ 11/29 グループディスカッション</p> <p>⑫ 12/6 ケーススタディ2</p> <p>⑬ 12/13 チェックポイントレビュー</p> <p>⑭ 12/20 まとめ</p> <p>⑮ 次年度へ向けてのアドバイス</p>
準備学習	<p>経済学部は、基礎ゼミ (商・現代応用) や基礎情報処理、情報入門の単位を取得していることが望ましい。</p> <p>GMS学部は、グローバルメディアスタディーズ概論、情報リテラシー、情報リテラシー実習の単位を取得していることが望ましい。</p> <p>ポートフォリオ (行動計画) は前週の反省を踏まえ毎週行う。</p>
履修上の留意点	<p>1) この科目では、社会人として必要な力を理解し、大学生生活からいかにそれを身につけるかを、人材開発会社と共同で開発したテキストを使って学ぶ。積極的に知識を吸収することを期待している。</p> <p>2) この科目はグループ単位で、自習形式で課題に取り組む。その際先輩 (学生サポーター) がアドバイスをする。学生サポーターの指示に従い、きちんと課題に取り組むこと。</p> <p>3) 課題に取り組むための教室を使って木曜6時限に課題を行う。したがって木曜6時限には他の講義などを入れないこと。</p> <p>4) 平成23年度入学生のみ対象の科目です。</p> <p>5) 定期試験および追試験は行わない。</p> <p>6) 定期試験期間に就業力を測定するためのテストを行う予定である。</p> <p>7) 産学連携プロジェクトは日程を変更する場合がある。</p>
成績評価の方法	授業時間中の課題、グループで取り組む課題、就職ガイダンス等の課外活動の結果から総合的に評価する。
教科書/テキスト	開講時に配布
参考書	必要に応じて紹介する。
その他	平成23年度入学生のみ対象の科目です。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/gp/

履修コード	307501
科目名	商学総論
担当者名	大吹 勝男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>大学で学ぶことは、将来君たちが人間らしく生きるための助けになるものでなければなりません。本学もまた大学である限り、学問の場でなければなりません。いいかえれば、大学においてしか学ぶことのできない、物事の見方、考え方を身につけることです。さらにいうならば、実用的でないもの、すぐには役に立たないもの、これらを学ぶのが大学です。諸君が、悩みに悩み、迷いに迷って、大人になっていくところが、大学という場です。キャリアを積んだビジネスマンから多く聞くことは、学生時代に「学問」をしておくべきであったということです。諸君も、過労死や過労自殺をすることなく、使い捨てのサラリーマンになることのないように、体系的に物事を考える能力を身につけてください。そして、社会人として現実に困難な問題に直面しても、学問をした人間として、大学の卒業生として、きちっと解決のできる人間になってください。本講義では、現代における流通および商業に関する諸現象を科学的に認識するために必要な流通理論および商業資本の理論を講義しますが、それらの知識を習得するとともに、それらを学ぶ過程において体系的な思考方法を習得し、思考能力を高めてください。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(1～3) 商品、貨幣および資本 (4～7) 商品の生産過程と価値増殖の仕組み (8～16) 資本の流通過程、流通時間、販売および購買費用、商品在庫と保管費用、市場と商品の輸送、倉庫業および輸送業 (17～20) 商業資本の本質と機能、商業資本自立化の利益と根拠 (21～28) 商品買取資本と商業利潤、純粋流通費用および商業的可変資本と商業利潤、純粋流通費用および商業的可変資本の回収・補填 (29～30) 商業的賃労働者・ホワイトカラー労働者と商業利潤</p>
----------	---

準備学習	テキスト (前期：流通諸費用の理論的研究 後期：商業資本の理論的研究) を読んでおくこと。
------	---

履修上の留意点	
成績評価の方法	成績は期末試験により評価します。

教科書／テキスト	<p>大吹勝男著『流通諸費用の理論的研究』梓出版社 2100円 大吹勝男著『商業資本の基礎理論』梓出版社 1500円</p>
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	092311
科目名	上級簿記
担当者名	福島 隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 簿記とは、財務諸表を作成するための技術です。この授業では、日商簿記検定2級 (商業簿記と工業簿記) の内容と1級の導入部分について学びます。 (到達目標) この授業の最終的な到達目標は、①日商簿記検定2級に合格できる知識を習得する、②日商簿記検定1級の基礎知識を習得するの2つです。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	(1) ガイダンス、(2～18) 商業簿記、(19～27) 工業簿記、(28～30) 連結会計等
----------	--

準備学習	日商簿記3級の範囲については、授業中は必要最小限しか触れませんが、各自復習しておいてください。
------	---

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・日商簿記3級程度の知識があることを前提に講義をします。 ・1回目のガイダンスで授業の進行方法・成績評価などを説明しますので、履修予定者は必ず出席して下さい。 ・遅刻は10分まで認めず。授業中の私語で注意された学生は、大幅減点されます。
---------	--

成績評価の方法	<p>以下のうち、より高い点数で評価します。 【平常点重視型】 平常点 (課題等) 30%、小テスト (2回) 30%、定期試験40% 【試験重視型】 小テスト (2回) 60%、定期試験40%</p>
---------	---

教科書／テキスト	福島隆『上級簿記』、定価は未定。担当講師が駒沢大学で上級簿記を教えるために自作したもので、市販されていません。大学の購買部で購入してもらいます。
----------	--

参考書	必要に応じて指示します。簿記検定を目指す学生は、過去問題集を購入するといいでしょ。
-----	---

その他	電卓を持参してください。
-----	--------------

履修コード	096501
科目名	商業史
担当者名	幸野 保典

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>広い意味での商業とは、商品（あるいはサービス）を円滑に生産者から消費者（あるいはサービスの受益者）に社会移転させる行為を指す。生産者から消費者へ商品が移転する過程、すなわち、商品取引過程で介在する倉庫業・運輸業や金融業・保険業も広義の商業の中に含まれる。本講義では、いわゆる狭義の商業とされる問屋・卸と小売業を中心として、これらの歴史的展開を幕末維新期から戦前期(1859年～1945年)までを四期に区切り検討する。そして社会経済構造の変容とかかわらせながら、当該期間問屋・卸と小売業が、商業機構の内部での役割をどのように変化させたか、また新たな商業形態をいかに出現させ、発展させていったかを考察する。上記のとおり、問屋・卸と小売業を中心とするが、当該期間における消費の変容、商業（流通）政策、労働（商業使用人）にも言及する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>講義の内容・授業スケジュール</p> <p>第1期 外圧への権力・商人的対応。第1回 商業史の課題と方法。第2回～第3回 自由貿易の開始から産業革命へ。第4回～第5回 外圧の下で拡大する国内市場。第6回～第7回 問屋＝卸商主導の商業機構の再編。</p> <p>第2期 日清・日露戦争より第一次大戦期。第8回～第9回 産業革命の進行と生活・社会に現出する諸変化。第10回～第11回 商業関連政策・制度の整備。第12回～第13回 商業インフラの拡充と問屋。第14回～第15回 第一次大戦期の商業と消費。</p> <p>第3期 戦間期の商業と消費—不況・恐慌から景気回復へ—。第16回～第17回 俸給生活者の増加と消費構造の変化。第18回～第19回 関東大震災以後の商業の変容。第20回～第21回 小売業の新たな展開。第22回～第23回 1930年代の中小小売商の窮乏化と政策対応。</p> <p>第4期 戦時下の商業。第24回～第25回 日中戦争の開始と商業。第26回～第28回 百貨店の中国大陸進出。第29回 統制経済の進展と転廃業。第30回 「満洲帰納移民」と武蔵小山商店街</p>
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	出席を取る予定です。
---------	------------

成績評価の方法	前期にレポート、後期に筆記試験を行う。
---------	---------------------

教科書／テキスト	石井寛治編『近代日本流通史』（東京堂出版）2005年 2,800円＋税 ISBN4-490-20550-3
----------	--

参考書	石井寛治『日本流通史』（有斐閣）2003年。鈴木安昭『昭和初期の小売商問題』（日本経済新聞社）1980年。石原武政・矢作敏行『日本の流通100年』（有斐閣）2004年。
-----	--

その他	授業の方法—講義形式で行う。
-----	----------------

履修コード	091701 091702
科目名	流通政策 商業政策
担当者名	番場 博之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経済活動としての流通活動は、単なる競争ではなくルールにもとづく競争である。そして、このような流通に関わる方針やルール（公共政策）のことを流通政策という。本講義では、流通に関わるルールが必要とされた流通問題に言及しながら、流通政策の必要性や体系およびその具体的な内容と運用について解説する。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(1) 流通問題と流通政策の考え方 【流通の基礎知識】 (2) 流通発生メカニズム (3) 商品と消費者 (4) 流通と商業の役割 (5) 卸売業の役割と機能 (6) 小売業の役割と機能 【現代流通と政策を必要とする流通問題】 (7) 小売業のチェーン化とマーケティングの変化 (8) 電子商取引の普及と外資小売業の参入 (9) 中小商業と商店街の疲弊 (10) 高齢化とフードデザート問題 (11) バイイングパワーの拡大と企業間関係の変化 【流通政策の枠組み】 (12) 流通政策の目的と必要性 (13) 経済政策・社会政策と流通政策 (14) 流通政策の体系 (15) 現代流通と流通政策（前期のまとめと後期の予習）</p> <hr/> <p>(16) 流通政策の体系と変遷（前期の復習と後期の概要） 【競争政策①：独禁法】 (17) 競争政策の目的と競争政策三法 (18) 独禁法の考え方 (19) 独禁法と公正取引委員会・消費者庁 (20) 不公正な取引問題 【競争政策②：再販制と景表法】 (21) 再販売価格維持制度 (22) 景品表示法 【振興政策と調整政策】 (23) 振興政策の展開（中小小売商業振興法） (24) 調整政策の歴史①（百貨店法） (25) 調整政策の歴史②（大店法） 【まちづくり政策】 (26) 小売商業政策の転換とまちづくり三法 (27) 大店立地法・中心市街地活性化法・都市計画法 (28) まちづくり三法の問題と2006年改正 (29) コンパクトシティ構想とまちづくり (30) 日本と世界の流通政策（年間の復習）</p>
----------	---

準備学習	「流通論基礎」を履修済みであることが望ましい。
履修上の留意点	詳細かつ正確なシラバスは開講時に配布する。
成績評価の方法	定期試験によって評価する。ただし、若干の平常点等を加味することもある。
教科書／テキスト	加藤義忠・齋藤雅通・佐々木保幸編 『現代流通入門』有斐閣 978-4-641-18351-3
参考書	渡辺達朗『流通政策入門 第3版』中央経済社、2011年。 岩下弘『イギリスと日本の流通政策』大月書店、2007年。 番場博之『零細小売業の存立構造研究』白桃書房、2003年。

履修コード	309301
科目名	商業政策
担当者名	番場 博之

授業概要/ 到達目標（ねらい）	日本の流通とそれに関わるルールについて理解してもらうことを目的としています。できるだけ、現実的な問題を事例として取り上げながら、商業政策の全体像が理解できるように指導していきます。
--------------------	--

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> (1) 流通・商業問題と流通・商業政策の考え方 (2～5) 流通の基礎知識 (6～9) 商業の基礎知識 (10～15) 流通・商業政策の枠組み (16～21) 競争政策 (22～27) 振興政策 (28～30) まちづくりの事例とまちづくり政策
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	履修者の理解度や関心にあわせて講義内容やスケジュール等を調整します。
---------	------------------------------------

成績評価の方法	平常点で評価します
---------	-----------

教科書／テキスト	教員の方で必要に応じて準備します。
----------	-------------------

参考書	教員の方で必要に応じて準備します。
-----	-------------------

履修コード	096601
科目名	消費経済論
担当者名	姉齒 暁

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>「消費」とは、私たちが毎日生活する上で避けて通ることのできない経済活動です。とりわけ、私たちが日々行う「消費」は最終消費と呼ばれ、生産と流通の最終目的である価値の実現が行われる場所です。だからこそ、経済活動の各段階で生みだされた利害(厳密に言えば、経済的な意味合いではなく日常用語としての)が累積されながら、商品の出口である最終消費に流れ着き、私たちが消費する商品(最終消費財・サービス)や消費行動そのものに反映されます。日常生活にあまり関係がなさそうに見える政策や難解な経済理論も、実際には、私たちに身近な、この消費に大きな影響を与えています。ということは、経済活動の中で一番日常生活に身近な窓口から逆にさかのぼっていけば分かりやすいということにもなるでしょう。たとえば、この講義では「クレジットカード」の問題を扱いますが、これは理論としては「金融論」につながるものでもあり、いまだに続く(いや、さらに深刻さを増している)アメリカ発の金融恐慌に対する理解にもつながるものです。</p> <p>この講義の最終目標は他の講義と同様、現代社会で起こっているさまざまな問題を分析する力を身につけてもらうことにあります。この最終目標に向けて、「消費」にかかわる問題を通して、理論と現実の問題の両方をつなげる勉強をしていきましょう。</p> <p>この講義の前半では、現実問題を理解するための基礎作り(理論と歴史理解)を行います。後半は、現実に起こっている身近な問題を題材に、消費と生産・流通のかかわりを観ていきます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>I. (歴史認識) 今日の「経済活動」と消費経済— 「消費者問題」が生じる構造的な問題を読み解くための土台を作る—</p> <p>1. 「生産の経済学」と「消費の経済学」 ここでは、「経済学」の中で、「消費」が長い間抜け落ちてきた理由を、歴史的な背景から読み解きます。ここでは、ジェンダー(社会的性差)の問題にも触れることとなります。</p> <p>2. 「経済変化に伴う消費生活の変化」 高度経済成長、低成長時代、バブル経済下、バブル崩壊、そして現在の経済危機まで、家族・世帯・消費の変化を経済の側面から読み解いていきます。</p> <p>II. 現代消費経済の諸問題</p> <p>1. 家計と金融・家計内債務と消費者問題 (サブプライム問題も含めて) 消費者信用のそもそもの成り立ちから、消費者信用の金融システム、サブプライム問題までを網羅します。</p> <p>2. グローバリゼーションと消費生活—食料輸入大国日本の消費生活 グローバル経済分析の前提として、「グローバル化」とはなにかを考え、さらにいくつかのトピックスの分析を通して、実際に世界経済と日々の生活との接点を見てみましょう。</p> <p>3. グローバリゼーション下における地域経済と消費生活 グローバル化する経済の動きは一方でそこに包括されない市場を形成しています。このような大手市場以外の地域の中の市場とでもいうべきものが現状ではどうなっているのか、その有効性と限界はどこにあるのか、考えてみましょう。</p>
----------	---

準備学習	<p>①経済学の理解のために必要なことは、身の回りで起こることに「疑問」を持つこと、新聞を読むことです。ネットのニュースは、関心のある情報をピンポイントで収集するには役に立ちますが、実は、関心のあることを理解するためには、その脇にある、何気なく目に入る情報が関連していたりする... そういう発見をもたらしてくれるのは、やはり新聞です。是非新聞を読んでください。</p> <p>②経済理論に関する講義を履修してください。日本史、世界史に関する講義や事前学習も役に立ちます。高校時代に使ったものでよいので、年表を講義の際に持参するとよいでしょう。</p> <p>③そのほか、事前にどんな本を読んでおいたらよいのかなど、質問全般を、3月末までは以下のアドレスで受け付けます。</p> <p>aneha@berkeley.edu</p>
------	---

履修上の留意点	<p>①毎回、講義のはじめで前週までの講義の質問を受け付ける。その時間を活用して欲しい。</p> <p>②講義の途中でわからないこと、聞き逃したことがあれば、講義を遅ってもかまわないので、恥ずかしがらずにその場でただちに質問すること。</p> <p>③教室のドアが閉まって以降の入室・中途退室は、基本的に講義の妨げになるので認めない。</p> <p>④携帯電話は電源をOFFにしておくこと。メールも周囲の学生の集中力を妨害するので禁止する。</p> <p>⑤私語は絶対禁止。声が教壇まで届かなくとも、私語に類する行為が確認された段階で退室を命じる。</p> <p>⑥繰り返すが、授業中に質問をするのは、「集中力を途切れさせる迷惑行為」ではないので、むしろ、他の参加者の目を気にすることなく、自分と一对一のつもりで一步一步自分の理解度を確かめながら進めるためにも、是非、質問を推奨したい。</p>
---------	---

隣にたずねるのではなく私に質問すること。

成績評価の方法	<p>試験により評価を行う。そのほかに、不定期に行う提出物や講義内での質問や回答など、平常点を加算する。</p> <p>試験は、前期の授業内試験を、定期試験と合わせて行う。</p>
---------	--

教科書/テキスト	教科書は特に用いず、配布するプリント類で講義を行う。
----------	----------------------------

参考書	<p>講義の最初に配布する「詳細な参考書一覧」にて指示する。</p> <p>現時点では、以下のものを推奨する。</p>
-----	---

- ①伊藤セツ・川島美保編『消費生活経済学』第3訂、光生館、2008年
- ②佐高 信、森岡 孝二、 雨宮 処凛『信号機の壊れた「格差社会」』(岩波ブックレット)、2008年

- ③大槻久志『金融化の災い』新日本出版社、2008年
- ④浜矩子『スラム化する日本経済』講談社、2009年

履修コード	313101
科目名	消費経済論
担当者名	姉齒 暁

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>「消費」とは、私たちが毎日生活する上で避けて通ることのできない経済活動です。とりわけ、私たちが日々行う「消費」は最終消費と呼ばれ、生産と流通の最終目的である価値の実現が行われる場所です。だからこそ、経済活動の各段階で生みだされた利害（厳密に言えば、経済的な意味合いではなく日常用語としての）が累積されながら、商品の出口である最終消費に流れ着き、私たちが消費する商品（最終消費財・サービス）や消費行動そのものに反映されます。</p> <p>日常生活にあまり関係がなさそうに見える政策や難解な経済理論も、実際には、私たちに身近な、この消費に大きな影響を与えています。ということは、経済活動の中で一番日常生活に身近な窓口から逆にさかのぼっていけば分かりやすいということにもなるでしょう。たとえば、この講義では「クレジットカード」の問題を扱いますが、これは理論としては「金融論」につながるものでもあり、いまだに続く（いや、さらに深刻さを増している）アメリカ発の金融恐慌に対する理解にもつながるものです。</p> <p>この講義の最終目標は他の講義と同様、現代社会で起こっているさまざまな問題を分析する力を身につけてもらうことにあります。この最終目標に向けて、「消費」にかかわる問題を通して、理論と現実の問題の両方をつなげる勉強をしていきましょう。</p> <p>この講義の前半では、現実問題を理解するための基礎作り（理論と歴史理解）を行います。後半は、現実が起こっている身近な問題を題材に、消費と生産・流通のかかわりを観ていきます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>I. (歴史認識) 今日の「経済活動」と消費経済— 「消費者問題」が生じる構造的な問題を読み解くための土台を作る—</p> <p>1. 「生産の経済学」と「消費の経済学」 ここでは、「経済学」の中で、「消費」が長い間抜け落ちてきた理由を、歴史的な背景から読み解きます。ここでは、ジェンダー(社会的性差)の問題にも触れることとなります。</p> <p>2. 「経済変化に伴う消費生活の変化」 高度経済成長、低成長時代、バブル経済下、バブル崩壊、そして現在の経済危機まで、家族・世帯・消費の変化を経済の側面から読み解いていきます。</p> <p>II. 現代消費経済の諸問題</p> <p>1. 家計と金融-家計内債務と消費者問題 (サブプライム問題も含めて) 消費者信用のそもそもの成り立ちから、消費者信用の金融システム、サブプライム問題までを網羅します。</p> <p>2. グローバリゼーションと消費生活-食料輸入大日本日本の消費生活 グローバル経済分析の前提として、「グローバル化」とはなにかを考え、さらにいくつかのトピックスの分析を通して、実際に世界経済と日々の生活との接点を見てみましょう。</p> <p>3. グローバリゼーション下における地域経済と消費生活 グローバル化する経済の動きは一方でそこに包括されない市場を形成しています。このような大手市場以外の地域の中の市場とでもいうべきものが現状ではどうなっているのか、その有効性と限界はどこにあるのか、考えてみましょう。</p>
----------	--

準備学習	<p>①経済学の理解のために必要なことは、身の回りで起こることに「疑問」を持つこと、新聞を読むことです。ネットのニュースは、関心のある情報をピンポイントで収集するには役に立ちますが、実は、関心のあることを理解するためには、その脇にある、何気なく目に入る情報が関連していたりする... そういう発見をもたしてくるのは、やはり新聞です。是非新聞を読んでください。</p> <p>②経済理論に関する講義を履修してください。日本史、世界史に関する講義や事前学習も役に立ちます。高校時代に使ったものでよいので、年表を講義の際に持参するとよいでしょう。</p> <p>③そのほか、事前にどんな本を読んでおいたらよいのかなど、質問全般を、3月末までは以下のアドレスで受け付けます。</p>
------	---

aneha@berkeley.edu

履修上の留意点	<p>①毎回、講義のはじめで前週までの講義の質問を受け付ける。その時間を活用して欲しい。</p> <p>②講義の途中でわからないこと、聞き逃したことがあれば、講義を遅ってもかまわないので、恥ずかしくがらずにその場でただちに質問すること。</p> <p>③教室のドアが閉まって以降の入室・中途退室は、基本的に講義の妨げになるので認めない。</p> <p>④携帯電話は電源をOFFにしておくこと。メールも周囲の学生の集中力を妨害するので禁止する。</p> <p>⑤私語は絶対禁止。声が教壇まで届かなくとも、私語に類する行為が確認された段階で退室を命じる。</p> <p>⑥繰り返し返すが、授業中に質問をするのは、「集中力を途切れさせる迷惑行為」ではないので、むしろ、他の参加者の目を気にすることなく、自分と一对一のつもりで一歩一歩自分の理解度を確かめながら進めるためにも、是非、質問を推奨したい。</p>
---------	--

隣にたずねるのではなく私に質問すること。

成績評価の方法	<p>試験により評価を行う。そのほか、不定期に行う提出物や講義内での質問や回答など、平常点を加算する。</p> <p>試験は、前期の授業内試験を、定期試験と合わせて行う。</p>
教科書/テキスト	教科書は特に用いず、配布するプリント類で講義を行う。
参考書	講義の最初に配布する「詳細な参考書一覧」にて指示する。 現時点では、以下のものを推奨する。

- ①伊藤セツ・川島美保編『消費生活経済学』第3訂、光生館、2008年
 ②佐高 信、森岡 孝二、雨宮 処凛『信号機の壊れた「格差社会」』（岩波ブックレット）、2008年
 ③大槻久志『金融化の災い』新日本出版社、2008年
 ④浜矩子『スラム化する日本経済』講談社、2009年

履修コード	096301
科目名	商品学
担当者名	見目 洋子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(講義概要) 現代の経済・消費社会における商品の意義と特性について学習する。われわれは、商品を利用してどのような便利な生活を実現し、商品は如何なる機能を発揮しているのか。また、商品や消費の新たな課題とは何か。現代の市場現象から商品の多様な論点を抽出し考察する。</p> <p>(到達目標) 本講義の到達目標は、今日の市場活動の成果と課題を分析し考察する力を習得することである。主として、(1)経済・産業環境の変化と商品(消費生活)、(2)市場における商品現象、(3)消費生活の変化と商品の3つの側面から、現代商品(サービス含む)の特性を理解し、具体的な商品現象を分析する基礎的かつ多様な知識の習得と論点への接近を図る。さらに、個々の商品現象が、どの様なビジネス活動から出現するのか、現代的な市場活動の仕組みを考察する基礎力の習得である。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代商品論(「商品学」とは何か 2. 商品研究の視座 —研究領域・対象、研究スタンス、研究方法— 3. 商品の概念 —モノ型商品とサービス型商品— 4. 現代商品の特性 5. 商品の品質構造 6. 商品の価格 7. 標準化と商品の価値 8. 市場における標準化競争 9. 現代商品の総括的理解、小テスト、レポート課題の解説 10. サービス経済化と市場活動 11. サービス商品の動向 12. 現代市場の課題 —消費者問題と市場の課題— 13. 市場の課題と商品開発 14. 現代商品のコモディティ化 15. 前期講義の総括的議論、コメント票講評 16. 市場のデザイン価値と商品性 17. 商品パッケージの展開 18. ブランドの価値と構造 19. ブランド商品の市場特性 20. 市場制度と安全性 21. 商品の安全性確保に関する活動 22. 市場における商品化政策の総括的理解、小テスト、レポート課題の解説 23. ライフスタイルと消費行動 24. 環境問題と環境政策 25. 企業環境主義経営と商品開発 26. 市場における環境コミュニケーション 27. 少子高齢社会と商品、市場創造 —少子化の論点— 28. 少子高齢社会と商品、市場創造 —高齢化の論点— 29. 商品と社会、社会的企業の出現 30. 後期講義の総括的議論、コメント票講評
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・講義スケジュールに従って、講義内容に関連する具体的なビジネスや商品事例を調べ、コメント票に反映できるように、簡単なメモを作っておくこと。 ・教科書の各章の扉のページに提示されるポイントを、よく読んでおくこと。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、講義内容に関するコメント票を書いてもらう(講義回数の1/3程度)。 ・具体的な商品現象に、日頃から関心を持ち、積極的に情報収集することを望む。
成績評価の方法	<p>定期試験の成績50%、レポート(前期・後期に各一回)30%、小テスト10%(前期・後期に各一回)、平常点(コメント票の評価)10%とする。</p>
教科書/テキスト	<p>見目洋子・神原理編著『現代商品論(第2版)』白桃書房(2010)、1905円、ISBN978-4-561-65188-8</p>
参考書	<p>使用しない。適宜、プリントやレジュメ資料を配布する。</p>

履修コード	098501
科目名	商法一部
担当者名	三浦 康平
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本授業では、株式会社の経済活動を法的側面から理解することをねらいとする。具体的には会社法を中心とする法規制の内容と、事例等を紹介し、現実社会で会社法が果たしている役割について説明する。 なお金融商品取引法についても必要な範囲で言及する。
授業スケジュール	会社法については、会社が活動する段階を①設立、②活動（運営段階）、③模索（企業活動の拡大・縮小）、④消滅、に分けて説明する （大まかなイメージであって、意味のある分け方ではない）。 ②の説明が大半を占める。このため、前期は①と②（をできる限り）を。残りを後期に扱う。 「商法総則」については会社法が終了した後に講義する。 具体的には以下の順序で進める予定である。 <前期> 1. 授業ガイダンスと会社を取り巻く各種法制度の概要の説明 2～3. 会社の設立（設立の手続、設立中の法律関係、違法な設立、設立に関する責任） 4～5. 資金調達（株式の発行手続、譲渡方法、種類株式、新株予約権、社債） 6. 発行市場と流通市場における開示 7. 会社の機関（全体的な説明・株主総会） 8～9. 会社の機関（取締役） 10. 会社の機関（監査役） 11. 会社の機関（会計監査人） 12～14. 会社の機関（役員等の責任） 15. 復習と質問（あるいは説明しきれていない部分があれば、この時間を使用して説明する） <後期> 1. 授業ガイダンス 2. 会社の計算（概要、計算書類） 3. 会社の計算（自己株式・剰余金の配当） 4. 会社の計算（欠損・倒産制度の説明） 5. 会社の計算（虚偽表示・不実開示に関する法制度） 6. 企業再編（総論・制度意義の説明） 7. 企業再編（対株主との関係を中心に） 8. 企業再編（対債権者との関係を中心に） 9. 企業再編（敵対的買収と防衛策） 10. 会社支配権に関する開示制度 11. 商人・商行為 12. 商号 13. 商業使用人 14. 商業登記制度 15. 復習と質問（あるいは説明しきれていない部分があれば、この時間を使用して説明する）
準備学習	予習または復習については、いずれが良いかは人によって異なる。 自分に適した学習方法を見つけること。 予習に関しては基本書の該当箇所を事前に読んでおくことを求める。
履修上の留意点	・会社法を体系的により深く理解するために、他の商法科目（商行為法）および民法科目（特に民法総則・債権法）を現在履修しているか、既履修であることが望ましい。 ・会社法は技術的な規定が多いが、学習上重要でないものは講義ではふれない。 そうした部分は各自で教科書等の該当箇所を読むことをすすめる。 ただし講義でふれてほしいという要望があれば検討する。
成績評価の方法	定期試験の成績100% 出席はとらない。
教科書／テキスト	教科書は特に指定しない。 第1回に関連文献を紹介する。 受講者は自分が学習しやすいものを利用すること。
参考書	第1回に関連文献を紹介する。

履修コード	325501
科目名	商法総則・商行為法
担当者名	三浦 康平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p><概要> 本講義では、現代社会の経済活動についての法的規律を学ぶ。具体的には、企業間取引と企業と消費者との間の取引に適用がある法律をとりあげる。商取引は法的にどのように説明されるか、ということ講義の中心にした。 基本的な条文の解説をしたのち、裁判例を紹介するというやり方をする。 裁判例やこれに対する学説の説明を通じて、現実の経済活動を法的に分析し、問題を処理する際に考慮すべき要素は何かを理解してもらいたい。 また、商取引の理解には、民法の基本的な知識が要求されることになるが、講義を通じて理解の確認をしてもらいたい。</p> <p><到達目標> 現代の経済活動に対して法律はどのような制度を用意しており、どのように機能しているのかを理解する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 商取引法総論：商取引法の特徴、企業取引に関する法の相互関係 3. 商法の適用範囲：商人と商行為の概念 4. 企業規模の拡大を支える仕組み：商業使用人 5. 企業内容の公示：商業登記制度 6～8. 企業の名称に対する評判と信頼の保護：商号制度 企業主体の交代：営業譲渡 9. 商行為法概論（民法との比較を中心に） 10～11. 企業取引の補助者 12. 運送取扱営業・運送営業 13. 場屋取引 14. 支払決済の法制度概論 15. 復習と質問（あるいは説明しきれていない部分があれば、この時間を使用して説明する） <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2～3. 消費者契約法の基本的な考え方 4～8. 特定商取引法、割賦販売法、金融商品販売法（概論） 9～11. 証券取引 12～14. 保険取引 15. 復習と質問（あるいは説明しきれていない部分があれば、この時間を使用して説明する）
----------	---

準備学習	<p>予習または復習については、いずれが良いかは人によって異なる。 自分に適した学習方法を見つけること。 予習に関しては基本書の該当箇所を事前に読んでくることを求める。</p>
履修上の留意点	<p>・後期に説明する分野は法改正が珍しくないところである。そのため、状況によっては説明の順序を変更することがある。 ・民法科目を履修していることが望ましい。特に後期については民法の知識がないと理解しにくい分野である。</p>
成績評価の方法	<p>定期試験の成績100% 出席はとらない。</p>
教科書/テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 六法（民法・商法が収録されているものであれば何でもよい） 2. 教科書は特に指定しない。第1回に関連文献を紹介する。受講者は自分が学習しやすいと思うものを利用すること。
参考書	<p>第1回に関連文献を紹介する。</p>

履修コード	098601
科目名	商法二部
担当者名	中濱 義章

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	手形小切手法の基本的な原則・制度を理解し、諸問題を検討することを通じて有価証券法理の基礎を習得する。
---------------------	--

授業スケジュール	講義は以下の順に行い、各項目ごとに1～2回程度の授業時間を割り当てる。講義の内容は、制度の概要を解説し、具体例を通じて問題点の検討をおこなう。
----------	---

- 1 手形・小切手の意義 (約束手形・為替手形・小切手の異同)
- 2 手形法・小切手の経済的機能
- 3 手形行為の意義・性質
- 4 手形行為の成立時期 (手形理論)
- 5 手形行為と法律行為に関する一般原則
- 6 代理人・代表者による手形行為
- 7 無権代理と偽造、変造
- 8 手形行為と実質関係
- 9 手形の振出
- 10 白地手形
- 11 手形の裏書
- 12 善意取得の制度
- 13 手形抗弁、人的抗弁切断 (制限) の制度
- 14 支払、支払拒絶など
- 15 為替手形・小切手に特有の法制度
- 16 振込・振替など新たな決済システムに関する諸問題

準備学習	講義は段階的に進めていきますので、前の週に学習した内容を復習しておいてください。
------	--

履修上の留意点	六法は小型のものでかまいませんので最新版を携行して下さい。例えば、『ポケット六法』(有斐閣)、『セレクト六法』(岩波書店)、『デイリー六法』(三省堂)など。 民法 (財産法関係科目) および商法科目を履修済み、あるいは履修中であることが望ましい。
---------	--

成績評価の方法	夏休み前と期末に行う筆記試験での評価を予定していますが、レポートを課す場合もあります。
---------	---

教科書/テキスト	大塚龍児ほか『商法Ⅲ—手形・小切手 (第4版)』(有斐閣Sシリーズ) 落合誠一=神田秀樹編『別冊ジュリスト 手形小切手判例百選 (第6版)』(有斐閣)
----------	--

参考書	詳細については、開講時に指示します。 山下友信=神田秀樹編『商法判例集 (第4版)』(有斐閣)
-----	--

履修コード	324901 324902
科目名	有価証券法 商法二部
担当者名	中濱 義章

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	手形小切手法の基本的な原則・制度を理解し、諸問題を検討することを通じて有価証券法理の基礎を習得する。
---------------------	--

授業スケジュール	講義は以下の順に行い、各項目ごとに1～2回程度の授業時間を割り当てる。講義の内容は、制度の概要を解説し、具体例を通じて問題点の検討をおこなう。
----------	---

- 1 手形・小切手の意義 (約束手形・為替手形・小切手の異同)
- 2 手形法・小切手の経済的機能
- 3 手形行為の意義・性質
- 4 手形行為の成立時期 (手形理論)
- 5 手形行為と法律行為に関する一般原則
- 6 代理人・代表者による手形行為
- 7 無権代理と偽造、変造
- 8 手形行為と実質関係
- 9 手形の振出
- 10 白地手形
- 11 手形の裏書
- 12 善意取得の制度
- 13 手形抗弁、人的抗弁切断 (制限) の制度
- 14 支払、支払拒絶など
- 15 為替手形・小切手に特有の法制度
- 16 振込・振替など新たな決済システムに関する諸問題

準備学習	講義は段階的に進めていきますので、前の週に学習した内容を復習しておいてください。
------	--

履修上の留意点	六法は小型のものでかまいませんので最新版を携行して下さい。例えば、『ポケット六法』(有斐閣)、『セレクト六法』(岩波書店)、『デイリー六法』(三省堂)など。 民法 (財産法関係科目) および商法科目を履修済み、あるいは履修中であることが望ましい。
---------	--

成績評価の方法	夏休み前と期末に行う筆記試験での評価を予定していますが、レポートを課す場合もあります。
---------	---

教科書/テキスト	大塚龍児ほか『商法Ⅲ—手形・小切手 (第4版)』(有斐閣Sシリーズ) 落合誠一=神田秀樹編『別冊ジュリスト 手形小切手判例百選 (第6版)』(有斐閣)
----------	--

参考書	詳細については、開講時に指示します。 山下友信=神田秀樹編『商法判例集 (第4版)』(有斐閣)
-----	--

履修コード	095411
科目名	情報入門I
担当者名	井川 俊実

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	コンピュータを活用して情報収集やレポート作成、プレゼンテーションを行うことは、大学で学ぶ上で欠かせない要素となってきた。さらにこうした能力は社会においても必須である。本講義では、基礎ゼミと連携して商学を学ぶ上で必要な「ツールとしてのパソコンの扱い方・ソフトウェアの使い方」の習得を目指す。コンピュータの扱いに慣れることとインターネット(電子メールやWWW)を利用できるようになること、さらにはPower Pointによる発表資料作成法、WORDの基本機能を習得することを目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) 教場の使い方、コンピュータの起動・終了方法、受講上の注意など (2~4) パソコンの仕組み、Windowsの基本的な使い方、タイピング練習、インターネットとチケット、インターネット用語の説明、検索の方法、電子メールの使い方 (5~9) Power Pointの基本操作、スライドの作成、スライドショー、文字修飾、図の挿入、アニメーション機能 (10~14) Wordの基本操作、Word文書の作成・印刷、表の作成 (15) テスト
----------	---

準備学習	パソコンの基本操作を修得するため、実習の予習・復習が必要である。
------	----------------------------------

履修上の留意点	1) この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、研修会社で経験を積んだ講師の指導のもと実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。 2) コンピュータ使用経験の少ない初心者を対象とした講義を行う。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。 3) 実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。 4) 商学科1年次は原則としてこの講義を履修登録すること。 5) 2年次以降の履修はできないので注意すること。 6) 評価に関わる各試験の追試験は行わない。合理的な事由を文書によって申告した時のみ考慮する。 7) 後期の情報入門IIの履修登録ミスが目立っています。後期の情報入門IIも忘れずに履修登録すること。 8) この科目は基礎ゼミのレポート課題や発表と連携した内容になっています。基礎ゼミにも必ず出席すること。
---------	--

成績評価の方法	各カテゴリー終了時に行う授業時間中の小テスト、提出物、そして最終講義に行う総合テストの結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。
---------	---

教科書/テキスト	初回講義で指示する。
----------	------------

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

その他	その他
-----	-----

- 1) YeStudyを利用した講義になります。
- 2) 1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は【原則として】履修できません。

履修コード	095421
科目名	情報入門I
担当者名	井川 俊実

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	コンピュータを活用して情報収集やレポート作成、プレゼンテーションを行うことは、大学で学ぶ上で欠かせない要素となってきた。さらにこうした能力は社会においても必須である。本講義では、基礎ゼミと連携して商学を学ぶ上で必要な「ツールとしてのパソコンの扱い方・ソフトウェアの使い方」の習得を目指す。コンピュータの扱いに慣れることとインターネット（電子メールやWWW）を利用できるようになること、さらにはPower Pointによる発表資料作成法、WORDの基本機能を習得することを目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) 教場の使い方、コンピュータの起動・終了方法、受講上の注意など (2~4) パソコンの仕組み、Windowsの基本的な使い方、タイピング練習、インターネットとネットワーク、インターネット用語の説明、検索の方法、電子メールの使い方 (5~9) Power Pointの基本操作、スライドの作成、スライドショー、文字修飾、図の挿入、アニメーション機能 (10~14) Wordの基本操作、Word文書の作成・印刷、表の作成 (15) テスト
----------	---

準備学習	パソコンの基本操作を修得するため、実習の予習・復習が必要である。
------	----------------------------------

履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、研修会社で経験を積んだ講師の指導のもと実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。 コンピュータ使用経験の少ない初心者を対象とした講義を行う。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。 実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。 商学科1年次は原則としてこの講義を履修登録すること。 2年次以降の履修はできないので注意すること。 評価に関わる各試験の追試験は行わない。合理的な事由を文書によって申告した時のみ考慮する。 後期の情報入門IIの履修登録ミスが目立っています。後期の情報入門IIも忘れずに履修登録すること。 この科目は基礎ゼミのレポート課題や発表と連携した内容になっています。基礎ゼミにも必ず出席すること。
---------	--

成績評価の方法	各カテゴリ終了時に行う授業時間中の小テスト、提出物、そして最終講義に行う総合テストの結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。
---------	--

教科書/テキスト	初回講義で指示する。
----------	------------

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

その他	<ol style="list-style-type: none"> YeStudyを利用した講義になります。 1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は【原則として】履修できません。
-----	---

履修コード	095451
科目名	情報入門I
担当者名	山邊 茂之
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	コンピュータを活用した情報収集やレポート作成、プレゼンテーションを行うことは、大学で学んでいく上で欠かせないスキルとなっている。また、コンピュータの知識・スキルは、社会においても必須である。 本講義では、商学を学ぶ上で必要な「ツールとしてのパソコンの扱い方・ソフトウェアの使い方」を予備知識のない段階から習得を目指す。コンピュータの扱いに慣れること、インターネット（電子メール含む）を利用できるようになること、さらにはMicrosoft Office Wordによる文書作成技法の習得を目的とする。
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：教場の使い方、受講上の注意、パソコンの起動・終了方法。 第2回～第6回 情報リテラシー(1)～(5)：パソコンの仕組み・用語。Windowsの基本操作。マウス操作。YeStudyの使い方。日本語入力(IME)の説明。タイピング。Windowsのトラブル回避方法。インターネット・ネチケットについて。ActiveMailの使い方。ファイルとフォルダ。ネットワークドライブの活用。 第7回 小テスト：情報リテラシー 第8回～第13回 Office Word(1)～(6)：Microsoft Office Word(2007)の基本操作、文書の作成。フォントの変更、文字の大きさ・色の変更。箇条書き。印刷。図・クリップアート・図形の挿入。表の作成、ワードアートの挿入、文章の校正、検索、置換。レイアウト（ページ番号、改ページ、段組みなど）。 第14回 Office Word(7)：Microsoft Office Word(2007)実機テスト 第15回 前期最終講義：期末総合テスト
準備学習	パソコンの基本操作を習得するため、実習の予習・復習が必要である。
履修上の留意点	1)この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、講師の指導のもと実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。 2)コンピュータ使用経験の少ない初心者を対象とした講義を行う。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。 3)実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。 4)現代応用経済学科1年次は原則としてこの講義を履修登録すること。 5)2年次以降の履修は出来ないので注意すること。 6)後期の情報入門IIの履修登録ミスが目立っています。後期の情報入門IIも忘れずに履修登録すること。
成績評価の方法	各カテゴリー終了時に行う授業時間中の小テストと実機試験及び最終講義に実施する総合試験の結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は、別途加点する。
教科書/テキスト	開講時に指定する。
参考書	必要に応じて紹介します。
その他	1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は【原則として】履修できません。

履修コード	095431
科目名	情報入門II
担当者名	井川 俊実
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は「情報入門I」の単位取得者を対象とした講義に位置づけられる。コンピュータの基本的操作を習得していることを前提として、前期に続きWordによる文書作成技法および表計算ソフト(Excel)の基本操作・データ処理法を習得することを目的とする。また、基礎ゼミと連携して、大学で学ぶ上で必要な技法の習得を目指す。
授業スケジュール	(1~6) Wordの文書レイアウト、図の作成、図の挿入 (7~11) 表計算 Excelの基本操作、データ集計、関数の利用、表の書式(罫線・列幅の変更など)・印刷 (12~14) WordとExcelの要点の復習、グラフの作成、Wordとの連携 (15) 総合テスト、基礎ゼミレポート課題提出
準備学習	情報入門Iの内容を修得していること。パソコンの基本操作を修得するため、実習の予習・復習が必要である。
履修上の留意点	1) この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、研修会社で経験を積んだ講師の指導のもと実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。 2) 「情報入門I」の単位取得者を前提に講義を進める。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。 3) 実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。 4) 商学科1年次は原則としてこの講義を履修登録すること。 5) 2年次以降の履修は出来ないので注意すること。 6) 評価に関わる各試験の追試験は行わない。合理的な事由を文書によって申告した時のみ考慮する。 7) 4月の履修登録時、当科目の履修登録ミスが目立っています。後期の情報入門IIも忘れずに登録すること。 8) この科目は基礎ゼミのレポート課題や発表と連携した内容になっています。基礎ゼミにも必ず出席すること。
成績評価の方法	各カテゴリー終了時に行う授業時間中の小テスト、提出物、基礎ゼミレポート課題及び最終講義に実施する総合テストの結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。
教科書/テキスト	初回講義で指示する。
参考書	必要に応じて紹介します。
その他	その他 1) YeStudyを利用した講義になります。 2) 1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は【原則として】履修できません。

履修コード	095441
科目名	情報入門II
担当者名	井川 俊実

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は「情報入門I」の単位取得者を対象とした講義に位置づけられる。コンピュータの基本的操作を習得していることを前提として、前期に続きWordによる文書作成技法および表計算ソフト (Excel) の基本操作・データ処理法を習得することを目的とする。また、基礎ゼミと連携して、大学で学ぶ上で必要な技法の習得を目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	(1~6) Wordの文書レイアウト、図の作成、図の挿入 (7~11) 表計算 Excelの基本操作、データ集計、関数の利用、表の書式 (罫線・列幅の変更など)・印刷 (12~14) WordとExcelの要点の復習、グラフの作成、Wordとの連携 (15) 総合テスト、基礎ゼミレポート課題提出
----------	---

準備学習	情報入門Iの内容を修得していること。パソコンの基本操作を修得するため、実習の予習・復習が必要である。
------	--

履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、研修会社で経験を積んだ講師の指導のもと実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。 「情報入門I」の単位取得者を前提に講義を進める。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。 実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。 商学科1年次は原則としてこの講義を履修登録すること。 2年次以降の履修は出来ないので注意すること。 評価に関わる各試験の追試験は行わない。合理的な事由を文書によって申告した時のみ考慮する。 4月の履修登録時、当科目の履修登録ミスが目立っています。後期の情報入門IIも忘れずに登録すること。 この科目は基礎ゼミのレポート課題や発表と連携した内容になっています。基礎ゼミにも必ず出席すること。
---------	--

成績評価の方法	各カテゴリー終了時に行う授業時間中の小テスト、提出物、基礎ゼミレポート課題及び最終講義に実施する総合テストの結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。
---------	--

教科書/テキスト	初回講義で指示する。
----------	------------

参考書	必要に応じて紹介します。
-----	--------------

その他	<ol style="list-style-type: none"> YeStudyを利用した講義になります。 1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は【原則として】履修できません。
-----	---

履修コード	095461
科目名	情報入門II
担当者名	山邊 茂之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は「情報入門I」の単位取得者を対象とした講義に位置づけられる。コンピュータの基本的操作を習得していることを前提として、Microsoft Office Excelによる表計算・グラフ作成法、Microsoft Office PowerPointによるプレゼンテーション技法の習得を目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 ガイダンス：教場の使い方、受講上の注意 第2回～第8回 Office Excel (1)～(7)：Microsoft Office Excel (2007)の基本操作。表計算、相対参照・絶対参照。シート間計算、関数、ユーザー定義。グラフの作成。複合グラフ。データの並べ替え。 第9回 Office Excel (8)：Office Excel実機テスト 第10回～第14回 Office PowerPoint (1)～(5)：Microsoft Office PowerPoint (2007)の基本操作。スライドマスタ。アニメーション。プレゼンテーション資料作成、個人発表。 第15回 後期最終講義：期末総合テスト
----------	--

準備学習	情報入門Iの内容を修得していること。パソコンの基本操作を習得するため、実習の予習・復習が必要である。
------	--

履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、講師の指導のもと実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。 コンピュータ使用経験の少ない初心者を対象とした講義を行う。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。 実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。 現代応用経済学科1年次は原則としてこの講義を履修登録すること。 2年次以降の履修は出来ないので注意すること。
---------	---

成績評価の方法	各カテゴリー終了時に行う授業時間中の実機試験、プレゼンテーション資料及び個人発表の結果、そして最終講義に行う総合試験結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。
---------	--

教科書/テキスト	開講時に指定する。
----------	-----------

参考書	必要に応じて紹介します。
-----	--------------

その他	1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は【原則として】履修できません。
-----	-------------------------------------

履修コード	095321
科目名	情報の経済学
担当者名	館 健太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>入門レベルでのマイクロ経済学では、人々が行動を選択するために必要な情報はすべて容易に入手できると想定していた。しかし、現代社会において我々はしばしば先の見えない不確実な状況に直面し、また人によって保有する情報は大きく異なっている。</p> <p>このような状況にあるとき、人々の行動はどのように変化するだろうか。また、情報不足に起因する問題に対してどのような対処が考えられるだろうか。本講義では日常生活やビジネスの現場でのリスクと情報に関連する経済現象・経済問題を検討する。</p> <p>この授業を通じて、リスクと情報の側面から見た現代経済についての視点を身につけてもらいたい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	全体として4部構成で説明する予定である。
----------	----------------------

- 第1部 不確実性下の意思決定
1. 不確実性と情報
 2. リスクと期待値
 3. 期待効用とリスクプレミアム
 4. 保険の役割

- 第2部 行動経済学：経済と心理
5. アレのパラドックス
 6. プロスペクト理論
 7. さまざまなバイアス

- 第3部 情報の非対称性
8. 逆選択
 9. シグナリング
 10. スクリーニング
 11. モラルハザード
 12. 固定給と業績給

- 第4部 ホールドアップ問題
13. コースの定理
 14. ホールドアップ問題
 15. 総復習

※講義の進度などにより内容を変更することがある。

準備学習	授業後に配布プリントを十分に復習して欲しい。
履修上の留意点	<p>「マイクロ経済学」と「ゲーム理論 a」、「ゲーム理論 b」の学習を並行して行うことが望ましい。</p> <p>また、後期科目「契約理論」は本講義の内容を前提とした講義であるため、本講義を履修した後に学習することが望ましい。</p>

成績評価の方法	定期試験（100点）。ただし、授業中に加点方式で課題を出すことがある。
---------	-------------------------------------

教科書／テキスト	配布資料と板書をもとに講義を行う。
----------	-------------------

参考書	<p>藪下史郎『非対称情報の経済学—スティグリッツと新しい経済学』、2002年、光文社（光文社新書）ISBN-13: 978-4334031497 その他については、講義内で適宜紹介する。</p>
-----	--

履修コード	094301
科目名	人口論
担当者名	増田 幹人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	今日、日本における少子高齢化や人口減少といった現象は、様々な形で社会経済に影響を及ぼしている。また世界を見ると、日本と同じく少子高齢化や人口減少を経験している先進諸国もあれば、いまだ人口増加、貧困にあえいでいる開発途上諸国も存在している。こうした多様な人口現象を理解することは、今日の社会を生きていく上で重要である。本講義は、世界の多様な人口現象、および人口現象と社会経済との関係を理解するために必要な人口学の知識の習得を目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	1. イントロダクション (人口学とは何か)、2. 人口統計の基礎、3. 人口増加および人口減少のメカニズム、4. 出生に関する統計指標、5. 少子化のメカニズム、6. 人口再生産に関する統計指標、7. 高齢化に関する統計指標と高齢化のメカニズム、8. 過去の日本人口の動向、9. 将来の日本人口の動向、10. 欧米先進国の少子化の進展状況、11. 発展途上国人口の動向、12. 少子化の社会経済的背景の理論的考察 (人口転換理論による考察)、13. 少子化の社会経済的背景の理論的考察 (様々な経済理論による考察)、14. 年齢構造の変化が社会経済に及ぼす影響 (人口ボーナスと人口オーナス)、15. 日本の年金制度の概要、16. 少子高齢化が年金制度に及ぼす影響と、それに対する打開策、17. 少子高齢化、人口減少がマクロ経済に及ぼす影響と、それに対する打開策、18. 少子高齢化、人口減少が消費に及ぼす影響、19. 少子高齢化、人口減少が労働力に及ぼす影響、20. 女性や高齢者の労働力の現状と課題、21. 日本の労働力の将来、22. 日本の少子化対策の歩み、23. 少子化対策の具体例、24. 地域人口と経済・財政、25. 市町村合併と経済・財政、26. 資源・環境問題の性格、27. 人口と資源・環境
----------	---

準備学習	近年大きな関心事となっている人口高齢化や少子化、それに人口減少に関する知識をどのような手段を通じてでも良いから得ておくことが望ましい。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	学年末の定期試験、および出席状況などにより評価する。
---------	----------------------------

教科書/テキスト	特に指定しない
----------	---------

参考書	① 大淵寛・森岡仁 (1981) 『経済人口学』新評論。(3,200円) ② 阿藤誠 (2000) 『現代人口学：少子高齢化の基礎知識』日本評論社。(2,700円) ③ 大淵寛・兼清弘之編 (2005) 『少子化の社会経済学』原書房。(2,800円) ④ 吉田良生・廣嶋清志 (2011) 『人口減少時代の地域政策』原書房。(2,800円)
-----	---

その他	授業方法：講義
-----	---------

履修コード	092011
科目名	人的資源管理論 a
担当者名	田中 和雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 人的資源管理とは、企業が従業員を人的資源とみなして、その有効活用を図る施策のことです。端的にいえば、どのような人をどのような形態で雇い、どのように動機づけて働いてもらうのか、その働きに対してどのように処遇するのか、そして、どのように人材として育てるのか、といった課題を扱います。</p> <p>(到達目標) a (前期) の講義では、まず、我が国の人的資源管理・雇用・労働システムの変容をアメリカ企業のそれと比較しながら問題点を指摘します。近年、グローバル化、IT革命、新自由主義に基づく規制緩和といった企業を取り巻く環境が変化するなかで、我が国企業が求める人材像も人的資源管理の考え方も大きく変化してきました。また、働く人たちの勤労意識や働き方も多様化し、企業もそれに対応することが求められています。こうした背景を踏まえながら、企業の人的資源管理のあり方や働き方の変化の内容と問題点を把握することが本講義のねらいです。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>概ね下記のように進める予定です。変更することもあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 講義概要の紹介とガイダンス 2) 高度経済成長期における日本企業の人的資源管理・雇用・労働システム 3) グローバル環境における人的資源管理の問題と課題 知識経営および日本企業の人的資源管理・雇用・労働システムの変容との関連で 4) 知識経営と人的資源管理 (1) 知識資産と知識マネジメント 5) 知識経営と人的資源管理 (2) 知識創造と人的資源管理 6) 知識経営と人的資源管理 (3) アメリカ企業 SASインスティテュートの事例 7) 知識経営と人的資源管理 (4) アメリカにおける「高業績業務システム」 8) 知識経営と人的資源管理 (5) 日本の「働きやすい企業」との関連で 9) 日本企業における人的資源管理・雇用・労働システムの変容 (1) 「新時代の日本的経営」の構想と現状 10) 日本企業における人的資源管理・雇用・労働システムの変容 (2) 雇用の多様化・流動化の現状 11) 日本企業における人的資源管理・雇用・労働システムの変容 (3) 能力主義化・成果主義化の現状 12) 日本企業における人的資源管理・雇用・労働システムの変容 (4) 総額人件費の削減と雇用の多様化・流動化 13) 日本企業における人的資源管理・雇用・労働システムの変容 (5) 総額人件費の削減と能力主義化・成果主義化 14) リストラクチャリングと雇用調整 (1) リストラクチャリングとリストラ 15) リストラクチャリングと雇用調整 (2) 雇用調整
----------	--

準備学習	講義では最近の動向や傾向を取り扱うので、その具体的イメージをつかむために、新聞や雑誌等で人事労務管理関連の記事を点検しておくことが有益であろう。また、インターネットや統計資料でわが国の雇用や賃金の趨勢にも目配りしておくことが望ましい。
------	---

履修上の留意点	原則として、a (前期) と b (後期) を合わせて同一年度に履修してください。
---------	---

成績評価の方法	前期レポート (25%)、定期試験 (75%) の比重で総合評価します。
---------	--------------------------------------

教科書/テキスト	伊藤健市・田中和雄・中川誠士編『現代アメリカ企業の人的資源管理』税務経理協会、2006年、2400円 (+税)、ISBN 419-04715-1。なお、教科書に載っていない資料などは、プリントして配布します。
----------	--

参考書	前期レポートの課題図書としても、上記のテキストを使用します。 なお、他の参考書は、適宜紹介します。
-----	--

履修コード	092021
科目名	人的資源管理論 b
担当者名	田中 和雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>人的資源管理とは、企業が従業員を人的資源とみなして、その有効活用を図る施策のことです。端的にいえば、どのような人をどのような形態で雇い、どのように動機づけて働いてもらうのか、その働きに対してどのように処遇するのか、そして、どのように人材として育てるのか、といった課題を扱います。</p> <p>(到達目標)</p> <p>b (後期) では、主に、アメリカ企業における事例により、「働く人にいかなる態度で接するのか」、「能力をいかに開発するのか」、「働く人をいかに評価し報いるのか」といったことを考察します。具体的には、リーダーシップの取り方、キャリア開発、人事評価や賃金システムのあり方が、働く人の意識変化や働き方の多様化に応じて、どのように変化してきているかという問題を考察します。また、そうした多様化に向かう変化のなかで、従業員の意見を汲み上げて調整しながら労使の協調を確保していくのか、労使間のコミュニケーションが今まで以上に重要になってきています。いま、わが国企業は激しい国際競争を勝ち抜くために競争力強化を求められており、そのなかで競争優位の源泉とされる人的資源の有効かつ円滑な活用について新たな方法を模索しています。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	概ね下記のように進める予定です。変更することもあります。
----------	------------------------------

- 1) 講義概要の紹介とガイダンス
- 2) 人的資源管理の概念と体系 (1)
人的資源管理の概念と特質
- 3) 人的資源管理の概念と体系 (2)
人的資源管理の体系
- 4) 人的資源管理の歴史 (1)
労務管理と人事管理
- 5) 人的資源管理の歴史 (2)
労務管理と労働組合関係管理
- 6) 人的資源管理の歴史 (3)
労務管理と人間関係管理
- 7) 人事管理から人的資源管理への展開
- 8) 人的資源管理と雇用システムの変遷
- 9) 人的資源管理と賃金システムの変遷
- 10) 人的資源管理とコンペティンシー概念
アメリカ企業 3Mの事例
- 11) 人的資源管理とリストラクチャリング
アメリカ企業 AT&Tの事例
- 12) 人的資源管理と企業文化
アメリカ企業 サウスウエスト航空の事例
- 13) 人的資源管理と従業員参加
アメリカ企業 フォードの事例
- 14) 人的資源管理と経営哲学
アメリカ企業 リンカーン・エレクトリックの事例
- 15) 人的資源管理と人材ビジネス
アメリカにおける人材ビジネスの新展開としてのPEOs

準備学習	講義では最近の動向や傾向を取り扱うので、その具体的なイメージをつかむために、新聞や雑誌等で人事労務管理関連の記事を点検しておくことが有益です。また、インターネットや統計資料でわが国の雇用や賃金の趨勢にも目配りしておくことが望ましいと思います。
------	---

履修上の留意点	原則として、a (前期) と b (後期) を合わせて同一年度に履修してください。
---------	---

成績評価の方法	前期レポート (25%)、定期試験 (75%) の比重で総合評価します。
---------	--------------------------------------

教科書/テキスト	伊藤健市・田中和雄・中川誠士編『現代アメリカ企業の人的資源管理』税務経理協会、2006年、2400円 (+税)、ISBN 419-04715-1。なお、教科書に載っていない資料などは、プリントして配布します。
----------	--

参考書	前期レポートの課題図書としても、上記のテキストを使用します。 なお、他の参考書は、適宜紹介します。
-----	--

履修コード	098191
科目名	制度の経済学
担当者名	村松 幹二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>市場、企業組織と企業を取りまく制度は相互に関連しながら経済システムを作り上げており、企業間競争、産業構造、雇用形態などを通じて消費者・労働者としての我々の日々の生活に大きな影響をもたらす。また1990年代以降、企業の雇用形態や資本市場との関係などは大きく変化しており、そのなかで企業の不祥事が頻発するなど、企業組織のあり方やコーポレート・ガバナンスのあり方が問われている。受講する学生には、この授業を通じて、システムとしての市場・企業組織、経済における法・制度の役割と政策の意義を考えることで経済社会に対する視点を身につけてもらいたい。</p> <p>講義では、ミクロ経済学、なかでも「法と経済学」、「情報の経済学」、「比較制度分析」などの手法を用いて市場と企業組織に関する諸制度とその相互の関連としての経済システムについて論じる。講義の前半では、取引のシステムとしての市場の円滑化のための法制度として競争政策と独占禁止法、知的財産法について、後半では、取引のシステムとしての企業組織とコーポレート・ガバナンスについて論じる。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回：イントロダクションー市場・企業システムと法・制度</p> <p>第2回：競争政策と独占禁止法(1) 独占の弊害と規制</p> <p>第3回：競争政策と独占禁止法(2) 寡占市場における競争</p> <p>第4回：競争政策と独占禁止法(3) カルテルとその規制</p> <p>第5回：競争政策と独占禁止法(4) 参入と参入阻止</p> <p>第6回：競争政策と独占禁止法(5) 競争制限行為</p> <p>第7回：知的財産の経済分析(1) 知的財産の経済学的特徴</p> <p>第8回：知的財産の経済分析(2) 特許権</p> <p>第9回：知的財産の経済分析(3) 著作権</p> <p>第10回：雇用システム(1)</p> <p>第11回：雇用システム(2)</p> <p>第12回：企業間関係：サプライヤー・流通システム</p> <p>第13回：コーポレート・ガバナンスと会社法(1) 株式会社のガバナンス</p> <p>第14回：コーポレート・ガバナンスと会社法(2) 合併と買収</p> <p>第15回：コーポレート・ガバナンスと会社法(3) 倒産</p> <p>定期試験</p>
----------	---

準備学習	講義ではミクロ経済学および法と経済学の基礎的知識を前提とする。
履修上の留意点	「ミクロ経済学」、「法と経済学」、「企業経済学」、「ゲーム理論」、「情報の経済学」のいずれかの授業を履修した学生を対象とする。
成績評価の方法	成績評価は、定期試験による。ただし必要に応じてレポート課題を出し、成績評価に加算することがある。
教科書/テキスト	テーマが多岐にわたるため特定のテキストは指定せず、配布するレジュメをもとに講義を行う。
参考書	テーマに応じて講義内で参考文献を示す。

履修コード	097401
科目名	税務会計論
担当者名	北口 りえ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>税務会計は、法人税法における課税所得計算に関する学問です。法人の所得に対して課される法人税は、企業にとって避けられないものであり、企業行動を左右する重要な要素のひとつとなっています。</p> <p>本講義では、税務計算技術の習得や課税所得計算構造への理解を深めることに重点をおき、企業会計を基礎として課税所得および税額を計算し、申告・納税するという企業会計と税務の一連の手続きについて学習します。まず税務会計の基礎的な概念や考え方などについて学んだ上で、個別具体的な税務会計処理について学んでいきます。本講義をきっかけに、なぜ課税所得は企業利益に調整を加えて算出されるのか、公平な課税はどのようにしたら実現できるのかということについて考えてもらえればと思います。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回： ガイダンス</p> <p>第2～4回： 税務会計の制度的基礎</p> <p>第5～7回： 法人税の基礎</p> <p>第8～10回： 課税所得計算の基礎</p> <p>第11～15回： 益金の会計</p> <p>第16～24回： 損金の会計</p> <p>第25～27回： 課税所得・税額の計算</p> <p>第28回： 申告・納付等</p> <p>第29・30回： 企業組織再編税制、連結納税制度</p>
----------	---

準備学習	会計学の基礎的知識 (簿記3級程度)
履修上の留意点	会計学の基礎的知識を前提として授業を行いますので、なるべく「簿記論」および「会計学基礎(会計学総論)」を履修した上で受講してください。計算演習を行いますので、電卓を持参してください(講義内で指示します)。
成績評価の方法	成績評価は、授業内試験(もしくはレポート)、定期試験の総合評価により行います。
教科書/テキスト	柳裕治他『税務会計論』(創世社)
参考書	特になし

履修コード	330151
科目名	税務会計論
担当者名	北口 りえ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>税務会計は、法人税法における課税所得計算に関する学問です。法人の所得に対して課される法人税は、企業にとって避けられないものであり、企業行動を左右する重要な要素のひとつとなっています。</p> <p>本講義では、税務計算技術の習得や課税所得計算構造への理解を深めることに重点をおき、企業会計を基礎として課税所得および税額を計算し、申告・納税するという企業会計と税務の一連の手続きについて学習します。まず税務会計の基礎的な概念や考え方などについて学んだ上で、個別具体的な税務会計処理について学んでいきます。本講義をきっかけに、なぜ課税所得は企業利益に調整を加えて算出されるのか、公平な課税はどのようにしたら実現できるのかということについて考えてもらえればと思います。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回：ガイダンス 第2～4回：税務会計の制度的基礎 第5～7回：法人税の基礎 第8～10回：課税所得計算の基礎 第11～15回：益金の会計 第16～24回：損金の会計 第25～27回：課税所得・税額の計算 第28回：申告・納付等 第29・30回：企業組織再編税制、連結納税制度</p>
----------	--

準備学習	会計学の基礎的知識 (簿記3級程度)
履修上の留意点	<p>会計学の基礎的知識を前提として授業を行いますので、なるべく「簿記論」および「会計学基礎 (会計学総論)」を履修した上で受講してください。</p> <p>計算演習を行いますので、電卓を持参してください (講義内で指示します)。</p>
成績評価の方法	成績評価は、授業内試験 (もしくはレポート)、定期試験の総合評価により行います。
教科書/テキスト	柳裕治他『税務会計論』(創世社)
参考書	特になし

履修コード	332301
科目名	税務会計論
担当者名	高木 克己

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。ここ数年、法人税も税率の引き下げをはじめ、多くの改正が行われている。本講義では、普通法人 (株式会社等) を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。</p> <p>税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、会社法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。そこでは、法人税法固有の規定 (いわゆる別段の定め) が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。</p> <p>(到達目標)</p> <p>企業会計基準や会社法等の関係性をあきらかにした上で、企業における法人税の課税所得の計算構造を理解することを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>講義内容の概要は次のとおりである。</p> <p>(1～2) 税務会計の制度的基礎、(3～5) 法人税の意義、性格、納税義務者等、(6～8) 事業年度、同族会社、(9～12) 課税所得計算の基礎、(13～16) 販売収益、請負収益、有価証券譲渡益等、(17～21) 売上原価、減価償却、寄付金、交際費等、(22～24) 税額の計算、申告、納付等、(25～28) 企業組織再編税制、連結納税制度等、(29～30) 国際課税、不服申立・訴訟等</p>
準備学習	予習等、事前の準備をしっかりと出席して下さい。
履修上の留意点	「簿記学」「会計学」等の基礎的な会計科目を修得した上で履修した方がより理解が深まると思われる。
成績評価の方法	原則として、前期末及び後期末のレポート試験によって評価する。
教科書/テキスト	開講時に指示する。
参考書	開講時に指示する。

履修コード	093401
科目名	西洋経済史
担当者名	友松 憲彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この講義は近代ヨーロッパと北アメリカの経済発展の歴史を説明します。中心となるのは18世紀末から19世紀にかけての工業化（産業革命）の諸問題です。</p> <p>現在、世界経済の3つの中心は、EUとして政治経済統合を進める「ヨーロッパ」、アメリカ合衆国を中心とする「北アメリカ」、そして日本や近年成長著しい「アジア」です。これらの地域は、いずれも工業化に成功したか、成功しつつあるという共通の歴史的経験をもっています。</p> <p>工業化はどのようにしておこり、経済や社会をいかに変化させたのか。また、工業化が引き起こした社会問題に対して、どのような改革が進められたのか。</p> <p>講義では世界最初の工業化に成功したヨーロッパ（とりわけイギリス）の事例を中心に説明します。さらに、ヨーロッパの工業化が他の地域にどのような影響を与え、世界経済はどのように対応し変容したのか、工業化がもたらした光だけでなく影にも注目します。</p> <p>近代西洋経済の歴史を学び、現在の世界経済の成立過程と、それが抱える諸問題を歴史的に理解することをめざします。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義のねらい <ol style="list-style-type: none"> (1) 資本主義市場経済(第1回) 2. 前近代の経済 -封建制- <ol style="list-style-type: none"> (1) 農村と農業 (第2回) (2) 都市と商工業 (第3回) 3. 資本主義の成長 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「封建制の危機」と資本主義の誕生 (第3・4回) (2) 農村工業の発達 (第5・6回) (3) 農業の発展 (第7回) (4) 海外市場の発達 (第8・9回) (5) 国内市場の発達 (第10・11回) (6) 産業革命の展望 (第12回) 4. 資本主義の確立-イギリス産業革命 (工業化) <ol style="list-style-type: none"> (1) 産業革命の原因 (第13回) (2) 産業革命の過程 (第14・15回) (3) 産業革命の結果 (第16・17回) (4) 経済・社会問題の改革 (第18回) 5. 世界資本主義の形成 <ol style="list-style-type: none"> (1) イギリス経済と世界経済 (第19回) (2) 後発国の産業革命-フランス・ドイツ (第20回) (3) 後発国の産業革命-アメリカ (第21・22回) (4) 脱工業化-インド (第23回) 6. 資本主義の変質 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「大不況」と資本主義の構造変化 (第24・25回) (2) 国際経済 (第26回) (3) 帝国主義と植民地 (第27・28回) 7. まとめ <ol style="list-style-type: none"> (1) 現代への展望 (第29・30回)
----------	--

準備学習	教科書の該当場所を事前に読んでおくこと。
履修上の留意点	毎回資料を配布します。講義の理解にとって重要なものですから必ずファイルしてください。
成績評価の方法	定期試験（年度末）と授業中に行う小レポートにより評価します。
教科書／テキスト	岡田泰男編著『西洋経済史』八千代出版、1996年
参考書	<p>長岡・太田・宮本編著『世界経済史入門』ミネルヴァ書房、1992年</p> <p>原輝史・工藤章『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣、1996年</p> <p>岡田泰男著『アメリカ経済史』慶応義塾大学出版会、2000年</p> <p>楠井他著『エレメンタル西洋経済史』英創社、2006年</p> <p>三谷・並木・月脚編『大人のための近現代史：19世紀編』東京大学出版会、2009年</p>

履修コード	307401
科目名	西洋経済史
担当者名	友松 憲彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この講義は近代ヨーロッパと北アメリカの経済発展の歴史を説明します。中心となるのは18世紀末から19世紀にかけての工業化（産業革命）の諸問題です。</p> <p>現在、世界経済の3つの中心は、EUとして政治経済統合を進める「ヨーロッパ」、アメリカ合衆国を中心とする「北アメリカ」、そして日本や近年成長著しい「アジア」です。これらの地域は、いずれも工業化に成功したか、成功しつつあるという共通の歴史的経験をもっています。</p> <p>工業化はどのようにしておこり、経済や社会をいかに変化させたのか。また、工業化が引き起こした社会問題に対して、どのような改革が進められたのか。</p> <p>講義では世界最初の工業化に成功したヨーロッパ（とりわけイギリス）の事例を中心に説明します。さらに、ヨーロッパの工業化が他の地域にどのような影響を与え、世界経済はどのように対応し変容したのか、工業化がもたらした光だけでなく影にも注目します。</p> <p>近代西洋経済の歴史を学び、現在の世界経済の成立過程と、それが抱える諸問題を歴史的に理解することをめざします。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義のねらい <ol style="list-style-type: none"> (1) 資本主義市場経済 (第1回) 2. 前近代の経済 -封建制- <ol style="list-style-type: none"> (1) 農村と農業 (第2回) (2) 都市と商工業 (第3回) 3. 資本主義の成長 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「封建制の危機」と資本主義の誕生 (第3・4回) (2) 農村工業の発達 (第5・6回) (3) 農業の発展 (第7回) (4) 海外市場の発達 (第8・9回) (5) 国内市場の発達 (第10・11回) (6) 産業革命の展望 (第12回) 4. 資本主義の確立-イギリス産業革命 (工業化) <ol style="list-style-type: none"> (1) 産業革命の原因 (第13回) (2) 産業革命の過程 (第14・15回) (3) 産業革命の結果 (第16・17回) (4) 経済・社会問題の改革 (第18回) 5. 世界資本主義の形成 <ol style="list-style-type: none"> (1) イギリス経済と世界経済 (第19回) (2) 後発国の産業革命-フランス・ドイツ (第20回) (3) 後発国の産業革命-アメリカ (第21・22回) (4) 脱工業化-インド (第23回) 6. 資本主義の変質 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「大不況」と資本主義の構造変化 (第24・25回) (2) 国際経済 (第26回) (3) 帝国主義と植民地 (第27・28回) 7. まとめ <ol style="list-style-type: none"> (1) 現代への展望 (第29・30回) 1
----------	---

準備学習	教科書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。
履修上の留意点	毎回資料を配布します。講義の理解にとって重要なものですから必ずファイルしてください。
成績評価の方法	定期試験（年度末）と授業中に行う小レポートで評価します。
教科書／テキスト	岡田泰男編著『西洋経済史』八千代出版、1996年
参考書	<p>長岡・太田・宮本編著『世界経済史入門』ミネルヴァ書房、1992年</p> <p>原輝史・工藤章『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣、1996年</p> <p>岡田泰男著『アメリカ経済史』慶応義塾大学出版会、2000年</p> <p>楠井他著『エレメンタル西洋経済史』英創社、2006年</p> <p>三谷・並木・月脚編『大人のための近現代史：19世紀編』東京大学出版会、2009年</p>

履修コード	097251
科目名	地域経済論 a
担当者名	長山 宗広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	グローバル化の進展下、現代経済における「地域」という存在を再評価し、その活性化を図るための理論面と実践的な課題解決について考えていく。地域経済および産業集積の構造的把握とともに、企業間関係・企業家ネットワーク・スピノフ連鎖・産学官連携などの実態把握を目指す。特に、地域経済の活性化を図る上での地域イノベーションシステム、新産業集積の形成と既存産業集積の再生を一体的に進めるメカニズムを明らかにしていく。本講義では、その上で前提となる地域経済論の基礎的な諸理論・概念を学んでいく。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1) 今、地域の現場に何が起きているのか (ガイダンス) (2) 地域、地域経済とは (3) 古典的な立地論 (4) 日本の地場産業・産地研究 (5) フレキシビリティ論と新経済地理学 (6) 産業クラスター論 (7) 日本と海外の産業クラスター政策 (8) ケーススタディ：産業クラスター分析 (9) 地域産業システム論 (シリコンバレーの事例) (10) 学習地域・ミリュー・地域イノベーションシステム論 (11) 新産業集積の新理論 (IT・光電子集積の事例) (12) 都市と中心地の理論、商店街の実態 (13) まちづくりと地域活性化 (14) ケーススタディ：地域活性化プランの策定 (15) まとめ
----------	---

準備学習	地域経済論a、bを一括履修すること。
------	--------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	期末試験による評価：50% 講義中のレポートおよび出席状況など平常点評価：50%
---------	---

教科書/テキスト	長山宗広『日本的スピノフ・ベンチャー創出論 ー新しい産業集積と実践コミュニティを事例とする実証研究』同友館、2012年。
----------	--

「イエスタデイ」にて講義内容の一部を公開する。

参考書	吉田敬一・井内尚樹編『地域振興と中小企業』ミネルヴァ書房 2009年 岡田・川瀬・鈴木・富樫『地域経済学』有斐閣アルマ 1997年 中村剛治郎編『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣 2007年 M. ポーター『競争戦略論II』ダイヤモンド社 1999年
-----	---

履修コード	097261
科目名	地域経済論 b
担当者名	長山 宗広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義の基本的な狙いは、地域経済論aと同じであるので、そちらを参照のこと。 本講義では、地域経済論aで学んだ理論を踏まえて、日本および欧米の地域経済事例へと接近し、現代経済における地域的視点をより一層養っていく。具体的には、各種統計データを用いた地域経済分析、地域産業集積の実態把握、地域活性化プランの策定、といった実践的手法・方法論についてケーススタディ等を通じて学んでいく。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1) 地域経済論 a (前期) の試験サマリー、後期のガイダンス (2) 地域経済の統計分析 (3) 地域産業の統計分析 (4) ~ (5) 地域の工業 (6) ~ (7) 地域の商業 (8) ~ (9) 地域の観光 (10) 地域の一次産業 (主に農業) (11) 地域のハイテク産業 (IT、バイオなど) (12) 地域の新たな産業 (アニメ、健康、環境など) (13) ケーススタディ：地域の現状と課題 (14) ケーススタディ：地域における新産業の創出プラン (15) まとめ
----------	--

準備学習	地域経済論a、bを一括履修すること。
------	--------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	期末試験による評価：50% 講義中のレポートおよび出席状況など平常点評価：50%
---------	---

教科書/テキスト	長山宗広『日本的スピノフ・ベンチャー創出論 ー新しい産業集積と実践コミュニティを事例とする実証研究』同友館、2012年。
----------	--

「イエスタデイ」にて講義内容の一部を公開する。

参考書	地域経済論aと同じ
-----	-----------

履修コード	094101
科目名	地方財政論
担当者名	江夏 あかね

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講座は、地方財政の構造、国と地方の財政関係、地方債市場をめぐる動きなどから、地方財政の全体像を把握できるように講義が行われる。地方財政に関する基礎的な知識を習得することをはじめとして、昨今の地方財政・地方債市場に関するトピックを実際のニュース等を踏まえて解説する。さらに、昨今の国（ソブリン）の財政危機の問題も踏まえて、国と地方の財政等の比較や国内外の事例も取り上げる予定である。さらに、いくつかの地方公共団体が抱える財政問題等の実例をもとに、ケース・スタディーを実施するなど、より実践に即した機会を設ける。金融業界、公務員等への就職を検討する際に大いに参考になることが期待される。
---------------------	--

授業スケジュール	以下の進行を予定しているが、講師の都合によって変更される場合があるので、毎回の授業においてスケジュールを確認しておくこと。
----------	---

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 日本の地方自治と地方財政
- 第3回 地方財政の概要 (1) ー地方財政と国家財政
- 第4回 地方財政の概要 (2) ー地方公共団体の収入
- 第5回 地方財政の概要 (3) ー地方公共団体の経費
- 第6回 地方財政の概要 (4) ー地方公共団体の財政運営
- 第7回 地方財政の概要 (5) ー地方公共団体の財政の健全化に関する法律 (地方公共団体財政健全化法) に基づく財政健全化制度
- 第8回 地方財政の概要 (6) ー財政分析の基礎
- 第9回 地方財政の概要 (7) ー国内外の地方財政制度・財政健全化制度
- 第10回 地方公営企業
- 第11回 地方公社
- 第12回 第三セクター
- 第13回 公会計
- 第14回 ケース・スタディー
- 第15回 前期のまとめ

- 第16回 地方債市場の概要 (1) ー地方債の概要と地方債関連制度
- 第17回 地方債市場の概要 (2) ー地方債の種類
- 第18回 地方債市場の概要 (3) ー金融市場から見た地方債
- 第18回 地方債市場の概要 (4) ー地方債格付け
- 第19回 地方債市場の概要 (4) ー金融危機、国 (ソブリン) の財政危機と地方債
- 第20回 地方債市場の概要 (5) ー国内外の地方債
- 第21回 近年の地方財政・地方債関連の焦点 (1) ー地方分権の流れ (仮)
- 第22回 近年の地方財政・地方債関連の焦点 (2) ー社会保障と税の一体改革 (仮)
- 第23回 近年の地方財政・地方債関連の焦点 (3) ー大都市制度の見直し (仮)
- 第24回 近年の地方財政・地方債関連の焦点 (4) ー地方公共団体の新たな資金調達手法の模索 (仮)
- 第25回 地方財政から見た国の財政 (1)
- 第26回 地方財政から見た国の財政 (2)
- 第26回 地方財政から見た国の財政 (3)
- 第27回 地方財政から見た国の財政 (4)
- 第28回 地方財政から見た国の財政 (5)
- 第29回 地方財政から見た国の財政 (6)
- 第30回 後期のまとめ

準備学習	授業内容に関連した新聞記事やウェブページを授業内で取り扱うことがある。関連したメディアに目を通しておくこと
------	---

履修上の留意点

成績評価の方法	試験で評価する
---------	---------

教科書／テキスト	江夏あかね『日本の復興と財政再建への道』学文社、¥2,730、978-4-7620-2248-7 その他適宜資料を配布する
----------	--

参考書	江夏あかね『地方債投資ハンドブック』財經詳報社、¥3,990、978-4881777435 江夏あかね『地方債のクレジットと格付け』商事法務、¥4,725、978-4785716172
-----	---

その他	金融機関の現役社員による講義であり、定刻に開始し、4年生の就職活動による場合を除き、原則として遅刻は認めない。授業中の私語は厳禁。受講態度に問題がある場合、退室を指導することがある。
-----	---

履修コード	094701
科目名	中国経済論
担当者名	小杉 修二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	前期は中華人民共和国の経済を歴史的に学ぶ。その開発目標に着目して、中ソ同盟下の大国志向としての「ソ連モデル」、独自の超大国を志向して米ソと対立した「毛沢東モデル」について学ぶ。後期は現在につながる「鄧小平モデル」の経済発展と問題点について学ぶ。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1週-3週：キーワードの解説を中心に基礎知識にふれる。</p> <p>第4週-10週：ソ連モデル期に中国は発展途上国の特徴である機械の生産能力を欠いているという弱点を克服した。現在、中国の知的財産権侵害が問題にもされているが、発展途上国が発展していくとき良かれ悪しかれ、先進的な技術をまねることになる。しかし、世界中のどの国でもまねができるかといえば必ずしもそうではない。まねることも偉大な能力であることはわが日本が示してきた能力である。まねができるだけの基礎的能力のかなりの部分がこの時期に培われたと考えられる。また、年9%近い高度経済成長、国民生活の一定の改善もこの時期に達成された。さらに一定の兵器の自給も達成された。</p> <p>第11週-15週：毛沢東モデル時期には国家目標は独自の超大国に切り替えられた。この時期中国は一見すると経済発展に背を向けて「革命」を目指していたなどといわれることもある。しかし、この時期に6%程度の経済成長があった。しかし、その成果は国民生活のためには使われず、核ミサイルの開発や米ソとの覇権争いのため、また、後にはソ連との戦争に備える臨戦態勢づくりに消費されてしまった。そしてこの開発戦略のため、中国経済の効率性は低下し、行き詰った。これら二つの時期の中国の行き方は良くも悪くも今日にまで続く影を落としている面がある。</p> <p>後期は鄧小平モデル期(1978年-)の中国を考える。この時期の中国は、平和共存の戦略の下でもうひとつの超大国を目指すべく目覚ましい経済発展を遂げるにいたった。平和共存への転換は臨戦態勢からの脱却を可能にした。資本が乏しいというのが発展途上国の特徴だが、中国は毛沢東式の共産主義の下に「我慢することが共産主義」だとして、さまざまなキャンペーンを通じて消費を抑制し、工場や核ミサイルの開発をしてきた。毛沢東の後継者たち「4人組」が敗退したということは、新しい国際条件の下では、国民生活の抑制による経済運営ではなく経済成長による国民生活の向上が新しい経済発展の道として選ばれたということであり、この流れは不可逆的なものである。</p> <p>第16週-25週：新しい発展戦略は外国の技術・資本を積極的に導入することによって可能になった。中国の低賃金労働力もそれを後押しする要因だった。電機産業にみられる「組み合わせ型」の技術による産業分野では中国はテレビ、パソコン、電子レンジ、洗濯機、冷蔵庫等で世界有数の生産国になった。1人あたりの所得も4000ドルを超えるにいたった。こうした中国の発展を可能にした要因を考えていく。</p> <p>第26週-30週：産業構造の特徴、地域的な産業集積、産業高度化の課題、日中関係、地域格差、階層格差等について考えていく。</p>
----------	---

準備学習	教科書・参考書に目を通すこと。また、日ごろより中国関係のテレビ番組、新聞記事やインターネット記事等にも目を通すこと。
履修上の留意点	私語、飲食、携帯電話禁止(授業に集中できない人は出席不可)。
成績評価の方法	前期レポート、後期試験(30%、70%)。
教科書/テキスト	前期 小杉修二『増補 現代中国の国家目的と経済開発』(龍溪書舎 1997年)4000円
参考書	加藤弘之・上原一慶編著『中国経済論』ミネルヴァ書房 2004年、馬成三『中国経済の読み方』ジェトロ、2002年、周牧之『中国経済論』日本経済評論社、2007年

履修コード	309901
科目名	中国経済論
担当者名	小杉 修二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	前期は中華人民共和国の経済を歴史的に学ぶ。その開発目標に着目して、中ソ同盟下の大國志向としての「ソ連モデル」、独自の超大国を志向して米ソと対立した「毛沢東モデル」について学ぶ。後期は現在につながる「鄧小平モデル」の経済発展と問題点について学ぶ。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1週-3週：キーワードの解説を中心に基礎知識にふれる。</p> <p>第4週-10週：ソ連モデル期に中国は発展途上国の特徴である機械の生産能力を欠いているという弱点を克服した。現在、中国の知的財産権侵害が問題にもされているが、発展途上国が発展していくとき良かれ悪しかれ、先進的な技術をまねることになる。しかし、世界中のどの国でもまねができるかといえば必ずしもそうではない。まねることも偉大な能力であることはわが日本が示してきた能力である。まねができるだけの基礎的能力のかなりの部分がこの時期に培われたと考えられる。また、年9%近い高度経済成長、国民生活の一定の改善もこの時期に達成された。さらに一定の兵器の自給も達成された。</p> <p>第11週-15週：毛沢東モデル時期には国家目標は独自の超大国に切り替えられた。この時期中国は一見すると経済発展に背を向けて「革命」を目指していたなどといわれることもある。しかし、この時期に6%程度の経済成長があった。しかし、その成果は国民生活のためには使われず、核ミサイルの開発や米ソとの覇権争いのため、また、後にはソ連との戦争に備える臨戦態勢づくりに消費されてしまった。そしてこの開発戦略のため、中国経済の効率は低下し、行き詰った。これら二つの時期の中国の行き方は良くも悪くも今日にまで続く影を落としている面がある。</p> <p>後期は鄧小平モデル期（1978年-）の中国を考える。この時期の中国は、平和共存の戦略の下でもうひとつの超大国を目指すべく目覚ましい経済発展を遂げるにいたった。平和共存への転換は臨戦態勢からの脱却を可能にした。資本が乏しいというのが発展途上国の特徴だが、中国は毛沢東式の共産主義の下に「我慢することが共産主義」だとして、さまざまなキャンペーンを通じて消費を抑制し、工場や核ミサイルの開発をしてきた。毛沢東の後継者たち＝「4人組」が敗退したということは、新しい国際条件の下では、国民生活の抑制による経済運営ではなく経済成長による国民生活の向上が新しい経済発展の道として選ばれたということであり、この流れは不可逆的なものである。</p> <p>第16週-25週：新しい発展戦略は外国の技術・資本を積極的に導入することによって可能になった。中国の低賃金労働力もそれを後押しする要因だった。電機産業にみられる「組み合わせ型」の技術による産業分野では中国はテレビ、パソコン、電子レンジ、洗濯機、冷蔵庫等で世界有数の生産国になった。1人あたりの所得も4000ドルを超えるにいたった。こうした中国の発展を可能にした要因を考えていく。</p> <p>第26週-30週：産業構造の特徴、地域的な産業集積、産業高度化の課題、日中関係、地域格差、</p>
----------	--

準備学習	日ごろより中国関係のテレビ番組、新聞記事に目を通すこと。
履修上の留意点	私語、飲食、携帯電話禁止（授業に集中できない人は出席不可）。
成績評価の方法	前期レポート、後期試験（30%、70%）。
教科書／テキスト	前期 小杉修二『増補 現代中国の国家目的と経済開発』（龍溪書舎 1997年）4000円
参考書	加藤弘之・上原一慶編著『中国経済論』ミネルヴァ書房 2004年、馬成三『中国経済の読み方』ジェトロ、2002年、周牧之『中国経済論』日本経済評論社、2007年

履修コード	093821
科目名	中小企業政策論
担当者名	吉田 敬一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は中小企業論の内容を前提として進めます。戦後日本の高度成長を支えた中小企業の革新過程を支援した中小企業政策の特徴を学ぶこと、さらに下請問題・金融問題を取り上げ、中小企業のおかれている立場・条件の劣悪性を明らかにし、経済大国にとどまらず、生活大国を建設するための重要課題としての日本の中小企業問題の解決の方向と展望を考えることを主要課題とします。
---------------------	--

授業スケジュール	講義ガイダンス (1) 1 復興期の中小企業政策 (2~4) 2 高度成長と中小企業近代化政策 (5~8) 3 中小企業政策の大転換 (9~11) 4 経済のグローバル化と中小企業政策 (12~13) 5 中小企業と不公正取引問題 (14) 講義のまとめ (15)
----------	--

準備学習	中小企業問題は国際経済・日本経済の動向と密接に絡み合っているため、毎日の新聞に目を通しておくことが望ましい。 また中小企業庁のホームページを開くと、各種の調査・統計資料が公開されているので、閲覧することは有益である。
------	---

履修上の留意点	
成績評価の方法	成績評価は、原則として、定期試験(後期末:80点)とレポート(最終授業日提出:20点)を基準として行ないます。詳細は最初の授業時に説明します。追試験は実施します。

教科書/テキスト	教科書は使用せず、ノート講義の形式で授業を行ないます。
----------	-----------------------------

参考書	『中小企業白書』 吉田敬一・井内尚樹編著『地域振興と中小企業』ミネルヴァ書房 清成忠男『日本中小企業政策史』有斐閣 黒崎直宏『中小企業政策の総括と提言』同友館
-----	--

履修コード	311401
科目名	中小企業政策論
担当者名	吉田 敬一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は中小企業論の内容を前提として進めます。戦後日本の高度成長を支えた中小企業の革新過程を支援した中小企業政策の特徴を学ぶこと、さらに下請問題・金融問題を取り上げ、中小企業のおかれている立場・条件の劣悪性を明らかにし、経済大国にとどまらず、生活大国を建設するための重要課題としての日本の中小企業問題の解決の方向と展望を考えることを主要課題とします。
---------------------	--

授業スケジュール	講義ガイダンス (1) 1 復興期の中小企業政策 (2~4) 2 高度成長と中小企業近代化政策 (5~8) 3 中小企業政策の大転換 (9~11) 4 経済のグローバル化と中小企業政策 (12~13) 5 中小企業と不公正取引問題 (14) 講義のまとめ (15)
----------	--

準備学習	中小企業問題は国際経済・日本経済の動向と密接に絡み合っているため、毎日の新聞に目を通しておくことが望ましい。 また中小企業庁のホームページを開くと、各種の調査・統計資料が公開されているので、閲覧することは有益である。
------	---

履修上の留意点	
成績評価の方法	成績評価は、原則として、定期試験(後期末:80点)とレポート(最終授業日提出:20点)を基準として行ないます。詳細は最初の授業時に説明します。追試験は実施します。

教科書/テキスト	教科書は使用せず、ノート講義の形式で授業を行ないます。
----------	-----------------------------

参考書	『中小企業白書』 吉田敬一・井内尚樹編著『地域振興と中小企業』ミネルヴァ書房 清成忠男『日本中小企業政策史』有斐閣 黒崎直宏『中小企業政策の総括と提言』同友館
-----	--

履修コード	093811
科目名	中小企業論
担当者名	吉田 敬一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	商店街のパン屋さんも中小企業、ハイテク製品を造るベンチャーも中小企業。中小企業は異質で多様な形で存在しています。しかも戦後日本の経済発展において中小企業は意外に大きな役割を果たしてきました。この点に関して自動車工業を事例として明らかにし、中小企業が日本経済の中で果たしている役割を考えることが、この講義の目的です。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>講義ガイダンス(1)</p> <p>I 中小企業の基礎理論</p> <p>I-1 中小企業の法的規定(2)</p> <p>I-2 中小企業の経営類型(3)</p> <p>I-3 中小企業の企業形態(4)</p> <p>I-4 日本型下請構造の特質(5~6)</p> <p>II 日本型下請システムの形成過程、</p> <p>II-1 日本経済復活期の生産分業構造(7~8)</p> <p>II-2 高度経済成長期の下請管理の合理化(9~10)</p> <p>II-3 自動車工業の急成長と日本型下請構造の確立(11~12)</p> <p>II-4 グローバル化と日本型下請け構造の改変(13~14)</p> <p>講義のまとめ(15)</p>
----------	--

準備学習	中小企業問題は国際経済・日本経済の動向と密接に絡み合っているため、毎日の新聞に目を通しておくことが望ましい。また中小企業庁のホームページを開くと、各種の調査・統計資料が公開されているので、閲覧することは有益である。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	成績評価は、原則として、定期試験(前期末:80点)とレポート(最終授業日提出:20点)を基準として行ないます。詳細は最初の授業で説明します。追試験は実施しません。
---------	---

教科書/テキスト	教科書は使用せず、ノート講義の形式で授業を行ないます。
----------	-----------------------------

参考書	<p>『中小企業白書』</p> <p>吉田敬一・井内尚樹編著『地域振興と中小企業』ミネルヴァ書房</p> <p>吉田敬一・永山利和・森本隆男編著『産業構造転換と中小企業』ミネルヴァ書房</p> <p>松丸和夫監修・労働運動総合研究所編『グローバル化のなかの中小企業問題』新日本出版</p> <p>小川正博・西岡正・北嶋守編著『日本企業のものづくり革新』同友館</p> <p>渡辺幸男『21世紀中小企業論』有斐閣</p> <p>黒崎誠『世界を制した中小企業』講談社現代新書</p>
-----	---

履修コード	311311
科目名	中小企業論
担当者名	吉田 敬一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	商店街のパン屋さんも中小企業、ハイテク製品を造るベンチャーも中小企業。中小企業は異質で多様な形で存在しています。しかも戦後日本の経済発展において中小企業は意外に大きな役割を果たしてきました。この点に関して自動車工業を事例として明らかにし、中小企業が日本経済の中で果たしている役割を考えることが、この講義の目的です。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>講義ガイダンス(1)</p> <p>I 中小企業の基礎理論</p> <p>I-1 中小企業の法的規定(2)</p> <p>I-2 中小企業の経営類型(3)</p> <p>I-3 中小企業の企業形態(4)</p> <p>I-4 日本型下請構造の特質(5~6)</p> <p>II 日本型下請システムの形成過程</p> <p>II-1 日本経済復活期の生産分業構造(7~8)</p> <p>II-2 高度経済成長期の下請管理の合理化(9~10)</p> <p>II-3 自動車工業の急成長と日本型下請構造の確立(11~12)</p> <p>II-4 グローバル化と日本型下請構造の改変(13~14)</p> <p>講義のまとめ(15)</p>
----------	--

準備学習	中小企業問題は国際経済・日本経済の動向と密接に絡み合っているため、毎日の新聞に目を通しておくことが望ましい。また中小企業庁のホームページを開くと、各種の調査・統計資料が公開されているので、閲覧することは有益である。
------	---

履修上の留意点	
成績評価の方法	成績評価は、原則として、定期試験(後期末:80点)とレポート(最終授業日提出:20点)を基準として行ないます。詳細は最初の授業時に説明します。追試験は実施します。

教科書/テキスト	教科書は使用せず、ノート講義の形式で授業を行ないます。
----------	-----------------------------

参考書	<p>『中小企業白書』</p> <p>吉田敬一・井内尚樹編著『地域振興と中小企業』ミネルヴァ書房</p> <p>吉田敬一・永山利和・森本隆男編著『産業構造転換と中小企業』ミネルヴァ書房</p> <p>松丸和夫監修・労働運動総合研究所編『グローバル化のなかの中小企業問題』新日本出版</p> <p>小川正博・西岡正・北嶋守編著『日本企業のものづくり革新』同友館</p> <p>渡辺幸男『21世紀中小企業論』有斐閣</p> <p>黒崎誠『世界を制した中小企業』講談社現代新書</p>
-----	---

履修コード	100321
科目名	通関実務
担当者名	荒畑 治雄
授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>貿易取引における輸出とは、内国貨物を外国に向けられた船舶・航空機・鉄道・トラック等に積み込んで送り出すことをいう。そして輸入とは、外国から到着した貨物または輸出許可を受けた貨物を輸入通関手続きを行って国内に引き取ることをいう。企業が商品を輸出または輸入する場合には、税関に申告して、当該税関長の許可を得る必要がある。</p> <p>本講義において、税関手続きに関する総合的な知識を持ち、通関についての体系的な知識を修得し、国家試験である通関士の資格取得を目標にして、実社会で役立つよう指導する。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課税物件の確定の時期 2. 納税義務者・税額の確定 3. 修正申告、更正の請求 4. 納付と法定納期限・納期限 5. 輸出入申告の時期 6. 保税地域・保税運送 7. 課税価格(1)原則的な課税価格決定の方法 8. 原則によらない場合の課税価格の決定方法 9. 税率の種類 10. 減免税制度(Aグループ・・・加工・修繕のために輸出された貨物の減免、再輸入免税、再輸出免税その他) 11. 減免税制度(Bグループ・・・製造用原料品の減免税、外国で採捕された水産物の減免税・戻し税) 12. 特恵関税 13. 電子情報処理組織による税関手続きの特例 14. 外国為替および外国貿易法 15. 問題およびその解答
準備学習	我が国において、通関に関する各種手続きを迅速に行うため、「電子情報処理組織による関税手続きの特例等に関する法律」が制定され、こうしたシステムによって輸出入通関手続きが実施されている。そこでコンピュータを使用した貿易取引および米国・EU・日本・アジアをはじめとするグローバル・ビジネスに関心を深めておくことが望ましい。
履修上の留意点	本講義を受講するにあたり、日頃から、国際商取引の動きについて各種のメディアを通じて学習するように心がけておくこと。
成績評価の方法	出席状況、授業態度を勘案し、学期末試験(80%)により総合的に判定する。
教科書／テキスト	4月開講時に指示する。必要に応じてプリントを配布する。
参考書	授業に使用する参考書は講義日に指示する。

履修コード	092901
科目名	統計原論
担当者名	矢野 浩一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義では、はじめて統計学を学ぶ学部生向けに初歩から統計学を講義する。授業の目標は(1)統計学の基礎を学び、(2)ビジネスや経済におけるデータ分析を学び、(3)Excelなどのソフトウェアを用いて実際にデータ分析する方法を合わせて学ぶことにある。それらを通じてビジネスや社会において統計学をどのように応用すればよいか学び、実際的な能力を身につけることができる。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学とは何か：データ分析と現代社会 2. グラフとは何か (1)：ヒストグラム、折れ線グラフ、累積度数分布 3. グラフとは何か (2)：Excel実習 4. データを一言で表す (1)：平均と中央値 5. データを一言で表す (2)：Excel実習 6. ばらつきとリスクを追いかける (1)：四分位数と分散・標準偏差、変動係数 7. ばらつきとリスクを追いかける (2)：Excel実習 8. 相関を考える (1)：相関、相関係数 9. 相関を考える (2)：Excel実習 10. 単回帰分析 (1)：アイスクリーム屋さんの売上、単回帰分析、最小二乗法 11. 単回帰分析 (2)：Excel実習 12. 単回帰分析 (3)：決定係数と誤差、予測 13. 推定 (1)：最小二乗法、不偏推定量 14. 推定 (2)：Excel実習 15. 前期の総復習と夏休みの課題の発表 16. 前期の復習・後期の概要、夏休みの課題提出 17. 標本を作る (1)：無作為抽出とアンケート調査、サンプルの平均と標準偏差 18. 標本を作る (2)：Excel実習 (アンケート調査のまとめ方、サンプル平均の計算) 19. 確率の基礎 (1)：確率とは何か、ベン図、和事象・積事象 20. 確率の基礎 (2)：加法定理、乗法定理、条件付き確率 21. 確率の基礎 (3)：期待値、分散 [確率版] 22. 分布とは何か (1)：離散分布 23. 分布とは何か (2)：正規分布 24. 推定 (1)：中心極限定理 25. 推定 (2)：点推定、区間推定 26. 推定 (3)：Excel実習 (点推定、区間推定) 27. 仮説検定 (1)：仮説検定、有意水準 28. 仮説検定 (2)：Excel実習 (t検定) 29. 一年間の総復習 30. テスト直前対策
----------	--

準備学習	教科書と事前に配布する講義資料をよく読んでおくこと。
------	----------------------------

履修上の留意点	数学上の前提知識は特に必要としないが、講義の中である程度は使用せざるを得ないため、必要な知識は講義の中で教える。講義には積極的に参加すること。また、私語は厳しく禁じる。携帯電話の電源は切るか、マナーモードすること。これらの常識が守れない者は退出させることがある。
---------	---

成績評価の方法	期末テスト・課題・授業への参加態度等を総合的に評価する。夏季休暇中の課題と学期中に実施する小テストも成績評価の考慮に入れるため、それらは必ず提出すること。
---------	---

教科書/テキスト	ポール G. ホーエル 「初等統計学」 (培風館)、1838円、ISBN-10: 4563008397
----------	---

参考書	適宜指定する。
-----	---------

履修コード	093301
科目名	日本経済史
担当者名	河村 徳士

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	前期では、主に日本資本主義の確立とその構造的特質について考察します。いかなる条件のもとで日本の資本主義が確立し、それはどのような特質をもったのかということを考えるものになります。幕末開港から日露戦後ころまでが対象となります。前期の終りから後期では、日本資本主義の変質に留意して日本経済の歴史を考えます。第一次大戦期から高度成長期あたりまでを対象とする予定です。ねらいは、われわれが暮らしている社会がどのように形成されてきたのかということについて理解を深めてゆくことにあります。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) 課題と方法、(2)～(4) 幕末開港と明治維新、(5)～(6) 近代日本社会の形成、(7)～(12) 日本の産業革命、(13)～(15) 第一次大戦期の経済構造、(16)～(19) 戦間期の日本経済、(20)～(24) 戦時経済、(25)～(26) 戦後復興、(27)～(29) 高度成長の展開、(30) 総括と展望
----------	--

準備学習	特にありません。毎回の講義内容は前回講義の最後に指示する予定です。
------	-----------------------------------

履修上の留意点	毎回の講義は連続した内容になっています。欠席すると前後関係がわからなくなるので、注意してください。
---------	---

成績評価の方法	定期試験(年度末)によって判断します。
---------	---------------------

教科書/テキスト	指定しません。
----------	---------

参考書	石井寛治『日本経済史』東京大学出版会、1991年、三和良一『概説日本経済史 [第二版]』東京大学出版会、2002年、武田晴人『新版日本経済の事件簿』日本経済評論社、2009年。個別の内容に関する文献は、必要であれば講義の中でその都度紹介します。
-----	--

その他	受講を前提とする講義や日本史の知識は必要ありません。興味があれば、どうぞご参加ください。
-----	--

履修コード	309801
科目名	日本経済論
担当者名	小林 正人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本経済の(第二次世界大)戦後の歴史について基本的な知識を講義するとともに、経済発展と産業発展を構造的に理解するための視点を提示する。日本は高度経済成長により「経済大国」になり、1970年代の石油ショックを乗り越えてきたが、1990年代初頭のバブル経済の崩壊のあとは長い不況と「産業空洞化」におちいった。2000年代初頭には長期の好況と雇用劣化の同時進行となり、2008年リーマン・ショックによって「産業空洞化」の新局面を迎えつつある。このような経済発展や構造変化の意味をリアルにつかむために、産業や企業のレベルにまで立ち入り、技術発展や企業間競争の実態について講義する。
---------------------	--

授業スケジュール	1. 日本経済の戦後史 (1～3) 戦後史の時期区分と概要、(4～5) 景気の現状と雇用情勢、(6) 戦後改革、(7～10) 日本の高度経済成長の国内原因と海外要因、(11) 産業政策と経済成長、(12) 石油ショックの展開、(13～15) 円高、バブル経済、平成不況 2. 日本の経済発展とイノベーション (16～17) イノベーションと産業構造、(18～19) 産業分類と製造業、(20～22) 自動車産業の発展と生産システム、(23～24) 半導体産業の発展と国際的特質、(25～26) 鉄鋼、電機、工作機械等の産業の発展過程 3. 戦後日本の景気循環 (27～29) 4. 日本の経済発展と日本型経済システムの展望 (30)
----------	---

準備学習	世界史と日本史の基礎知識が必要。下記の「履修上の留意点」と「参考書」を参照。
------	--

履修上の留意点	講義資料をひんぱんに配付する。一度しか配付しないので確実に収集し、授業に持参して保管し、定期試験にそなえることが必要である。教場の前面のスクリーンに講義資料を表示しながら講義をすすめるので、見やすい位置に着席すること。プレゼンテーション中心で板書が少ない講義である。なお、ほとんどの講義資料は「小林研究室」のウェブサイト[http://www.komazawa-u.ac.jp/~kobamasa/]の「講義」の「日本経済論」のサイトにもできるだけ載せるようにしている。
---------	---

成績評価の方法	定期試験の成績と、講義の節目に出題する数回の小論文またはレポートの達成度とを総合して評価する。
---------	---

教科書/テキスト	なし。
----------	-----

参考書	適時紹介する。なお、経済学の概念や経済用語を調べるための辞典ないし事典の一つは常備してもらいたい(有斐閣、岩波書店、東洋経済新報社などが出版している)。
-----	--

その他	講義についての質問を歓迎します。ただしそのときは、関連する講義資料を持参することが重要です(有意義な回答のため)。
-----	---

履修コード	091101
科目名	日本経済論
担当者名	小林 正人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本経済の(第二次世界大)戦後の歴史について基本的な知識を講義するとともに、経済発展と産業発展を構造的に理解するための視点を提示する。日本は高度経済成長により「経済大国」になり、1970年代の石油ショックを乗り越えてきたが、1990年代初頭のバブル経済の崩壊のあとには長い不況と「産業空洞化」におちいった。2000年代初頭には長期の好況と雇用劣化の同時進行となり、2008年リーマン・ショックによって「産業空洞化」の新局面を迎えつつある。このような経済発展や構造変化の意味をリアルにつかむために、産業や企業のレベルにまで立ち入り、技術発展や企業間競争の実態について講義する。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本経済の戦後史 (1~3) 戦後史の時期区分と概要、(4~5) 景気の現状と雇用情勢、(6) 戦後改革、(7~10) 日本の高度経済成長の国内原因と海外要因、(11) 産業政策と経済成長、(12) 石油ショックの展開、(13~15) 円高、バブル経済、平成不況 2. 日本の経済発展とイノベーション (16~17) イノベーションと産業構造、(18~19) 産業分類と製造業、(20~22) 自動車産業の発展と生産システム、(23~24) 半導体産業の発展と国際的特質、(25~26) 鉄鋼、電機、工作機械等の産業の発展過程 3. 戦後日本の景気循環 (27~29) 4. 日本の経済発展と日本型経済システムの展望 (30)
----------	---

準備学習	世界史と日本史の基礎知識が必要。下記の「履修上の留意点」と「参考書」を参照。
------	--

履修上の留意点	講義資料をひんばんに配付する。一度しか配付しないので確実に収集し、授業に持参して保管し、定期試験にそなえることが必要である。教場の前面のスクリーンに講義資料を表示しながら講義をすすめるので、見やすい位置に着席すること。プレゼンテーション中心で板書が少ない講義である。なお、ほとんどの講義資料は「小林研究室」のウェブサイト[http://www.komazawa-u.ac.jp/~kobanasa/]の「講義」の「日本経済論」のサイトにもできるだけ載せるようにしている。
---------	---

成績評価の方法	定期試験の成績と、講義の節目に出題する数回の小論文またはレポートの達成度とを総合して評価する。
---------	---

教科書/テキスト	なし。
----------	-----

参考書	適時紹介する。なお、経済学の概念や経済用語を調べるための辞典ないし事典を一つは常備してもらいたい(有斐閣、岩波書店、東洋経済新報社などが出版している)。
-----	--

その他	講義についての質問を歓迎します。ただしそのときは、関連する講義資料を持参することが重要です(有意義な回答のため)。
-----	---

履修コード	095811
科目名	ネットワーク組織論 a
担当者名	梅木 眞

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	20世紀は「(巨大)組織の時代」であった。しかし、21世紀を迎えた今、そうした潮流は大きく変わりつつある。これまで支配的であった巨大組織に代わり、「組織のネットワーク」が重要な存在となってきた。本講義では組織のネットワークの形成・発展のメカニズムと、そのマネジメントについて学んでいくこととする。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 市場と組織-見えざる手 3. ピラミッド型組織-見える手 4. 分権型組織 5. 組織間ネットワークの形成:概論 6. 企業集団と企業系列 7. アライアンス (1) 8. アライアンス (2) 9. アウトソーシング (1) 10. アウトソーシング (2) 11. M&A&D (1) 12. M&A&D (2) 13. グループ経営のダイナミクス 14. パーチャル組織 15. まとめ-消え行く手
----------	---

準備学習	YeStudyなどを用いて指示する
------	-------------------

履修上の留意点	私語を繰り返す学生は、履修を取り消す。
---------	---------------------

成績評価の方法	期末試験による評価(100%)を行う。出席はとらないが、質問に対して挙手で答えた学生に対しては1回につき5~10点を試験成績に上乘せする。
---------	---

教科書/テキスト	(使用しない)
----------	---------

参考書	山倉健嗣『新しい戦略マネジメント-戦略・組織・組織間関係』同文館出版、2940円 ISBN:978-4-495-37701-4 その他は講義中に指示する。
-----	---

履修コード	095821
科目名	ネットワーク組織論b
担当者名	梅木 眞

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代は巨大企業中心の社会から中小企業・地域企業・コミュニティビジネス・NPOなど多様な組織から成る社会へと移行しつつある。また、インターネットの普及は従来型のビジネスモデルを大きく変えてしまった。本講義ではそれらの組織が織り成すネットワークと、その社会に対する影響について学んでいくこととする。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 均質化社会から多様性社会への移行 3. 中堅・中小企業の台頭とネットワーク 4. クラスタ (1) 概論 5. クラスタ (2) 事例分析① 6. クラスタ (3) 事例分析② 7. 産学官のネットワーク (1) 概論 8. 産学官のネットワーク (2) 事例分析① 9. 産学官のネットワーク (3) 事例分析② 10. コミュニティビジネス (1) 概論 11. コミュニティビジネス (2) 事例分析 12. NPO (1) 概論 13. NPO (2) 事例分析 14. ネットワーク組織におけるメディアと情報 15. まとめ
----------	--

準備学習	YeStudyを用いて指示する
------	-----------------

履修上の留意点	私語を繰り返す学生は、履修を取り消す。
---------	---------------------

成績評価の方法	期末試験による評価 (100%) を行う。出席はとらないが、質問に対して挙手で答えた学生に対しては1回につき5~10点を試験成績に上乘せする。
---------	---

教科書/テキスト	使用しない。
----------	--------

参考書	中小企業総合研究機構『産業集積の新たな胎動』同友館、2730円、ISBN : 4-496-03702-5 五十嵐敬喜・天野礼子『市民事業』中公新書 ラクレ、ISBN : 4-12-150085-7
-----	---

履修コード	093501
科目名	農業政策
担当者名	溝手 芳計

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「現代農業と食料・農業政策の展開」を基本テーマとする。 ①農業の産業的特質と現下の農業の急激な変化を理解する。②WTO農業協定における世界的な農業政策ルールの変化の特徴と意義を知る。③市場経済における価格メカニズムの機能との関連で、価格政策の縮小=直接支払いへの移行という政策ツールの変化について考察する。④これらを念頭に置きつつ、日本の農業問題の特質と食料・農業・農村政策の歩み・現状について考察する。⑤あわせて、日本及び世界の食料問題と対策について検討する。以上5項目について、基礎的な知識を伝授することを目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回：農業政策とは？</p> <p>第2回：食料問題と食料政策(1)食料問題とは何か(需要・供給・分配)</p> <p>第3回：食料問題と食料政策(2)食料自給率低下と需要サイドの要因(需要の所得弾力性、食生活の近代化)</p> <p>第4回：食料問題と食料政策(3)食料自給率低下と供給サイドの要因(市場開放、外国為替レート)</p> <p>第5回：食料問題と食料政策(4)市場経済下における食の外部化・サービス化とフードシステム</p> <p>第6回：食料問題と食料政策(5)フードシステムの発展とアグリビジネスの影響力拡大</p> <p>第7回：食料問題と食料政策(6)グローバリゼーションと食料・食品安全問題</p> <p>第8回：農業の特質と現代農業(1)農業の産業的特質(生物資源培養産業、環境関連産業)</p> <p>第9回：農業の特質と現代農業(2)農業の産業的特質(土地利用産業)</p> <p>第10回：農業の特質と現代農業(3)現代農業革命と農業・食の工業化</p> <p>第11回：農業の特質と現代農業(4)農業・食の工業化とアグリビジネスの浸透(契約生産を中心に)</p> <p>第12回：日本の農業問題と農業政策(1)日本の農業政策を見る目(零細農耕、資本蓄積、農村振興)</p> <p>第13回：日本の農業問題と農業政策(2)零細農耕の形成と温存(自然的要因、地租改正・農地改革)</p> <p>第14回：日本の農業問題と農業政策(3)高度成長と農業基本法(構造改善、選択的拡大、所得均衡)</p> <p>第15回：日本の農業問題と農業政策(4)低成長への移行と地域農政(財政危機、米過剰、地域農政)</p> <p>第16回：日本の農業問題と農業政策(5)ブラザ合意=円高、日米経済摩擦=市場開放と日本農業</p> <p>第17回：日本の農業問題と農業政策(6)WTO農業協定と日本の農政改革</p> <p>第18回：日本の農業問題と農業政策(7)食料・農業・農村基本法</p> <p>第19回：日本の農業問題と農業政策(8)政権交代と農業政策</p> <p>第20回：農産物価格と価格・所得政策(1)市場経済における価格の役割と農産物価格問題</p> <p>第21回：農産物価格と価格・所得政策(2)農産物価格形成の特殊性(土地利用産業と差額地代)</p> <p>第22回：農産物価格と価格・所得政策(3)農産物価格形成の特殊性(家族経営、寡占と不等価交換)</p> <p>第23回：農産物価格と価格・所得政策(4)農産物価格政策の2類型(価格支持と不足払い)</p> <p>第24回：農産物価格と価格・所得政策(5)戦後日本の価格政策(米価政策を中心に)</p> <p>第25回：農産物価格と価格・所得政策(6)価格政策から直接支払いへ(市場を経由しない農家支援へ)</p> <p>第26回：世界の農業・農業政策(1)アメリカの農産物貿易と世界市場戦略</p> <p>第27回：世界の農業・農業政策(2)EUにおける農業・食品関連産業の動向と共通農業政策改革</p> <p>第28回：世界の農業・農業政策(3)グローバリゼーションと新興農業国テリの農業</p> <p>第29回：世界の農業・農業政策(4)グローバリゼーション下で苦しむ後発途上国農業</p> <p>第30回：新しい食料・農業・農村政策をめざして(農業・食料における市場の意義と限界)</p>
----------	---

準備学習	授業プリントで、復習・予習箇所を案内するので、教科書を予習して授業を受けてください。
履修上の留意点	充実した授業は、教員の努力だけでできるものではありません。授業中に「コミュニケーション・カード」を配布しますので、授業の感想や質問、意見を書いてください。授業改善の参考にします。
成績評価の方法	成績評価は、定期試験を基本としますが、授業中の小テストの結果を加味します(総点の20%以下)。追試験有り。
教科書/テキスト	<p>田代洋一『新版農業問題入門』、大月書店、3150円、ISBN978-4-272-14046-6</p> <p>中野一新・岡田知弘編『グローバリゼーションと世界の農業』、大月書店、3150円、ISBN978-4-272-14055-8</p> <p>※どちらも、授業中には使いませんが、予復習してください。</p>
参考書	<p>大塚茂・松原豊彦編『現代の食とアグリビジネス』、有斐閣、2100円、ISBN4-641-28094-0</p> <p>加瀬良明編著『グローバル資本主義と農業』、筑波書房、2940円、ISBN978-4-8119-0332-3 C3033</p>

履修コード	309101
科目名	農業政策
担当者名	溝手 芳計

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>「現代農業と食料・農業政策の展開」を基本テーマとする。</p> <p>①農業の産業的特質と現下の農業の急激な変化を理解する。②WTO農業協定における世界的な農業政策ルールの変化の特徴と意義を知る。③市場経済における価格メカニズムの機能との関連で、価格政策の縮小=直接支払いへの移行という政策ツールの変化について考察する。④これらを念頭に置きつつ、日本の農業問題の特質と食料・農業・農村政策の歩み・現状について考察する以上4項目について、基礎的な知識を伝授することを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>授業スケジュール 第1回：農業政策とは？</p> <p>第2回：食料問題と食料政策(1)食料問題とは何か(需要・供給・分配)</p> <p>第3回：食料問題と食料政策(2)食料自給率低下と需要サイドの要因(需要の所得弾力性、食生活の近代化)</p> <p>第4回：食料問題と食料政策(3)食料自給率低下と供給サイドの要因(市場開放、外国為替レート)</p> <p>第5回：食料問題と食料政策(4)市場経済下における食の外部化・サービス化とフードシステム</p> <p>第6回：食料問題と食料政策(5)フードシステムの発展とアグリビジネスの影響力拡大</p> <p>第7回：食料問題と食料政策(6)グローバル化と食料・食品安全問題</p> <p>第8回：食糧問題と食料政策(7)食料安全保障と食料主権</p> <p>第9回：農業の特質と現代農業(1)農業の産業的特質(生物資源培養産業、環境関連産業)</p> <p>第10回：農業の特質と現代農業(2)農業の産業的特質(土地利用産業)</p> <p>第11回：農業の特質と現代農業(3)現代農業革命と農業・食の工業化</p> <p>第12回：農業の特質と現代農業(4)農業・食の工業化(契約生産を中心に)</p> <p>第13回：農業の特質と現代農業(5)アグリビジネスの浸透</p> <p>第14回：日本の農業問題と農業政策(1)日本の農業政策を見る目(零細農耕、資本蓄積、農村振興)</p> <p>第15回：日本の農業問題と農業政策(2)零細農耕の形成と温存(自然的要因、地租改正・農地改革)</p> <p>第16回：日本の農業問題と農業政策(3)高度成長と農業基本法(構造改善、選択的拡大、所得均衡)</p> <p>第17回：日本の農業問題と農業政策(4)低成長への移行と地域農政(財政危機、米過剰、地域農政)</p> <p>第18回：日本の農業問題と農業政策(5)プラザ合意=円高、日米経済摩擦=市場開放と日本農業</p> <p>第19回：日本の農業問題と農業政策(6)WTO農業協定と日本の農政改革</p> <p>第20回：日本の農業問題と農業政策(7)食料・農業・農村基本法</p> <p>第21回：日本の農業問題と農業政策(9)米政策改革大綱</p> <p>第22回：日本の農業問題と農業政策(10)政権交代と農業政策</p> <p>第23回：農産物価格と価格・所得政策(1)市場経済における価格の役割と農産物価格問題</p> <p>第24回：農産物価格と価格・所得政策(2)農産物価格形成の特殊性(土地利用産業と差額地代)</p> <p>第25回：農産物価格と価格・所得政策(3)農産物価格形成の特殊性(家族経営、寡占と不等価交換)</p> <p>第26回：農産物価格と価格・所得政策(4)農産物価格政策の2類型(価格支持と不足払い)</p> <p>第27回：農産物価格と価格・所得政策(5)戦後日本の価格政策(米価政策を中心に)</p> <p>第28回：農産物価格と価格・所得政策(6)価格政策から直接支払いへ(市場を経由しない農家支援へ)</p> <p>第29回：農産物価格と価格・所得政策(7)：価格政策と直接支払い(それぞれの意義と問題点)</p> <p>第30回：新しい食料・農業・農村政策をめざして(農業・食料における市場の意義と限界)</p>
----------	---

準備学習	授業プリントで、復習・予習箇所を案内するので、教科書を予習して授業を受けてください。
------	--

履修上の留意点	充実した授業は、教員の努力だけでできるものではありません。授業中に「コミュニケーション・カード」を配布しますので、授業の感想や質問、意見を書いてください。授業改善の参考にします。
---------	---

成績評価の方法	成績評価は、定期試験を基本としますが、授業中の小テストの結果を加味します(総点の20%以下)。追試験有り。
---------	---

教科書/テキスト	田代洋一『新版農業問題入門』、大月書店、3150円、ISBN978-4-272-14046-8 ※授業中には使いませんが、予復習してください。
----------	--

参考書	大塚茂・松原豊彦編『現代の食とアグリビジネス』、有斐閣、2100円、ISBN4-641-28094-0 中野一新・岡田知弘編『グローバル化と世界の農業』、大月書店、3150円、ISBN978-4-272-14055-8 加瀬良明編著『グローバル資本主義と農業』、筑波書房、2940円、ISBN978-4-8119-0332-3 C3033
-----	---

履修コード	097071
科目名	非営利組織論 a
担当者名	松本 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>非営利組織 (非営利セクターに属する組織) には、営利セクター・行政セクターに含まれない NPO 法人、社会福祉法人、学校法人、医療法人、公益法人、協同組合など多種多様な組織が含まれる。非営利組織は、政府・行政や企業活動の行き詰まりが顕在化する中で、福祉分野、まちづくり分野、環境分野、国際協力分野などにおいて活躍の場を着実に拡大し、雇用創出面における期待も増大し、経済活動の主体としてその役割が無視できない存在に発展している。また、行政や企業と非営利組織との協働 (コラボレーション) も活性化している。本講義では、非営利組織の事例を通じて、その存在意義、役割を学ぶ。</p> <p>(到達目標)</p> <p>本講義の到達目標は、非営利組織の現実を踏まえて、営利/非営利組織の共通性/差異性を明確化し国際比較を行うことによって、非営利組織とは何か、とくに非営利事業体を含めてその発展の課題や社会的な存在意義に関する理解が深めることである。また、非営利組織が取り組む社会的課題に関連する知識 (例えば、高齢者介護分野であれば介護保険法など) を習得することも到達目標である。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 非営利組織とは何か 1 狭義の非営利組織</p> <p>第3回 非営利組織とは何か 2</p> <p>第4回 非営利組織とは何か 3</p> <p>第5回 非営利組織とは何か 4 広義の非営利組織</p> <p>第6回 非営利組織の活動分野と経済規模、法・税制度</p> <p>第7回 非営利組織の活動 1 福祉 (高齢者介護) の非営利組織</p> <p>第8回 非営利組織の活動 2 福祉 (子育て・障害者支援) の非営利組織</p> <p>第9回 非営利組織の活動 3 環境・まちづくりの非営利組織</p> <p>第10回 非営利組織の活動 4 国際協力・貧困を解決する非営利組織</p> <p>第11回 非営利組織の実践者による講演</p> <p>第12回 非営利事業体、社会的企業、社会的起業家</p> <p>第13回 非営利組織の国際比較 1</p> <p>第14回 非営利組織の国際比較 2</p> <p>第15回 非営利組織論aのまとめ</p>
----------	--

準備学習	<p>(受講前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで自分の住む地域の「NPO法人」を検索してどのような取り組みを行っているか調べておくこと。 ・日ごろから新聞に目を通し、NPOに関連する記事を読んでおくこと。 <p>(受講中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の3日前に、YeStudyに配布レジュメをアップロードするので、適宜印刷をして持参すること。 ・毎回、復習をすること。 ・授業内容に関連した新聞記事やHPを授業内で取り扱うことがあるので、関連したメディアに目を通しておくこと。
------	---

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義に主体的・積極的に参加する学生の履修を望む。 ・YeStudyに必ず登録すること。レポート提出や小テストの実施時に利用する。
---------	--

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績は、定期試験70%、平常点・レポート等30%で、総合的に評価する。
---------	--

教科書/テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・特に指定しない。 ・YeStudy上で、レジュメを配布する。
----------	--

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、資料を配布したり、関連HPを紹介する。 ・非営利組織の用語に関する基本文献として以下を薦める。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 雨森孝悦『テキストブックNPO』東洋経済新報社、2007年。 (2) 川口清史・田尾雅夫・新川達郎編『よくわかるNPO・ボランティア』ミネルヴァ書房、2005年。 (3) 田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣、2009年。 (4) 山岡義典編著『NPO基礎講座・新版』ぎょうせい、2005年。
-----	---

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・YeStudyを活用する。 ・映像等の利用や現場で活動する人の講演なども交えることによって、できるだけ非営利組織の現実を実感できるように講義を進める。
-----	---

履修コード	314371
科目名	非営利組織論 a
担当者名	松本 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>非営利組織 (非営利セクターに属する組織) には、営利セクター・行政セクターに含まれない NPO 法人、社会福祉法人、学校法人、医療法人、公益法人、協同組合など多種多様な組織が含まれる。非営利組織は、政府・行政や企業活動の行き詰まりが顕在化する中で、福祉分野、まちづくり分野、環境分野、国際協力分野などにおいて活躍の場を着実に拡大し、雇用創出面における期待も増大し、経済活動の主体としてその役割が無視できない存在に発展している。また、行政や企業と非営利組織との協働 (コラボレーション) も活性化している。本講義では、非営利組織の事例を通じて、その存在意義、役割を学ぶ。</p> <p>(到達目標)</p> <p>本講義の到達目標は、非営利組織の現実を踏まえて、営利/非営利組織の共通性/差異性を明確化し国際比較を行うことによって、非営利組織とは何か、とくに非営利事業体を含めてその発展の課題や社会的な存在意義に関する理解が深めることである。また、非営利組織が取り組む社会的課題に関連する知識 (例えば、高齢者介護分野であれば介護保険法など) を習得することも到達目標である。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 非営利組織とは何か 1 狭義の非営利組織</p> <p>第3回 非営利組織とは何か 2</p> <p>第4回 非営利組織とは何か 3</p> <p>第5回 非営利組織とは何か 4 広義の非営利組織</p> <p>第6回 非営利組織の活動分野と経済規模、法・税制度</p> <p>第7回 非営利組織の活動 1 福祉 (高齢者介護) の非営利組織</p> <p>第8回 非営利組織の活動 2 福祉 (子育て・障害者支援) の非営利組織</p> <p>第9回 非営利組織の活動 3 環境・まちづくりの非営利組織</p> <p>第10回 非営利組織の活動 4 国際協力・貧困を解決する非営利組織</p> <p>第11回 非営利組織の実践者による講演</p> <p>第12回 非営利事業体、社会的企業、社会的起業家</p> <p>第13回 非営利組織の国際比較 1</p> <p>第14回 非営利組織の国際比較 2</p> <p>第15回 非営利組織論 a のまとめ</p>
----------	--

準備学習	<p>(受講前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで自分の住む地域の「NPO 法人」を検索してどのような取り組みを行っているか調べておくこと。 ・日ごろから新聞に目を通し、NPO に関連する記事を読んでおくこと。 <p>(受講中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回、復習をすること。 ・授業内容に関連した新聞記事やHPを授業内で取り扱うことがあるので、関連したメディアに目を通しておくこと。
------	--

履修上の留意点	・講義に主体的・積極的に参加する学生の履修を望む。
---------	---------------------------

成績評価の方法	・成績は、レポート70%、平常点30%で、総合的に評価する。
---------	--------------------------------

教科書/テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・特に指定しない。 ・レジュメを配布する。
----------	--

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、資料を配布したり、関連HPを紹介する。 ・非営利組織の用語に関する基本文献として以下を薦める。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 雨森孝悦『テキストブック NPO』東洋経済新報社、2007年。 (2) 川口清史・田尾雅夫・新川達郎編『よくわかる NPO・ボランティア』ミネルヴァ書房、2005年。 (3) 田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣、2009年。 (4) 山岡義典編著『NPO 基礎講座・新版』ぎょうせい、2005年。
-----	--

履修コード	097081
科目名	非営利組織論 b
担当者名	松本 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 非営利組織(非営利セクターに属する組織)には、営利セクター・行政セクターに含まれないNPO法人、社会福祉法人、学校法人、医療法人、公益法人、協同組合など多種多様な組織が含まれる。非営利組織は、政府・行政や企業活動の行き詰まりが顕在化する中で、福祉分野、まちづくり分野、環境分野、国際協力分野などにおいて活躍の場を着実に拡大し、雇用創出面における期待も増大し、経済活動の主体としてその役割が無視できない存在に発展している。また、行政や企業と非営利組織との協働(コラボレーション)も活性化している。本講義では、非営利組織の存在理由をベースに、設立方法およびマネジメントを学ぶ。</p> <p>(到達目標) 本講義の到達目標は、非営利組織論aで学習した内容に基づき、「営利/非営利」、「社会的企業」、「社会起業家」、「コミュニティ・ビジネス」、「ソーシャル・キャピタル」等をキーワードに、非営利組織の経営学の理解を深めることである。さらに、NPO法人の設立プランを作成し、実際に起こりうる経営課題を分析することによって、非営利組織を設立する知識・技術を身につけることも到達目標である。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、非営利組織論aの復習 第2回 非営利組織の存在理由1ー市場の失敗、政府の失敗ー 第3回 非営利組織の存在理由2ー社会的ニーズの多様化、新しい公共性ー 第4回 非営利組織の設立プランづくり 第5回 社会的起業家1 第6回 社会的起業家2 第7回 非営利組織の設立・運営方法、ガバナンス1 第8回 非営利組織のマネジメントの基本的特徴 第9回 非営利組織の資金調達・会計 第10回 非営利組織の実践者による講演1 第11回 非営利組織のネットワーク1ー行政とのコラボレーションー 第12回 非営利組織のネットワーク2ー企業とのコラボレーションー 第13回 非営利組織の実践者による講演2 第14回 非営利組織のガバナンス2 第15回 非営利組織論bのまとめ</p>
----------	---

準備学習	<p>(受講前) ・非営利組織論aの内容を復習しておくこと。 ・日ごろから新聞に目を通し、NPOに関連する記事を読んでおくこと。 (受講中) ・講義の3日前に、YeStudyに配布レジュメをアップロードするので、適宜印刷して持参すること。 ・毎回、復習をすること。 ・授業内容に関連した新聞記事やHPを授業内で取り扱うことがあるので、関連したメディアに目を通しておくこと。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>・講義内容は、非営利組織論 a を履修していることを前提とする。 ・講義に主体的・積極的に参加する学生の履修を望む。 ・YeStudyに必ず登録すること。レポート提出や小テストの実施時に利用する。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>・成績は、定期試験70%、平常点・レポート等30%で、総合的に評価する。</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>・特に指定しない。 ・YeStudy上で、レジュメを配布する。</p>
----------	---

参考書	<p>・適宜、資料を配布したり、関連HPを紹介する。 ・非営利組織の用語に関する基本文献として以下を薦める。 (1) 風見正三・山口浩平編著『コミュニティビジネス入門』学芸出版社、2009年。 (2) 川口清史・田尾雅夫・新川達郎編『よくわかるNPO・ボランティア』ミネルヴァ書房、2005年。 (3) 塚本一郎・山岸秀雄編著『ソーシャル・エンタープライズ』丸善、2008年。 (4) パブリックリソースセンター編『NPO実践マネジメント入門』東信堂、2009年。 (5) 山岡義典・雨宮孝子編著『NPO実践講座・新版』ぎょうせい、2008年。</p>
-----	--

その他	<p>・YeStudyを活用する。 ・映像等の利用や現場で活動する人の講演なども交えることによって、できるだけ非営利組織の現実を実感できるように講義を進める。</p>
-----	--

履修コード	314381
科目名	非営利組織論 b
担当者名	松本 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>非営利組織(非営利セクターに属する組織)には、営利セクター・行政セクターに含まれないNPO法人、社会福祉法人、学校法人、医療法人、公益法人、協同組合など多種多様な組織が含まれる。非営利組織は、政府・行政や企業活動の行き詰まりが顕在化する中で、福祉分野、まちづくり分野、環境分野、国際協力分野などにおいて活躍の場を着実に拡大し、雇用創出面における期待も増大し、経済活動の主体としてその役割が無視できない存在に発展している。また、行政や企業と非営利組織との協働(コラボレーション)も活性化している。本講義では、非営利組織の存在理由をベースに、設立方法およびマネジメントを学ぶ。</p> <p>(到達目標)</p> <p>本講義の到達目標は、非営利組織論aで学習した内容に基づき、「営利/非営利」、「社会的企業」、「社会起業家」、「コミュニティ・ビジネス」、「ソーシャル・キャピタル」等をキーワードに、非営利組織の経営学の理解を深めることである。さらに、NPO法人の設立プランを作成し、実際に起こりうる経営課題を分析することによって、非営利組織を設立する知識・技術を身につけることも到達目標である。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、非営利組織論aの復習</p> <p>第2回 非営利組織の存在理由1ー市場の失敗、政府の失敗ー</p> <p>第3回 非営利組織の存在理由2ー社会的ニーズの多様化、新しい公共性ー</p> <p>第4回 非営利組織の設立プランづくり</p> <p>第5回 社会的起業家1</p> <p>第6回 社会的起業家2</p> <p>第7回 非営利組織の設立・運営方法、ガバナンス1</p> <p>第8回 非営利組織のマネジメントの基本的特徴</p> <p>第9回 非営利組織の資金調達・会計</p> <p>第10回 非営利組織の実践者による講演1</p> <p>第11回 非営利組織のネットワーク1ー行政とのコラボレーションー</p> <p>第12回 非営利組織のネットワーク2ー企業とのコラボレーションー</p> <p>第13回 非営利組織の実践者による講演2</p> <p>第14回 非営利組織のガバナンス2</p> <p>第15回 非営利組織論bのまとめ</p>
----------	---

準備学習	<p>(受講前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非営利組織論aの内容を復習しておくこと。 ・日ごろから新聞に目を通し、NPOに関連する記事を読んでおくこと。 <p>(受講中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回、復習をすること。 ・授業内容に関連した新聞記事やHPを授業内で取り扱うことがあるので、関連したメディアに目を通しておくこと。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容は、非営利組織論aを履修していることを前提とする。 ・講義に主体的・積極的に参加する学生の履修を望む。
---------	---

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績は、レポート70%、平常点30%で、総合的に評価する。
---------	--

教科書/テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・特に指定しない。 ・レジュメを配布する。
----------	--

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、資料を配布したり、関連HPを紹介する。 ・非営利組織の用語に関する基本文献として以下を薦める。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 風見正三・山口浩平編著『コミュニティビジネス入門』学芸出版社、2009年。 (2) 川口清史・田尾雅夫・新川達郎編『よくわかるNPO・ボランティア』ミネルヴァ書房、2005年。 (3) 塚本一郎・山岸秀雄編著『ソーシャル・エンタープライズ』丸善、2008年。 (4) パブリックリソースセンター編『NPO実践マネジメント入門』東信堂、2009年。 (5) 山岡義典・雨宮孝子編著『NPO実践講座・新版』ぎょうせい、2008年。
-----	---

履修コード	099311
科目名	ビジネス・インターンシップ a
担当者名	小栗 崇資 松田 健

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「ビジネス・インターンシップa」は、皆さんが企業や団体での現場研修を受けるために必要な社会的常識や作法・知識を身につけるための科目です。専門講師による準備トレーニングを授業の中で行いますので、必ず出席して指導を受けてください。 また現場研修に関わる「ビジネス・インターンシップb」を受講するためには、この科目の単位の修得が条件になりますので、真剣に受講することが求められます。
---------------------	---

授業スケジュール	「ビジネス・インターンシップa」では、教室での授業を通じて、企業に入ってから現場研修で最低限必要な社会人としての素養や基礎知識を修得するために必要な準備トレーニングを行います。経営者・団体役員・専門家を招聘し、次のような点を目標にして授業を進めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義ガイダンス (1) ・ インターンシップの目標とプログラムについての理解 (2~3) ・ 仕事のルールとビジネスマナーの修得 (4~8) ・ 自己分析トレーニングと各自の目標・計画の設定 (9~10) ・ インターンシップ先についての研究 (11~12) ・ インターンシップ先の確定と研修計画の相談 (13~15)
----------	---

準備学習	専門講師から出される事前の課題を必ず準備してきてください。
------	-------------------------------

履修上の留意点	(1) この科目はa(前期)とb(後期)に分かれていますが、登録時は必ずab2つセットで登録してください。aのみ、あるいはbのみの登録および履修は認めません。 (2) 単位認定は、a、bそれぞれに2単位を認めますが、a(前期)の2単位を修得できなかった場合は、b(後期)の履修と単位は認められません。 (3) ビジネス・インターンシップa(前期)を登録・履修できる商学科・現代応用経済学科の学生は、演習Ⅱに所属している3年生だけです。 (4) 受講希望者は、最初の授業に必ず出席してください。 (5) 準備トレーニングでは、毎回、事前の課題が出され、社会人としての能力訓練が行われますので、欠席は認められません。
---------	--

成績評価の方法	出席と授業中の課題とレポートおよび受講態度で総合的に評価します。授業に対する取り組み方自体も、インターンシップに対する心構えの一環となりますので、安易な考えで受講しないようにしてください。
---------	--

教科書/テキスト	教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。 社会に出るとメモの取り方も重要なポイントになりますので、5W1Hの観点からメモを取る方法を身につけるように努力してください。
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	100951
科目名	ビジネス・インターンシップ a
担当者名	谷敷 正光 友松 憲彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「ビジネス・インターンシップ a」は、皆さんが企業や団体で現場の実習を受けるために必要な社会的常識や作法・知識を身につけるための科目です。 実習科目である「ビジネス・インターンシップ b」を受講するには、この科目の単位を修得することが条件となります。事故なく、実りある実習にするため、真剣に受講することが求められます。
---------------------	--

授業スケジュール	「ビジネス・インターンシップ a」では、教室での授業を通じて、企業等の現場における実習で最低限必要な、社会人としての素養や基礎知識を習得するための準備トレーニングを行います。ビジネス研修の専門家・団体役員等を招聘し、次のような点を目標にして授業を進めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・講義ガイダンス (1回) ・インターンシップの目標とプログラムについて (2~3回) ・仕事のルールとビジネスマナー (4~6回) ・自己分析トレーニングと各自の目標・計画 (7~8回) ・インターンシップ先の確定作業とその研究 (9~12回) (各ゼミで、ゼミ担当教員の指導のもとに進める) ・実習先企業・団体に関する資料作成 (13~14回) ・インターンシップ実習先の確定と研修計画の相談 (15回) (各ゼミで、ゼミ担当教員の指導のもとに進める) * 授業計画は事情により多少変わる場合があります。
----------	--

準備学習	授業中の指示に従ってください。
履修上の留意点	①この科目は、経済学科の3年次生のみを対象として開講されている専門・選択科目です。実習科目である「ビジネス・インターンシップ b」(後期)を履修するためには、この「ビジネス・インターンシップ a」(前期)を履修し、単位を修得することが必要となります。受講希望者は、第1回目の講義時間に必ず出席してください。 ②「ビジネス・インターンシップ b」(実習科目、後期)は、演習IIの担当者がこの科目を開講しているゼミの学生のみ履修が可能です。履修登録前に、開講されているかどうかを必ず確認してください。 ③履修登録のさいには、必ず「a」「b」の2科目をセットで登録してください。 ④現場実習の事前学習として、時間厳守等を社会人マナーを重視します。

成績評価の方法	授業中の課題とレポートおよび受講態度で総合的に評価します。授業に対する取り組み方自体も、インターンシップに対する心構えの一環となりますので、安易な考えで受講しないようにしてください。
---------	---

教科書/テキスト	教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。 社会に出ると、メモの取り方も重要なポイントとなりますので、5W1Hを絶えず考えてメモをとるという方法を身につけるよう努力してください。
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	113011
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	石川 純治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インターンシップのねらいは、企業や団体での現場実習を通して専門的な就業体験をすることにあります。受講生の自覚と責任がきびしく要求される科目です。
---------------------	--

授業スケジュール	ゼミにて説明します。
----------	------------

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	このインターンシップは私の演習IIに所属する経済学科の学生しか取れません。演習の中で希望者と相談したいと思います。
---------	---

成績評価の方法	事前の講義への出席点とインターンシップ研修および事後のレポートで評価します。
---------	--

教科書/テキスト	講義の際に必要な資料を配布します。
----------	-------------------

参考書	
-----	--

その他	3年次生のみ履修可能な科目です。
-----	------------------

履修コード	113021
科目名	ビジネス・インターンシップb
担当者名	石川 祐二
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インターンシップは、学生が企業等で実習する体験を通じて、働くことの意味を考えることを目的としています。
授業スケジュール	7月：インターンシップ先の決定 8月～9月上旬：インターンシップ研修 9月～10月：研修についてのレポート作成
準備学習	自分がお世話になる企業等について、十分に調べ、また、研修によって得られた経験が如何に自分にプラスに働いたのかをよく考え、報告書の作成に臨むこと。
履修上の留意点	インターンシップは、演習IIに所属する学生のうち、経済学科の学生に履修が限定されます。また、企業等にお世話になるため、自らの責任を自覚して下さい。
成績評価の方法	研修内容とレポートを中心に評価します。
教科書/テキスト	適宜指示します。
参考書	
その他	3年次生のみ履修可能です。

履修コード	113031
科目名	ビジネス・インターンシップb
担当者名	岩波 文孝
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ビジネス・インターンシップは、企業や団体の現場実習を通じて就業体験をすることにより、自分の適性を発見し、就業することや社会について認識を深め、人生設計など自らの将来像を描くための授業です。
授業スケジュール	研修に関する自己評価 (1～5)、研修に関するレポート作成 (6～10)、レポートに基づく発表 (11～13)、各受講生における今後の課題に関するレポートの作成 (14～15)
準備学習	企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集をしてください。
履修上の留意点	現場実習を行なうので、受講生の自覚と責任がきびしく要求されます。この科目は、演習II (岩波ゼミ) を受講する経済学科の学生のみが履修できます。受け入れ先や研修の調整作業が必要となるとともに、受け入れ先の都合で、時期・期間が変更になることもあります。 次の点を必ず確認して履修してください。 1. 無責任な受講はやめましょう。インターンシップbは多くの企業・団体のご協力によって行われます。無責任な受講は、研修先に多大なご迷惑をかけることとなりますので、注意してください。 2. 研修の際の経費 (交通費や被服費等) は受講生の自己負担となりますので、了解しておいてください。あくまで研修ですので、勤務報酬も出ません。
成績評価の方法	インターンシップ事前準備、インターンシップ受け入れ先からの報告、および事後研修レポートにより評価します。
教科書/テキスト	
参考書	
その他	演習II (岩波ゼミ) を履修する3年次生のみ履修可能な科目です。

履修コード	113151
科目名	ビジネス・インターンシップb
担当者名	大石 雄爾
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インターンシップのねらいは、学生が企業等の実習を通して就業体験をし、働くことの意味を考えることにあります。
授業スケジュール	第1回目のゼミで説明します。
準備学習	実習先は、原則として自分で探していただきます。あらかじめ、実習を受けたい事業分野および実習先企業について考え、いくつかの候補企業を見つけ、調べておく必要があります。
履修上の留意点	このインターンシップは、私の演習IIに所属する経済学科の学生のみ履修することができます。希望する学生は、前期科目「ビジネス・インターンシップa」を履修する必要があります。
成績評価の方法	インターンシップ実習報告書および事後のレポートで評価します。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	112951
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	大島 久幸
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	3年次の夏期休暇中、企業や各種団体で一定期間研修に従事し、その職場経験を大学における専門学習、あるいは自分の進路選択に生かす。
授業スケジュール	(1)前期にビジネス・インターンシップaを受講するとともに、各自で研修先を確定、(2)夏期休暇中、企業や各種団体で研修に従事、(3)研修の成果を報告書として作成・提出
準備学習	特になし
履修上の留意点	対象は担当者の演習IIを受講する3年生のみ。前期開講のビジネス・インターンシップaの単位修得ができなかった場合、この科目の履修は認められない。
成績評価の方法	研修報告書および受講生との面談から総合的に判断する。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	099321
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	小栗 崇資 松田 健
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「ビジネス・インターンシップb」は皆さんに企業や団体での現場研修を受けてもらい、そうした就業体験を通じて、活きた経済・経営の動向を理解し、より高度な専門学習への意欲を高めることをねらいとしたユニークな科目です。受講生の自覚と責任がきびしく要求されますが、そうしたハードルを越えることで貴重な体験学習をすることができます。研修先は、中小企業が中心ですが、そのほかにも商店、生協、NGO・NPO、自治体など多様な体験のできる場を予定しています。
授業スケジュール	(1)実際の研修は夏休み期間に実施されます。原則として、8月上旬から9月上旬に約2週間の研修を行います。 (2)後期は、研修についてのレポート作成を行います。また「インターンシップ報告書」の刊行も予定しています。
準備学習	研修前には研修先からの指示に従い必要な準備をしておいてください。
履修上の留意点	次の点を必ず確認して履修してください。 1. 無責任な受講はやめましょう。インターンシップbは多くの企業・団体のご協力によって行われます。無責任な受講は、研修先に多大なご迷惑をかけることとなりますので、注意してください。 2. ビジネス・インターンシップaの単位を修得していないと、現場研修を内容とするビジネス・インターンシップbを受けることはできません。 3. 研修の際の経費(交通費や被服費等)は受講生の自己負担となりますので、了解しておいてください。あくまで研修ですので、勤務報酬も出ません。 4. ビジネス・インターンシップbを受講できる学生は、演習IIに所属している3年生に限定されます。
成績評価の方法	基本的には研修後のレポートによって成績評価しますが、研修先の評価なども参考にして判断します。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	112961
科目名	ビジネス・インターンシップb
担当者名	小栗 崇資

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「ビジネス・インターンシップb」は皆さんに企業や団体での現場研修を受けてもらい、そうした就業体験を通じて、活きた経済・経営の動向を理解し、より高度な専門学習への意欲を高めることをねらいとしたユニークな科目です。受講生の自覚と責任がきびしく要求されますが、そうしたハードルを越えることで貴重な体験学習をすることができます。研修先は、中小企業が中心ですが、そのほかにも商店、生協、NGO・NPO、自治体など多様な体験のできる場を予定しています。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) 実際の研修は夏休み期間に実施されます。原則として、8月上旬から9月上旬に約1～2週間の研修を行います。 (2) 後期は、研修についてのレポート作成を行います。また「インターンシップ報告書」の刊行も予定しています。
----------	---

準備学習	研修前には研修先からの指示に従い必要な準備をしておいてください。
------	----------------------------------

履修上の留意点	これは私の演習Ⅱに所属する経済学科3年生のみが履修できる科目です。研修先の企業についてや履修上の心得や注意事項についてはゼミで指導します。
---------	---

成績評価の方法	研修先の評価を参考に、研修後のレポートによって評価します。
---------	-------------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	113181
科目名	ビジネス・インターンシップb
担当者名	北口 りえ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ビジネス・インターンシップbは、企業など実際の職場で就業体験をすることにより、働くということがどういうことなのか、自分の適性にあった仕事はどういう仕事なのかということについて考え、就職活動において自己の適性にあった就職先を主体的に選択することができるようになることを目的としています。
---------------------	--

授業スケジュール	ゼミにて説明します。
----------	------------

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	私の演習Ⅱに所属する経済学科の学生のみ履修できます。
---------	----------------------------

成績評価の方法	インターンシップの研修状況や研修後の報告書等により評価します。
---------	---------------------------------

教科書/テキスト	3年次生のみ履修可能な科目です。 「ビジネス・インターンシップa」の単位を修得していないと、「ビジネス・インターンシップb」を履修することはできません。
----------	---

参考書	特になし
-----	------

履修コード	112941
科目名	ビジネス・インターンシップb
担当者名	小西 宏美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インターンシップに参加することで、「働くこと」の意味を考え、社会人としてのマナーを身につける。
---------------------	---

授業スケジュール	夏季休暇中にインターンシップを行う。 インターンシップ先は学生自身が見つけること。
----------	--

準備学習	インターンシップ先を探す準備を進めてください。
------	-------------------------

履修上の留意点	この科目は、小西ゼミの演習Ⅱを受講している経済学科学生しか登録できません。ビジネス・インターンシップaとセットで登録して下さい。
---------	--

成績評価の方法	インターンシップ後に提出する報告書に基づいて評価します。
---------	------------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	113061
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	清水 卓

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インターンシップという科目が設けられた背景には、大学卒業生の3割が新規就職して3年以内に転職するという現象に現れているように、自己の適性にあった安定的な就職先を見つけることが困難となってきたことがあります。企業や団体その他公的機関等に就職しようと思っても、テレビ・新聞・就職サイトなどの一般向PR情報だけでは、職場の実際の姿を知ることができません。学生時代に企業や団体の現場を直接経験することで、自分を活かせる産業や企業など、就職先の選択を確かなものとすることができます。そして現場に立つことによって、今まで気が付かなかった自分の本当の姿を発見することもできるでしょう。
---------------------	---

授業スケジュール	前期は講義形式での授業、夏休みに企業研修体験、後期に報告書をさまざまな資料を参考にして報告文書を作成します。
----------	--

準備学習	各授業には事前に疑問や質問を用意して出席することが大切で、それは就職活動での説明会や面接に立ち向かうときと同じことです。
------	--

履修上の留意点	このインターンシップは私の演習II参加者のみ受講可能です。履修登録する人は、可能な限り至急私と連絡を取ってください。
---------	--

成績評価の方法	事前の準備の質と量、事後のレポートで評価します。
---------	--------------------------

教科書/テキスト	適宜指示します。
----------	----------

参考書	
-----	--

履修コード	113071
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	代田 純

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	夏休み中に3日間で岡三証券において実施する。
---------------------	------------------------

授業スケジュール	相手先の都合により変更となる可能性があるものの、岡三証券本社において夏休み中に3～4日間のインターンシップを予定している。
----------	---

準備学習	金融論、ファイナンス基礎を履修すること。
------	----------------------

履修上の留意点	インターン期間中は岡三証券の社員と一緒にになります。このため男子の場合、茶髪、ひげ、長髪等は禁止されます。女子もこれに準じます。スーツ着用になります。
---------	---

成績評価の方法	成績評価については、インターンの出席と相手先からの評価、事後のレポートで決定する。
---------	---

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

その他	希望者多数の場合は、選抜となる。単位の取得、態度等で選考する。
-----	---------------------------------

履修コード	113081
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	瀬戸岡 紘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	企業、商店、NGO、芸術団体、自治体など実際に経済活動や社会活動をおこなっている現場に向いて作業や労働を経験してもらうことが目標です。相応の責任感が要求されますが、大学のキャンパス内では学べない多くのことを体験学習することができます。本学の構内は決して広くはありませんが、学外の広い世界をいわば広義の学園と見立てて大学生活にふくらみをもたせてみることをお勧めします。
---------------------	---

授業スケジュール	この科目のスケジュールは、大きく三つの時期に分けられます。 前期は、学内の教室でおこなわれる授業をとおり、インターンシップをおこなうための基礎的知識の習得や最小限の基礎的訓練をおこないます。 夏休みには、現場での実際の研修をおこないます。 後期は、現場での研修について、レポートの作成と発表会をおこないます。
----------	---

準備学習	随時、説明します。
------	-----------

履修上の留意点	現場の作業や労働の迷惑にならないよう、責任を自覚できる学生に受講してもらいます。研修先を自分で探してくる学生は歓迎します。インターンシップに必要な交通費や衣服などの諸経費は自己負担になります。また、あくまで研修というたてまえから、報酬は支給されないことを了解しておいてください。
---------	---

成績評価の方法	学内での授業、研修先からの評価、レポートや発表などを総合的に評価します。
---------	--------------------------------------

教科書/テキスト	とくにありません。ただし、随時、必要と思われるプリント等の配布はいたします。
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	113051
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	友松 憲彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この科目は企業や各種団体での就業体験によって「働くことの意味」を考え、ひるがえって「大学で学ぶ意味」を再考し、勉学意欲を高めることを目標としています。また、大学時代に現実の職場体験をすることは、卒業後の職業選択にとっても重要な手がかりとなります。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) 前期は学内での講義「ビジネス・インターンシップa」を受講します。この講義でインターンシップに関する基礎知識を習得し、最少限の基礎訓練をおこないます。 (2) 実際の研修は原則として夏季休暇中におこないます。研修先はインターネットなどを通じて自分で探します。 (3) 後期は研修内容についてのレポート作成と報告をおこないます。
----------	--

準備学習	前期科目「ビジネス・インターンシップa」の内容を十分理解し、習得していることが前提になります。
------	---

履修上の留意点	私の担当する演習Ⅱの受講者のみ履修できます。 インターンシップは研修先の好意、協力によって成立している科目です。遅刻、無断欠勤などの無責任な行為は許されません。研修先に迷惑をかけない責任感のある学生のみ履修してください。 アルバイトではなく、研修として働くのですから報酬はありません。交通費など諸経費も自己負担となります。
---------	---

成績評価の方法	研修先の評価、事後のレポートで評価します。
---------	-----------------------

教科書/テキスト	適宜指示します。
----------	----------

参考書	
-----	--

履修コード	113161
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	中濟 光昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	企業の現場に出向いて、どのような仕事をするのかを経験してもらうことがこの講義の狙いです。企業ではどのような仕事があるか、その仕事にどのような意味があるかがわかるようになることが目標です。
---------------------	---

授業スケジュール	ビジネス・インターンシップaやゼミにおいてインターンシップをおこなうための基礎的知識の習得や最小限の基礎的訓練をおこないます。 夏休み等長期休暇を中心に1~2週間程度、現場での実際の研修をおこないます。終了時にインターンシップについて、レポートの作成と発表会をおこないます。
----------	--

準備学習	ビジネス・インターンシップaの内容を理解することが前提となります。
------	-----------------------------------

履修上の留意点	・就業体験受け入れ先を自力で探すことを前提に履修してもらいます。5月までにインターネットなどを通じて自分でインターンシップ先を探すことが必要です。 ・会社の迷惑にならないよう、責任を自覚できる学生に受講してもらいます。無断遅刻・欠席があった場合、インターンシップを打ち切ります。 ・インターンシップでは、報酬などが支給されませんので、あらかじめ了解ください。
---------	---

成績評価の方法	ゼミでのビジネスマナー等に関する評価、研修先の評価、レポートや発表などを総合的に評価します。
---------	--

教科書/テキスト	とくにありません。必要と思われるプリント等の配布はいたします。
----------	---------------------------------

参考書	とくにありません。必要と思われるプリント等の配布はいたします。
-----	---------------------------------

その他	* 次の条件を満たさない場合受講できません。確認してから履修してください。 ・中濟ゼミの演習Ⅱを受講している3年生のみが登録できます。 ・ビジネス・インターンシップaの単位を修得していないと、現場研修を内容とするビジネス・インターンシップbを受けることはできません。
-----	---

履修コード	113111
科目名	ビジネス・インターンシップb
担当者名	番場 博之
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	実習体験を通して、就業の意味を考えることを目的とします。
授業スケジュール	インターンシップの研修は夏休み中を想定しています。したがって、それにあわせて夏前には各種の準備を整える必要があります。 研修終了後はレポートの作成やその発表などを通して、問題点と課題を明確にする作業を進めていきます。
準備学習	業界研究・企業研究を進めておきましょう。
履修上の留意点	番場ゼミ所属の経済学科3年生のみが履修可能です。
成績評価の方法	レポートやプレゼンを中心に総合的に評価します。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	113091
科目名	ビジネス・インターンシップb
担当者名	百田 義治
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本科目は学生が企業や各種団体において現場研修を受け、その就業体験を通じて企業経営や団体活動の実際・動向を理解し、大学における専門科目の学習意欲を高めることを目指しています。
授業スケジュール	本科目では、講義にあたるものは、インターンシップ先における実際の研修です。研修期間は、原則として、夏休み期間です。通常は、約2週間～1ヶ月の研修が実施されます。
準備学習	ビジネス・インターンシップbは、インターン先企業における体験学習ですが、準備学習の如何によって、インターン経験の意義はまったく異なります。 インターン先企業に関する知識、とりわけゼミのテーマである経営や働き方に関する知識を、本や新聞、ネットを駆使して十分に収集して、問題意識をもってインターン経験をしましょう。
履修上の留意点	本科目は、百田ゼミの演習IIの受講生のみが登録できます。また、「ビジネス・インターンシップa」の単位を修得していない学生は「ビジネス・インターンシップb」を受けることはできません。
成績評価の方法	研修後のレポートおよび研修先の評価によって成績評価します。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	113121
科目名	ビジネス・インターンシップb
担当者名	松井 柳平
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	企業等の研修先へ出向いて仕事を経験し、経済活動の実際を学習する。
授業スケジュール	夏休みに、現場で実際の研修を行う。 後期は、現場での研修についてレポートの作成と発表を行う。
準備学習	ビジネス・インターンシップaの内容を十分に理解すること。 研修先についてよく調べておくこと。
履修上の留意点	ビジネス・インターンシップaを履修し、かつ、松井ゼミの演習IIを履修している者に限る。 研修の際の交通費等の経費は自己負担であり、また給与などの報酬は支給されない。 研修先の迷惑にならないよう、自覚を持って責任ある行動をとること。
成績評価の方法	研修先からの評価、レポートや発表などを総合的に評価する。
教科書/テキスト	とくにありませんが、研修先・研修目的等にあわせて適宜指示する。
参考書	

履修コード	113041
科目名	ビジネス・インターンシップb
担当者名	松本 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) ビジネス・インターンシップaで学習した内容を踏まえて、インターンシップ先を検討し、事前研修、就業体験、事後研修・報告書の作成を行う。 (到達目標) 本講義の到達目標は、企業やNPO等での就業体験を通じて「働く意味」を学ぶことである。
---------------------	--

授業スケジュール	ビジネス・インターンシップaの内容を踏まえて、下記の日程でインターンシップを実施する。 4月：履修登録後、履修生の希望を受けて、受け入れ先との調整を行う。 主に非営利組織・市民事業組織をインターンシップ先として検討する。 7月：事前研修 8月～9月：1～2週間程度の就業体験 10月～12月：事後研修、報告書の作成
----------	--

(これまでのインターンシップ先) 財団法人世田谷トラストまちづくり、公益財団法人生協総合研究所、用賀まちづくり株式会社、NPO法人野沢3丁目遊び場づくりの会、世田谷社、等

準備学習	・インターンシップに関する各種講座や説明会に積極的に出席し、事前準備を行うこと。 ・日ごろから新聞に目を通し、NPO等に関連する記事を読んでおくこと。
------	--

履修上の留意点	・経済学部松本ゼミの演習IIの受講生のみが登録できる。 ・ビジネス・インターンシップaを必ず履修すること。 ・非営利組織論a・bを同時に履修することをすすめる。
---------	--

成績評価の方法	・研修後のレポートおよび研修先の評価によって、総合的に評価する。
---------	----------------------------------

教科書/テキスト

参考書

履修コード	113191
科目名	ビジネス・インターンシップb
担当者名	溝手 芳計

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ビジネス・インターンシップbは、企業や団体での就業体験をとおして、働くことの意味や職業人としての基本姿勢を身につけ、あわせて大学での専門科目の学習意欲を高めることを目的とする科目です。
---------------------	--

授業スケジュール	研修期間は、原則として夏休みですが、研修先探しや受け入れ先との打ち合わせ等のため、前期からの取り組みが必要です。詳しくは、4月最初の演習IIの時間に説明します。
----------	--

準備学習	「ビジネス・インターンシップa」の授業をしっかりと受けて下さい。その他の点は、4月最初の演習IIの時間等に説明します。
------	---

履修上の留意点	(1) この科目は、経済学科、同FAの学生で溝手担当の「演習II」の受講生しか履修できません。 (2) 「ビジネス・インターンシップa」(経済学科向け)をきちんと履修してください。 (3) 研修先は、原則として受講生の責任で探してください。 (4) インターンシップの研修は、受け入れ先の企業・団体のご協力に頼って行われます。無責任な行為は、ご好意をアタで返すこととなりますので、安易な気持ちでの履修は謹んでください。 (5) 研修に要する費用(交通費等)は受講者の自己負担となります。あくまで研修ですので、報酬はありません。
---------	---

成績評価の方法	研修先による評価、事後レポートで評価します。
---------	------------------------

教科書/テキスト	必要に応じて、指示します。
----------	---------------

参考書

履修コード	113141
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	光岡 博美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ビジネス・インターンシップは、演習Ⅱ(3年生)のみを対象にする。インターンシップを希望する学生は(イ)どのような業種、企業を希望するか(インターンシップ先は学生自身で見つけるよう努力してください。)(ロ)学生自身がインターンシップの志望先を確保しているか否かについて話し合うことにする。
---------------------	---

授業スケジュール	具体的な取り組みについては、最初の授業で希望者と打ち合わせを行う。また、必要に応じて個別に相談する。
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	インターンシップ研修前の課題レポートと研修後のレポートで評価する。
---------	-----------------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	112931
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	村松 幹二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	企業や団体、自治体の現場で就業体験してもらい、「仕事」の現場を見ることで、活きた経済を学ぶことが目標です。それにより自らの進路選択と学習・研究目標の策定に役立てることをねらいとしています。
---------------------	--

授業スケジュール	夏休みに、現場で実際の研修を行います。 後期は、現場での研修についてレポートの作成と発表会を行います。
----------	--

準備学習	必要に応じて演習中に指示します。
------	------------------

履修上の留意点	ビジネス・インターンシップ a の単位を修得しており、かつ、村松幹二ゼミ演習Ⅱを履修しているものに限ります。 研修の際の交通費等の経費は自己負担であり、報酬は支給されないことを了解しておいてください。 現場の迷惑にならないよう、自覚を持って責任ある行動をとってください。
---------	---

成績評価の方法	研修後のレポートや発表、研修先の評価などを総合的に評価します。
---------	---------------------------------

教科書/テキスト	とくにありません。研修先・研修目的等にあわせて適宜指示します。
----------	---------------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	113131
科目名	ビジネス・インターンシップb
担当者名	谷敷 正光

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>インターンシップとは、学生が在学中に、企業、学校、教育委員会その他公共施設、各種団体などで研修生として「就業（職場）体験」を積むための制度です。</p> <p>インターンシップによって、実社会＝職場の実態を知り、自らの専攻分野や関心分野について大学の講義では学べない具体的な知識を得、「自己の適性」を的確に判断しながら、進路の選択や人生設計における主体性と問題解決能力の強化を図ろうとするものです。</p> <p>大学での普段の学習方式とは異なり、仕事の大変さや厳しさ、責任の重さややりがい（生きがい）など「就業（職場）体験」で得たものは、きつと貴重な生きた知識になるとともに就職活動の「自己啓発」にも大いに役立ちます。受け入れ先によっては企業経営に参加させてくれるなど、思わぬ貴重な体験をすることがあります。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期 「インターンシップa」履修 後期 「インターンシップb」履修</p> <p>①前期5～7月頃、就業体験ができる受け入れ先を探す。</p> <p>②【受け入れ先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自で探す（インターンシップ紹介サイトなどで探す。サイトは授業中に紹介する。） ・経済学科で紹介する企業から探す。 ・キャリアセンターが実施するインターンシップを利用する。 <p>③就業体験受け入れ先が決定したら「受け入れ先決定報告書」を演習（II）担当教員に提出。</p> <p>④就業体験前に受け入れ先への挨拶と書類持参、受け入れ先との打ち合わせを行う。</p> <p>⑤夏休みなどを利用して3日～1週間程度就業体験＝実践。</p> <p>⑥10～11月頃レポート「インターンシップ報告」作成し、演習（II）担当教員に提出。</p> <p>⑦『インターンシップ報告書』作成＝「インターンシップ報告」をインターンシップ担当教員に提出（④と同じもの）。</p>
----------	--

準備学習	日頃より新聞や雑誌を読み、産業や企業の動向と就職状況などに興味を持つこと。
------	---------------------------------------

履修上の留意点	<p>(1) インターンシップは目的意識を持って参加すること。</p> <p>(2) インターンシップでは、受け入れ先との信頼関係の構築が大切です。</p> <p>(3) スケジュールは、受け入れ先の都合で時期・期間はいろいろです。</p>
---------	--

成績評価の方法	受け入れ先からの「就業報告」とレポート「インターンシップ報告」などで評価します。
教科書／テキスト	<p>その都度、必要な資料を配布する。</p> <p>受け入れ先に関する資料を配布する。</p>

参考書	<p>各自、必要に応じて読んで下さい。</p> <p>スピーキングエッセイ編『図解でよくわかる上手な話し方が身につく法』アスカ680円。</p> <p>渡部昌平『進路指導・就職支援マニュアル』大学教育出版1800円。</p> <p>山口憲二『キャリアデザインの多元化的探求』現代図書2667円。</p> <p>『ざ ビジネスマナー』NECユニバーシティ。</p> <p>安田佳生『仕事の選び方・人生の選び方』サンマーク出版1300円。</p> <p>門脇厚史『社会力を問う 大人の条件』岩波出版660円。</p> <p>安田雪『大学生の就職活動』中公新書660円。</p> <p>安河内哲也『それでいいのか大学生』ナガセブックス900円。</p> <p>香山リカ『就職がこわい』講談社1300円。</p> <p>小島貴子『就職迷子の若者たち』集英社660円。</p> <p>檜谷芳彦著『大学3年生になったらすぐ読む本』大和書房619円。</p> <p>『高感度をアップさせる「モノの言いよう」』PHP新書514円。</p> <p>武田哲男著『「顧客満足」の常識』PHPビジネス新書800円。</p> <p>高井伸夫著『3分以内に話はまとめたさい』かんき出版1300円。</p> <p>梅沢正著『職業とキャリア』学文社2415円。</p> <p>古関博美著『インターンシップ』学文社2100円。</p> <p>高良和武著『インターンシップとキャリア』学文社2520円。</p> <p>野田・浜田著『会社のしくみが分かる本』日系ビジネス新書667円。</p> <p>川合雅子著『キャリア発掘わたしの適性・適職発見』学文社1575円。</p>
-----	--

その他	<p>ゼミ3年次生のみ履修が可能な科目です。</p> <p>「インターンシップa」の履修を済ませることが必要です。</p>
-----	---

履修コード	11299f
科目名	ビジネス・インターンシップb
担当者名	矢野 浩一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「ビジネス・インターンシップb」は学生諸君に企業や団体での現場研修を受けてもらい、その就業体験を通じて、活きた経済・経営の動向を理解し、より高度な専門学習への意欲を高めることがねらいである。
授業スケジュール	(1) 実際の研修は夏休み期間に実施される。原則として、8月上旬から9月上旬に約2週間の研修を行う。 (2) 後期は、研修についてのレポート作成を行う。
準備学習	インターン先の企業の調査や自己紹介書の作成など十分に行なってインターンに参加すること。
履修上の留意点	ビジネス・インターンシップaの単位を修得していないと、現場研修を内容とするビジネス・インターンシップbを受けることはできないため注意すること。また、ビジネス・インターンシップbを受講できる学生は、矢野ゼミの演習IIに所属している3年生に限定される。受け入れ先企業・団体の迷惑に迷惑があってはならないため、社会人としての責任をしっかりと自覚できる学生のみが受講すること。
成績評価の方法	研修後のレポートならびに研修先の評価なども参考に総合的に判断する。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	11297j
科目名	ビジネス・インターンシップb
担当者名	山縣 弘志
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ビジネス・インターンシップは、学生が企業やNPOなどでの就業体験を通じて、働くことの意味を考えることを目的としています。
授業スケジュール	4月：履修登録後、受け入れ先との調整を行います。 7月：事前研修 8月～9月：1～2週間程度の就業体験 10月～12月：事後研修、レポートの作成
準備学習	対象とする業種、企業の情報を取得しておくこと。
履修上の留意点	山縣ゼミの演習IIの受講生のみが登録できます。
成績評価の方法	研修後のレポートおよび研修先の評価によって総合的に評価します。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	11298i
科目名	ビジネス・インターンシップb
担当者名	吉田 真広
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	企業や団体での就業体験を通じて、社会人・職業人として必要な基本的な心構えや姿勢を身につけ、さらにその体験をレポートやプレゼンテーションの形で報告する能力も身につけることを目的としています。
授業スケジュール	1 夏季休業中に一定期間にわたって、企業において就業体験を行います。 2 インターンシップ体験のレポート作成と報告を行います。
準備学習	経済全般に広く関心を持って下さい。
履修上の留意点	1 実地研修をを必須条件とするため、何らかの理由から研修に参加できなかった場合、単位は認められません。 2 ビジネス・インターンシップaの単位を修得していないと、ビジネス・インターンシップbは受けられません。 3 研修の際の交通費、被服などの経費は自己負担です。 4 研修なので勤務報酬は出ません。
成績評価の方法	研修先による評価、レポート、報告によって総合的に判断します。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	097141
科目名	ビジネス英会話 a
担当者名	井上 愛子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義の目的はビジネス英会話の基礎を学び応用練習をすることです。英語を使ってビジネスをする状況は異文化コミュニケーションの場ですので、ビジネスマナーのみならず文化背景の違い相手に対する配慮を学ぶことも重要です。授業では、語彙や英語表現をはじめとする言語コミュニケーションと同時にアイコンタクト、ジェスチャーなどの非言語コミュニケーションについても学習し、多様なビジネスの状況に役立つスキルを学習していきます。
---------------------	--

授業スケジュール	講義 1回目 インTRODクシヨソ 2-4回目 異文化コミュニケーションの学習とテキストに沿ったロールプレイ 5-6回目 プレゼンテーション 7-10回目 ビジネスマナー学習とグループプレゼンテーションの準備 11-12回目 プレゼンテーション 13-15回目 総合演習
----------	---

準備学習	高校レベルの文法と語彙を復習しておいてください。
------	--------------------------

履修上の留意点	社会人としてのマナーの練習だと思って授業に臨んでください。 履修希望者は初回講義に必ず出席してください。
---------	---

成績評価の方法	出席、プレゼンテーション、小テスト、課題提出物、テストなどを総合的に評価します。
---------	--

教科書/テキスト	ディビッド・ワグナー ビジネス英語速攻ハンドブック ワグナー・メソッド エクセレント・マニュアル「電話」コミュニケーション編 朝日出版社 1400円 ISBN4-255-99045-X
----------	--

参考書	適宜授業中に案内します。
-----	--------------

その他	英会話はスポーツのようなもので、お手本を真似して練習しながら自分のスタイルを体得していくものです。アウトプット重視の授業ですが、失敗はありません。フィードバックがあるのみです。どんどんトライしましょう。
-----	---

履修コード	097151
科目名	ビジネス英会話 b
担当者名	井上 愛子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義の目的はビジネス英会話の基礎を学び応用練習をすることです。英語を使ってビジネスをする状況は異文化コミュニケーションの場ですので、ビジネスマナーのみならず文化背景の違い相手に対する配慮を学ぶことも重要です。授業では、語彙や英語表現をはじめとする言語コミュニケーションと同時にアイコンタクト、ジェスチャーなどの非言語コミュニケーションについても学習し、多様なビジネスの状況に役立つスキルを学習していきます。
---------------------	--

授業スケジュール	講義 1回目 インTRODクシヨソ 2-4回目 異文化コミュニケーションの学習とテキストに沿ったロールプレイ 5-6回目 プレゼンテーション 7-10回目 ビジネスマナー学習とグループプレゼンテーションの準備 11-12回目 プレゼンテーション 13-15回目 総合演習
----------	---

準備学習	高校レベルの文法と語彙を復習しておいてください。
------	--------------------------

履修上の留意点	社会人としてのマナーの練習だと思って授業に臨んでください。履修希望者は初回講義に必ず出席してください。
---------	---

成績評価の方法	出席、プレゼンテーション、小テスト、課題提出物、テストなどを総合的に評価します。
---------	--

教科書/テキスト	ディビッド・ワグナー ビジネス英語速攻ハンドブック ワグナー・メソッド エクセレント・マニュアル「ミーティング」マネージメント編 朝日出版社 1400円 ISBN-255-99044-1
----------	---

参考書	適宜授業中に案内します。
-----	--------------

その他	英会話はスポーツのようなもので、お手本を真似して練習しながら自分のスタイルを体得していくものです。アウトプット重視の授業ですが、失敗はありません。フィードバックがあるのみです。どんどんトライしましょう。
-----	---

履修コード	096921
科目名	ビジネスの歴史（欧米）
担当者名	宇田 理

授業概要/ 到達目標（ねらい）	国際間で色々な経済摩擦が起きるが、そのなかの1つは、商習慣や各国企業の経営システム（ビジネスのやり方）から派生している。そのため、各国企業の発展史を学び、比較検討することは、グローバルなビジネス環境の理解を深める上で重要である。この経済摩擦の原因を理解するのにかかせないのが、各国企業がどのような環境の下、どのようにして発展してきたのかという「各国企業の経営史」を学ぶことである。 今年度は、アメリカ企業の発展史を学ぶことで、こうした問題を考えていく。
--------------------	---

授業スケジュール	今年度は、日本にとってとりわけ重要なアメリカの企業が、どのように発展してきたのかというを中心に学ぶ。それは建国期アメリカにおけるビジネス活動から始まって、近年のコンピュータ産業の歴史までをお話する。また、企業活動にかかわった人物も頻繁に取りあげるので、企業家精神のアメリカ的「カタチ」にも触れることになるだろう。
----------	--

講義は、大体、以下を予定している。「フォードとGM」や「IBM」など回によっては2回の講義にまたがる場合もある。また、分かりにくい事象などビデオ教材で理解を補う場合もある。

1. アメリカ経営史を学ぶ意味
2. 植民地時代のビジネス
3. 最初の大企業としての鉄道業
4. ロックフェラーと石油産業
5. 鉄鋼業とカーネギー
6. フォードとGM
7. 小売業の発展:シアーズ、ウォルマート
8. フィリップ・モリスの経営史
9. コカ・コーラの経営史
10. 組織革新の歴史:GE
11. IT産業の展開:IBM
12. まとめ

準備学習	とくになし。
履修上の留意点	とくになし。
成績評価の方法	期末テスト(80%)＋平常点[講義の感想・ミニテスト](20%)
教科書／テキスト	安部他『ケースブック アメリカ経営史』有斐閣、2002年
参考書	

履修コード	096911
科目名	ビジネスの歴史（日本）
担当者名	宇田 理

授業概要/ 到達目標（ねらい）	本講義は、独自の企業システムを構築することによって高い競争力を誇っている日本企業の発展史を振り返ることで、そうした企業独自のシステムがいかに形成されたのか、また、発展に伴い、それらが（良くも悪くも）どのように変貌を遂げていったのかを探ることにある。さらに、システムが変貌していった結果として、企業がその後もうまく成長できたり、逆に、衰退への道筋を招いてしまったりする要因についても合わせて探る。これらを通じて、企業にとっての「変化」とは何なのか、についての理解を深めることが本講義のネライとなる。
--------------------	--

授業スケジュール	最初の講義で講義計画のプリントを配布するが、だいたい以下のトピックに沿って講義を進めていく。各トピックは2～3回の講義から構成されている。また、理解を深めるために映像教材を使う場合もある。なお、取り上げるトピックは変更される場合がある。講義の最初と最後に「ビジネスの歴史を学ぶ意義」と「まとめ」の単元を用意している。
----------	--

1. 無から有を創り出す：松下幸之助と松下電器産業（現パナソニック）
2. ニーズの多様化に対峙する：鈴木敏文とイトーヨーカ堂
3. 大量生産システムの超克：大野耐一とトヨタ生産システム
4. 規制に真っ向から立ち向かう：小倉昌男とヤマト運輸
5. 新事業への展開と中興の祖：丸田芳郎と花王
6. 後発企業の成長戦略とは：山本卓真と富士通

準備学習	とくになし。
履修上の留意点	基本的な経営、マーケティングの知識が必要である。3年次からの履修をお勧めする。
成績評価の方法	期末試験[持ち込み可]（80%）、平常点[授業中の感想・ミニテスト]（20%）
教科書／テキスト	パワーポイントで講義を進めるが、パワーポイントのファイルは配布せず、要約版のプリントでフォローする（YeStudyから各自ダウンロード）。
参考書	佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅲ』丸善、2011年(2800円＋税)

履修コード	092421
科目名	ファイナンス基礎
担当者名	代田 純

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	前期は証券の基礎から説明し、企業や政府がファイナンス（資金調達）する際の、基本的事項を講義する。証券発行市場、証券流通市場の基礎を学習する。 後期には、証券業と証券会社、デリバティブといった応用編に進む。金融機関と証券業の違い、先物・オプション・スワップの基礎などを学習する。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) 証券とは何か (2) 株式会社とは (3) 証券の流通 (4) 証券価格の形成 (5) 証券発行市場 (6) 証券流通市場 (7) 証券業と証券会社 (8) 金融資産の累積と機関投資家 (9) 株式所有構造の変化と企業買収 (10) デリバティブ (11) 証券行政と証券政策 (12) 金融危機とは (13) 金融危機と株式市場 (14) 金融危機と企業金融 (15) 金融危機と地域金融機関
----------	---

準備学習	テキストで予習、復習すること。
------	-----------------

履修上の留意点	私語は厳禁する。レポート等はイェスタディで発表するので、日常的に使用するアドレスで登録すること。
---------	--

成績評価の方法	7月下旬に筆記試験を60点満点で実施する予定。定期試験はレポートとし、40点満点とする。100点満点で60点以上で単位が認定される。
---------	--

教科書／テキスト	二上季代司・代田 純編、『証券市場論』、有斐閣2011年 代田 純編、『金融危機と証券市場の再生』、同文館2010年
----------	---

参考書	代田 純、『新版 図説 やさしい金融財政』、丸善
-----	--------------------------

履修コード	096811 096812
科目名	ファイナンス論 a 財務管理 a
担当者名	坂本 恒夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経営財務の基本的な仕組みや役割を理解するとともに、具体的な方法や現象について学習します。銀行や証券市場との関係で経営財務のダイナミズムについて学びます。M&Aを理解することによって、企業成長の手法や海外進出の実例についても検証します。またスモールビジネスの財務についても理解します。 アメリカ発金融クライシス（リーマンショック）、東日本大震災などで、ここ数年、不安定な経営が続きますが、このような環境の中で、企業がどのような戦略や計画で財務政策を展開しているか解説します。具体的には株主価値経営や環境や社会に配慮する調和（循環）型経営について、詳しく説明します。
---------------------	--

授業スケジュール	1) 財務とは何か、2) 企業・経営とは何か、3) 株式資本の調達、4) 所有の法人化と株式の持ち合い、5) 配当政策、6) 自己金融、7) 社債資本の調達、8) 社債の格付け、9) CPとMTN、10) 借入金の調達、11) 金利、12) メインバンクシステム、13) BIS規制、14) 財務計画、15) 利益計画と利益管理、16) 設備資本と運転資本、17) キャッシュフロー管理、18) EVA管理、19) 証券化、20) M&A、21) スモールビジネスの財務、22) コーポレートガバナンス、23) 財務分析、24) 株主価値経営、25) 調和型経営
----------	---

準備学習	事前学習をしてから授業へ。
------	---------------

履修上の留意点	1. 毎回、授業の理解を深めるために、資料を配布します。 2. 1/3以上の欠席は失格。
---------	---

成績評価の方法	試験は中間・期末の2回試験で70%。毎回の小テスト30%。
---------	-------------------------------

教科書／テキスト	テキスト財務管理論、坂本恒夫編、財務管理論研究会著、中央経済社、2011 イギリス4大銀行の経営行動、坂本恒夫著、中央経済社、2012
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	096821 096822
科目名	ファイナンス論 b 財務管理 b
担当者名	坂本 恒夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経営財務の基本的な仕組みや役割を理解するとともに、具体的な方法や現象について学習します。銀行や証券市場との関係で経営財務のダイナミズムについて学びます。M&Aを理解することによって、企業成長の手法や海外進出の実例についても検証します。またスモールビジネスの財務についても理解します。 アメリカ発金融クライシス（リーマンショック）、東日本大震災などで、ここ数年、不安定な経営が続きますが、このような環境の中で、企業がどのような戦略や計画で財務政策を展開しているか解説します。具体的には株主価値経営や環境や社会に配慮する調和（循環）型経営について、詳しく説明します。
---------------------	--

授業スケジュール	1) 財務とは何か、2) 企業・経営とは何か、3) 株式資本の調達、4) 所有の法人化と株式の持ち合い、5) 配当政策、6) 自己金融、7) 社債資本の調達、8) 社債の格付け、9) CP と MTN、10) 借入金の調達、11) 金利、12) メインバンクシステム、13) BIS 規制、14) 財務計画、15) 利益計画と利益管理、16) 設備資本と運転資本、17) キャッシュフロー管理、18) EVA 管理、19) 証券化、20) M&A、21) スモールビジネスの財務、22) コーポレートガバナンス、23) 財務分析、24) 株主価値経営、25) 調和型経営
----------	---

準備学習	事前学習をしてから授業へ。
------	---------------

履修上の留意点	1. 毎回、授業の理解を深めるために、資料を配布します。 2. 1/3以上の欠席は失格。
---------	---

成績評価の方法	試験は中間・期末の2回試験で70%。毎回の小テスト30%。
---------	-------------------------------

教科書/テキスト	テキスト財務管理論、坂本恒夫編、財務管理論研究会著、中央経済社、2011 イギリス4大銀行の経営行動、坂本恒夫著、中央経済社、2012
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	093831
科目名	福祉経済論
担当者名	河野 敏鑑

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	主として公共経済学の視点から、社会保障制度のうち、年金、雇用保険、子育て支援といったトピックを選び、日本の各制度の現状の概説のみならず、理論的考察を加える。(医療については、後期の医療経済論で解説する。)
---------------------	--

社会保障制度に関して公共経済学の立場から自分なりの考え方を持てるようにするのが講義の到達目標である。

授業スケジュール	1 インTRODクダクシヨウ・社会保障とは 2-3 社会保障と財政 4-7 年金 8-9 雇用保険 10-11 少子化対策と子育て支援 12-14 社会保障と経済成長 15 期末試験
----------	---

準備学習	特に必要ないが、公共経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学など、本講義と関連の深い講義を履修するとより一層、理解が深まるだろう。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	中間レポート(30%程度)と定期試験(70%程度)により評価。出席状況は問わない。
---------	---

教科書/テキスト	なし。必要に応じて講義内容をまとめたプリントを配布。
----------	----------------------------

参考書	第一回目の講義で紹介しますが、初心者向けの書籍としては、鈴木亘『だまされなための年金・医療・介護入門』 東洋経済新報社 1900円+税 4-492-70123-2 村上雅子『社会保障の経済学 第2版』東洋経済新報社 2300円 4-492-81456-6 を推薦します。
-----	--

関連リンク	http://home.e01.itscom.net/tkouno
-------	---

履修コード	095401
科目名	プログラミング論
担当者名	濱本 和彦
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現在の社会においてコンピュータはあらゆる分野で使用されており、その重要性は非常に高い。それに伴いソフトウェアの機能強化が必要とされており、ソフトウェアの開発におけるプログラミング技術の重要性はますます高くなっている。またコンピュータの使用環境もスタンドアロンからインターネットなどのネットワーク上での利用へと変化し、それに伴って供給されるソフトウェアを記述するプログラミング言語も変化している。 本講義ではまず、ソフトウェア開発におけるプログラミング技術の位置づけを明らかにするために、ソフトウェア工学の基礎について講義する。次にプログラミング技法とプログラミング言語について講義する。プログラミング言語としては主にC言語を扱い、実際にソフトウェアを作成しながら包括的なプログラミング技術、ソフトウェア開発について講義する。
授業スケジュール	次のスケジュールで、演習を中心に授業を進める。(1~3)ソフトウェア工学の基礎とプログラミング技法(構造化やオブジェクト指向)(4~5)実習のためのコンピュータ操作方法の習得(6~8)言語学習してのプログラム学習とCプログラムの構成(9~10)画面への文字列の表示(11~13)各種データとデータ構造(14~17)変数の計算と数値の入出力(18)中間テスト(19~22)条件付き分岐構造(23~26)繰り返し構造(27~29)関数(30)総復習とまとめ
準備学習	コンピュータ、Windowsの基本的な操作は事前に修得しておくこと。
履修上の留意点	できるだけコンピュータの初心者に対しても理解しやすいように講義を行うが、各自の予習復習が理解のためには必要である。なお、メール(大学のメールアドレスを利用)による出席調査、課題提出を行うため、履修予定学生はメール送受信などの基本的なコンピュータ操作についてのリテラシーが必要である。なお、最初の数回の講義においてプログラミングの実習のためのコンピュータの操作方法について説明するので、必ず出席すること。
成績評価の方法	講義中に出す課題(20%)、長期休暇中に課すレポート(10%)、および中間テスト(35%)、定期試験(35%)により評価する。
教科書/テキスト	特に指定しない。授業で利用するパワーポイント、プログラムリストはweb上で公開する。必要に応じてプリントを配布する。
参考書	林晴比古, 新訂新C言語入門 [スーパービギナー編], ソフトバンクパブリッシング, 1680円, ISBN-13: 978-4797325638
その他	講義は実際にコンピュータの画面をプロジェクタで見せながら行い、実習中心に行う。出席、レポート提出はe-mailを用いる。よって、受講学生は、コンピュータの基本的な操作を習得している必要がある。
関連リンク	http://www.dm.u-tokai.ac.jp/~hama

履修コード	097031
科目名	ベンチャー論
担当者名	長山 宗広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本は、大量生産体制・キャッチアップ型経済から、知識集約化・フロントランナー型経済へとパラダイムの転換を果たした。こうした時代環境の中、ミクロレベルでは、プロダクト・イノベーション創出の担い手として、ベンチャービジネスに期待が高まっている。本講義では、ベンチャービジネスに関する正確な理解を深めるとともに、ベンチャービジネスの担い手である起業家を養成していく。そのため、学術的研究を概説するとともに、ケーススタディなどを交えた実践的学習をすすめていく。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1) ベンチャービジネスとは (ガイダンス) (2) ベンチャービジネスのブームとベンチャー企業「観」 (3) 中小企業、中堅企業、ベンチャー企業 (4) ベンチャー企業の成長ステージ別マネジメント (5) ベンチャー企業とイノベーション (6) イノベーションの発見 (7) ケーススタディ：SWOT分析 (8) ケーススタディ：ポジショニング・マップ分析 (9) ベンチャー企業のマーケティング戦略 (10) 大学発ベンチャー、産学連携の実態 (11) スピンオフ・ベンチャー (12) ベンチャー金融 (ベンチャーキャピタル、エンジェル、株式公開) (13) ベンチャー支援施策とインキュベーション (14) ベンチャービジネスと地域活性化 (15) まとめ
----------	---

準備学習	起業論、ベンチャー論を一括履修すること。
------	----------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	期末試験による評価：50% 講義中のレポートおよび出席状況など平常点評価：50%
---------	---

教科書/テキスト	長山宗広『日本のスピンオフ・ベンチャー創出論 ー新しい産業集積と実践コミュニティを事例とする実証研究』同友館、2012年。 「イエスタデイ」にて講義内容の一部を公開する。
----------	--

参考書	植田・桑原・本多・義永『中小企業・ベンチャー企業論』有斐閣コンパクト、2006年 金井・角田編『ベンチャー企業経営論』有斐閣、2002年 松田修一『ベンチャー企業』日本経済新聞社、1998年
-----	---

履修コード	097611
科目名	貿易史
担当者名	吉田 真広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>歴史を学ぶ意義の一つは、現代社会をより深く理解することにある。社会を現時点に至る生成・発展・変化の過程としてみることによって、始めて現代社会をより深く把握することが出来るのである。経済史を学ぶ意義も同様である。</p> <p>貿易史は経済史における対外的な側面を学習する。資本主義社会の場合、経済の対外的関係が発展するのは、資本の本質に基づく。しかし、資本主義以前においても、社会構造や経済関係の形成には、対外的関係とりわけ貿易関係が深く関わっている。講義ではその時代の社会形成に貿易が大きくかかわっていることを学ぶ。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>貿易の通史（1～6）と貿易に関わるテーマ別（7～9）の内容に大きく分けられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 古代の貿易 ～ 古典的貿易関係の発生 (第1回～第2回) フェニキア、ギリシャ、ローマ、中国 2 中世の貿易 ～ ヨロッパ商人とイスラム商人 (第3回～第4回) ドイツ、フランドル、イスラム、中国、インド、東南アジア 3 近世の貿易 ～ 三角貿易の構造変化 (第5回～第8回) スペイン、ポルトガル、オランダ、イギリス、中国 4 近代の貿易 ～ イギリスの覇権、奴隷とアヘン (第9回～第11回) イギリス、自由貿易と帝国主義貿易 5 大戦後の貿易 ～ 資本の全面展開と自由貿易 (第12回～第14回) アメリカ、自由貿易原則、南北格差、南南格差 6 日本の貿易 ～ 日本資本主義の成立と貿易 (第15回) 古代、中世、近世、近代 7 貿易と国家の関わり (第16～20回) 自由貿易と国家、市場調整と国家 8 貿易と社会的相違と格差 (第21回～第25回) 貿易前提としての社会的相違、貿易結果としての格差 9 貿易と社会システム (第26回～第30回) ウーバー、ロストウ、マルクス、シュンペーター、ウォーラーズテイン他
----------	---

準備学習	貿易史、経済史だけでなく、歴史自体に興味をもつこと。
履修上の留意点	特になし
成績評価の方法	基本的には二回のテスト
教科書/テキスト	テキストは使用しない
参考書	必要に応じて随時紹介する。

履修コード	100311
科目名	貿易実務
担当者名	荒畑 治雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	第二次世界大戦後、世界の貿易取引が急速に増大した。貿易取引は、お互いに国境を異にする企業と企業との物品売買である。通常、貿易取引は、売買当事者間で長期的・継続的に取引関係を形成させて遂行されるが、このような取引がどのように履行されていくのかという観点から、本講義においては海外市場調査から売買契約の成立、外国為替相場変動のもとにおける取引当事者の対応、海上および航空運送、海上保険、代金決済に至る取引の流れを把握する。さらに近年著しく普及してきた国際電子商取引についても詳細に検討を行い、履修生が実社会で活躍する場合に備えて実際に役立つ講義を行う。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 海外市場調査 2. 取引関係の形成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 見本と価格表の送付 (2) 一般的取引条件の協定 3. 取引の基本5条件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 品質条件 (2) 数量条件 (3) 価格条件・・・Trade Terms (EXW, FAS, FOB.) 4. 価格条件 (CIF, CPT, CIP, DDU, DDPその他) 5. 受渡し条件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 決済条件・・・送金為替、荷為替手形方式 6. 輸出入貿易管理と規制 <ol style="list-style-type: none"> (1) 輸出の許可・承認 (2) 輸入承認 7. 売買契約成立に伴う実務 <ol style="list-style-type: none"> (1) 為替手形の作成 (2) 信用状の内容 8. 先物為替の予約 9. 国際運送 <ol style="list-style-type: none"> (1) 海上運送 (a) 在来船による運送 (b) コンテナ運送 船荷証券・海上運送状 (2) 航空運送 10. 海上保険契約 <ol style="list-style-type: none"> (1) 海上保険の契約当事者 (2) 予定保険契約 (3) 被保険利益 (4) 危険の種類と損害の程度 (5) 保険条件 11. 輸出通関と船積手続き <ol style="list-style-type: none"> (1) 輸出通関 (2) 保税地域 (3) 船積手続きの流れ (4) コンテナ船積み 12. 輸入貨物の荷揚げと輸入通関 <ol style="list-style-type: none"> (1) コンテナ貨物の輸入港への荷揚げ (2) 輸入通関 13. 貿易金融 14. クレームとその解決 15. 貿易保険
----------	--

準備学習	本講義を受講する前および授業と平行して国際ビジネスに関する一連の出版物をよく読んでおくことによって効果的に知識を吸収することができる。こうした点を各自が自覚することによって授業内容を正確に把握することができるようになる。
------	--

履修上の留意点	学生は日常より日本・米国・EU・アジア諸国の貿易の動向について、インターネットや新聞その他のメディアから調べることが重要である
---------	---

成績評価の方法	授業への参加度およびその内容に関する質問等を勘案し、期末試験(80%)により決定する。
---------	---

教科書/テキスト	荒畑 治雄『現代国際商取引論』慶應義塾大学出版会 ISBN 978-4-7664-1823-1 2011年4月 3,000円
----------	---

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

履修コード	098181
科目名	法と経済学
担当者名	村松 幹二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	法制度は日常生活や企業活動などの様々な側面で経済に大きな影響を与える。講義では「法と経済学」の基礎的な考え方を、犯罪、損害賠償、所有権、契約など日常的に接する可能性のある法制度に即して解説する。「法と経済学」では法制度についてミクロ経済学的手法などを用いて分析を行うため、法制度と経済学の知識が必要であるが、法制度については、講義において必要な知識を解説する。ただし経済学については基礎的知識を前提として講義を進める。受講生には、授業を通じて経済における法制度の役割、それに関する政策の意義を考え、経済社会に対する視点を身につけてもらいたい。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回：イントロダクションー「法と経済学とは」</p> <p>第2回：法の意義と役割</p> <p>第3回：犯罪と刑罰の経済分析(1)基本モデル</p> <p>第4回：犯罪と刑罰の経済分析(2)犯罪抑止の費用と効果</p> <p>第5回：事故と損害賠償(1)基本モデル</p> <p>第6回：事故と損害賠償(2)過失責任と厳格責任</p> <p>第7回：事故と損害賠償(3)自動車事故と保険の役割</p> <p>第8回：事故と損害賠償(4)製造物責任と消費者保護</p> <p>第9回：所有権・財産権の経済分析</p> <p>第10回：法制度設計の経済分析(1)コースの定理と取引費用</p> <p>第11回：法制度設計の経済分析(2)権原の保護と譲渡</p> <p>第12回：法制度設計の経済分析(3)取引法</p> <p>第13回：法制度設計の経済分析(4)公害と環境問題</p> <p>第14回：契約の経済分析</p> <p>第15回：まとめー法の意義と役割</p> <p>定期試験</p>
----------	---

準備学習	講義ではミクロ経済学、ゲーム理論の基礎的知識を前提とする。
履修上の留意点	「ミクロ経済学」、「企業経済学」、「ゲーム理論」、「情報の経済学」のいずれかに関連した授業を履修している学生を対象とする。
成績評価の方法	成績評価は、定期試験による。ただし必要に応じてレポート課題を出し、成績評価に加算することがある。
教科書/テキスト	テーマが多岐にわたるため特定のテキストは指定せず、配布するレジュメをもとに講義を行う。
参考書	テーマに応じて講義内で参考文献を示す。

履修コード	092301
科目名	簿記論
担当者名	北口 りえ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、初めて簿記を学習する学生を対象としています。簿記は、経営分析や税金の計算等に不可欠の知識であり、就職活動にはもちろんのこと、就職後も役に立つ技術です。まず基本的な簿記原理を知ることからはじめ、決算までの一連の流れを学習します。簿記は単なる暗記科目として認識されがちですが、本講義では、暗記の枠を超え、簿記技術を楽しく、そしてより深く習得できるよう、簿記原理の奥深さや面白さに重点を置いて講義します。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回： ガイダンス</p> <p>第2・3回： 簿記とは、簿記の計算理論</p> <p>第4・5回： 簿記の基本概念</p> <p>第6～10回： 取引と勘定記入、仕訳と帳簿記入、試算表と精算表、決算</p> <p>第11～23回： 諸取引の記帳 現金・預金、商品売買、掛取引、手形取引、その他の債権債務 有価証券、固定資産、営業費、資本</p> <p>第24～30回： 決算と財務諸表の作成 決算整理、精算表の作成、帳簿の締め切りと財務諸表の作成</p>
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	電卓を持参してください(授業前半では必要ありませんので、講義内で指示します)。
成績評価の方法	成績評価は、授業内試験、定期試験の総合評価により行います。
教科書/テキスト	末永秀男・北口りえ・岩武一郎『基礎簿記入門』(中央経済社)
参考書	特になし

履修コード	092101
科目名	簿記論
担当者名	千葉 修身

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>簿記は、特定の経済主体の営む経営活動を貨幣価値により計算・記録し、その結果を整理・要約して利害関係者に報告する技術である。特に企業の複雑な活動を組織的に把握するために、複式簿記と呼ばれる記録・計算方法を用いる。本講義では、初学者を対象として、簿記の基礎的知識を平易かつ段階的に説明する。</p> <p>前期では複式簿記の基本的な「仕組み」を、後期では複式簿記の「決算手続き」とその「決算効果」の認識を習得し、「仕訳で始まり仕訳で終わる」得意な思考を学ぶ。</p> <p>(到達目標)</p> <p>本講義では初学者を対象としているが、そのことは講義の難易度が低いということではない。簿記は現代人の思考回路に組み込むべき必須の基礎知識であり、本講義では、その根底をなす「仕組み」を解説する。家屋(会計理論)を建てるにしても土台は極めて重要である。その上に積み上げる構築物(会计学, 中上級簿記)に耐えるものでなければならない。本講義の到達目標は、会計知識の基礎を習得し、その応用能力を開発するところにある。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複式簿記の意義と目的(事態形成) 2. 複式簿記の基礎概念<1>(貸借対照表等式) 3. 複式簿記の基礎概念<2>(損益計算書等式) 4. 複式簿記の仕組み<1>(試算表の構造) 5. 複式簿記の仕組み<2>(財産法と損益法) 6. 複式簿記の仕組み<3>(取引の二重性) 7. 複式簿記の仕組み<4>(勘定記入原則と試算表等式) 8. 記帳方法<1>(仕訳と仕訳帳) 9. 記帳方法<2>(転記と元帳) 10. 記帳方法<3>(設例演習) 11. 決算の基礎構造<1>(試算表の機能) 12. 決算の基礎構造<2>(六桁精算表) 13. 決算の基礎構造<3>(簿記一巡の手続きの基礎構造) 14. 現金預金取引(現金預金とは何か) 15. ◎前期講義内容の総括(総合設例演習) 16. 債権債務取引<1>(売掛金と買掛金) 17. 債権債務取引<2>(貸倒れの処理) 18. 手形取引<1>(手形の種類と勘定科目) 19. 手形取引<2>(裏書と割引) 20. 有価証券取引(時価評価) 21. 固定資産取引<1>(取得価額概念) 22. 固定資産取引<2>(減価償却, 除却と売却) 23. 補助簿の記入方法<1>(主要簿と補助簿) 24. 補助簿の記入方法<2>(補助簿間の関連性) 25. 決算の仕組み<1>(決算予備手続き) 26. 決算の仕組み<2>(決算本手続き) 27. 決算の仕組み<3>(六桁精算表と帳簿締切) 28. 伝票式会計(伝票の種類と関係性) 29. 簿記一巡の手続きの再確認 30. ◎後期講義内容の総括(総合設例演習)
----------	--

準備学習	簿記は、数学のように積重ねの学習を要する。したがって、毎回の講義に臨む前に必ず前回の講義内容を復習しておく必要がある。そうすることによってまた、下記の抜き打ち方式による「確認小テスト」にも対応できるメリットが生まれる。
------	---

履修上の留意点	板書に伴う時間的なロスを可能限り少なくして講義内容の密度を濃くするために、毎回の講義において使用する資料を「その回に限り」配布する。 この資料は必ずファイリングし、毎回の講義に持参しなければならない。また、講義内容との関連で関連領域の必読文献を指示する予定である。必要に応じて参照したうえで講義に出席するというプロセスを積み重ねること。
---------	---

成績評価の方法	期末の定期試験に拠る他、受講生の講義理解度を確認し、随時その進度を修正していくために最低5回の「確認小テスト」を抜き打ちで実施する。その結果は、平常点の評価基礎であると同時に、期末試験の成績評価にあたって考慮されるものである点には十分に留意しておく必要がある。
---------	--

教科書/テキスト	基本的には、ファイリングした上記の講義資料それ自身が各自の教科書となる。したがって、特定の教科書は指示しない。ただし、講義資料以外で授業の内容理解をより深めたいという場合には、それぞれのレベルにあった市販テキストを指示することにしたい。
----------	--

参考書	講義と並行して会計実務の最新動向も提示・解説していく。そのため、参考文献は講義中に適宜指示する。
-----	--

その他	講義では、多くの設例を用いて問題演習を課す。講義に出席する際には、必ず電卓を準備・持参すること。
-----	--

履修コード	092201
科目名	簿記論
担当者名	渡邊 智

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 企業は貸借対照表・損益計算書をはじめとする財務諸表を社会に向けて開示しているが、これらを作成あるいは解釈するためには、簿記に関する知識が必要となる。この講義は、基本的な複式簿記原理の理解、さらには初歩的な記帳技術の習得を目指すものである。 (到達目標) 各学習項目に関する基本的な複式簿記原理を理解したうえで、初歩的な記帳技術の習得、具体的には、複式簿記の仕訳、各種帳簿の作成、貸借対照表・損益計算書などの財務諸表の作成および精算表の作成に関する技能の習得を到達目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) 簿記とは何か (2) 簿記の基礎概念 (3) 取引 (4) 勘定記入 (5) 仕訳 (6) 仕訳帳 (7) 総勘定元帳 (8) 試算表 (9) 6桁精算表 (10) 決算その1 決算とは何か (11) 決算その2 損益計算 (12) 決算その3 財産計算 (13) 決算その4 財務諸表 (14~15) 前期のまとめ (16) 現金・小口現金・小口現金出納帳 (17) 当座預金・当座 預金出納帳 (18) 商品・仕入帳・売上帳・商品有高帳 (19) 売掛金・買掛金 (20) 手形その1 基礎 (21) 手形その2応用 (22) その他の債権債務 (23) 貸倒れと貸倒引当金 (24) 有価証券・固定資産 (25) 資本金・引出金・税金 (26) 決算その1 決算整理 (27) 決算その2 8桁精算表・10桁精算表 (28) 決算その3 財務諸表 (29) 伝票 (30) 後期のまとめ
----------	---

準備学習	簿記の学習は積み重ねが大切であるため、受講者は以下の事項を厳守すること。 ただ履修しているだけ、出席しているだけでは講義内容を理解することはできず、また、単位の取得も困難となる点に十分留意すること。 予習・復習は毎回必ず行なうこと。 欠席、遅刻、早退および途中退席は厳禁とする。万一欠席した場合、欠席した回の学習事項を十分に理解しておくこと。 仕訳や勘定記入の方法などの基本的事項については常に練習を重ね学力の維持を図ること。 理解が不十分な点は、そのまま放置せず、質問などにより必ず各自で解決しておくこと。
------	---

履修上の留意点	私語など講義中の迷惑行為は厳禁とする。 与えられた課題には真剣且つ積極的な姿勢で取り組むこと。 電卓(できれば12桁)、赤ペンおよび定規を用意すること。
---------	--

成績評価の方法	前期末試験の結果 (30点満点)、後期末試験の結果 (30点満点) および平常点 (小テストの結果) (40点満点) によって総合的に成績評価を行なう。
---------	--

教科書/テキスト	渡部裕巨・片山寛・北村敬子編著『新検定 簿記ワークブック 3級 商業簿記』中央経済社 定価700円+税 ISBN978-4-502-03590-6 伊藤秀俊編著『入門 商業簿記テキスト』中央経済社 定価2,400円+税 ISBN978-4-502-03430-5
----------	--

参考書	新井清光著『現代会計学』第12版 中央経済社 定価2,600円+税 ISBN978-4-502-43430-3 その他必要に応じて講義中に紹介する。資料を配布する場合もある。
-----	--

履修コード	326501
科目名	保険・海商法
担当者名	井上 健一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	商法のうち、保険取引および海商を含めた国際取引に関する法規整を概観する。この分野は、商法典の条文、もしくは判例の理解のみならず、約款や条約、あるいは商慣習なども含めた実務慣行に注意を払う必要がある。いわば実務との関係で「生きている法」を扱うという意味で、意欲を持って取り組めば非常に面白い内容である。前期および後期の半分は保険法を、特に保険契約法を中心に扱い、後期の後半 (11月~) は海商法およびそれに関連した国際取引に関する契約に対する法規整を扱う。保険会社や商社などの実務に興味がある者は是非参加してほしい。
---------------------	--

授業スケジュール	I 保険法 1. 保険法総論・保険契約法総論 2. 損害保険契約 3. 生命保険契約 4. 傷害保険 II 海商法・国際取引法 1. 海商法・国際取引法総論 2. 海上企業者 3. 海上運送契約・国際取引契約 4. 海上危険・海上保険 5. 国際取引における紛争解決
----------	---

準備学習	民法の債権各論を履修済みもしくは履修中であることを強く望む。
------	--------------------------------

履修上の留意点	
成績評価の方法	原則として期末試験によるが、履修人数によっては授業内で対話式のケースメソッドを実施し、その評価と合算して全体を評価する可能性もある。

教科書/テキスト	山下・竹濱・洲崎・山本「保険法」(第3版)(有斐閣)
----------	----------------------------

参考書	レジュメで随時紹介する
-----	-------------

関連リンク	http://homepage3.nifty.com/inoue-k/
-------	---

履修コード	098101
科目名	保険論
担当者名	深見 泰孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>保険は、皆さんの日常生活や経済活動に不可欠であり、また身近に存在するものです。例えば、皆さんも健康保険を利用しているでしょうし、バイクに乗っている人は自賠責保険に加入しているでしょう。このように、保険は、皆さんの生活の身近に存在していますが、その役割や機能が理解されているかと言われると、十分に理解されているとは言えません。</p> <p>この講義では、保険の役割、意義をはじめとして、保険を理解する上で必要となる基礎的な事柄を説明します。講義を通じて、皆さんが保険の役割や機能、保険業界の現状を理解できることを目指します。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前半は保険に関する制度やその歴史を中心に、後半は生命保険を中心に各論に入っていきたいと思います。具体的には以下を予定しています。</p> <p><前半>オリエンテーション(第1回)、保険の役割と意義、仕組み(第2回～第6回)、保険の歴史(第7回～第10回)、リスクと保険(第11回～12回)、保険規制と保険業(第12回～14回)、保険の分類(第15回)</p> <p><後半>生命保険事業の現状(第16回)、生命保険の仕組みと生命保険商品(第17回～18回)、保険契約と契約者保護(第19回～20回)、販売政策と販売チャネル(第21回)、生命保険会社の資産運用(第22回～23回)、生命保険会社経営と今後の課題(第24回～第25回)、社会保険(第26～27回)、損害保険(第28回～30回)</p>
----------	--

準備学習	毎日、日本経済新聞を読んで下さい。
履修上の留意点	新聞を読み、普段からできるだけ保険に関する知識を身につけようと努力して下さい。講義中、質問をすることがありますから、講義には主体的に参加するよう心がけて下さい。
成績評価の方法	定期試験70%、平常点30%
教科書/テキスト	特にありません。
参考書	水島一也著『現代保険経済』千倉書房、2006年 田村祐一郎編『保険の産業分水嶺』千倉書房、2007年 米山高生著『物語で読み解くリスクと保険入門』日本経済新聞出版社、2008年
その他	私語は、他の人の迷惑になるので厳に慎んで下さい。

履修コード	091801
科目名	マーケティング
担当者名	曾我 信孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	マーケティング技術の基本的な方法を理解し、マーケティングが抱える倫理の問題も理解してもらうことにねらいを置く。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>1～2回 マーケティングの概要と問題点を指摘する。</p> <p>3～9回 製品政策について学習させる。 その内容は、製品の差別化、細分化等の政策やライフサイクルとその短縮に関する政策の問題点など。なお、この間に2度ほどの小テストをする。</p> <p>10～15回 価格政策について学習させる。 その内容は、差別価格や価格維持の問題などとりあげる。この間に小テストをする。</p> <p>16～22回 チャネル政策について学習させる。 流通機構とメーカーの販売チャネルとの関係、大規模メーカーによる流通支配などを取り上げる。この間に小テストをする。</p> <p>23～28回 促進政策について学習させる。 広告、販売員管理、サービスなどを批判検討する。この間に小テストをする。</p> <p>29～30回 マーケティング・ミックスについて学習する。</p>
----------	---

準備学習	ケーススタディを豊富に取り入れて講義をしていく計画です。企業の製品開発や広告などマーケティングに関するニュースは把握しておいてください。なお、日本経済新聞など各種新聞のデータベースが図書館から見るすることができます。関連記事などを予習・復習に利用してください。
履修上の留意点	マーケティングを学ぼうとする知識欲旺盛な方の受講を期待しています。他人に迷惑をかけるなど、著しく受講態度の悪い方は学期途中でも受講を断ることがあります。
成績評価の方法	夏休みの課題レポート(20%)年度末の課題レポート(20%)と平常点(講義中の小テスト評価:60%)によって評価する。
教科書/テキスト	基本的に教科書は使用しない。
参考書	参考書は適宜紹介する。
その他	授業方法-講義形式

履修コード	311101
科目名	マーケティング
担当者名	曾我 信孝
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	マーケティング技術の基本的な方法を理解し、マーケティングが抱える倫理の問題も理解してもらうことにねらいを置く。
授業スケジュール	<p>1～2回 マーケティングの概要と問題点を指摘する。</p> <p>3～9回 製品政策について学習させる。 その内容は、製品の差別化、細分化等の政策やライフサイクルとその短縮に関する政策の問題点など。なお、この間に2度ほどの小テストをする。</p> <p>10～15回 価格政策について学習させる。 その内容は、差別価格や価格維持の問題などとりあげる。この間に小テストをする。</p> <p>16～22回 チャンネル政策について学習させる。 流通機構とメーカーの販売チャンネルとの関係、大規模メーカーによる流通支配などを取り上げる。この間に小テストをする。</p> <p>23～28回 促進政策について学習させる。 広告、販売員管理、サービスなどを批判検討する。この間に小テストをする。</p> <p>29～30回 マーケティング・ミックスについて学習する。</p>
準備学習	ケーススタディを取り入れて講義を進めていきます。企業の製品開発や広告など、マーケティングに関する新聞や雑誌のニュースを把握しておきますと、よりいっそう理解しやすいと思います。
履修上の留意点	マーケティングを学ぼうとする知識欲旺盛な方の受講を期待しています。他人に迷惑をかけるなど、著しく受講態度の悪い方は学期途中でも受講を断ることがあります。
成績評価の方法	夏休みの課題レポート (20%) 年度末の課題レポート (20%) と平常点 (講義中の小テスト評価: 60%) によって評価する。
教科書/テキスト	基本的に教科書は使用しない。
参考書	参考書は適宜紹介する。
その他	授業方法 講義形式

履修コード	090401 090402
科目名	マクロ経済学 経済理論II・マクロ経済学
担当者名	浅野 克巳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代経済学は「マクロ理論」と「ミクロ理論」からなる。「マクロ」とは大きいという意味を持ち、「ミクロ」は小さいという意味を持つ。このコースでは経済全体の動きを分析する「マクロ理論」の基礎を勉強する。具体的に言うところ、景気の良し悪しは何によって決まるか？物価の変動はどのような要因によるものか。デフレ経済の要因は何か？さらに政府の経済活動についてどのように考えるべきか。また輸出・輸入、経常収支といった外国との経済関係をどのように捉えたらよいか。マクロ理論はこれらの疑問に答えるきわめて日常的で身近な分野であるといえる。新聞その他のメディアで日常的に使われる経済用語や基本的な考え方をしっかりマスターすることがこの授業の第1の目標だ。さらに、公務員試験その他の国家試験で必須の経済学の受験対策としても通用するようなレベルを目指したい。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>年間のスケジュールは以下のとおりであるが、理解しにくいトピックスには十分時間をかけ説明するが、テキストなどで「読めばわかる」箇所は簡単に済ませ時間の節約を心がけたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済活動とマクロ経済学の考え方 2~3. 国民経済計算と国民所得の考え方 4~5. GDPとは何か、それはどのようにして決まるのか 6~7. 独立支出の変化とGDPの関係 8~9. 消費と投資 10~11. IS-LMモデルと財政金融政策 12~13. インフレとデフレについて 14~16. グローバル経済と国際貿易 17~18. 政府の経済的役割 19~20. 総需要と総供給 21. 労働市場の働き 22~23. 資産市場 24. 貨幣とマクロ経済 25~26. 金融政策と金融システム 27. 為替市場と金融政策 28~30. 経済成長と景気循環
----------	---

準備学習	現実のマクロ経済の動向を常に念頭に置きながら授業を進めますので、新聞、雑誌等の経済に関する記事を注意深く読み、問題の所在、関連する数字、例えばGDP、失業率、物価上昇率等はノートにメモをとる習慣をつけてもらいたい。
------	---

履修上の留意点	<p>現代経済学を勉強する上で不可欠なことは、実際の経済問題に強い関心を持つことだ。これらはさまざまなメディアをとおしてあふれるほど提供されている。とくに『日本経済新聞』やその他の新聞には毎日必ず目をとおすこと。授業でも関連する記事やデータは参考にするので、できるだけスクラップブック等に整理しておくことよい。これは授業だけでなく、将来の就職活動に際しても役立つおすすぬ。</p> <p>また、経済学を理解するために数学の知識が必要だといわれるが、入門的コースで使う数学は高校の基礎解析あるいは代数程度で十分。必要に応じて授業の中でも説明するが、要は「習うより慣れる！」のつもりで反復練習に限る。</p> <p>ついでに、初心者でも使いやすいコンピュータのソフトが「駒澤大学情報センター」に常備されている。それらを使ってシミュレーションしてみることも、面白く経済学を学ぶ方法だろう。ともあれ、授業には必ず出席し、予習復習を実行すれば100点取るのも夢じゃない。</p>
---------	--

成績評価の方法	定期試験（年度末）と授業内試験（5~7回実施予定）、およびレポート（1~2回）の成績を総合評価する。
---------	--

教科書/テキスト	テキストおよび参考書については最初の授業で詳しく説明します。
----------	--------------------------------

参考書	公務員試験の過去問などの国家試験の受験対策にも十分通用するようできる限り問題練習をすることも理解を確実にする近道だ。自分で復習をかねて解いてみることをとくにお勧めする。
-----	--

その他	授業中の問題点などあったら、オフィスアワーを設けていますので利用してください。
-----	---

履修コード	090301 090302
科目名	マクロ経済学 経済理論II・マクロ経済学
担当者名	荒木 勝啓

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代の経済活動は、ミクロ的に見ると財やサービスを作って売って、買うという活動すなわち市場経済活動の集まりであるが、一国全体としてマクロ的に見ると、家計、企業、政府という経済活動の集計的主体が、相互依存しつつ連携し、それらがあたかも人体の血液循環の如くなる。ダイナミックな所得の循環を引き起こすような、「国民経済」としてとらえることができる。国家が人体だとすると、流れる血液が所得であり、その所得循環の働きまたは総体がすなわち国民経済であると言える。その仕組みと、定常的な所得の流れである均衡国民所得の決定の様子を理解することが、講義の第一の目標であり、下記の第一部、講義1から10までがこれに相当する。
---------------------	---

国民経済は人類の歴史とともにあったわけではなく、国内の自律的な所得循環を生み出す原動力としての大量生産をもたらし産業革命以降に登場した。国家も経済も昔からあったが、国民経済は産業革命によって近代以降に新たに生み出されたのである。

ちなみに国民経済の図式に相当する簡単な循環図式を、フランスの産業革命以前に、「経済表」として定式化したのは、当時ようやく認知され始めた血液循環説の信奉者であった、18世紀フランスの医師フランソワ・ケネーである。またそうした循環がうまく機能しない(有効需要不足の場合)、不足を補う役割として政府が必要とされる、と説いたのが20世紀のJ.M.ケインズである。ケネーは、農民が生み出した所得が、貴族や僧侶による現代的に言うところの漏出のために、農民のもとに還流せず、国内にあたかも貧血のような所得循環の障害が生じ、そのためにフランス絶対王政国家の衰退と疲弊がもたらされた、と主張したが、ケインズは、高度に発達した資本主義社会の下でも、というよりむしろ経済が高度化するほど、所得増加とともに貴族ならぬ家計の貯蓄増加という形での漏出が増えていくために、所得の還流不足すなわち有効需要不足が生まれると考えた。

現代日本において「貯蓄のパラドックス」とも呼ばれるケインズのこの懸念は現実化し、「豊かさの中の貧困」あるいは金余りの中の失業、そして有効需要不足を埋めるべく膨らむ一方の財政赤字といった問題が、話題とならない日々はないほどである。本講義も折に触れこれらの問題に言及する。

下記第一部の7からは所得循環に介入し流れを変える要因を導入する。その1は政府で、流れの一部を税金などで吸収し、政府支出によって注入する。政府は主として民間の営利活動や市場活動によって満たされない公共的な経済活動の主体であるが、公共投資や社会福祉支出などの形で追加的有効需要の供給源となる。すなわち政府は公共経済活動を行う過程で漏出し注入の両方の役割を果たす。その2が輸出入の導入である。輸入は国民所得の漏出(Leakage)の一部を成し、輸出は注入(Injection)の一部を成す。これら2つの要因を組み込むことにより、均衡国民所得成立のための貯蓄・投資均等式が、漏出=注入という形に一般化され、拡大された形式で完成する。

第二部11から15は乗数理論とその応用としてのビルト・イン・スタビライザーおよび成長理論、景気循環論の計算と図式である。乗数理論は、経済が、もととなるシード(種)からいかに拡大波及していくかを解く鍵であり、その理解が本講義の第二の目標である。

第三の目標は、貨幣と実物の相互作用により経済がどのように変化するか、あるいは貨幣が実物経済にどのように影響するかを古典派経済学とケインズ経済学との対比において検討することでである。またIS-LM分析の手法により財政政策と金融政策の働きが図式的に理解される。そしてなぜ有効需要不足により失業が生まれるのか、といったマクロ経済の重要テーマの解答がこの目標のもとに達成されるであろう。第三部16から26までが講義の細目である。

第四の目標は、さらに進んで、期待理論、物価、国際経済との関連といった応用的かつ現実的な経済現象と経済理論を学習することである。下記講義27から30までがそれにあたる。

授業スケジュール	<p>第一部：国民所得の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 国民経済の成立 産業革命によりいかに国民経済が成立したかを理解する。 所得の循環図式 生産活動によって生まれた所得がどのように経済主体に分配され処分され、そして再び総需要として戻ってくるかという所得循環図式を理解する。 国民所得の概念 GNP、GDPなどの国民所得(National Income)をめぐる概念的・定義的な理解を進める。特に付加価値合計としての国民所得という概念を徹底する。 貯蓄・投資の均衡および注入・漏出均等条件と金融組織 所得循環からの漏出が「消費されざる所得」としての貯蓄であり、その漏出を循環体系に引き戻し、企業の投資という形で注入させる組織が金融機関である。その役割を解説する。 消費関数とその役割 ケインズにより導入された消費関数を定義し、家計の消費が国民所得の循環の中でどのような役割を果たすかを理解する。また後に提唱された、ケインズタイプ以外の様々な消費関数を紹介する。 国民所得の決定その1 所得循環の定常的な流れとしての所得すなわち均衡国民所得の決定を簡単な計算式により行う。 政府の導入 所得循環の流れの中の公共的な経済活動の主体としての政府の役割を理解する。 輸出入の導入と拡大された貯蓄・投資の均等図式 漏出としての輸入と注入としての輸出を導入し、政府と輸出入が組み込まれた、拡大された貯蓄・投資均衡図式を完成する。そして図式の変形からなぜ貯蓄過剰と経常収支の黒字が関係するのかなどを理解する。 国民所得の決定その2一定額税の場合一 政府と輸出入が導入された場合の国民所得を計算する。ただし税金は定額税を仮定する。 国民所得の決定その3一累進課税の場合一
----------	---

税金は、制度的に所得が高くなると税金も増えていくような累進課税が現実的である。累進課税をモデルとする税金関数(Tax Function)を導入しそのもとでの国民所得を計算する。

第二部：乗数効果とその応用

- 1.1. 乗数理論その1—波及過程としての乗数過程—
「太平記」にある有名な青砥藤綱銭拾いの一節。藤綱がある夜、滑川に10文の銭を落とした。藤綱は50文の銭で松明を買い、その明かりで家来に川底を探させ、ようやく10文の銭を拾った。人がそれは損失ではないかと問うと、藤綱曰く、「10文の銭をなくすことは自分にとっては小損だが天下にとっては貨幣の損失であり、使われた50文は人のためになるではないか」と。乗数理論とはこの説話の現代版であり、所得循環の流れに需要(貨幣)が投げられると、巡り巡ってその何倍の所得を生み出す、という理論である。なぜ何倍にも拡大するのかの理由はまさしく所得が「循環するから」である。所得は所得を呼ぶのである。あるいは需要は需要を呼ぶともいう。漏出し減衰しつつもその効果は波及していき、全体として何倍にも膨れ上がる。この理解こそがマクロ経済理解の核心であるといってもよい。
- 1.2. 乗数理論その2—一般化—
政府と輸出入が存在する場合に乗数理論を拡大する。
- 1.3. ビルト・イン・スタビライザー
累進課税が存在する場合乗数効果が弱められるが、反面そのことにより景気変動の波が安定化する。この効果を財政のビルト・イン・スタビライザー(自動安定化装置)機能という。
- 1.4. 経済成長理論の基礎—ハロッド=ドーマー・モデル
のちにノーベル経済学賞を受賞したロイ・ハロッドは短期的なケインズの貯蓄・投資均等式から長期的な経済成長の基本公式が導かれることを示した。この回では、その公式の導出と意味を考える。
- 1.5. 景気循環理論の基礎—乗数・加速度モデルを中心に—
景気は4年、10年といった周期で循環することが知られているが、その理論的説明として最も基礎となる乗数・加速度モデルを解説する。

第三部：貨幣と実物の相互作用

- 1.6. 貨幣とは何か
日銀の貨幣博物館では、貨幣として使われた、あるいは今でも使われているものが展示されている。例えば貝、石、木、骨、茶などなど。骨などはそれ自体無価値であるにもかかわらず、貨幣となる。また身近なものでは印刷された紙(原価50円ほど)が一万円もの額面の紙幣として使われている。それはなぜか。この回では貨幣の本質に迫る。
- 1.7. 信用通貨の成立
金匠手形から現代の電子マネーに至る信用通貨の歴史をたどり、通貨の裏打ちは結局信用にあるということを理解する。
- 1.8. 信用創造理論その1
現金から銀行組織全体に最大どのくらい信用創造がなされるかの公式(フィリップス公式)を、漏出がない場合について導出する。
- 1.9. 信用創造理論その2
漏出がある場合の信用創造公式を導く。
- 2.0. 貨幣数量説と古典派学説
貨幣数量説、セー法則、完全雇用の三位一体からなる古典派学説を理解する。
- 2.1. 流動性選好説とLM曲線
ケインズは古典派の貨幣数量説では把握できない「貨幣の投機的動機にもとづく需要」を導入することにより、現代金融理論の源流となる流動性選好説を唱えた。その理論をそもそも債券とは何かということから解説する。流動性選好説を図式化したものがLM曲線である
- 2.2. IS曲線の導出
ケインズの有効需要理論はIS曲線により図式化される。
- 2.3. IS-LM曲線による均衡実質国民所得の決定
両曲線の交点において均衡実質国民所得と均衡利率が決定されるが、その点が労働市場の需給均衡点すなわち完全雇用から生み出される完全雇用実質国民所得に達しているかどうかは保証されない。もし達していなければ非自発的失業が生まれるであろう。
- 2.4. 財政政策
非自発的失業を解消するひとつの方法は政府支出の増加によりIS曲線をシフトさせ、IS-LM曲線の交点で決まる均衡国民所得を完全雇用国民所得へと近づけることである。しかし、その財源が税収で得られない場合は財政赤字が生じ、禁断の赤字国債の発行を余儀なくされる。日本を始め先進国が目下直面している問題は、その累積問題である。解決策は果たしてあるのか、これが本講義で学生が様々な解を求めて主体的に考えるべき点であり、この回は解説というよりも問題提起の回となろう。または、その関連で少子高齢化、年金、温暖化対策、高度福祉または医療なども考えるべき現代的問題として取り上げる予定である。
- 2.5. クラウディング・アウト
政府活動水準の増大は財政赤字化の他に、政府活動が結果的に民間経済活動を阻害して、本来の効果を削いでしまうというマイナス効果も引き起こす可能性がある。これをクラウディング・アウトという。
- 2.6. 金融政策
3大金融政策を具体的に解説し、LM曲線のシフトで表される金融緩和と金融引き締め効果を図式的に理解する。またゼロ金利に代表されるリキディティ・トラップ(流動性の罠)の問題を扱う。

第四部：応用編

- 2.7. 期待理論
もし人々が政府や日銀の政策について合理的な期待をすでに有しているならば、期待通りの政策が行動に織り込まれており、政策の効果が十分に発揮されないであろう。政策は人々の予想外の、意外な(Surprising)政策でなければ、通用しないかもしれない。そうした効果をもたらすと考えられる期待理論を解説する。
- 2.8. 物価と総供給・総需要理論
物価は総供給曲線と総需要曲線の交点で決定され、もし完全雇用が達成されていれば、総需要曲

線の右方シフトはディマンド・プルインフレーションをもたらすであろう。またデフレーションはその左方シフトということで理解される。

29. BP曲線の導出

国際経済が導入された「開放体系」の下では、IS曲線、LM曲線のほかにBP曲線を重ね合わせることで、国内経済と国際経済の関係が図式的に理解可能となる。

30. 国内の政策が国際収支と為替相場に及ぼす影響あるいはその反作用

IS=LM=BP曲線のシフトを用いることにより、財政政策、金融政策が国際経済(あるいは国際収支)や為替相場への作用の反作用としての国内経済へのより複雑な影響を調べる事が可能となる。この回の講義まで理解できれば、マクロ経済学の基本はほぼ網羅されたといえる。新古典派的成長理論、より多様な景気循環理論、よりテクニカルな期待理論、投資関数の導出といった高度なテーマについては是非他の授業や専門書で学んでいただきたい。

準備学習	特に前提となる学習は必要ないが、産業革命前後と大恐慌前後の世界史の知識を踏まえていれば、講義内容の背景の理解がより容易になるとと思われる。
履修上の留意点	ノートを取ることが肝要。授業中に頻出する例題を自分で計算してみることで、マクロ経済学の基礎を体得できるはずである。例題は多くの場合1種国家公務員試験程度の難易度に相当するが、解き方は詳しく解説するので、自分で解けるように練習すること。
成績評価の方法	主として授業中の例題から数値を変えて作られた計算問題から成る定期試験100点満点により評価する。テストをすると当然のことであるが、100点の答案と0点に近い答案が両方とも多い。言うまでもないが、授業にきちんと出た学生は100点を取って当然と言いが、出ていなかった学生は全く解くことができなかったと言う。例えば、「銀行組織全体からの資金流出が存在せず、各銀行の準備率が5%のとき、1億円の本源預金から最大いくらの貸出総額が可能か」という問題は、例題を練習した学生なら、おそらく10秒もかけずに19億円と答えるであろうが、信用創造の仕組みを学ばなかった学生にとっては永遠に解けないままであろう。要するに本講義の成績評価は誰が評価しても同じになるような客観評価で行う。計算ミスによる誤答を避けるために試験に電卓を持ち込んでよい。
教科書/テキスト	特に指示しない。
参考書	適宜紹介する。敢えて1冊というならば雑誌の「エコノミスト」が推奨される。定期的に読むことで、最新の経済情報が得られる。

履修コード	090101 090102
科目名	ミクログ経済学 経済理論II・ミクログ経済学
担当者名	畠中 貴

授業概要/ 到達目標(ねらい)	ミクログ経済学は様々な経済分析の基礎となる理論の一つである。この講義では、ミクログ経済学の基礎的な内容を一通り説明する。数学は議論を単純化し論理の厳密性を実現する上でとても有益な道具であり、ミクログ経済学の醍醐味を味わうためには、ぜひとも初歩的な数学をマスターする必要がある。したがって、初歩的な数学(関数、微分)の説明も併せて行う。 この講義の目標とするところは、次の二点である。 (i) 経済のありさまを自分なりに把握するための技術を身につける。 (ii) 筋道立ててものを考える力をつける。
--------------------	---

授業スケジュール	前期は需要曲線、供給曲線、完全競争市場、集合、関数について説明する。後期は需要曲線の背後にある家計の行動、供給曲線の背後にある企業の行動、市場メカニズムが果たしている役割、市場メカニズムがうまく機能しないケース(市場の失敗)、微分について説明する。
----------	--

準備学習	経済学の説明も数学の説明もすべて一から行うので、この講義を受講するにあたって前提とする知識は何もない。高校時代にあまり数学の勉強をしてこなかった人も積極的に受講して欲しい。ただし、講義の内容は抽象的で頭に入りにくい上、一旦理解できたと思っただけで時間が経つと忘れてしまうのが通常であるから、一年を通して根気よく予習・復習を継続する必要がある。テキストは熟読しなくてはならない。前に説明したことの上に新しい内容を組み立てていくから、前にやったことがよく理解できていないと今やっていることが分からないということが起こるので、注意して欲しい。分からない部分があったら、分かるようになるまで説明するので、どんどん質問にすること。
------	--

履修上の留意点	授業には毎回、過去に配布されたすべてのプリントを忘れずに持ってくること。
成績評価の方法	基本的に二度の期末試験の総合評価。前期末試験、後期末試験のうちどちらか一方でも受けていない人には単位を与えないので注意すること。追試験は実施する。
教科書/テキスト	授業時に配布するプリントをテキストとする。
参考書	

履修コード	090201 090202
科目名	ミクロ経済学 経済理論II・ミクロ経済学
担当者名	松井 柳平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	理論的な経済分析の基礎となるミクロ経済学の理論を、ゲーム理論をベースとして講義する。消費者や企業などの個別経済主体が自発的かつ合理的に行動しているとき、どのような社会・経済状態が実現するか理論的に考察する。その際、その帰結の理解よりもむしろ、その帰結に至る論理展開、つまり分析方法の理解に重点を置く。ミクロ経済学の理論を基に、具体的な経済事象について経済理論と関連付けて主体的に考察する能力と習慣を養う。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：あるパン屋の話 (固定費用と可変費用)</p> <p>第3回：あるパン屋の話 (需要と供給)</p> <p>第4回：あるパン屋の話 (価格の決定)</p> <p>第5回：戦略形表現</p> <p>第6回：ナッシュ均衡</p> <p>第7回：ナッシュ均衡の練習問題</p> <p>第8回：展開形表現とサブゲーム</p> <p>第9回：バックワード・インダクション</p> <p>第10回：展開形表現と戦略形表現</p> <p>第11回：市場における交換と経済学的余剰</p> <p>第12回：最後通牒ゲーム</p> <p>第13回：2段階交渉ゲーム</p> <p>第14回：最後通牒ゲームの練習問題</p> <p>第15回：前期のおさらいとまとめ</p> <p>第16回：2段階交渉ゲームの練習問題</p> <p>第17回：さまざまな取引における価格の決定</p> <p>第18回：競売とセカンドプライス・オークション</p> <p>第19回：競争入札</p> <p>第20回：消費者余剰の比較</p> <p>第21回：機会費用、サンクコスト</p> <p>第22回：予算制約線と効用関数</p> <p>第23回：最適消費点と無差別曲線</p> <p>第24回：限界効用と需要曲線</p> <p>第25回：寡占とクールノー競争</p> <p>第26回：クールノー均衡</p> <p>第27回：銀行借り入れ</p> <p>第28回：株式の新規発行</p> <p>第29回：モディリアーニ＝ミラーの定理</p> <p>第30回：おさらいとまとめ</p> <p>定期試験</p>
----------	---

準備学習	事前に、中学時代の数学の計算問題等について、理解と計算能力を完全にしておくこと。講義プリントを、YeStudyから事前にプリントアウトして必ず予習してきた上で、講義に臨むこと。
------	--

履修上の留意点	この講義の履修においては、小学校・中学校・高校での算数・数学について、その基本的な部分の理解がきちんとできていることが前提となる。こうした算数、初等的な数学について自信のない受講生は、算数や中学時代の数学の教科書・参考書を事前によく自学自習し復習した上で授業に臨んでもらう必要がある。
---------	--

具体的には、
 ◎小学校の算数における「数と計算」(個数を数える・比べる、加法・減法・乗法・除法、小数・分数の計算、約数・倍数、約分・通分、)、「数量関係」(表やグラフ、交換法則、結合法則や分配法則、比、比例)
 ◎中学校の数学における「数と式」(正の数と負の数・その四則計算、一元一次方程式、文字を用いた式の四則計算、連立二元一次方程式、式の展開や因数分解、等)、「数量関係」(比例・反比例の関係、変数・変域、一次関数、等)
 ◎高校の「数学I」における「方程式と不等式」、「二次関数」

また、受講生の予習と復習を前提とし、授業中に学生に答えを尋ねる場合が多々ある。したがって、受講生はYeStudyに登録し、講義プリントを、YeStudyから事前にプリントアウトして必ず予習してきた上で、講義に臨むこと。

公務員試験、経済学検定試験、その他各種資格試験を将来、受験しようという学生は、この科目やミクロ経済学を履修した後、さらに、応用ミクロ経済学、応用マクロ経済学、公共経済学、経済政策などの科目を履修することが望まれる。

成績評価の方法	成績評価は基本的に、定期試験(年度末)に基づく。なお、授業中に自ら手を上げて練習問題を自発的に発表し、その発表内容がよかった場合には成績評価に加味する。また、夏期休暇中に小レポート課題を課す場合がある(レポート課題の有無は7月の授業中にアナウンスする)。
---------	---

教科書/テキスト	梶井・松井『ミクロ経済学-戦略的アプローチ』(日本評論社) ISBN4-535-55202-9
----------	---

参考書	<p>岩田 規久男『経済学を学ぶ』(筑摩書房) (ちくま新書) ISBN4-480-05602-5</p> <p>武藤 滋夫『ゲーム理論入門(日経文庫:経済学入門シリーズ)』(日本経済新聞社) ISBN: 4532108292</p> <p>渡辺 隆裕『図解雑学 ゲーム理論』(ナツメ社) ISBN: 4816337458</p> <p>渡辺 隆裕『ゼミナール ゲーム理論入門』(日本経済新聞出版社) ISBN: 4532133467</p>
-----	---

その他	受講生の予習と復習を前提として講義を進める。授業を欠席しても困らないように、授業で友人をつくっておくこと。そして友人同士で教え合いながら理解を深めること。
-----	---

履修コード	098301 098302
科目名	民法一部 民法I
担当者名	和知 恵一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>一般市民の私的法的法律関係を規律する法の分野が私法である。この私法の中でもっとも広範囲かつ基本的な事項について規定しているのが民法である。この民法の規定内容は、おおまかに財産的な法律関係と家族的な法律関係に分けられる。このうち、財産的な法律関係について、学んでもらおうと開講するのが、民法一部である。この授業においては、民法全体のアウトラインを理解した上で、財産的な法律関係について、民法はどう規定しているのか、またその意味・内容はどんなことなのかを理解してもらう。民法典は、5編で構成されており、財産法はこのうち第1編「総則」と、第2編「物権」、第3編「債権」が該当する。具体的な事例を提示しながら説明をし、学生諸君の理解を図る。指定した教科書に沿って、前期では、第1編「総則」を中心に話を進め、民法の全体像を理解してもらう。後期は、物を直接に排他的に支配する権利である「物権」と、特定の人が他の特定の人に対して請求することのできる権利である「債権」を保護する働きを持つ「担保物権」について学んでもらう。到達目標として、この授業を通じて、民法という法律が、どういった内容について、どのように規定しているのかを理解すること、物権や担保物権の種類とその名称、またこれらの内容、その発生・変更・消滅についての要件や効果を理解することをあけておく。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>[前期]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス(履修上の注意等) (2) 民法の構成と成立の歴史 (3) 民法の基本原則 (4) 民法の基本原則の修正 (5) 権利や義務について、またその主体(人)について (6) 権利の客体(物)について (7) 人の持つ能力について (8) 制限行為能力者制度について (9) 法律行為(成立要件)について (10) 法律行為(有効要件)について (11) 意思表示について (12) 意思の欠缺と瑕疵ある意思表示について (13) 代理制度(全体)について (14) 無権代理と表見代理について (15) 前期のまとめ <p>[後期]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 時効制度(全体)について (2) 取得時効と消滅時効について (3) 条件・期限・期間について (4) 物権の意義および物権法定主義について (5) 占有権と所有権(全体)について (6) 物権変動について (7) 占有権について (8) 所有権の取得と相隣関係について (9) 用益物権について (10) 担保物権について (11) 法定担保物権について (12) 約定担保物権について (13) 抵当権について (14) まとめ <p>以上は、講義が30回行われることを前提とした予定であり、学事日程・受講者の理解度その他の状況により、変更がある。</p>
----------	---

準備学習	履修者は、教科書を購入して、講義の前後に教科書を読むように心がけてほしい。できれば、この科目を履修する前に、法学、法学概論等の単位を修得していることを強く勧めたい。
履修上の留意点	最初の講義の時に、ガイダンスとして、履修上の注意をする。必ず履修届けを確定する前に話を聞いてほしい。また、授業には単に出席するだけでなく、自ら積極的に理解しようとする意欲を持って参加してもらいたい。また、板書を多用するので、ノート・筆記用具は必携である。
成績評価の方法	学年末の定期試験の他、出席状況などの平常点も加味する。
教科書/テキスト	以下を予定している。 和知恵一著『(仮題)よく分かる、民法』(芦書房) 六法(コンパクトな物:例ポケット六法(有斐閣)など)
参考書	授業の中で、適宜紹介する。

履修コード	098401
科目名	民法二部
担当者名	飯塚 真

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講座は、債権総論だけでなく、債権各論部分を含んだ債権法全般を内容とすることにする。民法は、市民社会を規律する法律といわれているが、人間が社会において生活していく際には、物との関わりとともに、人との関わりを持っている。債権法は、人と人との関わりについて規律するものといえる。本講座では、具体的な事例を用いながら、債権法全般の基本的な知識を習得することを目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 オリエンテーション (講義の進め方など) 第2回 債権の目的 第3回 債務不履行 第4回 債権の効力① 履行の強制、損害賠償 契約の解除 第5回 債権の効力② 債権者代位権 第6回 債権の効力③ 債権者取消権 債権侵害に対する保護 第7回 多数当事者の債権関係① 分割債権関係、不可分債権関係 第8回 多数当事者の債権関係② 連帯債務、保証債務 第9回 債権譲渡 第10回 債権引受け 第11回 弁済① 弁済制度 第12回 弁済② 弁済による代位制度、代物弁済、供託 第13回 弁済③ 相殺 第14回 弁済④ 更改、免除、混同 第15回 前期まとめ 第16回 契約法総論①契約の意義、契約の成立 第17回 契約法総論②契約の効力 (概論、危険負担) 第18回 契約法総論③契約の効力 (契約の第三者効) 第19回 契約法総論④ 第20回 贈与・売買・交換① 第21回 贈与・売買・交換② 第22回 消費貸借・使用貸借・質貸借① 第23回 消費貸借・使用貸借・質貸借② 第24回 雇用・請負・委任・寄託① 第25回 雇用・請負・委任・寄託② 第26回 組合・終身定期金・和解 第27回 事務管理 第28回 不当利得 第29回 不法行為 第30回 後期まとめ
----------	---

準備学習	次回講義予定の部分について、指定された教科書を、事前に読んでおくこと。
------	-------------------------------------

履修上の留意点	六法は必ず持参すること
---------	-------------

成績評価の方法	試験の成績を中心に (おおむね70%)、授業態度 (講義への取り組み、事前学習度合い、おおむね30%)などを加味した上、総合的に判断する。
---------	---

教科書/テキスト	我妻栄・有泉亨・川井健著『民法2 債権法 (第三版)』 (勁草書房、2310円、ISBN978-4-326-45086-2)
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	325001 325002
科目名	債権総論 民法二部
担当者名	中田 英幸

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、債権法の共通規則である債権総論を学習することを目的とする。債権総論とは、具体的には民法第3編債権第1章総則（およびその特別法）を指し、債権に関して共通して妥当する規則をまとめたものである。それゆえ、債権総論は債権法の根幹を成すが、難解な領域でもある。講義は、抽象的な規定の有する実際的な意味を明らかにして、わかり易く説明する。
---------------------	--

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> (1) 序論 1 債権総論とは何か (2) 序論 2 債権とは何か (3) 債権の「目的」 債権の種類 (4) 債権の「目的」 規定上の分類 (5) 債権の効力 序論 (6) 債権の効力 履行の強制 (7) 債権の効力 債務不履行に基づく損害賠償の要件—三分体系説 (8) 債権の効力 債務不履行に基づく損害賠償の要件—契約責任説 (9) 債権の効力 債務不履行に基づく損害賠償の効果—損害の内容と範囲 (10) 債権の効力 債務不履行に基づく損害賠償の効果—基準時 (11) 債権の効力 責任財産の保全—債権者代位権 (12) 債権の効力 責任財産の保全—詐害行為取消権の要件 (13) 債権の効力 責任財産の保全—詐害行為取消権の効果 (14) 債権の効力 第三者による債権侵害 (15) 債権の効力 債権者遅滞 (16) 債権債務の移転総論・債権譲渡の効力要件 (17) 指名債権の譲渡の対抗要件 (18) 指名債権の譲渡の具体的優劣基準 (19) 指名債権の譲渡の効果 (20) 証券的債権の譲渡と特別法による債権の譲渡 (21) 債務引受と契約上の地位の移転 (22) 債権の消滅—第三者弁済 (23) 債権の消滅—弁済による代位 (24) 債権の消滅—第三者への弁済 (25) 債権の消滅—相殺 (26) 多数当事者の債権債務関係総論 (27) 分割債権・不可分債権・連帯債権 (28) 分割債務・不可分債務 (29) 連帯債務 (30) 保証債務
----------	---

準備学習	指定された教科書を事前に読んでおくこと。 yestudyにより予習と復習の案内をしているので、各自活用すること。
------	---

履修上の留意点	債権総論と債権各論が合わさって債権法を構成するので、債権各論も同時に履修することが望ましい。 最新の六法は必ず持参すること。講義の内容などについて良く分からない点や疑問に思うことがあれば、いつでも質問してほしい。
---------	---

成績評価の方法	期末試験により評価する。
---------	--------------

教科書／テキスト	野村豊弘ほか著『民法III—債権総論（第3版）』（有斐閣、2005年） なお、2012年度までに補訂版が出版予定であり、出版された場合には第3版の補訂版とする。
----------	---

参考書	中田裕康・潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選II債権（第6版）』（有斐閣、2009年）
-----	--

履修コード	099211
科目名	流通経済論
担当者名	大吹 勝男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>大学で学ぶことは、将来君たちが人間らしく生きるための助けになるものでなければなりません。本学もまた大学である限り、学問の場でなければなりません。いいかえれば、大学においてしか学ぶことのできない、物事の見方、考え方を身につけることです。さらにいうならば、実用的でないもの、すぐには役に立たないもの、これらを学ぶのが大学です。諸君が悩みに悩み、迷いに迷って、大人になっていくところが、大学という場です。キャリアを積んだビジネスマンから多く聞くことは、学生時代に「学問」をしておくべきであったということです。諸君も、過労死や過労自殺をすることなく、使い捨てのサラリーマンになることのないように、体系的に物事を考える能力を身につけてください。そして、社会人として現実に困難な問題に直面しても、学問をした人間として、大学の卒業生として、きちっと解決のできる人間になってください。本講義では、現代における流通および商業に関する諸現象を科学的に認識するために必要な流通理論および商業資本の理論を講義しますが、それらの知識を習得するとともに、それらを学ぶ過程において体系的な思考方法を習得し、思考能力を高めてください。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(1～3) 商品、貨幣および資本 (4～7) 商品の生産過程と価値増殖の仕組み (8～16) 資本の流通過程、流通時間、販売および購買費用、商品在庫と保管費用、市場と商品の輸送、倉庫業および輸送業 (17～20) 商業資本の本質と機能、商業資本自立化の利益と根拠 (21～28) 商品買取資本と商業利潤、純粋流通費用および商業的可変資本と商業利潤、純粋流通費用および商業的可変資本の回収・補填 (29～30) 商業的賃労働者・ホワイトカラー労働者と商業利潤</p>
----------	---

準備学習	<p>テキスト (前期：流通諸費用の理論的研究 後期：商業資本の理論的研究) を読んでおくこと。</p>
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	<p>成績は期末試験により評価します。</p>
---------	-------------------------

教科書/テキスト	<p>大吹勝男著『流通諸費用の理論的研究』梓出版社 2100円 大吹勝男著『商業資本の理論的研究』創成社 (10月刊行予定)</p>
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	091311 091312
科目名	流通論基礎 商学総論
担当者名	大吹 勝男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この授業では、「流通論基礎」を講義するのですが、どのような内容の講義であるのか。まず、「流通論」の「基礎」を講義することは解るでしょう。それでは、「流通論」とは何を論じるものなのか。すくなくとも、「流通」について論じるものであることも解るでしょう。しかし、問題はここからです。以上ではまだ何も解っていないということは解っていますね。あるいは、これから論じる「流通」とは何か、ということは知っていますか。諸君は、この授業で、「流通」に関する理論、のさらにその「基礎」を学習することになるのですが、私達の毎日の生活と流通とがどのように関係しているのかを働く人の立場から、そして消費者の立場から考えていくうえで、その基礎となる理論について講義する予定です。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>授業の内容は下記の通りです。 (1～5) 私達が毎日の生活のために購入する商品について。 (6～10) 商品の生産について・商品がなければ流通はありません。 (11～15) 商品の流通について。 (16～20) 現代社会では私達消費者は商品を買わなければ生活できません。 (21～25) 企業は商品を生産し販売するためには、商品を保管しなければなりません。 (26～30) 商品を販売するためには、市場まで輸送しなければなりません。</p>
----------	---

準備学習	<p>テキスト (流通諸費用理論的研究) を読んでおくこと。</p>
------	------------------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	<p>評価は期末試験による。各授業項目が終わる毎に、小テストを実施し、諸君の理解度確かめ、一層の理解を深めるようにする。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>大吹 勝男 「流通諸費用の経済学的研究」梓出版社・2010年</p>
----------	---------------------------------------

参考書	
-----	--

その他	
-----	--

履修コード	098801
科目名	労働法
担当者名	藤本 茂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>今日、雇用社会は、能力主義人事管理の導入に見られるように大きく変貌しています。労働法は、労働問題を平和的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではいられません。</p> <p>労働者に降りかかるさまざまな事象は、最近では雇用関係法領域において顕著です。たとえば、労働基準法改正（近くでは労働時間や年次有給休暇など）、男女雇用平等、労働契約法などです。</p> <p>本講義では雇用関係法領域を中心に、基礎的知識を身につけることを到達目標にしています。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>下記事項について、基礎的知識を学びつつ、現代的課題に言及します。</p> <p>1回目の授業のときにプリントを配布してガイダンスをします。</p> <p>以下に、年間スケジュールを掲げます。ただし、重要な裁判などホット・イシューが出されればそれを中心にしたテーマに急きょ変更することもあります。また、授業中の理解の様子から変わることもあります。また、調整の回も設けました。したがって、以下のスケジュールは目安です。</p> <p>第1回 ガイダンスー労働法分野と授業で扱う分野 第2回 労働法の対象である雇用社会と労働運動と 第3回 労働法の基礎的考え方 第4回 労働関係の主人公ー労働者、使用者、労働組合 第5回 労働契約と労働契約法 第6回 労働条件の最低基準の法定① 労働の自主性の確保 第7回 労働条件の最低基準の法定② 最低基準の定立の意味 第8回 調整 第9回 雇用における平等① 労基法3条 第10回 雇用における平等② 男女賃金差別の禁止 第11回 雇用における平等③ 男女雇用機会均等法 第12回 労働条件の集团的決定① 労働契約と就業規則 第13回 労働条件の集团的決定② 就業規則について 第14回 労働条件の集团的決定③ 労働組合の役割 第15回 労働条件の集团的決定④ 団体交渉・労働協約 第16回 雇用の入口① 採用 第17回 雇用の入口② 内定制度・試用制度 第18回 人事異動 配転 第19回 雇用の終了① 個別労働関係の終了 第20回 雇用の終了② 法による解雇規制 第21回 雇用の終了③ 解雇権濫用 第22回 調整 第23回 賃金・賞与・退職金① 賃金支払いの原則など 第24回 賃金・賞与・退職金② 賞与・退職金 第25回 労働時間① 労働時間に対する規制 第26回 労働時間② 変形制度など 第27回 労働時間③ 労働時間の例外 第28回 年次有給休暇① 年休権の法的性質 第29回 年次有給休暇② 時季指定・時季変更、計画年休 第30回 調整</p>
----------	--

準備学習	テキストを読むこと（少なくとも該当単元のところは読んで授業に臨んでください）。新聞を読むことなどです。現代雇用問題に関する新書なども読んでください。
------	--

履修上の留意点	出席は義務。欠席はマイナス。私語はNo、携帯電話はOff、内職はNo。そして無断で席を立つこともNo。いわゆる授業のマナーは守ってください。配布プリントは取り上げる項目を列挙したレジュメや資料です。教科書は予習や復習をする上で欠かせないアイテムでしょう。憲法、民法、社会保障法のほか、社会政策は特に履修してほしい科目です。
---------	---

成績評価の方法	成績は、学年末試験がメインで、受験しなければ評価が付きません。レポートや中間試験そして出欠も考慮して評価します。追試験は実施します。
---------	--

教科書／テキスト	教科書は、学修する上での必要アイテムです。学修に臨む自己の熱意によって各自で決めてください。よくわからないという方には、金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法Ⅰ[第2版]』（エイデル研究所 2010）を参考までに。もとより、これ以外でもかまいませんが、予備校のテキストはその目的とするところが異なりますので、認めません。
----------	---

参考書	概説書・参考書をいくつか、第1回目の授業において紹介します。六法は最新のもの（法律改正や制定があるので特に注意）。そして、労基法施行規則の載っているものを用意してください。詳しくは、第1回授業で配布するプリントで。
-----	---

その他	各々の事項について法的にはどのように考えていくのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら授業を進めます。
-----	--

履修コード	325101
科目名	労働法
担当者名	藤本 茂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>今日、わが国の労働関係(雇用社会)は、少子高齢社会・人口減社会やグローバル化に伴うものでもない、リストラ、成果主義人事管理の導入・見直しなどがなされるなど大きく変貌しています。</p> <p>労働法は、労働問題を平和的に(つまりは法的に)解決する妥当な考え方を学ぶ法領域です。雇用社会の変動に無関係ではられません。</p> <p>この時期、労働者に降りかかるさまざまな事象は、労働基準法改正、労働契約法や男女雇用平等などの雇用関係法領域において、顕著です。</p> <p>本講義ではこの雇用関係法領域を中心に授業を進め、その基礎的知識を身につけることを目標とします。到達目標は、基礎的知識の習得とリーガルマインドを身につけることです。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>下記事項について、基礎的知識を学びつつ、現代的課題に言及します。</p> <p>1 回目の授業のときにプリントを配布してガイダンスをします。</p> <p>以下に、年間スケジュールを掲げます。ただし、重要な裁判などホット・ 이슈ーが出されればそれを中心としたテーマに急きよ変更することもあります。また、授業中の理解の様子によって変わることもあります。また、調整の回も設けました。したがって、以下のスケジュールは目安です。</p> <p>第1回 ガイダンスー労働法分野と授業で扱う分野 第2回 雇用社会と労働組合と労働法と 第3回 労働法の基礎的考え方 第4回 労働関係の主人公ー労働者、使用者、労働組合 第5回 労働契約と労働契約法 第6回 労働条件の最低基準の法定① 労働の自主性の確保 第7回 労働条件の最低基準の法定② 最低基準の定立の意味 第8回 調整 第9回 雇用における平等① 労基法3条 第10回 雇用における平等② 男女賃金差別の禁止 第11回 雇用における平等③ 男女雇用機会均等法 第12回 労働条件の集団的決定① 労働契約と就業規則 第13回 労働条件の集団的決定② 就業規則について 第14回 労働条件の集団的決定③ 労働組合の役割 第15回 労働条件の集団的決定④ 団体交渉・労働協約 第16回 雇用の入口① 採用 第17回 雇用の入口② 内定制度・試用制度 第18回 人事異動 配転 第19回 雇用の終了① 個別労働関係の終了 第20回 雇用の終了② 法による解雇規制 第21回 雇用の終了③ 解雇権濫用 第22回 調整 第23回 賃金・賞与・退職金① 賃金支払いの原則など 第24回 賃金・賞与・退職金② 賞与・退職金 第25回 労働時間① 労働時間に対する規制 第26回 労働時間② 変形制度など 第27回 労働時間③ 労働時間の例外 第28回 年次有給休暇① 年休権の法的性質 第29回 年次有給休暇② 時季指定・時季変更、計画年休 第30回 調整</p>
----------	---

準備学習	<p>準備学習といえば、次のことをお願いするだけです。教科書を読んで授業に臨むということです。</p> <p>普段から雇用社会の動向などを新聞や雑誌を読んでみておいてください。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>出席を心がけてください。私語はNo、携帯電話はOff、内職はNo、そして無断で席を立つことはNo。いわゆる授業のマナーは守ってください。</p> <p>適宜、項目を列挙したレジュメや資料を配りますが、それでは十分ではありません。教科書を使って有意義な勉強を心がけてください。</p> <p>憲法、民法、社会保障法、社会政策は、近接科目であるので、ぜひ履修してください。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>成績は、学年末試験がメインで、受験しなければ評価はつきません。前期試験、レポートや出席を含めて、総合的に評価します。</p> <p>追試験は実施します。</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法【第2版】』(エイデル研究所 2010)。これ以外でもかまいませんが、予備校のテキストは授業の目的が違いますので、認めません。</p>
----------	--

参考書	<p>第1回目の授業で、プリントで紹介します。</p> <p>六法は、最新のもの(法律改正や制定があるので特に)。そして労基法施行規則の載っているものを用意してください。詳しくは、これも1回目の授業で話します。</p>
-----	---

その他	<p>皆さんが各々の事項について法的にはどのように考えていくのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら、授業を進めます。</p>
-----	--

履修コード	095201
科目名	ロシア・東欧経済論
担当者名	山縣 弘志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	外国経済研究の課題は、その経済事情に通じることだけではない。むしろ、我々にとっては、日本経済の進路を考える上でのヒントをそこから引き出すことである。ロシア・東欧経済を研究する場合、異文化に基づく人々の行動様式の違い、経済体制の違いの基礎となる思想、体制転換によって表面化した経済と暮らしとのかわり、これらのことが特に関心と呼ぶテーマになるだろう。ロシアとソ連の歴史は常に価値判断を伴って語られてきた。我々に知らず知らずのうちに植えつけられた「好き嫌い」が評価の根底にあるのである。そのため、多くの場合、証明されるべき結論が前提とされて議論されてきた。こうして、議論はすれ違わざるを得なかった。このような不毛を終わらせるためには、事実を前提として考えなければならない。事実はいはば諸君の常識を覆すはずである。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>講義では主としてロシアを取り上げる。</p> <p>前期</p> <p>1 ペレストロイカと体制転換 *経済改革と停滞の時代―第1―3回 *ペレストロイカとその挫折―第4―5回 *体制転換―第6回</p> <p>2 ロシア・東欧経済の現状 *市場経済化のショック療法―第7―8回 *金融危機―第9回 *ブーチンの時代以降―第10―12回</p> <p>3 BRICsの発展と世界的危機の時代―第13―15回</p> <p>後期</p> <p>4 社会主義とロシア革命 *マルクスの社会主義論―第16―18回 *ロシア革命とレーニン時代―第19―20回</p> <p>5 ソ連型社会主義の確立と行き詰まり *1930年代とスターリン―第21―22回 *ソ連型社会主義の特質―第23―25回 *計画経済のフィクション―第26―27回</p> <p>6 ロシア経済の独自性 *帝政ロシアの資本主義発展と現代ロシア―第28―29回 *ロシアと日本―第30回</p>
----------	---

準備学習	経済史に関連する授業を受講しておくこと。
履修上の留意点	常に現状に留意し、そこから問題意識を喚起していきたいので、必ずしも計画通りに進まない可能性がある。配布資料は最小限にとどめ、授業中にノートをとることを推奨する。ウェブ時代にはそれが学習能力を高めるために必要と考えるためである。耳で聞き、目で見て考えながらノートを取ってほしい。
成績評価の方法	成績評価は、レポート<9月提出、40点配点>と定期試験<自筆ノート持ち込み可、60点配点>によって行う。ダウンロードしただけのレポートは認めない。模範答案のまる写しは認めない。学習の成果を表現することを期待する。
教科書/テキスト	教科書は存在しない。
参考書	参考書は適宜指示する。
その他	板書には注意を払うが、時間の関係で読みづらくなることもありうるので、許していただきたい。聞きながら書く習慣を身につけることで対応できるものと期待する。

履修コード	310301
科目名	ロシア・東欧経済論
担当者名	山縣 弘志

授業概要/
到達目標 (ねらい)

外国経済研究の課題は、その経済事情に通じることだけではない。むしろ、我々にとっては、日本経済の進路を考える上でのヒントをそこから引き出すことである。ロシア・東欧経済を研究する場合、異文化に基づく人々の行動様式の違い、経済体制の違いの基礎となる思想、体制転換によって表面化した経済と人々の生活とのかかわり、これらのことが特に関心と呼ぶテーマになるだろう。ロシアとソ連の歴史は常に価値判断を伴って語られてきた。我々に知らず知らずのうちに植え付けられた「好き嫌い」が評価の根底にあるのである。そのため、多くの場合、証明されるべき結論が前提とされて議論されてきた。こうして、議論はすれ違わざるを得なかった。このような不毛を終わらせるためには、事実を前提として考えなければならない。事実はいよいよ諸君の常識を覆すはずである。

授業スケジュール

講義では主としてロシアを取り上げる。

前期

- 1 ベレストロイカと体制転換
 - * 経済改革と停滞の時代—第 1—3 回
 - * ベレストロイカとその挫折—第 4—5 回
 - * 体制転換—第 6 回
- 2 ロシア・東欧経済の現状
 - * 市場経済化のショック療法—第 7—8 回
 - * 金融危機—第 9 回
 - * ブーチンの時代以降—第 10—12 回
- 3 BRICsの発展と世界—第 13—15 回

後期

- 4 社会主義論とロシア革命
 - * マルクスの社会主義論—第 16—18 回
 - * ロシア革命とレーニン時代—第 19—20 回
- 5 ソ連型社会主義の確立と行き詰まり
 - * 1930年代とスターリン—第 21—22 回
 - * ソ連型社会主義の特質—第 23—25 回
 - * 計画経済のフィクション—第 26—27 回
- 6 ロシア経済の独自性
 - * 帝政ロシアの資本主義発展—第 28—29 回
 - * ロシアと日本—第 30 回

準備学習

経済史関連の授業を受講しておくこと。

履修上の留意点

常に現状に留意しそこから問題意識を喚起していきたいので、必ずしも授業計画通りに進まない可能性がある。配布資料は必要最小限にとどめ、授業中にノートをとることを推奨する。ウェブ時代にはそれが学習能力を高めるために必要と考えるためである。耳で聞き、目で見て考えながら、ノートを取ってほしい。

成績評価の方法

成績評価はレポート<9月提出、40点配点>と定期試験<自筆ノート持込み可、60点配点>によって行う。ダウンロードしただけのレポートは認めない。模範答案の丸写しは認めない。オリジナリティを評価する。

教科書/テキスト

教科書は存在しない。

参考書

参考書は適宜指示する。

その他

板書には注意を払うが、時間の関係で読みづらくなることもありうるので、許していただきたい。聞きながら書く習慣を身につけることで対応できるものと期待する。

専 門 教 育 科 目

2. 法 学 部

- (1) 法律学科フレックスA
法律学科フレックスB

履修コード	118401
科目名	英米法
担当者名	北野 かほる

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	法学部とりわけ法律学科で履修する現在の日本法とはおおきくしくみが異なる英米法について、この差異を感じ取れる感覚を育てることをひとつの目標にしながら、英米法の特徴を理解することを通して、間接的に、現在の日本法の特徴を理解することも目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	第1～5回 第1章 法系 第6～18回 第2章 英米法の特徴 第19～25回 第3章 判例法の理論 第26～30回 第4章 裁判所制度
----------	--

*時間配分は都合により変更することがあります。

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	<p>英米法の本質を理解するためには、アメリカ法ではなくイギリス法を理解することが重要になります。自習する場合、ビジネスマン向けのアメリカ法解説書は不適切ですので、十分注意してください。この講義は原理を教えることに主眼をおいていますが、最近多く見られる解説書は、原理の理解ではなく、その応用とりわけビジネス現場での対応に力点を置いています。これらのは、執筆の趣旨が講義とは異なるので、難しくても、講義の原理原則解説を理解するよう努力してください。</p> <p>講義中の私語・騒音は厳しく規制します。</p> <p>受講生の人数によっては、抜き打ち的に出席をとることがあります。ただし、毎回の出席点を成績に加味することはありません。毎回出席していないと、抜き打ちの出席チェックにも対応できないことになりますから注意してください。</p> <p>休んだ時は早めに講義ノートを確認するよう努力してください。出席して自分でノートをとることが、講義内容を記憶にとどめる最良の方法ですから、講義ノートのウェブ公開はしません。</p>
---------	---

成績評価の方法	論文式筆記試験 (後期試験期間・年1回)
---------	----------------------

教科書/テキスト	特に指定しません。
----------	-----------

参考書	英米法総論 上 (田中英夫、東大出版会)、 英米法の歴史家たち (ホウルズワース、創文社)
-----	--

その他	試験準備には講義ノートが最も有効です。各自注意して出席し、ノートをとること。
-----	--

履修コード	131901 131902
科目名	演習I 演習II
担当者名	柳瀬 昇

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習は、日本国憲法の解釈論を学ぶことを通じて、法的なものの考え方を養うことを目的とする。 憲法は、国家統治の組織・作用の基本法である。特に、今日では、自由主義に基づき人権保障のために権力を抑制することを定めた基本法をいう。この演習では、日本国憲法の解釈論上の基本概念について、徹底的な理解を図る。そのうえで、各自の関心に応じて選択した憲法学の現代的課題について、担当者の指導の下、研究を行う。 憲法は、国や地方公共団体等の公務員試験の受験科目であるので、公務員を志望する学生は、憲法を学習する際のペースメーカーとして、この演習を活用することができるであろう。もちろん、研究機関や民間企業等に就職する学生にとっても、この演習では、憲法の解釈論を通じて、人間や社会についての法学的な分析を行うので、さまざまなことを学び、総合的な人間力を高めることができるだろう。いずれにせよ、意欲的な学生の主体的かつ能動的な参加を期待している。
---------------------	--

授業スケジュール	3年次には、日本国憲法の解釈論について、ソクラティック・メソッドにより、徹底的な理解を求める。 前期は、憲法解釈論上の基本概念について、担当者の司会の下、全員で議論を行う。夏合宿では、憲法学の現代的課題を1つ取り上げ、議論を行う(全員参加)。後期は、憲法判例を素材として、憲法解釈論上の諸問題について、担当者の司会の下、全員で議論を行う。 4年次には、各自の関心に応じて選択した憲法学の現代的課題について、卒業論文等の制作に取り組むものとする。 前期は、公務員試験の受験、民間企業への就職、法科大学院等への進学など、各自の進路に関する活動に取り組んでもらうが、それと並行して個別指導を行う。7月半ばまでには、卒業研究で取り組むテーマを決め、後期は、論文等の構想を逐次報告する。12月第1週に論文を提出する。
----------	--

準備学習	3年次の前期は、あらかじめ示した論点に沿って、後期は、配布された判例を踏まえて、受講者各自による綿密な予習を行ったうえで、演習に臨みたい。4年次は、卒業研究に専心するほか、可能な限り演習に出席されたい。
------	---

履修上の留意点	演習Iと演習IIは継続して履修することを原則とする。 基本的には、毎回、演習に参加を求める。この演習に関する活動(合宿等も含む)を欠席する場合には、正当な理由を示して、担当者に事前に申し出られたい。
---------	--

成績評価の方法	演習への参加状況に基づき、総合的に評価する。
---------	------------------------

教科書/テキスト	特に指定しない。 どの出版社のものでもかまわないので、六法(法令集)は、必ず携行されたい。なお、六法については、第1回の演習で説明する。
----------	---

参考書	第1回の演習で説明する。
-----	--------------

その他	授業担当者は平成22年度に赴任し、このゼミも募集を始めたばかりである。学期はじめや終わりに懇親会を行ったり、夏などに合宿を行うなど、さまざまな行事を予定している。ゼミ生は、自ら積極的にゼミの活動を企画し、参加してほしい。 この演習を通じて、学生には、生涯にわたって付き合い合えるような仲間づくりをしてほしいと担当者は考えている。
-----	---

履修コード	132001
科目名	演習I
担当者名	田丸 大

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	行政の活動や政策は、世の中の我々の生活とも密接に関わっている。そういった行政活動について、ディベートや研究発表を行ってもらう。なるべくグループでの作業を多くし、チームワークを重視する予定である。過去に扱ったテーマは、サマータイムの導入の是非、消費税の引き上げの是非、成人年齢の引き下げの是非、駅前の放置自転車対策などである。とくにディベートはルールに従って、大量の準備を行う必要があり、また自分の希望しないテーマや立場を取らざるを得ないことが頻繁にあるが、そのような時にこそ、全力で準備して、自らの力を高めて欲しい。
---------------------	--

授業スケジュール	年間の演習を5回ずつ程度に分けて、ディベートや研究発表を繰り返していきたい。例えば、夏休み前にディベートを2回くらい、研究発表1回くらいできれば十分と考えている。
----------	---

準備学習	日頃から、新聞等を通して、世の中のニュースを入手し、それぞれのニュースに対して、肯定的な立場、否定的な立場ともあり得るのだという点を把握するように努めてください。
------	---

履修上の留意点	秋に開催される法学部のゼミ対抗のディベート大会に出場してもらう予定です。そのため、8月から10月は、平日の夕方や夜、休日でも自主的に集まり準備を行ってまいります。予備校とのダブルスクール、部活動との両立、アルバイト等は、この時期にはかなり難しくなります。また、ディベート大会で他のゼミと対戦するとなると、テーマを調整する必要があるため、自分たちの希望するテーマにならないことが通常です。その場合でも、真剣に調べて議論を構築しようとする根気が必要です。実際にディベートがどのようなものであるかを事前に確認するために、是非、ディベート大会またはマスコミ研究所のディベート大会などを見てください(法律学科の学生には強く勧めます)
---------	---

成績評価の方法	教員は、ディベートの資料を配りDVDを見せて多少の解説を加えたりするだけで、細かいことに関してはほとんど指示を出さず、「いつまでに何を準備してくれ」程度のことを、たまにしか言いません。
---------	--

教科書/テキスト	したがって、ディベートやグループ研究を行う中で、グループごとに時間管理を行い、演習以外の時間に自主的に学生が集まって作業することが非常に多くなります。そのような時間外の活動についても、できるだけ出席点に反映するようにします。
----------	--

参考書	講義の場合と比べて、教員の指導が少なく物足りないと感じるかもしれませんが、このように自分たちで作業を行いチームで成果を出すことを通じて、結果的に、大学生の間に、アルバイトやサークル以外に勉強つなごりの友人も作り、グループでの作業を通じてチームで物事を達成する充実感を味わってほしいというのが、担当教員の願いです。
-----	--

成績評価の方法	コンパ・合宿を考えていますが、正規の授業の理由を除いては、全員参加とします(出席点として考慮します。)
---------	---

教科書/テキスト	OB会の準備、2年の基礎演習のお手伝いなどをお願いする予定です。
----------	----------------------------------

参考書	平常点による。 特に使用しない。
-----	---------------------

履修コード	132101 132102
科目名	演習II 演習I
担当者名	小堀 訓男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	国家の行動基準について研究する。具体的にはナショナリズムと階級がどのような関係を展開してその国家の行動を決定しているのかをいくつかのケーススタディーを通して考察する。
---------------------	---

授業スケジュール	①アメリカ地域研究班 ②東南アジア地域研究班 ③中東地域研究班 ④ヨーロッパ地域研究班 ⑤国際協力研究班 ⑥国際政治理論研究班 受講生はいつかの研究班に所属し1年間の研究スケジュールをもとに共同研究をおこなう。研究成果は各研究班に割り当てられた年間5回の発表の場で報告し、全員で討論する。
----------	---

準備学習	自分の興味ある研究テーマを決めて、単なる事象の研究だけでなくその事象をひき起こす根底にあるナショナリズムや階級について考察するため、民族・階級・政治権力などについての基礎的な予習を必要とする。
------	--

履修上の留意点	各研究班は週に1度か2度の勉強会を予定するので参加する必要がある。
---------	-----------------------------------

成績評価の方法	4年生は主に卒業論文成果と論文作成過程での取り組み方等を指導しながら評価する。
---------	---

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	年度初めに各研究班に資料の収集の仕方や参考文献を紹介する。
-----	-------------------------------

履修コード	132401 132402
科目名	演習I 演習II
担当者名	三竹 直哉
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	比較政治学分野の専門文献の読解を通じて、比較政治学関連のトピックについて理解を深め、可能であれば自分たちで比較政治学的研究をやってみることを目標とする演習です。最新の情報はYeStudyで確認してください。
授業スケジュール	前期は比較政治学分野の専門文献を読み、後期は実際に比較政治学的研究をグループでやってみる作業をします。 新聞を読むことは政治学科における勉強の基本ですので、必ず五大紙のいずれかを読み、サブゼミ等で毎週記事を材料に議論します。
準備学習	毎回各自で取り組むべき課題が出ます。
履修上の留意点	応募する前に《必ず》メールで相談してください。向いていないゼミに応募してしまうと、ゼミを履修するチャンスを失ってしまう可能性があります。 4年次にもしっかり勉強し、専門性を高めたい人のためのゼミです。4年次は出席しなくてもよいなどという方針はとっておりません。その他にも条件がありますので、応募前に相談してください。法律学科から応募する方は特に注意が必要です。必ず応募前に相談してください。 詳しい案内は、YeStudyに掲載してありますので、そちらを参照してください。また、在籍中のゼミ生やゼミ卒業生に直接話を聞きたければ紹介します。見学も歓迎します。
成績評価の方法	学期末に行う自己評価プレゼンにより、100満点で自己評価します。
教科書／テキスト	その都度、指示します。(買わなければいけないものは多くありません。)
参考書	
その他	mitake@komazawa-u.ac.jp 最新の情報はYeStudyで確認してください。

履修コード	132701
科目名	演習I
担当者名	早川 純貴
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	当演習の基本目的は現代日本政治の特質を理解し、その問題点を探り出すこと、あるいはそれらの問題をいかに克服できるかを考えることである。特に当演習では研究対象を政策形成・施行過程に置く。具体的には、いくつかの政策が成立する背景と過程を明らかにしつつ、それらがいかに施行されたか、その過程でどんな問題が生じたのか、あるいはそれらの政策が日本の経済や社会、国際関係にどのような意味・影響を持ったのかを考察する。
授業スケジュール	当ゼミは前期が統一テーマによるグループ研究であり、後期は学生自身が選択したテーマで個人発表を行い、あわせてゼミ論を執筆してもらう。平成24年度の前期・統一テーマは「事件はどのような政治的対応がなされたか」である。ある事件(社会的事件、政治問題、経済問題、外交問題など)が生じ、それに政治的対応がなされた場合、それはどんな対応だったのか、その対応は妥当であったか、否か。他に選択肢はなかったのか。対応に当たった政治家、官僚は何を考えたのか。あるいは、その対応がその後の社会や政治、経済にどう影響したのか。こうした問題を解き明かすことで日本(中央や地方)の政策決定の本質に迫ることができるであろう。
準備学習	報告者はレジュメを作成し、30分の報告をしなければならない。また質疑応答では、どんな質問にも答えられるよう、事前に十分な準備をする必要がある。報告を聞く側も様々な角度から質問できるよう、報告テーマについて、新聞やインターネットなどで概要を調べておくことが望ましい。
履修上の留意点	当演習は法律学科の学生にも開講する。政治学科の学生はもとより、政策の形成・執行に関心のある法律学科学生諸君の参加を大いに歓迎する。また当演習は春と夏に合宿を行うが、そこではティベートやパネル・ディスカッションなど、通常の演習ではあまりできないことを企画している。
成績評価の方法	個人々の発表・報告の充実度、レポート・ゼミ論の内容などを総合的に判断して評価する。
教科書／テキスト	教科書は使用しない。参考文献は演習の過程で随時紹介する。
参考書	

履修コード	132801	132802
科目名	演習Ⅰ	演習Ⅱ
担当者名	大山	礼子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習は、学生が主体的にテーマを決めて、政治学の関連分野についての研究を深めていく場です。 本の読み方、資料の扱い方など、基本的な技術を身につけ、論文執筆をめざします。
授業スケジュール	(1～15) 全員で政治学関係の本を読み、内容について討論します。 (16～30) 文献の講読と並行して、各自のテーマを研究します。演習Ⅰでは3000～5000字程度のレポート、演習Ⅱでは1万～2万字程度の卒業論文を執筆します。 なお、夏休みには御岳山での合宿を予定しています。
準備学習	演習を通じてどのようなことを学びたいのか、各自の目標を設定してください。
履修上の留意点	演習は受講する学生が中心となってつくっていくものです。受動的な態度では出席する意味がありませんので、積極的な参加を求めます。 こちらからの連絡や学生同士の意見交換の場として、YeStudyを利用します。
成績評価の方法	平常点によります。欠席、遅刻の多い者は成績評価の対象としないので注意してください。
教科書／テキスト	全員で読む本や論文は、参加者と話し合っ決定します。
参考書	その都度紹介します。
その他	授業開始時にYeStudyの利用方法について案内します。合宿等、ゼミのイベント時は禁煙です。

履修コード	133101	133102
科目名	演習Ⅰ	演習Ⅱ
担当者名	塩入	みほも

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	行政法上の諸問題をとり上げて、演習を行います。他から教授されるだけの受動的な学問ではなく、判例及び学説を自分なりに分析・検討する作業を通じて能動的に研究し、報告し、且つ他の者と法律学的討論を行えるための能力を鍛錬することを目的とします。
授業スケジュール	当演習は、学生の主体性を重視しているため、毎年度、ゼミの運営方針・内容はゼミ生と話し合っ決めていきます。但し、取り扱うテーマは、基本的には行政法総則一般、行政訴訟法、行政手続法、情報公開法などの各分野からの選択になります。
準備学習	ディベートやディスカッションはもとより、報告形式であっても質疑応答等全員の発言が求められる全員参加型の授業であるため、予定された論題について各自が毎回必ず予習しておくことが必要です。
履修上の留意点	国家・地方公務員、警察官・消防士、行政書士等の国家試験受験者には特に有意義であると思われませんが、それ以外の者でももちろん履修可能です。
成績評価の方法	平常点（出席・報告・発言等）により成績評価を行います。
教科書／テキスト	特定の教科書等はいりません。各自が毎回取り扱うテーマに応じて必要な資料を収集・調査します。
参考書	初回授業の際に紹介します。

履修コード	133401 133402
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	三船 恵美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代の国際関係について自分自身の視角を形成し、それを報告しながら討論することを学ぶのが、本ゼミの目的です。複数の学生全員が同じ考え方をすることはあり得ません。異なる考え方の学生が集まり、異なる価値観に対して排他的になることなく、しかも単なる「仲良し関係」では終わらない知的緊張関係の中で、対立するところでは対立し、評価できるところは評価しあうことを学びましょう。自分の意見を単純に主張するだけではゼミに参加する意義がありません。議論は言い争うことと本質的に異質なものです。議論することで自分の意見を主張したり異なる意見を受け入れ、自分の考え方を鍛えるためにゼミは存在します。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回目のゼミまでに、各自がレポート/論文を仕上げしておく。 第1回 前期スケジュール作成 第2回 4年生のプレゼン 第3～7回 3年生の個人報告10分+質疑応答10分+講評10分×3組 第8～12回 3年生の再報告10分+討論15分+講評5分×3組 第13～14回 再々報告 第15回 後期ゼミのスケジュール作成 第16～21回 4年生の個人or・グループ報告 15分報告+15分討論+5分講評 (小論orレポートを夏休み明けまでにメールで送信しておく) 第22～23回 4年生再報告 第24～27回 グループ報告×3組 第28～29回 不十分なグループのみ再報告 第30回 総括
----------	---

準備学習	新聞の国際面を毎日読みましょう。
履修上の留意点	講義と異なり、ゼミは学生が主体になって運営します。緊張感を失わないで、でも、楽しい、笑顔の絶えないゼミを目指しましょう。
成績評価の方法	報告・討論・レジュメの質、議論に対する貢献などの総合評価です。
教科書/テキスト	小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』 講談社現代新書、2009年、720円。
参考書	授業中に適宜紹介します。

履修コード	133501 133502
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	大塚 桂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	政治学における基礎的・原理的研究をおこないます。基礎研究にあたっては、古典的文献の取り組みが不可欠です。政治原理・哲学・国家論に関心のある学生の参加を期待します。
---------------------	---

授業スケジュール	I 政治学の基本文献を輪読する。 II 共通テーマを設定し、共同研究をおこなう (例えば、明治の政治家たち、自由主義の系譜)。 III ゼミ生各自が定めた個人研究の発表とそれに対する指導をおこなう。
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	一定の読書と思索をつみかさねてきた学生の参加を切望します。政治学原論か現代国家論を履修し、私の政治学に対する姿勢を理解してくれる学生さん、いらっしゃい!
成績評価の方法	平常点
教科書/テキスト	教員が準備し提供します。
参考書	参考書として、拙著をあげておきます。図書館等で目を通しておいてください。大塚『フランスの社会連帯主義』(成文堂)、同『ラスキとホップハウス』(勁草書房)、同『多元的国家論の展開』(法律文化社)、同『多元的国家論の周辺』(信山社)、同『近代日本の政治学者群像』(勁草書房)、同『明治国家と岩倉具視』(信山社)、同『明治維新の思想』(成文堂)、同『ヨーロッパ政治理念の展開』(信山社)、『大東亜戦争期の政治学』(成文堂)。

その他	4年次生は就職活動を最優先させます。金銭的負担(OB会・合宿等)、規則、束縛は一切ありません。年1～2回のお食事会を開催しますが、教員がゼミ生をご招待いたします。
-----	---

履修コード	122701 122702
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	中田 英幸

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習の目的は、財産法(民法総則・物権・債権)に関する判例を素材として、民法の解釈を学習することにある。紛争が発生した経緯を理解し、望ましい結論(法的判断)を考えることにより、法の運用を学び、法的思考を養う。
---------------------	--

授業スケジュール	(3年生)前期は、財産法に関する基本判例を演習の素材とする。演習参加者は、初回に報告する判例を選び、報告前にレジュメの配布・参考文献の指定をする。後期は、最近の判例を演習の素材として前期と同じく報告をする。演習の進め方は前期と同様である。なお、報告者は、演習での質疑応答を踏まえたレポートを作成する。 前期・後期ともに、適宜基礎知識の確認を行う。 (4年生)卒業レポートの作成を目標とする。自ら法的課題を見出し、学説・判例などそれに関する資料を集め、検討を加え、自らの結論を導く。演習において卒業レポートの中間報告を行う。 以上の内容は、演習参加者の希望や参加人数によって変更することがある。
----------	---

準備学習	民法総則・物権法・担保物権法・債権総論・債権各論といった財産法科目を勉強しておくこと。
------	---

履修上の留意点	民法に興味を持ち、勉強する意欲があることが大前提である。 必ず毎回出席し、積極的に発言すること。
---------	---

成績評価の方法	報告内容、演習での発言、レポートにより評価する。発言は、結論よりも、結論に至るまでの理由づけや思考過程を重視する。
---------	---

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	演習にて適時指示する。
-----	-------------

履修コード	123401 123402
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	井上 健一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	条文や判例あるいは学説の理解のみならず、紛争解決のために具体的な事実をどのように法律の議論にあてはめるかという観点から、商法判例のうち、特に実際の取引実態が判決・決定の結論に影響を及ぼしている一言い換えれば事実から離れた法律論だけでは勝負がつかないものを選んで報告・議論する。会社法・商行為法・保険法・金融商品取引法を主として取り上げる。いわゆるビジネスローに興味がある学生諸君の参加を希望する。
---------------------	--

授業スケジュール	配布文献の輪読を行う。基本的には事例・判例を中心に1回1文献を読んでいくことになるが、メンバーの興味に従ってさまざまな変更はあり得る。
----------	---

準備学習	民法総則、債権法、会社法に関して復習しておくこと。日経新聞を読んでおくこと。
------	--

履修上の留意点	会社法、商法総則・商行為法、保険・海商法を履修済か、履修中であることが望ましい。最低限、会社法だけは履修済であること。
---------	---

成績評価の方法	出席、報告、議論への参加・貢献によって評価する。出席点は基本的に減点法(欠席・遅刻の都度、点数をマイナスしていく)による。
---------	---

教科書/テキスト	必要に応じてコピーを配布する。
----------	-----------------

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

その他	アフターゼミは必要に応じて行う。合宿等は予定していない。
-----	------------------------------

関連リンク	http://homepage3.nifty.com/inoue-k/
-------	---

履修コード	123501 123502
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	原田 啓一郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本演習では、施設見学やインタビュー調査などを通じて社会保障の実態を体感しながら、社会保障法の各部門の基本的な体系と現状、法解釈上の論点及び立法論上の課題を法律学の視点から検討する。 (到達目標) ゼミでの報告・議論を通じて問題発見能力・法的思考力を養うことを目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	演習Ⅰ(3年次)では、社会保障法の体系的理解を深めるとともに、1年を通じて検討する社会保障に関する法的問題を設定し、ゼミ全体で取り組む。検討の成果は、ゼミ論文集としてまとめる。次いで、演習Ⅱ(4年次)では、受講生各自の問題関心に沿ってゼミ論文を執筆し、ゼミ論文報告会を行うとともに、ゼミ論文集としてまとめる。
----------	--

準備学習	・報告者以外の参加者にも積極的に議論に参加してもらうため、関連判例・文献を熟読し、準備をしていくこと。
------	---

履修上の留意点	「社会保障法」及び「社会政策」を必ず受講すること。
---------	---------------------------

成績評価の方法	平常点による。
---------	---------

教科書/テキスト	労働調査会出版局(編)『社会保障法令便覧 2012』(労働調査会、2012年)
----------	---

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

その他	ゼミ合宿(夏期・冬期)やコンパ、OB・OG会への参加を通じてゼミ生間の交流を深め、社会保障に大切な支えあいの絆を築いてもらうことも大切にしている。
-----	---

履修コード	123601 123602
科目名	演習I 演習II
担当者名	藤本 茂

授業概要/到達目標 (ねらい)
 わが国雇用社会は、経済構造の変化に伴う雇用システムの変容、少子高齢社会の到来、労働者意識の多様化などにより大きく変わりつつあります。最近の労働基準法改正、労働契約法制定・施行など多くみられるのもその表われです。
 演習は、この現代労働法の対象である雇用社会を知り、今までの労働法理の基礎を自ら学びとる場です。
 到達目標は、自らの関心事を自ら調べ読み学び理解を深く理解したところを発表し、議論を通じて理解してもらうことです。

授業スケジュール
 本演習では、テーマを各自受講生が関心のあるところから、自ら選択し勉強し、理解を深め、発表し、議論する方法をとっています。特に発表し議論するところに重点を置いています。ということは、その準備に時間をかけなくてはなりません。次の授業時間までにどのくらい時間を割いたかにより成果はまったく違ってきます。
 夏季には研究合宿を行いません。
 以下、大まかですが、スケジュールを掲げます。
 第1回 ガイダンス 演習の進め方、新聞等による労働問題の現状を知る
 第2回 判例を素材にしたテーマ報告の仕方の説明
 第3回 グループ編成と各グループのテーマ決定
 第4回 4年生による報告の例 報告準備の仕方、レジュメの作成を知る
 第5回 第1グループによる報告① 問題意識、素材にした判例の事実の概要と判旨
 第6回 第1グループによる報告② 法的論点を中心にした報告、質疑・討論
 第7回 第1グループの報告・討論をもとにして準備等の検証
 第8回以降、第5回、第6回のような内容で順次、報告・質疑・討論を第15回まで実施
 夏季研究合宿 経験的に、合宿テーマの報告準備・グループ内での準備と討論そして合宿での報告、質疑・討論が演習とはどういうものかを各自が理解するいい機会となっているようです。
 後期(第16回～第30回) 前期・夏季研究合宿での経験を踏まえて、前期のような報告を実施します。

準備学習
 4月授業開始前に、3回ほど課題を提出してもらいます。通常授業時の準備学習は、予めどのようなテーマの報告がなされるかはみんな知っていることなので、ここに書くまでもないことですが、報告者以外の者は、当該テーマの予習を判例百選や教科書を読んで、質問事項を用意しておくことです。報告者が準備をしてもらうことは言うまでもありません。

履修上の留意点
 演習のいいところは、大いに勉強し、恥をかくところにあります。出席は大前提。評価はそのあと。
 ゼミ運営や懇親会にも積極的に関わることが大切だと考えています。
 講義科目として、労働法はもとよりのこと、憲法、民法総則、債権総論・各論、社会保障法、社会政策は、ぜひとも、履修してください。

成績評価の方法
 出席、積極的発言、ゼミ運営への積極的参加など。平常時の積極的な姿勢で評価します。追試はありません。

教科書/テキスト
 授業は調べてきたところを報告するのですから、講義の時のテキストはありません。以下に書いてあるのは、あくまで、自分(たち)が勉強するテーマの周辺・基礎の知識を得るための概説書と心得てください。
 金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法[第2版]』(エイデル研究所 2010)
 労働判例百選
 労働法の争点
 労働法の対象である雇用社会つまりは人事管理や雇用管理を知ることが労働法を学ぶ前提です。
 また、労働法の発展深化に大きな影響を与えてきた労働運動や労働組合の歴史を知ることが労働法や妥当な解釈を考える上で欠かせません。

参考書
 必要に応じて、〈調べ方〉を教えます。参考書というより法律雑誌の論文等が重要になります。自分で探すことが勉強の第一歩と思っています。

履修コード	123801 123802
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	鶴井 俊吉
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習は、金融取引において重要な役割を担う担保制度に関する問題を検討する。
授業スケジュール	本年度は、担保制度を理解するうえで必要な財産法の基礎的な問題を扱う。その方法は具体的な事案を解決するにあたって、今まで学んできた民法の基本的な原理・原則をどのように活用し、法律構成として妥当な結論に導くかという、問題把握の仕方を重視する。単なる知識を詰め込むというゼミではなく、柔軟な物の考え方のできる頭の訓練をしたい。
準備学習	事例問題を中心に、質疑応答という形式で進めるので、判例・学説等事前の下調べを丁寧にする必要がある。
履修上の留意点	各自がテーマを設定し、個別報告を行い、それに対する質疑という形式で進めるので、積極的に討論に参加できる意欲ある学生を希望する。
成績評価の方法	課題に対する報告内容とゼミでの平常点で総合評価する。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	123901 123902
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	金子 昇平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習においては、行政上の諸制度、行政法規の仕組み及び複雑多様な法現象を広範囲にとりあげ、現代のあるべき行政法理論について理解を深めていきたい。
---------------------	--

授業スケジュール	ゼミ生の関心のあるテーマについて、判例研究及び、学術論文の書評を行い、参加者全員と共に、議論をつくりたいと思っている。 演習の内容については、例えば、環境の問題、教育の問題、公務員の問題、地方自治の問題、租税の問題、医療の問題、高齢者の問題、福祉の問題等である。
----------	--

- ①環境の問題
東京大気汚染事件、熊本水俣病事件、田子の浦ヘドロ事件、大阪空港事件、名古屋新幹線事件、横田基地・厚木基地事件、国道43号線事件、武蔵野マンション事件、国立マンション事件
- ②教育の問題
学問の自由と学生の自活、ポポロ事件、教育を受ける権利と教育権、私立大学における学生の思想、表現の自由、校則の問題、いじめ事件、学生処分と教育的裁量権、学校事件
- ③公務員の問題
公務員関係の法的性質、公務員における不利益処分と救済、職員の措置要求権、職員の財産上の権利、安全配慮義務、公務傷病等に対する補償を受ける権利、服務・職務命令と服従義務、職務上の秘密の意義、公務員の労働基本権
- ④地方自治の問題
地方公共団体の情報公開・直接請求、住民投票、青少年保護育成条例、公安条例、要綱による開発負担金、公営住宅の使用関係、議会と政務調査費、議員の研修旅行、教育委員会の公開原則、住民監査請求、住民訴訟、国民健康保険
- ⑤租税の問題
租税法律主義の意義、サラリーマン税金訴訟、租税回避行為の否認、所得控除の意義、固定資産税訴訟、消費税、輸入禁止措置と検閲、租税訴訟における文書の提出の申立て
- ⑥医療の問題
診療記録閲覧請求、予防接種事件、ハンセン病事件、健康食品と医薬品の意義
- ⑦高齢者の問題
高齢者虐待防止法、高齢者の在宅介護、特別養護老人ホーム、老人保健施設
- ⑧福祉の問題
生存権と生活保護基準、福祉法にかかる問題

年二回、七月、二月にゼミ合宿を行い、研究の成果を発表し、討論を行う。
年二回、公的施設の見学会を行う。

準備学習	毎回、事前にテーマに沿った課題を学習しておくこと。
履修上の留意点	ゼミ生は、あらかじめ該当する判例、法令等を読みこなして欲しい。六法を持参すること。判例、論文、法律を知ることだけではなく、現実の社会の実態についても、調査し、国・地方公共団体に向いて、担当者と面会し、取材してもらいたい。
成績評価の方法	出席（ゼミ、見学会、合宿等）により評価する。
教科書/テキスト	適宜指示する。
参考書	塩野宏他編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』[第五版]（有斐閣）
その他	発表者は、レヂュメを作成し、論点及び、自分の意見を発表する。全員が、議論に参加出来ることを望む。

履修コード	124301 124302
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	間瀬 清史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習は、参加者が民事訴訟法の講義で修得した基礎的知識の幅を広げ且つその理解度をより一層深めることを目的とします。民事訴訟理論の緻密さとダイナミックさとを体得してもらいたいと考えています。
---------------------	---

授業スケジュール	民事訴訟法に関する重要判例の中から毎回1～2を選んで、報告者による報告と参加者全員での討論を行います。検討の対象とされる判例は、リーディングケースとなった古典的な判例から新聞報道されたばかりの最新判例にまで及ぶこととなりますが、各報告者の希望を尊重したうえで決定されます。また、法廷見学または各種施設（文化施設を含む）の訪問も予定しています。 授業スケジュールとしては、例えば、第1回 オリエンテーション、第2回 当事者能力に関する判例、第3回 法律上の争訟に関する判例、第4回 当事者の確定に関する判例、第5回 当事者適格に関する判例、第6回 土地管轄と移送に関する判例、第7回 国際裁判管轄に関する判例、第8回 外国判決の承認・執行に関する判例、第9回 重複訴訟の禁止に関する判例、第10回 法廷見学(傍聴)または各種施設（文化施設を含む）の訪問、第11回 確認の訴えの利益に関する判例、第12回 給付の訴えの利益に関する判例、第13回 形成の訴えの利益に関する判例、第14回 処分権主義に関する判例、第15回 境界確定訴訟に関する判例、第16回 主張責任に関する判例、第17回 裁判上の自白に関する判例、第18回 証明責任の分配に関する判例、第19回 文書提出命令に関する判例、金融機関の貸出稟議書、第20回 法廷見学(傍聴)または各種施設（文化施設を含む）の訪問、第21回 無断録音テープの証拠能力に関する判例、第22回 既判力の時的限界に関する判例、第23回 既判力の客観的範囲および争効に関する判例、第24回 既判力の主観的範囲に関する判例、第25回 必要的共同訴訟に関する判例 原告側、第26回 必要的共同訴訟に関する判例 被告側、第27回 参加の利益に関する判例、第28回 訴訟告知の効力に関する判例、第29回 独立当事者参加に関する判例、第30回 上訴に関する判例等が考えられます。(授業回数が30回の場合)
----------	--

準備学習	取り上げられる判例については、教科書、判例集、参考書、雑誌および新聞等で各自事前に準備をしておくことが必要です。
------	--

履修上の留意点	演習参加者には、毎回予習のうえ出席すること、主体的に演習に参加すること、および積極的に発言することを期待します。
---------	--

成績評価の方法	演習参加度（出席態度、報告内容、主体性、積極性等）に基づいて行います。
---------	-------------------------------------

教科書/テキスト	小林秀之編『判例講義 民事訴訟法(第2版)』（悠々社）2010年、3500円（税別）。 名津井吉裕ほか著『民事訴訟法』（法学書院）2007年、3200円（税別）。
----------	--

参考書	『民事訴訟法の争点』（有斐閣）2009年、2400円＋税。 『民事訴訟法判例百選 [第4版]』（有斐閣）2010年、2800円＋税。 『新法学講義 民事訴訟法』（悠々社）2012年予定。 判例集、雑誌および新聞等については、その都度指示・紹介します。
-----	--

その他	この演習を履修する者は、少なくとも民事訴訟法の講義を同時並行的に履修する必要があります。 また、民事実体法、とりわけ民法についてある程度の理解に達していることが履修の前提となります。
-----	--

履修コード	124401
科目名	演習Ⅰ
担当者名	中濱 義章

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	商法の重要問題を検討することを通じて、法制度の理解を深めると同時に、社会的事実から法的問題を抽出し、法的に分析し論理展開するための基礎的な力を身につけることを目的とします。
---------------------	--

授業スケジュール	商法、会社法、手形法・小切手法など広義の商法に関する重要判例研究または事例研究として毎回一つのテーマを取り上げ、報告者による報告の後、全員で討議します。 参加者の希望によっては、前期に基礎的理解のための簡単な問題演習を行います。
----------	---

その他	夏のゼミ合宿やゼミ対抗の討論会など、毎週の授業時間以外を利用した行事も予定しています。
-----	---

準備学習	その都度指示します。
------	------------

履修上の留意点	参加者は、自分が発表を担当しないときでも、積極的に発言するようにして下さい。演習では出席を重視します。
---------	---

成績評価の方法	出席と議論への参加態度、報告の内容で評価します。
---------	--------------------------

教科書/テキスト	必要に応じて資料を配付するほか、適宜指示します。
----------	--------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	124501 124502
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	高橋 洋城

授業概要/
到達目標 (ねらい)

この演習は、法律の解釈論や政策論の基礎となる原理的な議論に関心を持つ学生のために「法哲学演習」として開講するものである。「法学の学習の中で培った知見を応用する」と同時に、それを「哲学や社会科学その他を含む広い文脈のなかで捉えなおすこと」、この両方が本演習の目標であるが、さらに社会科学的な文章の扱い方に慣れることや、報告や討論の中で問題を掘り下げる能力の養成も本演習の中で心がけたい。
演習は、1年間を通じて扱う統一テーマを設定し、主報告者・コメンテーターの報告を中心に全員で議論を行なっていく。
統一テーマとしてとりあげる対象は、現代の法的问题をとりあげる年度と、法哲学として古典的価値を持つ文献や思想をとりあげる年度と、年度ごとに交替で重点の置き方を変える。平成24年度は、古典的文献精読に重点をおく予定である。

授業スケジュール

前期は、選定した文献についての報告を軸にし、テーマに関する議論を参加者全員が共有することを旨とする(第1回～15回)。後半は、そこから発展したテーマやさらに議論を深めるための文献を割り当て、より各参加者の関心に引きつけた報告を行なってもらう予定(第16～30回)。
<運営方法> 毎回の演習は、報告・質疑・討論の形式で運営する。報告者の他、あらかじめコメンテーターを指定する。

準備学習

本年度の具体的なテーマは演習開始時に相談の上決定するので未定であるが、参考までに過去にとりあげた題材やテーマを紹介しておく。
テーマの一例：配分的正義と福祉国家、公正の概念、平等論、格差社会、所有権論、民主主義、私法の意義、自由論、国家論
購読文献の一例：ミル『自由論』、ロック『統治論』、ドゥオーキン『権利論』、ルソー『社会契約論』、ロールズ『万民の法』

履修上の留意点

何よりも、出席すること。そして常に積極的に発言すること、おそれずに聞くこと、調べる手間を厭わないことを、演習に参加する最低条件として求める。

成績評価の方法

平常点(出席、報告および討論における発言を勘案して評価)と全日程終了後提出のゼミ論(レポート)により総合評価する。ゼミ論は、ゼミ終了後、おおむね1月末までを〆切りとす

教科書/テキスト

演習開講時までに YeStudy [https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/] やメーリングリスト等を通じて提示し、参加者と相談の上決定する。

参考書

関連リンク

<https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>

履修コード	124601 124602
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	北野 かほる

授業概要/
到達目標 (ねらい)

アメリカ法のさまざまな側面についての理解を深めることを目的にします。

授業スケジュール

出席者の関心によって、呈示したいいくつかのテーマからテーマを絞り込み、相談の上テキストを決めて輪読します。演習の進行具合は履修者の人数と意欲と努力にかかっているため、予め一方的に計画を提示することはできません。

準備学習

輪読がはじまったら、担当者は担当箇所概要を記したレジュメを毎回作成すること。担当者以外の履修者は指定された箇所を予め読んで理解してから出席すること。

履修上の留意点

演習は出席を重視します。やむを得ず欠席するときは必ず、事前に理由を添えて連絡してください。連絡先はゼミ開始時に教えます。

成績評価の方法

3年生は平常点・4年生は平常点+卒業研究。

教科書/テキスト

履修者全員で協議のうえ決定します。

参考書

決定したテーマ・学習進行による関心の発展に応じて、随時、開示します。

履修コード	124701 124702
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	荒木 正孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	会社法や手形・小切手法の講義、またはこれらを理解するのに必要な民法総則、物権法および債権法など各種の講義で聞いた個々の知識や考え方が本当に学生諸君の血となり肉となっているかどうかは、実際に具体的な問題の解決に取り組み、多くの人々が納得する妥当な法的解決を導き出すことができるか否かによって決まる。この演習では、講義で修得した個別の知識を関連付け、総合し、それをより深く理解し、実際の問題に応用できる程度の力をつけることを目的とする。
授業スケジュール	この演習では、年度の前半において講義で習得した各種の基礎的知識を確認する作業を心掛け、後半においては、会社法に関する裁判例や実際界において起きている諸問題の中から参加者が興味を持ち、希望するテーマや課題について発表してもらい、そのレポートを中心に活発な議論を展開するという方法で進める。
準備学習	参加者は、自分が発表者に指名されていない時でも、積極的に質問したり、問題提起できるように、あらかじめ発表内容について学習をしておく必要がある。
履修上の留意点	この演習では、出席の状況と発表の内容や回数などを重視する。夏季と冬季（学年末試験終了後）に合宿を予定している。必ず参加し、教室においては望めない参加者間の全人格的な触れ合いを実現したいと思っている。
成績評価の方法	出席の状況と平常の発言やゼミの中での活動の積極性を考慮して評価する。
教科書／テキスト	
参考書	神作・藤田・江頭・岩原編『会社法判例百選』（有斐閣）などを予定しているが、その他の文献や資料については必要に応じて指示する。

履修コード	124801 124802
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	王 志安

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	国際裁判および国内裁判の判例の分析を通して、現代国際法の適用過程を検証する。具体的に、慣習国際法が裁判においてどのように確認され、適用されるか、また条約がどのように適用されるかを実際の判例において分析する。そして演習を通して国際法に関する知識だけでなく、判例分析や報告書又は小論文の作成に関する知識および能力をも養っていただきたい。
授業スケジュール	テーマとして国家の領域紛争、国際法における承認および人権問題にかかわる判例を選定し、判例の読解および関連の参考資料の学習を通して国際法の適用における実情および問題点を明らかにしていく。前期において特定の中心テーマを基準に選定された事例の勉強となるが、後半において参加者の関心を尊重して個別の判例の分析を中心に演習を行っていききたい。また、夏休みでは、原文（英文）の国際判例を読み解くための合宿を行う。
準備学習	配布された学習資料を事前に精読し、理解に努める。
履修上の留意点	出席および配布された資料を事前に読むことを要求する。
成績評価の方法	演習への参加状況および報告に望む態度や積極性を考慮して評価する。
教科書／テキスト	『判例百選国際法』（有斐閣）2001年
参考書	
その他	ゼミに関する情報などは、YeStudyから入手できる。

履修コード	124901 124902
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	大宮 隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	家族法の研究上、知っておいてほしいと思われる裁判例を取り上げます。
---------------------	-----------------------------------

授業スケジュール	第1回～第5回 婚姻予約、婚姻に関する判例 第6回～第9回 離婚に関する判例 第10回～第16回 親子に関する判例 第17回～第20回 扶養に関する判例 第21回～ 親族に関する判例
----------	--

準備学習	判決文全文を読んで出席して下さい。
------	-------------------

履修上の留意点	予習が必要です。
---------	----------

成績評価の方法	授業における発表、発言等を総合して評価を行います。
---------	---------------------------

教科書/テキスト	泉久雄他編『家族法基本判例32選』（信山社）2,500円 ISBN4-88261-422-7
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	125001 125002
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	佐藤 多美夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	刑法を知るためには、犯罪について刑法総論及び刑法各論で修得した基礎的知識を具体的事実に当てはめてみるのが有用である。しかし具体的事実を刑法の立場から眺めてみることは意外と難しいことであるので、ひとつ一つ、理解を深めながら進めることにする。 本演習の目標は結局のところ、具体的事実を刑法に適用して解決することにある。この目標を達成するためには、事実に含まれている刑法上の論点を抽出してその論点について自己の立場から態度決定して結論を提示する必要がある。一般的に結論には多角的・多面的な見方があり得るので相手の立場・考え方にも耳を傾けそれに対して自己の見解を論理的に主張し説得力のある反批判ができることが必要である。これにより自らの結論の妥当性を検証することができる。
---------------------	---

授業スケジュール	判例、事例を素材にして罪刑法定主義、因果関係、不作為犯、違法性、正当防衛、緊急避難、過失犯、責任能力、未遂、共犯、傷害罪、窃盗罪、強盗罪、詐欺罪などを扱う。
----------	--

準備学習	刑法に関する資料を学習
------	-------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	レポート、発言、出席等を総合評価
---------	------------------

教科書/テキスト	刑法の基本書・判例集等 演習時間に適宜紹介する。
----------	--------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	125031 125032
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	松村 格
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	刑法総論の講義で学習したことを基礎にして、具体的な問題をどのように解決すれば、刑法の使命(法益保護・人権保障・秩序維持)および原理原則(罪刑法定主義・責任主義・謙抑主義)に 適うかを考えることを目的とします。
授業スケジュール	前期の前半に、刑法総論の基本的事項について総復習します。毎回全員に質問することによっ て、刑法総論の理解度を確認します。前期の後半以降は、各人が最も関心のある問題点ないし争 点を選び、それについて研究したことを発表し、各人の質疑応答によって研究を深めていきま す。
準備学習	(1) 研究発表者のテーマについて、各自が判例・学説を下調べして発表者に対する質問・批判点 を考えてくる必要があります。 (2) 発表者は、研究テーマについての判例・学説を十分に検討し、自分独自の考えを練り上げて ください。 (3) 発表者は、自分の研究発表のレジュメと必要な判例要旨や学説のコピーをゼミ生の人数分を 用意して配布してください。
履修上の留意点	刑法総論の単位を取得していなければ履修することはできません。毎週、基本書・参考書・判 例解説書・六法全書・ノートを携帯して出席してください。参加することが不可欠ですから、理 由なき欠席は許しません。毎回必ず何らかの意見を(その是非・妥当性は別として)主張するこ とが重要です。
成績評価の方法	普段の授業における予習・復習の内容、質疑応答回数と内容、研究発表の内容によって評価し ます。試験はしません。
教科書/テキスト	別冊ジュリスト『刑法判例百選』総論【第6版】』有斐閣
参考書	松村・都築・神田・野崎共著『刑法総論』ミネルヴァ書房(3800円)

履修コード	125711	125712
科目名	演習I	演習II
担当者名	田中	優企

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 演習テーマ：現代の刑事法運用制度上の諸問題 現代の我が国の刑事法運用制度には、どのような問題が生じているのか、その問題を解決するためにどのような考え方が示されているのかを検討した上で、皆で、その問題の解決策を探求し、我が国の刑事法運用制度の在るべき姿を考えます。この演習では、刑事法運用制度、すなわち、犯罪に関わる法運用制度を研究対象としますので、問題によっては、刑事訴訟法だけでなく、刑法や刑事政策、少年法等を加えた刑事法全般のアプローチが必要となる場合もあります。もっとも、その場合は、適宜、私も解説を加えます。</p> <p>(到達目標) 3年生は、実際に刑事裁判で争われた具体的なケース(判例)の研究を通じて、現代の我が国の刑事法運用制度を基礎からしっかり理解し、翌年の個別報告に備えます。ゼミでは、刑事訴訟法に関わる基本判例について、最初の報告はグループで、その後の報告は1人で、それぞれ報告してもらい、その報告をたたき台にして、ゼミ生全員で検討を行います。報告に際しては、『最高裁判所判例集』に掲載されている判例の原文を丁寧に読み、第一審から上告審までの各判断を整理・検討すると共に、『最高裁判所判例解説』を中心とする判例評釈や関連文献を収集・整理・検討し、当該判例や論点の分析を行なうことが求められます。もちろん、報告者以外のゼミ生も十分な予習が必要です。 4年生は、年度初めに任意のテーマを一つ選択し、教員の指導の下、半年間をかけて資料収集・分析などの準備をした上で、後期にゼミで報告してもらいます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>授業では、履修者の興味・関心や勉強の進捗度等も考慮しながら、現代の我が国の刑事法運用制度において、従来から指摘されている問題の他、新たに発生している先端的な問題にかかわる判例を、適宜、採り上げる予定です。 報告担当者は、担当する問題について、図書館等で資料を収集し、判例や学説等を検討・分析し、レジュメを作成してください。また、他のゼミ生は、十分に予習した上で、授業に出席してください。 夏休みにはゼミ合宿を行ないません。また、裁判傍聴を行ない、実際の刑事裁判を通して、我が国の刑事法運用を学びます。</p>
----------	---

準備学習	<p>新年度のゼミの準備と顔合わせを兼ねて、前年度3月にプレゼミを行ないません。プレゼミでは、中野次雄編『判例とその読み方(3訂版)』など複数の文献を用いて、判例の読み方や学び方などを学び、4月からのゼミに備えます。 憲法はもちろんのこと、1年次及び2年次配当の刑事法科目(刑法総論、刑法各論、刑事政策)を履修・学習していると、刑事法運用制度の理解が、より一層、深まります。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>「犯罪」ましてや「刑事法運用制度」など、自分とはかけ離れた所の話であると考えている人がいるかもしれません。しかし、日々の犯罪報道などを見れば明らかのように、犯罪は我々の身近な所で発生し、身近な人が被害者となりうるものなのです。また、裁判員制度の導入により、刑事手続に対する国民の理解・関心は高まっています。「犯罪という社会問題をどのように解決すべきか、犯罪を取り扱う刑事法運用制度はどう在るべきなのかを真剣に深く考えてみたい」ということが必要不可欠な履修条件です。 また、普段のゼミやその他のゼミ活動へ主体的かつ積極的に参加してくれる人を希望します。</p> <p>なお、ゼミ生は、私の「刑事訴訟法」を同時履修してください。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>報告内容、授業態度、出席状況を総合考慮して成績を評価します。ゼミは出席が基本ですので、正当な理由なく欠席を重ねた場合には、単位を付与しません。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>必要に応じて、その都度、指示します。</p>
----------	---------------------------

参考書	<p>必要に応じて、その都度、指示します。</p>
-----	---------------------------

その他	<p>素朴な疑問が実は重要な問題であったということはよくあることです。また、この演習は、みなさんの意見と疑問があって初めて成立します。みなさんの主体的な参加を期待しています。</p>
-----	---

履修コード	125721	125722
科目名	演習I	演習II
担当者名	奥村	公輔

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本演習では、憲法学上の論点についての検討を通じて、憲法学への理解を深めつつ、憲法学上の問題点を発見する能力を身につけることを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>初回の授業において、扱うテーマとその報告者を決定する。2回目以降の授業では、報告者がレジュメを作成し、報告を行う。その報告をもとに、受講者全員で質疑応答・討論を行う。</p>
----------	--

準備学習	<p>報告者は、報告の1週間前にレジュメを提出する。報告者以外の受講者は、事前にレジュメに目を通し、各自疑問点を用意しておくこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>通年で5回以上無断欠席すれば単位を認定しない。</p>
---------	--------------------------------

成績評価の方法	<p>平常点による。</p>
---------	----------------

教科書/テキスト	<p>授業内で適宜指示する。</p>
----------	--------------------

参考書	
-----	--

履修コード	125741 125742
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	赤松 晃
授業概要/ 到達目標（ねらい）	演習では、現実のビジネスにおいて必要とされる企業会計や法人税などの基本を勉強し、日本経済新聞の「企業」面の記事を読み解く力をつける。併せて、国際取引に関する租税法の適用である国際課税について勉強する。これらの学習を通じて社会人としての実践力の基礎を身につける。
授業スケジュール	指定のテキストの購読とともに、随時、公開されている税制調査会資料や関連する新聞記事等を配布する。ゼミの進展に応じて、専門誌や新聞に掲載の具体的事例を報告課題として割り当てる。課題報告のゼミ日では、担当ゼミ生による報告と全員による意見交換を行う。
準備学習	予習項目を指定するので、指定テキストの該当箇所を必ず読み込んで出席すること。
履修上の留意点	・租税法についての専門的知識が無くとも国際ビジネスに興味のある学生の履修を歓迎する。 ・「税法」を3年次において履修することが望ましい。
成績評価の方法	ゼミへの積極的参加度を踏まえて、ゼミ報告の内容（5割）、課題レポートの充実度（5割）により総合判断する。
教科書／テキスト	演習において、学生の学習の希望等を聞き、指定する。 昨年度は、次を学習した。 ・國枝克則『ストーリーでわかる財務3表超入門—お金の流れで会計の仕組みが見えてくる』（ダイヤモンド社、2011年）1,575円 ISBN:4478015619 ・三木義一『よくわかる国際税務入門』（有斐閣選書、2版、2010年）2,100円 ISBN:4641281173 ・岡村＝渡辺＝高橋『ベーシック税法』有斐閣アルマ（有斐閣、6版、2011年）2,205円 ISBN:4641124426
参考書	随時、紹介する。
その他	連絡等はYeStudyで行う。
関連リンク	http://www.nta.go.jp/shiraberu/zeiho-kaishaku/index.htm#1

履修コード	125751 125752
科目名	演習I 演習II
担当者名	熊谷 芝青

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	民法は生活と密接に関係します。教科書を読んで理解したとしても、実際の適用例である判例を理解することは、意外と難しいものです。法律を解釈するだけではなく、実際にどのように適用したらよいのかを皆さんと一緒に検討してきましょう。そして、未知の判例に対して、独力で一定の法理的論理の組み立てができるようになることまで到達することをねらいとしています。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>民法財産法の全分野を対象に、その判例を検討していきます。実際に受講生の実力・興味等により、内容の変更を予定しています。第2回以後発表形式です。皆さんは未知との遭遇となりますので、発表の巧拙をあまり問題にしません。問題にするのは、皆さんのやる気を含めた受講態度です。</p> <p>回数目安と考えてください。</p> <p>前期</p> <p>第1回 判例学習の基本と注意事項</p> <p>第2回 民法90条</p> <p>第3回 錯誤</p> <p>第4回 表見代理</p> <p>第5回 無権代理</p> <p>第6回 時効</p> <p>第7回 物権変動</p> <p>第8回 不動産物権変動と登記</p> <p>第9回 民法177条の第三者</p> <p>第10回 民法94条2項の類推適用</p> <p>第11回 占有と時効</p> <p>第12回 債権の効力</p> <p>第13回 債権者代位権</p> <p>第14回 債権者取消権</p> <p>第15回 拾遺</p> <p>後期</p> <p>第1回 連帯債務と不申請連帯</p> <p>第2回 保証と債務引受</p> <p>第3回 債権譲渡</p> <p>第4回 弁済</p> <p>第5回 相殺</p> <p>第6回 留置権・先取特権</p> <p>第7回 抵当権の効力の及ぶ範囲</p> <p>第8回 抵当権侵害</p> <p>第9回 抵当権の物上代位</p> <p>第10回 共同抵当</p> <p>第11回 契約締結以前の問題</p> <p>第12回 契約解除</p> <p>第13回 不法行為</p> <p>第14回 拾遺</p>
----------	--

準備学習	当番以外の出席者も、事案の概要と判旨は事前に読んでおくこと。
履修上の留意点	発表者のレジュメの他に板書があるので、ノートを持参すること。
成績評価の方法	平常点で採点する。
教科書／テキスト	別冊ジュリスト『民法判例百選I』(第6版) 別冊ジュリスト『民法判例百選II』(第6版)
参考書	司法研修所『新問題研究要件事実』(法曹会) 加藤＝細野『要件事実の考え方と実務』(第2版)(民事法研究会) 大島眞一『民事裁判実務の基礎』(民事法研究会) 大江忠『要件事実民法』(第一法規)

履修コード	125761 125762
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	富樫 景子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、刑事法の研究を通じて、以下のことを目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 刑事法のより深い知識を得ること。 ・ 議論やレジュメ作成において、自分の考えを言葉で明確に表現できるようになること。 ・ 他者と論理的な議論を行えるようになること。
---------------------	---

授業スケジュール	◎報告者は演習当日の1週間前までにレジュメを作成・配布し、当日はそのレジュメをもとに受講者全員で討論を行う。詳しくは演習時間内に指示する。 ◎必要に応じて、刑事法の基礎知識/判例読解/レジュメ作成方法について学ぶゼミを行うことがある。
----------	--

準備学習	・ 報告者は、レジュメを作成配布するほか、当日に十分な質疑応答ができるよう、下準備をすること。 ・ その他受講者は、レジュメを読み、それに関連する文献を読んで質問を考えてくること。
------	---

履修上の留意点	◎刑事法に関する知識が不完全でも構わないが、演習に参加しながら学習し、わからないなりにゼミで発言することが参加条件である。 ◎ゼミに欠席する際には、必ず連絡すること。 ・ 初回のゼミに無断欠席した者は、その後のゼミへの参加を認めないことがある。 ・ 2回目以降も、無断欠席があった場合は、単位を認定しないことがある。 ◎ゼミでは積極的に発言すること。
---------	---

成績評価の方法	出席率、提出したレジュメの内容、ゼミへの貢献、質疑応答の様子などの総合評価によって決定する。
---------	--

教科書/テキスト	演習時間内に指示する。
----------	-------------

参考書	演習時間内に指示する。
-----	-------------

その他	何事も主体的に活動する学生さんの参加を希望する。
-----	--------------------------

履修コード	125771 125772
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	三浦 康平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	受講者が報告するテーマに関する資料の収集ができ、特定のテーマについてわかりやすくプレゼンテーションができるようになること。 つまり、情報の収集・整理(分析)・報告の基本ができるようになるのが狙いである。 報告テーマについては、初回に教員側から提示するものもあるが、最終的には受講者と相談の結果決めることにしたい。
---------------------	--

授業スケジュール	以下のようなスケジュールを予定している(半期分)。 第1回 ガイダンス・自己紹介 第2回 班分け・テーマ選定 第3回～第15回 班別の報告・質疑応答
----------	---

準備学習	授業時間外の学習として、各自(あるいは各グループ)で、報告テーマに関するリサーチ、報告資料の作成等をおこなうことが必要になる。
------	---

履修上の留意点	なお第1回講義までに次の文献の中からどれか一つを読んでおくことを求める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 神田秀樹『会社法入門』(岩波新書)(岩波書店、2006年) ・ 黒沼悦郎『金融商品取引法入門<第4版>』(日経文庫)(日本経済新聞社、2011年) ・ 道垣内弘人『信託法入門』(日経文庫)(日本経済新聞社、2007年) ・ 池尾和人『現代の金融入門[新版]』(ちくま新書)(筑摩書房、2010年)
---------	---

成績評価の方法	平常点100% ただし受講者と相談のうえでレポート等を要求することがある。
---------	--

教科書/テキスト	第1回(場合によっては第2回)に関連文献を指示する。
----------	----------------------------

参考書	第1回(場合によっては第2回)に関連文献を指示する。
-----	----------------------------

履修コード	327101 327102
科目名	演習I 演習II
担当者名	藤本 茂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	わが国雇用社会は、経済構造の変化に伴う雇用システムの変容、少子高齢社会の到来、労働者意識の多様化などにより大きく変わろうとしています。最近の労働基準法改正、労働契約法制定・施行などはその表われです。この現代労働法の対象である雇用社会を知り、今まで形成されてきた労働法理の基礎を自ら学びとる場が演習だと思っています。したがって、その到達目標は、自ら調べ読み理解しまとめてレジュメを作り発表し議論をする、これを通して、基礎的知識を身につけるとともに、発表すること理解してもらうことの難しさを学びとり、自らの立ち位置を理解することが目標です。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>本演習では、テーマを各自受講生が関心のあるところから、自ら選択し勉強し、理解を深めたところで発表し、議論をする方法をとっています。特に発表し議論するところに重点を置いています。</p> <p>夏季には研究合宿を行いません。</p> <p>以下、大まかですが、スケジュールを掲げます。</p> <p>第1回 ガイダンス 演習の進め方、新聞等による労働問題の現状を知る</p> <p>第2回 判例を素材にしたテーマ報告の仕方の説明</p> <p>第3回 グループ編成と各グループのテーマ決定</p> <p>第4回 4年生による報告の例 報告準備の仕方、レジュメの作成を知る</p> <p>第5回 第1グループによる報告① 問題意識、素材にした判例の事実の概要と判旨</p> <p>第6回 第1グループによる報告② 法的論点を中心にした報告、質疑・討論</p> <p>第7回 第1グループの報告・討論をもとにして準備等の検証</p> <p>第8回以降、第5回、第6回のような内容で順次、報告・質疑・討論を第15回まで実施</p> <p>夏季研究合宿 経験的に、合宿テーマの報告準備・グループ内での準備と討論そして合宿での報告、質疑・討論が演習とはどういふものかを各自が理解するいい機会となっているようです。</p> <p>後期(第16回～第30回) 前期・夏季研究合宿での経験を踏まえて、前期のような報告を実施します。</p>
----------	---

準備学習	4月授業開始前に課題を提出してもらいます。テーマは事前に知らせず。通常授業時の準備学習は、予め報告するテーマが報告者(グループ)より知らされていますので、当該テーマの予習をすることが、報告者(グループ)以外の者に課せられます。そして質問事項を用意しておくことです。
------	--

履修上の留意点	<p>演習のいいところは、大いに勉強し、恥をかくところにあります。出席は大前提。評価はそのあと。</p> <p>ゼミ運営に積極的に関わることも大切だと考えています。</p> <p>講義科目として、労働法はもとよりのこと、憲法、民法総則、債権総論・各論、社会保障法、社会政策は、ぜひとも、履修してください。</p>
---------	--

成績評価の方法	出席、積極的発言、ゼミ運営への積極的参加など。平常時の積極的な姿勢で評価します。追試はありません。夏季に研究合宿を実施します。
---------	---

教科書/テキスト	<p>各自が選んだテーマを勉強し報告するうえで、以下の書物は、周辺・基礎的知識を提供してくれます。</p> <p>金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法【第2版】』(エイデル研究所 2010)。</p> <p>労働判例百選 労働法の争点</p>
----------	---

参考書	必要に応じて、〈調べ方〉を教えます。参考書というより法律雑誌の論文等が重要になります。自ら探し集め読みまとめることが勉強の第一歩と思っています。
-----	--

履修コード	327201 327202
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	金子 昇平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習においては、行政上の諸制度、行政法規の仕組み及び複雑多様な法現象を広範囲にとりあげ、現代のあるべき行政法理論について理解を深めていきたい。
---------------------	--

授業スケジュール	ゼミ生の関心のあるテーマについて、判例研究及び、学術論文の書評を行い、参加者全員と共に、議論をつくしたいと思っている。 演習の内容については、例えば、環境の問題、教育の問題、公務員の問題、地方自治の問題、租税の問題、医療の問題、高齢者の問題、福祉の問題等である。
----------	--

- ①環境の問題
東京大気汚染事件、熊本水俣病事件、田子の浦ヘドロ事件、大阪空港事件、名古屋新幹線事件、横田基地・厚木基地事件、国道43号線事件、武蔵野マンション事件、国立マンション事件
- ②教育の問題
学問の自由と学生の自活、ポポロ事件、教育を受ける権利と教育権、私立大学における学生の思想、表現の自由、校則の問題、いじめ事件、学生処分と教育的裁量権、学校事件
- ③公務員の問題
公務員関係の法的性質、公務員における不利益処分と救済、職員の措置要求権、職員の財産上の権利、安全配慮義務、公務傷病等に対する補償を受ける権利、服務・職務命令と服従義務、職務上の秘密の意義、公務員の労働基本権
- ④地方自治の問題
地方公共団体の情報公開・直接請求、住民投票、青少年保護育成条例、公安条例、要綱による開発負担金、公営住宅の使用関係、議会と政務調査費、議員の研修旅行、教育委員会の公開原則、住民監査請求、住民訴訟、国民健康保険
- ⑤租税の問題
租税法律主義の意義、サラリーマン税金訴訟、租税回避行為の否認、所得控除の意義、固定資産税訴訟、消費税、輸入禁止措置と検閲、租税訴訟における文書の提出の申立て
- ⑥医療の問題
診療記録閲覧請求、予防接種事件、ハンセン病事件、健康食品と医薬品の意義
- ⑦高齢者の問題
高齢者虐待防止法、高齢者の在宅介護、特別養護老人ホーム、老人保健施設
- ⑧福祉の問題
生存権と生活保護基準、福祉法にかかる問題

年二回、七月、二月にゼミ合宿を行い、研究の成果を発表し、討論を行う。
年二回、公的施設の見学会を行う。

準備学習 毎回、事前にテーマに沿った課題を学習しておくこと。

履修上の留意点 ゼミ生は、あらかじめ該当する判例、法令等を読みこなして欲しい。六法を持参すること。判例、論文、法律を知ることだけではなく、現実の社会の実態についても、調査し、国・地方公共団体に出向いて、担当者と面会し、取材してもらいたい。

成績評価の方法 出席（ゼミ、見学会、合宿等）により評価する。

教科書／テキスト 適宜指示する。

参考書 塩野宏他編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』[第五版]（有斐閣）

その他 発表者は、レジュメを作成し、論点及び、自分の意見を発表する。全員が、議論に参加出来ることを望む。

履修コード	327301 327302
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	赤松 晃

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習では、現実のビジネスにおいて必要とされる企業会計や法人税などの基本を勉強し、日本経済新聞の「企業」面の記事を読み解く力をつける。併せて、国際取引に関する租税法の適用である国際課税について勉強する。これらの学習を通じて社会人としての実践力の基礎を身につける。
---------------------	--

授業スケジュール	指定のテキストの購読とともに、随時、公開されている税制調査会資料や関連する新聞記事等を配布する。ゼミの進展に応じて、専門誌や新聞に掲載の具体的事例を報告課題として割り当てる。課題報告のゼミ日では、担当ゼミ生による報告と全員による意見交換を行う。
----------	--

準備学習	予習項目を指定するので、指定テキストの該当箇所を必ず読み込んで出席すること。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・租税法についての専門的知識が無くとも国際ビジネスに興味のある学生の履修を歓迎する。 ・「税法」を3年次において履修することが望ましい。
---------	---

成績評価の方法	ゼミへの積極的参加度を踏まえて、ゼミ報告の内容（5割）、課題レポートの充実度（5割）により総合判断する。
---------	--

教科書/テキスト	<p>演習において、学生の学習の希望等を聞き、指定する。</p> <p>昨年度は、次を学習した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・國枝克則『ストーリーでわかる財務3表超入門—お金の流れで会計の仕組みが見えてくる』（ダイヤモンド社、2011年）1,575円 ISBN:4478015619 ・三木義一『よくわかる国際税務入門』（有斐閣選書、2版、2010年）2,100円 ISBN:4641281173 ・岡村＝渡辺＝高橋『ベーシック税法』有斐閣アルマ（有斐閣、6版、2011年）2,205円 ISBN:4641124426
----------	--

参考書	随時、紹介する。
-----	----------

その他	連絡等はYeStudyで行う。
-----	-----------------

関連リンク	http://www.nta.go.jp/shiraberu/zeiho-kaisaku/index.htm#1
-------	---

履修コード	327501 327502
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	富樫 景子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本演習では、刑事法の研究を通じて、以下のことを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刑事法のより深い知識を得ること。 ・議論やレジュメ作成において、自分の考えを言葉で明確に表現できるようになること。 ・他者と論理的な議論を行えるようになること。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>◎報告者は演習当日の1週間前までにレジュメを作成・配布し、当日はそのレジュメをもとに受講者全員で討論を行う。詳しくは演習時間内に指示する。</p> <p>◎必要に応じて、刑事法の基礎知識/判例読解/レジュメ作成方法について学ぶゼミを行うことがある。</p>
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・報告者は、レジュメを作成配布するほか、当日に十分な質疑応答ができるよう、下準備をすること。 ・その他受講者は、レジュメを読み、それに関連する文献を読んで質問を考えてくること。
------	---

履修上の留意点	<p>◎刑事法に関する知識が不完全でも構わないが、演習に参加しながら学習し、わからないなりにゼミで発言することが参加条件である。</p> <p>◎ゼミに欠席する際には、必ず連絡すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回のゼミに無断欠席した者は、その後のゼミへの参加を認めないことがある。 ・2回目以降も、無断欠席があった場合は、単位を認定しないことがある。 <p>◎ゼミでは積極的に発言すること。</p>
---------	---

成績評価の方法	出席率、提出したレジュメの内容、ゼミへの貢献、質疑応答の様子などの総合評価によって決定する。
---------	--

教科書/テキスト	演習時間内に指示する。
----------	-------------

参考書	演習時間内に指示する。
-----	-------------

その他	何事も主体的に活動する学生さんの参加を希望する。
-----	--------------------------

履修コード	327601 327602
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	荒木 正孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	会社法を理解するとともに、それに必要な民法総則、物権法および債権法などの講義で聞いた個々の知識や考え方が本当に学生諸君の血となり肉となっているかどうかは、実際に具体的な問題の解決に取り組み、多くの人々が納得する妥当な法的解決を導き出すことができるか否かによって決まる。この演習では、講義で修得した個別の知識を確実にし、相互に関連付け、総合し、それをより深く理解し、裁判例や実務界において現実にかかる種々の問題の解決に役立つ力をつけることを目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	この演習では、年度の前半においてすでに習得済みの基礎的知識を確認する作業を心掛け、後半において会社法に関する裁判例や実務界において話題になっている諸問題の中から参加者が興味を持ち、希望するテーマや課題について発表してもらい、そのレポートを中心に活発な議論を展開するという方法で進める。
----------	--

準備学習	参加者は、自分が発表者に指名されていない時でも、積極的に発言したり問題提起できるように、あらかじめ発表内容について学習しておく必要がある。
------	---

履修上の留意点	この演習では、出席の状況と発表の内容や回数、そして積極的な発言を重視する。また、学生の希望に応じて夏季または冬季(学年末試験終了後)に合宿を予定している。合宿がある場合には、必ず参加し、教室では望めない参加者間の全人格的な触れ合いを深めたいと思う。
---------	--

成績評価の方法	出席の回数と平常の積極的な発言やゼミでの活動を考慮して評価する。
---------	----------------------------------

教科書/テキスト	演習に使用するテキストについては、受講者と相談して適当なものを選択したいと思う。
----------	--

参考書	神作・藤田・江頭・岩原編『会社法批判百選』(有斐閣)などを予定しているが、その他の文献や資料については、発表するテーマに応じて必要な都度指示する。
-----	---

履修コード	327701 327702
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	田中 優企

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 演習テーマ：現代の刑事法運用制度上の諸問題 現代の我が国の刑事法運用制度には、どのような問題が生じているのか、その問題を解決するためにどのような考え方が示されているのかを検討した上で、皆で、その問題の解決策を探求し、我が国の刑事法運用制度の在るべき姿を考えます。この演習では、刑事法運用制度、すなわち、犯罪に関わる法運用制度を研究対象としますので、問題によっては、刑事訴訟法だけでなく、刑法や刑事政策、少年法等を加えた刑事法全般のアプローチが必要となる場合もあります。もっとも、その場合は、適宜、私も解説を加えます。</p>
---------------------	--

	<p>(到達目標) 3年生は、実際に刑事裁判で争われた具体的なケース(判例)の研究を通じて、現代の我が国の刑事法運用制度を基礎からしっかり理解し、翌年の個別報告に備えます。ゼミでは、刑事訴訟法に関わる基本判例について、最初の報告はグループで、その後の報告は1人で、それぞれ報告してもらい、その報告をたたき台にして、ゼミ生全員で検討を行いません。報告に際しては、『最高裁判所判例集』に掲載されている判例の原文を丁寧に読み、第一審から上告審までの各判断を整理・検討すると共に、『最高裁判所判例解説』を中心とする判例評釈や関連文献を収集・整理・検討し、当該判例や論点の分析を行なうことが求められます。もちろん、報告者以外のゼミ生も十分な予習が必要です。 4年生は、年度初めに任意のテーマを一つ選択し、教員の指導の下、半年間をかけて資料収集・分析などの準備をした上で、後期にゼミで報告してもらいます。</p>
--	--

授業スケジュール	<p>授業では、履修者の興味・関心や勉強の進捗度等も考慮しながら、現代の我が国の刑事法運用制度において、従来から指摘されている問題の他、新たに発生している先端的な問題にかかわる判例を、適宜、採り上げる予定です。 報告担当者は、担当する問題について、図書館等で資料を収集し、判例や学説等を検討・分析し、レジュメを作成してください。また、他のゼミ生は、十分に予習した上で、授業に出席してください。 夏休みにはゼミ合宿を行いません。また、裁判傍聴を行ない、実際の刑事裁判を通して、我が国の刑事法運用を学びます。</p>
----------	--

準備学習	<p>新年度のゼミの準備と顔合わせを兼ねて、前年度3月にプレゼミを行いません。プレゼミでは、中野次雄編『判例とその読み方(3訂版)』など複数の文献を用いて、判例の読み方や学び方などを学び、4月からのゼミに備えます。 憲法はもちろんのこと、1年次及び2年次配当の刑事法科目(刑法総論、刑法各論、刑事政策)を履修・学習していると、刑事法運用制度の理解が、より一層、深まります。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>「犯罪」ましてや「刑事法運用制度」など、自分とはかけ離れた所の話であると考えている人がいるかもしれませんが、日々の犯罪報道などを見れば明らかのように、犯罪は我々の身近な所で発生し、身近な人が被害者となりうるものなのです。また、裁判員制度の導入により、刑事手続に対する国民の理解・関心は高まっています。「犯罪という社会問題をどのように解決すべきか、犯罪を取り扱う刑事法運用制度はどう在るべきなのかを真剣に深く考えてみたい」ということが必要不可欠な履修条件です。 また、普段のゼミやその他のゼミ活動へ主体的かつ積極的に参加してくれる人を希望します。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>なお、ゼミ生は、私の「刑事訴訟法」を同時履修してください。 報告内容、授業態度、出席状況を総合考慮して成績を評価します。ゼミは出席が基本ですので、正当な理由なく欠席を重ねた場合には、単位を付与しません。</p>
---------	--

教科書/テキスト	必要に応じて、その都度、指示します。
----------	--------------------

参考書	必要に応じて、その都度、指示します。
-----	--------------------

その他	<p>素朴な疑問が実は重要な問題であったということはよくあることです。また、この演習は、みなさんの意見と疑問があって初めて成立します。みなさんの主体的な参加を期待しています。</p>
-----	---

履修コード	327801	327802
科目名	演習Ⅰ	演習Ⅱ
担当者名	原田	啓一郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 社会保障法制のうちサービス保障法制(医療・介護法制)に関する法的理解を深める。 (到達目標) ゼミでの報告・議論を通じて問題発見能力・法的思考力を養うことを目標とする。
授業スケジュール	医療関係法(医事法を含む)・介護関係法を中心に、これらの最新重要裁判例及び重要文献を取りあげ、その問題について検討を行う。報告者は分担して裁判例及び文献の報告のためのレジュメを作成し、それをもとに報告する。参加者は報告者の報告をもとに議論をする。
準備学習	・報告者以外の参加者にも積極的に議論に参加してもらうため、判例・文献を熟読し、準備をしていくこと。
履修上の留意点	・「社会保障法」を必ず受講すること。
成績評価の方法	平常点による。
教科書/テキスト	・西村健一郎・岩村正彦〔編〕『社会保障判例百選〔第4版〕』(有斐閣、2008年) ・労働調査会出版局〔編〕『社会保障法令便覧 2012』(労働調査会、2012年)
参考書	適宜紹介する。

履修コード	327901	327902
科目名	演習Ⅰ	演習Ⅱ
担当者名	大宮	隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	家族法の研究上、知っておいてほしいと思われる裁判例を取り上げます。
授業スケジュール	第1回～第5回 婚姻予約、婚姻に関する判例 第6回～第9回 離婚に関する判例 第10回～第16回 親子に関する判例 第17回～第20回 扶養に関する判例 第21回～ 親族に関する判例
準備学習	判決文全文を読んで出席して下さい。
履修上の留意点	予習が必要です。
成績評価の方法	授業における発表、発言等を総合して評価を行います。
教科書/テキスト	泉久雄他編著『家族法基本判例32選』(信山社)2,500円 ISBN4-88261-422-7
参考書	

履修コード	327921	327922
科目名	演習Ⅰ	演習Ⅱ
担当者名	奥村	公輔

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、憲法学上の論点についての検討を通じて、憲法学への理解を深めつつ、憲法学上の問題点を発見する能力を身につけることを目標とする。
授業スケジュール	初回の授業において、扱うテーマとその報告者を決定する。2回目以降の授業では、報告者がレジュメを作成し、報告を行う。その報告をもとに、受講者全員で質疑応答・討論を行う。
準備学習	報告者は、報告の1週間前にレジュメを提出する。報告者以外の受講者は、事前にレジュメに目を通し、各自疑問点を用意しておくこと。
履修上の留意点	通年で5回以上無断欠席すれば単位を認定しない。
成績評価の方法	平常点による。
教科書/テキスト	授業内で適宜指示する。
参考書	

履修コード	327931 327932
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	北野 かほる
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	アメリカ法のさまざまな側面についての理解を深めることを目的にします。
授業スケジュール	出席者の関心によって、呈示したいいくつかのテーマからテーマを絞り込み、相談の上テキストを決めて輪読します。演習の進行具合は履修者の人数と意欲と努力にかかっているため、予め一方的に計画を提示することはできません。
準備学習	輪読がはじまったら、担当者は担当箇所の概要を記したレジュメを毎回作成すること。担当者以外の履修者は指定された箇所を予め読んで理解してから出席すること。
履修上の留意点	演習は出席を重視します。やむを得ず欠席するときは必ず、事前に理由を添えて連絡してください。連絡先はゼミ開始時に教えます。
成績評価の方法	3年生は平常点・4年生は平常点+卒業研究。
教科書/テキスト	履修者全員で協議のうえ決定します。
参考書	決定したテーマ・学習進行による関心の発展に応じて、随時、開示します。

履修コード	132011
科目名	演習Ⅱ
担当者名	田丸 大
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	行政の活動や政策は、世の中の我々の生活とも密接に関わっている。そういった行政活動について、各自でテーマを設定し、発表及び短めの論文を作成してもらう。可能であれば、2年生の基礎演習、3年生の演習との交流の機会も持ちたい。なるべくグループでの作業を多くし、チームワークを重視する予定である。過去に扱ったテーマは、サマータイムの導入の是非、消費税の引き上げの是非、駅前の放置自転車対策、官僚の天下り、振り込め詐欺などバラエティに富む。
授業スケジュール	前期にテーマの選定と骨子の作成、後期に発表及び論文の作成を行えればと考えている。
準備学習	日頃から、新聞等を通して、世の中のニュースを入手し、それぞれのニュースに対して、肯定的な立場、否定的な立場ともにあり得るのだという点を把握するように努めてください。
履修上の留意点	OB会の準備、2年生や3年生の指導などをお願いする予定です。
成績評価の方法	平常点による。就職活動期間中については、考慮します。
教科書/テキスト	特に使用しない。
参考書	

履修コード	133001
科目名	演習Ⅱ
担当者名	早川 純貴
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	当演習の基本目的は現代日本政治の特質を理解し、その問題点を探り出すこと、あるいはそれらの問題をいかに克服できるかを考えることである。特に当演習では研究対象を政策形成・施行過程に置く。具体的には、いくつかの政策が成立する背景と過程を明らかにしつつ、それらがいかに施行されたか、その過程でどんな問題が生じたのか、あるいはそれらの政策が日本の経済や社会、国際関係にどのような意味・影響を持ったのかを考察する。
授業スケジュール	当ゼミは前期が統一テーマによるグループ研究であり、後期は学生自身が選択したテーマで個人発表を行い、あわせてゼミ論を執筆してもらう。平成24年度の前期・統一テーマは「事件はどのような政治的対応がなされたか」である。ある事件（社会的事件、政治問題、経済問題、外交問題など）が生じ、それに政治的対応がなされた場合、それはどんな対応だったのか、その対応は妥当であったか、否か。他に選択肢はなかったのか。対応に当たった政治家、官僚は何を考えたのか。あるいは、その対応がその後の社会や政治、経済にどう影響したのか。こうした問題を解き明かすことで日本（中央や地方）の政策決定の本質に迫ることができるであろう。
準備学習	報告者はレジュメを作成し、30分の報告をしなければならない。また質疑応答では、どんな質問にも答えられるよう、事前に十分な準備をする必要がある。報告を聞く側も様々な角度から質問できるように、報告テーマについて、新聞やインターネットなどで概要を調べておくことが望ましい。
履修上の留意点	当演習は法律学科の学生にも開講する。政治学科の学生はもとより、政策の形成・執行に関心のある法律学科学生諸君の参加を大いに歓迎する。また当演習は春と夏に合宿を行うが、そこではディベートやパネル・ディスカッションなど、通常の演習ではあまりできないことを企画している。
成績評価の方法	個人々の発表・報告の充実度、リポート・ゼミ論の内容などを総合的に判断して評価する。
教科書/テキスト	教科書は使用しない。参考文献は演習の過程で随時紹介する。
参考書	

履修コード	124451
科目名	演習II
担当者名	中濱 義章

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	商法の重要問題を検討することを通じて、法制度の理解を深めると同時に、社会的事実から法の問題を抽出し、法的に分析し論理展開するための力を身につけることを目的とします。
---------------------	--

授業スケジュール	商法、会社法、手形法・小切手法など広義の商法に関する重要判例研究または事例研究として毎回一つのテーマを取り上げ、報告者による報告の後、全員で討議します。 最新の裁判例や時事問題など、まだあまり議論されていないような事柄についても、みんなで考える機会を設けたいと思っています。
----------	--

準備学習	その都度指示します。
------	------------

履修上の留意点	参加者は、自分が発表を担当しないときでも、積極的に発言するようにして下さい。演習では出席を重視します。
---------	---

成績評価の方法	出席と議論への参加態度、報告の内容で評価します。
---------	--------------------------

教科書/テキスト	必要に応じて資料を配付するほか、適宜指示します。
----------	--------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	132201 132202
科目名	演習I 演習II
担当者名	深澤 弘樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) この演習では、新聞、テレビ、ラジオなどのマス・コミュニケーションはもちろん、インターネット、携帯電話などのコミュニケーションメディアも含め、メディア全体を研究対象とする。メディア研究には、制度や産業としてのメディア組織の分析(送り手分析)、メディアから発せられるメッセージ分析のほか、受け手研究など様々な分析手法が存在する。変化が著しいメディア社会においては、旧メディアの行方や携帯コミュニケーションによる人間関係の変化など、様々な観点からの分析も可能である。この演習では、文献の講読やゼミ生同士の議論を通して、社会生活を規定するメディアに対して様々な角度からアプローチする。
---------------------	--

到達目標	(到達目標) この演習では、メディア研究の基礎知識や分析の枠組みを学び、実際の事象を例に分析を行う。それによってメディア・リテラシー(メディアを読み解く力)を身につけることを目標とする。4年次にはゼミ論を作成してもらうつもりだが、3年次には、それに向けたメディア・コミュニケーションの基礎概念を理解することを最大の目標としたい。また、ゼミ活動では積極的な討議、報告を望む。これにより、社会人基礎力の養成にも力を注ぎたい。
------	---

授業スケジュール	進め方については、受講生と相談して決めるつもりだが、以下のようなスケジュールを考えている。
----------	---

準備学習	前期はメディア・コミュニケーションの基礎文献の輪読を行い、分担を決めて報告してもらう。これにより、各自の関心を絞り込む。また、報告にもとづいてディスカッションを行い、メディアについての理解を深めていく。 後期は、それぞれの問題関心に沿っていくつかのグループに分け(ジャーナリズム、スポーツ、バラエティ、出版、インターネット関連など)、グループごとに研究を進める。その都度、ゼミ内で報告してもらうことでプレゼンテーション力をつけることにもつなげたい。最終的にはグループ内で議論し、まとめた内容を報告書として仕上げる。
------	--

準備学習	新聞やテレビのニュース番組のチェックを怠らず、批判的な目を持ってメディアに接すること。世の中の動きに敏感であってほしい。
------	--

履修上の留意点	ゼミ活動はゼミ生の積極的な参加によって活性化する。ゼミ生相互で切磋琢磨し高め合う気持ちを持って臨んでもらいたい。
---------	--

成績評価の方法	出席やゼミ内での報告、討論への参加度合い、レポートなどを判断材料として総合的に評価する。
---------	--

教科書/テキスト	メディア・コミュニケーションの基礎概念、分析手法を解説した文献を何点か挙げておく。
----------	---

参考書	早川善治郎編著『新版 概説マス・コミュニケーション』学文社、3300円、ISBN978-4-7620-2055-1 吉見俊哉『メディア文化論』有斐閣、1800円、ISBN4-641-12190-7 伊藤守編著『よくわかるメディア・スタディーズ』ミネルヴァ書房、2500円、ISBN978-4-623-05206-6 蒲島郁夫・竹下俊郎・芹川洋一『メディアと政治 改訂版』有斐閣、1900円、ISBN978-4-641-12423-3
-----	---

参考書	ゼミ生の関心に沿って適宜指示する。
-----	-------------------

履修コード	326901 326902
科目名	演習II 演習I
担当者名	中田 英幸

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習の目的は、財産法(民法総則・物権・債権)に関する判例を素材として、民法の解釈を学習することにある。紛争が発生した経緯を理解し、望ましい結論(法的判断)を考えることにより、法の運用を学び、法的思考を養う。
---------------------	--

授業スケジュール	前期は、財産法に関する基本判例を演習の素材とする。演習参加者は、初回到報告する判例を選び、報告前にレジュメの配布・参考文献の指定をする。後期は、最近の判例を演習の素材として前期と同じく報告をする。演習の進め方は前期と同様である。なお、報告者は、演習での質疑応答を踏まえたレポートを作成する。 また、選択により、卒業レポートの作成を目標とすることができる。自ら法的課題を見出し、学説・判例などそれに関する資料を集め、検討を加え、自らの結論を導く。演習において卒業レポートの中間報告を行う。 以上の内容は、演習参加者の希望や参加人数によって変更することがある。
----------	--

準備学習	民法総則・物権法・担保物権法・債権総論・債権各論といった財産法科目を勉強しておくこと。
------	---

履修上の留意点	民法に興味を持ち、勉強する意欲があることが大前提である。 必ず毎回出席し、積極的に発言すること。
---------	---

成績評価の方法	報告内容、演習での発言、レポートにより評価する。発言は、結論よりも、結論に至るまでの理由づけや思考過程を重視する。
---------	---

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	演習にて適宜指示する。
-----	-------------

履修コード	115301
科目名	会社法
担当者名	荒木 正孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	【注意】この講義を選択できるのは、法律学科の2年生で学生番号LK1001番からLK1200番までの学生と法律学科の3年生以上のすべての学生です。
---------------------	--

(授業概要)
この講義では、会社法(株式会社、持分会社(合名会社、合資会社、合同会社))の基本的かつ重要な事項について解説することを目的とするが、なかでも、現代の経済活動において最も大きな役割を果たしている株式会社の法規制について一年の大半の時間を割いて説明するつもりである。

(到達目標)
この講義では、株式会社の生成、機能、管理、構造、消滅等に関する私法的側面を中心に規制する株式会社法に重点を置き、そこにおける基本的かつ重要な問題を解説するとともに、裁判例や実務の対応などにも目を配り、株式会社法の基本的な考え方を習得することを目的とする。

授業スケジュール	第1回 授業計画、第2回 会社の意義・種類、第3回 会社法総則、第4回 株式会社法総論、第5回 ないし第8回 株式会社の設立手続き(定款作成・出資・発起設立・募集設立等)、第9回 株式会社の成立と設立の瑕疵、第10回 株式の意義と株主の権利、第11回 ないし第12回 株式の内容と種類、第13回 株主名簿と名義書換、第14回 株式の譲渡と担保、第15回 株券の発行と不発行、第16回 ないし第17回 自己株式の取得、第18回 株式の併合・分割・無償割当、第19回 株式の単位(単元株制度)、第20回 株式会社の機関、第21回 ないし第22回 株主総会、第23回 ないし第24回 取締役・取締役会、第25回 代表取締役、第26回 取締役と会社の関係、第27回 会計参与、第28回 監査役・監査役会、第29回 ないし第30回 募集株式の発行等。
----------	--

準備学習	授業の終了時に次の授業で取り扱う箇所を言うので、関連する部分をあらかじめ読んでおく と次の授業の内容をよく理解することができるでしょう。
------	---

履修上の留意点	会社法で使われる法概念の多くは、民法の財産法のそれを前提としているから、民法総則、物権法、債権法などの知識があると比較的理解が容易である。もともと、これらの知識が十分でなくても、講義の内容を理解するために必要な民法の知識や基本概念については、その都度説明するつもりなので、民法=財産法について十分な知識がなくても受講には差し支えない。 会社法の授業に限らないが、法律を学ぶ際には、必ず最新の六法を持参し、指示に従って常に条文を参照する必要がある。
---------	--

成績評価の方法	成績は、年度末に行なわれるペーパーテストの点数で評価する。
---------	-------------------------------

教科書/テキスト	教科書は、授業の初めに指示する。
----------	------------------

参考書	江頭・岩原・神作・藤田編『会社法判例百選』(有斐閣)
-----	----------------------------

履修コード	134411
科目名	会社法
担当者名	井上 健一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	【注意】この講義を選択できるのは、法律学科2年生で学生番号LK1201番以降の学生、法律学科3年生以上の学生、政治学科2年生以上の学生である。
---------------------	---

企業活動の内部的な規整である会社組織に関する法規整（いわゆる形式的な意味での会社法）について講義する。単なる制度の紹介にとどまらず、なぜそのような制度が存在するのかという「制度の存在理由」を、近時の敵対的買収と対抗策の問題などに代表されるような現実の会社実務との関係で理解することを心がける。前期は主としてコーポレートガバナンスに関する規整、後期は企業金融および組織再編に関する規整を中心に講義する。商法総則についても適宜会社法との関連部分について触れていく。

授業スケジュール	<p>前期 1 会社法総論：商法の体系および会社法の存在意義 2 会社の機関と法：コーポレートガバナンスに関する法規整（株主総会、取締役会・代表取締役、監査役等）</p> <p>後期 3 会社の資金調達と法規整（設立時の資金調達、設立後の資金調達：新株発行、社債等） 4 会社の組織再編（M&A等） 5 企業会計</p>
----------	--

準備学習	少なくとも民法（総則・債権各論）を履修済か、履修中であることが望ましい。日経などの新聞・雑誌の経済記事についてもアンテナを張っておくこと。
------	---

履修上の留意点	
成績評価の方法	原則として期末試験によるが、履修人数によっては授業内で質疑応答形式によるケースメソッドを実施し、その評価と合算して全体を評価する可能性もある。

教科書／テキスト	伊藤靖史・大杉謙一・田中亘・松井秀征「リーガルクエスト会社法」（有斐閣）
----------	--------------------------------------

参考書	江頭憲治郎『株式会社法』（有斐閣）、神田秀樹『会社法』（弘文堂）。その他、適宜授業内で紹介する。
-----	--

関連リンク	http://homepage3.nifty.com/inoue-k/
-------	---

履修コード	323501
科目名	会社法
担当者名	荒木 正孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) この講義では、会社法（株式会社、持分会社〔合名会社、合資会社、合同会社〕）の基本的かつ重要な事項について解説するが、とくに現代の経済活動において最も大きな役割を果たしている株式会社の法規制について一年の大半の時間を割くつもりである。</p> <p>(到達目標) この講義では、株式会社の生成、機能、管理、構造、消滅等に関する私法的側面を中心に規制する株式会社重点を置き、そこにおける基礎的かつ重要な問題を解説するとともに、裁判例や実務の対応などにも目を配り、株式会社法に関する基本的な考え方を習得することを目的とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 授業計画、第2回 会社の意義・種類、第3回 会社法総論、第4回 株式会社法総論、第5回ないし第8回 株式会社の設立手続き（定款の作成・出資・発起設立・募集設立等）、第9回 株式会社の成立と設立の瑕疵、第10回 株式の意義と株主の権利、第11回ないし第12回 株式の内容と種類、第13回 株主名簿と名義書換、第14回 株式の譲渡と担保、第15回 株券の発行と不発行、第16回ないし第17回 自己株式の取得、第18回 株式の併合・分割・無償割当、第19回 株式の単位（単元株制度）、第20回 株式会社の機関、第21回ないし第22回 株主総会、第23回ないし第24回 取締役・取締役会、第25回 代表取締役、第26回 取締役と会社の関係、第27回 会計参与、第28回 監査役・監査役会、第29回ないし第30回 募集株式の発行等。</p>
----------	--

準備学習	授業の終了時に次の授業で取り扱う項目を言うので、関連する部分に目を通しておけば、次の授業の内容をよりよく理解することができるでしょう。
------	---

履修上の留意点	<p>会社法は、民法（とくに財産法）を前提とすることから、民法総則、物権法、債権法などの知識があると講義の理解が容易である。ただ、これらの知識がなくても、講義の内容を理解するために必要な民法の知識や基本概念については、その都度必要な説明をするつもりであるから、民法＝財産法について十分な知識がなくても受講には差し支えない。</p> <p>少し重いかもしれないが、必ず最新の六法を持参し、常に条文を参照する必要がある。</p>
---------	--

成績評価の方法	成績は、年度末に行なわれるペーパーテストの点数で評価する。
---------	-------------------------------

教科書／テキスト	教科書については、授業の初めに指示する。
----------	----------------------

参考書	江頭・岩原・神作・藤田編 [会社法判例百選] (有斐閣)
-----	------------------------------

履修コード	120401 120402
科目名	外書講読I (英書) 外書講読II (英書)
担当者名	北野 かほる

授業概要/到達目標 (ねらい) 英語で書かれた英米法文献を用いて、英語文献の内容を理解することを目的とする。文献内容理解のために必要な英語能力の向上が最終目標である。

授業スケジュール 演習形式で行う。履修生は、あらかじめ指定された箇所を全員が読んで訳文案を作成し、毎回あらかじめ指定する担当者の訳を素材に、全員がその内容を検討する。進行度は履修生の英語読解力によって異なるので、年間の細かいスケジュールを立てることはせず、読解力と理解力の深化に応じて、一回ごとに読み進む分量を増やすようにする。

準備学習 授業に参加する前に、必ず、手持ちの辞書の利用方法を確認しておくこと。とりわけ、電子辞書について、熟語などの検索の仕方を確認しておくこと。電子辞書は、単語のみの入力で熟語などの用例が出てこないことがふつうなので、単語入力のみで辞書が引けると考えるのは間違いです。

履修上の留意点 十分な準備が必要になる。毎回、自分が報告担当者になるつもりで、十分な準備をすること。

成績評価の方法 毎回の出席および討論参加をもとにした平常点と、11月末に課する共通課題英文の翻訳レポート成績を合わせて判定する。

教科書/テキスト あらかじめ指定することはせず、年度当初に複数表示する入門書のなかから、履修生の希望によって、用いるテキストおよびその該当箇所を決定する。決定したテキストはコピーで配布するので、履修生が購入する必要はない。

参考書 随時指定する。

履修コード	120901 120902
科目名	外書講読I (中国書) 外書講読II (中国書)
担当者名	王 志安

授業概要/到達目標 (ねらい) 中国法に関連する中国の大学で使われる教科書や裁判判例を利用し、中国語の法文献を読める能力を養う。

授業スケジュール 文章の訳読を中心に授業を進めます。毎回、予習として翻訳された文書を書面で提出していただく。

準備学習 事前に配布された文献の正確な読み方を調べ、繰り返す発音練習をしておくこと

履修上の留意点 授業にはすべて出席することが前提です。やむを得ない理由(急病、急用、忌引、部活動等)により欠席する場合でも、6回を越えた場合は単位取得はできません。また、これまで中国語を勉強したことのない人は履修できません。

成績評価の方法 講義への出席を前提に、授業中の平常点で評価します。

教科書/テキスト 選定した中国語の法学関連教科書を開講時に配布します。

参考書 学生の関心を聞いたうえ、開講時に指定する。

履修コード	120701 120702
科目名	外書講読I (独書) 外書講読II (独書)
担当者名	松村 格

授業概要/到達目標 (ねらい) ドイツ語の法学文献を読むことを通して、ドイツ人の法的感覚・法意識・法理論の構成を学習し、日本人のそれらと比較することによって、日本と日本人の法意識についての長短を知ingことを目的とします。

授業スケジュール ドイツ語の法学文献を逐条解釈していきます。私が毎週指定した範囲の文章について、受講生が予習してきて全員が順番で翻訳発表することになります。そして、解釈の是非を相互に指摘しながら読み進めます。

準備学習 必ず授業の進度予定分の翻訳予習をすることが必要です。また、関連の日本文献を調べることも必要です。

履修上の留意点 毎週出席して参加することが不可欠です。日本の法学・法哲学・法理論の基本書で教材の関連事項を調べて比較検討することも必要です。そうすると、教材を理解しやすいです。ドイツ語の文法書と独和辞典を常に携帯してください。ノートに原文と訳文を筆記することも良策です。

成績評価の方法 普段の予習・復習の態度と講読力および出席回数によって評価します。

教科書/テキスト 意思の自由と刑事責任に関するドイツ文献を予定しています。

参考書 意思の自由と刑事責任に関する日本の文献を考えています。

履修コード	120801 120802
科目名	外書講読I (仏書) 外書講読II (仏書)
担当者名	中野 裕二
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業では、平易なフランス語で書かれたフランスの法律・政治に関する文献を講読し、その内容を理解し、受講生と共に議論していきます。この授業をとおして、フランス語能力の向上を図るとともにフランスの法律・政治に関する理解を深めることを目標とします。
授業スケジュール	毎回、分担箇所を日本語訳していきます。日本語訳が正しいか、文法の理解が正しいかどうかを逐語確認しながら読み進め、正しい日本語訳ができた後でその内容について議論します。授業の最後に、講読した範囲の全訳を提出してもらう予定です。
準備学習	フランス語初級以上の語学力を身につけておくこと。
履修上の留意点	フランス語の運用能力を確認するために、第1回授業でフランス語能力の確認テストを行います。運用能力に欠けると判断した場合は、受講を断る場合があります。また、少人数での授業が予想されるので、毎回休まずに出席することが望まれます。
成績評価の方法	毎回の出席と発表内容、講読範囲の全訳提出などを総合して成績評価とする。
教科書/テキスト	教材については、必要に応じてプリントを配布します。
参考書	

履修コード	117001 117002
科目名	家族法 相続法
担当者名	須賀 昭徳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 私的な社会生活には、財貨の生産・交換・配分などを目的とする保族生活の面（これを規律する法が財産法）と、種族保存を目的とする保族生活の面と、さらに、この保族生活に結合して、その裏づけをなしている経済生活の面（これを規律する法が身分法あるいは家族法）とがある。そして、保族生活それ自体に関する法律と保族生活の継続に関する法律に分けることができる。前者は親族法であり、後者は相続法である。家族法（身分法）は、その親族法と相続法を中心として講義していくものである。</p> <p>(到達目標) 親族法・相続法は個人の尊厳と男女平等等により相互協力により維持発展することを目的としていることを考えてほしい。 市民社会における身分関係について、戸籍、家庭裁判所、親族関係、夫婦親子、後見保佐等と死後における財産の移転である相続関係における権利と義務について理解してもらうと共に、適切な論述ができるようにする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>[前期]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 身分法（家族法）の概念 (2) 親族法総説 氏の取得と変動 (3) 戸籍の特色 (4) 家事紛争と家庭裁判所 (5) 親族 親族の範囲、親系と親等 (6) 親族関係の発生と消滅・親族関係の効果 (7) 婚姻とは 婚約と結納 (8) 婚姻の成立要件 実質的要件、形式的要件 (9) 婚姻の無効と取消 (10) 婚姻の効力 一般的効力、夫婦財産制 (11) 婚姻の解消 協議離婚、調停離婚、審判離婚 (12) 裁判離婚 (13) 離婚の効果 (1) (14) 離婚の効果 (2) (15) 内縁 <p>[後期]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 親子 (実子) 嫡出子 (2) 非嫡出子 (3) 親子 (養子) 普通養子、特別養子 (4) 親権 親権の成立、親権の効力、親権の消滅 (5) 後見、保佐 扶養 (6) 相続法 相続の概念、相続の種類 (7) 相続の開始 (8) 相続人 (9) 相続の効力 (10) 遺産分割 (11) 相続の承認および放棄 (12) 相続人の不存在 (13) 遺言 遺言の種類、遺言能力 (14) 遺言の方式、遺言の効力、遺言の執行 (15) 遺留分
----------	--

準備学習	<p>今回の講義の学習については、講義の最後に毎回指示する。</p>
履修上の留意点	
成績評価の方法	<p>学年末における筆記試験の成績を90%、講義中での発言や条文の正確な読み方、発表内容等を10%で評価する。</p>
教科書/テキスト	<p>我妻榮他著『民法3 親族法・相続法 第二版』勁草書房、2200円、ISBN 4-326-45075-4</p>
参考書	<p>講義の中で指示する。</p>

履修コード	326411
科目名	家族法
担当者名	須賀 昭徳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 私的な社会生活には、財貨の生産・交換・配分などを目的とする保族生活の面（これを規律する法が財産法）と、種族保存を目的とする保族生活の面と、さらに、この保族生活に結合して、その裏づけをなしている経済生活の面（これを規律する法が身分法あるいは家族法）とがある。そして、保族生活それ自体に関する法律と保族生活の継続に関する法律に分けることができる。前者は親族法であり、後者は相続法である。家族法（身分法）は、その親族法と相続法を中心として講義していくものである。</p> <p>(到達目標) 親族法・相続法は個人の尊厳と男女平等により相互協力により維持発展することを目的としていることを考えてほしい。 市民社会における身分関係について、戸籍、家庭裁判所、親族関係、夫婦親子、後見保佐等と死後における財産の移転である相続関係における権利と義務について理解してもらおうと共に、適切な論述ができるようにする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>[前期]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 身分法（家族法）の概念 (2) 親族法総説 氏の取得と変動 (3) 戸籍の特色 (4) 家事紛争と家庭裁判所 (5) 親族 親族の範囲、親系と親等 (6) 親族関係の発生と消滅・親族関係の効果 (7) 婚姻とは 婚約と結納 (8) 婚姻の成立要件 実質的要件、形式的要件 (9) 婚姻の無効と取消 (10) 婚姻の効力 一般的効力、夫婦財産制 (11) 婚姻の解消 協議離婚、調停離婚、審判離婚 (12) 裁判離婚 (13) 離婚の効果 (1) (14) 離婚の効果 (2) (15) 内縁 <p>[後期]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 親子 (実子) 嫡出子 (2) 非嫡出子 (3) 親子 (養子) 普通養子、特別養子 (4) 親権 親権の成立、親権の効力、親権の消滅 (5) 後見、保佐 扶養 (6) 相続法 相続の概念、相続の種類 (7) 相続の開始 (8) 相続人 (9) 相続の効力 (10) 遺産分割 (11) 相続の承認および放棄 (12) 相続人の不存在 (13) 遺言 遺言の種類、遺言能力 (14) 遺言の方式、遺言の効力、遺言の執行 (15) 遺留分
----------	--

準備学習	今回の講義の学習については、講義の最後に毎回指示する。
履修上の留意点	
成績評価の方法	学年末における筆記試験の成績を90%、講義中での発言や条文の正確な読み方、発表内容等を10%で評価する。
教科書/テキスト	我妻榮他著『民法3 親族法・相続法 第二版』勁草書房、2200円、ISBN 4-326-45075-4
参考書	講義の中で指示する。

履修コード	121701
科目名	基礎演習
担当者名	富井 幸雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	憲法の基本事項特に理論を習得するとともに、憲法判例の読み方を会得する。教科書の熟読、判例の熟読、それらに基づいた報告と討論を通じて、憲法の理論を自分の肉とするとともに、公務員試験等の憲法の問題を解けるまでの実力を養成することをめざす。
授業スケジュール	教科書等のあらかじめ指定した箇所と判例を熟読した上で、受講生間で順番に報告し、それをもとに討論する。受講生主体で授業は運営される。教員は時々質問をしてささやかに演習に参加する。 教科書の理論を受講生同士の討論で確認し、関連する判例を検討して、憲法の理解を深めていく。 前期は、憲法の基本原理と統治機構（国会、内閣、裁判所）について勉強する。後期は人権（自由権、社会権、平等権、国務請求権、新しい人権）をカバーする。前後期それぞれ最終授業時に試験を行う。
準備学習	報告を割り当てられた判例について、レジメを作成し受講生に配布する。判例に関連する部分を教科書で十分に学習し、質問事項を考えておく。
履修上の留意点	演習なので出席しなければ意味がない。通年で5回欠席すれば、その時点で単位認定の資格を失うものとする。遅刻の扱いについては開講時に決める。十分な事前の準備と予習をし、演習には積極的に参加する。演習での発言の内容は問わないので臆することなく議論に参加してほしい。ただし、明らかに予習してこなかったと認められるときは減点の対象となる。
成績評価の方法	平常点（出席と演習でのAcademic Performance（演習での積極性））と、前期と後期のテストで評価する。割合は平常点が40%、前期テストが30%、後期テストが30%とする。なお前期試験で15点を取れなかった者や無断で欠席した者は単位認定の資格を失うものとする。
教科書/テキスト	教科書として、芦部信喜・高橋和之補訂『憲法』（岩波書店）と、憲法判例百選1・11（第5版）を使用する。
参考書	適宜指示する。
その他	公務員や法科大学院進学希望者を主な対象とするが、そうでなくても憲法に関心がある者も歓迎する。1年間ゼミに参加しつづける強固な意志を持ち続けること。

履修コード	121801
科目名	基礎演習
担当者名	池田 実

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	3年次からのゼミに備え、演習形式での研究発表や討論の方法を習得することを目的としています。憲法に関するさまざまな学説・判例に広く接し、基礎的知識を確認するとともに、担当教員の与える課題や学生から提起された問題について、全員が調べ、まとめ、報告し、討論することを通じて、憲法に対する多角的な視点と広い問題関心を育てていきます。
授業スケジュール	〔前期〕 (1) 授業案内、(2)～(13) 日本国憲法に関する基礎知識の確認（講義／小テスト）および演習（研究発表／討論） 〔後期〕 (14)～(26) 日本国憲法に関する演習（研究発表／討論）
準備学習	研究発表のテーマは、原則として、教員が指定します。発表を割り当てられている人はもちろん、そうでない場合でも、最低限、教科書の該当ページを丁寧に予習し、討論に参加する準備を行ってください。
履修上の留意点	演習は、教員と学生が一体となってつくりあげる授業ですから、遅刻や無断欠席は厳に慎んでください。
成績評価の方法	出席、小テストの成績、研究報告、発言を総合的に評価します。（定期試験は実施しません。）
教科書/テキスト	池田実『憲法』（嵯峨野書院）3,300円＋税 ISBN978-4-7823-0517-1 *教科書は毎回の授業に必ず持参すること。教科書を持参していない者は欠席とみなします。
参考書	授業時に適宜指示します。
その他	法令や判例を緻密にフォローする生真面目さと、若者らしい柔軟かつ大胆な発想で憲法を科学する遊び心とを兼ね備えた、バイタリティあふれる学生諸君の履修を期待します。

履修コード	121901
科目名	基礎演習
担当者名	富樫 景子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本演習では、刑法総論の基本書を講読すること及び問題演習を行うことを通して、以下の能力を高めることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刑法総論の基礎知識を得ること。 ・刑法の学習方法を学ぶこと。 ・報告と議論の仕方を学ぶこと。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>◎報告者は刑法総論上の1つのテーマについて、2週にわたって、報告を担当する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告第1回目 (基礎知識の確認) 報告者がテキストをもとにレジュメを作成し、報告を行う。 その報告について、受講者全員で質疑応答・討論を行う。 ・報告2回目 (問題演習) 報告者が、指示された問題について、解答を準備し、報告を行う。 その報告について、受講者全員で質疑応答・討論を行う。 <p>◎必要に応じて、図書館利用や判例読解・レジュメ作成についての基礎知識を学ばずemiを行うことがある。</p>
----------	---

準備学習	<p>報告者は、テキストと参考文献を読み、報告の1週間前までにレジュメを作成・提出する。 報告者以外の受講者は、テキストの該当ページとレジュメを読み込み、疑問点等を考えてくこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>◎刑法の知識が不完全でも構わないが、演習に参加しながら学習し、わからないなりにゼミで発言することが参加条件である。</p> <p>◎ゼミに欠席する際には、必ず連絡すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回のゼミに無断欠席した者は、その後のゼミへの参加を認めないことがある。 ・2回目以降も、無断欠席があった場合は、単位を認定しないことがある。 <p>◎ゼミでは積極的に発言すること</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>出席率、提出したレジュメの内容、ゼミへの貢献、質疑応答の様子などの総合評価によって決定する。</p>
---------	---

教科書/テキスト	ゼミ初回に指示する。
----------	------------

参考書	演習時間内に指示する。
-----	-------------

その他	何事も主体的に活動する学生さんの参加を希望する。
-----	--------------------------

履修コード	122001
科目名	基礎演習
担当者名	藤田 有紀

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>3年次以降の専門演習に備え、判例・文献の収集方法や読み方、演習形式での報告や討論の方法、レジュメ作成技術等を習得するとともに、法律とくに民法が、暮らしの中のどのような場面で、どのように用いられるのかを、法的思考や論理的思考を構築する過程で学んでいきます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 演習の進め方や報告の順番等について受講者全員で相談 第2回 民法の基本原理や構造等に関する講義 第3回以降 事例問題・判例・文献をもとに演習 (主として、前期は民法の基礎的知識を確認し、後期は民法の専門的知識に触れる予定です)</p>
----------	--

どのような内容の判例・文献を扱うのかは、受講者の学習状況や時事問題を踏まえ、適宜指定していきます。事例問題の題材としては、「法律と人」「債権と物権」「人的担保と物的担保」「民法と家族」「交通事故損害賠償」「契約の成立と錯誤」「契約の不履行」等を考えています。

準備学習	<p>報告担当者は、配布するレジュメを事前に作成し、質問にも対応できるようにしておくことが必要となります。報告を担当しない学生も、報告担当者の報告を理解できるように該当箇所を勉強し、基礎知識を備えた上で演習に臨むようにして下さい。</p>
------	---

履修上の留意点	遅刻や無断欠席は厳に慎んで下さい。
---------	-------------------

成績評価の方法	報告内容、受講態度、演習に対する積極性、無断欠席や遅刻の有無等から総合的に評価します。
---------	---

教科書/テキスト	特に指定しません。六法必携。
----------	----------------

参考書	
-----	--

履修コード	122101
科目名	基礎演習
担当者名	和知 恵一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習は、三年次以降における民法の専門演習に参加するために必要な基礎知識を整理・確認し、より高度な研究に対する準備を行うことを目的とします。判例や関連文献の収集方法および利用の仕方、レポート・論文の作成方法、報告（プレゼンテーション）・討論の仕方などを修得することに努めてもらいます。コンピュータリテラシーの向上も目的としております。
授業スケジュール	前期は、最初に民法総則に関する基本的なテーマで、レポートを作成してもらいます。その後数回は、民法の基礎知識の確認を行ないながら、必要な範囲でレクチャーします。確認がすんだ時点で、事例問題を出題します。全員に夏期休暇を利用してレポートを作成してもらい、後期開始時に提出してもらいます。その際、全員をいくつかのグループに割り当てますので、数名のグループごとに報告を行っていただきます。その報告を基に、全員で議論をし、理解を深めます。授業はパソコン室を使用します。毎回各人に課題を与えますので、コンピュータを利用してYeStudy上で報告してもらいます。さらに各自が興味・関心を持った具体的問題について、それぞれがレポートし、全員で議論する場を持ちます。最終的には、ゼミ論を提出してもらいます。
準備学習	YeStudyを用いて、学習を進めますので、次回の授業準備をするため、必ずYeStudyを確認してください。
履修上の留意点	全員がレポート作成・発表・討論に参加することが義務付けられます。したがって、自主性・積極性・責任感を持った、意欲有る学生の参加を期待します。又コンピュータを利用して、インターネットにアクセスし、判例や文献の検索を行ないますので、多少コンピュータの知識があることを希望します。受講前に必ず学内コンピュータ使用のIDを取得し、パスワードを確認してください。コンピュータが得意でない人も丁寧に指導はいたします。
成績評価の方法	受講態度、提出レポート、報告内容（プレゼンテーションの出来）、ゼミ論などを総合的に評価します。出席することは当たり前のごとくであり欠席や遅刻は減点とします。適切な理由があるときは、届け出ることで、減点はしません。
教科書／テキスト	法令集（六法）を必ず持参すること。その他については、授業中に適宜指示します。
参考書	
その他	理由のない欠席があった場合は退ゼミしていただきます。年に数回のコンパを行う予定です。

履修コード	122201
科目名	基礎演習
担当者名	今尾 真
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	具体的事例（判例・教室説例）を素材として、民法の知識および経験則を総動員して、紛争を解決する際の法的なものの考え方（法的思考法）を身につけ、その考え方を実際に紛争に当てはめ適切な結論を導く（法解釈学の技術的訓練）という能力を養成する。
授業スケジュール	本演習は、民法の考え方、文献の読み方、討論の仕方、文章の書き方の訓練を行う。参加者は、教科書の指定されたテーマに関する諸文献を検索・熟読すること（読む）、法的争点を抽出してこれをめぐる判例・学説の解決策の可否を自分の頭で考えること（考える）、自分の考えを明快に展開して他人と討論できること（論ずる）、レポートにまとめること（書く）等が要求される。前期は、(1回)イントロダクション、(2~8回)民法総則の重要判例、(9~14回)物権法の重要判例(part 1)、後期は、(1回~7回)物権法の重要判例(Part 2)、(8~14回)債権総論の重要判例を素材として演習を行う。なお、授業スケジュールについては4月に詳細情報を確認のこと。
準備学習	予定表に即して、当該週に取り扱う判例の事実の概要・判旨を理解するとともに、これをめぐる判例評釈を熟読して、演習に臨むこと。
履修上の留意点	①ゼミはわたくし今尾とゼミ員との高度な信頼関係のもとに運営されるので、ゼミに休まず出席すること。②サブゼミ（事前学習会）は自覚と責任感をもって行うこと。これができない者は単位認定が困難である。③毎回のゼミで必ず発言することを心がける。④高い理想をもって、日々精進すること。
成績評価の方法	出席点（70%）・演習での発言内容（30%）等を総合評価。特に、判例報告における質の高いプレゼンや予習や普段の勉強に裏打ちされたレベルの高い発言を重視する。なお、レポート課題を課すかどうかについては、初回演習時に話し合いで決める。
教科書／テキスト	中田康裕・潮見義男・道垣内弘人『民法判例百選I [第6版]』(有斐閣(2009年))を基本テキストとして、適宜重要判例を補足する。
参考書	(1) 星野英一・平井宜雄・能見善久編『民法判例百選I総則・物権 [第五版]』(有斐閣)別冊ジュリスト159号2001年。(2) 内田貴、大村敦志編『民法の争点I (総則・物権・親族・相続)』(有斐閣)ジュリスト増刊2007年。(3) 川井健・鎌田薫・平野裕之編『新判例マニュアル民法I [総則]』(三省堂)2000年。
その他	各種国家試験・資格試験等を受験する者には、任意提出によるレポート・答案添削も行う。また、前期・後期の最終授業では、4時限と5時限の合同ゼミ発表会(対抗ゼミ)を行う予定である。とにかく、積極的に・主体的にゼミに臨みたいと思う学生は参加されたし。
関連リンク	http://www.geocities.jp/imao_seminar/index.html

履修コード	122301
科目名	基礎演習
担当者名	今尾 真
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	具体的事例(判例・教室説例)を素材として、民法の知識および経験則を総動員して、紛争を解決する際の法的なもののお考え方(法的思考法)を身につけ、その考え方を実際に紛争に当てはめ妥当な結論を導く(法解釈学の技術的訓練)という能力を養成する。
授業スケジュール	本演習は、民法の考え方、文献の読み方、討論の仕方、文章の書き方の訓練を行う。参加者は、教科書の指定されたテーマに関する諸文献を検索・熟読すること(読む)、法的争点を抽出してこれをめぐる判例・学説の解決策の当否を自分の頭で考えること(考える)、自分の考えを明快に展開して他人と討論できること(論ずる)、レポートにまとめること(書く)等が要求される。前期は、(1回)イントロダクション、(2~8回)民法総則の重要判例、(9~14回)物権法の重要判例(part 1)、後期は、(1回~7回)物権法の重要判例(Part 2)、(8~14回)債権総論の重要判例を素材として演習を行う。なお、授業スケジュールについては4月に詳細情報を確認のこと。
準備学習	予定表に即して、当該週に取り扱う判例の事実の概要・判旨を理解するとともに、これをめぐる判例評釈を熟読して、演習に臨むこと。
履修上の留意点	①ゼミはわたくし今尾とゼミ員との高度な信頼関係のもとに運営されるので、ゼミに休まず出席すること。②サブゼミ(事前学習会)は自覚と責任感をもって行うこと。これができない者は単位認定が困難である。③毎回のゼミで必ず発言することを心がける。④高い理想をもって、日々精進すること。
成績評価の方法	出席点(70%)・演習での発言内容(30%)等を総合評価。特に、判例報告における質の高いプレゼンや予習や普段の勉強に裏打ちされたレベルの高い発言を重視する。なお、レポート課題を課すかどうかについては、初回演習時に話し合いで決める。
教科書/テキスト	中田康裕・潮見義男・道垣内弘人『民法判例百選I[第6版]』(有斐閣(2009年))を基本テキストとして、適宜重要判例を補足する。
参考書	(1)星野英一・平井宜雄・能見善久編『民法判例百選I総則・物権[第五版]』(有斐閣)別冊ジュリスト159号2001年。(2)内田貴、大村敦志/編『民法の争点I(総則・物権・親族・相続)』(有斐閣)ジュリスト増刊2007年。(3)川井健・鎌田薫・平野裕之編『新判例マニュアル民法I[総則]』(三省堂)2000年。
その他	各種国家試験・資格試験等を受験する者には、任意提出によるレポート・答案添削も行う。また、前期・後期の最終授業では、4時限と5時限の合同ゼミ発表会(対抗ゼミ)を行う予定である。とにかく、積極的・主体的にゼミに臨みたいと思う学生は参加されたし。
関連リンク	http://www.geocities.jp/imao_seminar/index.html

履修コード	122401
科目名	基礎演習
担当者名	村木 保久

授業概要/
到達目標 (ねらい)

教えてもらう勉強でなく、自分で学ぶ勉強を目的とします。
刑法総論を中心に法律一般についての基本的な知識を確認し、専門ゼミに備え、基本的な研究方法（文献や判例の調べ方・読み方、レジュメの作成方法）および法的・論理的な思考方法を、研究テーマの報告と議論を通じて学びます。
さらに、適宜、時事問題を法的な視点から分析することも試みます。

授業スケジュール

刑法総論の基本的な事柄について担当したグループがレジュメを作成し報告します。さらに、その報告について全員で質疑応答を行います。
前期はテーマごとに課題を設定し基礎的な知識を整理して深めることを中心とします。
後期はテーマを含んだ事例問題を分析し試験等での答案作成の要領で報告します。
報告課題の予定：
第1回授業にあたっての注意を述べ、グループ分け、課題の分配などを予定しています。
第2回学派の争い（レジュメおよび報告の例を示しゼミの進め方を学ぶ）
第3回以降のテーマ（予定）：因果関係、行為と不作為犯、正当防衛の要件、緊急避難の法的性格、被害者の承諾、安楽死、結果的加重犯、責任能力、原因において自由な行為、故意の内容、過失の構造、事実の錯誤と法律の錯誤、未遂と中止、共犯の概要、共謀共同正犯
なお、報告内容・質疑の状況によっては複数回にまたがってそのテーマを研究することもあります。また、テーマとは別に時事問題を取り上げ説明することもあります。

準備学習

報告者は報告のために文献等を検討しレジュメを作成し、報告および質疑に耐える勉強をしておくこと。
報告者でないゼミ員も自己の教科書等で基礎的な知識を確認し報告者の報告を理解し、かつ質問できるようにしてゼミに臨むこと。

履修上の留意点

演習なので報告者以外の者も積極的に参加することを期待します。
報告者は報告当日までにレジュメ（前期）・答案形式のレポート（後期）を作成し提出すること。前期と後期で、少なくとも、それぞれ1回、年間2回報告を担当します（予定）。

成績評価の方法

平常点で評価します。
出席および演習への参加の態度-レジュメ、報告内容および講義時間における質疑-などにより評価します。

教科書/テキスト

とくに指定しません。

参考書

講義時間内に必要に応じて指示します。

その他

ゼミ形式で報告担当者が作成したレジュメを配付します。
4限・5限いずれかで希望者があまりにも偏在する場合には人数調整する、4限（または5限）希望者を5限（または4限）に移動してもらう、場合があります。

履修コード	122501
科目名	基礎演習
担当者名	村木 保久

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>教えてもらう勉強でなく、自分で学ぶ勉強を目的とします。</p> <p>刑法総論を中心に法律一般についての基本的な知識を確認し、専門ゼミに備え、基本的な研究方法（文献や判例の調べ方・読み方、レジュメの作成方法）および法的・論理的な思考方法を、研究テーマの報告と議論を通じて学びます。</p> <p>さらに、適宜、時事問題を法的な視点から分析することも試みます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>刑法総論の基本的な事柄について担当したグループがレジュメを作成し報告します。さらに、その報告について全員で質疑応答を行います。</p> <p>前期はテーマごとに課題を設定し基礎的な知識を整理して深めることを中心とします。後期はテーマを含んだ事例問題を分析し試験等での答案作成の要領で報告します。</p> <p>報告課題の予定： 第1回授業にあたっての注意を述べ、グループ分け、課題の分配などを予定しています。 第2回学部の争い（レジュメおよび報告の例を示しゼミの進め方を学ぶ） 第3回以降のテーマ（予定）：因果関係、行為と不作為犯、正当防衛の要件、緊急避難の法的性格、被害者の承諾、安楽死、結果的加重犯、責任能力、原因において自由な行為、故意の内容、過失の構造、事実の錯誤と法律の錯誤、未遂と中止、共犯の概要、共謀共同正犯</p> <p>なお、報告内容・質疑の状況によっては複数回にまたがってそのテーマを研究することもあります。また、テーマとは別に時事問題を取り上げ説明することもあります。</p>
----------	--

準備学習	<p>報告者は報告のために文献等を検討しレジュメを作成し、報告および質疑に耐える勉強をしておくこと。</p> <p>報告者でないゼミ員も自己の教科書等で基礎的な知識を確認し報告者の報告を理解し、かつ質問できるようにしてゼミに臨むこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>演習なので報告者以外の者も積極的に参加することを期待します。</p> <p>報告者は報告当日までにレジュメ（前期）・答案形式のレポート（後期）を作成し提出すること。前期と後期で、少なくとも、それぞれ1回、年間2回報告を担当します（予定）。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>平常点で評価します。</p> <p>出席および演習への参加の態度-レジュメ、報告内容および講義時間における質疑-などにより評価します。</p>
---------	--

教科書/テキスト	とくに指定しません。
----------	------------

参考書	講義時間内に必要に応じて指示します。
-----	--------------------

その他	<p>ゼミ形式で報告担当者が作成したレジュメを配付します。</p> <p>4限・5限いずれかで希望者があまりにも偏在する場合には人数調整する、4限（または5限）希望者を5限（または4限）に移動してもらう、場合があります。</p>
-----	--

履修コード	122601
科目名	基礎演習
担当者名	覚正 豊和

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この演習は刑事法における基礎的な問題の考察を通じて、法的知識を修得するとともに法的思考を形成することを目的とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>犯罪の成立要件である構成要件該当性、違法性、責任についての基本的な問題は勿論、死刑、保安処分、児童虐待、家庭内暴力、ストーカー、少年犯罪や各種犯罪および犯罪被害者補償などについて扱っていきたいと思っている。おおむね以下のような進行予定である。</p> <p>(1) ガイダンス (2) 演習の運営について (3) 刑事法学の研究手法、文献、判例の調べ方 (4) ~ (10) 各自発表テーマの設定と準備の仕方（レジュメの書き方） ・テーマ設定の理由、・テーマの関する争点や問題点、・テーマの関する学説の検討、 ・テーマの関する判例の検討、・テーマの関する諸外国の実態、・テーマの関する自分の意見 (11) ~ (25) 個別報告 (26) 総括</p>
----------	---

準備学習	新聞などを通じて犯罪報道に興味・関心を持つ。
------	------------------------

履修上の留意点	<p>演習は講義科目と異なり、ゼミナリス滕の主体的、積極的な参加により成り立つものであることを心がけて欲しい。</p>
---------	---

成績評価の方法	出席状況と平常点で総合評価する。
---------	------------------

教科書/テキスト	<p>斎藤・覚正「刑法への招待（総論）」（創成社）800円 ISBN978-4-7944-5015-9 斎藤・覚正「刑法への招待（各論）」（創成社）800円 ISBN978-4-7944-5016-6</p>
----------	--

参考書	参考書は授業時に適宜指示する
-----	----------------

その他	時間の許す限りにおいて、刑事裁判の傍聴や刑事施設の見学等を行いたい。
-----	------------------------------------

履修コード	127001
科目名	行政学
担当者名	田丸 大

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	例えば、ゴミの収集、建物や食品の安全性のチェック、今般の震災や原発事故対応、さらには金融危機における経済政策など、我々の日常生活は「行政」と密接に関わっている。そういった行政の活動や政策とはどのようなものか、また具体的にどのように世の中や我々の生活に関わっているのかといった点について理解を深めることが講義の狙いである。ニュース番組を初めとした視聴覚教材も時々用いながら、行政学の理論 (考え方・法則) と実際の事例 (ニュースなど) との関連に特に注意を払う予定である。
---------------------	--

授業スケジュール	行政学とは (1~6. ガイダンスを含む) 行政・政策を見る視点 (7~10)、行政の運営・政策の立案と民意の反映 (11~13)、国家観の変遷 (14~17) 行政国家、福祉国家 (18~22) 行政改革 (23~27) 民営化と規制緩和 (28~29) 地方自治と地方分権改革 (30)。() 内の数字は、講義の大まかな回数です。
----------	--

準備学習	新聞、ニュース番組をできるだけ毎日見て、教科書に書いてある行政理論と、現実の行政・政策の動きを結びつけて考える練習を積んでください。
------	--

履修上の留意点	現実の行政や政策と理論を結びつけて考えることが狙いであるので、新聞などに目を通す習慣をつけて欲しい。
---------	--

成績評価の方法	学年末試験1回と、授業内の理解度確認のための課題提出 (その回数や方法は、受講生の人数や教場によって決めるので、4月の開講時なるべく速やかに具体的に示します。) によります。また、ニュース検定試験2級の合格をもって、出席点を加点することも考える予定です。ニュース検定試験事務局との調整を行い、最初の授業でアナウンスします。以上現在のところ、試験90点、授業内課題10点の100点満点、ニュース検定2級合格者に10点の加点を考えています。
---------	--

教科書/テキスト	森田朗『現代の行政 (改訂版)』放送大学教育振興会、2000年、2,100円、ISBN9784595830846 半分程度しか使用しない予定である。ですが、教科書に線を引いたり、板書を書き込んだりしてもらうので、用意してください。
----------	---

参考書	早川純貴、内海麻利、田丸大、大山礼子『政策過程論-「政策科学」への招待』学陽書房、2004年、2,730円、ISBN9784313320352 適宜、参考書の該当ページ・箇所を指摘する。購入するか否かは、様子を見てで構わないと思います。
-----	---

その他	履修者が多く教場に入りきれない場合は、法律学科の学生には、フレックスBの時間帯の行政学をお勧めすることもあります。
-----	---

履修コード	324501
科目名	行政学
担当者名	田丸 大

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	例えば、ゴミの収集、建物や食品の安全性のチェック、今般の震災や原発事故対応、さらには金融危機における経済政策など、我々の日常生活は「行政」と密接に関わっている。そういった行政の活動や政策とはどのようなものか、また具体的にどのように世の中や我々の生活に関わっているのかといった点について理解を深めることが講義の狙いである。ニュース番組を初めとした視聴覚教材も時々用いながら、行政学の理論 (考え方・法則) と実際の事例 (ニュースなど) との関連に特に注意を払う予定である。
---------------------	--

授業スケジュール	行政学とは (1~6. ガイダンスを含む) 行政・政策を見る視点 (7~10)、行政の運営・政策の立案と民意の反映 (11~13)、国家観の変遷 (14~17) 行政国家、福祉国家 (18~22) 行政改革 (23~27) 民営化と規制緩和 (28~29) 地方自治と地方分権改革 (30)。() 内の数字は、講義の大まかな回数です。
----------	--

準備学習	新聞、ニュース番組をできるだけ毎日見て、教科書に書いてある行政理論と、現実の行政・政策の動きを結びつけて考える練習を積んでください。
------	--

履修上の留意点	現実の行政や政策と理論を結びつけて考えることが狙いであるので、各自でも新聞などに目を通す習慣をつけて欲しい。
---------	--

成績評価の方法	成績評価の方法 学年末試験1回と、授業内の理解度確認のための課題提出 (その回数や方法は、受講生の人数や教場によって決めるので、4月の開講時なるべく速やかに具体的に示します。) によります。また、ニュース検定試験2級の合格をもって、出席点を加点することも考える予定です。ニュース検定試験事務局との調整を行い、最初の授業でアナウンスします。以上現在のところ、試験90点、授業内課題10点の100点満点、ニュース検定2級合格者に10点の加点を考えています。
---------	---

教科書/テキスト	森田朗『現代の行政 (改訂版)』放送大学教育振興会、2000年、2,100円、ISBN9784595830846 半分程度しか使用しない予定である。ですが、教科書に線を引いたり、板書を書き込んだりしてもらうので、用意してください。
----------	---

参考書	早川純貴、内海麻利、田丸大、大山礼子『政策過程論-「政策科学」への招待』学陽書房、2004年、2,730円、ISBN9784313320352 科学」への招待』学陽書房、2004年、2,730円、ISBN9784313320352 適宜、参考書の該当ページ・箇所を指摘する。購入するか否かは、様子を見てで構わないと思います。
-----	--

履修コード	116501 116502
科目名	行政救済法 行政法各論
担当者名	金子 昇平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>現代の行政法は、従来、対象とされていない、新たな法分野が続出している。例えば、行政手続法、情報公開法等の制定をはじめ、各行政分野ごとの基本法が整備されようとしている。また現実の行政需要も変化、発達し、その適正化が求められている。</p> <p>講義は、行政紛争解決の手段として、行政救済法を、主な内容として行う。そこで具体的に、どのような行政上の不服申立て、行政事件、国家賠償事件が存在し、何が法律上の問題となっているのか、また、どのように法的解釈を、すべきかについて説明していきたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1) 行政救済法の観念 (1) 2) 行政争訟法 (2~16) <ol style="list-style-type: none"> ① 行政過程における行政争訟 (行政上の不服申立て、行政不服審査法、行政審判・苦情処理、オンブズマン) ② 行政事件訴訟法 (行政事件訴訟法の特徴、抗告訴訟、取消訴訟、取消訴訟の審理、取消訴訟の終了、取消訴訟における仮の救済、無効確認訴訟、争点訴訟、当事者訴訟、不作為の違法確認訴訟、義務付け訴訟、差止訴訟、法定外抗告訴訟、民衆訴訟、機関訴訟、司法審査権の限界) 3) 国家賠償法 (17~25) <p>国家賠償 (国家賠償法の位置づけと概要、公権力の行使にかかる賠償責任—国家賠償法一条、官造物の設置管理にかかる賠償責任—国家賠償法二条、賠償責任者、民法の通用)</p> 4) 損失補償 (26~30) <ol style="list-style-type: none"> ① 意義 (損失補償の要否) ② 憲法上の補償請求権の要否 (補償の内容、財産に対する補償、その他の補償項目) ③ 国家補償の谷間 (違法、無過失の場合、設置・管理無瑕疵の場合、正当行為の結果に関する責任、危険状態にかかる責任)
----------	--

準備学習	毎回、事前に教科書の該当部分を予め学習しておくこと。
履修上の留意点	行政法は、きわめて数多くの法律が登場してくるので、六法全書を必ず持参すること。
成績評価の方法	期末試験の成績により評価する。
教科書/テキスト	塩野宏『行政法Ⅱ』(行政救済法) [第五版] 有斐閣
参考書	塩野宏他編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』 [第五版] (有斐閣)
その他	

履修コード	326911
科目名	行政救済法
担当者名	赤松 晃

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「行政救済法」とは、行政機関による違法又は不当な行政作用により私人の権利利益に対する侵害が現に生じ、又は生じようとしているときに、私人を救済（法律が特に定める場合は自己の権利利益と関わらない紛争の解決としての訴訟を含む）するための法をいう。講義では、社会生活において必要な状況が生じたときに、必要な対応ができるように、「行政救済法」に関する基本的な知識及び考え方を学習する。したがって、講義での到達水準は、公務員採用試験のレベルとなる。
---------------------	--

授業スケジュール	講義は、原則として、指定テキストである宇賀克也『行政法概説II 行政救済法』（有斐閣、第3版、2011年）の目次に従って進めていく。行政不服審査法（(1)～(6)）、行政事件訴訟法（(7)～(22)）、国家補償法（(23)～(28)）の3分野の各分野の終了時に理解度の確認を行う。 (1) 序論 行政救済法の体系、序章 行政訴訟法の基礎 (2) 第1章 行政上の不服申立て総説 (3) 第2章 不服申立ての種類 (4) 第3章 不服申立ての要件 (5) 第4章 不服申立ての審理手続 (6) 第5章 特殊な不服申立て (7) 第6章 行政訴訟総説 (8) 第7章 行政訴訟の種類と実態 (9)～(10) 第8章 取消訴訟の基本的性格 (11) 第9章 取消訴訟の訴訟要件 (12)～(13) 第10章 取消訴訟の審理 (14) 第11章 取消訴訟の終了 (15) 第12章 取消訴訟における仮の救済（執行停止） (16) 第13章 無効等確認訴訟 (17) 第14章 不作為の違法確認訴訟 (18) 第15章 義務付け訴訟 (19) 第16章 差止訴訟 (20) 第17章 当事者訴訟 (21) 第18章 民衆訴訟・機関訴訟 (22) 行政訴訟のまとめ (23) 第19章 国家補償法の意義と機能 第20章 国家賠償総説 (24) 第21章 公権力の行使に関する国家賠償 (25) 第22章 公の営造物の設置管理の瑕疵に関する国家賠償 (26) 第23章 国家賠償法のその他の問題 (27) 第24章 損失補償 (28) 第25章 国家補償の谷間 (29)～(30) まとめ
----------	--

準備学習	・初回講義には、指定テキストである宇賀克也『行政法概説II 行政救済法』（有斐閣、第3版、2011年）を持参すること。 ・YeStudyにレジュメを事前に掲載するので、印刷して講義に持参すること。
------	---

履修上の留意点	関係法令は、随時、講義中に参照する。 http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi
---------	--

成績評価の方法	成績は、講義への積極的参加状況を踏まえ、3分野の各理解度（2割）、夏季課題レポートの内容（2割）、秋季課題の達成程度（1割）、期末試験（5割）を総合して評価する。夏季課題レポートの提出がない者は、定期試験の評価対象としないので必然的に単位を取得できない。
---------	---

教科書/テキスト	宇賀克也『行政法概説II—行政救済法』（有斐閣、3版、2011年）3,675円 ISBN:4641130930
----------	---

参考書	・橋本博之『解説 改正行政事件訴訟』（弘文堂、2004年）1,890円 ISBN:4335352859 ・高木・桜井・常岡・橋本『行政救済法』（弘文堂、2007年）3,465円 ISBN:4335354045 ・小早川・宇賀・交告編『行政判例百選(1)』第五版（有斐閣、2006年）2,310円 ISBN:4641114811 ・小早川・宇賀・交告編『行政判例百選(2)』第五版（有斐閣、2006年）2,310円 ISBN:464111482X
-----	---

その他	出欠確認、連絡事項、レジュメの配布などYeStudyを用いる。
-----	---------------------------------

関連リンク	http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi
-------	---

履修コード	115401 115402
科目名	行政法 行政法総論
担当者名	金子 昇平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代の行政法は、従来、対象とされていない新たな法分野が続出しているといえる。例えば、行政手続法の制定をはじめ、情報公開法、個人情報保護法、環境アセスメント法等を挙げる事が出来るが、これらの法領域に対応すべく行政法の理論を考えていかなければならない。そこで講義においては、行政法での、基本的な原理や原則に対する、よりアップ・ツー・デートな課題を積極的に掲示し、諸君とともに、問題発見と問題解決のための法的手法を考えてみたい。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>1) 行政法の基礎 (1~5)</p> <p>①行政と法の一般的関係 (行政の概念と分類、行政法の成立、行政法の特長)</p> <p>②日本行政法の基本構造 (公法・私法二元論とその有用性、行政法学のあり方)</p> <p>③行政法の法源 (成文法源、不文法源、行政法の効力)</p> <p>④日本行政法の基本原則 (法律による行政の原理、法治主義、行政のコントロール・システムの充実、法の一般原理)</p> <p>2) 行政過程論 (6~15)</p> <p>①行政の行為形成論 (行政立法・法規命令と行政規則)</p> <p>②行政行為 (行政行為の意義、行政行為と法の拘束、行政行為の種類、行政行為と裁量、行政行為の効力、行政行為の瑕疵、行政行為と法律関係、行政行為の附款)</p> <p>③行政上の契約 (問題の所在、行政上の契約の問題点)</p> <p>④行政指導 (意義、行政指導と法の拘束、行政指導と救済制度)</p> <p>⑤行政計画 (意義、計画と法の拘束、計画と救済制度)</p> <p>3) 行政上の一般的制度 (16~25)</p> <p>①行政上の義務履行確保 (行政上の強制執行、行政代執行、直接強制、執行罰)</p> <p>②即時強制</p> <p>③行政調査 (行政調査の意義及び問題点)</p> <p>④行政手続 (行政手続の意義と機能、適正手続の基本的内容、行政手続法の法源、行政手続法、命令・計画策定手続、手続の瑕疵と処分の効力)</p> <p>⑤行政情報管理 (情報公開、情報公開の理念・意義・展開、情報公開法、行政機関個人情報保護、行政スタイルの変革)</p> <p>4) 行政過程における私人 (26~30)</p> <p>①行政過程における私人の地位</p> <p>②行政過程における私人の行為</p>
----------	---

準備学習	毎回、事前に教科書の該当部分を予め学習しておくこと。
履修上の留意点	行政法は、きわめて数多くの法律が登場してくるので、六法全書を持参すること。
成績評価の方法	期末試験の成績により評価する。
教科書/テキスト	塩野宏『行政法Ⅰ』(行政法総論)〔第五版〕有斐閣
参考書	塩野宏他編『行政判例百選Ⅰ、Ⅱ』〔第五版〕(有斐閣)

履修コード	323601
科目名	行政法
担当者名	塩入 みほも

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	行政法とは、国家（国・地方）と国民又は住民との法律関係を規律している個別法規の総称です。したがって、実は存在する法令の約8割前後が行政法なのです。この講義では、その行政法の基本的な仕組みと理論一般について学びます。民法や刑法、憲法等の他の法分野とは異なって、学生レベルではあまり直接的な関連がないと思われがちですが、学生諸君も実は日常生活の様々な場面で行政法の規律に接しているのです。国家との関係における権利義務はもとより、交通取締・治安等に関わる警察権行使の適法・違法や国家賠償請求の可否など、国民・住民として行政法の知識は必要不可欠といえ、その知識は将来必ず役に立ちます。その知識の習得が当講義の到達目標です。
---------------------	---

授業スケジュール	(1)～(2)行政法とは何か：行政法の成立、行政の定義、行政法の領域 (3)～(5)行政法の基本構造：現代日本行政法の特徴、法治行政の原理 (6)～(8)行政法の法源：成文法源、不文法源 (9)～(11)行政作用の様々な分類論 (12)行政立法 (13)行政計画 (14)行政指導 (15)行政契約 (16)～(20)行政行為論：特徴、成立と消滅、効力、行為類型論 (21)～(22)行政裁量論 (23)～(24)行政行為の瑕疵 (25)～(26)職権取消しと撤回 (27)～(29)行政上の強制制度 (30)まとめ
----------	---

準備学習	毎回、授業内容の予習・復習に努めること。 予習については、教科書の指定は特にしないので、各自所有の専門書・参考書等で予定の範囲を通読し、論点等をある程度把握しておくこと。
------	--

履修上の留意点	行政法を初めて学習する者でもその基礎知識を一年間で習得できるよう、判例・通説を引用しながら、出来るだけ解り易く且つ簡潔に説明していくつもりです。特に国家・地方公務員や警察官・消防士、行政書士等の国家試験を目指している学生のため、出題頻度の高い問題はその都度指摘します。なお、六法は必携です。
---------	---

成績評価の方法	定期試験は学年末試験のみだが、前期も授業内テストを実施する。また、授業の進行状況や履修態度の如何によっては、レポート課題を出す。 成績評価は、定期試験50%、授業内テスト・レポート35%、平常点（不定期に確認する出欠等）15%とする。
---------	--

教科書／テキスト	特定の教科書は使用しません。但し、オリジナルノートが作れるように毎回丁寧に板書します。
----------	---

参考書	最初の講義の際に紹介します。
-----	----------------

履修コード	117501
科目名	経済原論
担当者名	福田 慎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、基本的なミクロ経済学とマクロ経済学について扱う。特に、公務員試験の他国家試験に対応できる知識を得ることを目的としている。こうした試験では、それ相応の問題が設定されているため、それに対応できる知識が得られる。また、実際の経済への応用を念頭に置きながら講義を進めていく。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと成績評価 2. 消費者理論：最適消費点と無差別曲線 3. 消費者理論：代替効果と所得効果 4. 消費者理論：効用関数の計算と需要曲線 5. 消費者理論：需要の価格弾力性 6. 生産者理論：利潤最大化と費用関数 7. 生産者理論：損益分岐点と操業停止点 8. 生産者理論：長期均衡、課税と費用曲線 9. 生産者理論：特定の生産関数の扱い 10. 不完全競争の生産者理論：独占と寡占 11. 不完全競争の生産者理論：独占的競争 12. 余剰分析 (1) 13. 余剰分析 (2) 14. 余剰分析 (3) 15. 前期の復習 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国民所得の決定 (1) 2. 国民所得の決定 (2) 3. IS-LM分析 4. 為替レート考慮したIS-LM分析 5. 消費関数と投資関数 6. 貨幣理論 7. 乗数理論 (1) 8. 乗数理論 (2) 9. 総需要・総供給分析 (1) 10. 総需要・総供給分析 (2) 11. 総需要・総供給分析 (3) 12. 総需要・総供給分析 (4) 13. 経済成長の理論 (1) 14. 経済成長の理論 (2) 15. 後期の復習
----------	--

準備学習	教科書に目を通しておいください。
履修上の留意点	ミクロ経済学ではある程度の数学の知識を要しますが、その都度説明していくので、数学初心者でも履修は可能です。
成績評価の方法	試験60%、レポート40%で評価する。
教科書/テキスト	伊藤元重(2003)『ミクロ経済学』日本評論社 伊藤元重(2002)『マクロ経済学』日本評論社
参考書	中谷巖(2000)『入門マクロ経済学』日本評論社 奥野正寛(2008)『ミクロ経済学』東京大学出版会
その他	事前に配布する資料と板書による講義形式です。

履修コード	324401 324402
科目名	経済原論
担当者名	藤原 碩宣

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要：経済学の基礎概念と理論、および日本経済の現状と問題点について実例をふまえて説明します。</p> <p>到達目標：経済学の基礎理論が理解できる。 日本経済の現状と問題点が理解できる。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済原論とはどのような学問か、前期授業のガイダンス、授業運営について 2. 経済学の歴史：アダム・スミスの経済学 3. 経済学の歴史：D. リカードと限界効用学派 4. 経済学の歴史：J. M. ケインズの経済学 5. 国民経済循環と産業連関表 6. 国民経済計算体系 7. 国内総生産の決定 1 8. 国内総生産の決定 2 9. ケインズによる不況克服策 10. 経済政策の体系 1 11. 経済政策の体系 2. 財政政策 12. 経済政策の体系 3. 金融政策 13. わが国戦後の経済政策の特質 14. 日本経済で今起こっている変化 15. 前期授業のまとめと質疑応答 16. 後期授業のガイダンス 17. 今年度の『経済財政白書』について 18. 経済主体の行動—ミクロ経済理論 19. 消費者選択の理論 1 20. 消費者選択の理論 2 21. 生産者行動の理論 1 22. 生産者行動の理論 2 23. 寡占経済の理論 1 24. 寡占経済の理論 2 25. 寡占経済の理論 3 26. 日本経済の構造変化—総論 27. 日本経済の構造変化—各論 1 28. 日本経済の構造変化—各論 2 29. 日本経済の構造変化—各論 3 30. 後期授業のまとめと質疑応答
----------	---

準備学習	授業でお話しした事柄についてノートを取り、次回迄に不明な点等を調べて、質問するなりし、確実な理解をしてください。
------	--

履修上の留意点

成績評価の方法	筆記試験で行います。前期授業範囲から1問、後期授業範囲から1問とします。授業終了時迄に提出された自助努力の成果物（レポート、スクラップ等）は、採点の際、加点します（1点から20点）。
---------	---

教科書／テキスト	使用しません。
----------	---------

参考書	適宜参考書等を紹介します。
-----	---------------

履修コード	119101
科目名	経済政策
担当者名	増田 幹人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経済政策の目的は、経済活動に対して政策介入することにより、人々の生活をより良いものにするにある。本講義では、経済政策とは何であるかについて、経済学の基礎知識、および経済政策の実例を挙げることで等により解説する。経済政策は、金融政策や財政政策を始めとして多岐に亘るが、比較的身近な事例を紹介することにより、分かりやすく経済政策が理解できるように努める。
---------------------	---

授業スケジュール	1. 経済政策とは何か、2. 規制・制度改革 ①余剰分析に基づく考察、②規制・制度改革の種類、③規制・制度改革の経済効果、3. 都市における産業集積 ①外部性に基づく考察、②規模の経済と集積の経済、③産業クラスター、4. 環境政策 ①外部性に基づく考察、②環境税、③排出権取引、④人口集積と環境、5. 土地政策 ①土地市場の特徴、②土地政策の歩み、③土地政策の手段、6. インフレ・デフレと失業 ①フィリップス曲線に基づく考察、②金融政策、③財政政策、7. 所得再分配政策 ①格差とジニ係数、②公的な受益と負担、8. 人口減少時代における経済政策 ①成長政策、②社会保障に関する政策、③少子化対策
----------	--

準備学習	経済政策の根底には経済理論があるが、少しでも経済理論に触れておくことが好ましい。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	学年末の定期試験、および出席状況などにより評価する。
---------	----------------------------

教科書/テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	① 南亮三郎・小苅米清弘・森岡仁 (1975) 『現代経済政策』千倉書房。(2,300円) ② 山田浩之・徳岡一幸編 (2002) 『地域経済学入門』有斐閣。(2,300円) ③ 大淵寛・阿藤誠編 (2005) 『少子化の政策学』原書房。(2,800円) ④ 岩田規久男・飯田泰之 (2006) 『ゼミナール 経済政策入門』日本経済新聞出版社。(3,200円)
-----	---

その他	授業方法は講義。
-----	----------

履修コード	119701
科目名	経済法
担当者名	若林 亜理砂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経済法を中心をなす独占禁止法を理解することを目標とする。独占禁止法は、市場における競争秩序の維持をなうものであるが、これは事業者の活動にかかわるのみならず、私たち消費者の生活にも密着している。この点を念頭に置き、講義では、なるべく多くの事例を紹介することにより、独占禁止法の解釈や運用について具体的なイメージをもって理解できるように進める予定である。
---------------------	---

授業スケジュール	以下のスケジュールで講義を行う予定である。 1 講義全体の説明、独占禁止法の基礎概念 2 経済法の成立 3 独占禁止法の目的・基礎概念 4 不当な取引制限 (1) 5 不当な取引制限 (2) 6 不当な取引制限 (3) 7 不当な取引制限 (4) 8 事業者団体 9 私的独占 (1) 10 私的独占 (2) 11 私的独占 (3) 12 一般集中規制 (1) 13 一般集中規制 (2) 14 市場集中規制 (1) 15 市場集中規制 (2) 16 不公正な取引方法概論 17 不当な取引拒絶 (1) 18 不当な取引拒絶 (2) 19 不当な差別対価 20 不当な差別的取扱 21 不当廉売 22 ぎまんの顧客誘引 23 不当な利益による顧客誘引 24 抱き合わせ 25 排他条件付き取引 26 再販売価格維持 27 拘束条件付き取引 28 優越的地位の濫用・不当な取引妨害 29 公正取引委員会 30 私的エンフォースメント・刑事罰
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	初回の説明を必ず聞いてから履修するようにしてください。
成績評価の方法	期末試験により評価を行う。
教科書/テキスト	泉水文雄他 リーガルクエスト『経済法』(有斐閣 2010)
参考書	別冊ジュリスト (No. 199) 『経済法判例・審決百選』(有斐閣)

履修コード	325201
科目名	経済法
担当者名	東出 浩一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経済法を中心をなす独占禁止法について、基本的な事項を理解することを目標とします。条文の解説にとどまらず、できるだけ具体的な事件の審判決や相談事例を紹介し、実際の事例でどのような事項が論点となったか等を説明することにより、実務的な理解が進むように講義を進める予定です。
---------------------	---

授業スケジュール	おおむね、次の事項について説明する予定です。 1 独占禁止法の概要 2 行為主体 3~6 私的独占・不当な取引制限 7~ 12 不公正な取引方法等 13~16 企業結合規制 17~22 事件処理手続・排除 措置・課徴金 23~24 争訟手続 25~26 適用除外 27 民事訴訟 28 刑事罰・犯則調査手続 29~30 ケーススタディ
----------	---

準備学習	教科書「経済法」(第6版)の該当部分を一読しておいてください。
履修上の留意点	レジュメを用いて講義を進めますが、講義の際にレジュメを配布することはありません。レジュメは、YeStudy にUPしておきますので、あらかじめ各自用意してください。
成績評価の方法	期末試験によって成績評価をします。
教科書/テキスト	「経済法」(第6版・岸井大太郎・向田直範ほか)・有斐閣アルマ
参考書	「逐条解説 平成21年改正独占禁止法」(藤井宣明・稲熊克己)・商事法務
その他	YeStudy のコース登録キーは、32520 です。
関連リンク	http://www.jftc.go.jp/

履修コード	118001
科目名	刑事政策
担当者名	覚正 豊和

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>犯罪とは何か、刑罰とは何か、非収容者の処遇の実態、犯罪者をどのように再社会化させるかなどについて単なる犯罪対策にとどまるのではなく、その社会的・文化的要因や身体的要因、犯罪学仮説、警察機構、刑事司法対策等の諸問題にわたり比較犯罪学的展開を踏まえた上で理解させていきたい。そして、犯罪学における基本理念をわが国の理論的現状をも対比しつつ、国際的動向との関係から正しく捉え犯罪を防衛するための合理的、合目的な手段・方法を探究していくことを目的とする。今日、とうとうと流れる国際社会において、犯罪者という社会のもっとも片隅においやられた人権の在り方を考えるということは、ますます重要な問題になってくるはずである。講義を通じてそれを概観していきたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 受講のガイダンス 刑事政策の意義と課題 刑事政策、犯罪学と規範学の相違について学ぶ。</p> <p>第2回 犯罪学の歴史と展開 その起源から近代学説までを学ぶ。</p> <p>第3回 現代犯罪学の課題 ラベリング理論、非犯罪化、非刑罰化、社会的統制理論などについて学ぶ。</p> <p>第4回 犯罪の理念 犯罪とはなにか。日常わたしたちが用いるよりも広義なものであることを学ぶ。</p> <p>第5回 刑事政策と暗数 犯罪統計と暗数の意味、被害調査、事故報告調査などについて学ぶ。</p> <p>第6回 犯罪の原因(1) 身体的・生理的要因について学ぶ。</p> <p>第7回 犯罪の原因(2) 個人環境的要因について学ぶ。</p> <p>第8回 犯罪の原因(3) 社会環境的要因について学ぶ。</p> <p>第9回 刑罰の意義・機能・沿革 意義機能はもちろん一般予防、特別予防、抑制主義、処罰の種類などについて学ぶ。</p> <p>第10回 死刑 憲法と死刑、存廃論、代替刑について学ぶ。</p> <p>第11回 自由刑 意義、歴史的考察、短期自由刑、不定期刑などについて学ぶ。</p> <p>第12回 財産刑 罰金の意義、特質、罰金と科料などについて学ぶ。</p> <p>第13回 保安処分 意義、種類、要件などについて学ぶ。</p> <p>第14回 少年保護手続 家庭裁判所と少年審判、少年法改正問題について学ぶ。</p> <p>第15回 定期試験(予定)</p> <p>第16回 犯罪者の処遇 意義、原則、動向について学ぶ。</p> <p>第17回 犯罪者の刑事司法政策(1) 警察 微罰処分、ダイヴァージョンなどについて学ぶ。</p> <p>第18回 犯罪者の刑事司法政策(2) 検察 起訴猶予などについて学ぶ。</p> <p>第19回 犯罪者の刑事司法政策(3) 裁判 量刑基準、宣告猶予、執行猶予、判決前調査などについて学ぶ。</p> <p>第20回 矯正の意義・目的 矯正処遇の意義、目的、観念、矯正処遇の原則などについて学ぶ。</p> <p>第21回 受刑者の処遇 法的地位、処遇原則、分類処遇、死刑確定者の処遇などについて学ぶ。</p> <p>第22回 犯罪の予防 意義、予防、予防活動、予測、問題点などについて学ぶ。</p> <p>第23回 更生保護 意義、措置、概況などについて学ぶ。</p> <p>第24回 恩赦・資格制度 恩赦の種類、効力、存在理由などについて学ぶ。</p> <p>第25回 被害者補償 意義、歴史、必要性、法的性質などについて学ぶ。</p> <p>第26回 各犯罪と対策 少年非行、女性犯罪などについて学ぶ。</p> <p>第27回 各種犯罪と対策 組織犯罪、ホワイトカラー犯罪などについて学ぶ。</p> <p>第28回 各種犯罪と対策 薬物、アルコール犯罪などについて学ぶ。</p> <p>第29回 まとめ 討論及び質疑</p> <p>第30回 定期試験</p>
----------	--

準備学習	新聞などを通じて犯罪報道に興味・関心を持とう。
履修上の留意点	初回の授業において指示する。
成績評価の方法	定期試験および平常点
教科書/テキスト	斉藤・覚正「刑事政策論」(八千代出版)3,500円 ISBN978-4-8429-1421-3
参考書	授業において指示する。

履修コード	323901
科目名	刑事政策
担当者名	覚正 豊和

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	犯罪とは何か、刑罰とは何か、非収容者の処遇の実態、犯罪者をどのように再社会化させるかなどについて単なる犯罪対策にとどまるのではなく、その社会的・文化的要因や身体的要因、犯罪学仮説、警察機構、刑事司法対策等の諸問題にわたり比較犯罪的展開を踏まえた上で理解させていきたい。そして、犯罪学における基本理念をわが国の理論的現状をも対比しつつ、国際的動向との関係から正しく捉え犯罪を防衛するための合理的、合目的な手段・方法を探求していくことを目的とする。今日、とうとうと流れる国際社会において、犯罪者という社会のもっとも片隅においやられた人権の在り方を考えるということは、ますます重要な問題になってくるはずである。講義を通じてそれを概観していきたい。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 受講のガイダンス 刑事政策の意義と課題 刑事政策、犯罪学と規範学の相違について学ぶ。</p> <p>第2回 犯罪学の歴史と展開 その起源から近代学説までを学ぶ。</p> <p>第3回 現代犯罪学の課題 ラベリング理論、非犯罪化、非刑罰化、社会的統制理論などについて学ぶ。</p> <p>第4回 犯罪の理念 犯罪とはなにか。日常わたしたちが用いるよりも広義なものであることを学ぶ。</p> <p>第5回 刑事政策と暗数 犯罪統計と暗数の意味、被害調査、事故報告調査などについて学ぶ。</p> <p>第6回 犯罪の原因 (1) 身体的・生理的要因について学ぶ。</p> <p>第7回 犯罪の原因 (2) 個人環境的要因について学ぶ。</p> <p>第8回 犯罪の原因 (3) 社会環境的要因について学ぶ。</p> <p>第9回 刑罰の意義・機能・沿革 意義機能はもちろん一般予防、特別予防、抑制主義、処罰の種類などについて学ぶ。</p> <p>第10回 死刑 憲法と死刑、存廃論、代替刑について学ぶ。</p> <p>第11回 自由刑 意義、歴史的考察、短期自由刑、不定期刑などについて学ぶ。</p> <p>第12回 財産刑 罰金の意義、特質、罰金と科料などについて学ぶ。</p> <p>第13回 保安処分 意義、種類、要件などについて学ぶ。</p> <p>第14回 少年保護手続 家庭裁判所と少年審判、少年法改正問題について学ぶ。</p> <p>第15回 定期試験 (予定)</p> <p>第16回 犯罪者の処遇 意義、原則、動向について学ぶ。</p> <p>第17回 犯罪者の刑事司法政策 (1) 警察 微罰処分、ダイヴァーションなどについて学ぶ。</p> <p>第18回 犯罪者の刑事司法政策 (2) 検察 起訴猶予などについて学ぶ。</p> <p>第19回 犯罪者の刑事司法政策 (3) 裁判 量刑基準、宣告猶予、執行猶予、判決前調査などについて学ぶ。</p> <p>第20回 矯正の意義・目的 矯正処遇の意義、目的、観念、矯正処遇の原則などについて学ぶ。</p> <p>第21回 受刑者の処遇 法的地位、処遇原則、分類処遇、死刑確定者の処遇などについて学ぶ。</p> <p>第22回 犯罪の予防 意義、予防、予防活動、予測、問題点などについて学ぶ。</p> <p>第23回 更生保護 意義、措置、概況などについて学ぶ。</p> <p>第24回 恩赦・資格制度 恩赦の種類、効力、存在理由などについて学ぶ。</p> <p>第25回 被害者補償 意義、歴史、必要性、法的性質などについて学ぶ。</p> <p>第26回 各犯罪と対策 少年非行、女性犯罪などについて学ぶ。</p> <p>第27回 各種犯罪と対策 組織犯罪、ホワイトカラー犯罪などについて学ぶ。</p> <p>第28回 各種犯罪と対策 薬物、アルコール犯罪などについて学ぶ。</p> <p>第29回 まとめ 討論及び質疑</p> <p>第30回 定期試験</p>
----------	---

準備学習	新聞などを通じて犯罪報道に興味・関心を持とう。
履修上の留意点	初回の授業において指示する。
成績評価の方法	定期試験および平常点
教科書／テキスト	斉藤・覚正「刑事政策論」(八千代出版)3,500円 ISBN978-4-8429-1421-3
参考書	授業において指示する。

履修コード	116201
科目名	刑事訴訟法
担当者名	田中 優企

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 日々のニュースや新聞等において「犯罪」に関わる報道に接しない日はありません。それだけ犯罪というのは、私たちのすぐ身近で起こり得る社会問題であるといえます。そして、この犯罪という社会問題を扱う法領域を「刑事法」といいます。この講義では、刑事法の内、犯罪となる事実を解明し、犯罪を犯した者に刑罰を科す「刑事手続」を規律する法について学びます。</p> <p>(到達目標) 刑事手続では、国家によって、対象者の権利・自由を制約する形で捜査が行なわれ、また、公訴・公判を経た後に対象者から生命・自由・財産を剥奪する形で刑罰が科されます。これら一連の国家の活動は、犯罪という社会問題の解決に必要な活動ですが、見方を変えると、いわば副作用を伴う劇薬のようなものともいえます。この講義では、この劇薬を的確かつ適正に取り扱うために、我が国の刑事手続は、いかなる考え方(基本原理・原則)に基づいて規律されているのか、実際にいかなる法運用が行なわれているのか、そこではいかなる問題が生じているのか、その問題についていかなる考え方が示されているのか、その問題はどのように解決されるべきなのかということについて、みなさんと共に考えていきます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (刑事訴訟法を学ぶ意義、刑事訴訟法の学び方、他の関連科目とのかかわりなど) 2. 刑事裁判のかたち 3. 刑事手続に関与する機関・人とその役割 4. 強制捜査と任意捜査 5. 職務質問・所持品検査・自動車検問 6. おとり捜査 7. 逮捕・勾留① 8. 逮捕・勾留② 9. 搜索・差押① 10. 搜索・差押② 11. 強制採尿・採血、写真撮影、通信傍受 12. 被疑者取調べ 13. 弁護権・接見交通権① 14. 弁護権・接見交通権② 15. 公訴手続、訴因制度 16. 起訴状一本主義 17. 公判前整理手続、証拠開示 18. 公判手続、裁判員制度 19. 訴因変更 20. 証拠法総論 21. 自白法則 22. 補強法則 23. 排除法則 24. 伝聞法則① 25. 伝聞法則② 26. 裁判 27. 上訴 28. 再審 29. 少年手続 30. 刑罰制度
----------	--

準備学習	<p>憲法はもちろんのこと、1年次及び2年次配当の刑事法科目(刑法総論、刑法各論、刑事政策)を履修・学習していると、刑事訴訟法の理解が、より一層、深まります。講義では、ニュースや新聞等で報道されている犯罪を素材にしながら話すこともあるので、日々のニュースや新聞等をチェックしておいてください。</p> <p>刑事訴訟法を勉強する際には、刑事手続に関与する各種機関(法務省、警察庁、検察庁、日本弁護士連合会、裁判所等)のホームページに掲載されている情報も重要ですので、定期的にチェックすることをおすすめします。</p>
------	--

履修上の留意点	教科書に沿って講義を進めますので、六法と共に必ず持参してください。
---------	-----------------------------------

成績評価の方法	<p>学年末試験の成績を基に評価します。</p> <p>ただし、学年末試験の成績が60点未満であった場合には、試験前に提出してもらったレポート(任意)も加味して評価します。レポートの課題や提出方法等の詳細については、第1回目の授業の時にお話します(後日、YeStudyにも掲載します)。</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>椎橋隆幸編『よくわかる刑事訴訟法』ミネルヴァ書房、2,600円、ISBN 978-4-623-05222-6</p> <p>井上正仁他編『刑事訴訟法判例百選(第9版)』有斐閣、2,400円、ISBN 978-4-641-11503-3</p>
----------	--

参考書	<p>渥美東洋『全訂刑事訴訟法(第2版)』有斐閣、5,300円、ISBN 978-4-641-04271-1</p> <p>椎橋隆幸編『プライマリー刑事訴訟法(第3版)』不磨書房、2,900円、ISBN 978-4-7972-8582-6</p> <p>関正晴編『刑事訴訟法』弘文堂、2,200円(予価)、2012年4月刊行予定</p> <p>椎橋隆幸編『ブリッジブック刑事裁判法』信山社、2,000円、ISBN 978-4-7972-2319-4</p> <p>渥美東洋・椎橋隆幸編『刑事訴訟法基本判例解説』信山社、価格未定、2012年4月刊行予定</p> <p>平良木登規男他編『判例講義刑事訴訟法』悠々社、価格未定、2012年4月刊行予定</p> <p>井田良『基礎から学ぶ刑事法(第4版)』有斐閣、1,890円、ISBN 978-4-641-12410-3</p>
-----	--

その他	講義に関する質問は、授業終了後はもちろんのこと、研究室でも受け付けます。
-----	--------------------------------------

履修コード	327001
科目名	刑事訴訟法
担当者名	田中 優企

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>日々のニュースや新聞等において「犯罪」に関わる報道に接しない日はありません。それだけ犯罪というのは、私たちのすぐ身近で起こり得る社会問題であるといえます。そして、この犯罪という社会問題を扱う法領域を「刑事法」といいます。この講義では、刑事法の内、犯罪となる事実を解明し、犯罪を犯した者に刑罰を科す「刑事手続」を規律する法について学びます。</p> <p>(到達目標)</p> <p>刑事手続では、国家によって、対象者の権利・自由を制約する形で捜査が行なわれ、また、公訴・公判を経た後に対象者から生命・自由・財産を剥奪する形で刑罰が科されます。これら一連の国家の活動は、犯罪という社会問題の解決に必要な活動ですが、見方を変えると、いわば副作用を伴う劇薬のようなものもいえます。この講義では、この劇薬を的確かつ適正に取り扱うために、我が国の刑事手続は、いかなる考え方(基本原理・原則)に基づいて規律されているのか、実際にいかなる法運用が行なわれているのか、そこではいかなる問題が生じているのか、その問題についていかなる考え方が示されているのか、その問題はどのように解決されるべきなのかということについて、みなさんと共に考えていきます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス (刑事訴訟法を学ぶ意義、刑事訴訟法の学び方、他の関連科目とのかかわりなど) 刑事裁判のかたち 刑事手続に関与する機関・人とその役割 強制捜査と任意捜査 職務質問・所持品検査・自動車検問 おとり捜査 逮捕・勾留① 逮捕・勾留② 搜索・差押① 搜索・差押② 強制採尿・採血、写真撮影、通信傍受 被疑者取調べ 弁護権・接見交通権① 弁護権・接見交通権② 公訴手続、訴因制度 起訴状一本主義 公判前整理手続、証拠開示 公判手続、裁判員制度 訴因変更 証拠法総論 自白法則 補強法則 排除法則 伝聞法則① 伝聞法則② 裁判 上訴 再審 少年手続 刑罰制度
----------	---

準備学習	<p>憲法はもちろんのこと、1年次及び2年次配当の刑事法科目(刑法総論、刑法各論、刑事政策)を履修・学習していると、刑事訴訟法の理解が、より一層、深まります。</p> <p>講義では、ニュースや新聞等で報道されている犯罪を素材にしながらお話しすることもあるので、日々のニュースや新聞等をチェックしておいてください。</p> <p>刑事訴訟法を勉強する際には、刑事手続に関与する各種機関(法務省、警察庁、検察庁、日本弁護士連合会、裁判所等)のホームページに掲載されている情報も重要ですので、定期的にチェックすることをすすめします。</p>
------	--

履修上の留意点	教科書に沿って講義を進めますので、六法と共に必ず持参してください。
---------	-----------------------------------

成績評価の方法	<p>学年末試験の成績を基に評価します。</p> <p>ただし、学年末試験の成績が60点未満であった場合には、試験前に提出してもらったレポート(任意)も加味して評価します。レポートの課題や提出方法等の詳細については、第1回目の授業の時にお話します(後日、YeStudyにも掲載します)。</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>椎橋隆幸編『よくわかる刑事訴訟法』ミネルヴァ書房、2,600円、ISBN 978-4-623-05222-6</p> <p>井上正仁他編『刑事訴訟法判例百選(第9版)』有斐閣、2,400円、ISBN 978-4-641-11503-3</p>
----------	--

参考書	<p>渡美東洋『全訂刑事訴訟法(第2版)』有斐閣、5,300円、ISBN 978-4-641-04271-1</p> <p>椎橋隆幸編『プライマリー刑事訴訟法(第3版)』不磨書房、2,900円、ISBN 978-4-7972-8582-6</p> <p>関正晴編『刑事訴訟法』弘文堂、2,200円(予価)、2012年4月刊行予定</p> <p>椎橋隆幸編『ブリッジブック刑事裁判法』信山社、2,000円、ISBN 978-4-7972-2319-4</p> <p>渡美東洋・椎橋隆幸編『刑事訴訟法基本判例解説』信山社、価格未定、2012年4月刊行予定</p> <p>平良木登規他編『判例講義刑事訴訟法』悠々社、価格未定、2012年4月刊行予定</p> <p>井田良『基礎から学ぶ刑事法(第4版)』有斐閣、1,890円、ISBN 978-4-641-12410-3</p>
-----	---

その他	講義に関する質問は、授業終了後はもちろんのこと、研究室でも受け付けます。
-----	--------------------------------------

履修コード	115801
科目名	刑法各論
担当者名	佐藤 多美夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	刑法各論は犯罪類型の具体的内容を、その個別的な特徴を重視しつつ明らかにすることを目指す。すなわち刑法各論は主に刑法典の罪第2編を中心に、具体的犯罪類型を説明する。
授業スケジュール	以下の講義内容であるが財産犯の講義に多くを当てたい。

1. 刑法各論の全体像
2. 生命・身体に対する罪
 - 2-1 総説
 - 2-2 殺人の罪
 - 2-3 傷害の罪
 - 2-4 過失傷害
 - 2-5 堕胎の罪
 - 2-6 毀棄の罪
3. 自由に対する罪
 - 3-1 逮捕及び監禁の罪
 - 3-2 脅迫の罪
 - 3-3 略取及び誘拐及び人身売買の罪
 - 3-4 強制わいせつ・強姦罪
 - 3-5 住居侵入罪
 - 3-6 秘密を侵す罪
4. 名誉・信用に対する罪
5. 財産に対する罪
 - 5-1 総説
 - 5-2 窃盗罪
 - 5-3 強盗罪
 - 5-4 詐欺罪
 - 5-5 恐喝罪
 - 5-6 横領罪
 - 5-7 背任罪
 - 5-8 盗品等に関する罪
 - 5-9 毀棄隠匿の罪
6. 公衆の安全に対する罪
7. 偽造の罪
8. 風俗秩序に対する罪
9. 国家法益に対する罪

準備学習	予習及び復習
履修上の留意点	刑法に興味をもって、意欲的に継続して学習することを期待する。授業に出席すること。
成績評価の方法	定期試験等総合して評価する。
教科書／テキスト	教科書は、大学指定書店に照会してください。
参考書	最初の講義時に入門書、基本書、判例集等をお知らせします。その他は講義中にお知らせします。

履修コード	324701
科目名	刑法各論
担当者名	松村 格

授業概要/
到達目標 (ねらい)

刑法各論は犯罪類型の具体的内容を、その個別的な特徴を重視しつつ明らかにすることを目指します。したがって、刑法各論は主に刑法典各則の解釈論が中心になります。

授業スケジュール

刑法各論は、以下の罪についての解釈論ですが、われわれの生活に身近な犯罪を中心に講義していきたいと思う。

- 1 刑法各論の全体像
- 2 生命・身体に対する罪
- 3 自由に対する罪
- 4 名誉・信用に対する罪
- 5 財産に対する罪 (総説、窃盗罪・強盗罪・詐欺罪・恐喝罪・横領罪・背任罪・盗品等に関する罪・毀棄隠匿の罪)
- 6 公衆の安全に対する罪
- 7 偽造の罪
- 8 風俗秩序に対する罪
- 9 国家法益に対する罪

準備学習

講義予定の犯罪について、事前に条文をよく読み、それについての教科書の解説箇所を十分に読んでおくことです。

履修上の留意点

刑法に興味をもって、意欲的に継続して学習することを期待する。授業に出席すること。

成績評価の方法

定期試験の成績及び出席状況を含む平常点を総合して評価する。

教科書/テキスト

教科書は、松村格著『日本刑法各論教科書』第2版(八千代出版)を使用しますので、大学の指定書店で購入してください。

参考書

入門書は、松村格著『刑法学への誘い』全訂版(八千代出版)(第13話以降)、参考書は、井田・神田・武田・野崎・松村著『刑法総論』(ミネルヴァ書房)を推奨します。判例集については、最初の講義でお知らせいたします。

履修コード	115001
科目名	刑法総論
担当者名	富樫 景子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、刑法総論のうち「構成要件該当性、違法性、有責性」といった犯罪論体系を総合的に学習し、得られた知識を活用して課題事例の解決を考えていく。これにより、刑法の使命や各学説の狙い等の理論的考察を深める一方で、具体的な問題についても一定の解決を示すことができるようになることが目標である。講義の最終目標は、講義終了後も受講者が一人で刑法の基本書を読み進め、自学自習を継続できるようになることである。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション刑法総論 2. 刑法の基本原則（罪刑法定主義、責任主義） 【構成要件論】 3-4. 犯罪の展開（予備／未遂／既遂、実行の着手） 5-7. 犯罪行為と因果関係（実行行為概念や因果関係論） 8-9. 未遂と不能（未遂犯と不能犯の区別、中止未遂） 9-10. 不作為犯論（真正不作為犯、不真正不作為犯について） 11. 構成要件論まとめ（調整日） 【違法性論】 12. 違法性論総論 13-15. 正当防衛論 16. 緊急避難論 17. その他の違法性阻却事由 【責任論】 18. 責任論総論 19-20. 故意論と違法性の意識 21-23. 錯誤論（客体/因果関係/あてはめの錯誤、事実の錯誤、法律の錯誤） 【正犯・共犯論】 24. 共犯論総論（正犯と共犯、必要的共犯等） 25-26. 正犯論（間接正犯、（共謀）共同正犯について） 27. 共犯論（教唆犯と幫助犯） 28-29. 正犯・共犯論の諸問題（調整日）
----------	---

* 受講生の理解に応じて進度を調整するので、実際の講義はこの通りに進まない場合がある。

準備学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義終了時に次回講義内容を予告するので、YeStudyから当該部分のレジュメを入手し、教科書とともに目を通しておくこと。 2. 講義中に指示された課題について、各自で考えてくること。 （詳しくは第1回目の講義中に指示する）
------	---

履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書、六法（小型のもので構わない）、配布資料を必ず持参すること。 2. 資料はYeStudyを通じて配布するので、必ず講義前までに各自で印刷し、持参すること。 3. 暗記に終わらない主体的な学習を实践するため、自習課題を課す。これについては講義の環境であるから、次の講義までに、教科書等を参考にして、必ず自分で考えてきてほしい。 4. 他者の受講の妨げとなる行為については、退席を命じることがある。
---------	--

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年末の定期試験による。 ・ レポートを課す場合には、課題内容・提出方法・成績評価方法等の詳細について、講義内およびYeStudyを通じて告知する。 ・ 小テスト・出席調査は行わない。
---------	--

教科書／テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曾根威彦『刑法総論 [第4版]』（[法律学講義シリーズ] 弘文堂、3150円、ISBN 978-4335313561 ・ その他、YeStudyを通じてレジュメを配布する。
----------	---

参考書	演習時間内に指示する。
-----	-------------

履修コード	115101
科目名	刑法総論
担当者名	松村 格

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	刑法総論では、刑法各論のように殺人罪、窃盗罪といった個々の犯罪を扱うのではなく、それら個別の犯罪が共通にもっている要件の概念内容を検討します。したがって、犯罪論が講義の中心となります。そして、犯罪論の基本的な重要事項について、その意義と問題点を学説や判例をふまえながら考え、体系的に刑法総論を理解し、自分の見解を模索します。
---------------------	--

授業スケジュール	I 序説 1 刑法の意義 2 刑法総論の意義 3 刑法の使命と原理原則 4 刑法学説史と刑罰論 II 構成要件 1 意義と機能と態様 2 故意過失 3 構成要件の錯誤 4 不真正不作為犯 5 因果関係 III 違法性 1 本質と実質 2 正当業務行為 3 正当防衛 4 緊急避難 IV 責任 1 意義と本質 2 責任能力 3 違法性の錯誤 4 期待可能性 V 未遂 1 処罰根拠と実行の着手 2 中止未遂 3 不能未遂 VI 共犯 1 総説 2 教唆犯 3 幫助犯 4 共同正犯 VII 共犯の諸問題 1 片面的共犯・承継的共犯 2 共犯と中止犯・離脱 3 共犯と錯誤 4 共犯と身分 VIII 罪数論
----------	--

準備学習	講義予定の教科書の部分を事前によく読んでおくことです。講義を聴いてノートをとるだけでは、なかなか理解することができません。
------	---

履修上の留意点	参考書は必要ありません。教科書を何度も読み直して予習及び復習することが必要です。
---------	--

成績評価の方法	定期試験で評価します。時間の余裕があれば、途中で小テストをすることがありますが、その場合は、事前に通告します。
---------	---

教科書/テキスト	教科書は、松村格著『日本刑法総論教科書』（八千代出版）を使用しますので、学内指定書店で購入してください。
----------	--

参考書	最初の講義時に判例集等についてお知らせいたします。1年生の間は、参考書は必要ありません。2年生以降で法曹界を目指す人には、松村・都築・神田・野崎著『刑法総論』（ミネルヴァ書房）を推奨します。入門書は、刑法総論の全体像を事前に把握しておくためにも、松村格著『刑法学への誘い』全訂版（八千代出版）を推奨しますので、第11話までを読むと理解しやすいです。
-----	--

その他	
-----	--

履修コード	323301
科目名	刑法総論
担当者名	佐藤 多美夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では刑法総論の分野を扱います。刑法総論は刑法各論のように殺人罪、窃盗罪といった個々の犯罪を扱うのではなく、それらの犯罪の共通にもっている性格を明らかにいたします。そこで、犯罪の基本的、重要な課題について、その意義と問題点を学説や判例をふまえながらすすめ、体系的に刑法総論を理解する。
---------------------	--

授業スケジュール	以下の講義内容であるが時間の都合で省略する箇所があり得るかもしれません。 I 序説 1 はじめに 2 刑法とはなにか 3 犯罪論の基礎 4 罪刑法定主義と刑法の解釈 II 構成要件 1 総説 2 結果 3 実行為 4 不作為犯 5 因果関係 6 未遂 III 違法性 1 総説 2 正当業務行為 3 正当防衛 4 緊急避難 IV 責任 1 総説 2 責任能力 3 故意 4 過失 5 期待可能性 V 共犯 1 総説 2 共同正犯 3 共謀共同正犯 4 承継的共同正犯 5 過失の共同正犯 6 教唆犯 7 幫助犯 VI 共犯の諸問題 1 共犯と身分 2 不作為と共犯 3 共犯と錯誤 4 共犯の中止、離脱 VII 罪数論
----------	--

準備学習	予習及び復習
履修上の留意点	
成績評価の方法	試験等総合的に評価する。
教科書／テキスト	教科書は使用しますので学内指定書店に照会して下さい。
参考書	最初の講義時に入門書・基本書・判例集等についてお知らせいたします。

履修コード	101201 101202 101203
科目名	現代産業事情III 現代企業論 特殊講義II
担当者名	百田 義治

授業概要/
到達目標 (ねらい)

本科目は東京税理士会の寄附講座として開講されます。東京税理士会所属の14人の現役の税理士の方々（そのほとんどは駒澤大学または駒澤大学大学院の卒業生）が、それぞれの実務経験を踏まえながら、税理士の役割や社会的使命、さまざまな税法の内容や意義、また税理士の実際の姿などについて、わかりやすく講義します。受講生が、本授業を通して、財政や租税に関する実地的な知識を獲得し、できれば税理士や公認会計士などの職業会計人を目指す機会となることを期待しています。

授業スケジュール

- 以下のテーマでの授業を予定しています。
- 第1回 わが国の租税制度と税理士制度
 - 第2回 グローバル経営と法人税制（組織再編税制）
 - 第3回 法人と個人の税金のしくみ
 - 第4回 相続人と遺産分割
 - 第5回 相続税と相続財産の評価 贈与税の概要
 - 第6回 所得税の概要
 - 第7回 法人税の概要
 - 第8回 租税教育と税理士の社会貢献
 - 第9回 リスク・マネジメントと税務会計
 - 第10回 税理士と地方自治体監査制度
 - 第11回 税務調査と税理士
 - 第12回 サラリーマンと税金のはなし—住宅取得から売却まで—
 - 第13回 消費税のしくみについて
 - 第14回 税制改正の概要
 - 第15回 まとめ

準備学習

この授業では、14人の東京税理士会の現役の税理士さんが、それぞれの専門分野について日頃の実務経験に基づいて講義を行います。すべての講義のテーマが決定されていますので、毎回それぞれのテーマについて、今、何が問題なのかを事前に学習して授業に参加することが求められます。新聞やネットを駆使して、準備学習して授業に参加すればするほど、学習成果は大きくなります。また、準備学習して質疑のコーナーで質問をすれば、授業も楽しくなります。

履修上の留意点

租税制度や税務、税理士など職業会計人に関心がある人の受講を期待します。

成績評価の方法

定期試験（レポート試験）と14回の毎回の授業に関する小レポートで総合的に評価する。

教科書/テキスト

毎回資料を配布する。

参考書

特になし。

その他

この科目は、履修制限（150名～200名）をします。最初の授業で履修制限の説明をします。本授業はすべて外部講師（税理士）の方々によって進められます。授業における私語および携帯電話の使用は禁止します。また講師講演中の遅刻入場や途中退席も原則として禁止します。

履修コード	114601
科目名	憲法
担当者名	山中 倫太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業の到達目標は、法律学を専攻する者を念頭において、日本国憲法の基本的な知識および思考方法を習得することである。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法と憲法学 2. 日本国憲法の歴史 3. 基本的人権総論 4. 幸福追求権 5. 平等原則 6. 思想・良心の自由 7. 学問の自由 8. 信教の自由、政教分離 9. 表現の自由 (1) 10. 表現の自由 (2) 11. 結社の自由 12. 職業の自由 13. 財産権 14. 社会権 15. 人身の自由、法定手続の保障 16. 国務請求権 17. 参政権 18. 統治機構総論 19. 国会 (1) 20. 国会 (2) 21. 内閣・行政各部 22. 裁判所 (1) 23. 裁判所 (2) 24. 憲法訴訟 (1) 25. 憲法訴訟 (2) 26. 財政 27. 地方自治 28. 平和主義、国際協調主義 (1) 29. 平和主義、国際協調主義 (2) 30. 憲法保障、憲法改正
----------	---

準備学習	次の講義内容について、教科書・参考書の該当箇所をあらかじめ一読しておくことが望ましい。
履修上の留意点	毎回レジュメを配布しそれに沿って授業を行うが、教科書も適宜参照する。
成績評価の方法	学年末試験による。事前に予告の上で、学期中に小テストを実施し、その成績も成績評価に加えることもある (小テストの配点は、全体の20%を上限とする)。
教科書/テキスト	松浦一夫 (編著) 『憲法入門』 (三和書籍・2012年) (4月刊行予定)
参考書	大石眞・大沢秀介編 『判例憲法』 (有斐閣・2009年) 西修編著 『エレメンタリ憲法』 (成文堂・2007年)

履修コード	114701
科目名	憲法
担当者名	奥村 公輔

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	憲法は、個人の人権を保障し、国の統治機構のあり方を定めている。その憲法の内容を学習しながら、具体的事例の検討を通じて、憲法が我々の生活に密接不可分なものであることを理解する。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法とは何か 2. 憲法の解釈と法令の解釈 3. 人権享有主体 4. 人権保障の限界 5. 私人間効力 6. 違憲審査基準 7. 幸福追求権 8. 平等権 9. 精神的自由 (1) —思想・良心の自由— 10. 精神的自由 (2) —信教の自由— 11. 精神的自由 (3) —学問の自由— 12. 精神的自由 (4) —表現の自由①— 13. 精神的自由 (5) —表現の自由②— 14. 精神的自由 (6) —集会・結社の自由— 15. 経済的自由 (1) —職業選択の自由— 16. 経済的自由 (2) —財産権— 17. 人身の自由 18. 公務請求権 19. 参政権 20. 権力分立原理 21. 議院内閣制 22. 選挙制度 23. 国会と立法 24. 内閣と行政 25. 裁判所と司法 26. 司法権の限界 27. 違憲審査制 28. 財政民主主義 29. 地方自治 30. 平和主義
----------	---

準備学習	次週の講義内容を告知するので、教科書の該当部分を読んで予習してることが望ましい。
履修上の留意点	毎回レジュメを配布しそれに沿って授業を行うが、教科書も適宜参照するので必ず購入すること。
成績評価の方法	学年末試験による。
教科書／テキスト	松浦一夫編『憲法入門』三和書籍、2012年4月刊行予定
参考書	

履修コード	323101
科目名	憲法
担当者名	奥村 公輔

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	憲法は、個人の人権を保障し、国の統治機構のあり方を定めている。その憲法の内容を学習しながら、具体的事例の検討を通じて、憲法が我々の生活に密接不可分なものであることを理解する。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法とは何か 2. 憲法の解釈と法令の解釈 3. 人権享有主体 4. 人権保障の限界 5. 私人間効力 6. 違憲審査基準 7. 幸福追求権 8. 平等権 9. 精神的自由 (1) —思想・良心の自由— 10. 精神的自由 (2) —信教の自由— 11. 精神的自由 (3) —学問の自由— 12. 精神的自由 (4) —表現の自由①— 13. 精神的自由 (5) —表現の自由②— 14. 精神的自由 (6) —集会・結社の自由— 15. 経済的自由 (1) —職業選択の自由— 16. 経済的自由 (2) —財産権— 17. 人身の自由 18. 国務請求権 19. 参政権 20. 権力分立原理 21. 議院内閣制 22. 選挙制度 23. 国会と立法 24. 内閣と行政 25. 裁判所と司法 26. 司法権の限界 27. 違憲審査制 28. 財政民主主義 29. 地方自治 30. 平和主義
----------	---

準備学習	次週の講義内容を告知するので、教科書の該当部分を読んで予習してることが望ましい。
履修上の留意点	毎回レジュメを配布しそれに沿って授業を行うが、教科書も適宜参照するので必ず購入すること。
成績評価の方法	学年末試験による。
教科書／テキスト	松浦一夫編『憲法入門』三和書籍、2012年4月刊行予定
参考書	

履修コード	114511 114512
科目名	公法入門 法学概論B
担当者名	赤松 晃 富樫 景子

授業概要/ 到達目標(ねらい)	かつての通年科目であった「法学概論」を、平成16年度から「法学概論」「公法入門」「私法入門」の3つの半期科目に分割していたが、これを再び「法学概論」に統合したことに伴い、本講義は、「公法入門」の単位を未だ取得していない学生(再履修)のみを対象として開講する科目である。
--------------------	--

授業スケジュール	前半は「刑法」を専門とする教員、後半は「行政法」を専門とする教員が担当する。それぞれ講義を6回行い、第7回目にテストを実施する。
----------	--

前半：刑法(富樫)

1. 刑事法とは何か
2. 犯罪論体系と犯罪の成立要件(刑法総論)
3. 犯罪カタログ(刑法各論)
4. 刑事手続きのしくみ(刑事訴訟法)
5. 犯罪原因論と犯罪者の処遇(刑事政策)
6. 現代社会と刑事法
7. 試験

後半：行政法(赤松)

1. 行政法とは何か
2. 行政法の法源
3. 行政法の領域
4. 法治行政
5. 行政作用と法
6. 行政救済法の意義と概要
7. 試験

準備学習	講義に先立ち予習項目を指定するので、事前に学習し講義に臨むこと。
------	----------------------------------

履修上の留意点	前半と後半で担当者も講義内容も異なり、それぞれ講義は6回(テストを含め全7回)しかない。いずれかのテストを未受験であるか、または双方のテストの合計点が120点未満(200点満点中)であると、単位取得は不可能となるので、注意すること。既に廃講が決定している科目であるため、今年度を以て本科目の履修を終えることを原則とする。
---------	--

成績評価の方法	成績は、前半と後半の各試験を合計して評価する。したがって、いずれか一方のテストを受験しなかった場合、必然的に単位を取得できなくなるので、必ず2回とも受験すること。試験は、それぞれの担当者の最終講義時間(第7回目)とする。
---------	--

教科書/テキスト	前半・後半ともに教科書は使用しない。
----------	--------------------

参考書	参考書は、必要に応じてその都度紹介する。
-----	----------------------

履修コード	128101
科目名	国際関係論
担当者名	三船 恵美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	国際関係の基本的な概念や理論、現代国際関係の枠組み、国際関係における諸問題などについて講義するとともに、受講生の専門知識と理解を深めることを本講義の目的とします。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回：国際関係を学ぶ視座 第2回：国益とパワー 第3回：日本の領域と国際関係 (1) 日本と韓国 第4回：日本の領域と国際関係 (2) 日本とロシア 第5回：日本の領域と国際関係 (3) 日本と中国 第6回：日本人として戦争を考える：「ヒロシマ・ナガサキ」(1) 第7回：日本人として戦争を考える：「ヒロシマ・ナガサキ」(2) 第8回：アジアのパワーシフトとアメリカ 第9回：中国の台頭と米中関係 第10回：中国の台頭と日中・日米関係 第11回：インドの台頭と米印中関係 第12回：南アジアと米印中関係 第13回：ASEANと日米中関係 第14回：北朝鮮と日米中韓関係 第15回：前期総括 第16回：リアリズムの考え方 第17回：ネオリアリズムの考え方 第18回：リベラリズムの考え方 第19回：ネオリベラリズムの考え方 第20回：コンストラクティヴィズム 第21回：南北問題と構造的暴力 第22回：安全保障の概念と類型 第23回：人道的介入 第24回：核不拡散をめぐる国際関係 第25回：国際経済と国際経済：TPPと日本 第26回：アジアの地域主義：東アジア共同体の構想とその課題 第27回：難民保護とUNHCR 第28回：環境外交 第29回：地球環境レジーム 第30回：総括
----------	---

準備学習	教科書を事前に読んできましょう。新聞の国際面を毎日読みましょう。
------	----------------------------------

履修上の留意点	テストを欠席した場合にレポートは課しません。就活や部活で欠席した人を特別扱いません。配布物は、理由の如何に関わらず、一度しか配りません。欠席した場合の授業内容は、各自の責任で補って下さい。
---------	--

成績評価の方法	試験 (100%)。
---------	------------

教科書/テキスト	前期：天児慧・三船恵美編『膨張する中国の対外関係』2010年、勁草書房、3000円。 後期：山田高敬・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論』有斐閣、2006年、2100円。
----------	--

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

履修コード	325401
科目名	国際関係論
担当者名	三船 恵美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	国際関係の基本的な概念や理論、現代国際関係の枠組み、国際関係における諸問題などについて講義するとともに、受講生の専門知識と理解を深めることを講義の目的とします。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回：国際関係を学ぶ視座 第2回：国益とパワー 第3回：日本の領域と国際関係 (1) 日本と韓国 第4回：日本の領域と国際関係 (2) 日本とロシア 第5回：日本の領域と国際関係 (3) 日本と中国 第6回：日本人として戦争を考える：「ヒロシマ・ナガサキ」(1) 第7回：日本人として戦争を考える：「ヒロシマ・ナガサキ」(2) 第8回：アジアのパワーシフトとアメリカ 第9回：中国の台頭と米中関係 第10回：中国の台頭と日中・日米関係 第11回：インドの台頭と米印中関係 第12回：南アジアと米印中関係 第13回：ASEANと日米中関係 第14回：北朝鮮と日米中韓関係 第15回：前期総括 第16回：リアリズムの考え方 第17回：ネオリアリズムの考え方 第18回：リベラリズムの考え方 第19回：ネオリベラリズムの考え方 第20回：コンストラクティヴィズム 第21回：南北問題と構造的暴力 第22回：安全保障の概念と類型 第23回：人道的介入 第24回：核不拡散をめぐる国際関係 第25回：国際経済と国際経済：TPPと日本 第26回：アジアの地域主義：東アジア共同体の構想とその課題 第27回：難民保護とUNHCR 第28回：環境外交 第29回：地球環境レジーム 第30回：総括
----------	---

準備学習	教科書を事前に読んできましょう。新聞の国際面を毎日読みましょう。
------	----------------------------------

履修上の留意点	就活や部活で欠席した人を特別扱いしません。配布物は、理由の如何に関わらず、一度しか配りません。欠席した場合の授業内容は、各自の責任で補って下さい。
---------	---

成績評価の方法	試験 (100%)。
---------	------------

教科書／テキスト	前期：天児慧・三船恵美編『膨張する中国の対外関係』2010年、勁草書房、3000円。 後期：山田高敬・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論』有斐閣、2006年、2100円。
----------	--

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

履修コード	116401
科目名	国際私法
担当者名	笠原 俊宏

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	法律関係の構成要素に外国に関連する要素が一つでも含まれる場合を、一般に渉外的法律関係と呼ぶ。そして、渉外的法律関係に適用すべき法律を指定する規定を定めているのが国際私法である。国際私法は、渉外的法律関係によって生じる紛争を円滑に解決に導く手段のみならず、予めどの国の法律を適用することとなるのか等の予測可能性を高め、かつ、わが国では「法の適用に関する通則法」という法律を中心に国際私法が形成されている。国際私法は、民法や商法のような実質法のように私法問題の判断基準となる法律とは規律する領域を異にしており、異なる次元に位置づけられるものとして、上位規範等と呼ばれることがある。このような他の分野と異なる国際私法的センスを習得できるように講義を進めたいと考えている。実用性をも顧慮して、とくに、国際結婚・離婚、国際養子縁組等に関する身近な問題を具体例として取り上げ、できる限り分かり易いものとなるように工夫を試みたい。
---------------------	--

授業スケジュール 講義の内容及びスケジュールについては、以下のように予定している。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 国際家族法総説
- 第3回 国際私法の構造 (1) 法性決定
- 第4回 国際私法の構造 (2) 連結の態様
- 第5回 国際私法の構造 (3) 連結概念の決定 (国籍)
- 第6回 国際私法の構造 (4) 連結概念の決定 (住所、常居所)
- 第7回 準拠法の指定 (1) 場所的不統一法国法の指定
- 第8回 準拠法の指定 (2) 人的不統一法国法の指定
- 第9回 準拠法の指定 (3) 反致
- 第10回 準拠法の適用 (1) 外国法の証明
- 第11回 準拠法の適用 (2) 公序
- 第12回 準拠法の適用 (3) 先決問題
- 第13回 婚姻の成立
- 第14回 婚姻の効力
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 離婚
- 第17回 親子関係の成立
- 第18回 親子間の法律関係
- 第19回 後見・保佐・補助
- 第20回 扶養
- 第21回 氏名
- 第22回 相続
- 第23回 遺言
- 第24回 物権
- 第25回 契約
- 第26回 法定債権
- 第27回 国際的裁判管轄権 (1)
- 第28回 国際的裁判管轄権 (2)
- 第29回 外国判決の承認及び執行
- 第30回 1年間のまとめ

準備学習	教科書の講義項目の箇所を事前に読んでおくことと理解度が向上する。
履修上の留意点	基礎となる他の科目 (特に家族法) について基礎知識を有することが望ましい。
成績評価の方法	原則として学年末の筆記試験による。
教科書/テキスト	笠原俊宏著『国際家族法新論 補訂版』文真堂
参考書	いずれかの六法を常に携帯すること。
その他	授業は講義によって進行するが、随時事例問題を設定し、皆で一緒に考えることを予定している。

履修コード	325901
科目名	国際私法
担当者名	笠原 俊宏

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	法律関係の構成要素に外国に関連する要素が一つでも含まれる場合を、一般に渉外的法律関係と呼ぶ。そして、渉外的法律関係に適用すべき法律を指定する規定を定めているのが国際私法である。国際私法は、渉外的法律関係によって生じる紛争を円滑に解決に導く手段のみならず、予めいずれ国の法律を適用することとなるのか等の予測可能性を高めてくれることにも役立つ。わが国では「法の適用に関する通則法」という法律を中心に国際私法が構成されている。国際私法は、民法や商法のような実実法のように私法問題の判断基準となる法律とは規律する領域を異にしており、異なる次元に位置づけられるものとして、上位規範等と呼ばれることがある。このような他の分野と異なる国際私法的センスを習得できるように講義を進めたいと考えている。実用性をも顧慮して、とくに、国際結婚・離婚、国際養子縁組、相続、遺言等に関する身近な問題を具体例として取り上げ、できる限り分かり易いものとなるように工夫を試みたい。
---------------------	---

授業スケジュール	講義の内容及びスケジュールについては、以下のように予定している。
第1回	ガイダンス
第2回	国際家族法総説
第3回	国際私法の構造 (1) 法性決定
第4回	国際私法の構造 (2) 連結の態様
第5回	国際私法の構造 (3) 連結概念の決定 (国籍)
第6回	国際私法の構造 (4) 連結概念の決定 (住所、常居所)
第7回	準拠法の指定 (1) 場所的不統一法国法の指定
第8回	準拠法の指定 (2) 人的不統一法国法の指定
第9回	準拠法の指定 (3) 反致
第10回	準拠法の適用 (1) 外国法の証明
第11回	準拠法の適用 (2) 公序
第12回	準拠法の適用 (3) 先決問題
第13回	婚姻の成立
第14回	婚姻の効力
第15回	前期のまとめ
第16回	離婚
第17回	親子関係の成立
第18回	親子間の法律関係
第19回	後見・保佐・補助
第20回	扶養
第21回	氏名
第22回	相続
第23回	遺言
第24回	物権
第25回	契約
第26回	法定債権
第27回	国際的裁判管轄権 (1)
第28回	国際的裁判管轄権 (2)
第29回	外国判決の承認及び執行
第30回	1年間のまとめ

準備学習	教科書の該当項目の箇所を事前に読んでおくと理解度が高まる。
履修上の留意点	基礎となる他の科目 (特に家族法) について基礎知識を有することが望ましい。
成績評価の方法	原則として学年末の筆記試験による。
教科書/テキスト	笠原俊宏著『国際家族法新論 補訂版』文真堂
参考書	いずれかの六法を常に携帯すること。
その他	授業は講義によって進行するが、随時、事例を設定して、皆と一緒に考えることを予定している。

履修コード	116601
科目名	国際紛争解決法
担当者名	王 志安

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	国際法における紛争処理の様々な手段について、それぞれの形態、機能、限界および適用可能性を把握し、国際紛争解決の法的仕組みを理解する。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>国際紛争の処理を具体的な法制度、手続きの側面から取り上げ、一回の講義で一つの課題を絞り、それぞれ制度の展開、機能および事例検証の形で解明する。前期では、国際紛争の基本構造、紛争解決手段の基本的枠組みを講義した上で、外交的手段による紛争解決、国連における紛争解決および世界貿易機構(WTO)の紛争処理制度を取り上げる。具体的には、国際義務違反の責任形態、紛争の平和的解決の意義、交渉、仲介、国際調査および調停といった制度の展開および適用、国連における紛争処理の制度的展開および現状、そしてWTOの紛争処理制度の発展、手続きおよび制度の意義を講義する。後期では、仲裁裁判および国際司法裁判を取り上げる。具体的には、国際裁判の史的展開、仲裁裁判制度の確立およびその手続き、国際商業仲裁の現状、国際司法裁判所の組織、管轄権、適用法規則、手続規則などを講義する。具体的に以下のような講義要綱を実施する。</p>
----------	---

前期

- 1 授業ガイダンス
- 2 国際法上の違法行為
- 3 国際紛争と平和的解決
- 4 外交的解決手段
- 5 国連による紛争の平和的解決
- 6 国際紛争と強制的解決
- 7 集団的安全保障
- 8 国連の平和維持
- 9 国連の強制型平和維持活動
- 10 地域的機構による集団的安全保障
- 11 軍縮法と国際平和
- 12 国際人道法の地位
- 13 武力紛争と人道法の適用
- 14 国際刑事裁判所
- 15 前期復習・テスト

後期

- 1 国際裁判
- 2 仲裁裁判
- 3 GATTそしてWTOと国際貿易紛争
- 4 WTOにおける小委員会の紛争解決の手続き
- 5 WTO判例研究
- 6 国際紛争の司法的解決
- 7 国際司法裁判所の管轄権
- 8 国際司法裁判所の裁判手続
- 9 国際司法裁判所の勧告的意見
- 10 国際司法裁判所の裁判基準及び判決の執行
- 11 国際海洋法裁判所
- 12 欧州裁判所
- 13 国際秩序と国際裁判
- 14 まとめ・復習

準備学習	授業前教科書の関連箇所を読むこと。関心のあるテーマについて読書すること。聞きたい問題を用意すること
------	---

履修上の留意点	<p>参考資料を適宜に配布し、教科書の内容を補足しながら講義を進めていく。聴講ノートをしっかり取ってもらいたい。 Power Pointで講義を進める。簡潔な聴講ノートは、YeStudyから入手できる。</p>
---------	---

成績評価の方法	学年末の筆記試験によって評価する。ただし、前期小テストや出席状況も成績を評価する際に考慮される。
---------	--

教科書/テキスト	家正治など 共著 『国際紛争と国際法』 (嵯峨野書院、2008年)
----------	-----------------------------------

参考書	<p>大沼保昭編著『資料で読み解く国際法』第2版(下) (東信堂)2002年 2,000円 松下満雄など編『ケースブック WTO法』(有斐閣)2009年 3,000円 杉原高嶺著『国際司法裁判制度』(有斐閣)1999年 7,600円 小寺彰など編『国際法判例百選[第2版]』(有斐閣)2011年 2,476円+税 市販されている国際条約集。これらにつき開講時に詳しい情報を提供する。</p>
-----	---

その他	授業はPower Pointを使って講義方式で行うが、判例の分析につき学生のまとめ報告を求めるところもある。
-----	--

履修コード	115501
科目名	国際法
担当者名	王 志安

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	国際法学の基礎知識を修得し、国際関係の現状を法的側面から理解する能力を養う。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>国際法学の全体を様々な基礎的課題に細分し、毎回の講義においてできるだけ一つの課題を絞り、それぞれ基礎概念、理論体系、そして事例分析の形で解明する。前期においては、国際法の史的展開、国際法と国内法との関係、国際法の法的性質といった基礎知識から着手し、国家および国際機構にかかわる様々な法的問題を取り上げていきたい。たとえば、国家の分裂や統合に生じた国家の承認や承継の問題、違憲的な政府変更やクーデターに関する国際的対応の法的性格、国内裁判における未承認政府や国家の地位、そして国連を中心とした国際機構の法的地位や機能の形態などを分析する。</p> <p>後期では、前期の基礎知識の修得を踏まえて、領域に関する管轄権、国際的人権保障、条約関係の理論および外交関係の法的仕組みを検証する。具体的には、国家領域の法的地位や取得に関する理論および実行、国際地域、国際海域および宇宙空間といった国際区域の法的地位、外国人の法的地位、人権保障に関する国際制度の展開、条約の締結、形式および効力に関する法規制、外交関係および領事関係における特権および免除などを取り上げる。</p> <p>具体的に以下のような講義要綱を実施する。</p>
----------	---

前期

- 1 講義ガイダンス
- 2 国際法の意義
- 3 国際法と国内法との関係
- 4 国際法の法源とその性質構造
- 5 国際法主体としての国家の要件と類型
- 6 承認行為の法的機能
- 7 国家承継
- 8 国家の基本的権利
- 9 国家責任
- 10 国家の管轄権
- 11 国際連合
- 12 国際経済機構
- 13 国家の領域の意義及びその取得
- 14 まとめ・復習

後期

- 1 国際海域
- 2 国際化地域
- 3 宇宙空間・天体
- 4 国際法上の個人
- 5 領域的主権と個人の権利の対峙
- 6 人権の国際的保障
- 7 国際人権保障の実施措置
- 8 国際関係の処理と外交機関
- 9 国際法と環境保護
- 10 国際紛争と平和的解決
- 11 戦争と国際法
- 12 集団的安全保障
- 13 国際裁判
- 14 まとめ・復習

準備学習	授業前教科書の関連箇所を読むこと。関心のあるテーマについて読書すること。聞きたい問題を用意すること
------	---

履修上の留意点	国際関係を法的側面からとらえる視点の養成を常に心構えとする。個々の概念、理論、事例を解明する戦術的な能力がまず重要視されるべきであるが、政治、外交、経済、文化といった様々な形態で展開される国際関係を法という枠内でとらえる戦略的な資質をのぼすことも見失われてはならない。そのためには、教科書に取り上げられた学説を理解するだけでなく、講義に取り上げられた課題の視点、問題意思をしっかりと修得する必要もある。配布される参考資料や聴講ノートを参照しながら、教科書の理解を深めてもらいたい。
---------	--

成績評価の方法	成績は年末の定期試験で決定する。ただし、前期小テストや講義出席の状況も成績を評価する際に考慮される。
---------	--

教科書／テキスト	王志安・飯田順三『国際法への誘い』（八千代出版）2006年
----------	-------------------------------

参考書	浅田正彦編著『国際法』（東信堂）2011年 2,900円 小寺彰など編『国際法判例百選[第2版]』（有斐閣）2011年 2,476円＋税 市販されている国際条約集
-----	---

その他	授業はすべて講義方式で行い、適宜に参考資料を配付し、Power Pointを利用した講義を行ないます。簡潔な聴講ノートは、YeStudyから入手できる。
-----	--

履修コード	323401
科目名	国際法
担当者名	王 志安

国際法学の基礎知識を修得し、国際関係の現状を法的側面から理解する能力を養う。

授業概要/
到達目標 (ねらい)

授業スケジュール

国際法学の全体を様々な基礎的課題に細分し、毎回の講義においてできるだけ一つの課題を絞り、それぞれ基礎概念、理論体系、そして事例分析の形で解明する。

前期においては、国際法の史的展開、国際法と国内法との関係、国際法の法的性質といった基礎知識から着手し、国家および国際機構にかかわる様々な法的問題を取り上げていきたい。たとえば、国家の分裂や統合に生じた国家の承認や承継の問題、違憲的な政府変更やクーデターに関する国際的対応の法的性格、国内裁判における未承認政府や国家の地位、そして国連を中心とした国際機構の法的地位や機能の形態などを分析する。

後期では、前期の基礎知識の修得を踏まえて、領域に関する管轄権、国際的人権保障、条約関係の理論および外交関係の法的仕組みを検証する。具体的には、国家領域の法的地位や取得に関する理論および実行、国際地域、国際海域および宇宙空間といった国際区域の法的地位、外国人の法的地位、人権保障に関する国際制度の展開、条約の締結、形式および効力に関する法規制、外交関係および領事関係における特権および免除などを取り上げる。

具体的に以下のような講義要綱を実施する。

前期

- 1 講義ガイダンス
- 2 国際法の意義
- 3 国際法と国内法との関係
- 4 国際法の法源とその性質構造
- 5 国際法主体としての国家の要件と類型
- 6 承認行為の法的機能
- 7 国家承継
- 8 国家の基本的権利
- 9 国家責任
- 10 国家の管轄権
- 11 国際連合
- 12 国際経済機構
- 13 国家の領域の意義及びその取得
- 14 まとめ・復習

後期

- 1 国際海域
- 2 国際化地域
- 3 宇宙空間・天体
- 4 国際法上の個人
- 5 領域的主権と個人の権利の対峙
- 6 人権の国際的保障
- 7 国際人権保障の実施措置
- 8 国際関係の処理と外交機関
- 9 国際法と環境保護
- 10 国際紛争と平和的解決
- 11 戦争と国際法
- 12 集団的安全保障
- 13 国際裁判
- 14 まとめ・復習

準備学習

授業前教科書の関連箇所を読むこと。関心のあるテーマについて読書すること。聞きたい問題を用意すること

履修上の留意点

国際関係を法的側面からとらえる視点の養成を常に心構えとする。個々の概念、理論、事例を解明する戦術的な能力がまず重要視されるべきであるが、政治、外交、経済、文化といった様々な形態で展開される国際関係を法という枠内でとらえる戦略的な資質をのばすことも見失われてはならない。そのためには、教科書に取り上げられた学説を理解するだけでなく、講義に取り上げられた課題の視点、問題意識をしっかりと修得する必要もある。配布される参考資料や聴講ノートを参照しながら、教科書の理解を深めてもらいたい。

成績評価の方法

成績は年末の定期試験で決定する。ただし、前期小テストや講義出席の状況も成績を評価する際に考慮される。

教科書/テキスト

王志安・飯田順三『国際法への誘い』（八千代出版 2006年）

参考書

浅田正彦編著『国際法』（東信堂）2011年 2,900円
小寺彰など編『国際法判例百選[第2版]』（有斐閣）2011年 2,476円+税
市販されている国際条約集

その他

授業はすべて講義方式で行い、適宜に参考資料を配付し、Power Pointを利用した講義を行います。簡潔な聴講ノートは、YeStudyから入手できる。

履修コード	118701
科目名	債権各論
担当者名	熊谷 芝青

授業概要/
到達目標 (ねらい)

債権各論で講義するのは、民法典のうち、第3編「債権」の第2章「契約」、第3章「事務管理」、第4章「不当利得」および第5章「不法行為」である。債権は、契約、不法行為など、さまざまな理由によって発生するが、債権発生原因について考察するのが、債権各論である。実際に法的問題に直面した際、自分なりの法的解決の見通しが立てられるような実力を養成できるように心がけたい。

授業スケジュール

1. 契約法
 - 1-1 契約法総則
 - 1-1-1 契約の成立(1)
 - 1-1-2 契約の効力(2,3)
 - 1-1-3 契約の解除(4,5)
 - 1-2 贈与(6)
 - 1-3 売買
 - 1-3-1 総則(7)
 - 1-3-2 効力(8,9)
 - 1-3-3 買戻し(10)
 - 1-4 消費貸借(11)
 - 1-5 使用貸借(12)
 - 1-6 質貸借
 - 1-6-1 総則(12)
 - 1-6-2 効力(13,14,15)
 - 1-6-3 終了(16)
 - 1-6-4 不動産質貸借(17)
 - 1-7 請負(18)
 - 1-8 委任(19)
 - 1-9 寄託(20)
 - 1-10 組合(20,21)
 - 1-11 和解(22)
 2. 事務管理(23)
 3. 不当利得(24,25)
 4. 不法行為(26~30)
- 括弧内数字はおおよその講義回数

準備学習

指定教科書の該当頁を予習してることが望ましいが、必要ではない。

履修上の留意点

法律学の修得で大切なことは、繰り返すことである。したがって復習回数を多くすることが諸君の実力上昇につながると信じている。当然のことであるが、受講中の飲食・携帯電話の使用は禁止であり、それに違反した場合、その時点で落第とする場合がある。また板書を多用するので、ノートと筆記道具は必携である。

成績評価の方法

学年末の定期試験により評価する。

教科書/テキスト

川井健『民法概論 4 債権各論』(有斐閣)を使用する。

参考書

我妻榮・有泉亨『コンメンタール民法』(日本評論社)

その他

民法全般に言えることだが、復習に重点を置いて欲しい。

履修コード	324801
科目名	債権各論
担当者名	熊谷 芝青

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	債権各論で講義するのは、民法典のうち、第3編「債権」の第2章「契約」、第3章「事務管理」、第4章「不当利得」および第5章「不法行為」である。債権は、契約、不法行為など、さまざまな理由によって発生するが、債権発生原因について考察するのが、債権各論である。実際に法的問題に直面した際、自分なりの法的解決の見通しが立てられるような実力を養成できるように心がけたい。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 契約法 <ol style="list-style-type: none"> 1-1 契約法総則 <ol style="list-style-type: none"> 1-1-1 契約の成立(1) 1-1-2 契約の効力(2, 3) 1-1-3 契約の解除(4, 5) 1-2 贈与(6) 1-3 売買 <ol style="list-style-type: none"> 1-3-1 総則(7) 1-3-2 効力(8, 9) 1-3-3 買戻し(10) 1-4 消費貸借(11) 1-5 使用貸借(12) 1-6 質貸借 <ol style="list-style-type: none"> 1-6-1 総則(12) 1-6-2 効力(13, 14, 15) 1-6-3 終了(16) 1-6-4 不動産質貸借(17) 1-7 請負(18) 1-8 委任(19) 1-9 寄託(20) 1-10 組合(20, 21) 1-11 和解(22) 2. 事務管理(23) 3. 不当利得(24, 25) 4. 不法行為(26~30) <p>括弧内数字はおおよその講義回数</p>
----------	--

準備学習	指定教科書の該当頁を予習してくることが望ましいが、必要ではない。
履修上の留意点	法律学の修得で大切なことは、繰り返すことである。したがって復習回数を多くすることが諸君の実力上昇につながると信じている。当然のことであるが、受講中の飲食・携帯電話の使用は禁止であり、それに違反した場合、その時点で落第とする場合がある。また板書を多用するので、ノートと筆記道具は必携である。
成績評価の方法	学年末の定期試験により評価する。
教科書/テキスト	川井健『民法概論 4 債権各論』(有斐閣)を使用する。
参考書	我妻榮・有泉亨『コンメンタール民法』(日本評論社)
その他	民法全般に言えることだが、復習に重点を置いて欲しい。

履修コード	115701
科目名	債権総論
担当者名	中田 英幸

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、債権法の共通規則である債権総論を学習することを目的とする。債権総論とは、具体的には民法第3編債権第1章総則(およびその特別法)を指し、債権に関して共通して妥当する規則をまとめたものである。それゆえ、債権総論は債権法の根幹を成すが、難解な領域でもある。講義は、抽象的な規定の有する実際の意味を明らかにして、わかり易く説明する。
---------------------	---

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> (1) 序論 1 債権総論とは何か (2) 序論 2 債権とは何か) (3) 債権の「目的」 債権の種類 (4) 債権の「目的」 規定上の分類 (5) 債権の効力 序論 (6) 債権の効力 履行の強制 (7) 債権の効力 債務不履行に基づく損害賠償の要件—三分体系説 (8) 債権の効力 債務不履行に基づく損害賠償の要件—契約責任説 (9) 債権の効力 債務不履行に基づく損害賠償の効果—損害の内容と範囲 (10) 債権の効力 債務不履行に基づく損害賠償の効果—基準時 (11) 債権の効力 責任財産の保全—債権者代位権 (12) 債権の効力 責任財産の保全—詐害行為取消権の要件 (13) 債権の効力 責任財産の保全—詐害行為取消権の効果 (14) 債権の効力 第三者による債権侵害 (15) 債権の効力 債権者遅滞 (16) 債権債務の移転総論・債権譲渡の効力要件 (17) 指名債権の譲渡の対抗要件 (18) 指名債権の譲渡の具体的優劣基準 (19) 指名債権の譲渡の効果 (20) 証券的債権の譲渡と特別法による債権の譲渡 (21) 債務引受と契約上の地位の移転 (22) 債権の消滅—第三者弁済 (23) 債権の消滅—弁済による代位 (24) 債権の消滅—第三者への弁済 (25) 債権の消滅—相殺 (26) 多数当事者の債権債務関係総論 (27) 分割債権・不可分債権・連帯債権 (28) 分割債務・不可分債務 (29) 連帯債務 (30) 保証債務
----------	--

準備学習	指定された教科書を事前に読んでおくこと。 yestudyにより予習と復習の案内をしているので、各自活用すること。
------	---

履修上の留意点	債権総論と債権各論が合わさって債権法を構成するので、債権各論も同時に履修することが望ましい。 最新の六法は必ず持参すること。講義の内容などについて良く分からない点や疑問に思うことがあれば、いつでも質問してほしい。
---------	---

成績評価の方法	期末試験により評価する。
---------	--------------

教科書/テキスト	野村豊弘ほか著『民法111—債権総論(第3版)』(有斐閣、2005年) なお、2012年度までに補訂版が出版予定であり、出版された場合には第3版の補訂版とする。
----------	---

参考書	中田裕康・潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選11債権(第6版)』(有斐閣、2009年)
-----	--

履修コード	325001 325002
科目名	債権総論 民法二部
担当者名	中田 英幸

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、債権法の共通規則である債権総論を学習することを目的とする。債権総論とは、具体的に民法第3編債権第1章総論（およびその特別法）を指し、債権に関して共通して妥当する規則をまとめたものである。それゆえ、債権総論は債権法の根幹を成すが、難解な領域でもある。講義は、抽象的な規定の有する実際的な意味を明らかにして、わかり易く説明する。
---------------------	---

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> (1) 序論 1 債権総論とは何か (2) 序論 2 債権とは何か (3) 債権の「目的」 債権の種類 (4) 債権の「目的」 規定上の分類 (5) 債権の効力 序論 (6) 債権の効力 履行の強制 (7) 債権の効力 債務不履行に基づく損害賠償の要件—三分体系説 (8) 債権の効力 債務不履行に基づく損害賠償の要件—契約責任説 (9) 債権の効力 債務不履行に基づく損害賠償の効果—損害の内容と範囲 (10) 債権の効力 債務不履行に基づく損害賠償の効果—基準時 (11) 債権の効力 責任財産の保全—債権者代位権 (12) 債権の効力 責任財産の保全—許害行為取消権の要件 (13) 債権の効力 責任財産の保全—許害行為取消権の効果 (14) 債権の効力 第三者による債権侵害 (15) 債権の効力 債権者遅滞 (16) 債権債務の移転総論・債権譲渡の効力要件 (17) 指名債権の譲渡の対抗要件 (18) 指名債権の譲渡の具体的優劣基準 (19) 指名債権の譲渡の効果 (20) 証券的債権の譲渡と特別法による債権の譲渡 (21) 債務引受と契約上の地位の移転 (22) 債権の消滅—第三者弁済 (23) 債権の消滅—弁済による代位 (24) 債権の消滅—第三者への弁済 (25) 債権の消滅—相殺 (26) 多数当事者の債権債務関係総論 (27) 分割債権・不可分債権・連帯債権 (28) 分割債務・不可分債務 (29) 連帯債務 (30) 保証債務
----------	---

準備学習	指定された教科書を事前に読んでおくこと。 yestudy!により予習と復習の案内をしているので、各自活用すること。
------	--

履修上の留意点	債権総論と債権各論が合わさって債権法を構成するので、債権各論も同時に履修することが望ましい。 最新の六法は必ず持参すること。講義の内容などについて良く分からない点や疑問に思うことがあれば、いつでも質問してほしい。
---------	---

成績評価の方法	期末試験により評価する。
---------	--------------

教科書／テキスト	野村豊弘ほか著『民法III—債権総論（第3版）』（有斐閣、2005年） なお、2012年度までに補訂版が出版予定であり、出版された場合には第3版の補訂版とする。
----------	---

参考書	中田裕康・潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選II債権（第6版）』（有斐閣、2009年）
-----	--

履修コード	333301
科目名	財政学
担当者名	速水 昇

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>私たちの日常生活は、そのほとんどの側面で直接・間接的に政府の経済活動の恩恵を受けている。例えば、出掛けに傘を持っていくべきか否かは、適確な天気予報によって判断できるし、病気が怪我をしたときにかかる医療費は医療保険のおかげで実際に支払った額の数割程度ですむ。また、道路・港湾などの社会資本整備は公共部門が供給しているなど、政府はさまざまな役割を担っている。</p> <p>さらに最近の景気低迷、国債の累積残高、高齢化社会、規制緩和など政府が解決しなければならない問題が非常に多い。このような問題を納税者としての立場、あるいは日本国民としての立場から考えていくことが必要であるという認識に立って授業を行う。</p> <p>なお、公務員試験、入社試験において財政学の問題が非常に多く出題されているので、授業で講義した内容に関する問題の小テストを行って、授業の理解度を確認する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1週 財政とは何か 2週 政府の役割 3週 公共財 4週 外部効果 5週 所得の再分配 6週 経済の安定 7週 予算原則と機能 8週 予算過程 (編成・審議) 9週 予算過程 (執行・決算) 10週 歳出論 (国債費) 11週 地方交付税交付金) 12週 社会保障関係費 13週 公共事業関係費 14週 文教及び科学振興費・防衛関係費 15週 中小企業関係費・その他歳出 <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1週 歳出論 (税外収入) 2週 所得税 3週 贈与税と相続税 4週 法人税 5週 消費税 6週 たばこ税と酒税 7週 その他税収入 8週 国税と地方税の関係 9週 財政政策 (国民所得の三面等価の原則) 10週 財政政策 (インフレ・デフレギャップの図解) 11週 財政政策財政政策 (均衡国民所得の図解・節約のパラドックス) 12週 財政政策財政政策 (租税乗数と均衡予算乗数) 13週 財政政策開放経済における政府支出乗数・租税乗数 14週 経常収支の黒字に内需拡大が要請される背景 15週 質疑応答
----------	---

準備学習	授業ノートを確認し、わからないことがあれば私に聞きに来てください
履修上の留意点	学生として当然のことだが、テキスト・ノートは必ず持参すること。小テストは10回程度予定しているので出席に自信のある学生を希望する (小テストを受けていない学生は授業に出席していないとみなし成績評価の対象外としますのでご注意ください)
成績評価の方法	試験 (60点)、授業中の小テスト・レポート (40点)
教科書/テキスト	青木一朗著 『財政学』 学文社
参考書	速水 昇・和田尚久・水野恵子著 『公共経済と租税』 学文社

履修コード	119001
科目名	財政学
担当者名	山田 直夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 政府部門は租税や公債で資金を集め、それを基に様々な公共サービスを提供している。簡単にいえば、財政学とはこうした政府部門の経済活動 (すなわち、財政) について分析する学問である。本講義では、財政学の基礎的な事項について解説する。
---------------------	--

(到達目標)
財政は私たちの生活にとって欠かせないものである。しかし、わが国の財政は、税制改革、公債の累増、公的年金や医療保険のあり方など多くの問題に直面しており、私たち一人一人が財政問題について真剣に考えることが必要である。そこで本講義では、財政制度の概要と財政理論の基礎を理解することにより、わが国の財政問題について考える際の視点を身につけることを到達目標とする。

授業スケジュール	第1回 財政とは何か 第2回 財政の機能 第3回 わが国の財政の現状 (1) 第4回 わが国の財政の現状 (2) 第5回 予算制度 (1) 第6回 予算制度 (2) 第7回 租税の基礎理論 第8回 課税の公平性 (1) 第9回 課税の公平性 (2) 第10回 課税の公平性 (3) 第11回 課税の効率性 (1) 第12回 課税の効率性 (2) 第13回 租税の転嫁と帰着 第14回 わが国の税体系 (1) 第15回 わが国の税体系 (2) 第16回 公債 (1) 第17回 公債 (2) 第18回 公債 (3) 第19回 公共財 (1) 第20回 公共財 (2) 第21回 外部性 (1) 第22回 外部性 (2) 第23回 財政政策 (1) 第24回 財政政策 (2) 第25回 財政政策 (3) 第26回 公的年金 (1) 第27回 公的年金 (2) 第28回 医療保険・介護保険 第29回 地方財政 (1) 第30回 地方財政 (2)
----------	--

準備学習	特に前提とはしないが、経済学の基礎的な知識があると講義内容の理解が容易になる。
履修上の留意点	新聞に目を通すなどして、社会の動向に関心を持ってほしい。
成績評価の方法	原則として定期試験の結果で評価する。
教科書/テキスト	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。
参考書	横山彰・馬場義久・堀場勇夫『現代財政学』、有斐閣 小林威監修『財政学 第三版』、創成社

履修コード	116001
科目名	裁判法
担当者名	間瀬 清史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>学生諸君は、民事手続法については3年次以降に本格的に学習することとなりますが、裁判制度ないし司法制度一般に対する基本的理解を欠いたまま、いきなり高度な手続法理論を教授されるならば、手続法アレルギーという宿痾を引き起こすこととなります。そのような仕儀に立ち至らないようにするためには、民事手続法本論を学ぶ前にその周辺領域を中心とした基礎的学習をしておく必要があります。そのため、この講義では、主として民事手続制度全般を概観し、かつその周辺領域について講ずることとします。その意味で民事手続法の入門編を担う科目です。なお、刑事訴訟法および行政事件訴訟法の基礎的部分についても適宜触れられればと考えています。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、第2回 裁判所紹介、第3回 民事裁判の概要、第4回 法律相談、第5回 調停手続・仲裁手続、第6回 少額訴訟・支払督促・非訟事件、第7回 民事保全制度、第8回 仮差押・仮処分、第9回 弁護士への委任、第10回 訴えの提起、第11回 管轄・移送、第12回 攻撃防御の準備、第13回 文書提出命令、第14回 訴えの併合、第15回 共同訴訟、第16回 訴訟参加、第17回 訴訟承継、第18回 争点整理、第19回 司法試験制度・司法修習制度、第20回 弁護士業務、第21回 和解、第22回 証拠収集、第23回 証拠調べ、第24回 裁判官、第25回 裁判、第26回 判決、第27回 上訴、第28回 強制執行、第29回 不動産執行・動産執行・債権執行、第30回 再審、その他(授業回数が30回の場合)</p>
----------	--

準備学習	<p>あらかじめYeStudy等にアップロードされた授業用のレジュメについて事前に準備しておくことが必要です。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>民事実体法、とりわけ民法を少なくとも同時並行的に履修すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>日常の授業参加態度、論述式試験の結果及び受講者の提出物の内容等に依拠して評価する予定です。講義に積極的に参加した人が有利になるようにしたいと考えています。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>山本和彦『よくわかる民事裁判〔第二版補訂〕』 - 平凡吉訴訟日記(有斐閣選書) 2008年 1700円+税</p>
----------	--

参考書	<p>その都度指示します。</p>
-----	-------------------

履修コード	323701
科目名	裁判法
担当者名	岡田 好弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	民事刑事の手続法の概要を知ることにより、民法・刑法等の実体法の学習の契機となるように、また、司法制度の諸問題を知ることにより将来の手続法の学習を深める契機となることを目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	前期は民事刑事の手続法の概要について、後期は司法制度全体の諸問題について論じます。
----------	---

- 1 ガイダンス 講義の進め方、教科書・参考書の解説など
- 2 民事訴訟①
- 3 民事訴訟②
- 4 民事執行
- 5 民事保全
- 6 倒産法①
- 7 倒産法②
- 8 家事・人事訴訟
- 9 労働審判
- 10 行政訴訟
- 11 捜査と警察
- 12 取り調べ・起訴
- 13 判決・裁判員
- 14 行刑
- 15 前期のまとめ
- 16 後期のガイダンス 前期の復習を兼ねて
- 17 司法は誰のためにあるか 司法へのアクセス
- 18 法律問題を扱う人々① 日本の法律家
- 19 法律問題を扱う人々② 司法書士・法曹養成
- 20 日本の裁判を考える① さまざまな紛争解決
- 21 日本の裁判を考える② 裁判官紛争解決
- 22 日本の裁判を考える③ 民事・刑事・行政裁判
- 23 現代司法の環境① 司法権の位置づけ
- 24 現代司法の環境② 司法制度改革
- 25 現代司法の環境③ 日本人の法意識
- 26 司法の担い手が広がる① 裁判員制度
- 27 司法の担い手が広がる② 裁判員以外の国民参加
- 28 これからの司法のために 国際化の中の司法改革
- 29 これからの司法のために 司法改革と司法制度改革
- 30 まとめ これからの裁判法について

準備学習	民法や刑法の学習をある程度開始していることが前提の講義となります。
------	-----------------------------------

履修上の留意点	前期と後期で、使用する教科書が異なります。両方の教科書を購入する必要があります。
---------	--

成績評価の方法	小テストおよび定期試験による。
---------	-----------------

教科書/テキスト	前期：市川正人ほか『現代の裁判（第5版）』（有斐閣）1785円 ISBN978-4-641-12363-2 後期：木佐 茂男 ほか『テキストブック現代司法（第5版）』（日本評論社）2940円 ISBN: 978-4-535-51676-2
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	121411
科目名	実務演習I
担当者名	中野 辰久

授業概要/到達目標(ねらい)

本演習は、従前応用憲法演習として実施されていた経過を踏まえ、憲法を中心に演習を行っていきます。特徴としては、弁護士が担当することで実務における法の適用のされ方を踏まえた、憲法の諸論点の理解並びに法解釈能力を養うことを目的としています。また、法律実務に関する諸問題についても適宜ご紹介していきたいと考えています。

日本は憲法を頂点とした統一的法体系を形成して、法の支配を全ての分野に及ぼしていますから、憲法の様々な諸論点を理解し、法解釈能力を養っていくことは、すなわち、法律全体の論理や解釈手法を養うことにもなります。法はある目的を実現するためのいわば行動定型を定めたものといえますから、これを身につけることで、法曹の道に進むにしても、それ以外の世界に進むにしても、物の考え方の基礎を固めることができるかと思えます。本演習では、そうした基礎を固めて、その後の皆さんの社会での活躍に資することが可能となる法論理・解釈能力を身につけていただくことを到達目標としたいと思います。

授業スケジュール

憲法の中でも基本的人権論を中心に取り上げ、それに関連する形で統治機構論・憲法訴訟論を加味していく予定です。基本的には近年問題となった実際の事件・判決を題材にしていきたいと思えます。

検討テーマは、下記のとおりです。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 基本的人権総論
- 第3回～第4回 基本的人権の限界—公共の福祉論(死刑の合憲性をめぐる問題)
- 第5回～第6回 表現の自由・報道の自由(「あるある大事典」事件)
- 第7回～第9回 表現の自由・検閲の禁止・事前抑制の原則的禁止の法理とプライバシー権(週刊文春事件)
- 第10回～第12回 表現の自由・明確性の基準(青少年保護育成条例事件)
- 第13回～第14回 集会の自由・集団行動の自由(ホテル使用拒否事件)
- 第15回～第17回 職業選択の自由・営業の自由(プロ野球のドラフト制度の是非)
- 第18回～第20回 法の下での平等(議員定数不均衡事件、尊属殺重罰規定違憲判決、国籍法違憲判決)
- 第21回～第22回 生存権(朝日訴訟、生活保護費貯蓄容認判決)
- 第23回～第25回 教育を受ける権利・特別権力関係論・部分社会の法理(校則、国歌国旗起立斉唱問題)
- 第26回～第28回 政教分離原則・信教の自由(内閣総理大臣靖国神社公式参拝事件)
- 第29回～第30回 外国人の人権(外国人の公務就任の可否)

その他、新しい事件・問題が生じた時は、適宜追加していきたいと思えます。

準備学習

講義の際に次回の予定をお話しますので、それに該当する箇所について、教科書、レジュメを検討しておかれると良いと思います。

履修上の留意点

本演習では、eラーニングシステムのYeStudyを利用してレジュメの配布等を行います。本演習を受講した後の復習をしていただくために簡単なテストをYeStudyで行います。また、演習科目と位置づけられていますので成績評価の方法にも記載しましたとおり平常点も考慮します。

成績評価の方法

レポート、小テストと平常点で評価する予定です。レポートは講義中に課題をお知らせし、後期最終講義終了時に提出してもらいます。小テストは、毎講義の後にYeStudyに問題を2問出しますので、1週間の中で1行程度で回答してもらうことを予定しています。成績評価の比重ですが、レポート4、小テスト4、平常点2と考えています。

教科書/テキスト

芦部信喜・高橋和之補訂『憲法第五版』(岩波書店)(3100円:税抜き) ISBN978-4-00-022781-0

高橋和之・長谷部恭男・石川健治編『別冊ジュリスト 憲法判例百選I・II(第5版)』(有斐閣)(各2095円:税抜き) ISBN978-4-641-11486-9, 978-4-641-11487-6

参考書

演習の都度、YeStudy上でレジュメを配布する予定です。

その他、参考となる書籍として下記の書籍を掲記します。

『立憲主義と日本国憲法(第2版)』高橋和之著(有斐閣)(2900円:税抜き) ISBN978-4-641-13076-0

『憲法I第4版』『憲法II第4版』野中俊彦他共著(有斐閣)(Iは2900円、IIは2700円:税抜き) ISBN4-641-12998-3, 4-641-13000-0

『日本国憲法論』佐藤幸治著(成文堂)(4500円:税抜き) ISBN978-4-7923-0511-6

その他

前記のとおり、eラーニングシステムのYeStudyを使います。また、講義の中で、弁護士の業務内容その他の法律実務の話や日々生起する憲法問題についての紹介等も適宜行っていきたいと思えます。

履修コード	121511
科目名	実務演習II
担当者名	鶴井 俊吉 上野 雅祥 小林 覚 杉山 真一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習は、民法の領域を中心に行います。その特徴は、①法科大学院への準備段階として、専門領域について精通している経験豊かな弁護士を中心に、双方向授業を行うこと、②法曹になるための前提として、大学院試験等を念頭に入れ、単なる知識をつめこむという演習ではなく、柔軟なものの考え方をすることができる頭の訓練をすること、の2点である。
---------------------	--

授業スケジュール	演習内容は、3人の弁護士と相談して決定するが、基礎民法演習で学んできたことを前提として、ケース・スタディーなど実践的な内容の比重が大きくなると思われる。具体的事案の解決にあたって、今まで学んできた民法の基本原則をどのように活用し、法律的に構成して妥当な結論を導くかという、理論的思考を重視した演習になる。そのため、積極的に議論に参加できることを希望する。 検討するテーマは、受講者決定後にプリントにより連絡する予定である。
----------	--

準備学習	毎回、新しい事例問題が課題として出されるので、理論構成や判例の下調べをしていくこと。
------	--

履修上の留意点	本演習の性質上、民法総則・物権・債権等を履修していることが必要である。なお、受講者が多数の場合には、最初の演習の時間に選択を行う予定であるので、最初の講義時に必ず成績証明書を持参すること。
---------	--

成績評価の方法	出席状況と平常点によって総合的に評価する。
---------	-----------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	演習の都度、適宜指示する。
-----	---------------

履修コード	121521
科目名	実務演習III
担当者名	木村 美隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	刑法の基本的な論点を含む判例を、事実関係から分析検討することを通じ、実務の現場における法適用の一端にふれることを、目的とします。
---------------------	--

授業スケジュール	判例を毎回1件ずつテーマに取り上げます。分野別に分類すると、おおむね次のとおりの予定です。
----------	---

①総論分野 a構成要件該当性 (5件)、b違法性 (3件)、
c責任 (3件)、d未遂 (1件)、e共犯 (6件)

②各論分野 a財産犯 (5件)、bその他 (4件)

準備学習	次回授業で取り上げる判例は、あらかじめテキストで予習しておいてください。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	判旨の結論をそのまま記憶しようというのではなく、常に批判的な視点で検討する姿勢を期待したいと思います。
---------	---

成績評価の方法	学期末に提出するレポートの内容により、評価します。
---------	---------------------------

教科書/テキスト	刑法判例百選I (総論, 第6版)、同II (各論, 第6版) (有斐閣) ただし、一度は判例の原典を読み込んでほしいと考えています。
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	114531 114532
科目名	私法入門 法学概論B
担当者名	井上 健一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この科目は、法律学科の学生が私法分野の科目を学んでいく上で、必要な基礎知識を身につけていくために設けられている。 本来、「私法」は個人の日常生活に密接に関連した問題を扱い、身近な分野であるはずだが、「公法」に比べると近寄りにくい。その理由は学生の日常生活からかけ離れ、具体的問題としてイメージすることができないことにあると思われる。本講義では現実の社会生活における身近な問題や具体的事案を多く取り上げ、民法や商法などの法の論理を具体的な生活との関係で生きたものとして認識できるようにしたい。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 私法入門の入門：契約とは何か 2. 不法行為：契約ではない私法上の法律関係 3. 雇用と法：力関係に差がある場合の契約関係 4. 家族関係と法 5. 企業と法 6. 紛争の解決 7. 発展問題
----------	---

準備学習	履修済み、および履修中の民法・商法科目に関して復習しておくこと。
------	----------------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	授業内での配布課題に対する質疑と応答による評価を合わせて、もしくは授業内での評価のみで成績評価を行う。
---------	---

教科書／テキスト	なし。適宜レジュメを配布。
----------	---------------

参考書	適宜、授業内で紹介する。
-----	--------------

履修コード	119201
科目名	社会政策
担当者名	原田 啓一郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>社会政策という学問領域は、経済学のみならず、社会学、法学、政治学、哲学、歴史学など様々なアプローチによって分析される。学際的な研究領域としての社会政策に対して、法政策(学)の視点からの接近を試みながら、社会政策が取り組む(あるいは取り組み損ねている)問題と政策課題について検討する。</p> <p>(到達目標)</p> <p>巷にあふれる政策への根拠なき直感的な批判に感わされることなく、体系的かつ理論的に社会政策の課題を考察する力を養うことを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	第1～3回 社会政策とは何か、第4回 超高齢化・人口減少社会の姿、第5～6回 世代間格差を考える、第7～9回 人生前半期の社会政策、第10～17回 超高齢化・人口減少社会と社会保障制度、第18～25回 変貌する労働市場・雇用システム、第26～30回 超高齢化・人口減少社会下の社会政策
----------	--

準備学習	・講義内容は講義当日までの最新の情報を常に取り扱うので、毎日、新聞記事やニュースなどに目を通しておき、政策動向を注視しておくこと。
------	---

履修上の留意点	・社会政策は雇用問題や社会保障・福祉問題と密接な関係があるため、「労働法」、「社会保障法」を履修することにより、社会政策の対象とする問題群に関する法制度と政策的課題を立体的に理解することが可能となる。
---------	--

成績評価の方法	学期末試験によるものとする。
---------	----------------

教科書／テキスト	教科書は開講時に指定する。
----------	---------------

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

履修コード	116301
科目名	社会保障法
担当者名	原田 啓一郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 社会保障法の各分野の基本的な体系、法主体間の権利義務関係及び法解釈上の論点を学習する。 (到達目標) 社会保障に関する法制度を正確に理解し、どこに課題があり、どのような解決が望ましいかを考察する力を養うことを目標とする。
授業スケジュール	第1～3回社会保障の法体系・保障方法、第4～20回社会保険法（医療・年金・介護・労災・雇用）、第21～25回社会福祉法、第26～30回公的扶助法
準備学習	・次週の講義範囲は講義内で連絡をするので、教科書の該当箇所及び判例を予め読んでおくこと。
履修上の留意点	・社会保障に関する法政策上の課題については、同担当教員の科目「社会政策」で取り扱うので、同時に履修することが望ましい。「社会保障法」と「社会政策」の両科目を履修することにより、社会保障に関する法制度と政策的課題を立体的に理解することが可能となる。
成績評価の方法	学期末試験による。
教科書／テキスト	・教科書は開講時に指定する。 ・指定教科書のほかに下記の法令集を毎回持参すること。 労働調査会出版局（編）『社会保障法令便覧 2012』（労働調査会、2012年）
参考書	・西村健一郎・岩村正彦〔編〕『社会保障判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2008年） その他の文献は適宜指示する。

履修コード	325301
科目名	社会保障法
担当者名	原田 啓一郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 社会保障法の各分野の基本的な体系、法主体間の権利義務関係及び法解釈上の論点を学習する。 (到達目標) 社会保障に関する法制度を正確に理解し、どこに課題があり、どのような解決が望ましいかを考察する力を養うことを目標とする。
授業スケジュール	第1～3回社会保障の法体系・保障方法、第4～20回社会保険法（医療・年金・介護・労災・雇用）、第21～25回社会福祉法、第26～30回公的扶助法
準備学習	・次週の講義範囲は講義内で連絡をするので、教科書の該当箇所及び判例を予め読んでおくこと。
履修上の留意点	・社会保障に関する法政策上の課題については、同担当教員の科目「社会政策」で取り扱うので、同時に履修することが望ましい。「社会保障法」と「社会政策」の両科目を履修することにより、社会保障に関する法制度と政策的課題を立体的に理解することが可能となる。
成績評価の方法	学期末試験による。
教科書／テキスト	・教科書は開講時に指定する。 ・指定教科書のほかに下記の法令集を毎回持参すること。 労働調査会出版局（編）『社会保障法令便覧 2012』（労働調査会、2012年）
参考書	・西村健一郎・岩村正彦〔編〕『社会保障判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2008年） その他の文献は適宜指示する。

履修コード	120101
科目名	消費者法
担当者名	藤田 有紀

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要： 本講義の学習対象は「消費者法」ですが、「消費者法」という名前の法律は存在していません。「消費者法」の定義は人によって様々ですが、本講義では「消費者法」を「消費者問題に対応するための法律」と定義し、「消費者契約法」「特定商取引法」「製造物責任法」「割賦販売法」「電子消費者契約法」「食品衛生法」等といった多数の法律を取り扱うこととします。そして、これらの法律の基礎知識を確認した上で、消費者問題が対象となった事例を可能な限り取り上げていきたいと考えています。</p> <p>到達目標： 消費者法として位置付けることができる様々な法律の概要を学び、基礎となる知識を習得することで、消費生活上で生じた法的トラブルに対処できるようになることを目指します。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期：</p> <p>第1～2回 消費者法とは何か？</p> <p>第3～6回 消費者契約法</p> <p>第7～10回 特定商取引法</p> <p>第11～12回 消費者信用取引と消費者保護</p> <p>第13～14回 公正な競争による消費者保護</p> <p>第15回 予備日</p> <p>後期：</p> <p>第16～19回 商品販売と消費者保護</p> <p>第20～22回 表示・広告と消費者保護</p> <p>第23～24回 インターネット取引と消費者保護</p> <p>第25～26回 顧客情報の取扱と消費者保護</p> <p>第27～29回 事例解説</p> <p>第30回 予備日</p>
----------	--

準備学習	消費者法として位置付けることのできる法律の多くは、民法の特別法となっています。そのため、本講義の履修者は民法の体系を念頭において受講することが必要になりますので、民法を復習しておくようにして下さい。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	レポート・小テスト・平常点で評価する予定です。各評価割合や実施回数等の詳細については、初回講義やレポート・テスト実施前の講義時に適宜説明する予定なので、履修者はできるだけ出席するように努めてください。
---------	--

教科書／テキスト	長尾治助・中田邦博・鹿野菜穂子編『レクチャー消費者法』法律文化社、2、800円、ISBN 978-4-589-03341-3 『六法』（民法、消費者契約法、特定商取引法の掲載があるもの）
----------	--

参考書	プリントと資料を配布する予定です。
-----	-------------------

履修コード	117101
科目名	商法総則・商行為法
担当者名	三浦 康平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p><概要> 本講義では、現代社会の経済活動についての法的規律を学ぶ。具体的には、企業間取引と企業と消費者との間の取引に適用がある法律をとりあげる。商取引は法的にどのように説明されるか、ということを中心とした。基本的な条文の解説をしたのち、裁判例を紹介するというやり方をする。裁判例やこれに対する学説の説明を通じて、現実の経済活動を法的に分析し、問題を処理する際に考慮すべき要素は何かを理解してもらいたい。また、商取引の理解には、民法の基本的な知識が要求されることになるが、講義を通じて理解の確認をしてもらいたい。</p>
---------------------	--

	<p><到達目標> 現代の経済活動に対して法律はどのような制度を用意しており、どのように機能しているのかを理解する。</p>
--	--

授業スケジュール	<p><前期> 1. 授業ガイダンス 2. 商取引法総論：商取引法の特徴、企業取引に関する法の相互関係 3. 商法の適用範囲：商人と商行為の概念 4. 企業規模の拡大を支える仕組み：商業使用人 5. 企業内容の公示：商業登記制度 6～8. 企業の名称に対する評判と信頼の保護：商号制度 企業主体の交代：営業譲渡 9. 商行為法概論（民法との比較を中心に） 10～11. 企業取引の補助者 12. 運送取扱営業・運送営業 13. 場屋取引 14. 支払決済の法制度概論 15. 復習と質問（あるいは説明しきれない部分があれば、この時間を使用して説明する）</p>
----------	--

	<p><後期> 1. 授業ガイダンス 2～3. 消費者契約法の基本的な考え方 4～8. 特定商取引法、割賦販売法、金融商品販売法（概論） 9～11. 証券取引 12～14. 保険取引 15. 復習と質問（あるいは説明しきれない部分があれば、この時間を使用して説明する）</p>
--	--

準備学習	<p>予習または復習については、いずれが良いかは人によって異なる。 自分に適した学習方法を見つけること。 予習に関しては基本書の該当箇所を事前に読んでくることを求める。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>・後期に説明する分野は法改正が珍しくないところである。そのため、状況によっては説明の順序を変更することがある。 ・民法科目を履修していることが望ましい。特に後期については民法の知識がないと理解しにくい分野である。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>定期試験の成績100% 出席はとらない。</p>
---------	---------------------------------

教科書／テキスト	<p>1. 六法（民法・商法が収録されているものであれば何でもよい） 2. 教科書は特に指定しない。第1回に関連文献を紹介する。受講者は自分が学習しやすいと思うものを利用すること。</p>
----------	--

参考書	<p>第1回に関連文献を紹介する。</p>
-----	-----------------------

履修コード	325501
科目名	商法総則・商行為法
担当者名	三浦 康平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p><概要> 本講義では、現代社会の経済活動についての法的規律を学ぶ。具体的には、企業間取引と企業と消費者との間の取引に適用がある法律を取りあげる。商取引は法的にどのように説明されるか、ということを中心とした。 基本的な条文の解説をしたのち、裁判例を紹介するというやり方をする。 裁判例やこれに対する学説の説明を通じて、現実の経済活動を法的に分析し、問題を処理する際に考慮すべき要素は何かを理解してもらいたい。 また、商取引の理解には、民法の基本的な知識が要求されることになるが、講義を通じて理解の確認をしてもらいたい。</p>
---------------------	---

	<p><到達目標> 現代の経済活動に対して法律はどのような制度を用意しており、どのように機能しているのかを理解する。</p>
--	--

授業スケジュール	<p><前期> 1. 授業ガイダンス 2. 商取引法総論：商取引法の特徴、企業取引に関する法の相互関係 3. 商法の適用範囲：商人と商行為の概念 4. 企業規模の拡大を支える仕組み：商業使用人 5. 企業内容の公示：商業登記制度 6～8. 企業の名称に対する評判と信頼の保護：商号制度 企業主体の交代：営業譲渡 9. 商行為法概論（民法との比較を中心に） 10～11. 企業取引の補助者 12. 運送取扱営業・運送営業 13. 場屋取引 14. 支払決済の法制度概論 15. 復習と質問（あるいは説明しきれない部分があれば、この時間を使用して説明する）</p> <p><後期> 1. 授業ガイダンス 2～3. 消費者契約法の基本的な考え方 4～8. 特定商取引法、割賦販売法、金融商品販売法（概論） 9～11. 証券取引 12～14. 保険取引 15. 復習と質問（あるいは説明しきれない部分があれば、この時間を使用して説明する）</p>
----------	---

準備学習	<p>予習または復習については、いずれが良いかは人によって異なる。 自分に適した学習方法を見つけること。 予習に関しては基本書の該当箇所を事前に読んでくることを求める。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>・後期に説明する分野は法改正が珍しくないところである。そのため、状況によっては説明の順序を変更することがある。 ・民法科目を履修していることが望ましい。特に後期については民法の知識がないと理解しにくい分野である。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>定期試験の成績100% 出席はとらない。</p>
---------	---------------------------------

教科書／テキスト	<p>1. 六法（民法・商法が収録されているものであれば何でもよい） 2. 教科書は特に指定しない。第1回に関連文献を紹介する。受講者は自分が学習しやすいと思うものを利用すること。</p>
----------	--

参考書	<p>第1回に関連文献を紹介する。</p>
-----	-----------------------

履修コード	121611
科目名	新入生演習
担当者名	藤本 茂 金子 昇平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この科目は、法学部に入学してはじめて法学を学ぶ法律学科の新入生が、これから法学を学んでいく上で必要な基礎的な勉学の方法を身につけられるようにとの趣旨で設けられています。法律学科の1年生はもれなくこの科目を履修し、4年間の法律学の学修を効果的に行うための基本を修得することを期待されています。</p> <p>授業は、原則として、一週おきに、教室と研究室での指導による学習を組み合わせた形態で行います。教室で教わったり体験したりしたさまざまな知識や学習方法を、次の週に研究室で先生と相談したり、指導に従って自習したりしながら、発展させて、自分なりに最も有効・適切な勉学方法を探し当て、開発していきたくて欲しいと願っています。また、実務に関する知見を広めるために、裁判所等の各種施設（文化施設を含む）を訪問することもあります。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>学習の順番や指導の方法はそれぞれの先生が工夫して、学生のみなさんの習熟度を見ながら組み立てていきますが、共通して学ぶ項目は概ね以下の通りです（教室での授業が15回の場合）。以下の順番の通りにすべて学習していくというよりも、いろいろな項目を組み合わせて、全体としてこれらの基本的なスキルが身についていくものとして、考えられています。</p>
----------	--

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基本的な学習施設（図書館や情報センターの利用方法、文献の探し方・調べ方）
- 第3回 教室での講義の受け方とノートの取り方
- 第4回 基本的な書籍とその利用方法、六法全書の読み方と使い方、法学用語集や辞書の活用方法
- 第5回 法的な文章の読み方とまとめ方
- 第6回 発展的な書籍の活用
- 第7回 法学文献以外の図書、雑誌および新聞等から法についての感覚を学ぶ
- 第8回 注のある文献の読み方と注の使い方
- 第9回 法学学習に必要な文の書き方と書くための作業
- 第10回 レジュメ・レポート・答案のまとめ方と書き方
- 第11回 ゼミなどでの発表の仕方 (1) テーマの決定
- 第12回 ゼミなどでの発表の仕方 (2) 発表
- 第13回 ゼミなどでの発表の仕方 (3) 発表
- 第14回 将来設計と学修（卒業後の進路をどう考え、法律学科での学修をどう生かすか）または各種施設（文化施設を含む）の訪問
- 第15回 まとめ

準備学習	その時々設定されたテーマごとに、担当教員の指示に従ってください。
履修上の留意点	授業への毎回出席は当然ですが、研究室での指導に課題を課されたり面接があったりする場合には、担当教員の指示に従って学習してください。
成績評価の方法	演習への参加態度および課題提出評価点等を総合して成績評価します。
教科書／テキスト	指定教科書はありません。使用する図書、雑誌および新聞等については、担当教員が適宜指示します。
参考書	参考書、課題図書は、担当教員がその都度指示します。

履修コード	121621
科目名	新入生演習
担当者名	田中 優企 間瀬 清史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この科目は、法学部に入学してはじめて法律学を学ぶ法律学科の新入生が、これから法律学を学んでいく上で必要な基礎的な勉学の方法を身につけられるようにとの趣旨で設けられています。法律学科の1年生はもれなくこの科目を履修し、4年間の法律学の学修を効果的に行うための基本を修得することを期待されています。</p> <p>授業は、原則として、一週おきに、教室と研究室での指導による学習を組み合わせた形態で行います。教室で教わったり体験したりしたさまざまな知識や学習方法を、次の週に研究室で先生と相談したり、指導に従って自習したりしながら、発展させて、自分なりに最も有効・適切な勉学方法を探し当て、開発していったって欲しいと願っています。また、実務に関する知見を広めるために、裁判所等の各種施設（文化施設を含む）を訪問することもあります。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>学習の順番や指導の方法はそれぞれの先生が工夫して、学生のみさんの習熟度を見ながら組み立てていきますが、共通して学ぶ項目は概ね以下の通りです（教室での授業が15回の場合）。以下の順番の通りにすべて学習していくというよりも、いろいろな項目を組み合わせて、全体としてこれらの基本的なスキルが身についていくものとして、考えられています。</p>
----------	---

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基本的な学習施設（図書館や情報センターの利用方法、文献の探し方・調べ方）
- 第3回 教室での講義の受け方とノートの取り方
- 第4回 基本的な書籍とその利用方法、六法全書の読み方と使い方、法学用語集や辞書の活用方法
- 第5回 法律学的な文章の読み方とまとめ方
- 第6回 発展的な書籍の活用
- 第7回 法学文献以外の図書、雑誌および新聞等から法についての感覚を学ぶ
- 第8回 注のある文献の読み方と注の使い方
- 第9回 法学学習に必要な文の書き方と書くための作業
- 第10回 レジュメ・レポート・答案のまとめ方と書き方
- 第11回 ゼミなどでの発表のし方（1）テーマの決定
- 第12回 ゼミなどでの発表のし方（2）発表
- 第13回 ゼミなどでの発表のし方（3）発表
- 第14回 将来設計と学修（卒業後の進路をどう考え、法律学科での学修をどう生かすか）または各種施設（文化施設を含む）の訪問
- 第15回 まとめ

準備学習	その時々を設定されたテーマごとに、担当教員の指示に従ってください。
履修上の留意点	授業への毎回出席は当然ですが、研究室での指導に課題を課されたり面接があったりする場合には、担当教員の指示に従って学習してください。
成績評価の方法	演習への参加態度および課題提出評価点等を総合して成績評価します。
教科書/テキスト	指定教科書はありません。使用する図書、雑誌および新聞等については、担当教員が適宜指示します。
参考書	参考書、課題図書は、担当教員がその都度指示します。

履修コード	121631
科目名	新入生演習
担当者名	奥村 公輔 荒木 正孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この科目は、法学部に入学してはじめて法律学を学ぶ法律学科の新入生が、これから法律学を学んでいく上で必要な基礎的な勉学の方法を身につけられるようにとの趣旨で設けられています。法律学科の1年生はもれなくこの科目を履修し、4年間の法律学の学修を効果的に行うための基本を修得することを期待されています。 授業は、原則として、1週おきに、教室と研究室での指導による学習を組み合わせた形態で行います。教室で教わったり体験したりしたさまざまな知識や学習方法を、次の週に研究室で先生と相談したり、指導に従って自習したりしながら、発展させて、自分なりに最も有効・適切な勉学方法を探し当て、開発して行って欲しいと願っています。また、実務に関する知見を広めるために、裁判所等の各種施設（文化施設を含む）を訪問することもあります。
---------------------	--

授業スケジュール	学習の順番や指導の方法はそれぞれの先生が工夫して、学生のみなさんの習熟度を見ながら組み立てていきますが、共通して学ぶ項目は概ね以下の通りです（教室での授業が15回の場合）。以下の順番の通りにすべて学習していくというよりも、いろいろな項目を組み合わせ、全体としてこれらの基本的なスキルが身についていくものとして、考えられています。
----------	--

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基本的な学習施設（図書館や情報センターの利用方法、文献の探し方・調べ方）
- 第3回 教室での講義の受け方とノートの取り方
- 第4回 基本的な書籍とその利用方法、六法全書の読み方と使い方、法学用語集や辞書の活用方法
- 第5回 法律学的な文章の読み方とまとめ方
- 第6回 発展的な書籍の活用
- 第7回 法学文献以外の図書、雑誌および新聞等から法についての感覚を学ぶ
- 第8回 注のある文献の読み方と注の使い方
- 第9回 法学学習に必要な文の書き方と書くための作業
- 第10回 レジюме・レポート・答案のまとめ方と書き方
- 第11回 ゼミなどでの発表のし方（1）テーマの決定
- 第12回 ゼミなどでの発表のし方（2）発表
- 第13回 ゼミなどでの発表のし方（3）発表
- 第14回 将来設計と学修（卒業後の進路をどう考え、法律学科での学修をどう生かすか）または各種施設（文化施設を含む）の訪問
- 第15回 まとめ

準備学習	その時々設定されたテーマごとに、担当教員の指示に従ってください。
履修上の留意点	授業への毎回出席は当然ですが、研究室での指導に課題を課されたり面接があったりする場合には、担当教員の指示に従って学習してください。
成績評価の方法	演習への参加態度および課題提出評価点等を総合して成績評価します。
教科書／テキスト	指定教科書はありません。使用する図書、雑誌および新聞等については、担当教員が適宜指示します。
参考書	参考書、課題図書は、担当教員がその都度指示します。

履修コード	121641
科目名	新入生演習
担当者名	富樫 景子 松村 格

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この科目は、法学部に入学してはじめて法律学を学ぶ法律学科の新入生が、これから法律学を学んでいく上で必要な基礎的な勉学の方法を身につけられるようにとの趣旨で設けられています。法律学科の1年生はもれなくこの科目を履修し、4年間の法律学の学修を効果的に行うための基本を修得することを期待されています。</p> <p>授業は、原則として、一週おきに、教室と研究室での指導による学習を組み合わせた形態で行います。教室で教わったり体験したりしたさまざまな知識や学習方法を、次の週に研究室で先生と相談したり、指導に従って自習したりしながら、発展させて、自分なりに最も有効・適切な勉学方法を探し当て、開発して行って欲しいと願っています。また、実務に関する知見を広めるために、裁判所等の各種施設（文化施設を含む）を訪問することもあります。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>学習の順番や指導の方法はそれぞれの先生が工夫して、学生のみなさんの習熟度を見ながら組み立てていきますが、共通して学ぶ項目は概ね以下の通りです（教室での授業が15回の場合）。以下の順番の通りにすべて学習していくというよりも、いろいろな項目を組み合わせ、全体としてこれらの基本的なスキルが身についていくものとして、考えられています。</p>
----------	---

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基本的な学習施設（図書館や情報センターの利用方法、文献の探し方・調べ方）
- 第3回 教室での講義の受け方とノートを取り方
- 第4回 基本的な書籍とその利用方法、六法全書の読み方と使い方、法学用語集や辞書の活用方法
- 第5回 法律学的な文章の読み方とまとめ方
- 第6回 発展的な書籍の活用
- 第7回 法学文献以外の図書、雑誌および新聞等から法についての感覚を学ぶ
- 第8回 注のある文献の読み方と注の使い方
- 第9回 法学学習に必要な文の書き方と書くための作業
- 第10回 レジюме・レポート・答案のまとめ方と書き方
- 第11回 ゼミなどでの発表の仕方（1）テーマの決定
- 第12回 ゼミなどでの発表の仕方（2）発表
- 第13回 ゼミなどでの発表の仕方（3）発表
- 第14回 将来設計と学修（卒業後の進路をどう考え、法律学科での学修をどう生かすか）または各種施設（文化施設を含む）の訪問
- 第15回 まとめ

準備学習	その時々を設定されたテーマごとに、担当教員の指示に従ってください。
履修上の留意点	授業への毎回出席は当然ですが、研究室での指導に課題を課されたり面接があったりする場合には、担当教員の指示に従って学習してください。
成績評価の方法	演習への参加態度および課題提出評価点等を総合して成績評価します。
教科書／テキスト	指定教科書はありません。使用する図書、雑誌および新聞等については、担当教員が適宜指示します。
参考書	参考書、課題図書は、担当教員がその都度指示します。

履修コード	121651
科目名	新入生演習
担当者名	中濱 義章 高橋 洋城

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この科目は、法学部に入学してはじめて法律学を学ぶ法律学科の新入生が、これから法律学を学んでいく上で必要な基礎的な勉学の方法を身につけられるようにとの趣旨で設けられています。法律学科の1年生はもれなくこの科目を履修し、4年間の法律学の学修を効果的に行うための基本を修得することを期待されています。</p> <p>授業は、原則として、一週おきに、教室と研究室での指導による学習を組み合わせた形態で行います。教室で教わったり体験したりしたさまざまな知識や学習方法を、次の週に研究室で先生と相談したり、指導に従って自習したりしながら、発展させて、自分なりに最も有効・適切な勉学方法を探し当て、開発して行って欲しいと願っています。また、実務に関する知見を広めるために、裁判所等の各種施設（文化施設を含む）を訪問することもあります。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>学習の順番や指導の方法はそれぞれの先生が工夫して、学生のみなさんの習熟度を見ながら組み立てていきますが、共通して学ぶ項目は概ね以下の通りです（教室での授業が15回の場合）。以下の順番の通りにすべて学習していくというよりも、いろいろな項目を組み合わせて、全体としてこれらの基本的なスキルが身についていくものとして、考えられています。</p>
----------	--

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基本的な学習施設（図書館や情報センターの利用方法、文献の探し方・調べ方）
- 第3回 教室での講義の受け方とノートの取り方
- 第4回 基本的な書籍とその利用方法、六法全書の読み方と使い方、法学用語集や辞書の活用方法
- 第5回 法律学的な文章の読み方とまとめ方
- 第6回 発展的な書籍の活用
- 第7回 法学文献以外の図書、雑誌および新聞等から法についての感覚を学ぶ
- 第8回 注のある文献の読み方と注の使い方
- 第9回 法学学習に必要な文の書き方と書くための作業
- 第10回 レジューメ・レポート・答案のまとめ方と書き方
- 第11回 ゼミなどでの発表のし方（1）テーマの決定
- 第12回 ゼミなどでの発表のし方（2）発表
- 第13回 ゼミなどでの発表のし方（3）発表
- 第14回 将来設計と学修（卒業後の進路をどう考え、法律学科での学修をどう生かすか）または各種施設（文化施設を含む）の訪問
- 第15回 まとめ

準備学習	その時々を設定されたテーマごとに、担当教員の指示に従ってください。
------	-----------------------------------

履修上の留意点	授業への毎回出席は当然ですが、研究室での指導に課題を課されたり面接があったりする場合には、担当教員の指示に従って学習してください。
---------	---

成績評価の方法	演習への参加態度および課題提出評価点等を総合して成績評価します。
---------	----------------------------------

教科書／テキスト	指定教科書はありません。使用する図書、雑誌および新聞等については、担当教員が適宜指示します。
----------	--

参考書	参考書、課題図書は、担当教員がその都度指示します。
-----	---------------------------

履修コード	121661
科目名	新入生演習
担当者名	大宮 隆 熊谷 芝青

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この科目は、法学部に入学してはじめて法律学を学ぶ法律学科の新入生が、これから法律学を学んでいく上で必要な基礎的な勉学の方法を身につけられるようにとの趣旨で設けられています。法律学科の1年生はもれなくこの科目を履修し、4年間の法律学の学修を効果的に行うための基本を修得することを期待されています。</p> <p>授業は、原則として、一週おきに、教室と研究室での指導による学習を組み合わせた形態で行います。教室で教わったり体験したりしたさまざまな知識や学習方法を、次の週に研究室で先生と相談したり、指導に従って自習したりしながら、発展させて、自分なりに最も有効・適切な勉学方法を探し当て、開発して行って欲しいと願っています。また、実務に関する知見を広めるために、裁判所等の各種施設（文化施設を含む）を訪問することもあります。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>学習の順番や指導の方法はそれぞれの先生が工夫して、学生のみなさんの習熟度を見ながら組み立てていきますが、共通して学ぶ項目は概ね以下の通りです（教室での授業が15回の場合）。以下の順番の通りにすべて学習していくというよりも、いろいろな項目を組み合わせ、全体としてこれらの基本的なスキルが身についていくものとして、考えられています。</p>
----------	---

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基本的な学習施設（図書館や情報センターの利用方法、文献の探し方・調べ方）
- 第3回 教室での講義の受け方とノートの取り方
- 第4回 基本的な書籍とその利用方法、六法全書の読み方と使い方、法学用語集や辞書の活用方法
- 第5回 法律学的な文章の読み方とまとめ方
- 第6回 発展的な書籍の活用
- 第7回 法学文献以外の図書、雑誌および新聞等から法についての感覚を学ぶ
- 第8回 注のある文献の読み方と注の使い方
- 第9回 法学学習に必要な文の書き方と書くための作業
- 第10回 レジュメ・レポート・答案のまとめ方と書き方
- 第11回 セミなどでの発表のし方（1）テーマの決定
- 第12回 セミなどでの発表のし方（2）発表
- 第13回 セミなどでの発表のし方（3）発表
- 第14回 将来設計と学修（卒業後の進路をどう考え、法律学科での学修をどう生かすか）または各種施設（文化施設を含む）の訪問
- 第15回 まとめ

準備学習	その時々設定されたテーマごとに、担当教員の指示に従ってください。
履修上の留意点	授業への毎回出席は当然ですが、研究室での指導に課題を課されたり面接があったりする場合には、担当教員の指示に従って学習してください。
成績評価の方法	演習への参加態度および課題提出評価点等を総合して成績評価します。
教科書／テキスト	指定教科書はありません。使用する図書、雑誌および新聞等については、担当教員が適宜指示します。
参考書	参考書、課題図書は、担当教員がその都度指示します。

履修コード	121671
科目名	新入生演習
担当者名	赤松 晃 原田 啓一郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この科目は、法学部に入学してはじめて法律学を学ぶ法律学科の新入生が、これから法律学を学んでいく上で必要な基礎的な勉学の方法を身につけられるようにとの趣旨で設けられています。法律学科の1年生はもれなくこの科目を履修し、4年間の法律学の学修を効果的に行うための基本を修得することを期待されています。 授業は、原則として、一週おきに、教室と研究室での指導による学習を組み合わせた形態で行います。教室で教わったり体験したりしたさまざまな知識や学習方法を、次の週に研究室で先生と相談したり、指導に従って自習したりしながら、発展させて、自分なりに最も有効・適切な勉学方法を探し当て、開発していったと欲しいと願っています。また、実務に関する知見を広めるために、裁判所等の各種施設（文化施設を含む）を訪問することもあります。
---------------------	---

授業スケジュール	学習の順番や指導の方法はそれぞれの先生が工夫して、学生のみなさんの習熟度を見ながら組み立てていきますが、共通して学ぶ項目は概ね以下の通りです（教室での授業が15回の場合）。以下の順番の通りにすべて学習していくというよりも、いろいろな項目を組み合わせて、全体としてこれらの基本的なスキルが身につけていくものとして、考えられています。
----------	---

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基本的な学習施設（図書館や情報センターの利用方法、文献の探し方・調べ方）
- 第3回 教室での講義の受け方とノートの取り方
- 第4回 基本的な書籍とその利用方法、六法全書の読み方と使い方、
法学用語集や辞書の活用方法
- 第5回 法的な文章の読み方とまとめ方
- 第6回 発展的な書籍の活用
- 第7回 法学文献以外の図書、雑誌および新聞等から法についての感覚を学ぶ
- 第8回 注のある文献の読み方と注の使い方
- 第9回 法学学習に必要な文の書き方と書くための作業
- 第10回 レジューメ・レポート・答案のまとめ方と書き方
- 第11回 ゼミなどでの発表のし方（1）テーマの決定
- 第12回 ゼミなどでの発表のし方（2）発表
- 第13回 ゼミなどでの発表のし方（3）発表
- 第14回 将来設計と学修（卒業後の進路をどう考え、法律学科での学修をどう生かすか）
または各種施設（文化施設を含む）の訪問
- 第15回 まとめ

準備学習	その時々設定されたテーマごとに、担当教員の指示に従ってください。
履修上の留意点	授業への毎回出席は当然ですが、研究室での指導に課題を課されたり面接があったりする場合には、担当教員の指示に従って学習してください。
成績評価の方法	演習への参加態度および課題提出評価点等を総合して成績評価します。
教科書／テキスト	指定教科書はありません。使用する図書、雑誌および新聞等については、担当教員が適宜指示します。
参考書	参考書、課題図書は、担当教員がその都度指示します。

履修コード	327011
科目名	新入生演習
担当者名	王 志安 三浦 康平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この科目は、法学部に入学してはじめて法律学を学ぶ法律学科の新入生が、これから法律学を学んでいく上で必要な基礎的な勉学の方法を身につけられるようにとの趣旨で設けられています。法律学科の1年生はもれなくこの科目を履修し、4年間の法律学の学修を効果的に行うための基本を修得することを期待されています。 授業は、原則として、一週おきに、教室と研究室での指導による学習を組み合わせた形態で行います。教室で教わったり体験したりしたさまざまな知識や学習方法を、次の週に研究室で先生と相談したり、指導に従って自習したりしながら、発展させて、自分なりに最も有効・適切な勉学方法を探し当て、開発して行って欲しいと願っています。また、実務に関する知見を広めるために、裁判所等の各種施設（文化施設を含む）を訪問することもありえます。
---------------------	---

授業スケジュール	学習の順番や指導の方法はそれぞれの先生が工夫して、学生のみなさんの習熟度を見ながら組み立てていきますが、共通して学ぶ項目は概ね以下の通りです（教室での授業が15回の場合）。以下の順番の通りにすべて学習していくというよりも、いろいろな項目を組み合わせ、全体としてこれらの基本的なスキルが身についていくものとして、考えられています。
----------	--

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基本的な学習施設（図書館や情報センターの利用方法、文献の探し方・調べ方）
- 第3回 教室での講義の受け方とノートを取り方
- 第4回 基本的な書籍とその利用方法、六法全書の読み方と使い方、法学用語集や辞書の活用方法
- 第5回 法律学的な文章の読み方とまとめ方
- 第6回 発展的な書籍の活用
- 第7回 法学文献以外の図書、雑誌および新聞等から法についての感覚を学ぶ
- 第8回 注のある文献の読み方と注の使い方
- 第9回 法学学習に必要な文の書き方と書くための作業
- 第10回 レジューメ・レポート・答案のまとめ方と書き方
- 第11回 ゼミなどでの発表の仕方（1）テーマの決定
- 第12回 ゼミなどでの発表の仕方（2）発表
- 第13回 ゼミなどでの発表の仕方（3）発表
- 第14回 将来設計と学修（卒業後の進路をどう考え、法律学科での学修をどう生かすか）または各種施設（文化施設を含む）の訪問
- 第15回 まとめ

準備学習	その時々設定されたテーマごとに、担当教員の指示に従ってください。
履修上の留意点	授業への毎回出席は当然ですが、研究室での指導に課題を課されたり面接があったりする場合には、担当教員の指示に従って学習してください。
成績評価の方法	演習への参加態度および課題提出評価点等を総合して成績評価します。
教科書／テキスト	指定教科書はありません。使用する図書、雑誌および新聞等については、担当教員が適宜指示します。
参考書	参考書、課題図書は、担当教員がその都度指示します。

履修コード	327021
科目名	新入生演習
担当者名	中田 英幸 鶴井 俊吉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この科目は、法学部に入学してはじめて法学を学ぶ法律学科の新入生が、これから法学を学んでいく上で必要な基礎的な勉学の方法を身につけられるようにとの趣旨で設けられています。法律学科の1年生はもれなくこの科目を履修し、4年間の法学の学修を効果的に行うための基本を修得することを期待されています。</p> <p>授業は、原則として、一週おきに、教室と研究室での指導による学習を組み合わせた形態で行います。教室で教わったり体験したりしたさまざまな知識や学習方法を、次の週に研究室で先生と相談したり、指導に従って自習したりしながら、発展させて、自分なりに最も有効・適切な勉強方法を探し当て、開発して行って欲しいと願っています。また、実務に関する知見を広めるために、裁判所等の各種施設（文化施設を含む）を訪問することもあります。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>学習の順番や指導の方法はそれぞれの先生が工夫して、学生のみなさんの習熟度を見ながら組み立てていきますが、共通して学ぶ項目は概ね以下の通りです（教室での授業が15回の場合）。以下の順番の通りにすべて学習していくというよりも、いろいろな項目を組み合わせ、全体としてこれらの基本的なスキルが身についていくものとして、考えられています。</p>
----------	---

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基本的な学習施設（図書館や情報センターの利用方法、文献の探し方・調べ方）
- 第3回 教室での講義の受け方とノートの取り方
- 第4回 基本的な書籍とその利用方法、六法全書の読み方と使い方、法学用語集や辞書の活用方法
- 第5回 法律学的な文章の読み方とまとめ方
- 第6回 発展的な書籍の活用
- 第7回 法学文献以外の図書、雑誌および新聞等から法についての感覚を学ぶ
- 第8回 注のある文献の読み方と注の使い方
- 第9回 法学学習に必要な文の書き方と書くための作業
- 第10回 レジューメ・レポート・答案のまとめ方と書き方
- 第11回 ゼミなどでの発表のし方（1）テーマの決定
- 第12回 ゼミなどでの発表のし方（2）発表
- 第13回 ゼミなどでの発表のし方（3）発表
- 第14回 将来設計と学修（卒業後の進路をどう考え、法律学科での学修をどう生かすか）または各種施設（文化施設を含む）の訪問
- 第15回 まとめ

準備学習	その時々設定されたテーマごとに、担当教員の指示に従ってください。
履修上の留意点	授業への毎回出席は当然ですが、研究室での指導に課題を課されたり面接があったりする場合には、担当教員の指示に従って学習してください。
成績評価の方法	演習への参加態度および課題提出評価点等を総合して成績評価します。
教科書／テキスト	指定教科書はありません。使用する図書、雑誌および新聞等については、担当教員が適宜指示します。
参考書	参考書、課題図書は、担当教員がその都度指示します。

履修コード	327031
科目名	新入生演習
担当者名	北野 かほる 佐藤 多美夫 井上 健一

授業概要/
到達目標 (ねらい)

この科目は、法学部に入学してはじめて法律学を学ぶ法律学科の新入生が、これから法律学を学んでいく上で必要な基礎的な勉学の方法を身につけられるようにとの趣旨で設けられています。法律学科の1年生はもれなくこの科目を履修し、4年間の法律学の学修を効果的に行うための基本を修得することを期待されています。

授業は、原則として、一週おきに、教室と研究室での指導による学習を組み合わせた形態で行います。教室で教わったり体験したりしたさまざまな知識や学習方法を、次の週に研究室で先生と相談したり、指導に従って自習したりしながら、発展させて、自分なりに最も有効・適切な勉強方法を探し当て、開発して行って欲しいと願っています。また、実務に関する知見を広めるために、裁判所等の各種施設（文化施設を含む）を訪問することもあります。

授業スケジュール

学習の順番や指導の方法はそれぞれの先生が工夫して、学生のみさんの習熟度を見ながら組み立てていきますが、共通して学ぶ項目は概ね以下の通りです（教室での授業が15回の場合）。以下の順番の通りにすべて学習していくというよりも、いろいろな項目を組み合わせて、全体としてこれらの基本的なスキルについていくものとして、考えられています。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基本的な学習施設（図書館や情報センターの利用方法、文献の探し方・調べ方）
- 第3回 教室での講義の受け方とノートの取り方
- 第4回 基本的な書籍とその利用方法、
六法全書の読み方と使い方、法学用語集や辞書の活用方法
- 第5回 法律学的な文章の読み方とまとめ方
- 第6回 発展的な書籍の活用
- 第7回 法学文献以外の図書、雑誌および新聞等から法についての感覚を学ぶ
- 第8回 注のある文献の読み方と注の使い方
- 第9回 法学学習に必要な文の書き方と書くための作業
- 第10回 レジュメ・レポート・答案のまとめ方と書き方
- 第11回 ゼミなどでの発表のし方 (1) テーマの決定
- 第12回 ゼミなどでの発表のし方 (2) 発表
- 第13回 ゼミなどでの発表のし方 (3) 発表
- 第14回 将来設計と学修（卒業後の進路をどう考え、法律学科での学修をどう生かすか）
または各種施設（文化施設を含む）の訪問
- 第15回 まとめ

準備学習

その時々設定されたテーマごとに、担当教員の指示に従ってください。

履修上の留意点

授業への毎回出席は当然ですが、研究室での指導に課題を課されたり面接があったりする場合には、担当教員の指示に従って学習してください。

成績評価の方法

演習への参加態度および課題提出評価点等を総合して成績評価します。

教科書/テキスト

指定教科書はありません。使用する図書、雑誌および新聞等については、担当教員が適宜指示します。

参考書

参考書、課題図書は、担当教員がその都度指示します。

履修コード	117301
科目名	政治学原論
担当者名	大塚 桂

授業概要/ 到達目標(ねらい)	<p>I自己紹介 私は、いままでイギリスの政治的多元主義・新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれませんが。政治学のみならずひろく隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。</p> <p>私の研究室は、第二研究館八階(2835)にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。</p> <p>II講義の目的 政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、政治現象の理論的説明と解明ができるように基礎的原理的知識を修得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門学科目を研究する上で必要な知識を提供することです。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>III講義のすすめかた 現代政治学のアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。</p> <p>IV講義の内容 おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。 A政治学の課題と対象、ならびに方法(1) B政治の原理的究明 (1)政治的なるもの ～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従 (2)共同体的なるもの ～国家、社会、主権、法 (3)イデオロギー的なるもの ～イデオロギー、正義、自由、平等、人権(シティズンシップ)(2~15) C政治の実体論的究明 (1)制度論的究明 ～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制(16~22) (2)機能論的究明 ～政党、圧力団体、市民参加、マスコミ、政治教育、政治的社会化(23~30)</p>
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	<p>V成績評価 単位の認定は、ペーパー試験を中心におこないます。 成績評価は 中間試験：50% 学年末試験：50% 以上の割合によるものとします。教科書、授業の理解度を重視し採点します。 なお、追試験も実施します。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>大塚桂『政治学原論序説』(勁草書房)3,296円 大塚桂『政治哲学入門』(法律文化社)2,900円</p>
----------	--

参考書	上記教科書の巻末にある参考文献を参照のこと。
-----	------------------------

その他	学習にあたっては、大塚編『補章オリエンテーション政治学』『政治学へのいざない』(成文堂)、大塚編『日本の政治学』(法律文化社)等を参考にしてください。
-----	---

履修コード	118901
科目名	税法
担当者名	赤松 晃
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	所得税法、消費税法、相続税法 (相続・贈与) 及び法人税法を中心に、税法に関する日本経済新聞等の記事を読み解くことができる水準とする。公務員試験や資格試験に資する。
授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は、原則として、下記の講義予定に係る各テキストの目次に従って進めていく。具体的な学習の内容及び進度に関する詳細は講義において述べる。適宜、関係する新聞記事や論文等を配布して解説する。各税目の終了時に理解度の確認をする。 第1～第6回 『税法入門』 第7～第12回 『所得税法』 第13～第18回 『消費税法』 第19～第23回 『相続税法 (相続税・贈与税)』 第24～第28回 『法人税法』 第29～第30回 まとめ
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・初回講義には、下記の税務大学校講本のうちから『税法入門』 (全92頁) を各自が印刷して持参すること (A4サイズ1枚に2頁印刷が適当)。 ・初回講義はイントロダクションとして『税法入門』の第6章「税務行政の概要」及び第7章「税務行政の組織と権限」を対象とする。 ・講義に先立ち予習項目を指定するので、該当箇所を必ず読み込んで出席すること。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・平日頃から新聞やテレビでの税法関係の報道に関心を持つこと。講義で随時取り上げる。
成績評価の方法	成績は、講義への積極的参加状況を踏まえ、各税目の理解度 (2割)、夏季課題レポートの内容 (2割)、秋季課題の達成程度 (1割)、期末試験 (5割) を総合して評価する。夏季課題レポートの提出がない者は、定期試験の評価対象としないので必然的に単位を取得できない。
教科書/テキスト	国税庁税務大学校が、初めて税法に触れる研修生のために毎年アップデートしている税務大学校講本のうち、次を各自が [http://www.nta.go.jp/ntc/kouhon/index.htm] からダウンロードして持参すること (頁数は平成23年度版による)。 『税法入門』 (全92頁)、『所得税法』 (全169頁)、『消費税法』 (全102頁)、『相続税法 (相続税・贈与税)』 (全134頁)、『法人税法』 (全151頁)。
参考書	<p>参考書は、図書館の蔵書等を利用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水野忠恒『租税法』 (有斐閣、5版、2011年) 6,510円 ISBN:4641130957 ・金子宏『租税法』 (弘文堂、16版、2011年) 5,880円 ISBN:4335304498 ・谷口勢津夫『税法基本講義』 (弘文堂、2版、2011年) 3,675円 ISBN:4335355017 ・岡村=渡辺=高橋『ベーシック税法』有斐閣アルマ (有斐閣、6版、2011年) 2,205円 ISBN:4641124426 ・金子=清永=宮谷=島山『税法入門』有斐閣選書 (有斐閣、6版、2007年) 1,050円 ISBN:4641091579
その他	出欠確認、連絡事項など講義に関する事項について、YeStudyを活用する。
関連リンク	http://www.nta.go.jp/ntc/kouhon/index.htm

履修コード	325801
科目名	税法
担当者名	赤松 晃
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	所得税法、消費税法、相続税法（相続・贈与）及び法人税法を中心に、税法に関する日本経済新聞等の記事を読み解くことができる水準とする。公務員試験や資格試験に資する。
授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は、原則として、下記の講義予定に係る各テキストの目次に従って進めていく。具体的な学習の内容及び進度に関する詳細は講義において述べる。適宜、関係する新聞記事や論文等を配布して解説する。各税目の終了時に理解度の確認をする。 第1～第6回 『税法入門』 第7～第12回 『所得税法』 第13～第18回 『消費税法』 第19～第23回 『相続税法（相続税・贈与税）』 第24～第28回 『法人税法』 第29～第30回 まとめ
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・初回講義には、下記の税務大学校講本のうちから『税法入門』（全92頁）を各自が印刷して持参すること（A4サイズ1枚に2頁印刷が適当）。 ・初回講義はイントロダクションとして『税法入門』の第6章「税務行政の大要」及び第7章「税務行政の組織と権限」を対象とする。 ・講義に先立ち予習項目を指定するので、該当箇所を必ず読み込んで出席すること。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・平日頃から新聞やテレビでの税法関係の報道に関心を持つこと。講義で随時取り上げる。
成績評価の方法	<p>成績は、講義への積極的参加状況を踏まえ、各税目の理解度（2割）、夏季課題レポートの内容（2割）、秋季課題の達成程度（1割）、期末試験（5割）を総合して評価する。</p> <p>夏季課題レポートの提出がない者は、定期試験の評価対象としないので必然的に単位を取得できない。</p>
教科書／テキスト	<p>国税庁税務大学校が、初めて税法に触れる研修生のために毎年アップデートしている税務大学校講本のうち、次を各自が[http://www.nta.go.jp/ntc/kouhon/index.htm]からダウンロードして持参すること（頁数は平成23年度版による）。</p> <p>『税法入門』（全92頁）、『所得税法』（全169頁）、『消費税法』（全102頁）、『相続税法（相続税・贈与税）』（全134頁）、『法人税法』（全151頁）。</p>
参考書	<p>参考書は、図書館の蔵書等を利用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水野忠恒『租税法』（有斐閣、5版、2011年）6,510円 ISBN:4641130957 ・金子宏『租税法』（弘文堂、16版、2011年）5,880円 ISBN:4335304498 ・谷口勢津夫『税法基本講義』（弘文堂、2版、2011年）3,675円 ISBN:4335355017 ・岡村=渡辺=高橋『ベーシック税法』有斐閣アルマ（有斐閣、6版、2011年）2,205円 ISBN:4641124426 ・金子=清永=宮谷=畠山『税法入門』有斐閣選書（有斐閣、6版、2007年）1,050円 ISBN:4641091579
その他	出欠確認、連絡事項など講義に関する事項について、YeStudyを活用する。
関連リンク	http://www.nta.go.jp/ntc/kouhon/index.htm

履修コード	117901
科目名	西洋法制史
担当者名	北野 かほる

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	イングランド (イギリス) の法と社会のかかわりの歴史を素材に、ひとが社会で生きるときに、その社会の法のしくみが生活とどうかかわってくるかを理解すること。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1~3回 第1部 総論 イングランド法制史理解のための基礎知識 第1章 時間と空間 第2章 時代区分1: ヨーロッパ法史の時間 第3章 時代区分2: イングランド法史の時間</p> <p>第4~10回 第2部 各論 イングランド法制史 第1章 古代 古代イングランドの社会と法 第11~20回 第2章 中世 中世イングランドの社会と法 第21~30回 第3章 近世 近世イングランドの社会と法</p> <p>いずれの時代についても、紛争解決方法の種類と特徴を軸に講義します。</p>
----------	---

* 講義内容・時間配分は必要に応じて変更することがあります。

準備学習	高等学校で学習した世界史のうち西洋史の部分の復習しておいて下さい。
------	-----------------------------------

履修上の留意点	<p>ある時代の社会で、ひとひとのあいだに不調和が生まれたとき、それを解決するために利用可能なことからの状況は社会によって違います。この違いが、その社会ではどのような紛争解決方法に現実味があつたのかを規定することになります。この、社会的リソースとその活用という関係が、法的関係とりわけ日常的な不調和解決の場面でも働いていることを感じ取れる感覚を養うことが目的です。すこし専門的ですが、一種のバーチャル・リアリティの異世界体験だと思って、想像力を活用しながら聴講し、思い出してイメージを鍛えることが大切です。</p>
---------	---

受講者の人数によっては、抜き打ち的に出席をとることがあります。毎回の出席点を成績に加味することはありません。要するに、毎回出席していない限り、抜き打ちの出席チェックには対応できないということです。

休んだ時間の講義ノートは早めに確保するようにしてください。出席して自分でノートを取ることが記憶を鍛える最良の方法ですから、講義ノートのウェブ公開はしません。

成績評価の方法	原則として学年末試験により行います。試験の評価は、講義内容を十分理解しているかどうかを基準にして行います。試験に持ち込み物件は認めません。丸暗記すれば授業内容が身に付くような書籍は出版されていませんので、試験勉強には、講義ノートが一番重要な情報源です。
---------	--

教科書/テキスト	特に指定するものではありません。
----------	------------------

参考書	<p>J・ベイカー (小山貞夫訳) 『イングランド法制史概説』 創文社、9975円 ISBN: 978-4423740286 F・W・メイトランド (小山貞夫訳) 『イングランド憲法史』 創文社、12600円 ISBN: 978-4423492130 R・C・ヴァン・カネヘム (小山貞夫訳) 『裁判官・立法者・大学教授』 ミネルヴァ書房、3780円 ISBN: 978-4623020447 田中英夫 『英米法総論 (上)』 東京大学出版会、3675円 ISBN: 978-4130350518 勝田有恒・山内進・森征一編 『概説西洋法制史』 ミネルヴァ書房、3360円 ISBN: 978-4623040643</p>
-----	---

履修コード	116701
科目名	担保物権法
担当者名	鶴井 俊吉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義では、民法典の第二編「物権」のうちで、留置権、先取特権、質権、抵当権を中心に、譲渡担保、仮登記担保等がその対象になる。債権の履行を確保するために認められるこれらの担保物権の基礎を理解できるように講義を進めたい。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>私たちが土地を買い、建物を建てる、あるいは自動車を買うという場合に、多くは金融機関から融資を受けることになるが、金融機関では何らかの担保を要求してくる。この場合に、抵当権や質権といった担保物権を金融機関に設定することになる。このように「小」は個人の資金調達のため、あるいは「大」は企業の活動資金獲得のために担保は重要な役割を担っている。担保物権のもつ経済的意義は極めて重要である。</p> <p>しかし、学生にとって担保物権法は、民法の中で最も難解なところと感じられ、また比較にならない領域だと思われる。それは、多数の関係当事者が複雑に絡み合い、また解釈上でも技術的性格が強いことに原因がある。そこで講義では、担保物権法の基礎的な考え方を理解できるように、できるだけ判例等の具体例をとりあげ、図解してわかりやすいように心掛ける予定である。</p> <p>1～3 担保物権法序論 (①担保物権の役割 ②種類・概念 ③効力・性質)</p> <p>4～8 質権 (①序説 ②動産質 ③不動産質 ④権利質)</p> <p>9～19 抵当権 (①序説 ②抵当権の設定 ③抵当権の効力 ④利用権との調整 ⑤抵当権の実行 ⑥抵当権の処分 ⑦抵当権の消滅 ⑧根抵当権)</p> <p>20～25 非典型担保 (①序説 ②買戻し・再売買の予約 ③仮登記担保 ④譲渡担保 ⑤所有権留保等)</p> <p>26～30 留置権 (①序説 ②成立要件 ③効力 ④留置権の消滅) 先取特権 (①序説 ②種類 ③先取特権の順位 ④効力 ⑤消滅)</p>
----------	--

準備学習	事前に問題提起をしますので、予習・復習をして授業に出席してください。
履修上の留意点	授業は、教科書に沿って講義を進めていくので、教科書と六法を持参してください。
成績評価の方法	年度末の定期試験の結果と講義出席の状況を考慮して総合的に評価する。
教科書/テキスト	プログレッシブ民法 (担保物権法) 清水元著 成文堂
参考書	『民法判例百選 I 総則・物権』 有斐閣

履修コード	326301
科目名	担保物権法
担当者名	山田 創一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>担保物権は、債権の履行を確保することを目的として、債権者が債務者または第三者の財産に対して有する一定の支配権の総称である。民法には、留置権・先取特権・質権・抵当権の4種類が規定されており、これらは典型担保と呼ばれる。このほかに、譲渡担保、仮登記担保、所有権留保といった民法に規定のない非典型担保も存在している。</p> <p>こうした担保物権は、当事者間の約定または法律の定めに従って発生し、債権の履行確保のためその効力として、優先弁済的効力や留置的効力などが認められるが、上記の各担保物権の種類によってその内容や効力は異なる。</p> <p>本講義では、民法の295条から398条の22までの典型担保の講義を中心しつつ、非典型担保も可能な範囲でとりあげることとする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 担保物権法概論 2 抵当権の意義、法的性質、設定 3 抵当権の目的の範囲 4 抵当権侵害 5 抵当権の物上代位(1) 6 抵当権の物上代位(2) 7 抵当権の物上代位(3) 8 抵当権の物上代位(4) 9 法定地上権(1) 10 法定地上権(2) 11 法定地上権(3) 12 法定地上権(4) 13 一括競売、抵当権に後れる賃貸借 14 抵当権の実行 15 代価弁済、抵当権消滅請求権 16 共同抵当 17 抵当権の処分(1) 18 抵当権の処分(2) 19 根抵当権(1) 20 根抵当権(2) 21 質権(1) 22 質権(2) 23 留置権(1) 24 留置権(2) 25 先取特権(1) 26 先取特権(2) 27 譲渡担保(1) 28 譲渡担保(2) 29 所有権留保 30 仮登記担保
----------	--

準備学習	<p>「民法総則」「物権法」「債権総論」は関連する科目ですので、履修しておくこと、または、並行して履修することが望ましいです。</p> <p>毎回の講義の復習をしっかりとして下さい。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>六法は教科書とともに持参してください。重要な判例については、判例を事実とあわせて読むことが重要です。読んだほうがよい判例は、講義の際に指定したいと思います。</p> <p>内容が毎回関連していますので、休まずに出席するようにしてください。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>定期試験の成績と平常点で評価します。定期試験の成績80%、平常点20%とします。</p> <p>夏休みにレポートを課しますが、提出は任意で、定期試験の成績に加点します。</p>
---------	---

教科書/テキスト	清水元『プロGRESS民法 担保物権法』成文堂 2500円
----------	-------------------------------

参考書	遠藤浩・川井健編『民法基本判例集』第三版(勁草書房) 2200円
-----	----------------------------------

履修コード	119601
科目名	知的財産権法
担当者名	角田 政芳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>現代社会においては、科学技術や芸術のような人類が創造したもの、つまり知的財産がその重要なインフラとなっています。</p> <p>そのような知的財産には、例えば、テクノロジー、デザイン、ブランド、ノウ・ハウや、iPadやGALAPAGOSのような電子書籍、ミュージック、映画、アニメーション、ゲームソフトなどのアートという、人類の知恵から生み出された広い意味での創造物が含まれます。これらは、特許権、実用新案権、育成者権、意匠権、商標権、著作権などの知的財産権という、他人の無断利用を禁止することのできる権利によって保護されています。</p> <p>この授業の目標は、このような、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、不正競争防止法上の権利、そして著作権や著作隣接権の基本について、皆さんの身の回りに生起しているニュースや判例を見ながら理解を深めていただきます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>【第1回】 知的財産法総論(知的財産権の種類、法的性質)</p> <p>【第2回】 特許法の目的、発明の意義・種類</p> <p>【第3回】 特許要件 (産業上利用性・新規性喪失事由・進歩性・先願範囲の拡大・公序良俗)</p> <p>【第4回】 特許権の主体 (発明者・共同発明・職務発明)</p> <p>【第5回】 特許権取得手続 (願書・明細書・特許請求の範囲・図面・要旨、審査手続、出願公開)</p> <p>【第6回】 特許権の効力と制限 (試験・研究、医薬の調合等、用尽理論、属地主義)</p> <p>【第7回】 特許権の利用 (ライセンス・専用実施権と通常実施権、担保権、信託など)</p> <p>【第8回】 特許権の侵害と救済 (直接侵害・クレーム解釈・均等論、間接侵害、民事救済、刑罰)</p> <p>【第9回】 実用新案権</p> <p>【第10回】 意匠権 (権利の客体・意匠、主体、登録要件、権利取得手続、権利侵害、特殊制度)</p> <p>【第11回】 商標権(1) (権利の客体・商標、主体、登録要件)</p> <p>【第12回】 商標権(2) (権利取得手続、権利の効力と制限、権利侵害、取消審判)</p> <p>【第13回】 不正競争防止法(1) (有名ブランド・ドメインネーム・トレードシークレット)</p> <p>【第14回】 不正競争防止法(2) (不正競争行為への救済・刑罰)</p> <p>【第15回】 国際的側面 (属地主義、並行輸入、国際技術移転、強制ライセンス、パリ条約・PCT・マドプロ等)</p> <p>【第16回】 著作権法総論、著作権法の目的、沿革、産業財産権と著作権の相違点、著作権法の現代的課題</p> <p>【第17回】 著作権の客体(1) (著作物の要件)</p> <p>【第18回】 著作権の客体(2) (著作物の種類、二次的著作物)</p> <p>【第19回】 著作者人格権とその制限</p> <p>【第20回】 著作権の効力 (複製権、上演・演奏権、上映権、公衆送信権、展示権、口述権、頒布権、譲渡権・貸与権等)</p> <p>【第21回】 著作権の制限(1) (私的複製、図書館の複製、引用・転載)</p> <p>【第22回】 著作権の制限(2) (教育目的の複製、非営利目的の上演・演奏等、)</p> <p>【第23回】 著作権の制限(3) (報道目的の複製、一時的固定、プログラムのインストール等)</p> <p>【第24回】 著作権の利用 (権利移転、ライセンス・出版権設定契約・出版契約、担保権、JASRACの信託的譲渡等)</p> <p>【第25回】 著作権の侵害 (直接侵害と擬制侵害、間接侵害と代位責任等、Winnyp事件等)</p> <p>【第26回】 著作隣接権 (実演家人格権、実演家・レコード製作者・放送事業者・有線放送事業者の著作隣接権)</p> <p>【第27回】 著作権侵害の救済 (差止請求・損害賠償請求・不当利得返還)</p> <p>【第28回】 著作権侵害罪 (罰則・コピープロテクション回避禁止等)</p> <p>【第29回】 著作権の国際的側面 (複製物の並行輸入、インターネット上の著作権侵害等)</p> <p>【第30回】 著作権関係条約の概要 (TRIPs協定、ベルヌ条約、万国著作権条約、WCT、WPPTなど)</p>
----------	---

準備学習	毎回の授業の際に、次回のテキストやテーマ、および判例について範囲を伝えますので、読んでおくことが必要です。
履修上の留意点	新聞やインターネットなどで毎日のように報道される特許侵害、偽ブランド、インターネット上の著作権侵害などに常に関心を持って、授業に臨んでいただきたいと思います。
成績評価の方法	総合評価 (平常点：原則30%；定期試験：原則70%))
教科書／テキスト	角田政芳他著「アルマ知的財産法<第5版>」有斐閣、2010年
参考書	角田政芳編「知的財産権六法2011」三省堂2011

履修コード	325701
科目名	知的財産権法
担当者名	角田 政芳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>現代社会においては、科学技術や芸術のような人類が創造したもの、つまり知的財産がその重要なインフラとなっています。</p> <p>そのような知的財産には、例えば、テクノロジー、デザイン、ブランド、ノウ・ハウや、iPad やGALAPAGOSのような電子書籍、ミュージック、映画、アニメーション、ゲームソフトなどのアートという、人類の知恵から生み出された広い意味での創造物が含まれます。これらは、特許権、実用新案権、育成者権、意匠権、商標権、著作権などの知的財産権という、他人の無断利用を禁止することのできる権利によって保護されています。</p> <p>この授業の目標は、このような、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、不正競争防止法上の権利、そして著作権や著作隣接権の基本について、皆さんの身の回りに生起しているニュースや判例を見ながら理解を深めていただきます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>【第1回】 知的財産法総論 (知的財産権の種類、法的性質)</p> <p>【第2回】 特許法の目的、発明の意義・種類</p> <p>【第3回】 特許要件 (産業上利用性・新規性喪失事由・進歩性・先願範囲の拡大・公序良俗)</p> <p>【第4回】 特許権の主体 (発明者・共同発明・職務発明)</p> <p>【第5回】 特許権取得手続 (願書・明細書・特許請求の範囲・図面・要旨、審査手続、出願公開)</p> <p>【第6回】 特許権の効力と制限 (試験・研究、医薬の調合等、用尽理論、属地主義)</p> <p>【第7回】 特許権の利用 (ライセンス・専用実施権と通常実施権、担保権、信託など)</p> <p>【第8回】 特許権の侵害と救済 (直接侵害・クレーム解釈・均等論、間接侵害、民事救済、刑罰)</p> <p>【第9回】 実用新案権</p> <p>【第10回】 意匠権 (権利の客体・意匠、主体、登録要件、権利取得手続、権利侵害、特殊制度)</p> <p>【第11回】 商標権(1) (権利の客体・商標、主体、登録要件)</p> <p>【第12回】 商標権(2) (権利取得手続、権利の効力と制限、権利侵害、取消審判)</p> <p>【第13回】 不正競争防止法(1) (有名ブランド・ドメインネーム・トレードシークレット)</p> <p>【第14回】 不正競争防止法(2) (不正競争行為への救済・刑罰)</p> <p>【第15回】 国際的側面 (属地主義、並行輸入、国際技術移転、強制ライセンス、パリ条約・PCT・マドプロ等)</p> <p>【第16回】 著作権法総論、著作権法の目的、沿革、産業財産権と著作権の相違点、著作権法の現代的課題</p> <p>【第17回】 著作権の客体(1) (著作物の要件)</p> <p>【第18回】 著作権の客体(2) (著作物の種類、二次的著作物)</p> <p>【第19回】 著作人人格権とその制限</p> <p>【第20回】 著作権の効力 (複製権、上演・演奏権、上映権、公衆送信権、展示権、口述権、頒布権、譲渡権・貸与権等)</p> <p>【第21回】 著作権の制限(1) (私的複製、図書館の複製、引用・転載)</p> <p>【第22回】 著作権の制限(2) (教育目的の複製、非営利目的の上演・演奏等、)</p> <p>【第23回】 著作権の制限(3) (報道目的の複製、一時的固定、プログラムのインストール等)</p> <p>【第24回】 著作権の利用 (権利移転、ライセンス・出版権設定契約・出版契約、担保権、JASRACの信託的譲渡等)</p> <p>【第25回】 著作権の侵害 (直接侵害と擬制侵害、間接侵害と代位責任等、Winny事件等)</p> <p>【第26回】 著作隣接権 (実演家人格権、実演家・レコード製作者・放送事業者・有線放送事業者の著作隣接権)</p> <p>【第27回】 著作権侵害の救済 (差止請求・損害賠償請求・不当利得返還)</p> <p>【第28回】 著作権侵害罪 (罰則・コピープロテクション回避禁止等)</p> <p>【第29回】 著作権の国際的側面 (複製物の並行輸入、インターネット上の著作権侵害等)</p> <p>【第30回】 著作権関係条約の概要 (TRIPs協定、ベルヌ条約、万国著作権条約、WCT、WPPTなど)</p>
----------	---

準備学習	毎回授業の際に次回のテキスト範囲、テーマ、判例を伝えますので、よく読んでおいていただきたいと思います。
履修上の留意点	新聞やインターネット上の特許侵害、偽ブランド、インターネット上の著作権侵害などの情報に常に関心を持って授業に臨んでいただきたいと思います。
成績評価の方法	総合評価 (平常点：原則30%；定期試験：原則70%))
教科書／テキスト	角田政芳他著「アルマ知的財産法<第5版>」有斐閣、2010年
参考書	角田政芳編「知的財産権六法2011」三省堂2011

履修コード	127501
科目名	地方自治法
担当者名	富井 幸雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。平成12年度より、地方分権を旨とした新しい地方自治制度がスタートしている。この改革がいかなる意義をもつのかをくみしめながら、新地方自治法の理念や制度を理解するとともに、その課題を議論していく。
---------------------	--

授業スケジュール	講義は概ね以下のスケジュールで行う。前期は、地方自治の概念、憲法と地方自治、地方公共団体の概念、地方公共団体の事務、住民自治を順に勉強していく。後期は、地方公共団体の組織、自治立法権、自主財政権、公の施設、国と地方公共団体の関係を順に勉強する。なお、前後期それぞれ最後の授業時に試験を実施する。
----------	---

準備学習	毎回の授業終了時に次回の講義事項をアナウンスするので、関係する教科書の部分を熟読する。また関連する地方自治法などの条文に目を通しておく。
------	--

履修上の留意点	憲法や行政法、ならびに行政学も同時履修あるいは既修であることが望ましい。
---------	--------------------------------------

成績評価の方法	前期試験 (40%) と学年末試験 (60%) で総合的に評価する。
---------	------------------------------------

教科書/テキスト	富井幸雄『地方自治法読本 改訂第2版』2012年4月 (内外出版)
----------	-----------------------------------

参考書	『地方自治判例百選 (第3版)』 (別冊ジュリスト)。
-----	-----------------------------

その他	講義では頻繁に法律の条文に言及するので、その都度チェックすること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両方分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。
-----	--

履修コード	326001
科目名	地方自治法
担当者名	富井 幸雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。平成12年度より、地方分権を旨とした新しい地方自治制度がスタートしている。この改革がいかなる意義をもつのかをくみしめながら、新地方自治法の理念や制度を理解するとともに、その課題を議論していく。
---------------------	--

授業スケジュール	講義は概ね以下のスケジュールで行う。前期は、地方自治の概念、憲法と地方自治、地方公共団体の概念、地方公共団体の事務、住民自治を順に勉強していく。後期は、地方公共団体の組織、自治立法権、自主財政権、公の施設、国と地方公共団体の関係を順に勉強する。なお、前後期それぞれ最後の授業時に試験を実施する。
----------	---

準備学習	毎回の授業終了時に次回の講義事項をアナウンスするので、関係する教科書の部分を熟読する。また関連する地方自治法などの条文に目を通しておく。
------	--

履修上の留意点	憲法や行政法、ならびに行政学も同時履修あるいは既修であることが望ましい。
---------	--------------------------------------

成績評価の方法	前期試験 (40%) と学年末試験 (60%) で総合的に評価する。
---------	------------------------------------

教科書/テキスト	富井幸雄『地方自治法読本 改訂第2版』2012年4月 (内外出版)
----------	-----------------------------------

参考書	『地方自治判例百選 (第3版)』 (別冊ジュリスト)。
-----	-----------------------------

その他	講義では頻繁に法律の条文に言及するので、その都度チェックすること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両方分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。
-----	--

履修コード	118801
科目名	登記法
担当者名	田沼 浩
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	初めて登記法を学ぶ者にも、以前勉強したことのある者にも、民法・会社法・商法の手続法としての「不動産登記法・商業登記法」が現在の取引社会においてどのような役割を担っているのか、両法のより深い理解を図ります。また、登記簿等のオンライン閲覧や今後予想されるオンライン登記申請に伴う情報リテラシー（活用）能力を養います。
授業スケジュール	(前期) (1・2) 登記法概論 (3～5) 不動産登記法総則・商業登記法総則 (6～15) 会社法第四章登記、商法第三章商業登記及び会社法にかかる商業登記、(後期) (16～18) 会社法にかかる商業登記つき (19～21) 民法典物権編総則にかかる不動産登記 (22) 所有権にかかる不動産登記 (23～26) 民法典相続編にかかる不動産登記 (27～29) 担保物権にかかる不動産登記 (30) まとめ
準備学習	民法及び会社法の日頃から関心をもって、書籍や新聞を読みましょう。
履修上の留意点	不動産に関する取引全体の流れに対して、情報として重要な役割を果たす不動産登記を理解することを目指し、会社法と関連させることによって会社の起業や取引先の情報収集に役立つ商業登記法の知識を最低限習得できるように努めます。受講者は民法典第二編物権、第三編債権、第五編相続、会社法の履修を望みます。また、この講義を受講することが望ましい者として、将来、企業の法務部・総務部に配属されることを考えている者、不動産・金融関係の会社に就職を希望する者、起業して自営業を目指す者、そして司法書士試験を受験したいと考えている者など、広く対象とします。
成績評価の方法	学年末試験の結果と提出物（前期レポート）の内容に依拠して行います。問題作成及び成績評価にあたっては、教科書等から問題を作成し、講義に積極的に参加した人が有利になるように成績評価を配慮します。
教科書／テキスト	『定款の実務』日本司法書士会連合会の推奨図書(オンブック 田沼浩著) 3600円。オンブックサイトから直接購入してください。『定款の実務』か、『田沼浩』で検索するか、次をクリック。{ http://www.onbook.jp/bookd.html?bid=0099 }
参考書	『有斐閣判例六法Professional』（有斐閣） 5,565円 法務省民事局編『不動産登記実務〔五訂版〕』（法曹会）
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/

履修コード	119501
科目名	倒産処理法
担当者名	鈴木 貴博

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	破産法を中心に倒産処理法制の概要とその基本事項に関する理解を深める。
---------------------	------------------------------------

授業スケジュール	<p>倒産処理手続は、債務者・債権者・担保権者など多数の利害関係人の利益が錯綜し、債権者の平等な取扱いや、破産者の再起更生、社会経済上の不利益の回避といった要請に応え、実体法の規定に配慮しつつ、手続の基準として多数の利害関係人を納得させるように機能することが期待される。このような様々な実体的法律関係の修正・処理のための法制度の特徴と概要を学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 倒産法制の概観 2. 破産原因・破産能力 3. 破産手続開始申立てとその効果 4. 別除権・相殺権 5. 破産財団をめぐる法律関係 6. 破産管財人の法的地位 7. 財団債権・取戻権 8. 否認権・配当 9. 免責・破産犯罪 10. 消費者倒産
----------	---

準備学習	授業は、教科書（後掲参照）の記述に沿って進める予定です。毎回の授業にあわせて、教科書および参考書に目を通しておくと授業の理解にとって助けとなるでしょう。
------	--

履修上の留意点	民事法関連科目（民法・商法・民事訴訟法など）を履修済みか履修中であることが望ましい。その他、受講にあたって必要なことは開講時に説明します。
---------	---

成績評価の方法	簡単なレポートと学期末試験により評価される。
---------	------------------------

教科書／テキスト	徳田和幸『ブレップ破産法』（弘文堂、第4版、2008年）¥1,260 ISBN978-4-335-31309-7
----------	--

参考書	<ol style="list-style-type: none"> ① 伊藤真『破産法・民事再生法』（有斐閣、第2版、2009年）¥6,615 ISBN 978-4-641-13544-4 ② 山本和彦・中西正・笠井正俊・沖野真巳・水元宏典『倒産法概説』（弘文堂、第2版、2010年）¥4,725 ISBN 978-4-335-35459-5 C3032 ③ 山本和彦『倒産処理法入門』（有斐閣、第3版、2008年）¥2,205 ISBN 978-4-641-13534-5 ④ 青山善充・伊藤真・松下淳一『倒産判例百選』（有斐閣、第4版、2006）¥2,520 ISBN 978-4-641-11484-6
-----	---

その他	新聞や雑誌、テレビのニュースなどで報道される倒産処理手続をめぐる事件・問題に関心をもつようにしてください。日常生活で直接経験することが少ないと思われる実際の倒産処理手続をめぐる問題に関して、具体的にイメージするのに有用であると思われるからです。
-----	--

履修コード	326801
科目名	倒産処理法
担当者名	鈴木 貴博

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	破産法を中心に倒産処理法制の概要とその基本事項に関する理解を深める。
---------------------	------------------------------------

授業スケジュール	<p>倒産処理手続は、債務者・債権者・担保権者など多数の利害関係人の利益が錯綜し、債権者の平等な取扱いや、破産者の再起更生、社会経済上の不利益の回避といった要請に応え、実体法の規定に配慮しつつ、手続の基準として多数の利害関係人を納得させるように機能することが期待される。このような様々な実体的法律関係の修正・処理のための法制度の特徴と概要を学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 倒産法制の概観 2. 破産原因・破産能力 3. 破産手続開始申立てとその効果 4. 別除権・相殺権 5. 破産財団をめぐる法律関係 6. 破産管財人の法的地位 7. 財団債権・取戻権 8. 否認権・配当 9. 免責・破産犯罪 10. 消費者倒産
----------	---

準備学習	授業は、教科書（後掲参照）の記述に沿って進める予定です。毎回の授業にあわせて、教科書および参考書に目を通しておくことと授業の理解にとって助けとなるでしょう。
------	--

履修上の留意点	民事法関連科目（民法・商法・民事訴訟法など）を履修済みか履修中であることが望ましい。その他、受講にあたって必要なことは開講時に説明します。
---------	---

成績評価の方法	簡単なレポートと学期末試験により評価される。
---------	------------------------

教科書／テキスト	徳田和幸『ブレップ破産法』（弘文堂、第4版、2008年）¥1,260 ISBN978-4-335-31309-7
----------	--

参考書	<p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> ①伊藤眞『破産法・民事再生法』（有斐閣、第2版、2009年）¥6,615 ISBN 978-4-641-13544-4 ②山本和彦・中西正・笠井正俊・沖野眞巳・水元宏典『倒産法概説』（弘文堂、第2版、2010年）¥4,725 ISBN 978-4-335-35459-5 C3032 ③山本和彦『倒産処理法入門』（有斐閣、第3版、2008年）¥2,205 ISBN 978-4-641-13534-5 ④青山善充・伊藤眞・松下淳一『倒産判例百選』（有斐閣、第4版、2006）¥2,520 ISBN978-4-641-11484-6
-----	---

その他	新聞や雑誌、テレビのニュースなどで報道される倒産処理手続をめぐる事件・問題に関心をもつようしてください。日常生活で直接経験することが少ないと思われる実際の倒産処理手続をめぐる問題に関して、具体的にイメージするのに有用であると思われるからです。
-----	---

履修コード	118501
科目名	独法
担当者名	中田 英幸

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、ドイツ法について高度な理解を得ることを目的とする。ドイツ法は、世界各国に影響を及ぼしており、日本も例外ではない。私法・公法ともに日本の法律はドイツ法を参照しており、ドイツ法を学ぶことは日本法の理解にも役立つ。それゆえ、講義、歴史的に形成されてきたドイツ法を、日本法との関わりを考えつつ検討していく。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 独法講義の予定・ドイツの概要 <以下、第2回から第9回までは各時代の法制度の変遷></p> <p>第2回 ゲルマン民族 第3回 神聖ローマ帝国 第4回 絶対主義時代 第5回 ドイツ帝国 第6回 ドイツ帝国と大日本帝国の法的関係 第7回 ヴァイマル共和国とナチスドイツ 第8回 ドイツ分裂と再統合 第9回 ドイツ連邦共和国</p> <p><以下、第10回から第15回までは現行制度の概要></p> <p>第10回 ドイツ連邦共和国憲法—統治機構 第11回 ドイツ連邦共和国憲法—人権 第12回 ドイツの行政法 第13回 ドイツの民法 第14回 ドイツの刑法 第15回 ドイツの経済法 第16回 ドイツ憲法学者 プロイス 第17回 ドイツ憲法・民法学者 ギールケ 第18回 ドイツ憲法学者 グナイスト 第19回 ドイツ憲法学者 シュタイン 第20回 ドイツ憲法と日本法 第21回 ドイツ民法学者 サヴィニー 第22回 ドイツ民法学者 プフタ 第23回 ドイツ民法学者 イェーリング 第24回 ドイツ民法と日本法 第25回 ドイツ刑法—応報刑論の基礎 第26回 ドイツ刑法—特別予防論の基礎 第27回 ドイツ刑法—一般予防論の基礎 第28回 ドイツ刑法学者 フォイエルバッハ 第29回 ドイツ刑法学者 リスト 第30回 ドイツ刑法と日本法</p>
----------	---

準備学習	ドイツ語の原書を読むので、ドイツ語を勉強しておくこと。 憲法・民法総則・刑法総論を履修していること。
履修上の留意点	ドイツ語の原典を参照することがあるので、ドイツ語の読解ができること。
成績評価の方法	10人程度の少人数クラスを念頭におき、出席点、講義での発言点という平常点と、レポートによって評価する。 なお、毎回の出席を前提とするので、欠席が多い場合には単位認定しない。
教科書/テキスト	教科書は指定しない。
参考書	村上淳一・守矢健一・ドイツ法入門（改定6版）・有斐閣・2005年 ミッターイス・リーベリッヒ・世良晃志郎・ドイツ法制史概説改訂版 Kleinheyer/Schröder, Deutsche und Europäische Juristen aus neun Jahrhunderten, 5. Auflage (2008)

履修コード	117801
科目名	日本法制史
担当者名	末澤 国彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は、近代を中心として日本の法体系や各種制度がどのように成立したか、またそれらがどのように運用されていたかについて詳しく講述する。 現代の法システムが、どのような歴史的背景の下に成立しているのかを知ることによって、法という社会現象についてより深い理解が得られるようになることを目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回：日本法制史の基本的な考え方 第2回：時代区分とそれぞれの法の特色(1)～古代・中世～ 第3回：時代区分とそれぞれの法の特色(2)～近世～ 第4回：時代区分とそれぞれの法の特色(3)～明治期～ 第5回：時代区分とそれぞれの法の特色(4)～大正・昭和期～ 第6回：明治初期の国家機構 第7回：明治初期の刑事法と治安法制 第8回：明治初期の民事法 第9回：明治初期の司法制度 第10回：旧刑法の成立と治安法制 第11回：大日本帝国憲法の制定 第12回：内閣と枢密院 第13回：帝国議会 第14回：明治憲法下の司法制度と司法官養成(1)～裁判所構成法の制定～ 第15回：明治憲法下の司法制度と司法官養成(2)～司法官の任用と弁護士制度～ 第16回：民法典の編纂と法典論争(1)～民法典の編纂過程～ 第17回：民法典の編纂と法典論争(2)～法典論争の動きと評価～ 第18回：商法の成立 第19回：刑事訴訟法の成立 第20回：民事訴訟法の成立 第21回：条約改正と日本の対外政策(1)～条約改正・日清戦争～ 第22回：条約改正と日本の対外政策(2)～日露戦争・帝国主義国家の確立～ 第23回：現行刑法の成立と治安法制 第24回：刑事訴訟法の改正と陪審制 第25回：普通選挙法と治安維持法の成立 第26回：国家総動員法の成立 第27回：戦時特別立法 第28回：占領下の法制 第29回：日本国憲法の制定 第30回：1年間の総括</p>
----------	---

準備学習	事前にテキストの該当箇所を一読してから講義に臨んでほしい。
履修上の留意点	日本近代史の基本的知識があることを前提に講義を進める(高校レベルで十分)。また、テキストを補足する点は、板書を行うので、その準備をして欲しい。
成績評価の方法	学年末試験と平常点としての出席状況を総合して評価する。
教科書/テキスト	山中永之佑 編『新・日本近代法論』法律文化社、3780円、ISBN4-589-02585-X
参考書	大久保治男・茂野隆晴『日本法制史史料60選-史資料へのいざない-』芦書房、2,300円、ISBN4-7556-1128-8

履修コード	324001
科目名	日本法制史
担当者名	末澤 国彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は、近代を中心として日本の法体系や各種制度がどのように成立したか、またそれらがどのように運用されてきたかについて詳しく講述する。 現代の法システムが、どのような歴史的背景の下に成立しているのかを知ることによって、法という社会現象についてより深い理解が得られるようになることを目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回：日本法制史の基本的な考え方 第2回：時代区分とそれぞれの法の特徴(1)～古代・中世～ 第3回：時代区分とそれぞれの法の特徴(2)～近世～ 第4回：時代区分とそれぞれの法の特徴(3)～明治期～ 第5回：時代区分とそれぞれの法の特徴(4)～大正・昭和期～ 第6回：明治初期の国家機構 第7回：明治初期の刑事法と治安法制 第8回：明治初期の民事法 第9回：明治初期の司法制度 第10回：旧刑法の成立と治安法制 第11回：大日本帝国憲法の制定 第12回：内閣と枢密院 第13回：帝国議会 第14回：明治憲法下の司法制度と司法官養成(1)～裁判所構成法の制定～ 第15回：明治憲法下の司法制度と司法官養成(2)～司法官の任用と弁護士制度～ 第16回：民法典の編纂と法典論争(1)～民法典の編纂過程～ 第17回：民法典の編纂と法典論争(2)～法典論争の動きと評価～ 第18回：商法の成立 第19回：刑事訴訟法の成立 第20回：民事訴訟法の成立 第21回：条約改正と日本の対外政策(1)～条約改正・日清戦争～ 第22回：条約改正と日本の対外政策(2)～日露戦争・帝国主義国家の確立～ 第23回：現行刑法の成立と治安法制 第24回：刑事訴訟法の改正と陪審制 第25回：普通選挙法と治安維持法の成立 第26回：国家総動員法の成立 第27回：戦時特別立法 第28回：占領下の法制 第29回：日本国憲法の制定 第30回：1年間の総括</p>
----------	---

準備学習	事前にテキストの該当箇所を一読してから講義に臨んでほしい。
履修上の留意点	日本近代史の基本的知識があることを前提に講義を進める(高校レベルで十分)。また、テキストを補足する点は、板書を行うので、その準備をして欲しい。
成績評価の方法	学年末試験と平常点としての出席状況を総合して評価する。
教科書/テキスト	山中永之佑 編『新・日本近代法論』法律文化社、3780円、ISBN4-589-02585-X
参考書	大久保治男・茂野隆晴『日本法制史史料60選 -史資料へのいざない-』芦書房、2,300円、ISBN4-7556-1128-8

履修コード	117701
科目名	比較憲法
担当者名	柳瀬 昇

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は、わが国の憲法との比較において、諸外国の憲法の歴史、制度及び運用を学ぶことを通じて、法的なものの考え方を養うことを目的とする。 主要各国の憲法を比較しながら、立憲主義の普遍性及各国の憲法の固有性を学ぶとともに、わが国の憲法についての理解をより深めてほしい。
---------------------	--

授業スケジュール	諸外国の憲法の成立過程、著名な判例を通じた憲法運用、統治機構規定の比較分析の順に講義を行う。 第1回 比較憲法の意義 第2回 英国憲法史 (1) 第3回 英国憲法史 (2) 第4回 アメリカ合衆国憲法史 (1) 第5回 アメリカ合衆国憲法史 (2) 第6回 フランス憲法史 (1) 第7回 フランス憲法史 (2) / ドイツ憲法史 (1) 第8回 ドイツ憲法史 (2) 第9回 非西洋諸国の憲法 第10回 国際社会と憲法 (1) 第11回 国際社会と憲法 (2) 第12回 精神的自由権 (1) 第13回 精神的自由権 (2) 第14回 精神的自由権 (3) 第15回 前期の総括 第16回 経済的自由権 第17回 社会権・参政権 第18回 新しい人権 (1) 第19回 新しい人権 (2) / 平等 (1) 第20回 平等 (2) 第21回 人権総論 第22回 英国の統治機構 (1) 第23回 英国の統治機構 (2) 第24回 アメリカ合衆国の統治機構 (1) 第25回 アメリカ合衆国の統治機構 (2) 第26回 フランスの統治機構 (1) 第27回 フランスの統治機構 (2) 第28回 ドイツの統治機構 (1) 第29回 ドイツの統治機構 (2) 第30回 後期の総括
----------	---

準備学習	基本的には予習は必要ないが、その代わりに、必ず講義に出席し、復習に努めてほしい。
------	--

履修上の留意点	この講義は、日本国憲法の解釈論について学んだことのある学生を対象として、発展的な内容を講述する科目である。したがって、原則として、前年度までに「憲法」の講義を履修し、かつ、単位を修得済みの学生を対象とする。1年生が「憲法」の講義と並行して履修する場合には、場合によっては、日本国憲法の解釈論について予習が必要となることもある。 講義の進行を妨げるような遅刻や早退は、厳に慎まれない。講義を受講する意思のない学生に対しては、学期の半ばでも講義の受講を遠慮してもらうことがある。
---------	--

成績評価の方法	期末に行う筆記試験(前期・後期各1回)や、授業時間中に適宜行う小テスト等に基づき、総合的に判断する(履修者数が少ない場合には、レポートを中心とした成績評価の方法に変更することもある)。 上位5%の者を「S」、80点以上の者を「A」、70点以上の者を「B」、60点以上の者を「C」とし、60点未満の者を「F」と評価する。
---------	--

教科書/テキスト	特に指定しない。 毎回、授業担当者の作成したレジュメや資料を配布する。受講にあたって必要となる資料は、YeStudy (e-learningシステム) にアップロードしておく。
----------	---

参考書	第1回の講義で説明する。
-----	--------------

その他	講義の内容に関する質問や学生生活上の相談については、講義の前またはオフィスアワーにおいて対応する。確実に時間を確保したい場合には、電子メール (noboru@komazawa-u. ac. jp) で事前に連絡をとることをすすめる。
-----	--

履修コード	115601
科目名	物権法
担当者名	鶴井 俊吉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	物権法の分野について基本的な理解ができるように、できるだけ各制度についての具体的な事例をあげて解説する。そして個々の制度や条文が、現実社会で起きるどのような場合を想定して設けられたものであるかを理解できるように講義を進めたい。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>物権法は、民法典の第二編「物権」のうち、第1章「総則」、第2章「占有権」、第3章「所有権」、第4章「地上権」、第5章「永小作権」、第6章「地役権」までを対象とする。第7章以降は、3年次以降の「担保物権法」の領域である。</p> <p>講義スケジュールとしては、上記の順序で解説するが、物権法において、重要であって複雑な問題がある。不動産売買をめぐるトラブルなどにみられるように、契約による物権変動において、物権の移転はいつ生じるのか、また物権変動に関して、第三者が生じたとき、どのように解決されているか、理論的にもわかりづらい領域であるため、多くの時間を割くつもりである。</p> <p>1～3 物権法序論 (①意義・内容) 4～6 物権の客体 (①「物」の概念 ②一物一権主義) 7～10 物権の効力 (①一般的効力 ②優先的効力 ③物権的請求権) 11～20 物権の変動 (①序説 ②物権変動における公示の原則と公信の原則 ③不動産の登記 ④不動産物権変動の對抗要件 ⑤動産物権変動の對抗要件 ⑥立木・未分離の果実に関する物権変動 ⑦物権の消滅) 21～23 占有権 (①占有の意義 ②占有の態様等 ③占有訴権) 24～26 所有権 (①序説 ②所有権の取得 ③共有 ④区分所有権) 27～30 地上権・永小作権・地役権・入会権</p>
----------	---

準備学習	事前に問題提起をしますので、予習・復習して授業に出席してください。
履修上の留意点	物権法は、解釈学上においても体系的理解が困難な分野であるといわれている。それは立法の沿革に基づいている。現行民法がドイツ民法を継受してできあがっているにもかかわらず、物権法の主要な部分については、フランス民法の影響を強く受けているからである。それゆえに講義に出席しないとなかなか興味を持てないし、理解しづらい分野であるので、毎時限の出席と予習を希望する。

成績評価の方法	学年末試験の成績による。
教科書/テキスト	プロGRESS民法(物権法) 清水元著 成文堂
参考書	『民法判例百選I 総則・物権』 有斐閣

履修コード	324601
科目名	物権法
担当者名	今尾 真

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	民法総論講義において、民法全般の仕組みと基本的概念や制度を一通り学習した学生を対象に、債権とともに二大財産権の一つである物権(担保物権を除く)について、人と物の関わり・各物権の特質・各制度の特徴・隣接諸制度等を、より深く、より詳細に理解することを目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>物権の意義・性質・効力・物権変動のメカニズムといった物権法総論部分の学習をした上で、各種物権(占有権から用益物権まで)を個別に細かく学習する。前期は、(1回)イントロダクション・物権法序論、(2～3回)物権の意義・客体・種類、(4～5回)物権の効力、(6～11回)物権変動、(12～14回)即時取得・物権の消滅。後期は、(1～5回)占有権、(6～10回)所有権、(10～14回)用益物権。上記のスケジュールのもと、特に物権取引の安全と公示・公信の要請という理念を反映する物権変動論につき、これらの理念をどこまで貫徹できるかの観点から各種物権および他の諸制度との関連で検討する。</p>
----------	---

準備学習	授業前に必ず教科書・資料レジュメを熟読して講義に臨むこと。
履修上の留意点	民法総論は、履修済みまたは最低限同時履修の上、本講義に出席することが望ましい。
成績評価の方法	前・後期各一回の定期試験の結果(各50%ずつ)を総合判断して評価する。ちなみに、テスト形式は、前期・後期とも、択一式の問題(5択)を3問、論述式の問題を1問という出題形式で行う。
教科書/テキスト	宮本健蔵編『マルシェ物権法・担保物権法〔改訂第2版〕』(嵯峨野書院)2005年
参考書	(1) 中田裕康・潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I〔第6版〕』有斐閣(2009年) (2) 星野英一・平井宜雄・能見善久編『民法判例百選I総則・物権〔第五版新法対応補正版〕』(有斐閣)別冊ジュリスト159号、2005年
その他	多人数を想定した講義科目であるが、授業中、随時受講生に質問しながら、大規模なゼミ形式を念頭において講義を行う予定である。積極的に発言することを希望する。

履修コード	118601
科目名	仏法
担当者名	上井 長十

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>フランス法は、日本法の母法の一つとして重要であるばかりではなく、近代国家として、いち早く成文の憲法や諸実定法を持ち、法典国として経験が豊富であり、法の宝庫としても重要である。</p> <p>本講義の内容の一つ目として、ナポレオン法典として制定されて以来200年の歴史を持つフランス民法を考察対象として、フランスにおける日常の契約、財産、家族に関する諸論点について考察を行う。日本法の議論と比較しながら、アプローチの普遍性と特殊性を学び取ってほしい。</p> <p>二つ目として、フランスにおける民法及び民法以外の諸法の生成過程の考察を行う。具体的には、古代フランク時代と封建制度下の中世の法とに分けられる古法の時代、および自由と平等を旗印とした大革命に始まる革命期の法すなわち中間法の時代を検討対象とする。これ以後のフランス近現代法は、19世紀初頭に統一的な成文法により樹立され発展してきたものであるが、それまでの法を基礎として、あるいは統一・整備され、あるいは断絶・改良されたものである。したがって、フランスの近現代の法を深く理解するためには、古法、中間法をも学ぶ必要がある。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>本講義の中心は、フランスにおける財産制度の考察にある。日本民法の母法の一つといわれるフランス私法の現代的意義およびその歴史の変遷をみていく。講義項目は以下のようなものを予定しているが、第1回のガイダンス時に改めて1年間のスケジュールを提示する。前半は、フランス法の概観、歴史の変遷を、後半は、私法領域の個別問題を扱う予定である。</p>
----------	---

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：フランス法の概要（現行法制度概論、国家体制、裁判制度、判例の意義、など）
- 第3回：＃
- 第4回：＃
- 第5回：フランス法の歴史的考察（古法時代、中間法時代、ナポレオン法典以降）
- 第6回：＃
- 第7回：＃
- 第8回：＃
- 第9回：＃
- 第10回：フランスにおける契約法：諸原則
- 第11回：＃：契約の成立、有効要件
- 第12回：＃：契約の履行と不履行
- 第13回：＃：契約解除制度
- 第14回：＃：契約における損害賠償制度
- 第15回：＃：債権の移転
- 第16回：＃：売買契約
- 第17回：＃：賃貸借契約
- 第18回：フランスにおける所有法：諸原則
- 第19回：＃：所有制度概論
- 第20回：＃：所有権の移転
- 第21回：＃：担保制度
- 第22回：フランスにおける不法行為：一般論
- 第23回：＃：要件論
- 第24回：＃：効果論
- 第25回：フランスにおける家族法
- 第26回：＃
- 第27回：＃
- 第28回：フランスにおける消費者法
- 第29回：EUとフランス
- 第30回：法律の解釈と法学の法律学化（注釈学派、科学学派）

準備学習	<p>予定された授業のテーマについて、配布プリントあるいは参考書等を一読し、概要を把握して授業に臨まれたい。</p> <p>フランス私法（財産法、家族法）が中心となるので、日本の民法の概要を把握しておいてもらいたい。</p>
------	--

履修上の留意点	フランス法とフランス語に興味があれば、楽しく受講してもらえそうです。
---------	------------------------------------

成績評価の方法	成績評価は、学年末の定期試験で行う。
---------	--------------------

教科書／テキスト	講義者配布のプリント
----------	------------

参考書	<p>滝沢正『フランス法』（三省堂）</p> <p>ジャン・アンベール著三井哲夫＝菅野一彦訳『フランス法制史』（白水社文庫クセジュ）</p> <p>山口俊夫『概説フランス法 上、下』（東大出版会）</p> <p>山口俊夫編『フランス法辞典』（東大出版会） など</p>
-----	--

履修コード	114411 114412
科目名	法学概論 法学概論 A
担当者名	高橋 洋城

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	法学部に入ってはじめて法学を学ぶひとに、法学科目履修の前提となるような知識を身につけてもらうことが、第1のねらいです。法学学習の上で必要になる、現実をイメージしながらその法的構造を読みとる力の基礎的感覚を開発することが、第2のねらいです。はじめてのことはかりで、最初はとまどうかもしれませんが、休まずに学習するよう心がけてください。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 法のイメージと法学部の講義科目 (第1~2回) <ol style="list-style-type: none"> 法とは何か 法学部ではどう学ぶか 法の一般的分類 (第3~4回) <ol style="list-style-type: none"> 法の分類 法令の種類 近代日本法とその社会 (第5~8回) <ol style="list-style-type: none"> 国家と社会 近代日本が受け継いだ法 近代法の変容 立法の角度からの法 (第9~10回) <ol style="list-style-type: none"> 制定法主義とその法源 法の体系性 司法の角度からの法 (第11~12回) <ol style="list-style-type: none"> 紛争解決の仕組みと機構 紛争の種類と解決の種類 法令の解釈 (第13~14回) <ol style="list-style-type: none"> 事実の法的再構成 事実への法令のあてはめ 試験と解説 (第15回)
----------	---

準備学習	毎回の授業でとりあげる教科書該当範囲(頁)は事前にアナウンスし、YeStudy [https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/] に掲示するので、あらかじめ読んで授業にのぞむように心がけて下さい。
------	---

履修上の留意点	<p>準備学習の他、授業や試験に関する各種のアナウンス、指示などは、基本的にYeStudy [https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/] を通じて行ないますので、受講者は必ず登録を行なってください。</p> <p>本科目は半期科目であり、集中的に多くのことを学びます。継続的に出席することが必要です。授業中に小テストを実施する可能性もありますので、休まないようにしてください。</p>
---------	---

成績評価の方法	主に前期授業最終時間の試験(進度によっては定期試験)によって評価します。出席、小テスト、レポートなどが課される場合は、その評価も加味します。
---------	--

教科書/テキスト	伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』(有斐閣双書52) 有斐閣
参考書	竹下・福井編『はじめての法学』成文堂 その他の参考書は随時紹介します。授業中に参考資料を配ることもあります。配付資料は原則として研究室などで追加請求には応じませんので、必ず出席して受け取るようにしてください。

関連リンク	https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/
-------	---

履修コード	114421 114422
科目名	法学概論 法学概論 A
担当者名	北野 かほる

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	法学部に入っはじめて法学を学ぶひとに、法学科履修の前提となるような知識を身につけてもらうことが、第1のねらいです。法学学習の上で必要になる、現実をイメージしながらその法的構造を読みとる力の基礎的感覚を開発することが、第2のねらいです。はじめてのことばかりで、最初はとまどうかもしれませんが、休まずに学習するよう心がけてください。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法のイメージと法学部の講義科目 <ol style="list-style-type: none"> (1) 法とは何か (2) 法学部ではどう学ぶか 2. 法の一般的分類 <ol style="list-style-type: none"> (1) 法の分類 (2) 法令の種類 3. 近代日本法とその社会 <ol style="list-style-type: none"> (1) 国家と社会 (2) 近代日本が受け継いだ法 (3) 近代法の変容 4. 立法の角度からの法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 制定法主義とその法源 (2) 法の体系性 5. 司法の角度からの法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 紛争解決の仕組みと機構 (2) 紛争の種類と解決の種類 6. 法令の解釈 <ol style="list-style-type: none"> (1) 事実の法的再構成 (2) 事実への法令のあてはめ
----------	---

準備学習	授業時間の最後に、次回までに予習しておくべき事項と、教科書の該当頁を指示します。指示された内容は必ず準備を済ませてから授業に出席するようにしてください。場合によっては、復習で確認しておくべき事項も指示します。次回の授業の準備にあたる項目でもありますから、これも、必ず指示に従うようにしてください。
------	--

履修上の留意点	半期科目で集中的に多くのことを学びます。継続的に出席することが必要です。授業中に小テストを実施することもありますので、休まないようにしてください。
---------	---

成績評価の方法	主に前期授業最終時間の試験（進度によっては定期試験）によって評価します。出席、小テスト、レポートなどが課される場合は、その評価も加味します。
---------	--

教科書／テキスト	伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書52）有斐閣
----------	-------------------------------------

参考書	竹下・福井編『はじめての法学』成文堂 その他の参考書は随時紹介します。授業中に参考資料を配ることもあります。配付資料は原則として研究室などでの追加請求には応じませんので、必ず出席して受け取るようにしてください。
-----	--

履修コード	323031
科目名	法学概論
担当者名	北野 かほる

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	法学部に入っはじめて法学を学ぶひとに、法学科目履修の前提となるような知識を身につけてもらうことが、第1のねらいです。法学学習の上で必要になる、現実をイメージしながらその法的構造を読みとる力の基礎的感覚を開発することが、第2のねらいです。はじめてのことばかりで、最初はとまどうかもしれませんが、休まずに学習するよう心がけてください。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法のイメージと法学部の講義科目 <ol style="list-style-type: none"> (1) 法とは何か (2) 法学部ではどう学ぶか 2. 法の一般的分類 <ol style="list-style-type: none"> (1) 法の分類 (2) 法令の種類 3. 近代日本法とその社会 <ol style="list-style-type: none"> (1) 国家と社会 (2) 近代日本が受け継いだ法 (3) 近代法の変容 4. 立法の角度からの法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 制定法主義とその法源 (2) 法の体系性 5. 司法の角度からの法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 紛争解決の仕組みと機構 (2) 紛争の種類と解決の類型 6. 法令の解釈 <ol style="list-style-type: none"> (1) 事実の法的再構成 (2) 事実への法令のあてはめ
----------	---

準備学習	授業時間の最後に、次回までに予習しておくべき事項と、教科書の該当頁を指示します。指示された内容は必ず準備を済ませてから授業に出席するようにしてください。場合によっては、復習で確認しておくべき事項も指示します。次回の授業の準備にあたる項目でもありますから、これも、必ず指示に従うようにしてください。
------	--

履修上の留意点	半期科目で集中的に多くのことを学びます。継続的に出席することが必要です。授業中に小テストを実施することもありますので、休まないようにしてください。
---------	---

成績評価の方法	主に前期授業最終時間の試験（進度によっては定期試験）によって評価します。出席、小テスト、レポートなどが課される場合は、その評価も加味します。
---------	--

教科書/テキスト	伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書52）有斐閣
----------	-------------------------------------

参考書	竹下・福井編『はじめての法学』成文堂 その他の参考書は随時紹介します。授業中に参考資料を配ることもあります。配付資料は原則として研究室などでの追加請求には応じませんので、必ず出席して受け取るようにしてください。
-----	--

履修コード	117601
科目名	法思想史
担当者名	高橋 洋城

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>法に関する概念や用語が生まれてきた歴史的、哲学的背景や世界観に遡って検討するのが法思想史の役割である。これには二つの側面がある。一つは、中核的な概念の由来や変遷を知ることにより現代法を形成する要素の理解を深めることである。しかし同時に、様々な思考様式に触れることによって近代的思考を相対化し、実はそれが或る特殊な一様式なのだということを知ること、ということも重要である。</p> <p>なお題材はヨーロッパの法思想史にほぼ限定される（東洋および日本固有の法思想を扱うことはできない）。講義の理解のためには、最低限の世界史的知識が必要だが、講義時間内においてはそこに時間をさくことはではないので、そうした点について不安のある受講者は自学自習して講義に臨んでもらわねばならない。また20世紀以降の法理論史については本講義ではとりあげず、むしろ法哲学講義の方で扱うことになるのでそちらを参照されたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>以下に掲げる時系列に沿った講義を柱とし、その過程でいくつかの重要な法概念については、時代横断的な考察をも交えていく。</p> <p>第I部 古典的自然法論とその背景的世界像</p> <p>[1] (第1~2回) 講義のねらい、対象、重点、注意事項などについて / プラトンの法思想：『国家』を中心に考察する</p> <p>[2] (第3回) アリストテレスの法思想：アリストテレス哲学の基礎理論を考察する</p> <p>[3] (第4~5回) アリストテレスの法思想(続)：正義論、政治体制論を中心に考察する</p> <p>[4] (第6~8回) キリスト教とローマ法：ヨーロッパの法律学・法思想を規定してきたキリスト教およびローマ法に由来する諸概念・思想について概説的な紹介を行なう。</p> <p>[5] (第9~10回) 中世自然法論：トマス・アクィナスの自然法論を中心に論ずる。題材は主として『神学大全』に拠る。</p> <p>第II部 近代自然法論の思想</p> <p>[6] (第11回) 近代的世界像と社会契約説総説</p> <p>[7] (第12~13回) ホッブズの法思想：『リヴァイアサン』を中心に考察する</p> <p>[8] (第14~15回) ロックの法思想：『統治論』を中心に考察する。</p> <p>[9] (第16回) 所有権論史の概観、およびロック所有権論の意義を考察する。</p> <p>[10] (第17~18回) ルソーの法思想：『社会契約論』『不平等起源論』を題材に考察する / 近代自然法論まとめ</p> <p>[10] (第19~20回) カントの哲学と法思想 批判哲学の意義とその法理論への展開を考察する。特にカントに於ける「公論」の意義を検討する</p> <p>第III部 19世紀以降の法思想・法律学の潮流</p> <p>[11] (第20~21回) 近代市民社会の思想：18世紀~19世紀の自然法論の果たした役割、およびヘーゲル法哲学について論ずる</p> <p>[12] (第22~23回) 19世紀の法律学の動向：歴史法学・概念法学についてとりあげる。</p> <p>[13] (第24~25回) 概念法学批判</p> <p>[14] (第26~27回) 法実証主義の諸形態</p> <p>[15] (第28~29回) 現代法理論の動向</p> <p>まとめ—法思想の歴史と近・現代法 (第30回)</p>
----------	---

準備学習	<p>とりあげる著作の原文抜粋を中心としたプリントに説明を加える形式で講義を進める。受講者はプリントを駒澤大学 e-ラーニングページ YeStudy からダウンロードして持参すること、さらに毎回の該当箇所を事前に読んで上で講義に臨むことが要求される。YeStudy については、下記「関連リンク」を参照のこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>準備学習や授業に関する各種のアナウンス、指示は基本的に YeStudy (https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/) を通じて行なうので、受講者は必ず登録を行なうこと。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>年度末の定期試験によって評価する。受講状況によっては課題レポート等を出題する可能性もあるが、これは定期試験の成績を評価するための補足的資料としてのみ用い、基礎点としては用いない。</p> <p>課題レポートの実施の有無については、開講後可及的速やかにアナウンスする。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>教科書としては特定の書籍を指定しないが、講義の理解を深めるため、法思想史全般の概観ができる図書を手元に置き、予・復習に役立てることを推奨する。具体的には、次項の参考図書を参照のこと。</p>
----------	--

参考書	<p>法思想史に関する概説書の例として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三島淑臣『新版・法思想史』（青林書院）4,854円：講義内容をさらに深く掘り下げて勉強したい場合に有益であろう。 ・深田三徳、濱真一郎（編）『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房 2,730円）；田中成明他編『法思想史』（有斐閣Sシリーズ 1,800円）：法思想史の流れを大まかにつかみ整理するのに役立つだろう。 <p>上記の他、講義でとり上げる思想家の著作原著については、そのつど指示する。</p>
-----	---

関連リンク	<p>https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/</p>
-------	--

履修コード	324201
科目名	法思想史
担当者名	高橋 洋城

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>法に関する概念や用語が生まれてきた歴史的、哲学的背景や世界観に遡って検討するのが法思想史の役割である。これには二つの側面がある。一つは、中核的な概念の由来や変遷を知ることにより現代法を形成する要素の理解を深めることである。しかし同時に、様々な思考様式に触れることによって近代的思考を相対化し、実はそれが或る特殊な一様式なのだということに自覚する、ということも重要である。</p> <p>なお題材はヨーロッパの法思想史にほぼ限定される（東洋および日本固有の法思想を扱うことはできない）。講義の理解のためには、最低限の世界史的知識が必要だが、講義時間内においてはそこに時間をさくことはではないので、そうした点について不安のある受講者は自学自習して講義に臨んでもらわねばならない。また20世紀以降の法理論史については本講義ではとりあげず、むしろ法哲学講義の方で扱うことになるのでそちらを参照されたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>以下に掲げる時系列に沿った講義を柱とし、その過程でいくつかの重要な法概念については、時代横断的な考察をも交えていく。</p> <p>第I部 古典的自然法論とその背景の世界像</p> <p>[1] (第1～2回) 講義のねらい、対象、重点、注意事項などについて / プラトンの法思想：『国家』を中心に考察する</p> <p>[2] (第3回) アリストテレスの法思想：アリストテレス哲学の基礎理論を考察する</p> <p>[3] (第4～5回) アリストテレスの法思想（続）：正義論、政治体制論を中心に考察する</p> <p>[4] (第6～8回) キリスト教とローマ法：ヨーロッパの法律学・法思想を規定してきたキリスト教およびローマ法に由来する諸概念・思想について概説的な紹介を行なう。</p> <p>[5] (第9～10回) 中世自然法論：トマス・アクィナスの自然法論を中心に論ずる。題材は主として『神学大全』に拠る。</p> <p>第II部 近代自然法論の思想</p> <p>[6] (第11回) 近代的世界像と社会契約説総説</p> <p>[7] (第12～13回) ホッブズの法思想：『リヴァイアサン』を中心に考察する</p> <p>[8] (第14～15回) ロックの法思想：『統治論』を中心に考察する。</p> <p>[9] (第16回) 所有権論史の概観、およびロック所有権論の意義を考察する。</p> <p>[10] (第17～18回) ルソーの法思想：『社会契約論』『不平等起源論』を題材に考察する / 近代自然法論まとめ</p> <p>[10] (第19～20回) カントの哲学と法思想 批判哲学の意義とその法理論への展開を考察する。特にカントに於ける「公論」の意義を検討する</p> <p>第III部 19世紀以降の法思想・法律学の潮流</p> <p>[11] (第20～21回) 近代市民社会の思想：18世紀～19世紀の自然法論の果たした役割、およびヘーゲル法哲学について論ずる</p> <p>[12] (第22～23回) 19世紀の法律学の動向：歴史法学・概念法学についてとりあげる。</p> <p>[13] (第24～25回) 概念法学批判</p> <p>[14] (第26～27回) 法実証主義の諸形態</p> <p>[15] (第28～29回) 現代法理論の動向</p> <p>まとめ—法思想の歴史と近・現代法 (第30回)</p>
----------	---

準備学習	<p>とりあげる著作の原文抜粋を中心としたプリントに説明を加える形式で講義を進める。受講者はプリントを駒澤大学 e-ラーニングページ YeStudy からダウンロードして持参すること、さらに毎回の該当箇所を事前に読んだ上で講義に臨むことが要求される。YeStudy については、下記「関連リンク」を参照のこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>準備学習や授業に関する各種のアナウンス、指示は基本的に YeStudy [https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/] を通じて行なうので、受講者は必ず登録を行なうこと。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>年度末の定期試験によって評価する。受講状況によっては課題レポート等を出題する可能性もあるが、これは定期試験の成績を評価するための補足的資料としてのみ用い、基礎点としては用いない。</p> <p>課題レポートの実施の有無については、開講後可及的速やかにアナウンスする。</p>
---------	--

教科書／テキスト	<p>教科書としては特定の書籍を指定しないが、講義の理解を深めるため、法思想史全般の概観ができる図書を手に置き、予・復習に役立てることを推奨する。具体的には、次項の参考図書を参照のこと。</p>
----------	---

参考書	<p>法思想史に関する概説書の例として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三島淑臣『新版・法思想史』（青林書院）4,854円：講義内容をさらに深く掘り下げて勉強したい場合に有益であろう。 ・深田三徳、濱真一郎（編）『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房 2,730円）；田中成明他編『法思想史』（有斐閣Sシリーズ 1,800円）：法思想史の流れを大まかにつかみ整理するのに役立つだろう。 <p>上記の他、講義でとり上げる思想家の著作原著については、そのつど指示する。</p>
-----	---

関連リンク	<p>https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/</p>
-------	--

履修コード	118201
科目名	法社会学
担当者名	佐藤 憲一

授業概要/
到達目標 (ねらい)

法を社会現象として把握する法社会学は、法学の世界で中心的な地位を占めている法解釈学(実定法学)とは全く性質の異なる学問である。法解釈学も法社会学も法を対象とした学問であるという点では同一であるが、法解釈学が法システムの内側で展開される学問であるのに対して、法社会学は法システムの外側で展開される学問なのである。例えるならば、法解釈学は、聖書を信じる立場から行われる聖書解釈学に相当し、法社会学は、信仰を前提とせずにキリスト教を様々な観点から考察する宗教学に相当する。

前期は、法社会学総論として、我々が自明なものとして受け入れている近代的な法秩序の様態を法社会学的に考察する。後期は、法社会学各論として、今日大きな問題となっている人の死をめぐる法現象について法社会学的に考察する。この授業を通じて、ふだん勉強している法解釈学とは全く違う法社会学の発想やアプローチに触れて頭を柔らかくして欲しい。

授業スケジュール

授業の進捗その他の状況に応じて変更の可能性があるが、下記の内容を予定している。
第1~3回：法社会学という学問 第4~6回：前近代的法秩序 第7~8回：近代的法秩序の成立
第9~10回：近代的法秩序の構造 第11~12回：近代的法秩序の変容 第13~15回：近代的法秩序の批判 第16~17回：生と死の法社会学 第18~20回：人間と死 第21~22回：法と死 第23~24回：医療と死 第25~28回：安楽死と尊厳死 第29~30回：脳死と臓器移植

準備学習

社会における法のあり方、法学という学問のあり方など、少し距離を置いて自分なりに考えてみて欲しい。

履修上の留意点

私語厳禁

成績評価の方法

筆記試験による予定である。

教科書/テキスト

指定しない。

参考書

適宜指示する。

履修コード	119401
科目名	法哲学
担当者名	高橋 洋城

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、近現代法の仕組・思考方法の基礎について検討するために必要な様々な分析枠組、原理や概念等々を学び、批判的思考のツールとして、他の法律学の学習や日常的な法との関わりの中で使えるものにしていくことを第一の目標とする。その過程では、しばしば「当然だと思っていたことがかえってわからなくなる」こともある。しかし「あらためて考え直してみよう」という過程で、様々な思想や思考法に触れ理解を深めることは、将来、自らの力であらためて根本的な問題を考えてゆくための手がかり・突破口を得ることにもつながるであろう。
---------------------	--

授業スケジュール	法理論史において繰り返し論じられてきた諸トピックの中からいくつかの論点を取りあげ、それぞれの項目ごとに、理論的分析、思想的背景、さらに現代の具体的諸問題を念頭に置いた検討を加えていく。項目によって扱い方は異なるが、できるだけ具体的な諸問題と法哲学的問題の関連が理解できるような授業の進行を心がけるつもりである。 授業で扱う具体的テーマは、おおむね以下を予定しているが、受講者の反応・理解に応じて修正する可能性もある。
----------	---

第1回 講義全体へのイントロダクション

第1部 自然法論と法実証主義

- 第2回 古典的自然法論を中心とした自然法論の基礎的理解
- 第3-4回 近代自然法論、および18世紀以降の自然法論の展開
- 第5-6回 法実証主義の基礎的理解とその諸潮流
- 第7-8回 自然法論と法実証主義にかかわる諸問題の批判的検討

第2部 法解釈と法の客観性

- 第9-10回 法解釈の性質について 前提と問題提起
- 第11-12回 概念法学とそれに対する批判的諸潮流の検討
- 第13-14回 日本における戦後法解釈学論争の意義
- 第15-16回 法解釈に関する諸理論の現代的展開1 ルールと原理
- 第17-18回 法解釈に関する諸理論の現代的展開2 論証と正当化、解釈学
- 第19-20回 法解釈に関する諸理論の現代的展開3 その他
- 第21回 関連するトピックとまとめ

第3部 正義論

- 第22回 法と正義の問題の基礎的理解
- 第23回 アリストテレスの正義論
- 第24回 正義論の現代的展開——平等と自由の問題
- 第25-26回 正義論の現代的展開——リベラリズム
- 第27-28回 同 リベラリズム批判——リバタリアニズム
- 第29-30回 同 リベラリズム批判——共同体論

準備学習	講義に際しては、受講者において、少なくとも本講義履修対象年次までの必修科目についての基本的・原理的部分の理解があることを前提に進める。その点に不安がある場合には、受講にあたって十分な自助努力が必要となることを了解しておいてほしい。 また教科書の予習復習範囲の指定など e-learning YeStudy (下記の「関連リンク」を参照) を利用するので、受講者はYeStudyの本講義ページに登録を行なうこと。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	年度末の定期試験と、夏期レポートないしは夏期休暇後の小テストによって評価する。さらに受講者の人数(50名程度以下の場合)によっては平常点を加味する場合もある。以上についての詳細やその他の評価基準・方針は第1回の講義において伝えるので、必ず出席すること。
---------	--

教科書/テキスト	深田三徳・濱真一郎(編)『よくわかる法哲学・法思想』(ミネルヴァ書房)、¥2,730 講義の資料としても、また自習・予習の指示のためにも用いるので、必ず授業に持参すること。
----------	--

参考書	開講時に紹介する他、YeStudy に掲示する。
-----	--------------------------

関連リンク	https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/
-------	---

履修コード	120211
科目名	法律学特殊講義 [金融商品取引法]
担当者名	萬澤 陽子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	有価証券の取引やデリバティブ取引に適用される金融商品取引法(金商法)という、あまり馴染みのない法律を、さまざまな具体的事例を取り上げ、i)法の背景、ii)取引内容、iii)規制対象、iv)エンフォースメントの視点から考えることによって、身近に感じられるようにする。
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション 第2～5回 法の背景の視点から金商法を考える——資本市場の機能およびそこの金商法の役割—— 第6～15回 取引内容の視点から金商法を考える——不正取引(インサイダー取引、風説の流布・偽計、相場操縦、損失補てん)、公開買付制度、大量保有報告制度—— 第16～22回 規制対象の視点から金商法を考える——適用対象としての「金融商品」(範囲とその背景的事情)、金融商品取引業者等(業規制・行為規制)、発行者(発行開示・継続開示制度)、ゲートキーパー(公認会計士・監査法人等に課される責任)—— 第23～30回 エンフォースメントの視点から金商法を考える——刑罰によるエンフォースメント、行政によるエンフォースメント(行政処分、課徴金、金融庁・証券取引等監視委員会の関係)、民事(金商法、民法)によるエンフォースメント、自主規制機関(金融商品取引所、金融商品取引業協会)によるエンフォースメント——
準備学習	・会社法の基礎知識はあった方が望ましい。 ・予習は特に必要ないが、授業で学んだことを現実の社会で生じている会社や株式に関連する事件に当てはめて考えることで、復習してほしい。
履修上の留意点	学期末試験の結果のみならず、平常点も重視することから、講義に主体的に参加しようとする学生の受講を歓迎する。
成績評価の方法	学期末試験50%、平常点(授業における発言・質問に対する応答、授業で行う小テスト)50%で、総合的に判断する。
教科書/テキスト	追って指定する。
参考書	追って指定する。

履修コード	118101
科目名	法律時事英語
担当者名	井上 健一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	法律英語と言った場合、大別して2つの形態のものに習熟する必要があるように思われる。一つは、法律について書かれた論文や記事であり、もう一つは法律そのものや契約書の規定である。日本法を勉強していても実感できると思うが、「議論されること」を前提にして説明しようとする動機に基づいて書かれる前者と、さまざまな事実を大きくくりで抽象化しようとする後者とは相当異なる。本講義は、基本的に前者を素材として扱いつつ、後者についても必要な限り触れようと思う。
授業スケジュール	簡単なオリエンテーションの後、配布文献の輪読。まず英文を音読してもらい、その後、翻訳をしてもらい、前後期通じて、特に発表者は指定せず、ランダムに授業内で指名した者にその都度、音読・翻訳をしてもらう。よって、参加者は常に準備が必要である。 英語の習熟レベルは英検2級以上あることが望ましいが、ただ、熱意でカバーは十分可能である。法的な知識は前提としないが、あるに越したことはない。英語のトレーニングである以上に、「法」を理解することが最大の目的であることをお互い(履修者も私も)忘れないようにしたい。
準備学習	配布教材の翻訳。単語をつなげるのではなく、きちんと文章として理解すること。履修前に高校レベルの英文法の復習をしておくこと。
履修上の留意点	様々な文化のありかたに触れ、深く物事を考えたいという意欲を持つこと。単位合わせのための履修というスタンスでの参加はご遠慮願いたい。
成績評価の方法	出席と授業での翻訳・議論への貢献による。レポート等は課さない。テストも実施しない。
教科書/テキスト	英字新聞からのコピーを配布する。辞書は英和中辞典レベル以上のものを使用すること。さしあたり、小学館のプログレッシブ英和中辞典を推奨しておく。
参考書	適宜紹介する。
関連リンク	http://homepage3.nifty.com/inoue-k/

履修コード	326501
科目名	保険・海商法
担当者名	井上 健一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	商法のうち、保険取引および海商を含めた国際取引に関する法規整を概観する。この分野は、商法典の条文、もしくは判例の理解のみならず、約款や条約、あるいは商慣習なども含めた実務慣行に注意を払う必要がある。いわば実務との関係で「生きている法」を扱うという意味で、意欲を持って取り組めば非常に面白い内容である。前期および後期の半分は保険法を、特に保険契約法を中心に扱い、後期の後半(11月～)は海商法およびそれに関連した国際取引に関する契約に対する法規整を扱う。保険会社や商社などの実務に興味がある者は是非参加してほしい。
---------------------	--

授業スケジュール	I 保険法 1. 保険法総論・保険契約法総論 2. 損害保険契約 3. 生命保険契約 4. 傷害保険 II 海商法・国際取引法 1. 海商法・国際取引法総論 2. 海上企業者 3. 海上運送契約・国際取引契約 4. 海上危険・海上保険 5. 国際取引における紛争解決
----------	---

準備学習	民法の債権各論を履修済みもしくは履修中であることを強く望む。
------	--------------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	原則として期末試験によるが、履修人数によっては授業内で対話式のケースメソッドを実施し、その評価と合算して全体を評価する可能性もある。
---------	--

教科書/テキスト	山下・竹濱・洲崎・山本「保険法」(第3版)(有斐閣)
----------	----------------------------

参考書	レジュメで随時紹介する
-----	-------------

関連リンク	http://homepage3.nifty.com/inoue-k/
-------	---

履修コード	119301
科目名	民事執行・保全法
担当者名	岡田 好弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、民事執行法・民事保全法の基礎的知識を取得するとともに、重要な論点について考察することによって、同法への理解を深めることを目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	指定した教科書に従って進行します。前期で執行法・保全法の基本知識を概観し、後期の講義で諸問題について考察します。
----------	--

- 1 ガイダンス 講義の進め方、教科書・参考書の解説、民事執行法と民法・民事訴訟法のと関係について
- 2 民事執行の構造 民事執行の種類、基本構造、手続きのアウトライン
- 3 民事執行の要件 強制執行の実施要件、執行文について
- 4 民事執行における救済システム 民事執行における正当性、違法思考に対する救済
- 5 民事執行における救済システム 不当執行に対する救済システム
- 6 不動産に対する民事執行 不動産執行について
- 7 不動産に対する民事執行 担保不動産収益執行
- 8 動産に対する民事執行 動産執行手続きの概要、動産競売
- 9 債権等に対する民事執行 権利執行、債権執行手続、配当
- 10 債権等に対する民事執行 船舶等に対する執行、債権の競売、少額債権執行
- 11 非金銭執行 物の引渡執行、作為・不作為の執行、財産開示
- 12 民事保全法 民事保全制度の概要
- 13 民事保全法 仮差押え、仮処分
- 14 民事保全法 保全異議、保全取消し
- 15 民事執行法・保全法のまとめ 民事執行法と民法・民事訴訟法のと関係についてふたたび
- 16 後期ガイダンス
- 17 差押えの効力をめぐる諸問題
- 18 差押えの効力をめぐる諸問題
- 19 執行文・債務名義をめぐる諸問題
- 20 執行文・債務名義をめぐる諸問題
- 21 執行救済制度をめぐる諸問題
- 22 物上負担をめぐる諸問題
- 23 配当をめぐる諸問題
- 24 債権執行・競売をめぐる諸問題
- 25 債権執行・競売をめぐる諸問題
- 26 非金銭執行をめぐる諸問題
- 27 民事保全をめぐる諸問題
- 28 民事保全をめぐる諸問題
- 29 民事保全をめぐる諸問題
- 30 民事執行法・保全法をめぐる諸問題のまとめ

準備学習	民法や民事訴訟法の内容についての学習を前提とした講義になります。
------	----------------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	定期試験および小テストによる。
---------	-----------------

教科書/テキスト	松村 和徳『民事執行・保全法概論』成文堂 2625円 ISBN978-4-7923-2535-0
----------	--

参考書	上原敏夫ほか『民事執行法・保全法（有斐閣アルマ）（第2版補訂）』1800円＋税 ISBN978-4-641-12323-6
-----	---

履修コード	326701
科目名	民事執行・保全法
担当者名	岡田 好弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、民事執行法・民事保全法の基礎的知識を取得するとともに、重要な論点について考察することによって、同法への理解を深めることを目的とする。
授業スケジュール	指定した教科書に従って進行します。前期で執行法・保全法の基本知識を概観し、後期の講義で諸問題について考察します。

- 1 ガイダンス 講義の進め方、教科書・参考書の解説、民事執行法と民法・民事訴訟法との関係について
- 2 民事執行の構造 民事執行の種類、基本構造、手続きのアウトライン
- 3 民事執行の要件 強制執行の実施要件、執行文について
- 4 民事執行における救済システム 民事執行における正当性、違法思考に対する救済
- 5 民事執行における救済システム 不当執行に対する救済システム
- 6 不動産に対する民事執行 不動産執行について
- 7 不動産に対する民事執行 担保不動産収益執行
- 8 動産に対する民事執行 動産執行手続きの概要、動産競売
- 9 債権等に対する民事執行 権利執行、債権執行手続、配当
- 10 債権等に対する民事執行 船舶等に対する執行、債権の競売、少額債権執行
- 11 非金銭執行 物の引渡執行、作為・不作為の執行、財産開示
- 12 民事保全法 民事保全制度の概要
- 13 民事保全法 仮差押え、仮処分
- 14 民事保全法 保全異議、保全取消し
- 15 民事執行法・保全法のまとめ 民事執行法と民法・民事訴訟法との関係についてふたたび
- 16 後期ガイダンス
- 17 差押えの効力をめぐる諸問題
- 18 差押えの効力をめぐる諸問題
- 19 執行文・債務名義をめぐる諸問題
- 20 執行文・債務名義をめぐる諸問題
- 21 執行救済制度をめぐる諸問題
- 22 物上負担をめぐる諸問題
- 23 配当をめぐる諸問題
- 24 債権執行・競売をめぐる諸問題
- 25 債権執行・競売をめぐる諸問題
- 26 非金銭執行をめぐる諸問題
- 27 民事保全をめぐる諸問題
- 28 民事保全をめぐる諸問題
- 29 民事保全をめぐる諸問題
- 30 民事執行法・保全法をめぐる諸問題のまとめ

準備学習	民法や民事訴訟法の内容についての学習を前提とした講義になります。
履修上の留意点	
成績評価の方法	定期試験および小テストによる。
教科書/テキスト	松村 和徳『民事執行・保全法概論』成文堂 2625円 ISBN978-4-7923-2535-0
参考書	上原敏夫ほか『民事執行法・保全法（有斐閣アルマ）（第2版補訂）』1800円＋税 ISBN978-4-641-12323-6

履修コード	116101
科目名	民事訴訟法
担当者名	間瀬 清史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義では、民法など民事実体法についての一応の学習を終えた人を対象として、民事訴訟手続の概説を行います。ここに民事訴訟手続とは、私人間の権利義務ないし法律関係の存否を巡って生じた紛争の解決を目指し、そのための基準を提示する手続（判決手続）のことをいいます。受講者に民事訴訟手続の全体像と民事訴訟理論の基本を修得してもらうのがこの講義の目標です。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 オリエンテーション、第2回 民事訴訟手続概観、第3回 民事訴訟法の基礎理論、第4回 民事訴訟法の基本原則、第5回 裁判所、第6回 管轄、第7回 当事者能力、第8回 選定当事者・訴訟担当、第9回 確認の訴えの利益、第10回 給付の訴えの利益、第11回 形成の訴えの利益、第12回 当事者適格、第13回 訴訟物、第14回 一部請求、第15回 消極的確認訴訟、第16回 弁論主義 第一命題、第17回 弁論主義 第二命題、第18回 証拠収集手続、第19回 文書提出命令、第20回 証明責任、第21回 既判力の時的限界、第22回 既判力の客観的範囲、第23回 既判力の主観的範囲、第24回 複数請求訴訟、第25回 共同訴訟、第26回 補助参加、第27回 訴訟告知、第28回 独立当事者参加、第29回 上訴、第30回 再審・その他（授業回数が30回の場合）
----------	--

準備学習	YeStudy等にアップロードされた授業用のレジュメ等について事前に準備する必要があります。
------	--

履修上の留意点	民事実体法の基本的な事項について一応の理解を有することが履修の前提となります。
---------	---

成績評価の方法	日常の授業参加態度、論述式試験の結果及び受講者の提出物の内容等に依拠して行いたいと考えています。問題作成および成績評価にあたっては、講義に積極的に参加した人が有利になるよう配慮する予定です。
---------	---

教科書／テキスト	名津井吉裕ほか著『民事訴訟法』（法学書院）2007年、3200円（税別）。 小林秀之編『判例講義 民事訴訟法（第2版）』（悠々社）2010年、3500円（税別）。
----------	--

参考書	小林秀之編『新法学講義 民事訴訟法』（悠々社）2012年予定。 『民事訴訟法の争点』（有斐閣）2009年、2400円＋税。 『民事訴訟法判例百選【第4版】』（有斐閣）2010年、2800円＋税。
-----	---

履修コード	326601
科目名	民事訴訟法
担当者名	間瀬 清史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義では、民法など民事実体法についての一応の学習を終えた人を対象として、民事訴訟手続の概説を行います。ここに民事訴訟手続とは、私人間の権利義務ないし法律関係の存否を巡って生じた紛争の解決を目指し、そのための基準を提示する手続（判決手続）のことをいいます。受講者に民事訴訟手続の全体像と民事訴訟理論の基本を修得してもらうのがこの講義の目標です。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 オリエンテーション、第2回 民事訴訟手続概観、第3回 民事訴訟法の基礎理論、第4回 民事訴訟法の基本原則、第5回 裁判所、第6回 管轄、第7回 当事者能力、第8回 選定当事者・訴訟担当、第9回 確認の訴えの利益、第10回 給付の訴えの利益、第11回 形成の訴えの利益、第12回 当事者適格、第13回 訴訟物、第14回 一部請求、第15回 消極的確認訴訟、第16回 弁論主義 第一命題、第17回 弁論主義 第二命題、第18回 証拠収集手続、第19回 文書提出命令、第20回 証明責任、第21回 既判力の時的限界、第22回 既判力の客観的範囲、第23回 既判力の主観的範囲、第24回 複数請求訴訟、第25回 共同訴訟、第26回 補助参加、第27回 訴訟告知、第28回 独立当事者参加、第29回 上訴、第30回 再審・その他（授業回数が30回の場合）
----------	--

準備学習	YeStudy等にアップロードされた授業用のレジュメ等について事前に準備する必要があります。
------	--

履修上の留意点	民事実体法の基本的な事項について一応の理解を有することが履修の前提となります。
---------	---

成績評価の方法	日常の授業参加態度、論述式試験の結果及び受講者の提出物の内容等に依拠して行いたいと考えています。問題作成および成績評価にあたっては、講義に積極的に参加した人が有利になるよう配慮する予定です。
---------	---

教科書／テキスト	名津井吉裕ほか著『民事訴訟法』（法学書院）2007年、3200円（税別）。 小林秀之編『判例講義 民事訴訟法（第2版）』（悠々社）2010年、3500円（税別）。
----------	--

参考書	小林秀之編『新法学講義 民事訴訟法』（悠々社）2012年予定。 『民事訴訟法の争点』（有斐閣）2009年、2400円＋税。 『民事訴訟法判例百選【第4版】』（有斐閣）2010年、2800円＋税。
-----	---

履修コード	114801
科目名	民法総則
担当者名	山田 創一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では民法典第1編総則編についての解説を行います。民法とはいかなる法律か、その概要を述べた後、総則に関わる制定法と判例について具体的に検討を行います。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>本講義では、総則の各条文と関連する制定法、判例について検討します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 民法の意義 2 公共の福祉・信義誠実の原則・権利の濫用 3 権利能力 4 行為能力(1) 5 行為能力(2) 6 住所、不在者の財産管理、失踪宣告 7 法人の意義、本質、種類 8 権利能力なき社団・財団 9 法人の権利能力 10 法人の行為能力 11 法人の不法行為能力と理事個人の責任 12 一般法人法 13 公益法人法 14 一般法人整備法・外国法人 15 物 16 法律行為総論 17 公序良俗 18 強行法規と任意法規 19 心裡留保 20 通謀虚偽表示 21 錯誤 22 詐欺 23 強迫 24 消費者契約法 25 代理(1) 26 代理(2) 27 代理(3) 28 時効(1) 29 時効(2) 30 時効(3)
----------	---

準備学習	バンデクテン方式を採用する民法において、「民法総則」は民法全体の土台をなす科目ですので、しっかり学習して下さい。毎回の講義の復習をしっかりとして下さい。
------	--

履修上の留意点	民法総則は必修科目とされており、法学部で開設されている科目のなかでも特に重要な科目です。授業の無断欠席や私語などは厳に慎み、これからの4年間の法律学習の基礎を作ってください。六法は、教科書とともに持参して下さい。重要な判例については、判例を事実とあわせて読むことが重要です。読んだほうがよい判例は、講義の際に指定したいと思います。
---------	---

成績評価の方法	定期試験の成績と平常点で評価します。定期試験の成績80%、平常点20%とします。夏休みにレポートを課しますが、提出は任意で、定期試験の成績に加点します。
---------	--

教科書/テキスト	白羽祐三＝山田創一『民法総則講義 第三版』駿河台出版 2940円
----------	----------------------------------

参考書	遠藤浩＝川井健編『民法基本判例集』第三版 けい草書房 2200円
-----	----------------------------------

履修コード	114901
科目名	民法総則
担当者名	熊谷 芝青

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	市民生活と密接な民法全体の総論的講義を行う。民法の基本的な原理や原則を基礎にした体系的知識が得られることを目的とする。民法典の条文を中心とした規範が実際の事案に適用されることを念頭に置きながら講義を進めていく。学修後、判例でどのように実際の法条文が適用されているかを理解し、発展的学習のための基礎固めができるようにしたい。併せて民法総則を学ぶことで、法律学の考え方を習得することをも目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1: 民法学の基礎 法的三段論法と民法の適用・法律解釈の種類 2: 私的自治の原則 私的自治の原則・意思能力・無効 3: 行為能力制度 制限行為能力者・制限能力者の行為・取消 4: 法律行為 成立要件・有効要件 (公序良俗違反・強行法規違反) 5: 意思の不存在 心裡留保・虚偽表示・錯誤 6: 意思の瑕疵 詐欺・強迫・消費者契約法 7: 代理と代理権濫用 8: 表見代理 110条の表見代理・109条の表見代理・112条の表見代理・表見代理の重畳適用 9: 無権代理 無権代理と相続・利益相反行為 10: 時効総則 時効の援用・時効の利益の放棄・時効の中断 11: 取得時効 12: 消滅時効
----------	--

準備学習	指定教科書の該当頁を予習してることが望ましいが、必要ではない。
------	---------------------------------

履修上の留意点	法律学の修得で大切なことは、繰り返すことである。したがって復習回数を多くすることが諸君の実力上昇につながると思っている。当然のことであるが、受講中の飲食・携帯電話の使用は禁止であり、それに違反した場合、その時点で落第とする場合がある。また板書を多用するので、ノートと筆記道具は必携である。
---------	--

成績評価の方法	学年末の定期試験により評価する。
---------	------------------

教科書/テキスト	近江幸治『民法講義I総則(第6版)』(成文堂、2008)
----------	------------------------------

参考書	尾崎哲夫『はじめての民法総則』(自由国民社) 柴田孝之『S式択一条文問題集 民法』(自由国民社) 我妻榮・有泉亨『民法1』(勁草書房)
-----	---

その他	民法全般に言えることだが、復習に重点を置いて欲しい。
-----	----------------------------

履修コード	323201
科目名	民法総則
担当者名	大宮 隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	民法は、個人相互間の私的生活関係の基本法として、財産(物の所有や契約など)と家族(夫婦・親子や相続など)に関する事項を規律する法律である。日本の民法典は、総則・物権・債権・親族・相続の配列で、五編より構成されているが、本講義の対象は、総則編である。総則には、全編に共通な規定と、どの編にも入れることができない規定が集められている。民法の学習にあたっては、条文数が多いことや、内容が複雑で技術的な構成をとっているため、親しみ難い面があるので、実際の社会生活から遊離することのないように、例示をできるだけ多くして説明することを心がけている。学説・判例の到達点を理解する。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1) 民法典の沿革・構成 (1回) (2) 権利の主体 (2-10回) 自然人・法人 (3) 権利の客体 (11-12回) 物 (4) 権利の変動原因 (13回-) 法律行為・意思表示・代理・無効及び取消・条件及び期限・時効
----------	--

準備学習	予習が必要である。
------	-----------

履修上の留意点	教科書と条文を熟読すること。
---------	----------------

成績評価の方法	数回的小テストを予定している。その結果と、学期末試験の成績を総合して、評価を行う。
---------	---

教科書/テキスト	田山輝明著「民法総則 第3版」成文堂 3000円 ISBN978-4-7923-2566-4
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	115901
科目名	有価証券法
担当者名	中濱 義章

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	手形小切手法の基本的な原則・制度を理解し、諸問題を検討することを通じて有価証券法理の基礎を習得する。
---------------------	--

授業スケジュール	講義は以下の順に行い、各項目ごとに1～2回程度の授業時間を割り当てる。講義の内容は、制度の概要を解説し、具体例を通じて問題点の検討をおこなう。
----------	---

- 1 手形・小切手の意義(約束手形・為替手形・小切手の異同)
- 2 手形法・小切手の経済的機能
- 3 手形行為の意義・性質
- 4 手形行為の成立時期(手形理論)
- 5 手形行為と法律行為に関する一般原則
- 6 代理人・代表者による手形行為
- 7 無権代理と偽造、変造
- 8 手形行為と実質関係
- 9 手形の振出
- 10 白地手形
- 11 手形の裏書
- 12 善意取得の制度
- 13 手形抗弁、人的抗弁切断(制限)の制度
- 14 支払、支払拒絶など
- 15 為替手形・小切手に特有の法制度
- 16 振込・振替など新たな決済システムに関する諸問題

準備学習	講義は段階的に進めていきますので、前の週に学習した内容を復習しておいてください。
------	--

履修上の留意点	六法は小型のものでかまいませんので最新版を携帯して下さい。例えば、『ポケット六法』(有斐閣)、『セレクト六法』(岩波書店)、『デイリー六法』(三省堂)など。 民法(財産法関係科目)および商法科目を履修済み、あるいは履修中であることが望ましい。
---------	--

成績評価の方法	夏休み前と期末に行う筆記試験での評価を予定していますが、レポートを課す場合もあります。
---------	---

教科書/テキスト	大塚龍児ほか『商法Ⅲ—手形・小切手(第4版)』(有斐閣Sシリーズ) 落合誠一=神田秀樹編『別冊ジュリスト 手形小切手判例百選(第6版)』(有斐閣)
----------	--

参考書	詳細については、開講時に指示します。 山下友信=神田秀樹編『商法判例集(第4版)』(有斐閣)
-----	---

履修コード	324901 324902
科目名	有価証券法 商法二部
担当者名	中濱 義章

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	手形小切手法の基本的な原則・制度を理解し、諸問題を検討することを通じて有価証券法理の基礎を習得する。
---------------------	--

授業スケジュール	講義は以下の順に行い、各項目ごとに1～2回程度の授業時間を割り当てる。講義の内容は、制度の概要を解説し、具体例を通じて問題点の検討をおこなう。
----------	---

- 1 手形・小切手の意義(約束手形・為替手形・小切手の異同)
- 2 手形法・小切手の経済的機能
- 3 手形行為の意義・性質
- 4 手形行為の成立時期(手形理論)
- 5 手形行為と法律行為に関する一般原則
- 6 代理人・代表者による手形行為
- 7 無権代理と偽造、変造
- 8 手形行為と実質関係
- 9 手形の振出
- 10 白地手形
- 11 手形の裏書
- 12 善意取得の制度
- 13 手形抗弁、人的抗弁切断(制限)の制度
- 14 支払、支払拒絶など
- 15 為替手形・小切手に特有の法制度
- 16 振込・振替など新たな決済システムに関する諸問題

準備学習	講義は段階的に進めていきますので、前の週に学習した内容を復習しておいてください。
------	--

履修上の留意点	六法は小型のものでかまいませんので最新版を携帯して下さい。例えば、『ポケット六法』(有斐閣)、『セレクト六法』(岩波書店)、『デイリー六法』(三省堂)など。 民法(財産法関係科目)および商法科目を履修済み、あるいは履修中であることが望ましい。
---------	--

成績評価の方法	夏休み前と期末に行う筆記試験での評価を予定していますが、レポートを課す場合もあります。
---------	---

教科書/テキスト	大塚龍児ほか『商法Ⅲ—手形・小切手(第4版)』(有斐閣Sシリーズ) 落合誠一=神田秀樹編『別冊ジュリスト 手形小切手判例百選(第6版)』(有斐閣)
----------	--

参考書	詳細については、開講時に指示します。 山下友信=神田秀樹編『商法判例集(第4版)』(有斐閣)
-----	---

履修コード	116801
科目名	労働法
担当者名	藤本 茂

授業概要/到達目標 (ねらい)

今日、労働法の対象である雇用社会は、リストラ、解雇や能力主義人事管理の導入などが行われ、日本型雇用システムの見直しが行なわれています。労働法は、雇用社会において生じる紛争(労働問題)を解決する法分野です。今日の雇用社会の変化に無関係ではられません。この変化は労働法の法制定・改正に大きく関わってきます。特に、労働時間法、労働契約法、雇用平等法などです。講義では、雇用関係法領域を中心に、雇用社会の変化を頭の隅に置きつつ、これまで形成定着した労働法理の基礎を学びます。また、変化する法制度を学びます。こうして、主に雇用関係法領域を概観し現代的課題に対して自ら考える視座を身につけてもらうことをねらいとしています。

授業スケジュール

下記事項について、基礎的知識を学びつつ、現代的課題に言及します。

1 回目の授業のときにプリントを配布してガイダンスをします。

以下に、年間スケジュールを掲げます。ただし、重要な裁判などホット・ 이슈ーが出されればそれを中心としたテーマに急きよ変更することもあります。また、授業中の理解の様子によって変更することもあります。また、調整の回も設けました。したがって、以下のスケジュールは目安です。

- 第1回 ガイダンスー労働法分野と授業で扱う分野
- 第2回 労働法の生成と労働運動と雇用社会と
- 第3回 労働法の基礎的考え方
- 第4回 労働関係の主人公ー労働者、使用者、労働組合
- 第5回 労働契約と労働契約法
- 第6回 労働条件の最低基準の法定① 労働の自主性の確保
- 第7回 労働条件の最低基準の法定② 最低基準の定立の意味
- 第8回 調整
- 第9回 雇用における平等① 労基法3条
- 第10回 雇用における平等② 男女賃金差別の禁止
- 第11回 雇用における平等③ 男女雇用機会均等法
- 第12回 労働条件の集団的決定① 労働契約と就業規則
- 第13回 労働条件の集団的決定② 就業規則について
- 第14回 労働条件の集団的決定③ 労働組合の役割
- 第15回 労働条件の集団的決定④ 団体交渉・労働協約
- 第16回 雇用の入口① 採用
- 第17回 雇用の入口② 内定制度・試用制度
- 第18回 人事異動 配転
- 第19回 雇用の終了① 個別労働関係の終了
- 第20回 雇用の終了② 法による解雇規制
- 第21回 雇用の終了③ 解雇権濫用
- 第22回 調整
- 第23回 賞金・賞与・退職金① 賃金支払いの原則など
- 第24回 賞金・賞与・退職金② 賞与・退職金
- 第25回 労働時間① 労働時間に対する規制
- 第26回 労働時間② 変形制度など
- 第27回 労働時間③ 労働時間の例外
- 第28回 年次有給休暇① 年休権の法的性質
- 第29回 年次有給休暇② 時季指定・時季変更、計画年休
- 第30回 調整

準備学習

教科書を読むこと(少なくとも授業の進捗に応じて、行われている単元箇所はあらかじめ読んで授業に臨んでください)。新聞を読むこと。雇用問題に関する新書などを読むこと。

履修上の留意点

出席は義務。欠席は〇ＵＴ。途中退席は不可で欠席扱い。非常の場合は申し出ること。携帯電話は〇ＦＦ。私語は厳禁。つまりは授業のマナーを厳守。

授業は、主に、配布するレジュメと資料を使って行います。レジュメには取り上げる項目を挙げた詳細目次です。内容は授業で埋められていきます。ノートをとることが必要です。ノートをとること＝板書を写すことと思っている人がいますが、少なくとも本講義ではそうではありません。講義で大事なところを自分の理解したところに従って要約して記すことと心得てください。教科書は予習復習には欠かせません。

また、憲法、民法総則、債権総論、債権各論、社会保障法、社会政策といった近接した専門科目も履修すること(あるいは履修済みであること)が望ましいと考えています。

成績評価の方法

学年末試験(論述式)がメインで、受験をしていないと評価は出しません。気をつけてください。また、レポート、中間試験や出欠も評価対象です。これらを総合的に評価して、成績を決めます。追試験は実施します。

教科書/テキスト

教科書は、六法とならんで学修上の必要アイテムです。受講生各自の熱意に相応するものを選んでください。

よくわからないという方には、ひとまず、金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法I [第2版]』(エイデル研究所 2010)を掲げておきます。物足りなさを感じる受講生は、相談して下さい。第1回ガイダンスで配るプリントにもいくつか紹介するつもりです。

参考書

参考書は、労働判例百選第8版(別冊ジュリスト)など。六法は用意してください。六法は、法改正がありますから、最新のものを用意すること。また、労基法施行規則の載っているものが必要です。詳しくは、第1回目の授業で紹介いたします。

その他

各項目についてイメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら授業を進め

ます。

履修コード	325101
科目名	労働法
担当者名	藤本 茂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	今日、わが国の労働関係（雇用社会）は、少子高齢社会・人口減社会やグローバル化に伴う変化などにもない、リストラ、成果主義人事管理の導入・見直しなどがなされるなど大きく変貌しています。 労働法は、労働問題を平和的に（つまりは法的に）解決する妥当な考え方を学ぶ法領域です。雇用社会の変動に無関係ではられません。 この時期、労働者に降りかかるさまざまな事象は、労働基準法改正、労働契約法や男女雇用平等などの雇用関係法領域において、顕著です。 本講義ではこの雇用関係法領域を中心に授業を進め、その基礎的知識を身につけることを目標とします。到達目標は、基礎的知識の習得とリーガルマインドを身につけることです。
---------------------	---

授業スケジュール	下記事項について、基礎的知識を学びつつ、現代的課題に言及します。 1回目の授業のときにプリントを配布してガイダンスをします。 以下に、年間スケジュールを掲げます。ただし、重要な裁判などホット・イシューが出されればそれを中心にしたテーマに急ぎ変更することもあります。また、授業中の理解の様子によって変わることもあります。また、調整の回も設けました。したがって、以下のスケジュールは目安です。 第1回 ガイダンスー労働法分野と授業で扱う分野 第2回 雇用社会と労働組合と労働法と 第3回 労働法の基礎的考え方 第4回 労働関係の主人公ー労働者、使用者、労働組合 第5回 労働契約と労働契約法 第6回 労働条件の最低基準の法定① 労働の自主性の確保 第7回 労働条件の最低基準の法定② 最低基準の定立の意味 第8回 調整 第9回 雇用における平等① 労基法3条 第10回 雇用における平等② 男女賃金差別の禁止 第11回 雇用における平等③ 男女雇用機会均等法 第12回 労働条件の集团的決定① 労働契約と就業規則 第13回 労働条件の集团的決定② 就業規則について 第14回 労働条件の集团的決定③ 労働組合の役割 第15回 労働条件の集团的決定④ 団体交渉・労働協約 第16回 雇用の入口① 採用 第17回 雇用の入口② 内定制度・試用制度 第18回 人事異動 配転 第19回 雇用の終了① 個別労働関係の終了 第20回 雇用の終了② 法による解雇規制 第21回 雇用の終了③ 解雇権濫用 第22回 調整 第23回 賞金・賞与・退職金① 賞金支払いの原則など 第24回 賞金・賞与・退職金② 賞与・退職金 第25回 労働時間① 労働時間に対する規制 第26回 労働時間② 変形制度など 第27回 労働時間③ 労働時間の例外 第28回 年次有給休暇① 年休権の法的性質 第29回 年次有給休暇② 時季指定・時季変更、計画年休 第30回 調整
----------	--

準備学習	準備学習といえば、次のことをお願いするだけです。教科書を読んで授業に臨むということですが、普段から雇用社会の動向などを新聞や雑誌を読んでみておいてください。
------	--

履修上の留意点	出席を心がけてください。私語はNo、携帯電話はOff、内職はNo、そして無断で席を立つことはNo。いわゆる授業のマナーは守ってください。 適宜、項目を列挙したレジュメや資料を配りますが、それでは十分ではありません。教科書を使って有意義な勉強を心がけてください。 憲法、民法、社会保障法、社会政策は、近接科目であるので、ぜひ履修してください。
---------	--

成績評価の方法	成績は、学年末試験がメインで、受験しなければ評価はつきません。前期試験、レポートや出席を含めて、総合的に評価します。 追試験は実施します。
---------	--

教科書/テキスト	金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法【第2版】』（エイデル研究所 2010）。これ以外でもかまいませんが、予備校のテキストは授業の目的が違いますので、認めません。
----------	---

参考書	第1回目の授業で、プリントで紹介します。 六法は、最新のもの（法律改正や制定があるので特に）。そして労基法施行規則の載っているものを用意してください。詳しくは、これも1回目の授業で話します。
-----	--

その他	皆さんが各々の事項について法的にはどのように考えていくのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら、授業を進めます。
-----	---

履修コード	129501
科目名	アラブ・イスラム政治論
担当者名	中島 勇

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代中東の政治問題を中心に扱う。開講中に発生する事件や紛争も扱い、その背景にある要因を説明する。中心的テーマは、第二次世界大戦後の中東の政治潮流の変遷、アラブ・イスラエル紛争、イスラム系組織のテロ問題となる。また前半では、中東・アラブの文化的、宗教的背景にもふれる。中東・アラブに関する複眼的な視点を提供し、よりバランスの取れたアラブ・イスラム観を持ってもらうようにする。
---------------------	--

授業スケジュール	1回-7回は、中東の基礎を扱う。地理、気候、言語、宗教、歴史などを整理する。8回-15回は、第一次世界大戦ころから現在までの時間枠で、政治的な流れを整理する。大枠では、オスマン・トルコ帝国の解体後におきた政治的な変化を中心に、2011年に起きた「アラブの春」とその後の動きにふれる。
----------	---

準備学習	現代中東の政治を扱うため、ニュースの国際面などに注意をしていて欲しい。また地中海世界の歴史を扱うので、西洋史あるいはイスラムの歴史書にも目を通して欲しい。中東に関する映画なども多数あるので、これらも参考資料として鑑賞を薦める。
------	---

履修上の留意点	講義期間中に発生するニュースを扱うので、国際報道に関心があることが望ましい。
---------	--

成績評価の方法	評価は、レポートの提出で行う。
---------	-----------------

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

その他	講義では、映像資料（ニュース、記録映像、映画）などを多様する。中東に関する映画も紹介したい。
-----	--

履修コード	132601 132602
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	内海 麻利

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習は、社会情勢が変化し、その改革が求められている都市政策や地方行政を中心に柔軟な発想から問題意識を持ち、実践的かつ創造的な新たな知見を自ら探求するとともに、その解決策を提起できる能力を引き出しのばすことを主な目的としている。
---------------------	--

授業スケジュール	研究期間内に行う研究スケジュールやプログラム（問題意識の明確化、研究テーマ及び目的、視点、方法の設定、関連文献の収集および実施調査、考察及び取りまとめ）を自ら考案・実施し、問題意識に対する新たな知見や解決策を自主的に進める。主にゼミでは、調査内容発表、議論を中心に研究内容を深めていく。
----------	---

準備学習	各人のテーマ、スケジュールに沿って、調査、検討を進める。
------	------------------------------

履修上の留意点	ゼミ運営自体も学生の主体性を重視するため、積極的なゼミ活動への参加が望まれる。
---------	---

成績評価の方法	出席状況、各自の報告及び発表の充実度、ゼミに対する意欲などを総合的に評価する。
---------	---

教科書／テキスト	授業中に適宜紹介する。
----------	-------------

参考書	授業中に適宜紹介する。
-----	-------------

履修コード	131701
科目名	演習Ⅰ
担当者名	浦田 早苗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	これまでわれわれが直面してきた、そしてこれからも直面し続ける様々な政治・社会現象について、純粹かつ鋭い視点から問題を喚起し、幅広い柔軟な発想をもって解決策を導きだせる人材を育成することに主眼をおいている。
---------------------	--

授業スケジュール	2012年度は共通テーマとして「混乱の世界と日本」とし、内外の重要課題について個人研究及びグループ研究が行う。
----------	---

準備学習	週間ニュースをA4にまとめ、毎回提出すること。
------	-------------------------

履修上の留意点	オリジナリティ溢れる問題解決策・プランニングの作成にはかなりの時間を費やさなければならぬ。授業の中で、新聞を利用して毎週の時事問題を取り上げる。
---------	--

成績評価の方法	発表内容と各自の持つ勉学意欲（発表に対する質問・意見等）によって評価する。
---------	---------------------------------------

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

その他	学内のディベート戦に積極的に参加すること、及び年2回の合宿とゼミ論集の刊行を励行している。
-----	---

履修コード	133501	133502
科目名	演習I	演習II
担当者名	大塚 桂	

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	政治学における基礎的原理的研究をおこないます。基礎研究にあたっては、古典の文献の取り組みが不可欠です。政治原理・哲学・国家論に関心のある学生の参加を期待します。
---------------------	--

授業スケジュール	I 政治学の基本文献を輪読する。 II 共通テーマを設定し、共同研究をおこなう (例えば、明治の政治家たち、自由主義の系譜)。 III ゼミ生各自が定めた個人研究の発表とそれに対する指導をおこなう。
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	一定の読書と思索をつみかさねてきた学生の参加を切望します。政治学原論が現代国家論を履修し、私の政治学に対する姿勢を理解してくれる学生さん、いらっしやい!
---------	--

成績評価の方法	平常点
---------	-----

教科書/テキスト	教員が準備し提供します。
----------	--------------

参考書	参考書として、拙著をあげておきます。図書館等で目を通してください。大塚『フランスの社会連帯主義』(成文堂)、同『ラスキとホップハウス』(勤草書房)、同『多元的国家論の展開』(法律文化社)、同『多元的国家論の周辺』(信山社)、同『近代日本の政治学者群像』(勤草書房)、同『明治国家と岩倉具視』(信山社)、同『明治維新の思想』(成文堂)、同『ヨーロッパ政治理念の展開』(信山社)、『大東亜戦争期の政治学』(成文堂)。
-----	--

その他	4年次生は就職活動を最優先させます。金銭的負担(OB会・合宿等)、規則、束縛は一切ありません。年1~2回のお食事会を開催しますが、教員がゼミ生をご招待いたします。
-----	---

履修コード	132801	132802
科目名	演習I	演習II
担当者名	大山 礼子	

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習は、学生が主体的にテーマを決めて、政治学の関連分野についての研究を深めていく場です。本の読み方、資料の扱い方など、基本的な技術を身につけ、論文執筆をめざします。
---------------------	--

授業スケジュール	(1~15) 全員で政治学関係の本を読み、内容について討論します。 (16~30) 文献の講読と並行して、各自のテーマを研究します。演習Iでは3000~5000字程度のレポート、演習IIでは1万~2万字程度の卒業論文を執筆します。 なお、夏休みには御岳山での合宿を予定しています。
----------	--

準備学習	演習を通じてどのようなことを学びたいのか、各自の目標を設定してください。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	演習は受講する学生が中心となってつくっていくものです。受動的な態度では出席する意味がありませんので、積極的な参加を求めます。 こちらからの連絡や学生同士の意見交換の場として、YeStudyを利用します。
---------	--

成績評価の方法	平常点によります。欠席、遅刻の多い者は成績評価の対象としないので注意してください。
---------	---

教科書/テキスト	全員で読む本や論文は、参加者と話し合って決定します。
----------	----------------------------

参考書	その都度紹介します。
-----	------------

その他	授業開始時にYeStudyの利用方法について案内します。合宿等、ゼミのイベント時は禁煙です。
-----	--

履修コード	132101	132102
科目名	演習II	演習I
担当者名	小堀 訓男	

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	国家の行動基準について研究する。具体的にはナショナリズムと階級がどのような関係を展開してその国家の行動を決定しているのかをいくつかのケーススタディーを通して考察する。
---------------------	---

授業スケジュール	①アメリカ地域研究班 ②東南アジア地域研究班 ③中東地域研究班 ④ヨーロッパ地域研究班 ⑤国際協力研究班 ⑥国際政治理論研究班 受講生はいつれかの研究班に所属し1年間の研究スケジュールをもとに共同研究をおこなう。研究成果は各研究班に割り当てられた年間5回の発表の場で報告し、全員で討論する。
----------	--

準備学習	自分の興味ある研究テーマを決めて、単なる事象の研究だけでなくその事象をひき起こす根底にあるナショナリズムや階級について考察するため、民族・階級・政治権力などについての基礎的な予習を必要とする。
------	--

履修上の留意点	各研究班は週に1度か2度の勉強会を予定するので参加する必要がある。
---------	-----------------------------------

成績評価の方法	4年生は主に卒業論文成果と論文作成過程での取り組み方等を指導しながら評価する。
---------	---

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	年度初めに各研究班に資料の収集の仕方や参考文献を紹介する。
-----	-------------------------------

履修コード	133101 133102
科目名	演習I 演習II
担当者名	塩入 みほも

授業概要/到達目標 (ねらい) 行政法上の諸問題をとり上げて、演習を行います。他から教授されるだけの受動的な学問ではなく、判例及び学説を自分なりに分析・検討する作業を通じて能動的に研究し、報告し、且つ他の者と法律学的討論を行えるための能力を鍛錬することを目的とします。

授業スケジュール 当演習は、学生の主体性を重視しているため、毎年度、ゼミの運営方針・内容はゼミ生と話し合っていて決めています。但し、取り扱うテーマは、基本的には行政法総則一般、行政訴訟法、行政手続法、情報公開法などの各分野からの選択になります。

準備学習 ディベートやディスカッションはもとより、報告形式であっても質疑応答等全員の発言が求められる全員参加型の授業であるため、予定された論題について各自が毎回必ず予習しておくことが必要です。

履修上の留意点 国家・地方公務員、警察官・消防士、行政書士等の国家試験受験者には特に有意義であると思われませんが、それ以外の者でももちろん履修可能です。

成績評価の方法 平常点（出席・報告・発言等）により成績評価を行います。

教科書／テキスト 特定の教科書等はいりません。各自が毎回取り扱うテーマに応じて必要な資料を収集・調査します。

参考書 初回授業の際に紹介します。

履修コード	132001
科目名	演習I
担当者名	田丸 大

授業概要/到達目標 (ねらい) 行政の活動や政策は、世の中の我々の生活とも密接に関わっている。そういった行政活動について、ディベートや研究発表を行ってもらおう。なるべくグループでの作業を多くし、チームワークを重視する予定である。過去に扱ったテーマは、サマータイムの導入の是非、消費税の引き上げの是非、成人年齢の引き下げの是非、駅前の放置自転車対策などである。とくにディベートはルールに従って、大量の準備を行う必要があり、また自分の希望しないテーマや立場を取らざるを得ないことが頻繁にあるが、そのような時にこそ、全力で準備して、自らの力を高めて欲しい。

授業スケジュール 年間の演習を5回ずつ程度に分けて、ディベートや研究発表を繰り返していきたい。例えば、夏休み前にディベートを2回くらい、研究発表1回くらいできれば十分と考えている。

準備学習 日頃から、新聞等を通して、世の中のニュースを入手し、それぞれのニュースに対して、肯定的な立場、否定的な立場ともあり得るのだという点を把握するように努めてください。

履修上の留意点 秋に開催される法学部のゼミ対抗のディベート大会に出場してもらおう予定です。そのため、8月から10月は、平日の夕方や夜、休日も自主的に集まり準備を行ってまいります。予備校とのダブルスクール、部活動との両立、アルバイト等は、この時期にはかなり難しくなります。また、ディベート大会で他のゼミと対戦すると、テーマを調整する必要があるため、自分たちの希望するテーマにならないことが通常です。その場合でも、真剣に調べて議論を構築しようとする根気を必要とします。実際にディベートがどのようなものであるかを事前に確認するために、是非、ディベート大会またはマスコミ研究所のディベート大会などを見てください（法律学科の学生には強く勧めます）

教員は、ディベートの資料を配りDVDを見せて多少の解説を加えたりするだけで、細かいことに関してはほとんど指示を出さずに、「いつまでに何を準備してくれ」程度のことを、たまにしか言いません。

したがって、ディベートやグループ研究を行う中で、グループごとに時間管理を行い、演習以外の時間に自主的に学生が集まって作業をすることが非常に多くなります。そのような時間外の活動についても、できるだけ出席点に反映するようにします。

講義の場合と比べて、教員の指導が少なく物足りないと感じるかもしれませんが、このように自分たちで作業を行いチームで成果を出すことを通じて、結果的に、大学生の間に、アルバイトやサークル以外に勉強つなごりの友人も作り、グループでの作業を通じてチームで物事を達成する充実感を味わってほしいというのが、担当教員の願いです。

コンパ・合宿を考えていますが、正規の授業の理由を除いては、全員参加とします（出席点として考慮します。）

OB会の準備、2年の基礎演習のお手伝いなどをお願いする予定です。

成績評価の方法 平常点による。

教科書／テキスト 特に使用しない。

参考書

履修コード	132501
科目名	演習I
担当者名	富崎 隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	全体としては、現代政治学の理論的・実証研究（特に数量的研究）を「体験すること」を演習の主たる目的としていきたいと思ひます。演習の雰囲気自体は、学生諸君と「創りあげていくもの」だとも思ひます。そして、共同（及び個々に）で研究活動やその他の活動に参加していく中で、「現代政治をみる視点」を養って欲しいと思ひます。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>演習の第1の活動は、3年次における共同研究、4年次における卒業論文の作成です。ここでいう「研究」とは、本を読んでまとめることとは基本的に異なります。それは単なる「お勉強」です。本研究会における研究とは、従来世界中で誰も「知らなかった」「そうであるといえなかった」政治現象を「そうである」と確認・発見する作業です。もちろん、そのためには多くの努力と創造性が必要です。</p> <p>第2に、具体的な、みなさんの毎週の研究会での中心活動は、当面ディベート（模擬討論）になると思ひます。毎週のディベートを通じて、政治学における基本問題に対する理解と問題発見をしてもらひます。研究会でのディベート実施の目的は、政治学の従来の議論の意義と問題点を探ることにあります。しかし、同時にディベートを通じ諸君の論理・実証・思考・討論能力を向上させてもらひたいと思ひます。なお、日本の公共政策の在り方を議論することから、ネット資料や、新聞・雑誌の広範な活用が必要となります。</p> <p>第3に、研究会としてインターカレッジ・セミナーに参加していきたいと思ひます。他の参加ゼミとしては、明治大学・小西ゼミ、慶応義塾大学・河野ゼミ、拓殖大学・大谷ゼミ、法政大学・白鳥ゼミなど（予定）があります。このセミナーでは、年1回の共同合宿や講演会、大学対抗のディベート大会などを行なっていく予定です。</p>
----------	--

準備学習	演習への積極的・主体的準備が望まれます
履修上の留意点	積極的・主体的参加を期待します
成績評価の方法	受講生と相談の上、総合的に評価します
教科書／テキスト	特に定めません
参考書	特に定めません

履修コード	132301 132302
科目名	演習I 演習II
担当者名	中野 裕二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	自分で研究テーマを決め、年度末にゼミ論文として提出することを目標とします。研究テーマは、受講生の問題関心に即して決定します。「自分はどのようにこの事に関心を抱いているのか？」を自問することも大切なことだと考えます。
---------------------	---

授業スケジュール	毎回の演習の時間は、ゼミ論文の中間報告、または、論文作成のために必要な文献の内容紹介にあてます。毎回1人または2人の報告を行い、内容の発表と質疑応答を通して論文作成上の問題点を洗い直し、または自分の問題関心の再確認を行います。
----------	---

準備学習	4月の授業開始までに、研究してみたいテーマについて考えておいてください。
履修上の留意点	自発的に研究し、論文をまとめる意志のある学生のみ受講してください。
成績評価の方法	出席、ゼミ論文の提出、報告内容・質疑応答の内容などを総合的に判断し、成績評価とします。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	132701
科目名	演習I
担当者名	早川 純貴

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	当演習の基本目的は現代日本政治の特質を理解し、その問題点を探り出すこと、あるいはそれらの問題をいかに克服できるかを考えることである。特に当演習では研究対象を政策形成・施行過程に置く。具体的には、いくつかの政策が成立する背景と過程を明らかにしつつ、それらがいかに施行されたか、その過程でどんな問題が生じたのか、あるいはそれらの政策が日本の経済や社会、国際関係にどのような意味・影響を持ったのかを考察する。
---------------------	---

授業スケジュール	当ゼミは前期が統一テーマによるグループ研究であり、後期は学生自身が選択したテーマで個人発表を行い、あわせてゼミ論を執筆してもらう。平成24年度の前期・統一テーマは「事件はどのような政治的対応がなされたか」である。ある事件（社会的事件、政治問題、経済問題、外交問題など）が生じ、それに政治的対応がなされた場合、それはどんな対応だったのか、その対応は妥当であったか、否か。他に選択肢はなかったのか。対応に当たった政治家、官僚は何を考えたのか。あるいは、その対応がその後の社会や政治、経済にどう影響したのか。こうした問題を解き明かすことで日本（中央や地方）の政策決定の本質に迫ることができるであろう。
----------	---

準備学習	報告者はレジュメを作成し、30分の報告をしなければならない。また質疑応答では、どんな質問にも答えられるよう、事前に十分な準備をしなければならない。報告を聞く側も様々な角度から質問できるように、報告テーマについて、新聞やインターネットなどで概要を調べておくことが望ましい。
------	---

履修上の留意点	当演習は法律学科の学生にも開講する。政治学科の学生はもとより、政策の形成・執行に関心のある法律学科学生諸君の参加を大いに歓迎する。また当演習は春と夏に合宿を行うが、そこではディベートやパネル・ディスカッションなど、通常の演習ではあまりできないことを企画している。
---------	---

成績評価の方法	個々人の発表・報告の充実度、レポート・ゼミ論の内容などを総合的に判断して評価する。
---------	---

教科書／テキスト	教科書は使用しない。参考文献は演習の過程で随時紹介する。
----------	------------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	132401 132402
科目名	演習I 演習II
担当者名	三竹 直哉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	比較政治学分野の専門文献の読解を通じて、比較政治学関連のトピックについて理解を深め、可能であれば自分たちで比較政治学的研究をやってみることを目標とする演習です。最新の情報はYeStudyで確認してください。
---------------------	---

授業スケジュール	前期は比較政治学分野の専門文献を読み、後期は実際に比較政治学的研究をグループでやってみる作業をします。
----------	---

新聞を読むことは政治学科における勉強の基本ですので、必ず五大紙のいずれかを読み、サブゼミ等で毎週記事を材料に議論します。

準備学習	毎回各自で取り組むべき課題が出ます。
------	--------------------

履修上の留意点	応募する前に《必ず》メールで相談してください。向いていないゼミに応募してしまうと、ゼミを履修するチャンスを失ってしまう可能性があります。
---------	--

4年次にもしっかり勉強し、専門性を高めたい人のためのゼミです。4年次は出席しなくてもよいなどという方針はとっておりません。その他にも条件がありますので、応募前に相談してください。法律学科から応募する方は特に注意が必要です。必ず応募前に相談してください。

詳しい案内は、YeStudyに掲載してありますので、そちらを参照してください。また、在籍中のゼミ生やゼミ卒業生に直接話を聞きたければ紹介します。見学も歓迎します。

成績評価の方法	学期末に行う自己評価プレゼンにより、100満点で自己評価します。
---------	----------------------------------

教科書／テキスト	その都度、指示します。（買わなければいけないものは多くありません。）
----------	------------------------------------

参考書	
-----	--

その他	mitake@komazawa-u.ac.jp 最新の情報はYeStudyで確認してください。
-----	--

履修コード	133401	133402
科目名	演習I	演習II
担当者名	三船 恵美	

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代の国際関係について自分自身の視角を形成し、それを報告しながら討論することを学ぶのが、本ゼミの目的です。複数の学生全員が同じ考え方をすることはあり得ません。異なる考え方の学生が集まり、異なる価値観に対して排他的になることなく、しかも単なる「仲良い関係」では終わらない知的緊張関係の中で、対立するところは対立し、評価できるところは評価しあうことを学びましょう。自分の意見を単純に主張するだけではゼミに参加する意義がありません。議論は言い争うことと本質的に異なるものです。議論することで自分の意見を主張したり異なる意見を受け入れ、自分の考え方を鍛えるためにゼミは存在します。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回目のゼミまでに、各自がレポート/論文を仕上げしておく。 第1回 前期スケジュール作成 第2回 4年生のプレゼン 第3～7回 3年生の個人報告10分+質疑応答10分+講評10分×3組 第8～12回 3年生の再報告10分+討論15分+講評5分×3組 第13～14回 再々報告 第15回 後期ゼミのスケジュール作成 第16～21回 4年生の個人or・グループ報告 15分報告+15分討論+5分講評 (小論orレポートを夏休み明けまでにメールで送信しておく) 第22～23回 4年生再報告 第24～27回 グループ報告×3組 第28～29回 不十分なグループのみ再報告 第30回 総括
----------	---

準備学習	新聞の国際面を毎日読みましょう。
履修上の留意点	講義と異なり、ゼミは学生が主体になって運営します。緊張感を失わないで、でも、楽しい、笑顔の絶えないゼミを目指しましょう。
成績評価の方法	報告・討論・レジュメの質、議論に対する貢献などの総合評価です。
教科書/テキスト	小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009年、720円。
参考書	授業中に適宜紹介します。

履修コード	131801	131802
科目名	演習I	演習II
担当者名	村井 良太	

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(講義概要) この授業は、良書を輪読し、議論することを通じて政治への理解を深めることをねらいとしています。そこでは、「世界のなかの日本」という大きな視点に立って、学び、考えてほしいと思います。加えて、読む・書く・話すという基本的な技術を身につけてもらいたいと思います。 (到達目標) この授業の到達目標は、さまざまな教材を読み、レジュメをまとめ、報告し、議論し、レポートを書くなど一通りの技術を身につけるとともに、受講生それぞれの関心にも配慮しながら政治史のある部分について深く学ぶことで政治への理解を高めることです。同じ本を読み、認識や議論を交わす楽しさ、自ら何かを学びレポートにまとめる楽しさを体験して欲しいと思います。
---------------------	---

授業スケジュール	テキストは、論文を用いたり、本を指定したり、受講生とも話し合いながら決めていきます。テーマは日本政治外交史を軸に、おおむね政治・外交・国際関係などに関するものを考えています。はじめは論文など簡単なものを使い、次第に内容の濃いものを読んでいきます。また、前期に合宿と課題レポート、後期に各自の報告とゼミ論文を予定しています。また受講生の意欲によってディベートにも挑戦したいと考えています。
----------	---

準備学習	次の授業に向けて課題が示されている場合には課題を済ませてから授業に臨むこと。平素より様々な本を読み、政治にかかわるニュースに関心を向けて欲しいと思います。
履修上の留意点	演習は、他の講義以上に、教員、学生が一緒になって創りあげていくものです。積極的な参加を求めます。
成績評価の方法	成績は、授業への積極性、報告、発言、レポートなどから総合的に判断されますが、夏と冬のレポートが60%、それ以外の平常点を40%とします。
教科書/テキスト	テキストは話し合いながら決めていきます。
参考書	
その他	授業の方法は、基本的には、毎回、テキストを指定して、それを輪読しながら議論することになります。報告者はレジュメをつくって報告します。報告者以外の学生も、毎回少なくとも一時間程度の発言を求められます。レポートも書き、時にはディベートも行います。

履修コード	131901 131902
科目名	演習I 演習II
担当者名	柳瀬 昇

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この演習は、日本国憲法の解釈論を学ぶことを通じて、法的なものの考え方を養うことを目的とする。</p> <p>憲法は、国家統治の組織・作用の基本法である。特に、今日では、自由主義に基づき人権保障のために権力を抑制することを定めた基本法をいう。この演習では、日本国憲法の解釈論上の基本概念について、徹底的な理解を図る。そのうえで、各自の関心に応じて選択した憲法学の現代的課題について、担当者の指導の下、研究を行う。</p> <p>憲法は、国や地方公共団体等の公務員試験の受験科目であるので、公務員を志望する学生は、憲法を学習する際のペースメーカーとして、この演習を活用することができるであろう。もちろん、研究機関や民間企業等に就職する学生にとっても、この演習では、憲法の解釈論を通じて、人間や社会についての法学的な分析を行うので、さまざまなことを学び、総合的な人間力を高めることができるだろう。いずれにせよ、意欲的な学生の主体的かつ能動的な参加を期待している。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>3年次には、日本国憲法の解釈論について、ソクラティック・メソッドにより、徹底的な理解を求める。</p> <p>前期には、憲法解釈論上の基本概念について、担当者の司会の下、全員で議論を行う。夏合宿では、憲法学の現代的課題を1つ取り上げ、議論を行う（全員参加）。後期は、憲法判例を素材として、憲法解釈論上の諸問題について、担当者の司会の下、全員で議論を行う。</p> <p>4年次には、各自の関心に応じて選択した憲法学の現代的課題について、卒業論文等の制作に取り組むものとする。</p> <p>前期は、公務員試験の受験、民間企業への就職、法科大学院等への進学など、各自の進路に関する活動に取り組んでもらうが、それと並行して個別指導を行う。7月半ばまでには、卒業研究で取り組むテーマを決め、後期は、論文等の構想を逐次報告する。12月第1週に論文を提出する。</p>
----------	--

準備学習	<p>3年次の前期は、あらかじめ示した論点に沿って、後期は、配布された判例を踏まえて、受講者各自による綿密な予習を行ったうえで、演習に臨みたい。4年次は、卒業研究に専心するほか、可能な限り演習に出席されたい。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>演習Iと演習IIは継続して履修することを原則とする。</p> <p>基本的には、毎回、演習に参加を求める。この演習に関する活動（合宿等も含む）を欠席する場合には、正当な理由を示して、担当者に事前に申し出られたい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>演習への参加状況に基づき、総合的に評価する。</p>
---------	-------------------------------

教科書／テキスト	<p>特に指定しない。</p> <p>どの出版社のものでもかまわないので、六法（法令集）は、必ず携行されたい。なお、六法については、第1回の演習で説明する。</p>
----------	--

参考書	<p>第1回の演習で説明する。</p>
-----	---------------------

その他	<p>授業担当者は平成22年度に赴任し、このゼミも募集を始めたばかりである。学期はじめや終わりに懇親会を行ったり、夏などに合宿を行うなど、さまざまな行事を予定している。ゼミ生は、自ら積極的にゼミの活動を企画し、参加してほしい。</p> <p>この演習を通じて、学生には、生涯にわたって付き合えるような仲間づくりをしてほしいと担当者は考えている。</p>
-----	--

履修コード	132211 132212
科目名	演習I 演習II
担当者名	山崎 望

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【授業概要】 演習では、国民国家から成り立つ現代世界の変容を多様な観点から分析します。その上で、世界秩序の変容が生み出す問題にどのように対応するのか、考えていきます。</p> <p>【到達目標】 演習を通じて「あたり前」と思っている事が「あたり前」ではなく、テロ、ナショナリズム、多文化主義、グローバル経済、格差社会、性差別といった「大きな問題」が「他人事」ではなく「自分の問題」である事について学んでもらうことが目的です。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>現代世界の変容を多角的に分析し、世界秩序の変容が生み出す問題にどのように対応するのか、考えていきます。国内政治／国際政治、公／私との区別など既存の区別が揺らぐ中で噴出している多様な問題について、参加者全員で討論をしながら考えます。</p> <p>第1回 イントロダクション 第2回～第8回 グローバル経済と現代社会の変動 グローバル経済、欧州経済危機 国内／国際的な格差社会論、貧困問題、社会の分断、 第9回～第13回 代替的な社会秩序の構想 福祉国家の再編、ベーシックインカム、NPO論、シェアハウジング論 共産主義再考、 第14・第15回 班報告 第16回～第20回 グローバル化と民族・宗教 「9.11」対米同時多発テロ、アメリカ極秩序の動揺と世界秩序の多極化 人道的介入とグローバル・テロリズム ネオ・ナショナリズム 第21回～第27回 代替的な世界秩序の模索 多文化主義論、フェミニズム、地域主義（EU・アジア共同体構想など） 市民社会論、新しい民主主義と国境を越える民主主義 第28～第30回 班報告</p> <p>参加者の希望等に鑑みて、内容については適宜変更する可能性があります。 4年生で卒業論文執筆希望者は別途研究指導をする予定です。</p>
----------	--

準備学習	<p>報告者は事前に課題文献の読破・レジュメ化に加え、資料などを収集することが求められます。他の参加者も事前に課題文献を読み、自分の意見をまとめておくことが求められます。日常的に新聞を読み、インターネットで情報を集めるなど、討論への積極的な参加の準備が求められます。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>毎回、課題とされた文献をしっかりと読んでからゼミに臨んでください。報告者は課題文献の要約レジュメと私見を事前に作成してください（担当者が指導します）討論においては積極的に発言してください。正当な理由なく無断欠席をする方、指導をしても積極的に議論をしない方には単位を与えませんので、留意してがんばってください。 班分けの作業などを行うので、ゼミの第一回目には必ず出席して下さい。 （演習の進め方の詳細もゼミの一回目に説明します）</p>
---------	--

成績評価の方法	平常点（出席・報告・討論への貢献など総合的に評価）。
教科書／テキスト	報告者・参加者と議論の上、適宜指定します。
参考書	他の文献については、ゼミの進行に応じて適宜指定します。
その他	ゼミ形式。毎回報告者を指名するので、報告者は課題文献を要約し、レジュメを作成し、それを報告し、かつ新聞や課題文献以外の資料、本を用いて私見を作成することが求められます。その後、集団で討論を行います。希望があれば個人研究報告やグループ対抗のディベートも行います。参加者の問題関心に応じて、弾力的にゼミを進めます。

履修コード	132511
科目名	演習II
担当者名	浦田 早苗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>これまでわれわれが直面してきた、そしてこれからも直面し続ける様々な政治・社会現象について、純粹かつ鋭い視点から問題を喚起し、幅広い柔軟な発想をもって解決策を導きだせる人材を育成することに主眼をおいている。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	2012年度は共通テーマとして「混乱の世界と日本」とし、内外の重要課題について個人研究及びグループ研究が行う。授業の中で、新聞を利用して毎週の時事問題を取り上げる。
----------	--

準備学習	週間ニュースをA4にまとめ、毎回提出すること。
------	-------------------------

履修上の留意点	オリジナリティ溢れる問題解決策・プランニングの作成にはかなりの時間を費やさなければならぬ。
---------	---

成績評価の方法	発表内容と各自の持つ勉学意欲（発表に対する質問・意見等）によって評価する。
---------	---------------------------------------

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

その他	学内のディベート戦に積極的に参加すること、及び年2回の合宿とゼミ論集の刊行を励行している。
-----	---

履修コード	132011
科目名	演習II
担当者名	田丸 大

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	行政の活動や政策は、世の中の我々の生活とも密接に関わっている。そういった行政活動について、各自でテーマを設定し、発表及び短めの論文を作成してもらおう。可能であれば、2年生の基礎演習、3年生の演習との交流の機会も持ちたい。なるべくグループでの作業を多くし、チームワークを重視する予定である。過去に扱ったテーマは、サマータイムの導入の是非、消費税の引き上げの是非、駅前の放置自転車対策、官僚の天下り、振り込み詐欺などバラエティに富む。
授業スケジュール	前期にテーマの選定と骨子の作成、後期に発表及び論文の作成を行えればと考えている。
準備学習	日頃から、新聞等を通して、世の中のニュースを入手し、それぞれのニュースに対して、肯定的な立場、否定的な立場ともにあり得るのだという点を把握するように努めてください。
履修上の留意点	OB会の準備、2年生や3年生の指導などを願います。
成績評価の方法	平常点による。就職活動期間中については、考慮します。
教科書／テキスト	特に使用しない。
参考書	

履修コード	133051
科目名	演習II
担当者名	富崎 隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	全体としては、現代政治学の理論的・実証研究（特に数量的研究）を「体験すること」を演習の主たる目的としていきたいと思えます。演習の雰囲気自体は、学生諸君と「創りあげていく」ものだと思えます。そして、共同（及び個々に）で研究活動やその他の活動に参加していく中で、「現代政治をみる視点」を養って欲しいと思えます。
授業スケジュール	演習の第1の活動は、3年次における共同研究、4年次における卒業論文の作成です。ここでいう「研究」とは、本を読んでまとめることとは基本的に異なります。それは単なる「お勉強」です。本研究会における研究とは、従来世界中で誰も「知らなかった」「そうであるといえなかった」政治現象を「そうである」と確認・発見する作業です。もちろん、そのためには多くの努力と創造性が必要です。 第2に、具体的な、みなさんの毎週の研究会での中心活動は、当面ディベート（模擬討論）になると思えます。毎週のディベートを通じて、政治学における基本問題に対する理解と問題発見をしてもらいます。研究会でのディベート実施の目的は、政治学の従来の議論の意義と問題点を探ることにあります。しかし、同時にディベートを通じ諸君の論理・実証・思考・討論能力を向上させてもらいたいと思えます。なお、日本の公共政策の在り方を議論することから、ネット資料や、新聞・雑誌の広範な活用が必要となります。 第3に、研究会としてインターカレッジ・セミナーに参加していきたいと思えます。他の参加ゼミとしては、明治大学・小西ゼミ、慶応義塾大学・河野ゼミ、拓殖大学・大谷ゼミ、法政大学・白鳥ゼミなど（予定）があります。このセミナーでは、年1回の共同合宿や講演会、大学対抗のディベート大会などを行なっていく予定です。
準備学習	積極的・主体的準備が望まれます
履修上の留意点	積極的・主体的参加を期待します
成績評価の方法	受講生と相談の上、総合的に評価します
教科書／テキスト	特に定めません
参考書	特に定めません

履修コード	133001
科目名	演習II
担当者名	早川 純貴
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	当演習の基本目的は現代日本政治の特質を理解し、その問題点を探り出すこと、あるいはそれらの問題をいかに克服できるかを考えることである。特に当演習では研究対象を政策形成・施行過程に置く。具体的には、いくつかの政策が成立する背景と過程を明らかにしつつ、それらがいかに施行されたか、その過程でどんな問題が生じたのか、あるいはそれらの政策が日本の経済や社会、国際関係にどのような意味・影響を持ったのかを考察する。
授業スケジュール	当ゼミは前期が統一テーマによるグループ研究であり、後期は学生自身が選択したテーマで個人発表を行い、あわせてゼミ論を執筆してもらう。平成24年度の前期・統一テーマは「事件はどのような政治的対応がなされたか」である。ある事件（社会的事件、政治問題、経済問題、外交問題など）が生じ、それに政治的対応がなされた場合、それはどんな対応だったのか、その対応は妥当であったか、否か。他に選択肢はなかったのか。対応に当たった政治家、官僚は何を考えたのか。あるいは、その対応がその後の社会や政治、経済にどう影響したのか。こうした問題を解き明かすことで日本（中央や地方）の政策決定の本質に迫ることができるであろう。
準備学習	報告者はレジュメを作成し、30分の報告をしなければならない。また質疑応答では、どんな質問にも答えられるよう、事前に十分な準備をする必要がある。報告を聞く側も様々な角度から質問できるよう、報告テーマについて、新聞やインターネットなどで概要を調べておくことが望ましい。
履修上の留意点	当演習は法律学科の学生にも開講する。政治学科の学生はもとより、政策の形成・執行に関心のある法律学科学生諸君の参加を大いに歓迎する。また当演習は春と夏に合宿を行うが、ここではディベートやパネル・ディスカッションなど、通常の演習ではあまりできないことを企画している。
成績評価の方法	個人々の発表・報告の充実度、レポート・ゼミ論の内容などを総合的に判断して評価する。
教科書／テキスト	教科書は使用しない。参考文献は演習の過程で随時紹介する。
参考書	

履修コード	132201	132202
科目名	演習I	演習II
担当者名	深澤	弘樹

授業概要/到達目標 (ねらい) (授業概要)
この演習では、新聞、テレビ、ラジオなどのマス・コミュニケーションはもちろん、インターネット、携帯電話などのコミュニケーションメディアも含め、メディア全体を研究対象とする。メディア研究には、制度や産業としてのメディア組織の分析(送り手分析)、メディアから発せられるメッセージ分析のほか、受け手研究など様々な分析手法が存在する。変化が著しいメディア社会においては、旧メディアの行方や携帯コミュニケーションによる人間関係の変化など、様々な観点からの分析も可能である。この演習では、文献の講読やゼミ生同士の議論を通して、社会生活を規定するメディアに対して様々な角度からアプローチする。

(到達目標)
この演習では、メディア研究の基礎知識や分析の枠組みを学び、実際の事象を例に分析を行う。それによってメディア・リテラシー(メディアを読み解く力)を身につけることを目標とする。4年次にはゼミ論を作成してもらうつもりだが、3年次には、それに向けたメディア・コミュニケーションの基礎概念を理解することを最大の目標としたい。また、ゼミ活動では積極的な討論、報告を望む。これにより、社会人基礎力の養成にも力を注ぎたい。

授業スケジュール 進め方については、受講生と相談して決めるつもりだが、以下のようなスケジュールを考えている。

前期はメディア・コミュニケーションの基礎文献の輪読を行い、分担を決めて報告してもらう。これにより、各自の関心を絞り込む。また、報告にもついでディスカッションを行い、メディアについての理解を深めていく。
後期は、それぞれの問題関心に沿っていくつかのグループに分け(ジャーナリズム、スポーツ、バラエティ、出版、インターネット関連など)、グループごとに研究を進める。その都度、ゼミ内で報告してもらうことでプレゼンテーション力をつけることにもつなげたい。最終的にはグループ内で議論し、まとめた内容を報告書として仕上げる。

準備学習 新聞やテレビのニュース番組のチェックを怠らず、批判的な目を持ってメディアに接すること。世の中の動きに敏感であってほしい。

履修上の留意点 ゼミ活動はゼミ生の積極的な参加によって活性化する。ゼミ生相互で切磋琢磨し高め合う気持ちを持って臨んでもらいたい。

成績評価の方法 出席やゼミ内での報告、討論への参加度合い、レポートなどを判断材料として総合的に評価する。

教科書/テキスト メディア・コミュニケーションの基礎概念、分析手法を解説した文献を何点か挙げておく。

早川善治郎編著『新版 概説マス・コミュニケーション』学文社、3300円、ISBN978-4-7620-2055-1
吉見俊哉『メディア文化論』有斐閣、1800円、ISBN4-641-12190-7
伊藤守編著『よくわかるメディア・スタディーズ』ミネルヴァ書房、2500円、ISBN978-4-623-05206-6
蒲島郁夫・竹下俊郎・芹川洋一『メディアと政治 改訂版』有斐閣、1900円、ISBN978-4-641-12423-3

参考書 ゼミ生の関心に沿って適宜指示する。

履修コード	133601
科目名	外交史
担当者名	村井 良太

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(講義概要) 現在の国際政治は混迷と模索の中にあります。そのような中で、過去の経験から学び、未来への糧としようとするのが外交史です。日本のような民主主義国家では、外交は国民と離れては成り立ちません。また、相互依存の時代にあつて、外交は生活の中にまで深い影響を及ぼしています。本講義を通じて、社会人の一素養としての外交理解を身につけて欲しいと思います。なお外交への理解は政治への理解を離れては困難です。外交史に政治史を補いながら講義していきます。 (到達目標) 本年度の「外交史」では、戦前・戦中の遺産を踏まえた上で、第二次世界大戦後の日本外交史を中心に講義します。この授業の到達目標は、戦前・戦中の遺産について理解し、敗戦から冷戦が終息に向かう1980年代までの日本政治外交史について基本的な知識を習得することです。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 帝国日本の遺産 (1) 3. 帝国日本の遺産 (2) 4. 帝国日本の遺産 (3) 5. 敗戦と占領 (1) 6. 敗戦と占領 (2) 7. 占領改革 (1) 8. 占領改革 (2) 9. 吉田政権と講和 (1) 10. 吉田政権と講和 (2) 11. 吉田政権と講和 (3) 12. 鳩山政権と55年体制の成立 (1) 13. 鳩山政権と55年体制の成立 (2) 14. 鳩山政権と55年体制の成立 (3) 15. 前期のまとめ 16. 岸政権と日米安保条約の改定 (1) 17. 岸政権と日米安保条約の改定 (2) 18. 岸政権と日米安保条約の改定 (3) 19. 池田政権と高度経済成長 (1) 20. 池田政権と高度経済成長 (2) 21. 池田政権と高度経済成長 (3) 22. 佐藤政権と沖縄返還 (1) 23. 佐藤政権と沖縄返還 (2) 24. 佐藤政権と沖縄返還 (3) 25. 危機の70年代 (1) 26. 危機の70年代 (2) 27. 危機の70年代 (3) 28. 80年代の日本 (1) 29. 80年代の日本 (2) 30. まとめ
----------	---

準備学習	早い時期に一度テキストを終わりまで読み通してください。
履修上の留意点	履修する学生には、出席はもとより、自学自習に基づく積極的な授業参加を求めます。
成績評価の方法	定期試験70%、中間試験30%とし、平常点は付加的に用います。初回の授業で詳しい説明を受けてください。
教科書／テキスト	五百頭旗真編『戦後日本外交史〔第3版〕』有斐閣、税別2000円、ISBN:9784641124073。
参考書	参考図書は、講義の中で随時紹介していきます。

履修コード	130601 130602
科目名	外書講読I (英書) 外書講読II (英書)
担当者名	大山 礼子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	英語文献を原語で読むことによって、日本語訳を読んでいるだけでは読み流してしまいがちな論理の流れをきちんと把握し、内容のより深い理解をめざします。辞書の引き方を学び、平易な英語文献であれば、自分で内容を理解し、勉強や仕事に役立てられるようになることが目標です。
---------------------	---

授業スケジュール	1年を通じて、ある程度まとまった量の英語文献を読むことを目標にします。 (1～15) 比較的平易な新聞記事等を読みます。 (16～30) 政治学など、社会科学の文献に挑戦します。
----------	---

準備学習	どのような内容の文献を読みたいのか、事前に考えておいてください。
------	----------------------------------

履修上の留意点	少人数のゼミ形式になるはずなので、予習を欠かさず、積極的に授業に参加することが最低限の履修条件です。 履修者には、必ず電子辞書ではなく中型以上の紙媒体の辞書を使い、徹底的に辞書を引くことが求められます。スタート時点での英語力は問いませんが、中学・高校の英語教科書に掲載されているような英文ではなく、実際にネイティブの人が読んでいる英語の文章に挑戦するわけですから、それなりの覚悟は必要です。 教材のダウンロードや翻訳の提出にはYeStudyを利用します。
---------	---

成績評価の方法	平常点によります (試験がないというのは、それだけ日常の努力が問われるということです)。
---------	--

教科書/テキスト	履修者と相談のうえ確定します。
----------	-----------------

参考書	適宜指示します。
-----	----------

その他	授業開始時にYeStudyの利用方法について案内します。
-----	------------------------------

履修コード	130501 130502
科目名	外書講読I (英書) 外書講読II (英書)
担当者名	三竹 直哉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	英語で政治学を勉強します。また、興味がある内容を通じて、中学校以来せっかくやってきた英語を鍛えます。 前年度までの履修者の感想等をYeStudyに載せてありますので、必ず参考にしてください。最新の情報はYeStudyで確認してください。
---------------------	---

授業スケジュール	参加者の希望や人数によって、内容もやり方も変わってきます。 比較政治学に関連した内容を原則としますので、比較政治学の授業内容をよく確認して参考にしてください。比較政治学を履修済みか並行履修していることが望ましいです。比較政治学を未履修でも履修できますが、その場合難しくなる可能性があることを覚悟してください。 原則として〈日本語訳がある〉英語文献を每週少しづつ各自で読み進め、授業でわからないところや重要なポイントを討論するかたちで授業を行います。 扱う文献は、参加者の問題関心にあわせて選びますので、授業開始後に決めます。 2011年度に扱った文献は、イギリスのThe Economist紙の日本特集、アフリカ関係の本、女性ノーベル賞受賞者たちのスピーチ (女性の参加者が多かったので取りあげました)、村上春樹のスピーチ、マイクロファイナンス、KIVAのサイトの英文などです。
----------	---

スケジュールは下記の通りです。

第1週から第3週 英文記事などを使った速読練習
第4週以降 文献についての英語と内容についての討論

準備学習	毎回一定程度の英文を予習する必要があります。日本語訳があるものを使う予定ですので、「暗号解読」のような読解作業ではなく、日本語訳で内容を理解したうえでたくさん音読することをオススメします。また、予習範囲の単語は必ず指示した形式でノートを作り、覚えてくる必要があります。
------	--

履修上の留意点	自分の将来のために真剣に勉強する人向けの授業です。 英語学習上のコツなどは授業を通じてたくさんお教えしますので、英語力向上に大いに役に立つことと思います。 ただし、あくまでも政治学科の専門科目です。「英語の授業」ではありません。政治学科の3年次もしくは4年次生として、当然持っているべき知識は前提として授業を進めます。 授業に関連する新聞記事などを課題として指定することがあります。授業で扱った事柄について自ら調べたり勉強したりする課題も出る可能性があります。
---------	---

成績評価の方法	原則として、単語や基礎知識を中心とした確認クイズの平均点によります。確認クイズの成績が不十分な場合、欠席が多くなった場合、学期末にテストを受ける必要があります。
---------	--

教科書/テキスト	買わなければならないものを指定する予定はありませんが、場合によっては邦訳を買ったほうが勉強がしやすいかもしれません。
----------	--

参考書	毎回辞書を持参してください。学習用英英辞典の“Cobuild English Dictionary”はオススメです。
-----	--

その他	最新の情報はYeStudyで確認してください。
-----	-------------------------

履修コード	127301
科目名	環境政策
担当者名	横田 匡紀

授業概要/
到達目標 (ねらい)

環境問題は現代世界の将来にかかわります。従って環境政策は将来の世代の生活にかかわる選択をする営みといえましょう。この講義では、多様化、複雑化、グローバル化している環境問題の状況を踏まえて、環境政策のメカニズムを理解していきます。日本、世界各国、国際社会における環境政策の具体例に言及しながら、行政の視点、企業の視点、市民の視点が交錯する諸相を明らかにします。公務員志望者、マスコミや民間企業志望者あるいは環境問題関連の資格試験なども念頭に置き、有益な情報の提供をこころがけたい。また現代社会の一市民として環境政策をみる視座、問題解決への視座を育成することが期待されます。

授業スケジュール

*前期は「グローバル化と環境問題への対応」と題して、環境政策がグローバルな性質を持つことを理解します。後期は「持続可能な社会のガバナンス」と題して環境問題に対応する社会のあり方を考えます。

前期テーマ「グローバル化と環境問題への対応」

序-将来の世代のための選択：政策科学の視点(2-4)

- ・環境政策の射程と担い手-ローカルからグローバルへ
- ・環境政策のキーワード
- ・持続可能な発展 予防原則 共通だが差異のある責任原則 等
- 1. ストックホルムからヨハネスブルクへ(5-9)
 - ・持続可能な発展をめぐるガバナンスの軌跡
 - ・環境のグローバル化
 - ・国連人間環境会議と地球サミット
 - ・ヨハネスブルク・サミットと制度改革
 - ・2012年に向けた動向
- 2. 新しい政策課題(10-15)
 - ・「人間の安全保障」と環境問題
 - ・淡水資源のガバナンス
 - ・ジェンダー/人権と環境問題
 - ・反グローバル化と環境問題

後期テーマ「持続可能な社会のガバナンス」

序-持続可能な社会のキーワード(16-18)

- ガバナンス コモンズ 社会関係資本と環境 政策手法の変質 等
- 1. 持続可能な社会の政策課題(19-22)
 - ・オゾン層保護
 - ・再生可能エネルギー
 - ・生物多様性
 - ・日本の環境政策 等
- 2. 政策統合の諸相(23-26)
 - ・貿易と環境
 - ・エコツーリズム
 - ・持続可能な交通政策
 - ・欧州の環境政策 等
- 3. ポスト京都議定書と日本の課題(27-30)
 - ・地球温暖化のメカニズム
 - ・ポスト京都議定書の国際制度
 - ・京都メカニズム
 - ・環境政策の展望

*受講生の関心や授業の進行度に応じて優先順位を変更したり、トピックを選別することがある。

*時事問題を随時とりあげる予定である。

*新聞記事やビデオなどを多用し、理解の深化に努める予定である。

準備学習

講義計画の各項目について理解できるように努める

履修上の留意点

講義中は私語厳禁とする。
出席点はないが、出席しないことで生じる不利益は各自の責任となることに注意してください。

成績評価の方法

試験の点数を基本とし任意のレポートや小テスト、平常点なども考慮します。

教科書/テキスト

参考書

宮脇・庄司編『新グローバル公共政策』(晃洋書房)
横田匡紀『地球環境政策過程』(ミネルヴァ書房)(第2刷)

その他

環境問題に少しでも関心を持つ学生の履修を歓迎します。

履修コード	131201
科目名	基礎演習
担当者名	内海 麻利

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本基礎演習は、都市政策、地方行政、まちづくりに関する基礎的な知識を養い、受講者が持つ問題意識を議論により引き出すとともに、調査手法や分析力、理論を構築し発表する基礎的能力を身につけることを目的としている。
---------------------	--

授業スケジュール	前期は、各人の問題意識に応じて情報収集を行うとともに、基礎的な知見を学び、各人あるいは各グループが独自のテーマ設定を行う。後期は、各自の研究テーマについて調査と発表を繰り返し、その内容について全員で議論することによって、研究発表の方法や研究内容・問題点の所在を明らかにし、3年次からの本格的な演習を受講する能力を身につけたい。
----------	---

準備学習	各人のテーマ、スケジュールに沿って、調査、検討を進める。
履修上の留意点	ゼミの運営自体も学生の主体性を重視するため、積極的なゼミ活動への参加が望まれる。
成績評価の方法	出席状況、各自の報告及び発表の充実度、ゼミに対する意欲などを総合的に評価する。
教科書/テキスト	授業中に適宜紹介する。
参考書	授業中に適宜紹介する。

履修コード	131611
科目名	基礎演習
担当者名	浦田 早苗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	これまでわれわれが直面してきた、そしてこれからも直面し続ける様々な政治・社会現象について、純粹かつ鋭い視点から問題を喚起し、幅広い柔軟な発想をもって解決策を導きだせる人材を育成することに主眼をおいている。
---------------------	--

授業スケジュール	2012年度は共通テーマとして「混乱の世界と日本」とし、内外の重要課題について個人研究及びグループ研究を行う。
----------	---

準備学習	週間ニュースをA4にまとめ、毎回提出すること。
履修上の留意点	オリジナリティ溢れる問題解決策・プランニングの作成にはかなりの時間を費やさなければならない。授業の中で、新聞を利用して毎週の時事問題を取り上げる。
成績評価の方法	発表内容と各自の持つ勉学意欲（発表に対する質問・意見等）によって評価する。
教科書/テキスト	
参考書	
その他	研究発表では、学生諸君各自が興味あるテーマを自由に選択することができる。年3～4回のコンパと夏合宿が7月にある。

履修コード	131621
科目名	基礎演習
担当者名	大山 礼子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	基礎演習の目的は、政治学を学び、政治への理解を深めるうえでの基礎的な技術を身につけることにあります。自分で問題を発見し、それについて調べ、文章にまとめ、ほかの人にわかってもらえるように発表する、という一連の過程を経験し、スキルアップをめざしてください。
---------------------	--

授業スケジュール	(1～15) 毎週新聞切り抜きを作り、それを素材に要約の仕方、関連項目の調べ方などを学習します。また、記事の内容について、討論します。図書館ツアーを実施し、多くの資料の使いこなし方も学びます。 (16～30) 政治学関係の本を全員で読み、レジュメの作り方などを学びます。
----------	--

準備学習	基礎演習を通じてどのようなことを身につけたいのか、各自の目標を設定してください。
履修上の留意点	演習は受講する学生が中心となってつくっていくものです。受動的な態度では出席する意味がありませんので、積極的な参加を求めます。こちらからの連絡や学生同士の意見交換の場として、YeStudyを利用します。
成績評価の方法	平常点によります。欠席、遅刻の多い者は成績評価の対象としないので注意してください。
教科書/テキスト	全員で読む本や論文は、参加者と話し合って決定します。
参考書	その都度紹介します。
その他	授業開始時にYeStudyの利用方法について案内します。

履修コード	131001
科目名	基礎演習
担当者名	塩入 みほも
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	三、四年次においていずれかのゼミに所属を希望する者の為に、演習を行える基礎的能力を修得させることを狙います。
授業スケジュール	毎回各自に特定のテーマについて研究・報告をしてもらい、報告後には全員でディスカッションを行います。後期は、ディベートや模擬裁判の方式を取り入れていきます。テーマは、主として行政法（国家と国民の関係を規制する法）に関する問題を取り上げます。具体的テーマの割り当ては、学生各自の希望を踏まえて決定する予定です。
準備学習	ディベートやディスカッションはもとより、報告形式であっても質疑応答等全員の発言が求められる授業であるため、予定された課題について毎回必ず予習しておくことが必要です。
履修上の留意点	国家・地方公務員、警察官・消防士、行政書士等の国家試験の受験を考えている学生には、特に有意義であると思われます。
成績評価の方法	成績評価は、平常点（出席・報告・発言回数等）により行います。
教科書／テキスト	特に用いません。
参考書	適宜必要により指示します。
その他	授業はゼミナール形式で行います。研究・調査方法、報告の仕方、レジュメの書き方等のノウハウは、初回に指導すると共に、その都度必要に応じて教示します。

履修コード	131631
科目名	基礎演習
担当者名	田丸 大
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	行政の活動や政策は、世の中の我々の生活とも密接に関わっている。そういった行政活動について、ディベートや研究発表を行ってもらおう。なるべくグループでの作業を多くし、チームワークを重視する予定である。過去に扱ったテーマは、サマータイムの導入の是非、消費税の引き上げの是非、駅前の放置自転車対策、成人年齢の引き下げなどである。自分たちの興味を持った事柄を自主的に調べ、それをもとに議論を深めて欲しい。
授業スケジュール	年間の演習を5回ずつ程度に分けて、ディベートや研究発表を繰り返していきたい。例えば、夏休み前にディベートを2回くらい、2学期には、ディベート1回と研究発表1回くらいできればと考えている。
準備学習	日頃から、新聞等を通して、世の中のニュースに敏感であるようにしてください。申し込みに先立って、政治学科のディベート大会があれば、必ず観戦してください。
履修上の留意点	教員は、ディベートの資料を配りDVDを見せて多少の解説を加えたりするだけで、細かいことに関してはほとんど指示を出さず、「いつまでに何を準備してくれ」程度しか言いません。したがって、ディベートやグループ研究を行う中で、グループごとに時間管理を行い、基礎演習以外の時間に自主的に学生が集まって作業をすることが非常に多くなります。そのような時間外の活動についても、できるだけ出席点に反映するようにします。 講義の場合と比べて、教員の指導が少なく物足りないと感じるかもしれませんが、このように自分たちで作業を行いチームで成果を出すことを通じて、結果的に、大学生の間に、アルバイトやサークル以外に勉強つながりの友人も作り、グループでの作業を通じてチームで物事を達成する充実感を味わってほしいというのが、担当教官の願いです。 また、未成年が大半であるため、コンパは行いません。合宿は未定ですが、行う場合には、正規の授業の理由を除いては、全員参加とします。
成績評価の方法	平常点による。
教科書／テキスト	特に使用しない。
参考書	

履修コード	131501
科目名	基礎演習
担当者名	富崎 隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	3年次からの演習に向け、様々な政治課題に関する問題意識、政治学的分析をおこなうための資料収集能力、論理構築能力、プレゼンテーション能力等を養うことを目的とします。 具体的には、前期にグループ対抗のディベートを中心におこない、後期に班毎の共同研究リサーチとプレゼンテーションを中心におこなっていききたいと思います
---------------------	--

授業スケジュール	日本および世界で議論されている具体的政策課題をディベートのテーマとして取り上げます。ディベートとは、ある問題を取り上げ、是非の2チームに分かれ一定の形式に沿って、一種のゲームのように(勝敗を決める形で)討論をおこなうものです。基礎演習での、ディベート実施の目的は、具体的政策課題を探りあげることで、広く政治問題への問題意識をもつと同時に、ディベートを通じ諸君の論理・実証・思考・討論能力を向上させてもらいたいと思います。 前期議論した政策問題を中心に統一テーマを決め、後期に班毎にリサーチを行い、プレゼンテーションをおこなってもらいます。さらに、全体で論集をつくることを目標としたいと思います。 なお、日本の公共政策の在り方を議論することから、ネット資料や、新聞・雑誌の広範な活用が必要となります。 受講生の希望や場合によっては、3・4年の演習にも参加してもらいたいと思います。
----------	--

準備学習	演習への積極的主体的準備が望まれます
------	--------------------

履修上の留意点	積極的・主体的参加を期待したいと思います
---------	----------------------

成績評価の方法	受講生と相談の上、総合的に評価します
---------	--------------------

教科書/テキスト	特に定めません
----------	---------

参考書	特に定めません
-----	---------

履修コード	131301
科目名	基礎演習
担当者名	中野 裕二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本基礎演習の目標は次の3点です。 ・本を読むことに慣れる ・自らの主張を説得的に述べる方法を身につける ・報告の仕方、討論の仕方を身につける
---------------------	---

本基礎演習では、政治学またはひろく社会科学に関連する本を読みます。事前に分担を決め、報告者は、担当章を自分なりに要約・再構成し、発表します。発表とその後の質疑応答を通して、その部分を読んでいない人にも内容の要点が理解できるようにすることが報告者の目標となります。

具体的には、日本の政治や社会問題を扱った本を読みます。日本の政治や社会において、今日、何が中心的に議論されているのか、その論点は何か、などを議論します。日本の政治に詳しくなるだけでなく、筆者が自分の主張をより説得的に表現する手法として、どのような「道具立て」をしているのかを読み取ることを、さらなる目標としたいと思います。

授業スケジュール	参考のために、昨年度に読んだ本を下に紹介します。新しく出版される本もあるでしょうから、実際に何を読むかは受講生との相談により決めます。
----------	---

新藤宗幸『新版 行政ってなんだろう』(岩波ジュニア新書)
砂田一郎『オバマは何を変えるか』(岩波新書)
湯浅誠『反貧困——「すべり台社会」からの脱出』(岩波新書)
宇野重規『<私>時代のデモクラシー』(岩波新書)
山口二郎『政治のしくみがわかる本』(岩波ジュニア新書)

準備学習	報告担当者以外も毎回テキストを読むこと。
------	----------------------

履修上の留意点	本を読むゼミです。グループ研究やディベートはやりません。 読書に関して、私と同じ考えを持つ人の言葉を書いておきます。この考えに賛同する人の受講を期待します。 「インターネットなどによる情報収集と読書とはまるで性格の違うことなのである。私たちは偉大な作家や思想家の書いた一冊の本を読み通すことによって、深く感じることを学ぶのであって、情報を収集しているだけではないのだ」(木田元『猿飛佐助からハイデガーへ』岩波書店、2003年、「はじめに」より)
---------	--

成績評価の方法	毎回の出席、報告内容、発言回数・内容などを総合的に判断し、評価します。
---------	-------------------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	130801
科目名	基礎演習
担当者名	早川 純貴

授業概要/ 到達目標（ねらい）	基礎演習は3年次からの演習に向け、政治学の基礎的知識を養い、多面的な観察力と深い分析力、さらには資料収集方法を身につけることを目的としている。とりわけ当演習ではこうした能力を、グループ対抗のディベートおよび班毎のリサーチ（フィールドワークを含む）を通して涵養していきたい。
授業スケジュール	ディベートで扱うテーマは日本の政治・社会・経済の諸問題（特に賛否両論が際立つ問題）に限定し、それぞれのテーマについて二つのグループが是側・非側の立場からアプローチしていく。ディベートは勉強の目標であり総括でもある。リサーチは地方政治が抱えるさまざまな課題について、それぞれ担当の班がフィールドワークを行い、その成果を発表する。また担当したリサーチについてはレポートを提出をしてもらう。ディベートは前・後期それぞれ2回ずつ行う。
準備学習	とりわけディベートについてはかなりの準備が必要である。関連書籍、新聞記事、白書、インターネットHPなどを利用しつつ、ディベートに備えて欲しい。
履修上の留意点	当基礎演習で鍛えて欲しいのは、自分の考えをきちんと言葉で表現できる力、あるいは自分たちの主張を効果的に相手（聞き手）に伝え、十分に納得させる力である。そのためには学生諸君の議論とフィールドワークへの積極的参加を求めたい。
成績評価の方法	議論や調査への参加度、発表の充実度、レポートの内容などを総合して評価する。
教科書／テキスト	教科書は用いない。参考文献は演習の過程で随時紹介する。
参考書	

履修コード	130901
科目名	基礎演習
担当者名	三竹 直哉

授業概要/ 到達目標（ねらい）	やる気がある参加者で、政治学科らしい大学レベルの勉強をするための授業です。最新の情報はYeStudyで確認してください。
授業スケジュール	基礎演習は毎年顔ぶれによってやるのが全然違います。参加者のニーズに合わせた指導をします。その際、将来のための目標設定や自己分析、スケジュール管理、勉強の仕方、整理の仕方などについて、細かいアドバイスをします。 新聞を読むことは政治学科における勉強の基本ですので、必ず五大紙のいずれかを読み、サブゼミ等で毎週記事を材料に議論します。 扱う内容も参加者の関心に応じますが、政治学概論や比較政治学の内容を深めるものが主になります。ふだんから新聞の国際面を読んで興味をもてる人、世界史が面白いと思えた人など、外国のことに興味関心がある人のほうがこの基礎演習には向いていると思います。
準備学習	各自の希望に応じて取り組む課題を出します。期限も自分で設定します。
履修上の留意点	YeStudy内にある基礎演習と演習の説明も〈必ず〉よく読んでください。 三竹担当の基礎演習に入った人は、二年次に必ず比較政治学を履修登録する必要があります。比較政治学のところにある説明も読んでおいたほうがよいでしょう。 応募前にメールで相談することをすすめます。
成績評価の方法	学期末に行う自己評価プレゼンにより、100満点で自己評価します。
教科書／テキスト	その都度指示します。一冊から二冊は買うものがある可能性があります。
参考書	
その他	mitake@komazawa-u.ac.jp 最新の情報はYeStudyで確認してください。

履修コード	131651
科目名	基礎演習
担当者名	三船 恵美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代の国際関係について自分自身の視角を形成し、それを報告しながら討論することを学ぶのが、本ゼミの目的です。複数の学生全員が同じ考え方をすることはあり得ません。異なる考え方の学生が集まり、異なる価値観に対して排他的になることなく、しかも単なる「仲良し関係」では終わらない知的緊張関係の中で、対立するところ是对立し、評価できるところは評価しあうことを学びましょう。自分の意見を単純に主張するだけではゼミに参加する意義がありません。議論は言い争うことと本質的に異質なものです。議論することで自分の意見を主張したり異なる意見を受け入れ、自分の考え方を鍛えるためにゼミは存在します。
---------------------	--

授業スケジュール	前期：第一回目のゼミで、ゼミ生自身がスケジュールをつくりあげることからはじめましょう。最初の一ヶ月くらいは、大学でのレポートの書き方、ゼミの進め方、司会や報告の方法などについて、担当教授が作成するオリジナル教材を使いながら講義します。その後は、ゼミ生が中心となってゼミを作り上げていきます。 後期：専門ゼミへ向かって、各自の研究関心に基づき研究成果を報告してもらいます。
----------	--

準備学習	新聞の国際面を毎日読みましょう。
履修上の留意点	国際関係論ゼミの受講生には、基本的な概念を取得してほしいので、「国際関係論」の履修を勧めます。講義と異なり、ゼミは学生が主体になって運営します。緊張感を失わないで、でも、楽しい、笑顔の絶えないゼミを目指しましょう。
成績評価の方法	出席や発言などの総合評価です。
教科書/テキスト	小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009年、720円。
参考書	適宜紹介します。

履修コード	131641
科目名	基礎演習
担当者名	村井 良太

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(講義概要) この講義は、政治学を学び、政治への理解を深める上での基盤的な技術を身につけることをねらいとしています。教材を読み、レジュメをまとめ、報告し、議論し、レポートを書くなど一通りのことをします。 (到達目標) 教材には、日本政治外交史を始め、現代政治、さらに、アメリカやアジアなど他の国々のものも使って、「世界のなかの日本」という広い視座を身につけてもらいたいと思います。この授業の到達目標は、さまざまな教材を読み、レジュメをまとめ、報告し、議論し、レポートを書くなど一通りの実践を重ねることで基盤的な技術を身につけ、より広く深く政治について自ら学ぶ準備とすることです。
---------------------	--

授業スケジュール	前期は、図書館ツアーや、簡単な論文や新書などを使って教材の読み方やレジュメのまとめ方、報告やコメントの仕方、レポートの書き方などを広範に学びます。後期は、輪読とともにレポート発表などを行い、最後に簡単なゼミ・レポートを提出してもらいます。なお受講生と相談しながら、合宿やディベートなど様々なことに挑戦していきたいと思います。
----------	--

準備学習	次回の授業に向けて課題が示されている場合にはその課題を済ませてから授業に臨むこと。なお平素より政治にかかわるニュースに関心を向けて欲しい。
履修上の留意点	積極的な参加を求めます。
成績評価の方法	成績は、授業への積極性、報告、発言、レポートなどから総合的に判断しますが、夏と冬のレポートが60%、それ以外の平常点を40%とします。
教科書/テキスト	テキストはこちらから指定するものもありますが、おおむね話し合いながら決めていきます。
参考書	
その他	授業の方法は、基本的には、毎回、テキストを指定して、輪読しながら議論することになります。報告者はレジュメをつくって報告します。それ以外の学生も、毎回、少なくとも一分間程度の発言を求められます。他にもいろいろと取り入れていきたいと思いますので、一緒にゼミを創りあげていきましょう。

履修コード	131401
科目名	基礎演習
担当者名	柳瀬 昇
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習は、社会のさまざまな事象について調査し、現状を分析し、みずから問題を発見し、解決するための政策を提言しうるための基礎的な調査方法・思考方法・発表方法等を養うことを目的とする。
授業スケジュール	前期の前半は、新聞の読み方、図書館での情報の集め方、インターネットの利用方法、ハンドアウトの作り方、プレゼンテーションの方法などについて、実習する。前期の後半は、各自が関心をもった政策分野について、グループワークの班（1から3名程度）をつくり、現状を調査し、口頭でのプレゼンテーションを行う。 後期の前半は、その政策分野について、問題の所在を明らかにしたうえで、政策提言を行う内容のプレゼンテーションを行う。後期の半ばで、レポートの書き方について解説した後、発表会で他のゼミ生や授業担当者から示された意見に基づき、調査と検討を重ねて、後期の後半に、再び政策提言の口頭でプレゼンテーションを行う。最後に、レポートを文書で作成し、提出する。 授業担当者は憲法を専攻としているが、広く国家や社会に関連する政策課題であれば、各自が自由にテーマとして選択してよい。
準備学習	各自の関心をもっている政策課題について、授業時間外にグループワークを行うことが必須となる。
履修上の留意点	基本的には、毎回、演習に参加を求める。この演習に関する活動を欠席する場合には、正当な理由を示して、担当者に事前に申し出られたい。
成績評価の方法	演習への参加状況に基づき、総合的に評価する。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	各回の内容に関連して、必要に応じて、適宜、演習の中で紹介する。
その他	授業担当者は、このゼミを本年度初めて募集する。学期はじめや終わりに懇親会を行ったり、夏などに合宿を行うなど、さまざまな行事を予定している。ゼミ生は、自ら積極的にゼミの活動を企画し、参加してほしい。 この演習を通じて、学生には、生涯にわたって付き合えるような仲間づくりをしてほしいと担当者は考えている。

履修コード	131601
科目名	基礎演習
担当者名	山崎 望

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【授業概要】 文献を中心とした、少人数による議論を通じて、文献や資料の収集・分析方法、報告（プレゼンテーション）の技術、レジュメ（要約）の作り方、インターネットの利用など実践的なスキルを習得するとともに、各自の問題意識を形成します。</p> <p>【到達目標】 三年次からの演習に向けて、基礎的な知識の習得と問題意識の形成を促します。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>現代世界の変容を多角的に分析し、世界秩序の変容が生み出す問題にどのように対応するか、考えていきます。国内政治／国際政治、公／私の違いなど既存の区別が揺らぐ中で噴出してきている多様な問題について、参加者全員で議論をしながら考えます。</p> <p>(第1回) イントロダクション・説明 (第2回～第7回) グローバル経済と社会的包摂／社会的排除 福祉国家論、格差社会論、欧州経済危機、太平洋の経済秩序 代替的な社会像の模索 (ベーシックインカム論、NPO論、社会運動論など)</p> <p>(第8回～第11回) フェミニズム 家族の変容、性別役割分業の変容、ケア論、シェアハウジング</p> <p>(第12回～第15回) 班報告 (第16回～第20回) グローバル化と民族・宗教 ナショナリズム、多文化主義、移民・難民問題、地域主義</p> <p>(第21回～第26回) グローバル化と世界秩序の変容 主権国家秩序の変容、人道的介入、国境を超える政治 グローバルなテロリズム、内戦</p> <p>(第27回～第30回) 班報告 履修者の問題意識に照らして、 チームを作り、討論を行いたいと思います。</p>
----------	---

準備学習	<p>報告者は課題文献を読破し、資料などを集めることが求められます。それ以外の方も課題文献の読破や、自分の意見を事前に考えておくことが求められます。日常的に新聞は読み、加えてネットで情報は集めてください。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>文献や資料が指定された場合は、課題文献・資料を読んでからゼミに臨んでください。報告者は課題文献の要約レジュメと私見を事前に作成してください（担当者が指導します）。討論においては積極的に発言してください。詳細は初回に説明するので、履修希望者は必ず出席してください。「現代政治理論」を履修していることが望ましいです。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>基本的には平常点で評価します。（出席・報告・討論への貢献など総合的に評価）。</p>
---------	---

教科書／テキスト	<p>特に指定しませんが、文献については、履修者と相談の上指定します。</p>
----------	---

参考書	<p>特に無し。</p>
-----	--------------

その他	<p>新書や論文の輪読と議論という、ゼミ形式を予定しています。毎回報告者を指名するので、報告者は自分の関心のあるテーマに即した課題文献（こちらからも提示します）を要約・報告し、自分で調べたことを付け加え、私見を述べ論点を提起してください。その後参加者グループ単位で討論します。希望があれば、特定のテーマについてグループ研究やグループ対抗のディベートも行います。</p>
-----	--

履修コード	127001
科目名	行政学
担当者名	田丸 大

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	例えば、ゴミの収集、建物や食品の安全性のチェック、今般の震災や原発事故対応、さらには金融危機における経済政策など、我々の日常生活は「行政」と密接に関わっている。そういった行政の活動や政策とはどのようなものか、また具体的にどのように世の中や我々の生活に関わっているのかといった点について理解を深めることが講義の狙いである。ニュース番組を初めとした視聴覚教材も時々用いながら、行政学の理論(考え方・法則)と実際の事例(ニュースなど)との関連に特に注意を払う予定である。
---------------------	--

授業スケジュール	行政学とは(1~6. ガイダンスを含む)行政・政策を見る視点(7~10)、行政の運営・政策の立案と民意の反映(11~13)、国家観の変遷(14~17)行政国家、福祉国家(18~22)行政改革(23~27)民営化と規制緩和(28~29)地方自治と地方分権改革(30)。()内の数字は、講義の大まかな回数です。
----------	--

準備学習	新聞、ニュース番組をできるだけ毎日見て、教科書に書いてある行政理論と、現実の行政・政策の動きを結びつけて考える練習を積んでください。
------	--

履修上の留意点	現実の行政や政策と理論を結びつけて考えることが狙いであるので、新聞などに目を通す習慣をつけて欲しい。
---------	--

成績評価の方法	学年末試験1回と、授業内の理解度確認のための課題提出(その回数や方法は、受講生の人数や教場によって決めるので、4月の開講時なるべく速やかに具体的に示します。)によります。また、ニュース検定試験2級の合格をもって、出席点を加点することも考える予定です。ニュース検定試験事務局との調整を行い、最初の授業でアナウンスします。以上現在のところ、試験90点、授業内課題10点の100点満点、ニュース検定2級合格者に10点の加点を考えています。
---------	--

教科書/テキスト	森田朗『現代の行政(改訂版)』放送大学教育振興会、2000年、2,100円、ISBN9784595830846 半分程度しか使用しない予定である。ですが、教科書に線を引いたり、板書を書き込んだりしてもらうので、用意してください。
----------	--

参考書	早川純貴、内海麻利、田丸大、大山礼子『政策過程論-「政策科学」への招待』学陽書房、2004年、2,730円、ISBN9784313320352 適宜、参考書の該当ページ・箇所を指摘する。購入するか否かは、様子を見てで構わないと思います。
-----	--

その他	履修者が多く教場に入りきれない場合は、法律学科の学生には、フレックスBの時間帯の行政学をお勧めすることもあります。
-----	---

履修コード	127401 127402
科目名	行政法各論 行政救済法
担当者名	塩入 みほも

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>公権力の行使に対する国民の権利救済に関する法制度（＝行政救済法）について講義します。具体的には、国家補償制度としての損失補償及び国家賠償、行政争訟制度としての行政不服申立て及び行政訴訟の各法制度について学びます。</p> <p>本講義の到達目標は、行政法総論において習得した理論的知識を基盤とし、国家と国民・住民との現実の法関係において活かせるより実践的な法知識を習得すること、すなわち、国民・住民としての権利利益を実現し、あるいは公権力により違法・不当に侵害された権利利益ないし法的地位を回復し、又は（たとえ適法であれ）公権力の行使により蒙った損害を国家に補填させるべく、法的手続きを以て国家に対峙し争いうるための法的知識を習得することです。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(1) 行政救済法総説 (2)～(3) 国家補償制度概説、損失補償制度 (4)～(6) 国家賠償制度(1)：概説、1条責任 (7)～(8) 国家賠償制度(2)：2条責任 (9) 国家賠償制度(3)：3～6条 (10)～(12) 行政不服申立制度：意義と特徴、不服申立手続の種類・具体的要件・原理等、「公権力の行使」と「処分」の概念 (13)～(14) 行政事件訴訟法総説：意義と特徴、行政事件と民事事件の区別基準、司法審査の要件と限界（法律上の争訟・紛争成熟性・統治行為論）等 (15) 民衆訴訟、機関訴訟 (16) 当事者訴訟 (17)～(18) 抗告訴訟論概説、処分及び裁決の取消訴訟（意義・機能、原処分主義、他の抗告訴訟との関係等） (19) 不作為の違法確認訴訟、無効等確認訴訟：意義・機能、訴訟要件、本案要件等 (20) 義務付け訴訟：意義・機能、訴訟要件、本案要件等 (21) 差止訴訟：意義・機能、訴訟要件、本案要件等 (22) 取消訴訟の訴訟要件論(1)：処分性 (23) 取消訴訟の訴訟要件論(2)：原告適格 (24) 取消訴訟の訴訟要件論(3)：狭義の訴えの利益 (25) 取消訴訟の訴訟要件論(4)：被告適格、裁判管轄 (26) 取消訴訟の訴訟要件論(5)：出訴期間、不服申立前置主義、その他の形式要件 (27) 取消訴訟の本案審理：訴訟物と本案要件、違法判断の基準時、違法の主張制限、実質的証拠法則等 (28) 判決の効力 (29)～(30) 仮の権利保護制度：執行停止、仮の義務付け、仮の差止め</p>
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回、授業の予習・復習に努めること。 ・ 予習については、教科書等の指定はないので、各自所有の基本書・参考書等を用いて予定の範囲を通読し、論点をあらかじめ把握しておくこと。 ・ 六法は必携です。該当条文は必ず参照すること。 ・ 必要に応じてその都度「行政法総論」の復習をすること。
------	---

履修上の留意点	<p>行政法の基礎知識を前提とするので、原則として「行政法総論」を履修済みであることが要求されます。努力次第では、総論との並行履修も可能ですが、予備校や独学により行政法総論の知識をある程度習得している者でない限り、相当の努力が必要となります。</p> <p>なお、行政法は国家・地方公務員、警察官、行政書士等の各種国家試験の必須科目となっているので、これら国家試験の受験を志している学生のために、出題頻度の高い問題、論点については講義内でその都度指摘します。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>定期試験は年度末一回であるが、前期も授業内テストを行う予定である。また、授業の進行状況や履修態度の如何によっては、レポートを課すこともある。</p> <p>成績は、定期試験50%、授業内テスト・レポート35%、平常点（不定期に確認する出欠等）15%の評価とする。</p>
---------	--

教科書／テキスト	特定の教科書は使用しません。
参考書	初回講義時の際に紹介します。

履修コード	127201
科目名	行政法総論
担当者名	塩入 みほも

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	行政法とは、国家（国・地方）と国民又は住民との法律関係を規律している個別法規の総称です。したがって、実は存在する法令の約8割前後が行政法なのです。この講義では、その行政法の基本的な仕組みと理論一般について学びます。民法や刑法、憲法等の他の法分野とは異なって、学生レベルではあまり直接的な関連がないと思われがちですが、学生諸君も実は日常生活の様々な場面で行政法の規律に接しているのです。国家との関係における権利義務はもとより、交通取締・治安等に関わる警察権行使の適法・違法や国家賠償請求の可否など、国民・住民として行政法の知識は必要不可欠といえ、その知識は将来必ず役に立ちます。その知識の習得が当講義の到達目標です。
---------------------	---

授業スケジュール	(1)～(2) 行政法とは何か：行政法の成立、行政の定義、行政法の領域 (3)～(5) 行政法の基本構造：現代日本行政法の特徴、法治行政の原理 (6)～(8) 行政法の法源：成文法源、不文法源 (9)～(11) 行政作用の様々な分類論 (12) 行政立法 (13) 行政計画 (14) 行政指導 (15) 行政契約 (16)～(20) 行政行為論：特徴、成立と消滅、効力、行為類型論 (21)～(22) 行政裁量論 (23)～(24) 行政行為の瑕疵 (25)～(26) 職権取消しと撤回 (27)～(29) 行政上の強制制度 (30) まとめ
----------	---

準備学習	毎回、授業内容の予習・復習に努めること。 予習については、教科書の指定は特にしないので、各自所有の専門書・参考書等で予定の範囲を通読し、論点等をある程度把握しておくこと。
------	--

履修上の留意点	行政法を初めて学習する者でもその基礎知識を一年間で習得できるよう、判例・通説を引用しながら、出来るだけ解り易く且つ簡潔に説明していくつもりです。特に国家・地方公務員や警察官・消防士、行政書士等の国家試験を目指している学生のため、出題頻度の高い問題はその都度指摘します。なお、六法は必携です。
---------	---

成績評価の方法	定期試験は学年末試験のみだが、前期も授業内テストを実施する。また、授業の進行状況や履修態度の如何によっては、レポート課題を出す。 成績評価は、定期試験50%、授業内テスト・レポート35%、平常点（不定期に確認する出欠等）15%とする。
---------	--

教科書／テキスト	特定の教科書は使用しません。但し、オリジナルノートが作れるように毎回丁寧に板書します。
----------	---

参考書	最初の講義の際に紹介します。
-----	----------------

履修コード	127901
科目名	刑法総論
担当者名	佐藤 多美夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では刑法総論の分野を扱います。刑法総論は刑法各論のように殺人罪、窃盗罪といった個々の犯罪を扱うのではなく、それらの犯罪の共通にもっている性格を明らかにいたします。そこで、犯罪の基本的、重要な課題について、その意義と問題点を学説や判例をふまえながらすすめ、体系的に刑法総論を理解する。
---------------------	--

授業スケジュール	以下の講義内容であるが時間の都合で省略する箇所があり得るかもしれません。 I 序説 1 はじめに 2 刑法とはなにか 3 犯罪論の基礎 4 罪刑法定主義と刑法の解釈 II 構成要件 1 総説 2 結果 3 実行行為 4 不作為犯 5 未遂犯 6 因果関係 III 違法性 1 総説 2 正当業務行為 3 正当防衛 4 緊急避難 IV 責任 1 総説 2 責任能力 3 故意 4 過失 5 期待可能性 V 共犯 1 総説 2 共同正犯 3 共謀共同正犯 4 承継的共同正犯 5 過失の共同正犯 6 教唆犯 7 幫助犯 VI 共犯の諸問題 1 共犯と身分 2 不作為と共犯 3 共犯と錯誤 4 共犯の中止、離脱 VII 罪数論
----------	--

準備学習	予習及び復習は必要です。
履修上の留意点	
成績評価の方法	筆記試験等を総合して評価する。
教科書／テキスト	教科書は使用しますので学内指定書店に照会して下さい。
参考書	最初の講義時に入門書・基本書・判例集等についてお知らせいたします。

履修コード	101201 101202 101203
科目名	現代産業事情III 現代企業論 特殊講義II
担当者名	百田 義治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本科目は東京税理士会の寄附講座として開講されます。東京税理士会所属の14人の現役の税理士の方々(そのほとんどは駒澤大学または駒澤大学大学院の卒業生)が、それぞれの実務経験を踏まえながら、税理士の役割や社会的使命、さまざまな税法の内容や意義、また税理士の実際の姿などについて、わかりやすく講義します。受講生が、本授業を通して、財政や租税に関する実際的な知識を獲得し、できれば税理士や公認会計士などの職業会計人を目指す機会となることを期待しています。
---------------------	---

授業スケジュール	以下のテーマでの授業を予定しています。 第1回 わが国の租税制度と税理士制度 第2回 グローバル経営と法人税制(組織再編税制) 第3回 法人と個人の税金のしくみ 第4回 相続人と遺産分割 第5回 相続税と相続財産の評価 贈与税の概要 第6回 所得税の概要 第7回 法人税の概要 第8回 租税教育と税理士の社会貢献 第9回 リスク・マネジメントと税務会計 第10回 税理士と地方自治体監査制度 第11回 税務調査と税理士 第12回 サラリーマンと税金のはなし—住宅取得から売却まで— 第13回 消費税のしくみについて 第14回 税制改正の概要 第15回 まとめ
----------	--

準備学習	この授業では、14人の東京税理士会の現役の税理士さんが、それぞれの専門分野について日頃の実務経験に基づいて講義を行います。すべての講義のテーマが決定されていますので、毎回それぞれのテーマについて、今、何が問題なのかを事前に学習して授業に参加することが求められます。新聞やネットを駆使して、準備学習して授業に参加すればするほど、学習成果は大きくなります。また、準備学習して質疑のコーナーで質問をすれば、授業も楽しくなります。
------	---

履修上の留意点	租税制度や税務、税理士など職業会計人に関心がある人の受講を期待します。
成績評価の方法	定期試験(レポート試験)と14回の毎回の授業に関する小レポートで総合的に評価する。
教科書/テキスト	毎回資料を配布する。
参考書	特になし。
その他	この科目は、履修制限(150名~200名)をします。最初の授業で履修制限の説明をします。本授業はすべて外部講師(税理士)の方々によって進められます。授業における私語および携帯電話の使用は禁止します。また講師講演中の遅刻入場や途中退席も原則として禁止します。

履修コード	133801
科目名	現代国家論
担当者名	大塚 桂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は近代における日本国家の解明を主たる目的に定めます。具体的には下記の諸課題を検討していきます。第一に近代日本国家の形成過程=明治国家の構造(前期)であり、第二に日本人の政治的行動様式・観念形態を規定するもの=政治文化の問題(後期)をとりあげます。
---------------------	--

授業スケジュール	I前期 (1)幕末維新の政治過程 (2)内閣官制 (3)大日本帝国憲法 (4)統帥権 (5)帝国議会 (6)自由民権運動 (7)地方官官制 (8)財政 (9)国家神道 (10)教育勅語 (11)社会主義 (12)大正デモクラシー (13)天皇制ファシズム (14)統制経済 (15)中間試験 II後期 (16)日本の宗教①~⑤ (17)日本人の死生観 (18)タテ社会の原理 (19)和の精神 (20)ムラ・イエの原理 (21)ホンネとタテマエ (22)集団指導体制 (23)意志決定 (24)被害者意識 (25)期末試験
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	
成績評価の方法	授業内における中間試験(50%)と期末試験(50%)により評価します。
教科書/テキスト	大塚桂『明治国家の基本構造』(法律文化社)3200円 大塚桂『日本の政治文化』(勁草書房)2800円
参考書	上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。
その他	私の研究室は、第二研究館八階(2835)です。電話は、3418-9377(直)です。

履修コード	126401
科目名	現代政治理論
担当者名	山崎 望

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【授業概要】 わたしたちが生きている現代社会がはらむ様々な問題について認識すると同時に、その背景をなす考えを理解する手助けとなる講義をします。</p> <p>【到達目標】 現代政治理論の観点から、どのように現代世界の抱える問題に対峙していくのか、を考える習慣を身につけることが目標です。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 現代世界の変容 1 第2回 現代世界の変容 2 第3回 政治と権力 第4回 フェミニズム 1 (男女の平等) 第5回 フェミニズム 2 (家族の変容) 第6回 格差社会論 第7回 グローバル化する経済 第8回 世界経済危機 (リーマンショック) 第9回 世界経済危機 (欧州経済危機) 第10回 自由主義 1 第11回 自由主義 2 (福祉国家の変容) 第12回 マルクス主義の再検討 第13回 国民国家 第14回 ナショナリズム 第15回 理解度の確認 1 第16回 多文化主義 第17回 移民・難民をめぐって 第18回 グローバル化する政治 (グローバル・ガバナンス) 第19回 「9. 11」対米同時多発テロ以後のアメリカ 第20回 「イスラーム原理主義」の思想と行動 第21回 人道的介入論 第22回 グローバル・テロリズム 第23回 「アラブの春」 1 第24回 「アラブの春」 2 第25回 地域主義 (EUの事例) 第26回 地域主義 (アジア共同体の可能性) 第27回 自由民主主義の揺らぎ 第28回 新しい民主主義論 第29回 国境を越える民主主義論 第30回 理解度の確認 2</p>
----------	--

準備学習	<p>講義と並行する形で、新聞を必ず読むようにしてください。 新聞は図書館に完備してあるので、基礎知識を得るためにも、 新聞を毎日読む習慣を身につけてください。 加えて、インターネットなどで情報を集め、問題意識をもって出席してください。 余裕があれば、講義に関連する本などを、新書レベルから読むように努力してください。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>自分が生きてく上で直面せざるを得ないであろう問題について、考える習慣を身につけることが目的なので、毎回出席して下さい。講義の最後の時間に書いてもらうレスポンスカードには、講義の感想や時事問題についての自分の考え、質問などを積極的に書いて下さい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>試験 70% 平常点 30%</p>
---------	----------------------------

教科書/テキスト	杉田敦・川崎修編2006『現代政治理論』有斐閣アルマ ISBN 4-641-12269-5
----------	---

参考書	有賀誠・伊藤恭彦・松井暁編2007『ポストリベラリズムの対抗軸』ナカニシヤ出版 ISBN978-4-7795-0195-1
-----	---

その他	<p>講義形式。講義時に簡易なレジュメを配布する予定。 講義の後半10分にレスポンスカードを配るので、質問や感想を書いてください。 翌週の冒頭に簡易な応答を行います。</p>
-----	---

履修コード	126101
科目名	憲法
担当者名	柳瀬 昇

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この講義は、日本国憲法の解釈論を学ぶことを通じて、法的なものの考え方を養うことを目的とする。</p> <p>憲法は、国家統治の組織・作用の基本法である。特に、今日では、自由主義に基づき人権保障のために権力を抑制することを定めた基本法をいう。この講義では、日本国憲法の標準的な解釈論の基礎を、概括的に、かつ、平明に講述する。</p> <p>日本国憲法に定める人権保障と国家統治の仕組みについて、この講義において、しっかりと理解してほしい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>憲法総論、人権論、統治機構論の順に講義を行う。</p> <p>第1回 憲法を学ぶ意義</p> <p>第2回 立憲主義の基本原則 (1)</p> <p>第3回 憲法と人権の限界 (1)</p> <p>第4回 憲法と人権の限界 (2)</p> <p>第5回 幸福追求権</p> <p>第6回 法の下での平等</p> <p>第7回 内心の自由</p> <p>第8回 表現の自由 (1)</p> <p>第9回 表現の自由 (2)</p> <p>第10回 経済の自由 (1)</p> <p>第11回 経済の自由 (2)</p> <p>第12回 身体の自由</p> <p>第13回 国家による自由</p> <p>第14回 国家への自由</p> <p>第15回 前期の総括</p> <p>第16回 立憲主義の基本原則 (2)</p> <p>第17回 国会と立法権 (1)</p> <p>第18回 国会と立法権 (2)</p> <p>第19回 内閣と行政権</p> <p>第20回 裁判所と司法権・違憲審査権 (1)</p> <p>第21回 裁判所と司法権・違憲審査権 (2)</p> <p>第22回 裁判所と司法権・違憲審査権 (3)</p> <p>第23回 財政からみる民主主義</p> <p>第24回 地方からみる民主主義</p> <p>第25回 天皇</p> <p>第26回 安全保障</p> <p>第27回 日本国憲法の生成と展開 (1)</p> <p>第28回 日本国憲法の生成と展開 (2)</p> <p>第29回 予備日</p> <p>第30回 後期の総括</p>
----------	---

準備学習	<p>基本的には予習は必要ないが、その代わりに、必ず講義に出席し、復習に努めてほしい。ただし、人権論を扱う前半のうち数回は、教科書の指定されたページを読んだうえで講義に臨むことを求める。</p>
履修上の留意点	<p>講義の進行を妨げるような遅刻や早退は、厳に慎まれたい。講義を受講する意思のない学生に対しては、学期の半ばでも講義の受講を遠慮してもらうことがある。</p>
成績評価の方法	<p>期末に行う筆記試験や、授業時間中に適宜行う小テスト等に基づき、総合的に判断する。上位5%の者を「S」、80点以上の者を「A」、70点以上の者を「B」、60点以上の者を「C」とし、60点未満の者を「F」と評価する。</p>
教科書/テキスト	<p>教科書は、第1回の講義で説明する。そのほかに、毎回、授業担当者の作成したレジュメや資料を配布する。YeStudy (e-learningシステム) から、レジュメをダウンロードして講義に臨まれたい。</p> <p>どの出版社のものでもかまわないので、六法 (法令集) は、必ず携行されたい。なお、六法についても、第1回の講義で説明する。</p>
参考書	<p>第1回の講義で説明する。</p>
その他	<p>講義の内容に関する質問や学生生活上の相談については、講義の前後またはオフィスアワーにおいて対応する。確実に時間を確保したい場合には、電子メール (noboru@komazawa-u.ac.jp) で事前に連絡をとることをすすめる。</p>

履修コード	093601
科目名	工業政策
担当者名	奥山 雅之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>わが国の工業（「ものづくり」産業）は、その技術力を背景に高い国際競争力を有しており、産業全体を支える重要な存在です。</p> <p>この講義では、数多くの企業事例を取り上げ、ものづくり産業の特徴を確認しながら、産業の「過去」「現在」そして「将来」を考察します。また、ものづくり産業に対する国や地方公共団体の政策の課題と方向性についても検討を加えていきます。</p> <p>前期では、ものづくり産業の現状をさまざま角度から分析し、その課題と今後の方向性を明らかにします。後期では、産学連携、知的財産、環境問題、CSR（企業の社会的責任）など、ものづくり産業をめぐる今日的な題材に検討を加えます。</p> <p>(到達目標)</p> <p>1年間を通じて、ものづくり産業に関する政策的な課題設定力、自分なりの解決策を提案する力、さらには就職にも役立つ企業を見る目を持つことを到達目標としています。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期 (1～3) 工業の意義と役割</p> <p>(4～6) 工業の発展と工業政策の歩み</p> <p>(7～9) 産業構造とものづくり産業</p> <p>(10～13) 工業の立地問題</p> <p>(14～15) 中小企業と政策</p> <p>後期 (16～19) ものづくり産業の業種別動向 (自動車産業、繊維産業ほか)</p> <p>(20～21) 「ソフトなものづくり」産業 (映画産業、アニメーション産業ほか)</p> <p>(22～23) ものづくりを支える人材の確保・育成</p> <p>(24～25) イノベーションと産学連携</p> <p>(26) 知的財産の創造・保護・活用</p> <p>(27) 創業・ベンチャー支援策</p> <p>(28～29) 工業振興と環境問題</p> <p>(30) 工業振興とCSR (企業の社会的責任)</p>
----------	--

準備学習	<p>事前学習としては、日ごろから新聞の経済・産業関連記事に接しておく必要があります。事後学習としては、配布した資料とノートを再確認し、各週のテーマに対する自分なりの考え方をまとめておくことが重要です。レポートの課題はYeStudy経由で出しますので、YeStudyにも登録をお願いします。</p>
------	---

履修上の留意点	日ごろからものづくり産業や企業に関心を持つことを望みます。
---------	-------------------------------

成績評価の方法	<p>成績は学年末試験とレポートで評価します。試験が8割、レポートが2割のウェイトで評価します。試験およびレポートの内容については、講義に積極的に参加していた人が有利になるように配慮します。追試は行いません。</p>
---------	--

教科書/テキスト	特に指定しません。配布する資料によって講義を実施します。
----------	------------------------------

参考書	加藤秀雄『地域中小企業と産業集積』（新評論）
-----	------------------------

その他	なし
-----	----

履修コード	416801
科目名	国際関係とメディア
担当者名	芝崎 厚士

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	国際関係・国際関係論に関する基礎知識を、さまざまなメディアとのかかわりにおいて学習し、この世界の歴史と現状を考える出発点を作り上げる。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>講義の内容：テスト形式。小テストと解説を行い、作成した答案用紙を回収し成績を決定する。(1) ニュースウォッチ (新聞記事要約)、(2) リーディング (テーマ論文要約)、(3) メディアウォッチまたはワード・データウォッチ (音楽・映像、重要語の定義、重要な世界の現状に関するデータ、10秒クイズなど)、の3部構成で行う。</p> <p>授業スケジュール：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 ガイダンス 2回目 国際関係の歴史その1 3回目 国際関係の歴史その2 4回目 映像分析その1 5回目 主権国家と国民国家 6回目 多国籍企業・NGO 7回目 戦争・テロリズム・平和 8回目 映像分析その2 9回目 外交と対外政策 10回目 貧困と開発 11回目 環境問題 12回目 映像分析その3 13回目 ナショナリズムと民族紛争 14回目 日米安保とは何か 15回目 グローバル・ガバナンス
----------	---

準備学習	基本的に予習は不要だが、次回の学習につなげるため、前回配付した教材、スライド類を再読すること。
------	---

履修上の留意点	テスト方式なので、成績は、基本的に毎回回収する答案用紙の出来で判断する。ただ出席しているだけではなく、授業中に、与えられた課題にどれだけ主体的に取り組んだかによって評価する。予習の必要なし。
---------	---

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回回収する答案用紙の出来 (読んで・書いて・考えたことをどれだけ答案用紙に残せたか) が60%、学期末試験 (答案用紙、配布教材の持ち込み可。答案用紙は試験前に返却) が30%、授業支援システムを経由して提出する課題が10% ・授業中の作業は最初はハードですが、慣れてくるとできてきます。答案用紙の完成度そのものよりも、努力した跡がどれだけ見られるかを重視して評価します。別の言い方をすると、出席していても努力の跡が見られない場合には、単位は取得できません。
---------	--

教科書/テキスト	開講時に指示。
----------	---------

参考書	授業中に随時指示。
-----	-----------

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・教材は毎回プリントで配布。プリントの配布、回収には協力してください。 ・前期科目「世界政治とメディア」と連動して開講するので、カリキュラム上可能であれば、「世界政治とメディア」を予め履修していることが望ましい。本科目を履修したあとで「世界政治とメディア」を履修することも薦める。 ・2年次以降の演習で国際関係研究を履修したい場合には、「世界政治とメディア」または本科目を履修していることが望ましい。
-----	--

履修コード	128101
科目名	国際関係論
担当者名	三船 恵美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	国際関係の基本的な概念や理論、現代国際関係の枠組み、国際関係における諸問題などについて講義するとともに、受講生の専門知識と理解を深めることを本講義の目的とします。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回：国際関係を学ぶ視座 第2回：国益とパワー 第3回：日本の領域と国際関係 (1) 日本と韓国 第4回：日本の領域と国際関係 (2) 日本とロシア 第5回：日本の領域と国際関係 (3) 日本と中国 第6回：日本人として戦争を考える：「ヒロシマ・ナガサキ」(1) 第7回：日本人として戦争を考える：「ヒロシマ・ナガサキ」(2) 第8回：アジアのパワーシフトとアメリカ 第9回：中国の台頭と米中関係 第10回：中国の台頭と日中・日米関係 第11回：インドの台頭と米印中関係 第12回：南アジアと米印中関係 第13回：ASEANと日米中関係 第14回：北朝鮮と日米中韓関係 第15回：前期総括 第16回：リアリズムの考え方 第17回：ネオリアリズムの考え方 第18回：リベラリズムの考え方 第19回：ネオリベラリズムの考え方 第20回：コンストラクティヴィズム 第21回：南北問題と構造的暴力 第22回：安全保障の概念と類型 第23回：人道的介入 第24回：核不拡散をめぐる国際関係 第25回：国際経済と国際経済：TPPと日本 第26回：アジアの地域主義：東アジア共同体の構想とその課題 第27回：難民保護とUNHCR 第28回：環境外交 第29回：地球環境レジーム 第30回：総括</p>
----------	--

準備学習	教科書を事前に読んできましょう。新聞の国際面を毎日読みましょう。
履修上の留意点	テストを欠席した場合にレポートは課しません。就活や部活で欠席した人を特別扱いません。配布物は、理由の如何に関わらず、一度しか配りません。欠席した場合の授業内容は、各自の責任で補って下さい。
成績評価の方法	試験 (100%)。
教科書／テキスト	前期：天児慧・三船恵美編『膨張する中国の対外関係』2010年、勁草書房、3000円。 後期：山田高敬・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論』有斐閣、2006年、2100円。
参考書	授業中に紹介します。

履修コード	091201 091202
科目名	国際経済論 国際経済学
担当者名	徳永 俊明

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 世界経済は、今日、世界社会・日本社会のあり方の〈土台〉をなしているものです。世界の姿・日本の姿を理解する第一のキは世界経済を理解することにあります。この講義では、前期に、世界経済の生成から第2次世界大戦までのおおよその推移を確認し、後期には第2次世界大戦後、今日までの世界経済について分野ごとに概観します。</p> <p>(到達目標 (ねらい)) 前期は、ただ歴史を眺めるというのではなく、今日の世界経済のあり方の歴史的背景を正確につかむことを、後期は、今日の世界経済がはらむ基本的な問題 (課題) を理解することを目標にします。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(前期) (1・2) 講義のテーマ・趣旨の説明、(3・4) 資本の本源的蓄積と重商主義植民地体制、(5・6) 産業革命と自由貿易植民地体制、(7) 小括、(8・9) 独占資本主義と帝国主義植民地体制、(10・11) 第1次世界大戦と世界経済、(12・13) 戦間期の世界経済、(14) 小括、(15) 予備日</p> <p>(後期) (1・2) 第2次世界大戦と世界経済、(3・4) 「アメリカ中心体制」と新植民地主義、(5) 貿易 (GATT・WTO)、(6) 国際通貨制度 (IMF)、(7・8) 「援助」、(9・10) 多国籍企業、(11) 小括、(12・13) 「南北問題」、(14) 「新国際経済秩序」、(15) 予備日</p> <p>* 毎回参考資料を配布します。</p>
----------	---

準備学習	前回の講義のノート・資料に目を通しておいて下さい。
------	---------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	ミニ・レポート (前期・後期各1回予定、それぞれ20点) と学年末ミニ・レポート (60点)。とくに学年末ミニ・レポートで世界経済の「枝葉」ではなく、「幹」の理解度を重視します。(追試験は行いません。)
---------	---

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	126601
科目名	国際政治学
担当者名	山村 恒雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義の履修対象者が1学年以上であることから、国際政治学の「基本的な概念」の修得を前期の到達目標とします。後期は具体的な事例研究で現代国際政治を分析する力を養いましょう。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>【前期】</p> <p>第1回：国際政治学を学ぶ 第2回：国際政治のあゆみ (1) 主権国家の誕生～ナショナリズムと帝国主義の時代 第3回：国際政治のあゆみ (2) WW I～WW II 第4回：国際政治のあゆみ (3) 冷戦～ポスト冷戦 第5回：国際政治の見方 (1) パワーと国益、対立と協調 第6回：国際政治の見方 (2) 支配と従属、規範と制度 第7回：国際政治の見方 (3) 安全保障 第8回：国際政治の見方 (4) 国際政治経済、国際政治における文化 第9回：国際政治のしくみ (1) 政治体制 第10回：国際政治のしくみ (2) 対外政策決定過程 第11回：国際政治のしくみ (3) 外交交渉 第12回：国際政治のしくみ (4) 国際機構の役割 第13回：国際政治のしくみ (5) 国連の役割 第14回：国際政治のしくみ (6) 国連中心主義とは何か 第15回：国際政治のしくみ (7) 地域主義と地域的国際機構</p>
----------	---

	<p>【後期】</p> <p>第1回：核問題 第2回：現代の紛争 第3回：人権と民主主義 第4回：国連PKO、人道的介入、平和構築 第5回：紛争後の国家復興 第6回：地球的問題群 第7回：開発援助 第8回：地球環境問題 第9回：日米同盟の国際政治 第10回：新興独立国との国際政治 第11回：国際政治における中国の台頭 第12回：ASEANを巡る日米中の思惑 第13回：朝鮮半島の核問題 第14回：朝鮮半島の核を巡る六者協議 第15回：総括</p>
--	---

準備学習	現在、国際社会でどのようなことが起きているのかについて、毎日、新聞の国際面やテレビなどのニュースに気を配り、把握しておくこと。
------	---

履修上の留意点	テストを欠席した場合にレポートは課しません。追試験で対応します。就活や部活で欠席した人でも特別扱いしません。欠席した場合の授業内容は、各自の責任で補って下さい。受け身ではなく、積極的に授業に参加できる意欲のある人を歓迎します。
---------	---

成績評価の方法	定期試験のみによる。
---------	------------

教科書／テキスト	特定の教科書は使用しない。
----------	---------------

参考書	授業中、随時指定。
-----	-----------

履修コード	128001
科目名	国際法
担当者名	橋本 靖明
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	私達は今、国際社会の中で生きています。国際社会の動きとその行動を規律する法体系である国際法を無視しては、世界のさまざまな構成員間の関係を良好に保ち、維持することができません。本講義では、国際社会の現状と展望を概観しつつ、その社会を規律している国際法とは何なのか、皆さんと共に学んでゆきます。
授業スケジュール	大きく、以下の三つのパートに分けて進めてゆきます。 ①国際法の全体像を概観する。(2～5) ②領域(陸域、海洋、空域、宇宙空間、サイバー空間)に関する国際法を考える。(6～25) ③領域を越えるさまざまな今日の問題(人権、環境、テロ、安全保障等)に関する国際法を考える。(26～30)
準備学習	新聞、テレビ、雑誌、インターネット等で報道される国際情勢に留意し、その法的背景を意識的に探ってみてください。
履修上の留意点	特別な予習を必要としませんが、その分、授業への出席を求めます。授業での講義内容を試験では問うこととなります。
成績評価の方法	最終講義において実施する筆記試験の回答内容を元に成績評価を行います。なお、回答は万年筆またはボールペンで筆記のこと。
教科書/テキスト	編者：松井 芳郎(編集代表) 書名：『ベーシック条約集』2012年版 出版社：東信堂 価格：2730円(税込み：2011年版参考) ISBN：978-4-7989-0050-6(2011年版参考)
参考書	特に指定しません。

履修コード	133701
科目名	国家安全保障論
担当者名	山下 愛仁
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「国家安全保障」については、「国家は生かす続けなければならない」という価値判断を自明なものとして、しばしば論じられる。しかしながら、かかる価値判断を自明なものとして捉えてよいのか。例えばアナーキズムのような政治思想と国家安全保障なる観念は両立し得るのであるか。 講義では、このような問題意識の下、「国家の存在(実存)」を自明なものとしてせず、国家とは如何なる存在であるのか(国家の存在論)、不可視な存在である国家は如何にして認識し得るのか(国家の認識論)、という国家をめぐる課題の解明を重視し、検討を進める。 「国家をめぐる課題の解明」を軸に、「国家安全保障の論理構造」を理解することが、本講義のねらいである。
授業スケジュール	第1回 講義の全般説明 第2～4回 学問(認識)と政策(価値判断)の区別及びその哲学的基礎 第5～6回 国家安全保障の概念と国家安全保障論の性格 第7回 国家安全保障における「伝統主義」と「拡大主義」の対立 第8～12回 国家の存在論と認識論(近代国民国家の成立過程、各種国家論の検討) 第13～15回 国際社会の成立と国際政治の展開 第16～18回 国家構造の日米比較 第19回 国家安全保障の理念 第20～23回 戦略論 第24～27回 国家安全保障をめぐる各国の状況(機構及び政策等) 第28回 国家安全保障をめぐる日本の状況(機構及び政策等) 第29回 国家安全保障の課題 第30回 まとめ
準備学習	講義の性格上、認識と価値判断(評価)の区別に留意する必要があるため、さしあたり、マックス・ウェーバー『職業としての学問』(岩波文庫)を読んでおくこと(特に43頁以降)。
履修上の留意点	1 履修希望者は、1回目の「講義の全般説明」を受講すること。 2 指示された文献を読破する意欲、毎回丁寧にノートを取ることが求められる。
成績評価の方法	平常点、レポート、小テスト等により総合的に評価する。期末試験は実施しない。
教科書/テキスト	指定しない。
参考書	講義中、適宜指示する。

履修コード	133651
科目名	時事英語講座
担当者名	三竹 直哉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	政治学科での勉強には新聞やニュースに接することが不可欠ですが、それを英語でも行うと、格段に世界が広がり、はるかに勉強が興味深くなります。この授業の目的は、英語の新聞やニュース番組を通じて、世界に目を向けるスキルと感性を養うことにあります。 英語の情報に接することのメリットは、世界中の出来事を知ることができることにあります。日本では英語というとアメリカやイギリスの話に偏りますが、この授業では英語を通じてアジアやアフリカなど多様な国や地域の情報に接することを心がけます。また、自分の国の政治について、英語で語るときに役立つように、日本政治の英語報道にも接してみます。 最新の情報はYeStudyで確認してください。
授業スケジュール	第1週 授業案内 第2週-1 5週 英語についての質疑・討論、内容についての政治学的な討論
準備学習	毎回事前に各自で教材に取り組んで準備します。英語だけでなく、政治学的知識や時事の問題についても調べたり書いたりして準備します。授業の場は「教えてもらう」場ではなく、互いに「教え合う」場、「語り合う」場になります。
履修上の留意点	政治学科の科目ですので、政治学や時事の問題の基礎知識を備えていることが必要条件です。インプットは事前に各自で行い、授業ではアウトプットを行う授業です。準備のために毎週一定の時間と労力を使う心づもりのある方のための授業です。 最新の情報はYeStudyで確認してください。
成績評価の方法	原則として平常点によります。
教科書/テキスト	その都度指示・配布します。
参考書	毎回辞書を持参してください。

履修コード	133681
科目名	実務者講座
担当者名	田丸 大

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	政治学科あるいは法学部で扱う内容に関連した仕事をしている外部の実務者をゲストに招き講義をしてもらい、実務についての理解を深めてもらうことがねらいである。講義や演習などで触れる「政治」や「法律」が現実の世の中とどのように関わっているのか、どのように動いているのかといった点について、現場に携わっている実務者の話を伺うことは、大学での自らの学びを総括し、また将来の進路や、自身と社会との接点を考える上で有意義と考える。 ゲストに招く実務者は、公務員、地方議員、シンクタンク職員、民間企業の方などを予定しているが、担当教官の専門(行政学)からして、行政や政策に関連したゲストが多くなる点を了解してもらいたい。 駒澤の政治学科出身のゲストも招きたいと思う。自分たちの先輩の姿をとおして、実務をより一層リアルに感じる機会となることを願っている。 仕事は夢や希望にあふれたものではあるが、他方で、社会人になると職場では、必ずしも自分の思うようには物事が進まなかったり我慢しなければならないことも増えて来るが、そのような点についても意識を高めて欲しいと思う。
授業スケジュール	ガイダンス・履修にあたっての注意事項(1)、担当教員による若干の講義(2~3)、実務者による講義(4~15)。その間に、複数回の授業内でのレポート作成を予定している。ゲストに招く具体的な実務者については、開講時に示す予定であるが、現在のところ、例えば、区議会議員、地方公務員(都庁職員、県庁職員、市役所職員など)、国家公務員、法曹関係者、NPO関係者、民間企業に勤務している方などを考えている。
準備学習	日頃から、新聞等を通して、世の中のニュースを貪欲に入手してください。ゲストに対する質問も、そのような準備学習から生まれてくると思います。
履修上の留意点	双方向の議論となって招いた実務者の方々も楽しむことができるよう、授業中の質問や感想・意見などの発言を歓迎します。それをきっかけとして、思いがけなく興味深い話が聞けることもあると思うので。
成績評価の方法	平常点および授業内さらに授業時間外で作成するレポートによる。学年末試験は行わない。履修者の人数にもよるので、初回講義で、詳細を決めます。
教科書/テキスト	特に使用しない。
参考書	
その他	①スケジュール調整の都合上、割り当てられた曜日・時間帯以外に行われる可能性もあること、②仕事の都合による突然のキャンセルもありうることを了解してください。①の場合にはプラスアルファの出席点を、②の場合には視聴覚教材などを用いての講義を考えている。

履修コード	133901 133902
科目名	社会学原理 社会学原論
担当者名	呉 炳三

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会学の主要な対象は人間である。その人間が社会生活のなかで引き起こす社会問題を分析する手法として、社会学の基礎的な概念や理論の使い方を学ぶこと。またはその身近な社会問題を認識、理解することを通じて、現代社会を展望する視点を養ってもらうことを本講義の目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	前期は以下の内容について、社会学の方法や理論を中心に講義を行う。 (1)ガイダンス、(2)社会学原論とは、(3~4)個人と社会(社会的行為、社会化と人間形成、パーソナリティ・社会的自我)、(5~6)現代家族論(配偶者選択、結婚、家族の構造と機能、家族の現代的課題)、(7~8)組織論、官僚制(専門職)、(9~10)職業、労働(職場や人間関係、就職・転職・リストラ、フリーター・ニート)、(11~12)若者の犯罪(ラベリング理論、加害者と被害者の関係、犯罪の原因)、(13~14)自殺と社会(自殺の歴史、自殺の背景、自殺の最近の情報)、(15)社会階層など
----------	--

後期は、受講生の関心テーマについての発表や班ごとにディベートを行う。前年度や前々年度のディベートや発表の主な内容は以下である。
(1)少年犯罪者の実名公表、(2)若者文化、(3)少年法改正、(4)出会系サイト、(5)自殺といじめ、(6)死刑制度の廃止か存続か、(7)高齢者や児童虐待、(8)格差社会、ワーキングプア、(9)成人年齢の引き下げ、(10)安楽死、(11)新聞や書籍の電子化、(12)原発の維持か廃止か、(13)小学生のインターネット利用、(14)三才児神話、(15)ストリートチルドレンなど
以上、講義を予定しているが、受講生の人数などによって、講義内容を変更することがある。

準備学習	本講義は発表やグループ討議、ディベートを行う。よって、発表の方法やグループ討議とは何か、ディベートとは何かを事前に学習しておくことを勧める。
------	--

履修上の留意点	
成績評価の方法	出席状況(遅刻厳禁)、発表やディベートの内容と授業態度、簡単なレポートなどを総合的に評価する。但し、授業中の私語、携帯電話の使用、寝るなど授業態度のよくない学生については出席停止とし単位を与えないことがある。

教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	講義中に、その都度紹介する。

履修コード	130101
科目名	数量政治学
担当者名	富崎 隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「数字」と聞くだけで怖がる学生諸君も多いかもしれませんが、数量的手法は今日の政治学において大変重要かつ不可欠の分析ツールとなっています。本講義では、数量的政治的分析が政治学全般にその適用範囲を広げてきたことに注目し、それを「マクロ政治学」「ミクロ政治学」「国際政治学」に分けて議論し、それが政治的現実をどのように明らかにしたか、またその可能性をもつかについて検討します。本講義を受講する際、特別な数学素養は必要ありません。政治現象を論理一貫した形で「説明」し、政治現象が「そうである」ことを実証することの面白さと難しさを追体験し、理解することによって、受講生自らが政治を分析し、理解することへ進む足がかりを提供することが本講義の主要な目的です。
---------------------	--

授業スケジュール	(1～4) 講義のねらいと数量的政治分析の基礎 (5～15) 「マクロ政治学(国家と自由民主主義体制のマクロ動態解明)」における数量分析 政治・権力・国家の意味 政治思想と数理政治学 近現代国家システムの展開 自由民主主義体制の意味と民主化の展開 自由民主主義体制比較の枠組み 政治と経済のマクロ的連動関係 (16～26) 「ミクロ政治学(自由民主主義体制の作動メカニズム解明)」における数量分析 執政部と政党形成 政党と政党制 有権者の投票行動と選挙 議会立法過程 官僚制と政策決定 利益集団 マスメディアと政治意識 中央地方関係 民主制メカニズムと数理・計量分析 (27～30) 「国際政治学」における数量分析 国際政治の意味 国際政治の主要理論潮流 戦争・紛争・テロリズムの数量分析
----------	---

準備学習	指定の関連文献の予習が望まれます
------	------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	テスト及びレポート・出席などを総合的に評価します
---------	--------------------------

教科書/テキスト	特に指定しない
----------	---------

参考書	河野勝『制度』東京大学出版会 2940円 ISBN-10: 4130341421 D. ウィットマン『デモクラシーの経済学』東洋経済新報社 3465円 ISBN-10: 4492313133 小林良彰編『叢書・社会科学の理論とモデル(全11巻)』東京大学出版会 増山幹高他『計量政治分析入門』東京大学出版会 2520円 ISBN-10: 4130322095 河野勝他『社会科学の実験アプローチ』勁草書房 3150円 ISBN-10: 4326502924
-----	--

履修コード	127701
科目名	政策決定論
担当者名	井上 拓也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>政策科学や公共政策論は、公共政策を対象とする学際的な学問分野であり、社会科学の様々な分野から成り立っている。そこでこの講義では、公共政策と政策決定の問題を、政治学、中でもとくに政治制度論、政治過程論、行政学の知識を応用しながら検討していく。</p> <p>講義の内容としては、前期には、まず「公共政策と政策決定」で、公共政策の意味や類型を確認した後に、政策過程における決定の在り方を検討する。「政策決定の機構」では、政治体制、議会、執政部、行政機関の政策決定に関する側面を概観する。「政策決定の主体」では、政治家、官僚、政党、利益団体の政策決定に関する側面を概観する。</p> <p>後期には、まず「行政と政策」で、行政統制論と行政管理論を再検討した後に、新公共管理論(NPM)の理論と実際について検討する。「ガバナンスと新しい公共」では、ガバナンスにおけるサードセクターの意義を市民社会と法人の側面から検討する。「地方政府の政策決定」では、行政と住民の政策決定における相互作用を検討する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 前期序論 (2) 公共政策と政策決定①：公共政策 (3) 公共政策と政策決定②：規制と助成 (4) 公共政策と政策決定③：政策主体と政策過程 (5) 公共政策と政策決定④：政策決定 (6) 政策決定の機構①：政治体制 (7) 政策決定の機構②：立法府と議会 (8) 政策決定の機構③：行政府と執政部 (9) 政策決定の機構④：行政組織と行政機関 (10) 政策決定の主体①：政治家 (11) 政策決定の主体②：官僚 (12) 政策決定の主体③：政党 (13) 政策決定の主体④：利益団体 (14) 前期補論 (15) 前期試験 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 後期序論 (2) 行政と政策①：行政と政策 (3) 行政と政策②：行政統制と行政管理 (4) 行政と政策③：新公共管理(NPM)の論理 (5) 行政と政策④：新公共管理(NPM)の制度 (6) ガバナンスと新しい公共①：ガバメントからガバナンスへ (7) ガバナンスと新しい公共②：市民社会(シビルソサエティ) (8) ガバナンスと新しい公共③：日本の法人制度 (9) ガバナンスと新しい公共④：公益法人制度改革 (10) 地方政府の政策決定①：地方制度と自治 (11) 地方政府の政策決定②：自治体行政 (12) 地方政府の政策決定③：住民と住民組織 (13) 地方政府の政策決定④：基本構想と基本計画 (14) 後期補論 (15) 後期試験
----------	--

準備学習	政治制度論、政治過程論、行政学の基礎知識を学習済みであることが望ましい。
履修上の留意点	あらゆる社会科学の対象と同様に、公共政策や政策決定も多面的な視点から検討することが重要である。したがって受講者には、教員による説明以外にどのような説明が成立しうるかを意識しながら講義に臨んでほしい。
成績評価の方法	前期試験50%+後期試験50%=100%。
教科書/テキスト	とくに指定しない。レジュメを配布する。受講者は、各自、授業に出席する際に、このレジュメをYeStudyからダウンロードしておくこと(初回を除く)。レジュメは教室では配布しない。
参考書	とくに指定しない。
その他	パワーポイントを利用する。

履修コード	125901
科目名	政治学概論
担当者名	浦田 早苗 早川 純貴
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は3コース (=専門課程) に向けて最初のステップとして、各コースの基本的知識を習得し、各自の政治に対する問題関心を養っていくために設けられている。専門用語や理論の講義に際しては、できるだけ具体的事例に即して説明していきたい
授業スケジュール	【前期】 (早川) ①行動論政治学とDNモデル (2回) ②権力と影響力 (4回) ③権力多元論とエリート論 (4回) ④福祉国家論 (4回) 【後期】 (浦田) ①日本の政治システム (3回) ②政治と経済 (3回) ③日本社会の特異性 (2回) ④自由・権利・公共 (2回) ⑤第二次大戦後の国際政治 (2回) ⑥西欧の政治制度 (2回)
準備学習	毎日、ニュースに目を通す。
履修上の留意点	政治学は権力の形成・行使・監視にかかわる事象を扱う科学であり、権力は悪魔的魅力を有する存在でもある。権力への評価は常に価値の対立を内在する。つまり政治学とはさまざまな価値が交錯する学問であり、薄っぺらな理想論者ではなく、冷徹な現実主義者が学ぶ学問でもある。
成績評価の方法	前後期に試験 (各50点) を実施する。その合計点で成績評価を行う。
教科書/テキスト	前期は、早川、他『政策過程論』2004年 (学陽書房)、2,600円。 後期は使用しない。
参考書	参考文献については講義の中で随時紹介する。

履修コード	126011
科目名	政治学概論
担当者名	中野 裕二 三竹 直哉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は3コース (=専門課程) に向けて最初のステップとして、各コースの基本的知識を習得し、各自の政治に対する問題関心を養っていくために設けられている。専門用語や理論の講義に際しては、できるだけ具体的事例に即して説明していきたい。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>【前期】 政治学科での勉強に興味や問題意識をもつきっかけを提供します。</p> <p>第1回：授業案内 第2回：婚活は少子高齢化を救うのか？ 第3回：生命誕生にルールはあるか？ 第4回：医師はなぜ足りなくなったのか？ 第5回：公務員は安定した職業か？ 第6回：地域の衰退は止められるか？ 第7回：格差社会をどう生きるか？ 第8回：貧困はなくなるのか？ 第9回：地球環境に限界はあるのか？ 第10回：グローバル化が当たり前なのか？ 第11回：メディアの影響力は大きいのか？ 第12回：選挙制度が政治を変えるのか？ 第13回：国会をいかに活性化するか？ 第14回：内閣をいかに機能させるのか？ 第15回：政治とは何か？</p>
----------	--

【後期】
指定したテキストの内容にそって、政治学の全体を概観する。以下のスケジュールはあくまでも予定です。受講生の理解度に応じて予定は変更されることもあります。

- 第1回 後期授業案内
第2回 序 政治学を勉強してみませんか (政治の定義、政治を科学するとは)
第3回 1. えっ!! 投票するの? 誰に投票するの? (投票行動論)
第4回 1. の補論 (日本の選挙制度)
第5回 2. テレビが政治をつくる? (マスメディアと政治意識)
第6回 3. 政治家ってどんな人? (政治活動、政治家の資質)
第7回 4. 思想と理念の絡み合い (55年体制、政党構造)
第8回 5. 官僚ってどんな人? (官僚制)
第9回 6. 変わる「コネ」社会 日本 (利益団体)
第10回 7. 政策のつくられ方 (政策過程)
第11回 8. 自立たない最高権力者 (首相のリーダーシップ)
第12回 9. 自立の気概 (地方自治)
第13回 10. 世界はどこへ行く? (国際政治)
第14回 11. グローバリゼーションと地域主義 (国際政治経済学)
第15回 12. 21世紀の試練 (政治改革、構造改革)

準備学習	<p>【前期】 教科書の指定箇所を読みノートを作成すること。新聞を毎週読んだうえで授業にのぞみ、経済ニュースや海外についてのニュースに積極的に触れること。中学校社会科の内容について、各自で計画的に復習・学習すること。</p>
------	--

【後期】
指定された教科書の各章を事前に読み、理解できない語句や内容をメモしておくこと。

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・前後期を通じてきちんと出席すること。 ・出された課題は必ずやること。 ・新聞を読むこと。
---------	---

必ず指示された準備をして教室にくること。授業の最新情報はYeStudyで確認してください。

成績評価の方法	前期と後期の成績を総合的に評価します。
---------	---------------------

【前期】
YeStudy内に設置する掲示板内に毎週提出する課題、授業時間内の活動、発言や質問などに基づく平常点によります。

【後期】
後期についての学生に期待される到達レベルは以下の通りです。
①日本の政治の制度について概要が説明できること。
②政治学の主要な概念や理論を教科書の説明に即して説明できること。
③政治に対する自分なりの意見を説得的に述べることができること。
以上の到達レベルに達しているかどうかを、定期試験期間中の試験、授業時間中に実施するミニテスト、小テストなどを通して判断します。授業時間中の発言、意見質問用紙の提出も評価します。

教科書/テキスト	<p>【前期】 岩崎正洋・西岡晋・山本 達也編著『政治の見方』八千代出版、2010年</p>
----------	--

【後期】
伊藤光利編『ポリティカル・サイエンス事始め (第3版)』 (有斐閣) 2009年

参考書

履修コード	126001
科目名	政治学概論
担当者名	早川 純貴 浦田 早苗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は3コース (=専門課程) に向けて最初のステップとして、各コースの基本的知識を習得し、各自の政治に対する問題関心を養っていくために設けられている。専門用語や理論の講義に際しては、できるだけ具体的事例に即して説明していきたい。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>【前期】 (浦田)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①日本の政治システム (3回) ②政治と経済 (3回) ③日本社会の特異性 (2回) ④自由・権利・公共 (2回) ⑤第二次大戦後の国際政治 (2回) ⑥西欧の政治制度 (2回) <p>【後期】 (早川)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①行動論政治学とDNモデル (2回) ②権力と影響力 (3回) ③権力多元論とエリート論 (3回) ④福祉国家論 (6回)
----------	---

準備学習	少なくとも常日頃新聞 (政治・経済面) を読んでおくこと。授業の後は必ず自分がとったノートを読み返し、疑問点は自分で調べるなり、次の授業時に質問すること。
------	---

履修上の留意点	政治学は権力の形成・行使・監視にかかわる事象を扱う科学であり、権力は悪魔的魅力を有する存在でもある。権力への評価は常に価値の対立を内在する。つまり政治学とはさまざまな価値が交錯する学問であり、薄っぺらな理想論者ではなく、冷徹な現実主義者が学ぶ学問でもある。
---------	--

成績評価の方法	前後期に試験 (各50点) を実施する。その合計点で成績評価を行う。
---------	------------------------------------

教科書/テキスト	前期は使用しない。 後期は、早川、他『政策過程論』2004年 (学陽書房)、2,600円。
----------	--

参考書	参考文献については講義の中で随時紹介する。
-----	-----------------------

履修コード	126201
科目名	政治学原論
担当者名	大塚 桂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>I自己紹介 私は、いままでイギリスの政治的多元主義・新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれませんが。政治学のみならず隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。私の研究室は、第二研究館八階(2835)にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。</p> <p>II講義の目的 政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、政治現象の理論的説明と説明ができるように基礎的的原理的知識を修得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門学科目を研究する上で必要な知識を提供することです。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>III講義のすすめかた 現代政治学のアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。</p> <p>IV講義の内容 おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。 A政治学の課題と対象、ならびに方法(1) B政治の原理的究明 (1) 政治的なもの ～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従 (2) 共同体的なもの ～国家、社会、主権、法 (3) イデオロギー的なもの ～イデオロギー、正義、自由、平等、人権(シティズンシップ)(2～15) C政治の実体論的究明 (1) 制度論的究明 ～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制(16～22) (2) 機能論的究明 ～政党、圧力団体、市民参加、マスコミ、政治教育、政治的社会化(23～30)</p>
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	
成績評価の方法	

V成績評価
単位の認定は、ペーパー試験を中心におこないます。
成績評価は、
 中間試験：50%
 学年末試験：50%
以上の割合によるものとします。教科書、授業の理解度を重視し採点します。
なお、追試験も実施します。

教科書/テキスト	大塚桂『政治学原論序説』(勁草書房)3,296円 大塚桂『政治哲学入門』(法律文化社)2,900円
参考書	上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。
その他	学習にあたっては、大塚編「補章オリエンテーション政治学」、『政治学へのいざない』(成文堂)、大塚編『日本の政治学』(法律文化社)等を参考にしてください。

履修コード	134101
科目名	政治学特殊講義(1)
担当者名	浦田 早苗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	これからの日本の政治、経済、社会を考える上で重要と思われる論点を取り上げ、討議することによって各自の問題意識を高めていきたい。
授業スケジュール	日本の政治システム 日本経済の今後 結果の平等・機会の平等 民主主義の限界 日米外交 アジア外交 日本の安全保障 格差社会 行政改革 危機管理 地域の再生 犯罪被害等に関する記事、小論を毎時間2～3取り上げ議論を行う。
準備学習	週間ニュース(その週で興味を持ったニュース)を毎時間A4用紙2枚にまとめて提出すること。
履修上の留意点	毎回出される課題について調べ、自分の意見をまとめ、発言することが求められる。
成績評価の方法	授業での発言内容を評価する。
教科書/テキスト	
参考書	
その他	政治経済小説に興味ある学生、または1週間に2～3冊の小説を読む学生が望ましい。

履修コード	134201
科目名	政治学特殊講義（2）
担当者名	山崎 望

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>【授業の狙い】近代以降の政治は、主に主権国家の間の秩序が問題となる「国際政治」と、主権国家内部の秩序が問題となる「国内政治」とに分かれて論じられてきました。しかし国境を越えて人、モノ、資本、情報、文化など展開するグローバル化により、国内政治と国際政治の境界線は以前ほど明確なものではなくなりつつあります。一方ではEUやイスラム圏などの巨大な地域主義が台頭し、世界レベルでも安全保障や貧困、環境への取り組みの仕組も作られるなど、国境を越えた緊密なネットワークが張り巡らされ、国境を越えた協力と衝突が起きています。テロをめぐる問題や「アラブの春」、リーマンショック、欧州経済危機は国境の向こうの「他人事」ではありません。逆に国内では格差などの分裂が、国境よりも高い壁となって立ちはだかっています。「国内政治／国際政治」といった境界線が融解することによって、いかなるリスクと可能性が出てきたのかを受講者と共に考えます。</p> <p>【到達目標】講義の終了までに、世界秩序の行方についての世界における多様な議論を理解すると同時に、新たな世界秩序の在り方について、各自に意見をもってもらいます。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 国民国家論 第2回 「帝国」論 1 第3回 「帝国」論 2 第4回 市民社会論 1 第5回 市民社会論 2（世界内政政治論） 第6回 国家の退場論 第7回 グローバル・ガバナンス論・人道的介入論 第8回 「新しい中世」論 第9回 地政学の復権（新帝国主義論） 第10回 地域主義論 1 第11回 地域主義論 2 第12回 リベラル・ナショナリズム論 1 第13回 リベラル・ナショナリズム論 2 第14回 福祉国家擁護論・経済ナショナリズム論 第15回 新しい政治の発見？（路上の政治としてのデモと芸術）</p>
----------	---

準備学習	<p>極めて専門性の高い、いわば「現代政治理論の最前線」ともいうべき講義となりますので、当該問題に強い関心を持ち、難解な専門書を読み（場合によっては英語を含む）、レポートの提出や研究報告をする意思と高度な能力を持っていることが求められます。関連分野についての書籍を読破している事が求められます。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>極めて専門性の高い、いわば「現代政治理論の最前線」ともいうべき講義となりますので、当該問題に強い関心を持ち、難解な専門書を読み（場合によっては英語を含む）、頻繁にレポートの提出や研究報告をする意思と高度な能力を持っていることが求められます。担当者（山崎）の「現代政治理論」の単位を取得済みである事が強く望まれます。また担当者による「演習」との関連が強いテーマなので、当該科目の受講生は単位登録することを強く勧めます。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>レポート 50% 平常点 50%</p>
---------	-----------------------------

教科書／テキスト	特になし。
----------	-------

参考書	講義の進行に応じて、適宜指定します。
-----	--------------------

その他	少人数の受講生によるハイレベルな講義を想定しています。講義のテーマと関連した個人研究報告の機会なども設ける予定です。
-----	--

履修コード	134301
科目名	政治学特殊講義（3）
担当者名	早川 純貴

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>本講義では日本の労働政治の変遷を辿り、労働勢力の政治的役割、とりわけ「公労協」運動が日本労働運動史に残した意義と限界について論じていきたい。さらに、労働者を守る立場の労組の力が、他の先進諸国と比べ、日本が著しく弱い原因をも考えてみたい。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>①利益団体の概念、および戦後労働運動の概要—権力資源論の視点から（3回）、②公労協の特色と社会党（2回）、③75年スト権ストをめぐる公労協と自民党（3回）、④国労の分裂（2回）、⑤全連の路線転換（2回）、⑥総評の崩壊と連合への合流—労働戦線統一に向けて（2回）</p>
----------	---

準備学習	<p>日常的に新聞の政治・経済面をよく読んでおくこと。また授業後は必ずノートを読み返し、疑問点は自分で調べるなり、次の授業時に質問すること。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>講義では労働組合運動の解説のみならず、自民党や（旧）社会党にも言及する。日本の現代政治を労働勢力と政府・自民党との対立と妥協の視点から論じることになるが、労働政治に関心のある学生の聴講を歓迎する。</p>
---------	---

成績評価の方法	定期試験により評価する。
---------	--------------

教科書／テキスト	使用しない。
----------	--------

参考書	講義の中で随時紹介する。
-----	--------------

履修コード	134401
科目名	政治学特殊講義（４）
担当者名	内海 麻利

授業概要/ 到達目標（ねらい）	近年、社会情勢の変化のなかで、住民参加や市民活動が注目されている。特に前者は政策形成プロセスにおける参加を意味することが多く、これは、行政機関が執行する「公共性」と市民が望む「公共性」の乖離を埋めるものであると考えられる。他方、後者はNPO等による公益活動の展開により地域社会が担う「新しい公共」として顕在化してきている。本講義では、住民参加や市民活動を、都市政策やまちづくりの事例を通じて「公共性」の観点から実践に即した手法を用いて（現地調査、ワークショップ手法などを用いて）議論、考察、発表することで、実践的かつ理論的に探究する。
--------------------	---

授業スケジュール	講義では、住民参加や市民活動に関する既存の理論を踏まえた上で、事例を取り上げワークショップによる議論を重ね、各人の考えを発表する機会を設ける。なお、詳しい授業スケジュールは、第1回ガイダンスで提示する。 ・ガイダンス(1) ・市民と公共性(2) ・政策形成プロセスにおける住民参加(3) ・合意形成とその手法(4) ・事例に基づくワークショップ(5-12) ・事例の考察を発表(13-15)
----------	---

準備学習	教科書に記述されている事例を理解しておくこと。
履修上の留意点	住民参加、市民活動に興味のある人が望まれる。
成績評価の方法	授業への出席、発表の充実度などを中心に評価する。
教科書／テキスト	内海麻利『まちづくり条例の実態と理論』第一法規株式会社、2010年、2,700円＋税、ISBN978-4474024991
参考書	その都度紹介します。

履修コード	126801
科目名	政治過程論
担当者名	早川 純貴

授業概要/ 到達目標（ねらい）	本年度の政治過程論は、政党についての基本概念から最近の理論研究までを検討する。講義では、その時々の政策事例を織り交ぜながら、政党に関する研究とその意義について論じていきたい。現代政治の基本である政党政治の理論と現実について、一定の基礎知識を習得してもらいたい。
--------------------	--

授業スケジュール	<p>前期《政党の理論》15回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 政党の概念について（2回） 2 政党の発生と展開（2回） —— ロックン・テーゼ 3 包括政党から選挙政党へ（3回） —— ダウنزの理論と福祉国家 4 政党システムについて（2回） —— サルトーリの政党システム 5 一党優位政党制と多党制（3回） —— 多党制は不安定？ 6 政党組織の研究（3回） —— パネビアンコの理論と キツェルト・モデル <p>後期《日本の政党政治》15回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自民党Ⅰ——通説の再検討（2回） 2 自民党Ⅱ（4回） ——最近の研究動向と事例研究 3 野党について（2回） —— 国会における野党の強さ 4 〈旧〉社会党について（3回） —— なぜ衰滅したのか 5 公明党について（2回） —— その宗教性と現実主義 6 民主党について（2回） —— 政権奪取とその後
----------	---

準備学習	理論的内容が多いので、授業の後は必ずノートを読み返し、分からないところや疑問に思ったことは自分で調べるなり、次の授業時に質問して、理解を深めるようにすること。
履修上の留意点	講義では理論の解説に多くの時間をかける。理論の話は継続して聞かないと理解できない。きちんと出席することが肝要である。分からないときは遠慮せず質問すること。質問は学生の権利であり、教員はそれに答える義務がある。
成績評価の方法	中間試験と定期試験の合計点数により評価する。
教科書／テキスト	使用しない。
参考書	講義の中で随時紹介する。

履修コード	130301
科目名	政治経済学
担当者名	白鳥 浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	政治と経済は、現代においては社会の両輪にも例えられています。また、積極政治の進展とともに、政治と経済をマクロに理解する視座の重要性が叫ばれています。本講義においては、政治経済学の全体像を学んでもらいます。特に、先進国におけるデモクテシーのあり方は、政治と経済に関する政策的なスタンスの違いに起因することを検討することを目的とします。最終的には、国民国家の発展の到達点といわれる福祉国家を理解することにつなげていきたいと考えています。
---------------------	--

授業スケジュール	以下の内容を初めてのひとにもわかるように講義します。
----------	----------------------------

1. 政治と経済 (1~4)
2. 戦後政治経済 (5~8)
3. システム論とレジーム論 (9~12)
4. コーポラティズム (13~15)
5. 福祉国家論「白鳥・ローズの混合福祉論」 (16~18)
6. 福祉国家論「福祉国家の三つの世界論」 (19~22)
7. 経済と文化の間の政治「ヨーロッパの福祉国家」 (23~25)
8. 北欧の福祉国家の変容 (26~27)
9. 福祉国家としての日本 (28~29)
10. 脱工業化社会に向かうのか? (30)

準備学習	前の週の復習をできるだけ行うこと。ニュースに敏感になること。
------	--------------------------------

履修上の留意点	関心を持って、講義に出席してください。
---------	---------------------

成績評価の方法	試験を中心とするが、総合的に判断する。
---------	---------------------

教科書/テキスト	新川・井戸・宮元・眞柄『比較政治経済学』(有斐閣)2004年
----------	--------------------------------

参考書	白鳥編『福祉国家の再検討』(新評論)2000年 授業内で適宜、指示します。
-----	--

履修コード	127101
科目名	政治思想史
担当者名	大塚 桂
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	古代から現代にいたるヨーロッパ政治思想を通観する。国民主権原理や基本的人権主義がどのようにして形成されたのかを、政治思想史研究を通して解明するのを目標とする。 なお、本講義は清滝教授の代講として、平成23・24年度にわたり担当する。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 政治思想史の課題と方法 2. ポリスの政治思想 3. ローマ帝国の政治思想 4. キリスト教共同体の政治思想 5. 宗教改革の政治思想 6. モナルコマキ 7. 絶対主義 8. ユートピア思想 9. 契約思想 10. 市民革命の政治思想 11. フランス啓蒙思想 12. スコットランド啓蒙思想 13. フランス革命期の政治思想 14. 保守主義と急進主義 15. ロマン主義 16. ドイツ観念論 17. フランス実証主義 18. アメリカ共和主義 19. 功利主義 20. アナーキズム 21. マルクス主義 22. 新自由主義 23. 理想主義 24. 一般国家学 25. 社会連帯主義 26. 政治的多元主義 27. ヨーロッパ政治思想と日本の近代化 28. ヨーロッパ政治思想と日本の政治学 29. ヨーロッパ政治思想と私 (大塚) 30. まとめ
準備学習	特になし。
履修上の留意点	第一に、講義に出席すること。第二に、教科書を精読すること。そして、第三に原典にふれること。
成績評価の方法	前・後期試験とレポートにより評価します。難解な科目であることから、ゆるやかに採点、評価し、単位を認定していきます。
教科書/テキスト	大塚桂「ヨーロッパ政治理念の展開 (SBC法科大学院シリーズ)」(信山社・星雲者) 価格未定
参考書	上記教科書巻末<参考文献>を参照のこと。
その他	

履修コード	129701
科目名	政治社会学
担当者名	中野 裕二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本年度の「政治社会学」の長期的目標は次の二点にあります。第1に、現代社会を分析し、理解し、説明する力を身につけること、第2に、現代社会の諸問題を解決する理論を模索することです。</p> <p>しかし、直ちに現代社会の現状分析を行うことは不可能です。それは、分析道具である概念や理論を持たないからです。そこで、この講義では、19世紀の社会学者たちが、19世紀社会をいかに分析し、理解し、説明したか、また、彼らが19世紀社会の諸問題をいかに理論的に解決し、乗り越えようとしたのかを学びます。</p> <p>それでは、なぜ19世紀なのか。理由は2つあります。第1に、19世紀社会は、産業革命と市民革命を経た大変動期であり、われわれの現代社会が抱える問題が初期形態として登場した時代であるので、問題を把握することが比較的容易であるからです。第2に、19世紀の社会学者たちの理論的営みは、現代政治学の基礎になっているからです。彼らを抜きにして現代政治学を理解することはできません。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	以下に示すスケジュールは、あくまでも予定です。受講生の理解度に応じて予定が変更されることもあります。
----------	--

- 第1回 イントロダクション (授業概要、成績評価など)
- 第2回 序 政治社会学について (その1) (政治学の歴史)
- 第3回 序 政治社会学について (その2) (現代政治学の構造)
- 第4回 序 政治社会学について (その3) (政治社会学とは)
- 第5回 授業内容の確認 (その1)
- 第6回 第1章 トクヴィル (その1) (デモクラシーとアリストクラシー)
- 第7回 第1章 トクヴィル (その2) (政治的無関心、多数者の専制)
- 第8回 第1章 トクヴィル (その3) (相対的剥奪)
- 第9回 第1章 トクヴィル (その4) (政治的結社、地方自治)
- 第10回 第2章 マルクス (その1) (産業革命)
- 第11回 第2章 マルクス (その2) (初期社会主義批判)
- 第12回 第2章 マルクス (その3) (人間疎外)
- 第13回 第2章 マルクス (その4) (科学的社会主義)
- 第14回 第3章 コント (その1) (人間精神の進化論)
- 第15回 第3章 コント (その2) (実証主義)
- 第16回 授業内容の確認 (その2)
- 第17回 第4章 デュルケム (その1) (社会的病理)
- 第18回 第4章 デュルケム (その2) (実証主義的方法の規準)
- 第19回 第4章 デュルケム (その3) (自殺の社会学的研究)
- 第20回 第4章 デュルケム (その4) (自殺の四類型)
- 第21回 授業内容の確認 (その3)
- 第22回 第5章 ヴェーバー (その1) (神なき時代の社会科学)
- 第23回 第5章 ヴェーバー (その2) (社会的行為)
- 第24回 第5章 ヴェーバー (その3) (理解社会学)
- 第25回 第5章 ヴェーバー (その4) (価値自由)
- 第26回 第6章 20世紀の政治社会学 (その1) (政治学のルネサンス)
- 第27回 第6章 20世紀の政治社会学 (その2) (政治過程論の誕生)
- 第28回 第6章 20世紀の政治社会学 (その3) (行動論政治学)
- 第29回 授業内容の確認 (その4)
- 第30回 授業の総括

準備学習	各章の最初に参考文献を紹介するので、自主的に読むことが望ましい。
------	----------------------------------

履修上の留意点	<p>上記のように、社会学者ごとに項目を設けて講義を進めます。しかし、この講義は「学説史」に重点を置くものではありません。それぞれの社会学者たちが、自分の生きた時代の何を問題視し、それをいかに理論的に乗り越えようとしたのか、という知的営みに焦点を当てます。受講生はつねに、現代社会への応用を念頭に置いて、「今日の社会問題との相違点は何か」「現代に利用できる理論は何か」という関心をもって望んで欲しいと思います。</p> <p>なお、後期の授業内容は大きく変更されることもあります。その場合は、お知らせします。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>学生に期待される到達レベルは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①政治学理論発展のプロセスを理解している。 ②19世紀の社会学者たち各々の問題関心と、彼らの学問的貢献を関連づけて説明できる。 ③政治科学の初期理論を理解できている。 ④授業で学んだ理論を応用できる。 <p>以上の到達レベルに達しているかどうかを、期末試験と授業時間中の小テストなどをもって総合的に判断します。なお、授業中の意見・質問などの授業への積極的参加は、補助的に評価します。</p>
---------	--

教科書/テキスト	教科書は使用しません。毎回プリントを配布し、その内容にそって授業を進める予定です。参考文献は適宜紹介します。
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	093501
科目名	農業政策
担当者名	溝手 芳計

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>「現代農業と食料・農業政策の展開」を基本テーマとする。</p> <p>①農業の産業的特質と現下の農業の急激な変化を理解する。②WTO農業協定における世界的な農業政策ルールの変化の特徴と意義を知る。③市場経済における価格メカニズムの機能との関連で、価格政策の縮小＝直接支払いへの移行という政策ツールの変化について考察する。④これらを念頭に置きつつ、日本の農業問題の特質と食料・農業・農村政策の歩み・現状について考察する。⑤あわせて、日本及び世界の食料問題と対策について検討する。以上5項目について、基礎的な知識を伝授することを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回：農業政策とは？</p> <p>第2回：食料問題と食料政策(1)食料問題とは何か(需要・供給・分配)</p> <p>第3回：食料問題と食料政策(2)食料自給率低下と需要サイドの要因(需要の所得弾力性、食生活の近代化)</p> <p>第4回：食料問題と食料政策(3)食料自給率低下と供給サイドの要因(市場開放、外国為替レート)</p> <p>第5回：食料問題と食料政策(4)市場経済下における食の外化・サービス化とフードシステム</p> <p>第6回：食料問題と食料政策(5)フードシステムの発展とアグリビジネスの影響力拡大</p> <p>第7回：食料問題と食料政策(6)グローバリゼーションと食料・食品安全問題</p> <p>第8回：農業の特質と現代農業(1)農業の産業的特質(生物資源培養産業、環境関連産業)</p> <p>第9回：農業の特質と現代農業(2)農業の産業的特質(土地利用産業)</p> <p>第10回：農業の特質と現代農業(3)現代農業革命と農業・食の工業化</p> <p>第11回：農業の特質と現代農業(4)農業・食の工業化とアグリビジネスの浸透(契約生産を中心に)</p> <p>第12回：日本の農業問題と農業政策(1)日本の農業政策を見る目(零細農耕、資本蓄積、農村振興)</p> <p>第13回：日本の農業問題と農業政策(2)零細農耕の形成と温存(自然的要因、地租改正・農地改革)</p> <p>第14回：日本の農業問題と農業政策(3)高度成長と農業基本法(構造改善、選択的拡大、所得均衡)</p> <p>第15回：日本の農業問題と農業政策(4)低成長への移行と地域農政(財政危機、米過剰、地域農政)</p> <p>第16回：日本の農業問題と農業政策(5)ブラザ合意=円高、日米経済摩擦=市場開放と日本農業</p> <p>第17回：日本の農業問題と農業政策(6)WTO農業協定と日本の農政改革</p> <p>第18回：日本の農業問題と農業政策(7)食料・農業・農村基本法</p> <p>第19回：日本の農業問題と農業政策(8)政権交代と農業政策</p> <p>第20回：農産物価格と価格・所得政策(1)市場経済における価格の役割と農産物価格問題</p> <p>第21回：農産物価格と価格・所得政策(2)農産物価格形成の特殊性(土地利用産業と差額地代)</p> <p>第22回：農産物価格と価格・所得政策(3)農産物価格形成の特殊性(家族経営、寡占と不等価交換)</p> <p>第23回：農産物価格と価格・所得政策(4)農産物価格政策の2類型(価格支持と不足払い)</p> <p>第24回：農産物価格と価格・所得政策(5)戦後日本の価格政策(米価政策を中心に)</p> <p>第25回：農産物価格と価格・所得政策(6)価格政策から直接支払いへ(市場を経由しない農家支援へ)</p> <p>第26回：世界の農業・農業政策(1)アメリカの農産物貿易と世界市場戦略</p> <p>第27回：世界の農業・農業政策(2)EUにおける農業・食品関連産業の動向と共通農業政策改革</p> <p>第28回：世界の農業・農業政策(3)グローバリゼーションと新興農業国チリの農業</p> <p>第29回：世界の農業・農業政策(4)グローバリゼーション下で苦しむ後発途上国農業</p> <p>第30回：新しい食料・農業・農村政策をめざして(農業・食料における市場の意義と限界)</p>
----------	--

準備学習	授業プリントで、復習・予習箇所を案内するので、教科書を予習して授業を受けてください。
------	--

履修上の留意点	充実した授業は、教員の努力だけでできるものではありません。授業中に「コミュニケーション・カード」を配布しますので、授業の感想や質問、意見を書いてください。授業改善の参考にします。
---------	---

成績評価の方法	成績評価は、定期試験を基本としますが、授業中の小テストの結果を加味します(総点の20%以下)。追試験有り。
---------	---

教科書/テキスト	<p>田代洋一『新版農業問題入門』、大月書店、3150円、ISBN978-4-272-14046-6</p> <p>中野一新・岡田知弘編『グローバリゼーションと世界の農業』、大月書店、3150円、ISBN978-4-272-14055-8</p> <p>※どちらも、授業中には使いませんが、予復習してください。</p>
----------	---

参考書	<p>大塚茂・松原豊彦編『現代の食とアグリビジネス』、有斐閣、2100円、ISBN4-641-28094-0</p> <p>加瀬良明編著『グローバル資本主義と農業』、筑波書房、2940円、ISBN978-4-8119-0332-3 C3033</p>
-----	---

履修コード	097071
科目名	非営利組織論 a
担当者名	松本 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>非営利組織 (非営利セクターに属する組織) には、営利セクター・行政セクターに含まれない NPO 法人、社会福祉法人、学校法人、医療法人、公益法人、協同組合など多種多様な組織が含まれる。非営利組織は、政府・行政や企業活動の行き詰まりが顕在化する中で、福祉分野、まちづくり分野、環境分野、国際協力分野などにおいて活躍の場を着実に拡大し、雇用創出面における期待も増大し、経済活動の主体としてその役割が無視できない存在に発展している。また、行政や企業と非営利組織との協働 (コラボレーション) も活性化している。本講義では、非営利組織の事例を通じて、その存在意義、役割を学ぶ。</p> <p>(到達目標)</p> <p>本講義の到達目標は、非営利組織の現実を踏まえて、営利/非営利組織の共通性/差異性を明確化し国際比較を行うことによって、非営利組織とは何か、とくに非営利事業体を含めてその発展の課題や社会的な存在意義に関する理解が深めることである。また、非営利組織が取り組む社会的課題に関連する知識 (例えば、高齢者介護分野であれば介護保険法など) を習得することも到達目標である。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 非営利組織とは何か 1 狭義の非営利組織</p> <p>第3回 非営利組織とは何か 2</p> <p>第4回 非営利組織とは何か 3</p> <p>第5回 非営利組織とは何か 4 広義の非営利組織</p> <p>第6回 非営利組織の活動分野と経済規模、法・税制度</p> <p>第7回 非営利組織の活動 1 福祉 (高齢者介護) の非営利組織</p> <p>第8回 非営利組織の活動 2 福祉 (子育て・障害者支援) の非営利組織</p> <p>第9回 非営利組織の活動 3 環境・まちづくりの非営利組織</p> <p>第10回 非営利組織の活動 4 国際協力・貧困を解決する非営利組織</p> <p>第11回 非営利組織の実践者による講演</p> <p>第12回 非営利事業体、社会的企業、社会的起業家</p> <p>第13回 非営利組織の国際比較 1</p> <p>第14回 非営利組織の国際比較 2</p> <p>第15回 非営利組織論 a のまとめ</p>
----------	--

準備学習	<p>(受講前)</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットで自分の住む地域の「NPO 法人」を検索してどのような取り組みを行っているか調べておくこと。 日ごろから新聞に目を通し、NPO に関連する記事を読んでおくこと。 <p>(受講中)</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義の 3 日前に、YeStudy に配布レジュメをアップロードするので、適宜印刷して持参すること。 毎回、復習をすること。 授業内容に関連した新聞記事や HP を授業内で取り扱うことがあるので、関連したメディアに目を通しておくこと。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 講義に主体的・積極的に参加する学生の履修を望む。 YeStudy に必ず登録すること。レポート提出や小テストの実施時に利用する。
---------	---

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 成績は、定期試験 70%、平常点・レポート等 30% で、総合的に評価する。
---------	--

教科書/テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 特に指定しない。 YeStudy 上で、レジュメを配布する。
----------	---

参考書	<ul style="list-style-type: none"> 適宜、資料を配布したり、関連 HP を紹介する。 非営利組織の用語に関する基本文献として以下を薦める。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 雨森孝悦『テキストブック NPO』東洋経済新報社、2007 年。 (2) 川口清史・田尾雅夫・新川達郎編『よくわかる NPO・ボランティア』ミネルヴァ書房、2005 年。 (3) 田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣、2009 年。 (4) 山岡義典編著『NPO 基礎講座・新版』ぎょうせい、2005 年。
-----	--

その他	<ul style="list-style-type: none"> YeStudy を活用する。 映像等の利用や現場で活動する人の講演なども交えることによって、できるだけ非営利組織の現実を実感できるように講義を進める。
-----	--

履修コード	097081
科目名	非営利組織論 b
担当者名	松本 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 非営利組織 (非営利セクターに属する組織) には、営利セクター・行政セクターに含まれない NPO 法人、社会福祉法人、学校法人、医療法人、公益法人、協同組合など多種多様な組織が含まれる。非営利組織は、政府・行政や企業活動の行き詰まりが顕在化する中で、福祉分野、まちづくり分野、環境分野、国際協力分野などにおいて活躍の場を着実に拡大し、雇用創出面における期待も増大し、経済活動の主体としてその役割が無視できない存在に発展している。また、行政や企業と非営利組織との協働 (コラボレーション) も活性化している。本講義では、非営利組織の存在理由をベースに、設立方法およびマネジメントを学ぶ。</p> <p>(到達目標) 本講義の到達目標は、非営利組織論 a で学習した内容に基づき、「営利/非営利」、「社会的企業」、「社会起業家」、「コミュニティ・ビジネス」、「ソーシャル・キャピタル」等をキーワードに、非営利組織の経営学の理解を深めることである。さらに、NPO 法人の設立プランを作成し、実際に起こりうる経営課題を分析することによって、非営利組織を設立する知識・技術を身につけることも到達目標である。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、非営利組織論 a の復習 第2回 非営利組織の存在理由 1 - 市場の失敗、政府の失敗 - 第3回 非営利組織の存在理由 2 - 社会的ニーズの多様化、新しい公共性 - 第4回 非営利組織の設立プランづくり 第5回 社会的起業家 1 第6回 社会的起業家 2 第7回 非営利組織の設立・運営方法、ガバナンス 1 第8回 非営利組織のマネジメントの基本的特徴 第9回 非営利組織の資金調達・会計 第10回 非営利組織の実践者による講演 1 第11回 非営利組織のネットワーク 1 - 行政とのコラボレーション - 第12回 非営利組織のネットワーク 2 - 企業とのコラボレーション - 第13回 非営利組織の実践者による講演 2 第14回 非営利組織のガバナンス 2 第15回 非営利組織論 b のまとめ</p>
----------	---

準備学習	<p>(受講前) ・非営利組織論 a の内容を復習しておくこと。 ・日ごろから新聞に目を通し、NPO に関連する記事を読んでおくこと。 (受講中) ・講義の 3 日前に、YeStudy に配布レジュメをアップロードするので、適宜印刷をして持参すること。 ・毎回、復習をすること。 ・授業内容に関連した新聞記事や HP を授業内で取り扱うことがあるので、関連したメディアに目を通しておくこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容は、非営利組織論 a を履修していることを前提とする。 ・講義に主体的・積極的に参加する学生の履修を望む。 ・YeStudy に必ず登録すること。レポート提出や小テストの実施時に利用する。
---------	---

成績評価の方法	・成績は、定期試験 70%、平常点・レポート等 30% で、総合的に評価する。
---------	---

教科書/テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・特に指定しない。 ・YeStudy 上で、レジュメを配布する。
----------	---

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、資料を配布したり、関連 HP を紹介する。 ・非営利組織の用語に関する基本文献として以下を薦める。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 風見正三・山口浩平編著『コミュニティビジネス入門』学芸出版社、2009年。 (2) 川口清史・田尾雅夫・新川達郎編『よくわかる NPO・ボランティア』ミネルヴァ書房、2005年。 (3) 塚本一郎・山岸秀雄編著『ソーシャル・エンタープライズ』丸善、2008年。 (4) パブリックリソースセンター編『NPO 実践マネジメント入門』東信堂、2009年。 (5) 山岡義典・雨宮孝子編著『NPO 実践講座・新版』ぎょうせい、2008年。
-----	--

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・YeStudy を活用する。 ・映像等の利用や現場で活動する人の講演なども交えることによって、できるだけ非営利組織の現実を実感できるように講義を進める。
-----	--

履修コード	134001
科目名	比較憲法
担当者名	柳瀬 昇

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は、わが国の憲法との比較において、諸外国の憲法の歴史、制度及び運用を学ぶことを通じて、法的なものの考え方を養うことを目的とする。 主要各国の憲法を比較しながら、立憲主義の普遍性及び各国の憲法の固有性を学ぶとともに、わが国の憲法についての理解をより深めてほしい。
---------------------	---

授業スケジュール	諸外国の憲法の成立過程、著名な判例を通じた憲法運用、統治機構規定の比較分析の順に講義を行う。 第1回 比較憲法の意義 第2回 英国憲法史 (1) 第3回 英国憲法史 (2) 第4回 アメリカ合衆国憲法史 (1) 第5回 アメリカ合衆国憲法史 (2) 第6回 フランス憲法史 (1) 第7回 フランス憲法史 (2) / ドイツ憲法史 (1) 第8回 ドイツ憲法史 (2) 第9回 非西洋諸国の憲法 第10回 国際社会と憲法 (1) 第11回 国際社会と憲法 (2) 第12回 精神的自由権 (1) 第13回 精神的自由権 (2) 第14回 精神的自由権 (3) 第15回 前期の総括 第16回 経済的自由権 第17回 社会権・参政権 第18回 新しい人権 (1) 第19回 新しい人権 (2) / 平等 (1) 第20回 平等 (2) 第21回 人権総論 第22回 英国の統治機構 (1) 第23回 英国の統治機構 (2) 第24回 アメリカ合衆国の統治機構 (1) 第25回 アメリカ合衆国の統治機構 (2) 第26回 フランスの統治機構 (1) 第27回 フランスの統治機構 (2) 第28回 ドイツの統治機構 (1) 第29回 ドイツの統治機構 (2) 第30回 後期の総括
----------	---

準備学習	基本的には予習は必要ないが、その代わりに、必ず講義に出席し、復習に努めてほしい。
履修上の留意点	この講義は、日本国憲法の解釈論について学んだことのある学生を対象として、発展的な内容を講述する科目である。したがって、原則として、前年度までに「憲法」の講義を履修し、かつ、単位を修得済みの学生を対象とする。 講義の進行を妨げるような遅刻や早退は、厳に慎まれない。講義を受講する意思のない学生に対しては、学期の半ばでも講義の受講を遠慮してもらうことがある。
成績評価の方法	期末に行う筆記試験 (前期・後期各1回) や、授業時間中に適宜行う小テスト等に基づき、総合的に判断する (履修者数が少ない場合には、レポートを中心とした成績評価の方法に変更することもある)。 上位5%の者を「S」、80点以上の者を「A」、70点以上の者を「B」、60点以上の者を「C」とし、60点未満の者を「F」と評価する。
教科書/テキスト	特に指定しない。 毎回、授業担当者の作成したレジュメや資料を配布する。受講にあたって必要となる資料は、YeStudy (e-learningシステム) にアップロードしておく。
参考書	第1回の講義で説明する。
その他	講義の内容に関する質問や学生生活上の相談については、講義の前またはオフィスアワーにおいて対応する。確実に時間を確保したい場合には、電子メール (noboru@komazawa-u.ac.jp) で事前に連絡をとることをすすめる。

履修コード	128201
科目名	比較政治学
担当者名	三竹 直哉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>政治学科の専門科目として本格的な大学の授業を経験する場を提供します。昨年度までの履修者のメッセージをYeStudyに掲載してありますので、参考にすると何が得られる授業かわかります。</p> <p>比較政治学は、いろいろな国や地域の事例を比較して、政治現象の因果関係の解明を目指す分野です。この授業では、その一端をご紹介しますとともに、みなさん自身が比較研究をするのに役に立つ手法を練習します。また、政治にまつわる多くのことがらに対する問題意識を養い、政治学を専攻している大学生であるみなさんが、人間についてより深く考える人になることも目標としています。</p> <p>「比較」という手法は、あらゆる分野に使える方法ですので、まじめに勉強すると卒業後も役に立つことが多いと思います。</p> <p>この授業を最後までやり通すことで、少しずつ計画的に学習する習慣が身につきます。さらに、グループ活動が多いので、自己表現やプレゼンのスキルも身につきます。ノートの作り方も習得します。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>この文章は2011年12月の時点で書いています。この授業には世界や日本で今現在起きている出来事を反映させる必要があります。また、よいドキュメンタリー番組などが放映されれば、積極的に使っていくと考えています。参加する学生の関心や熱意、人数によって、授業内容も変えていきます。したがって、2011年12月の時点で詳細な授業スケジュールを確定させることはできません。基本的には2012年度も2011年度同様、民主化、民族問題、移民政策といったテーマを取りあげ、比較研究の方法論の勉強をします。以下はあくまで参考です。</p>
----------	--

- 前期
- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 民主化を考える (ビルマ)
 - 第3回 民主化を考える (フィリピン)
 - 第4回 民主化を考える (ビルマとフィリピンの比較)
 - 第5回 民主化を考える (ブータン)
 - 第6回 民主化を考える (南アフリカ)
 - 第7回 民族問題を考える (ベルギー)
 - 第8回 民族問題を考える (スリランカ)
 - 第9回 民族問題を考える (カナダ)
 - 第10回 比較方法の基礎
 - 第11回 質的比較方法練習 (1) フール代数の基礎練習 (グループ活動)
 - 第12回 質的比較方法練習 (2) 西ヨーロッパの少数言語運動の比較
 - 第13回 質的比較方法練習 (3) フール代数の応用練習 その1 真理表作成 (グループ活動)
 - 第14回 質的比較方法練習 (4) フール代数の応用練習 その2 仮説検証 (グループ活動)
 - 第15回 質的比較方法練習 (5) フール代数の応用練習 その3 分析 (グループ活動)
- 後期
- 第16回 質的比較方法の復習：真理表作成
 - 第17回 質的比較方法の復習：仮説検証
 - 第18回 質的比較方法の復習：分析
 - 第19回 日本の民族問題を考える：アイヌ民族 その1 歴史
 - 第20回 日本の民族問題を考える：アイヌ民族 その2 現在
 - 第21回 日本の民族問題を考える：沖縄
 - 第22回 質的比較分析を実際にやってみる：仮説を考える
 - 第23回 質的比較方法を実際にやってみる：操作化
 - 第24回 移民政策を考える その1 人はなぜ移動するのか
 - 第25回 移民政策を考える その2 日本のイスラム教徒
 - 第26回 移民政策を考える その3 教育
 - 第27回 移民政策を考える その4 ヨーロッパ・アメリカ
 - 第28回 難民政策を考える その1 世界
 - 第29回 難民政策を考える その2 日本
 - 第30回 まとめ 対立を超えて

準備学習	<p>毎回事前にやってくる課題が出ますが、毎週こつこつやっていると興味深く感じるが増えていきますので、苦にならなくなっていきます。毎週1時間半程度は予習に使うことを想定しておく必要があります。新聞の国際面や国際ニュースに日常的に目を通すことも必要です。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>この授業は、自分で事前に勉強してきたことを「使って」、教室で様々な活動を行う授業です。「講義」形式の授業はほとんど行いません。知識のインプットなどは授業前にすませ、教室ではグループで作業をして教え合ったり討論したりプレゼンをしたりといったアウトプットを行います。そのため、ほぼ毎週文献を読んで来る等の課題が出ます。教室には《必ず》課題をやってくるのが条件です。こうすることで、やる気がある人だけでレベルが高いグループ活動や討論ができるようになります。</p> <p>他の授業とやり方が違いますので、一回目のガイダンス授業には必ず出席してください。一回目の授業に参加していない場合、減点が生じる可能性があります。</p> <p>中学校の社会科レベルの内容が身につけていること、新聞(特に国際面)をふだんから読んでいること、高校の社会科レベルの内容で授業に関連することは自分で学習すること、が条件です。</p> <p>欠席したときの授業内容は必ず各自の責任で補ってください。就職活動であろうが部活動であろうが、欠席した人を特別扱いすることはありません。(病気による長期欠席の場合は早めに相談してください)</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>原則として平常点と定期試験によります。参加人数が少なくなった場合、出席を取る可能性があり、出席と取り組みが良好な参加者は試験を免除する可能性があります。一回目の授業に参加していない場合、減点が生じる可能性があります。</p>
---------	---

教科書/テキスト	指定する可能性はありますが、現時点で未定です。
参考書	その都度紹介します。
その他	この文章は2011年12月時点に書いています。変更もあり得ます。最新の情報はYeStudyで確認してください。YeStudyに、前年度に履修した学生さんの感想やアドバイス、授業評価結果を載せますので、参考にしてください。

履修コード	128401
科目名	比較都市論
担当者名	内海 麻利

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経済成長を主目的に都市開発を進めた時代から、地域管理や経営という視点を含む持続的発展を目指した都市づくりが要請される時代へと移行しつつある。このような変化に対し今日の都市づくりは、経済のグローバル化に伴い国内外にわたる地域間競争にさらされ、持続可能性をもって地域ポテンシャルを高めることが期待されている。一方、地方分権改革により各都市独自の政策に基づき、固有の環境や景観、歴史や文化・産業などの資源を活かした個性豊かな都市のあり方が問われている。本講義では持続可能で個性豊かな都市づくりという観点から、諸外国と日本、日本における各都市について比較し、また、先進的な事例をととして今後の都市政策における学生諸君の専門知識と理解を深めることを目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	授業では、各回、今日的なテーマを設定し、様々な都市のデータ及び都市づくりに関する計画や政策、実践的な取り組み等を提示しながら下記のテーマを中心に講義を行う。詳しい授業スケジュールは、第1回目のガイダンスで提示する。 〔前期〕 ・ガイダンス (1) ・景観・風景町並み (2-4) ・環境と共生した都市づくり (5-10) ・中心市街地の活性化と都市再生 (11-15) 〔後期〕 ・都市づくりの仕組みと都市計画制度 (16-23) ・都市づくりと政策課題 (24-27) ・協働によるまちづくり (27-30)
----------	--

準備学習	授業中に提示する資料や参考文献を理解し、設問等を検討しておくこと。
履修上の留意点	教科書や授業時に紹介する参考書を読み理解を深めるよう努力を払ってほしい。
成績評価の方法	授業への出席及びレポート、学期末試験の成績を中心に評価する。
教科書/テキスト	内海麻利『まちづくり条例の実態と理論』第一法規株式会社、2010年、2,700円+税、ISBN978-4474024991
参考書	各回の授業でレジュメを配布するとともに、関連する文献を紹介する。

履修コード	130201
科目名	比較メディア論
担当者名	岩崎 宇雄 柴田 厚

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(前期) (1) 印刷メディア、放送メディア、インターネット、それぞれのメディアの特性を理解し、それらを最も有効に利用するにはどうしたらいいか、 (2) それらのメディアを利用することが利用者の人格形成にどのような影響を与えているかを知ること (後期) 新聞業界の現況、多種多様なメディアが抱える諸問題、職業としての新聞記者のあり方、特に海外特派員の仕事ぶりなどを、実体験したエピソードをまじえつつ紹介する。
---------------------	--

授業スケジュール	(前期) 1. オリエンテーション 2. 言語の発生と口承文化 3. 文字と印刷メディア ——グーテンベルク革命の意味 4. 写真と映画 ——動き出す静止画像 5. ラジオ ——距離を超える音声 6. テレビの誕生と普及 ——動画・音声の同時送信時代へ 7. インターネット時代 8. メディアの諸特性とその表現形式 (中間的まとめ) 9. マクルーハン再考 10. 民主主義社会とメディア ——メディアは誰のものか 11. メディア規制とメディア・リテラシー 12. 私たちとメディア (各回の講義内容は進度に応じて変わることがある。) (後期) (1-2) 新聞の歴史と将来 (3-4) ニュースの定義・分類 (5-7) 記者の資質・職業倫理・心得 (8) 記事の発掘・取材から紙面掲載まで (9) 誤報とスクープ (10) 国際報道と国際記者の衰歎 (11) 新聞ジャーナリズムへの批判 (12) 活字メディアと映像メディア (13) 戦争報道などを予定している。
----------	--

準備学習	(前期) 日ごろ、自分がメディアとどう付きあっているのかを冷静に観察してもらいたい。 (後期) 特になし。
履修上の留意点	(前期) 間違えてもいいから、自分で考え判断することが大切であると思う。 (後期) 日ごろ、一定の時間を新聞熟読にあてること。一つのテーマを連続してじっくり追いかける姿勢が必要。
成績評価の方法	(前期) レポート (随時) と学期末の筆記テストで評価する。 (後期) 毎週のミニテストと学年末の筆記テストで評価する。
教科書/テキスト	(前・後期) 教科書は使わない。毎回プリント・資料を配布する。
参考書	
その他	(後期) 毎回出席を取る。出席回数が3分の2未満だと成績評価の対象にならないので要注意。

履修コード	129801
科目名	マス・コミュニケーション論
担当者名	川端 美樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>マスメディアは社会の近代化とともに発達し、20世紀以降の社会とそこで生きる人間に大きな影響力を及ぼしてきた。本講義では、マスメディアを媒介して行われるマス・コミュニケーションについて、様々な面から考察する。前期にはまずマスメディアの発達の歴史について、社会や人々への影響に主眼を置きながら論じる。さらに後期にはマス・コミュニケーションが人々や世論に与える影響について、様々な理論をもとに論じていく。また、最終的には近年のインターネットなど新たなメディアの登場と普及により、今後のマスメディアおよびマス・コミュニケーションがどのように変容していくかについて考察する。これらの内容を通して、受講生が生活の中でマスメディアとコミュニケーションについてより深く理解し、マスメディアを賢く利用できるようになることを到達目標とする。なお、講義においてはなるべく映像資料等を用いて、具体的な事例を取り上げながら受講者の理解を深めたいと考えている。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1週： 講義の概要と導入 第2週： マスメディアの発達と社会：マスメディア以前 第3～4週： マスメディアの発達と社会：印刷術の誕生と新聞の発達 第5～6週： マスメディアの発達と社会：電気通信技術の誕生と発達 第7～8週： マスメディアの発達と社会：映画の誕生と発達 第9～10週： マスメディアの発達と社会：ラジオの誕生と発達 第11～13週： マスメディアの発達と社会：テレビの誕生と発達 第14～15週： マスメディアの現状と社会 第16～17週： マス・コミュニケーションの影響とその概要 第18～19週： マス・コミュニケーションの影響とその理論：弾丸効果論 第20～21週： マス・コミュニケーションの影響とその理論：限定効果論 第22～25週： マス・コミュニケーションの影響とその理論：強力効果論 第26～27週： マス・コミュニケーションの影響とその理論：心理的影響 第28～30週： マスメディアの今後とマス・オーディエンスの未来像</p>
----------	--

準備学習	本講義のそれぞれの回で取り上げるテーマや内容について、講義前に概観し、問題意識をもって講義に臨むこと。また、講義中にとったノートについて、内容を補足し、復習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	授業中の私語は厳禁。また、授業内容の学習には、板書を写すだけでなく、自分なりのノートを作り、まとめることが重要である。
---------	---

成績評価の方法	学期末、年度末の試験またはレポートの結果を80%、授業時の提出物や小テストなどの平常点を20%として、総合的に評価する。
---------	--

教科書/テキスト	とくに指定しない。必要に応じて授業時に資料を配布する。また、参考文献についても、授業の中で随時紹介していく。
----------	--

参考書	<p>W・ラッセル・ニューマン著『マス・オーディエンスの未来像』、学文社、3,150円、ISBN: 978-4762011559 竹内都郎、他編著『新版メディア・コミュニケーション論Ⅰ』、北樹出版、2,520円、ISBN: 978-4893849908</p>
-----	---

履修コード	143801 143802
科目名	民法II (債権法) 民法 (債権)
担当者名	飯塚 真

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講座は、債権総論だけでなく、債権各論部分を含んだ債権法全般の内容とすることにする。民法は、市民社会を規律する法律といわれているが、人間が社会において生活していく際には、物との関わりとともに、人との関わりを持っている。債権法は、人と人との関わりについて規律するものといえる。本講座では、具体的な事例を用いながら、債権法全般の基本的な知識を習得することを目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 オリエンテーション (講義の進め方など) 第2回 債権の目的 第3回 債務不履行 第4回 債権の効力① 履行の強制、損害賠償 契約の解除 第5回 債権の効力② 債権者代位権 第6回 債権の効力③ 債権者取消権 債権侵害に対する保護 第7回 多数当事者の債権関係① 分割債権関係、不可分債権関係 第8回 多数当事者の債権関係② 連帯債務、保証債務 第9回 債権譲渡 第10回 債権引受け 第11回 弁済① 弁済制度 第12回 弁済② 弁済による代位制度、代物弁済、供託 第13回 弁済③ 相殺 第14回 弁済④ 更改、免除、混同 第15回 前期まとめ 第16回 契約法総論①契約の意義、契約の成立 第17回 契約法総論②契約の効力 (概論、危険負担) 第18回 契約法総論③契約の効力 (契約の第三者効) 第19回 契約法総論④ 第20回 贈与・売買・交換① 第21回 贈与・売買・交換② 第22回 消費貸借・使用貸借・質貸借① 第23回 消費貸借・使用貸借・質貸借② 第24回 雇用・請負・委任・寄託① 第25回 雇用・請負・委任・寄託② 第26回 組合・終身定期金・和解 第27回 事務管理 第28回 不当利得 第29回 不法行為 第30回 後期まとめ
----------	---

準備学習	次回講義予定の部分について、指定された教科書を、事前に読んでおくこと。
履修上の留意点	六法は必ず持参すること
成績評価の方法	試験の成績を中心に (おおむね70%)、授業態度 (講義への取り組み、事前学習度合い、おおむね30%)などを加味した上、総合的に判断する。
教科書/テキスト	我妻栄・有泉亨・川井健著『民法2 債権法 (第三版)』 (勁草書房、2310円、ISBN978-4-326-45086-2)
参考書	

履修コード	127801 127802 127803
科目名	民法（総則・物権法） 民法Ⅰ（総則・物権法） 民法Ⅱ
担当者名	熊谷 芝青
授業概要/ 到達目標（ねらい）	我々の日常生活は民法に支配されている。したがって、この社会で活動するには民法についてひととおりの知識がなければならない。市民の社会生活には財産の生産、交換、消費、配分などを目的とする経済生活の面（これを規律する法が財産法）と種族保存を目的とする家族生活の面（これを規律する法が家族法）とがある。この財産法の領域の法が物権法と債権法である。これらの通則として総則がおかれている。本講義では民法第一編総則と第二編物権法について、基本となる知識を持てるようにしたい。その結果、資格試験等の基礎力が養成されることを願っている。
授業スケジュール	前期（民法総則） ①民法とは何か、民法の歴史 ②民法の基本原則 ③権利の主体（自然人） ④法人（社団法人、財団法人） ⑤権利の客体（物とは） ⑥法律行為（意思の欠缺、瑕疵ある意思表示） ⑦無効と取消 ⑧条件および期限・期間 ⑨時効（取得時効、消滅時効） 後期（物権法） ①物権の意義、種類 ②物権の効力 ③物権の変動 ④占有権 ⑤所有権 ⑥用益物権 ⑦担保物権（法定担保物権） ⑧約定担保物権 ⑨非典型担保（譲渡担保、仮登記担保）
準備学習	指定教科書の該当頁を予習してくることが望ましいが、必要ではない。
履修上の留意点	法律学の修得で大切なことは、繰り返すことである。したがって復習回数を多くすることが諸君の実力上昇につながると信じている。 当然のことであるが、受講中の飲食・携帯電話の使用は禁止であり、それに違反した場合、その時点で落第とする場合がある。 また板書を多用するので、ノートと筆記道具は必携である。
成績評価の方法	学年末の定期試験により評価する。
教科書／テキスト	我妻栄・有泉亨・川井健『民法』第三版①総則・物権（勁草書房）2200円
参考書	尾崎哲夫『はじめての民法総則』『はじめての物権法』『はじめての担保物権』（自由国民社）

履修コード	130001
科目名	メディア社会論
担当者名	川端 美樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	私たちの日常生活にはメディアが遍在している。メディアは人間のコミュニケーションを媒介するだけでなく、メッセージを形作り、それをを用いる人々や社会へ影響を与える。本講義では、現代のメディア社会における様々なメディアの影響を考察し論じていく。前期には、近年社会で問題になっている諸テーマを軸に、マスメディアを始めとしたさまざまなメディアの社会や人々への影響や問題点を論じていく。また、後期には携帯電話などのパーソナルメディアを始め、最近普及の著しいインターネットやソーシャルメディアなどの新たなメディアを取りあげ、その社会や人々への影響を考察する。さらに、様々な世代に注目し、社会でのメディアの役割、問題点および現状を概観する。以上の内容を通して、受講生が普段からさまざまな視点で社会の中のメディアとその影響についてより深く理解し、メディアを賢くそして有効に利用できるようになることを到達目標とする。なお、講義においてはなるべく映像資料等を用いて、具体的な事例を取り上げながら受講者の理解を深めたいと考えている。
---------------------	--

授業スケジュール	第1週： 講義の概要と導入 第2週： メディアとは何か 第3週： メディア社会の発達とその背景 第4～7週： 政治とメディア 第8～11週： 戦争とメディア 第12～13週： 環境問題とメディア 第14～15週： 外国・外国人イメージとメディア 第16～18週： パーソナルメディアとその影響 第19～20週： テレビゲームとその影響 第21～22週： マンガ・アニメとその影響 第23～26週： インターネットとその影響 第27週： 乳幼児とメディア 第28週： 青少年とメディア 第29週： 高齢者とメディア 第30週： メディアと社会・まとめ
----------	--

準備学習	本講義のそれぞれの回で取り上げるテーマや内容について、講義前に概観し、問題意識をもって講義に臨むこと。また、毎回とったノートについて、内容を補足し、復習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	授業中の私語は厳禁。また、授業内容の学習には、板書を写すだけでなく、自分なりのノートを取り、まとめることが重要である。
---------	---

成績評価の方法	学期末、年度末の試験またはレポートの結果を80%、授業時の提出物や小テストなどの平常点を20%として、総合的に評価する。
---------	--

教科書/テキスト	とくに指定しない。必要に応じて授業時に資料を配布する。また、参考文献についても、授業の中で随時紹介している。
----------	--

参考書	竹内郁郎, 他編著『新版メディア・コミュニケーション論Ⅰ』、北樹出版、2,520円、ISBN:978-4893849908 竹内郁郎, 他編著『新版メディア・コミュニケーション論Ⅱ』、北樹出版、1,890円、ISBN:978-4893849991
-----	--

履修コード	126701
科目名	ヨーロッパ政治史
担当者名	浦田 早苗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代西ヨーロッパの政治は、そこから多くのことを学んできた我々の先達が描いたほど理想的な状態で機能しているわけではなく、数々の矛盾にみちている。自由、平等の精神なり、『華やかなりし議会政治』の概念は、激動の現代政治のなかにあっては時として空虚な響きを投げかけてくることは否定できない。しかし、国家や政党、国民や民族といった西洋で生まれた近代政治の概念に再検討が迫られている今ほど、そうした概念の本質を成立した歴史過程のなかで考察することの重要性が問われたときはなかった。本講義では、近代ヨーロッパの歴史全般を概説しながら、ヨーロッパが抱える問題の本質を明らかにすること、及び現代政治を誤りなく把握する上で必要な基礎概念を検討することに視点がおかれている。
---------------------	--

授業スケジュール	①古代ギリシャ、ローマの政治社会 ②キリスト教と十字軍 ③宗教改革とルネサンス ④英仏百年戦争 ⑤アン・ブーリンとエリザベス ⑥英国革命とジャコバイト ⑦アメリカ独立戦争 ⑧フランス革命とナポレオン ⑨2月革命とナポレオン3世 ⑩第一次大戦 ⑪第二次大戦 ⑫統合ヨーロッパの源流
----------	---

準備学習	ヨーロッパ関連のニュースに目を通す。
------	--------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	年2～3回とる出席点は学年末試験に加算する。試験はあらかじめ提示した2題を出題する。(ノートの持ち込みは不可)
---------	---

教科書/テキスト	特に教科書は指定しないが、さらに詳細な研究を望む学生には適宜参考書を推薦する。
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	129101
科目名	ヨーロッパ政治論(1)
担当者名	中野 裕二

授業概要/ 到達目標(ねらい)	本年度の「ヨーロッパ政治論(1)」は「フランスにおける移民・外国人問題」と題して講義します。基礎となる学問的傾向は政治社会学です。フランスは人種、文化、宗教の面で多様な人々をどのような理念・制度に基づいて社会に統合し、彼らと共存しようとしているのか。実際に移民・外国人の抱える困難は何か。政府や政治勢力は移民・外国人問題にどのように対応しているのか。こうした点の検討をとおして「国民とは何か」「多様な人々との共存はどのように可能か」を考えます。
--------------------	--

授業スケジュール	以下のスケジュールはあくまでも予定です。受講生の理解度に応じて予定は変更されることもあります。
----------	---

- 第1回 イントロダクション(授業概要、成績評価)
- 第2回 第1章 社会編成原理としてのフランス共和国(その1)(文化的多様性と共和国原理)
- 第3回 第1章 社会編成原理としてのフランス共和国(その2)(フランス的統合)
- 第4回 第2章 外国人労働者・移民問題の局面変化(その1)(高度経済成長期)
- 第5回 第2章 外国人労働者・移民問題の局面変化(その2)(オイルショック以降)
- 第6回 第2章 外国人労働者・移民問題の局面変化(その3)(「新しい移民」)
- 第7回 第3章 移民政策の変遷—1945年から1974年まで
- 第8回 授業内容の確認(その1)
- 第9回 第4章 2000年代以降の移民政策—「選別移民法」
- 第10回 第5章 移民の居住問題
- 第11回 第6章 雇用と失業から見る社会統合の現状
- 第12回 第7章 ムスリム系移民とスカーフ問題
- 第13回 第8章 「積極的差別政策」におけるフランス的モデル
- 第14回 授業内容の確認(その2)
- 第15回 第9章 平等・社会的統合を問い直す

準備学習	教科書と参考文献を事前に読んでおくこと。
------	----------------------

履修上の留意点	「政治制度論」を受講済みであることを前提に授業を進めます。フランスを直接の対象としますが、「日本の移民・外国人問題は何か」「日本の共存理念は何か」という問題関心をつねに持って受講してください。
---------	--

成績評価の方法	<p>学生に期待される到達レベルは以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①フランスの移民・外国人問題および移民政策に関する歴史的経緯を説明できる。 ②フランスの移民・外国人の抱える社会統合上の困難を説明できる。 ③フランス共和国の原理と移民・外国人問題との関係を説明できる。 <p>以上の到達レベルに達しているかどうかを、期末試験と授業時間中の小テストなどを通して判断します。なお、授業中の意見・質問などの授業への積極的参加は、補助的に評価します。</p>
---------	--

教科書/テキスト	宮島喬編『移民の社会的統合と排除：問われるフランス的平等』東京大学出版会、2009年、ISBN978-4-13-050174-3、3800円
----------	--

参考書	<p>フランソワ・エラン『移民の時代』明石書店、2008年 宮島喬『移民社会フランスの危機』岩波書店、2006年 宮島喬・若松邦弘・小森宏美編『地域のヨーロッパ』人文書院、2007年 大山礼子『フランスの政治制度』東信堂、2006年 田口富久治・中谷義和編『新版 比較政治制度』法律文化社、1999年 中野裕二『フランス国家とマイノリティ』国際書院、1996年</p>
-----	---

履修コード	129201
科目名	ヨーロッパ政治論（2）
担当者名	中野 裕二

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>本年度の「ヨーロッパ政治論（2）」は「地域のヨーロッパ」と題して講義します。基礎となる学問的傾向は政治社会学です。</p> <p>この講義は、先進諸国に今日生じている社会変化の特徴を、国際化を含む多層化、そして分権化あるいは地域化を基調とする再編成にもとめ、これをヨーロッパの事例に即して検証することを目的とします。この講義のキーワードは、民主主義、参加、自治、ガバナンス、トランスナショナル化、文化、言語、マイノリティ、排除、再開発などです。</p> <p>従来、社会的組織化の基盤として絶対的であった国民国家の地位が揺らぎ、一方では国際制度などの超国家空間、他方では地域・地方空間の意味が増大しています。この講義では、後者の側面、つまり領域的には国民国家より下位レベルの空間に焦点をあて、地域・地方空間を準拠枠として生じている社会の再編を検討します。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>具体的には、上記の問題関心に基づき書かれたテキストに沿って進みます。以下のスケジュールはあくまでも予定です。受講生の理解度に応じて予定が変更されることもあります。</p>
----------	--

- 第1回 イントロダクション（授業概要、成績評価）
- 第2回 1. グローバル化する社会における主体としての「地域」（その1）（グローバル化の中の地域）
- 第3回 1. グローバル化する社会における主体としての「地域」（その2）（地域概念の多様性）
- 第4回 2. 「領域性」概念の再検討（その1）（領域性とは）
- 第5回 2. 「領域性」概念の再検討（その2）（領域性の再編：イタリア）
- 第6回 3. 自治州国家スペインにおける「歴史的諸法」（その1）（自治州国家スペイン）
- 第7回 3. 自治州国家スペインにおける「歴史的諸法」（その2）（歴史的諸法から見るスペインの現在と将来）
- 第8回 4. 橋はまた架かるか（その1）（ボスニア紛争）
- 第9回 4. 橋はまた架かるか（その2）（共同体原理の相対化）
- 第10回 5. 新しい場所と土地の記憶（その1）（イングランドの国内移住）
- 第11回 5. 新しい場所と土地の記憶（その2）（アイデンティティ獲得と集団の形成）
- 第12回 6. シティズンシップとマイノリティ（その1）（エストニアにおけるロシア語系住民の地位）
- 第13回 6. シティズンシップとマイノリティ（その2）（多層的シティズンシップ）
- 第14回 7. 北アイルランドにおけるコミュニティの重層化と多様化（その1）（北アイルランド紛争）
- 第15回 7. 北アイルランドにおけるコミュニティの重層化と多様化（その2）（アイデンティティの多様性）

準備学習	指定されたテキストの各論文を事前に熟読しておくこと。
------	----------------------------

履修上の留意点	この講義では各国・各地域を専門に研究している人々の論文を素材とするので、講義内容はヨーロッパ政治の「入門」ではないことに留意してください。ヨーロッパもしくは先進社会の変化に高い関心をもって授業に臨んでほしいと考えています。
---------	---

成績評価の方法	<p>学生に期待される到達レベルは以下の通りです。</p> <p>①テキストで用いられる「地域」「領域性」概念を理解している。</p> <p>②ヨーロッパ各国における「地域」の諸相を理解している。</p> <p>③各論文の説明枠組みもしくは筆者の説明の仕方を把握している。</p> <p>以上の到達レベルに達しているかどうかを、期末試験と授業時間中の小テストなどを通して判断します。なお、授業中の意見・質問などの授業への積極的参加は、補助的に評価します。</p>
---------	---

教科書／テキスト	宮島喬・若松邦弘・小森宏美編『地域のヨーロッパ』人文書院、2007年（2200円、ISBN978-4-409-23044-2）
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	129301
科目名	ヨーロッパ政治論 (3)
担当者名	浅見 政江

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>27構成国からなる欧州連合(EU:European Union)では、2009年12月に新基本条約であるリスボン条約が発効しました。この条約により、EUには「大統領」が誕生する、「外務大臣」が誕生するなど報道されています。しかし、考えてみると、そもそも国家でもないEUに、大統領や外務大臣ポストが必要なのでしょうか？ いやそれ以前に、リスボン条約が規定している「大統領」や「外相」とは、そもそもどのような職責が与えられているのでしょうか？ 本講義では、このような素朴な疑問から出発して、新条約に基づくEUのガヴァナンスの実相を明らかにしていきたいと思えます。</p> <p>国家ではないものの、国家に相当するほどの権限をもつEUのガヴァナンスは複雑怪奇です。かつ、EUのガヴァナンスは27構成国の領域、すなわち、ほぼ欧州全域をカバーするに至り、現代欧州の政治を理解するためには、このEUに対する深い理解が不可欠です。</p> <p>さらに、なぜEUが今日のようなガヴァナンスを提供するようになったのか、という歴史的背景を理解することもまた非常に重要です。</p> <p>以上のような観点から、本講義では、現在のEUに関する理解を深めるとともに、EUが誕生した歴史的背景に関する知識の習得を目指すこととします。</p> <p>そのためには、政治学、国際政治学をはじめ、第二次世界大戦後の欧州地域の国際関係史、場合によっては経済学といった諸学問領域に関する基礎知識が必要になります。講義では、これら基礎知識の確認も行いつつ、専門的な「EU論」を展開したいと考えています。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>履修申告確定の前のガイダンス(1回) 第1クール ガイダンス(1回) 第2クール EUの構成国(1回) 第3クール EUのガヴァナンス(4回) 第4クール EUの歴史(4回) 第5クール 総括:21世紀のEU(2回)</p>
----------	--

準備学習	<p>第2回目講義の際に、講義内容に関する詳細なガイダンスを行う。その際に、各クールに必要な準備学習について説明を行う。同時に、各講義にて、次回講義に関する準備学習(インターネットによる情報収集、参考文献や配布プリントに関する予習)について指示する。</p>
------	---

履修上の留意点

成績評価の方法

教科書/テキスト

参考書

定期試験(最終講義日に実施)と平常点(2回の課題)。出席は毎回とり、最終評価の際に考慮。

特定のテキストは使用しませんが、毎回レジュメを用意します。
参考文献は講義中、適宜紹介します。

履修コード	129401
科目名	ヨーロッパ政治論（４）
担当者名	浅見 政江

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>1989年11月9日、冷戦の象徴だったベルリンの壁は崩壊し、翌1990年10月3日にドイツは再統一を果たしました。この再統一から数えてすでに20年以上の歳月が流れました。</p> <p>今期は、ドイツ再統一を歴史的に再評価してみたいと思います。ドイツの再統一によって、欧州における冷戦はまさに終焉し、ドイツも欧州も新時代へと歩みを進めたわけですが、その新時代には多くの矛盾、課題、難問が立ちをはかっています。新時代の先駆けとなったドイツ再統一プロセスを検証し、その功罪を、現代的視点から捉え直し、多角的視点で再評価することが本講義の目的です。</p> <p>再統一プロセスを再検証するに際しては、数多く残された映像資料を利用しつつ、臨場感を味わいながら、当時の状況を把握してもらおう予定です。</p> <p>ドイツの再統一は、事実上、西ドイツによる東ドイツの吸収合併でしたので、現在のドイツの政治制度は、改編は加えられたものの、基本的には西ドイツの政治制度が援用されています。ドイツ政治制度に関する理解を深めることも、ドイツ再統一を再評価するためには必要不可欠ですので、ドイツの政治制度に関する説明から講義を開始します。</p> <p>その上で、ドイツ史を紐解き、第二次世界大戦後のドイツの歩みを検証し、再統一プロセス、その後20年のドイツに関して講義していきます。同時にドイツに関する興味関心も喚起したいと思しますので、ドイツの文化、芸術、スポーツといったソフトな話題も提供していく予定です。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>履修申告確定前のガイダンス（1回）</p> <p>第1クール ガイダンス（1回）</p> <p>第2クール ドイツの政治制度（5回）</p> <p>第3クール ドイツの歴史（4回）</p> <p>第4クール ドイツ再統一の光と影（2回）</p>
----------	---

準備学習	第2回目講義で講義内容に関する詳細なガイダンスを行う予定。その際、準備学習についても説明を行う。同時に、講義の際に、次回講義に必要な予習について指示する。
------	---

履修上の留意点	ドイツを対象に講義を行います。特段ドイツ語の知識は必要ありません。ただ、講義内容を正確に理解し、理解を深めるためには講義中提示した参考文献の手助けが必要です。講義に欠かさず出席することはもちろんのこと、講義を発展的に活用する意気込みのある人の履修を期待します。
---------	--

成績評価の方法	定期試験（講義最終日に実施）と平常点（中間テスト）で評価します。出席は毎回とり、最終評価の際に考慮。
---------	--

教科書／テキスト	特定のテキストは使用せず、講義内容に関連するレジュメを配布する予定です。参考文献は、講義中、適宜紹介します。
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	091701 091702
科目名	流通政策 商業政策
担当者名	番場 博之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経済活動としての流通活動は、単なる競争ではなくルールにもとづく競争である。そして、このような流通に関わる方針やルール（公共政策）のことを流通政策という。本講義では、流通に関わるルールが必要とされた流通問題に言及しながら、流通政策の必要性や体系およびその具体的な内容と運用について解説する。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(1) 流通問題と流通政策の考え方</p> <p>【流通の基礎知識】</p> <p>(2) 流通発生のメカニズム</p> <p>(3) 商品と消費者</p> <p>(4) 流通と商業の役割</p> <p>(5) 卸売業の役割と機能</p> <p>(6) 小売業の役割と機能</p> <p>【現代流通と政策を必要とする流通問題】</p> <p>(7) 小売業のチェーン化とマーケティングの変化</p> <p>(8) 電子商取引の普及と外資小売業の参入</p> <p>(9) 中小商業と商店街の疲弊</p> <p>(10) 高齢化とフードデザート問題</p> <p>(11) ハイキングパワーの拡大と企業間関係の変化</p> <p>【流通政策の枠組み】</p> <p>(12) 流通政策の目的と必要性</p> <p>(13) 経済政策・社会政策と流通政策</p> <p>(14) 流通政策の体系</p> <p>(15) 現代流通と流通政策（前期のまとめと後期の予習）</p>
----------	--

- (16) 流通政策の体系と変遷（前期の復習と後期の概要）
- 【競争政策①：独禁法】
- (17) 競争政策の目的と競争政策三法
- (18) 独禁法の考え方
- (19) 独禁法と公正取引委員会・消費者庁
- (20) 不公正な取引問題
- 【競争政策②：再販制と景表法】
- (21) 再販売価格維持制度
- (22) 景品表示法
- 【振興政策と調整政策】
- (23) 振興政策の展開（中小小売商業振興法）
- (24) 調整政策の歴史①（百貨店法）
- (25) 調整政策の歴史②（大店法）
- 【まちづくり政策】
- (26) 小売商業政策の転換とまちづくり三法
- (27) 大店立地法・中心市街地活性化法・都市計画法
- (28) まちづくり三法の問題と2006年改正
- (29) コンパクトシティ構想とまちづくり
- (30) 日本と世界の流通政策（年間の復習）

準備学習	「流通論基礎」を履修済みであることが望ましい。
履修上の留意点	詳細かつ正確なシラバスは開講時に配布する。
成績評価の方法	定期試験によって評価する。ただし、若干の平常点等を加味することもある。
教科書／テキスト	加藤義忠・齋藤雅通・佐々木保幸編 『現代流通入門』有斐閣 978-4-641-18351-3
参考書	渡辺達朗『流通政策入門 第3版』中央経済社、2011年。 岩下弘『イギリスと日本の流通政策』大月書店、2007年。 番場博之『零細小売業の存立構造研究』白桃書房、2003年。

専 門 教 育 科 目

3. 経 営 学 部

経営学科

経営学科フレックスA

市場戦略学科

経営学科フレックスB

履修コード	141201
科目名	アメリカ経営学
担当者名	宮城 徹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	世界の経営学をリードしているのは、いうまでもなく、アメリカ経営学とドイツ経営学である。そして、日本の経営学の研究・教育は、第2次大戦前はドイツ経営学から、大戦後はアメリカ経営学から圧倒的な支配的影響を受けて発展してきた。ところが、特に1960年代以降になると、ドイツ経営学にもアメリカ経営学の影響が顕著に見られるようになった。 学生諸君は、必修科目である「経営学」の授業を通じて、無意識のうちに、アメリカとドイツの経営学にかなする基礎知識をある程度身につけていることを前提とした上で、経営学徒のメッカ、アメリカ経営学をその最先端の理論的・経験的研究の基本的成果を踏まえて全般的に講義するが、主として、下記の授業計画の9つの要目について検討する。その際、日本の企業との関連についても検討を加える。
---------------------	--

授業スケジュール	マイクと板書。教科書は指定しない。 この授業は1週1回90分で年間30週の時間数(ただし、期末試験日を入れて)から成る。最初の授業時間は、この科目を選択するか否かを判断するために下見に来ている学生諸君に、アメリカ経営学の1年間の授業の概要を説明する。原則として、下記の授業計画の要目をそれぞれカッコ内の授業回数(合計29回)で完結する予定である。 なお、この授業回数は一応の目安であり、授業時間が祝祭日に当る場合は授業の進展状況によって若干変更することがある。 (2011年度『アメリカ経営学』授業計画) I 1年間の授業の概要 (1) II 経営学の対象と方法 (2) III 意思決定と権力(パワー:マハト) (2) IV 戦略(特に提携、グループ、ファミリー) (2) V 取引コスト理論 (6) VI プロパティ・ライツ理論 (4) VII プリンシパル・エージェント理論 (5) VIII 契約の理論 (3) IX 企業のモジュラー化 (4)
----------	--

準備学習	-
履修上の留意点	-
成績評価の方法	期末筆記試験。なお、学生諸君の理解度と教育効果を確かめるために、期末試験以外に、小試験をおこない、その結果を評価の対象に加味することがある。 《期末試験の出題形式》 複数の問題から1題選択して論述する。詳細は試験前の授業で説明する。

教科書/テキスト	-
参考書	1 宮城徹『企業の政治理論序説』(税務経理協会)1983:1999年 2 宮城徹「企業制度とプロパティ・ライツ理論」『商学研究科紀要』(早大、第20号)1985年 3 宮城徹「情報と企業経営の理論的諸問題」日本経営学会編『情報化の進展と企業経営』(千倉書房)1987年 4 宮城徹「経営者論」鈴木英寿編『経営学総論』(第2版)(成文堂)1989:1999年 5 宮城徹「経営学の歴史」藤芳誠一編『新版・新時代の経営学』(学文社)1983:1993年 6 宮城徹「組織の経済理論の基礎構造」日本経営学会編『現代経営学の課題』(千倉書房)1997年 7 宮城徹「企業統治の研究の統合の一試論」『駒大経営研究』第31巻 第1・2号、2000年 8 宮城徹(単独訳書)『情報時代の企業管理の教科書—組織の経済理論の応用—』(税務経理協会)2000:2009年(A.Picot u.a., Die grenzenlose Unternehmung, Gabler, 1998) 9 宮城徹(共訳書)『新制度派経済学による組織入門』(白桃書房)1999:2007年(A.Picot u.a., Organisation. Eine ökonomische Perspektive, Schaffer-Poeschel, 1997) 10 宮城徹「企業文化と組織の経済理論」遠山正朗編著『ケースに学ぶ企業の文化』(敬愛大学学術叢書)(白桃書房)2003年 11 宮城徹(訳稿)「民主的な経済政策と社会政策の理論的基礎-0. ウィリアムソンの貢献*-」 *Ingo Pies: Theoretische Grundlagen demokratischer Wirtschafts- und Gesellschaftspolitik—Der Beitrag Oliver Williamsons, in: Ingo Pies und Martin Leschke (Hrsg.) (2001): Oliver Williamsons Organisationsökonomik, Tübingen: Mohr Siebeck, S. 1-27. 『駒大経営研究』第39巻第3・4号(2008年) 12 宮城徹(訳稿)「取引対相互作用、特異性対拡散効果および結束した行為者のレーゾンデール—組織の経済学の構想の新しい志向を求めて*-」 *Ingo Pies: Transaktion versus Interaktion, Spezifität versus Brisanz und die raison d'être korporativer Akteure—Zur konzeptionellen Neuausrichtung der Organisationsökonomik, in: Ingo Pies und Martin Leschke (Hrsg.) (2001): Oliver Williamsons Organisationsökonomik, Tübingen: Mohr Siebeck, S. 95-119. 『駒大経営研究』第39巻第3・4号(2008年) ここでは紙幅の関係で上記の授業内容に直接関連のある私の著書・論文・訳書だけを参考文献の一部として掲げておいたが、その他の文献については適宜紹介しておく。

履修コード	332701
科目名	アメリカ経営学
担当者名	宮城 徹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	世界の経営学をリードしているのは、いうまでもなく、アメリカ経営学とドイツ経営学である。そして、日本の経営学の研究・教育は、第2次大戦前はドイツ経営学から、大戦後はアメリカ経営学から圧倒的な支配的影響を受けて発展してきた。ところが、特に1960年代以降になると、ドイツ経営学にもアメリカ経営学の影響が顕著に見られるようになった。学生諸君は、必修科目である「経営学」の授業を通じて、無意識のうちに、アメリカとドイツの経営学にかんする基礎知識をある程度身につけていることを前提とした上で、経営学徒のメッカ、アメリカ経営学をその最先端の理論的・経験的研究の基本的成果を踏まえて全般的に講義するが、主として、下記の授業計画の9つの要目について検討する。その際、日本の企業との関連についても検討を加える。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>マイクと板書。教科書は指定しない。</p> <p>この授業は1週1回90分で年間30週の時間数(ただし、期末試験日を入れて)から成る。最初の授業時間は、この科目を選択するか否かを判断するために下見に来ている学生諸君に、アメリカ経営学の1年間の授業の概要を説明する。原則として、下記の授業計画の要目をそれぞれカッコ内の授業回数(合計29回)で完結する予定である。</p> <p>なお、この授業回数は一応の目安であり、授業時間が祝祭日に当る場合は授業の進展状況によって若干変更することがある。</p> <p>(2011年度『アメリカ経営学』授業計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> I 1年間の授業の概要 (1) II 経営学の対象と方法 (2) III 意思決定と権力(パワー:マハト) (2) IV 戦略(特に提携、グループ、ファミリー) (2) V 取引コスト理論 (6) VI プロパティ・ライツ理論 (4) VII プリンシパル-エージェント理論 (5) VIII 契約の理論 (3) IX 企業のモジュラー化 (4)
----------	--

準備学習	-
履修上の留意点	-
成績評価の方法	<p>期末筆記試験。なお、学生諸君の理解度と教育効果を確かめるために、期末試験以外に、小試験をおこない、その結果を評価の対象に加味することがある。</p> <p>《期末試験の出題形式》</p> <p>複数の問題から1題選択して論述する。詳細は試験前の授業で説明する。</p>

教科書/テキスト	
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1 宮城徹『企業の政治理論序説』(税務経理協会)1983:1999年 2 宮城徹『企業制度とプロパティ・ライツ理論』『商学研究科紀要』(早大、第20号)1985年 3 宮城徹『情報と企業経営の理論的諸問題』日本経営学会編『情報化の進展と企業経営』(千倉書房)1987年 4 宮城徹『経営者論』鈴木英寿編『経営学総論』(第2版)(成文堂)1989:1999年 5 宮城徹『経営学の歴史』藤芳誠編『新版・新時代の経営学』(学文社)1983:1993年 6 宮城徹『組織の経済理論の基礎構造』日本経営学会編『現代経営学の課題』(千倉書房)1997年 7 宮城徹『企業統治の研究の統合の一試論』『駒大経営研究』第31巻 第1・2号、2000年 8 宮城徹(単独訳書)『情報時代の企業管理の教科書-組織の経済理論の応用-』(税務経理協会)2000:2009年(A. Picot u. a. Die grenzenlose Unternehmung, Gabler, 1998) 9 宮城徹(共訳書)『新制度派経済学による組織入門』(白桃書房)1999:2007年(A. Picot u. a. Organisation. Eine ökonomische Perspektive, Schaffer-Poeschel, 1997) 10 宮城徹『企業文化と組織の経済理論』遠山正朗編著『ケースに学ぶ企業の文化』(敬愛大学学術叢書)(白桃書房)2003年 11 宮城徹(訳稿)『民主的な経済政策と社会政策の理論的基礎-0. ウィリアムソンの貢献*-』 <p>*Ingo Pies: Theoretische Grundlagen demokratischer Wirtschafts- und Gesellschaftspolitik—Der Beitrag Oliver Williamsons, in: Ingo Pies und Martin Leschke (Hrsg.) (2001): Oliver Williamsons Organisationsökonomik, Tübingen: Mohr Siebeck, S. 1-27. 『駒大経営研究』第39巻第3・4号(2008年)</p> <p>12 宮城徹(訳稿)『取引対相互作用、特異性対拡散効果および結束した行為者のレーゾンデートル-組織の経済学の構想の新しい志向を求めて*-』</p> <p>*Ingo Pies: Transaktion versus Interaktion, Spezifität versus Brisanz und die raison d'être korporativer Akteure—Zur konzeptionellen Neuausrichtung der Organisationsökonomik, in: Ingo Pies und Martin Leschke (Hrsg.) (2001): Oliver Williamsons Organisationsökonomik, Tübingen: Mohr Siebeck, S. 95-119. 『駒大経営研究』第39巻第3・4号(2008年)</p> <p>ここでは紙幅の関係で上記の授業内容に直接関連のある私の著書・論文・訳書だけを参考文献の一部として掲げておいたが、その他の文献については適宜紹介しておく。</p>

履修コード	140851
科目名	e-ビジネス
担当者名	安岡 寛道
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日々進化するeビジネスを概観し、経営学の一つとして一通り理解することを目的とする。また、社会人になる、さらにはいつの日か起業する際の基礎知識として準備することも目的としたい。
授業スケジュール	下記のステップでeビジネスの講義を行う。 <前期> 講義概要の紹介、eビジネスの定義と市場、BtoCビジネス(例: 楽天のEC・電子商取引)、eマーケティング(例: mixiやtwitterのソーシャルメディア活用)、BtoBビジネス、ECのプロセス(物流・決済) <後期> BtoBtoCビジネス、各種eビジネスの事例(例: Yahoo!のポータルサイト、Googleのネット広告、モバゲーのオンラインゲーム、旅行業界)、電子マネー(例: Suica, Edy)やポイントプログラム(例: Tポイント)の周辺ビジネス、技術・法制度の動向、ビジネスモデル特許、イノベーション(例: Web2.0)の視点
準備学習	eビジネス関連(電子マネー含む)の書籍を少しでも読んでおいてもらいたい。
履修上の留意点	eビジネスの授業であるため、日ごろからインターネットを中心に、PC・ケータイ(スマートフォン含む)、および雑誌・新聞・TVのニュースなどを見て、自分なりの考えを持ち、EC(電子商取引)や電子マネーなどにも、授業が始まったらで構わないので、馴染んでもらいたい。初心者でも出来るだけ分かるように講義するので、臆せずに履修してもらいたい。
成績評価の方法	夏休み明け(後期開始時に回収)と年度末(授業期間最後に回収)の2つのレポートで基本的に評価する。なお、この2つのレポートを提出すれば、基本的に単位取得は可能とし、授業への出席等は加点要素とする。
教科書/テキスト	・eビジネスの教科書[第三版] 創成社、2100円、ISBN-13: 978-4794423313
参考書	・野村総合研究所『企業通貨マーケティング』東洋経済新報社、1700円 ISBN978-4-492-55603-0 C3034 ・野村総合研究所『2015年のIDビジネス』東洋経済新報社、2000円 ISBN978-4-492-55642-9 C3034 ・野村総合研究所『電子決済ビジネス』日経BP社、1890円 ISBN-13: 978-4822248154 ・安岡寛道ほか『スマートマネー経済圏(新版)』日経BP社、1,575円 ISBN-13: 978-4822248734 ・中村忠之『eビジネス教室』、中央経済社、2310円 ISBN-13: 978-4502397905
その他	授業の合間で、eビジネスの立上げの経験論なども交えて講義する。(経営コンサルタントおよび新規事業担当者としての経験論を話す。) 講師発表の電子マネー関連の資料は以下のURL
関連リンク	http://www.fsa.go.jp/frtc/kenkyu/event/20090331/11-2.pdf http://www.nri.co.jp/publicity/mediaforum/2010/pdf/forum137.pdf

履修コード	143601
科目名	イノベーション論
担当者名	安田 英土
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経済システムにおいて、イノベーションの役割と影響は非常に大きい。イノベーションは生産性の向上をもたらす、企業や経済の成長や浮沈を左右し、社会や生活のあり様をも変えてしまう。本講義の目的は、イノベーションに関する経済学の基本を理解し、イノベーションの創出、活用および促進に取り組むための基礎的知識を、体系的に学ぶことである。
授業スケジュール	イノベーションは「新しいものを変える、既存のものを変える」といった幅広い概念で用いられているが、本講義では、新製品、新サービス開発および改良といった経済システムにおけるイノベーションを対象とする。経済学の立場から、イノベーションに関わる企業や産業、知的財産権制度や技術政策などについて考察していく。 なお、最新の事例等もできるだけ活用しながら講義を行うため、若干の順序変更や内容変更の可能性がある。 【前期】イノベーションに関する経済学の基本、イノベーションプロセス、公的研究モデルと市場モデル、イノベーションにおける大学・政府の役割、産学連携、商業化する大学、知的財産権とイノベーション、パテントプール（各項目につき、1~2回程度の講義を行う）。 【後期】経済成長への影響、ベンチャーキャピタル、バイオベンチャー、企業におけるイノベーションの役割、製品アーキテクチャと組織、技術戦略、組織のイノベーション、イノベティブな組織、研究開発プロジェクトの評価（各項目につき、1~2回程度の講義を行う）。
準備学習	指定した参考書を事前に購読してもらうことが望ましい。特に、一橋大学イノベーション研究センター編「イノベーション・マネジメント入門」には目を通してもらいたい。また、授業中に指定・紹介した資料やweb等については、必ず予習・復習しておくこと。
履修上の留意点	初歩的数学を使うことがある（解説はその都度加える）。 経済学の基本的な知識があると望ましい。
成績評価の方法	年度末の筆記試験（1回）と小レポート（講義内容を理解する為に、講義時間内に複数回実施）を実施する。定期試験70%、小レポート30%で総合的に評価する。なお、講義への参加態度も成績評価に加味する。
教科書/テキスト	必要な資料、情報等については授業中に配布・指示する。
参考書	一橋大学イノベーション研究センター編「イノベーション・マネジメント入門」（日本経済新聞社）2800円 延岡健太郎「MOT技術経営入門」（日本経済新聞社）3000円 小田切宏之「企業経済学」（東洋経済新報社）3800円 小田切宏之「バイオテクノロジーの経済学」（東洋経済新報社）3200円

履修コード	146811
科目名	演習I
担当者名	青木 茂樹
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習の目的は、マーケティングや流通に関するフィールドワークやケーススタディをグループで行いながら、現場での課題を発見し、実際の社会に対して新たな切り口で企画・提案していくことである。今日、様々な情報が渦巻く社会では、本質的課題を発見し仮説を創造する力や、これを検証する様々な情報収集の仕方、これを論理的に説明していく力が必要である。こうした姿勢や作法を学生時代に体得しているか否かは、社会の舞台にたったときのスタート時から大きな差となるであろう。 こうしたゼミ活動を通じて、今日、社会人基礎力といわれる12の力、①Action（主体性、働きかけ力、実行力）、②Thinking（課題発見力、計画力、創造力）、③Teamwork（発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）を養う。事前・中間・事後で、個々人のこれらの到達度を測り、将来の職業適性などに応じた指導も合わせて行う。
授業スケジュール	1. 前期 プロジェクト・マネジメントの手法、フィールドワークの手法、企画書の書き方をまずは学ぶ。課題となるテーマや対象を設定し、グループにて議論を進める。 2. 夏休み 夏合宿（9月）&OB・OG会 合宿では、前期のグループ研究の発表を行う。そのため自主的な研究会を開く場合もある。 3. 後期 グループ研究を深める者と、個人研究を深める者に分かれる。ゼミ時間外に研究活動を進めながら、ゼミでは経過報告とアドバイスを貰う機会とする。基本は自分達が一番やりたい研究を行うことである。 4. 冬休み 完全休み 5. 春休み OB・OG会。
準備学習	前期・後期ごとのスケジュールによって課題が設定されるとともに、毎回の講義で追加的に課題が指示されることもある。日頃から高い問題意識で課題に関わる十分な周辺知識を自主的に調べておく姿勢が必要である。
履修上の留意点	学生の主体的な研究意欲や向上心によってゼミは牽引されるものであり、教員はアドバイザーやサポーターに徹する。もちろん無断欠席はありえない。
成績評価の方法	ゼミ活動全般を通じて、総合的に評価する。すべてにパーフェクトな人間はいない。むしろ個々人の関心や持ち味を生かしてゼミ運営に参加・貢献していることを高く評価する。
教科書/テキスト	皆さんの研究や将来の職種の興味を伺いながら、演習時にテキストを決めていく。
参考書	

履修コード	147181
科目名	演習I
担当者名	明石 博行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経済社会学の応用的な研究領域の一つである、グローカリゼーションに関する学習と研究に取り組みます。演習は前期と後期に分けて行い、前期にはパソコンの操作能力等の基礎力の育成を図り、後期にはグローカリゼーションに関する図書の学習と研究に取り組みます。焦点を絞る具体的な研究テーマとテキストについては、ゼミ参加者と相談して決定します。基本方向として、現代の多国籍企業と地域経済に関する図書をテキストとして選定し、参加者全員で討論をしながら学習を深めます。
---------------------	---

授業スケジュール	前期の演習は、パソコン教場において行います。ワード（およびパワーポイント）の操作能力を育成しつつ、研究ノートの作成と論文の書き方の基本を学びます。また、資料作成の学習と結びつけるかたちで、高校レベルの政治・経済の再学習をします。 後期の演習は、通常の演習教場において行います。テキストについては、最近刊行された図書の中から候補となる複数の著作を選び、ゼミ参加者と相談して最終的に決定します。基本となる研究テーマとテキストを決定したのち、レポーター、司会者、コメンテーターを輪番制で回しながら、テキストを中心とする学習と討論に取り組みます。 本演習では、サブゼミと合宿、地域調査も大切な取り組みとなります。サブゼミでは、3人ないし4人のチームをつくり、それぞれのチームごとに研究テーマを設定し、資料・データの収集の仕方や分析の仕方を学んでゆきます。 合宿では、ビデオ学習なども含め、通常のゼミ学習の補足や準備的な学習・研究に取り組みます。合宿と結びつけて実施するときもありますが、地域の取り組みに関する調査研究の一環として、企業や博物館の見学なども行います。
----------	---

準備学習	高校の政治経済で学ぶ経済領域の知識の習得は、ゼミ学習の前提となるものですので、ゼミの参加者全員に取り組んでもらうこととなります。とくに後期の学習においては、全体像のなかに位置づけて検討部分を理解できるよう、また前後の関係をよく理解できるよう、努力してください。
------	--

履修上の留意点	定められた時間帯の演習と補習や相談会を通じて、サブゼミのチーム・テーマ別の学習と演習参加者全員の学習・研究とを組み合わせるゆきまします。演習は参加者の自主的な取り組みなしには成立しません。受け身の姿勢ではなく、能動的な姿勢での参加が求められます。
---------	---

成績評価の方法	出席、演習課題への取り組みを総合的に判断し、評価をします。
---------	-------------------------------

教科書／テキスト	『速効! 図解Word2010 [総合版]』(毎日コミュニケーションズ、1974円 [税込]) 後期のテキストについては、ゼミ参加者との相談のうえで決定します。
----------	---

参考書	『最新政治・経済資料集』(第一学習社、940円 [税込])
-----	-------------------------------

履修コード	146901
科目名	演習I
担当者名	阿部 一人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	会計監査論は会計学の領域の一部分であるが、簿記・会計学を学習した後でないといと会計監査論を体系的に理解することは難しいかもしれない。 そこで本演習では、会計学の基本的文献をとりあげ、輪読する。
---------------------	---

授業スケジュール	財務諸表・財務会計論をとり上げる。
----------	-------------------

準備学習	簿記・会計学のテキストを再読してください。
------	-----------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	成績評価は、出席状況、報告発表、レポート等により総合的に判定する。
---------	-----------------------------------

教科書／テキスト	開講後、指示する。
----------	-----------

参考書	授業中において適宜指示する。
-----	----------------

履修コード	146201
科目名	演習I
担当者名	飯田 哲夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) この演習では、企業経営上の問題解決のための定量的な情報分析の理論と方法について学びます。近年の情報技術の発展により、大量のデータや情報を活用した定量的な分析の多くが、比較的容易に行うことができる状況になってきており、それらを利用して定量的に問題を分析することは、データに裏づけられた合理的な意思決定へと通じていきます。そして、分析の際には、より有効にデータや情報を活用するために、また、問題の本質を理解するために、しばしば問題状況を数理的にモデル化します。問題に応じて、様々なモデルがありますが、この演習では、それらの中の基礎的なものを中心に学習していきます。</p> <p>また、数理モデルを用いた分析には、コンピュータの利用を前提としているものが多くあり、それらの分析を行うためのコンピュータの利用技術についても基礎的なところから学習していきます。</p> <p>(到達目標) 経営科学における基礎的な数理モデルについての知識とスキルを習得することです。</p>
授業スケジュール	基礎的な数理モデルの知識および、コンピュータの利用に関する知識の習得のために、ゼミのメンバーによる輪読およびコンピュータ演習を行います。
準備学習	前回の授業内容を復習し、当日の授業についても、テキストを予習しておくこと。また、授業内容に関連する新聞や雑誌の記事に適宜目を通しておくこと。
履修上の留意点	このゼミは学生の主体的・積極的な参加を前提としています。また、数理モデル分析やコンピュータの高度な利用方法を学ぶため、ある程度は数学的知識やコンピュータに慣れていることが望まれます。具体的には、「経営数学」「情報処理基礎」を履修していることが望ましい。
成績評価の方法	平常点（出席とゼミへの積極性）、課題のレポートと発表により総合的に評価します。
教科書/テキスト	用いる教科書や参考書については最初のゼミのときに紹介します。
参考書	

履修コード	146821
科目名	演習I
担当者名	石名坂 邦昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経営学部の学生として必要な基本的知識を身につけてもらう。
授業スケジュール	前期において、経営学の基本的知識を習得するための授業を行う。後期は、それぞれのテーマについてレポートを書いてもらい、それをもとに発表し討議を行う。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	授業には毎回出席のこと。
成績評価の方法	平常の授業への取り組みと、レポートにて採点する。
教科書/テキスト	必要なときに指示する。
参考書	

履修コード	147001
科目名	演習Ⅰ
担当者名	鹿嶋 秀晃

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 研究テーマは現代日本企業の人事労務管理。大学生活の中で、ゼミは最も勉強に打ち込み、一番思い出になるところだと考える。よって、積極的に勉強し、行事を企画し、みんなで楽しくゼミを過ごしたいという学生を採用する。 (到達目標) 4年卒業時のゼミ卒業論文の完成を最終目標とする。経営労務論の中から自ら関心のあるテーマを設定し、幅広い研究の結果としてロジカルな学術論文を書くことが目標。
---------------------	--

授業スケジュール	現代の日本企業とそこに働くサラリーマンが抱える問題に関して、入門書と専門書を読んでいく。企業と労働、社会について幅広い関心を持ち、科学的に考える力を養う。サブテーマは「終身雇用」「年功賃金と能力主義」「日本の経営」「女性労働」「日本の労使関係」「会社人間」「過労死」ほか。2カ月に1冊のペースで本を読む。受講者全員があらかじめテキストを熟読し、中から報告者(レジュメを作成)、アシスタント(授業の内容を補充して解説)を決め、その2人を中心に議論を進める。4年次は卒論作成中心。夏合宿では、3学年合同のディスカッションを行う。冬合宿では、卒論発表会を行い、4年は発表、2、3年は卒論に対するコメントを発表する。
----------	--

準備学習	日常的に新書や経済新聞等にも目を通して、関心を広げておくこと。
------	---------------------------------

履修上の留意点	カリキュラムの特性上、本演習は経営学科生対象。無断欠席は単位認定なし。時間割以外に設定している行事もゼミの一環なので必ず出席のこと。
---------	--

成績評価の方法	出席点(点数には考慮せず、出席が大前提)、講義中の発表・発言(40%)、毎週の課題作成(40%)、レポート・書評の提出(20%)を総合して判定。
---------	--

教科書/テキスト	適宜指示する。過去のテキスト例。竹内裕 [2008] 『日本の賃金』ちくま新書、辻隆久 [2010] 『雇用調整のマネジメント』創成社、武石恵美子編著 [2009] 『女性の働きかた』ミネルヴァ書房、小谷敏・土井隆義・芳賀学・浅野智彦編 [2010] 『若者の現在 労働』日本図書センター、佐藤・武石編著 [2011] 『ワーク・ライフ・バランスと働き方改革』勁草書房など。
----------	---

参考書	演習時に適宜紹介。
-----	-----------

その他	鹿嶋ゼミの特徴は、2~4年のゼミ生間に交流があること。履修希望者は、必ず経営労務論を履修のこと。他のゼミ活動には、工場見学、合宿、ゼミ書評、全国コンテスト参加などがある。詳しくはゼミWEBページ参照のこと。
-----	---

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~kashima/
-------	---

履修コード	146301
科目名	演習Ⅰ
担当者名	片桐 伸夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	このゼミは3・4年次(演習Ⅱ・Ⅲ)で「就職希望会社の経営分析」を行うことを目的とします。(経営分析の内容については、演習Ⅱの講義のねらいをごらんください。) 2年次(演習Ⅰ)では、その準備として、日商簿記検定2級にチャレンジしてもらいます。
---------------------	---

授業スケジュール	2級商業簿記：春休み3月にプレゼミ4回(8コマ)と(1-10)、2級工業簿記(11-20)、受験対策、(21-30)。以上は大まかなスケジュールですが、日商簿記検定は6月、11月、2月にあるため、個々人に合わせ、再受験対策もします。
----------	--

準備学習	日商簿記検定3級はマスターしている必要がある。
------	-------------------------

履修上の留意点	このゼミでは、経営分析の中でも、とくに財務諸表(貸借対照表や損益計算書など)の分析を中心とします。したがって、1年次の簿記学に興味を感じた人向けのゼミです。(なお、日商簿記検定2級取得者で1級にチャレンジする人は、独学or経理研究所or専門学校1級コースで一通りを学習していることを前提に受験対策のみ指導します。1級は2級の4倍程度の学習範囲があり、演習Ⅰでは対応できないためです。)
---------	--

成績評価の方法	成績評価の方法は平常点100%です。
---------	--------------------

教科書/テキスト	私が作成したものを差し上げます。
----------	------------------

参考書	問題集等、随時、紹介します。
-----	----------------

その他	プレゼミも行います。 ゼミ入室の決定方法は面接[志望理由書(500字程度)事前提出]とテスト(演習Ⅱは1年次学習中の簿記)によります。 なお、いうまでもなく無断欠席と遅刻は厳禁です。以上の方針に見合う、学習意欲十分な学生諸君の参加を希望します。
-----	--

履修コード	146701
科目名	演習I
担当者名	兼村 栄哲

授業概要/
到達目標 (ねらい)

(授業概要)
社会的な分業体制が成立している今日の経済においては、生産と消費の間に、主体的懸隔、量と組み合わせに関する懸隔、情動的懸隔、空間的懸隔、時間的懸隔といったさまざまな経済的懸隔が発生している。マーケティングとは、こうした経済的懸隔を架橋することによって、円滑な交換（の連鎖）を実現し、ひいては、消費者が、生産者が生産する商品消費することを可能にする活動をいい、社会経済的な観点に立ったマクロ・マーケティング（「流通」とほぼ同義）と、個別企業のマネジメントの観点に立ったマイクロ・マーケティング（いわゆる「マーケティング」）に大別される。
マーケティング論は、以上の2つのマーケティングのメカニズムを研究する学問である。
(到達目標)
本授業のねらいは、履修者の一人ひとりが、マーケティングにかかわる諸現象を体感し、当該現象について自分なりに論理的に説明できるようになることにある。

授業スケジュール

1. オリエンテーションマーケティングとは何かー
2. 経営学に関する小テスト、マーケティングの仕組み
3. 経営学に関する小テスト、マーケティングの発達史
4. 経営学に関する小テスト、マーケティング計画の策定
5. 第1回～第4回の復習
6. 経営学に関する小テスト、マクロ環境の分析
7. 経営学に関する小テスト、顧客の分析
8. 経営学に関する小テスト、市場戦略と競争対応
9. 経営学に関する小テスト、マーケティング・インテリジェンス
10. 第6回～第9回の復習
11. 経営学に関する小テスト、製品開発（その1）ー開発プロセスー
12. 経営学に関する小テスト、製品開発（その2）ー新製品の普及とその予測ー
13. 経営学に関する小テスト、価格の設定（その1）ー理論編ー
14. 経営学に関する小テスト、価格の設定（その2）ー実務編ー
15. 第11回～第14回の復習
16. 理解度の確認（その1）
17. 経営学に関する小テスト、コミュニケーション政策（その1）ー広告ー
18. 経営学に関する小テスト、コミュニケーション政策（その2）
ーセールス・プロモーションー
19. 経営学に関する小テスト、流通チャネル政策（その1）ーチャネルの選択ー
20. 経営学に関する小テスト、流通チャネル政策（その2）
ー小売業の経営とロジスティクスー
21. 第17回～第20回の復習
22. 経営学に関する小テスト、ブランド論
23. 経営学に関する小テスト、サービス・マーケティング
24. 経営学に関する小テスト、マーケティングの社会的役割
25. 第22回～第24回の復習
26. ケーススタディ（1）
27. ケーススタディ（2）
28. ケーススタディ（3）
29. ケーススタディ（4）
30. 理解度の確認（その2）

準備学習

下記に示す『テキスト経営学』および『マーケティング入門』の指定箇所を理解すること。

履修上の留意点

演習は、講義科目とはまったくその性格が異なっている。最低限、予・復習することはもちろんのこと、授業時間内においても積極的に参加することが要求される。このことは、「たんに出席し、ノートをとる」ことを意味するのではない。以下の4つが、私が皆さんに最低限要求する内容である。

- ・通常の演習においては、まず経営学に関する小テストをおこなう。
 - 次に、マーケティングに関する基本的なテキスト（下記に示す『マーケティング入門』）を全員で輪読し、基礎的な概念や理論を学ぶ。
 - ・4～5人のグループで業界研究をし、A4サイズで100枚以上のレポートにまとめる。そして、その概要を冬（ないし春）合宿で発表する。
 - ・夏休みの工場見学に参加する。その前提として、各工場について、それぞれのグループで20以上の質問を考える。
 - ・東京都が主催する「学生起業家選手権」および日刊工業新聞主催の「キャンパスベンチャーグランプリ」に参加する。
- また、以下の3点を強く要望する。
- ・通常の演習のみならず、合宿その他の課外活動にも参加すること。
 - ・お互いの親睦を図ること。
 - ・授業開始後、諸般の事情で履修を取りやめる場合には、必ず事前にその旨を申し出ること。

成績評価の方法

理解度の確認40%、経営学に関する小テスト20%、業界研究の内容および冬合宿の発表内容20%、平常点20%

教科書/テキスト

井原久光（著）『テキスト経営学ー基礎から最新の理論までー』〔第3版〕ミネルヴァ書房、3,360円、ISBN: 978-4-623-05129-8。
小川孔輔（著）『マーケティング入門』日本経済新聞出版社、3,990円、ISBN: 978-4-532-13369-6。

参考書

宮澤永光（監修）『基本流通用語辞典』〔改訂版〕白桃書房、2,625円、ISBN: 978-4-561-75169-4。
宮澤永光・亀井昭宏（監修）『マーケティング辞典』〔改訂版〕同文館、2,940円、ISBN: 4-495-63492-5。

その他については、適宜紹介する。

履修コード	147161
科目名	演習Ⅰ
担当者名	河合 由佳理
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 会計は、企業活動を数値で記録・報告するビジネスの言語としての役割を担い、ビジネスの世界では欠かすことができません。そこで、本講義は、国際会計を学ぶための基礎学習として、財務諸表の見方、日本の会計学に関する親しみやすい文献を輪読します。</p> <p>到達目標 前期の前半は、ビジネス会計検定試験3級レベルの学習を理解し、財務諸表の読み方を学習することを目標とします。その後、会計理論に関する基本的な知識を身につけるようにします。また、授業の中ではテーマに関連した企業の実例を題材に、皆で意見交換をしながらさらに理解を深めることも目指します。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 財務諸表とは 2. 貸借対照表 1 3. 貸借対照表 2 4. 損益計算書 1 5. 損益計算書 2 6. キャッシュフロー計算書 7. 財務諸表分析 1 8. 財務諸表分析 2 9. 財務諸表分析 3 10. 財務諸表分析 4 11. グループによる企業分析 1 12. グループによる企業分析 2 13. グループによる企業分析 3 14. 財務会計の基本 15. 会計の役割と規則 16. 財務諸表における表示 17. 会計の計算原理 18. 棚卸資産 19. 有形固定資産 1 20. 有形固定資産 2 21. 無形固定資産 22. 繰延資産 23. 金融資産 1 24. 金融資産 2 25. 負債 1 26. 負債 2 27. 純資産 28. 収益・費用・税金 29. 連結財務諸表 1 30. 連結財務諸表 2
準備学習	本講義は、週ごとに報告の担当を決めるため、報告資料の作成、財務データの収集等、事前準備が不可欠です。
履修上の留意点	授業は、受講生の報告・討論をベースに進める予定のため、無断欠席・遅刻は認めません。また、日商簿記検定3級から2級程度の知識を有するか、今後、検定を受験する意欲をもっている人の受講を希望します。
成績評価の方法	授業への取り組みを総合して評価します。
教科書/テキスト	授業中に指示します。
参考書	

履修コード	146831
科目名	演習I
担当者名	菅野 佐織

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習Iの目的は、マーケティング（特に消費者行動）の基礎研究を通じて、マーケティング全般の基礎知識及び論理的思考を養うことである。このゼミでは、マーケティング、消費者行動に関するテキスト・論文を輪読し、基礎知識を学ぶとともに、ゼミ生同士で議論することで、研究すべき問題の発見を行う。また、グループ毎に研究テーマを設定し、二次データの分析から仮説の導出、一次データの収集およびデータ分析による仮説の検証といった一連のプロセスを通して、研究の進め方についての理解を深める。最終的な結果は、論文または報告資料としてまとめている。
---------------------	--

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの輪読 ・グループ毎でのテーマ研究 ・研究発表会 ・論文執筆 ・ゲストスピーカー講義 ・ビジネスセミナーへの参加
----------	--

準備学習	ゼミ以外の時間にも自主的に勉強する必要がある。マーケティングの本や論文だけでなく、心理学、社会学、社会心理学、文化人類学等の本や論文、さらには英語の論文も進んで読むようにすること。
------	--

履修上の留意点	<p>このゼミに向いている人は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング、消費者心理の問題や消費者調査などのマーケティング・リサーチに興味がある。 ・ゼミの勉強を優先する。 ・自ら問題を設定し、責任を持って最後まで取り組むことができる。 ・時間をまもることができ、且つ他者とのコミュニケーションを大切にしながら課題を遂行できる。 ・他大学の学生と勉強することで自分を高めたい。 <p>(詳しくはネットで「関東10ゼミ討論会」を検索してみる)</p>
---------	---

成績評価の方法	ゼミへの貢献度、出席の状況、毎回の課題への取り組み度合いを総合的に判断して評価する。なお、自己評価および他のゼミ生からの他者評価によっても評価する。
---------	--

教科書/テキスト	授業で適宜お知らせする。
----------	--------------

参考書	授業で適宜お知らせする。
-----	--------------

その他	継続力と強い精神力、礼儀を持つ人を歓迎する。遅刻、欠席が多い人、やる気の低い人には、ゼミの途中で辞めてもらうことがある。また、何かを楽しむためには、ある一定以上の知識が必要となるので、ゼミ以外の時間にも進んで勉強すること。
-----	---

履修コード	145801
科目名	演習I
担当者名	岸田 隆行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、原価計算について計算の理論的背景を探り、原価計算で行われているような計算方法がなぜ必要なのかを探求していく。また、原価計算が経営管理において、どのような機能を持ちうるのかを管理会計的な側面から追求していく。
---------------------	---

授業スケジュール	原価計算に関する知識の習得を目的として、原価計算に関するテキストを読み進めていく。受講者の報告および報告内容についての討論を中心として、原価計算の理論に対する理解を深めていく。また、練習問題を解いていくことによって、計算力も高めていく。
----------	--

準備学習	担当箇所での報告では、指定されたテキストだけでなく、様々な文献を読んだ上で報告を行ってほしい。また、報告者以外の受講生も事前にテキストを熟読し、質問を考えた上で参加してほしい。
------	--

履修上の留意点	積極的にゼミ活動に参加してほしい。
---------	-------------------

成績評価の方法	報告の内容、ゼミへの参加程度により総合的に評価する。
---------	----------------------------

教科書/テキスト	開講時に指示する。
----------	-----------

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

履修コード	147171
科目名	演習I
担当者名	桑原 正行

授業概要/
到達目標 (ねらい) この演習Iでは、簿記・会計に関する基本的な知識を習得することを目的としている。特に、日商簿記3級・2級に合格することができるように複式簿記を中心に学んでいく予定です。

授業スケジュール 授業スケジュールについては、日商簿記3級におけるテキストにそって進む予定です。ただし、学生の理解度によって変更する場合があります。

準備学習 必要に応じて、プリントを配布します。

履修上の留意点 各自、電卓を用意すること。

成績評価の方法 通常の授業態度、および若干のレポートによる総合評価で成績をつける。テストは行わない。

教科書/テキスト 最初の授業の時に、指示する

参考書

履修コード	334901
科目名	演習I
担当者名	猿山 義広

授業概要/
到達目標 (ねらい) この講義では、管理会計の基礎となる諸概念について財務会計分野の知識も含めて学ぶことを目的としている。会計計算はたんなる四則演算ではなく、目的に合った政策的計算であること、また会計計算の裏側には明瞭な意図をもつ会計制度と会計理論が存在していることをつねに念頭に置いて勉強を進めていってもらいたい。

授業スケジュール 第1回 管理会計の基礎(1)-管理会計とは何か、第2回 管理会計の基礎(2)-会計情報システム、第3回 管理会計の基礎(3)-財務諸表、第4回 管理会計の基礎(4)-株式会社会計、第5回 管理会計の諸概念(1)-原価概念、第6回 管理会計の諸概念(2)-利益概念、第7回 管理会計の諸概念(3)-キャッシュフロー、第8回 管理会計の諸概念(4)-資本コスト、第9回 管理会計と原価計算(1)-原価計算の基礎、第10回 管理会計と原価計算(2)-間接費管理、第11回 管理会計と原価計算(3)-標準原価計算、第12回 管理会計と原価計算(4)-直接原価計算、第13回 第1回から第12回のおまとめ、第14回 利益計画(1)-CVP分析、第15回 利益計画(2)-価格を考慮した利益計画、第16回 利益計画(3)-プロモーションを考慮した利益計画、第17回 利益計画(4)-セールスミックス、第18回 原価管理(1)-ABC、第19回 原価管理(2)-原価企画、第20回 原価管理(3)-営業費管理、第21回 原価管理(4)-研究開発費管理、第22回 意思決定会計の基礎(1)-差額原価収益分析、第23回 意思決定会計の基礎(2)-期待値による意思決定、第24回 意思決定会計の基礎(3)-割引価値による意思決定、第25回 意思決定会計の基礎(4)-最適値による意思決定、第26回 第14回から第25回のおまとめ、第27回 管理会計の文献研究(1)、第28回 管理会計の文献研究(2)、第29回 管理会計の文献研究(3)、第30回 現代管理会計の特質

準備学習 日商簿記2級工業簿記レベルの原価計算の基礎知識は開講前に習得しておくこと。

履修上の留意点 演習では学生による発言が重要である。こちらの質問にはかならず何らかの回答を行うこと。その際、他の受講者がやりとりを理解できるように、できるだけわかりやすく発言すること。課題の報告については、資料を作成してもらった場合もあるが、その際は、文章だけでなく図表を盛り込んだ資料をつくること。

成績評価の方法 授業中の発言および課題の出来、平常点、年2回課すレポートの内容に基づいて総合的に評価する。

教科書/テキスト 参考資料を授業中に配布する。

参考書 櫻井通晴『管理会計〔第四版〕』同文館出版。

その他 1回の授業につきかならず、何か1つは新しい知識や疑問点を見つけられるよう集中して授業に臨んでもらいたい。

履修コード	146501
科目名	演習I
担当者名	高井 徹雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>ブロードバンドで繋がったインターネットを基盤とするIT(情報技術)は、今日の企業経営また社会・経済システムを捉えるうえでも最も重要なキーワードとなっています。皆さんは、真の意味で、情報が価値を持ち、情報が価値を生み出す時代に生きています。このような時代、企業や官庁のスタッフとして、また将来はエグゼクティブとして、「情報エリート」を目指すならば、少なくとも以下の能力が要求されると考えます。</p> <p>(1) 発見力: 与えられるのを待つのではなく、自分で問題を見つける能力。 (2) 洞察力: 問題に関係する必要な情報を選別する能力。情報を分析し問題の本質を洞察する能力。 (3) 表現力: 分析結果を集約し、解り易くプレゼンテーションする能力。 (4) 解決力: 他者と協力しあつて、具体的な問題解決を図る能力。</p> <p>皆さんに、こうした素地を養って頂くことを狙いとして、各週の演習、および年2回の合宿(1回は勉強、もう1回は親睦を主目的とする)における題材と環境を用意します。主体的にゼミに参加されることを願っています。およびそのスケジュールは以下のとおり。受講生とコミュニケーションをとりながら、理解度や興味の方向を見極めながら進めて行きます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	4-7月: 情報リテラシ・・・文書作成、HTML作成、スプレッドシート基礎・応用 6月: ソフトシステム方法論・・・演習IIと合同ゼミ合宿、SSMで社会的問題を扱う 9-12月: 計算機言語・・・EXCELマクロなどによるプログラミング
準備学習	毎回出席して、適宜出される課題・レポート等に応えられるよう、課外学習の時間を確保してください。
履修上の留意点	毎回、コンピュータールームにおいて実習形式で授業を行います。実習形式の授業は、全体が同じペースで学習を進めていく必要がありますので、極力欠席しないようお願いいたします。
成績評価の方法	毎回出席をとります。また、前期・後期各1件程度、学習内容に応じてHTML作成やプログラミングなどの課題を出します。これら平常点により評価を行いますので、筆記試験は行いません。
教科書/テキスト	輪読を行う場合は、皆さんと相談のうえ、適切な教科書を指定します。
参考書	

履修コード	145101
科目名	演習I
担当者名	高木 克己

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 本ゼミナールでは、3年間を通じて、法人税の対象となる企業の課税所得の算定過程を明らかにすることを中心に研究を行います。 なお、毎回報告者の発表に対し討論を行うという形式で進めていくので、その中で十分に自分の意見が主張できるようになって欲しいと考えています。 2年次では、企業の税金の問題を扱う前提として、簿記、会計理論の基礎的な知識を習得します。本年度は会計学の基礎を中心に勉強をします。ただし、最低限、6月の日商検定試験3、2級に向けて3カ月間だけ簿記検定の勉強をします。(すでに3級を取得している者は2級に向けて、初めての人は3級の合格を目的にします。) なお、合宿は11月全学年合同で行っています。その内容は、ディベートが中心になります。その他、年2回程度、全学年で集まる機会を持っています。 明るくて、好奇心が強く、夢をたくさん持っている人が志望してくれたらいいなと思っています。ゼミ運営の基本的な考え方として、目標を持って頑張っている人や一生懸命勉強をしている人が居心地が悪くなるような雰囲気は絶対つくらないようにしています。</p> <p>(到達目標) 税務会計論を学ぶ事前準備として、簿記及び会計理論の基礎知識の習得を目標にします。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	4月から、6月までは、日商簿記検定受験に向けて、個別問題や模擬試験問題等を使用して各自の実力に合わせて勉強していきます。 その後は、12月まで、会計の基礎を学びます。ローテーションを決めて報告してもらい、解説していきます。
準備学習	復習に力を入れて学習してください。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席及び報告により評価します。
教科書/テキスト	
参考書	最初の授業で紹介します。

履修コード	145401
科目名	演習I
担当者名	滝田 公一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本年度は次の文献を利用して演習を行う予定です。 [1] 東北大学経営学グループ著、『ケースに学ぶ経営学』（有斐閣ブックス）1998（2,500円）</p> <p>文献[1]は、「企業とは何か？それはどのように経営されているのか？」という問題を幾つかの現実の事例（例えば、スカイマークエアライン社の設立、マクドナルドとモスバーガーの競争戦略など）を通して考察したものです。此の教科書を題材として、学生諸君には、課題報告（例えば、1970年代から80年代に架けて、日本の自動車企業は、アメリカの自動車企業に追いつき追い越していきますが、なぜそのようなことが起こったのか、環境と戦略について調べましょう、など）をしてもらう予定です。このような課題報告を通じて、レポートの書き方と文献・資料の探し方に習熟していただくことも演習Iの狙いの一つです。</p> <p>また、文献[1]とあわせて、代表的な表計算ソフトであるExcelを使った経済データの情報処理をも勉強する予定です。簡単な計算によるデータの変換、グラフの作成、最小二乗推定、確率分布、線形計画法、簡単な経済理論のシミュレーション、などが取り扱われる予定です。特別な予備知識は必要ありませんが、「情報処理基礎」を前もって、または、同時に履修されると理解が一層深まるのではないかと思います。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期は、エクセルを用いて、表やグラフの作成法を学び、つぎにその知識を生かして、初歩の確率・統計を学びます。これらの知識を基にして、単回帰の考え方を学びます。後期は、重回帰と仮説の検定を学びます。また、前期の初めに、レポートの書き方を勉強し、それを基にして、プレゼンテーション用の原稿を作り、3週に1度程度、学生諸君に企業のケーススタディに基づく課題の報告をしてもらいます。</p>
----------	---

準備学習	<p>課題のプレゼンテーションには、パワーポイントなどを用いて、プレゼンテーションの資料を作成しましょう。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>どうしても必要というわけではありませんが、関連科目として、情報処理基礎、統計学、経済学概説などを履修なさると有益です。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>成績評価は、課題報告(30%)と、学年末のレポート（通常、computer assignment、70%）によって行います。</p>
---------	---

教科書／テキスト

参考書

履修コード	146871
科目名	演習I
担当者名	長 國強

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>現代は情報化社会と言われ、新聞・雑誌・インターネットを開いてもそこに大量の経済・経営データが見られる。ところで、経済・経営などのデータをそのまま見れば、単なる数字の山にすぎず、大切なことはそこから正しい見通しを得ることであろう。実際のデータから経済・経営など社会的な動きをどのように読みとるのかといった能力を養成できるようにすることを目的として、本演習はコンピュータを使つてのデータ解析の基本技術を学習する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>演習I（2年生）：決算書…見方・読み方 決算とは、一定期間の収入・支出を計算し、利益又は損失(損益)を算出することである。企業だけでなく国・地方公共団体においても決算を行うことが、法律で定められている。本演習では、インターネットや参考書・討論などを多用して、決算書などの数字を読めるように実習していく。数字に強くなると、会社の安全性、収益性、営業力そして将来性まで、面白いように見えてくる。</p>
----------	---

準備学習	<p>特にありません。</p>
------	-----------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	<p>平常点：課題(50点)・レポート(50点)の成績などで総合的に評価する。</p>
---------	---

教科書／テキスト	<p>特に使用しませんが、プリントは随時配布する予定。</p>
----------	---------------------------------

参考書	<p>日本経済新聞。</p>
-----	----------------

その他	<p>演習Iは毎回の実習アイテンに連続性があり、1回欠席すると、次回の実習についていけないことも考えられる。したがって、理由なく年間8回以上欠席した場合、自動的に除名されることにする。</p>
-----	--

履修コード	146851
科目名	演習I
担当者名	中野 香織

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、マーケティング・コミュニケーションおよび広告について、実務と理論の両方の面から考察することを目的とする。理論を学ぶことに加え、それを実際の戦略に応用できるような思考も身につけることが必要である。また、さまざまな課題に取り組むことを通じて、テーマに関連した資料収集の方法、問題を発見する視点、それを解決するための方法、考えたことを人に伝えるためのプレゼンテーション方法などを学んでほしい。
---------------------	---

本演習の方針は、以下の2点である。
 (1) 外との積極的な交流
 駒澤大学のなかだけにとどまらず、企業の方や他大学の学生など、外との接点をできるだけ多く持つようにする。
 (2) 複数作業の同時処理 (マルチタスク)
 企業で働き始めたら、複数の仕事を同時にこなさなければならない。そのため、今のうちからいくつもの作業を行うことに慣れるようにする。

本演習の到達目標は、以下の3点である。
 (1) マーケティング・コミュニケーションの知識を得る
 まず、基本的なマーケティング・コミュニケーションの知識を身につけてほしい。マーケティング・コミュニケーションとは、企業が自社の製品やサービスについて、消費者に認知させ、購買を促進するために情報を発信することである。
 (2) 思考力を身につける
 得た知識を使って、実際の戦略に応用できる思考力を身につけてほしい。具体的には、現状の分析、問題を発見する視点、その解決方法、それを論理的にまとめる力などである。
 (3) コミュニケーション能力を高める
 自分の思ったことを積極的に発言し、他人と議論ができ、相手に伝わるプレゼンテーションができるようにしてほしい。

授業スケジュール	前期はマーケティング・コミュニケーションおよび広告に関する基礎的な知識をメンバー全員で共有する。マーケティングや広告の教科書を輪読し、内容について議論する。 後期はグループ研究を基本とし、4大学6ゼミ (約180程度が参加) で内容を競い合う研究発表大会 (Marketing Research Grand Prix) へ参加する。昨年のテーマは「Z世代向けマーケティング ～〇〇離れをくいとめろ～」であり、グループごとに研究発表を行い、優勝を競う。 その他、工場見学、ゼミ合宿などを行う。
----------	---

準備学習	本演習はマーケティングの関連科目であるため、受講者にマーケティングの知識があることが必要である。そのため、同時にマーケティング論の講義を履修することに加え、マーケティングに関するテキストを読んでおくことが望ましい。
------	---

履修上の留意点	ゼミの時間には積極的な発言が、ゼミの時間外には自主的な課題への取り組みが求められる。特にグループ研究ではメンバーと共同で多くの課題をこなし、活発な議論を行う。そのため、マーケティング・コミュニケーションに関心が高く、ゼミ中心の学生生活を過ごしたいと思うような意欲的かつ協調性のある人に参加してほしい。
---------	--

成績評価の方法	平常点 (積極的な参加など)、発表内容、レポートなどにより総合的に評価する。
---------	--

教科書/テキスト	参考書のなかから、数冊を教科書として利用する。詳しくは開講時に指示する。
----------	--------------------------------------

参考書	亀井昭宏・ルディー和子編『新マーケティング・コミュニケーション戦略論』2009年 (日本経済新聞出版社) 2,310円 石崎徹編『わかりやすい広告論』2008年 (八千代出版) 2,835円 嶋村和恵監修『新しい広告』2006年 (電通) 2,100円 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論 新版』2008年 (有斐閣) 2,205円
-----	---

履修コード	147101
科目名	演習I
担当者名	中村 公一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本ゼミでは現代企業の置かれている環境とそれに対する経営戦略を紐解いていき、実践的な場面でも応用できる知識と考え方を身に付けるために、文献購読・資料調査・ケーススタディ・ビジネスプランニングなど多彩な課題に取り組みます。</p> <p>ゼミは、単位を採るだけのものではなく、個人の「知的トレーニングの場」であり、他のゼミ生達と切磋琢磨する場であると考えて下さい。私の役割は、ゼミ生がゼミでの勉強をきっかけにして、豊かな学生時代を築こうとする時のお手伝いをするだけに過ぎません。運営の主体は君達にあります。</p> <p>(1) 文献購読やケーススタディなどを通して、企業の置かれている環境とそれに対する戦略を的確に理解する専門知識の習得、分析力、洞察力の強化を図ります。</p> <p>(2) レポート作成を通してのアウトプット能力、論述能力、論理構成力の強化を図ります。</p> <p>(3) 毎週の報告や議論などを通じてプレゼンテーション能力やディスカッション能力の強化を図ります。</p> <p>(4) 実際にビジネスプランの策定を通して、事業戦略を構築する企画力と構想力の強化を図ります。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>演習I (2年生)</p> <p>前期 (1~15回) ; 経営戦略論に関する入門書の購読+資料などの調査方法、企業研究・分析レポートの作成</p> <p>後期 (16~30回) ; 現在の経営環境の解説作業、競争企業分析の実践 (グループ調査)、報告書『経営戦略事例集』の作成</p>
----------	--

準備学習	経営学・経営戦略論を勉強する上では、日頃から新聞や雑誌、テレビなどで関連する情報にはできる限り目を通すことが効果的です。我々の周りではどのようなことが起きているのか、常に把握していくことが、学習意欲の向上につながるでしょう。
------	--

履修上の留意点	ゼミの理念は「知的トレーニング」にあるので、毎週レポートを宿題として課し、相当の勉強時間の確保が必要になります。また、ゼミでは議論が中心になるために、事前の準備も必要となります。(夏に合宿を行います)
---------	--

成績評価の方法	遅刻の常連、無断欠席、各種課題や提出物の期限の遅れ、不十分な内容のレポートを提出した場合は、厳しくチェックします。成績は、出席数、提出課題の内容、議論への貢献度などの平常点によって判断します。なお、4年次にはゼミ論文があります。
---------	--

教科書/テキスト	授業時に発表する
参考書	

履修コード	146801
科目名	演習I
担当者名	西村 和夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	【テーマ：情報セキュリティ】 文書 (英論文など) の読みかた、書きかた、発表のしかた、コンピュータの利用のしかたを体得し、論理的な思考力を養う。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>次の事項を順に演習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タッチタイピング ・ HTML による Web ページの記述、CSS ・ 文章の書き方： 頭括法、ビジネス文書の書き方、レポートの書き方、公用文の書き方 ・ 書誌情報の検索のしかたと検索練習 ⇒ レポートや論文の作成に役立つ。 ・ コンピュータの基礎知識 ・ 問題の発見と解決： 問題とは何か、解決の諸方法 ・ コンピュータによる問題解決： アルゴリズムと計算量 ・ 論文の読み方と発表のしかた <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆情報処理技術者試験のための学習 ◆研究発表会 (年1度) ・ イベント (年1・2度)
----------	---

準備学習	とくになし
------	-------

履修上の留意点	テーマは「情報セキュリティ」であって、コンピュータの操作方法ではない。コンピュータの知識がある人ではなく、やる気と実行力のある人を求む。入ゼミ者は、2年次までに「情報処理基礎A/B」と「情報セキュリティA/B」を必ず履修すること。
---------	---

成績評価の方法	出席のほか、タッチタイピングの基準達成、検索課題、レポート。
---------	--------------------------------

教科書/テキスト	教材ページ： http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/seminar/materials.html
----------	--

参考書	
-----	--

その他	科目「情報セキュリティ」が履修できる市場戦略学科の学生だけを受け入れる。入ゼミ手続き (1年次)： 面接と文章完成法テストによって選考する。説明会に出席しないと、面接が受けられない。原則として「情報処理基礎」をすでに履修していること。
-----	---

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/
-------	---

履修コード	147121
科目名	演習I
担当者名	日野 健太

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 このゼミでは組織が直面するさまざまな問題を取り上げ、多角的に分析する。組織論の問題を中心に取り上げ、組織論のものの見方を身につけることを目的とするが、経営学全般についての理解が深まるように、配慮する。</p> <p>演習Iでは、企業と経営に対して、組織論的なアプローチができるようになる。企業とは、優れた経営者がいて、その戦略に基づいて合理的に行動する組織だという見方から離れられるようになる。また、自分の関心のあるテーマについて、10,000字のレポートを書く。</p> <p>到達目標 企業と経営について、経営組織論の視点を活かして、自分なりの考察が始められるようになる。</p> <p>ある程度の長さと内容を持つ文章を書くことに慣れる。 ディスカッションの基本的な作法を習得する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>年間を通して文献輪読とディスカッションによって経営組織論の内容を学ぶ。</p> <p>前期を中心にその日の日経新聞を持ってきて、関心のある記事について報告してもらう。</p> <p>時期を見計らって、組織を分析する方法を実際に体験する。</p> <p>時期を見計らって、工場見学を行う。</p> <p>時期を見計らって、ゼミ合宿を行う。</p> <p>時期を見計らって、卒業生の仕事の話を聞く機会を設ける。</p> <p>時期を見計らって、コンパ(学生などが費用を出し合って行う懇親会の意。広辞苑より)を行う。</p> <p>年度末には、次年度に向けてレポート10,000字を執筆する。</p>
----------	--

準備学習	<p>ディスカッションに参加するためには、レポーター以外の学生も予習は必須である。ワード、エクセル、パワーポイントの使い方については指導しないが(そんなことを教わるためにゼミに来ているわけではないと思うので)、必要となったときには、自習すること。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>ゼミなので、とにかく出席しないことには始まらない。遅刻・欠席するものではないという自覚を持って参加すること。親睦行事にも参加すること。</p> <p>合宿、コンパ等の係に迷惑をかけることをはじめとして、どうすればゼミがうまくいくのかを考えて参加すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	平常点100%
---------	---------

教科書/テキスト	開講時に指示する。
----------	-----------

参考書	
-----	--

その他	<p>どこのゼミを出たかは、大学生活においてももっとも重要なことのひとつだと思います。私もそのつもりでゼミには取り組みますし、学生諸君もそう思ってゼミを選択して欲しいと思います。私自身も未だにゼミの友人とはつきあいがあるし、日野ゼミの過去のゼミ生達もそのようです。また、私にとってもゼミの卒業生が活躍していると聞くのは、うれしいことです。勉強したことは忘れてしまうと思いますが(!)、それぞれが、ずっとこのゼミでよかったと言えるようなゼミを目指しましょう。</p>
-----	--

履修コード	146601
科目名	演習I
担当者名	藤原 篤志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 本演習ではテーマを「モノづくりの経営学」としており、主として製造企業の生産戦略、生産管理、技術管理、作業管理などを対象としている。またモノづくりには労働力が不可欠かつ重要な要素であるので、労働者による労働も考察の対象としている。本演習ではこのテーマに関してゼミ論文を作成し、それを題材にしたプレゼンテーション(発表・報告)や議論・討論を行う。このように受講生が「自分でやってみて学ぶ」受講生主体の授業である。</p> <p>(到達目標) 受講生は上記テーマに関連して、自分の興味・関心のあるテーマを選び、それについて研究を行い、4年のゼミ終了の時点までにゼミ論文を作成・完成させることを最大の目的としている。また授業の中で、ゼミ生には自分の論文の経過・成果についてプレゼンテーション(発表・報告)をしてもらい、それに対する質疑応答や議論・討論を他のゼミ生と活発に行うことにしている。以上の論文作成、プレゼンテーション、質疑応答、議論・討論を通じて、知識を吸収することはもちろん、プレゼンテーション能力、物事を論理的に思考する能力、コミュニケーション能力を養うことも目的としている。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>2年生(演習I)では、まずは基礎固めとして経営学全般の基本的な内容を学習することを目的としている。ゼミ生各人にはこちらから学習テーマが与えられるので、それについてゼミの中でプレゼンテーション(発表・報告)をしてもらい、それに対する質疑応答、議論・討論を行う。その中で、報告・発表、思考、発言・表現等の能力を養っていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション1(資料の探し方、資料の読み方・まとめ方) 2. オリエンテーション2(レジメの作成、プレゼンテーションの方法) 3. オリエンテーション3(司会者・コメンテータの役割、議論討論の進め方) 4~30. 受講生によるプレゼンテーションと議論討論 <p>(正規の授業時間以外に、工場見学、夏季合宿、冬季合宿あり)</p>
----------	--

準備学習	<p>プレゼンテーションの準備、議論討論の司会準備には日常的な準備学習(文献の収集・精読、研究ノートの作成、レジメや資料の作成、議論討論のテーマの選定など)が必要になる。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>本演習は上記のようにプレゼンテーション、質疑応答、議論・討論が中心となるので、ゼミ内に全員が積極的に発言できる雰囲気を作りたい。そのため、授業時間以外のイベント(工場見学、合宿、コンパなど)には全員が参加することが原則である。</p> <p>論文の作成や授業内のプレゼンテーション等の準備には授業以外の時間を多く割き、相当な努力が必要になってくる。それゆえ中途半端な気持ちで志願する学生には遠慮してもらいたい。勉強にしろその他のイベントにしろ、自分から常に積極的に参加・参画する姿勢が求められる。本ゼミでは何よりもやる気のある学生を歓迎する。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>プレゼンテーション50%、議論討論への参加40%、レポート10%。このように出席して参加し与えられた役割を果たすことを重視するので、授業へは原則的に毎回出席することが求められる。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>特定のテキストはなく、講読する文献はゼミ生の学習・研究分野に応じて自主的に選定してもらう。また企業での実例に関する資料は、日本経済新聞や日経産業新聞を活用し、ゼミ生自身の研究テーマに関わる記事を適宜こちらから提示する。</p>
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	146861
科目名	演習I
担当者名	若山 大樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>マーケティング関連の社会的な現象や問題について関連する理論や分析手法、仮説検証の方法を学び、演習Ⅲまでの3年間で学術論文が書けるようになることを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>演習Iでは、市場(消費者行動)を理解するための方法論や理論について学ぶ。具体的には、マーケティングデータの理解を深めるために消費者行動の観察方法、調査方法、実験手法、マーケティングデータ解析法、そして市場理解において重要な社会心理学の理論、公的機関のマーケティングについても学ぶ。また、この分野で最も利用されている統計処理ソフト(SPSS)を使うための基礎について学び、レポートのまとめ方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。</p> <p>講義のスケジュールは以下のとおり。</p> <p>(1)~(6) マーケティングの基礎を学ぶためのテキストの輪読・発表、(7)~(14) 論文の輪読・発表・質疑応答・ディスカッション、(15) 前半まとめ、(16)~(22) 統計処理、(23)~(30) データ分析課題</p>
----------	--

準備学習	<p>日頃より問題意識を持って新聞記事に目を通し、授業中のディスカッションに備えること。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>学習効果が高まると考えられることは積極的に取り入れる。各自、意欲を持って積極的に取り組むこと。マーケティング関連科目を履修していること。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>一人4回程度の発表。ディスカッション(質問、コメント等)への参加、データ解析課題提出状況を総合的に評価する。無断欠席は履修放棄とみなします。成績は出席80%、発表+ディスカッションへの参加状況等(20%)により総合的に評価します。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>演習配属説明会で指示した教材(2冊)は4月中に各自用意しておくこと。その他、必要に応じて指示あるいは配布する。</p>
----------	--

参考書	<p>必要に応じて配布あるいは指示する。</p>
-----	--------------------------

履修コード	147141
科目名	演習Ⅰ
担当者名	渡辺 伊津子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本ゼミでは「経営管理」の基本的な概念および理論について理解を深めることをその狙いとす。授業概要としては、前期では、まず経営学を学習していくうえで必要となるスキル(たとえば文献・資料の探し方など)について学習し、そのうえで経営管理論の基本的な概念および理論について理解を深めるために基礎的文献の輪読を行う。後期では、各自の興味・関心に沿って問題意識を明確化する。
---------------------	--

授業スケジュール	(1)オリエンテーション (2~5)必要なスキルを学ぶ(文献・資料の探し方や読み方、討論の仕方、レジュメおよび研究レポートの作成の仕方、報告およびプレゼンテーションの仕方など) (6~15)輪読を通して経営管理論の基礎を学ぶ (16~29)グループディスカッションを通じて各自の問題意識を明確化する (30)総括
----------	--

準備学習	経営管理論を受講すること。
------	---------------

履修上の留意点	ゼミでのイベントやその他の活動などについて、実行してみたい企画などがあれば積極的に提案してください。1つの企画について草案から実行の一連のプロセスを責任を持って担当した学生については、これを高く評価します。
---------	---

成績評価の方法	平常点80%(出席、ゼミへの積極的な参加、研究報告内容、課題レポート) 学期末テスト20%
---------	--

教科書/テキスト	開講時に指示する。
----------	-----------

参考書	田中共子編(2003)『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房。
-----	---------------------------------

履修コード	149911
科目名	演習Ⅱ
担当者名	青木 茂樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習の目的は、マーケティングや流通に関する知識を主体的に獲得していく姿勢や作法を身につけることである。今日、様々な情報が渦巻く社会では、本質的課題を発見し仮説を創造する力や、これを検証する様々な情報収集の仕方、これを論理的に説明していく力が必要である。こうした姿勢や作法を学生時代に体得しているか否かは、社会の舞台にたったときのスタート時から大きな差となるであろう。 こうしたゼミ活動を通じて、今日、社会人基礎力といわれる12の力、①Action(主体性、働きかけ力、実行力)、②Thinking(課題発見力、計画力、創造力)、③Teamwork(発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力)を養う。事前・中間・事後で、個々人のこれらの到達度を測り、将来の職業適性などに応じた指導も合わせて行う。
---------------------	---

授業スケジュール	1. 前期 マーケティング・流通に関する重要な論文を輪読しながら、それらのアイデアが生まれてきた背景や今後の発展的展開を考える。フィールドワークや企業訪問、ゲスト・スピーカーの招聘なども適宜行う。 2. 夏休み 夏合宿(9月)&OB・OG会 合宿では、グループ研究の中間発表を行う。そのために自主的な研究会を開く場合もあろう。 3. 後期 前期同様に論文の輪読と批判的検討を行う。これに加え、グループ発表へ向けて、グループ論文の作成に取り掛かってもらう。これは、外部機関の学生懸賞論文などとテーマを兼ねることも考えられる。基本は自分達が一番やりたい研究を行うことであろう。 4. 冬休み 完全休み 5. 春休み OB・OG会。
----------	---

準備学習	前期・後期ごとのスケジュールによって課題が設定されるとともに、毎回の講義で追加的に課題が指示されることもある。日頃から高い問題意識で課題に関わる十分な周辺知識を自主的に調べておく姿勢が必要である。
------	--

履修上の留意点	学生の主体的な研究意欲や向上心によってゼミは牽引されるものであり、教員はアドヴァイザーやサポーターに徹する。もちろん無断欠席はありえない。
---------	---

成績評価の方法	ゼミ活動全般を通じて、総合的に評価する。すべてにパーフェクトな人間はいない。むしろ個々人の関心や持ち味を生かしてゼミ運営に参加・貢献していることを高く評価する。
---------	--

教科書/テキスト	皆さんの研究や将来の職種の興味を伺いながら、演習時にテキストを決めていく。
----------	---------------------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	149201
科目名	演習II
担当者名	明石 博行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>経済社会学の応用的な研究領域の一つである、グローカリゼーションに関する学習と研究に取り組めます。演習は前期と後期に分けて行い、前期にはパソコンの操作能力等の基礎力の育成を図り、後期にはグローカリゼーションに関する図書の学習と研究に取り組みます。焦点を絞る具体的な研究テーマとテキストについては、ゼミ参加者と相談して決定します。基本方向としては、現代の多国籍企業と地域経済に関する図書をテキストとして選定し、参加者全員で討論をしながら学習を深めます。卒業論文の作成に向けての準備活動も、3年次の重要な課題となります。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期の演習は、パソコン教場において行います。エクセル（およびパワーポイント）の操作能力を育成しつつ、マクロ経済分析に関する統計処理の基本を学びます。また、資料作成の学習と結びつけるかたちで、高校レベルの政治・経済の再学習をします。</p> <p>後期の演習は、通常の演習教場において行います。テキストについては、最近刊行された図書の中から候補となる複数の著作を選び、ゼミ参加者と相談して最終的に決定します。基本となる研究テーマとテキストを決定したのち、レポーター、司会者、コメンテーターを輪番制で回しながら、テキストを中心とする学習と討論に取り組みます。</p> <p>本演習では、サブゼミと合宿、地域調査も大切な取り組みとなります。サブゼミでは、3人ないし4人のチームをつくり、それぞれのチームごとに研究テーマを設定し、資料やデータの収集の仕方と分析の仕方を学んでゆきます。基本的には、サブゼミでの調査・研究の発展として、卒業論文の構想をまとめられることになっていくでしょう。</p> <p>合宿では、ビデオ学習なども含め、通常のゼミ学習の補足や準備的な学習・研究に取り組みます。合宿と結びつけて実施するときもありますが、地域の取り組みに関する調査研究の一環として、企業や博物館の見学なども行います。</p>
----------	--

準備学習	<p>基礎知識の習得のみならず、資料の探索や整理の仕方についても、ゼミの準備活動を通じて学んでもらいます。後期の学習においては、全体像のなかに位置づけて検討部分を理解できるよう、また前後の関係をよく理解できるよう、努力してください。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>定められた時間帯の演習、補習や相談会を通じて、参加者全員の学習とサブゼミのチーム・テーマ別の学習とを組み合わせさせてゆきます。演習は参加者の自主的な取り組みなしには成立しません。受け身の姿勢ではなく、能動的な姿勢での参加が求められます。</p>
---------	---

成績評価の方法	出席と課題への取り組みを総合的に判断し、評価をします。
教科書／テキスト	『速効! 図解Excel2010 [総合版]』(毎日コミュニケーションズ、1974円 [税込]) 後期のテキストについては、ゼミ参加者との相談のうえで決定します。

参考書	『最新政治・経済資料集』(第一学習社、940円 [税込])
その他	昨年度は演習Iを募集しませんでしたので、3年次からの新規募集となります。

履修コード	147201
科目名	演習II
担当者名	阿部 一人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	会計監査の基礎理論を体系的に考察する。
---------------------	---------------------

授業スケジュール	会計監査の基本的役割、機能そして監査基準をとり上げる。
準備学習	演習Iで指示したテキストを読んでください。

履修上の留意点	
成績評価の方法	成績評価は、出席状況、報告発表、レポート等により総合的に判定する。

教科書／テキスト	開講後指示する。
参考書	授業中において適宜指示する。

履修コード	148901
科目名	演習II
担当者名	飯田 哲夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>この演習では、企業経営上の問題解決のための定量的な情報分析の理論と方法について学びます。近年の情報技術の発展により、大量のデータや情報を活用した定量的な分析の多くが、比較的容易に行うことができる状況になってきており、それらを利用して定量的に問題を分析することは、データに裏づけられた合理的な意思決定へと通じていきます。そして、分析の際には、より有効にデータや情報を活用するために、また、問題の本質を理解するために、しばしば問題状況を数理的にモデル化します。このアプローチの対象範囲は幅広いですが、とりわけサプライチェーン・マネジメント (SCM) の分野が顕著です。</p> <p>ここでは、SCMについての知識を習得するとともに、演習Iでの学習を発展させ、SCMにおけるモデル分析の手法についてより深く学習していきます。</p> <p>(到達目標)</p> <p>サプライチェーン・マネジメントの理論と方法論、特にモデル分析、についての知識とスキルを習得することです。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	サプライチェーン・マネジメントやモデルによる意思決定・分析に関する文献の輪読を行います。
----------	--

準備学習	前回の授業内容を復習し、当日の授業についても、テキストを予習しておくこと。また、授業内容に関連する新聞や雑誌の記事に適宜目を通しておくこと。
------	--

履修上の留意点	このゼミでは、学生の主体的・積極的な参加を前提としています。「経営数学」を受講した程度の数学的知識を持っていることが望ましい。その数学的知識を応用してみたいと思っている意欲のある学生の参加を希望します。
---------	---

成績評価の方法	平常点 (出席とゼミへの積極性)、課題のレポートと発表により総合的に評価します。
---------	--

教科書/テキスト	最初の授業のときに紹介します。
----------	-----------------

参考書	
-----	--

履修コード	147901
科目名	演習II
担当者名	石名坂 邦昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>企業の安定経営をはかる上でリスク・マネジメントは欠かすことのできない理論となっている。今日の複雑多岐にわたるビジネス・リスクにどのように対処すべきかは企業経営者の一番の関心事と言える。本演習においては、ビジネス・リスクへの対処を理論的・技術的に考察していきたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	リスク・マネジメントを学ぶ上で、必要不可欠となる保険について、各課題ごとに毎週レポートを提出してもらい、数名の受講生に報告をしてもらい、そのことにつき討論を行う。また、リスク・マネジメントの基本的なことにつき講義も行う。
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	毎週、定められたテーマについて全員が参加してディスカッションを行うため無断欠席はしないてもらいたい。
---------	--

成績評価の方法	出席およびレポートによる総合評価を行う。
---------	----------------------

教科書/テキスト	講義に必要な資料等はコピーして配布する。
----------	----------------------

参考書	授業中に適宜紹介する。
-----	-------------

履修コード	147301
科目名	演習II
担当者名	小沢 利久

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	マネジメント・サイエンスとは、経営活動の様々な場面における意思決定を支援するための方法を考える学問であり、対象をモデルで表現し、コンピューターを使って定量的に分析する点に特徴があります。また、マネジメント・サイエンスの応用範囲は、伝統的な生産・流通の分野から近年はマーケティングやファイナンスの分野へと広がりがつづいています。この演習ではそのようなマネジメント・サイエンスの各種手法とコンピューターリテラシについて学ぶとともに、資料作成とプレゼンテーションを通じてコミュニケーション能力の育成を図ります。
---------------------	--

授業スケジュール	今年度はマーケティング分野及び金融工学分野で利用されている分析手法を取り上げて、データ集めから分析・発表までを以下の内容で行います。マーケティング分野で利用されている分析手法については教科書を使って基本から学ぶ予定です。 ・マーケティング分野： 手法は回帰分析と因子分析について学びます。応用では、知覚マップと選好回帰分析、コンジョイント分析を題材に、自分たちでアンケートを作成し、それを分析、結果を発表してもらいます。 ・金融工学分野： 簡単なプログラミングを学んでから、コンピューター・シミュレーションを用いてストックオプションの価格評価を行い、結果を発表してもらいます。株価のデータはネットから集めたものを使います。
----------	---

準備学習	必要に応じて授業の中で示します。
履修上の留意点	パソコンを使った授業が主になります。演習IIについては、演習III（4年生）を継続して受講することを前提としています。
成績評価の方法	課題提出物、発表内容、その他平常点により評価します。
教科書/テキスト	必要に応じて指定します。
参考書	必要に応じて示します。
その他	特にありません。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/

履修コード	147401
科目名	演習II
担当者名	鹿嶋 秀晃

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 研究テーマは現代日本企業の人事労務管理。大学生活の中で、ゼミは最も勉強に打ち込み、一番思い出せる場所だと考える。よって、積極的に勉強し、行事を企画し、みんなで楽しくゼミを過ごしたいという学生を採用する。 (到達目標) 4年卒業時のゼミ卒業論文の完成を最終目標とする。経営労務論の中から自ら関心のあるテーマを設定し、幅広い研究の結果としてロジカルな学術論文を書くことが目標。
---------------------	--

授業スケジュール	現代の日本企業とそこに働くサラリーマンが抱える問題に関して、入門書と専門書を読んでいく。企業と労働、社会について幅広い関心を持ち、科学的に考える力を養う。サブテーマは「終身雇用」「年功賃金と能力主義」「日本の経営」「女性労働」「日本の労使関係」「会社人間」「過労死」ほか。2か月に1冊のペースで本を読む。受講者全員があらかじめテキストを熟読し、中から報告者（レジュメを作成）、アシスタント（授業の内容を補完して解説）を決め、その2人を中心に議論を進める。4年次は卒論作成中心。夏合宿では、3学年合同のディスカッションを行う。冬合宿では、卒論発表会を行い、4年は発表、2、3年は卒論に対するコメントを発表する。
----------	--

準備学習	日常的に新書や経済新聞等にも目を通して、関心を広げておくこと。
履修上の留意点	カリキュラムの特性上、本演習は経営学科生対象。無断欠席は単位認定なし。時間割以外に設定している行事もゼミの一環なので必ず出席のこと。
成績評価の方法	出席点（点数には考慮せず、出席が大前提）、講義中の発表・発言（40%）、毎週の課題作成（40%）、レポート・書評の提出（20%）を総合して判定。
教科書/テキスト	適宜指示する。過去のテキスト例。竹内裕 [2008] 『日本の賃金』ちくま新書、辻隆久 [2010] 『雇用調整のマネジメント』創成社、武石恵美子編著 [2009] 『女性の働きかた』ミネルヴァ書房、小谷敏・土井隆義・芳賀学・浅野智彦編 [2010] 『若者の現在 労働』日本図書センター、佐藤・武石編著 [2011] 『ワーク・ライフ・バランスと働き方改革』勁草書房など。
参考書	演習時に適宜紹介。
その他	鹿嶋ゼミの特徴は、2~4年のゼミ生間に交流があること。履修希望者は、必ず経営労務論を履修のこと。他のゼミ活動には、工場見学、合宿、ゼミ書評、全国コンテスト参加などがある。詳しくはゼミWEBページ参照のこと。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~kashima/

履修コード	148601
科目名	演習II
担当者名	片桐 伸夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	このゼミは3・4年次(演習II・III)で「就職希望会社の経営分析」を行うことを目的とします。 経営分析とは、文字通り「企業の経営を分析すること」であり、きわめて範囲の広いものです。具体的には、皆さんが将来を託そうとする会社は、 1 財政的に安定しているだろうか(安定性分析)、 2 「儲け」はどうだろうか(収益性分析)、 3 経営活動の成果はきちんと配分されているだろうか(生産性分析)、 4 長期的な会社の「伸び」はどうだろうか(成長性分析)、 といった内容です。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) 経営分析について、(2-6) 経営分析の資料、貸借対照表・損益計算書の読み方、(7-12) 収益性・安定性分析、製造業一製造原価報告書、(13-15) 貸借対照表・損益計算書問題、安定性・収益性比率の計算問題、(16-20) 生産性分析、標準原価、損益分岐点分析、(21-26) キャッシュフロー計算書、連結財務諸表、(27-30) 税効果会計、正味現在価値法と設備投資
----------	---

準備学習	Word、Excel に慣れておくこと。
------	----------------------

履修上の留意点	このゼミでは、経営分析の中でも、とくに財務諸表(貸借対照表や損益計算書など)の分析を中心とします。したがって、1年次の簿記学に興味を感じた人向きのゼミです。
---------	--

成績評価の方法	3年次(演習II)では、各自が決めたテーマに取り組み、4年次のゼミ論作成に向け少しずつ仕上げていきます。各自、月に1回程度のレポートであり、確実に提出すること、成績評価の方法は、毎月のレポート提出による平常点100%です。
---------	---

教科書/テキスト	開講時、指示します。
----------	------------

参考書	随時、紹介します。
-----	-----------

その他	ゼミ入室の決定方法は面接[志望理由書(500字程度)事前提出]とテスト(演習IIは1年次学習中の簿記、演習IIIは日商簿記検定2級程度)によります。 なお、いうまでもなく無断欠勤と遅刻は厳禁です。以上の方針に見合う、学習意欲十分な学生諸君の参加を希望します。
-----	--

履修コード	149901
科目名	演習II
担当者名	兼村 栄哲

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 社会的な分業体制が成立している今日の経済においては、生産と消費の間に、主体的懸隔、量と組み合わせに関する懸隔、情動的懸隔、空間的懸隔、時間的懸隔といったさまざまな経済的懸隔が発生している。マーケティングとは、こうした経済的懸隔を架橋することによって、円滑な交換(の連鎖)を実現し、ひいては、消費者が、生産者が生産する商品消費することを可能にする活動をいい、社会経済的な観点に立ったマクロ・マーケティング(「流通」とほぼ同義)と、個別企業のマネジメントの観点に立ったミクロ・マーケティング(いわゆる「マーケティング」)に大別される。</p> <p>マーケティング論は、以上の2つのマーケティングのメカニズムを研究する学問である。</p> <p>(到達目標) 本授業のねらいは、履修者の一人ひとりが、マーケティングにかかわる諸現象を体感し、当該現象について自分なりに論理的に説明できるようになることにある。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションーマーケティングとは何かー 2. 経営学に関する小テスト、現代におけるマーケティングと市場志向 3. 経営学に関する小テスト、企業戦略とマーケティング戦略 4. 経営学に関する小テスト、消費者行動分析の基本フレーム 5. 経営学に関する小テスト、消費者行動分析の歴史 6. 経営学に関する小テスト、消費行動と消費パターンの分析 7. 経営学に関する小テスト、購買行動と意思決定プロセスの分析 8. 経営学に関する小テスト、知識構造と関与水準の分析 9. 経営学に関する小テスト、消費者にかかわるデータの収集と分析 10. 経営学に関する小テスト、消費者行動の把握における定性調査の方法 11. 経営学に関する小テスト、競争環境の分析 12. 経営学に関する小テスト、流通環境の進展 13. 経営学に関する小テスト、市場細分化と標的市場の設定 14. 経営学に関する小テスト、新製品開発 15. 経営学に関する小テスト、製品ライフ・サイクル 16. 理解度の確認(その1) 17. 経営学に関する小テスト、製品政策 18. 経営学に関する小テスト、ブランド政策 19. 経営学に関する小テスト、価格政策 20. 経営学に関する小テスト、プロモーション政策 21. 経営学に関する小テスト、マーケティング・チャネル政策 22. 経営学に関する小テスト、サプライチェーン・マネジメント 23. 経営学に関する小テスト、関係性マーケティング 24. 経営学に関する小テスト、ビジネス・マーケティング 25. 経営学に関する小テスト、サービス・マーケティング 26. 経営学に関する小テスト、インターネット・マーケティング 27. 経営学に関する小テスト、マーケティングにおける社会性と倫理性 28. ケーススタディ(1) 29. ケーススタディ(2) 30. 理解度の確認(その2)
----------	--

準備学習 下記に示す『テキスト経営学』および『マーケティング』の指定箇所を理解すること。

履修上の留意点	<p>演習は、講義科目とはまったくその性格が異なっている。最低限、予・復習することはもちろんのこと、授業時間内においても積極的に参加することが要求される。このことは、「たんに出席し、ノートをとる」ことを意味するのではない。以下の5つが、私が皆さんに最低限要求する内容である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の演習においては、まず経営学に関する小テストをおこなう。 ・次に、マーケティングに関する基本的なテキスト(下記に示す『マーケティング』)を全員で輪読し、基礎的な概念や理論を学ぶ。 ・各自で業界研究をし、A4サイズで100枚以上のレポートにまとめる。そして、その概要を冬(ないし春)合宿で発表する。 ・夏休みの工場見学に参加する。 ・その前提として、各工場について、各自で20以上の質問を考える。 ・東京都が主催する「学生起業家選手権」および日刊工業新聞主催の「キャンパスベンチャーグランプリ」に参加する。 ・他大学との討論会(昨年度は、11月に日本大学商学部の佐々木ゼミとの間で実施。)に参加する。 <p>また、以下の3点を強く要望する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の演習のみならず、合宿その他の課外活動にも参加すること。 ・お互いの親睦を図ること。 ・授業開始後、諸般の事情で履修を取りやめる場合には、必ず事前にその旨を申し出ること。
---------	---

成績評価の方法	理解度の確認40%、経営学に関する小テスト20%、業界研究の内容および冬合宿の発表内容20%、平常点20%
---------	---

教科書/テキスト	井原久光(著)『テキスト経営学ー基礎から最新の理論までー』[第3版] ミネルヴァ書房、3,360円、ISBN: 978-4-623-05129-8。 池尾恭一他3名(著)『マーケティング』有斐閣、3,885円、ISBN: 978-4-641-05373-1。
----------	--

参考書	宮澤永光(監修)『基本流通用語辞典』[改訂版] 白桃書房、2,625円、ISBN: 978-4-561-75169-4。 宮澤永光・亀井昭宏(監修)『マーケティング辞典』[改訂版] 同文館、2,940円、ISBN: 4-495-63492-5。
-----	---

その他については、適宜紹介する。

履修コード	150041
科目名	演習II
担当者名	河合 由佳理

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 近年、ビジネスのグローバル化に伴い会計の分野についても国際会計基準審議会の活動を中心とした会計基準の国際化が著しくみられます。そこで、本講義では日本の財務会計を学ぶと同時に、国際財務報告基準 (IFRS) の基本的な考え方を学習します。</p> <p>到達目標 IFRSの特徴を学習し、報告・討論の中で会計の国際化がもたらす問題点、今後の課題について考察することを目標とします。また、日本の会計基準やIFRSの学習に基づいて、各自で卒業論文作成を意識した学習・準備を進めることも目標とします。</p>
授業スケジュール	<p>前期：IFRSに関連した学習 (テキストを用いて、発表・質疑応答の形式で進めます)</p> <p>後期：卒論テーマの決定、卒論テーマに関する報告</p>
準備学習	本講義は、週ごとに報告の担当を決めるため、報告資料の作成、財務データの収集等、事前準備が不可欠です。
履修上の留意点	授業は、受講生の報告・討論をベースに進める予定のため、無断欠席・遅刻は認めません。また、日商簿記検定3級から2級程度の知識を有することを望みます。
成績評価の方法	授業への取り組みを総合して評価します。
教科書/テキスト	授業中に指示します。
参考書	

履修コード	149931
科目名	演習II
担当者名	菅野 佐織

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>演習IIの目的は、マーケティング (特に消費者行動) の基礎研究を通じて、問題発見能力及び論理的思考を養うことである。このゼミでは、グループ毎にテーマ課題を設定し、問題の発見から仮説の導出、データ分析による仮説の検証といった一連のプロセスを通して、論理的思考を養う。グループ研究を主に行い、その結果は、「関東10ゼミ討論会」で発表することを目標とする。最終的な研究成果は、論文にまとめていく。</p>
授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎でのテーマ研究 ・他大学との研究発表会への参加 (12月 関東10ゼミ討論会) ・ゼミ内での研究発表会 ・論文執筆 ・ゲストスピーカー講義 ・ビジネスセミナーへの参加
準備学習	ゼミ以外の時間にも自主的に勉強する必要がある。マーケティングの本や論文だけでなく、心理学、社会学、社会心理学、文化人類学等の本や論文、さらには英語の論文も進んで読むようにすること。
履修上の留意点	<p>このゼミに向いている人は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング、消費者心理の問題や、消費者調査などのマーケティング・リサーチに興味がある。 ・ゼミの勉強を優先する。 ・自ら問題を設定し、責任を持って最後まで取り組むことができる。 ・時間をまもることができ、且つ他者とのコミュニケーションを大切にしながら課題を遂行できる。 ・他大学の学生と勉強することで自分を高めたい。 <p>(詳しくはネットで「関東10ゼミ討論会」を検索してみる)</p>
成績評価の方法	ゼミへの貢献度、出席の状況、毎回の課題への取り組み度合いを総合的に判断して評価する。なお、自己評価および他のゼミ生からの他者評価によっても評価する。
教科書/テキスト	授業で適宜お知らせする。
参考書	授業で適宜お知らせする。
その他	継続力と強い精神力、礼儀を持つ人を歓迎する。遅刻、欠席が多い人、やる気の低い人には、ゼミの途中でも辞めてもらうことがある。また、何かを楽しむためには、ある一定以上の知識が必要となるので、ゼミ以外の時間にも進んで勉強すること。

履修コード	150011
科目名	演習II
担当者名	岸田 隆行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	原価を知ることはマネジメント・コントロールの基礎であり、原価を知ることなくして、経営を理解することは困難である。近年は経営環境の変化が著しく、原価計算・管理会計も経営環境の変化に対応すべく、様々な技法が編み出されている。しかし、それらの新技法が実際に有効であるのか、またあらゆる企業に適合するのかは明らかではない。本演習では現代的な経営環境の中で、原価計算がマネジメント・コントロールにおいてどのような役割を果たすかについて理解を深めていく。
---------------------	---

授業スケジュール	それぞれのテーマについて担当者を割り当て、担当箇所についてレジュメを作成し、報告してもらい、報告内容について受講者全員でディベートを行う。
----------	---

準備学習	担当箇所の報告では、指定されたテキストだけでなく、様々な文献を読んだ上で報告を行ってほしい。また、報告者以外の受講生も事前にテキストを熟読した上で、議論に参加することが望ましい。
------	---

履修上の留意点	積極的にゼミ活動に参加してほしい。
---------	-------------------

成績評価の方法	報告の内容、ゼミへの参加程度により総合的に評価する。
---------	----------------------------

教科書／テキスト	開講時に指示する。
----------	-----------

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

履修コード	150051
科目名	演習II
担当者名	桑原 正行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習IIでは、簿記・財務会計に関する知識を深めるために、実際の企業の財務諸表を用いた企業分析を中心に行う。ただし、そのための最低限の会計に関する知識は必要なために、テキストを用いた講義も行う。 学生には、財務諸表に対する分析力・判断力を身につけてほしいために、グループによるディスカッションや報告も行ってもらいたい。
---------------------	---

授業スケジュール	財務諸表分析に関するテキストに沿って授業を進めていく。
----------	-----------------------------

準備学習	必要に応じて、グループでの課題を出す予定です。
------	-------------------------

履修上の留意点	各自、電卓を用意すること。 理由なき欠席は認めないので、欠席する場合は事前に申し出ること。
---------	--

成績評価の方法	通常の出席及び授業態度によって総合的に評価を行う。
---------	---------------------------

教科書／テキスト	最初の授業の時に、学生と相談の上決定する。
----------	-----------------------

参考書	
-----	--

履修コード	149601
科目名	演習II
担当者名	猿山 義広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義では、管理会計の基礎となる諸概念について財務会計分野の知識も含めて学ぶことを目的としている。会計計算はたんなる四則演算ではなく、目的に適った政策的計算であること、また会計計算の裏側には明瞭な意図をもつ会計制度と会計理論が存在していることをつねに念頭に置いて勉強を進めていってもらいたい。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 管理会計の基礎(1)-管理会計とは何か、第2回 管理会計の基礎(2)-会計情報システム、第3回 管理会計の基礎(3)-財務諸表、第4回 管理会計の基礎(4)-株式会社会計、第5回 管理会計の諸概念(1)-原価概念、第6回 管理会計の諸概念(2)-利益概念、第7回 管理会計の諸概念(3)-キャッシュフロー、第8回 管理会計の諸概念(4)-資本コスト、第9回 管理会計と原価計算(1)-原価計算の基礎、第10回 管理会計と原価計算(2)-間接費管理、第11回 管理会計と原価計算(3)-標準原価計算、第12回 管理会計と原価計算(4)-直接原価計算、第13回 第1回から第12回のおまとめ、第14回 利益計画(1)-CVP分析、第15回 利益計画(2)-価格を考慮した利益計画、第16回 利益計画(3)-プロモーションを考慮した利益計画、第17回 利益計画(4)-セールスマックス、第18回 原価管理(1)-ABC、第19回 原価管理(2)-原価企画、第20回 原価管理(3)-営業費管理、第21回 原価管理(4)-研究開発費管理、第22回 意思決定会計の基礎(1)-差額原価収益分析、第23回 意思決定会計の基礎(2)-期待値による意思決定、第24回 意思決定会計の基礎(3)-割引価値による意思決定、第25回 意思決定会計の基礎(4)-最適値による意思決定、第26回 第14回から第25回のおまとめ、第27回 管理会計の文献研究(1)、第28回 管理会計の文献研究(2)、第29回 管理会計の文献研究(3)、第30回 現代管理会計の特質
----------	---

準備学習	日商簿記2級工業簿記レベルの原価計算の基礎知識は開講前に習得しておくこと。
------	---------------------------------------

履修上の留意点	演習では学生による発言が重要である。こちらの質問にはかならず何らかの回答を行うこと。その際、他の受講者がやりとりを理解できるように、できるだけわかりやすく発言すること。課題の報告については、資料を作成してもらった場合もあるが、その際は、文章だけでなく図表を盛り込んだ資料をつくること。
---------	--

成績評価の方法	授業中の発言および課題の出来、平常点、年2回課すレポートの内容に基づいて総合的に評価する。
---------	---

教科書/テキスト	参考資料を授業中に配布する。
----------	----------------

参考書	櫻井通晴『管理会計〔第四版〕』同文館出版。
-----	-----------------------

その他	1回の授業につきかならず、何か1つは新しい知識や疑問点を見つけられるよう集中して授業に臨んでほしい。
-----	--

履修コード	149921
科目名	演習II
担当者名	高井 徹雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ブロードバンドで繋がったインターネットを基盤とするICT(情報技術)は、今日の企業経営また社会・経済システムを捉えるうえでも最も重要なキーワードとなっています。皆さんは、真の意味で、情報が価値を持ち、情報が価値を生み出す時代に生きています。このような時代、企業や官庁のスタッフとして、また将来はエグゼクティブとして、「情報エリート」を目指すならば、少なくとも以下の能力が要求されると考えます。
---------------------	--

- (1) 発見力: 与えられるのを待つのではなく、自分で問題を見つける能力。
 - (2) 洞察力: 問題に関係する必要な情報を選別する能力。情報を分析し問題の本質を洞察する能力。
 - (3) 表現力: 分析結果を集約し、解り易くプレゼンテーションする能力。
 - (4) 解決力: 他者と協力しあって、具体的な問題解決を図る能力。
- 皆さんに、こうした素地を養って頂くことを狙いとして、各週の演習、および年2回の合宿(1回は勉強、もう1回は親睦を主目的とする)における題材と環境を用意します。主体的にゼミに参加されることを願っています。およびそのスケジュールは以下のとおり。受講生とコミュニケーションをとりながら、理解度や興味の方を見極めながら進めていきます。

授業スケジュール	4-10月: 輪読・・・ゼミメンバーの希望に沿って適切な文献を決め、全員参加の輪読会を実施 6月: ソフトシステム方法論・・・演習Iと合同ゼミ合宿、SSMで社会的問題を扱う 11-12月: ゼミ論テーマの作成
----------	--

準備学習	毎回出席して、適宜出される課題・レポート等に応えられるよう、課外学習の時間を確保してください。
------	---

履修上の留意点	毎回、コンピュータールームにおいて実習形式で授業を行います。実習形式の授業は、全体が同じペースで学習を進めていく必要がありますので、極力欠席しないようお願いいたします。
---------	--

成績評価の方法	毎回出席をとります。また、前期・後期各1件程度、学習内容に応じてHTML作成やプログラミングなどの課題を出します。これら平常点により評価を行いますので、筆記試験は行いません。
---------	---

教科書/テキスト	輪読を行う場合、皆さんと相談のうえ、適切な教科書を指定します。
----------	---------------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	148801
科目名	演習II
担当者名	高木 克己

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>3年次では、前期において卒業論文作成に向けてのテーマ決定するために、法人税関連のテキストを読みます。なお、「税務会計論」も必ず並行して、受講してください。</p> <p>3年次後期から4年次終了時までの予定としては、各自選定したテーマを数回に分けて報告することになります。例えば、制度の意義、概要、沿革、ケース・スタディ、問題点の整理、その解決策あるいは方向性、などです。</p> <p>3年次終了時には、各自選定したテーマで進級論文(10枚以上、400字)の作成を行います。特に3年次では、各自のテーマの沿革、制度導入の背景等、現行の制度の内容、諸外国の制度との比較等に重点を置いて、作成することになります。</p> <p>なお、合宿等の行事は、2年次と同じく例年通りです。</p> <p>(到達目標)</p> <p>各自選定したテーマについて、沿革、制度の概要等、全体的な理解を目標とします。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期は、卒業論文のテーマを決めるために、法人税法に関する文献を1冊採り上げ、報告してもらいます。</p> <p>後期は、各自選定したテーマにそって、沿革、現行制度の内容等を検討していきます。</p>
準備学習	文献、統計資料等を事前に収集することが必要となります。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席及び報告により評価します。
教科書/テキスト	
参考書	最初の授業で紹介します。

履修コード	148301
科目名	演習II
担当者名	高田 光明

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>企業とは、社会が必要とする財貨やサービスを製品として生産し販売するという営業活動を営み、その報酬として、後述するような概念である利益を獲得しようとする組織体である。このような活動では、原材料、機械、建物などの財貨を必要とするし、労働力も不可欠である。企業は、これらの生産要素を取得するために元手がなければならない。</p> <p>企業にかぎらず、他の形態の組織や個人でも、それぞれの目的とする活動を実施するためには、元手が入り用である。しかし企業において元手は、他の形態の組織や個人の場合と違って、利益を生み出すことを意図して使われる。企業に入ってきて、利益を生み出すことを目指して使用されるという性格を与えられた元手を、とくに資本といている。</p> <p>企業は、営業活動で必要とする生産要素を賄う資本を、株式発行により株主から、また社債発行により社債権者から、あるいは借入れにより金融機関からというように、様々な提供者から調達する。これらの提供者が企業に資本を提供するのは、提供の見返りとして報酬を期待しているからである。したがって企業は、提供者の報酬期待に応じられるように、調達資本を営業活動で効率的に運用して自己増殖させなければならない。こうした資本の自己増殖分が利益である。</p> <p>企業は、少なくとも、提供者の報酬期待に応じられるだけの収益率を、調達資本に対して達成しなければ、存在意義がない。このような問題意識のもとに当演習では、リスク・リターン関係や資本のコストといった概念をキーワードにして、企業の財務活動のあり方について考察する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>基礎的知識の体系的理解を図ることをまず目的として授業を進める。</p> <p>(1) 演習という形式の授業のオリエンテーション</p> <p>(2~15) 高田光明稿、「経営財務論序説」(駒大経営研究26巻3号, 1995年2月)を中心に研究</p> <p>(16~30) 砂川伸幸著、コーポレート・ファイナンス入門(日経文庫, 2004年)を中心に研究</p>
準備学習	16回目以降で使用する文献に目を通しておくのが望ましい。
履修上の留意点	企業が実施する財務活動に伴う資本の増減・変化は、企業の会計システムによって記録・測定される。したがって企業の財務活動に関する情報を理解し、企業の財務を研究するために、企業会計に関する初歩的知識は必要である。
成績評価の方法	適宜提出を求める課題レポートにより評価する。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	148501
科目名	演習II
担当者名	滝田 公一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本年度は、文献 [1] のほかに、ダミー変数を含んだ回帰分析、時系列データやパネルデータを取り扱った回帰分析などを学び、演習 I で学んだ回帰分析の知識を深めます。また、RATS、TSP といった計量経済学用のソフトの使い方も学びます。それらのソフトを使って、capital asset pricing model や、生産費用の測定、製品の品質の変化の測定、賃金差別の問題などについても学習する予定です。さらに、エクセルのデータ分析以外の機能についても学びます。すなわち、エクセルのソルバー機能を使って、線形計画の解き方を学びます。また、エクセルのシミュレーション機能を利用して、簡単な定差方程式の解法を学び、その応用問題として、ローン返済の問題を考えてみます。
---------------------	--

授業スケジュール	回帰分析のより進んだ分析を学ぶ予定です。それらは、ダミー変数を伴う回帰分析や、非線形モデルの回帰分析、不均一分散の問題、自己相関、連立方程式体系の推計、分布ラグのモデル、時系列分析、パネルデータの分析、などです。また、3週に1度程度、学生諸君に企業のケーススタディに基づく課題の報告をしてもらいます。
----------	--

準備学習	課題を報告するときには、パワーポイントなどを用いてプレゼンテーション資料を作成しましょう。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	成績評価は、課題報告 (30%) と学年末のレポート (通常、computer assignment、70%) によって行います。
---------	---

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	149401
科目名	演習II
担当者名	長 國強

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代は情報化社会といわれ、新聞・雑誌・インターネットを開いてもそこに大量の経済・経営データが見られる。ところで、経済・経営などのデータをそのまま見れば、単なる数字の山にすぎず、大切なことはそこから正しい見通しを得ることであろう。実際のデータから経済・経営など社会的な動きをどのように読みとるのかといった能力を養成できるようにすることを目的として、本演習はコンピュータを使ってのデータ解析の基本技術を学習する。
---------------------	--

授業スケジュール	演習 II (3年生) : EXCELと情報収集…コンピュータ上の情報収集とデータ解析 EXCELなどの入門が既に果たされ、これからコンピュータのことを、情報収集やデータ解析などの実践を通じてもっと知りたいという学生のための演習です。近い将来学生諸君に直面されるだろう市場調査・予測、品質・生産管理、国際経済・株式投資などの課題をコンピュータ上、データ解析手法を使い、企業現場の具体例を交えて細かく実習していく。
----------	---

準備学習	特にありません。
------	----------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	平常点 : 課題 (50点) ・ レポート (50点) の成績などで総合的に評価する。
---------	---

教科書/テキスト	特に使用しませんが、プリントは随時配布する予定。
----------	--------------------------

参考書	日本経済新聞。
-----	---------

その他	演習 II は毎回の実習アイテンに連続性があり、1回欠席すると、次回の実習についていけないことも考えられる。したがって、理由なく年間 8 回以上欠席した場合、自動的に除名されることにする。
-----	--

履修コード	149941
科目名	演習II
担当者名	中川 功一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>演習のねらい：問題解決力の育成 社会では、形の決まった問題は起こらず、常にその時その時に固有の状況の中で判断を迫られることになる。そのときに必要となるのは、ものごとを論理的に考え、自分なりの答えを見つけ出す、問題解決能力である。 経営戦略論とは、特にビジネスの現場における問題解決力を養うために準備された学問である。本ゼミでは、経営戦略論の学習を通じて、さまざまなビジネスシーンにおける問題解決の能力の育成を目指す。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	文献購読、ケーススタディ、フィールドワークの3本柱による。
----------	-------------------------------

準備学習	徹底した準備が必須。
------	------------

履修上の留意点	原則として毎回出席、毎回発言を求める。
---------	---------------------

成績評価の方法	ゼミ論の提出と、出席、報告。
---------	----------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	149501
科目名	演習II
担当者名	中川 淳平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この演習では、経営学説について考察する（したがって、演習での研究テーマとしては、経営学説のなかから1つないし複数の学説から選択することとなる）。併せて、文献・資料の調査の仕方、報告のあり方、文章のまとめ方について習得する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	経営学説の基本文献についての輪読。応用的な文献についての報告と討論。毎回担当者を決め、報告をする。報告後、参加者で討論を行なう。※経営学史についての文献（前期）、経営学分野について、ゼミ生が選択した文献（後期）。
----------	--

準備学習	毎回の該当箇所について報告者がレジュメを作成するだけでなく、他の参加者も討論に参加できるよう十分に予習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	予習・復習、あるいは論文作成のために多くの時間を割く必要があるので、積極的に勉学する、意欲ある学生の参加を望みます。
---------	--

成績評価の方法	平常点100%（発表や討論の内容、論文、学習態度など）
---------	-----------------------------

教科書/テキスト	開講時に指示する。
----------	-----------

参考書	参加者が選択したテーマに応じ、適宜指示する。
-----	------------------------

履修コード	149951
科目名	演習II
担当者名	中野 香織

授業概要/
到達目標 (ねらい)

本演習では、マーケティング・コミュニケーションおよび広告について、実務と理論の両方の面から考察することを目的とする。理論を学ぶことに加え、それを実際の戦略に応用できるような思考も身につける必要がある。また、さまざまな課題に取り組むことを通じて、テーマに関連した資料収集の方法、問題を発見する視点、それを解決するための方法、考えたことを人に伝えるためのプレゼンテーション方法などを学んでほしい。

本演習の方針は、以下の2点である。

(1) 外との積極的な交流

駒澤大学のなかだけにとどまらず、企業の方や他大学の学生など、外との接点をできるだけ多く持つようにする。

(2) 複数作業の同時処理 (マルチタスク)

企業で働き始めたら、複数の仕事を同時にこなさなければならない。そのため、今のうちからいくつもの作業を行うことに慣れるようにする。

本演習の到達目標は、以下の3点である。

(1) マーケティング・コミュニケーションの知識を得る

まず、基本的なマーケティング・コミュニケーションの知識を身につけてほしい。マーケティング・コミュニケーションとは、企業が自社の製品やサービスについて、消費者に認知させ、購買を促進するために情報を発信することである。

(2) 思考力を身につける

得た知識を使って、実際の戦略に応用できる思考力を身につけてほしい。具体的には、現状の分析、問題を発見する視点、その解決方法、それを論理的にまとめる力などである。

(3) コミュニケーション能力を高める

自分の思ったことを積極的に発言し、他人と議論ができ、相手に伝わるプレゼンテーションができるようにしてほしい。

授業スケジュール

前期はマーケティング・コミュニケーションおよび広告に関する基礎的な知識をメンバー全員で共有する。マーケティングや広告の本を輪読し、内容について議論する。

後期はグループ研究を基本とし、以下の活動を行う。

・グループでの論文執筆 (他大学との合同論文発表会への参加)

・ある製品やサービスについてのコミュニケーション戦略を企画し、実務家へプレゼンテーションするケース研究

・6大学合同で大学生1000人に調査・分析し、その結果を記者発表するプロジェクト (大学生意識調査: FUTURE) への参加

その他、工場見学、ゼミ合宿などを行う。

準備学習

本演習はマーケティングの関連科目であるため、受講者にマーケティングの知識があることが必要である。そのため、マーケティング論の講義を履修することに加え、マーケティングに関するテキストを読んでおくことが望ましい。

履修上の留意点

ゼミの時間には積極的な発言が、ゼミの時間外には自主的な課題への取り組みが求められる。特にグループ研究ではメンバーと共同で多くの課題をこなし、活発な議論を行う。そのため、マーケティング・コミュニケーションに関心が高く、ゼミ中心の学生生活を過ごしたいと思うような意欲的かつ協調性のある人に参加してほしい。

成績評価の方法

平常点 (積極的な参加など)、発表内容、レポートなどにより総合的に評価する。

教科書/テキスト

参考書のなかから、数冊を教科書として利用する。詳しくは開講時に指示する。

参考書

仁科貞文・田中洋・丸岡吉人『広告心理』2007年 (電通) 2,100円

亀井昭宏・ルディー和子編『新マーケティング・コミュニケーション戦略論』2009年 (日本経済新聞出版社) 2,310円

石崎徹編『わかりやすい広告論』2008年 (八千代出版) 2,835円

嶋村和恵監修『新しい広告』2006年 (電通) 2,100円

岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論 新版』2008年 (有斐閣) 2,205円

履修コード	150001
科目名	演習II
担当者名	中村 公一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本ゼミでは現代企業の置かれている環境とそれに対する経営戦略を紐解いていき、実践的な場面でも応用できる知識と考え方を身に付けるために、文献購読・資料調査・ケーススタディ・ビジネスプランニングなど多彩な課題に取り組めます。</p> <p>ゼミは、単位を採るだけのものではなく、個人の「知的トレーニングの場」であり、他のゼミ生達と切磋琢磨する場であると考えて下さい。私の役割は、ゼミ生がゼミでの勉強をきっかけにして豊かな学生時代を築こうとする時のお手伝いをするだけに過ぎません。運営の主体は君達にあります。</p> <p>(1) 文献購読やケーススタディなどを通して、企業の置かれている環境とそれに対する戦略を的確に理解する専門知識の習得、分析力、洞察力の強化を図ります。</p> <p>(2) レポート作成を通してのアウトプット能力、論述能力、論理構成力の強化を図ります。</p> <p>(3) 毎週の報告や議論などを通じてプレゼンテーション能力やディスカッション能力の強化を図ります。</p> <p>(4) 実際にビジネスプランの策定を通して、事業戦略を構築する企画力と構想力の強化を図ります。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>演習II (3年生)</p> <p>前期 (1~15回) ; 競合企業の比較分析、ビジネスプラン対抗戦</p> <p>後期 (16~30回) ; ケース・ディスカッション</p>
準備学習	<p>経営学・経営戦略論を勉強する上では、日頃から新聞や雑誌、テレビなどで関連する情報にはできる限り目を通すことが効果的です。我々の周りではどのようなことが起きているのか、常に把握していくことが、経営学への学習意欲の向上につながるでしょう。</p>
履修上の留意点	<p>ゼミの理念は「知的トレーニング」にあるので、毎週レポートを宿題として課し、相当の勉強時間の確保が必要になります。また、ゼミでは議論が中心になるために、事前の準備も必要となります。(夏に合宿を行います)</p>
成績評価の方法	<p>遅刻の常連、無断欠席、各種課題や提出物の期限の遅れ、不十分な内容のレポートを提出した場合は、厳しくチェックします。成績は、出席数、提出課題の内容、議論への貢献度などの平常点によって判断します。なお、4年次にはゼミ論文があります。</p>
教科書/テキスト	<p>授業時に発表する。</p>
参考書	

履修コード	149101
科目名	演習II
担当者名	西村 和夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【テーマ：情報セキュリティ】 文書 (英論文など) の読みかた、書きかた、発表のしかた、コンピュータの利用のしかたを体得し、論理的な思考力を養う。</p>
授業スケジュール	<p>次の事項をおりませで行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータによる情報セキュリティについての演習。 ・テーマの発見と発表 (3回)。 ・BPMN によるビジネスプロセス図の作成。UML。 ・ゼミ論文のテーマの決定。ゼミ論文中間報告書の提出。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆就職活動についてのアドバイス。面接の実習。ビジネス文書の書きかた。 ◆情報処理技術者試験のための学習。 ◆イベント (年1・2度)。
準備学習	<p>とくになし</p>
履修上の留意点	<p>テーマは“情報セキュリティ”であって、コンピュータの操作方法ではない。コンピュータの知識がある人ではなく、やる気と実行力のある人を求む。入ゼミ者は、2年次までに“情報処理基礎A/B”と“情報セキュリティA/B”を必ず履修すること。</p>
成績評価の方法	<p>出席のほか、発表 (3回)、ゼミ論文テーマの発表、ゼミ論文中間報告書。</p>
教科書/テキスト	<p>教材のページ : [http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/seminar/materials.html]</p>
参考書	<p>吉田幸生『仕事の文章が面白いほど書ける本』 (中経出版) 1992年</p>
その他	<p>科目「情報セキュリティ」が履修できる市場戦略学科の学生だけを受け入れる。入ゼミ手続き (2年次) : 面接と文章完成法テストによって選考する。説明会に出席しないと、面接が受けられない。“情報処理基礎”をすでに履修していること。</p>
関連リンク	<p>http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/</p>

履修コード	148701
科目名	演習II
担当者名	羽鳥 茂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習IIでは、日本企業のコーポレート・ガバナンス、情報効率性、システム特性などのより進んだ研究を目指して、以下のテキストと専門的な基本文献を理解し、知識の拡充とゼミ生各自のレベル・アップを目標にします。
---------------------	---

授業スケジュール	前期では、下記の参考書、教科書を中心に学習し、研究テーマの方向が決まるようにゼミを進めていきます。後期では、ゼミ生の研究テーマを報告してもらい、ディスカッションとプレゼンテーションを繰り返すことによって研究を確かなものにしてもらいたいと考えています。なお、研究の中間報告を年末に提出してください。
----------	--

準備学習	特に必要ありません。
------	------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	ゼミでの報告とその内容によって評価します。
---------	-----------------------

教科書／テキスト	青木昌彦『比較制度分析に向けて』NTT出版、瀧澤弘和・谷口和弘訳3900円（新装版） 岡田章『ゲーム理論』有斐閣、4600円
----------	---

参考書	青木昌彦・奥野正寛・岡崎哲二編著『市場の役割・国家の役割』東洋経済新報社、2500円
-----	--

履修コード	147701
科目名	演習II
担当者名	日野 健太

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 このゼミでは組織が直面するさまざまな問題を取り上げ、多角的に分析する。組織論の問題を中心に取り上げ、組織論のものの見方を身につけることを目的とするが、経営学全般についての理解が深まるように、配慮する。</p> <p>演習IIでは、自分の関心のあるテーマを明確に、組織論の見地から論じられるようになることを目的とする。文献の輪読によって、分析のための概念を得るとともに、関心の所在について明確にする。レポートかゼミでの発表で明らかにする。</p> <p>到達目標 企業と経営について、経営組織論の視点から、自分なりの意見が述べられるようになる。ある程度の長さを持つ文章を書くことができるようになる。 特に、自分が何に興味を持っているのかを明らかにする。 他者の意見を聞いて、自分の意見を向上させることができるようになる。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>年間を通して文献輪読とディスカッションによって経営組織論の内容を学ぶ。</p> <p>前期を中心にその日の日経新聞を持ってきて、関心のある記事について報告してもらう。</p> <p>時期を見計らって、組織を分析する方法を実際に体験する。</p> <p>時期を見計らって、工場見学を行う。</p> <p>時期を見計らって、ゼミ合宿を行う。</p> <p>時期を見計らって、卒業生の仕事の話の話を聞く機会を設ける。</p> <p>時期を見計らって、コンパ（学生などが費用を出し合って行う懇親会の意。広辞苑より）を行う。</p>
----------	--

準備学習	ディスカッションに参加するためには、レポーター以外の学生も予習は必須である。ワード、エクセル、パワーポイントの使い方については指導しないが（そんなことを教わるためにゼミに来ているわけではないと思うので）、必要となったときには、自習すること。
------	--

履修上の留意点	ゼミなので、とにかく出席しないことには始まらない。遅刻・欠席するものではないという自覚を持って参加すること。親睦行事にも参加すること。 合宿、コンパ等の係に迷惑をかけないことをはじめとして、どうすればゼミがうまくいくのかを考えて参加すること。
---------	--

成績評価の方法	平常点100%
---------	---------

教科書／テキスト	開講時に指示する。
----------	-----------

参考書	
-----	--

その他	
-----	--

どこのゼミを出たかは、大学生活においてもっとも重要なことの一つだと思います。私もそのつもりでゼミには取り組みますし、学生諸君もそう思ってゼミを選択して欲しいと思います。私自身も未だにゼミの友人とはつきあいがあるし、日野ゼミの過去のゼミ生達もそのようです。また、私にとってもゼミの卒業生が活躍していると聞くのは、うれしいことです。勉強したことは忘れてしまうと思いますが（！）、それぞれが、ずっとこのゼミでよかったと言えるようなゼミを目指しましょう。

履修コード	149801
科目名	演習II
担当者名	藤原 篤志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 本演習ではテーマを「モノづくりの経営学」としており、主として製造企業の生産戦略、生産管理、技術管理、作業管理などを対象としている。またモノづくりには労働力が不可欠かつ重要な要素であるので、労働者による労働も考察の対象としている。本演習ではこのテーマに関してゼミ論文を作成し、それを題材にしたプレゼンテーション(発表・報告)や議論・討論を行う。このように受講生が「自分でやってみて学ぶ」受講生主体の授業である。</p> <p>(到達目標) 受講生は上記テーマに関連して、自分の興味・関心のあるテーマを選び、それについて研究を行い、4年のゼミ終了の時点までにゼミ論文を作成・完成させることを最大の目的としている。また授業の中で、ゼミ生には自分の論文の経過・成果についてプレゼンテーション(発表・報告)をしてもらい、それに対する質疑応答や議論・討論を他のゼミ生と活発に行うことにしている。以上の論文作成、プレゼンテーション、質疑応答、議論・討論を通じて、知識を吸収することはもちろん、プレゼンテーション能力、物事を論理的に思考する能力、コミュニケーション能力を養うことも目的としている。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>3年次・4年次では、各人がゼミ論文のテーマを設定し、論文作成のための研究を進めていく。また授業自体は、ゼミ生各人による自分の論文についてのプレゼンテーション(発表・報告)、質疑応答、議論・討論を中心に行われる。その中で、報告・発表、思考、発言・表現等の能力を養っていく。</p> <p>1. オリエンテーション(論文計画書の作成について) 2～14. 受講生によるプレゼンテーションと議論討論 15. 論文計画書の発表 16～30. 受講生によるプレゼンテーションと議論討論 (正規の授業時間以外に、工場見学、夏季合宿、冬季合宿あり)</p>
----------	--

準備学習	論文の作成、プレゼンテーションの準備、議論討論の司会準備には日常的な準備学習(文献の収集・精読、研究ノートの作成、レジメや資料の作成、議論討論のテーマの選定など)が必要になる。
------	--

履修上の留意点	<p>本演習は上記のようにプレゼンテーション、質疑応答、議論・討論が中心となるので、ゼミ内に全員が積極的に発言できる雰囲気を作りたい。そのため、授業時間以外のイベント(工場見学、合宿、コンパなど)には全員が参加することが原則である。</p> <p>論文の作成や授業内のプレゼンテーション等の準備には授業以外の時間を多く割き、相当な努力が必要になってくる。それゆえ中途半端な気持ちで志願する学生には遠慮してもらいたい。勉強にしろその他のイベントにしろ、自分から常に積極的に参加・参画する姿勢が求められる。本ゼミでは何よりもやる気のある学生を歓迎する。</p>
---------	--

成績評価の方法	プレゼンテーション50%、議論討論への参加40%、レポート10%。このように出席して参加し与えられた役割を果たすことを重視するので、授業へは原則的に毎回出席することが求められる。
---------	---

教科書/テキスト	特定のテキストはなく、講読する文献はゼミ生の学習・研究分野に応じて自主的に選定してもらう。また企業での実例に関する資料は、日本経済新聞や日経産業新聞を活用し、ゼミ生自身の研究テーマに関わる記事を適宜こちらから提示する。
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	149961
科目名	演習II
担当者名	若山 大樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習IIの目的は、市場（消費者行動）を理解するための理論や方法論、および統計処理ソフトウェアSPSSの使い方について学ぶことにある。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>マーケティングデータの理解を深めるために消費者行動の観察法・調査法・実験法を学び、この分野で最も利用されている統計処理ソフトウェアSPSSの使い方を学び、マーケティングデータ解析の理解を深める。さらに市場理解に重要な社会心理学の諸理論について学ぶ。また、後半より卒業研究の準備を行う。</p> <p>(1)～(6) テキストの輪読、(7)～(14) 論文の輪読、(15) 前半まとめ、(16)～(22) 統計処理ソフトウェアSPSSを用いた演習、(23)～(30) マーケティングデータ分析課題とプレゼンテーション</p>
----------	--

後半(15)以降は業界研究や卒業研究の研究計画書を作成する。
また、一年を通じて統一（あるいは特定の）テーマで研究を行う。

準備学習	日頃より問題意識を持って新聞記事に目を通し、授業中のディスカッションに備えること。
------	---

履修上の留意点	グループワークをはじめ、学習効果が高まると考えられることは積極的に取り入れる。各自、意欲を持って積極的に取り組むこと。統計処理ソフトウェアを用いた演習では、統計学を学んだことがなくても基礎からわかりやすく解説する。休まずに出席すれば理解できるようになる。もしも欠席するときは事前に申し出るようにしてください。マーケティング・サイエンスA、Bを履修済、あるいは履修していることが望ましい。
---------	---

成績評価の方法	成績は、一人4回程度の発表、ディスカッション（質問、コメント等）への参加、データ解析課題提出状況を総合的に評価する。出席を重視する。無断欠席が何度か続いた場合は履修放棄とみなす。 平常点100%（1回の出席は5%程度の重みがあると考えてください）
---------	--

教科書/テキスト	テキストや論文は必要に応じて配布する。
----------	---------------------

参考書	必要に応じて配布あるいは指示する。
-----	-------------------

履修コード	148351
科目名	演習II
担当者名	渡辺 伊津子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本ゼミでは、経営管理の観点から問題を掘り下げ、思考することができる力を磨くことをねらいとする。授業概要としては、前期では、経営管理の課題について数人のグループによるグループ研究を行う。また、発表大会に向けてパフォーマンス能力を高める。後期では、各自がその研究テーマに関連する研究論文を読み、卒業研究に向けてテーマの設定に向かう。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(1) オリエンテーション (2～14) グループ研究、テーマに関する発表と討論 (15) 発表大会 (16～30) 研究論文に基づく個別研究</p>
----------	--

準備学習	自らの興味や関心に沿って自主的に研究を進めること。
------	---------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	平常点80%（出席、ゼミへの積極的な参加、研究報告内容、課題レポート） 学期末テスト20%
---------	--

教科書/テキスト	開講時に指示する。
----------	-----------

参考書	開講時に指示する。
-----	-----------

履修コード	152411
科目名	演習III
担当者名	青木 茂樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習の目的は、マーケティングや流通に関する知識を主体的に獲得していく姿勢や作法を身につけることである。今日、様々な情報が渦巻く社会では、本質的課題を発見し仮説を創造する力や、これを検証する様々な情報収集の仕方、これを論理的に説明していく力が必要である。こうした姿勢や作法を学生時代に体得しているか否かは、社会の舞台にたったときのスタート時から大きな差となるであろう。 こうしたゼミ活動を通じて、今日、社会人基礎力といわれる12の力、①Action (主体性、働きかけ力、実行力)、②Thinking (課題発見力、計画力、創造力)、③Teamwork (発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力)を養う。事前・中間・事後で、個々人のこれらの到達度を測り、将来の職業適性などに応じた指導も合わせて行う。
---------------------	--

授業スケジュール	1. 前期 マーケティング・流通に関する重要な論文を輪読しながら、それらのアイデアが生まれてきた背景や今後の発展的展開を考える。フィールドワークや企業訪問、ゲスト・スピーカーの招聘なども適宜行う。 2. 夏休み 夏合宿(9月)&OB・OG会 合宿では、グループ研究の中間発表を行う。そのため自主的な研究会を開く場合もある。 3. 後期 前期同様に論文の輪読と批判的検討を行う。これに加え、グループ発表へ向けて、グループ論文の作成に取り掛かってもらう。これは、外部機関の学生懸賞論文などとテーマを兼ねることも考えられる。基本は自分達が一番やりたい研究を行うことであろう。 4. 冬休み 完全休み 5. 春休み OB・OG会。
----------	---

準備学習	前期・後期ごとのスケジュールによって課題が設定されるとともに、毎回の講義で追加的に課題が指示されることもある。日頃から高い問題意識で課題に関わる十分な周辺知識を自主的に調べておく姿勢が必要である。
------	--

履修上の留意点	学生の主体的な研究意欲や向上心によってゼミは牽引されるものであり、教員はアドバイザーやサポーターに徹する。もちろん無断欠席はありえない。
---------	--

成績評価の方法	ゼミ活動全般を通じて、総合的に評価する。すべてにパーフェクトな人間はいない。むしろ個々人の関心や持ち味を生かしてゼミ運営に参加・貢献していることを高く評価する。
---------	--

教科書/テキスト	皆さんの研究や将来の職種の興味を伺いながら、演習時にテキストを決めていく。
----------	---------------------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	150801
科目名	演習III
担当者名	明石 博行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経済社会学の応用的な研究領域の一つとして、グローカリゼーションに関する学習と研究をさらに深め、研究成果の取りまとめをします。演習は前期と後期に分けて行います。前期には、パワーポイントを利用したプレゼンテーション能力の向上を図り、後期には「マーケティング3.0と郷土産業の育成」をテーマとする研究を継続します。また、卒業論文の作成が必須の課題となります。
---------------------	--

授業スケジュール	前期の演習は、パソコン教場において行います。パワーポイントの操作能力を育成しつつ、プレゼンテーション能力の育成と向上を図ります。また、景気動向の分析結果の資料を作成し、景気動向に関する研究発表をします。 後期の演習は、通常の演習教場において行います。昨年からの課題を引き継ぎ、「マーケティング3.0」についての学習を深めつつ、郷土産業やふるさと企業の育成と発展の問題をさらに考えてゆきます。 千葉県地域起こしに関する調査と協力についても、昨年に引き続いて継続的に取り組むこととなります。街づくりの取り組みとの関連において、企業や博物館の見学なども行います。 4年次の最終目標は、通常のゼミや合宿での報告、個人別の相談会を経て、卒業論文を完成させることです。卒業論文は学生時代の集大成となるものです。これまでの学習の成果を総合して作成に取り組み、文献や資料の探索と整理をし、論文を執筆する能力を向上させてゆくことが、最終的な課題として求められることとなります。
----------	--

準備学習	基礎的な能力の育成を自覚的に進めること、テキストをよく読んで考えることが基本となります。さらに本演習では、卒論を完成させるための研究活動を通して、さまざまな見解を整理してみずから見解をまとめてゆく努力が、たえず求められます。
------	--

履修上の留意点	4年次の演習は、卒業論文の作成に向けての学習と研究が主軸となります。基礎的な学習をふまえて創造的な研究に取り組む、積極的な姿勢を期待します。
---------	--

成績評価の方法	出席、演習課題への取り組みを総合的に判断し、評価をします。
---------	-------------------------------

教科書/テキスト	『速効! 図解PowerPoint 2010 [総合版]』(毎日コミュニケーションズ、2079円[税込]) F. コトラー、H. カルタジャヤ、I. セティアワン/藤井清美訳『マーケティング3.0—ソーシャル・メディア時代の新法則—』(朝日新聞出版社、2520円[税込])
----------	---

参考書	『最新政治・経済資料集』(第一学習社、940円[税込])
-----	------------------------------

履修コード	152501
科目名	演習III
担当者名	阿部 一人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	前年度に続いて会計監査の問題をとり上げ、ゼミ論文の作成を期する。
授業スケジュール	各自の選択したテーマにそって、卒業論文の作成とその検討を行う。
準備学習	演習Ⅱでとりあげたテキストを復読してください。
履修上の留意点	
成績評価の方法	成績評価は、報告発表、レポート、出席状況により総合的に判定する。
教科書／テキスト	授業中において適宜指示する。
参考書	

履修コード	151201
科目名	演習III
担当者名	飯田 哲夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) この演習では、企業経営上の問題解決のための定量的な情報分析の理論と方法について学びます。近年の情報技術の発展により、大量のデータや情報を活用した定量的な分析の多くが、比較的容易に行うことができる状況になってきており、それらを利用して定量的に問題を分析することは、データに基づけられた合理的な意思決定へと通じていきます。そして、分析の際には、より有効にデータや情報を活用するために、また、問題の本質を理解するために、しばしば問題状況を数理的にモデル化します。この演習では、ゼミ論文の作成を通して、問題を定量的に自ら分析できるようになることを目指します。 (到達目標) 自らの問題意識にもとづき、問題を分析し、ゼミ論文を作成することです。
授業スケジュール	各自が、モデルによる意思決定・分析に関するテーマを決め、そのテーマに沿ってゼミ論文を作成します。
準備学習	前回の授業において議論した内容を踏まえ、調査・研究をすすめること。また、授業内容に関連する新聞や雑誌の記事に適宜目を通しておくこと。
履修上の留意点	自ら問題意識を持ち、積極的にテーマに沿った調査・研究を行うことが求められます。
成績評価の方法	ゼミ論文の内容とそのプレゼンテーション、および出席・受講態度を考慮して総合的に評価します。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	151801
科目名	演習III
担当者名	石名坂 邦昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文作成。
授業スケジュール	各自のテーマについて論文を作成し、全体の論文集を作成する。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	
成績評価の方法	論文をもって評価する。
教科書／テキスト	
参考書	論題に必要な資料を紹介する。

履修コード	150501
科目名	演習III
担当者名	江頭 隆治
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	各自の分析テーマを、演習 I および II で習得した技能で検証し、卒業論文を作成する。
授業スケジュール	前期は分析テーマの参考となる文献調査、データ収集、進捗状況の報告が中心となる。後期は発生した問題点や改善点の修正をし、分析の質を高める。論文の書き方については、適宜指導する。
準備学習	各自昨年に作成した研究計画書をもとに、卒業論文を書く。
履修上の留意点	
成績評価の方法	受講態度、ゼミへの貢献、報告および論文の内容により総合的に評価。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	150901
科目名	演習III
担当者名	小沢 利久
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	マネジメント・サイエンスとは、経営活動の様々な場面における意思決定を支援するための方法を考える学問であり、対象をモデルで表現し、コンピューターを使って定量的に分析する点に特徴があります。また、マネジメント・サイエンスの応用範囲は、伝統的な生産・流通の分野から近年はマーケティングやファイナンスの分野へと広がりがつづいています。この演習ではそのようなマネジメント・サイエンスの各種手法とコンピューターリテラシについて学ぶとともに、資料作成とプレゼンテーションを通じてコミュニケーション能力の育成を図ります。
授業スケジュール	ゼミ論文を作成します。そのために、前期は経営・経済関連の雑誌記事を読みながら興味のある対象を選び、テーマを決めていきます。後期は、前期に決めたテーマについて調査・分析し、それを論文にまとめます。最後に、論文発表を行います。
準備学習	必要に応じて授業の中で示します。
履修上の留意点	論文作成ではオリジナリティを重視します。単なる調査ではなく、自分自身の見解を持つことが求められます。
成績評価の方法	提出論文、発表内容により評価します。
教科書/テキスト	使用しません。
参考書	必要に応じて示します。
その他	特にありません。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/

履修コード	152301
科目名	演習III
担当者名	鹿嶋 秀晃

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 研究テーマは現代日本企業の人事労務管理。大学生活の中で、ゼミは最も勉強に打ち込み、一番思い出になるところだと考える。よって、積極的に勉強し、行事を企画し、みんなで楽しくゼミを過ごしたいという学生を採用する。 (到達目標) 4年卒業時のゼミ卒業論文の完成を最終目標とする。経営労務論の中から自ら関心のあるテーマを設定し、幅広い研究の結果としてロジカルな学術論文を書くことが目標。
---------------------	--

授業スケジュール	現代の日本企業とそこに働くサラリーマンが抱える問題に関して、入門書と専門書を読んでいる。企業と労働、社会について幅広い関心を持ち、科学的に考える力を養う。サブテーマは「終身雇用」「年功賃金と能力主義」「日本的経営」「女性労働」「日本的労使関係」「会社人間」「過労死」ほか。2か月に1冊のペースで本を読む。受講者全員があらかじめテキストを熟読し、中から報告者(レジュメを作成)、アシスタント(授業の内容を補完して解説)を決め、その2人を中心に議論を進める。4年次は卒論作成中心。夏合宿では、3学年合同のディスカッションを行う。冬合宿では、卒論発表会を行い、4年は発表、2、3年は卒論に対するコメントを発表する。
----------	--

準備学習	日常的に新書や経済新聞等にも目を通して、関心を広げておくこと。
------	---------------------------------

履修上の留意点	カリキュラムの特性上、本演習は経営学科生対象。無断欠席は単位認定なし。時間割以外に設定している行事もゼミの一環なので必ず出席のこと。
---------	--

成績評価の方法	出席点(点数には考慮せず、出席が大前提)、講義中の発表・発言(40%)、毎週の課題作成(40%)、レポート・書評の提出(20%)を総合して判定。
---------	--

教科書/テキスト	適宜指示する。過去のテキスト例。竹内裕[2008]『日本の賃金』ちくま新書、辻隆久[2010]『雇用調整のマネジメント』創成社、武石恵美子編著[2009]『女性の働きかた』ミネルヴァ書房、小谷敏・土井隆義・芳賀学・浅野智彦編[2010]『若者の現在 労働』日本図書センター、佐藤・武石編著[2011]『ワーク・ライフ・バランスと働き方改革』勁草書房など。
----------	---

参考書	演習時に適宜紹介。
-----	-----------

その他	鹿嶋ゼミの特徴は、2~4年のゼミ生間に交流があること。履修希望者は、必ず経営労務論を履修のこと。他のゼミ活動には、工場見学、合宿、ゼミ書評、全国コンテスト参加などがある。詳しくはゼミWEBページ参照のこと。
-----	---

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~kashima/
-------	---

履修コード	151001
科目名	演習III
担当者名	片桐 伸夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	このゼミは3・4年次(演習II・III)で「就職希望会社の経営分析」を行うことを目的とします。(経営分析の内容については、演習IIの講義のねらいをごらんください。)
---------------------	--

授業スケジュール	(1)経営分析について、(2-6)経営分析の資料、貸借対照表・損益計算書の読み方、(7-12)収益性・安定性分析、製造業-製造原価報告書、(13-15)貸借対照表、損益計算書問題、安定性・収益性比率の計算問題、(16-20)生産性分析、標準原価、損益分岐点分析、(21-26)キャッシュフロー計算書、連結財務諸表、(27-30)税効果会計、正味現在価値法と設備投資
----------	--

準備学習	Word、Excel に慣れておくこと。
------	----------------------

履修上の留意点	このゼミでは、経営分析の中でも、とくに財務諸表(貸借対照表や損益計算書など)の分析を中心とします。したがって、1年次の簿記学に興味を感じた人向きのゼミです。
---------	--

成績評価の方法	成績評価の方法は平常点100%です。 4年次(演習III)では、2年間の成果をゼミ論としてまとめます。
---------	--

教科書/テキスト	開講時、指示します。
----------	------------

参考書	随時、紹介します。
-----	-----------

履修コード	150301
科目名	演習III
担当者名	兼村 栄哲

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>社会的な分業体制が成立している今日の経済においては、生産と消費の間に、主体的懸隔、量と組み合わせに関する懸隔、情動的懸隔、空間的懸隔、時間的懸隔といったさまざまな経済的懸隔が発生している。マーケティングとは、こうした経済的懸隔を架橋することによって、円滑な交換(の連鎖)を実現し、ひいては、消費者が、生産者が生産する商品消費することを可能にする活動をいい、社会経済的な観点に立ったマクロ・マーケティング(「流通」とほぼ同義)と、個別企業のマネジメントの観点に立ったマイクロ・マーケティング(いわゆる「マーケティング」)に大別される。</p> <p>マーケティング論は、以上の2つのマーケティングのメカニズムを研究する学問である。</p> <p>(到達目標)</p> <p>本授業のねらいは、履修者の一人ひとりが、マーケティングにかかわる諸現象を体感し、当該現象について自分なりに論理的に説明できるようになることにある。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーションー卒業論文の書き方ー</p> <p>第2回～第30回 卒業論文の進捗状況の発表</p>
----------	---

準備学習	卒業論文を作成するにあたり、①各自の問題意識にしたがい、その研究テーマにかかわる既存文献を再検討する、②テーマにそった研究方法および分析手法を体得する、③卒業論文の構成をデザインする。
------	--

履修上の留意点	<p>演習は、講義科目とはまったくその性格が異なっている。授業時間内においても積極的に参加することが要求される。以下の2つが、私が皆さんに最低限要求する内容である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学業面における大学生活の集大成として、各自の問題意識にしたがい卒業論文を作成する。 ・ 当論文は、A4サイズ1頁あたり1,200字(40字×30行)で25枚以上とする(ワープロ原稿)。 ・ 夏休みの工場見学に参加する。 <p>その前提として、各工場について、各自が30以上の質問を考える。</p>
---------	---

成績評価の方法	卒業論文の進捗状況の発表内容30%、完成した卒業論文の内容30%、平常点40%
---------	---

教科書/テキスト	なし。
----------	-----

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

履修コード	152561
科目名	演習III
担当者名	河合 由佳理

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要</p> <p>演習IIにおいて、決定した各自のテーマについて卒業論文を作成します。その際、教員からの指導だけでなく、ゼミ生全員で卒業論文を読み合い、コメント・質疑応答を通して討論します。そして、より完成度の高い卒業論文にすることを目的としています。</p> <p>到達目標</p> <p>卒業論文の作成は、問題意識を持って結論を導き出すことが重要となります。そのため、文献の収集・確認はもちろんのこと、論文を書く際も書式・構成などを考慮し、全体として説得力のある論文を完成させることを目標とします。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期：各自のテーマに沿った論文の執筆(状況に応じて報告を求めます)</p> <p>後期：ある程度出来上がった論文に対する手直しの作業(ゼミ内で意見を言い合う形で改善していきます)</p>
----------	--

準備学習	指定された期限を守って論文を提出するため、文献の確認、チェックを受けた論文の修正等の準備が必要です。
------	--

履修上の留意点	<p>授業は、受講生の報告・討論をベースに進める予定のため、欠席は基本的に認めません。</p> <p>また、自分の卒業論文だけでなく、他のゼミ生の論文に対しても意見・質問が言えるように努力すること。</p>
---------	---

成績評価の方法	卒業論文の内容を総合して評価します。
---------	--------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	152421
科目名	演習III
担当者名	菅野 佐織

授業概要/
到達目標 (ねらい) 演習IIIの目的は、マーケティング（特に消費者行動）の研究を通じて、論理的思考力及び分析力をさらに磨くことである。卒業論文の作成が中心となる。

授業スケジュール

- ・後輩の指導
- ・卒業論文作成
- ・ゲストスピーカー講義
- ・ビジネスセミナーへの参加

準備学習 卒業論文の書き方について学んでおくこと。

履修上の留意点 就職活動を理由に勉強をおろそかにせず、高い目標を持って卒業論文を仕上げるように。

成績評価の方法 ゼミへの貢献度、出席の状況、毎回の課題への取り組み度合いを総合的に判断して評価する。

教科書/テキスト 授業で適宜お知らせする。

参考書 授業で適宜お知らせする。

履修コード	150601
科目名	演習III
担当者名	岸田 隆行

授業概要/
到達目標 (ねらい) これまでに習得した原価計算・管理会計の知識をもとに、卒業論文を作成する。論文作成の各段階ごとに報告を行い、内容についてゼミ員同士で討論することによってよりよい論文を作成できるようにする。

授業スケジュール

一年を通して論文を完成させる。
前期は各自で設定したテーマについての論文を渉猟し、いくつかの論文を報告していく。
後期は各自の論文の進捗状況を報告し、最終的に完成した論文を提出してもらう。

準備学習 他人が報告する内容であっても、事前に内容を読み、質問を考慮しておくこと。

履修上の留意点 ゼミには積極的に参加してもらいたい。
また、他人の卒業論文の報告であっても、自分は関係ないという態度ではなく、積極的に批判や質問をすることによって、切磋琢磨し、それぞれがよりよい論文が書けるよう努力してもらいたい。

成績評価の方法 出席、報告の内容、論文によって総合的に評価する。

教科書/テキスト

参考書 それぞれのテーマに沿った文献を適宜紹介する。

履修コード	152601
科目名	演習III
担当者名	猿山 義広

授業概要/
到達目標 (ねらい) この講義では、現代における管理会計または企業経営に関するテーマで調査・研究を行う際に必要となるノウハウを身につけることを目的としている。演習では、知識の習得以上に専門知識をベースにした知的表現技法の習得に重きが置かれるので、受講者は自らの報告にあたってテーマについての自分の立場と意見をはっきりと示せるよう事前準備に努めてほしい。

授業スケジュール

第1～5回 調査・研究にあたってのテーマ設定と構成の指導
第6～10回 参考文献の見つけ方と引用に関する指導
第11～15回 事例研究の進め方に関する指導
第16～20回 調査・研究報告書や論文の文章および注記の指導
第21～25回 各自作成する調査・研究報告書や論文の中間報告
第26～30回 各自作成した調査・研究報告書や論文の最終報告と評価

準備学習 関心のある企業の年次報告書を読んでおくこと。

履修上の留意点 演習は学生による報告が中心となる。報告にあたっては、聴講者がより深く理解できるように資料を作成してもらうことになるが、文章だけでなく図表を盛り込んだ資料をつくること。

成績評価の方法 割り当てられた報告の内容、授業中の発言、平常点、年2回課すレポートの内容に基づいて総合的に評価する。

教科書/テキスト なし。

参考書 必要に応じて指示する。

その他 卒業後、胸を張って「私は学生時代、管理会計論の演習を受講しました」といえるだけの成果が上げられるよう、限られた時間の中で一生懸命に勉強してもらいたい。

履修コード	152611
科目名	演習III
担当者名	高井 徹雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>ブロードバンドで繋がったインターネットを基盤とするICT（情報技術）は、今日の企業経営また社会・経済システムを捉えるうえでも最も重要なキーワードとなっています。皆さんは、真の意味で、情報が価値を持ち、情報が価値を生み出す時代に生きています。このような時代、企業や官庁のスタッフとして、また将来はエグゼクティブとして、「情報エリート」を目指すならば、少なくとも以下の能力が要求されると考えます。</p> <p>(1) 発見力：与えられるのを待つのではなく、自分で問題を見つける能力。 (2) 洞察力：問題に関係する必要な情報を選別する能力。情報を分析し問題の本質を洞察する能力。 (3) 表現力：分析結果を集約し、解り易くプレゼンテーションする能力。 (4) 解決力：他者と協力しあって、具体的な問題解決を図る能力。</p> <p>皆さんに、こうした素地を養って頂くことを狙いとして、各週の演習、および年2回の合宿（1回は勉強、もう1回は親睦を主目的とする）における題材と環境を用意します。主体的にゼミに参加されることを願っています。およそのスケジュールは以下のとおり。受講生とコミュニケーションをとりながら、理解度や興味の方向を見極めながら進めて行きます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	4-12月：ゼミ論各テーマ別個人指導 1月：ゼミ論最終発表と提出
----------	-------------------------------------

準備学習	ゼミ論文の作成は、実質的には課外時間に多くの時間を割いていただくことになります。ゼミ出席時には、各自ゼミ論の進捗状況について報告を求め、ディスカッションを行います。
------	--

履修上の留意点	毎回、コンピュータールームにおいて実習形式で授業を行います。実習形式の授業は、全体が同じペースで学習を進めていく必要がありますので、極力欠席しないようお願いいたします。
---------	--

成績評価の方法	毎回出席をとります。4年次は、ゼミ論文を作成していただき、年度末に論文提出・発表会を実施し、その結果をもって成績評価を行います。筆記試験は行いません。
---------	---

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	152101
科目名	演習III
担当者名	高木 克己

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 4年次では、5月半ばから7月にかけて、3年次に作成した進級論文を教材にして論文の書き方、文章の構成、専門用語の使い方等、2、3人の少人数で個別指導を行います。そして後期には、各自選択したテーマの問題点の整理、今後の方向性（解決策等）を中心に報告を行い、4年次終了時には、卒業論文（30枚以上、400字）の作成します。 なお、合宿等の行事は、2年次と同じく例年通りです。</p> <p>(到達目標) 各自選択したテーマに対する問題点の発見、解決策の模索等、考える力を養うことを目標にします。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	前期は、進級論文として、3年次末に提出された課題を題材にして、個別指導を中心に勉強していきます。 後期は、最後の仕上げとして、問題点、今後の課題等について勉強していき、卒業論文を完成させます。
----------	---

準備学習	文献や資料の整理など事前の準備は必要となります。
------	--------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	出席及び報告により評価します。
---------	-----------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	各自選択したテーマにより紹介します。
-----	--------------------

履修コード	150101
科目名	演習III
担当者名	高田 光明

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	3年次からの演習に参加している間に、自分なりに持った問題意識のもとで、どのようなゼミ論文のテーマを選ぶかという作業は、自発的な姿勢で取り組むことを要求される。テーマ探しの過程でいろいろと文献を探して読むという経験を積むことは、大学卒業後に、仕事の必要に応じて、また自らの関心・興味にしたがい、自分で主体的に学べる能力である自己学習能力を身に付けるために有効である。そして論文の執筆過程で、考えながら書き、書きながら考えを深めてまわっていくことは、論理的に思考する能力を培うのに役立つ最も主体的な行為である。したがって、自己学習能力と論理的思考能力の養成という大学教育の根本的目的の達成を図る上で、ゼミ論文作成は、きわめて重要な位置を占めている。
---------------------	--

授業スケジュール	演習IIIでは、リスク・リターン関係や資本のコストといった概念の他に、株主にとっての企業価値をキーワードに加えて、企業の財務活動のあり方についてもさらに議論を深める。そしてこのような内容で演習を進めていく間に、各自が持った問題意識のもとで選んだ個別テーマにより、ゼミ論文を作成する。 (1~15)高橋文郎著、エグゼクティブのためのコーポレート・ファイナンス入門(東洋経済新報社、2006年)を中心に研究 (16~30)ゼミ論文の作成指導
----------	--

準備学習	演習IIで適宜提出を求めた課題レポートのテーマについて復習をしておくこと
------	--------------------------------------

履修上の留意点	ゼミ論文の出来・不出来は、テーマをいかに絞り込むかにかかっている。扱うテーマが広いとどうしても掘り下げ不足となり、論文が、概説書の抄録のようなものになってしまうがちである。テーマについては、できるだけ絞る必要がある。したがって、自分が関心を持って扱おうとする領域に関して理解を深め、テーマを絞り込める眼を育てることが肝要である。
---------	--

成績評価の方法	ゼミ論文の評価を基本とし、適宜提出をを求める課題レポートも加味する。
---------	------------------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	152001
科目名	演習III
担当者名	滝田 公一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習I,IIで習得した、資料の分析的読み、批判的読み、データの情報処理技術などを活用して、ゼミ卒業論文を作成していただきます。ゼミ卒業論文の作成を義務づける理由は、次のようであり、すなわち、 (ア)どのようなトピックをゼミ卒業論文のテーマとしたらよいか、すなわち、論題の切り出し方を学ぶ、 (イ)自分の考えを論理的に明確にし、読者に理解しやすいように、幹線のわかる構造を持った論文の書き方を学ぶ、 と言った、知的作業については、その重要性にもかかわらず、これまで、日本の学校教育では、その教育が十分になされてこなかったように思われるからであります。最後に比較的入手が容易であろうと思われる参考文献をあげておきます。
---------------------	--

授業スケジュール	演習I,IIで学んだことを利用して、卒業論文を書いてもらいます。前期の授業で、論文の書き方、すなわち、問題の切り出し方、論文のアウトラインの作り方、研究資料の探し方、その分析、などを学びます。その後は、個々の論文の作成の指導を致します。
----------	--

準備学習	オフィス・アワーに、卒論を作成するうえでの疑問点などを相談してください。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	成績評価は、提出していただいたゼミ論文によって行います。
---------	------------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

澤田昭夫『論文の書き方』(講談社学術文庫)昭和52年
 澤田昭夫『論文のレトリック』(講談社学術文庫)昭和58年
 梅棹忠夫『知的生産の技術』(岩波新書)昭和50年
 川喜田二郎『発想法』(中公新書)昭和51年
 中野不二男『メモの技術-パソコンで知的生産-』(新潮選書)平成9年

履修コード	152401
科目名	演習III
担当者名	長 國強

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代は情報化社会といわれ、新聞・雑誌・インターネットを開いてもそこに大量の経済・経営データが見られる。ところで、経済・経営などのデータをそのまま見れば、単なる数字の山にすぎず、大切なことはそこから正しい見通しを得ることであろう。実際のデータから経済・経営など社会的な動きをどのように読みとるのかといった能力を養成できるようにすることを目的として、本演習はコンピュータを使つてのデータ解析の基本技術を学習する。
---------------------	--

授業スケジュール	演習Ⅲ(4年生)：総決算…卒業論文作成に挑戦 研究テーマを自主的に選び、演習Iと演習IIの2年間で学んだコンピュータやデータ解析の基本知識や手法などを自ら実践し、卒業論文作成に取り込む。卒業論文については、11月の中間報告、12月の卒論発表会を経て、最終的に提出してもらう。
----------	--

準備学習	特にありません。
------	----------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	平常点：課題(30点)・卒業論文(70点)の成績などで総合的に評価する。
---------	--------------------------------------

教科書/テキスト	特に使用しませんが、プリントは随時配布する予定。
----------	--------------------------

参考書	日本経済新聞。
-----	---------

その他	継続性ということから、演習Ⅲの新規募集はいたしません。
-----	-----------------------------

履修コード	152431
科目名	演習III
担当者名	中川 功一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経営戦略論を使いこなせるようになるよう、更なる訓練を積んでいく。同時に、その訓練の中で、問題解決のための思考能力を養っていく。
---------------------	---

授業スケジュール	文献購読、ケーススタディ、フィールドワークの3本柱による。
----------	-------------------------------

準備学習	徹底した報告準備が必須である。
------	-----------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	ゼミ論の提出。
---------	---------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	150201
科目名	演習III
担当者名	中川 淳平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習では、経営学説について考察する(したがって、演習での研究テーマとしては、経営学説のなかから1つないし複数の学説から選択することとなる)。併せて、文献・資料の調査の仕方、報告のあり方、文章のまとめ方について習得する。
---------------------	---

授業スケジュール	演習論文についてのテーマ決定と参考文献の選定(前期) 章立ての決定と作成の指導(後期)
----------	--

準備学習	「論文の書き方」に関する書籍を1冊読んでおくことが望ましい。
------	--------------------------------

履修上の留意点	論文作成のために多くの時間を割く必要があるので、積極的に勉学する、意欲ある学生の参加を望みます。
---------	--

成績評価の方法	提出論文100%。
---------	-----------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	152441
科目名	演習III
担当者名	中野 香織

授業概要/
到達目標 (ねらい)

本演習では、マーケティング・コミュニケーションおよび広告について、実務と理論の両方の面から考察することを目的とする。理論を学ぶことに加え、それを実際の戦略に応用できるような思考も身につけることが必要である。また、さまざまな課題に取り組むことを通じて、テーマに関連した資料収集の方法、問題を発見する視点、それを解決するための方法、考えたことを人に伝えるためのプレゼンテーション方法などを学んでほしい。

本演習の方針は、以下の2点である。

(1) 外との積極的な交流

駒澤大学のなかだけにとどまらず、企業の方や他大学の学生など、外との接点をできるだけ多く持つようにする。

(2) 複数作業の同時処理 (マルチタスク)

企業で働き始めたら、複数の仕事を同時にこなさなければならない。そのため、今のうちからいくつもの作業を行うことに慣れるようにする。

本演習の到達目標は、以下の3点である。

(1) マーケティング・コミュニケーションの知識を得る

まず、基本的なマーケティング・コミュニケーションの知識を身につけてほしい。マーケティング・コミュニケーションとは、企業が自社の製品やサービスについて、消費者に認知させ、購買を促進するために情報を発信することである。

(2) 思考力を身につける

得た知識を使って、実際の戦略に応用できる思考力を身につけてほしい。具体的には、現状の分析、問題を発見する視点、その解決方法、それを論理的にまとめる力などである。

(3) コミュニケーション能力を高める

自分の思ったことを積極的に発言し、他人と議論ができ、相手に伝わるプレゼンテーションができるようにしてほしい。

授業スケジュール

本演習における中心的課題は卒業論文である。各自で研究テーマを設定することから始め、途中段階の内容をゼミで発表し、全員で議論する。論文をまとめるにあたって、希望者には、グループでの論文執筆 (『インナー大会 (日本学生経済ゼミナール)』への応募) への参加も予定している。

準備学習

本演習はマーケティングの関連科目であるため、受講者にマーケティングの知識があることが必要である。そのため、マーケティング論の講義を履修することに加え、マーケティングに関するテキストを読んでおくことが望ましい。

履修上の留意点

ゼミの時間には積極的な発言が、ゼミの時間外には自主的な課題への取り組みが求められる。特にグループ研究ではメンバーと共同で多くの課題をこなし、活発な議論を行う。そのため、マーケティング・コミュニケーションに関心が高く、ゼミ中心の学生生活を過ごしたいと思うような意欲的かつ協調性のある人に参加してほしい。

成績評価の方法

卒業論文、および平常点 (積極的な参加など) と発表内容を考慮して評価する。

教科書/テキスト

参考書のなかから、数冊を教科書として利用する。詳しくは開講時に指示する。

参考書

亀井昭宏・ルディー和子編『新マーケティング・コミュニケーション戦略論』2009年 (日本経済新聞出版社) 2,310円
石崎徹編『わかりやすい広告論』2008年 (八千代出版) 2,835円
嶋村和恵監修『新しい広告』2006年 (電通) 2,100円
岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論 新版』2008年 (有斐閣) 2,205円

履修コード	151401
科目名	演習III
担当者名	中村 公一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本ゼミでは現代企業の置かれている環境とそれに対する経営戦略を紐解いていき、実践的な場面でも応用できる知識と考え方を身に付けるために、文献講読・資料調査・ケーススタディ・ビジネスプランニングなど多彩な課題に取り組みます。</p> <p>ゼミは、単位を採るだけのものではなく、個人の「知的トレーニングの場」であり、他のゼミ生達と切磋琢磨する場であると考えて下さい。私の役割は、ゼミ生がゼミでの勉強をきっかけにして、豊かな学生時代を築こうとする時のお手伝いをするだけに過ぎません。運営の主体は君達にあります。</p> <p>(1) 文献講読やケーススタディなどを通して、企業の置かれている環境とそれに対する戦略を的確に理解する専門知識の習得、分析力、洞察力の強化を図ります。</p> <p>(2) レポート作成を通してのアウトプット能力、論述能力、論理構成力の強化を図ります。</p> <p>(3) 毎週の報告や議論などを通じてプレゼンテーション能力やディスカッション能力の強化を図ります。</p> <p>(4) 実際にビジネスプランの策定を通して、事業戦略を構築する企画力と構想力の強化を図ります。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>演習III (4年生)</p> <p>前期：過去のゼミ論文優秀作の輪読 (論文執筆方法の学習)</p> <p>後期：ゼミ論文の作成 (各自の論文テーマの報告)</p>
準備学習	<p>経営学・経営戦略論を勉強する上では、日頃から新聞や雑誌、テレビなどで関連する情報にはできる限り目を通すことが効果的です。我々の周りではどのようなことが起きているのか、常に把握していくことが、経営学への学習意欲の向上につながるでしょう。</p>
履修上の留意点	<p>ゼミの理念は「知的トレーニング」にあるので、相当の勉強時間の確保が必要になります。また、ゼミでは議論が中心になるために、事前の準備も必要となります。(夏に合宿を行います)</p>
成績評価の方法	<p>遅刻の常連、無断欠席、各種課題や提出物の期限の遅れ、不十分な内容のレポートを提出した場合は、厳しくチェックします。成績は、出席数、提出課題の内容、議論への貢献度などの平常点によって判断します。なお、4年次にはゼミ論文があります。</p>
教科書/テキスト	過去のゼミ論集を読みます。
参考書	

履修コード	152201
科目名	演習III
担当者名	西村 和夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>資料 (論文など) を探して、読み、論文を書く。成果の発表をする。これらを通して、論理的な思考力を養う。</p>
授業スケジュール	<p>論文の書きかたを習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の調査 ・中間発表とレポート提出 ・論文の作成と発表 ・論文提出 ・発表会 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆情報処理技術者試験のための学習 ◆ゼミ論文発表会 (2度) ・イベント (1・2度)
準備学習	とくになし (自宅でゼミ論文を作成する)。
履修上の留意点	就職活動に左右されず、計画的にゼミ論文を作成すること。
成績評価の方法	出席のほかに、ゼミ論文。
教科書/テキスト	教材のページ： { http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/seminar/materials.html }
参考書	
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/

履修コード	151901
科目名	演習III
担当者名	羽鳥 茂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	最終学年の演習IIIでは、これまでの学習成果をまとめることが目標です。3年次で提出した研究テーマの中間報告に基づいて完成品に仕上げられるように指導したいと考えています。
授業スケジュール	1年を通して、ゼミ生の報告に基づく研究会のような形式で進めます。ゼミ生には研究報告のための十分な時間が与えられるので、活用してください。
準備学習	これまでの復習をしておいて下さい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	研究報告とその内容によって評価します。
教科書/テキスト	配布資料を用います。
参考書	特にありませんが、ゼミの中で必要に応じて適宜に紹介とアドバイスはもちろん行います。

履修コード	151601
科目名	演習III
担当者名	日野 健太

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 このゼミでは組織が直面するさまざまな問題を取り上げ、多角的に分析する。組織論の問題を中心に取り上げ、組織論のものの見方を身につけることを目的とするが、経営学全般についての理解が深まるように、配慮する。</p> <p>演習IIIでは、各自で選択したテーマについて、学術的に考察し、ゼミ論文を執筆する。執筆の中間発表を行う。</p> <p>到達目標 なるほど、これはきみの大学生生活の集大成だね、といわれるようなゼミ論文を完成させる。他者からの優れたアドバイスを引き出せるような議論ができるようになる。</p>
授業スケジュール	<p>各自ゼミ論文の執筆を行う。</p> <p>前期1回、後期2回の中間発表を行って、各自のゼミ論文の完成を目指す。</p> <p>ゼミの時間以外に担当教員の研究室を訪ね、アドバイス(みたいなもの)を得る。</p> <p>他人のゼミ論文の中間報告を聞いて、「自分ならどうするか」という視点で考えてみる。</p> <p>時期を見計らって、ゼミ合宿を行う。</p> <p>時期を見計らって、卒業生の仕事の話を聞く機会を設ける。</p> <p>時期を見計らって、コンパ(学生などが費用を出し合って行う懇親会の意。広辞苑より)を行う。</p>
準備学習	ディスカッションに参加するためには、レポーター以外の学生も予習は必須である。ワード、エクセル、パワーポイントの使い方については指導しないが(そんなことを教わるためにゼミに来ているわけではないと思うので)、必要となったときには、自習すること。
履修上の留意点	ゼミなので、とにかく出席しないことには始まらない。遅刻・欠席するものではないという自覚を持って参加すること。親睦行事にも参加すること。合宿、コンパ等の係に迷惑をかけないことをはじめとして、どうすればゼミがうまくいくのかを考えて参加すること。ゼミ論文は、それぞれ違うテーマを持っているので、担当教員としても、あらかじめ答えを持っているわけではない。質問しても最短コースの答えが返って来なくて当然だと思うこと。
成績評価の方法	平常点を前提に、ゼミ論文の評価100% (ゼミ論文だけ出せばよいというものではない。)
教科書/テキスト	
参考書	
その他	どこのゼミを出たかは、大学生生活においてもっとも重要なことの一つだと思います。私もそのつもりでゼミには取り組みますし、学生諸君もそう思ってゼミを選択して欲しいと思います。私自身も未だにゼミの友人とはつきあひがあるし、日野ゼミの過去のゼミ生達もそのようです。また、私にとってもゼミの卒業生が活躍していると聞くのは、うれしいことです。勉強したことは忘れてしまうと思いますが(!)、それぞれが、ずっとこのゼミでよかったと言えるようなゼミを目指しましょう。

履修コード	150401
科目名	演習III
担当者名	藤原 篤志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 本演習ではテーマを「モノづくりの経営学」としており、主として製造企業の生産戦略、生産管理、技術管理、作業管理などを対象としている。またモノづくりには労働力が不可欠かつ重要な要素であるので、労働者による労働も考察の対象としている。本演習ではこのテーマに関してゼミ論文を作成し、それを題材にしたプレゼンテーション(発表・報告)や議論・討論を行う。このように受講生が「自分でやってみて学ぶ」受講生主体の授業である。</p> <p>(到達目標) 受講生は上記テーマに関連して、自分の興味・関心のあるテーマを選び、それについて研究を行い、4年のゼミ終了の時点までにゼミ論文を作成・完成させることを最大の目的としている。また授業の中で、ゼミ生には自分の論文の経過・成果についてプレゼンテーション(発表・報告)をしてもらい、それに対する質疑応答や議論・討論を他のゼミ生と活発に行うことにしている。以上の論文作成、プレゼンテーション、質疑応答、議論・討論を通じて、知識を吸収することももちろん、プレゼンテーション能力、物事を論理的に思考する能力、コミュニケーション能力を養うことも目的としている。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>4年次では、3年次に引き続き、論文作成のための研究を進め、最終的に論文を完成させる。また授業自体は、ゼミ生各人による自分の論文についてのプレゼンテーション(発表・報告)、質疑応答、議論・討論を中心に行われる。その中で、報告・発表、思考、発言・表現等の能力を養っていく。</p> <p>授業そのものは論文内容のプレゼンテーションを行うが、授業以外の時間で論文作成のための指導を個別に行う。</p> <p>(正規の授業時間以外に、工場見学や合宿あり)</p>
----------	--

準備学習	<p>論文の作成、プレゼンテーションの準備、議論討論の司会準備には日常的な準備学習(文献の収集・精読、研究ノートの作成、レジュメや資料の作成、議論討論のテーマの選定など)が必要になる。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>本演習は上記のようにプレゼンテーション、質疑応答、議論・討論が中心となるので、ゼミ内に全員が積極的に発言できる雰囲気を作りたい。そのため、授業時間以外のイベント(工場見学、合宿、コンバなど)には全員が参加することが原則である。</p> <p>論文の作成や授業内のプレゼンテーション等の準備には授業以外の時間を多く割り、相当な努力が必要になってくる。それゆえ中途半端な気持ちで志願する学生には遠慮してもらいたい。勉強にしろその他のイベントにしろ、自分から常に積極的に参加・参画する姿勢が求められる。本ゼミでは何よりもやる気のある学生を歓迎する。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>ゼミ論文50%、プレゼンテーション20%、議論討論への参加20%、レポート10%。論文の研究を進めその内容を授業で発表する、または参加し与えられた役割を果たすことを重視するので、授業へは原則的に毎回出席することが求められる。</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>特定のテキストはなく、講読する文献はゼミ生の学習・研究分野に応じて自主的に選定してもらう。また企業での事例に関する資料は、日本経済新聞や日経産業新聞を活用し、ゼミ生自身の研究テーマに関わる記事を適宜こちらから提示する。</p>
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	151701
科目名	演習III
担当者名	宮城 徹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>演習III(4年) 4年次ゼミ生は、400字詰原稿用紙30~50枚程度のゼミ論文の作成にとりかかる。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>そのさい、テーマに密接に関連のある邦訳書・邦語の文献を適宜指示するが、英語圏あるいはドイツ語圏の論文をゼミ論文の素材にしたいというゼミ生に対しては、然るべき論文を1本割り当てるので、それを翻訳してゼミ論文に加味してもよい。また、論文を仕上げるまでの日程等についてもアドバイスする。</p> <p>※ ゼミは、毎回1人あるいは複数のリポーターが与えられた範囲をレジュメに基づいて報告し、その他のゼミ生はそれを中心にして活発にディベートするように進める。</p> <p>※ ゼミの中心的素材はゼミの開始時に指示する。</p> <p>※ 斉藤 孝著『学術論文の技法』(日本エディタースクール出版部)平成9年、を入手のこと。</p>
----------	---

準備学習	-
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	<p>平常点評価。その際、(a)出席を重視する。(b)自分の思うところを述べ、他人の意見に注意深く耳を傾ける能力があるかどうかを重視する。</p>
---------	---

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	151101
科目名	演習III
担当者名	山田 純平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本の会計基準は、国際的な調和化を理由に、ここ10年でかなりの変貌をとげてきたといわれます。しかし、国際的な調和化といっても、そもそも世界的に会計基準がどのような方向に向かいつつあるのか、その背景となる考え方はどのようなものか、といったことは十分に検討されているとはいえません。そこで、本演習では、企業会計に関する基礎的な知識を身につけるとともに、国際基準の動向とその基礎概念を考察します。 また、会計基準は実際に運用されてこそ意味があるのだから、現実の財務諸表を分析することを通じて、会計基準の実態面についても合わせて検討します。
---------------------	---

授業スケジュール	卒業論文の構想やその周辺分野について報告をしてもらう予定です。
準備学習	卒業論文のテーマを確定させ、それについて各自調べておくこと。
履修上の留意点	授業中に中間報告をしてもらうことと卒業論文を提出することが、単位の最低要件です。また、ゼミの行事にはできるだけ参加すること。
成績評価の方法	卒業論文の出来、議論への参加度、報告の出来、出席率で評価します。
教科書/テキスト	授業中に参加者と相談のうえ、決定します。
参考書	

履修コード	151501
科目名	演習III
担当者名	山田 勝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ボーダレス時代にビジネスパーソンとして活躍するためのセンスを磨くこと。
---------------------	-------------------------------------

授業スケジュール	月1度の割で、各自が毎日読む『日本経済新聞』の記事の中から、テーマを定めて日本語(1000字程度)と英文のレポートをメールで提出。更にそれを演習時間に発表し、その内容をめぐってディスカッションする。共通語は英語。
----------	--

準備学習	前もって指示する関係記事を精読し、まとめ、さらに自分のコメントを用意しておくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	平常点評価。毎時間出席し、積極的にディスカッションに加わることが評価の対象となる。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	152451
科目名	演習III
担当者名	若山 大樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習IIIでは、3年生までに身に付けたマーケティング諸活動に関する知識や諸理論および、統計的分析手法をもとに、各自の研究テーマで専門性を高め、その成果を卒業論文にまとめる。
---------------------	--

授業スケジュール	各自のテーマごとに、 (演習IIで作成した研究計画書に基づいて毎月一回以上の進捗状況報告を行う) (1) 初回に卒業研究準備状況報告 (前年度最終回から3ヶ月間分の進捗状況) (2~5) 文献研究(新聞記事検索)やデータの収集 (6~12) 必要に応じて調査実験を実施 (13~20) データ解析 (21~28) 論文作成 を行う。 (研究テーマや内容・進捗状況により、夏休みや冬休み、春休みにも、行うことがある。)
----------	---

準備学習	日頃より問題意識を持って新聞記事に目を通し、授業中のディスカッションに備えること。各自のテーマにより個別性が高いので、各自が積極的に意欲を持って授業に臨んでください。
------	---

履修上の留意点	論文作成にはかなりの労力を要するため、やる気をもってとりくむこと。 (他の先生にも読んでもらい)論文の質が著しく低いと判断された場合は、不可になるので注意すること。 卒業研究のテーマは各自の関心に応じて選ぶ。もちろん興味を持って楽しんで取り組めるものが望ましいが、楽しんで取り組めるように努力する姿勢(工夫)も大切である。また、マーケティング・サイエンスA、Bは履修済であることが望ましい。
---------	---

成績評価の方法	提出された卒業論文および最終発表会での発表(40点)と平常点(60点)で評価する。平常点は、初回報告、毎月一回の進捗状況報告(4回)と中間発表(ゼミ合宿1回or10月中旬1回)、提出(12月第1週目の金曜日)、最終発表会(12月第2週)、修正版の提出(12月第3週の日)について総合的に判断する。正当な理由のない無断欠席は履修放棄とみなします。
---------	--

教科書/テキスト	必要に応じて配布あるいは、指示する。
参考書	必要に応じて配布あるいは、指示する。

履修コード	152551
科目名	演習III
担当者名	渡辺 伊津子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本ゼミでは、演習Ⅰおよび演習Ⅱで学習した知識や各自の問題意識に基づいて、卒業論文の作成することを到達目標とする。授業概要としては、まず先行研究のレビューを行い、研究計画書を作成する。グループディスカッション、中間発表を経て、最終的には卒業研究の発表大会を行う。卒業論文に取り組むにあたって、ゼミという場は多様な視点や考え方を取り入れる最高の機会である。積極的な討論を期待する。
授業スケジュール	(1～14) 卒業研究に関する報告Ⅰ (15) 卒論中間発表 (15～29) 卒業研究に関する報告Ⅱ (30) 卒論最終発表
準備学習	自らの興味や関心に沿って自主的に研究を進めること。
履修上の留意点	
成績評価の方法	平常点50% (出席、ゼミへの積極的な参加、研究発表の内容、中間発表のできればえ) 卒業論文のできればえ50%
教科書/テキスト	開講時に指示する。
参考書	卒業研究のテーマに応じて適宜指示する。

履修コード	136201
科目名	会計学
担当者名	岩淵 昭子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、今日の制度会計を中心に会計の理論的なフレームワークを学習します。会計の目的は、一般的に複式簿記の手法等によって、組織（主に企業）の経営成績および財政状態を明らかにして、企業を取り巻く利害関係者に会計情報を提供することにあります。本講義のねらいは、社会人として必要な会計の基礎知識を学ぶことによって、企業等の経営活動を貨幣額で表したデータの意味を理解できるようになることにあります。
授業スケジュール	1回 ガイダンス、総論 2回 会計の仕組み 3回 企業会計の理論的特徴（会計公準・会計原則） 4～5回 企業会計制度 6～14回 資産会計 15回 まとめ・中間試験 16～19回 負債会計 20～22回 資本金会計 23～25回 損益会計 26～27回 財務諸表の作成 28～29回 連結財務諸表 30回 まとめ・後期末試験
準備学習	前回学習した内容について、テキストを読み、復習を心がけてください。
履修上の留意点	毎回、レジュメを配布します。当日配布するレジュメの冒頭には、前回学習したことの振り返りをして記入する箇所があります。必ず、前回のレジュメを持参してください。
成績評価の方法	出席（30%）と前期と後期の期末に実施する試験（各30%）、その他受講態度等（10%）として総合的に評価します。
教科書/テキスト	新井清光著・川村義則補訂、『現代会計学 [第13版]』、中央経済社、2,600円＋税
参考書	必要に応じて、指示します。

履修コード	136101
科目名	会計学
担当者名	片桐 伸夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>企業会計の目的は、複式簿記により経営活動を記録・計算し、経営成績と財政状態を企業の利害関係者に報告することです。企業を取り巻く利害関係者には、経営者、従業員、債権者、投資家、国・地方公共団体、さらには就活をする学生等まで入ります。</p> <p>このため、財務会計論、税務会計論、国際会計論、監査論、管理会計論、原価計算論、経営分析論などの専門分野に分かれます。</p> <p>本講義のねらいは、2年次からの会計専門科目に入りやすいよう、その予備知識を提供することにあります。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	(1) 会計学について、(2-7) 簿記一巡の取引と貸借対照表・損益計算書の作成、(8-10) 会計基準 会計公準 会計制度 財務諸表の種類、(11-15) 株式会社の貸借対照表・損益計算書の読み方、(16-20) 原価計算 製造業-製造原価報告書 CVP (21-26) キャッシュフロー計算書、本支店会計、連結財務諸表、(27-30) 税効果会計、経営分析
----------	--

準備学習	会計学と簿記は車の両輪です。簿記をよく学習すること。
------	----------------------------

履修上の留意点	簿記学の記帳練習を充分行うこと。
---------	------------------

成績評価の方法	成績評価は授業中のテストで行います。学年末試験は行いませんのでご注意ください。
---------	---

評価基準 前期テストとレポート 50%
後期テストとレポート 50%

☆質問は授業以外にも研究室2307号室で随時受け付けますので、遠慮なくおいでください。

教科書/テキスト	財務諸表の見方 (第10版) 日本経済新聞社(日経文庫) ￥872
----------	-----------------------------------

参考書	随時、紹介します。
-----	-----------

その他	毎回、プリントを配付します。
-----	----------------

履修コード	136211
科目名	会計学
担当者名	片桐 伸夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>企業会計の目的は、複式簿記により経営活動を記録・計算し、経営成績と財政状態を企業の利害関係者に報告することです。企業を取り巻く利害関係者には、経営者、従業員、債権者、投資家、国・地方公共団体、さらには就活をする学生等まで入ります。</p> <p>このため、財務会計論、税務会計論、国際会計論、監査論、管理会計論、原価計算論、経営分析論などの専門分野に分かれます。</p> <p>本講義のねらいは、2年次からの会計専門科目に入りやすいよう、その予備知識を提供することにあります。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	(1) 会計学について、(2-7) 簿記一巡の取引と貸借対照表・損益計算書の作成、(8-10) 会計基準 会計公準 会計制度 財務諸表の種類、(11-15) 株式会社の貸借対照表・損益計算書の読み方、(16-20) 原価計算 製造業-製造原価報告書 CVP (21-26) キャッシュフロー計算書、本支店会計、連結財務諸表、(27-30) 税効果会計、経営分析
----------	--

準備学習	会計学と簿記は車の両輪です。簿記をよく学習すること。
------	----------------------------

履修上の留意点	簿記学を履修することが特に望ましい。
---------	--------------------

成績評価の方法	成績評価は授業中のテストで行います。学年末試験は行いませんのでご注意ください。
---------	---

評価基準 前期テストとレポート 50%
後期テストとレポート 50%

☆質問は授業以外にも研究室2307号室で随時受け付けますので、遠慮なくおいでください。

教科書/テキスト	財務諸表の見方 (第10版) 日本経済新聞社(日経文庫) ￥872
----------	-----------------------------------

参考書	随時、紹介します。
-----	-----------

その他	毎回、プリントを配付します。
-----	----------------

履修コード	141801
科目名	会計監査論
担当者名	阿部 一人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>監査は、優れて社会的・人間的な用具として生みだされたものであるが、しかしそれを悪用したり骨抜きにしたりする者も現実には存在することは、過去の事例からも明らかなことであるけれども、そのような者が多ければなおのこと監査に対する社会的な要望も多岐に存在している。まさに、監査がどれだけ社会一般に受け入れられているのかということこそ、文明社会を映し出す尺度であると言えまいか！</p> <p>監査論は、財務諸表監査として特徴づけられる。これは、企業をめぐる多数の利害関係者を保護するため、企業の発表する財務諸表が企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、職業的監査人が公正な立場から批判的意見を表明する社会制度であり、他のあらゆる監査の標準をなすものである。本講義では、財務諸表監査を中心として概説する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会計監査の意義と目的 (総論) (1) <ol style="list-style-type: none"> ① 監査の必要 ② 監査の意義 ③ 監査の対象 2. 会計監査の意義と目的 (総論) (2) <ol style="list-style-type: none"> ① 監査の目的 ② 監査思想の変遷 ③ 監査の効用 3. 金融商品取引法監査 4. 会社法監査 5. 監査基準 6. 内部統制 7. 試査 8. 監査計画 9. 監査証拠 10. 監査手続き 11. 監査意見と監査報告書 12. 連結財務諸表監査 13. 中間財務諸表監査 14. 四半期財務諸表レビュー 15. 非営利組織監査 16. 環境報告書監査 17. 現代監査論の動向
----------	---

準備学習	会計学・財務会計論履修のテキストを再読してください。
------	----------------------------

履修上の留意点	「簿記学」「会計学」の科目を履修済みであることが望ましい。最初の講義に出席すること。
---------	--

成績評価の方法	学期末試験とレポートにより総合的に評価する。
---------	------------------------

教科書／テキスト	開講後指示する。
----------	----------

参考書	<p>上妻義直編著『環境報告書の保証』(同文館出版) 3,400円 鳥羽至英『監査基準の基礎』(白桃書房) 3,900円 八田進二編著『監査論を学ぶ』(同文館出版) 3,500円 山浦久司著『会計監査論(第5版)』(中央経済社) 4,200円 日本公認会計士協会『会計監査六法Lite版平成23年』(日本公認会計士協会出版局) 4,200円</p>
-----	--

授業中において適宜指示する。

履修コード	331801
科目名	会計監査論
担当者名	阿部 一人

授業概要/
到達目標 (ねらい)

監査は、優れて社会的・人間的な用具として産みだされたものであるが、しかしそれを悪用したり骨抜きにしたりする者も現実には存在することは、過去の事例からも明らかなことであるけれども、そのような者が多ければなおのこと監査に対する社会的な要望も多岐に存在している。まさに、監査がどれだけ社会一般に受け入れられているのかということこそ、文明社会を映し出す尺度であると言えまいか！

監査論は、財務諸表監査として特徴づけられる。これは、企業をめぐる多数の利害関係者を保護するため、企業の発表する財務諸表が企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、職業的監査人が公正な立場から批判的意見を表明する社会制度であり、他のあらゆる監査の標準をなすものである。本講義では、財務諸表監査を中心をして概説する。

授業スケジュール

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1. 会計監査の意義と目的 (総論) (1) | 12. 連結財務諸表監査 |
| ① 監査の必要 ② 監査の意義 | 13. 中間財務諸表監査 |
| ③ 監査の対象 | 14. 四半期財務諸表レビュー |
| 2. 会計監査の意義と目的 (総論) (2) | 15. 非営利組織監査 |
| ① 監査の目的 ② 監査思想の変遷 | 16. 環境報告書監査 |
| ③ 監査の効用 | 17. 現代監査論の動向 |
| 3. 金融商品取引法監査 | |
| 4. 会社法監査 | |
| 5. 監査基準 | |
| 6. 内部統制 | |
| 7. 試査 | |
| 8. 監査計画 | |
| 9. 監査証拠 | |
| 10. 監査手続き | |
| 11. 監査意見と監査報告書 | |

準備学習

会計学・財務会計論履修のテキストを再読してください。

履修上の留意点

「簿記学」「会計学」の科目を履修済みであることが望ましい。最初の講義に出席すること。

成績評価の方法

学期末試験とレポートにより総合的に評価する。

教科書／テキスト

開講後指示する。

参考書

上妻義直編著『環境報告書の保証』(同文館出版) 3,400円
 烏羽至英『監査基準の基礎』(白桃書房) 3,900円
 八田進二編著『監査論を学ぶ』(同文館出版) 3,500円
 山浦久司著『会計監査論(第5版)』(中央経済社) 4,200円
 日本公認会計士協会『会計監査六法Lite版平成23年』(公認会計士協会出版局) 4,200円

履修コード	144201
科目名	外書講読（英書I）
担当者名	枝松 正行

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） この授業では、「2012年の世界情勢と日本経済の課題」についてリアルタイムで考える。具体的には、ギリシャなどPIIGS諸国に発するEU債務危機とユーロ危機やリーマン・ショック以後のアメリカ債務危機とドル危機、イラン・シリア・パレスチナとイスラエルの対立をめぐって緊張を高める北大西洋条約機構と上海条約機構の中東危機、G20とIMF/世銀改革など激動する世界情勢を視野に入れつつ、ASEANでの多国間FTAやAPECでのTPP交渉参加に伴う日本の経済再生と対外関係の最新動向を合衆国公文書や海外文献から読み解く。 （到達目標） 2012年世界経済の最新動向をリアルタイムで包括的に読み解く国際感覚・時代感覚を養い、日本の国家として独立と繁栄、めざすべき国際貢献の方向を見極める視野を習得する。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>授業は、事前に配布したプリントを毎回交代に和訳してもらう。最初は専門用語の定訳と暗唱、基本構文の点検・解説・確認テストを繰り返すとともに、それぞれ学習範囲の国際情勢についての補足的な講義解説も行う。 内容的には、日米外交文書やFOREIGN AFFAIRS、WALL STREET JOURNAL、FINANCIAL TIMES、CNNなどの政府や海外有力メディアの最新論文を厳選して利用する予定である。</p>
----------	---

準備学習	毎回出てくるテクニカル・タームの暗唱と次回範囲の予習が宿題となる。とくに分担箇所の記事作成は分担者の責任として準備してもらう。
------	---

履修上の留意点	<p>論文読解の鍵は専門用語の理解度にある。授業では、使用頻度の高いテクニカル・タームの定訳を和英2か国語で早めにマスターできるように、なるべく公平にあらかじめ分担を決めて訳語・訳文を報告して貰い、成果を全員で共有しながら進めるので、欠席しないことが肝要。また、いうまでもないが、英和辞典を忘れないこと。 関連科目として私が担当する「公益企業論」や「社会科学論」の並行履修も勧める。</p>
---------	---

成績評価の方法	出席点(20%)・分担報告点(20%)・確認テスト(10%)・復習テスト(50%)で総合評価する。
---------	---

教科書/テキスト	適宜プリント教材を配布する。
----------	----------------

参考書	
-----	--

履修コード	144101
科目名	外書講読（英書I）
担当者名	桑原 正行

授業概要/ 到達目標（ねらい）	簿記・会計や経営（ビジネス）に関する文献やテキストを読むことによって、これらに関する基礎的な知識を習得することを目的とする。
--------------------	--

授業スケジュール	テキストに従い、あらかじめ各学生に翻訳する箇所を割り当て、授業の時にその翻訳を示してもらう。
----------	--

準備学習	一般辞書だけでなく専門的な用語辞典も必要となる。詳細は、授業の時に説明する。
------	--

履修上の留意点	十分な予習・復習を要する。
---------	---------------

成績評価の方法	出席と翻訳による平常点評価。
---------	----------------

教科書/テキスト	最初の授業の時に、複数の会計あるいは経営に関するテキストを示し、その中から学生と相談の上決定する。なお、文献についてはコピーを配布する。
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	144121
科目名	外書講読（英書I）
担当者名	辰馬 信男
授業概要/ 到達目標（ねらい）	本講義の狙いは、英語で書かれている原書を丹念に読むことによって、原著者の意図するところを直接かつ正確に理解することにあります。そして、そうした作業（努力）を繰り返すことによって、英語の読解力を高める点にあります。
授業スケジュール	前期においては、下記の「The Department Store :A Social History」を読むことにします。本書は、19世紀のイギリス社会のなかで百貨店がどのように生成し、定着していったのかを明らかにしているばかりでなく、百貨店が社会のさまざまな分野にどのような影響をおよぼしたのかも明らかにしているところに特徴があります。このことは小売業の革新性を考える上で、また小売業と社会との関連性を考える上でも、大変に興味深い事例を提供しているといえます。後期については受講生と相談して、改めてテキストを決めたいと考えています。
準備学習	内容に関する準備学習は必要ありませんが、科目の性格上、予習を必ず行うことが大切です。
履修上の留意点	特にありません。
成績評価の方法	授業のなかでの発表や質問など、この科目にたいする姿勢を総合的に判断して評価します。
教科書／テキスト	Bill Lancaster, The Department Store :A Social History, Leicester University Press, 1995 のいくつかの章をコピーして使います。
参考書	必要に応じて適宜紹介します。

履修コード	144111
科目名	外書講読（英書Ⅰ）
担当者名	中野 香織

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>本講義は、英語でマーケティング・コミュニケーションに関する文献を読み、海外でのマーケティング・コミュニケーションの考え方や実態を理解することを目的とする。マーケティング・コミュニケーションとは、企業が自社の製品やサービスについて、消費者に認知させ、購買を促進するために情報を発信することである。そのため、本講義は英語科目ではなく、マーケティング・コミュニケーション論の応用科目として位置づけられる。</p> <p>本講義の到達目標は、海外のマーケティング・コミュニケーション関連文献を読むための基礎力を身につけることにある。具体的には、①英語のマーケティング・コミュニケーションの専門用語の習得、②英文を読む上での背景となるマーケティング・コミュニケーション知識の習得、を目標とする。</p> <p>講義では、全員の予習が必要となる。指定された箇所の和訳を、毎回、提出することが求められる。扱う文献は、英語のマーケティング・コミュニケーション論や広告論のテキスト、ビジネス書、新聞や雑誌の記事などである。適宜、授業内ワークやレポート課題を行う。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンス 2) 英文テキストの輪読① 3) 英文テキストの輪読② 4) 英文テキストの輪読③ 5) 英文テキストの輪読④ 6) 英文テキストの輪読⑤ 7) 用語等の解説（講義形式） 8) 授業内ワーク 9) 英文テキストの輪読⑥ 10) 英文テキストの輪読⑦ 11) 英文テキストの輪読⑧ 12) 英文テキストの輪読⑨ 13) 英文テキストの輪読⑩ 14) 用語等の解説（講義形式） 15) 前期のまとめ <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 16) 英文記事（新聞）の輪読① 17) 英文記事（新聞）の輪読② 18) 英文記事（新聞）の輪読③ 19) 英文記事（新聞）の輪読④ 20) 英文記事（新聞）の輪読⑤ 21) 用語等の解説（講義形式） 22) 授業内ワーク 23) 英文記事（雑誌）の輪読① 24) 英文記事（雑誌）の輪読② 25) 英文記事（雑誌）の輪読③ 26) 英文記事（雑誌）の輪読④ 27) 英文記事（雑誌）の輪読⑤ 28) 英文記事（雑誌）の輪読⑥ 29) 用語等の解説（講義形式） 30) まとめ
----------	--

準備学習	マーケティング・コミュニケーションに関する重要な用語や必要な知識は講義形式をとって説明するが、マーケティング論、マーケティング・コミュニケーション論等を履修していることが望ましい。
------	--

履修上の留意点	<p>本講義では全員の予習が必要となる。指定された箇所の和訳を、毎回、提出することが求められる。講義には電子辞書を持参すること。</p> <p>また、授業スケジュールは、必要に応じて変更されることもある。</p>
---------	--

成績評価の方法	平常点60%（参加状況やワークなど）、試験とレポート40%で評価する。
---------	-------------------------------------

教科書／テキスト	授業でレジュメを配布する。
----------	---------------

参考書	開講時に指示する。
-----	-----------

履修コード	144211
科目名	外書講読 (英書II)
担当者名	高田 光明
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業では、英文で書かれた専門書の内容を正確に理解できるようになることを目的とする。そのためには、日本語と異なる英語の構文を正しく捉える必要がある。また英文を構成する単語について、前後の文脈に合った確かな意味を知ることが大切である。構文を正確に捉えないまま、前後の文脈に配慮することなく、単語を日本語に機械的に置き換えて事足りりとする学習態度では、英語の専門書を読んでいることにはならない。 日本語の専門書を読む場合と同じく、書かれた内容を理解できてはじめて読めたといえる。この授業では、そのような水準の英文読解力達成を目指す。
授業スケジュール	(1) 外書講読という授業のオリエンテーション (2~30) 下記の文献の輪読
準備学習	授業態度として一番まずいのは、予習をせずに授業に出席し、その場しのぎで授業時間を過ごすことである。そのような姿勢で授業を受けていると、英文の専門書を読解する能力に進歩がないまま1年が過ぎてしまう。授業で進む範囲を前もって予習せずに、ただ出席するだけでは、この授業を受ける意味がないといえる。
履修上の留意点	英語の専門書の内容を理解し、本来の意味で読めるようになるためには、「講義のねらい」で述べたようにして、まず自分自身で英文を理解しようと努める必要がある。外書講読のような科目では、予習を行って、教材のどこが分かり、どのところが分からないかを自分なりに前もって確認しておくことが不可欠である。そして、授業中には、予習で分からなかった点を理解できるように努め、予習では分かったと判断した箇所も、本当に理解できていたかを確認しながら学んで頂きたい。こうした地道な学習のし方を続けることが肝心である。
成績評価の方法	中間試験と定期試験による評価を原則とし、適宜提出を求める課題レポートの平常点を加味する。
教科書/テキスト	企業財務の専門書 (大学の教科書レベル) としてアメリカ合衆国で定評のある次の書物を使用する。 Van Horn, James c. and John M. Wachowicz, Jr., Fundamentals of Financial Management (Prentice Hall International).
参考書	

履修コード	144601
科目名	外書講読（スペイン書）
担当者名	上野 勝広

授業概要/ 到達目標（ねらい）	スペイン語圏および日本の社会と文化に関する比較的平易なテキストを読みます。 一般的なレベルのスペイン書を辞書を活用しながら独力で読みこなすことができるよう、1年次、2年次で学んだスペイン語の基礎の上に、読解力を養う訓練をします。
授業スケジュール	テキスト講読に必要な文法事項を動詞の活用と用法を軸に以下の予定で確認します。また毎回授業の冒頭で語彙力増強のための練習問題を10分程度課します。

前期

1. オリエンテーション、既習事項の理解チェック
2. ser, estarの用法、テキスト講読（1）
3. 直説法現在の用法、テキスト講読（2）
4. gustar型の動詞、テキスト講読（3）
5. 直説法現在の不規則活用、テキスト講読（4）
6. 数詞、テキスト講読（5）
7. 前置詞、テキスト講読（6）
8. 再帰動詞の諸用法、テキスト講読（7）
9. 命令法、テキスト講読（8）
10. 不定詞・現在分詞・過去分詞、テキスト講読（9）
11. 直説法点過去、テキスト講読（10）
12. 直説法線過去、テキスト講読（11）
13. 直説法未来、テキスト講読（12）
14. 直説法過去未来、テキスト講読（13）
15. 前回までの要点の整理・理解度の確認

後期

16. 比較級・最上級、テキスト講読（14）
17. 関係詞、テキスト講読（15）
18. 直説法現在完了、テキスト講読（16）
19. 受動文、直説法過去完了、テキスト講読（17）
20. 直説法未来完了、テキスト講読（18）
21. 直説法過去未来完了、テキスト講読（19）
22. 接続法現在（1）、テキスト講読（20）
23. 接続法現在（2）、テキスト講読（21）
24. 接続法過去（1）、テキスト講読（22）
25. 接続法過去（2）、テキスト講読（23）
26. 接続法現在完了、テキスト講読（24）
27. 接続法過去完了、テキスト講読（25）
28. 条件文、テキスト講読（26）
29. 直説法と接続法の選択、テキスト講読（27）
30. 前回までの要点の整理・理解度の確認

準備学習	既習の基礎文法をしっかりと復習しておきましょう。 よく分からなかったところを明確にして、授業を通して解決できるように臨んでください。
履修上の留意点	現代のスペイン語文に親しんでもらうため、できるだけ多量のテキストを読んでもらいます。 個々の受講者の興味、関心、専攻と結びつけてテキストに関してのコメントを求めます。
成績評価の方法	毎回の授業参加と、課題の達成度チェックによります。試験やレポートはありません。平常点で評価します。
教科書／テキスト	プリント使用。
参考書	

履修コード	144501
科目名	外書講読（中国書）
担当者名	佐藤 普美子

授業概要/ 到達目標（ねらい）	近年の中国社会の世相を反映する「流行語」や「文化キーワード」（文化キーワード）に関する解説文（主として、新聞・雑誌記事）を読み、生活に根づく伝統と急速な変化の両面から同時代中国への理解を深める。
--------------------	---

授業スケジュール	第1回：導論。第2～5回：映画・ドラマに関するトピック（以下同様）。第6～9回：学校教育。第10～13回：文学・芸術。第14～17回：伝統と現代生活。第18～21回：社会問題・環境問題。第22～25回：旅行・健康・美容。第26～29回：思考様式。第30回：総まとめ。学習内容の確認。
----------	---

準備学習	予習は不可欠です。
------	-----------

履修上の留意点	原文を読むので、初級レベルの中国語の学習歴が必要になります。
---------	--------------------------------

成績評価の方法	出席及び予習の有無等の平常点（50%）、課題（30%）、学期末試験（20%）とします。
---------	---

教科書／テキスト	開講時に教材プリントを配布します。
----------	-------------------

参考書	辞書は必携です。購入に際しては下記URLを参考にしてください。 http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/gakujocho/zhोजिशु
-----	--

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/gaikoku2/
-------	---

履修コード	144301
科目名	外書講読（独書）
担当者名	武田 利勝

授業概要/ 到達目標（ねらい）	中級程度以上の文法知識を確認、かつ駆使しながら、さまざまなジャンルにわたるドイツ語長文の読解に挑戦する。
--------------------	--

授業スケジュール	1) オリエンテーション 2～5) ドイツの文化 6～9) ドイツの歴史 10～15) 現代ドイツの諸問題。環境、雇用、社会保障 16～20) エッセイ・評論を読む 21～25) 小説を読む 26～30) ニュースを読む
----------	--

準備学習	毎回、次の時間に読むプリントを配布します。必ず予習しておくこと。
------	----------------------------------

履修上の留意点	上記準備学習は必須です。予習をしていない場合は欠席と見なすので、その点を留意して下さい。
---------	--

成績評価の方法	毎回の授業に対する積極的な参加度を平常点とし、前後期末に二回行われる期末試験のスコアとあわせて評価します。比率は前者を5割、後者を5割とします。
---------	--

教科書／テキスト	授業では配布プリントを用います。 教科書として、次の参考書を指定しておきます。 中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、1680円、ISBN:978-4-560-00492-0）
----------	--

参考書	各自、独和辞典を必携のこと。
-----	----------------

履修コード	144401
科目名	外書講読（仏書）
担当者名	東 辰之介

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） フランス語の基礎を習得した学生を対象として、フランス語で書かれた経営学の入門書を講読する。受講者は、あらかじめ割り当てられたフランス語原文を声に出して読み、日本語に訳すことを求められる。履修者が少なければ、参加者の関心に合わせてテキストを変更することも可能。</p> <p>（到達目標） 経営学の専門用語をフランス語でどう表現するのかを知り、経営学の専門書を読みこなす力を可能な限り伸ばすことを目標とする。そのためには、初級文法の知識をくり返し確認すると同時に、中・上級文法の知識を拡充する必要がある。また、辞書の項目から適切な訳語を選ぶ力や、これまで日本語や英語で培ってきた経営学に関する知識を総動員することも必要だろう。しっかりとした予習が必須となるが、フランス語の新しい側面を発見することができるはずである。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講上の諸注意、前文の読解 2. Les fonctions dans l'entreprise : leurs missions et outils respectifs 3. Le rôle de la direction générale (1) 4. Le rôle de la direction générale (2) 5. La gestion de la chaîne de valeur (1) 6. La gestion de la chaîne de valeur (2) 7. La gestion de la chaîne de valeur (3) 8. La formulation de la stratégie de développement (1) 9. La formulation de la stratégie de développement (2) 10. La formulation de la stratégie de développement (3) 11. Le déploiement de la stratégie (1) 12. Le déploiement de la stratégie (2) 13. La logistique (1) 14. La logistique (2) 15. 前期学習内容の理解度の確認 16. La production (1) 17. La production (2) 18. La production (3) 19. Le marketing (1) 20. Le marketing (2) 21. Le marketing (3) 22. Le marketing (4) 23. Le marketing (5) 24. Les services financiers (1) 25. Les services financiers (2) 26. Les services financiers (3) 27. La gestion des ressources humaines (1) 28. La gestion des ressources humaines (2) 29. La gestion des ressources humaines (3) 30. 後期学習内容の理解度の確認
----------	---

準備学習	最低でも、あらかじめ割り当てられたフランス語原文を声に出して読めるようにし、その日本語訳文を完成させておく必要がある。余力があれば、割り当てられていない部分についても下調べをしておくこと。予習で最も使うのは、初級文法の授業で使った教科書と仏和辞典になると思われるが、それだけで分からなければ、関連する日本語の文献を読み、インターネットを利用して原文中の専門用語の意味を調べる必要も出てくるだろう。
------	--

履修上の留意点	単位修得には、補講を除く正規授業数の3分の2以上の出席が必要です。やむを得ない事情で欠席する場合は、その都度届け出てください。軽微な遅刻は3回で欠席1回とカウントしますが、30分以上の遅刻は1回で欠席とみなします。外国語学習を成功させるためには、何より学習時間をしっかりと確保することが重要です。なるべく遅刻・欠席はしないようにしてください。
---------	---

成績評価の方法	準備学習の完成度（50%）、前期末授業内試験（25%）、後期末授業内試験（25%）を基本に、出席状況・授業態度等を勘案し、総合的に評価します。
---------	---

教科書／テキスト	プリント配布
参考書	仏和辞典が必要です。
その他	YeStudyを活用します。

履修コード	144701
科目名	外書講読（ロシア書）
担当者名	廣田 英靖

授業概要/ 到達目標（ねらい）	ビデオ、DVDを見て最低限のロシア事情についての知識を得るとともに、基本的なロシア語学習をしてもらいます。
--------------------	---

授業スケジュール	4-9月 ロシアを紹介したビデオ、DVDをみる。真似てみたい表現をパソコンでうってみる。 10月-12月 インターネットでリアルタイムのニュースをみて、カッコいい殺し文句を覚えてみよう。
----------	--

準備学習	基礎文法を復習のこと。
履修上の留意点	パソコンルームでパソコンを動かすので、できるだけ早くパソコン操作になれて貰いたい。
成績評価の方法	定期試験はおこなわないが、毎回小テストをする。
教科書/テキスト	教室でプリント配布
参考書	

履修コード	136631
科目名	確率・統計入門A
担当者名	小沢 利久

授業概要/ 到達目標（ねらい）	（授業概要） データには必ず誤差が含まれており、データの利用にあたっては誤差を考慮した分析が必要となります。確率・統計入門では、そのような分析のための基礎理論である統計的推定と検定の理解を最終的な目標としています。そのために、この確率・統計入門Aでは確率論の基礎とデータ処理について学び、後期に配当された確率・統計入門Bで統計的推定と検定を学びます。ただし、この確率・統計入門Aで学ぶ内容は、単に統計的推定と検定を学ぶためのものではなく、経営・経済分野における確率を用いた様々な問題解決手法を学ぶ上での基礎となるものです。 （到達目標）
--------------------	--

到達目標	確率論における基本的な概念（確率変数、分布、期待値、平均・分散など）と基本的な分布（2項分布や正規分布など）を理解した上で、それら分布についての確率計算や平均・分散の計算ができることを到達目標とします。また、データ処理における基本的な計算（平均や分散、相関係数などの計算）ができることも到達目標とします。ただし、利用する数学は微積分の計算を含まない範囲とします。
------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 誤差を考慮した分析の必要性について、事象と確率 2. 加法定理、独立と従属、条件付き確率、乗法定理 3. ベイズの定理 4. 確率変数、分布の表現、分布の例 5. 確率変数の独立性、期待値とその公式 6. 平均と分散、分散の公式 7. いろいろな分布(1)：ポアソン分布、指数分布、一様分布 8. いろいろな分布(2)：ベルヌーイ分布、2項分布、幾何分布 9. 正規分布：定義、特徴と性質、標準化、標準正規分布 10. 正規分布の確率計算 11. 多変量確率変数(1)：同時分布、独立性、共分散と相関係数 12. 多変量確率変数(2)：確率変数の和の平均と分散 13. データ処理：度数分布、平均と分散、散布図、共分散と相関係数 14. 母集団と標本抽出 15. 全体のまとめ
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・高校数学の数I（「方程式と不等式」、「二次関数」の部分）、数A（「場合の数と確率」の部分）を復習しておいてください。 ・最初の授業で予定表と各回の授業のために読んでおくべき教科書の範囲を示しますので、それに従って予習をしてください。ただし、予習では、数式を無理して理解しようとせず、言葉の意味や方法論に注目しながら教科書の指定された範囲を通読する程度で構いません。 ・授業内容の理解と計算練習のために宿題を出します。
------	---

履修上の留意点	後期継続して確率・統計入門Bを受講して下さい。数学的な理解を助けるために経営数学Aを同時に履修することを勧めます。
---------	---

成績評価の方法	定期試験の結果を主とし（基本的に100%）、それに提出された宿題の点を加味して評価します。
---------	---

教科書/テキスト	稲垣宣生・吉田光雄・山根芳知・地道正行、『統計学講義』、裳華房、本体2,100円、ISBN978-4-7853-1545-0
----------	--

参考書	必要に応じて示します。
-----	-------------

その他	特にありません。
-----	----------

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/
-------	---

履修コード	136641
科目名	確率・統計入門B
担当者名	小沢 利久

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>データには必ず誤差が含まれており、データの利用にあたっては誤差を考慮した分析が必要となります。この確率・統計入門Bでは、確率・統計入門Aで学んだことを前提に、そのような誤差を考慮した分析のための基礎理論である統計的推定と検定について学びます。</p> <p>(到達目標)</p> <p>統計的推定については、区間推定の考え方を理解し、基本的な母数（母平均、母分散など）の信頼区間が計算できることを到達目標とします。統計的検定については、検定の考え方を理解し、基本的な母数について検定のための計算と結論の導出ができることを到達目標とします。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 推定・検定について、標本抽出の復習 2. 標本平均と標本分散、平均と分散の復習 3. 大数の法則、正規分布の復習 4. 中心極限定理、2項分布の正規分布近似、2項分布の復習 5. 統計的推定の枠組み、推定量とその性質 6. 母平均の区間推定（母分散が既知の場合） 7. 母平均の区間推定（母分散が未知の場合）、カイ2乗分布とティー分布 8. 母分散と母比率の区間推定 9. 統計的検定の考え方 10. 母平均の検定（母分散が既知・未知の場合） 11. 母分散と母比率の検定 12. 2標本問題、母平均の差の区間推定と検定 13. 分散比の区間推定と検定、エフ分布 14. 比率の差の区間推定と検定 15. 全体のまとめ
----------	--

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・確率・統計入門Aの内容を前提としますので、確率論の基本概念（確率変数、分布、期待値、平均・分散）と2項分布、正規分布について復習しておいてください。 ・最初の授業で予定表と各回の授業のために読んでおくべき教科書の範囲を示しますので、それに従って予習をしてください。ただし、予習では、数式を無理して理解しようせず、言葉の意味や方法論に注目しながら教科書の指定された範囲を通読する程度で構いません。 ・授業内容の理解と計算練習のために宿題を出します。
------	--

履修上の留意点	数学的な理解を助けるために経営数学Bを同時に履修することを勧めます。
---------	------------------------------------

成績評価の方法	定期試験の結果を主とし（基本的に100%）、それに提出された宿題の点を加味して評価します。
---------	---

教科書／テキスト	稲垣宣生・吉田光雄・山根芳知・地道正行、『統計学講義』、裳華房、本体2,100円、ISBN978-4-7853-1545-0
----------	--

参考書	必要に応じて示します。
-----	-------------

その他	特にありません。
-----	----------

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/
-------	---

履修コード	143501
科目名	環境経営論
担当者名	川村 雅彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>①地球環境問題の全体像と企業の経営戦略としての環境問題への取組みを講義する。 ②地球環境問題と企業経営の関係について、「自分の考え方」を確立する。 ③持続可能性の概念に基づき、「知識」よりも「考え方」を問う。</p>
授業スケジュール	<p>(前期：理論編) ①②環境経営の基本的な考え方、③④日本における環境経営の変遷、⑤⑥環境経営の手段と目的、⑦⑧市場のグリーン化と環境ビジネス、⑨⑩企業経営の環境リスクとリスク対応力、⑪⑫環境経営の評価指標 (環境会計、環境効率)、⑬⑭環境経営のパウンダリー問題、⑮前期の総括 (後期：実践編) ①②企業の環境問題への取組 (全体像)、③④⑤⑥環境問題への取組の実際 (業種別)、⑦⑧環境マネジメントシステム、⑨⑩京都議定書と温室効果ガスの排出量取引、⑪⑫環境経営格付と環境コミュニケーション、⑬⑭環境文明論、CSR (企業の社会的責任)、⑮後期の総括</p>

準備学習	①日頃から、新聞、テレビ、インターネットなどで地球温暖化 (気候変動) や生物多様性 (生態系の保全) などの地球環境問題を意識的に見る。②関心のある企業の「環境報告書」 (最近ではCSR報告書としての発行が多い) を見る (ホームページで閲覧可能)。前期に課題レポートとする。
履修上の留意点	毎回レジュメを配布するが、講師の多様な経験も交えて話をするので、出席を重視し、規定回数以上の出席を原則とする (出席は毎回とるが、事情がある場合には事前相談に応ずる)。
成績評価の方法	①出席 (50点) + 試験 (50点) = 満点100点 (合格は60点以上)。 ②前期・後期各2/3以上の出席を合格条件とする (公欠届などは認める)。 ③前期と後期の期末試験の受験を合格条件とする (資料持ち込み可)。
教科書/テキスト	教科書は特に指定しない (毎回レジュメ配布)。
参考書	参考書は授業で随時推薦する。
その他	特になし。

履修コード	140101
科目名	管理会計論
担当者名	猿山 義広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義の目的は、会計の検定試験や資格試験に出題される形式の計算問題を解きながら、管理会計の考え方や技法を理解してもらうことにある。管理会計は財務会計と並ぶ会計学の柱であり、会計学系列の演習を受講する学生はできるだけ履修してほしい。また、管理会計は経営学とも深く関わっているため、経営学系の演習を受講する学生も積極的に履修してほしい。
授業スケジュール	第1回 管理会計の基本概念、第2回 管理会計と原価計算1 —— 原価の意義と分類、第3回 管理会計と原価計算2 —— 原価計算の手法、第4回 管理会計と原価計算3 —— 直接原価計算、第5回 第1回小テスト、第6回 短期利益計画におけるCVP分析1 —— 損益分岐点分析、第7回 短期利益計画におけるCVP分析2 —— 目標利益の達成計画、第8回 短期利益計画におけるCVP分析3 —— プロモーション効果、第9回 第2回小テスト、第10回 原価予測、第11回 最適セールス・ミックスの決定、第12回 経済的発注量 (EOQ) の決定、第13回 第3回小テスト、第14回 標準原価計算による原価管理1 —— 原価統制の基礎、第15回 標準原価計算による原価管理2 —— 製造間接費の原価差異分析、第16回 標準原価計算による原価管理3 —— 標準直接原価計算、第17回 予算実績差異分析、第18回 第4回小テスト、第19回 活動基準原価計算 (ABC)、第20回 原価企画、第21回 バランス・スコアカード (BSC)、第22回 事業部制の管理会計、第23回 第5回小テスト、第24回 意思決定会計1 —— 業務的意思決定、第25回 意思決定会計2 —— 不確実性下の意思決定、第26回 意思決定会計3 —— 設備投資の意思決定、第27回 第6回小テスト、第28回 マーケティング会計1 —— 営業費管理会計、第29回 マーケティング会計2 —— ブランド管理会計、第30回 まとめ
準備学習	「簿記学」や「会計学」で勉強した損益計算書の構成を理解しておくこと。
履修上の留意点	講義の重点は計算問題の解法に置かれるので、かならず電卓を持参すること。周知のように、管理会計における計算問題の多くは、日商簿記1級原価計算や公認会計士試験原価計算の特殊原価調査の分野で出題されるような問題と重なっているため、学習効果を高めるためにも、できるだけ「原価計算論」と併せて履修してほしい。
成績評価の方法	年間6回行う授業中の小テストを20%、本試験を80%のウエイトで評価を行う。本試験は電卓以外の参照は一切不可なので、注意してほしい。
教科書/テキスト	とくに指定する教科書はないが、計算問題については日商簿記2級工業簿記や日商簿記1級原価計算の過去問題を参考にしてほしい。また、例題や解法のポイントについてのプリントを毎回配布するので、それを保存するようにしてほしい。
参考書	管理会計の最新理論については次の本に詳しく述べられている。 櫻井通晴『管理会計〔第四版〕』同文館出版。
その他	少しでも疑問な点があれば、授業中でも授業終了後でもかまわないので、積極的に質問すること。プリントは大切に保存してほしいが、もし紛失してしまったときは YesStudy からダウンロードすること。実施された小テストの問題と解答についても、各自 YesStudy からダウンロードすること。

履修コード	331201
科目名	管理会計論
担当者名	猿山 義広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義の目的は、会計の検定試験や資格試験に出題される形式の計算問題を解きながら、管理会計の考え方や技法を理解してもらうことにある。管理会計は財務会計と並ぶ会計学の柱であり、会計学系列の演習を受講する学生はできるだけ履修してほしい。また、管理会計は経営学とも深く関わっているため、経営学系の演習を受講する学生も積極的に履修してほしい。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 管理会計の基本概念、第2回 管理会計と原価計算1 ― 原価の意義と分類、第3回 管理会計と原価計算2 ― 原価計算の手続、第4回 管理会計と原価計算3 ― 直接原価計算、第5回 第1回小テスト、第6回 短期利益計画におけるCVP分析1 ― 損益分岐点分析、第7回 短期利益計画におけるCVP分析2 ― 目標利益の達成計画、第8回 短期利益計画におけるCVP分析3 ― プロモーション効果、第9回 第2回小テスト、第10回 原価予測、第11回 最適セールス・ミックスの決定、第12回 経済的発注量 (EOQ) の決定、第13回 第3回小テスト、第14回 標準原価計算による原価管理1 ― 原価統制の基礎、第15回 標準原価計算による原価管理2 ― 製造間接費の原価差異分析、第16回 標準原価計算による原価管理3 ― 標準直接原価計算、第17回 予算実績差異分析、第18回 第4回小テスト、第19回 活動基準原価計算 (ABC)、第20回 原価企画、第21回 バランス・スコアカード (BSC)、第22回 事業部制の管理会計、第23回 第5回小テスト、第24回 意思決定会計1 ― 業務的意思決定、第25回 意思決定会計2 ― 不確実性下の意思決定、第26回 意思決定会計3 ― 設備投資の意思決定、第27回 第6回小テスト、第28回 マーケティング会計1 ― 営業費管理会計、第29回 マーケティング会計2 ― ブランド管理会計、第30回 まとめ
----------	---

準備学習	「簿記学」や「会計学」で勉強した損益計算書の構成を理解しておくこと。
------	------------------------------------

履修上の留意点	講義の重点は計算問題の解法に置かれるので、かならず電卓を持参すること。周知のように、管理会計における計算問題の多くは、日商簿記1級原価計算や公認会計士試験原価計算の特殊原価調査の分野で出題されるような問題と重なっているため、学習効果を高めるためにも、できるだけ「原価計算論」と併せて履修してほしい。
---------	---

成績評価の方法	年間で6回行う授業中の小テストを20%、本試験を80%のウエイトで評価を行う。本試験は電卓以外の参照は一切不可なので、注意してほしい。
---------	---

教科書/テキスト	とくに指定する教科書はないが、計算問題については日商簿記2級工業簿記や日商簿記1級原価計算の過去問題を参考にしてほしい。また、例題や解法のポイントについてのプリントを毎回配布するので、それを保存するようにしてほしい。
----------	--

参考書	管理会計の最新理論については次の本に詳しく述べられている。 櫻井通晴『管理会計〔第四版〕』同文館出版。
-----	--

その他	少しでも疑問な点があれば、授業中でも授業終了後でもかまわないので、積極的に質問すること。プリントは大切に保存してほしいが、もし紛失してしまったときは YeStudy からダウンロードすること。実施された小テストの問題と解答についても、各自 YeStudy からダウンロードすること。
-----	---

履修コード	141501
科目名	銀行経営論
担当者名	服部 昌久

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	金融制度は一国の歴史的発展の産物であり、その国の繁栄を築くための社会的インフラである。社会が今日のように大きな変革期にあるときには、長期的な展望に立って変化を先取りして新たな制度を構築しなければならない。経営環境が大きく変化した中で、銀行は新たな道を求めて模索しているが、本講義においては、戦後のわが国の金融システムの変遷を振り返るとともに、欧米主要銀行の動きにも注目しながら、利用者のニーズに応える銀行のあるべき姿を探りつつ、時事問題も含め、銀行経営にかかわる諸問題を、わかりやすく解説する。
---------------------	---

授業スケジュール	講義はおおよそ次のような内容を予定している。 (1) オリエンテーション「銀行経営論をはじめににあたって」(2) 日本経済をめぐる環境 (3) 戦後経済の変遷(4) わが国の金融制度の沿革と特徴(5) 銀行とは何か(6~8) 銀行の基本的機能-金融仲介機能、決済機能、信用創造機能(9~11) 銀行の業務範囲、銀行の貸出業務、銀行の預金業務(12) 銀行持株会社制度(13~14) わが国の銀行の収益状況、米銀の収益状況(15) 中間整理(16~17) 金利と利鞘、マネーサプライの変化と銀行(18~19) 銀行の国際業務、為替相場と銀行(20) 銀行のマネーローディング対策(21~24) バブル経済の発生・崩壊と銀行の責任、不良債権問題と銀行破綻、銀行の再編、預金保険制度(25~27) 銀行経営とリスク管理-リスクとは何か、リスクとリターン、自己資本比率規制(28) リレーシオンシップバンキングの本質(29) 新しい銀行像(30) 期末試験
----------	--

準備学習	格別の事前準備は必要ないが、日頃から新聞・雑誌に目を通すなどして、金融・経済問題に広く関心を持っておくことが望ましい。
------	---

履修上の留意点	講義は基本的な事柄を取り上げ、わかりやすく解説するよう心がけるが、それでも不明な点があれば、質問を歓迎する。
---------	--

成績評価の方法	学年末の定期試験(参照物の持込不可)(50%)、レポート(45%)、授業への出席(5%)を総合して評価する。 レポートの課題は開講時に指示する。
---------	---

教科書/テキスト	指定しない。
----------	--------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿野嘉昭『日本の金融制度(第2版)』(東洋経済新報社)3,800円 ISBN4-492-65379-1 ・星岳雄・A.カシャップ『日本金融システム進化論』(日本経済新聞社)2,800円 ISBN4-532-13317-3 ・小野有人『新時代の中小企業金融』(東洋経済新報社)2,200円 ISBN978-4-492-65400-2 ・白川方明『現代の金融政策』(日本経済新聞社)6,000円 ISBN978-4-532-13344-3 ・西村吉正『金融システム改革50年の軌跡』(金融財政事情研究会)7,000円 ISBN978-4-322-11752-3
-----	---

その他	なし
-----	----

関連リンク	http://www.fsa.go.jp/
-------	---

履修コード	136401 136402
科目名	産業組織論 近代経済学
担当者名	滝田 公一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	産業組織論の入門的講義を行います。産業組織論は、企業や産業についての経済学的分析を取り扱います。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 産業組織論とは?、第2~3回 企業の理論、第4回 産業の分類と集中度、第5~6回 完全競争と厚生経済学、第7回 独占、第8回 支配企業の理論、第9回 価格差別、第10~11回 ゲームの理論I、第12~14回 寡占理論、第15~16回 ゲームの理論II、第17回 寡占の動学理論、18回 企業の戦略的行動、第19回 参入障壁の理論、第20~21回 製品差別化、第22~23回 垂直的統合と垂直的制約、第24回 水平合併、第25回 研究開発投資、第26回 耐久消費財、第27回 産業規制の経済理論、第28回 自然独占、第29回 国際貿易と産業構造
----------	---

準備学習	予習は必要ありませんが、講義を受けた後、ノートの内容がよく理解できているか確認してください。
------	--

履修上の留意点	経済学概説の知識、特に、ミクロ経済学の知識があると役に立ちます。
---------	----------------------------------

成績評価の方法	学年度末の筆記試験で評価します。
---------	------------------

教科書/テキスト	特に、指定しません。
----------	------------

参考書	<p>Church and Ware, Industrial Organization, McGraw-Hill, 2000. Carlton and Perloff, Modern Industrial Organization, HarperCollins, 1994. Waldman and Jensen, Industrial Organization, Addison-Wesley 1998 ロジャー・クラーク『現代産業組織論』(多賀出版)1989年 新庄浩二ほか『産業組織論』(有斐閣ブックス)1995年</p>
-----	--

履修コード	330901
科目名	近代経済学
担当者名	滝田 公一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	産業組織論の入門的講義を行います。産業組織論は、企業や産業についての経済学的分析を取り扱います。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 産業組織論とは？, 第2～3回 企業の理論, 第4回 産業の分類と集中度, 第5～6回 完全競争と厚生経済学, 第7回 独占, 第8回 支配企業の理論, 第9回 価格差別, 第10～11回 ゲームの理論I, 第12～14回 寡占理論, 第15～16回 ゲームの理論II, 第17回 寡占の動学理論, 18回 企業の戦略的行動, 第19回 参入障壁の理論, 第20～21回 製品差別化, 第22～23回 垂直的統合と垂直的制約, 第24回 水平合併, 第25回 研究開発投資, 第26回 耐久消費財, 第27回 産業規制の経済理論, 第28回 自然独占, 第29回 国際貿易と産業構造
----------	---

準備学習	予習は、特に必要ではありませんが、講義後、ノートに書かれている内容がよく理解できているかどうか、確認してください。
------	---

履修上の留意点	経済学概説の知識、特に、ミクロ経済学の知識があると役に立ちます。
---------	----------------------------------

成績評価の方法	学年度末のレポート試験で評価します。
---------	--------------------

教科書/テキスト	特に、指定しません。
----------	------------

参考書	Church and Ware, Industrial Organization, McGraw-Hill, 2000. Carlton and Perloff, Modern Industrial Organization, HarperCollins, 1994. Waldman and Jensen, Industrial Organization, Addison-Wesley 1998 ロジャー・クラーク『現代産業組織論』(多賀出版)1989年 新庄浩二ほか『産業組織論』(有斐閣ブックス)1995年
-----	---

履修コード	140601
科目名	金融論
担当者名	玉木 伸介

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、金融に関心のある学生あるいは将来金融界での勤務を希望する学生を念頭に置いて います。
---------------------	--

本講義の狙いは、金融の基本的な機能と市場経済における役割を理解し、最終的にはここ数年の金融危機の背景に関する理解を深めること、にあります。より具体的には、2008年のリーマンショックに至るバブルの膨張の基本的な仕組みやその崩壊、更には世界経済への影響を説明することにより、今の日本経済が置かれた位置を、グローバルな金融という観点から見ていきます。

また、金融はグローバルなもので、なるべく内外の現実の動きをフォローするようにします。その際には、若干の英語の資料を使います。金融に関する英語に多少なりとも慣れることも、この講義の狙いの一つです。

授業スケジュール	授業は、以下のスケジュールで行います。途中、理解の定着のため、小テスト行うほか、説明を反復することがあります。
----------	---

前期

- 第1回：年間の授業の概要説明、金融の基本的な機能
- 第2回：家計の貯蓄と資金余剰
- 第3回：個人のバランスシートと金融資産選択
- 第4回：企業のバランスシートと企業財務
- 第5回：金融機関による決済サービス
- 第6回：我が国の金融機関と資金循環
- 第7回：金融・資本市場の役割（1）（株式市場、債券市場）
- 第8回：金融・資本市場の役割（2）（短期金融市場、外国為替市場）
- 第9回：金融システムの健全性を守ることの重要性
- 第10回：金融システムの健全性を守るための仕組み（ブルーデンス政策）
- 第11回：金融政策の目的と手段（1）
- 第12回：金融政策の目的と手段（2）
- 第13～15回：12回までのまとめと理解の確認

後期

- 第16回：前期の内容確認とバブル経済の概観
- 第17回：我が国における80年代のバブル経済
- 第18回：我が国におけるバブルの崩壊と不良債権の発生
- 第19回：我が国における不良債権問題への対処
- 第20回：セキュリティタイゼーションの仕組み
- 第21回：住宅金融とセキュリティタイゼーション
- 第22回：米国におけるバブルの膨張とサブプライム危機（1）
- 第23回：米国におけるバブルの膨張とサブプライム危機（2）
- 第24回：リーマンショック
- 第25回：リーマンショックに対する各国の対応
- 第26回：16～25回のまとめと理解の確認
- 第27回：金融危機と実体経済の関係
- 第28回：アジア諸国の高度成長と金融システムの安定性
- 第29回：欧州危機の概観
- 第30回：まとめ

準備学習	マクロ経済学およびミクロ経済学になるべく親しんでおいてください（本講義においても必要な範囲の説明はします）。
------	--

履修上の留意点	前期の基礎知識の習得の間も、新聞等であるべく金融関係の記事を読むように心がけてください。
---------	--

成績評価の方法	筆記試験のほか、途中の課題への取組等を含めて評価します。
---------	------------------------------

教科書／テキスト	以下は、教科書というわけではありませんが、有用な参考文献です。
----------	---------------------------------

「現代の金融政策——理論と実際」（白川方明著）（日本経済新聞出版社）
「ポールソン回顧録」（H. ポールソン著、有賀裕子訳）（日本経済新聞出版社）
「愚者の黄金」（ジリアンテット著、土方奈美訳）（日本経済新聞出版社）

参考書	必要に応じ、公的機関の公表資料や、企業・金融機関の情報開示資料を用います。一部は英語ですが、あくまで金融に関する英語に多少なりとも慣れることを目的とするものです。
-----	---

履修コード	143271
科目名	グローバル・マーケティング論
担当者名	深澤 琢也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義の目的は、企業のマーケティング活動が国境を越えて展開される際の固有の問題について理解し、その解決策として期待される諸理論について学習することにある。とくに多国籍企業のマーケティング活動に焦点をあてる。
---------------------	---

授業スケジュール	以下は授業スケジュールである（進行状況に応じて変更あり）。
----------	-------------------------------

前期

- ①ガイダンス
- ②なぜグローバル・マーケティングは重要なのか
- ③グローバル・マーケティングの発展
- ④⑤グローバル文化環境と購買行動
- ⑥⑦グローバル・マーケティング・リサーチ
- ⑧中間演習
- ⑨⑩グローバル・セグメンテーションとポジショニング
- ⑪⑫グローバル・マーケティング戦略
- ⑬⑭グローバル市場参入戦略
- ⑮まとめ

後期

- ①ガイダンス
- ②前期の復習
- ③④グローバル調達戦略
- ⑤⑥グローバル製品戦略
- ⑦⑧グローバル・ブランディング戦略
- ⑨中間演習
- ⑩⑪グローバル価格設定
- ⑫⑬グローバル広告戦略
- ⑭グローバル・ロジスティクスと流通
- ⑮まとめ

準備学習	日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し問題意識を持つ。
------	----------------------------------

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻および講義中の私語は厳禁。 ・講義中に適宜資料を配布する。 ・国際経営論と併せて受講することを推奨する。
---------	---

成績評価の方法	学期末試験に加え、出席率および課題を基本に総合的に評価する。
---------	--------------------------------

教科書／テキスト	特に指定しない
----------	---------

参考書	小田部正明著『国際マーケティング』2010年刊（中央経済社）7,600円
-----	--------------------------------------

履修コード	136511
科目名	経営科学概論
担当者名	飯田 哲夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 高品質の製品やサービスを提供する効率的で生産性の高い企業経営を行うために、種々の管理技術が発達してきています。この講義では、経営科学および経営工学の管理技術の基礎的な理論と応用を概説します。OR (オペレーションズ・リサーチ)、IE (インダストリアル・エンジニアリング)、QC (品質管理) の管理技術の中から、主要なものを取り上げます。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、経営科学・経営工学の基礎的な理論と方法論を理解し、経営科学系専門科目や演習のための基礎的知識を習得することです。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 経営科学・経営工学の概略</p> <p>第3回 経営科学・経営工学の歴史</p> <p>第4回 問題発見と解決のプロセス</p> <p>第5回 利益計画(1)</p> <p>第6回 利益計画(2)</p> <p>第7回 生産管理と計画(1)</p> <p>第8回 生産管理と計画(2)</p> <p>第9回 生産管理と計画(3)</p> <p>第10回 在庫管理(1)</p> <p>第11回 在庫管理(2)</p> <p>第12回 在庫管理(3)</p> <p>第13回 経済性分析(1)</p> <p>第14回 経済性分析(2)</p> <p>第15回 前期のまとめ</p> <p>第16回 品質管理(1)</p> <p>第17回 品質管理(2)</p> <p>第18回 品質管理(3)</p> <p>第19回 需要予測(1)</p> <p>第20回 需要予測(2)</p> <p>第21回 需要予測(3)</p> <p>第22回 プロジェクト管理(1)</p> <p>第23回 プロジェクト管理(2)</p> <p>第24回 プロジェクト管理(3)</p> <p>第25回 プロジェクト管理(4)</p> <p>第26回 マーケティングモデル(1)</p> <p>第27回 マーケティングモデル(2)</p> <p>第28回 階層化意思決定法(1)</p> <p>第29回 階層化意思決定法(2)</p> <p>第30回 後期のまとめ</p>
----------	--

準備学習	<p>前回の授業内容を復習し、当日の授業についても、配布したプリント等を見て、予習しておくこと。授業内容に関連する新聞や雑誌の記事に適宜目を通しておくこと。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>経営数学と確率・統計入門を履修済みまたは同時に履修することが望ましい。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>レポート課題、そして、小テストと定期試験の成績で評価します。</p>
---------	---------------------------------------

教科書/テキスト	<p>適宜、プリントを配布します。</p>
----------	-----------------------

参考書	
-----	--

履修コード	136501
科目名	経営科学概論
担当者名	西村 和夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	生産活動には、本来の物作りの技術のほかに、高能率、高品質、低コスト、短納期を達成するための効率的な生産システムの設計・改善および維持管理の技術が必要である。わが国の産業界は、いち早くIE（経営工学）、OR（オペレーションズリサーチ）、QC（品質管理）をはじめとする経営管理技術を導入することによって生産、品質、コスト面で飛躍的發展を成しとげた。この講義ではIE、OR、QCを中心に、経営管理技術の基本的な理論と各種の手法を概説する。また、今後本学科において経営科学系の科目を受講する上での基礎を学んでいく。必修科目にはなっていないが、経営学科の学生は卒業するまでにぜひ履修してほしい科目である。
---------------------	---

授業スケジュール	全体を大きく三つの部分に分けて講義を行う。1ではこの講義で扱う学問領域（一般に経営工学と呼ばれている）を概観し、経営工学の歴史と現在の変化を説明する。2では経営工学が対象とする経営管理の諸分野を取りあげる。3では経営管理の中で用いられている技術的な各種手法について解説していく。ただし、2と3は相互に関連するものであり、必要に応じて順番を入れ替え、両者の関連が分かるように講義を進めていく。 実際の講義スケジュールについては、授業用Webページ [1] を参照のこと。
----------	---

- 経営工学の概略と歴史
 - * 経営科学・経営工学の定義
 - * 歴史（産業革命から簡単に）
 - * パラダイムシフト（儲け至上 → 品質の向上、環境保護、社会的責任、労働の質）
 - * 企業に対する社会的な要求（ISO 9000, ISO 14000, ISO 26000, PDCA）
- 経営工学が対象とする管理分野
 - * 経営計画：経営計画の策定、経営情報のシステム化
 - * 販売管理：マーケティング、販売計画
 - * 生産管理：日程計画、設備配置計画、ラインバランス
 - * 在庫管理：発注方式
 - * 品質管理：統計的品質管理、総合的品質管理
- 経営管理技術の各種手法
 - * 問題の発見と解決：ブレインストーミング、KJ法、デルファイ法
 - * 狭義のIE：動作研究と作業測定
 - * 経済性工学：損益分岐点、埋没費用、現在価値（DCF）による投資案比較法
 - * QC七つ道具：パレート図（ABC分析）、特性要因図など
 - * その他の道具：ガントチャート、PERT/CPM
 - * 最適化：線形計画法（定式化）、定量発注方式、最経済発注量、定期発注方式
 - * データ解析：時系列データの予測（指数平滑法、対移動平均比率法）、単回帰分析
 - * 統計学的推定：正規分布、管理図、抜き取り検査、検定
 - * 性能評価：ポアソン分布、待ち行列理論、シミュレーション、信頼性解析

準備学習	授業用 Web ページ [1] を読んでおいてほしい。
履修上の留意点	履修に際して予備的な知識は必要としない。 教科書は講義内容の一部の項目で用いるだけなので、毎回出席してノートをとること。各種手法についての理解を深めるために、適宜演習を行う。
成績評価の方法	試験（前期末、後期末）と、4回の授業中の演習課題の提出とによって、総合評価する。
教科書/テキスト	[1] 授業用 Web ページ：{ http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/mansci/ } [2] 必要に応じて、教材プリントを配布する。
参考書	[3] 秋庭雅夫他著『経営工学概論』（朝倉書店）¥3,800円。 [4] 佃純誠他著『新しい経営工学』（中央経済社）¥3,780円。 [5] YeStudy（{ http://yestudy.komazawa-u.ac.jp/ }）
その他	関連科目：経営統計、生産管理論、経営情報システム；（市）マネジメント・サイエンス（↓オンライン講義内容）
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/intro/syllabus-prec.html

履修コード	136001
科目名	経営学
担当者名	日野 健太

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 現代社会においてもものやサービスを提供する役割を担うのが企業である。この役割を担うためには、組織と戦略、内外への適合と創造を必要とする。この講義では、経営学の研究対象を明らかにし、その運営について、理解を深める。</p> <p>到達目標 経営学の研究対象について理解を深める。 経営学と会計学や経済学、経営科学との関係について理解を深める。 市場と企業、社会と企業について理解を深める。 企業組織内部の問題について理解を深める。 日本企業の経営と国際化について理解を深める。 日経新聞からtwitter、文部科学省から大学までメディアと権威にだまされないようになる。 訳の分からない内容を自分なりにひとりで説明できるようにする。そのための戦略と方法を身につける。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営学の研究対象 (1) 2. 経営学の研究対象 (2) 3. 経営学の研究対象 (3) 4. 企業と会社の制度的考察 (1) 5. 企業と会社の制度的考察 (2) 6. コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任 (1) 7. コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任 (2) 8. 経営理念、目的と戦略 (1) 9. 経営理念、目的と戦略 (2) 10. 全社戦略 (1) 11. 全社戦略 (2) 12. 競争戦略と事業システム (1) 13. 競争戦略と事業システム (2) 14. 競争戦略と事業システム (3) 15. まとめと理解度の確認 16. 組織構造 (1) 17. 組織構造 (2) 18. 組織文化 (1) 19. 組織文化 (2) 20. コンフリクトのマネジメント (1) 21. リーダーシップ (1) 22. リーダーシップ (2) 23. モチベーション (1) 24. モチベーション (2) 25. 日本的経営の特質と変容 (1) 26. 日本的経営の特質と変容 (2) 27. 日本的経営の特質と変容 (3) 28. 多国籍企業の経営 (1) 29. 多国籍企業の経営 (2) 30. まとめと理解度の確認
----------	--

準備学習	<p>企業も経営も身近な現象としてとらえて欲しい。1. 好きな企業や気になる組織を持つ。好きな球団や選手のないプロ野球ファンは考えられない。2. 身の回りの出来事を経営としてとらえてみる。サークルからアルバイト、家庭から男女関係まで全ての事象は経営だといえなくはない。『もしも高校野球の女子マネージャーがドラッカーのマネジメントを読んだら』という本が大ヒットを巻き起こしたのはご存じの通り。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>詳細なシラバスを第1回目に配布する。必ず入手し、事前学習や復習、欠席時の自習に役立てること。この『講義内容』と授業配布シラバスの記載が異なっている場合、後者が優先する。YeStudyを用いて小テストを行ったりコメントを求めることがある。 おおむねテキストに沿って授業を進めるので、教場に持参する必要はないが、手元に置いて適宜参照すること。教場に持参するものはむしろ想像力である。ノートや筆記用具を持ってこない学生はまずいないが、想像力を忘れる学生はたまにいますので注意すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>後期の授業一回目に行う前期の理解度確認テスト40% 定期試験50% 夏休みのレポート10% 以上の100点満点で60点以上が合格点である。高校とは違って勉強していなくても、悪い点を取っても何とかなる、ということはありません。準備して試験に臨むこと。必修科目の単位を取り損ねると、2年次以降の時間割の自由度は大幅に減少します。</p>
---------	---

教科書/テキスト	藤田誠『スタンダード経営学』中央経済社 2,800円 ISBN978-4-502-68220-9
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	139501
科目名	経営学史
担当者名	中川 淳平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) この講義では、100年あまりにわたる経営学の歴史上、重要なものと位置づけられる学説を、その問題意識に著目しつつ解説を行う。 (到達目標) コーポレートガバナンス・リストラクチャリング・イノベーション・コミュニケーション・セクショナリズムなど、現代企業経営の諸問題を解決するための技法を取得することを目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	(前期) 1. 講義ガイダンス 2. 経営学説の分類と歴史 3. コーポレート・ガバナンスとは何か (日米独の比較) 4. パーリミニアーズの経営者支配論 5. J. K. ガルブレイスのテクノストラクチャ論 6. エージェンシー理論の企業観 7. ドラッカーのマネジメント論 8. 経済社会の変動とリストラクチャリング 9. チャンドラーの経営史研究 10. アンゾフの全社戦略論 11. PPM分析 12. 取引コスト論の企業分析 13. 進化経済学の企業分析 14. リエンジニアリング論 15. 科学的管理法
----------	---

- (後期)
16. フォードの生産システムとGMの経営戦略
 17. トヨタ生産システム
 18. ポーターの競争戦略論
 19. ポーターの国際戦略論
 20. 資源ベース戦略論
 21. ホーソン実験と人間関係論
 22. マズロー心理学と新人間関係論
 23. ウェーバーの官僚制論
 24. 官僚制の逆機能論
 25. コンティンジェンシー理論
 26. バーナード組織論
 27. サイモン組織論
 28. ドイツ経営経済学 (大戦間期と戦後期の学説)
 29. ドイツ経営社会学 (共同決定制度の変容)
 30. 日本の企業システムのゆくえ

準備学習	次回講義までに該当箇所について教科書を読んでおくこと。 講義終了翌日にYestudyにて該当箇所を指示します。
履修上の留意点	講義中の私語は慎んで下さい。
成績評価の方法	定期試験100%。但し講義中の小レポート、および冬季休業中にレポート (任意) の提出を求められることがあり、内容いかんによってこれを評定に加えることがある。
教科書/テキスト	中川淳平『問題解決のための経営学』泉文堂、2100円、2007年、ISBN978-4-7930-0343-1
参考書	授業毎に配布するプリントに適宜指示する。
その他	経営学、経営学史に関して『週刊 ダイヤモンド』にて、私が以前選定した書籍については、下記リンク (読もうよビジネス書) に記載されている。
関連リンク	http://www.4mo4.com/biz/2005/08/200816329.php

履修コード	330301
科目名	経営学史
担当者名	中川 淳平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) この講義では、100年あまりにわたる経営学の歴史上、重要なものと位置づけられる学説を、その問題意識に著目しつつ解説を行う。 (到達目標) コーポレートガバナンス・リストラクチャリング・イノベーション・コミュニケーション・セクシオナリズムなど、現代企業経営の諸問題を解決するための技法を取得することを目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	(前期) 1. 講義ガイダンス 2. 経営学説の分類と歴史 3. コーポレート・ガバナンスとは何か (日米独の比較) 4. パーリ=ミーゼの経営者支配論 5. J. K. ガルブレイスのテクノストラクチャ論 6. エージェンシー理論の企業観 7. ドラッカーのマネジメント論 8. 経済社会の変動とリストラクチャリング 9. チャンドラーの経営史研究 10. アンゾフの全社戦略論 11. PPM分析 12. 取引コスト論の企業分析 13. 進化経済学の企業分析 14. リエンジニアリング論 15. 科学的管理法 (後期) 16. フォードの生産システムとGMの経営戦略 17. トヨタ生産システム 18. ポーターの競争戦略論 19. ポーターの国際戦略論 20. 資源ベース戦略論 21. ホーソン実験と人間関係論 22. マズロー心理学と新人間関係論 23. ウェーバーの官僚制論 24. 官僚制の逆機能論 25. コンティンジェンシー理論 26. バーナード組織論 27. サイモン組織論 28. ドイツ経営経済学 (大戦間期と戦後期の学説) 29. ドイツ経営社会学 (共同決定制度の変容) 30. 日本の企業システムのゆくえ・理解度の確認
----------	---

準備学習	次回講義までに該当箇所について教科書を読んでおくこと。 講義終了翌日にYestudyにて該当箇所を指示します。
履修上の留意点	講義中の私語は慎んで下さい。
成績評価の方法	後期試験100%。但し講義中の小レポート、および夏季・冬季休業中にレポート (任意) の提出を求めることがあり、内容いかんによってこれを評定に加えることがある。
教科書/テキスト	中川淳平『問題解決のための経営学』泉文堂、2100円、2007年、ISBN978-4-7930-0343-1
参考書	授業毎に配布するプリントに適宜指示する。
その他	経営学、経営学史に関して『週刊 ダイヤモンド』にて、私が以前選定した書籍については、下記リンク (読もうよビジネス書) に記載されている。
関連リンク	http://www.4mo4.com/biz/2005/08/200816329.php

履修コード	139701
科目名	経営管理論
担当者名	渡辺 伊津子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、経営学説をてがかりにして、「協働」の本質とは何か、また「協働の組織化」の条件とはどのようなものであるのかについて考察する。その到達目標は、現代の企業が直面する経営管理の課題を理解し、経営管理の観点から企業の活動を思考する力を養うことである。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 経営管理の全体像をつかむ 第2回 「管理」という問題の発生と経営「管理論」発展の概説 第3回 経営「管理論」のバイオニア (1) 第4回 経営「管理論」のバイオニア (2) 第5回 経営「管理論」のバイオニア (3) 第6回 人間性の発見 (1) 第7回 人間性の発見 (2) 第8回 人間性の発見 (3) 第9回 人間性の発見 (4) 第10回 組織の仕組みを管理する (1) 第11回 組織の仕組みを管理する (2) 第12回 組織の仕組みを管理する (3) 第13回 組織の仕組みを管理する (4) 第14回 制度と組織 第15回 総括 第16回 後期授業内容の全体像をつかむ 第17回 管理者の職務 (1) 第18回 管理者の職務 (2) 第19回 管理者の職務 (3) 第20回 組織の硬直化と学習 (1) 第21回 組織の硬直化と学習 (2) 第22回 組織の硬直化と学習 (3) 第23回 組織の硬直化と学習 (4) 第24回 戦略形成プロセスを管理する (1) 第25回 戦略形成プロセスを管理する (2) 第26回 戦略形成プロセスを管理する (3) 第27回 キャリア形成と経営管理 (1) 第28回 キャリア形成と経営管理 (2) 第29回 キャリア形成と経営管理 (3) 第30回 総括
----------	--

準備学習	(1) 関連科目(経営組織論など)を受講すること。 (2) テキストを用いた復習を行うこと。
------	---

履修上の留意点	(1) 講義内容はテキストに準じて行うので、テキストを購入すること。 (2) パワーポイントを用いて講義を行う。 (3) 積極的にノートを取ること。
---------	--

成績評価の方法	(1) 学期末の定期試験 (80%)、授業内での提出課題 (20%) (2) 出席はとらない。
---------	--

教科書/テキスト	(1) 岸田民樹・田中正光著 (2009) 『経営学説史』有斐閣アルマ (2) 毎回、プリントを配布する。 (3) 授業内で使用したスライドはすべてYestudyにアップする予定。
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	330101
科目名	経営管理論
担当者名	渡辺 伊津子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、経営学説をてがかりにして、「協働」の本質とは何か、また「協働の組織化」の条件とはどのようなものであるのかについて考察する。その到達目標は、現代の企業が直面する経営管理の課題を理解し、経営管理の観点から企業の活動を思考する力を養うことである。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 経営管理の全体像をつかむ 第2回 「管理」という問題の発生と経営「管理論」発展の概説 第3回 経営「管理論」のパイオニア (1) 第4回 経営「管理論」のパイオニア (2) 第5回 経営「管理論」のパイオニア (3) 第6回 人間性の発見 (1) 第7回 人間性の発見 (2) 第8回 人間性の発見 (3) 第9回 人間性の発見 (4) 第10回 組織の仕組みを管理する (1) 第11回 組織の仕組みを管理する (2) 第12回 組織の仕組みを管理する (3) 第13回 組織の仕組みを管理する (4) 第14回 制度と組織 第15回 総括 第16回 後期授業内容の全体像をつかむ 第17回 管理者の職務 (1) 第18回 管理者の職務 (2) 第19回 管理者の職務 (3) 第20回 組織の硬直化と学習 (1) 第21回 組織の硬直化と学習 (2) 第22回 組織の硬直化と学習 (3) 第23回 組織の硬直化と学習 (4) 第24回 戦略形成プロセスを管理する (1) 第25回 戦略形成プロセスを管理する (2) 第26回 戦略形成プロセスを管理する (3) 第27回 キャリア形成と経営管理 (1) 第28回 キャリア形成と経営管理 (2) 第29回 キャリア形成と経営管理 (3) 第30回 総括
----------	--

準備学習	(1) 関連科目(経営組織論など)を受講すること。 (2) テキストを用いて復習を行うこと。
------	---

履修上の留意点	(1) 講義内容はテキストに準じて行うので、テキストを購入すること。 (2) パワーポイントを用いて講義を行う。 (3) 積極的にノートをとること。
---------	--

成績評価の方法	(1) 学期末の定期試験 (80%)、授業内での提出課題 (20%) (2) 出席はとらない。
---------	--

教科書/テキスト	(1) 岸田民樹・田中正光 (2009) 『経営学説史』 有斐閣アルマ (2) 毎回、プリントを配布する。 (3) 授業内で使用したスライドはすべてYestudyにアップする予定。
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	139901
科目名	経営財務論
担当者名	高田 光明

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>経営財務論は、企業という組織体の財務活動を研究対象とする学問分野である。今日、企業の財務という場合、企業による資本の調達と運用をいっている。企業とは、社会が必要とする財貨やサービスを製品として生産し販売するという活動を営み、その報酬として、後で述べるような概念である利益を獲得しようとする組織体である。このような活動では、原材料、機械などの財貨が必要とならぬし、労働力も不可欠である。企業は、これらの生産要素を取得するために元手がなければならない。資本の調達とは、この元手となる資本を集めることをいう。</p> <p>通常は現金の状態調達した資本により、企業は、原材料などの財貨や労働力といった生産要素を取得する。資本は、生産要素の取得に充てられて、調達時の現金の状態から生産要素に転換する。次いで企業は、取得した生産要素を消費して、新たな財貨やサービスを製品として生産する。この過程で、消費された生産要素の状態にある資本が消費されるのと引き換えに、生産された製品に具体化している価値の分だけ資本が回収獲得されている。そして製品の販売により、製品に具体化して回収獲得されていた資本は、現金または売上債権に転換してくる。</p> <p>回収獲得されてきて現金または売上債権の状態にある資本が、製品の生産のために消費された資本を上回っている場合、原材料などの生産要素の取得から製品の生産・販売に至る起業の営業活動を通じて、資本が自己増殖していることになる。こうした資本の自己増殖分が利益である。資本の運用とは、資本のより多くの回収獲得を意図したこのような利用をいう。</p> <p>この授業では、上で述べてきた企業の財務活動はいかにあるべきかという問題意識のもとに、次のスケジュールにしたがって講義を進め、経営財務に関する基礎的知識・基本的考え方を身に付けることを主要目的とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(1) 経営財務の領域、(2) 資本と資産、(3~4) 資本の分類、(5~6) 資本の運用形態、(7~8) 資金調達方法の特徴、(9~10) 資金調達の基本原則、(11~12) 流動・固定分類法の重要性、(13~14) 資金概念、(15~16) 企業利益の概念、(17~18) 減価償却費の性格、(19~20) キャッシュ・フロー、(21~22) リスクとリターン、(23~24) レバレッジ、(25~26) 資本のコスト、(27~28) 続・資金調達の基本原則、(29~30) 資金調達の手順</p>
----------	--

準備学習	<p>資本と資産の概念および両者の関係について、自分なりに学んでおくことを勧める。そうすれば、講義内容が格段に理解しやすくなるはずである。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>企業による財務活動に関する情報は、企業の会計システムから得られる。したがって履修にあたっては、企業会計の初歩的知識があることが望ましい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>定期試験による評価を原則とし、出席状況に応じて平常点を5点を限度に加味する。</p>
---------	---

教科書/テキスト

参考書

履修コード	331101
科目名	経営財務論
担当者名	高田 光明

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>経営財務論は、企業という組織体の財務活動を研究対象とする学問分野である。今日、企業の財務という場合、企業による資本の調達と運用をいっている。企業は、その活動を営むに際し、原材料などの財貨や労働力を確保しなければならない。そのために元手となる資本を必要とする。資本の調達とは、この元手となる資本を集めることをいう。そして調達した資本で、企業は、原材料などの生産要素を取得して、製品を生産し販売するという営業活動を遂行する。こうした活動により、資本を増殖させようとする行為を、資本の運用といっている。</p> <p>株式資本(株式発行による調達資本)や借入金などの資本の源泉は、それぞれ異なる特徴を持っている。したがって、生産要素の取得を賄うために必要とする資本を、どの源泉からどのくらい調達するかは、企業が営業活動を実施して、調達資本をいかに効率的に運用できるかに大きな影響を与える。この授業では、以上の問題意識のもとに、次のスケジュールにしたがって講義を進め、経営財務に関する基礎的知識・基本的考え方を身に付けることを主要目的とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(1) 経営財務の領域、(2) 資本と資産、(3~4) 資本の分類、(5~6) 資本の運用形態、(7~8) 資金調達方法の特徴、(9~10) 資金調達の基本原則、(11~12) 流動・固定分類法の重要性、(13~14) 資金概念、(15~16) 企業利益の概念、(17~18) 減価償却費の性格、(19~20) キャッシュ・フロー、(21~22) リスクとリターン、(23~24) レバレッジ、(25~26) 資本のコスト、(27~28) 続・資金調達の基本原則、(29~30) 資金調達の手順</p>
----------	--

準備学習	<p>資本と資産の概念および両者の関係について自分なりに学んでおくことを勧める。そうすれば、講義内容が格段に理解しやすくなるはずである。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>企業による財務活動に関する情報は、企業の会計システムから得られる。したがって履修にあたっては、企業会計の初歩的知識があることが望ましい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>定期試験による評価を原則とし、出席状況に応じて平常点を5点を限度に加味する。</p>
---------	---

教科書/テキスト

参考書

履修コード	141011
科目名	経営情報システムA
担当者名	高井 徹雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経営スタッフの役割は意思決定の支援、すなわち、意思決定者が適切な決定を行えるよう判断の指針となる情報を提供すること。本講義では、企業や官庁における経営スタッフを目指す皆さんのために、情報処理に関するシステムの観点と、IT (情報技術) の基礎について解説する。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) イントロダクション (2-3) 科学とシステム思考 科学的方法の特徴とは何か、システムの観点とはどのようなものか。情報学のバックグラウンドにある基本的なものの見方と、それに基づく問題へのアプローチ方法について解説する。 (4-6) 情報科学の成立と発展 20世紀半ば世界初のノイマン型コンピュータEDSACが誕生した。これに前後して、コンピュータ科学・情報理論・通信工学などを含む「情報科学」が成立し、急速な発展を遂げた。ここでは、その恩恵に与る現代人として知っておくべき基礎知識について整理する。 (7-9) ITとインターネット IT (情報技術) に関わる基礎的事項に理解を深める。コンピュータによる情報の取り扱い、インターネットなど情報ネットワーク技術に関する基礎的事項について解説します。 (10-15) : 情報環境の発展と経営における利用 経営の場における意思決定と情報利用技術の関わりについて学ぶ。企業における情報利用の形態の変遷を概観し、インターネットによる情報インフラが十二分に整った今日的な環境下において、市場戦略的な情報の利用とはどうあるべきかについて考察する。
----------	---

準備学習	予習は必要ありませんが、毎回出席して、その日のノートの整理など復習は欠かさないようお願いします。
------	--

履修上の留意点	極力、後期の経営情報システムBとあわせて履修してください。A : 情報学の基礎とICT総論、B : 情報処理の代表的な方法論、と内容を色分けしています。
---------	--

成績評価の方法	毎回出席を取ります。その上で、最終授業時に筆記試験を実施して成績評価を行います。
---------	--

教科書/テキスト	高井徹雄他著「基礎から学ぶ経営科学」税務経理協会 2300円 ※ このテキストは、主として後期Bで用います。前期Aでは、数学的準備の参考書としてのみの利用ですが、A・B連続履修の方は必ず用意しておいてください。そのほか、適宜プリントを配布します。
----------	--

参考書	個別テーマによって、必要なものがあれば適宜紹介します。
-----	-----------------------------

履修コード	332511
科目名	経営情報システムA
担当者名	高井 徹雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経営スタッフの役割は意思決定の支援、すなわち、意思決定者が適切な決定を行えるよう判断の指針となる情報を提供すること。本講義では、企業や官庁における経営スタッフを目指す皆さんのために、情報処理に関するシステムの観点と、IT (情報技術) の基礎について解説する。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) イントロダクション (2-3) 科学とシステム思考 科学的方法の特徴とは何か、システムの観点とはどのようなものか。情報学のバックグラウンドにある基本的なものの見方と、それに基づく問題へのアプローチ方法について解説する。 (4-6) 情報科学の成立と発展 20世紀半ば世界初のノイマン型コンピュータEDSACが誕生した。これに前後して、コンピュータ科学・情報理論・通信工学などを含む「情報科学」が成立し、急速な発展を遂げた。ここでは、その恩恵に与る現代人として知っておくべき基礎知識について整理する。 (7-9) ITとインターネット IT (情報技術) に関わる基礎的事項に理解を深める。コンピュータによる情報の取り扱い、インターネットなど情報ネットワーク技術に関する基礎的事項について解説します。 (10-15) : 情報環境の発展と経営における利用 経営の場における意思決定と情報利用技術の関わりについて学ぶ。企業における情報利用の形態の変遷を概観し、インターネットによる情報インフラが十二分に整った今日的な環境下において、市場戦略的な情報の利用とはどうあるべきかについて考察する。
----------	---

準備学習	予習は必要ありませんが、毎回出席して、その日のノートの整理など復習は欠かさないようお願いします。また、「情報処理基礎」を履修済みまたは同時履修が望ましい。
------	---

履修上の留意点	極力、後期の経営情報システムBとあわせて履修してください。A : 情報学の基礎とICT総論、B : 情報処理の代表的な方法論、と内容を色分けしています。
---------	--

成績評価の方法	適宜出席を取ります。前期末に筆記試験を実施して成績評価を行います。
---------	-----------------------------------

教科書/テキスト	高井徹雄他著「基礎から学ぶ経営科学」税務経理協会 2300円 ※ このテキストは、主として後期Bで用います。前期Aでは、数学的準備の参考書としてのみの利用ですが、A・B連続履修の方は必ず用意しておいてください。そのほか、適宜プリントを配布します。
----------	--

参考書	個別テーマによって、必要なものがあれば適宜紹介します。
-----	-----------------------------

履修コード	140121
科目名	経営情報システムB
担当者名	高井 徹雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経営計画・市場戦略立案などに際して適用が期待されるICT (情報技術) の活用方法について学びます。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(1) イントロダクション</p> <p>(2-3) データとは何か データには測る尺度によって定量的なものと定性的なものが存在する。意思決定の手掛かりとなる情報へ加工するためには、データの種類に応じた取扱いが必要である。</p> <p>(4-8) データ解析とは、データの意味を読むこと 調査収集された生のデータは、そのままでは情報としての価値はない。データを加工・分析し、それが表す意味を解釈することで初めて意思決定のための情報が得られる。ここでは、主に定量的データを解析する手法と、コンピュータ上での取扱いについて学ぶ。</p> <p>(9-12) シミュレーション技法とその応用 複雑な対象の動的な特徴を分析するための有力な方法にシミュレーション技法がある。ここでは、モンテカルロ法や離散系シミュレーションなど基礎的な方法に触れた後、様々な分野で用いられる多様なシミュレーション技法について概観する。</p> <p>(13-15) 人工知能の経営への応用 人工知能の原理と、その経営の場での応用として期待されるDSS (意思決定支援システム)、ES (専門家システム) などの概要について学ぶ。</p>
----------	--

準備学習	予習は必要ありませんが、毎回出席して、その日のノートの整理など復習は欠かさないようお願いいたします。
------	--

履修上の留意点	前期の経営情報システムAとあわせて履修してください。受講生数によりませんが、必要に応じて数回程度、情報教育センターの計算機実習室を利用した体験的な実習形式の授業を行う予定です。
---------	--

成績評価の方法	適宜出席を取ります。不定期に授業時小テストを行います。期末試験時に筆記試験を実施して成績評価を行います。
---------	--

教科書/テキスト	高井徹雄他著「基礎から学ぶ経営科学」税務経理協会 2300円
----------	--------------------------------

参考書	適宜プリントを配布します。
-----	---------------

履修コード	332521
科目名	経営情報システムB
担当者名	高井 徹雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経営計画・市場戦略立案などに際して適用が期待されるICT (情報技術) の活用方法について学びます。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(1) イントロダクション</p> <p>(2-3) データとは何か データには測る尺度によって定量的なものと定性的なものが存在する。意思決定の手掛かりとなる情報へ加工するためには、データの種類に応じた取扱いが必要である。</p> <p>(4-8) データ解析とは、データの意味を読むこと 調査収集された生のデータは、そのままでは情報としての価値はない。データを加工・分析し、それが表す意味を解釈することで初めて意思決定のための情報が得られる。ここでは、主に定量的データを解析する手法と、コンピュータ上での取扱いについて学ぶ。</p> <p>(9-12) シミュレーション技法とその応用 複雑な対象の動的な特徴を分析するための有力な方法にシミュレーション技法がある。ここでは、モンテカルロ法や離散系シミュレーションなど基礎的な方法に触れた後、様々な分野で用いられる多様なシミュレーション技法について概観する。</p> <p>(13-15) 人工知能の経営への応用 人工知能の原理と、その経営の場での応用として期待されるDSS (意思決定支援システム)、ES (専門家システム) などの概要について学ぶ。</p>
----------	--

準備学習	予習は必要ありませんが、毎回出席して、その日のノートの整理など復習は欠かさないようお願いいたします。
------	--

履修上の留意点	前期の経営情報システムAとあわせて履修してください。受講生数によりませんが、必要に応じて数回程度、情報教育センターの計算機実習室を利用した体験的な実習形式の授業を行う予定です。
---------	--

成績評価の方法	適宜出席を取ります。不定期に授業時小テストを行います。期末試験時に筆記試験を実施して成績評価を行います。
---------	--

教科書/テキスト	高井徹雄他著『基礎から学ぶ経営科学』税務経理協会 2300円
----------	--------------------------------

参考書	適宜プリントを配布します。
-----	---------------

履修コード	136611
科目名	経営数学 A
担当者名	飯田 哲夫

授業概要/
到達目標 (ねらい)

(授業概要)
企業経営上の問題を扱う際に用いられる、定量的な分析や合理的な意思決定のための数理的方法論を理解する上で、ある程度の数学的知識を持っていることが望まれます。経営数学Aでは、定量的な分析や合理的な意思決定の方法論を扱う経営科学関連の専門科目に關係する数学的知識について、高校で習った数学の復習を含めて、基本的な内容を主に学びます。
(到達目標)
この講義の到達目標は、2年次以降に履修する経営科学関連の専門科目で扱う定量的な分析や方法論の学習へとつながる基礎的な数学的知識およびスキルを習得することです。

授業スケジュール

授業内容は、基本的な関数、数列、極限、級数、ベクトル、行列などです。授業は講義形式で行います。授業では、数学がどのように用いられるのかを理解するために、適宜、応用例を紹介し、授業スケジュールは、以下のとおりです。

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 数と関数(1)
- 第3回 数と関数(2)
- 第4回 数と関数(3)
- 第5回 数と関数(4)
- 第6回 数列(1)
- 第7回 数列(2)
- 第8回 極限(1)
- 第9回 極限(2)
- 第10回 級数(1)
- 第11回 級数(2)
- 第12回 ベクトルと行列(1)
- 第13回 ベクトルと行列(2)
- 第14回 ベクトルと行列(3)
- 第15回 まとめ

準備学習

前回の授業内容を復習し、当日の授業についても、配布したプリント等を見て、予習しておくこと。また、YeStudyにある練習問題を適宜解いておくこと。

履修上の留意点

講義では理解を助けるために例を用いて説明を行うけれども、数学を学ぶ上では、抽象的な概念に慣れることが必要であり、かつ、講義の積み重ねを経ないと理解できないことも多いため、毎回出席すること。

成績評価の方法

小テストおよび定期試験の成績で評価します。

教科書/テキスト

適宜、プリントを配布します。

参考書

履修コード	136621
科目名	経営数学B
担当者名	飯田 哲夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 経営数学Bでは、経営数学Aに引き続き、定量的な分析や合理的な意思決定の方法論を扱う経営科学関連の専門科目に関する数学的知識を、高校で習った数学の復習を含めて、さらに学びます。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、2年次以降に履修する経営科学関連の専門科目で扱う定量的な分析や方法論の学習へとつながる基礎的な数学的知識およびスキルを、経営数学Aで習得した知識やスキルに加えて、さらに習得することです。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>授業内容は、利益の最大化や費用の最小化を行う際に用いられる微分法とその応用（微分係数、導関数、微分の方法、高次導関数、極値など）を中心とします。授業は講義形式で行います。授業では、数学がどのように用いられるのかを理解するために、適宜、応用例を紹介します。授業スケジュールは、以下のとおりです。</p> <p>第1回 インTRODakシヨン 第2回 集合(1) 第3回 集合(2) 第4回 確率(1) 第5回 確率(2) 第6回 確率(3) 第7回 微分法(1) 第8回 微分法(2) 第9回 微分法(3) 第10回 微分法の応用 第11回 多変数関数の微分(1) 第12回 多変数関数の微分(2) 第13回 多変数関数の微分(3) 第14回 多変数関数の微分の応用 第15回 まとめ</p>
----------	--

準備学習	前回の授業内容を復習し、当日の授業についても、配布したプリント等を見て、予習しておくこと。また、YeStudyにある練習問題を適宜解いておくこと。
------	---

履修上の留意点	講義では理解を助けるために例を用いて説明を行うけれども、数学を学ぶ上では、抽象的な概念に慣れることが必要であり、かつ、講義の積み重ねを経ないと理解できないことも多いため、毎回出席すること。
---------	--

成績評価の方法	小テストおよび定期試験の成績で評価します。
---------	-----------------------

教科書/テキスト	適宜、プリントを配布します。
----------	----------------

参考書	
-----	--

履修コード	143301
科目名	経営戦略論
担当者名	中村 公一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>経営戦略論は、現実の企業経営と密接に関連している実践的要素の強い科目である。受講生が企業に就職した時に、その企業が属する業界がどのように動いており、それに対応して企業が採っている戦略を理解することは、自分達の仕事の意義を考える上でも有効なことである。さらに、就職活動の時にも、希望する企業の動向を把握することは重要な選択要因の1つとなるだろう。</p> <p>本講義では、さまざまな企業の置かれている環境とそれに対する経営戦略を理解し、実践的な場面でも応用できる知識と考え方を提供することを目標に進めていく。そこで、新聞やビジネス誌などをもとに、実際の経営戦略をケースとしてできるだけ取り上げるようにする。</p> <p>そして、なぜこの企業はこの戦略を採るのか、その戦略によってどのような効果が期待されるのか、ということに関して、古典から最先端の理論を使って解釈することを焦点に講義を行う。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営戦略論の基礎概念 (1~5) 2. 成長戦略論：事業領域、多角化戦略など (6~9) 3. 競争戦略論：ポーターモデル、コア・コンピタンス、ビジネスモデルなど (10~14) 4. 前期のまとめ (15) 5. 組織間戦略論：M&A、グループ戦略、グローバル戦略 (16~21) 6. 経営戦略と経営組織：専門組織、ナレッジマネジメントなど (22~25) 7. 最新の戦略課題：研究開発戦略、ライセンス戦略、企業集積の戦略など (26~29) 8. 年間講義のまとめ (30)
----------	---

準備学習	経営戦略論は、実際の企業活動と密接に関連しているために、日頃から新聞や雑誌などで関連する記事にはできる限り目を通すことが望まれる。
------	---

履修上の留意点	注意点としては、講義に対する妨害行為（私語、携帯電話など）には厳しく対処する。1人（数名）の愚かな行為により、他の真面目な学生に迷惑をかけ、講義自体の雰囲気が悪くなるために、教場を友人との話す場として考えている者は出席しないこと。
---------	---

成績評価の方法	年度末の定期試験（70%）、リアクションペーパー（宿題として課す：30%）
---------	---------------------------------------

教科書／テキスト	授業中にレジュメを配布して、それに基づいて講義を進める。1回の講義で1つの重要テーマに関する内容を学習する。基本図書や参考文献などは授業中にその都度指摘する。
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	330001
科目名	経営戦略論
担当者名	中村 公一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>経営戦略論は、現実の企業経営と密接に関連している実践的要素の強い科目である。受講生が企業に就職した時に、その企業が属する業界がどのように動いており、それに対応して企業が採っている戦略を理解することは、自分達の仕事の意義を考える上でも有効なことである。さらに、就職活動の時にも、希望する企業の動向を把握することは重要な選択要因の1つとなるだろう。</p> <p>本講義では、さまざまな企業の置かれている環境とそれに対する経営戦略を理解し、実践的な場面でも応用できる知識と考え方を提供することを目標に進めていく。そこで、新聞やビジネス誌などをもとに、実際の経営戦略をケースとしてできるだけ取り上げるようにする。</p> <p>そして、なぜこの企業はこの戦略を採るのか、その戦略によってどのような効果が期待されるのか、ということに関して、古典から最先端の理論を使って解釈することを焦点に講義を行う。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営戦略論の基礎概念 (1~5) 2. 成長戦略論：事業領域、多角化戦略など (6~9) 3. 競争戦略論：ポーターモデル、コア・コンピタンス、ビジネスモデルなど (10~14) 4. 前期のまとめ (15) 5. 組織間戦略論：M&A、グループ戦略、グローバル戦略 (16~21) 6. 経営戦略と経営組織：専門組織、ナレッジマネジメントなど (22~25) 7. 最新の戦略課題：研究開発戦略、ライセンス戦略、企業集積の戦略など (26~29) 8. 年間講義のまとめ (30)
----------	---

準備学習	経営戦略論は、実際の企業活動と密接に関連しているために、日頃から新聞や雑誌などで関連する記事にはできる限り目を通すことが望まれる。
------	---

履修上の留意点	注意点としては、講義に対する妨害行為（私語、携帯電話など）には厳しく対処する。1人（数名）の愚かな行為により、他の真面目な学生に迷惑をかけ、講義自体の雰囲気が悪くなるために、教場を友人との話す場として考えている者は出席しないこと。
---------	---

成績評価の方法	年度末の定期試験（70%）、リアクションペーパー（宿題として課す：30%）
---------	---------------------------------------

教科書／テキスト	授業中にレジュメを配布して、それに基づいて講義を進める。1回の講義で1つの重要テーマに関する内容を学習する。基本図書や参考文献などは授業中にその都度指摘する。
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	140201
科目名	経営組織論
担当者名	日野 健太

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>概要 企業組織を念頭におき、そもそも組織現象は、ひとの行為がなぜどのように組織として成り立っているのか(バス停でバスを待っている人の集団を組織とは呼ばないですよね。ひとの集団が組織と呼ばれるようになるには、何か条件があるはずです。)という「なぜそうなるのか」という視点と、これをどのようにマネジメントするのか(自分がマネジャーとしてどう組織を運営するのかを勉強できなければ、詐欺ですよね。経営学部ですから。) 「どうするのか」という二つの視点から、組織現象に接近する。</p> <p>目標 組織について、多角的な見方ができるようになる。組織は経営者の意のままにはならないこと、そう考えるとうまくいかないことを理解する。 組織を量的・質的に分析する基本的な方法について理解する。 学び方を学び、理解の仕方理解する。つまり現実を抽象度の高い理論によって把握する戦略と方法を身につける。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営組織論のスコープ 2. モチベーション①組織論の人間観とひとの持つ欲求、特に自己実現欲求 3. モチベーション②仕事における満足と不満足 4. モチベーション③職務特性モデルと職務再設計 5. モチベーション④期待理論によるやる気の主観的側面についての考察 6. 集団行動①集団アイデンティティの形成とその効果 7. 集団行動②ホーソン実験と人間関係論 8. 集団行動③集団浅慮とその回避 9. リーダーシップ①素朴理論からのリーダーシップの定義(実習) 10. リーダーシップ②行動アプローチ 11. リーダーシップ③フォロワーの期待とリーダーシップ(経路-目標理論) 12. リーダーシップ④カリスマ・変革型リーダーシップ、制度的リーダーシップ 13. リーダーシップ⑤フォロワーの視点から理解するリーダーシップ 14. リーダーシップ⑥リーダーシップの倫理性 15. 中まとめと試験形式の理解度の確認 16. 組織文化①文化という概念と経営学における文化への注目 17. 組織文化②組織文化の構成 18. 組織文化③シャイン(Schein)とモジョ(Mojo)による組織文化の解釈法 19. 組織文化④社会的アイデンティティと組織文化 20. 組織デザイン①多角化戦略と事業別組織、1980年から2010年の日本企業 21. 組織デザイン②官僚制とその逆機能 22. 組織デザイン③機械的管理システムと有機的管理システムと市場、技術 23. 組織デザイン④ガルブレイスの組織デザインモデル 24. 環境と組織①資源依存モデル 25. 環境と組織②新制度派の組織理論 26. 知識創造の理論と実践①暗黙知と形式知、SECIモデル 27. 知識創造の理論と実践②フロンティスとリーダーシップ 28. (まとめ)組織変革の課題①組織がうまく変革できない理由、当然起こる抵抗 29. (まとめ)組織変革の課題②その克服 30. 中まとめと試験形式の理解度の確認
----------	---

準備学習	<p>われわれの日常生活は組織とともにある。毎週の講義で習ったことが、自分の身の回りの現象をどう説明できるか、また、それについて、どのような新しい見方をもたらしたかについて常に意識すること。</p> <p>第一回講義で配布するシラバスを参照し、どのようなテーマで講義が行われるか意識した上で講義に参加すること。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>目指すのは「難しいけどおもしろいよね。」という講義であって、「理解しやすくして楽な講義」ではない。例えば穴あきレジュメは使用しない(大学の講義はそういうものではないからである。また、穴あきレジュメが配られて商談をした、という話も私の知る限りではない。)し、持ち込み資料を丸写しすれば単位が取れる科目でもない。もちろんテキスト代で単位が買える科目ではない。話を聞いて、ノートをとって理解する能力を身につけて欲しい。どうすれば、うまく学べるか、という意識を持って、講義に参加すること。</p> <p>第一回目の講義でシラバスを配布する。必ず入手し、予習復習自習試験準備に活用すること。シラバスと『講義内容』の内容が相違した場合、前者が優先する。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>後期第一回目の試験形式の理解度の確認(40%) 持ち込み可 期末試験(60%) 持ち込み不可 上記二つで100点満点で評価する。さらに 夏季休業中のレポート課題(上記が60点に達した場合、ボーナスポイントとして加算) YeStudy等平常点(場合によっては参考にする)</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>日野健太『リーダーシップとフォロワー・アプローチ』文眞堂2,700円 ISBN978-4-8309-4687-5</p>
----------	---

参考書	<p>金井壽宏『経営組織』(日経文庫)、岸田民樹『経営組織と環境適応』(白桃書房)、高橋伸夫『組織力』(ちくま新書)、沼上幹『組織デザイン』(日経文庫)等。配布プリントで適宜参考文献を紹介いたします。</p>
-----	--

履修コード	140721
科目名	経営統計B
担当者名	長 國強

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経営統計は分析目的に対応して主に経営情報としてのデータを処理・分析し、複雑な現象を理解すると共に、データを生成した集団や構造について予測し、いろいろな意思決定をサポートすることである。経営的意思決定において最も重要なことは、将来の経営状況をどう見るかであり、その予測に対して経営統計は重要な役割を果たされるはずである。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回：推定予測モデル(回帰モデル)I；第2回：推定予測モデル(回帰モデル)II；第3回：パソコン実習I；第4回：時系列予測(平滑化技法、季節指数の測定)I；第5回：時系列予測(平滑化技法、季節指数の測定)II；第6回：時系列予測(平滑化技法、季節指数の測定)III；第7回：パソコン実習II；第8回：分散分析(一元配置分散分析)I；第9回：分散分析(一元配置分散分析)II；第10回：パソコン実習III；第11回：統計的意思決定理論I；第12回：統計的意思決定理論II；第13回：経営指数(物価指数、数量指数)I；第14回：経営指数(物価指数、数量指数)II；第15回：全体のまとめ。
----------	---

準備学習	特にありません。
履修上の留意点	『経営統計A』を受講してから履修されたほうが望ましい。
成績評価の方法	総合評価(100)=提出課題(50)+期末試験(50)。
教科書/テキスト	特に使用しませんが、プリントは随時配布する予定。
参考書	西田俊夫・田畑吉雄共著『経済・経営の統計学』(培風館)； 守口栄一・竹田仁共著『経営数学：経営統計とその応用』(日本理工出版社)。
その他	特にありません。

履修コード	141301
科目名	経営分析論
担当者名	片桐 伸夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経営分析とは、文字どおり「企業の経営を分析すること」であり、かなり多方面にわたる内容をもっています。 皆さんが将来を託そうとする会社は、 1 財政的に安定しているだろうか(安定性分析)、 2 「儲け」はどうだろうか(収益性分析)、 3 経営活動の成果はきちんと配分されているだろうか(生産性分析)、 4 長期的な会社の「伸び」はどうだろうか(成長性分析)、 また、 5 社会に対してどのように貢献しているだろうか(社会性分析) といった内容です。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) 経営分析について、(2-6) 経営分析の資料、貸借対照表・損益計算書の読み方、(7-12) 収益性・安定性分析、製造業-製造原価報告書、(13-15) 貸借対照表・損益計算書問題、安定性・収益性比率の計算問題、(16-20) 生産性分析、標準原価、損益分岐点分析、(21-26) キャッシュフロー計算書、連結財務諸表、(27-30) 税効果会計、正味現在価値法と設備投資
----------	---

準備学習	簿記を学習していることが望ましい。
履修上の留意点	この授業の目的は、「財務諸表分析」を中心に、各人が就職を希望する、あるいは興味を持っている会社の「分析」をしていただくことにあります。つたなくても、ささやかでも、その成果は皆さんの貴重な「財産」です。
成績評価の方法	成績評価はレポートと授業中のテストで行います。学年末試験は行いませんのでご注意ください。 評価基準 前期レポート40%、前期小テスト10%、 後期レポート40%、後期小テスト10%、 ☆質問は授業以外にも研究室2307号室で随時受け付けますので、遠慮なくおいでください。
教科書/テキスト	開講時、指示します。
参考書	随時、紹介します。

履修コード	140001
科目名	経営労務論
担当者名	鹿嶋 秀晃

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 現代の日本企業とそこに働く労働者が抱える経営労務問題を幅広く扱っていく。経営労務論を受講することで企業と労働、社会に幅広い問題関心を持ってもらいたい。講義は1コマ1テーマの原則で、各回冒頭に「日本は終身雇用なのか?」といったテーマを掲げ、その解説をおこなう。 (到達目標) 現代社会に起こっている経営労務問題を表面的にはなく、歴史的経緯を踏まえた上で、企業経営、労務管理、社会の各視点から捉えることができるようになること。
---------------------	---

授業スケジュール	年間の講義は総論と3大テーマ、各論部分の計5部構成からなる。スケジュールは大まかに次のように行うが、授業進度・スケジュールについては、WEBページで随時確認のこと。 最初の総論部分は次の通り。 (1) ガイダンス (2) 経営労務論とは何か (3) 雇用管理と新卒雇用 (4) 経営労務論と日本的経営論 第1テーマ「雇用」については次の通り。 (5) 終身雇用のしくみ (6) 出向・転籍のしくみ (7) パートタイマーの雇用管理 (8) 非正規労働者の雇用管理 (9) 退職管理のしくみ (10) 日本の雇用管理のまとめ 第2テーマ「賞金」については次の通り。 (11) 賞金管理のしくみ (12) 年功賞金の歴史 (13) 年功賞金の改革 (14) 現代の人事・賞金制度改革 (15) 前期の総まとめ (16) 人事考課のしくみ (17) 異動と昇進・昇格のしくみ (18) 日本の賞金管理の総まとめ 第3テーマ「労使関係」については次の通り。 (19) 1950年代の労使関係 (20) 1970年代の労使関係 (21) 戦後日本の労使関係 (22) 労働組合と労使関係 (23) 労働組合の実際 (24) 日本の労使関係のまとめ 各論部分については次の通り。 (25) 労働時間管理のしくみ (26) 労働時間の国際比較 (27) 福利厚生のしくみ (28) 教育訓練と能力開発のしくみ (29) ワーク・ライフ・バランス (30) 1年間の総まとめ、質問受付
----------	---

準備学習	経済新聞やビジネス雑誌、労働問題に関する新書(岩波・中公・講談社現代・ちくま等)に目を通して、関心の幅を広げておくこと。
------	--

履修上の留意点	詳細は最初の講義で説明するので必ず出席のこと。(1)出席点は無し。(2)私語は真剣に聞いている他の学生に迷惑になるので厳禁。(3)携帯電話は消音。ひどいときには退室させ、単位認定をしない。重要な変更がある場合は、2週間前に授業内、WEB両方で告知するので注意のこと。
---------	---

成績評価の方法	7月と12月に実施予定の小テスト(各40%)、並びに、レポート課題(20%)の合計点で評価する予定。ただし、受講者数が著しく多い、あるいは、少ない場合などに、多少の変更をすることがあるので、授業内に発表する情報に十分注意しておくこと。5月に評価方法を確定し、公表する。
---------	--

教科書/テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理・第4版』有斐閣、2011年、ISBN:978-4641124516 白井泰四郎『現代日本の労務管理第2版』東洋経済新報社、1992年、ISBN:978-492260456 上記2冊を挙げておく。他にも適宜講義中に紹介していく。
-----	--

その他	WEBページ(エラーページと個人ページ)でも授業に関する情報を提供。 { https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/ }
-----	---

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~kashima/
-------	---

履修コード	331001
科目名	経営労務論
担当者名	鹿嶋 秀晃

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 現代の日本企業とそこに働く労働者が抱える経営労務問題を幅広く扱っていく。経営労務論を受講することで企業と労働、社会に幅広い問題関心を持ってもらいたい。講義は1コマ1テーマの原則で、各回冒頭に「日本は終身雇用なのか？」といったテーマを掲げ、その解説をおこなう。 (到達目標) 現代社会に起こっている経営労務問題を表面的にはなく、歴史的経緯を踏まえた上で、企業経営、労務管理、社会の各視点から捉えることができるようになること。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>年間の講義は総論と3大テーマ、各論部分の計5部構成からなる。 最初の総論部分は次の通り。 (1) ガイダンス (2) 経営労務論とは何か (3) 雇用管理と新卒雇用 (4) 経営労務論と日本的経営論 第1テーマ「雇用」については次の通り。 (5) 終身雇用のしくみ (6) 出向・転籍のしくみ (7) パートタイマーの雇用管理 (8) 非正規労働者の雇用管理 (9) 退職管理のしくみ (10) 日本的雇用管理のまとめ 第2テーマ「賃金」については次の通り。 (11) 賃金管理のしくみ (12) 年功賃金の歴史 (13) 年功賃金の改革 (14) 現代の人事・賃金制度改革 (15) 前期の総まとめ (16) 人事考課のしくみ (17) 異動と昇進・昇格のしくみ (18) 日本的賃金管理の総まとめ 第3テーマ「労使関係」については次の通り。 (19) 1950年代の労使関係 (20) 1970年代の労使関係 (21) 戦後日本の労使関係 (22) 労働組合と労使関係 (23) 労働組合の実態 (24) 日本的労使関係のまとめ 各論部分については次の通り。 (25) 労働時間管理のしくみ (26) 労働時間の国際比較 (27) 福利厚生 (28) 教育訓練と能力開発のしくみ (29) ワーク・ライフ・バランス (30) 1年間の総まとめ、質問受付</p>
----------	---

準備学習	経済新聞やビジネス雑誌、労働問題に関する新書(岩波・中公・講談社現代・ちくま等)に目を通して、関心の幅を広げておくこと。
------	--

履修上の留意点	履修者が少人数であるため、ゼミナール形式で講義を実施する。無断欠席は1度でも単位を認定しない。詳細は最初の講義で説明するので必ず出席のこと。(1)出席点は無し。(2)私語は真剣に聞いている他の学生に迷惑になるので厳禁。(3)携帯電話は消音。ひどいときには退室させ、単位認定をしない。
---------	---

成績評価の方法	毎回の課題(50%)、講義内での発言(50%)で評価を決定。
---------	--------------------------------

教科書/テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理・第4版』有斐閣、2011年、ISBN:978-4641124516 白井泰四郎『現代日本の労務管理第2版』東洋経済新報社、1992年、ISBN:978-492260456 上記2冊を挙げておく。他にも適宜講義中に紹介していく。
-----	--

履修コード	140711
科目名	経営統計A
担当者名	長 國強

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経営統計は分析目的に対応して主に経営情報としてのデータを処理・分析し、複雑な現象を理解すると共に、データを生成した集団や構造について予測し、いろいろな意思決定をサポートすることである。経営的意思決定において最も重要なことは、将来の経営状況をどう見るかであり、その予測に対して経営統計は重要な役割を果たされるはずである。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回：経営統計について；第2回：統計的基礎概念I；第3回：統計的基礎概念II；第4回：データの収集と整理I；第5回：データの収集と整理II；第6回：データの収集と整理III；第7回：パソコン実習I；第8回：統計特性値I；第9回：統計特性値II；第10回：パソコン実習II；第11回：相関分析；第12回：パソコン実習III；第13回：正規分布とその応用I；第14回：正規分布とその応用II；第15回：全体のまとめ。
----------	---

準備学習	特にありません。
履修上の留意点	後期の『経営統計B』も履修してください。
成績評価の方法	総合評価(100)=提出課題(50)+期末試験(50)。
教科書/テキスト	特に使用しませんが、プリントは随時配布する予定。
参考書	西田俊夫・田畑吉雄共著『経済・経営の統計学』(培風館)； 守口栄一・竹田仁共著『経営数学：経営統計とその応用』(日本理工出版社)。
その他	特にありません。

履修コード	135001
科目名	経済学概説
担当者名	高畑 純一郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、経済学の基礎的な概念や考え方を学び、それらを使って現実の経済問題を理解する力を養う事を目的としています。前期はミクロ的な視点から、後期はマクロ的な視点から経済の動きについて学びます。
---------------------	---

授業スケジュール	前期のミクロ経済学では、各消費者や生産者の経済行動を分析し、それをもとにして市場の機能を説明するものです。 (前期) 1. 経済学とは何か？ 2～4. 市場機能の働き (1) 需要曲線と供給曲線, (2) 市場の均衡, (3) 価格の変化, 5～7. 消費者の行動理論 (1) 予算制約式と無差別曲線, (2) 効用最大化問題, (3) 需要曲線の導出, 8. 中間試験, 9～11. 生産者の行動理論 (1) 生産関数と費用関数, (2) 利潤最大化問題, (3) 供給曲線の導出, 12～13. 一般均衡と資源配分, 14. 独占の理論, 15. 期末試験 後期のマクロ経済では個々人の行動ではなく、特に市場全体の動きに注目して経済の動向を分析します。 (後期) 1. マクロ経済学とは？ 2～4. GDPの概念, 5～6. GDPの決定：財市場分析, 7. 中間試験, 8～9. 金融市場分析 (1) 貨幣需要, (2) マネーサプライ, 10～11. GDPの決定：IS-LM分析, 12. 財政・金融政策の効果, 13. 総需用と総供給, 14. インフレーション・デフレーション, 15. 期末試験
----------	--

準備学習	この授業は1年次の入門科目を想定しています。講義資料はYeStudyに随時掲載予定なので、各自授業内容を学習すること。また、基礎的な計算問題が解けるように、適宜宿題を出して自習できるように形式とする予定です。
履修上の留意点	授業に出席するだけでなく、教科書や参考文献を読んで自分の頭で考える事が重要になります。わからない事柄をそのままにして進まないように気をつけてください。
成績評価の方法	成績は中間試験と期末試験によって評価します。
教科書/テキスト	スティグリッツ著、蔽下史郎他訳『ミクロ経済学』(東洋経済新聞社) 伊藤元重著『マクロ経済学』(日本評論社)
参考書	授業内で適宜指示します。

履修コード	134901
科目名	経済学概説
担当者名	羽鳥 茂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 経済学の基本的な考え方を学び、現実のさまざまな経済問題を理解することが目標です。前期はミクロ経済学、後期はマクロ経済学を中心に講義します。 (到達目標) 前期では、市場の機能とその限界を理解することを目指します。消費者の行動、企業の行動の分析を通じて「市場経済」を考えると同時に、そのための基礎的概念を身につけることを目標とします。後期では、GDPとは何であり、どのように決定されるのか、また経済はどのようにして成長したり停滞するのか、デフレーション・インフレーションとは何であり、どのようにして決まるのかを理解することを到達目標とします。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 経済・経済学・経済学者 (1) 第2回 経済・経済学・経済学者 (2) 第3回 取引・国際貿易の利益とは? 第4回 市場における需要と供給 第5回 市場と資源配分 第6回 価格規制 第7回 税金 第8回 消費者余剰と生産者余剰 第9回 市場の効率性 第10回 外部性と市場の非効率性 (1) 第11回 外部性と市場の非効率性 (2) 第12回 不確実性とリスク選好 第13回 非対称情報 第14回 ゲーム理論 第15回 前期のまとめ 第16回 国民所得の測定とGDPの構成要素 第17回 実質GDPと名目GDPそして経済的福祉 第18回 経済成長と生産性の決定要因 第19回 金融システムと貯蓄・投資 第20回 IS-LM分析 第21回 貯蓄・投資と経常収支 第22回 インフレーションと物価指数 第23回 総需要と総供給 (1) 第24回 総需要と総供給 (2) 第25回 経済成長 第26回 景気変動 第27回 日本経済の長期停滞 (1) 第28回 日本経済の長期停滞 (2) 第29回 後期のまとめ 第30回 1年間のまとめ
----------	--

準備学習	特別にはありませんが、テレビニュースや新聞などで経済のトピックスに日頃から関心を持っていてください。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	学年度末の定期試験によって評価します。
---------	---------------------

教科書/テキスト	N・グレゴリー・マンキュー「マンキュー入門経済学」(東洋経済新報社) 3200円 978-4-492-31386-2
----------	---

参考書	授業内で適宜指示します。
-----	--------------

履修コード	135011
科目名	経済学概説
担当者名	羽鳥 茂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 経済学の基本的な考え方を学び、現実のさまざまな経済問題を理解することが目標です。前期はミクロ経済学、後期はマクロ経済学を中心に講義します。 (到達目標) 前期では、市場の機能とその限界を理解することを目指します。消費者の行動、企業の行動の分析を通じて「市場経済」を考えると同時に、そのための基礎的概念を身につけることを目標とします。後期では、GDPとは何であり、どのように決定されるのか、また経済はどのようにして成長したり停滞するのか、デフレーション・インフレーションとは何であり、どのようにして決まるのかを理解することを到達目標とします。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 経済・経済学・経済学者 (1) 第2回 経済・経済学・経済学者 (2) 第3回 取引・国際貿易の利益とは？ 第4回 市場における需要と供給 第5回 市場と資源配分 第6回 価格規制 第7回 税金 第8回 消費者余剰と生産者余剰 第9回 市場の効率性 第10回 外部性と市場の非効率性 (1) 第11回 外部性と市場の非効率性 (2) 第12回 不確実性とリスク選好 第13回 非対称情報 第14回 ゲーム理論 第15回 前期のまとめ 第16回 国民所得の測定とGDPの構成要素 第17回 実質GDPと名目GDPそして経済的福祉 第18回 経済成長と生産性の決定要因 第19回 金融システムと貯蓄・投資 第20回 IS-LM分析 第21回 貯蓄・投資と経常収支 第22回 インフレーションと物価指数 第23回 総需要と総供給 (1) 第24回 総需要と総供給 (2) 第25回 経済成長 第26回 景気変動 第27回 日本経済の長期停滞 (1) 第28回 日本経済の長期停滞 (2) 第29回 後期のまとめ 第30回 1年間のまとめ
----------	--

準備学習	特別にはありませんが、テレビニュースや新聞などで経済のトピックスに日頃から関心を持ってください。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	学年度末の定期試験によって評価します。
---------	---------------------

教科書／テキスト	N・グレゴリー・マンキュー「マンキュー入門経済学」(東洋経済新報社) 3200円 978-4-492-31386-2
----------	---

参考書	授業内で適宜指示します。
-----	--------------

履修コード	136301
科目名	経済原論
担当者名	明石 博行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>資本制市民社会の経済的基礎に関する概括的理解とその変化に関する基礎的知識を得られるよう、入門的な講義を行います。資本制社会は、近代から現代にかけて生まれ、発展し、変化してきた、現代世界における支配的な経済社会です。資本制社会の発展は、市民社会を拡大し、資本制市民社会を確立させます。本講義では、この資本制市民社会について、そこにはどのような経済的な仕組みと法則があるのか、資本制社会の思想・法律・政策などは経済の仕組みや法則によってどのように影響され制度化されるのか、社会に埋め込まれた諸制度によって資本制経済はどのような変容を受けるのか、について説明します。本講義ではまた、欧米とアジアの市民社会の相違についても言及し、資本制市民社会がどのような方向に変化しようとしているかについても解説します。</p> <p>資本制経済の仕組みや法則、資本制市民社会の特質を概括的に理解し、それらの変化と将来像に関する基礎的な認識を得られるよう援助することが、この講義の基本的な課題であり、狙いです。概説的な基礎認識を獲得することが到達目標となります。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>序論的な解説を行う序章ののち、(1)市場、(2)貨幣の資本への発展、(3)労働と資本、(4)資本の蓄積と再生産、(5)資本の流通、(6)資本と利潤、(7)資本の諸姿態、(8)資本制社会とその変貌、という8つの章からなる本論について、その(1)から(4)までに重点をおいて講義をします。主な内容は以下の通りです。</p> <p>第1回 講義紹介 序章 経済社会学と経済原論 第2回 経済社会学の伝統とその復興(1)：ミレニアム転換仮説と経済社会学 第3回 経済社会学の伝統とその復興(2)：近代経済学と経済社会学 第4回 経済社会把握の基礎(1)：マルクスの知的遺産 第5回 経済社会把握の基礎(2)：マルクス経済学と経済社会学 第6回 経済社会把握の基礎(3)：経済社会の基本構成とその変化 第7回 経済社会把握の基礎(4)：複合的發展モデルによる資本制理解 第8回 経済理解の基礎(1)：伝統的な経済観と経済学 第9回 経済理解の基礎(2)：経済観の拡張と展開 第10回 経済理解の基礎(3)：資本制経済</p> <p>第1章 市場 第11回 商品(1)：商品の二面的性格 第12回 商品(2)：商品の価値 第13回 商品(3)：価値の形態 第14回 商品(4)：商品生産様式と商品の物神性 第15回 交換過程と貨幣の生成 第16回 貨幣(1)：貨幣の諸機能 第17回 貨幣(2)：貨幣制度 第18回 貨幣(3)：インフレとデフレの基礎理論</p> <p>第2章 貨幣の資本への発展 第19回 市民社会と疎外 第20回 資本の一般的定式とその矛盾 第21回 消費手段と生産手段の購買と消費 第22回 労働力の購買と消費</p> <p>第3章 労働と資本 第23回 資本制生産と労資型生産様式 第24回 剰余価値を増大させる諸方法 第25回 賃金制度</p> <p>第4章 資本の蓄積と再生産 第26回 資本の蓄積と再生産 第27回 雇用と失業 第28回 身分階層型生産様式と階層関係の再生産</p> <p>補章 資本の諸姿態と資本制市民社会の変容 第29回 資本の流通と資本の諸姿態 第30回 資本制市民社会とその変容</p>
----------	---

準備学習	事前に配布するプリントを読み、参考書の関係箇所を読んでください。また、一定時期ごとに 出題する練習問題を解き、適宜実施する小テストに備えてください。
履修上の留意点	講義に出席して説明を聴き、ノートを作成し、たえず復習してください。
成績評価の方法	適宜実施する小テストと年度末の定期試験の結果を総合的に判断し、評価をします。
教科書/テキスト	教科書は使用しません。講義時に毎回プリントを配布し、講義を理解できるよう援助します。
参考書	大谷禎之介『図解・社会経済学』（桜井書店、3000円+税）
その他	毎時間プリントを配布します。プリントは翌週の講義時までには配りませんが、それ以降は配布し ませんので、期間内にプリントを受け取ってください。YeStudyも活用します。

履修コード	330501
科目名	経済原論
担当者名	明石 博行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>資本制市民社会の経済的基礎に関する概括的理解とその変化に関する基礎的知識を得られるよう、入門的な講義を行います。資本制社会は、近代から現代にかけて生まれ、発展し、変化してきた、現代世界における支配的な経済社会です。資本制社会の発展は、市民社会を拡大し、資本制市民社会を確立させます。本講義では、この資本制市民社会について、そこにはどのような経済的な仕組みと法則があるのか、資本制社会の思想・法律・政策などは経済の仕組みや法則によってどのように影響され制度化されるのか、社会に埋め込まれた諸制度によって資本制経済はどのような変容を受けるのか、について説明します。本講義ではまた、欧米とアジアの市民社会の相違についても言及し、資本制市民社会がどのような方向に変化しようとしているかについても解説します。</p> <p>資本制経済の仕組みや法則、資本制市民社会の特質を概括的に理解し、それらの変化と将来像に関する基礎的な認識を得られるよう援助することが、この講義の基本的な課題であり、狙いです。概説的な基礎認識を獲得することが到達目標となります。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>序論的な解説を行う序章ののち、(1) 市場、(2) 貨幣の資本への発展、(3) 労働と資本、(4) 資本の蓄積と再生産、(5) 資本の流通、(6) 資本と利潤、(7) 資本の諸姿態、(8) 資本制社会とその変貌、という8つの章からなる本論について、その(1)から(4)までに重点をおいて講義をします。主な内容は以下の通りです。</p>
----------	--

第1回 講義紹介	序章 経済社会学と経済原論
第2回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : ミレニウム転換仮説と経済社会学	第2回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : 近代経済学と経済社会学
第3回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第4回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第4回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第5回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第5回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第6回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第6回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第7回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第7回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第8回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第8回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第9回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第9回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第10回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第10回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第11回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第11回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第12回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第12回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第13回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第13回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第14回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第14回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第15回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第15回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第16回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第16回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第17回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第17回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第18回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第18回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第19回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第19回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第20回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第20回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第21回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第21回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第22回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第22回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第23回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第23回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第24回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第24回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第25回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第25回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第26回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第26回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第27回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第27回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第28回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第28回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第29回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第29回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第30回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学
第30回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : マルクスの知的遺産	第31回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : マルクス経済学と経済社会学

準備学習	事前に配布するプリントを読み、参考書の関係箇所を読んでください。また、一定時期ごとに 出題する練習問題を解き、適宜実施する小テストに備えてください。
履修上の留意点	講義に出席して説明を聴き、ノートを作成し、たえず復習してください。
成績評価の方法	適宜実施する小テストと年度末の定期試験の結果を総合的に判断し、評価をします。
教科書/テキスト	教科書は使用しません。講義時に毎回プリントを配布し、講義を理解できるよう援助します。
参考書	大谷禎之介『図解・社会経済学』（桜井書店、3000円+税）
その他	毎時間プリントを配布します。プリントは翌週の講義時までは配りますが、それ以降は配布 しませんので、期間内にプリントを受け取ってください。YeStudyも活用します。

履修コード	119701
科目名	経済法
担当者名	若林 亜理砂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>経済法の中心をなす独占禁止法を理解することを目標とする。独占禁止法は、市場における競争秩序の維持をになうものであるが、これは事業者の活動にかかわるのみならず、私たち消費者の生活にも密着している。この点を念頭に置き、講義では、なるべく多くの事例を紹介することにより、独占禁止法の解釈や運用について具体的なイメージをもって理解できるように進める予定である。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>以下のスケジュールで講義を行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義全体の説明、独占禁止法の基礎概念 2 経済法の成立 3 独占禁止法の目的・基礎概念 4 不当な取引制限 (1) 5 不当な取引制限 (2) 6 不当な取引制限 (3) 7 不当な取引制限 (4) 8 事業者団体 9 私的独占 (1) 10 私的独占 (2) 11 私的独占 (3) 12 一般集中規制 (1) 13 一般集中規制 (2) 14 市場集中規制 (1) 15 市場集中規制 (2) 16 不公正な取引方法概論 17 不当な取引拒絶 (1) 18 不当な取引拒絶 (2) 19 不当な差別対価 20 不当な差別的取扱 21 不当廉売 22 ぎまんの顧客誘引 23 不当な利益による顧客誘引 24 抱き合わせ 25 排他条件付き取引 26 再販売価格維持 27 拘束条件付き取引 28 優越的地位の濫用・不当な取引妨害 29 公正取引委員会 30 私的エンフォースメント・刑事罰
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	初回の説明を必ず聞いてから履修するようにしてください。
成績評価の方法	期末試験により評価を行う。
教科書/テキスト	泉水文雄他 リーガルクエスト『経済法』(有斐閣 2010)
参考書	別冊ジュリスト (No. 199) 『経済法判例・審決百選』(有斐閣)

履修コード	143701
科目名	計量経済学
担当者名	呉 逸良

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現実の経済データを用いた例題を実際に解くことを通じて、計量経済学を学ぶ。パソコンを利用して演習を行うことにより、抽象的になりがちな計量経済学を分かりやすく理解し、実際のデータ分析の能力を身につける。
---------------------	---

授業スケジュール	(前期) Excelを利用して例題を解きながら、以下の内容を講義する。 (1) 統計学の基礎知識 (I) (2) 統計学の基礎知識 (II) (3) 統計学の基礎知識 (III) (4~8) 単純回帰モデル (9~11) 重回帰モデル (12・13) 非線形モデルの対応 (14・15) 回帰モデルの仮説検定 (I) (後期) TSPを利用して前期の例題を再計算することを通じて、TSPの扱いをマスターする。その上で、以下の内容を講義し、TSPを用いて演習を行う。 (16) 回帰モデルの仮説検定 (II) (17~19) TSPの基礎および練習 (20・21) Chow Testと予測 (22~24) ダミー変数 (25~27) 系列相関 (28・29) 復習 (30) テストと解説
----------	---

準備学習	統計学、数学の基礎
履修上の留意点	経済理論と経営数学をある程度勉強していること。
成績評価の方法	日頃の宿題、レポート、学期末試験の結果により総合的に判断する。期末試験は授業中に引き、試験での持ち込みは自由。
教科書/テキスト	白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの計量経済学』(日本評論社) 1999 2,800円(税別)
参考書	山本拓『計量経済学』(新世社) 藪谷千鳳彦『計量経済学』(東洋経済新報社) G.S. マダラ著・和合肇訳『計量経済分析の方法』(シーエーピー出版) 唯是康彦『Excelで学ぶ計量経済学入門』(東洋経済新報社) 縄田和満『Excelによる回帰分析入門』(朝倉書店) 藪谷千鳳彦等『パソコンによる数量分析・ExcelとTSP入門』(多賀出版) 縄田和満『TSPによる計量経済分析入門』(朝倉書店) 和合肇、伴金美『TSPによる経済データの分析』(東京大学出版会)

履修コード	143721
科目名	ゲーム理論A
担当者名	上條 良夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義ではゲーム理論の基礎を解説します。ゲーム理論は、利害対立関係にある複数の人々がお互いの意思決定を考慮に入れて行動をした際に起こる結果について分析するための理論です。経済学や経営学、心理学、生物学などの様々な分野において、ゲーム理論は有用な分析手法として用いられており、学際的な総合的理論の1つと見なされています。ゲーム理論を学ぶことは、他者がどのように考え、それが自分にどのような影響をもたらすかについて考える訓練にもなります。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 ゲーム理論とはどのような学問か? 第2回 ゲームの記述 第3~7回 標準型ゲーム 第8回 中間試験 第9~14回 展開型ゲーム 第15回 期末試験
準備学習	一次関数、二次関数、一次方程式、連立方程式、直線や曲線のグラフの作成、などに関する数学の知識が必要。簡単な関数の微分もできると好ましい。
履修上の留意点	授業に出席するだけでなく、教科書や参考文献を読んで自分の頭で考える事が重要になります。わからない事柄をそのままにして進まないように気をつけてください。
成績評価の方法	成績は中間試験と期末試験によって評価します。
教科書/テキスト	岡田章 著『ゲーム理論・入門』有斐閣アルマ
参考書	ギボンズ著『経済学のためのゲーム理論入門』創文社

履修コード	143731
科目名	ゲーム理論B
担当者名	上條 良夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では「ゲーム理論A」を既に受講したものととして、より発展的なトピックについての解説を行います。ゲーム理論Aよりも理論の応用方面にスポットを当てていく予定です。経済学や経営学、心理学、生物学などの様々な分野において、ゲーム理論は有用な分析手法として用いられており、学際的な総合的理論の1つと見なされています。ゲーム理論の応用を通じて戦略的思考方法を身につける事を目標としています。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 ゲーム理論の応用と社会的役割 第2回 ゲーム理論Aの復習 第3, 4回 進化ゲーム 第5, 6回 交渉ゲーム 第7回 中間試験 第8, 9, 10回 繰り返しゲーム 第11, 12回 オークション 第13, 14回 マッチングゲーム 第15回 期末試験
----------	--

準備学習	一次関数、二次関数、一次方程式、連立方程式、直線や曲線のグラフの作成、などに関する数学の知識が必要。簡単な関数の微分もできると好ましい。また、ゲーム理論Aの内容を理解していることが前提である。
------	--

履修上の留意点	授業に出席するだけでなく、教科書や参考文献を読んで自分の頭で考える事が重要になります。わからない事柄をそのままにして進まないように気をつけてください。
---------	---

成績評価の方法	成績は中間試験と期末試験によって評価します。
---------	------------------------

教科書/テキスト	特になし
----------	------

参考書	ギボンズ著『経済学のためのゲーム理論入門』創文社
-----	--------------------------

履修コード	139801
科目名	原価計算論
担当者名	岸田 隆行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	原価計算は特に製造業において必須の技術である。原価計算は一方で財務会計を支え、一方で管理会計を支えており、会計を学ぶものにとっては必ず習得しておかなければならない知識である。
---------------------	---

原価計算の計算理論はすべて企業の製造プロセスの実態を数字として表すにはどのようにすべきであるのかを理論化したものである。理論の背景には企業の製造プロセスや環境変化がある。単に公式を覚えて、計算ができるようになるだけでなく、実態を正確に表すためにはどのような計算方法をとるべきなのか、また、計算された数字がどのような意味を持つのか、自ら考えられるようになってもらいたい。
--

授業スケジュール	第1回：原価計算とはなにか、第2回：原価計算の機能と原価概念、第3回：工業簿記、第4～8回：費目別原価計算、第9～14回：製造間接費計算・部門別原価計算、第15回：中間試験、第16～18回：個別原価計算、第19～23回：総合原価計算、第24～26回：標準原価計算、第27～29回：直接原価計算、第30回：原価計算の近年の動向
----------	--

準備学習	1 年次履修科目の会計学および簿記学についての基礎的な知識を有していることを前提に講義を行う。特に仕訳から総勘定元帳への転記について理解した上で履修してもらいたい。また、原価計算は費目別原価計算から製品別原価計算までが一連のプロセスとして行われる。そのため、前の方で学習した内容が理解できていないと、後で学習する内容が理解できない。練習問題を解くなど、復習を欠かさないようにしてもらいたい。
------	---

履修上の留意点	原価計算を習得するためには自ら計算を行うことが必要である。講義では、例題を解いていくが、解答を丸写しするのではなく、自ら電卓をたたき、実際に計算をしてみる。また、随時小テストを行い、知識の定着をはかる。したがって、受講するにあたっては、必ず、電卓を持参すること。
---------	---

成績評価の方法	前期末に行う中間試験30点、年度末の定期試験70点に、講義中に随時行う小テストの結果を加味して評価する。
---------	--

教科書/テキスト	特に指定しない。毎回プリントを配布する。
----------	----------------------

参考書	講義の進行にしたがって、下記のテキストを自ら進めていくことが望ましい。 木島淑孝・高橋史安・吉川武男『コスト・アカウンティング・セミナー』(税務経理協会)
-----	--

履修コード	330701
科目名	原価計算論
担当者名	岸田 隆行

授業概要/到達目標 (ねらい)
 原価計算は特に製造業において必須の技術である。原価計算は一方で財務会計を支え、一方で管理会計を支えており、会計を学ぶものにとっては必ず習得しておかなければならない知識である。
 原価計算の計算理論はすべて企業の製造プロセスの実態を数字として表すにはどのようにすべきであるのかを理論化したものである。理論の背景には企業の製造プロセスや環境変化がある。単に公式を覚えて、計算ができるようになるだけでなく、実態を正確に表すためにはどのような計算方法をとるべきなのか、また、計算された数字がどういう意味を持つのか、自ら考えられるようになってもらいたい。

授業スケジュール
 第1回：原価計算とはなにか、第2回：原価計算の機能と原価概念、第3回：工業簿記、第4～8回：費目別原価計算、第9～14回：製造間接費計算・部門別原価計算、第15回：中間試験、第16～18回：個別原価計算、第19～23回：総合原価計算、第24～26回：標準原価計算、第27～29回：直接原価計算、第30回：原価計算の近年の動向

準備学習
 1 年次履修科目の会計学および簿記学についての基礎的な知識を有していることを前提に講義を行う。特に仕訳から総勘定元帳への転記について理解した上で履修してもらいたい。
 また、原価計算は費目別原価計算から製品別原価計算までが一連のプロセスとして行われる。そのため、前の方で学習した内容が理解できていないと、後で学習する内容が理解できない。練習問題を解くなど、復習を欠かさないようにしてもらいたい。

履修上の留意点
 原価計算を習得するためには自ら計算を行うことが必要である。講義では、例題を解いていくが、解答を丸写しするのではなく、自ら電卓をたたき、実際に計算をしてみる。また、随時小テストを行い、知識の定着をはかる。したがって、受講するにあたっては、必ず、電卓を持参すること。

成績評価の方法
 前期末に行う中間試験30点、年度末の定期試験70点に、講義中に随時行う小テストの結果を加味して評価する。

教科書/テキスト
 特に指定しない。毎回プリントを配布する。

参考書
 講義の進行にしたがって、下記のテキストを自ら進めていくことが望ましい。
 木島淑孝・高橋史安・吉川武男『コスト・アカウンティング・セミナー』（税務経理協会）

履修コード	139411
科目名	現代企業論
担当者名	糸久 正人

授業概要/到達目標 (ねらい)
 「企業」とは何か？トヨタ、ソニー、ユニクロ、パナソニック、DeNA、アップルなど、私たちの生活は企業が提供する製品/サービスによって支えられています。しかし、このような「企業」についてより深く考えてみると、だれが動かしているのか、どのような組織構造をしているのか、どのように効率的な経営がなされているのか、そもそもなぜ企業は存在しているのか等、必ずしも自明でない疑問が少なからず生じてくるかと思えます。現代社会においては重要な役割を担っている「企業」、このような「企業」についてより深く理解することを目的に、本講義では、歴史や理論だけにとどまらず、現代企業にかかわる日本及び世界の事例を通じて学習していきます。

授業スケジュール
 第1章：企業活動の実態
 第2章：株式会社論
 第3章：社会・経済・個人にとっての企業の役割
 第4章：日本における企業のあり方
 第5章：ベンチャー企業論
 第6章：現代企業に関わる諸トピック

準備学習
 各講義の目的/主要トピックに関して、自分の頭で徹底的に考えることで、本質を理解する努力をしてください。

履修上の留意点
成績評価の方法
 講義中に実施する小テストやレポート課題を40点分、期末試験60点分で評価を行う。

教科書/テキスト

参考書
 三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論』2006年〔新版補訂版〕、有斐閣アルマ、2000円。
 必ずしも購入しなくてもよいが、講義の内容をより正確に、かつ深く理解するためには、購入を奨励します。

履修コード	139421
科目名	現代企業論
担当者名	系久 正人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「企業」とは何か？トヨタ、ソニー、ユニクロ、パナソニック、DeNA、アップルなど、私たちの生活は企業が提供する製品/サービスによって支えられています。しかし、このような「企業」についてより深く考えてみると、だれが動かしているのか、どのような組織構造をしているのか、どのように効率的な経営がなされているのか、そもそもなぜ企業は存在しているのか等、必ずしも自明でない疑問が少なからず生じてくるかと思えます。現代社会においては重要な役割を担っている「企業」、このような「企業」についてより深く理解することを目的に、本講義では、歴史や理論だけにとどまらず、現代企業にかかわる日本及び世界の事例を通じて学習していきます。
---------------------	---

授業スケジュール	第1章：企業活動の実態 第2章：株式会社論 第3章：社会・経済・個人にとっての企業の役割 第4章：日本における企業のあり方 第5章：ベンチャー企業論 第6章：現代企業に関わる諸トピック
----------	---

準備学習	各講義ごとの目的/主要トピックに関して、自分の頭で徹底的に考えることで、本質を理解する努力をしてください。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	講義中に実施する小テストやレポート課題を30点分、期末試験70点分で評価を行う。
---------	--

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論』2006年〔新版補訂版〕、有斐閣アルマ、2000円。 必ずしも購入しなくてもよいが、講義の内容をより正確に、かつ深く理解するためには、購入を奨励します。
-----	---

履修コード	140801
科目名	公益企業論
担当者名	枝松 正行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 公益企業とは何か、概念として一般的に理解するだけでなく、100年に一度といわれる世界金融危機や1000年に一度といわれる大震災のなか、公益企業の歴史的役割を踏まえて公益企業の現状と課題、21世紀公益企業の在り方と国際公益について展望する。</p> <p>(到達目標) 公益企業の現状と課題を理解するばかりでなく、ますます深刻化する就職氷河期のなか、学生諸君各人が「バックキャストとマネジメントの基本的な考え方」をマスターし、公益性をふまえた理想の人生設計に向けて実践できるように指導する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>2011年3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所爆発事故は、公益企業それ自体のあり方と人間の生き方や社会のあり方そのものを問う大惨事となった。</p> <p>公益企業論は、もともと経済学や政治学、政策科学、法律学、財政学、行政学等々の学際協力を不可欠の条件とする経営学の部門科学であるが、震災後の講義では、ガイダンスに続く導入として、あえて学生諸君の人生設計に関する必修レポート作成指導から始める。</p> <p>講義内容の展開は、まず基本概念を再検討し、企業形態や政府の規制政策の在り方とも関連させて公益企業概念規定を提示する。次に、わが国公益企業の歴史を国際基軸通貨の200年史のなかに大きく位置づけ、市場と政府の役割をめぐる経済政策の転換によって公益企業改革の全体像を把握し、事業種ごとに公益企業の現状と課題を考える。</p> <p>(1) ガイダンス(東日本大震災によって壊滅した市民生活と公益企業という視点から) (2~3) バックキャストとマネジメントの考え方(必修レポートの作成指導) (4) 公益企業とはどういう企業か? (大災害や引越越しによって実感される公益事業分野) (5) 公益企業概念規定 (公益と私益・共益・協益・国益、公益と営利・非営利の関係など) (6) 公益企業に固有の組織特性と包括範囲(東京電力を事例として公益企業を考える) (7) 100年に一度の世界金融危機とは? (グローバル経済と日本経済の大きな認識枠組み) (8~10) 公益企業論の座標軸をなす国際基軸通貨の200年史と経済政策思想史 (11) 市場と政府の役割をめぐる世界の公益企業の二類型と日本公益企業の歴史的発展特性 (12) 80年代の中曽根「行革」の国鉄・電電公社・専売公社の分割民営化とバブル経済 (13) バブル崩壊後の2000年代の小泉「構造改革」の道路公団・郵政公社の分割民営化 (14~15) 電力産業と日本のエネルギー政策転換史にみる巨大利権の外圧と原発大惨事 (16~17) 民間鉄道事業の公益性と収益性および企業合併・買収 (18~19) 放送・情報通信事業の公益性と広告代理店および企業合併・買収 (20~21) 郵政公社の公益性と郵政公社分割民営化見直し政策の動向およびTPP交渉 (22~23) 道路公団分割民営化の功罪と高速道路無償化実験の動向および公益性 (24~25) 水道・水力発電事業の公益性とダム建設差し止め政策の公益性 (26~27) JAL再建・羽田空港国際化・日米オープンスカイ協定と格安航空の国際公益 (28~29) 脱原発・再生可能エネルギー政策の発送電分離とスマートグリッドの地球環境公益 (30) 期末試験</p>
----------	---

準備学習	参考図書を各自読み進め、公益企業を含む現実企業社会の動向について平日頃からメディア報道に留意し、毎回講義ノートを読み直して自分自身の疑問点や意見や考えをまとめ、次回授業までに質問・意見・要望等を準備しておくこと。
------	--

履修上の留意点	毎回出席を取る。質問や意見・要望は、所定カードで授業終了後に積極的に提出すること。次回授業の冒頭に匿名で紹介・応答し、可能な限り講義内容にも反映させていく。必ずノートを取り、復習を欠かさないこと。私の担当する「外書講読」や「社会科学論」の履修も勧める。
---------	--

成績評価の方法	必修レポートの提出を前提として、出席平常点(20%)と期末試験(80%)により総合的に評価する。
---------	--

教科書/テキスト	とくに指定しない。
----------	-----------

参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 副島隆彦著『「金・ドル体制」の終わり』祥伝社、2011年 2. 関岡英之著『国家の存亡』PHP新書、2011年 3. 古賀茂明著『日本中枢の崩壊』講談社、2011年 4. 本山美彦著『金融危機後の世界経済を見通すための経済学』作品社、2009年 5. 東谷暁著『増補民営化という虚妄』ちくま文庫、2008年 6. 上田慧・桜井徹編著『競争と規制の経営学』ミネルヴァ書房、2006年 7. 公益事業学会編『日本の公益事業』白桃書房、2005年 8. 直江重彦著『ネットワーク産業論(改訂版)』放送大学、2004年 9. OECD編・山本哲三訳『構造分離 公益事業の制度改革』日本経済評論社、2002年 10. 石井晴夫編著『現代の公益事業 規制緩和時代の課題と展望』NTT出版、1996年 11. 林敏彦編『公益事業と規制緩和』東洋経済新報社、1990年 12. 竹中龍雄著『公営公益企業論』千倉書房、1977年
-----	---

履修コード	142801
科目名	国際会計論
担当者名	河合 由佳理

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 従来、各国の会計制度はそれぞれの環境要因の制約を受け発展したため、会計に求められる役割・機能は異なっていました。しかし、経済活動の国際化を背景に近年、会計基準の国際的な統一に向けた動向が世界中で注目されています。本講義では、国際会計を巡る現状と課題を考察します。</p> <p>到達目標 本講義では会計基準の国際化の背景の確認、会計基準のコンバージェンス(収斂)及びアドプション(採用)に対する各国の対応を把握して、国際会計を巡る現状を学ぶことを目標とします。また、国際会計基準の具体的な検討を行うことにより、その特徴を学ぶことも目標とします。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際会計を学ぶ意義 2. 各国の会計制度の特徴 3. 国際会計を取り巻く環境 1 4. 国際会計を取り巻く環境 2 5. IFRSに対するEUの対応 1 6. IFRSに対するEUの対応 2 7. IFRSに対するアメリカの対応 1 8. IFRSに対するアメリカの対応 2 9. IFRSに対する日本の対応 1 10. IFRSに対する日本の対応 2 11. IFRSの特徴 1 12. IFRSの特徴 2 13. IFRSの概念フレームワーク 1 14. IFRSの概念フレームワーク 2 15. 前期の学習内容確認 16. 財務報告制度とIFRS 17. 財務諸表の表示 1 18. 財務諸表の表示 2 19. 包括利益 20. 棚卸資産 21. 有形固定資産 22. 無形資産 23. 企業結合 1 24. 企業結合 2 25. 資産の減損 26. 金融商品 1 27. 金融商品 2 28. 収益・費用 1 29. 収益・費用 2 30. IFRSを巡る今後の課題
----------	---

準備学習	状況の変化が激しい分野なので常に新聞等で最新の情報を確認する習慣をつけるようにしてください。
------	--

履修上の留意点	基本的な簿記・財務会計の知識を有するとともに、財務会計論を同時に履修又は既に履修していることが望ましい。
---------	--

成績評価の方法	学期末試験(6割)、レポート(2割)、平常点(2割)を基本に評価します。
---------	--------------------------------------

教科書/テキスト	平松一夫監修『IFRS国際会計基準の基礎(第2版)』中央経済社
----------	---------------------------------

参考書	<p>杉本徳栄『国際会計[改訂版]』同文館出版、2,000円、978-4-495-18572-5</p> <p>橋本尚・山田善隆著『IFRS会計学基本テキスト[第2版]』中央経済社、3,400円、978-4-502-23510-8</p>
-----	---

履修コード	142401
科目名	国際経営論
担当者名	深澤 琢也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義の目的は、企業の国際化、多国籍化の動因および国際経営上の諸問題を理解するためのツールとなる諸理論、パースペクティブを学習することにある。多国籍企業における経営戦略上の課題、解決策について検討する。
---------------------	---

授業スケジュール	以下は授業スケジュールである（進行状況にあわせて変更あり）。
----------	--------------------------------

前期

- ①ガイダンス
- ②国際経営はどのように捉えられてきたか
- ③④⑤企業活動の国際展開の論理
- ⑥内部化理論と取引コスト
- ⑦グローバル企業を取り巻く多様な国際環境と戦略
- ⑧中間演習
- ⑨⑩国際化のモード
- ⑪⑫グローバル経営組織
- ⑬⑭本社と海外子会社関係とその変遷
- ⑮前期まとめ

後期

- ①ガイダンス
- ②前期の復習
- ③④グローバル統合とローカル適応の論理
- ⑤⑥トランスナショナル経営
- ⑦グローバル・イノベーションとナレッジ・マネジメント
- ⑧中間演習
- ⑨⑩グローバルR&Dマネジメント
- ⑪グローバル戦略提携のマネジメント
- ⑫グローバル人的資源のマネジメント
- ⑬リージョナル・マネジメント
- ⑭グローバル経営における文化
- ⑮まとめ

準備学習	日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し問題意識を持つ。
------	----------------------------------

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻および講義中の私語は厳禁。 ・講義中に適宜資料を配布する。 ・国際経営論と併せて受講することを推奨する。
---------	---

成績評価の方法	学期末試験と課題（グループ演習、個人演習、レポートなど）を基本に総合的に評価する。詳しくは第1回のガイダンスにて説明するので必ず出席すること。第1回のガイダンスに出席できない学生は、受講資格を失う。特別な理由で出席できない学生は事前に相談すること。
---------	--

教科書/テキスト	とくに指定しない
----------	----------

参考書	浅川和宏著『グローバル経営入門』2003年刊（日本経済新聞社）2,800円
-----	---------------------------------------

履修コード	141701
科目名	国際経済論
担当者名	田中 鮎夢

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	国際経済学の入門的講義を行います。国際経済学は、ミクロ経済学・マクロ経済学を応用して、国際貿易・国際金融を分析する学問です。
---------------------	--

授業スケジュール	教科書に沿って、下記のように講義を行います。
----------	------------------------

- 第I部 国際貿易論
 第1章 国際貿易論へのいざない (1～2回)
 第2章 リカード・モデル (3～4回)
 第3章 ヘクシャー＝オリーソン(HO)・モデル (5～6回)
 第4章 新しい国際貿易の理論 (7～8回)
 第5章 空間の中での国際貿易 (9～10回)
 第6章 貿易政策 (11～12回)
 第7章 国際的な生産要素移動と貿易の利益 (13～14回)
 まとめ (15回)
- 第II部 国際金融論
 第8章 国際金融論へのいざない (16～17回)
 第9章 外国為替取引 (18～19回)
 第10章 為替レート決定の諸理論 (20～21回)
 第11章 経常収支の決定理論 (22～23回)
 第12章 国際マクロ経済政策 (24～25回)
 第13章 国際資本移動・国際資本市場とリスクシェアリング (26～27回)
 第14章 様々な為替相場制度とその選択 (28～29回)
 まとめ (30回)

・可能であれば、教科書第III部についても講義を行います。

- 第III部 開発経済学
 第15章 開発経済学へのいざない
 第16章 債務危機と通貨危機

準備学習	ミクロ経済学・マクロ経済学の知識があると役に立ちます。
------	-----------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	学年末の定期試験 (50%)、毎回の課題 (50%)
---------	----------------------------

教科書/テキスト	澤田康幸 (2003) 『基礎コース 国際経済学』新世社、定価: 2,730円 (本体2,600円 + 税)、ISBN: 978-4-88384-061-8。
----------	---

参考書	若杉隆平 (2009) 『国際経済学 第3版』岩波書店、定価: 2,730円 (本体 2,600円 + 税)、ISBN: 978-4-00-026699-4。 若杉隆平編 (2011) 『現代日本企業の国際化: パネルデータ分析』岩波書店、定価: 6,930円 (本体 6,600円 + 税)、ISBN: 978-4-00-022782-7。
-----	--

履修コード	140351
科目名	サービス経営論
担当者名	高畑 泰

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	サービス産業は特に先進国において非常に重要な地位を占めている。しかしながら、一般的なビジネス研究は製造業が中心であるため、サービスを中心に据えた本講義は大きな意味を持つ。本講義では、そもそもサービスとは何かを理解した上で、通常のビジネスとサービスを提供するビジネスとの差異は何か、を理解することを目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回: サービスを学ぶ意義、第2～3回: サービス・プロセスの理解、第4～5回: 顧客コンタクト、第6～7回: 顧客から見たサービス、第8～9回: 生産性とクオリティ、第10～11回: 顧客ロイヤルティの構築、第12回～13回: サービス・リカバリー、第14～15回: サービスのデザイン、第16～17回: 補足的サービス要素、第18～19回: サービス・デリバリー、第20～21回: サービスの価格、第22回～23回: 顧客エデュケーション、第24～25回: 需要と供給のマネジメント、第26～27回: 行列と予約、第28～29回: サービス従業員の管理、第30回: 総括
----------	--

準備学習	サービスの視点からビジネス関連の記事を読むようにして下さい。また、アルバイトでサービスに従事している人が多いと思いますので、自分のアルバイトの仕事内容について常に検討することが一番有用でしょう。
------	---

履修上の留意点	ネット上のニュース・サイトなどで、常に最新のビジネス・シーンに触れるようにしましょう。
---------	---

成績評価の方法	学期末試験により評価します。
---------	----------------

教科書/テキスト	C. ラブロック、L. ライト『サービス・マーケティング原理』白桃書房、3,900円、ISBN978-4-561-65127-7
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	141601
科目名	財政学
担当者名	速水 昇

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>私たちの日常生活は、そのほとんどの側面で直接・間接的に政府の経済活動の恩恵を受けている。例えば、出掛けに傘を持っていくべきか否かは、適確な天気予報によって判断できるし、病気や怪我をしたときにかかる医療費は医療保険のおかげで実際に支払った額の数割程度ですむ。また、道路・港湾などの社会資本整備は公共部門が供給しているなど、政府はさまざまな役割を担っている。</p> <p>さらに最近の景気低迷、国債の累積残高、高齢化社会、規制緩和など政府が解決しなければならない問題が非常に多い。このような問題を納税者としての立場、あるいは日本国民としての立場から考えていくことが必要であるという認識に立って授業を行う。</p> <p>なお、公務員試験、入社試験において財政学の問題が非常に多く出題されているので、授業で講義した内容に関する問題の小テストを行って、授業の理解度を確認する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p><前期></p> <p>1週 財政とは何か 2週 政府の役割 3週 公共財 4週 外部性 5週 所得の再分配 6週 経済の安定 7週 予算原則と機能 8週 予算過程 (編成・審議) 9週 予算過程 (執行・決算) 10週 歳出論 (国債費) 11週 地方交付税交付金 12週 社会保障関係費 13週 公共事業関係費 14週 文教及び科学振興費・防衛関係費 15週 中小企業関係費・その他歳出</p>
----------	--

	<p><後期></p> <p>1週 歳出論 (税外収入) 2週 所得税 3週 贈与税と相続税 4週 法人税 5週 消費税 6週 たばこ税と酒税 7週 その他税収入 8週 国税と地方税の関係 9週 財政政策 (国民所得の三面等価の原則) 10週 財政政策 (インフレ・デフレギャップの図解) 11週 財政政策財政政策 (均衡国民所得の図解・節約のパラドックス) 12週 財政政策財政政策 (租税乗数と均衡予算乗数) 13週 財政政策開放経済における政府支出乗数・租税乗数 14週 経常収支の黒字に内需拡大作が要請される背景 15週 質疑応答</p>
--	---

準備学習	授業ノートを確認し、わからないことがあれば必ず確認してください
履修上の留意点	学生として当然のことだが、テキスト・ノートは必ず持参すること。小テストは10回程度予定しているので出席に自信のある学生を希望する (小テストを受けていない学生は授業に出席していないとみなし、成績評価の対象外としますのでご注意ください)
成績評価の方法	試験 (60点)、授業中の小テスト・レポート (40点)
教科書/テキスト	青木一郎著 『財政学』 改訂版 学文社
参考書	速水 昇・和田直久・水野恵子著 『公共部門の経済学と租税』 学文社

履修コード	333301
科目名	財政学
担当者名	速水 昇

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>私たちの日常生活は、そのほとんどの側面で直接・間接的に政府の経済活動の恩恵を受けている。例えば、出掛けに傘を持っていくべきか否かは、適確な天気予報によって判断できるし、病気が怪我をしたときにかかる医療費は医療保険のおかげで実際に支払った額の数割程度ですむ。また、道路・港湾などの社会資本整備は公共部門が供給しているなど、政府はさまざまな役割を担っている。</p> <p>さらに最近の景気低迷、国債の累積残高、高齢化社会、規制緩和など政府が解決しなければならない問題が非常に多い。このような問題を納税者としての立場、あるいは日本国民としての立場から考えていくことが必要であるという認識に立って授業を行う。</p> <p>なお、公務員試験、入社試験において財政学の問題が非常に多く出題されているので、授業で講義した内容に関する問題の小テストを行って、授業の理解度を確認する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1週 財政とは何か 2週 政府の役割 3週 公共財 4週 外部効果 5週 所得の再分配 6週 経済の安定 7週 予算原則と機能 8週 予算過程 (編成・審議) 9週 予算過程 (執行・決算) 10週 歳出論 (国債費) 11週 地方交付税交付金) 12週 社会保障関係費 13週 公共事業関係費 14週 文教及び科学振興費・防衛関係費 15週 中小企業関係費・その他歳出 <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1週 歳出論 (税外収入) 2週 所得税 3週 贈与税と相続税 4週 法人税 5週 消費税 6週 たばこ税と酒税 7週 その他税収入 8週 国税と地方税の関係 9週 財政政策 (国民所得の三面等価の原則) 10週 財政政策 (インフレ・デフレギャップの図解) 11週 財政政策財政政策 (均衡国民所得の図解・節約のパラドックス) 12週 財政政策財政政策 (租税乗数と均衡予算乗数) 13週 財政政策開放経済における政府支出乗数・租税乗数 14週 経常収支の黒字に内需拡大作が要請される背景 15週 質疑応答
----------	--

準備学習	授業ノートを確認し、わからないことがあれば私に聞きに来てください
履修上の留意点	学生として当然のことだが、テキスト・ノートは必ず持参すること。小テストは10回程度予定しているので出席に自信のある学生を希望する (小テストを受けていない学生は授業に出席していないとみなし成績評価の対象外としますのでご注意ください)
成績評価の方法	試験 (60点)、授業中の小テスト・レポート (40点)
教科書/テキスト	青木一郎著 『財政学』 学文社
参考書	速水 昇・和田尚久・水野恵子著 『公共経済と租税』 学文社

履修コード	142201
科目名	財務会計論
担当者名	桑原 正行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本授業は、財務会計における基礎的な知識を習得するとともに、企業が公表する財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書）に対する理解を深め、企業がどのような経営成績・財政状態にあるかを理解することを目的としている。具体的には、企業の実際の財務諸表を使用し、基本的な分析指標を理解することによって、企業に対する分析力を身につけ、数字による企業の業績評価ができるようになることを目的としている。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回：ガイダンス・複式簿記の基礎概念 第2回：財務諸表総論－特徴と種類－ 第3回：我が国の企業会計制度 第4～7回：貸借対照表における基礎概念 第8～9回：損益計算書における基礎概念 第10～11回：財務諸表分析 第12～13回：キャッシュ・フロー計算書 第14回：事例研究①、 第15回：中間テスト 第16回：事例研究② 第17～18回：連結財務諸表 第19回：金融商品の時価会計・減損会計 第20回：退職給付会計・リース会計 第21回：研究開発費・ソフトウェア会計 第22回：企業結合会計 第23回：外貨換算会計 第24～25回：国際会計基準の特徴 第26～27回：税務会計における基礎概念 第28回：税効果会計 第29回：中小会社における会計 第30回：株式投資指標と財務諸表－PER・PBR・配当性向等－</p>
----------	--

準備学習	授業の時に、その都度指示する。
------	-----------------

履修上の留意点	簿記学と会計学を履修していることが望ましい。 授業では教科書の他に、資料を用意して解説をします。教科書は必ず使用するので、購入しておいてください。また、電卓も各自用意しておくこと。
---------	---

成績評価の方法	中間テスト 35% 期末試験 45% 出席 10% その他（適宜授業中に提出するもの等）10%
---------	---

教科書／テキスト	大塚宗春・福島隆・金子良太・菅野浩勢著『テキスト入門会計学』中央経済社 2600円
----------	---

参考書	授業の時に、その都度示します。
-----	-----------------

履修コード	332201
科目名	財務会計論
担当者名	桑原 正行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本授業は、財務会計における基礎的な知識を習得するとともに、企業が公表する財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書）に対する理解を深め、企業がどのような経営成績・財政状態にあるかを理解することを目的としている。具体的には、企業の実際の財務諸表を使用し、基本的な分析指標を理解することによって、企業に対する分析力を身につけ、数字による企業の業績評価ができるようになることを目的としている。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回：ガイダンス・複式簿記の基礎概念 第2回：財務諸表総論－特徴と種類－ 第3回：我が国の企業会計制度 第4～7回：貸借対照表における基礎概念 第8～9回：損益計算書における基礎概念 第10～11回：財務諸表分析 第12～13回：キャッシュ・フロー計算書 第14回：事例研究①、 第15回：中間テスト 第16回：事例研究② 第17～18回：連結財務諸表 第19回：金融商品の時価会計・減損会計 第20回：退職給付会計・リース会計 第21回：研究開発費・ソフトウェア会計 第22回：企業結合会計 第23回：外貨換算会計 第24～25回：国際会計基準の特徴 第26～27回：税務会計における基礎概念 第28回：税効果会計 第29回：中小会社における会計 第30回：株式投資指標と財務諸表－PER・PBR・配当性向等－
----------	---

準備学習	授業の時に、その都度指示する。
------	-----------------

履修上の留意点	簿記学と会計学を履修していることが望ましい。 授業では教科書の他に、資料を用意して解説をします。教科書は必ず使用するので、購入しておいてください。また、電卓も各自用意しておくこと。
---------	---

成績評価の方法	中間テスト 35% 期末試験 45% 出席 10% その他（適宜授業中に提出するもの等）10%
---------	---

教科書／テキスト	大塚宗春・福島隆・金子良太・菅野浩勢著『テキスト入門会計学』中央経済社 2600円
----------	---

参考書	授業の時に、その都度示します。
-----	-----------------

履修コード	141181
科目名	サプライチェーン・マネジメントA
担当者名	飯田 哲夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 我々が手にする製品の多くは、製品開発・原材料の調達・生産・物流・販売などの一連の諸活動を経て供給されています。そして、近年の競争環境により、企業は、消費者の望む高品質な製品を、適切な場所・時間に効率的に提供することを、ますます求められています。そのために、一連の供給プロセスの効率化や取り巻く環境の不確実性への適切な対応などが必要であり、様々な管理技術が発達しています。同時に、近年の情報技術の発展・普及により、それらの活用範囲は、より一層広がってきています。サプライチェーン・マネジメントAでは、それらの管理技術に関する理論と方法について学びます。</p> <p>(到達目標) サプライチェーン・マネジメントの基礎的な知識と要素技術を習得し、サプライチェーン・マネジメントBへと発展させるための基盤を形成することです。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 サプライチェーン・マネジメントの基本的概念</p> <p>第3回 サプライチェーン・マネジメントの戦略的視点</p> <p>第4回 サプライチェーン・マネジメントの課題</p> <p>第5回 需要予測(1): 簡便な予測方法</p> <p>第6回 需要予測(2): 時系列分析</p> <p>第7回 需要予測(3): 予測手法の評価、演習課題</p> <p>第8回 需給管理(1): 階層的アプローチ</p> <p>第9回 需給管理(2): 総合生産計画と基準生産計画</p> <p>第10回 需給管理(3): 演習課題</p> <p>第11回 在庫管理(1): 在庫の分類および費用</p> <p>第12回 在庫管理(2): 代表的な在庫管理方式(1)</p> <p>第13回 在庫管理(3): 代表的な在庫管理方式(2)</p> <p>第14回 在庫管理(4): 演習課題</p> <p>第15回 まとめ</p>
----------	--

準備学習	前回の授業内容を復習し、当日の授業についても、配布したプリント等を見て、予習しておくこと。授業内容に関連する新聞や雑誌の記事に適宜目を通しておくこと。
------	---

履修上の留意点	経営科学概論、マネジメント・サイエンスA・Bを履修済み、または同時に履修することが望ましい。また、Excelを用いたレポート課題を出します。
---------	--

成績評価の方法	数回出す予定のレポート課題および定期試験をもとに、授業への参加状況を加味して評価します。
---------	--

教科書/テキスト	適宜、プリントを配布します。
参考書	

履修コード	141191
科目名	サプライチェーン・マネジメントB
担当者名	飯田 哲夫

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) サプライチェーン・マネジメントBでは、サプライチェーン・マネジメントAに引き続き、サプライチェーン分析や計画立案を行うための理論と方法論についてさらに学びます。</p> <p>(到達目標) サプライチェーン・マネジメントAで学んだ事を基礎に、さらに、サプライチェーン・マネジメントの理論と方法論に関する知識とスキルを習得することです。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	第1回 インTRODクシヨN 第2回 情報共有とその効果(1): 情報の種類と情報共有の阻害要因 第3回 情報共有とその効果(2): 弊効果と対策 第4回 サプライチェーンにおける協働 第5回 調達管理(1): 分析フレームワーク 第6回 調達管理(2): サプライヤー管理、サプライヤーとの協働 第7回 調達管理(3): 演習課題 第8回 ロジスティクス管理(1): サプライチェーン・ネットワーク設計 第9回 ロジスティクス管理(2): 演習課題(1) 第10回 ロジスティクス管理(3): 在庫配置、輸送方法 第11回 ロジスティクス管理(4): 演習課題(2) 第12回 マス・カスタマイゼーション(1): マス・カスタマイゼーションの方法 第13回 マス・カスタマイゼーション(2): 遅延差別化、受注生産 第14回 最近の話題 第15回 まとめ
----------	--

準備学習	前回の授業内容を復習し、当日の授業についても、配布したプリント等を見て、予習しておくこと。授業内容に関連する新聞や雑誌の記事に適宜目を通しておくこと。
------	---

履修上の留意点	サプライチェーン・マネジメントAの履修を前提とします。経営科学概論、マネジメント・サイエンスA・Bを履修済み、または同時に履修することが望ましい。また、Excelを用いたレポート課題を出します。
---------	---

成績評価の方法	数回出す予定のレポート課題および定期試験をもとに、授業への参加状況を加味して評価します。
---------	--

教科書/テキスト	適宜、プリントを配布します。
----------	----------------

参考書	
-----	--

履修コード	136251
科目名	市場戦略概説
担当者名	兼村 栄哲

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>企業は市場に対して戦略的に対応することが必要不可欠である。たとえ、いかに有能な人材、すぐれた生産設備、豊富な資金力、高い技術力等を有していたとしても、その商品を通じて市場のニーズを充足し、市場から高い支持を獲得することができなければ、存続していくことは不可能である。</p> <p>本授業は、市場に対する企業の戦略的な対応のあり方について、マーケティング・マネジメント論を中心に説明していく。</p> <p>(到達目標)</p> <p>本授業のねらいは、履修者一人ひとりが、マーケティング・マネジメント論における基本的な概念および理論などを正確に理解し、市場に対する企業の戦略的な対応のあり方について、自分なりに論理的に説明できるようにすることにある。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティングの意義 2. 基本的な用語 (その1) -市場、ニーズ・欲求・需要- 3. 基本的な用語 (その2) -財とサービス、商品- 4. 基本的な用語 (その3) -生産者・商業者・消費者- 5. 基本的な用語 (その4) -企業と事業所、消費財と産業財- 6. 基本的な用語 (その5) -競争、戦略と戦術- 7. マーケティング・コンセプト (その1) -消費者志向- 8. マーケティング・コンセプト (その2) -利潤志向、統合性- 9. 企業におけるマーケティングの役割-経営戦略とマーケティング戦略- 10. マーケティング・マネジメント・プロセス (その1) -市場機会の分析- 11. マーケティング・マネジメント・プロセス (その2) -標的市場の設定、ポジショニング- 12. マーケティング・マネジメント・プロセス (その3) -マーケティング目標の設定、マーケティング計画の策定、マーケティング組織の編成、 マーケティング計画の実施、マーケティング統制- 13. マーケティング・リサーチ 14. 製品政策 (その1) -製品の意義・構造・構成要素- 15. 前期の復習 16. 製品政策 (その2) -ブランド- 17. 製品政策 (その3) -新製品の意義・普及過程- 18. 製品政策 (その4) -新製品開発のプロセス- 19. 製品政策 (その5) -製品ミックス- 20. 価格政策 (その1) -価格設定- 21. 価格政策 (その2) -価格管理- 22. プロモーション政策 (その1) -広告活動- 23. プロモーション政策 (その2) -人的販売活動- 24. プロモーション政策 (その3) -販売促進活動- 25. プロモーション政策 (その4) -パブリシティ活動- 26. チャネル政策 (その1) -商流チャネルと物流チャネル- 27. チャネル政策 (その2) -卸売業者と小売業者の類型化- 28. チャネル政策 (その3) -チャネルの設定- 29. チャネル政策 (その4) -チャネルの管理- 30. 後期の復習
----------	--

準備学習 事前に配布された印刷物などに目を通しておくこと。

履修上の留意点

- ・授業中に印刷物を配布することがあるが、この印刷物は当該授業時間内にしか配布しない。やむを得ない事情により、印刷物配布時に欠席した場合には、次回授業までに知人に印刷物をコピーさせてもらうこと。
- ・携帯電話や私語など、授業の妨げになるような行為は絶対にしてはいけないこと。
- ・進捗状況が芳しくない場合には、補講期間中に補講をおこなう。

履修登録する際には、この点を踏まえて登録すること。

成績評価の方法 定期試験の成績70%、平常点30%

教科書/テキスト なし (配布する印刷物に基づいて、授業を進めていく)。

参考書

廣田章光・石井淳蔵 (編著) 『1からのマーケティング』 [第2版] 中央経済社, 2,520円,
ISBN: 4-502-37680-9。
宮澤永光・亀井昭宏 (監修) 『マーケティング辞典』 [改訂版] 同文館, 2,940円,
ISBN: 4-495-63492-5。
その他については、適宜紹介する。

履修コード	140901
科目名	上級簿記
担当者名	矢島 正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 企業活動の経済的側面について最も優れた情報源は企業の会計が生み出す会計報告書である。しかし、この会計報告書は、複式簿記の知識がないと正確には読み取ることができない。複式簿記は、企業の財政状態や経営成績を知るうえで不可欠な知識となる。 この講義では、日商簿記検定試験2級レベルの複式簿記(株式会社会計、決算手続、本支店会計)について学ぶ。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、複式簿記の全体像の簿記学レベルの知識を前提に、株式会社における会計処理の高度な理解へ発展させ、株式会社会計の帳簿記入を通じて、経営活動において求められる簿記経理処理の能力を向上させるための知識を習得することである。 つまり、複式簿記の基本となる資産・負債・純資産・収益・費用の基本概念を理解し、さらに各勘定科目の処理・株式会社会計・財務諸表の作成など簿記会計上の高度な内容を学習し、知識やスキルを習得し、日商簿記検定試験2級に対応できる力を養うことである。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 現金預金(1) 第2回 現金預金(2) 第3回 手形(1) 第4回 手形(2) 第5回 有価証券(1) 第6回 有価証券(2) 第7回 固定資産(1) 第8回 固定資産(2) 第9回 引当金 第10回 一般商品売買取引(1) 第11回 一般商品売買取引(2) 第12回 一般商品売買取引(3) 第13回 特殊商品売買取引(1) 第14回 特殊商品売買取引(2) 第15回 前期まとめ 第16回 株式会社の資本金(1) 第17回 株式会社の資本金(2) 第18回 繰延資産 第19回 税金 第20回 社債(1) 第21回 社債(2) 第22回 決算…[精算表] 第23回 決算…[英米式と大陸式] 第24回 決算…[損益計算書と貸借対照表] 第25回 本支店会計(1) 第26回 本支店会計(2) 第27回 伝票会計 第28回 特殊仕訳帳(1) 第29回 特殊仕訳帳(2) 第30回 後期まとめ、期末試験について</p>
----------	--

準備学習	簿記学で学習した内容を復習しておくこと。 毎回の授業開始前に前週の授業内容を復習しておくこと。
履修上の留意点	必ず電卓を用意すること。
成績評価の方法	出席・課題(30%)、期末テスト(70%)によって評価するが、そのほかに、在学中に日商簿記検定試験2級合格(入学前の合格は認めない)、講義の取り組み等においても期末の評価に加点する。
教科書/テキスト	講義時に資料等を配布する。
参考書	特に使用しない。適宜プリントと資料を配布する。 検定試験を受験する場合は、各自模擬試験問題集等を購入すること。
その他	課題はYeStudyを活用する。 是非、日商簿記検定2級合格をめざそう。

履修コード	140301
科目名	商業経営論
担当者名	石川 和男
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	人は日々にモノやサービスを購入し生活している。またこれらの活動なしには人々の生活が成立しなくなっている。本講義では主に人々(消費者)にモノやサービス(特にモノ)を販売する主体(商業者)の行動を取り上げる。分野として大きく分けると4つの分野から構成されている。1) 商業・流通の概念とその機能、2) 商業者(流通業者)の現状とその行動、3) 販売に関する技術と方法、4) 商業者を取り巻く外部環境と内部環境についてである。これら4つの面から多面的に商業者の組織的行動である「商業経営」をとらえてもらえればと考えている。また受講生には受け身の姿勢ではなく、積極的に疑問に思い、解決を探る姿勢が身につけられるように期待したい。
授業スケジュール	1 開講にあたって(受講上の諸注意)、2 商業とは、流通とは(商業概念、流通概念)、3 流通機能と流通機構、4 流通機能I(商的流通と物的流通)、5 流通機能II(流通情報と流通情報システム)、6 流通補助機関の役割、7 小売とその営業形態、8 小売業の構造と変化、9 小売マーケティング、10 卸売とその営業形態、11 卸売業の構造と変化、12 卸売マーケティング、13 卸売マーケティングの事例、14 予算管理と販売管理、15 商品回転率と価格政策、16 仕入管理と売買契約、17 在庫管理、18 消費者行動の変化、19 商業立地と商業集積、20 商業・流通を取り巻く法的環境、21 流通政策I(競争政策と振興政策)、22 流通政策II(調整政策)、23 中小零細商業者問題、24 中小零細商業者の将来、25 日本の商業環境と商慣行I、26 日本の商業環境と商慣行II、27 これまでの講義のまとめ (なお、講義の順序については入れ替わる場合がある)
準備学習	マーケティング論、経営学などの基本書に目を通しておくこと。 また、図書館に所蔵されている商業論、流通論などの図書にも目を通しておくことが望まれる。日頃から、新聞には目を通し、個別企業の動き、特に流通業(卸売業、小売業)の動向について関心を持って読んでおくことが望まれる。
履修上の留意点	1 遅刻、早退、中抜けをしない 2 授業中は携帯電話の電源を切る(発見した場合は出席点を0とする) 3 他人との会話などを授業中はしない 4 帽子の着用、飲食しないなど最低限のマナーは守る 5 公欠の取り扱い(運動部の人は必ず公式試合などの場合は提出のこと) 6 就職活動のセミナーや説明会への出席の場合は、授業出席とはしない 7 授業中、パソコンでノートをとることは禁止する 8 その他 ・第1回目の授業時に詳細な注意事項を書いたプリントを配付する
成績評価の方法	授業への参加意欲(出席点) 約30% 中間レポートまたは中間試験 約30% 期末試験 約40% 授業中の発言によるボーナス加点 授業中にミニレポートを突然課すこともある(加点) 年度内に販売士試験2級に合格した者は加点
教科書/テキスト	尾崎・野本・石川(2007)『流通業のマーケティング』五紘舎
参考書	石川和男(2007)『基礎からの商業と流通(第2版)』中央経済社 鈴木安昭(2004)『新・流通と商業(第3版)』有斐閣 小宮路雅博編著(1997)『現代の小売流通』同文館
その他	第1回目の授業時に詳細な説明を行うので、必ず第1回目の授業から出席のこと。 連絡方法は、授業時に指示する。

履修コード	142301
科目名	商業史
担当者名	山田 勝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	大変革の渦中にある現下の商業経営を、歴史的視点から見つめ直し、変革の方向と意味を考える。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(A) 生産主導の商業</p> <p>(1) 商業史の意義と講義の目的 (第1～3回)</p> <p>(2) パラダイムの発展 (第4回)</p> <p>(3) 利益と継続性 (第5～8回)</p> <p>(4) 商品と市場 (第9～12回)</p> <p>(5) 大衆消費社会の特徴 (第13～15回)</p> <p>(B) 需要主導の商業</p> <p>(1) 消費スタイルの変化 (第16～18回)</p> <p>(2) 充足から満足度重視へ (第19～20回)</p> <p>(3) 多様化の要因 (第21～22回)</p> <p>(4) 「サービス」商品の特徴 (第23～24回)</p> <p>(5) IT革命と商業経営 (第25～27回)</p> <p>(6) 生活(文化)の変革と商業 (第28～30回)</p>
----------	---

準備学習	各回の対象となるテキストの範囲をあらかじめ精読し、前回までの授業内容との関係を考えてみる。
------	---

履修上の留意点	その上で授業を聴くようにすることによって、自分の商業史観がまとめやすくなります。
---------	--

成績評価の方法	定期試験による。
---------	----------

教科書/テキスト	山田勝『商業史概論(増補版)』(創成社)3,000円(消費税別)
----------	----------------------------------

参考書	講義の中で、参考書などは随時紹介していきます。
-----	-------------------------

その他	日頃から、新聞・雑誌を通して経済・商業・経営の現状を理解するようにしてください。
-----	--

履修コード	331501
科目名	商業史
担当者名	山田 勝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	大変革の渦中にある現下の商業経営を、歴史的視点から見つめ直し、変革の方向と意味を考える。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(A) 生産主導の商業</p> <p>(1) 商業史の意義と講義の目的 (第1～3回)</p> <p>(2) パラダイムの発展 (第4回)</p> <p>(3) 利益と継続性 (第5～8回)</p> <p>(4) 商品と市場 (第9～12回)</p> <p>(5) 大衆消費社会の特徴 (第13～15回)</p> <p>(B) 需要主導の商業</p> <p>(1) 消費スタイルの変化 (第16～18回)</p> <p>(2) 充足から満足度重視へ (第19～20回)</p> <p>(3) 多様化の要因 (第21～22回)</p> <p>(4) 「サービス」商品の特徴 (第23～24回)</p> <p>(5) IT革命と商業経営 (第25～27回)</p> <p>(6) 生活(文化)の変革と商業 (第28～30回)</p>
----------	---

準備学習	各回の対象となるテキストの範囲をあらかじめ精読し、前回までの授業内容との関係を考えてみる。
------	---

履修上の留意点	その上で授業を聴くようにすることによって、自分の商業史観がまとめやすくなります。
---------	--

成績評価の方法	定期試験による。
---------	----------

教科書/テキスト	山田勝『商業史概論(増補版)』(創成社)3,000円(消費税別)
----------	----------------------------------

参考書	講義の中で、参考書などは随時紹介していきます。
-----	-------------------------

その他	日頃から、新聞・雑誌を通して経済・商業・経営の現状を理解するようにしてください。
-----	--

履修コード	142001
科目名	証券市場論
担当者名	勝田 佳裕

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「証券」そのものに焦点を当て、「市場」で取引されることの意義や諸現象ならびに市場の仕組みについて理解することを目標とする。「証券とはなにか」といった原理的な論点から始め、本来の意味での「証券市場」の理解を目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 株式会社 2. 証券の流通 3. 証券価格の形成 4. 証券発行市場 5. 証券流通市場 6. 証券業と証券会社 7. 金融資産の累積と機関投資家 8. 株式所有構造の変化と企業買収 9. デリバティブ 10. 証券行政と証券政策
----------	---

上記内容をテキストに沿って1年を通して講義する予定である。
詳細は初回の授業時に説明するので、必ず出席すること。

準備学習	新聞に目を通す。
履修上の留意点	証券や金融市場に関連するニュースや新聞での報道に関心を持って欲しい。その上で、疑問点や不明な用語等があれば積極的に質問してもらいたい。
成績評価の方法	レポート及び学年末の定期試験によって評価する。 配点は、定期試験が80点、レポートが20点。
教科書/テキスト	二上季代司・代田純編著『証券市場論』（有斐閣）
参考書	代田純編著『金融危機と証券市場の再生』（同文館） 代田純編著『日本の国債・地方債と公的金融』（税務経理協会）

履修コード	143231
科目名	消費者行動論
担当者名	菅野 佐織

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	企業が効果的なマーケティング活動を行うためには、消費者のニーズや行動についての深い理解と適切な分析が不可欠です。本講義では、そうした消費者のニーズや行動を理解するための理論や分析枠組みについて体系的に学ぶと共に、身近な事例やケーススタディを通して、消費者行動分析の活用についても理解を深めていく予定です。また、受講生自身が、自らを消費者としてインサイト（洞察）する場にもしていきたくと考えます。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンス 2～15. 消費者行動とマーケティング/消費者行動の分析フレーム/消費者行動研究の歴史 16～29. 購買意思決定プロセス/消費者行動の影響要因 30. 学期末試験
----------	---

準備学習	日頃から、マスメディアやネットを通して、消費関連情報に積極的に触れるだけでなく、自分や家族の消費行動や買物行動の心理やプロセスについて、関心を持って観察・考察してみましょう。
------	---

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の履修にあたっては、マーケティングの基礎知識が不可欠なため、「マーケティング論」履修者の受講が望ましい（履修していない人は独学で勉強すること）。 ・本講義の配布資料は、その回の授業時間内にしか配布しないため、欠席した場合は自己責任で調達すること。 ・他の受講生の妨げにならないよう授業中の私語は厳禁。授業態度不良の場合には、即時に退出を促すので、予め留意すること。
---------	--

成績評価の方法	学年末試験の結果に、レポートや授業の出席状況（不定期にチェック）を加味して評価します。
---------	---

教科書/テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・特定のテキストは用いず、毎回の授業時にプリントを配布します。 ・さらなる理解を深めるために、下記参考図書を参照のこと。
----------	---

参考書	<p>青木幸弘（2010）『消費者行動の知識』日本経済新聞社。 田中洋・清水聰編著（2006）『消費者・コミュニケーション戦略』有斐閣アルマ。 清水聰（1999）『新しい消費者行動』千倉書房。</p>
-----	--

履修コード	138701
科目名	商法I (総則・会社法)
担当者名	三浦 康平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本授業では、株式会社の経済活動を法的側面から理解することをねらいとする。 具体的には会社法を中心とする法規制の内容と、事例等を紹介し、現実社会で会社法が果たしている役割について説明する。 なお金融商品取引法についても必要な範囲で言及する。
---------------------	---

授業スケジュール	会社法については、会社が活動する段階を①設立、②活動（運営段階）、③模索（企業活動の拡大・縮小）、④消滅、に分けて説明する。 （大まかなイメージであって、意味のある分け方ではない）。 ②の説明が大半を占める。このため、前期は①と②（をできる限り）を。残りを後期に扱う。 「商法総則」については会社法が終了した後に講義する。 具体的には以下の順序で進める予定である。
----------	--

<前期>

1. 授業ガイダンスと会社を取り巻く各種法制度の概要の説明
- 2～3. 会社の設立（設立の手続、設立中の法律関係、違法な設立、設立に関する責任）
- 4～5. 資金調達（株式の発行手続、譲渡方法、種類株式、新株予約権、社債）
6. 発行市場と流通市場における開示
7. 会社の機関（全体的な説明・株主総会）
- 8～9. 会社の機関（取締役）
10. 会社の機関（監査役）
11. 会社の機関（会計監査人）
- 12～14. 会社の機関（役員等の責任）
15. 復習と質問（あるいは説明しきれていない部分があれば、この時間を使用して説明する）

<後期>

1. 授業ガイダンス
2. 会社の計算（概要、計算書類）
3. 会社の計算（自己株式・剰余金の配当）
4. 会社の計算（欠損・倒産制度の説明）
5. 会社の計算（虚偽表示・不実開示に関する法制度）
6. 企業再編（総論・制度意義の説明）
7. 企業再編（対株主との関係を中心に）
8. 企業再編（対債権者との関係を中心に）
9. 企業再編（敵対的買収と防衛策）
10. 会社支配権に関する開示制度
11. 商人・商行為
12. 商号
13. 商業使用人
14. 商業登記制度
15. 復習と質問（あるいは説明しきれていない部分があれば、この時間を使用して説明する）

準備学習	予習または復習については、いずれが良いかは人によって異なる。 自分に適した学習方法を見つけること。 予習に関しては基本書の該当箇所を事前に読んでくることを求める。
------	---

履修上の留意点	・会社法を体系的により深く理解するために、他の商法科目（商行為法）および民法科目（特に民法総則・債権法）を現在履修しているか、既履修であることが望ましい。 ・会社法は技術的な規定が多いが、学習上重要でないものは講義ではふれない。 そうした部分は各自で教科書等の該当箇所を読むことをすすめる。 ただし講義でふれてほしいという要望があれば検討する。
---------	---

成績評価の方法	定期試験の成績100% 出席はとらない。
---------	-------------------------

教科書／テキスト	教科書は特に指定しない。 第1回に関連文献を紹介する。 受講者は自分が学習しやすいと思うものを利用すること。
----------	--

参考書	第1回に関連文献を紹介する。
-----	----------------

履修コード	145001
科目名	商法II (商行為、手形・小切手法)
担当者名	中濱 義章

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	手形小切手法の基本的な原則・制度を理解し、諸問題を検討することを通じて有価証券法理の基礎を習得する。
---------------------	--

授業スケジュール	講義は以下の順に行い、各項目ごとに1～2回程度の授業時間を割り当てる。講義の内容は、制度の概要を解説し、具体例を通じて問題点の検討をおこなう。
----------	---

- 1 手形・小切手の意義 (約束手形・為替手形・小切手の異同)
- 2 手形法・小切手の経済的機能
- 3 手形行為の意義・性質
- 4 手形行為の成立時期 (手形理論)
- 5 手形行為と法律行為に関する一般原則
- 6 代理人・代表者による手形行為
- 7 無権代理と偽造、変造
- 8 手形行為と実質関係
- 9 手形の振出
- 10 白地手形
- 11 手形の裏書
- 12 善意取得の制度
- 13 手形抗弁、人的抗弁切断 (制限) の制度
- 14 支払、支払拒絶など
- 15 為替手形・小切手に特有の法制度
- 16 振込・振替など新たな決済システムに関する諸問題

準備学習	講義は段階的に進めていきますので、前の週に学習した内容を復習しておいてください。
------	--

履修上の留意点	六法は小型のものでかまいませんので最新版を携行して下さい。例えば、『ポケット六法』(有斐閣)、『セレクト六法』(岩波書店)、『デイリー六法』(三省堂)など。 民法(財産法関係科目)および商法科目を履修済み、あるいは履修中であることが望ましい。
---------	--

成績評価の方法	夏休み前と期末に行う筆記試験での評価を予定していますが、レポートを課す場合もあります。
---------	---

教科書/テキスト	大塚龍児ほか『商法Ⅲ—手形・小切手(第4版)』(有斐閣Sシリーズ) 落合誠一＝神田秀樹編『別冊ジュリスト 手形小切手判例百選(第6版)』(有斐閣)
----------	--

参考書	詳細については、開講時に指示します。 山下友信＝神田秀樹編『商法判例集(第4版)』(有斐閣)
-----	---

履修コード	138901
科目名	情報処理応用 A
担当者名	宇谷 明秀

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、簡単なデータ処理であるならば、市販のデータ処理ソフトに頼ることなく、自らプログラムを作成してデータ処理できるようになることを目標に、プログラミングの基礎を学ぶ。演習で簡単なデータ処理プログラムを作成する。
---------------------	--

授業スケジュール	1. プログラミング講義 (10回) C言語について、そのすべてを説明する。 2. プログラミング演習 (5回) 実際に幾つかの簡単なデータ処理プログラムを作成する。
----------	--

準備学習	コンピュータの操作、情報処理の基礎
------	-------------------

履修上の留意点	・情報処理の基礎科目を履修しておくことと良い。 ・情報処理系の科目、特にプログラミングは暗記科目ではない。 ・授業は演習中心になるので、欠席は極力避けること。
---------	---

成績評価の方法	期末試験に出席状況を加味して評価する。
---------	---------------------

教科書/テキスト	特に教科書は使用しない。講義内容をまとめた資料を配布する。
----------	-------------------------------

参考書	授業の中で必要に応じて紹介する。
-----	------------------

履修コード	138801
科目名	情報処理応用A
担当者名	若山 大樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、1年時に履修済の情報処理基礎ABの発展的内容、すなわち情報検索、文書作成、プレゼンテーション資料作成、表計算ソフトに至る発展的内容について学ぶ。中でも表計算ソフトについては、EXCELの複合参照をはじめとして、各種関数を学び、データ解析の基本技法 (SPSSといたった統計処理専門ソフトを利用するためのエクセルによるデータの前処理技法の発展的方法、可視化の方法、図表編集、相関・回帰、市場予測、効果測定など) を学ぶ。そして表計算ソフトによる資料を用いたワード文書作成やプレゼンテーション資料への発展的利用について学ぶ。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回：オリエンテーション；第2回：初回エクセル実技基礎テスト；第3回：エクセル応用Ⅰ情報検索とデータの前処理；第4～5回：エクセル応用Ⅱ表計算・四則計算・複合参照応用；第6～7回：エクセル応用Ⅲグラフ作成応用と関数の応用；第8～10回：エクセル応用Ⅳ統計関数応用；第11～12回：エクセルとWord文書作成応用；第13回：エクセルとパワーポイント資料作成応用；第13回：テストⅡパワーポイント資料作成。第14～15回：テストⅢパワーポイント資料を用いた発表会。
----------	---

準備学習	課題作成にかなりの時間を要する。
------	------------------

履修上の留意点	まずは表計算ソフトの実技試験を行う。そこで基礎が身につけていない学生は次に進めないか相応の自己努力を要する。情報処理基礎A・Bを1年次にある一定のレベル (成績) 以上で履修済であることを前提とする。
---------	--

成績評価の方法	総合評価(100)=初回基礎確認実技試験 (10) + 5～6回の提出課題 (60) + 期末試験 (20) + 出席 (10)
---------	--

教科書/テキスト	特に使用しません。
----------	-----------

参考書	必要に応じて示します。
-----	-------------

その他	特にありません。
-----	----------

履修コード	139101
科目名	情報処理応用B
担当者名	宇谷 明秀

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インターネットの普及やコンピュータの性能向上によって、情報の収集・蓄積が容易になってきている。現在、多くの企業では、日々膨大なデータを収集し、収集したデータを分析して企業経営に役立てている。この講義では、 ・基本的なデータ分析手法の習得 ・プログラミング技術の習得 を主たる目的として、基本的なデータ分析手法を紹介し、実際にデータ分析ソフトを開発する。
---------------------	---

授業スケジュール	1. データ分析手法の講義 (5回) 幾つかの基本的なデータ分析手法を紹介する (様々なデータを用い、そのデータにどのような意味が隠されているのかを探る)。 2. プログラミング技術の講義 (5回) 演習を中心に進める。 3. データ分析ソフトの開発 (5回) 実際にデータ分析ソフトを開発する。
----------	---

準備学習	情報処理応用Aの復習
------	------------

履修上の留意点	・情報処理関連の科目を履修しておくが良い。 ・C言語の基礎的知識を前提として講義を進める。 ・授業は演習中心になるので、欠席は極力避けること。
---------	---

成績評価の方法	期末試験に出席状況を加味して評価する。
---------	---------------------

教科書/テキスト	特に教科書は使用しない。講義内容をまとめた資料を配布する。
----------	-------------------------------

参考書	授業の中で必要に応じて紹介する。
-----	------------------

履修コード	139001
科目名	情報処理応用B
担当者名	若山 大樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では社会科学の分野でよく用いられる統計解析専門ソフト (SPSS) を用いて、統計データの分析方法について実習形式で学んでいく。具体的には、社会科学で用いられる情報、データの測定尺度、欠損値処理の方法、多重回答の集計方法や分析方法、様々な基本統計量の求め方や結果の見方、分布に関する統計量、統計をとることの三段階、各種検定方法 (分散分析、カイ二乗検定、無相関の検定)、順位相関、回帰分析、対応分析をはじめとする多変量解析を学ぶ。
---------------------	--

授業スケジュール	1-2. 社会科学で用いる情報、データの測定尺度、データの欠損、多重回答の集計・処理 3-4. 基本統計量、分布の形状、数値要約、仮説から統計的検定に至る考え方 5-8. 平均値の差の検定、分散分析、カイ二乗検定、無相関の検定、順序相関 9-11. 回帰分析の基礎と応用 12-14. 多変量解析 (対応分析他) 15. 試験とまとめ
----------	--

準備学習	課題作成にかなりの自宅学習時間を要する。
------	----------------------

履修上の留意点	PC教場で統計ソフトSPSSを使用した実習をするので毎回の出席を前提に授業を進める。そのため、就職活動等で休みがちな学生や、遅刻・欠席の多い学生、1時限目の出席が苦手な学生には不向きな授業科目である。情報処理基礎A・Bを履修済の学生を前提とする。
---------	---

成績評価の方法	ほぼ毎回の課題提出状況 (60%) と課題に取り組む姿勢 (20%)、期末試験 (20%) により総合的に評価する。
---------	--

教科書/テキスト	使用しません。
----------	---------

参考書	必要に応じて示します。
-----	-------------

その他	特にありません。
-----	----------

履修コード	137601
科目名	情報処理基礎A
担当者名	小沢 利久

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 現代のビジネスにおいてコンピューターの利用は不可欠です。この授業では、コンピューターとネットワークの仕組みについて理解するとともに、インターネットを介して情報を収集し、それを資料としてまとめ、プレゼンテーションをするために必要なコンピューターの知識を身につけます。アプリケーションはマイクロソフト社のWord、Excel、PowerPointを使用します。 (到達目標) インターネットを介して集めた情報などをもとにして、Wordを用いた資料作成ができること、Excelを用いた表の作成や簡単な計算、グラフの作成ができること、PowerPointを用いた発表用資料の作成ができることを到達目標とします。
---------------------	---

授業スケジュール	1. コンピューターとネットワークの仕組み、コンピューターの基本操作 2. 文書作成 (1) : Wordの基本操作、文字の装飾、文書レイアウト 3. 「企業紹介」の資料作成 4. 文書作成 (2) : 図の作成方法 5. 文書作成 (3) : 表の作成方法 6. 「観光地案内」のパンフレット作成 7. 表計算 (1) : Excelの基本操作、罫線、セルの操作、グラフの作成 8. 表計算 (2) : グラフ作成の復習、数式と関数 9. 「自動車販売統計」の資料作成 10. 表計算 (3) : いろいろな関数 (IF関数、財務関数) 11. 財務関連の計算演習 12. プレゼンテーション資料の作成 : PowerPointの基本操作 13. プレゼンテーション資料の作成 : アニメーションの設定 14. 「企業紹介」の発表資料作成 15. 全体のまとめ
----------	---

準備学習	・ パーソナル・コンピューターのOSはマイクロソフト社のWindowsを用いますので、基本的な操作について高校で習ったことを復習しておいてください。 ・ 予習は特に必要としませんが、授業で習ったことを配布プリントにそって一通り自分でやってみるという復習を必ず実行してください。
------	---

履修上の留意点	5回の課題の他に、授業中に練習として作成したファイルも提出してもらい、評価の対象とします。
---------	---

成績評価の方法	全体を100点満点として、課題提出 (5回、合計75点)、練習ファイルの提出 (5回、合計15点)、その他平常点 (10点) で評価します。
---------	--

教科書/テキスト	プリントを配布し、テキストに代えます。プリントは下記の関連リンクからも取得できます。
----------	--

参考書	必要に応じて示します。
-----	-------------

その他	特にありません。
-----	----------

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/
-------	---

履修コード	137001
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	加藤 武信

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	情報化社会の電子文房具であるパソコンは、個人レベル、組織レベルおよび社会レベルで益々必要性を増している。ここではパソコンの原理とその活用法の基礎部分を総合的に学習し、それを自在に使用して、インターネットを用いた情報検索やワープロによる文書の作成、表計算によるデータ加工の技法などを修得する。パソコンの実習環境は、Windowsを用いる。
---------------------	--

授業スケジュール	A. コンピュータの仕組みとWindowsの基本操作 (1~2) アクセサリとペイントの活用、タイピング、ファイルシステムの操作を含む B. ワードプロソフトWordによる文書作成 (3~4) 日本語入力、手紙、納品書、履歴書などの作成、図形描画の活用 C. インターネットと電子メールの活用 (5~6) Webページの検索、ダウンロード、メールの送受信など D. 表計算ソフトExcelによる作表・作図 (基本レベル) (7~10) 売上集計、成績処理と各種グラフ、納品書、履歴書、精算表の作成 (11~15) 基本関数、論理関数、データベースの活用
----------	--

準備学習	Word, Excel, PowerPointの基本操作の学習は終了していると見なします。未学習の人は、授業の中で特別の教材を用意します。
------	---

履修上の留意点	パソコン実習が全体の80%を占めるので、欠席せず、熱意をもって受講することを望む。習熟するためには、時間外のパソコン実習が必須である。また、テキストや配布教材を熟読しなければならない。
---------	--

成績評価の方法	平常点 (出席とレポートへの点数付け) により総合評価する。
---------	--------------------------------

教科書/テキスト	電子教材 (教材はすべてパソコン内に格納します)
----------	--------------------------

参考書	鈴木光勇「EXCEL ビジネスデータ分析2007対応」(翔泳社) 2,180円 ISBN978-4-7981-1118-6 C3055
-----	--

その他	授業の方法: パソコン実習 ※この科目は4月初旬に抽選登録の申請をしなければ履修できません。
-----	---

履修コード	136701
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	河内谷 幸子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) この講義のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。 毎回、1人1台コンピュータを使って実習を行います。 (到達目標) タイプ練習、日本語入力、ワープロソフト、ホームページ検索、ホームページ作成などのソフトウェアを習得し、情報倫理、情報基礎理論などの理論を理解します。
---------------------	--

授業スケジュール	1 情報倫理、web検索、メール 2 文書編集(Word)による文書入力 3 文書編集(Word)による文字編集 4 文書編集(Word)による段落編集 5 文書編集(Word)による表の作成 6 文書編集(Word)による描画機能 7 文書編集(Word)によるちらし作成 8 文書編集(Word) 課題提出 9 パソコンの基礎知識、IT時事問題 10 画像編集 11 htmlによるホームページ作成 1 12 htmlによるホームページ作成 2 13 htmlによるホームページ作成 3 14 ネットワークの仕組み、IT時事問題 15 いろいろなソフトウェア体験
----------	---

準備学習	その都度授業で指示します。
------	---------------

履修上の留意点	コンピュータ実習授業は1回休むと次の実習内容がわからなくなるので、休まないようにしましょう。出席は必ずとります。
---------	--

成績評価の方法	コンピュータを使って解くレポート課題を2~3回出し、その結果と出席状況の総合評価によって成績を評価します。
---------	---

教科書/テキスト	オンラインテキストを使用するので購入する必要はありません。 詳細は初回授業で指示します。
----------	---

参考書	その都度授業で指示します。
-----	---------------

その他	1人1台コンピュータを使った実習形式です。 YeStudyを活用します。 ※この科目は4月初旬に抽選登録の申請をしなければ履修できません。
-----	---

履修コード	137101
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	河内谷 幸子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) この講義のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。 毎回、1人1台コンピュータを使って実習を行います。 (到達目標) タイプ練習、日本語入力、ワープロソフト、ホームページ検索、ホームページ作成などのソフトウェアを習得し、情報倫理、情報基礎理論などの理論を理解します。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 情報倫理、web検索、メール 2 文書編集 (Word) による文書入力 3 文書編集 (Word) による文字編集 4 文書編集 (Word) による段落編集 5 文書編集 (Word) による表の作成 6 文書編集 (Word) による描画機能 7 文書編集 (Word) によるちらし作成 8 文書編集 (Word) 課題提出 9 パソコンの基礎知識、IT時事問題 10 画像編集 11 htmlによるホームページ作成 1 12 htmlによるホームページ作成 2 13 htmlによるホームページ作成 3 14 ネットワークの仕組み、IT時事問題 15 いろいろなソフトウェア体験
----------	--

準備学習	その都度授業で指示します。
------	---------------

履修上の留意点	コンピュータ実習授業は1回休むと次の実習内容がわからなくなるので、休まないようにしましょう。出席は必ずとります。
---------	--

成績評価の方法	コンピュータを使って解くレポート課題を2~3回出し、その結果と出席状況の総合評価によって成績を評価します。
---------	---

教科書/テキスト	オンラインテキストを使用するので購入する必要はありません。 詳細は初回授業で指示します。
----------	---

参考書	その都度授業で指示します。
-----	---------------

その他	1人1台コンピュータを使った実習形式です。 YeStudyを活用します。 ※この科目は4月初旬に抽選登録の申請をしなければ履修できません。
-----	---

履修コード	137401
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	佐藤 正知

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) この講義では、コンピュータとネットワークの仕組みについて説明した後、インターネットを介して情報を収集し、それを資料としてまとめ、プレゼンテーションするために必要なコンピュータの知識について、実際にコンピュータを使いながら学んでいく。具体的には、情報検索、文書作成、表計算、プレゼンテーション資料作成などを、専用アプリケーションを用いて行う。
---------------------	--

- (到達目標)
- ・コンピュータの仕組みを知り、基本的な操作をできるようになる
 - ・インターネットの仕組みを知り、情報検索や電子メールを利用できるようになる
 - ・ワープロソフトを利用し、文書作成(文章入力、図表埋め込み)ができるようになる
 - ・表計算ソフトを利用し、表やグラフを作成したり、関数を使えるようになる
 - ・プレゼンテーションソフトを利用して発表用資料を作成できるようになる

授業スケジュール	第1回: コンピュータとネットワークの仕組み (1) 第2回: コンピュータとネットワークの仕組み (2) 第3回: コンピュータの基本操作 第4回: 文書作成 (文書の入力) 第5回: 文書作成 (書式の設定) 第6回: 文書作成 (図と表の作成) 第7回: 情報検索の方法 (1) 第8回: 情報検索の方法 (2) 第9回: 表計算 (表の作成) 第10回: 表計算 (グラフの作成) 第11回: 表計算 (関数の使い方) 第12回: 表計算 (いろいろな関数) 第13回: プレゼンテーション資料の作成 (1) 第14回: プレゼンテーション資料の作成 (2) 第15回: 全体のまとめ
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	毎回の講義中に提出する課題(30%)と複数回の課題(70%)により評価する。
---------	--

教科書/テキスト	講義の中で資料を配布する。
----------	---------------

参考書	授業の中で必要に応じて紹介する。
-----	------------------

履修コード	136801
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	地引 昌弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、経営の様々な場面で出会う意思決定やその問題解決の手段として、コンピュータを自分自身で活用できるための基礎の習得を目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>・イントロダクション (1) 講義内容概説/情報教育センターに関するオリエンテーション/コンピュータ科学と経営学とについて (プロローグ)</p> <p>・コンピュータの構成と基本操作 (2~8) 初めてコンピュータに触れる人が戸惑わないために、コンピュータを使う上での最初の一步から説明を始める。続いて、基本的な入力装置であるキーボードおよびマウスの操作に慣れることを目標に、ワープロソフトを用いた文書の作成を行なう。</p> <p>・コンピュータを用いた情報発信 (9~15) 電子メールによるコミュニケーションやWWWブラウザを用いた情報収集、最後にホームページあるいは電子プレゼン資料の作成を通して自ら情報発信できることを目指す。</p>
----------	--

準備学習	履修者は、授業中に配布したデータや実習で作成したファイルを各自で管理し、以後の学習に役立てること。また、授業中に実習を終了できない場合や授業内で不明な部分がある場合は、以後の学習に向けて演習室で復習を行なうこと。
------	--

履修上の留意点	本講義は、コンピュータの初心者が、コンピュータを補助として利用できるようになることを、そして何か問題が起きた場合でも自分自身で対処を行なえるようになることを最終的な目標にしています。従って、上記の基本スケジュールと並行して、適宜コンピュータに関する様々な知識や最新情報なども解説していく予定です。また、この目標に向けてのどのような質問/疑問でも大いに歓迎致します。
---------	--

成績評価の方法	まずは、上記に述べた本講義の趣旨より、単位の取得だけが目的の者は遠慮していただきたい (出席免除などは基本的に認めない)。実習が中心なので、基本的には毎回出席し、出席の確認として実習内容を提出させることを予定している。各実習毎に、解決すべき課題 (あるいはその実習の目標) を示すので、これらを解決 (あるいは実現) できた場合に、実習毎の内容に応じた部分点を与える。また、実習の状況に応じて追加課題を提出させる場合がある。期末には、履修を終えた項目を応用したレポートを提出させる。成績は、出席および課題/レポートの各部分点を総合して評価する。
---------	--

教科書/テキスト	教科書などは特に指定しないが、必要があれば各項目ごとの参考図書を紹介する。
----------	---------------------------------------

参考書	
-----	--

その他	課題の提出や通常のコミュニケーション手段として、基本的に学内の E-mail (電子メール) を利用する予定。 ※この科目は4月初旬に抽選登録の申請をしなければ履修できません。
-----	---

履修コード	136901
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	地引 昌弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、経営の様々な場面で出会う意思決定やその問題解決の手段として、コンピュータを自分自身で活用できるための基礎の習得を目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション (1) 講義内容概説/情報教育センターに関するオリエンテーション/コンピュータ科学と経営学とについて (ブローグ) <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの構成と基本操作 (2~8) 初めてコンピュータに触れる人が戸惑わないために、コンピュータを使う上での最初の一步から説明を始める。続いて、基本的な入力装置であるキーボードおよびマウスの操作に慣れることを目標に、ワープロソフトを用いた文書の作成を行なう。 <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを用いた情報発信 (9~15) 電子メールによるコミュニケーションやWWWブラウザを用いた情報収集、最後にホームページあるいは電子プレゼン資料の作成を通して自ら情報発信できることを目指す。
----------	--

準備学習	履修者は、授業中に配布したデータや実習で作成したファイルを各自で管理し、以後の学習に役立てること。また、授業中に実習を終了できない場合や授業内で不明な部分がある場合は、以後の学習に向けて演習室で復習を行なうこと。
------	--

履修上の留意点	本講義は、コンピュータの初心者、コンピュータを補助として利用できるようになることを、そして何か問題が起きた場合でも自分自身で対処を行なえるようになることを最終的な目標としています。従って、上記の基本スケジュールと並行して、適宜コンピュータに関する様々な知識や最新情報なども解説していく予定です。また、この目標に向けてのどのような質問/疑問でも大いに歓迎致します。
---------	---

成績評価の方法	まずは、上記に述べた本講義の趣旨より、単位の取得だけが目的の者は遠慮していただきたい (出席免除などは基本的に認めない)。実習が中心なので、基本的には毎回出席し、出席の確認として実習内容を提出させることを予定している。各実習毎に、解決すべき課題 (あるいはその実習の目標) を示すので、これらを解決 (あるいは実現) できた場合に、実習毎の内容に応じた部分点を与える。また、実習の状況に応じて追加課題を提出させる場合がある。期末には、履修を終えた項目を応用したレポートを提出させる。成績は、出席および課題/レポートの各部分点を総合して評価する。
---------	--

教科書/テキスト	教科書などは特に指定しないが、必要があれば各項目ごとの参考図書を紹介する。
----------	---------------------------------------

参考書	
-----	--

その他	課題の提出や通常のコミュニケーション手段として、基本的に学内の E-mail (電子メール) を利用する予定。 ※この科目は4月初旬に抽選登録の申請をしなければ履修できません。
-----	---

履修コード	137611
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	長 國強

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義では、コンピュータとネットワークの仕組みについて説明した後、文書作成、情報検索、表計算の知識について、実際にコンピュータを使いながら学んでいく。
---------------------	--

授業スケジュール	コンピュータ基礎 (1-2) ; 文書作成 (3-7) ; 情報検索 (8) ; 小テスト (9) ; 表計算 (10-12) ; 全体のまとめ (13-14) ; 小テスト (15)。
----------	---

準備学習	特にありません。
------	----------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	総合評価 (100) = 提出課題 (70) + 期末試験 (30)。
---------	-------------------------------------

教科書/テキスト	特に使用しませんが、プリントは随時配布する予定。
----------	--------------------------

参考書	特に使用しません。
-----	-----------

その他	特にありません。
-----	----------

履修コード	137631
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	中野 秀洋
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義では、コンピュータとネットワークの仕組みについて説明した後、インターネットを介して情報を収集し、それを資料としてまとめ、プレゼンテーションするために必要なコンピュータの知識について、実際にコンピュータを使いながら学んでいく。具体的には、情報検索、文書作成、表計算、プレゼンテーション資料作成などを、専用アプリケーションを用いて行
授業スケジュール	第1回：コンピュータとネットワークの仕組み (1) 第2回：コンピュータとネットワークの仕組み (2) 第3回：コンピュータの基本操作 第4回：文書作成 (文書の入力) 第5回：文書作成 (書式の設定) 第6回：文書作成 (図と表の作成) 第7回：情報検索の方法 (1) 第8回：情報検索の方法 (2) 第9回：表計算 (表の作成) 第10回：表計算 (グラフの作成) 第11回：表計算 (関数の使い方) 第12回：表計算 (いろいろな関数) 第13回：プレゼンテーション資料の作成 (1) 第14回：プレゼンテーション資料の作成 (2) 第15回：全体のまとめ
準備学習	毎回の授業の復習を行っておくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	複数回の課題提出により評価する。授業に出席することも合格の必要条件である。
教科書／テキスト	授業の中で資料を配布する。
参考書	授業の中で必要に応じて紹介する。

履修コード	137201
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	村上 友佳子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本講義は、経営学・経済学での基礎的なコンピューターによる数的処理・統計処理を修得することを目的とする。経済現象は、売上高の変化、利益率の変化、失業率や公定歩合などの割合の変化等々数字として表現されることがほとんどである。こうした数字からいかに情報を引き出すか、基本的な経営・経済指標について講義とエクセルを使った実習を行う。</p> <p>官公庁などのホームページをデータの収集に利用していくこともおこなう予定である。関心のある事柄を調べる(図書館での文献・データベースの検索、パソコンでのインターネットの活用などによる)、表計算ソフトを使って表・グラフを作成する、プレゼンテーションを行う、レポートを書く、などの方法を習得する。</p> <p>大学生として、成果をレポートや論文として残したい学生に相応しい講義です。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 インターネットによる官公庁統計の利用 3 データのダウンロード 4 企業の経営データに親しむ (図書館データベースの利用) 5 数的処理の方法 (構成比、成長率、寄与度) 6 EXCELによる統計処理の方法 (記述統計 グラフを描く) 7 WORDによるレポート執筆 (グラフの貼り付け) 8 POWER POINT によるプレゼンテーション (報告) 行い方 9 分析事例を見てみよう (論文やレポートを読んで、数的処理を知る) 10 図書館における文献、資料、統計、データベースの検索の行い方 <p>(「5. 数的処理の方法」「6. EXCELによる統計処理」は、複数回、講義する予定。少しずつ無理なく、情報処理を学びましょう。)</p> <p>経済統計のバックグラウンドとなる経済・経営知識の講義を多少行い、実作業を行っていく予定です。</p> <p>参考文献 浅子和美・加納・倉沢「マクロ経済学」(新世社) 小田切宏之「企業経済学」(東洋経済) 刈屋武昭「計量経済学の基礎と応用」(東洋経済新報社)</p>
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	<p>第一に、レポート提出を課題とする。興味のある企業の経営戦略について、WORD・EXCEL(数表、グラフ添付)を用いて、執筆すること。</p> <p>第二に、講義に遅刻しないで出席し、講義を聴き、指示に従い作業を行う。分からなければ質問し、講義で進められる実際の演習を習得する。その結果として、講義内の練習問題を提出する。</p>
---------	---

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

その他	<p>講義受講者は、次回までに、ユーザーコード パスワードを総合情報センターの事務室で申請してください。</p> <p>※この科目は4月初旬に抽選登録の申請をしなければ履修できません。</p>
-----	--

履修コード	137301
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	依田 聖

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	コンピュータの『初心者』を対象に情報化社会において不可欠であるコンピュータの基本操作を習得します。主な内容は、コンピュータの基本操作とタイピング、インターネットのしくみ、電子メールの利用法、ワープロソフトの基本的操作、文書の保存・コピーの仕方、フォントやレイアウトの設定と、プレゼンテーションソフトの基本的操作、デザインやアニメーションの設定などです。ワープロソフトで文章書いたり印刷したり、またプレゼンソフトで発表用スライドを作成できることを目標とします。
---------------------	---

授業スケジュール	大学あるいは企業でPCを道具（情報収集、情報伝達、レポートの作成等）として使う基本的な力（コンピュータ・リテラシー）を養う。演習を中心に進めるが、コンピュータ化の問題点と情報倫理等の講義も行う。 演習の主要な点は（1）PCの操作（Windowsの基本操作）（2）WWW（ブラウザの使用法、情報検索・収集）（3）電子メール（送受信、添付ファイル、アドレス帳、署名）、情報倫理（4）情報化社会（コンピュータ化）の問題（5）ワープロ（操作法、基本事項、フォント、文字飾り、文字位置）（6）ワープロ（文書作成、ファイルとフォルダ）（7）ワープロ（編集作業、移動、コピー）（8）ワープロ（表、罫線）（9）ワープロ（テキストボックス、ワードアート、クリップアート）（10）ワープロ（ページ設定、印刷）（11）パワーポイント（操作法、文字挿入、スライドの作成）（12）パワーポイント（グラフの挿入、図形の挿入）（13）パワーポイント（デザイン、アニメーション） 以上の項目（1）～（13）を1～2回で行い15回で終わる。
----------	---

準備学習	PCの電源のON/OFFやKB、マウスの操作など基本的なところは自習しておくこと。初回は電子（PC）メールの初期設定をするので、必ず出席すること。
------	---

履修上の留意点	講義にはメールを活用（講義録の送付と課題の提出）する。 本科目は積み重ねが必要。欠席した場合必ず休んだ部分を勉強し、次回にのぞむように。分からないことは恥ずかしながら聞き、その場で解決のこと。また復習をしっかりとすること。演習は結果としてハードなものになるので熱意を持って取り組むこと。休まず、遅刻はしないこと（欠席は必ずとります）。
---------	--

成績評価の方法	出席（毎回の課題を提出）とレポート40%、試験60%。特にメールを習った後は毎回の課題はメールで提出する。
---------	---

教科書/テキスト	太田忠一編『文科系のためのコンピュータリテラシ「第4版」』（サイエンス社）2008年1,950円＋税、ISBN4-7819-1085-8
----------	--

参考書	
-----	--

その他	※この科目は4月初旬に抽選登録の申請をしなければ履修できません。
-----	----------------------------------

履修コード	137621
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	若山 大樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義では、コンピュータとネットワークの仕組みについて説明した後、インターネットを介して情報を収集し、それを資料としてまとめ、プレゼンテーションするために必要なコンピュータの知識について、実際にコンピュータを使いながら学んでいく。具体的には、PC基礎、PC操作基礎、情報検索、文書作成、表計算、プレゼンテーション資料作成などを、専用アプリケーションを用いて行う。
---------------------	--

授業スケジュール	(1)～(2) コンピュータとネットワークの仕組み、 (3) コンピュータの基本操作、 (4)～(5) 情報検索の方法、 (6)～(12) 文書作成、 (13)～(14) プレゼンテーション資料の作成、発表会 (15) 実技試験
----------	---

準備学習	教材をよく読んで授業に備えること。
------	-------------------

履修上の留意点	市場戦略学科1年生の必修科目であり、出席を重要視する。また、授業進行状況により講義スケジュールの項目が、情報処理基礎Bへ移動するなど、前後する場合がある。また、教場座席数により、2年次の再履修者は受講制限をする場合がある。資料は配布当日の出席者分用意し、次の週に再配布を行うことはない。授業では質問が出やすいPointを中心に繰り返し説明するので苦手な人は前方の座席に座り資料にもよく目を通して自習室や自宅学習により克服する努力をしてほしい。
---------	---

成績評価の方法	4～5回の小課題提出状況（40%）と課題に取り組む姿勢（30%）、試験（20%）、出席（10%）、その他期末課題等により総合的に評価する。課題に取り組む姿勢とは授業態度や課題レポートのオリジナリティ、課題作成時の質問内容などから評価する。
---------	---

教科書/テキスト	必要に応じて配布あるいは、指示する。
----------	--------------------

参考書	必要に応じて配布あるいは、指示する。
-----	--------------------

その他	他の学生への迷惑行為は厳禁であり、PC教場で授業と無関係のことをすることや私語をはじめ、試験やレポート、出席等に関する不正行為も厳禁である。
-----	--

履修コード	138601
科目名	情報処理基礎B
担当者名	小沢 利久

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 適切な経営判断、有効な計画立案を行うためには、日々蓄積されるデータを、コンピューターを用いてさまざまな観点から分析し、そこから意味のある情報を引き出すことが重要となります。この講義では、代表的な表計算アプリケーションであるExcelのワークシート関数と付属ツールを用いたデータ分析の方法を身につけます。</p> <p>(到達目標) Excelを用いたやや高度な分析ができることを到達目標とします。具体的には、統計関数、回帰分析ツール、ゴールシーク、ソルバーの使い方・利用方法を理解し、それらを用いて初歩的な問題が解けることを到達目標とします。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ワークシート関数の基本事項についての復習と演習 2. 統計関数とその応用(1)：統計関数の使い方 3. 統計関数とその応用(2)：分析例 4. 統計関数とその応用(3)：課題による演習 5. 近似曲線追加機能を用いた単回帰分析 6. 回帰分析ツールとその応用(1)：回帰分析ツールの使い方 7. 回帰分析ツールとその応用(2)：決定係数と残差を用いた分析例 8. 回帰分析ツールとその応用(3)：課題による演習 9. ゴールシークとその応用(1)：ゴールシークの使い方、分析例 10. ゴールシークとその応用(2)：課題による演習 11. ソルバーとその応用(1)：ソルバーの基本的な使い方 12. ソルバーとその応用(2)：様々な制約条件設定方法、分析例 13. ソルバーとその応用(3)：課題による演習 14. ソルバーとその応用(4)：課題による演習 (続き) 15. 全体のまとめ
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理基礎Aで学習した内容、特にExcelに関する内容を前提としますので、よく復習しておいてください。 ・毎回の授業において、コンピューターの使い方に関する予習は特に必要としません。授業で習ったことを配布プリントにそって一通り自分でやってみるという復習を必ず実行してください。 ・分析例や課題では、経営などに関連した簡単な応用を扱います。例えば、複利計算や減価償却額の計算などがそれに含まれますので、経営学や会計学などで学習した内容を適宜復習しておいてください。
------	---

履修上の留意点	5回の課題の他に、授業中に練習として作成したファイルも提出してもらい、評価の対象とします。
---------	---

成績評価の方法	全体を100点満点として、課題提出(5回、合計75点)、練習ファイルの提出(5回、合計15点)、その他平常点(10点)で評価します。
---------	--

教科書/テキスト	プリントを配布し、テキストに代えます。プリントは下記の関連リンクからも取得できます。
----------	--

参考書	必要に応じて示します。
-----	-------------

その他	特にありません。
-----	----------

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/
-------	---

履修コード	138301
科目名	情報処理基礎B
担当者名	加藤 武信
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「情報処理基礎A」の授業で確立したパソコンに関する知識・技術をさらに発展させ、実社会で応用できる活用能力に高める。すなわちExcelによる応用処理とPowerPointを用いたプレゼンテーション、さらに関係データベースAccessを活用した「仕事の仕組み」の具体化を試みる。パソコンの実習環境は、Windowsを用いる。
授業スケジュール	A. 表計算ソフトExcelによる応用処理 (1～4) データベース応用、ピボットテーブルの活用、各種計算モデルの活用、管理資料の作成 B. プレゼンテーションソフトPowerPointによるデータの視覚化 (5～6) 表題、簡条書き、組織図、表、グラフ、挿絵入りスライドなどの作成 (7～8) プレゼンテーション課題に沿った発表順序の企画とスライドの作成 C. データベースソフトAccessによる成績処理業務の設計と処理 (9～15) テーブルの設計、フォームによるデータ入力、テーブルの結合、クエリによる各種集計、SQLの基礎 (さらに希望者にはホームページ作成教材を提供します)
準備学習	Word, Excel, PowerPointの基本操作の学習は終了していると見なします。未学習の人は、授業の中で特別の教材を用意します。
履修上の留意点	パソコン実習が全体の80%を占めるので、欠席せず、熱意をもって受講することを望む。習熟するためには、時間外のパソコン実習が必須である。また、テキストや配布教材を熟読しなければならない。
成績評価の方法	出席、レポートにより総合評価する。
教科書／テキスト	電子教材 (教材はすべてパソコン内に格納します)
参考書	鈴木光勇「EXCEL ビジネスデータ分析2007対応」(翔泳社) 2,180円 ISBN978-4-7981-1118-6 C3055
その他	授業の方法：パソコン実習 ※この科目を履修するためには、「情報処理基礎A」の4月初回授業時に担当教員の受講許可を得た上で、履修登録してください。「情報処理基礎A」への抽選登録申請のみでは履修できません。

履修コード	137901
科目名	情報処理基礎B
担当者名	河内谷 幸子

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に全く新種のソフトや新しい情報機器が普及するような場合も適応できるように、積極的に新しいものに取り組む姿勢を身につけることも目標とします。「情報処理基礎A」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。毎回、1人1台コンピュータを使って実習を行います。</p> <p>(到達目標) 表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの使い方、ソフト比較演習、情報基礎理論などを実習します。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 表計算(Excel)表と関数 2 表計算(Excel)3D集計・シナリオ機能 3 表計算(Excel)近似・データベース機能 4 表計算(Excel)課題提出 5 表計算(Excel)いろいろな関数 6 表計算(Excel)ゴールシーク機能 7 表計算(Excel)課題提出 8 データベースソフトAccess入門 9 データベースソフトAccess課題提出 10 WordとExcelの連携(差込印刷)、AccessとExcelの連携 11 プレゼンテーションソフトPowerPointの使い方 12 プレゼンテーションソフトPowerPoint課題提出 13 ファイルの平均情報量と圧縮 14 パソコンとネットワークの基礎知識、IT時事問題 15 まとめ、ミニテスト
----------	---

準備学習	その都度授業で指示します。
------	---------------

履修上の留意点	「情報処理基礎A」をあらかじめ履修しておくことをすすめます。また、コンピュータ実習授業は1回休むと次の実習内容がわからなくなるので、休まないようにしましょう。出席は必ずとります。
---------	---

成績評価の方法	コンピュータを使って解くレポート課題を2～3回出し、その結果と出席状況の総合評価によって成績を評価します。
---------	---

教科書/テキスト	オンラインテキストを使用するので購入する必要はありません。詳細は初回授業で指示します。
----------	---

参考書	その都度授業で指示します。
-----	---------------

その他	<p>1人1台コンピュータを使った実習形式です。 YeStudyを活用します。</p> <p>※この科目を履修するためには、「情報処理基礎A」の4月初回授業時に担当教員の受講許可を得た上で、履修登録してください。「情報処理基礎A」への抽選登録申請のみでは履修できません。</p>
-----	---

履修コード	138001
科目名	情報処理基礎B
担当者名	河内谷 幸子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に全く新種のソフトや新しい情報機器が普及するような場合も適応できるように、積極的に新しいものに取り組む姿勢を身につけることも目標とします。「情報処理基礎A」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。毎回、1人1台コンピュータを使って実習を行います。</p> <p>(到達目標) 表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの使い方、ソフト比較演習、情報基礎理論などを実習します。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 表計算(Excel)表と関数 2 表計算(Excel)3D集計・シナリオ機能 3 表計算(Excel)近似・データベース機能 4 表計算(Excel)課題提出 5 表計算(Excel)いろいろな関数 6 表計算(Excel)ゴールシーク機能 7 表計算(Excel)課題提出 8 データベースソフトAccess入門 9 データベースソフトAccess課題提出 10 WordとExcelの連携(差込印刷)、AccessとExcelの連携 11 プレゼンテーションソフトPowerPointの使い方 12 プレゼンテーションソフトPowerPoint課題提出 13 ファイルの平均情報量と圧縮 14 パソコンとネットワークの基礎知識、IT時事問題 15 まとめ、ミニテスト
----------	---

準備学習	その都度授業で指示します。
------	---------------

履修上の留意点	「情報処理基礎A」をあらかじめ履修しておくことをおすすめします。また、コンピュータ実習授業は1回休むと次の実習内容がわからなくなるので、休まないようにしましょう。出席は必ずとります。
---------	---

成績評価の方法	コンピュータを使って解くレポート課題を2～3回出し、その結果と出席状況の総合評価によって成績を評価します。
---------	---

教科書/テキスト	オンラインテキストを使用するので購入する必要はありません。詳細は初回授業で指示します。
----------	---

参考書	その都度授業で指示します。
-----	---------------

その他	1人1台コンピュータを使った実習形式です。YeStudyを活用します。
-----	-------------------------------------

※この科目を履修するためには、「情報処理基礎A」の4月初回授業時に担当教員の受講許可を得た上で、履修登録してください。「情報処理基礎A」への抽選登録申請のみでは履修できません。

履修コード	138501
科目名	情報処理基礎B
担当者名	佐藤 正知

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) この講義では、代表的な表計算アプリケーションであるExcelのワークシート関数と付属ツールを用いたデータ分析の方法について学んでいく。具体的には、財務関数、統計関数、ゴールシーク、回帰分析、ソルバーを用いて例題を解きながらデータ分析についての理解を深める。
---------------------	--

- (到達目標)
- ・いろいろな財務関数を扱うことができること
 - ・いろいろな統計関数を扱うことができること
 - ・ゴールシーク機能、ソルバー機能を理解し利用できるようになること
 - ・回帰分析ツールを理解し利用できるようになること

授業スケジュール	<p>第1回：ワークシート関数の基本についての復習</p> <p>第2回：財務関数 (いろいろな財務関数)</p> <p>第3回：財務関数 (応用例)</p> <p>第4回：統計関数 (いろいろな統計関数)</p> <p>第5回：統計関数 (応用例)</p> <p>第6回：ゴールシーク (ゴールシークの使い方)</p> <p>第7回：ゴールシーク (応用例)</p> <p>第8回：ソルバー (ソルバーの使い方)</p> <p>第9回：ソルバー (応用例1)</p> <p>第10回：ソルバー (応用例2)</p> <p>第11回：回帰分析 (回帰分析ツールの使い方)</p> <p>第12回：回帰分析 (決定係数と残差を用いた分析)</p> <p>第13回：回帰分析 (応用例1)</p> <p>第14回：回帰分析 (応用例2)</p> <p>第15回：全体のおまとめ</p>
----------	--

準備学習	電子メールは利用できるようにしておくこと。 エクセルによる表計算の基礎知識を復習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	毎回の講義中の課題(30%)と複数回の課題(70%)により評価する。
---------	------------------------------------

教科書/テキスト	授業の中で資料を配布する。
----------	---------------

参考書	授業の中で必要に応じて紹介する。
-----	------------------

履修コード	138101
科目名	情報処理基礎B
担当者名	地引 昌弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、コンピュータの操作方法を単に習得するだけに偏らず、コンピュータ自体の知識や経営における実際の問題などに対応させながら、意思決定／問題解決の手段として活用できる能力の習得を目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算の基本 (1～3) <p>経営の場における情報分析に際して、ワープロ以上に重要なツールである表計算ソフトに慣れることを目標に、代表的な表計算ソフトである MS-EXCEL を取り上げ、表計算の意味や基礎的な表計算の機能について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表計算の応用 (4～8) <p>より実践的な経営における問題への適用を目指し、最適解の計算といった応用的な表計算手法やデータの整理／管理手法、グラフの作成などの各機能について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オフィス統合ツールの基本 (9～12) <p>表計算ソフトの基本的な利用方法をベースにデータベースソフトとの連携を目指し、データベースからデータを取り出して解析を行なう技術を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの応用 (13～15) <p>コンピュータを自分自身で使いこなせることを目標に、ソフトウェアやアーキテクチャ、トラブル時の処理などコンピュータへの理解を深めるための実習／解析を行なう。まずは、OSやネットワークの仕組みについて解説を行ない、オフィス統合ツール上で利用されるソフトウェアの基礎を習得する。最後に、表計算ソフト上の簡易プログラミング機能であるマクロの作成や、実際のデバッグ手法の経験を通して、今後コンピュータを独力で使いこなしていける能力の習得を目指す。</p>
----------	---

準備学習	履修者は、授業中に配布したデータや実習で作成したファイルを各自で管理し、以後の学習に役立てること。また、授業中に実習を終了できない場合や授業内で不明な部分がある場合は、以後の学習に向けて演習室で復習を行なうこと。
------	--

履修上の留意点	本講義は、情報処理基礎の履修者が日常の活動にコンピュータを自在に活用できることを最終的な目標にしています。従って、上記の基本スケジュールと並行して、適宜コンピュータに関する様々な知識や最新情報なども解説していく予定です。また、この目標に向けてのどのような質問／疑問でも大いに歓迎致します。
---------	--

成績評価の方法	まずは、上記に述べた本講義の趣旨より、単位の取得だけが目的の者は遠慮していただきたい(出席免除などは基本的に認めない)。実習が中心なので、基本的には毎回出席し、出席の確認として実習内容を提出させることを予定している。各実習毎に、解決すべき課題(あるいはその実習の目標)を示すので、これらを解決(あるいは実現)できた場合に、実習毎の内容に応じた部分点を与える。また、実習の状況に応じて追加課題を提出させる場合がある。期末には、履修を終えた項目を応用したレポートを提出させる。成績は、出席および課題／レポートの各部分点を総合して評価する。
---------	---

教科書／テキスト	教科書などは特に指定しないが、必要があれば各項目ごとの参考図書を紹介する。
----------	---------------------------------------

参考書	
-----	--

その他	<p>課題の提出や通常のコミュニケーション手段として、基本的に学内の E-mail (電子メール) を利用する予定。</p> <p>※この科目を履修するためには、「情報処理基礎A」の4月初回授業時に担当教員の受講許可を得た上で、履修登録してください。「情報処理基礎A」への抽選登録申請のみでは履修できません。</p>
-----	--

履修コード	138201
科目名	情報処理基礎B
担当者名	地引 昌弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、コンピュータの操作方法を単に習得するだけに偏らず、コンピュータ自体の知識や経営における実際の問題などに対応させながら、意思決定/問題解決の手段として活用できる能力の習得を目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算の基本 (1~3) <p>経営の場における情報分析に際して、ワープロ以上に重要なツールである表計算ソフトに慣れることを目標に、代表的な表計算ソフトである MS-EXCEL を取り上げ、表計算の意味や基礎的な表計算の機能について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表計算の応用 (4~8) <p>より実践的な経営における問題への適用を目指し、最適解の計算といった応用的な表計算手法やデータの整理/管理手法、グラフの作成などの各機能について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オフィス統合ツールの基本 (9~12) <p>表計算ソフトの基本的な利用方法をベースにデータベースソフトとの連携を目指し、データベースからデータを取り出して解析を行なう技術を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの応用 (13~15) <p>コンピュータを自分自身で使いこなせることを目標に、ソフトウェアやアーキテクチャ、トラブル時の処理などコンピュータへの理解を深めるための実習/解析を行なう。まずは、OSやネットワークの仕組みについて解説を行ない、オフィス統合ツール上で利用されるソフトウェアの基礎を習得する。最後に、表計算ソフト上の簡易プログラミング機能であるマクロの作成や、実際のデバッグ手法の経験を通して、今後コンピュータを独力で使いこなしていける能力の習得を目指す。</p>
----------	---

準備学習	履修者は、授業中に配布したデータや実習で作成したファイルを各自で管理し、以後の学習に役立てること。また、授業中に実習を終了できない場合や授業内で不明な部分がある場合は、以後の学習に向けて演習室で復習を行なうこと。
------	--

履修上の留意点	本講義は、情報処理基礎の履修者が日常の活動にコンピュータを自在に活用できることを最終的な目標としています。従って、上記の基本スケジュールと並行して、適宜コンピュータに関する様々な知識や最新情報なども解説していく予定です。また、この目標に向けてのどのような質問/疑問でも大いに歓迎致します。
---------	--

成績評価の方法	まずは、上記に述べた本講義の趣旨より、単位の取得だけが目的の者は遠慮していただきたい(出席免除などは基本的に認めない)。実習が中心なので、基本的には毎回出席し、出席の確認として実習内容を提出させることを予定している。各実習毎に、解決すべき課題(あるいはその実習の目標)を示すので、これらを解決(あるいは実現)できた場合に、実習毎の内容に応じた部分点を与える。また、実習の状況に応じて追加課題を提出させる場合がある。期末には、履修を終えた項目を応用したレポートを提出させる。成績は、出席および課題/レポートの各部分点を総合して評価する。
---------	---

教科書/テキスト	教科書などは特に指定しないが、必要があれば各項目ごとの参考図書を紹介する。
----------	---------------------------------------

参考書	
-----	--

その他	
-----	--

課題の提出や通常のコミュニケーション手段として、基本的に学内の E-mail (電子メール) を利用する予定。
 ※この科目を履修するためには、「情報処理基礎A」の4月初回授業時に担当教員の受講許可を得た上で、履修登録してください。「情報処理基礎A」への抽選登録申請のみでは履修できません。

履修コード	138611
科目名	情報処理基礎B
担当者名	長 國強

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義では、ホームページ作成言語HTMLとプレゼンテーション資料の作成ソフト(PPT)について学んでいく。
---------------------	--

授業スケジュール	インターネット基礎(1-2); HTML言語(3-7); 情報検索(8); 小テスト(9); プレゼンテーション資料の作成(10-12); 全体のまとめ(13-14); 小テスト(15)。
----------	--

準備学習	特にありません。
------	----------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	総合評価(100)=提出課題(70)+期末試験(30)。
---------	------------------------------

教科書/テキスト	特に使用しませんが、プリントは随時配布する予定。
----------	--------------------------

参考書	特に使用しません。
-----	-----------

その他	特にありません。
-----	----------

履修コード	138631
科目名	情報処理基礎B
担当者名	中野 秀洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義では、代表的な表計算アプリケーションであるExcelのワークシート関数と付属ツールを用いたデータ分析の方法について学んでいく。具体的には、財務関数、統計関数、ゴールシーク、回帰分析、ソルバーを用いて例題を解きながらデータ分析についての理解を深める。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回：ワークシート関数の基本についての復習</p> <p>第2回：財務関数 (いろいろな財務関数)</p> <p>第3回：財務関数 (応用例)</p> <p>第4回：統計関数 (いろいろな統計関数)</p> <p>第5回：統計関数 (応用例)</p> <p>第6回：回帰分析 (回帰分析ツールの使い方)</p> <p>第7回：回帰分析 (応用例1)</p> <p>第8回：回帰分析 (応用例2)</p> <p>第9回：ゴールシーク (ゴールシークの使い方)</p> <p>第10回：ゴールシーク (応用例)</p> <p>第11回：ソルバー (ソルバーの使い方)</p> <p>第12回：ソルバー (応用例1)</p> <p>第13回：ソルバー (応用例2)</p> <p>第14回：ソルバー (応用例3)</p> <p>第15回：全体のまとめ</p>
----------	--

準備学習	毎回の授業の復習を行っておくこと。
------	-------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	複数回の課題提出により評価する。授業に出席することも合格の必要条件である。
---------	---------------------------------------

教科書/テキスト	授業の中で資料を配布する。
----------	---------------

参考書	授業の中で必要に応じて紹介する。
-----	------------------

履修コード	138401
科目名	情報処理基礎B
担当者名	村上 友佳子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本講義の狙いは、大学生がレポートや卒業論文を執筆する際に、必要とされるスキルを学ぶことです。また、それらは、社会人になってからも、利用可能です。</p> <p>数的処理やデータベース処理、回帰分析などの高度な統計処理も、EXCEL使うと簡単に習得できて、これまでと一味違う論文を書くことができます。</p> <p>また、POWER POINTを使って、効果的なプレゼンテーションの練習をしましょう。今まで書いたことのあるレポートをPOWER POINTに移して、きれいな背景や分かりやすい見出しをつけ、発表すると自信がつかます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>出席する方は、まず、少人数クラスのなかで自分の意見や疑問点をしっかり述べる習慣、授業にきちんと出席して、話を聞き、課題をこなす習慣をつけてください。</p> <p>大学生として、勉強や学問で実りある成果をレポートや卒業論文として残したいと考えている学生に相応しい講義です。また、社会人になってからも有効に使えるスキルを身につけたいと考えている学生にも相応しい講義です。</p>
----------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 POWER POINTによるプレゼンテーション (報告の行い方) 2 図書館における文献、資料、統計、データベースの検索の行い方 3 パソコン端末利用による、データのダウンロードの行い方 4 EXCEL 表計算ソフトを使ってみましょう 5 EXCEL 統計関数、財務関数の使い方 6 EXCEL 論理関数の使い方 (企業を評価し、ランクづけする) 7 EXCEL データベース処理I (並び替え、フィルタ、自動集計機能を使う) 8 EXCEL データベース処理II (顧客データの集計をピボットテーブルで行う) 9 EXCEL グラフの描き方 (企業評価をグラフで図示しましょう) 10 EXCEL 回帰分析
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	<p>第一に、POWER POINTを使って、講義時間内に少なくとも一度は報告を行うことがもめられる。報告する内容は、以前に書いた企業の経営に関するレポートに基づき、EXCELの数表、グラフを示すこと。学生個人のオリジナルな考え方に従った報告に対して高い評価をする。</p> <p>第二に、講義内で示す2回の課題 (EXCELによる数的処理) を提出することが求められる。</p> <p>第三に、講義に遅刻しないで出席し、講義を聴き、指示に従い作業を行う。分からなければ質問し、講義で進められる実際の演習を習得する。その結果として、講義内の練習を適宜、提出する。</p>
---------	---

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

その他	※この科目を履修するためには、「情報処理基礎A」の4月初回授業時に担当教員の受講許可を得た上で、履修登録してください。「情報処理基礎A」への抽選登録申請のみでは履修できません。
-----	--

履修コード	137701
科目名	情報処理基礎B
担当者名	依田 聖

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	コンピュータの『初心者』を対象に情報化社会において不可欠であるコンピュータの基本操作を習得します。主な内容は、エクセルとHPの作成です。エクセルの仕組みとワークシートとセルの概念、基本操作と文書の保存・コピーの仕方、数式の入力、相対参照と絶対参照、関数の利用、様々なグラフの作成、DBの操作、Tクセルによる簡易ワープロとエクセルの印刷法などです。さらに一般的なPCの利用法として、エクセル・HP検索・ワープロの3つの連携によるレポートの作成の演習を行います。 またHPの作成をHTML言語で行います。HP表示の仕組みを、HPサーバとPCでの言語の解釈と画面の面から解説し、簡単なHP画面を作成できることを目標とします。
---------------------	--

授業スケジュール	大学あるいは企業でPCを道具(情報収集、情報伝達、レポートの作成等)として使う基本的な力(コンピュータ・リテラシー)を養います。演習を中心に進め、後期は表計算(エクセル)とHPの作成(HTML言語を使用)を勉強します。 演習の主要な点は(1)表計算(エクセル操作法、計算式)(2)表計算(関数の利用、相対参照)(3)表計算(セルの挿入、削除、輻射、移動)(4)表計算(ワークシートのコントロール)(5)表計算(グラフの作成、印刷)(6)表計算(簡易ワープロ、印刷)(7)表計算(よくつかわれる関数)(8)表計算(ソートとフィルタ)(9)実務的問題、www-エクセルワープロの連携(アプリケーション間でのデータのやり取り、情報検索・収集とその解析、ワープロでの表、グラフの編集)(10)HPの作成(HTMLとは、タグファイルによるHPの作成)(11)HPの作成(タグファイルの追加と変更によるHPの作成)(12)HPの作成(オリジナルHPの作成) 以上の項目(1)~(12)を1~2回で行い15回で終わる。
----------	--

準備学習	PCの電源のON/OFFやKB、マウスの操作などはスムーズに出来るようにしておくこと。初回は前期未履修者向けに電子(PC)メールの初期設定をするので、必ず出席すること。
------	--

履修上の留意点	講義にはメールを活用(講義録の送付と課題の提出)する。本科目は積み重ねが必要。欠席した場合必ず休んだ部分を勉強し、次回にのぞむように。分からないことは恥ずかしくがらず聞き、その場で解決のこと。また復習をしっかりとすること。演習は結果としてハードなものになるので熱意を持って取り組むこと。休まず、遅刻はしないこと(出欠は必ずとります)。
---------	---

成績評価の方法	出席(毎回の課題を提出)とレポート40%、試験60%。毎回の課題はメールで提出する。
---------	--

教科書/テキスト	太田忠一編『文科系のためのコンピュータリテラシー[第4版]』(サイエンス社)2008年1,950円+税、ISBN4-7819-1085-8
----------	---

参考書	
-----	--

その他	※この科目を履修するためには、「情報処理基礎A」の4月初回授業時に担当教員の受講許可を得た上で、履修登録してください。「情報処理基礎A」への抽選登録申請のみでは履修できません。
-----	--

履修コード	138621
科目名	情報処理基礎B
担当者名	若山 大樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は、情報処理基礎Aの学習内容習得済の学生を前提に行うものである。本講義では、大学初年度で大学生が習得しておく必要がある情報処理リテラシーについて学ぶ。具体的には、代表的な表計算アプリケーションであるExcelのワークシート関数(財務関数、統計関数など)と付属ツールを用いたデータ分析の方法(回帰分析など)、分析結果のグラフ化、プレゼンテーション資料の作成方法(応用)やそれを用いた発表方法について学んでいく。
---------------------	--

授業スケジュール	(1)~(2) 表計算ソフト・エクセルの基本、 (3)~(6) ワークシート関数、財務関数、統計関数、 (7)~(8) グラフ作成、編集、 (9)~(11) 回帰分析の基礎、 (12)~(14) プレゼンテーション(パワーポイントの基礎と応用)、発表会 (15) まとめ
----------	--

ただし、情報処理基礎Aの進捗状況により、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを情報処理基礎Bの最初に実施する場合がある。

準備学習	配布の教材をよく読んで授業に備えること。
------	----------------------

履修上の留意点	各自パワーポイントを用いたプレゼンテーションを全履修生の前で行う機会がある。情報処理基礎Aを履修していること。授業進行状況により講義スケジュールの項目が前後する場合があります。
---------	--

成績評価の方法	4~5回の小課題提出状況と課題に取り組む姿勢(60%)、試験(10%)、パワーポイントを用いた発表(30%)により総合的に評価する。課題に取り組む姿勢とは授業態度や課題レポートのオリジナリティ、課題作成時の質問内容などから評価する。
---------	--

教科書/テキスト	必要に応じて授業時間内に配布あるいは指示する。
----------	-------------------------

参考書	必要に応じて授業時間内に配布あるいは指示する。
-----	-------------------------

履修コード	142511
科目名	情報セキュリティA
担当者名	西村 和夫

授業概要/
到達目標 (ねらい)

情報のセキュリティについての組織の取組みを理解する。
 まず、情報は社会基盤にもかかわる重要な経営上の資産であることを認識する。情報セキュリティの定義と歴史を概観したうえで、現代の脅威、社会問題と対策を知る。
 そのうえで、企業の社会的責任からの要請、情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS)、最高情報セキュリティ責任者 (CISO) と情報セキュリティポリシーの必要性、個人情報保護マネジメントシステム (PMS)、内部統制、情報セキュリティ監査、従業員教育を含む情報セキュリティガバナンスについて学ぶ。
 社会全体では、倫理も含むセキュリティ文化を醸成する必要があることを認識する。

授業スケジュール

回数	内容
1	ガイダンス、自己紹介
2	犯罪と事故の例、危機管理
3	情報セキュリティの実際、現代の暗号技術
4	情報とは、情報の資産価値
5	情報セキュリティの定義と歴史
6	リスク管理、現代の脅威、社会問題と対策
7	組織 (国、民間、企業) の取組み、ISO 27000
8	情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS, CISO)
9	情報セキュリティポリシー
10	プライバシー、個人情報保護マネジメントシステム (PMS)
11	企業統治、コンプライアンス、内部統制
12	情報セキュリティ監査、コンピュータ・フォレンジクス
13	情報セキュリティガバナンス、従業員教育の必要性
14	情報セキュリティ文化、まとめ

準備学習

授業用 Web ページを読んでおいてほしい。

履修上の留意点

履修に際して予備的な知識は必要としない。毎回出席してきちんとノートをとること。

成績評価の方法

小テストと定期試験を総合評価する。

教科書/テキスト

授業用 Web ページ: {<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/security/index.html>}

参考書

- [1] 情報処理推進機構 セキュリティセンター, 情報セキュリティ読本 ― IT時代の危機管理入門, 実教出版, 2004. (500円).
- [2] YeStudy {<http://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>}

履修コード	142521
科目名	情報セキュリティB
担当者名	西村 和夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>情報セキュリティに関する法制度および暗号の技術について理解する。まず、守るべき情報の価値には、秘匿性、完全性、可用性があることと、秘匿性と可用性とはトレードオフの関係にあることを再確認する。</p> <p>不正アクセス禁止法、個人情報保護法、刑法などの法律を学び、アクセス制御を理解する。また、暗号によって達成可能な目標および暗号技術を理論的に理解する。特に、公開鍵暗号のRSA方式を理解する。そのうえで、ネットワーク上で情報セキュリティを実現する方法および認証局の必要性について理解する。いくつかの暗号プロトコルを学習する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>回数 内容</p> <p>1 授業内容概説、機密性と可用性のトレードオフ、危機管理</p> <p>2 不正アクセス禁止法、個人情報保護法、著作権法 など</p> <p>3 アクセス制御、アクセス制御リスト</p> <p>4 暗号によって達成できる目標と暗号技術</p> <p>5 暗号系と用語</p> <p>6 共通鍵暗号、“踊る人形”の解読</p> <p>7 転置式暗号、ストリーム暗号、暗号解読</p> <p>8 公開鍵暗号</p> <p>9 剰余環、RSA方式</p> <p>10 認証、電子署名、ハッシュ関数</p> <p>11 暗号技術を使ってできること、電子マネー、量子暗号</p> <p>12 暗号プロトコル、SSL</p> <p>13 公開鍵基盤 (PKI)、認証局</p> <p>14 情報セキュリティ基盤、情報セキュリティ・サービス</p>
----------	---

準備学習	授業用 Web ページを読んでおいてほしい。
------	------------------------

履修上の留意点	毎回出席して、きちんとノートをとること。
---------	----------------------

成績評価の方法	小テストと定期試験を総合評価する。
---------	-------------------

教科書／テキスト	授業用 Web ページ： http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/security/index.html#B
----------	--

参考書	<p>[1] 情報処理推進機構 セキュリティセンター、情報セキュリティ読本 ― IT時代の危機管理入門、実教出版、2004。(500円)。</p> <p>[2] 結城浩、暗号技術入門 ― 秘密の国のアリス、ソフトバンクパブリッシング、2003。ISBN 4-7973-2297-7。</p> <p>[3] YeStudy (http://yestudy.komazawa-u.ac.jp/)</p>
-----	--

履修コード	142601
科目名	生産管理論
担当者名	藤原 篤志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 生産管理は製造企業における生産活動の管理であり、財の生産に投入する生産諸要素(資材、設備、労働力)を総合的に調整することにより、主としてQ(品質)・C(原価)・D(納期)の側面について企業の生産効率を最大にすることを目的としている。このような生産管理の機能・特徴を体系的に解説したい。また作業管理を中心に構築されてきた各種生産システム(テイラーシステム、フォードシステム、トヨタ生産システムなど)について解説する。 また本講義では生産や生産管理と密接に関連している労働者による労働も考察の対象とする。 (到達目標) 生産管理の体系的な仕組みの理解や経営環境の変化に応じて発展してきた生産システムの到達点の理解、そしてこれらを通じて日本の製造業の競争優位の要因を把握することを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期は生産管理の機能を体系的に解説する。講義の対象と概要(第1回)、生産に関する基本的な用語・概念(第2~4回)、生産計画と生産統制(第5~8回)、QCDの側面の管理(第9~11回)、生産要素に関する管理(第12~15回)。 後期は歴史上代表的な生産システムについて解説する。テイラー・システム(第16~19回)、フォード・システム(第20~23回)、トヨタ生産システム(第24~30回)。 以上の内容の講義と並行して経済専門紙や専門雑誌の記事を紹介しながら、最近の生産上の問題や生産の効率化に関する企業の取り組みについて解説を行いたい。</p>
----------	--

準備学習	<p>生産や生産管理は企業内で行われるものなので、その内容は一般的に目に触れるものではなく馴染みのないものである。それゆえ、日常的に経済専門紙などで、製造業に関する記事や生産に関わる取り組みや事例を読んで、生産問題への喚起を心がけてもらいたい。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>講義中の私語は厳禁である。私語や携帯電話の呼出音等、講義を妨げる者は即座に退室扱いになり、また場合によって減点や単位取得不可になることもあるので注意すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>定期試験で行う(100%)。またレポートの課題を出すこともあるが、その場合は定期試験90%、レポート10%で評価する。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>指定しない。</p>
----------	---------------

参考書	<p>百田義治『経営学基礎』中央経済社、2006年 甲斐章人『現代生産管理論』白桃書房、1986年 門田安弘『トヨタプロダクションシステム~その理論と体系~』ダイヤモンド社、2006年 その他、講義の中で指示する。</p>
-----	---

履修コード	333801
科目名	生産管理論
担当者名	藤原 篤志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 生産管理は製造企業における生産活動の管理であり、財の生産に投入する生産諸要素(資材、設備、労働力)を総合的に調整することにより、主としてQ(品質)・C(原価)・D(納期)の側面について企業の生産効率を最大にすることを目的としている。このような生産管理の機能・特徴を体系的に解説したい。また作業管理を中心に構築されてきた各種生産システム(テイラーシステム、フォードシステム、トヨタ生産システムなど)について解説する。 また本講義では生産や生産管理と密接に関連している労働者による労働も考察の対象とする。 (到達目標) 生産管理の体系的な仕組みの理解や経営環境の変化に応じて発展してきた生産システムの到達点の理解、そしてこれらを通じて日本の製造業の競争優位の要因を把握することを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期は生産管理の機能を体系的に解説する。講義の対象と概要(第1回)、生産に関する基本的な用語・概念(第2~4回)、生産計画と生産統制(第5~8回)、QCDの側面の管理(第9~11回)、生産要素に関する管理(第12~15回)。 後期は歴史上代表的な生産システムについて解説する。テイラー・システム(第16~19回)、フォード・システム(第20~23回)、トヨタ生産システム(第24~30回)。 以上の内容の講義と並行して経済専門紙や専門雑誌の記事を紹介しながら、最近の生産上の問題や生産の効率化に関する企業の取り組みについて解説を行いたい。</p>
----------	--

準備学習	<p>生産や生産管理は企業内で行われるものなので、その内容は一般的に目に触れるものではなく馴染みのないものである。それゆえ、日常的に経済専門紙などで、製造業に関する記事や生産に関わる取り組みや事例を読んで、生産問題への喚起を心がけてもらいたい。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>講義中の私語は厳禁である。私語や携帯電話の呼出音等、講義を妨げる者は即座に退室扱いになり、また場合によって減点や単位取得不可になることもあるので注意すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>定期試験で行う(100%)。またレポートの課題を出すこともあるが、その場合は定期試験90%、レポート10%で評価する。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>指定しない。</p>
----------	---------------

参考書	<p>百田義治『経営学基礎』中央経済社、2006年 甲斐章人『現代生産管理論』白桃書房、1986年 門田安弘『トヨタプロダクションシステム~その理論と体系~』ダイヤモンド社、2006年 その他、講義の中で指示する。</p>
-----	---

履修コード	143221
科目名	製品開発論
担当者名	宮下 雄治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>これまで世界から高く評価されてきた日本製造業の競争力が問われています。これは国際比較でみた収益力の低さに如実に表れており、世界的な景気後退の中で、近年の日本の製造業は大変厳しい経営環境に見舞われています。本講義では、短期的な経済変動の枠内にとらわれず、日本の製造業が抱える本質的な課題について理解を深めるとともに、時代の変革に的確に対応していく製品開発について解説していきます。講義では、マーケティング研究における製品開発のアプローチに加え、技術経営 (Management of Technology) の視点から技術と需要の結び付きに焦点を当て、技術的資産を魅力ある事業に結び付ける製品開発について解説します。また、現代のデフレ経済化において存在感を増しているPB (プライベート・ブランド) の実態と発展可能性についても解説します。このような広範な視点から、現代の産業界の要請に対する製品開発のアプローチと課題について体系的な理解を深めることを目的とします。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>【前期】①オリエンテーション ②製品開発の研究領域 ③ものづくりとブランド構築 ④日本製造業の競争力 ⑤日本製造業の収益力 ⑥日本製造業の課題 ⑦グローバル企業の製品開発 ⑧EMSの台頭と特徴 ⑨色彩とパッケージ ⑩パッケージによる製品差別化 ⑪プロダクトデザイン ⑫ブランド戦略 ⑬流通業のPB (プライベートブランド) 開発 ⑭PBの国際比較 ⑮PBに対するNB (ナショナル・ブランド) の対抗戦略</p> <p>【後期】①製造業の増収確保の方向性 (製品差別化) ②製造業の増収確保の方向性 (収益源の海外シフト) ③製造業の増収確保の方向性 (研究開発の改革) ④研究開発 (R&D) マネジメント ⑤技術と市場を結ぶ技術経営 (1) ⑥技術と市場を結ぶ技術経営 (2) ⑦イノベーションの基本体系 ⑧オープン・イノベーション ⑨製品開発におけるマーケティングリサーチ (1) ⑩製品開発におけるマーケティングリサーチ (2) ⑪脳科学と製品開発 ⑫VOC経営と製品改良 ⑬ダイバーシティ経営と競争力 ⑭新興国市場における製品開発 ⑮21世紀の製品開発 ⑯授業のまとめ</p>
----------	--

準備学習	マーケティングの基礎知識を習得していることが望ましい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	成績評価は、従業内に行う課題を重視します (ほぼ毎回行う予定)。その他、定期試験とレポートを実施し総合的に評価します。
教科書/テキスト	教科書・テキストは使わず、板書とビデオ教材を中心に授業を行います。
参考書	<p>上原征彦『マーケティング戦略論—実践パラダイムの再構築』有斐閣、1999年。 川上智子『顧客志向の新製品開発—マーケティングと技術のインタフェイス』有斐閣、2005年。 延岡健太郎『製品開発の知識』日本経済新聞社、2002年。</p>

履修コード	143101
科目名	税法
担当者名	奥村 正郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>租税は、我々納税者が、税法の定めるところに従って、国や地方公共団体 (都道府県及び市町村) に納付すべきものであり、それは公共サービスの資金となり、我々の生活に影響する。しかしながら税法は、多数の法律とそれを施行するための政令、省令で成り立ち、さらに多くの通達があり、しかも法律の解釈や手続きは難解で、改正も毎年ある。このような事情からその重要性は認識していても、将来その専門家になりたいという人以外、積極的に税法の知識を身につけようとする人は少ないように思われる。このようなことから本講義により、我々の身近な法律である税法に関心をもち、具体的事例、計算を通じてその基本的知識を習得してもらいたい。また将来、税理士試験を目指すものにとっても有用な知識を提供できるような内容にしたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>講義の内容は以下のようになります。</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 租税のあらまし 2. 税法の基本原則 3. 租税の種類と分類 4. 民法の相続制度 (1) 5. 民法の相続制度 (2) 6. 相続税の納税義務者 7. 相続税の課税財産 8. みなし相続財産 9. 相続税の財産評価 (1) 10. 相続税の財産評価 (2) 11. 相続税の計算 (1) 12. 相続税の計算 (2) 13. 贈与税 14. 贈与税と相続時精算課税制度 15. まとめ <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 所得の概念 2. 納税義務者 3. 課税所得の範囲等 4. 各種所得の種類 5. ~8. 各種所得の計算 (1) ~ (4) 9. 10. 所得控除及び税額の計算 (1), (2) 11. 申告、納付、源泉徴収、その他 12. その他の税法 (法人税) 13. 14. その他の税法 (消費税 (1) (2)) 15. まとめ
----------	---

準備学習	テキスト、配布プリント等を事前に読んでおくことと授業の理解に効果的です。
履修上の留意点	この授業では簿記会計の知識は必須ではないが、簿記等の講義も受講することを勧める。
成績評価の方法	学期末試験 80%、平常点 20%、出席状況も勘案して評価する。
教科書/テキスト	『公共経済と租税』速水昇他編著 (学文社)
参考書	授業を進める中で適宜紹介する。
その他	計算演習等プリントを随時配布する。電卓を使用するので持参すること。
関連リンク	http://www.nta.go.jp/

履修コード	141901
科目名	税務会計論
担当者名	高木 克己

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。ここ数年、法人税も税率の引き下げをはじめ、多くの改正が行われている。本講義では、普通法人(株式会社等)を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。</p> <p>税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、会社法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。そこでは、法人税法固有の規定(いわゆる別段の定め)が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。</p> <p>(到達目標) 企業会計基準や会社法等との関連性を明確にした上で、法人税法における課税所得の計算構造を理解することを目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>講義内容の概要は次のとおりである。</p> <p>(1~2) 税務会計の制度的基礎、(3~5) 法人税の意義、性格、納税義務者等、(6~8) 事業年度、同族会社、(9~12) 課税所得計算の基礎、(13~16) 販売収益、請負収益、有価証券譲渡益等、(17~21) 売上原価、減価償却、寄付金、交際費等、(22~24) 税額の計算、申告、納付等、(25~28) 企業組織再編税制、連結納税制度等、(29~30) 国際課税、不服申立・訴訟等</p>
----------	--

準備学習	準備学習は、しっかりしてください。
履修上の留意点	「簿記学」「会计学」等の基礎的な会計科目を修得した上で履修した方がより理解が深まると思われる。
成績評価の方法	原則として学年末の試験によって評価する。数回の小テストを行う予定である。
教科書/テキスト	開講時に指示する。
参考書	開講時に指示する。

履修コード	332301
科目名	税務会計論
担当者名	高木 克己

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。ここ数年、法人税も税率の引き下げをはじめ、多くの改正が行われている。本講義では、普通法人(株式会社等)を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。</p> <p>税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、会社法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。そこでは、法人税法固有の規定(いわゆる別段の定め)が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。</p> <p>(到達目標) 企業会計基準や会社法等の関係性をあきらかにした上で、企業における法人税の課税所得の計算構造を理解することを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>講義内容の概要は次のとおりである。</p> <p>(1~2) 税務会計の制度的基礎、(3~5) 法人税の意義、性格、納税義務者等、(6~8) 事業年度、同族会社、(9~12) 課税所得計算の基礎、(13~16) 販売収益、請負収益、有価証券譲渡益等、(17~21) 売上原価、減価償却、寄付金、交際費等、(22~24) 税額の計算、申告、納付等、(25~28) 企業組織再編税制、連結納税制度等、(29~30) 国際課税、不服申立・訴訟等</p>
----------	--

準備学習	予習等、事前の準備をしっかりして出席して下さい。
履修上の留意点	「簿記学」「会计学」等の基礎的な会計科目を修得した上で履修した方がより理解が深まると思われる。
成績評価の方法	原則として、前期末及び後期末のレポート試験によって評価する。
教科書/テキスト	開講時に指示する。
参考書	開講時に指示する。

履修コード	142701
科目名	ドイツ経営学
担当者名	高橋 成夫

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) 現代のドイツ企業システムの特徴を解明するとともに、ドイツ経営学の性格や内容を、ドイツ経営学の歴史（史的展開）の中で明らかにすることにある。</p>
--------------------	---

(到達目標)
ドイツの企業システムの特徴について説明でき、ドイツ経営学の性格や内容を史的展開に基づいて整理できるようになる。

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツの企業形態 2. 所有構造と支配類型 3. トップ・マネジメント構造 4. 企業の社会的側面 5. モンタン共同決定法 6. 経営組織法・共同決定法 7. ドイツの企業統治 8. ドイツの企業統治事例 9. 企業統治の国際比較 10. 企業統治改革の動向① 11. 企業統治改革の動向② 12. 企業の生態的側面 [環境経営] 13. ヨーロッパ会社 14. ドイツのヨーロッパ会社事例 15. まとめ 16. ドイツ経営学の前史 17. ドイツ経営学の生成 18. 科学的/技術的私経済学 19. ドイツ経営学の展開 20. 規範的/技術的経営経済学 21. 私経済学的企業経済学 22. ドイツ経営学の発展 23. 理論科学的経営経済学 24. 応用科学的経営経済学 25. ドイツ経営学の現状 [多様な構想] 26. 意思決定/システム志向的経営経済学 27. 労働志向的個別経済学 28. 行動理論的/新規範論的経営経済学 29. 新制度派経済学に基づく経営経済学 30. まとめ
----------	---

準備学習	新聞・雑誌などからドイツ企業関連の記事を整理しておくことと事前学習になる。また、前回の授業内容を復習し、当日の授業内容の予習をしておくこと。
------	--

履修上の留意点	講義では主要な内容について出来る限りプリントを配布したり、板書して説明するので、積極的に出席することが望ましい。
---------	--

成績評価の方法	定期試験(80%)と平常点(20%)を総合して評価する。
---------	------------------------------

教科書/テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	北野利信編『経営学説入門』（有斐閣新書）900円＋税
-----	----------------------------

履修コード	144801
科目名	特殊講義Ⅰ〔現代のビジネスモデル〕
担当者名	中野 香織

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本講義のテーマは「キャリアプランを考える～女性の視点から～」である。本講義は女性だけでなく男性も受講の対象である。女性のキャリアを理解し、自身の働き方を考えるきっかけにしてほしい。</p> <p>学生時代には「就職すること（≡内定をもらうこと）」に目を向けがちであり、長い目でキャリアを考える機会はあまりない。近年の就職難という状況が特にその傾向に拍車をかけているように思う。</p> <p>女性にとって、結婚や出産は大きなライフイベントであり、社会人としてのその後のキャリアを考えるきっかけになるだろう。その他にも「総合職でキャリアを積む」、「転職を重ねる」、「自分の時間を大切にするため派遣社員で働く」、「結婚を機に会社を辞めて専業主婦になる」、「子供が大きくなったので再び働き始める」など選択肢は多様である。</p> <p>本講義では女性の生き方、働き方、ライフコースの選択肢を知った上で、男性も含めて自分自身のキャリアプランを考えることを目的とする。そのために、多様なキャリアを持つゲストスピーカーによる講義を中心とする。</p> <p>以上の目的から、本講義では主体的に、自分自身の頭で考えることを求める。自分の将来は自分でしか切り開けないのである。自分はどう生きるのか、どう働くのか、をぜひ講義を通じて考えてほしい。したがって、講義ごとのワークの提出に加え、授業外でのレポート課題等も行う。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>詳細な授業スケジュールについては、初回のガイダンスで知らせる。ただし、授業スケジュールは、必要に応じて変更する可能性がある。</p>
----------	---

- 1) ガイダンス
- 2) 就職活動の現状
- 3) 企業分析の方法
- 4) 女性のさまざまなライフコース
- 5) ゲストによる講義①
- 6) ゲストによる講義②
- 7) ゲストによる講義③
- 8) ゲストによる講義④
- 9) 授業内ワーク
- 10) ゲストによる講義⑤
- 11) ゲストによる講義⑥
- 12) ゲストによる講義⑦
- 13) ゲストによる講義⑧
- 14) 授業内ワーク
- 15) まとめ

準備学習	主体的に授業を受けられるよう、あらかじめ将来の働き方やキャリアについて、考えておくこと。
------	--

履修上の留意点	<p>講義の進め方と詳細な授業スケジュールは、初回のガイダンスで伝える。そのため、初回は必ず出席すること。</p> <p>なお、外部の特別講師による講義では、原則として遅刻と私語は厳禁である。受講態度に問題がある場合、退室を指導することがある。</p>
---------	--

成績評価の方法	平常点70%（参加状況やワークなど）、授業外のレポート30%で評価する。
---------	--------------------------------------

教科書／テキスト	特になし
----------	------

参考書	特になし
-----	------

履修コード	101201 101202 101203
科目名	現代産業事情III 現代企業論 特殊講義II
担当者名	百田 義治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本科目は東京税理士の寄附講座として開講されます。東京税理士会所属の14人の現役の税理士の方々(そのほとんどは駒澤大学または駒澤大学大学院の卒業生)が、それぞれの実務経験を踏まえながら、税理士の役割や社会的使命、さまざまな税法の内容や意義、また税理士の実際の姿などについて、わかりやすく講義します。受講生が、本授業を通して、財政や租税に関する実際的な知識を獲得し、できれば税理士や公認会計士などの職業会計人を目指す機会となることを期待しています。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>以下のテーマでの授業を予定しています。</p> <p>第1回 わが国の租税制度と税理士制度 第2回 グローバル経営と法人税制(組織再編税制) 第3回 法人と個人の税金のしくみ 第4回 相続人と遺産分割 第5回 相続税と相続財産の評価 贈与税の概要 第6回 所得税の概要 第7回 法人税の概要 第8回 租税教育と税理士の社会貢献 第9回 リスク・マネジメントと税務会計 第10回 税理士と地方自治体監査制度 第11回 税務調査と税理士 第12回 サラリーマンと税金のはなし—住宅取得から売却まで— 第13回 消費税のしくみについて 第14回 税制改正の概要 第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	<p>この授業では、14人の東京税理士会の現役の税理士さんが、それぞれの専門分野について日頃の実務経験に基づいて講義を行います。すべての講義のテーマが決定されていますので、毎回それぞれのテーマについて、今、何が問題なのかを事前に学習して授業に参加することが求められます。新聞やネットを駆使して、準備学習して授業に参加すればするほど、学習成果は大きくなります。また、準備学習して質疑のコーナーで質問をすれば、授業も楽しくなります。</p>
------	--

履修上の留意点	租税制度や税務、税理士など職業会計人に興味がある人の受講を期待します。
---------	-------------------------------------

成績評価の方法	定期試験(レポート試験)と14回の毎回の授業に関する小レポートで総合的に評価する。
---------	---

教科書/テキスト	毎回資料を配布する。
----------	------------

参考書	特になし。
-----	-------

その他	<p>この科目は、履修制限(150名~200名)をします。最初の授業で履修制限の説明をします。本授業はすべて外部講師(税理士)の方々によって進められます。授業における私語および携帯電話の使用は禁止します。また講師講演中の遅刻入場や途中退席も原則として禁止します。</p>
-----	---

履修コード	142101
科目名	日本経営史
担当者名	大島 久幸

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>株主との利害調整、持株会社の機能、経営者の役割など現代企業が直面する様々な問題に対処するうえで、近代以降の企業経営の歴史から多くの示唆を得ることができよう。本講義では、近代日本において経済発展を担う主体として、また日本の企業類型の主要なルーツとして中心的な地位を占めてきた財閥に着目して、それら財閥が、どのようなプロセスで誕生し、日本の経済発展とともにどのように成長していったのかという点を考察し、そこから日本経済の歴史的な起源や日本の経済発展を考えてみたい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>【前期】 1. 財閥の定義 2. 幕末維新の危機 3. 資本生社会論 4. 政商の誕生 5. 政商と華族資本 6. 政商からの脱皮 7. 運輸・通信システムの整備 8. 産業化の光と影 9. 家政改革と家憲 10. コンツェルンと持株会社 11. 専門経営者の登場(1) 12. 専門経営者の登場(2) 13. ~15. 前期のまとめ</p> <p>【後期】 1. 第一次大戦期における商社ブームと破綻 2. 三井物産の形成 3. 鈴木商店と金融恐慌 4. 都市化の進展と大衆生活の洋風化 5. 三大財閥の覇権 6. 恐慌とドル買い事件 7. 財閥の転向 8. 戦時体制と財閥 9. 財閥解体 10. 企業集団の形成 11. 高度成長期の日本経済 12. 高度成長期の専門経営者 13. ~15. 後期のまとめ</p>
----------	--

準備学習	<p>授業は1回ごとに完結しますが、相互に関連しています。毎回配布するレジュメをよく復習して授業に臨むこと。質問がある場合には授業終了時に配布するリアクションペーパーに記入すること。</p>
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	前期試験と定期試験で総合的に評価する。
---------	---------------------

教科書/テキスト	武田晴人『財閥の時代』(新曜社)1996年
----------	-----------------------

参考書	<p>宇田川勝・中村青志『マテリアル日本経営史』(有斐閣)1999年。 老川慶喜・仁木良和・渡邊恵一『日本経済史』(税務経理協会)2002年。</p>
-----	--

履修コード	139301
科目名	日本経済史
担当者名	渡辺 新

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経済学は理論・歴史・政策の3つの柱から成り立つが、この講義はその内の歴史(経済史)についてのものである。今年度は、日本において資本主義経済が成立して以来の経済の歴史、つまり日本資本主義発達史を学んでいくこととする。現在、私たちが住んでいる日本の資本主義経済はただかたがた百数十年の歴史しかもっていない。しかし、その百数十年は人類が経験したことのないうるいテンポで進み、大きく変貌している。この講義のねらいは日本の資本主義経済の歴史分析にあることはいままでもないが、そのことによって現代日本の歴史的な位置を考えていくことにもう一つのねらいがある。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期・後期を通じてそれぞれの歴史段階に沿った形で日本経済の特質を解説していくが、今年度はとりわけ財閥の歴史を重視していく。財閥は近代日本資本主義において経済発展を担う主体であり、また日本的な企業類型の主要なルーツとして中心的な位置を占めてきた。その財閥が、政商として誕生してから時代とともにどのように変容していったかをみていくこととする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前近代の社会経済構造 2. 明治維新の社会経済構造 3. 日本の産業革命 4. 政商から財閥へ 5. 大正デモクラシーの社会経済構造 6. 商社ブームと破綻 7. 昭和恐慌と高橋財政 8. 財閥の転向 9. 十五年戦争下の日本経済 10. 戦時体制と財閥 11. 敗戦と戦後改革 12. 財閥の解体 13. 高度経済成長の歴史構造 14. 企業集団と財閥 15. まとめ
----------	---

準備学習	経済史に限らず、広く歴史関係書物を読んでおくこと。
履修上の留意点	歴史は暗記するものではなく理解するものであることを絶えず念頭におくこと。
成績評価の方法	原則として試験ないしはレポートによって評価するが、下手な講義でも欠席の学生には教えることができない。したがって、出席状況も重視する。
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	そのつど指示する。

履修コード	141401
科目名	日本経済論
担当者名	羽鳥 茂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 多様な経済システム (日本の経済システムはそれらのうちの一つ) がどのようにして生まれ、また、それらはどのように進化していくのでしょうか。そして、それは望ましい方向でしょうか。その基準は何でしょうか。このことを考えてみたいと思います。 (到達目標) 企業はさまざまな角度から分析することができます。本講義では、企業を一つの情報システムとみて、その内部で各種の情報を共有したり分有することによってどのような情報効率性が達成されるかを学生諸君が理解できるようにする、それを到達目標の一つと考えています。また、これまでの経済学やゲーム理論で想定されている合理的な経済主体の仮定を超えて、より現実的な想定と思われる限定合理性の考え方を導入し、企業の進化と従業員の技能の進化の関係が理解できるようにすることをもう一つの到達目標としています。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 現代日本の経済システム 第2回 新古典派経済学と制度分析 第3回 制度の多様性とナッシュ均衡 第4回 限定合理性をどう考えるか 第5回 資源配分メカニズムと企業内コーディネーション 第6回 企業のモデル化 第7回 情報システムのさまざまなタイプ (1) 第8回 情報システムのさまざまなタイプ (2) 第9回 情報システムのさまざまなタイプ (3) 第10回 情報効率性の比較分析 (1) 第11回 情報効率性の比較分析 (2) 第12回 事例研究 第13回 限定合理性と進化ゲーム (1) 第14回 限定合理性と進化ゲーム (2) 第15回 前期のまとめ 第16回 企業システムの存在と技能形成 第17回 進化ゲーム理論の経済学的意義 第18回 進化ゲームの均衡としてのJ-企業システムとA-企業システム (1) 第19回 進化ゲームの均衡としてのJ-企業システムとA-企業システム (2) 第20回 進化ゲームの均衡としてのJ-企業システムとA-企業システム (3) 第21回 定常均衡点と進化的均衡 (1) 第22回 定常均衡点と進化的均衡 (2) 第23回 数値例による各均衡の分析 第24回 均衡の図による表現 第25回 企業システムの変化の可能性 (1) 第26回 企業システムの変化の可能性 (2) 第27回 技能形成・雇用問題との関連 (1) 第28回 技能形成・雇用問題との関連 (2) 第29回 後期のまとめ 第30回 1年間のまとめ
----------	--

準備学習	特にありません。
履修上の留意点	知識を得るだけでなく、「考える」ことにウエイトを置いていますので、授業中の私語・携帯電話の利用は厳禁です。
成績評価の方法	学年度末の定期試験によって成績評価を行います。
教科書/テキスト	青木昌彦・奥野正寛編著『経済システムの比較制度分析』(東京大学出版会)、1996年、3200円
参考書	鶴光太郎『日本の経済システム改革』2006年、2600円 その他、講義の進み具合に応じて適時紹介します。

履修コード	144901
科目名	ビジネス英語
担当者名	秋葉 滋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	-国際ビジネスで使うレター、E-mailの書き方を身につける -国際経済ニュース (英語)を通じて、グローバルな視点を養い、国際ビジネスの感覚を身につける -英語、日本語を交えた授業を通じて、グローバル社会への対応を感じてもらう -国際ビジネスの実践的な説明、解説、経験談、チャレンジする際のアドバイス
---------------------	--

授業スケジュール	(a) 第1回 (1)オリエンテーション、授業の進め方の確認(2)「国際ビジネス」についての解説と経験談、(3)グローバル化への対応、英語の必要性について解説 (b) 第2回-第7回 (1)英文レター、E-mailの書き方入門と実践、(2)テキスト (未定) の実践と解説、(3)Oral Englishのトレーニング (c) 第8回-第12回 (1)テキスト (未定) の実践と解説、(2)英文ニュース、社説を通じて国際ビジネスに使われている英語の習得、(3)各自の英語による自己紹介 (d) 第13回 国際ビジネスに関わる経営者のプレゼンテーション (第1回) (e) 第14回、第15回 前期の復習 (英文レター、e-mailの書き方) (f) 第16回-第23回 (1)英文ニュース、社説を通じて国際ビジネスに使われている英語の習得、(2)テキスト (未定) の実践と解説 (g) 第24回 国際ビジネス関わる経営者のプレゼンテーション (第2回) (h) 第25回-第28回 国際ビジネスの実践と現場一解説と経験談 (i) 第29回-第30回 期末試験及び国際ビジネスにチャレンジする際のアドバイスを行う
----------	---

準備学習	毎回授業内容のプリントを配布し、次回の課題を出すことがあるので必ず予習をしてもらいたい。理解度をチェックするために宿題を出す場合があるので、必ず提出してほしい。
------	--

履修上の留意点	継続的に授業に出席、参加すること、発言、質問を通じて双方向のコミュニケーションを取ること、授業の復習にかなり重点をおくこと。
---------	--

成績評価の方法	プロセス評価 (出席、宿題、小テスト、毎回の授業における積極的な発言回数等) 40% 結果評価 (学期末試験 (12月予定) の結果) 60%
---------	--

教科書/テキスト	未定
----------	----

参考書	未定
-----	----

履修コード	143711
科目名	ファイナンス理論
担当者名	江頭 隆治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(1) 金融システム、金融商品 (株式、債券、先物やオプションなどデリバティブ) についての基本的な知識を身につける。 (2) ファイナンスを理解するために必要最低限の確率と統計を学ぶ。 (3) 市場におけるファイナンスの機能を理解する。 (4) 自らの投資に役立つ知識を養う。 (5) 金融関係の仕事で将来生かせるファイナンスの基礎を学ぶ。 (6) MBAのファイナンスに耐えら得る基礎学力を身につける。
---------------------	--

授業スケジュール	入門知識篇 (1-15) 金融と金融商品の基礎知識、投資入門、ファイナンスのための確率と統計の基礎、リスク、リターン、リスクプレミアム、投資とはどういうゲームか、株価とは何か 基礎理論篇 (16-30) 金融工学で金儲けできるか、分散投資の原理、「ベータ」投資理論、先物取引、オプション、行動ファイナンス入門
----------	---

準備学習	授業前に講義ノートにYeStudyにアップロードするので、それに目を通してください。
------	--

履修上の留意点	日ごろから、メディアに掲載される銀行・証券会社などの金融機関の広告などを見て、どんな金融商品があるか、その金融商品の内容を理解できるか、考えてください。
---------	--

成績評価の方法	期末試験 (100%)
---------	-------------

教科書/テキスト	参考文献の一部を用いて授業を行います。特に購入する必要はありません。
----------	------------------------------------

参考書	藤沢数希「なぜ投資のプロはサルに負けるのか?」、ダイヤモンド社、1600円、ISBN4-478-60053-8 野口悠紀雄「金融工学、こんなに面白い」、文藝春秋、690円、ISBN4-16-660123-7 渡辺茂 「しっかりわかるファイナンス」、中央経済社、2400円、ISBN978-4-502-28500-4
-----	---

履修コード	143401
科目名	ベンチャー企業論
担当者名	崔 銀順

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、ベンチャー企業に関する知識の習得とベンチャースピリット（創造性があるアイデアとそれを推し進めていくチャレンジ精神）を涵養することをねらいとする。
---------------------	---

授業スケジュール	講義の内容・スケジュールは、以下のとおりである。
----------	--------------------------

講義の進め方としては、①ベンチャー企業に関するフレームワークを提示し、基本的な知識を習得する。
②ケーススタディとして時代を先導するアントレプレナーに焦点を合わせ、ベンチャー精神を感じ取り、学ぶ。映像による資料(VTR, DVD)を用いる。

前期：ベンチャー企業とは何か、ベンチャー企業の歴史と現状、企業家と企業家精神、起業活動のフレームワーク(1～5回)、ビジネスモデル、創業期のマーケティング、戦略、ベンチャー企業のマネジメント(6回～10回)、ケーススタディ(11回～15回)
後期：会社の種類、会社法と起業、会社の発展段階とIPOのプロセス(16回～20回)、資金調達、支援制度、クラスター政策(21回～25回)、ケーススタディ(26回～30回)

準備学習	毎回、ベンチャー企業論の次回のテーマをYesstudyで確認し、テーマと関連する内容を文献などで事前に学習することが望ましい。
------	---

履修上の留意点	携帯電話の使用厳禁、私語厳禁、遅刻厳禁
---------	---------------------

成績評価の方法	①平常点 (出席状況および授業態度) ②レポート (授業内レポート+夏休みレポート) ③試験の結果 (期末に実施)
---------	---

上記①～③の総合で評価する。

教科書/テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	必要に応じて講義の中に紹介する。
-----	------------------

その他	YesStudy (eラーニングシステム) を活用する。
-----	------------------------------

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/
-------	---

履修コード	135601
科目名	簿記学
担当者名	岩瀨 昭子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、初めて簿記を学ぶ学生を対象に、簿記の基本原則を解説する「簿記入門」の授業です。この講義では、日商簿記検定3級程度の知識の習得を目的としています。
---------------------	---

授業スケジュール	[前期] ガイダンス、簿記の基礎、取引と勘定、仕訳と転記、現金、預金、小口現金、商品売買、売掛金と買掛金、貸し倒れ、手形、その他の債権・債務 [後期] 有形固定資産、資本金と引出金、営業費・税金、試算表、決算、精算表、帳簿決算、財務諸表の作成、帳簿と伝票
----------	--

準備学習	前回の授業内容を復習しておいてください。
------	----------------------

履修上の留意点	簿記は、手を動かして練習問題を多く解くことで力がつきます。授業中は、集中して説明を聞き、一緒に問題を解いてください。
---------	--

成績評価の方法	出席(30%)、前期末と後期末の試験(各30%)、受講態度・小テスト(10%)による総合評価。
---------	---

教科書/テキスト	大橋信定編著『簿記基礎講座(五訂版)』、創成社、1,575円(税込) ISBN978-4-7944-1404-5
----------	--

参考書	必要に応じて指示します。
-----	--------------

その他	3回目以降の授業では、毎回電卓を持参すること。
-----	-------------------------

履修コード	135101
科目名	簿記学
担当者名	大野 満奈

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	簿記は会計学の基本であり、複式簿記の計算構造は、会計学のどの分野を学ぶにしても前提的に理解されることが必要である。この意味において、簿記の基本原則を理解し、経営学部学ぶ者が最低必要とされる簿記知識を修得することを目的とする。取引の仕訳から財務諸表の作成まで帳簿記録の方法や計算の技術を学び、またその背景にある簿記・会計の基礎理論を勉強する。
---------------------	--

授業スケジュール	講義の内容／授業スケジュール 前期 (15回) 1. 簿記・会計の意義と目的, 2. 企業の財政状態-貸借対照表, 3. 企業の経営成績-損益計算書, 4. 取引と仕訳, 5. 勘定記入と元帳の締め切り, 6. 帳簿・伝票・証ひょう, 7. 試算表の作成 (1), 8. 精算表の作成 (1), 9. 現金・預金, 10. 小口現金, 11. 商品売買の処理と仕入帳・売上帳, 12. その他の債権債務, 13. ~14. 有価証券, 15. 前期試験 後期 (15回) 1. 商品有高長, 2. 売掛金・買掛金と人名勘定, 3. 有形固定資産の取得と売却, 4. 資本金と引出金, 5. 試算表の作成 (2), 6. 売上原価の計算と決算仕訳, 7. 貸し倒れの見積り, 8. 減価償却, 9. 精算表の作成 (2), 10. 手形取引, 11. 費用・収益の見越しと繰り延べ, 12. 決算整理, 13. 精算表の作成 (3), 14. 総合復習, 15. 後期試験
----------	---

準備学習	授業時間内に解ききれなかった問題に関しては、次回の授業までに必ず解いておくこと。
------	--

履修上の留意点	簿記は自分で練習問題を解き、反復的に記帳練習を行うことにより初めて修得できるものであるから、原則として毎回出席して要点を理解し、自宅では毎回の復習に心掛けること。また、疑問点は、積極的に質問することによって早期に解決しておくこと。
---------	---

成績評価の方法	試験の点数・出席回数・提出物の三点をもって総合的に評価する。
---------	--------------------------------

教科書／テキスト	新検定 簿記ワークブック 3級商業簿記 中央経済社
----------	---------------------------

参考書	新検定 簿記講義 3級 商業簿記 中央経済社
-----	------------------------

履修コード	135301
科目名	簿記学
担当者名	大野 満奈

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	簿記は会計学の基本であり、複式簿記の計算構造は、会計学のどの分野を学ぶにしても前提的に理解されることが必要である。この意味において、簿記の基本原則を理解し、経営学部学ぶ者が最低必要とされる簿記知識を修得することを目的とする。取引の仕訳から財務諸表の作成まで帳簿記録の方法や計算の技術を学び、またその背景にある簿記・会計の基礎理論を勉強する。
---------------------	--

授業スケジュール	講義の内容／授業スケジュール 前期 (15回) 1. 簿記・会計の意義と目的, 2. 企業の財政状態-貸借対照表, 3. 企業の経営成績-損益計算書, 4. 取引と仕訳, 5. 勘定記入と元帳の締め切り, 6. 帳簿・伝票・証ひょう, 7. 試算表の作成 (1), 8. 精算表の作成 (1), 9. 現金・預金, 10. 小口現金, 11. 商品売買の処理と仕入帳・売上帳, 12. その他の債権債務, 13. ~14. 有価証券, 15. 前期試験 後期 (15回) 1. 商品有高長, 2. 売掛金・買掛金と人名勘定, 3. 有形固定資産の取得と売却, 4. 資本金と引出金, 5. 試算表の作成 (2), 6. 売上原価の計算と決算仕訳, 7. 貸し倒れの見積り, 8. 減価償却, 9. 精算表の作成 (2), 10. 手形取引, 11. 費用・収益の見越しと繰り延べ, 12. 決算整理, 13. 精算表の作成 (3), 14. 総合復習, 15. 後期試験
----------	---

準備学習	授業時間内に解ききれなかった問題に関しては、次回の授業までに必ず解いておくこと。
------	--

履修上の留意点	簿記は自分で練習問題を解き、反復的に記帳練習を行うことにより初めて修得できるものであるから、原則として毎回出席して要点を理解し、自宅では毎回の復習に心掛けること。また、疑問点は、積極的に質問することによって早期に解決しておくこと。
---------	---

成績評価の方法	試験の点数・出席回数・提出物の三点をもって総合的に評価する。
---------	--------------------------------

教科書／テキスト	新検定 簿記ワークブック 3級商業簿記 中央経済社
----------	---------------------------

参考書	新検定 簿記講義 3級 商業簿記 中央経済社
-----	------------------------

履修コード	135201
科目名	簿記学
担当者名	河合 由佳理

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 複式簿記は企業活動を測定・記録し、財政状態・経営成績を報告するために必要とされる記録システムです。本講義では、複式簿記の基本に加え、帳簿の記入、勘定ごとの取引の記録、決算整理および財務諸表（貸借対照表・損益計算書）の作成方法を学習します。</p> <p>到達目標 本講義では、日本商工会議所簿記検定3級合格レベルを目指すことにより、企業の財政状態や経営成績を把握するための基礎知識を習得することを目標とします。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記の意味・目的 2. 簿記の基礎概念 3. 取引 1 4. 取引 2 5. 帳簿の記入 6. 試算表（基礎編） 7. 精算表（基礎編） 8. 現金預金 1 9. 現金預金 2 10. 商品売買 1 11. 商品売買 2 12. 売掛金と買掛金 1 13. 売掛金と買掛金 2 14. その他の債権と債務 15. 前半の学習内容の復習 16. 手形 1 17. 手形 2 18. 有価証券 19. 固定資産 20. 資本金と引出金 21. 収益と費用 22. 税金 23. 帳簿と伝票 24. 決算 25. 試算表 1（応用編） 26. 試算表 2（応用編） 27. 精算表 1（応用編） 28. 精算表 2（応用編） 29. 財務諸表の作成 30. 1年間の学習内容の復習
----------	---

準備学習	毎回、復習することを心がけてください。
------	---------------------

履修上の留意点	簿記学は、講義を聴くだけでなく、問題演習を解くことによって技術が身につきます。授業でも問題を解く時間が多くなりますので、必ず電卓を持参してください。
---------	--

成績評価の方法	期末試験及び授業中に行う小テストを中心に評価します。
---------	----------------------------

教科書／テキスト	田邊正、矢島正 著『ズバッと解決！日商簿記検定3級商業簿記テキスト』創成社
----------	---------------------------------------

参考書	書店に簿記検定3級用の市販本が多く販売されているので、参考にしてください。日商簿記検定を受験予定の方は、模擬問題が掲載されている書籍で学習するとより高度な知識を身につけることができます。
-----	---

履修コード	135811
科目名	簿記学
担当者名	猿山 義広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義の目的は、会計実務の基礎となる簿記の手続きについて、最も単純な企業形態である個人企業の取引を例に取り上げて理解させることにある。内容のレベルは、日商簿記検定3級商業簿記のレベルである。簿記の知識は、すべての社会人にとって有用であり、とくに将来、企業経営者を目指す人にとっては必須の知識と言ってよい。この講義を通じて、企業の財政状態や経営成績を正しく把握できるための基礎知識を習得してほしい。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 簿記の基本概念、第2回 簿記一巡の手続、第3回 試算表と精算表、第4回 第1回小テスト、第5回 現金と預金1、第6回 現金と預金2、第7回 商品売買1、第8回 第2回小テスト、第9回 商品売買2、第10回 債権・債務1、第11回 債権・債務2、第12回 第3回小テスト、第13回 手形、第14回 貸倒損失と貸倒引当金、第15回 残高試算表、第16回 第4回小テスト、第17回 有価証券、第18回 固定資産、第19回 費用・収益の見越しと繰延べ、第20回 第5回小テスト、第21回 決算1、第22回 決算2、第23回 純資産と税金、第24回 帳簿と伝票1、第25回 帳簿と伝票2、第26回 第6回小テスト、第27回 特殊商品売買の基礎、第28回 株式会社会計の基礎、第29回 本支店会計の基礎、第30回 まとめ
----------	--

準備学習	「勘定科目」という言葉の意味と、どのような勘定科目があるかについて調べておくこと。
------	---

履修上の留意点	簿記学では、会計処理や記帳法の技術を習得することが重要なので、授業においては可能なかぎり計算問題を解くようにしたい。講義の重点は計算問題の解法に置かれるので、かならず電卓を持参すること。
---------	---

成績評価の方法	年間で6回行う授業中の小テストを20%、本試験を80%のウエイトで評価を行う。本試験は電卓以外の参照は一切不可なので、注意してほしい。
---------	---

教科書/テキスト	毎回プリントを配布するので、とくに指定する教科書はないが、計算問題については日商簿記3級商業簿記の過去の検定試験において出題された問題を参考にしてほしい。プリントは毎回配布するので、きちんと保存するようにしてほしい。
----------	--

参考書	個々の項目の内容については、市販の日商簿記3級商業簿記検定試験用のテキストが参考になる。また、検定試験問題の詳しい解法については、大手専門学校が編集・発行しているテキストに説明されているので、そちらを参照すること。
-----	---

その他	少しでも疑問な点があれば、授業中でも授業終了後でもかまわないので、積極的に質問すること。プリントは大切に保存してほしいが、もし紛失してしまったときは YeStudy からダウンロードすること。実施された小テストの問題と解答についても、各自 YeStudy からダウンロードすること。
-----	---

履修コード	135701
科目名	簿記学
担当者名	竹腰 友美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は、簿記をはじめて学習する学生を対象としています。簿記は、「帳簿記入のルール」ともいわれているように、現金の収支、商品の売買、債権債務の発生・消滅などについて記帳し、企業の経営成績と財政状態を明らかにするための技術です。簿記を学ぶことは、会社の数字を読めるようになります。また、今後、会計系の専門科目を勉強するときの基礎となる大切な科目であり、資格試験等に役立つものです。講義では、できるだけ丁寧にわかりやすく説明していきますので、一緒に頑張ってください。
---------------------	--

授業スケジュール	講義の内容は次のようになります。
----------	------------------

- 1 簿記の仕組み
- 2 簿記総論・簿記の要素
- 3 取引と勘定 (1)
- 4 取引と勘定 (2)
- 5 帳簿の記入
- 6 試算表 (1)
- 7 試算表 (2)
- 8 現金・預金 (1)
- 9 現金・預金 (2)
- 10 商品売買取引 (1)
- 11 商品売買取引 (2)
- 12 掛取引 (1)
- 13 掛取引 (2)
- 14 その他の債権・債務
- 15 前期の復習
- 16 手形 (1)
- 17 手形 (2)
- 18 有価証券
- 19 固定資産 (1)
- 20 固定資産 (2)
- 21 経過勘定
- 22 資本金の記帳
- 23 その他の取引の記帳
- 24 帳簿と伝票
- 25 決算 (1)
- 26 決算 (2)
- 27 精算表 (1)
- 28 精算表 (2)
- 29 総まとめ
- 30 復習、試験の質疑応答

準備学習	前回の復習
------	-------

履修上の留意点	簿記の学習は、積み重ねが大切です。講義には、毎回出席し、積極的な姿勢で受講してくれることを強く望みます。
---------	--

講義では、テキストの問題を解いていきますので、必ずテキストと電卓を持参してください。講義中の私語は厳禁です。

成績評価の方法	原則として、学年末の試験によって評価します。数回の小テストを行う予定です。
---------	---------------------------------------

教科書／テキスト	田邊 正, 矢島 正 『ズバツと解決!日商簿記検定3級商業簿記テキスト』 (改訂版) 創成社
----------	--

参考書	随時、講義中に紹介します。
-----	---------------

履修コード	135401
科目名	簿記学
担当者名	水野 恵子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	初めて簿記を学ぶ学生を対象に、簿記の基本原則を解説する「簿記入門」の授業です。この講義では、簿記検定3級程度の知識の習得を目的とします。
---------------------	--

授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>1. 簿記を学ぶにあたって</td> <td>1. 現金・預金</td> </tr> <tr> <td>2. 簿記上の取引と勘定</td> <td>2. 仕入・売上</td> </tr> <tr> <td>3. 取引の仕訳</td> <td>3. 手形</td> </tr> <tr> <td>4. 勘定への転記</td> <td>4. 債権・債務</td> </tr> <tr> <td>5. 試算表の作成</td> <td>5. 有価証券</td> </tr> <tr> <td>6. 精算表の作成</td> <td>6. 固定資産</td> </tr> <tr> <td>7. 決算手続</td> <td>7. 資本金</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8. 貸倒償却費の計算</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9. 減価償却費の計算</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10. 収益と費用の見越・繰延</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11. 8けた精算表の作成</td> </tr> </table>	1. 簿記を学ぶにあたって	1. 現金・預金	2. 簿記上の取引と勘定	2. 仕入・売上	3. 取引の仕訳	3. 手形	4. 勘定への転記	4. 債権・債務	5. 試算表の作成	5. 有価証券	6. 精算表の作成	6. 固定資産	7. 決算手続	7. 資本金		8. 貸倒償却費の計算		9. 減価償却費の計算		10. 収益と費用の見越・繰延		11. 8けた精算表の作成
1. 簿記を学ぶにあたって	1. 現金・預金																						
2. 簿記上の取引と勘定	2. 仕入・売上																						
3. 取引の仕訳	3. 手形																						
4. 勘定への転記	4. 債権・債務																						
5. 試算表の作成	5. 有価証券																						
6. 精算表の作成	6. 固定資産																						
7. 決算手続	7. 資本金																						
	8. 貸倒償却費の計算																						
	9. 減価償却費の計算																						
	10. 収益と費用の見越・繰延																						
	11. 8けた精算表の作成																						

準備学習	前回の講義の復習を行い、次回に備える。
------	---------------------

履修上の留意点	簿記は、練習問題を多く解くことで力がつきます。そのため、授業の復習は不可欠です。検定合格には、一步一步の努力が重要です。授業中の私語は厳禁。
---------	--

成績評価の方法	定期試験、講義の際の小テストの点数を基本に評価します。出席状況も考慮します。
---------	--

教科書／テキスト	『日商簿記検定テキスト基本問題集三丁版3級』, 実教出版 650円 ISBN4-407-04623-6
----------	---

参考書	授業の中で指示します。
-----	-------------

その他	必要に応じレジュメを配布します。
-----	------------------

履修コード	135801
科目名	簿記学
担当者名	水野 恵子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	初めて簿記を学ぶ学生を対象に、簿記の基本原則を解説する「簿記入門」の授業です。この講義では、簿記検定3級程度の知識の習得を目的とします。
---------------------	--

授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>1. 簿記を学ぶにあたって</td> <td>1. 現金・預金</td> </tr> <tr> <td>2. 簿記上の取引と勘定</td> <td>2. 仕入・売上</td> </tr> <tr> <td>3. 取引の仕訳</td> <td>3. 手形</td> </tr> <tr> <td>4. 勘定への転記</td> <td>4. 債権・債務</td> </tr> <tr> <td>5. 試算表の作成</td> <td>5. 有価証券</td> </tr> <tr> <td>6. 精算表の作成</td> <td>6. 固定資産</td> </tr> <tr> <td>7. 決算手続</td> <td>7. 資本金</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8. 貸倒償却費の計算</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9. 減価償却費の計算</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10. 収益と費用の見越・繰延</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11. 8けた精算表の作成</td> </tr> </table>	1. 簿記を学ぶにあたって	1. 現金・預金	2. 簿記上の取引と勘定	2. 仕入・売上	3. 取引の仕訳	3. 手形	4. 勘定への転記	4. 債権・債務	5. 試算表の作成	5. 有価証券	6. 精算表の作成	6. 固定資産	7. 決算手続	7. 資本金		8. 貸倒償却費の計算		9. 減価償却費の計算		10. 収益と費用の見越・繰延		11. 8けた精算表の作成
1. 簿記を学ぶにあたって	1. 現金・預金																						
2. 簿記上の取引と勘定	2. 仕入・売上																						
3. 取引の仕訳	3. 手形																						
4. 勘定への転記	4. 債権・債務																						
5. 試算表の作成	5. 有価証券																						
6. 精算表の作成	6. 固定資産																						
7. 決算手続	7. 資本金																						
	8. 貸倒償却費の計算																						
	9. 減価償却費の計算																						
	10. 収益と費用の見越・繰延																						
	11. 8けた精算表の作成																						

準備学習	前回講義の復習を行い、次回に備える。
------	--------------------

履修上の留意点	簿記は、練習問題を多く解くことで力がつきます。そのため、授業の復習は不可欠です。検定合格には、一步一步の努力が重要です。授業中の私語は厳禁。
---------	--

成績評価の方法	定期試験、講義の際の小テストの点数を基本に評価します。出席状況も考慮します。
---------	--

教科書／テキスト	『日商簿記検定テキスト基本問題集三丁版3級』, 実教出版 650円 ISBN4-407-04623-6
----------	---

参考書	授業の中で指示します。
-----	-------------

その他	必要に応じレジュメを配布します。
-----	------------------

履修コード	135501
科目名	簿記学
担当者名	矢島 正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 企業の経済活動を記録・計算し、その結果を財務諸表によって多くの利害関係者に、会計情報として提供するための技術・システムが簿記である。そのために、ペンと電卓で手を動かし、これに習熟する必要があるため、多くの例題を用意している。 簿記の全体像が理解できるように、またその後の、より高度の学習に興味と自信がもてるように、次の構成で進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記の基礎・財産法と損益法 2. 仕訳と諸勘定の会計処理 3. 決算整理の方法 4. 精算表・財務諸表の作成 <p>(到達目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 簿記の意味や目的が理解できる。 ② 簿記の基本要素(資産・負債・純資産・収益・費用)が理解できる。 ③ 商品有高帳などテキストに記述されている各種帳簿の記入・作成ができる。 ④ 商品売買をはじめとするテキストに記述されている諸取引の内容をもとにしながら、種々の取引を正確に仕訳処理ができる。 ⑤ 所与の条件のもとに、一連の決算手続き(8桁精算表及び貸借対照表・損益計算書の作成等)が正確にできる。 ⑥ ①～⑤の学習活動を通して、日商簿記検定試験3級レベルの力を養う。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 簿記とは(1) 第2回 簿記とは(2) 第3回 現金預金(1) 第4回 現金預金(2) 第5回 現金預金(3) 第6回 商品売買取引(1) 第7回 商品売買取引(2) 第8回 商品売買取引(3) 第9回 手形取引(1) 第10回 手形取引(2) 第11回 手形取引(3) 第12回 貸倒引当金 第13回 有価証券 第14回 固定資産 第15回 前期まとめ 第16回 その他の債券・債務(1) 第17回 その他の債券・債務(2) 第18回 引出金と税金 第19回 伝票(1) 第20回 伝票(2) 第21回 訂正仕訳 第22回 決算[締切り] 第23回 決算[試算表] 第24回 決算[経過勘定](1) 第25回 決算[経過勘定](2) 第26回 決算[経過勘定](3) 第27回 精算表(1) 第28回 精算表(2) 第29回 試算表 第30回 後期のまとめ、期末試験について</p>
----------	---

準備学習	予習の必要はないが、毎回の授業開始前に前週の授業内容を復習しておくこと。
履修上の留意点	必ず電卓を用意すること。
成績評価の方法	出席・課題(30%)、期末テスト(70%)によって評価するが、そのほかに、在学中(履修年度まで)に日商簿記検定試験3級合格、講義の取り組み等においても期末の評価に加点する。
教科書/テキスト	田邊 正、矢島 正「ズバッと解決!日商簿記検定3級商業簿記テキスト—これで理解ばっちり—」 創成社 1,500円
参考書	特に使用しない。適宜プリントと資料を配布する。
その他	課題はYeStudyを活用する。 是非、日商簿記検定3級合格をめざそう。

履修コード	140401
科目名	保険経営論
担当者名	岡田 太
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	保険は、個人や企業などをリスクから守る有効な手段です。リスクマネジメント論が主に保険を利用する視点から展開されるのに対して、本講義は保険を提供する保険企業の立場から経営の基本を学びます。リスクマネジメントをビジネスとして営む保険企業の特徴を理解し、経営をめぐる諸問題を考察することを目的とします。
授業スケジュール	(1) ガイダンス、(2) リスク、(3~4) 保険の構造、(5~6) 保険の経済学、(7~8) 保険契約の基礎、(9) リスクに対する諸制度、(10) 保険の歴史、(11) 保険可能なリスクと保険商品 (12) まとめ、(13) グループワーク発表、(14) すまいのリスクと火災保険、(15) くるまのリスクと自動車保険、(16) 病気やけがのリスクと保険、(17) 生命保険、(18) 企業のリスクと保険、(19) 保険経営総論、(20~21) 保険マーケティング (各種保険商品の企画・開発、販売、流通制度、CRM)、(22) アンダーライティング、(23) 保全と保険金の支払い、(24) 資産運用、(25) 再保険、保険会計、(26) 保険会社のリスク管理、ガバナンスおよび社会的責任経営 (CSR)、(27) 保険規制、(28) 保険市場の動向と保険会社の海外展開、(29) まとめ、(30) グループワーク発表
準備学習	概ねテキストに沿って授業を進めていくので、テキストを熟読してください。また、章末の練習問題に取り組むと理解が深まります。
履修上の留意点	リスクマネジメント論とあわせて履修すると学習効果が高まります。新聞・雑誌などで保険の記事に注意してください。授業でも適宜最近の話題を解説します。また、授業で使用するレジュメについて、各自ダウンロードしてください。
成績評価の方法	学期末試験 (60%) と授業参加 (出席、レポートなど40%) を総合して評価します。詳細は開講時に説明します。
教科書/テキスト	下和田・米山・金・柳瀬・諏澤・岡田著『はじめて学ぶリスクと保険』(第3版)有斐閣 ISBN9784641183858、2010年
参考書	教科書掲載の参考文献のほか、必要に応じて授業中に指示します。
その他	前期と後期にそれぞれグループワークを行っています。昨年度は、前期に自殺と生命保険、後期に新しい保険商品の企画・開発について、グループ毎に取組み、発表してもらいました。グループワークに参加できる学生諸氏の受講を望みます。

履修コード	143241
科目名	マーケティング・コミュニケーション論
担当者名	中野 香織

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>マーケティング・コミュニケーションとは、企業が自社の製品やサービスについて、消費者に認知させ、購買を促進するために情報を発信することである。以前は、その主な手段は広告や販売促進であった。しかし近年は、インターネットの発達に伴い、消費者のメディア接触形態が変化し、マス広告の効果が減少してきている。そのため、マーケティング・コミュニケーションの領域が拡大し、日常生活で接するものを全てコミュニケーションのためのメディアと捉える考え方が重要となっている。例えば、製品のパッケージや店内の雰囲気なども、マーケティング・コミュニケーションの手段となる。</p> <p>本講義の到達目標は、マーケティング・コミュニケーションに関する幅広い知識を習得し、包括的に理解できるようになることである。特に、以下のテーマを学習する。広告戦略、販売促進戦略、商品パブリシティ、クチコミ、店舗内コミュニケーション、ダイレクト・マーケティング、統合型マーケティング・コミュニケーション (IMC)、クロスメディア等である。理論的な説明に加えて、事例紹介を含めた実践的な説明も行う。詳細な授業スケジュールについては、初回のガイダンスで知らせる。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>講義は3段階に分けて行う。初めにマーケティング・コミュニケーションの全体構造を説明する。次にマーケティング・コミュニケーションを構成する具体的な戦略を説明し、最後に各マーケティング・コミュニケーション戦略を統合する考え方である統合型マーケティング・コミュニケーション (IMC) を説明する。</p>
----------	---

【前期】

- 1) マーケティング・コミュニケーションの全体構造①
- 2) マーケティング・コミュニケーションの全体構造②
- 3) マーケティング・コミュニケーションの全体構造③
- 4) 広告戦略①
- 5) 広告戦略②
- 6) 広告戦略③
- 7) 広告戦略④
- 8) 広告戦略⑤
- 9) 販売促進戦略①
- 10) 販売促進戦略②
- 11) 販売促進戦略③
- 12) 販売促進戦略④
- 13) グループワーク
- 14) 前期のまとめ
- 15) 理解度の確認

【後期】

- 16) 商品パブリシティ戦略①
- 17) 商品パブリシティ戦略②
- 18) パーソナル・コミュニケーション戦略 (クチコミ) ①
- 19) パーソナル・コミュニケーション戦略 (クチコミ) ②
- 20) 商品コミュニケーション戦略
- 21) 店舗内コミュニケーション戦略①
- 22) 店舗内コミュニケーション戦略②
- 23) ダイレクト・マーケティング戦略
- 24) 統合型マーケティング・コミュニケーション (IMC) 戦略①
- 25) 統合型マーケティング・コミュニケーション (IMC) 戦略②
- 26) 統合型マーケティング・コミュニケーション (IMC) 戦略③
- 27) 統合型マーケティング・コミュニケーション (IMC) 戦略④
- 28) 29) グループワーク
- 30) まとめ

準備学習	本講義はマーケティングの関連科目であるため、受講者にマーケティングの知識があることを前提とした講義を行う。そのため、事前にマーケティング論の講義を履修しておくか、マーケティングに関するテキストを読んでおくことが望ましい。
------	--

履修上の留意点	授業スケジュールは、必要に応じて変更する可能性がある。
---------	-----------------------------

成績評価の方法	平常点30% (ワークなど)、中間試験と学期末試験70%で評価する。
---------	------------------------------------

教科書/テキスト	教科書は使わず、レジュメを配布する。
----------	--------------------

参考書	<p>亀井昭宏・ルディー和子編『新マーケティング・コミュニケーション戦略論』2009年 (日本経済新聞出版社) 2,310円</p> <p>石崎徹編『わかりやすい広告論』2008年 (八千代出版) 2,835円</p> <p>嶋村和恵監修『新しい広告』2006年 (電通) 2,100円</p> <p>岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論新版』2008年 (有斐閣) 2,205円</p>
-----	---

履修コード	141151
科目名	マーケティング・サイエンスA
担当者名	若山 大樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義の目的は、マーケティング活動諸問題への科学的アプローチについて、その考え方と方法論を学ぶことにある。そのため、マーケティングサイエンスAでは、マーケティング諸理論及びそこで取り扱う様々なデータや統計解析手法について学び、市場と消費者に関する理論・モデルおよびマーケティングの戦略的側面に関する科学的アプローチについて学ぶ。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) 科学的アプローチによるマーケティング、 (2) 理論・モデルを通じた市場理解の方法、 (3) ~ (4) マーケティングデータと測定法・分析法、 (5) ~ (6) 市場の構造分析、 (7) ~ (8) 市場細分化、 (9) ~ (12) 消費者行動分析モデル、 (13) ~ (14) マーケティング戦略 (STP) に関する科学的アプローチ、 (15) まとめ
----------	---

準備学習	課題が多く授業時間外学習を要するため負担が大きいかもしれない。配布する資料をよく読んで授業に備えること。
------	--

履修上の留意点	マーケティング関連科目を履修していること。また、統計学の基礎を身につけていることが望ましい。今年度より小テストを頻繁に行う方法や参加型方式 (指名して発言の機会を求め等) をとりいれて知識の習得を目指したいと考えている。
---------	--

成績評価の方法	授業中に行う数回の小テスト (40%) と出席状況 (10%)、ディスカッションへの参加状況や授業中当てられた際の受け答え (20%)、期末試験 (30%) により総合的に評価する。遅刻は出席にカウントしないことがある。小テストを受けたことがないものは期末レポートを受け付けない。
---------	--

教科書/テキスト	必要に応じて配布あるいは、指示する。
----------	--------------------

参考書	必要に応じて配布あるいは、指示する。
-----	--------------------

その他	他の学生への迷惑行為は厳禁であり、試験・レポートや出席に関する不正行為も厳禁である。
-----	--

履修コード	141161
科目名	マーケティング・サイエンスB
担当者名	若山 大樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義の目的は、マーケティング活動諸問題への科学的アプローチについて、その考え方と方法論を習得することである。そのため、マーケティング・サイエンスBでは、製品・サービスのデザインや価格、流通、プロモーションといったマーケティングの戦略的側面を議論する上で用いられるデータ分析手法を学び、マネジリアルな観点から議論するための素養を身につける。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) ~ (2) マーケティング戦術に対する科学的アプローチ、 (3) ~ (5) マーケット (市場、消費者) の異質性を論じるための科学的方法、 (6) ~ (8) 市場の構造と購買要因間の関連性を論じるための科学的方法、 (9) ~ (11) マーケティング活動の効果を分析し予測するための科学的方法 (製品・サービスのデザイン、価格政策と反応、プロモーションと広告に関するモデルのまとめ)、 (12) ~ (14) マーケティングに関する実験的方法と反応・効果の測定及びマーケティング活動でよく用いられる多変量解析、 (15) まとめ
----------	---

準備学習	課題が多いので授業時間外学習を要する。配布資料をよく読んで授業に備えること。
------	--

履修上の留意点	PC教場で統計ソフトSPSSを使用するので毎回の出席を前提に授業を進める。そのため、就職活動等で休みがちな学生や、遅刻・欠席の多い学生には不向きな授業科目である。マーケティング・サイエンスAを履修済であることが望ましい。また、マーケティング関連科目、統計学関連科目、心理学関連科目等を履修していることが望ましい。休まずに出席すれば理解できるようになる。
---------	--

成績評価の方法	ほぼ毎回の課題提出状況 (50%) と課題に取り組む姿勢 (20%)、期末試験 (30%) により総合的に評価する。
---------	--

教科書/テキスト	必要に応じて配布あるいは、授業中に指示する。
----------	------------------------

参考書	必要に応じて配布あるいは、授業中に指示する。
-----	------------------------

履修コード	143251
科目名	マーケティング・チャネル論
担当者名	青木 茂樹
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	我々が手にしている商品、とくにブランドとして認知されている商品は、ある一企業の戦略目的に基づき、他の流通パートナーをコントロールしながら成果を挙げていくために形成されたマーケティング・チャネルを経由してきている。 従来はメーカーがチャネル・リーダーとなっており、これらが形成され、卸売業、小売業がこれによりコントロールされてきた。近年は従来、被支配的な立場とされてきた卸売業や小売業が、主体的にチャネル・リーダーとなっており、自社のブランドを強めていく例も増えてきた。また新しいツールとしてのインターネットにおいて、チャネル構築を試みる中小企業や農林水産業者も出てきている。 本稿では、これまでの中心であったメーカーの国内マーケティング・チャネル戦略から、情報化・国際化の中で形成されていく新たなマーケティング・チャネルまでを考察していく。将来、マーケティングや営業を志向する学生にとっては必須の科目となる。
授業スケジュール	毎回の講義の当初にビデオ学習によるグループ・ディスカッションを行うので、遅刻せずに参加すること。所属グループについては、履修登録名簿によって、後日指示する。 1) ~4) メーカーによる垂直的マーケティング・チャネル 5) ~8) マーケティング・チャネル構築・管理の諸理論 9) ~12) 家電、自動車、化粧品におけるマーケティング・チャネル管理 13) ゲスト・スピーカー 14) ~15) プライベート・ブランドに見られるマーケティング・チャネル戦略 16) ~18) 国際マーケティングにおけるマーケティング・チャネル戦略 19) ゲスト・スピーカー 20) ~21) 農林水産物におけるマーケティング戦略とチャネル管理 22) ~26) インターネットにおけるマーケティング・チャネル管理 27) ゲスト・スピーカー 28) ~30) 生産財マーケティングにおけるマーケティング・チャネル管理
準備学習	講義の一週間前の21時までにシラバスをYestudyにアップするので、資料をダウンロードして、()を埋めておくこと。またマーケティング・チャネルに関して、当該内容に関する雑誌、新聞記事を各自で探して読んでおくこと。
履修上の留意点	流通システム論を既習していることが望ましい。講義形式ではあるが、学生・教員相互に名札を付けるなどして、学生の主体的な発言と双方向のコミュニケーションを促す。
成績評価の方法	数回的小テストと、個人レポート(またはテスト)の評価をベースとする。場合によっては、グループレポートおよびその発表を評価に加えることもある。また、講義内の自主的発言1回に対して1点以上のボーナス点が与えられる。
教科書/テキスト	小林哲・南知恵子(2004)『流通・営業戦略』有斐閣アルマ。
参考書	日経MJ編(2011)『日経MJトレンド情報 マーケティング・ハンドブック、〈2012年版〉』日本経済新聞社。 Erin Anderson, Louis W. Stern, Adel I. El-Ansary, Anne T. Coughlan(2001) Marketing Channels, The Prentice Hall, 978-0130127723。

履修コード	141131
科目名	マーケティング・リサーチ A
担当者名	菅野 佐織
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	マーケティング・リサーチの役割及びリサーチ設計の基礎について理解した上で、実際にリサーチの設計・アンケート表の作成・データの収集・分析・報告を行うことでマーケティング・リサーチを理解することを目標とする。
授業スケジュール	1. イントロダクション、2~4. マーケティング・リサーチの基礎、5. SPSSの使い方、6~13. マーケティング・リサーチ演習(単純集計、クロス集計、相関分析、因子分析)、14~15. 報告会
準備学習	この授業では、チームに分かれて、リサーチ課題を設定し、リサーチ実習を行います。面白い課題や仮説を設定するためには、日頃から、マーケティング全般についての実社会での動きにアンテナを張ること。
履修上の留意点	・この授業は、パソコンによる実習(SPSS、エクセル)を行うため、遅刻及び欠席は厳禁である。 ・後期のマーケティング・リサーチBを連続して履修することを原則とする。 ・履修希望者が一定数を超えた場合、人数制限をすることがあるため、履修希望者は、必ず第1回目の授業に出席すること (やむを得ない事情により第1回目の授業に出席できない場合には、事前に研究室まで申し出ること。不在の場合には、メモを残すこと)。
成績評価の方法	出席(毎回出席を取ります)、課題への取り組み、課題の出来(理解度)、発表により総合的に評価。
教科書/テキスト	講義内に指示する。
参考書	ナレッシュ・K・マルホトラ(2006年)『マーケティング・リサーチの理論と実践』同友館。 アーカー・D. A&G. S. デイ(1981)『マーケティング・リサーチ』白桃書房。

履修コード	141141
科目名	マーケティング・リサーチB
担当者名	菅野 佐織
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	マーケティング (A) で学んだ知識を活かし、より高度なマーケティング・リサーチの分析手法を学ぶ。マーケティング・リサーチ (A) と同様、実際にリサーチの設計・アンケート表の作成・データの収集・分析・報告を行うことでマーケティング・リサーチを理解することを目標とする。
授業スケジュール	1. イントロダクション及びマーケティング・リサーチAの復習、2~6. マーケティング・リサーチ演習 (回帰分析)、7~8. 報告会、9~13. マーケティング・リサーチ演習 (クラスター分析)、14~15. 報告会
準備学習	この授業では、チームに分かれて、リサーチ課題を設定し、リサーチ実習を行います。面白い課題や仮説を設定するためには、日頃から、マーケティング全般についての実社会での動きにアンテナを張ること。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・前期のマーケティング・リサーチ (A) を履修することを原則とする。 ・この授業は、パソコンによる実習 (SPSS、エクセル) を行うため、遅刻及び欠席は厳禁である。
成績評価の方法	出席 (毎回出席を取ります)、課題への取り組み、課題の出来 (理解度)、発表により総合的に評価。
教科書/テキスト	講義内にて指示する。
参考書	ナレッシュ・K・マルホトラ (2006年) 『マーケティング・リサーチの理論と実践』 同友館。 アーカー・D. A&G. S. デイ (1981) 『マーケティング・リサーチ』 白桃書房。

履修コード	143281
科目名	マーケティング史
担当者名	石川 和男
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	マーケティングという学問？が誕生してからはや1世紀以上が経過した。経済学や法学など、他の社会科学分野の学問に比較すると、その歴史の長さは比べようもなく短いといわなければならない。しかし、マーケティングという「市場対応」に関する方法や技術が、20世紀の社会を変化させてきたこと、そして21世紀の社会を変化させる1つの基軸となることは間違いないであろう。そこで、本講義では、いかにマーケティングが市場対応をしてきたかという歴史を振り返ることで、これから将来にわたり、いかに市場対応することが必要か、またそれを実践できる元となるものを本講義では身につけてもらいたい。講義ではさまざまな分野の産業におけるマーケティングの展開について触れる。それは経営史でも商業史でもなく、メーカーや流通業者などの主体がいかに市場に対応してきたかという足跡を辿ることになる。受講生には、ただ講義を聴くという姿勢ではなく、積極的に企業などの市場対応をしてきた歴史について関心を持つことを期待したい。
授業スケジュール	1. 開講にあたって、2. マーケティング史と経営史、商業史、経済史との違い、3. 戦前期の先駆的マーケティング(1)-戦前期のマーケティングの形成、4. 戦前期の先駆的マーケティング(2)-森永製菓、5. 戦前期の先駆的マーケティング(3)-化粧品産業の発展と市場構造、6. 戦前期の先駆的マーケティング(4)-資生堂、7. 戦前期の先駆的マーケティング(5)-花王、8. 戦後の経済発展とマーケティング-大衆消費社会の形成とマーケティング、9. 問屋制度とマーケティング(1)-伝統的問屋制度と医薬品流通、10. 問屋制度とマーケティング(2)-大正製菓、11. マーケティング企業の普遍化(1)-松下電器産業、12. マーケティング企業の普遍化(2)-トヨタ自動車、13. マーケティング企業の普遍化(3)-トヨタ自動車、14. 小売業のマーケティング展開(1)-小売業態変化、15. 小売業のマーケティング展開(2)-百貨店、16. 小売業のマーケティング展開(3)-スーパーマーケット、17. 小売業のマーケティング展開(4)-その他の業態、18. 卸売業のマーケティング展開(1)、19. 卸売業のマーケティング展開(2)-総合商社の発展、20. 卸売業のマーケティング展開(3)-食品専門卸売の発展、21. グローバル化の進展とマーケティング(1)-日本企業のグローバル化、22. グローバル化の進展とマーケティング(2)-ホンダ、23. グローバル化の進展とマーケティング(3)-ソニー、24. 展開期のマーケティング-マーケティングの刷新、25. マーケティング・コミュニケーションの進展、26. サービス・マーケティングの進展(1)、27. サービス・マーケティングの進展(2)-外食産業の発展、28. サービス・マーケティングの進展(3)-東京ディズニーリゾート、29. 非営利組織のマーケティング展開、30. これまでの講義のまとめ (なお、講義の順序については入れ替わる場合がある)
準備学習	・マーケティング論、流通論(チャネル論)の基本書に目を通しておくこと ・図書館に所蔵されている個別産業の歴史について書かれている本などにも目を通すこと ・日経新聞に掲載されている「100年企業」のコラムに毎週目を通すこと
履修上の留意点	1. 携帯電話の使用厳禁(使用を発見した場合は出席点を0点とする) 2. 遅刻・早退・中抜け厳禁 3. 私語厳禁 4. 帽子着用、食厳禁 5. 公欠の取り扱い(運動部の公式試合、教育実習などの場合は証明書を提出のこと) 6. 就職活動におけるセミナー、説明会への出席の場合は出席点には加算しない 7. 授業中にパソコンでノートをとることは禁止 8. その他、開講時の1時間目に細かく指示。 したがって、第1回目の授業時から出席の必要あり。
成績評価の方法	1. 出席点30点 2. レポート30点 3. 期末試験または期末レポート30点 4. 授業中のミニレポート(予告なし)10点 以上の合計により評価する
教科書/テキスト	特に指定しない
参考書	小原博(1994)『日本マーケティング史』中央経済社 日本経済新聞社編(1993)『流通現代史』日本経済新聞社 尾崎・神保編(2000)『マーケティングへの歴史的視角』同文館
その他	第1回目の授業時に、重要なことを話しますので、必ず第1回目から出席すること

履修コード	143201
科目名	マーケティング論
担当者名	兼村 栄哲

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>社会的な分業体制が成立している今日の経済においては、生産と消費の間に、主体的懸隔、量と組み合わせに関する懸隔、情動的懸隔、空間的懸隔、時間的懸隔といったさまざまな経済的懸隔が発生している。マーケティングとは、こうした経済的懸隔を架橋することによって、円滑な交換(の連鎖)を実現し、ひいては、消費者が、生産者が生産する商品消費することを可能にする活動をいい、社会経済的な観点に立ったマクロ・マーケティング(「流通」とほぼ同義)と、個別企業のマネジメントの観点に立ったミクロ・マーケティング(いわゆる「マーケティング」)に大別される。</p> <p>マーケティング論は、以上の2つのマーケティングのメカニズムを研究する学問である。</p> <p>(到達目標)</p> <p>本授業のねらいは、履修者一人ひとりが、マーケティング論における基本的な概念および理論などを正確に理解し、さまざまなマーケティング現象を自分なりに論理的に説明できるようになることにある。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティングの意義 (その1) - ニーズ・欲求・需要 - 2. マーケティングの意義 (その2) - 財とサービス, 商品, 主体的懸隔 - 3. マーケティングの意義 (その3) - 量と組み合わせに関する懸隔, 情動的懸隔, 空間的懸隔, 時間的懸隔, 財とサービスの内容の異同 - 4. マーケティングの意義 (その4) - マーケティングの意義 - 5. 流通機能の意義 - 交換機能, 情報伝達機能, 輸送機能, 保管機能 - 6. 流通フロー (マーケティング・フロー) - 商流・情報流・物流・資金流 - 7. 商流にかかわる流通機能 - 交換, 販売活動・購買活動 - 8. 情報流にかかわる流通機能 (その1) - 情報伝達過程 - 9. 情報流にかかわる流通機能 (その2) - 広告活動 - 10. 情報流にかかわる流通機能 (その3) - 人的販売活動, プロモーション活動 - 11. 情報流にかかわる流通機能 (その4) - パブリシティ活動 - 12. 情報流にかかわる流通機能 (その5) - 市場調査活動 - 13. 物流にかかわる流通機能 (その1) - 輸送活動 - 14. 物流にかかわる流通機能 (その2) - 保管活動 - 15. 物流にかかわる流通機能 (その3) - 延期・投機の原理 - 16. 物流にかかわる流通機能 (その4) - 荷役活動, 包装活動, 流通加工活動 - 17. 流通機構の意義 18. 流通機関 - 生産者, 中間業者, 消費者, 補助機関 - 19. 小売業者の分類 (その1) - 業種別分類 - 20. 小売業者の分類 (その2) - 営業形態別分類 - 21. 小売業者の分類 (その3) - 経営形態別分類, 企業形態別分類 - 22. マーケティング・コンセプト 23. 企業におけるマーケティングの役割 24. マーケティング管理過程 (その1) - 市場機会の分析, 標的市場の設定, ポジショニング - 25. マーケティング管理過程 (その2) - マーケティング目標の設定, マーケティング計画の策定, マーケティング組織の編成, マーケティング計画の実施, マーケティング統制 - 26. 製品政策 (その1) - 製品の意義・構造・構成要素, ブランド, 新製品の意義・普及過程 - 27. 製品政策 (その2) - 新製品開発のプロセス, 製品ミックス - 28. 価格政策 29. プロモーション政策 - 再論 - 30. チャンネル政策
----------	---

準備学習	事前に配布された印刷物などに目を通しておくこと。
------	--------------------------

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に印刷物を配布することがあるが、この印刷物は当該授業時間内にしか配布しない。やむを得ない事情により、印刷物配布時に欠席した場合には、次回授業までに知人に印刷物をコピーさせてもらうこと。 ・携帯電話や私語など、授業の妨げになるような行為は絶対にしないこと。 ・進捗状況が芳しくない場合には、補講期間中に補講をおこなう。 <p>履修登録する際には、この点を踏まえて登録すること。</p>
---------	---

成績評価の方法	定期試験の成績90%、平常点10%
---------	-------------------

教科書/テキスト	なし (配布する印刷物に基づいて、授業を進めていく)。
----------	-----------------------------

参考書	<p>兼村栄哲他4名(著)『現代流通論』八千代出版, 3,045円, ISBN: 4-8429-1093-3。</p> <p>廣田章光・石井淳蔵(編著)『1からのマーケティング』[第2版]中央経済社, 2,520円, ISBN: 4-502-37680-9。</p> <p>池尾恭一他3名(著)『マーケティング』有斐閣, 3,885円, ISBN: 978-4-641-05373-1。</p> <p>宮澤永光(監修)『基本流通用語辞典』[改訂版]白桃書房, 2,625円, ISBN: 978-4-561-75169-4。</p> <p>宮澤永光・亀井昭宏(監修)『マーケティング辞典』[改訂版]同文館, 2,940円, ISBN: 4-495-63492-5。</p> <p>その他については、適宜紹介する。</p>
-----	--

履修コード	334401
科目名	マーケティング論
担当者名	兼村 栄哲

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>社会的な分業体制が成立している今日の経済においては、生産と消費の間に、主体的懸隔、量と組み合わせに関する懸隔、情動的懸隔、空間的懸隔、時間的懸隔といったさまざまな経済的懸隔が発生している。マーケティングとは、こうした経済的懸隔を架橋することによって、円滑な交換（の連鎖）を実現し、ひいては、消費者が、生産者が生産する商品を消費することを可能にする活動をいい、社会経済的な観点に立ったマクロ・マーケティング（「流通」とほぼ同義）と、個別企業のマネジメントの観点に立ったミクロ・マーケティング（いわゆる「マーケティング」）に大別される。</p> <p>マーケティング論は、以上の2つのマーケティングのメカニズムを研究する学問である。</p> <p>(到達目標)</p> <p>本授業のねらいは、履修者一人ひとりが、マーケティング論における基本的な概念および理論などを正確に理解し、さまざまなマーケティング現象を自分なりに論理的に説明できるようにすることにある。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティングの意義 (その1) - ニーズ・欲求・需要 - 2. マーケティングの意義 (その2) - 財とサービス, 商品, 主体的懸隔 - 3. マーケティングの意義 (その3) - 量と組み合わせに関する懸隔, 情動的懸隔, 空間的懸隔, 時間的懸隔, 財とサービスの内容の異同 - 4. マーケティングの意義 (その4) - マーケティングの意義 - 5. 流通機能の意義 - 交換機能, 情報伝達機能, 輸送機能, 保管機能 - 6. 流通フロー (マーケティング・フロー) - 商流・情報流・物流・資金流 - 7. 商流にかかわる流通機能 - 交換, 販売活動・購買活動 - 8. 情報流にかかわる流通機能 (その1) - 情報伝達過程 - 9. 情報流にかかわる流通機能 (その2) - 広告活動 - 10. 情報流にかかわる流通機能 (その3) - 人的販売活動, プロモーション活動 - 11. 情報流にかかわる流通機能 (その4) - パブリシティ活動 - 12. 情報流にかかわる流通機能 (その5) - 市場調査活動 - 13. 物流にかかわる流通機能 (その1) - 輸送活動 - 14. 物流にかかわる流通機能 (その2) - 保管活動 - 15. 物流にかかわる流通機能 (その3) - 延期・投機の原理 - 16. 物流にかかわる流通機能 (その4) - 荷役活動, 包装活動, 流通加工活動 - 17. 流通機構の意義 18. 流通機関 - 生産者, 中間業者, 消費者, 補助機関 - 19. 小売業者の分類 (その1) - 業種別分類 - 20. 小売業者の分類 (その2) - 営業形態別分類 - 21. 小売業者の分類 (その3) - 経営形態別分類, 企業形態別分類 - 22. マーケティング・コンセプト 23. 企業におけるマーケティングの役割 24. マーケティング管理過程 (その1) - 市場機会の分析, 標的市場の設定, ポジショニング - 25. マーケティング管理過程 (その2) - マーケティング目標の設定, マーケティング計画の策定, マーケティング組織の編成, マーケティング計画の実施, マーケティング統制 - 26. 製品政策 (その1) - 製品の意義・構造・構成要素, ブランド, 新製品の意義・普及過程 - 27. 製品政策 (その2) - 新製品開発のプロセス, 製品ミックス - 28. 価格政策 29. プロモーション政策 - 再論 - 30. チャネル政策
----------	--

準備学習	事前に配布された印刷物などに目を通しておくこと。
------	--------------------------

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中に印刷物を配布することがあるが、この印刷物は当該授業時間内にしか配布しない。やむを得ない事情により、印刷物配布時に欠席した場合には、次回授業までに知人に印刷物をコピーさせてもらうこと。 ・ 携帯電話や私語など、授業の妨げになるような行為は絶対にしないこと。 ・ 進捗状況が芳しくない場合には、補講期間中に補講をおこなう。 <p>履修登録する際には、この点を踏まえて登録すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	定期試験の成績90%、平常点10%
---------	-------------------

教科書/テキスト	なし (配布する印刷物に基づいて、授業を進めていく)。
----------	-----------------------------

参考書	<p>兼村栄哲他4名 (著) 『現代流通論』八千代出版, 3,045円, ISBN: 4-8429-1093-3。</p> <p>廣田章光・石井淳蔵 (編著) 『1からのマーケティング』【第2版】中央経済社, 2,520円, ISBN: 4-502-37680-9。</p> <p>池尾恭一他3名 (著) 『マーケティング』有斐閣, 3,885円, ISBN: 978-4-641-05373-1。</p> <p>宮澤永光 (監修) 『基本流通用語辞典』【改訂版】白桃書房, 2,625円, ISBN: 978-4-561-75169-4。</p> <p>宮澤永光・亀井昭宏 (監修) 『マーケティング辞典』【改訂版】同文館, 2,940円, ISBN: 4-495-63492-5。</p> <p>その他については、適宜紹介する。</p>
-----	--

履修コード	141111
科目名	マネジメント・サイエンスA
担当者名	小沢 利久

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業の概要) マネジメント・サイエンスでは、合理的な問題解決のための考え方と手法を学んでいきます。問題を解決するためには、問題を漠然と認識している段階から出発して、問題の構造を把握し、それを適切に表現し、解決への道筋をつけなければなりません。この授業では、そのために必要となる、問題を表現する方法(考え方)とその表現をもとにした分析の方法を扱います。マネジメント・サイエンスが対象とする分野は多岐に渡りますが、前期科目であるマネジメント・サイエンスAでは下記の項目を取り上げます。なお、後期科目のマネジメント・サイエンスBで取り上げる項目についてはそちらのシラバスを参照してください。</p> <p>①生産・流通に関連して：線形計画法、在庫管理 ②マーケティングに関連して：ブランド選択モデル、コンジョイント分析、階層化意思決定法 ③Excelを用いた分析：線形計画法とコンジョイント分析</p> <p>(到達目標) 授業の概要の中で述べた項目ごとに、そこで用いられている問題の表現方法と分析のための手法を理解するとともに、簡単な問題について実際に分析できること(様々な評価量を計算できること)を到達目標とします。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. マネジメント・サイエンスについて 2. 線形計画法(1)：定式化、図による解法 3. 線形計画法(2)：感度分析 4. 線形計画法(3)：生産計画などへの応用例 5. 在庫管理(1)：在庫管理について、経済的発注量 6. 在庫管理(2)：発注点法、定期発注法(基点在庫政策) 7. ブランド選択モデル(1)：購買行動プロセス、ロジットモデル 8. ブランド選択モデル(2)：マーケティング活動の効果分析への応用 9. コンジョイント分析(1)：バリューマーケティング 10. コンジョイント分析(2)：コンジョイント測定法、直交表 11. コンジョイント分析(3)：製品デザインへの応用 12. 階層化意思決定法(1)：階層モデル、一対比較、ウエイトの計算 13. 階層化意思決定法(2)：代替案選択への応用 14. Excelを用いた分析：線形計画法とコンジョイント分析の例題 15. 全体のおまとめ
----------	--

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の項目で確率を使いますので、確率・統計入門Aを事前または同時に履修してください。 ・プリントを配布しますので、予習としてそれに目を通してください。 ・授業内容の理解と計算練習のために宿題を出します。
履修上の留意点	授業で取り上げたいいくつかの分析手法についてはパソコンを使って実際に計算してみます。
成績評価の方法	定期試験の結果を主とし(基本的に100%)、それに提出された宿題の点を加味して評価します。
教科書/テキスト	プリントを配布し、テキストに代えます。プリントは下記の関連リンクからも取得できます。
参考書	必要に応じて示します。
その他	特にありません。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/

履修コード	141121
科目名	マネジメント・サイエンスB
担当者名	小沢 利久

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業の概要)</p> <p>マネジメント・サイエンスでは、合理的な問題解決のための考え方や手法を学んでいきます。問題を解決するためには、問題を漠然と認識している段階から出発して、問題の構造を把握し、それを適切に表現し、解決への道筋をつけなければなりません。この授業では、そのために必要となる、問題を表現する方法(考え方)とその表現をもとにした分析の方法を扱います。マネジメント・サイエンスが対象とする分野は多岐に渡りますが、後期科目であるマネジメント・サイエンスBでは下記の項目を取り上げます。なお、前期科目のマネジメント・サイエンスAで取り上げる項目についてはそちらのシラバスを参照してください。</p> <p>①経営効率の分析に関連して：データ包絡分析法、キャッシュフローと現在価値、情報の期待価値</p> <p>②金融工学に関連して：ポートフォリオ選択</p> <p>③システムの設計に関連して：待ち行列理論</p> <p>④Excelを用いた分析：データ包絡分析法とポートフォリオ選択</p> <p>(到達目標)</p> <p>授業の概要の中で述べた項目ごとに、そこで用いられている問題の表現方法と分析のための手法を理解するとともに、簡単な問題について実際に分析できること(様々な評価量を計算できること)を到達目標とします。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. データ包絡分析法(1)：効率的フロンティア 2. データ包絡分析法(2)：CGRモデル 3. データ包絡分析法(3)：経営効率性比較への応用 4. キャッシュフローと現在価値：現在価値、割引キャッシュフロー、内部収益率、投資案比較への応用 5. 情報の期待価値(1)：情報の貨幣的価値、完全情報の期待価値 6. 情報の期待価値(2)：サンプル情報の期待価値 7. 情報の期待価値(3)：調査の実施可否への応用 8. ポートフォリオ選択(1)：リターンとリスク 9. ポートフォリオ選択(2)：平均・分散モデル 10. ポートフォリオ選択(3)：効用関数とリスク 11. ポートフォリオ選択(4)：株式ポートフォリオ構成への応用 12. 待ち行列理論(1)：待ち行列モデル、リトルの式 13. 待ち行列理論(2)：M/M/Sモデル、コールセンター人員配置問題などへの応用 14. Excelを用いた分析：データ包絡分析法とポートフォリオ選択の例題 15. 全体のまとめ
----------	--

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの項目で確率を使いますので、確率・統計入門Aを事前に履修しておいてください。 ・プリントを配布しますので、予習としてそれに目を通しておいてください。 ・授業内容の理解と計算練習のために宿題を出します。
履修上の留意点	授業で取り上げたいいくつかの分析手法についてはパソコンを使って実際に計算してみます。
成績評価の方法	定期試験の結果を主とし(基本的に100%)、それに提出された宿題の点を加味して評価します。
教科書/テキスト	プリントを配布し、テキストに代えます。プリントは下記の関連リンクからも取得できます。
参考書	必要に応じて示します。
その他	特にありません。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/

履修コード	127801 127802 127803
科目名	民法（総則・物権法） 民法I（総則・物権法） 民法I
担当者名	熊谷 芝青
授業概要/ 到達目標（ねらい）	我々の日常生活は民法に支配されている。したがって、この社会で活動するには民法についてひととおりの知識がなければならない。市民の社会生活には財貨の生産、交換、消費、配分などを目的とする経済生活の面（これを規律する法が財産法）と種族保存を目的とする家族生活の面（これを規律する法が家族法）とがある。この財産法の領域の法が物権法と債権法である。これらの通則として総則がおかれている。本講義では民法第一編総則と第二編物権法について、基本となる知識を持てるようにしたい。その結果、資格試験等の基礎力が養成されることを願っている。
授業スケジュール	前期（民法総則） ①民法とは何か、民法の歴史 ②民法の基本原則 ③権利の主体（自然人） ④法人（社団法人、財団法人） ⑤権利の客体（物とは） ⑥法律行為（意思の欠缺、瑕疵ある意思表示） ⑦無効と取消 ⑧条件および期限・期間 ⑨時効（取得時効、消滅時効） 後期（物権法） ①物権の意義、種類 ②物権の効力 ③物権の変動 ④占有権 ⑤所有権 ⑥用益物権 ⑦担保物権（法定担保物権） ⑧約定担保物権 ⑨非典型担保（譲渡担保、仮登記担保）
準備学習	指定教科書の該当頁を予習してることが望ましいが、必要ではない。
履修上の留意点	法学の修得で大切なことは、繰り返すことである。したがって復習回数を多くすることが諸君の学力上昇につながると信じている。当然のことであるが、受講中の飲食・携帯電話の使用は禁止であり、それに違反した場合、その時点で落第とする場合がある。また板書を多用するので、ノートと筆記道具は必携である。
成績評価の方法	学年末の定期試験により評価する。
教科書／テキスト	我妻栄・有泉亨・川井健『民法』第三版①総則・物権（勁草書房）2200円
参考書	尾崎哲夫『はじめての民法総則』『はじめての物権法』『はじめての担保物権』（自由国民社）

履修コード	143801 143802
科目名	民法II (債権法) 民法 (債権)
担当者名	飯塚 真

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講座は、債権総論だけでなく、債権各論部分を含んだ債権法全般を内容とすることにする。民法は、市民社会を規律する法律といわれているが、人間が社会において生活していく際には、物との関わりとともに、人との関わりを持っている。債権法は、人と人との関わりについて規律するものといえる。本講座では、具体的な事例を用いながら、債権法全般の基本的な知識を習得することを目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション (講義の進め方など)</p> <p>第2回 債権の目的</p> <p>第3回 債務不履行</p> <p>第4回 債権の効力① 履行の強制、損害賠償 契約の解除</p> <p>第5回 債権の効力② 債権者代位権</p> <p>第6回 債権の効力③ 債権者取消権 債権侵害に対する保護</p> <p>第7回 多数当事者の債権関係① 分割債権関係、不可分債権関係</p> <p>第8回 多数当事者の債権関係② 連帯債務、保証債務</p> <p>第9回 債権譲渡</p> <p>第10回 債権引受け</p> <p>第11回 弁済① 弁済制度</p> <p>第12回 弁済② 弁済による代位制度、代物弁済、供託</p> <p>第13回 弁済③ 相殺</p> <p>第14回 弁済④ 更改、免除、混同</p> <p>第15回 前期まとめ</p> <p>第16回 契約法総論①契約の意義、契約の成立</p> <p>第17回 契約法総論②契約の効力 (概論、危険負担)</p> <p>第18回 契約法総論③契約の効力 (契約の第三者効)</p> <p>第19回 契約法総論④</p> <p>第20回 贈与・売買・交換①</p> <p>第21回 贈与・売買・交換②</p> <p>第22回 消費貸借・使用貸借・賃貸借①</p> <p>第23回 消費貸借・使用貸借・賃貸借②</p> <p>第24回 雇用・請負・委任・寄託①</p> <p>第25回 雇用・請負・委任・寄託②</p> <p>第26回 組合・終身定期金・和解</p> <p>第27回 事務管理</p> <p>第28回 不当利得</p> <p>第29回 不法行為</p> <p>第30回 後期まとめ</p>
----------	---

準備学習	次回講義予定の部分について、指定された教科書を、事前に読んでおくこと。
履修上の留意点	六法は必ず持参すること
成績評価の方法	試験の成績を中心に (おおむね70%)、授業態度 (講義への取り組み、事前学習度合い、おおむね30%)などを加味した上、総合的に判断する。
教科書/テキスト	我妻栄・有泉亨・川井健著『民法2 債権法 (第三版)』 (勁草書房、2310円、ISBN978-4-326-45086-2)
参考書	

履修コード	142351
科目名	リスクマネジメント論
担当者名	石名坂 邦昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	近年、企業を取り巻く環境は多種多様なリスクに囲まれている。企業はそれらのリスクを征服しなければ、安定経営は望めない。企業を取り巻くリスクにはどのようなものがあるかを知り、それらにどのように対処したらよいかを講義の中心とする。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>リスクマネジメントの生成について学び、リスクマネジメント・プロセスについて講義を行う。その後、PLリスクや環境リスクについて学ぶ。</p> <p>①リスクマネジメントの生成と発達、1~3、②リスクマネジメントの理論、4~10、③企業経営とリスクマネジメント、11~20、④PLとリスクマネジメント、21~25、⑤環境リスクとリスクマネジメント、26~30</p>
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	ノートをしっかりとりとること
成績評価の方法	定期試験の成績と平常点
教科書/テキスト	特になし
参考書	『リスクマネジメントの理論』石名坂邦昭著 白桃書房
その他	授業にまじめに出席すること

履修コード	331551
科目名	リスクマネジメント論
担当者名	石名坂 邦昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	近年、企業を取り巻く環境は多種多様なリスクに囲まれている。企業はそれらのリスクを征服しなければ、安定経営は望めない。企業を取り巻くリスクにはどのようなものがあるかを知り、それらにどのように対処したらよいかを講義の中心とする。
---------------------	--

授業スケジュール	リスクマネジメントの生成について学び、リスクマネジメント・プロセスについて講義を行う。その後、PLリスクや環境リスクについて学ぶ。 ①リスクマネジメントの生成と発達、1～3、②リスクマネジメントの理論、4～10、③企業経営とリスクマネジメント、11～20、④PLとリスクマネジメント、21～25、⑤環境リスクとリスクマネジメント、26～30
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	ノートをしっかりとりとること
成績評価の方法	定期試験の成績と平常点
教科書/テキスト	特になし
参考書	『リスクマネジメントの理論』石名坂邦昭著 白桃書房
その他	授業にまじめに出席すること

履修コード	143211
科目名	流通システム論
担当者名	青木 茂樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	私たちの生活はあらゆる商品によって支えられており、これは流通システムがあることによって成り立っている。講義では、身近な事例より興味を喚起し、その仕組みの理解を促す。今日、情報化、国際化によって、流通システムは新たな変化のうねりを迎えている。 変化の時代に重要なことは現象面を追うだけではなく、どのような分析枠組みで理解・予測できるかである。また複眼的・多角的に捉えることにより、個々人の受講生が今後の流通のあり方について批判的または創造的な意見をもつことを目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	毎回の講義の当初にクリエイティブ・ディスカッションかグループ・ディスカッションを行うので、遅刻せずに参加すること（発言者にはポイントが加えられる）。所属グループについては、履修登録名簿によって、後日指示する。 1)～4) 流通の基礎概念と機能的アプローチ 5)～9) 流通の機関別アプローチ（小売業・卸売業） 10)～13) 流通システムとしての発展I ・第一次・第二次流通再編成の諸特徴 ・チェーン・オペレーションの登場と進化 14)～17) 流通を巡る法規制とまちづくりの諸問題 ・流通に関わる経済システムと社会システムの拮抗 18)～21) 流通システムとしての発展II ・工業化社会の流通システムから情報化社会の流通システムへ ・コンビニエンス・ストアのイノベーション 22)～25) 流通の情報化の進展 ・サプライ・チェーンからディマンド・チェーンへの転換 ・インターネットによる流通の革新 26)～27) 流通における関係的取引の理論的認識 28)～30) 生活創造としての流通システムの展望
----------	---

準備学習	講義の一週間前の21時までにシラバスをYestudyにアップするので、資料をダウンロードして、()を埋めておくこと。また流通システムに関して、当該内容に関する雑誌、新聞記事を各自で探して読んでおくこと。
------	--

履修上の留意点	講義形式ではあるが、一方向とならぬよう、学生・教員相互に名札を付けるなどして、学生の主体的な発言と双方向のコミュニケーションを促し、積極的に楽しんで参加してもらえるような方向を目指したい。
---------	--

成績評価の方法	数回の小テストと、個人レポート（またはテスト）の評価をベースとする。場合によっては、グループレポートおよびその発表を評価に加えることもある。また、講義内の自主的発言1回に対して1点以上のボーナス点が与えられる。
---------	---

教科書/テキスト	渡辺達郎他（2008）『流通論をつかむ』有斐閣。
----------	--------------------------

参考書	日経MJ編（2011）『日経MJトレンド情報 マーケティング・ハンドブック〈2012年版〉』日本経済新聞社。
-----	--

履修コード	098801
科目名	労働法
担当者名	藤本 茂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>今日、雇用社会は、能力主義人事管理の導入に見られるように大きく変貌しています。労働法は、労働問題を平和的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではいられません。</p> <p>労働者に降りかかるさまざまな事象は、最近では雇用関係法領域において顕著です。たとえば、労働基準法改正（近くでは労働時間や年次有給休暇など）、男女雇用平等、労働契約法などです。</p> <p>本講義では雇用関係法領域を中心に、基礎的知識を身につけることを到達目標においています。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>下記事項について、基礎的知識を学びつつ、現代的課題に言及します。</p> <p>1 回目の授業のときにプリントを配布してガイダンスをします。</p> <p>以下に、年間スケジュールを掲げます。ただし、重要な裁判などホット・イシューが出されればそれを中心としたテーマに急きょ変更することもあります。また、授業中の理解の様子から変わることもあります。また、調整の回も設けました。したがって、以下のスケジュールは目安です。</p> <p>第1回 ガイダンスー労働法分野と授業で扱う分野 第2回 労働法の対象である雇用社会と労働運動と 第3回 労働法の基礎的考え方 第4回 労働関係の主人公ー労働者、使用者、労働組合 第5回 労働契約と労働契約法 第6回 労働条件の最低基準の法定① 労働の自主性の確保 第7回 労働条件の最低基準の法定② 最低基準の定立の意味 第8回 調整 第9回 雇用における平等① 労基法3条 第10回 雇用における平等② 男女賃金差別の禁止 第11回 雇用における平等③ 男女雇用機会均等法 第12回 労働条件の集团的決定① 労働契約と就業規則 第13回 労働条件の集团的決定② 就業規則について 第14回 労働条件の集团的決定③ 労働組合の役割 第15回 労働条件の集团的決定④ 団体交渉・労働協約 第16回 雇用の入口① 採用 第17回 雇用の入口② 内定制度・試用制度 第18回 人事異動 配転 第19回 雇用の終了① 個別労働関係の終了 第20回 雇用の終了② 法による解雇規制 第21回 雇用の終了③ 解雇権濫用 第22回 調整 第23回 賞金・賞与・退職金① 賞金支払いの原則など 第24回 賞金・賞与・退職金② 賞与・退職金 第25回 労働時間① 労働時間に対する規制 第26回 労働時間② 変形制度など 第27回 労働時間③ 労働時間の例外 第28回 年次有給休暇① 年休権の法的性質 第29回 年次有給休暇② 時季指定・時季変更、計画年休 第30回 調整</p>
----------	--

準備学習	テキストを読むこと（少なくとも該当単元のところは読んで授業に臨んでください）。新聞を読むことなどです。現代雇用問題に関する新書なども読んでください。
------	--

履修上の留意点	出席は義務。欠席はマイナス。私語はNo、携帯電話はOff、内職はNo。そして無断で席を立つこともNo。いわゆる授業のマナーは守ってください。配布プリントは取り上げる項目を列挙したレジュメや資料です。教科書は予習や復習をする上で欠かせないアイテムでしょう。憲法、民法、社会保障法のほか、社会政策は特に履修してほしい科目です。
---------	---

成績評価の方法	成績は、学年末試験がメインで、受験しなければ評価がつきません。レポートや中間試験そして出欠も考慮して評価します。追試験は実施します。
---------	--

教科書／テキスト	教科書は、学修する上での必要アイテムです。学修に臨む自己の熱意によって各自で決めてください。よくわからないという方には、金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法I [第2版]』（エイトル研究所 2010）を参考までに。もとより、これ以外でもかまいませんが、予備校のテキストはその目的とするところが異なりますので、認めません。
----------	--

参考書	概説書・参考書をいくつか、第1回目の授業において紹介します。六法は最新のもの（法律改正や制定があるので特に注意）。そして、労基法施行規則の載っているものを用意してください。詳しくは、第1回授業で配布するプリントで。
-----	---

その他	各々の事項について法的にはどのように考えていくのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら授業を進めます。
-----	--

履修コード	325101
科目名	労働法
担当者名	藤本 茂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>今日、わが国の労働関係(雇用社会)は、少子高齢社会・人口減社会やグローバリゼーションにともない、リストラ、成果主義人事管理の導入・見直しがなされるなど大きく変貌しています。</p> <p>労働法は、労働問題を平和的に(つまりは法的に)解決する妥当な考え方を学ぶ法領域です。雇用社会の変動に無関係ではられません。</p> <p>この時期、労働者に降りかかるさまざまな事象は、労働基準法改正、労働契約法や男女雇用平等などの雇用関係法領域において、顕著です。</p> <p>本講義ではこの雇用関係法領域を中心に授業を進め、その基礎的知識を身につけることを目標とします。到達目標は、基礎的知識の習得とリーガルマインドを身につけることです。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>下記事項について、基礎的知識を学びつつ、現代的課題に言及します。</p> <p>1回目の授業のときにプリントを配布してガイダンスをします。</p> <p>以下に、年間スケジュールを掲げます。ただし、重要な裁判などホット・ 이슈ーが出されればそれを中心にしたテーマに急ぎ変更することもあります。また、授業中の理解の様子によって変わることもあります。また、調整の回も設けました。したがって、以下のスケジュールは目安です。</p> <p>第1回 ガイダンスー労働法分野と授業で扱う分野</p> <p>第2回 雇用社会と労働組合と労働法と</p> <p>第3回 労働法の基礎的考え方</p> <p>第4回 労働関係の主人公ー労働者、使用者、労働組合</p> <p>第5回 労働契約と労働契約法</p> <p>第6回 労働条件の最低基準の法定① 労働の自主性の確保</p> <p>第7回 労働条件の最低基準の法定② 最低基準の定立の意味</p> <p>第8回 調整</p> <p>第9回 雇用における平等① 労基法3条</p> <p>第10回 雇用における平等② 男女賃金差別の禁止</p> <p>第11回 雇用における平等③ 男女雇用機会均等法</p> <p>第12回 労働条件の集団的決定① 労働契約と就業規則</p> <p>第13回 労働条件の集団的決定② 就業規則について</p> <p>第14回 労働条件の集団的決定③ 労働組合の役割</p> <p>第15回 労働条件の集団的決定④ 団体交渉・労働協約</p> <p>第16回 雇用の入口① 採用</p> <p>第17回 雇用の入口② 内定制度・試用制度</p> <p>第18回 人事異動 配転</p> <p>第19回 雇用の終了① 個別労働関係の終了</p> <p>第20回 雇用の終了② 法による解雇規制</p> <p>第21回 雇用の終了③ 解雇権濫用</p> <p>第22回 調整</p> <p>第23回 賃金・賞与・退職金① 賃金支払いの原則など</p> <p>第24回 賃金・賞与・退職金② 賞与・退職金</p> <p>第25回 労働時間① 労働時間に対する規制</p> <p>第26回 労働時間② 変形制度など</p> <p>第27回 労働時間③ 労働時間の例外</p> <p>第28回 年次有給休暇① 年休権の法的性質</p> <p>第29回 年次有給休暇② 時季指定・時季変更、計画年休</p> <p>第30回 調整</p>
----------	---

準備学習	<p>準備学習といえば、次のことをお願いするだけです。教科書を読んで授業に臨むという事です。</p> <p>普段から雇用社会の動向などを新聞や雑誌を読んでみておいてください。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>出席を心がけてください。私語はNo、携帯電話はOff、内職はNo、そして無断で席を立つことはNo。いわゆる授業のマナーは守ってください。</p> <p>適宜、項目を列挙したレジュメや資料を配りますが、それでは十分ではありません。教科書を使って有意義な勉強を心がけてください。</p> <p>憲法、民法、社会保障法、社会政策は、近接科目であるので、ぜひ履修してください。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>成績は、学年末試験がメインで、受験しなければ評価はつきません。前期試験、レポートや出席を含めて、総合的に評価します。</p> <p>追試験は実施します。</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法【第2版】』(エイデル研究所 2010)。これ以外でもかまいませんが、予備校のテキストは授業の目的が違いますので、認めません。</p>
----------	--

参考書	<p>第1回目の授業で、プリントで紹介します。</p> <p>六法は、最新のもの(法律改正や制定があるので特に)。そして労基法施行規則の載っているものを用意してください。詳しくは、これも1回目の授業で話します。</p>
-----	---

その他	<p>皆さんが各々の事項について法的にはどのように考えていくのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら、授業を進めます。</p>
-----	--

